

矢馳 A 遺跡

第2～4次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第196集



第一分冊 本文編

2012

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



や ば せ
矢馳 A 遺跡

第 2 ～ 4 次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 196 集

第一分冊 本文編

平成 24 年

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、矢馳A遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

矢馳A遺跡は、山形県の西部に位置する鶴岡市にあります。遺跡のある大泉地区は、鶴岡市街地の南西部、「庄内米」を生産する全国有数の水田地帯の中にあり、枝豆の品種で全国的にも名高い「白山だだちゃ豆」の本場でもあります。また、西は日本海、北に鳥海山、東に出羽三山と、豊かな自然景観に恵まれたところです。

この地域は、昭和62年度から実施された県営ほ場整備事業、国道7号のバイパス改築工事や東北横断自動車道の建設に伴い、同地域に分布する助作遺跡をはじめ、畑田遺跡、中野遺跡、山田遺跡など、山形県教育委員会や鶴岡市教育委員会によって発掘調査がなされ、古墳時代から奈良・平安時代の歴史が明らかになり、多くの成果が得られています。

この度、日本海東北自動車道（温海～鶴岡間）建設事業に伴い、事前に工事予定地内に包蔵される、矢馳A遺跡の第2次から第4次発掘調査を実施しました。日本海東北自動車道は、日本海沿岸地域の交通の主軸となることが期待されています。調査では古墳時代の集落跡をはじめ、平安時代や中世の遺構や遺物などが見つかри、多大な成果を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成24年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 相馬周一郎

凡 例

- 1 本書は、日本海東北自動車道（温海～鶴岡）建設に係る「矢馳A遺跡」の発掘調査報告書である。
本書の構成は、第一分冊「本文編」と第二分冊「写真図版編」からなる。
- 2 既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 本書の執筆は、黒坂雅人、伊藤純子が担当し、柏倉俊夫、小笠原正道、齊藤敏行、安部実、伊藤邦弘、須賀井新人が監修した。
- 5 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系（世界測地系 平成23年3月11日震災以前）により、高さは海拔高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。
SK…土坑 SD…溝跡 SE…井戸跡 SP…ピット SG…河川跡
ST…竪穴住居跡 SX…性格不明遺構 RP…登録土器 RQ…登録石器
- 7 遺構・遺物実測図の縮尺は各図に示した。
- 8 遺物実測図の断面黒塗りは須恵器を表す。また、土師器実測図中の網点は黒色処理を表す。その他の網点の用法については各図に示した。拓影断面図の配置は左から外面・内面・断面の順に掲載した。
- 9 遺物計測表の計測値に付した（ ）は推定値、[]は残存値を表す。空欄は計測不要または計測不能を表す。
- 10 基本層序および遺構覆土の色調記載については、1997年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帖」によった。
- 11 発掘調査、整理作業および本書を作成するにあたり、下記の方々から御指導と御助言をいただいた。（敬称略）
山形大学 阿子島功（平成19年当時）
石川県埋蔵文化財センター 垣内光次郎 田島明人 熊谷葉月
新潟県糸魚川市教育委員会 山岸洋一
新潟県埋蔵文化財調査事業団 山本肇
福島県会津坂下町教育委員会 吉田博行 芥川和久 阿部司

調査要項

遺跡名	やばせ 矢馳A遺跡
遺跡番号	203 - 095
所在地	山形県鶴岡市大字やばせ 矢馳字下矢馳
調査委託者	日本道路公団東北支社（平成17年度） 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所（平成18～23年度）
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター
受託期間	平成17年4月1日～平成18年3月31日（現地調査・整理作業） 平成18年4月1日～平成19年3月31日（現地調査・整理作業） 平成19年4月1日～平成20年3月31日（現地調査・整理作業） 平成20年4月1日～平成21年3月31日（整理作業） 平成21年4月1日～平成22年3月31日（整理作業） 平成22年5月1日～平成23年3月31日（整理作業） 平成23年4月1日～平成24年3月31日（整理作業）
現地調査	平成17年10月11日～12月22日（第2次調査） 平成18年4月17日～11月30日（第3次調査） 平成19年5月9日～9月14日（第4次調査）
調査担当者	平成17年度 調査第三課長 渋谷孝雄 主任調査研究員 黒坂雅人（調査主任） 平成18年度 調査第三課長 渋谷孝雄 専門調査研究員 黒坂雅人（調査主任） 主任調査研究員 伊藤成賢 調査研究員 三浦勝美 調査員 粕谷孝 調査員 渋谷純子 調査員 山内七恵 平成19年度 調査課長 長橋至 専門調査研究員 黒坂雅人（調査主任） 調査員 山内七恵 調査員 吉田満 平成20年度 整理課長 安部実 課長補佐 黒坂雅人（整理主任） 調査員 山田渚 平成21年度 整理課長 安部実 課長補佐 黒坂雅人（整理主任） 調査員 山田渚 平成22年度 整理課長 安部実

	課長補佐	黒坂雅人（整理主任）				
	主任調査研究員	福岡和彦				
	調査員	山田渚				
平成 23 年度	整理課長	齊藤敏行				
	考古主幹	黒坂雅人				
	調査員	伊藤純子（整理主任）				
調査指導	山形県教育庁社会教育課文化財保護室（平成 17 年度）					
	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室（平成 18 ～ 19 年度）					
	山形県教育庁文化遺産課（平成 20 年度）					
	山形県教育庁文化財保護推進課（平成 21 ～ 23 年度）					
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所					
	鶴岡市教育委員会					
	山形県教育庁庄内教育事務所					
業務委託	基準点測量業務	有限会社奥田測量設計				
	地形・遺構測量（俯瞰撮影）業務	株式会社ワクニ				
		株式会社セビアス				
		株式会社シン技術コンサル				
	理化学分析業務	株式会社吉田生物研究所				
		株式会社加速器分析研究所				
		株式会社パレオ・ラボ				
		パリノ・サーヴェイ株式会社				
	木製品保存処理業務	株式会社吉田生物研究所				
	金属製品保存処理業務	株式会社吉田生物研究所				
	遺物実測業務	株式会社ラング				
		株式会社セビアス				
		株式会社シン技術コンサル				
発掘作業員	秋山弘夫	阿部継行	阿部三雄	荒生妙子	五十嵐しげ子	石川優子
	石塚善男	板垣睦子	伊藤昭子	伊藤一郎	伊藤多次雄	伊藤礼子
	榎本司二男	大井邦夫	大井繁太	太田寿美	太田文	大瀧慎吾
	大瀧より子	岡野ひろみ	角屋治夫	加藤民雄	菅信子	草島惣兵衛
	小林一彦	小林武雄	小林武二	小林ゆり	小松公子	小松ミハ子
	齋藤春雄	佐藤昭子	佐藤栄子	佐藤勝男	佐藤喜代子	佐藤コヨシ
	佐藤サクノ	佐藤定恵	佐藤新左エ門	佐藤末吉	佐藤世基	佐藤隆
	佐藤隆幸	佐藤民子	佐藤千江	佐藤トキミ	佐藤俊子	佐藤富子
	佐藤美恵	佐藤美枝子	佐藤弥作	佐藤弥太郎	佐藤庸子	佐藤利作
	渋谷斉治	関司重士	須藤かねゐ	瀬尾節子	土田秀穂	土田充
	富樫昌一	土岐美佐子	新田秀明	野尻茂助	長谷川恵美子	長谷川すみ
	長谷川初雄	広井幸治	廣井繁彌	藤井ツル子	本間金二	本間茂美
	本間博	本間洋子	松田藤治郎	松田トメ	三浦チトセ	三浦月江

	百瀬光子	百瀬洋一	山口嘉一	山崎千代志	吉住昭夫	吉住美千子 (五十音順)
整理作業員	安孫子道子	阿部範子	石沢みどり	伊藤真由美	岩瀬順子	遠藤潤
	大場純子	大場幸枝	岸晴美	後藤幸子	後藤周子	斉藤峰子
	佐竹敬次	佐藤淳子	佐藤美由紀	鈴木澄子	砂田二三男	高橋恵子
	高橋眞理	東海林清男	富樫多美子	永井和夫	平吹恵美	本間加代子
	三原朋子	向田香織	村山郁子	山口由美子	横沢教子	渡邊みゆき (五十音順)

目 次

I	調査の経緯	1
II	遺跡の位置と環境	
	1 地理的環境	2
	2 歴史的環境	2
III	調査の概要	
	1 調査の経過	10
	2 遺跡の概要	15
IV	検出された遺構	
	1 遺物包含層	26
	2 南西部遺構群	29
	3 北東部遺構群	56
	4 中央部遺構群	74
V	出土した遺物	
	1 土器・陶磁器	93
	2 土・石・金属製品	271
	3 木製品	277
VI	理化学分析	
	1 放射性炭素年代測定	327
	2 生材の樹種同定	346
	3 炭化材の樹種同定	440
	4 種実同定	443
	5 動物遺体の同定	447
	6 赤色物の蛍光X線分析	447
	7 須恵器胎土の蛍光X線分析	448
	8 テフラ分析	453
	9 花粉分析	457
	10 植物珪酸体分析	462
	11 珪藻化石群集	468
	12 粘土塊の分析	477
VII	総括	479
	報告書抄録	巻末

表

表 1 遺跡地名表	5	表 42 木製品計測表 (2)	321
表 2 土器計測表 (1)	234	表 43 木製品計測表 (3)	322
表 3 土器計測表 (2)	235	表 44 木製品計測表 (4)	323
表 4 土器計測表 (3)	236	表 45 木製品計測表 (5)	324
表 5 土器計測表 (4)	237	表 46 木製品計測表 (6)	325
表 6 土器計測表 (5)	238	表 47 木製品計測表 (7)	326
表 7 土器計測表 (6)	239	表 48 第 3 次調査年代測定試料及び処理 パレオ・ラボ	328
表 8 土器計測表 (7)	240	表 49 第 4 次調査年代測定試料及び処理 パレオ・ラボ	329
表 9 土器計測表 (8)	241	表 50 第 3 次調査放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果 パレオ・ラボ	330
表 10 土器計測表 (9)	242	表 51 第 4 次調査放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果 パレオ・ラボ	331
表 11 土器計測表 (10)	243	表 52 第 3 次調査出土試料の測定結果 パレオ・ラボ	332
表 12 土器計測表 (11)	244	表 53 第 4 次調査出土試料の測定結果 パレオ・ラボ	333
表 13 土器計測表 (12)	245	表 54 年代測定試料及び測定結果 加速器分析研究所	337
表 14 土器計測表 (13)	246	表 55 放射性炭素年代測定及び暦年校正結果 加速器分析研究所	338
表 15 土器計測表 (14)	247	表 56 第 4 次調査出土木材の樹種同定結果 パレオ・ラボ	347
表 16 土器計測表 (15)	248	表 57 出土木材の樹種同定結果 加速器分析研究所	352
表 17 土器計測表 (16)	249	表 58 出土木材の樹種同定結果 (1) 吉田生物研究所	360
表 18 土器計測表 (17)	250	表 59 出土木材の樹種同定結果 (2) 吉田生物研究所	361
表 19 土器計測表 (18)	251	表 60 出土木材の樹種同定結果 (3) 吉田生物研究所	362
表 20 土器計測表 (19)	252	表 61 出土木材の樹種同定結果 (4) 吉田生物研究所	363
表 21 土器計測表 (20)	253	表 62 出土木材の樹種同定結果 (5) 吉田生物研究所	364
表 22 土器計測表 (21)	254	表 63 出土木材の樹種同定結果 (6) 吉田生物研究所	365
表 23 土器計測表 (22)	255	表 64 出土木材の樹種同定結果 (7) 吉田生物研究所	366
表 24 土器計測表 (23)	256	表 65 出土木材の樹種同定結果 (8) 吉田生物研究所	367
表 25 土器計測表 (24)	257	表 66 出土炭化材の樹種同定結果 パレオ・ラボ	440
表 26 土器計測表 (25)	258	表 67 現場取り上げ試料の種実同定結果 パレオ・ラボ	444
表 27 土器計測表 (26)	259	表 68 水洗選別試料の種実同定結果 パレオ・ラボ	445
表 28 土器計測表 (27)	260	表 69 赤色物分析結果 パレオ・ラボ	449
表 29 土器計測表 (28)	261	表 70 須恵器胎土蛍光X線分析結果 パリノ・サーヴェイ	452
表 30 土器計測表 (29)	262	表 71 テフラ検出と同定を行なった試料一覧 パレオ・ラボ	453
表 31 土器計測表 (30)	263	表 72 各試料の篩分けと軽鉱物組成 (3φ 篩残渣) パレオ・ラボ	454
表 32 土器計測表 (31)	264	表 73 火山ガラスの屈折率測定結果 パレオ・ラボ	456
表 33 土器計測表 (32)	265	表 74 テフラ分析及び屈折率測定結果 パリノ・サーヴェイ	457
表 34 土器計測表 (33)	266	表 75 産出花粉化石一覧表 パレオ・ラボ	458
表 35 土器計測表 (34)	267	表 76 花粉分析結果 パリノ・サーヴェイ	461
表 36 土器計測表 (35)	268	表 77 試料 1 g 当りの機動細胞珪酸体個数 パレオ・ラボ	464
表 37 土器計測表 (36)	269	表 78 植物珪酸体分析結果 パリノ・サーヴェイ	466
表 38 土器計測表 (37)	270		
表 39 土製品計測表	270		
表 40 石・金属製品計測表	276		
表 41 木製品計測表 (1)	320		

表 79 堆積物中の珪藻化石産出表 パレオ・ラボ…………… 470
 表 80 珪藻分析結果（1） パリノ・サーヴェイ …………… 474

表 81 珪藻分析結果（2） パリノ・サーヴェイ …………… 475
 表 82 粘土塊の蛍光X線分析結果 パレオ・ラボ…………… 477

図 版

第 1 図 矢馳A遺跡周辺の地形分類図…………… 3
 第 2 図 遺跡位置図…………… 4
 第 3 図 調査概要図…………… 11
 第 4 図 X～AD－19～26区遺構配置図 …………… 16
 第 5 図 U～AB－17～25区遺構配置図…………… 17
 第 6 図 R～Y－14～22区遺構配置図…………… 18
 第 7 図 O～W－13～20区遺構配置図…………… 19
 第 8 図 L～S－10～18区遺構配置図…………… 20
 第 9 図 I～P－8～15区遺構配置図 …………… 21
 第 10 図 F～M－6～13区遺構配置図 …………… 22
 第 11 図 C～J－3～11区遺構配置図 …………… 23
 第 12 図 A～G－1～8区遺構配置図…………… 24
 第 13 図 D～G－4～7区下面遺構配置図…………… 25
 第 14 図 遺物包含層平面図…………… 27
 第 15 図 遺物包含層断面図…………… 28
 第 16 図 S G 100 河川跡（1）…………… 30
 第 17 図 S G 100 河川跡（2）…………… 31
 第 18 図 S G 160 河川跡（1）…………… 32
 第 19 図 S G 160 河川跡（2）…………… 33
 第 20 図 S G 1048 河川跡（1）…………… 34
 第 21 図 S G 1048 河川跡（2）…………… 35
 第 22 図 S G 1048 河川跡（3）…………… 36
 第 23 図 S T 2001 竪穴住居跡 …………… 39
 第 24 図 S T 2002 竪穴住居跡 …………… 40
 第 25 図 S T 2003 竪穴住居跡（1）…………… 41
 第 26 図 S T 2003 竪穴住居跡（2）…………… 42
 第 27 図 S T 2004 竪穴住居跡 …………… 43
 第 28 図 S T 2005 竪穴住居跡（1）…………… 44
 第 29 図 S T 2005 竪穴住居跡（2）…………… 45
 第 30 図 S T 2006 竪穴住居跡 …………… 46
 第 31 図 S T 2007 竪穴住居跡 …………… 47
 第 32 図 S D 244・245 溝跡 …………… 50
 第 33 図 S D 336・357 溝跡 …………… 51
 第 34 図 S D 404・453 溝跡 …………… 52
 第 35 図 S D 119 溝跡…………… 53
 第 36 図 S K 169・174・265・282 土坑 …………… 54
 第 37 図 S K 305・329・450 土坑・S P 291 ピット・S X
 391 性格不明遺構…………… 55
 第 38 図 S G 771 河川跡（1）…………… 57
 第 39 図 S G 771 河川跡（2）…………… 58

第 40 図 S G 771 河川跡（3）…………… 59
 第 41 図 S G 771 河川跡（4）…………… 60
 第 42 図 S G 833 河川跡（1）…………… 61
 第 43 図 S G 833 河川跡（2）…………… 62
 第 44 図 S T 795 竪穴住居跡…………… 64
 第 45 図 S T 841・1171 竪穴住居跡（1）…………… 65
 第 46 図 S T 841・1171 竪穴住居跡（2）…………… 66
 第 47 図 S T 981 竪穴住居跡（1）…………… 67
 第 48 図 S T 981 竪穴住居跡（2）…………… 68
 第 49 図 S T 981 竪穴住居跡（3）…………… 69
 第 50 図 S K 1046・1141・1142 土坑 …………… 71
 第 51 図 S K 1179・76・89 土坑 …………… 72
 第 52 図 S X 1166・1168・1169 性格不明遺構 …………… 73
 第 53 図 S G 1045 河川跡（1）…………… 75
 第 54 図 S G 1045 河川跡（2）…………… 76
 第 55 図 S G 1045 河川跡（3）…………… 77
 第 56 図 S D 589 溝跡（1）…………… 78
 第 57 図 S D 589 溝跡（2）…………… 79
 第 58 図 S D 589 溝跡（3）…………… 80
 第 59 図 S B 960・961・962・963 掘立柱建物跡 …………… 82
 第 60 図 S B 964 掘立柱建物跡（1）…………… 83
 第 61 図 S B 964 掘立柱建物跡（2）…………… 84
 第 62 図 S B 965 掘立柱建物跡…………… 85
 第 63 図 S E 479・515 井戸跡 …………… 88
 第 64 図 S E 616・1132 井戸跡…………… 89
 第 65 図 S E 1196・592・96 井戸跡…………… 90
 第 66 図 S K 685・721・728 土坑…………… 91
 第 67 図 S K 916・1008 土坑…………… 92
 第 68 図 遺物包含層出土土師器（1）…………… 104
 第 69 図 遺物包含層出土土師器（2）…………… 105
 第 70 図 遺物包含層出土土師器（3）…………… 106
 第 71 図 遺物包含層出土土師器（4）…………… 107
 第 72 図 遺物包含層出土土師器（5）…………… 108
 第 73 図 遺物包含層出土土師器（6）…………… 109
 第 74 図 遺物包含層出土土師器（7）…………… 110
 第 75 図 遺物包含層出土土師器（8）…………… 111
 第 76 図 遺物包含層出土土師器（9）…………… 112
 第 77 図 遺物包含層出土土師器（10）…………… 113
 第 78 図 遺物包含層出土土師器（11）…………… 114
 第 79 図 遺物包含層出土土師器（12）…………… 115

第 80 図	遺物包含層出土土師器・須恵器	116	第 123 図	S G 1048 出土土師器 (1)	159
第 81 図	S G 100 出土土師器 (1)	117	第 124 図	S G 1048 出土土師器 (2)	160
第 82 図	S G 100 出土土師器 (2)	118	第 125 図	S G 1048 出土土師器 (3)	161
第 83 図	S G 100 出土土師器 (3)	119	第 126 図	S G 1048 出土土師器・須恵器	162
第 84 図	S G 100 出土土師器 (4)	120	第 127 図	S T 2001・2002・2003 出土土師器	163
第 85 図	S G 100 出土土師器 (5)	121	第 128 図	S T 2003 出土土師器	164
第 86 図	S G 100 出土土師器 (6)	122	第 129 図	S T 2003・2004・2005 出土土師器	165
第 87 図	S G 100 出土土師器・須恵器	123	第 130 図	S D 244・245・357 出土土師器・須恵器	166
第 88 図	S G 160 出土土師器 (1)	124	第 131 図	S D 357・404・336・385・386・453・926 出土土師器	167
第 89 図	S G 160 出土土師器 (2)	125	第 132 図	S D 924・938・1175・S K 265 出土土師器	168
第 90 図	S G 160 出土土師器 (3)	126	第 133 図	S K 265・329 出土土師器	169
第 91 図	S G 160 出土土師器 (4)	127	第 134 図	S K 329・450 出土土師器	170
第 92 図	S G 160 出土土師器 (5)	128	第 135 図	S K 450・169・174・282・305・S P 117 出土土師器・須恵器	171
第 93 図	S G 160 出土土師器 (6)	129	第 136 図	S K 412・421 出土土師器	172
第 94 図	S G 160 出土土師器 (7)	130	第 137 図	S K 456・886・S P 291・330・343・408・446 出土土師器	173
第 95 図	S G 160 出土土師器 (8)	131	第 138 図	S X 296・380・398・391・S G 1 出土土師器・ 須恵器・陶器	174
第 96 図	S G 160 出土土師器 (9)	132	第 139 図	S G 1 出土陶磁器	175
第 97 図	S G 160 出土土師器 (10)	133	第 140 図	T 21 出土土師器 (1)	176
第 98 図	S G 160 出土土師器 (11)	134	第 141 図	T 21 出土土師器 (2)	177
第 99 図	S G 160 出土土師器 (12)	135	第 142 図	T 21 出土土師器 (3)	178
第 100 図	S G 160 出土土師器 (13)	136	第 143 図	T 21 出土土師器 (4)	179
第 101 図	S G 160 出土土師器 (14)	137	第 144 図	T 21 出土土師器 (5)	180
第 102 図	S G 160 出土土師器 (15)	138	第 145 図	T 21 出土土師器 (6)	181
第 103 図	S G 160 出土土師器 (16)	139	第 146 図	T 21 出土土師器 (7)	182
第 104 図	S G 160 出土土師器 (17)	140	第 147 図	T 21 出土土師器・須恵器・陶器	183
第 105 図	S G 160 出土土師器 (18)	141	第 148 図	南西部遺構群グリッド出土土師器・須恵器 (1)	184
第 106 図	S G 160 出土土師器 (19)	142	第 149 図	南西部遺構群グリッド出土土師器・須恵器 (2)	185
第 107 図	S G 160 出土土師器 (20)	143	第 150 図	南西部遺構群グリッド出土土師器・陶器 (1)	186
第 108 図	S G 160 出土土師器 (21)	144	第 151 図	南西部遺構群グリッド出土土師器	187
第 109 図	S G 160 出土土師器 (22)	145	第 152 図	南西部遺構群グリッド出土土師器・陶器 (2)	188
第 110 図	S G 160 出土土師器 (23)	146	第 153 図	南西部遺構群グリッド出土土師器・須恵器・陶器	189
第 111 図	S G 160 出土土師器 (24)	147	第 154 図	S G 771 出土土師器・須恵器 (1)	190
第 112 図	S G 160 出土土師器 (25)	148	第 155 図	S G 771 出土須恵器 (1)	191
第 113 図	S G 160 出土土師器 (26)	149	第 156 図	S G 771 出土土師器・須恵器 (2)	192
第 114 図	S G 160 出土土師器 (27)	150	第 157 図	S G 771 出土土師器	193
第 115 図	S G 160 出土土師器 (28)	151	第 158 図	S G 771 出土須恵器 (2)	194
第 116 図	S G 160 出土土師器 (29)	152	第 159 図	S G 771 出土陶器	195
第 117 図	S G 160 出土土師器 (30)	153	第 160 図	S G 833 出土土師器・須恵器 (1)	196
第 118 図	S G 160 出土土師器 (31)	154	第 161 図	S G 833 出土須恵器 (1)	197
第 119 図	S G 160 出土土師器 (32)	155			
第 120 図	S G 160 出土土師器 (33)	156			
第 121 図	S G 160 出土土師器・須恵器	157			
第 122 図	S G 160 出土須恵器	158			

第 162 図	S G 833 出土須恵器 (2)	198	第 200 図	石製品・金属製品	274
第 163 図	S G 833 出土土師器・須恵器 (2)	199	第 201 図	貨幣	275
第 164 図	S G 833 出土土師器・須恵器 (3)	200	第 202 図	S G 160・S P 874 出土木製品	278
第 165 図	S G 833 出土須恵器 (3)	201	第 203 図	S P 863・S D 119 出土木製品	279
第 166 図	S G 833 出土土師器・陶器	202	第 204 図	S D 119 出土木製品 (1)	280
第 167 図	S T 795 出土土師器・須恵器	203	第 205 図	S D 119 出土木製品 (2)	281
第 168 図	S T 1171 出土土師器・須恵器	204	第 206 図	S D 119 出土木製品 (3)	282
第 169 図	S T 1171・981 出土土師器・須恵器	205	第 207 図	S G 1・1048 出土木製品	283
第 170 図	S T 981 出土土師器・須恵器 (1)	206	第 208 図	S P 958・959・280 出土木製品	284
第 171 図	S T 981 出土土師器・須恵器 (2)	207	第 209 図	S G 771 出土木製品 (1)	285
第 172 図	S K 1046 出土土師器・須恵器	208	第 210 図	S G 771 出土木製品 (2)	286
第 173 図	S K 1046・1141・1142 出土土師器・陶器	209	第 211 図	S G 833 出土木製品 (1)	287
第 174 図	S K 1179・S X 1166 出土土師器・須恵器	210	第 212 図	S G 833 出土木製品 (2)	288
第 175 図	S X 1166・1168 出土土師器・須恵器	211	第 213 図	S G 833 出土木製品 (3)	289
第 176 図	S X 1169・1029 出土土師器・須恵器	212	第 214 図	S G 833 出土木製品 (4)	290
第 177 図	北東部遺構群溝跡出土土師器・須恵器 (1)	213	第 215 図	S G 833 出土木製品 (5)	291
第 178 図	北東部遺構群溝跡出土土師器・須恵器 (2)	214	第 216 図	S G 833 出土木製品 (6)	292
第 179 図	北東部遺構群溝跡出土土師器・須恵器 (3)	215	第 217 図	S K 1141・1179・S D 835 出土木製品	293
第 180 図	北東部遺構群溝跡・土坑・ピット・性格不明遺構・ 河川跡出土土師器・須恵器	216	第 218 図	S G 1045・S D 589・434・757・S X 1133 出土 木製品	294
第 181 図	北東部遺構群グリッド出土土師器・須恵器 (1)	217	第 219 図	S P 537・596・598 出土木製品	295
第 182 図	北東部遺構群グリッド出土土師器・須恵器 (2)	218	第 220 図	S P 637・697・705 出土木製品	296
第 183 図	北東部遺構群グリッド出土須恵器	219	第 221 図	S E 479 出土木製品 (1)	297
第 184 図	北東部遺構群グリッド出土土師器・須恵器 (3)	220	第 222 図	S E 479 出土木製品 (2)	298
第 185 図	北東部遺構群グリッド出土土師器・須恵器・陶器	221	第 223 図	S E 479 出土木製品 (3)	299
第 186 図	北東部遺構群グリッド出土土師器・須恵器 (4)	222	第 224 図	S E 479 出土木製品 (4)	300
第 187 図	S G 1045 出土土師器	223	第 225 図	S E 479 出土木製品 (5)	301
第 188 図	S D 589 出土土師器・須恵器	224	第 226 図	S E 515 出土木製品 (1)	302
第 189 図	S D 589 出土須恵器・磁器	225	第 227 図	S E 515 出土木製品 (2)	303
第 190 図	中央部遺構群井戸跡・土坑・溝跡出土 土師器・須恵器	226	第 228 図	S E 515 出土木製品 (4)	304
第 191 図	中央部遺構群溝跡・ピット・性格不明遺構出土 土師器・須恵器・陶磁器	227	第 229 図	S E 515 出土木製品 (5)	305
第 192 図	中央部遺構群グリッド出土土師器・須恵器・ 陶器 (1)	228	第 230 図	S E 515 出土木製品 (5)	306
第 193 図	中央部遺構群グリッド出土土師器・須恵器・ 陶器 (2)	229	第 231 図	S E 515 出土木製品 (6)	307
第 194 図	調査区内出土土師器	230	第 232 図	S E 616 出土木製品 (1)	308
第 195 図	調査区内出土土師器・須恵器	231	第 233 図	S E 616 出土木製品 (2)	309
第 196 図	調査区内出土須恵器	232	第 234 図	S E 1132 出土木製品	310
第 197 図	調査区内出土須恵器・陶磁器	233	第 235 図	S E 1196 出土木製品 (1)	311
第 198 図	土製品	272	第 236 図	S E 1196 出土木製品 (2)	312
第 199 図	石製品	273	第 237 図	S E 1196 出土木製品 (3)	313
			第 238 図	S E 592 出土木製品 (1)	314
			第 239 図	S E 592 出土木製品 (2)	315
			第 240 図	S E 96 出土木製品 (1)	316
			第 241 図	S E 96 出土木製品 (2)	317

第 242 図	S E 96・S K 916・1008 出土木製品	318	第 285 図	暦年較正グラフ	IAAA-80794	344	
第 243 図	グリッド出土木製品	319	第 286 図	暦年較正グラフ	IAAA-90219	344	
第 244 図	暦年較正グラフ	PLD-7394	339	第 287 図	暦年較正グラフ	IAAA-90220	344
第 245 図	暦年較正グラフ	PLD-7395	339	第 288 図	暦年較正グラフ	IAAA-90221	345
第 246 図	暦年較正グラフ	PLD-7396	339	第 289 図	暦年較正グラフ	IAAA-90222	345
第 247 図	暦年較正グラフ	PLD-7397	339	第 290 図	暦年較正グラフ	IAAA-90223	345
第 248 図	暦年較正グラフ	PLD-7398	340	第 291 図	暦年較正グラフ	IAAA-90224	345
第 249 図	暦年較正グラフ	PLD-7399	340	第 292 図	暦年較正グラフ	IAAA-90225	345
第 250 図	暦年較正グラフ	PLD-7400	340	第 293 図	暦年較正グラフ	IAAA-90226	345
第 251 図	暦年較正グラフ	PLD-7401	340	第 294 図	暦年較正グラフ	IAAA-90227	345
第 252 図	暦年較正グラフ	PLD-7402	340	第 295 図	暦年較正グラフ	IAAA-90228	345
第 253 図	暦年較正グラフ	PLD-7403	340	第 296 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (1) パレオ・ラボ	348	
第 254 図	暦年較正グラフ	PLD-7404	340	第 297 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (2) パレオ・ラボ	349	
第 255 図	暦年較正グラフ	PLD-7405	340	第 298 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (3) パレオ・ラボ	350	
第 256 図	暦年較正グラフ	PLD-7406	341	第 299 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (1) 加速器分析研究所	354	
第 257 図	暦年較正グラフ	PLD-7407	341	第 300 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (2) 加速器分析研究所	355	
第 258 図	暦年較正グラフ	PLD-7408	341	第 301 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (3) 加速器分析研究所	356	
第 259 図	暦年較正グラフ	PLD-7409	341	第 302 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (1) 吉田生物研究所	368	
第 260 図	暦年較正グラフ	PLD-7410	341	第 303 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (2) 吉田生物研究所	369	
第 261 図	暦年較正グラフ	PLD-7411	341	第 304 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (3) 吉田生物研究所	370	
第 262 図	暦年較正グラフ	PLD-7412	341	第 305 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (4) 吉田生物研究所	371	
第 263 図	暦年較正グラフ	PLD-7413	341	第 306 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (5) 吉田生物研究所	372	
第 264 図	暦年較正グラフ	PLD-9128	342	第 307 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (6) 吉田生物研究所	373	
第 265 図	暦年較正グラフ	PLD-9129	342	第 308 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (7) 吉田生物研究所	374	
第 266 図	暦年較正グラフ	PLD-9130	342	第 309 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (8) 吉田生物研究所	375	
第 267 図	暦年較正グラフ	PLD-9131	342	第 310 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (9) 吉田生物研究所	376	
第 268 図	暦年較正グラフ	PLD-9132	342	第 311 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (10) 吉田生物研究所	377	
第 269 図	暦年較正グラフ	PLD-9133	342	第 312 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (11) 吉田生物研究所	378	
第 270 図	暦年較正グラフ	PLD-9134	342	第 313 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (12) 吉田生物研究所	379	
第 271 図	暦年較正グラフ	PLD-9135	342	第 314 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (13) 吉田生物研究所	380	
第 272 図	暦年較正グラフ	PLD-9136	343	第 315 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (14) 吉田生物研究所	381	
第 273 図	暦年較正グラフ	PLD-9137	343	第 316 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (15) 吉田生物研究所	382	
第 274 図	暦年較正グラフ	PLD-9138	343	第 317 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (16) 吉田生物研究所	383	
第 275 図	暦年較正グラフ	PLD-9139	343	第 318 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (17) 吉田生物研究所	384	
第 276 図	暦年較正グラフ	PLD-9140	343	第 319 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (18) 吉田生物研究所	385	
第 277 図	暦年較正グラフ	PLD-9141	343	第 320 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (19) 吉田生物研究所	386	
第 278 図	暦年較正グラフ	PLD-9142	343	第 321 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (20) 吉田生物研究所	387	
第 279 図	暦年較正グラフ	PLD-9143	343	第 322 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (21) 吉田生物研究所	388	
第 280 図	暦年較正グラフ	PLD-9144	344	第 323 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (22) 吉田生物研究所	389	
第 281 図	暦年較正グラフ	IAAA-80790	344	第 324 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (23) 吉田生物研究所	390	
第 282 図	暦年較正グラフ	IAAA-80791	344	第 325 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (24) 吉田生物研究所	391	
第 283 図	暦年較正グラフ	IAAA-80792	344	第 326 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (25) 吉田生物研究所	392	
第 284 図	暦年較正グラフ	IAAA-80793	344	第 327 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (26) 吉田生物研究所	393	

第 328 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (27)	吉田生物研究所	394	第 366 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (65)	吉田生物研究所	432
第 329 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (28)	吉田生物研究所	395	第 367 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (66)	吉田生物研究所	433
第 330 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (29)	吉田生物研究所	396	第 368 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (67)	吉田生物研究所	434
第 331 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (30)	吉田生物研究所	397	第 369 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (68)	吉田生物研究所	435
第 332 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (31)	吉田生物研究所	398	第 370 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (69)	吉田生物研究所	436
第 333 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (32)	吉田生物研究所	399	第 371 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (70)	吉田生物研究所	437
第 334 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (33)	吉田生物研究所	400	第 372 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (71)	吉田生物研究所	438
第 335 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (34)	吉田生物研究所	401	第 373 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (72)	吉田生物研究所	439
第 336 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (35)	吉田生物研究所	402	第 374 図	出土炭化材木材組織の走査電子顕微鏡写真 (1) ..	441	
第 337 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (36)	吉田生物研究所	403	第 375 図	出土炭化材木材組織の走査電子顕微鏡写真 (2) ..	442	
第 338 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (37)	吉田生物研究所	404	第 376 図	現場取り上げ試料から得られた種実遺体	445	
第 339 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (38)	吉田生物研究所	405	第 377 図	水洗選別試料から得られた種実遺体	446	
第 340 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (39)	吉田生物研究所	406	第 378 図	出土焼骨片	447	
第 341 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (40)	吉田生物研究所	407	第 379 図	赤色物分析対象試料	449	
第 342 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (41)	吉田生物研究所	408	第 380 図	赤色物蛍光 X 線分析ポイント	449	
第 343 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (42)	吉田生物研究所	409	第 381 図	赤色物蛍光 X 線スペクトル	449	
第 344 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (43)	吉田生物研究所	410	第 382 図	赤色物採取試料拡大図	449	
第 345 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (44)	吉田生物研究所	411	第 383 図	SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 散布図	451	
第 346 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (45)	吉田生物研究所	412	第 384 図	長石類主要元素の散布図	451	
第 347 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (46)	吉田生物研究所	413	第 385 図	有色鉱物主要元素の散布図	451	
第 348 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (47)	吉田生物研究所	414	第 386 図	Rb-Sr 散布図	451	
第 349 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (48)	吉田生物研究所	415	第 387 図	Zr-Ba 散布図	451	
第 350 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (49)	吉田生物研究所	416	第 388 図	各試料の篩分け結果と軽鉱物組成	454	
第 351 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (50)	吉田生物研究所	417	第 389 図	テフラ試料の火山ガラス及び土壌薄片の顕微鏡写真	455	
第 352 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (51)	吉田生物研究所	418	第 390 図	S E 96 試料 No269 の花粉化石分布図	459	
第 353 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (52)	吉田生物研究所	419	第 391 図	S E 96 試料 No269 の花粉化石顕微鏡写真	459	
第 354 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (53)	吉田生物研究所	420	第 392 図	各試料の花粉化石群集	462	
第 355 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (54)	吉田生物研究所	421	第 393 図	花粉化石の顕微鏡写真	463	
第 356 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (55)	吉田生物研究所	422	第 394 図	機動細胞珪酸体分布図	464	
第 357 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (56)	吉田生物研究所	423	第 395 図	植物珪酸体顕微鏡写真	465	
第 358 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (57)	吉田生物研究所	424	第 396 図	各試料の植物珪酸体群集	466	
第 359 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (58)	吉田生物研究所	425	第 397 図	砂分の状況と植物珪酸体顕微鏡写真	467	
第 360 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (59)	吉田生物研究所	426	第 398 図	堆積物中の珪藻化石分布図	469	
第 361 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (60)	吉田生物研究所	427	第 399 図	堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真	471	
第 362 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (61)	吉田生物研究所	428	第 400 図	各試料の主要珪藻化石群集	472	
第 363 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (62)	吉田生物研究所	429	第 401 図	珪藻化石顕微鏡写真	476	
第 364 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (63)	吉田生物研究所	430	第 402 図	粘土塊の実体顕微鏡写真と X 線回折分析結果	478	
第 365 図	木材組織の光学顕微鏡写真 (64)	吉田生物研究所	431	第 403 図	南西部遺構群・第 1 次調査区合成図	481	

I 調査の経緯

矢馳A遺跡は、昭和31（1956）年頃に行なわれた水田の基盤整備に伴う暗渠管の埋設工事や盤下げ等の際して、多数の古式土師器が出土したことにより、矢馳B遺跡、山田遺跡、清水新田遺跡などとともに発見された。これらの遺跡群は、以前からその存在が知られていた助作遺跡とともに、庄内地方では数少ない古墳時代集落の事例として研究者から注目されていた。

矢馳A遺跡の第1次発掘調査は、昭和62（1987）年度から行なわれた県営ほ場整備事業（鶴岡西部地区）の実施に先立って、山形県教育委員会によって実施された。

調査は昭和62年4月16日から10月30日の日程で行なわれた。調査の対象範囲は東西150m、南北200mに及び、その範囲内に設定した56か所のトレンチ調査の結果から、遺構と遺物の集中する地域約5,000㎡を拡張し、更にこの内の約3,000㎡について精査を実施した。

調査では、土色の変化に乏しい遺構確認面の状況に悩まされながらも、古墳時代の住居跡24棟、土坑16基、溝跡3条、その他1基、および、平安時代の建物跡他7基などが検出されている。また、出土した遺物は、古墳時代後期中葉の土師器を主体に約200箱を数えた。以上のことから、方形の竪穴住居を主体とする居住形態や、溝により集落を区画する可能性、北陸地方との強い結びつきを示唆する土器様相などが明らかとなり、庄内地方における当該期集落の地域性を知る上で貴重な成果を得ることができた（山形県教育委員会1988）。

矢馳A遺跡の第4次から第5次発掘調査は、日本海東北自動車道（温海～鶴岡）の建設に先立って実施されたものである。日本海東北自動車道は、昭和62（1987）年の第四次全国総合開発計画において高規格幹線道路が構想されたのを受けて、新潟市と青森市、北陸自動車道と東北縦貫自動車道を結び、日本海国土軸の強化を目的として国土開発幹線自動車道の予定路線となった。このうち温海～鶴岡間の延長26kmについては、平成3（1991）年12月20日に基本計画が告示、平成9（1997）年12月25日に施行命令が出され、平成23（2011）年度の開通に向けて建設が進められている。

山形県教育委員会では、温海～鶴岡間の建設の具体化を受けて、平成10（1998）年に、想定される路線及びその周辺を対象に遺跡詳細分布調査A（表面踏査）を実施し、既知の遺跡の現状確認と、遺物散布が認められなくても、地形などから遺跡である可能性が高い地点の把握を行なっている。また、計画路線の確定に伴って、平成16（2004）年及び平成17（2005）年に遺跡詳細分布調査B（試掘調査）を実施して、遺跡可能性地における遺構や遺物の有無と既知の遺跡における遺構・遺物の広がりや遺構確認面までの深さなど、詳細なデータの蓄積に努めた。

山形県教育委員会は、これら一連の遺跡詳細分布調査の結果をもとに、事業主体である日本道路公団東北支社（当時）と協議を重ね、このたびの試掘調査で新規に発見された、万治ヶ沢遺跡、行司免遺跡、興屋川原遺跡、玉作1遺跡、玉作2遺跡、岩崎遺跡、南田遺跡と、既知の遺跡である川内袋遺跡、木の下館跡、矢馳A遺跡の10遺跡について、記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することになった。発掘調査は、山形県教育委員会、日本道路公団東北支社、財団法人山形県埋蔵文化財センターの三者で協議が行なわれ、山形県埋蔵文化財センターが実施することとなった。

矢馳A遺跡内における計画路線は、第1次発掘調査区の南に隣接して、遺跡範囲のほぼ中央を南西から北東方向に横断するものであった。山形県埋蔵文化財センターでは、日本道路公団東北支社と調査工程について協議を行ない、平成17（2005）年に路線周辺の用排水管付替え埋設部分のトレンチ調査を第2次発掘調査として実施した。その過程で遺跡の範囲は東西約350m、南北約600mに修正され（山形県教育委員会2007）、調査対象となる範囲は長さ約320m、幅約60m、面積約18,000㎡に達するものとみられた。山形県埋蔵文化財センターは、日本道路公団東北支社と更に協議を重ね、平成18（2006）年に本線部分を第3次発掘調査、平成19（2007）年に工事用道路部分および現道付替え部分を第4次発掘調査として進めることで合意した。

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

矢馳A遺跡は、山形県鶴岡市大字矢馳字上矢馳に所在する。庄内平野の南西部、鶴岡市街地の西方約5kmに位置している。

山形県の地理は、内陸地方と庄内地方に分けられる。内陸地方は、東を奥羽山脈、西を出羽山地に挟まれた間に、最上川とその支流が形成した、新庄盆地、山形盆地、米沢盆地などの平地が広がる。その気候は、気温の日較差と年較差が大きく、冬の豪雪と夏の高温多湿を合わせ持つ。一方、庄内地方は、山形県域の北西部にあたり、東と南北を出羽山地に囲まれた中、東西約40km、南北約100kmの範囲に庄内平野が広がる。西は日本海に面しているため、冬の季節風は強いものの、平野部では内陸地方に比べて積雪、寒暖差ともに少なく、年間を通じて穏やかな気候となっている。庄内平野は、最上川や赤川水系からもたらされた肥沃な土壌によって、日本有数の米産地となっているが、遺跡周辺では、稲作とともに地域特産の枝豆「白山だだちゃ豆」の栽培が盛んである。

矢馳A遺跡は南部の丘陵に源を発する大山川と湯尻川によって形成された標高約14mの河間低地に立地している(第1図)。現在見られる付近一帯の微地形は、近年の土地改良やほ場整備事業などにより平坦なものになっている。しかし、河川改修が行なわれる以前は、大山川、湯尻川ともに豪雨のたびに氾濫を繰り返し、流路も頻繁に変わっていたと考えられ、そのために、馬の背状の微高地と低湿地が複雑に入り組む起伏に富んだ地形が形成されていたと考えられる。矢馳A遺跡のある鶴岡西部地区には、山田遺跡や助作遺跡など古墳時代から平安時代にかけて数多くの遺跡が知られている。実際に発掘調査された遺跡では、砂質の乾燥しやすい土壌の上に集落が立地しており、また、近年の開発によって上層部が削平された状況が把握できる場合も多い。河川が氾濫するリスクと常に向き合いながらも、生業である水稲耕作のために、よりよい微高地を居住の場として選択し続ける当時の人々の様子がうかがい知れる。

2 歴史的環境

鶴岡市では、市町村合併前の旧市域でも200か所を超える遺跡が確認されているが、第2図にはそのうち矢馳A遺跡周辺の106か所を収録した。時代ごとの遺跡の立地は、概ね山際や丘陵部に旧石器時代から縄文時代の集落跡と平安時代から中世の窯跡や経塚、楯跡が分布し、平野部では、弥生時代から平安時代の集落跡や中世の居館跡などが分布しており、稲作の開始に伴って集落が平野部に展開して行く様子がうかがえる。

近年、鶴岡西部地区では、県営ほ場整備事業や東北横断自動車道、日本海東北自動車道などの開発事業によって発掘調査の事例が増加している。以下では、このたび矢馳A遺跡で確認された、古墳時代、奈良・平安時代、中世の各時期の、近隣の遺跡の主な調査成果について概要を述べる。

A 古墳時代

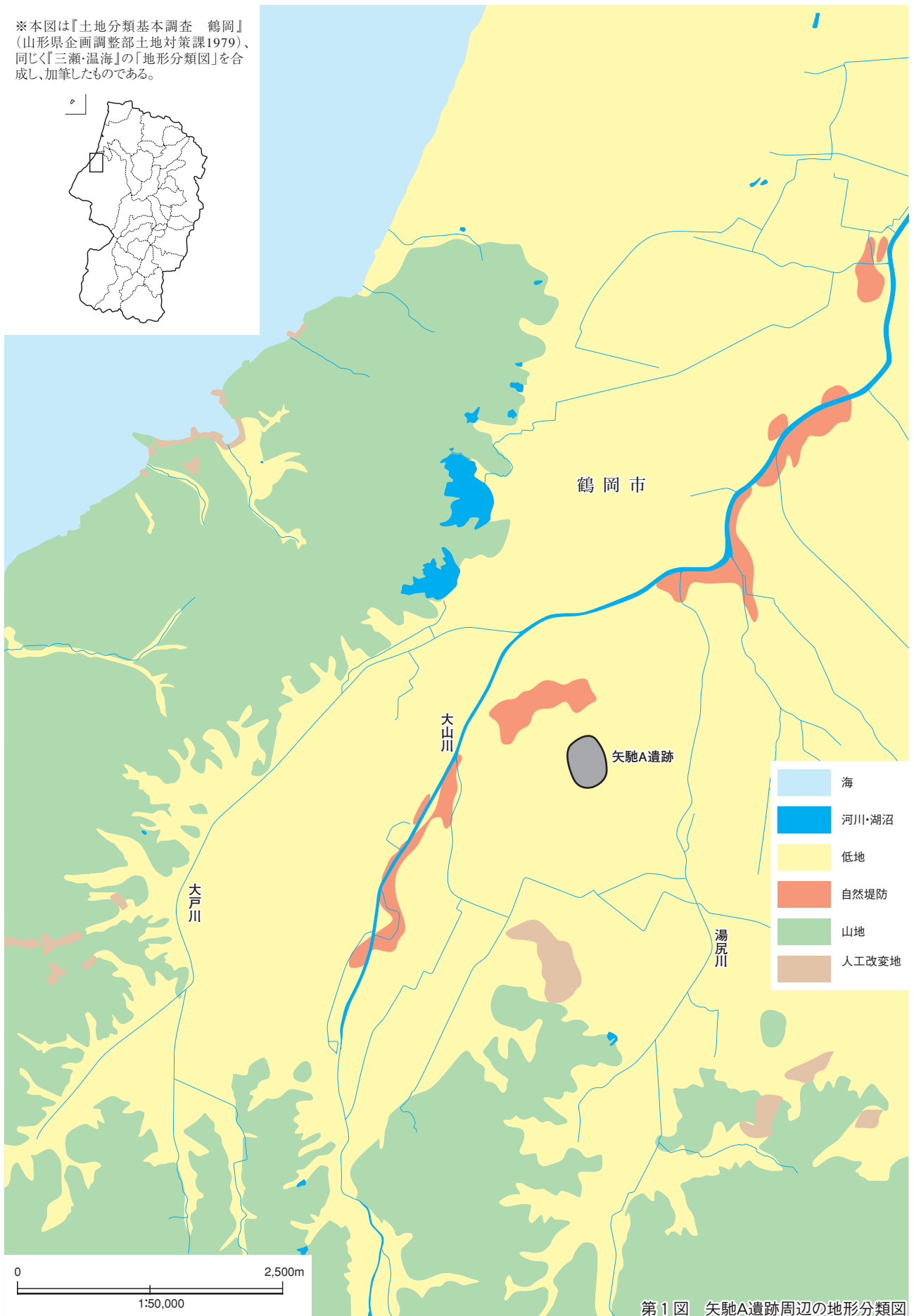
畑田遺跡(第2図73)

鶴岡市大字大淀川字畑田に所在する。昭和63(1988)年に山形県教育委員会が実施した、東北横断自動車道(朝日～酒田間)建設に伴う遺跡詳細分布調査では、畑田遺跡、中野遺跡、後田遺跡、大道下遺跡、月記遺跡、大東遺跡、塔の腰遺跡などが新規に発見された。畑田遺跡は、平成5(1993)年に同事業の実施に先立ち、中野遺跡とともに発掘調査が実施された。調査は、東西約160m、南北約200mの遺跡範囲のうち、事業にかかる11,060㎡について行なわれた。調査の結果、古墳時代前期の周溝を伴う住居跡3棟をはじめ、大溝跡や河川跡などが検出され、それらの遺構から出土した北陸系の土師器とともに、庄内地方での当該期集落の様相が初めて明らかになった(山形県埋蔵文化財センター1995)。

中野遺跡(第2図72)

畑田遺跡の北に隣接する。遺跡範囲は、東西約190m、南北約170mで、そのうちの3,544㎡が発掘調査された。調査では、古墳時代の土坑や溝跡などを検出し、また、

※本図は『土地分類基本調査 鶴岡』（山形県企画調整部土地対策課1979）、同じく『三瀬・温海』の『地形分類図』を合成し、加筆したものである。



第1図 矢馳A遺跡周辺の地形分類図

II 遺跡の位置と環境

※国土地理院発行2万5千分の1地形図「湯野浜」・「三瀬」・「鶴岡」を使用

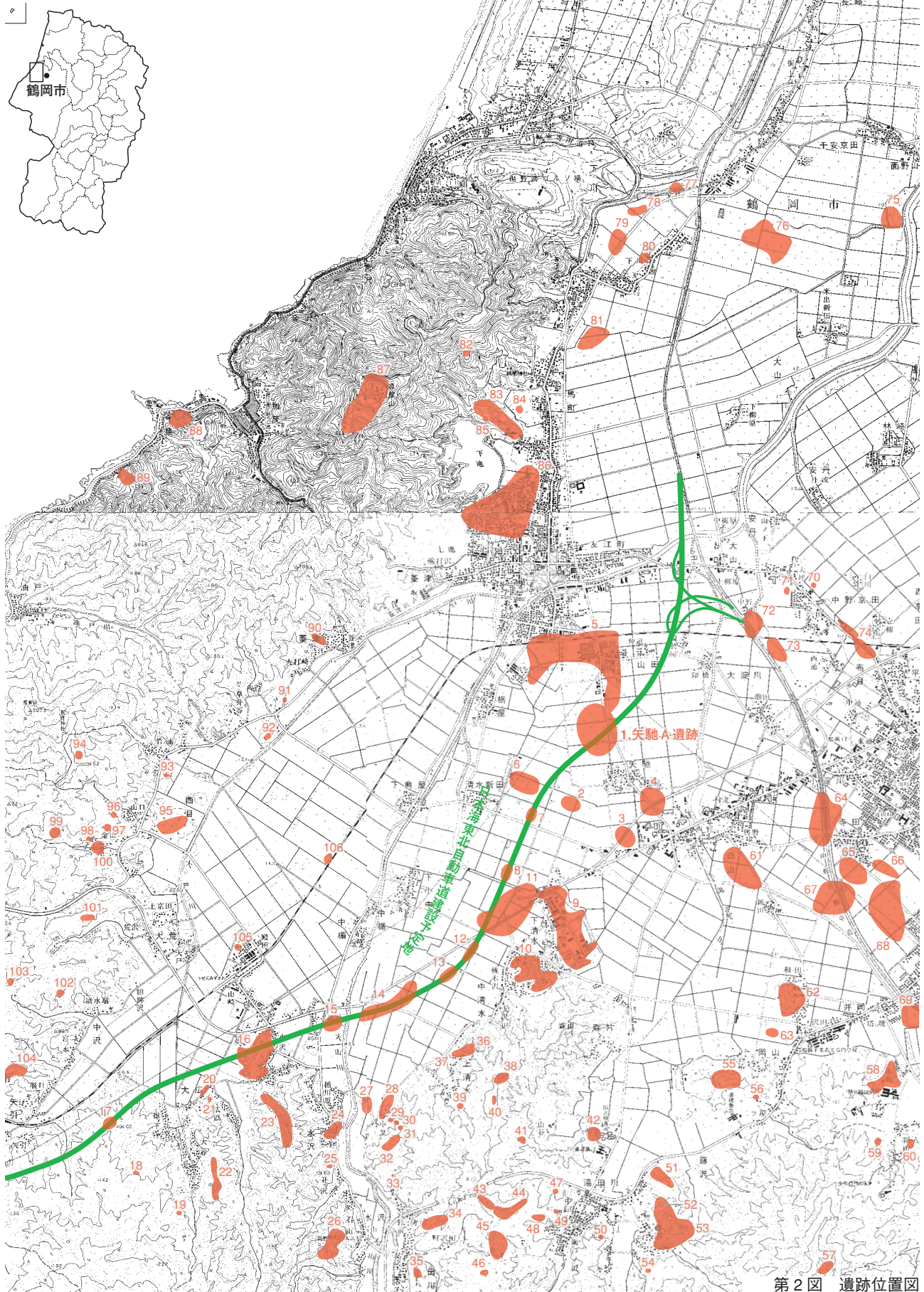


表1 遺跡地名表

番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡名	時代	種別
1	矢馳A遺跡	古墳～中世	集落跡	54	遊行上人墳墓	室町	墳墓
2	矢馳B遺跡	古墳	遺物包含地	55	岡山A遺跡	縄文	集落跡
3	上矢馳遺跡	平安	集落跡	56	岡山B遺跡	平安	遺物包含地
4	助作遺跡	古墳	集落跡	57	高館		砦
5	山田遺跡	古墳～近世	遺物包含地	58	赤坂館		
6	清水新田遺跡	古墳～平安	集落跡	59	仏供沢窯跡	平安	窯跡
7	南田遺跡	古墳～平安	集落跡	60	杉ヶ沢D遺跡	縄文	遺物包含地
8	岩崎遺跡	古墳～平安	集落跡	61	圃地田遺跡	古墳・平安	集落跡
9	出張坂城		館	62	井岡城		館
10	栗館		館	63	井岡遺跡	平安・鎌倉	遺物包含地
11	玉作3遺跡	平安	散布地	64	大道下遺跡	平安～近世	集落跡
12	玉作2遺跡	平安	集落跡	65	月記遺跡	平安・中世	集落跡
13	玉作1遺跡	弥生～中世	集落跡	66	大東遺跡	平安・中世	集落跡
14	興屋川原遺跡	古墳・平安	集落跡	67	後田遺跡	古墳～近世	集落跡
15	行司免遺跡	平安	集落跡	68	地ノ内遺跡	平安・中世	集落跡
16	木の下館跡	縄文・中世	遺物包含地・城館跡	69	塔の腰遺跡	平安～室町	集落跡
17	万治ヶ沢遺跡	縄文・平安	集落跡・生産跡	70	中野京田遺跡	平安	遺物包含地
18	大広菊台遺跡	平安・鎌倉	祭祀遺跡	71	三軒在家遺跡	平安	遺物包含地
19	大広B墳墓	平安・鎌倉	墳墓	72	中野遺跡	古墳～平安	集落跡
20	大谷1	平安・中世	散布地	73	畑田遺跡	古墳～鎌倉	集落跡
21	大広A遺跡	縄文	遺物包含地	74	上大坪遺跡	古墳・平安	集落跡
22	広浜館		楯	75	地ノ本遺跡	平安	集落跡
23	水沢館		楯	76	五百刈遺跡	古墳	集落跡
24	神楽館		館	77	下川2遺跡	平安～室町	散布地
25	地藏堂山経塚	平安・鎌倉	経塚	78	西ノ川遺跡	平安	集落跡
26	石山館		楯	79	西谷地遺跡	奈良～室町	散布地
27	中里D遺跡	平安・鎌倉	遺物包含地	80	西田面遺跡	平安	集落跡
28	中里前	平安・中世	散布地	81	八幡田遺跡		散布地
29	中里B遺跡	奈良・平安	遺物包含地	82	越中台窯跡	平安	窯跡
30	中里A遺跡	縄文	遺物包含地	83	正法寺館		館
31	中里C遺跡	旧石器	遺物包含地	84	駒繁遺跡	平安	遺物包含地
32	中里館		砦	85	正法寺山遺跡	縄文	遺物包含地
33	宮の前墳墓	鎌倉	墳墓	86	尾浦城		城
34	大蔵院館		砦	87	高館		館
35	七日台館		楯	88	館山館		砦
36	上清水館		砦	89	今泉館		楯
37	上清水B遺跡	室町	墳墓	90	菱津館		砦
38	柴館		楯	91	菱津古墳	古墳	古墳
39	上清水A遺跡	縄文	遺物包含地	92	火打崎B遺跡	奈良・平安	遺物包含地
40	馬場山A遺跡	縄文	遺物包含地	93	西目経塚	室町	経塚
41	馬場山B遺跡	縄文	遺物包含地	94	山口館		砦
42	鉢巻山館		楯	95	山口B遺跡	古墳～奈良	遺物包含地
43	鎮台館		楯	96	山口C須恵器窯跡	平安・鎌倉	窯跡
44	石堂山館		楯	97	金山A須恵器窯跡	平安・鎌倉	窯跡
45	大日坂館		楯	98	金山B墳墓	平安・鎌倉	墳墓
46	大蔵台A遺跡	縄文	遺物包含地	99	楯のそ		
47	石清水遺跡	縄文	遺物包含地	100	金山館		館
48	深沢館		砦	101	荒沢須恵器窯跡	平安・鎌倉	窯跡
49	湯田川経塚	平安・鎌倉	経塚	102	玉林坊跡	鎌倉	社寺跡
50	隼人山墳墓	平安	墳墓	103	麓山遺跡	縄文	遺物包含地
51	鍋倉館		館	104	矢引館		楯
52	鍋鞍A遺跡	縄文	遺物包含地	105	水沢遺跡	平安	遺物包含地
53	藤沢館		楯	106	谷地館		館

出土した土器の年代は、畑田遺跡と同時期からやや新しい様相を持つものとみられた（山形県埋蔵文化財センター 1995）。

玉作 2 遺跡（第 2 図 12）

鶴岡市大字中清水字玉作に所在する。遺跡範囲は南側が未確定であるが、東西 200 m 以上、南北 40 m 以上と推定されている。発掘調査は、平成 17（2005）年に本線部分、次いで平成 21（2009）年にインターチェンジ部分について行なわれた。調査面積は合計で 6,550 m²である。ほ場整備などでの地山の削平によって、遺構や遺物の遺存状態は悪かったが、古墳時代前期末葉から中期初頭とみられる掘立柱建物跡 1 棟や土坑などが検出された（山形県埋蔵文化財センター 2009・2011）。

玉作 1 遺跡（第 2 図 13）

鶴岡市大字中清水字玉作に所在し、玉作 2 遺跡の南西に隣接する。遺跡範囲は北側で未確定であるが、東西約 230 m、南北 150 m 以上と推定される。発掘調査は、平成 17（2005）年から平成 19（2007）年の 3 次にわたり実施された。調査面積は 7,466 m²である。本遺跡も玉作 2 遺跡同様に遺存状態が悪く遺構検出が困難であったが、5 世紀代の掘立柱建物跡 2 棟、井戸跡 1 基、土坑、溝跡などが検出された。また、玉類の製作に関わるとみられる碧玉と鉄石英の石核や細片、未製品がまとまって出土している（山形県埋蔵文化財センター 2009）。

岩崎遺跡（第 2 図 8）

鶴岡市大字下清水字岩崎に所在する。遺跡範囲は、東西の広がり未確定であるが、東西 70 m 以上、南北約 130 m と推定されている。発掘調査は平成 18（2006）年と平成 19（2007）年の 2 次にわたり実施された。調査面積は 5,300 m²である。調査区内では、古墳時代から平安時代の遺構と遺物が見ついている。古墳時代の遺構は 5 世紀中葉とみられるカマド跡 2 基、井戸跡 1 基の他、水田跡が検出された。特に井戸跡からは、底部から完形の土器が直立、並列の形で出土し、井戸祭祀の存在が指摘された（山形県埋蔵文化財センター 2010）。

菱津古墳（第 2 図 91）

明治 43（1910）年、鶴岡市菱津字火打崎の丘陵突端の通称仏の山より発見されたといわれる、凝灰岩製の長持形組合式石棺が大山小学校に保管されている。石棺の作りや形態から古墳時代後期前半の 6 世紀前半に比定さ

れている（川崎 1980）。

矢馳 B 遺跡（第 2 図 2）

鶴岡市大字下清水字向京田に所在する。本遺跡の発掘調査は、昭和 62（1987）年に県営ほ場整備事業鶴岡西部地区の実施に伴い、矢馳 A 遺跡、清水新田遺跡とともに行なわれた。発掘調査は約 100 m 四方と推定される遺跡範囲の外周 360 m²を対象に行なわれたが、トレンチ調査のため、遺跡の全容を把握するには至っていない。しかし、古墳時代、古代、近世に関わる遺構と遺物が発見され、古墳時代中期後葉が主体になると考えられた。また、その時期とみられる一辺 3 m の方形の竪穴住居跡が 1 棟検出されている（山形県教育委員会 1988）。

興屋川原遺跡（第 2 図 14）

鶴岡市大字田川字興屋川原に所在する。遺跡範囲は東西約 600 m、南北 100 m 以上を測る。発掘調査は平成 16（2004）年から平成 19（2007）年の 4 次にわたって実施された。調査面積は合計で 18,001 m²である。古墳時代では、5 世紀後半の河川跡と土坑、6 世紀前半の河川跡と性格不明遺構、6 世紀中葉の竪穴住居跡 1 棟と性格不明遺構 2 基が検出された。この竪穴住居跡からは、赤色顔料の粉砕に使われた磨石が出土している（山形県埋蔵文化財センター 2010）。

清水新田遺跡（第 2 図 6）

鶴岡市大字清水新田字下谷地に所在する。発掘調査は、東西約 230 m、南北約 200 m の遺跡範囲のうち、約 1,000 m²を対象に実施された。調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡 10 棟他の遺構が検出され、古墳時代及び平安時代の遺物が整理箱にして 50 箱出土した。特に古墳時代の土師器は一括性が高い良好な資料が得られた。その主体は 6 世紀第 1 四半期（古墳時代後期初頭）と考えられ、庄内地方における当該期の基準資料になるものである（山形県教育委員会 1988）。

南田遺跡（第 2 図 7）

鶴岡市大字清水新田字南田に所在する。清水新田遺跡の南、矢馳 B 遺跡の西に位置している。遺跡の範囲は西側で未確定であるが、東西 40 m 以上、南北 100 m 以上と推定される。発掘調査は平成 18（2006）年に 3,400 m²について実施され、古墳時代から平安時代にかけての遺構、遺物が見ついている。古墳時代の遺物は、4 本の河川跡から、6 世紀第 1 四半期とみられる土師器が

ややまとまって出土した（山形県埋蔵文化財センター 2009）。

後田遺跡（第2図67）

鶴岡市大字寺田字後田に所在する。発掘調査は、東北横断自動車道酒田線（朝日～酒田間）建設に先立ち、平成6（1994）年に実施した。調査面積は、東西約250m、南北約200mの遺跡範囲のうち、東側の14,500㎡である。古墳時代の遺構は、調査区の北東部分で竪穴住居跡1棟が検出された。所属年代は、住居跡内から出土した土師器から6世紀前半と推定された。また、周囲の状況から調査区外への遺構域の広がりが見込まれた（山形県埋蔵文化財センター 1997）。

山田遺跡（第2図5）

鶴岡市大字山田字油田に所在する。矢馳A遺跡の北に隣接し、面積約220,000㎡を測る広大な遺跡である。山田遺跡は、山形県教育委員会による昭和63（1988）年の県営ほ場整備事業鶴岡西部地区に係るトレンチ調査を皮切りに、平成8（1996）年から平成12（2000）年にかけて鶴岡市教育委員会によって実施された、鶴岡大山工業団地造成、市道改良に係る調査、平成11（1999）年に山形県埋蔵文化財センターが実施した都市計画街路山田善宝寺線に係る調査など、これまでに約45,000㎡が発掘調査され、古墳時代、平安時代及び中世の遺構、遺物が多数出土した。古墳時代では、遺跡範囲の西側に設定した調査区から5世紀代の竪穴住居跡や土坑、河川跡が検出され、特に竪穴住居跡から出土した続縄文土器が注目された。また、遺跡範囲南東部の調査区では、6世紀代とみられる竪穴住居跡が50棟以上確認されている（山形県教育委員会 1989 鶴岡市教育委員会 2001・2002・2003・2004 山形県埋蔵文化財センター 2001）。

助作遺跡（第2図4）

鶴岡市大字矢馳字上矢馳に所在し、矢馳A遺跡とは現在の矢馳集落を挟んで南に隣接する。大正年間の県道工事に際して、須恵器の甕（致道博物館所蔵）が出土したことから、その存在が知られた。遺跡面積は約57,000㎡を測る。本遺跡は、昭和63（1988）年の県営ほ場整備事業鶴岡西部地区に係る用排水路のトレンチ調査と国道7号鶴岡バイパス建設工事、平成15（2003）年の国土交通省鶴岡防災ステーション建設工事に係る調査により、5,085㎡が発掘調査された。調査では、6世紀中葉

の竪穴住居跡3棟や遺物を多量に包含する河川跡、畝跡とみられる溝状遺構が検出されている。特に第1次発掘調査で検出されたST9竪穴住居跡から出土した遺物は、当時の土器組成を知る上で貴重な一括資料である（山形県教育委員会 1989・1990 山形県埋蔵文化財センター 2004）。

囲地田遺跡（第2図61）

鶴岡市大字白山字囲地田に所在する。平成元（1989）年に山形県教育委員会が実施した、県営ほ場整備事業鶴岡西部地区に係る遺跡詳細分布調査において発見された。遺跡の規模は、東西170m、南北330m、面積54,700㎡である。発掘調査は、平成2（1990）年には場整備に伴う排水路及び用水管埋設部分2,130㎡について実施された。その結果、遺跡範囲のほぼ中央に設定したトレンチで検出された溝跡から、6世紀中葉の土器が多数出土し、集落の矢馳A遺跡、助作遺跡との同時存在の可能性が指摘された（山形県教育委員会 1991）。

五百刈遺跡（第2図76）

鶴岡市大字下川字五百刈に所在する。平成3（1991）年に山形県教育委員会が実施した県営ほ場整備事業下川地区に係る遺跡詳細分布調査で、西谷地遺跡、西ノ川遺跡とともに新規発見された。遺跡範囲は東西約490m、南北約400mである。平成5（1993）年に遺跡範囲北東端部の畑地1,180㎡が発掘調査された。平安時代の遺構確認面の下に間層を挟み古墳時代の遺構確認面があり、6世紀中葉の竪穴住居跡4棟、土坑13基、溝跡4条などが検出された（山形県埋蔵文化財センター 1994）。

B 奈良・平安時代

西谷地遺跡（第2図79）

鶴岡市大字下川字西谷地に所在する。遺跡の面積は約32,000㎡と推定されている。西谷地遺跡は、平成5（1993）年の主要地方道酒田鶴岡線の道路改良工事をはじめ、平成6（1994）年から平成7（1995）年にかけて県営ほ場整備事業鶴岡下川地区の実施に伴って、遺跡範囲の約83%にあたる26,680㎡が発掘調査された。調査では古墳時代後期から中世の遺構・遺物が発見されたが、その主体は9世紀中葉から10世紀前半と推定された。また、大型で総柱の掘立柱建物跡が複数検出された他、多量の墨書土器や石帯の出土などから、庄内地方南半では稀な

官衙の様相を持った遺跡として注目された（山形県埋蔵文化財センター 1994・1995・1996）。

山田遺跡（第2図5）

山田遺跡の奈良・平安時代の集落域は、遺跡範囲の中央部で9世紀中葉から10世紀初頭の掘立柱建物跡4棟、竪穴住居跡2棟、井戸跡4基他が検出された（鶴岡市教育委員会 2002）。また、東辺部からは8世紀中葉から9世紀中葉に所属するとみられる掘立柱建物跡5棟や柱穴列と河川跡等が検出された（鶴岡市教育委員会 2003 山形県埋蔵文化財センター 2001）。遺物では、墨書土器や木簡などの文字資料が多量に出土した他、新潟県佐渡市小泊窯群産の須恵器の存在が注目された。

南田遺跡（第2図7）

南田遺跡では、奈良・平安時代の溝跡4条、土坑と井戸跡が各1基、河川跡1本が検出された。出土した土器の所属時期は、断続的に8世紀中葉、8世紀第4四半期から9世紀第1四半期、9世紀第4四半期から10世紀第1四半期の3時期が認められた。住居跡など集落構造の中核に関わる遺構が検出されなかったことと、遺構の配置状況から、集落本体は、調査区の西側に存在すると推定された（山形県埋蔵文化財センター 2009）。

行司免遺跡（第2図15）

鶴岡市大字水沢字行司免に所在する。大山川を挟んで興屋川原遺跡の対岸に位置する。遺跡の規模は東西約240m、南北80m以上を測る。発掘調査は平成16(2004)年から19(2007)年の4次にわたり、調査面積は延べ10,100㎡である。平安時代の大溝跡3条から多くの遺物が出土した他、炭化物の集中域や木棺墓が5基検出された。時期は層位により、8世紀後半から終末、8世紀末葉から9世紀前半、9世紀後半から10世紀初頭、10世紀前半の4期が確認された。出土遺物では皇朝十二銭の「富壽神寶」、墨書土器、「寺」の刻書がある板材などが出土し、県内では貴重な祭祀を伴う墓域の調査例となった（山形県埋蔵文化財センター 2012）。

岩崎遺跡（第2図8）

奈良・平安時代の遺構は、8世紀第4四半期から9世紀第1四半期と9世紀第4四半期から10世紀第1四半期の2時期において、官衙に関連するとみられる施設の跡が確認された。前者は総柱建物跡2棟を含む掘立柱建物跡4棟と井戸跡2基、後者では総柱建物跡1棟を含む

掘立柱建物群と施設を区画する堀と考えられる掘立柱列が検出され、硯や腰帯具が出土した。また、小泊窯跡群産と考えられる須恵器が出土しており、これまでの各遺跡の出土例も含めて再検討の必要性を指摘している（山形県埋蔵文化財センター 2010）。

玉作2遺跡（第2図12）

前述の発掘調査において、河川跡や溝跡、土坑が検出された。出土した土器は、8世紀末葉から9世紀初頭と9世紀末葉から10世紀初頭の2時期があるとみられた（山形県埋蔵文化財センター 2009・2011）。

囲地田遺跡（第2図61）

囲地田遺跡では、幅約12.5m、深さ約75cmの大溝跡から、9世紀第1四半期とみられる須恵器、赤焼土器の坏類がまとまって出土した（山形県教育委員会 1991）。

五百刈遺跡（第2図76）

9世紀後半の掘立柱建物跡3棟、土坑6基、溝跡17条などが検出された。遺物では、「岐」の墨書がある須恵器坏が出土した（山形県埋蔵文化財センター 1994）。

西ノ川遺跡（第2図78）

鶴岡市大字下川字西谷地に所在し、西谷地遺跡の北に隣接する。遺跡の面積は約12,000㎡と推定されている。平成6(1994)年に県営ほ場整備事業下川地区の実施に先立って、4,800㎡を対象に発掘調査を行なった。調査では、平安時代の総柱の倉庫跡や掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、溝跡などが検出された。遺跡の主体は、その出土遺物から9世紀後半から10世紀と推定された。また、羽口、鉄滓、土錘など、小鍛冶や漁業に関わる遺物も出土した（山形県埋蔵文化財センター 1995）。

興屋川原遺跡（第2図14）

平安時代の遺構は、5世紀後半から10世紀中葉の掘立柱建物跡9棟、河川跡2本、焼成遺構1基などが検出された。調査区東側では、4棟が整然と配置された大形の掘立柱建物群が検出されている。また、河川跡では祭祀に関わる斎串類が多量に出土し、焼成遺構の周辺では、鉄滓や砥石など鍛冶や製鉄に関わる遺物が出土している。墨書土器は116点出土し、「○寺」、「大田」などの文字が注目された（山形県埋蔵文化財センター 2010）。

後田遺跡（第2図67）

後田遺跡では、9世紀末葉から10世紀前半と考えられる掘立柱建物跡1棟、井戸跡2基、土坑5基などが検

出された（山形県埋蔵文化財センター 1997）。

塔の腰遺跡（第2図69）

鶴岡市大字井岡字塔の腰に所在する。遺跡の規模は東西約290m、南北約230mと推定されている。発掘調査は、平成6（1994）年に9,200㎡を対象に実施した。平安時代の遺構は、中世の遺構に破壊された部分が多かったものの、土坑4基の他、畝状遺構などが検出された。出土した土器は赤焼土器を主体とし、概ね10世紀前半に位置付けられた（山形県埋蔵文化財センター 1997）。

万治ヶ沢遺跡（第2図17）

鶴岡市大字矢引字万治ヶ沢に所在する。平成16(2004)年と翌17年に5,771㎡について発掘調査が実施された。丘陵の斜面に10世紀第1四半期を主体とする土師器の焼成遺構28基と木炭窯3基が検出された。また、鉄滓が出土しており、付近に製鉄に関連する遺構の存在が予想された。本遺跡は、当該期の生産遺跡として貴重な調査事例である（山形県埋蔵文化財センター 2009）。

C 中世

山田遺跡（第2図5）

中世の遺構は、南東部の調査区から西辺南北117m、北辺東西73m、幅1.85～1.9m、深さ34～55cmの方形に巡る区画溝が検出され、その内側から井戸跡、土坑、溝跡が検出されている（鶴岡市教育委員会 2004）。

西谷地遺跡（第2図79）

奈良・平安時代の遺構に重複して、幅1～2.6m、深さ0.8～1mの大溝跡が検出された。これらは50～90m以上直進して直角に近く曲がるなど、大規模な区画的要素を持つ。遺物は、珠洲系陶器や播鉢、かわらけなどが出土し、13世紀から14世紀を主体とするものとみられた（山形県埋蔵文化財センター 1994・1995・1996）。

塔の腰遺跡（第2図69）

中世の遺構は、掘立柱建物跡1棟、井戸跡11基の他、幅1～2.5m、深さ50cmの溝に挟まれた道路状遺構と屋敷地割と考えられる区画溝が検出された。区画溝は、それぞれ15～30m四方の規模で12区画が存在し、軸線の状況と重複関係から、少なくとも2時期あることが想定された。所属時期は、13世紀から14世紀中葉が主体とみられる（山形県埋蔵文化財センター 1997）。

後田遺跡（第2図67）

中世の遺構は、掘立柱建物跡4棟、井戸跡5基の他、土坑、溝跡が検出されている。出土遺物から13世紀から14世紀の集落跡と推定され、特に、多量の笹塔婆の出土が目された（山形県埋蔵文化財センター 1997）。

大道下遺跡（第2図64）

鶴岡市大字寺田字大道下に所在する。遺跡の規模は東西約250m、南北約400mを測る。発掘調査は、山形県教育委員会が平成元（1989）年に県営ほ場整備事業鶴岡西部地区の実施に先立って、月記遺跡、大東遺跡とともに3,575㎡を対象に行なった他、平成6（1994）年に東北横断自動車道酒田線の建設に先立って、山形県埋蔵文化財センターが5,000㎡を対象に行なった。特に山形県教育委員会が実施した発掘調査では、遺跡範囲北辺部に設定した調査区から掘立柱建物跡1棟と、施設の外周に巡らせた堀跡とみられる大溝が検出された。遺構の年代は、出土遺物がごく少ないために判然としないが、概ね13世紀から14世紀代と推定されている（山形県教育委員会 1990 山形県埋蔵文化財センター 1997）。

月記遺跡（第2図65）

鶴岡市大字寺田字月記に所在し、後田遺跡の北東に隣接する。遺跡の規模は東西約280m、南北約260mを測る。調査面積は、約750㎡である。調査区では河川跡が検出され、「南無阿弥陀仏 阿弥陀如来」と表裏にそれぞれ墨書された小型の護符などが出土し、平安時代末から室町時代の年代が推定された（山形県教育委員会 1990）。

大東遺跡（第2図66）

鶴岡市大字寺田字大東に所在し、月記遺跡の東に隣接する。遺跡の規模は、東西約250m、南北約100mを測る。調査面積は、図版からの実測値で約5,200㎡である。発掘調査では、掘立柱建物跡4棟、井戸跡5基の他、土坑や溝状遺構が多数検出された。掘立柱建物跡のうち、調査区西側の2棟は区画溝を伴っている。遺物は珠洲系陶器、かわらけなどが出土しており、13世紀から14世紀の集落跡と推定された（山形県教育委員会 1990）。

西ノ川遺跡（第2図78）

中世の遺構は、土坑と井戸跡が検出されている。遺物は、15世紀と考えられる珠洲系陶器の甕、播鉢、かわらけなどが出土した（山形県埋蔵文化財センター 1995）。

Ⅲ 調査の概要

1 調査の経過

A 第2次調査の経過

矢馳A遺跡の第2次調査は、平成17(2005)年10月11日から12月22日までの実働51日間で実施された。調査の目的は、北東端部の県道湯田川大山線と市道に挟まれた部分(第3次調査A区)の遺構と遺物の有無を確認することと、道路建設に付帯して行なわれる農業用水管の付け替え埋設部分及び排水路付け替え部分の記録保存である。調査対象は遺跡範囲にかかる事業地区の外周部分となる。北東端部の調査は人力による坪掘り、その他は重機を用いて約1.8m幅のトレンチ調査を行なった。トレンチは工事用幅杭を基準に、T1からT21に区分けし、記録作業等の便宜を図った(第3図)。調査面積は1,920㎡である。以下に調査の経過を述べる。

10月11日

器材搬入および調査区内環境整備を行なう。北東端部の事業地区に1×1mの試掘坑を13か所に設置し、人力による掘り下げを行ない、地山の状況および遺構と遺物の有無を確認した。地山の状況は良好であり、一部の試掘坑で遺構と遺物の存在を確認した。

10月12日～10月14日

重機によるトレンチの表土除去作業を行ない、T1～T19について14日までに終了した。掘り下げを終了した所から順次面整理作業を開始し、T1でSG1河川跡(第3次調査以降のSG833)を検出した。

10月17日～10月28日

T2～T7、T12～T18の面整理作業を行ない28日に終了した。17日および18日に、T1で検出したSG1について、50cm幅のサブトレンチを設定して掘り下げ作業を実施する。その結果、堆積土内から奈良・平安時代の遺物を確認した。遺構の堆積土と地山の識別が困難であったことから、T1～T5、T14～T16に同様のサブトレンチを設定し掘り下げを行なう。この過程でT5からSG2(第3次調査のSG791)とSG3(第

3次調査以降のSG771)、T15からSG4とSG5(第3次調査以降のSG771)、T12からSG6(第4次調査のSG121)を検出した。SG3とSG5では奈良・平安時代の遺物が出土し、SG6では川床付近で多量の自然木を検出した。また、21日に業務委託で工事用の仮水準点を基に第3次調査区内に基準杭を打設した他、28日から各トレンチの記録作業を開始する。

10月31日～11月11日

SG2～SG6の掘り下げ作業とT14～T16の各トレンチの記録作業を継続するとともに、2日から4日にかけてT8～T11、8日にT19の面整理作業を実施する。また、T8から古墳時代後期の遺物がまとまって出土したことから、11日に農道に接する所まで人力による拡張を行なった。

11月14日～11月29日

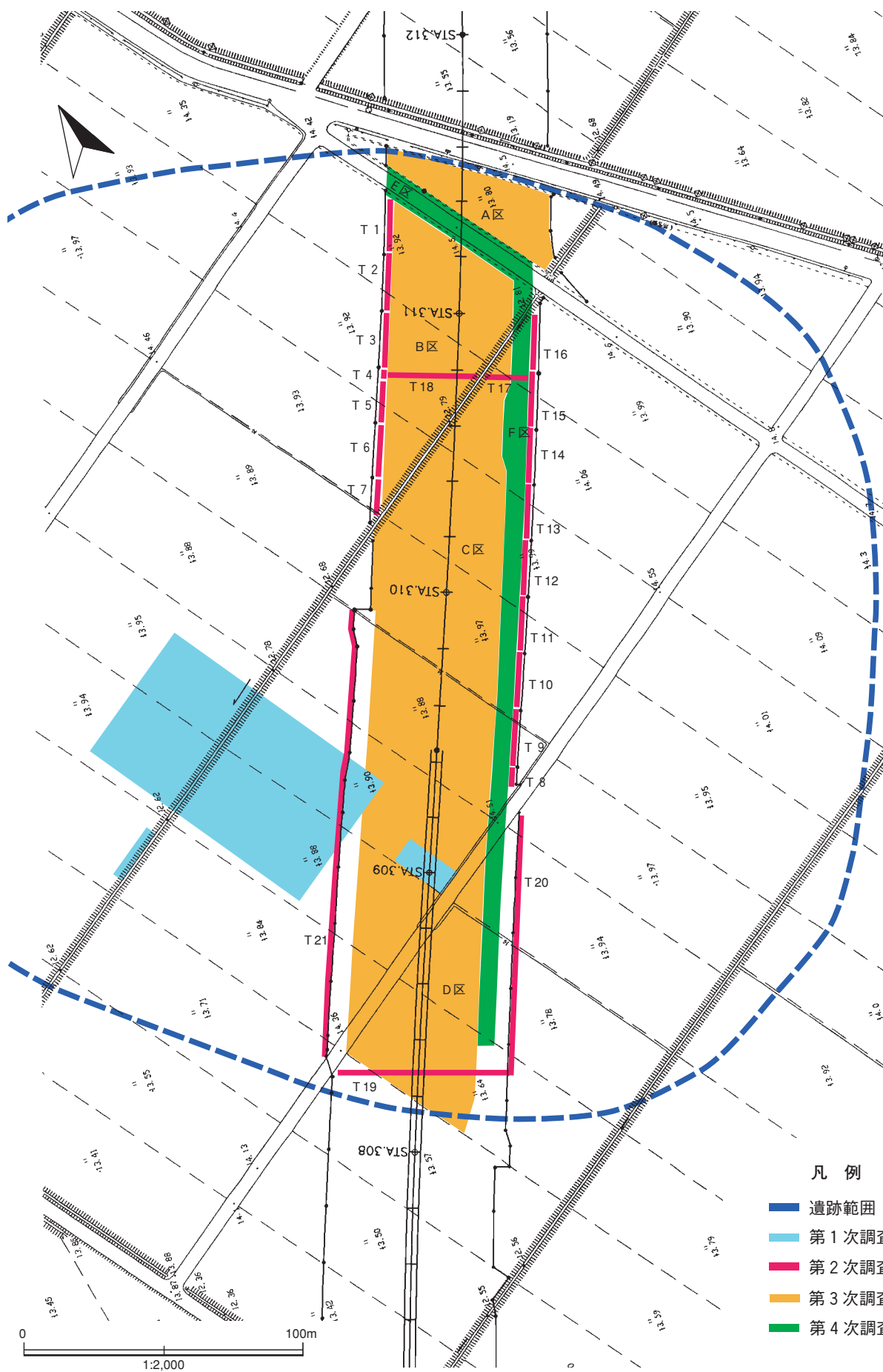
T12～T14の記録作業を16日までに終了する。また、16日と17日に、T20とT21について、重機による表土剥ぎ取り作業を実施した。T8～T10にサブトレンチを設定して掘り下げを行ない、地山下約50cmに古墳時代中期末葉から後期初頭の遺物包含層を確認した。その間記録作業を並行して行ない、23日にT8～T16の調査を終了した。

11月30日～12月9日

T1～T7の記録作業を行ない、5日に終了する。また、5日からT17～T21の面整理作業を開始した。8日に、T18において奈良・平安時代の遺物を包含するST7堅穴住居跡(第3次調査のST795)を検出し、精査を行なう。

12月12日～12月22日

T21の面整理作業を継続するが、連日の降雪と地吹雪のため除雪しながらの作業となった。T21では、古墳時代後期の遺物集中地点を検出し、21日までに調査を完了した。その間、20日にT18について業務委託による空中写真測量を実施した。20日から22日にかけて重機による埋め戻し作業を行なう。22日に全ての工程を終了し、器材を撤収した。



第3図 調査概要図

B 第3次調査の経過

第3次調査は、平成18(2006)年4月17日から11月30日までの実働149日間で実施された。調査対象は道路用地本体部分13,000㎡である。調査区は南西から北東方向に約330mと長大であることから、調査を効率よく進めるために、北東端部の県道と市道に挟まれた部分をA区、市道から排水路までをB区、排水路から農道までの間をC区、農道から南西をD区として調査にあたった(第3図)。調査の経過は以下の通りである。

4月17日～4月25日

17日に調査事務所へ発掘器材を搬入し、事務所と調査区周辺の環境整備を行なう。19日からA区とB区について重機による表土除去作業を開始した。20日から表土除去を終了した所から面整理作業を行なう。A区は20日に表土除去を終了した。

4月26日～5月15日

26日にA区の面整理作業を終了し、C区の表土除去作業を開始する。B区の表土除去作業は28日に終了し、面整理作業を10日に終了した。12日にC区の面整理作業を終了し、15日にD区の表土除去作業を終了した。

5月16日～5月19日

D区の面整理作業および遺構検出作業を行ない、19日に終了した。併せて第2次調査で打設した基準杭を基にグリッドの杭打ち作業を実施した。

グリッドの設定は、平面直角座標系第X系(世界測地系)の座標値 $Y = -92170$ 、 $X = -139880$ を基点とし、10m四方を1単位とした。杭の名称は、Y軸(東西方向)では起点から西に向かって大文字アルファベットA・B・C・・・、X軸(南北方向)では起点から南に向かって算用数字1・2・3・・・を付し、先の基点をA-1とした。区画の名称は南西角の杭の名称に代表させた。

5月22日～5月31日

C区の面整理作業および遺構検出作業を行ない、加えて26日からB区の面整理作業と遺構検出作業を実施した。A区も含めて遺構検出作業を31日までに終了した。

6月1日～6月9日

1日は、午前中に調査区全体の遺構検出状況について業務委託による図化用の空中写真測量を実施し、午後からD区の遺構掘り下げ作業を開始した。遺構掘り下げ作

業は小規模な溝跡、土坑から記録作業と並行して進め、6日からSG1河川跡の掘り下げ作業に着手する。

6月12日～6月30日

SG1河川跡の調査を継続しながら、12日にC区南西側の古墳時代集落域から遺構掘り下げ作業を開始し、随時北東側へ調査範囲を広げた。SG1の掘り下げおよび記録作業は16日に完了し、21日にD区およびC区の完掘部分について図化用の空中写真測量を実施した。

7月3日～7月13日

C区の古墳時代集落域の遺構掘り下げ作業と記録作業を継続するとともに、4日からB区のSG771河川跡を中心に掘り下げ作業を開始した。12日に鶴岡市立黄金小学校6年生18名の社会科見学があった。

7月18日～7月28日

B区およびC区の調査を継続しながら、18日からA、B区にまたがるSG833河川跡の掘り下げ作業を開始する。C区では、28日までに北東側で検出された中世居館の区画溝(SD589)の掘り下げおよび記録作業を終了した。

7月31日～8月12日

各区の調査を継続し、B区とC区は河川跡と遺物包含層を除き8月12日までにほぼ完掘した。C区北東部について8月1日、C区南西部とB区について12日に空中写真測量を実施した。

8月21日～9月8日

A区SG833とB・C区SG771河川跡、C区で検出された井戸跡を中心に調査を実施し、9月1日までに完了する。その間、22日に補足の空中写真測量、31日にSG833の土層堆積状況について山形大学阿子島功教授(当時)から現地にて調査指導を賜る。5日に鶴岡市立大泉小学校6年生38名の社会科見学があった。また、8日にC区とD区にまたがって調査区を横断するSG160およびSG1048河川跡についてD区南辺にトレンチを設定し掘り下げ作業を開始した。

9月11日～9月29日

D区でのSG160およびSG1048の掘り下げ作業を13日に終了した。引き続きC区の北辺にトレンチを設定して、両河川跡の掘り下げを行ない26日までに終了する。また、両河川跡のトレンチを西に延長して面下げを行ない、併せてB区北東端部についても面下げを行ない、遺

構検出並びに掘り下げ作業を行なう。11日から15日にかけてC区SG1045河川跡のトレンチ掘り下げ作業を行ない、SG1045の南西岸に広がると想定される、第2次調査で確認された古墳時代中期末葉から後期初頭の遺物包含層の状況を確認した後、19日から遺物包含層本体の掘り下げに入る。21日に空中写真撮影を実施した。12日に山形県議会文教公安常任委員会15名、15日に第2学区文化財愛護会19名、26日に鶴岡市立大山小学校6年生40名の見学があった。また、29日にA区南側について重機による表土剥ぎ取りを開始した。

10月2日～10月13日

A区の拡張部分については5日に表土剥ぎ取りを終了した。並行して面整理作業と遺構検出作業を行ない、13日に終了した。B区は面下げ部分の遺構掘り下げ作業と記録作業、C区では遺物包含層の掘り下げ作業と西端部の掘り下げ作業を継続し、また、SG160、SG1048河川跡の再検出作業を実施した。11日にB区の面下げ部分とC区のSD589溝跡付近を中心に図化用の空中写真測量を実施した。また、10日からC、D区間の農道について撤去を行ない、12日に終了した。

10月16日～11月2日

A区は拡張部分の遺構掘り下げ作業、C区は遺物包含層並びに西端部の掘り下げ作業を継続し、SG160、SG771河川跡の掘り下げ作業を行なった。農道撤去部分は19日に面整理並びに遺構検出作業を終了し、遺構掘り下げ作業を開始した。

11月6日～11月19日

A区拡張部分とC区西端部分について9日に図化用空中写真測量を実施した。遺物包含層、SG160、SG771河川跡は掘り下げ作業を継続する。また、15日にSG771の掘り下げ作業を終了し、SG1048河川跡の掘り下げ作業を開始した。19日に一般を対象にした調査説明会を開催し、58名の参加者があった。

11月20日～11月30日

20日に農道撤去部分、SG160、SG1048河川跡、遺物包含層について補足の図化用空中写真測量を実施する。C区はSG160、SG1048河川跡の掘り下げおよび記録作業を22日までに終了する。その他の遺構の記録作業を29日までに終了し、30日にSG160とSG1048の完掘状況の空中写真撮影の後、発掘器材を撤収した。

C 第4次調査の経過

第4次調査は、平成19(2007)年5月9日から9月14日までの実働86日間で実施された。調査対象は、事業にかかる市道部分および工事用道路部分3,300㎡である。地区割りは第3次調査に引き続き、市道部分をE区、工事用道路部分をF区として調査にあたった(第3図)。以下に調査の経過を述べる。

5月9日～5月14日

E区市道部分について、重機を用いてのアスファルトの撤去と表土剥ぎ取り作業を行なう。南端部については工事用道路の付け替えが必要なことからF区の表土剥ぎ取りの際に除去する。

5月15日～5月22日

15日に調査事務所へ発掘器材を搬入し、この日より発掘作業員が稼働する。E区の表土剥ぎ取りは残土整形を含め16日に終了する。16日から22日に調査区壁面保護のため土嚢による補強を行なった後、面整理作業を開始した。また、17日にグリッドの杭打ち作業を行なう。杭の名称は第3次調査の付し方を踏襲したが、調査区の幅が狭いためグリッド1単位を5m四方とし、中間に打設する杭の名称には「#」を付し、例えばY軸AとBの間をA#、X軸1と2の間を1#とした。

5月23日～6月11日

23日にE区の遺構検出作業を終了し、遺構の掘り下げ作業に入る。また、土色変化が判然としない南半部について、手掘りによる面下げを行ない、遺構の有無を確認した。遺構の掘り下げ作業は5日に終了した。28日から図面作成等の記録作業を並行して行ない、11日までにE区の調査を終了する。

6月12日～6月29日

E区南端部およびF区の重機による表土除去作業を行なう。表土除去の進捗に合わせて、調査区壁面の土嚢による補強と排水路の整備、面整理および遺構検出作業、グリッド杭打設を行なう。

7月2日～7月24日

E区南端部およびF区の面整理作業と遺構検出作業を継続し、24日に終了した。その間、F区の東端部に大きな攪乱を検出し、ここを残土置き場とするために記録作業を先行して行ない6日に終了する。12日から

第3次調査からの続きとなるSG771河川跡、19日からSD589溝跡の掘り下げ作業を実施し、SD589は24日に完掘した。また、24日からE区南端部の遺構掘り下げ作業を開始する。

7月25日～7月31日

E区南端部とSG771河川跡の掘り下げ作業を継続するとともに、26日から古墳時代中期末葉から後期初頭の遺物包含層のトレンチ調査、27日から第4次調査で新たに検出された古墳時代後期のSG100河川跡の掘り下げ作業を開始する。

8月1日～8月20日

SG771河川跡の掘り下げ作業は1日に完了した。E区南端部と遺物包含層、SG100河川跡の調査は継続し、それぞれ第3次調査からの継続となるSG1048河川跡を1日から、SG160河川跡を6日から、SG1河川跡の掘り下げ作業を7日から実施する。このうちSG160河川跡の掘り下げ作業は20日に完了した。

8月21日～8月31日

遺物包含層の調査は継続し、その間、SG1048河川跡を21日、SG1河川跡を28日、SG100河川跡を29日にそれぞれ完掘し、記録作業を行なう。E区南端部は30日に遺構掘り下げと記録作業を終了した。また、28日からF区で検出された板材列を伴うSD119溝跡の掘り下げ作業に入る。

9月3日～9月14日

遺物包含層とSD119溝跡の掘り下げ作業を継続して行ない、遺物包含層は11日、AD119溝跡は13日にそれぞれ掘り下げ並びに記録作業を完了した。その間、10日に関係者を対象にした調査説明会を開催している。13日に業務委託による図化用の空中写真測量を実施して現地調査を完了し、14日に調査区内の環境整備を行ない器材を撤収した。

D 整理作業の経過

平成17年度

第2次の現地調査を終了した後、持ち帰った出土遺物、記録類についての整理作業を行なった。出土遺物は洗浄および注記作業を終了し、一部の土師器、須恵器について復元作業を開始した。記録類については、遺構図面の整理と現場写真の注記を行なう。

平成18年度

第2次調査出土の土師器、須恵器の復元作業を行なう。第3次調査の出土遺物は、洗浄と注記作業、復元作業を行なう。木製品は実測作業を行ない、齋串等一部の小型木製品について業務委託による保存処理を行なった。業務委託では他に、年代測定とテフラ分析を実施した。記録類については遺構デジタル図面の校正と遺構写真の注記を行なった。また、新潟県糸魚川市教育委員会にて田伏玉作遺跡、石川県埋蔵文化財センターにて漆町遺跡、潮津金場遺跡、永町ガマノマガリ遺跡、畝田・寺中遺跡、高堂遺跡の出土遺物について資料比較検討を行なった。

平成19年度

第3次調査出土の土師器、須恵器の復元作業を継続する。第4次調査の出土遺物は、洗浄作業と注記作業を実施し、洗浄作業のみ終了する。木製品は実測作業を終了した。記録類は遺構図のデジタル図面の校正、遺構写真の注記作業を行なった。業務委託は、土師器の実測図化50点、木製品の保存処理33点、金属製品の保存処理3点、樹種同定、年代測定他の理化学分析を実施した。また、石川県埋蔵文化財センターにて漆町遺跡の再比較、新潟県埋蔵文化財調査事業団にて下割遺跡Ⅱ、六斗蒔遺跡、道端遺跡Ⅴ、福島県会津坂下町教育委員会にて中平遺跡の出土遺物について資料比較検討を行なった。

平成20年度

第4次調査出土遺物の注記作業を終了し、土師器、須恵器の復元作業を継続し、第3次調査分を終了した。業務委託は土師器223点の実測図化、木製品82点の保存処理、樹種同定、花粉分析等の理化学分析を実施した。

平成21年度

第2次から第4次調査遺構図の合成を行なう。また、出土遺物の復元作業を終了し、実測作業に入る。業務委託は土師器95点の実測図化、木製品101点の保存処理、樹種同定、木柱の年代測定を実施した。

平成22年度

遺構図の合成を継続するとともに、手取りした出土遺物約1,800点のトレース作業を行なう。

平成23年度

トレース作業の終了後、図面図版、写真図版の編集・版組作業および作表作業を行なう。本文を執筆して報告書を刊行し、出土遺物と記録類を収納する。

2 遺跡の概要

A 基本層序

矢馳A遺跡における地山までの層序は、第1次調査の時点ではⅠ層耕作土、Ⅱ層遺物包含層、Ⅲ層遺構検出面・地山の3層で構成されていたが、ほ場整備が終了した後実施された第2次調査以降では、Ⅱ層の黒褐色シルトが存在せず、厚さ25～30cmで堆積する暗褐色シルトの耕作土の下は、すぐに地山となる。耕作土には地山のブロックが多く含まれており、地山上部も削平を受けていることが確認された。

地山の状況は、調査区中央付近で酸化鉄を含んで赤みを帯びた砂であるが、その他では灰色から青灰色系の細砂質シルトとなる。また、南西端付近では粘質が強くなり、上層が泥炭化していた可能性を示唆している。調査ではこの面で遺構検出を行なった。第1次調査で指摘されたとおり、古い時期の遺構ほどグライ化の進行によって土色変化に乏しく、また、河川氾濫による埋没過程を経てきたために、遺構内堆積土と地山の土質や土色の違いが微妙であり、遺構の識別が困難である。

B 遺構と遺物の分布

日本海東北自動車道の予定路線は、遺跡範囲のほぼ中央を南西から北東方向に横断しているため、今回の調査区は長さ約320mと長大なものになった。調査では遺構と遺物の分布状況から、調査区全体が時代と性格の異なる3つの遺構群に分けられ、さらに遺構確認面下約50cmで、より古い文化層の存在する区域があることを確認した。以下にそれらの概要を述べる。

遺物包含層（第7図）

P～R-16～18区において通常の遺構確認面下約50cmから後述の南西部遺構群より明らかに古い様相を持った土器がまとまって出土した。遺構の存在が不明瞭なことから、遺物包含層として扱った。

南西部遺構群（第4～7図）

Y軸T-15～20区のSG432河川跡以西および第4次調査でP～T-18～20区から検出されたSG100河川跡では、古墳時代6世紀後半の遺構、遺物が主体となる。特にT～W-15～20区では、住居跡や土坑が密に分布

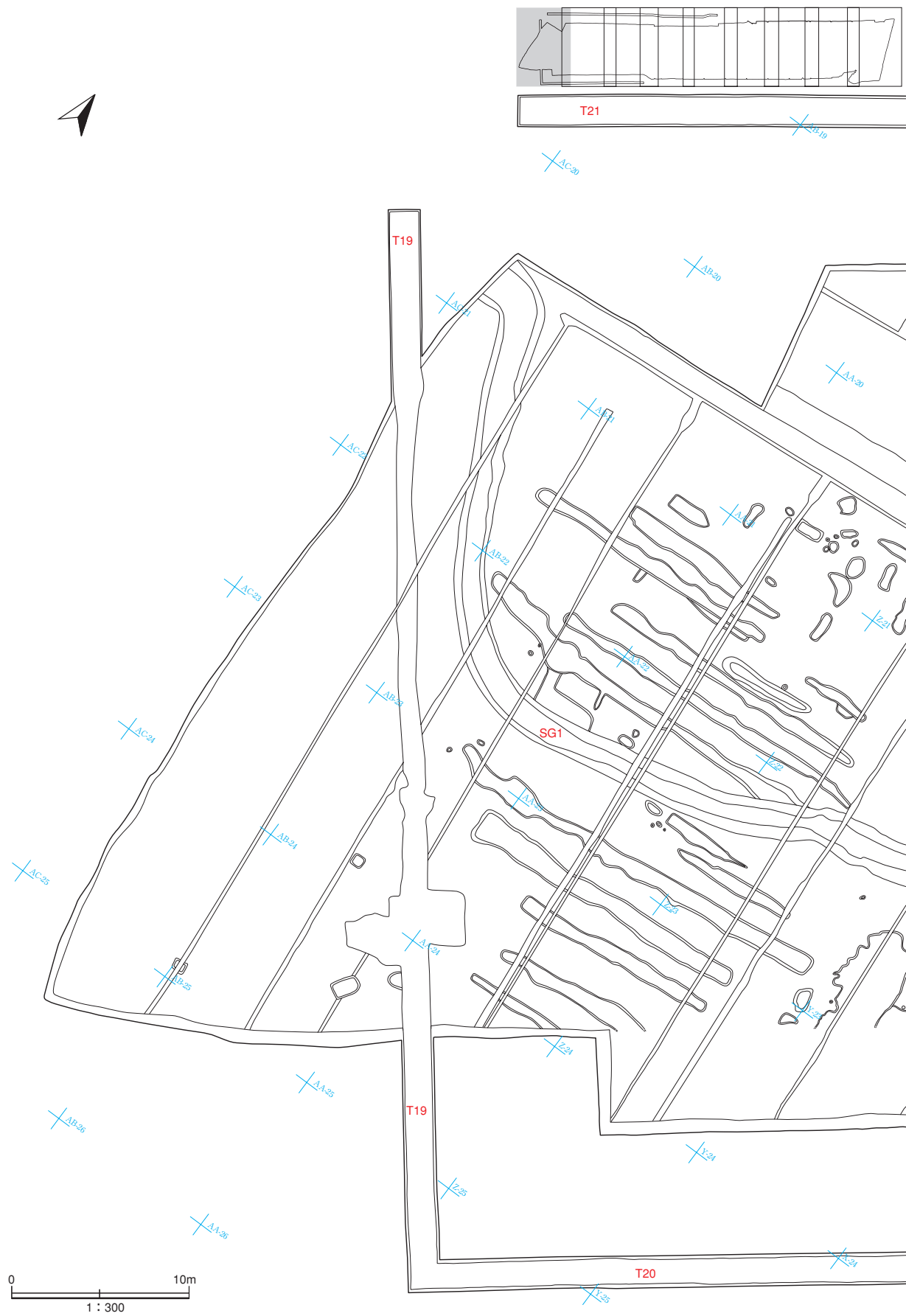
し、第1次調査で検出された集落域の南への広がりが確認された。遺物は、集落域の西に隣接するSG1048河川跡とSG160河川跡並びに第4次調査SG100河川跡からまとまって出土した。SG1048河川跡以西は遺構、遺物の分布ともに散漫となるが、第2次調査T21区の遺物集中区域はその西に隣接して広がる。第3次調査D区の検出遺構はほとんどが近現代の所産であるが、第4次調査F区において、SG1河川跡と重複し、これに切られるSG120河川跡を検出している。

北東部遺構群（第10～12図）

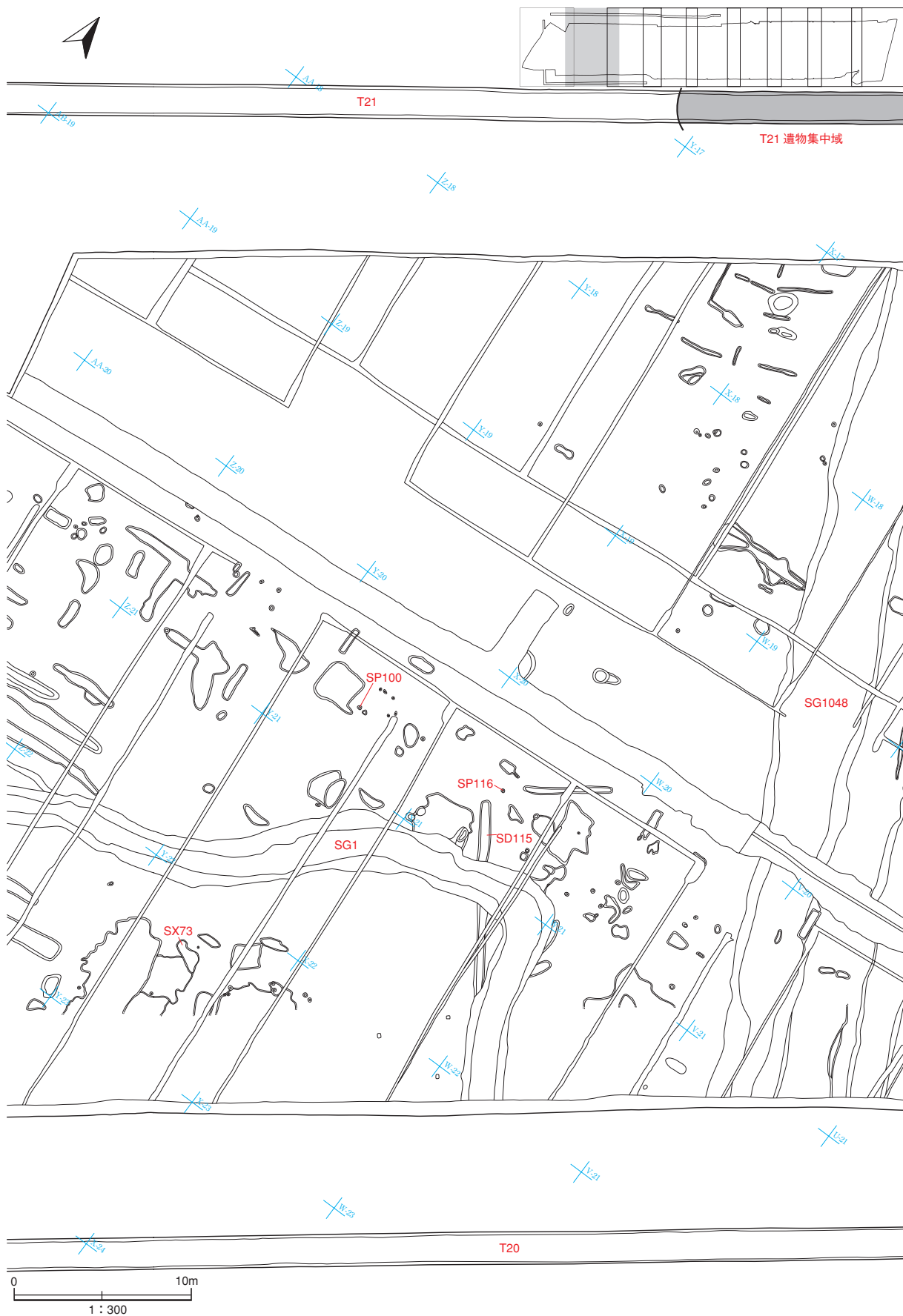
B区とC区にまたがって検出されたSG771河川跡と北端部で検出されたSG833河川跡にはさまれた区域は、奈良時代から平安時代の遺構、遺物が主体となる。この区域では竪穴住居跡と土坑が疎らに分布しており、集落の本体は調査区の北にあるものと考えられる。また、幅50cm前後の溝跡が多数検出された。多くは地震の際の液状化の痕跡とみられるが、特に密に分布するC～E-5～8区付近のものは方向が比較的そろっており、畑の畝跡の可能性もある。なお、この地点では遺構確認面下約10cmでもう1面の遺構確認面の存在を把握した（第13図）が、出土遺物に上面との大きな時期差はない。遺物はSG771河川跡およびSG833河川跡からまとまって出土している他、各竪穴住居跡と一部の土坑でも一括性の高い出土状況がみられた。

中央部遺構群（第7～10図）

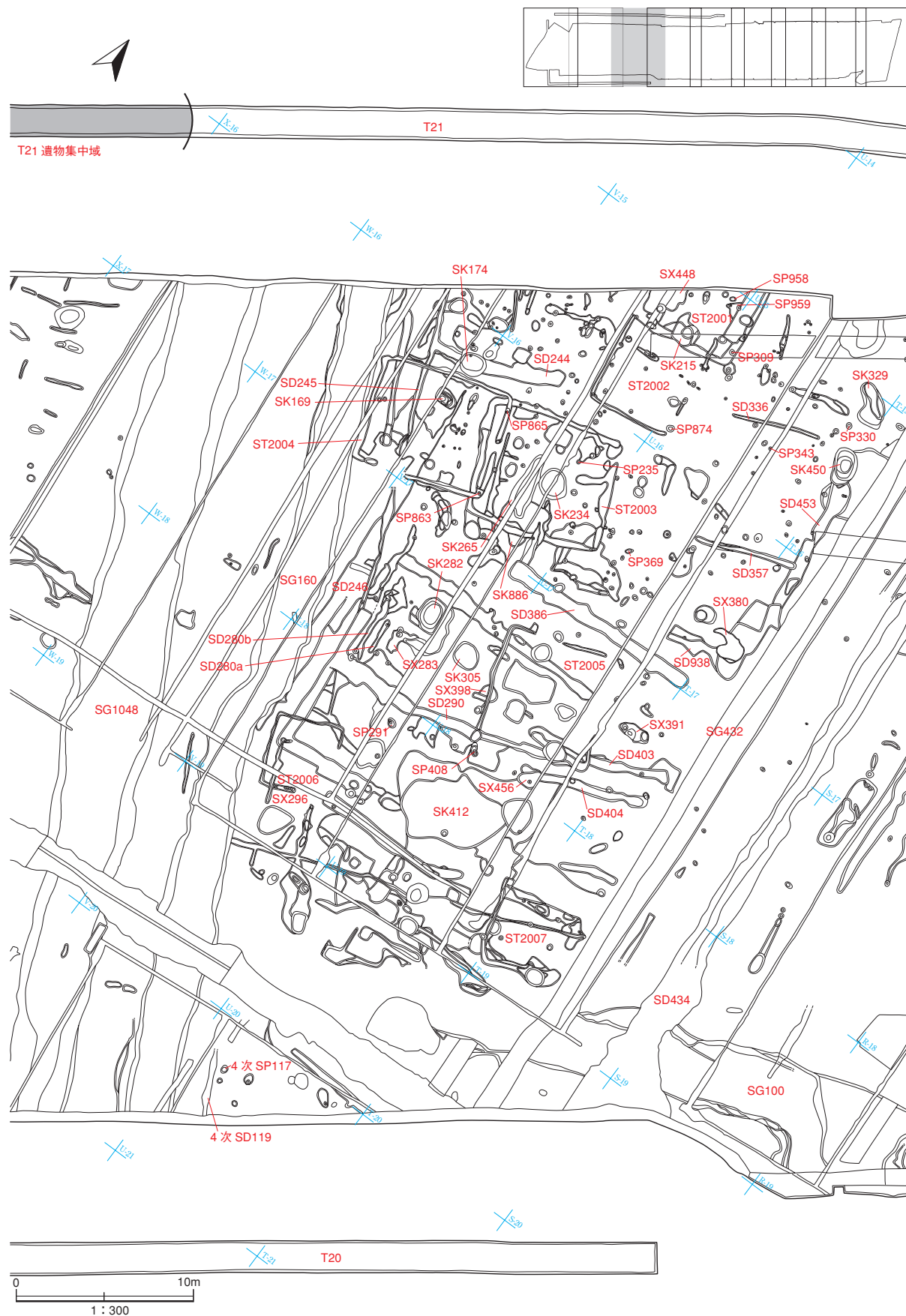
中央部遺構群は、南西部遺構群と北東部遺構群に挟まれた区域で、M～Q-10～16区で検出された、一辺40～50mの不整形の区画溝SD589と、その内外に分布する井戸跡、土坑、柱穴で構成される。遺構の分布はSD589溝跡の内側はやや密に分布するが、外側は散漫である。地山は砂であり、付近に比べてやや高燥なため、後世の削平をより深く受けている可能性がある。柱穴は径が小さく浅いものがほとんどであるが、一部は掘立柱建物跡や柱穴列として組み合わせが可能であった。各遺構から出土した遺物は少ない。これらは奈良・平安時代の集落跡および中世の居館跡と考えられる。そのほか第3次調査P～R-14～16区でSG1045河川跡（第7図）、第2次調査T12区および第4次調査L・L#-14・14#区でSG121河川跡（第9図）をそれぞれトレンチ調査によって検出した。



第4図 X～AD－19～26区遺構配置図



第5図 U~AB-17~25区遺構配置図



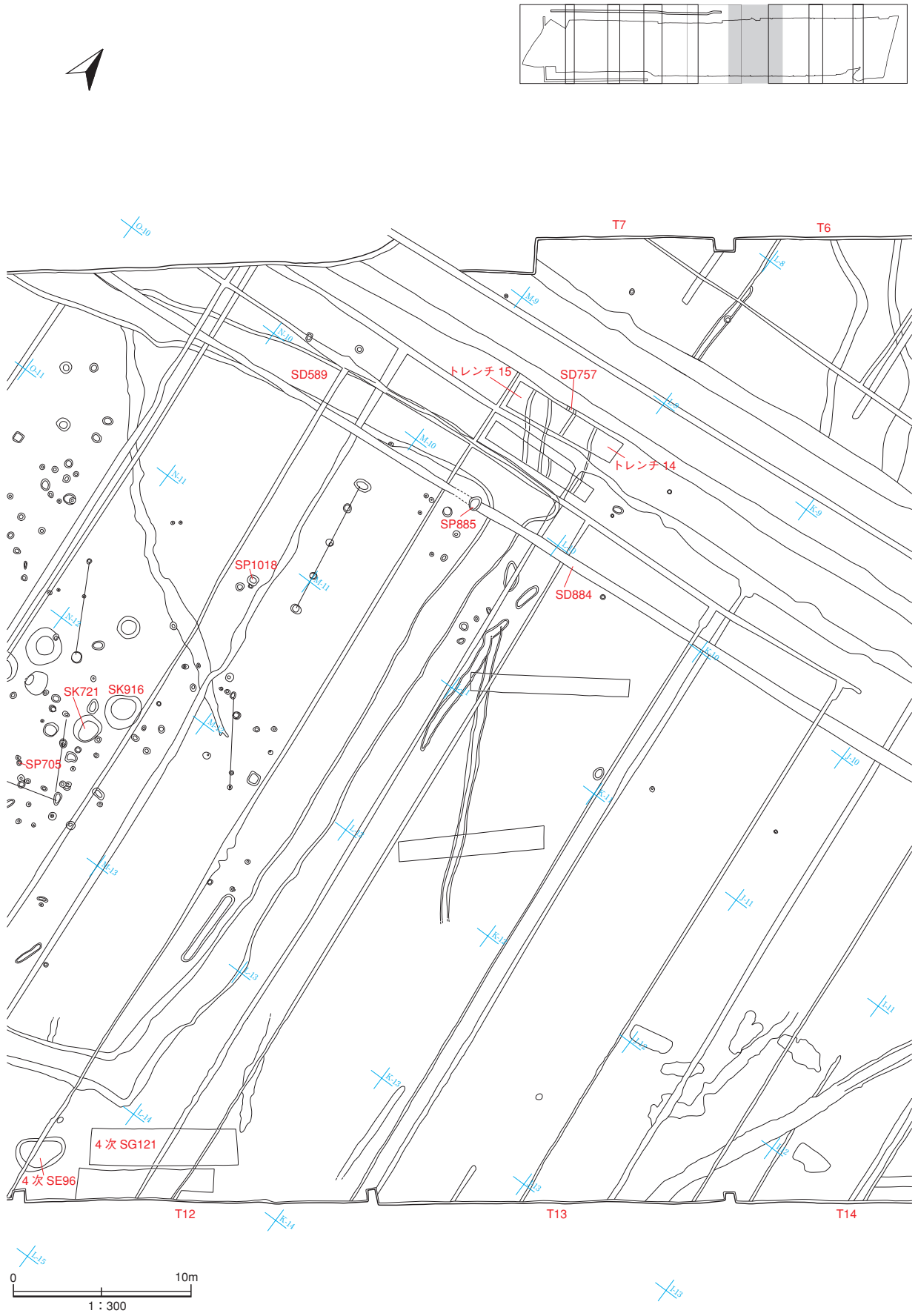
第6図 R~Y-14~22区遺構配置図



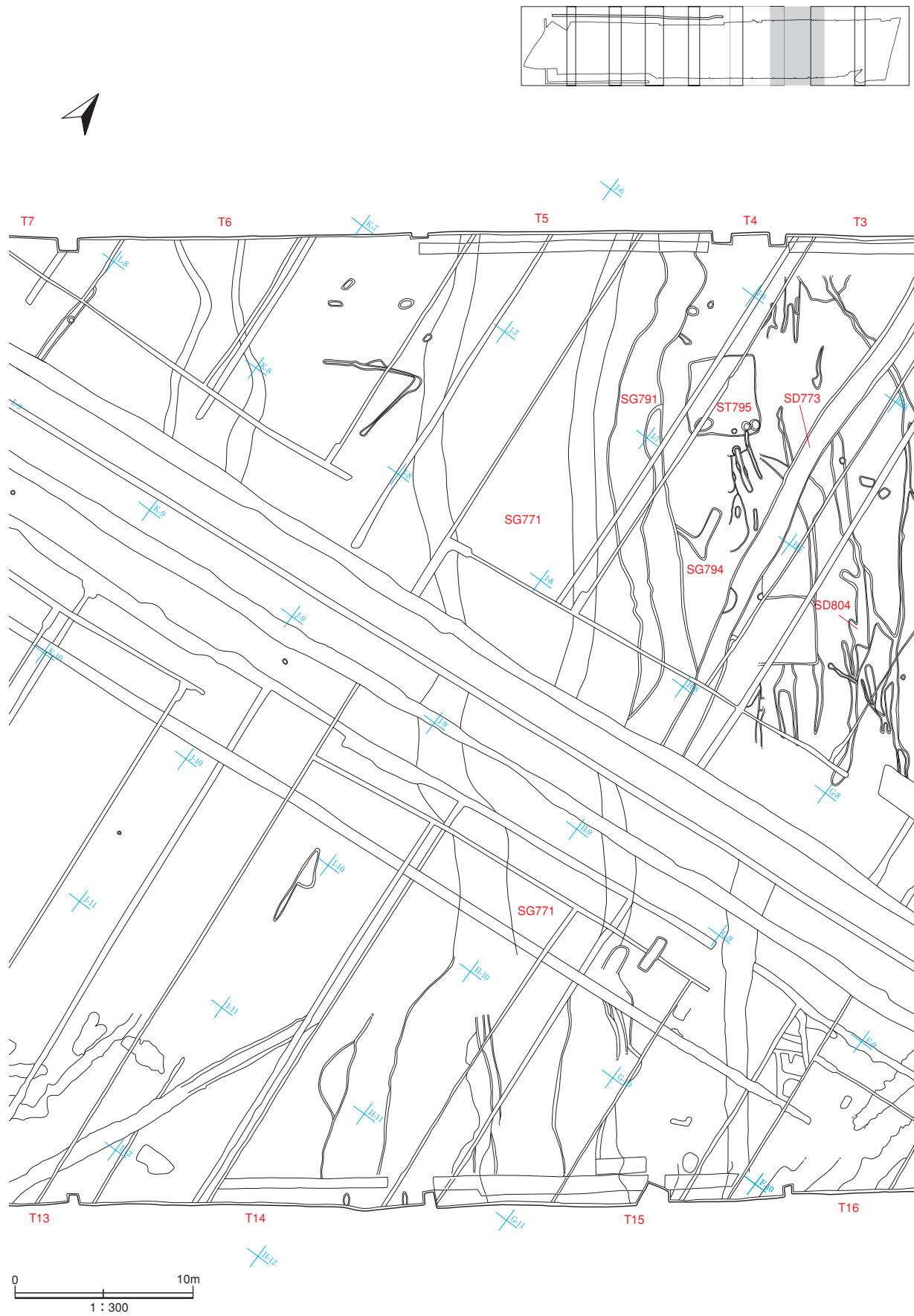
第7図 O~W-13~20区遺構配置図



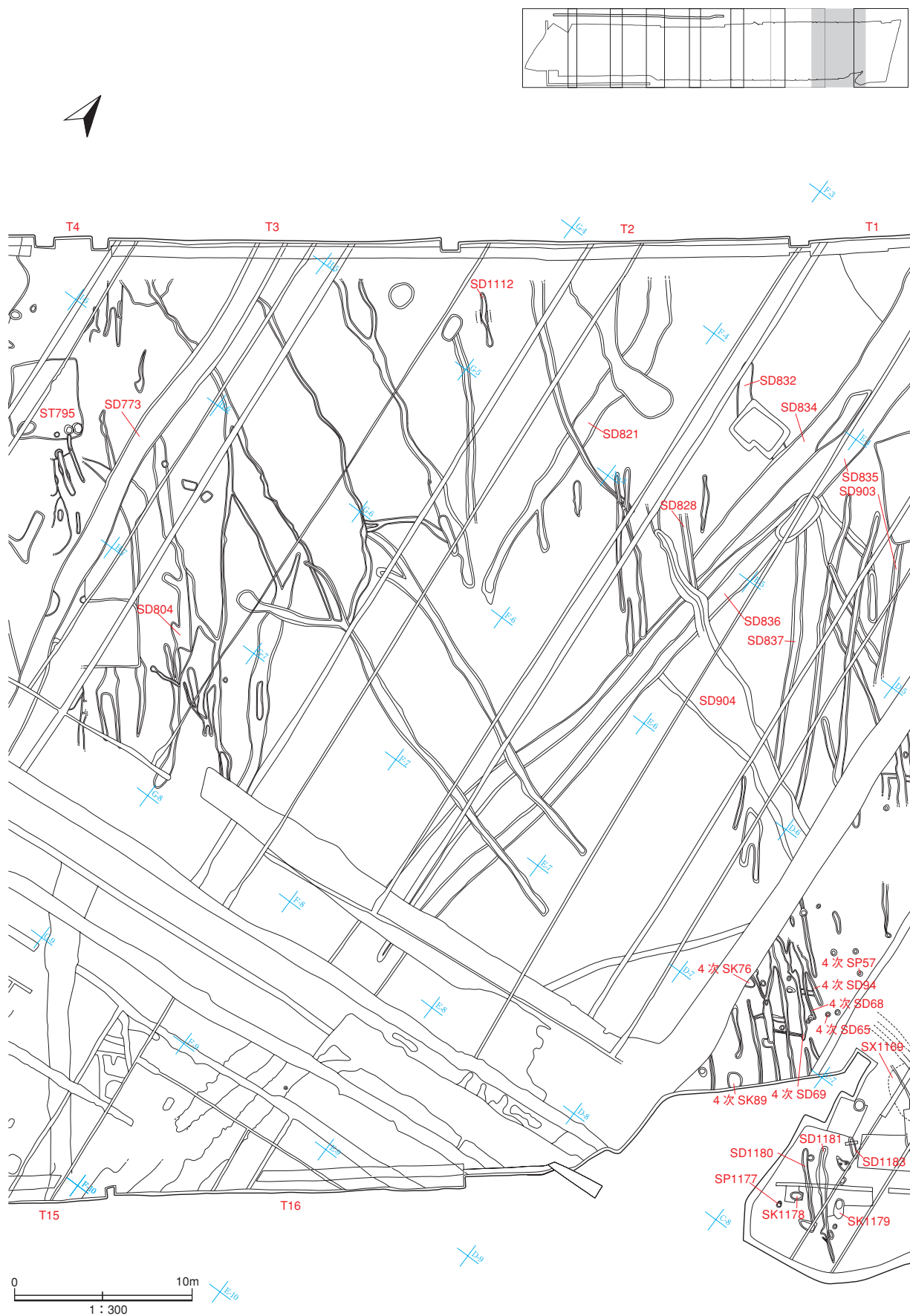
第8図 L~S-10~18区遺構配置図



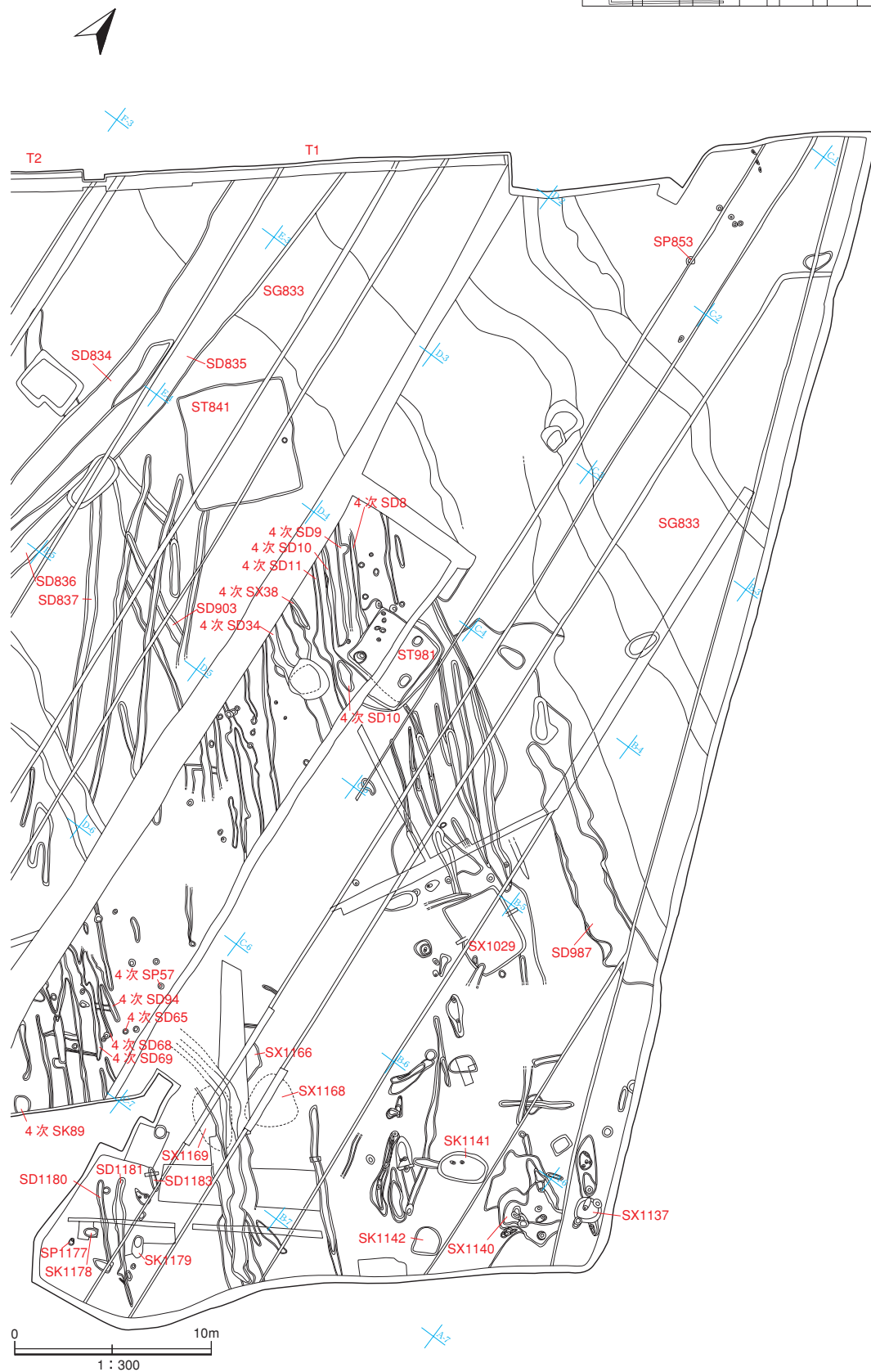
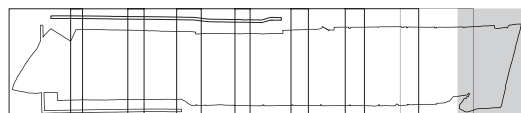
第9図 I～P-8～15区遺構配置図



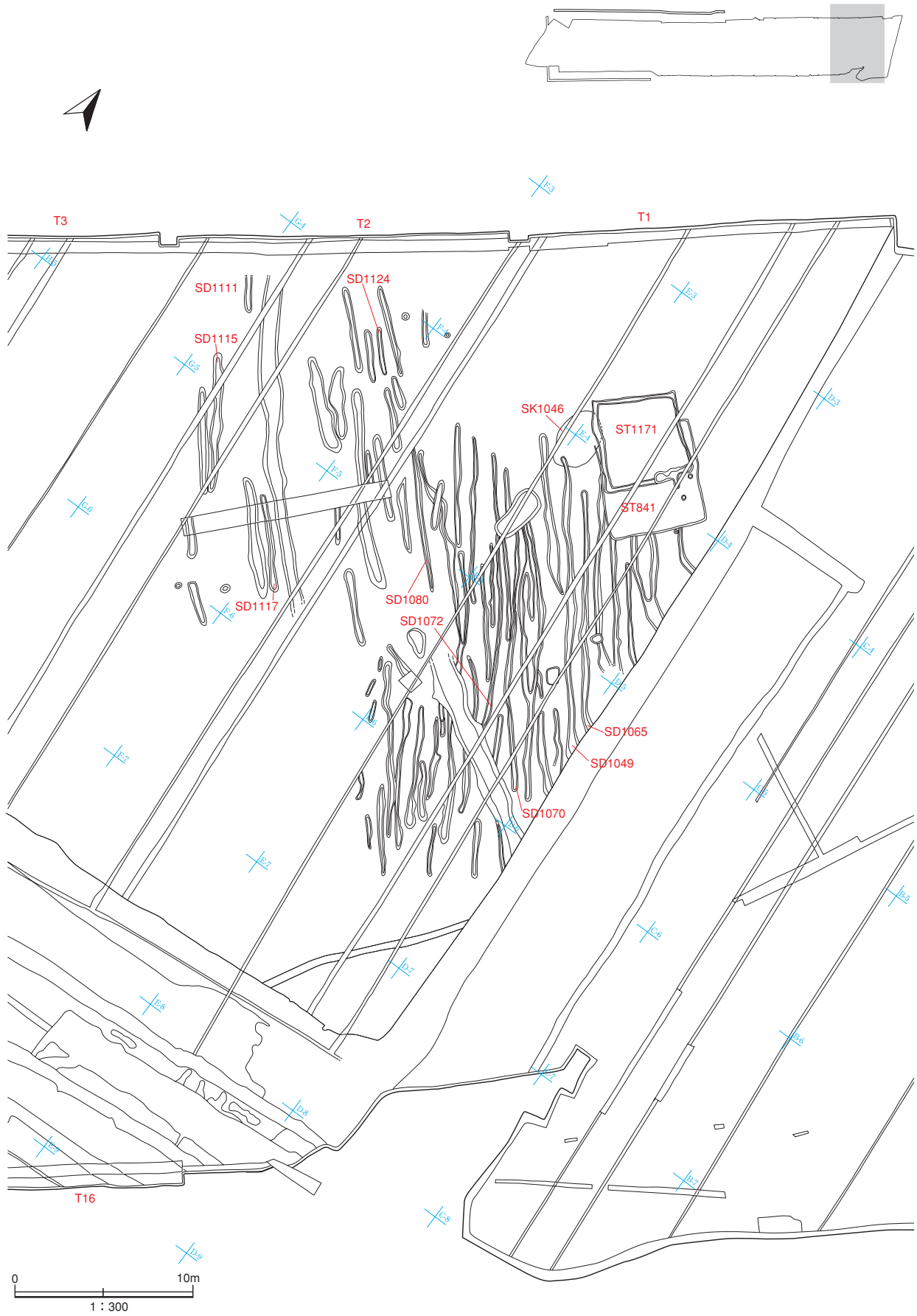
第10図 F～M-6～13区遺構配置図



第11図 C~J-3~11区遺構配置図



第12図 A~G-1~8区遺構配置図



第 13 図 D~G-4~7 区下面遺構配置図

IV 検出された遺構

1 遺物包含層

第2次調査において、T9区に設定したサブトレンチの掘り下げによって、通常の遺構検出面下約50cmで古墳時代中期末葉から後期初頭の土師器が出土し、文化層の存在を確認した。面的な広がりや性格は不明であったが、第3次調査でSG1045河川跡のトレンチ調査中に同様の時期の遺物が出土する層が検出されたため、トレンチを拡張し、遺物が出土する範囲の確認を行なった。

第4次調査では、前年の調査結果をもとにトレンチを設定して、遺物の出土状況を見ながら拡張した。その結果P～R-16～18区の範囲で遺物が集中し、さらに南の調査区外への広がりが想定された。

遺構の有無は不明瞭で、P-17区で焼土と炭化物の集中と、P#-17区で粘土の塊を検出したにとどまった。調査面積は900㎡である(第14図)。

A 遺物包含層の層序と遺物分布

第15図に遺物包含層の断面図を図示した。図中12層が遺物包含層である。

周辺の土層は、11層と12層に大きく分けられ、1～10層は攪乱や自然堆積層と考えられる。11層上面が遺構検出面となっており、約50cmの厚みを持つ11層の下に、遺物を包含する12層が確認された。11層は灰色シルト層で混入物が少なく、固くしまっており、明灰色シルトで炭化物等の混入がみられる12層とは明確に区別することができる。

遺物包含層である12層は、調査範囲にほぼ平坦に広がっていた。遺物が包含されるのは、主に12層の上面であり、12層を上面から20cm程度掘り下げると、遺物の出土が見られなくなる。

遺物はまとまった数量が出土した(第68～80図)。その分布は南北方向に広がり、西側では少なくなる。東側は比較的密に分布するが、隣接するSG1045河川跡に切られている。遺物の分布は南側に続いており、調査区外へ伸びているものと考えられる。

B 焼土・炭化物集中区域

P-17区の12層中において、東西3.15m、南北1mの範囲で焼土の広がりを確認した(第16図)。焼土は水平に堆積し、多量の炭化物と土器片を含む。厚さは約5cmでほぼ均一である。その西に隣接して土器が集中する地点がある。

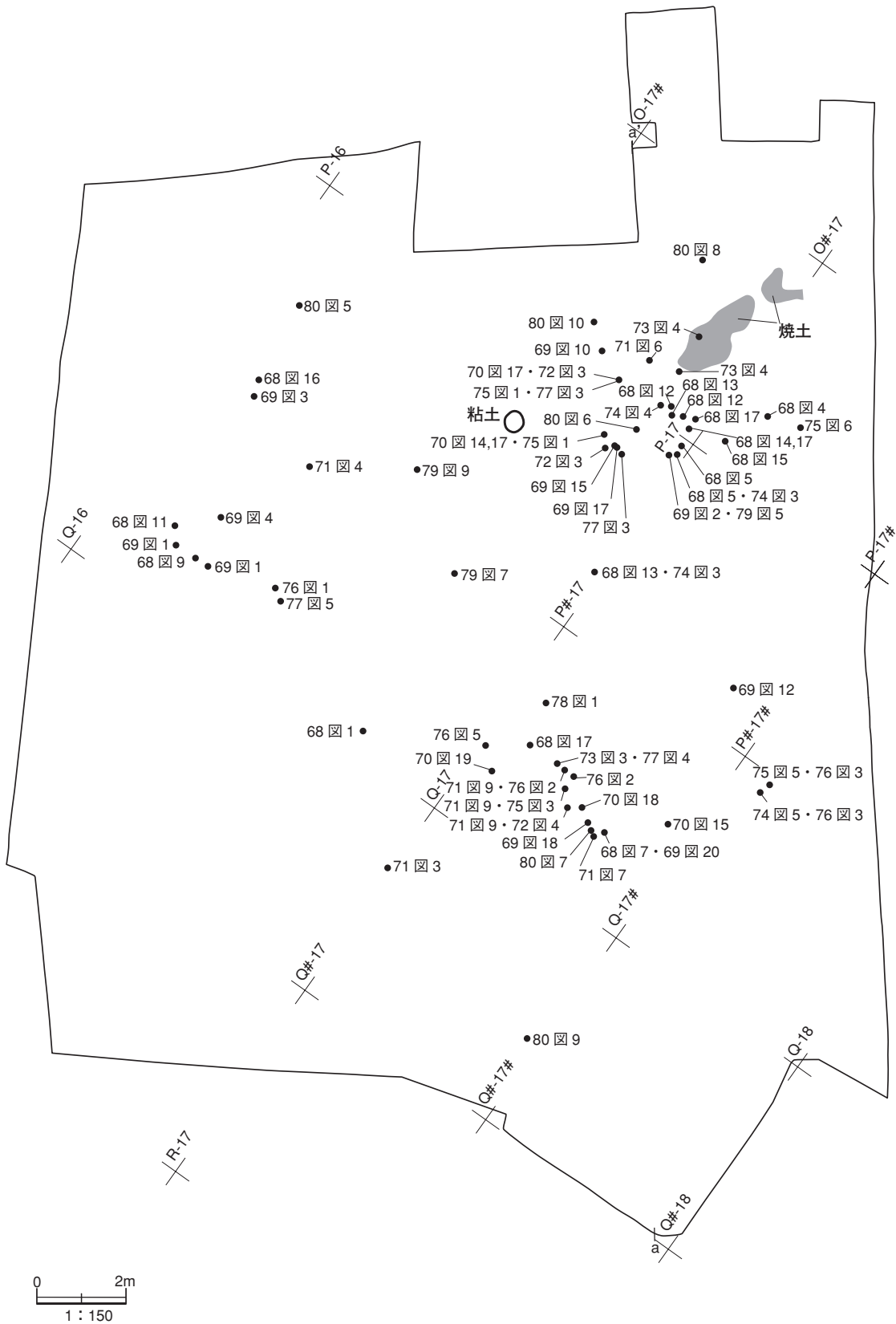
焼土・炭化物集中区域の中からは、焼土と炭化材、種子等が検出されたため、焼土サンプル3点(試料No.271～273)炭化材サンプル3点(試料No.31～33)、種実サンプル2点(試料No.36・37)を採取し、焼土については植物珪酸体分析を、炭化材、種子については年代測定および樹種同定・種実同定を行った(第VI章1・3・4・11参照)。

分析の結果、焼土は稲藁を燃焼材としたものである可能性が高いことが分かった。また、炭化材・種子の年代測定では、いずれも古墳時代が測定結果として示されており、これらの焼土炭化物は、遺物包含層から出土した遺物とほぼ同年代のものと考えられる。

C 粘土塊

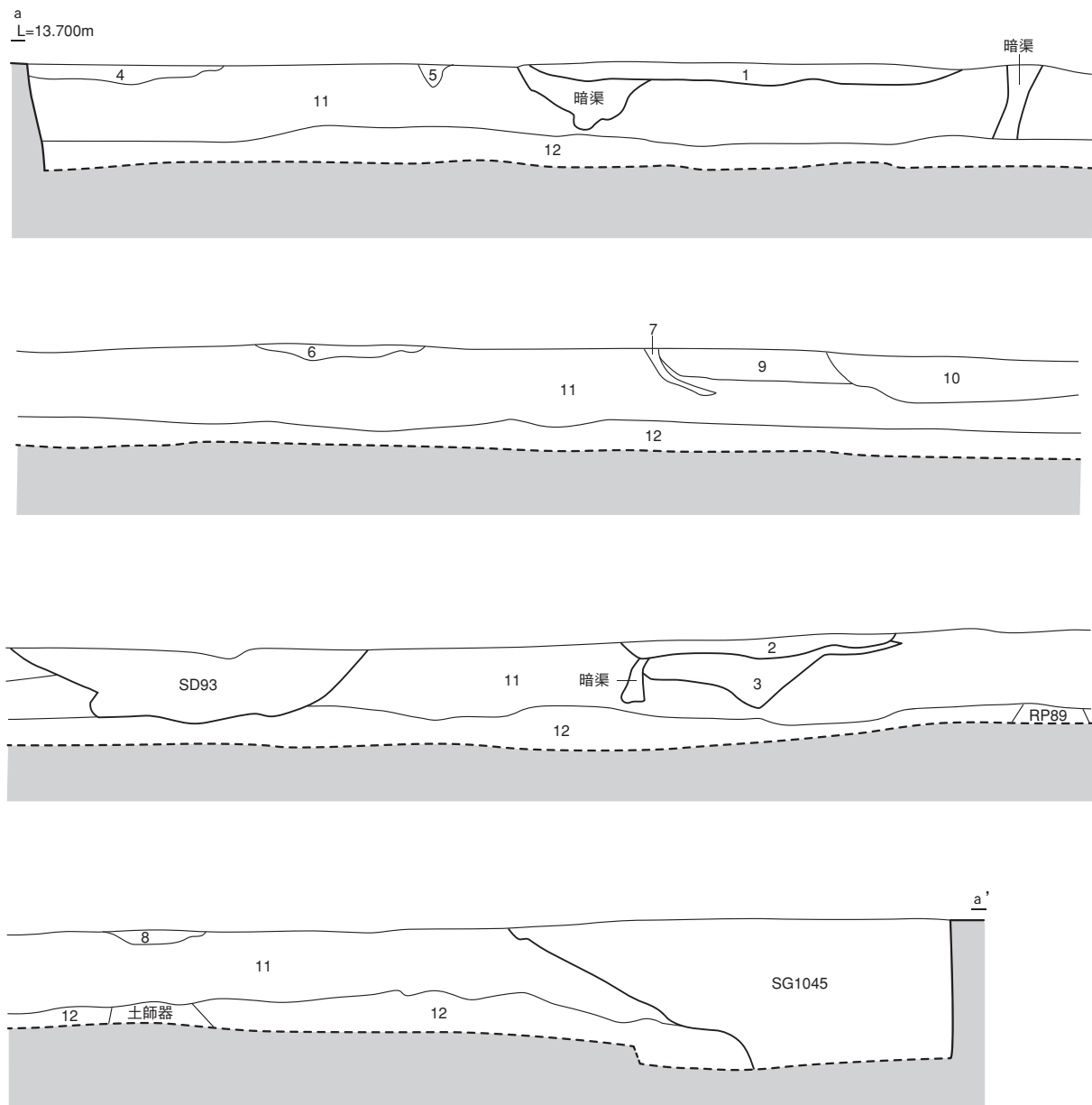
P#-17区内で粘土塊を検出した(第14図)。検出地点は、焼土炭化物集中区域や登録遺物の集中点に近い場所である。粘土塊は明るい灰色で、直径42cm、深さ約30cmの平面形が円形の土坑内に充填された状態で見つかった。遺跡内の他の遺構では同様の粘土は検出されておらず、周辺の堆積物中の粘土とも土質の異なるものであったため、サンプル(試料No.270)を採取し、蛍光X線分析、X線回折分析、植物珪酸体分析、珪藻化石群集の解析を行った(第VI章10・11・12参照)。

分析の結果、この粘土塊は遺跡付近で生成されたものとは考えにくく、珪藻化石が全く含まれないことから、河川などによって運ばれ、遺構内に堆積した可能性も低いことが分かった。これらのことから、この粘土塊は、土器の材料などの用途で、他所から人為的に持ち込まれた可能性が高いと考えられる。



第 14 図 遺物包含層平面図

IV 検出された遺構

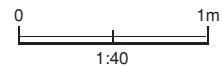


遺物包含層

- | | |
|------------------------|----------------------------------|
| 1. 10YR4/2 灰黄褐色粘土 | しまりよし、粘性弱、砂 10% 含む。 |
| 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 | しまり強い、粘性無し。 |
| 3. 5Y4/1 明灰色シルト | しまり強い、炭 1% 含む。5Y3/1 粘土塊を 30% 含む。 |
| 4. 2.5Y4/2 暗灰褐色粘土 | しまりよし、粘性弱、2.5Y4/6 細砂を 30% 含む。 |
| 5. 2.5Y5/1 黄灰色粘質シルト | しまりよし、粘性弱、炭 3% 含む。 |
| 6. 10YR4/2 灰黄褐色粘土 | しまりよし、粘性弱、砂 10% 含む。 |
| 7. 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト | しまりよし、粘性弱。 |
| 8. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 | しまり強い、粘性弱、炭 1% 含む。 |
| 9. 2.5Y5/3 黄褐色粘質シルト | しまり普通、粘性弱。 |
| 10. 2.5Y5/2 暗灰黄灰色粘質シルト | しまり普通、粘性普通。 |
| 11. 7.5Y4/1 灰色シルト | しまり強い。 |
| 12. 5Y4/1 明灰色シルト | しまり普通、粘性普通、炭 3% 含む。(遺物包含層) |

SD93

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 10YR3/2 黒褐色粘土 | しまりよし、粘性弱、炭 2% 含む。 |
|------------------|--------------------|



第 15 図 遺物包含層断面図

2 南西部遺構群

第2次・第3次調査で検出したT-15～20区のSG432河川跡以西の遺構および第4次調査でP～T-18～20区から検出したSG100河川跡の範囲を、南西部遺構群とした(第4～7図)。主体となる年代は、古墳時代6世紀後半である。遺構群内の主な遺構には、河川跡(SG100・160・1048)、堅穴住居跡(ST2001～2007)、溝跡、土坑などがある。遺構の堆積土は、炭化物や赤鉄化した植物痕の包含が見られない場合は、地山との区別が困難である。遺物は出土数量が多く、特にSG160やSG100などの河川跡にまとまって分布する。

T～W-15～20区は、集落域であったと考えられ、住居跡や溝跡、土坑が密に分布している。これらは昭和62(1987)年の第1次調査で検出されたものと一連の集落域である(第403図)。SG1048河川跡の西側では遺構の分布が疎らになるが、第2次調査のT21区では、古墳時代6世紀中葉から後半を中心とする遺物の集中域を検出し(第5・6図)、第3次調査でも遺構外で多くの遺物(第140～153図)が出土した。集落範囲はSG1048河川跡以西に広がる可能性が高い。

A 河川跡

南西部遺構群では、古墳時代の河川跡SG100・160・1048を検出した。この他にSG1・SG432河川跡を検出したが、これらは近・現代の用水跡である。

SG100 河川跡 (第16～19図)

第4次調査において、P～T-18～20区で検出された河川跡である。調査区の南端に沿って東西に走っており、幅約4m、遺構検出面からの深さは約30cmである。東側はQ-18区で調査区内に現れ、西側はT-20区で第3次調査の調査区内に向かって伸びるが、第3次調査では該当する河川跡は検出されなかった。

出土した遺物は6世紀中葉から後半を主体とする。R～R#-18#～19区を中心に、土師器の坏、高坏、甕など多数の遺物が出土している(第81～87図)。なお、出土した自然木の年代測定では、2世紀前半～4世紀前半の年代が示されている(第VI章1参照)。

SG160 河川跡 (第18・19図)

第3次調査において、集落域と隣接するV～W-17

～21区で検出された河川跡である。幅2～3.6m、遺構検出面からの深さは55～65cmで、調査区を南東から北西に横断し、V-19区付近でやや蛇行する。

堆積土は炭化物を含み、地山とは比較的明確に区別される。川床面付近で、炭化物、木片、遺物を多量に含む層が検出され、主に北西側を中心に、遺物群9～24を含む多量の遺物が出土した。それらは、6世紀中葉から後半を主体とするものである。土師器坏、高坏、甕、甑、須恵器坏、高坏、甕などの土器類(第88～122図)の他、カマドの支脚(第198図3・4・8)、石製模造品(第199図3)、板材(第202図1)が出土している。隣接する集落の遺物と時代的差異がないことから、集落域を貫いて流れる河川であったことが想定される。

SG1048 河川跡 (第20～22図)

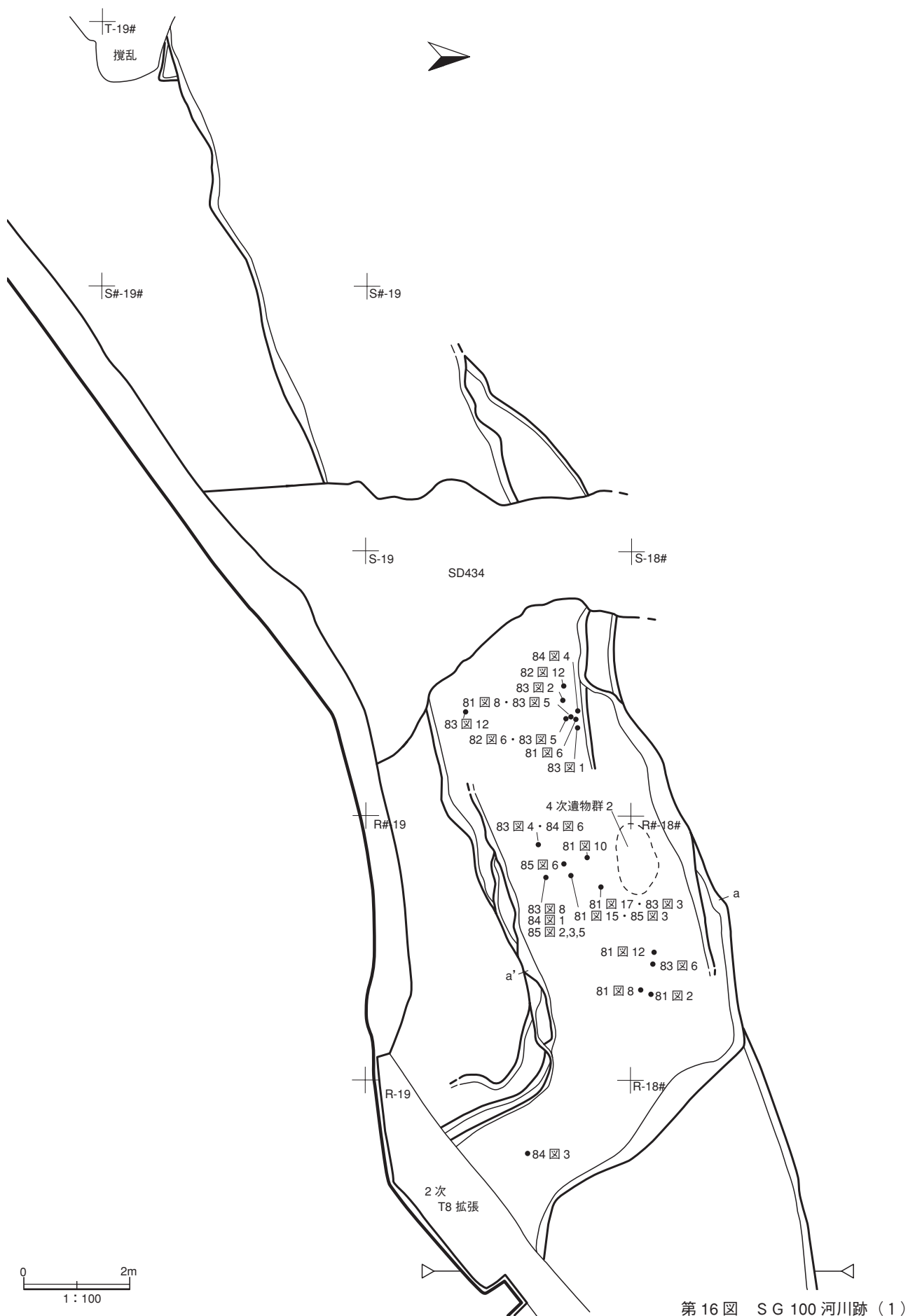
SG160河川跡とともに、第3次調査で検出した。SG160河川跡の南西10mに隣接し、平行して流れる河川跡である。V～X-17～21区で検出された。調査区内を南東から北西にほぼ真っ直ぐに横断する。

最大時の河川幅は3.7～5.2m、遺構検出面からの深さは約80cmであるが、その後埋没し、川幅が狭まったことが断面観察で確認された。終末期には、幅約2m、深さ約45cmまで規模が縮小したとみられる。

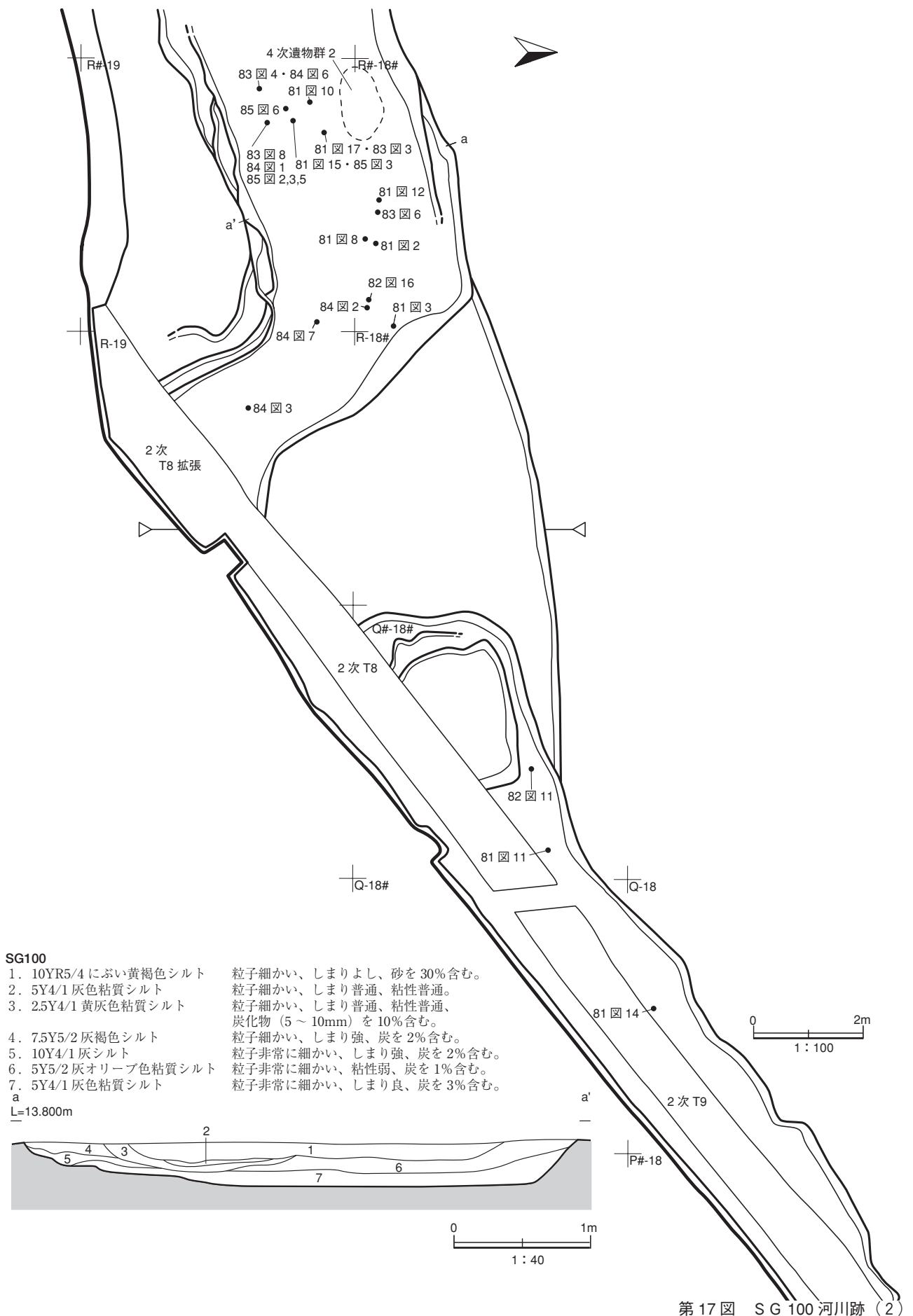
出土した土器は土師器坏、高坏、甕、甑などで、6世紀中葉から後半を主体とするものである(第123～126図)。遺物は多くが最大時の川床面に近い最下層の13層に包含される。13層からは、土器のほかに、土製紡錘車(第198図17)、木製品(第207図)も出土した。川幅の狭まった時期の上層からは奈良・平安時代の須恵器坏が出土している(第126図9～11)。また、検出面から約30cmの7層からも、土器片など遺物の出土が見られ、川幅の広い時期にも、流路や川底の高さに変化があったことが窺われる。

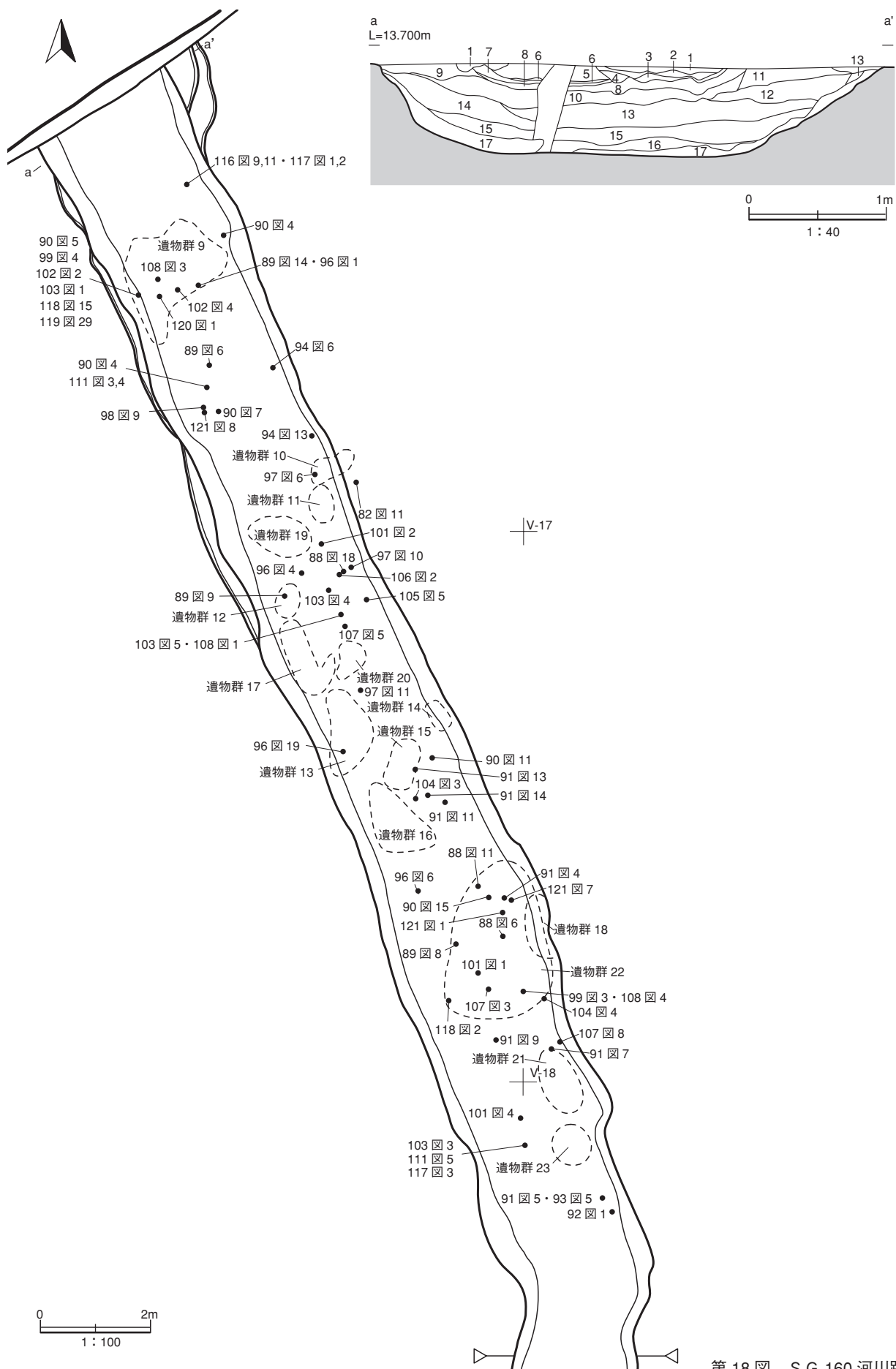
SG1・SG432 河川跡 (第4～7図)

SG1河川跡はSG1048河川跡以西では唯一明確な遺構である。W～AC-21～23区内で検出された。大きく蛇行する河川跡である。出土した遺物は多岐にわたる(第138・139・198～201・207図)。SG432河川跡はT-15～20区内で検出された。南北に調査区を横断する河川跡である。いずれも出土遺物等から、近世～現代の用排水路跡と考えられる。

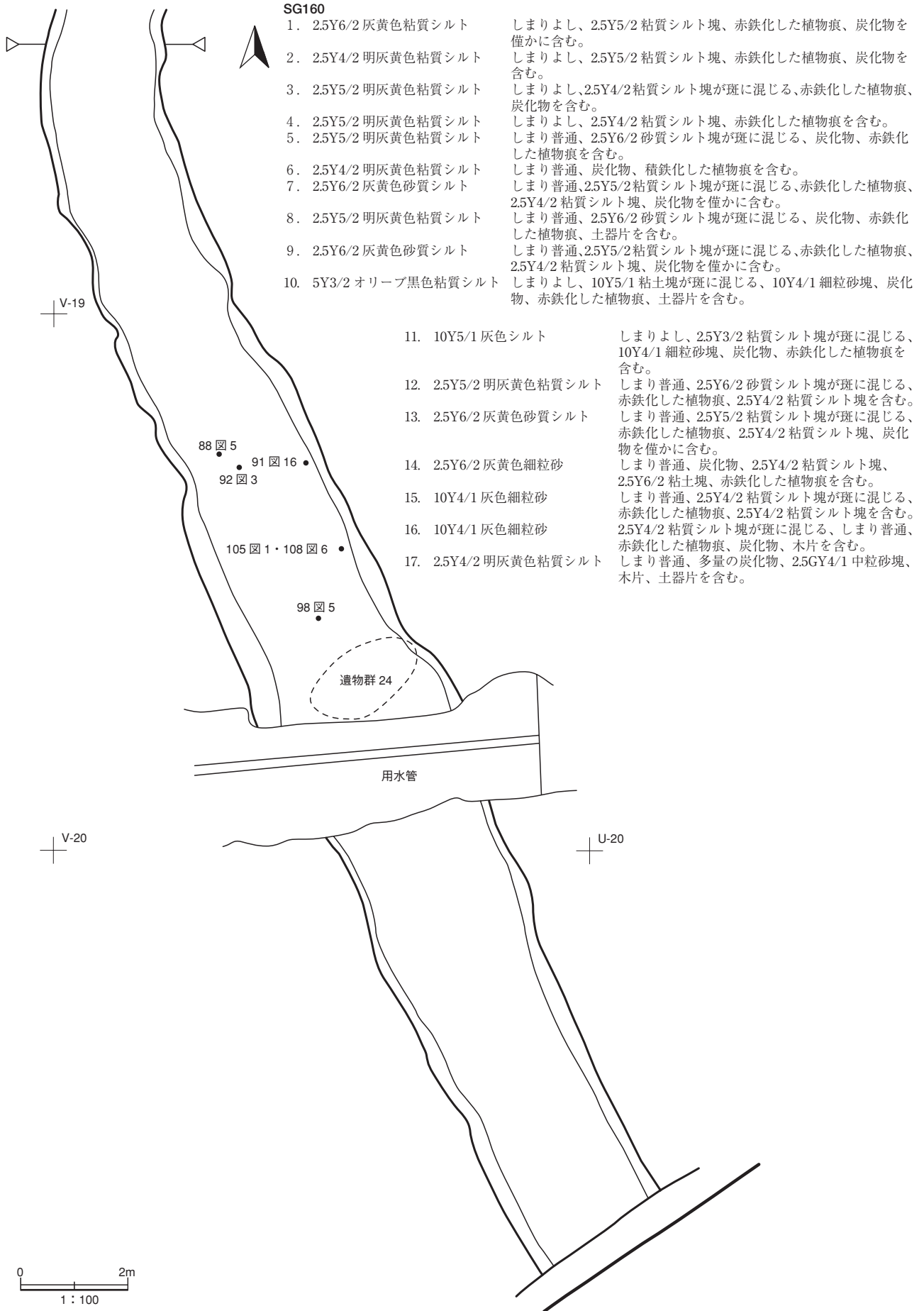


第 16 図 S G 100 河川跡 (1)

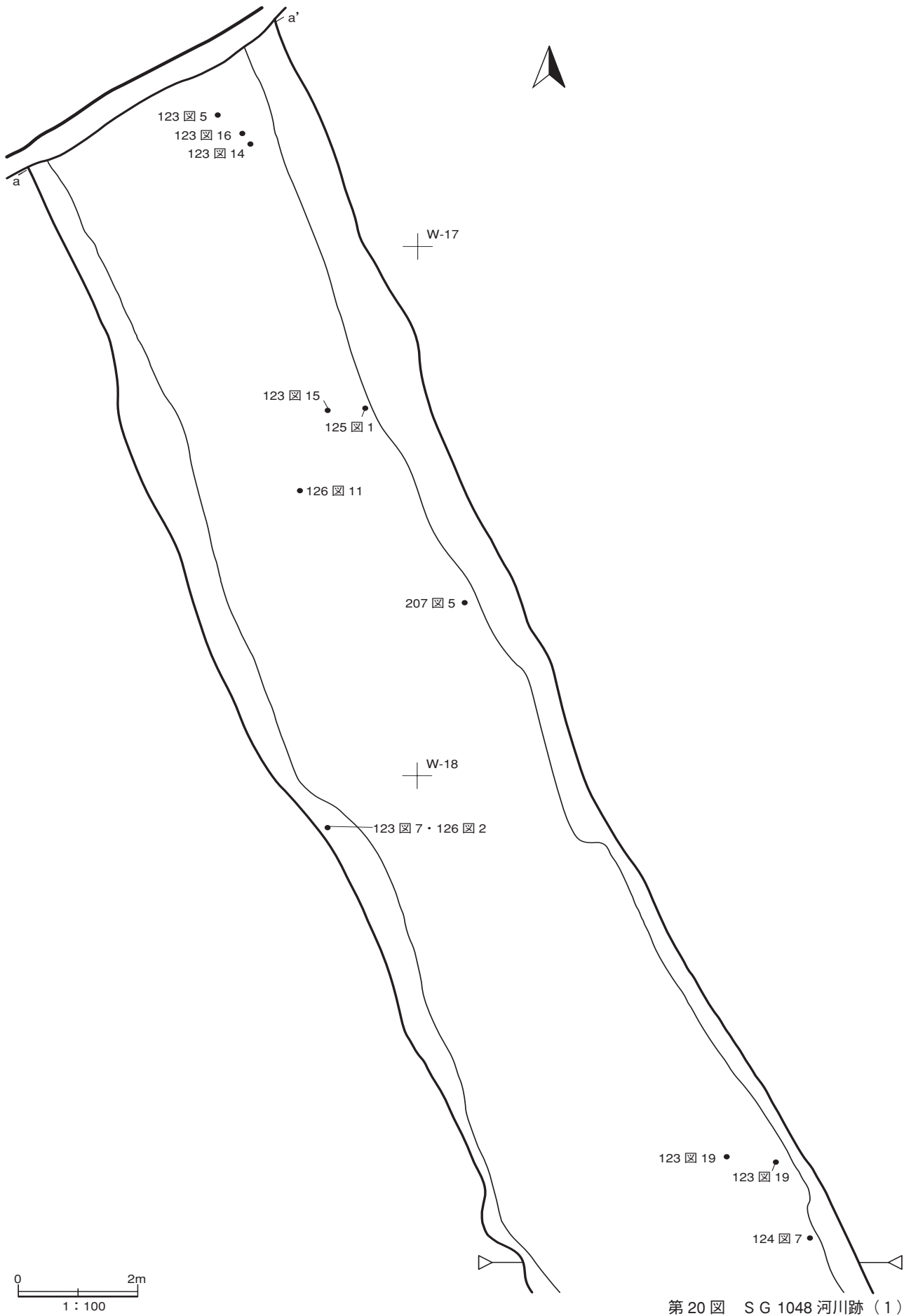




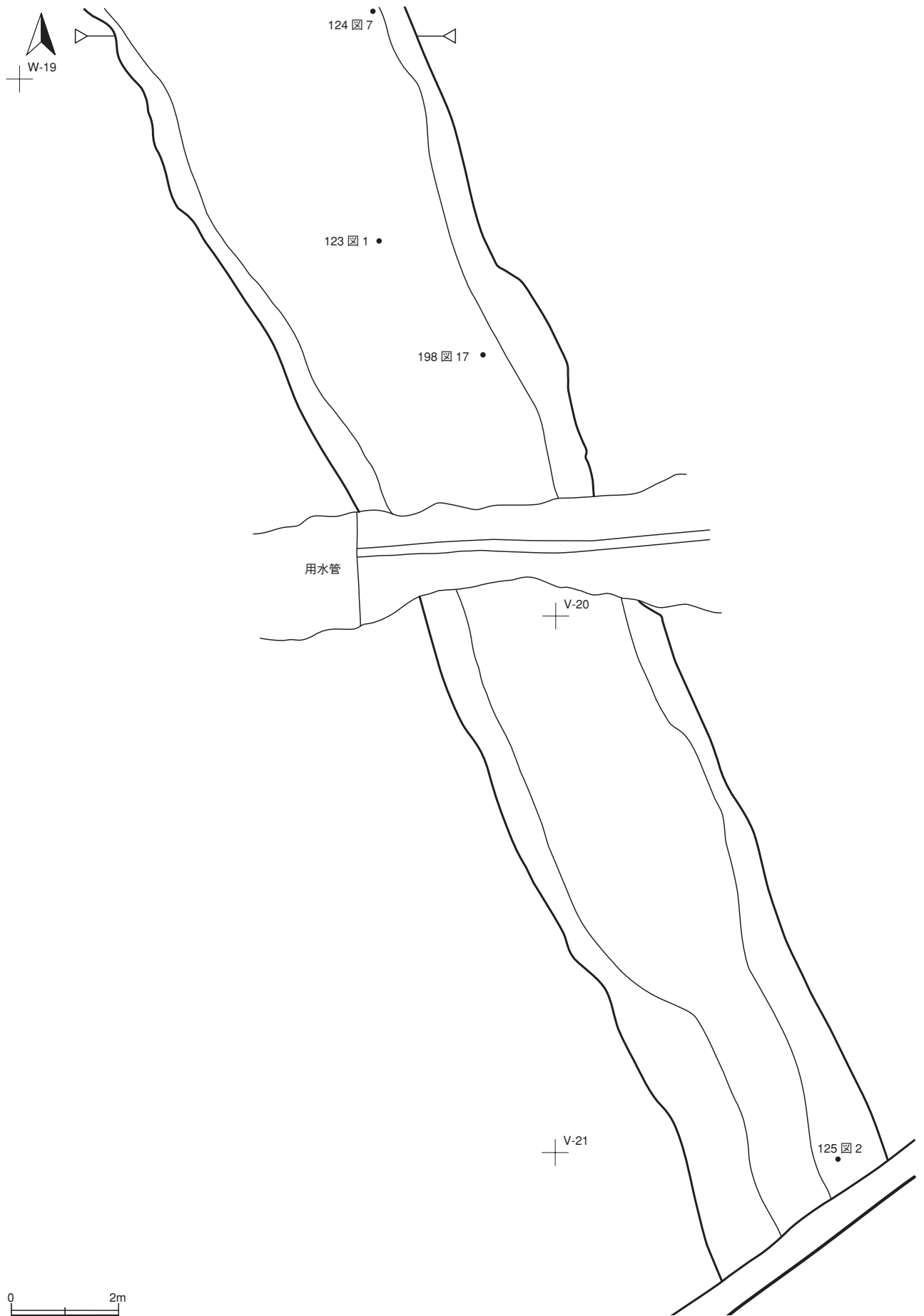
第 18 図 SG 160 河川跡 (1)



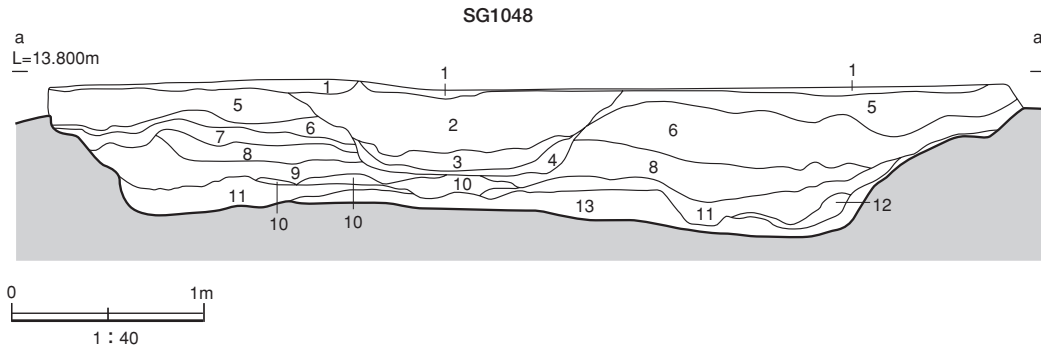
第19図 SG 160 河川跡 (2)



第20図 S G 1048 河川跡 (1)



第 21 図 S G 1048 河川跡 (2)



SG1048

- | | |
|---|---|
| <p>1. 2.5Y6/2 灰黄色粘質シルト</p> <p>2. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト</p> <p>3. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト</p> <p>4. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト</p> <p>5. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト</p> <p>6. 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト</p> <p>7. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト</p> <p>8. 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト</p> <p>9. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質シルト</p> <p>10. 10Y5/1 灰色シルト</p> <p>11. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト</p> <p>12. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト</p> <p>13. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト</p> | <p>しまりよし、2.5Y5/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、炭化物を僅かに含む。</p> <p>しまりよし、2.5Y5/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。</p> <p>しまりよし、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。</p> <p>しまりよし、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y6/2 砂質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y5/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物を僅かに含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y6/2 砂質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕、土器片を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y5/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物を僅かに含む。</p> <p>しまりよし、10Y5/1 粘土塊が斑に混じる、10Y4/1 細粒砂塊、炭化物、赤鉄化した植物痕、土器片を含む。</p> <p>しまりよし、2.5Y3/2 粘質シルト塊が斑に混じる、10Y4/1 細粒砂塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y6/2 砂質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。</p> <p>しまり普通、炭化物、積鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、多量の炭化物、2.5GY4/1 中粒砂塊、木片、土器片を含む。</p> |
|---|---|

B 竪穴住居跡

竪穴住居跡と考えられる遺構は、ST2001～2007の7棟を検出した。いずれも第3次調査において検出されたもので、集落域と考えられるT～W-15～20区で集中して見つかった。

T～W-15～20区付近は微高地のため、後世の削平を受けており遺構の状態は良好とはいえず、各竪穴住居跡も殆どが周溝のみの検出である。そのため、当初は溝跡として登録し、その後、周辺状況などから竪穴住居跡の可能性が高いものに新たに記号番号を付し、竪穴住居跡として再登録した。

S T 2001 竪穴住居跡 (第23図)

U・V-15～16区内で検出した。出土遺物から、古墳時代後期の竪穴住居跡と推定される。ほぼ南北に主軸方向をそろえ、方形の平面形をもった竪穴住居跡である。北側約半分は、調査区外となる。規模は、東西6.5m、南北5m以上である。堆積土は炭化物や土器片を含むため比較的容易に地山と区別することができた。

後世の削平の影響を受けているとみられ、遺構の遺存状態は悪い。周溝と柱穴のみを検出した。周溝は幅35～60cm、遺構検出面からの深さは約20cmである。当初、SD308溝跡として登録した。SP870・872柱穴は、ST2001竪穴住居跡に伴う主柱穴と考えられる。SP870柱穴は、直径約26cm、検出面からの深さは約25cmで、堆積土には土器片が含まれる。柱痕は検出されなかった。SP872柱穴は、直径約24cm、検出面からの深さは約15cmで、堆積土には土器片が含まれる。柱痕は検出されなかった。明確な床面等は検出されなかったが、掘り方の一部と考えられる落ち込みが検出された。

出土した遺物は、土師器の坏、甕などで、周溝や周溝内の柱穴SP309の堆積土中から出土した(第127図)。いずれも6世紀中葉から後半の時期を主体とするものと考えられる。

S T 2002 竪穴住居跡 (第24図)

U・V-16区内で検出した。出土遺物等から古墳時代後期の竪穴住居跡と考えられる。ほぼ南北に軸をそろえ、南北方向にやや長い方形の平面形をもった竪穴住居跡である。ST2001竪穴住居跡との重複関係からST2001竪穴住居跡よりもやや新しい遺構であると推定

される。

遺構の遺存状態は悪く、周溝のみが検出された。北辺は検出されず、東辺は断続的である。いずれも後世の削平の影響を受けていると見られる。規模は東西約5m、南北は北辺が検出されなかったが、約6.5mと推定される。堆積土は地山との差異が少ないが、炭化物を含んでおり区別される。周溝は幅15～25cmで、当初はSD222溝跡として登録した。周溝の内側で5基の柱穴を検出したが、本竪穴住居跡を構成する遺構因子としては確定できなかった。

出土遺物は、周溝から土師器の坏、甕が出土している(第127図)。いずれも6世紀中葉から後半期のものと考えられる。また、SP874柱穴からは柱根が出土し(第202図2・3)、樹種同定と放射性炭素年代測定を行った(試料No.50)。その結果、樹種は重硬で強度の高いコナラ属コナラ亜属コナラ節の樹木、年代は8世紀中頃～9世紀後半の年代が示されたことから、本竪穴住居跡に伴う柱穴の可能性は低い(第VI章1・2参照)。

S T 2003 竪穴住居跡 (第25・26図)

U・V-17区内で検出した。出土遺物から、古墳時代後期の竪穴住居跡と推定される。主軸方向はST2001・2002竪穴住居跡と比べて、やや西に傾く。南西から北東方向にやや長い方形の平面形をもつ竪穴住居跡である。明確に検出されたのは周溝のみで、床面は検出されなかったが、掘り方の一部とみられる落ち込みが検出された。ST2004竪穴住居跡との重複が見られ、重複関係からST2004竪穴住居跡よりやや古い遺構であると推定される。

規模は北西-南東7.3m、南西-北東8mである。堆積土は地山との差異が少ないが、炭化物を含み、地山と区別される。検出された周溝は幅30～70cm、遺構検出面からの深さは10～25cmである。当初はSD228・230・238溝跡として登録した。周溝の内側には本竪穴住居跡に係わる可能性のある遺構が多数検出されたが、確実に遺構因子となるものは特定できなかった。

遺物は、遺物群5をはじめ比較的まとまった量が出土した。それらは主に周溝および周溝の内側の遺構から出土しており、土師器の坏、甕などがある(第127～129図)。出土遺物の所属時期は、6世紀中葉から後半を主体とするものと考えられる。

ST 2004 竪穴住居跡（第 27 図）

V・W-17 区内で検出した。ST2003 竪穴住居跡と重複する竪穴住居跡である。出土遺物などから古墳時代後期の遺構と考えられ、重複関係から ST2003 竪穴住居跡よりもやや新しい遺構であると推定される。南西-北東方向にやや長い方形の平面形をもち、主軸方向は ST2003 竪穴住居跡とほぼ同方向である。規模は、北西-南東 6.6m、南西-北東 7.8m である。堆積土は炭化物や土器片を含み、地山と区別される。

遺構の遺存状態は悪く、周溝のみが検出された。床面は検出されなかった。周溝は幅 20～40 cm、深さは約 26 cm である。当初 SD243・898 溝跡として登録した。北東辺の周溝は、中央部が約 50 cm 開いており、出入口等が存在したことが推定される。ほぼ同様の遺構が昭和 62 年度に行われた第 1 次調査でも検出されている。周溝内部では土坑、柱穴などの遺構が検出されているが、住居跡に明確に伴うものは確認されていない。

遺物は、周溝内から 6 世紀中葉から後半の土師器の坏、高坏、甕（第 129 図）の他、カマドの支脚（第 198 図 1）が出土した。また、周溝内で検出された柱穴 SP863 からは柱根が出土した（第 203 図 1）。この柱根について放射性炭素年代測定および樹種同定を実施した。その結果、樹種はクリ材が使われ、年代としては 4 世紀前半～5 世紀中頃が示されている（第 VI 章 1・2 参照）。

ST 2005 竪穴住居跡（第 28・29 図）

U-18 区内で検出した。後世の削平の影響を受けているとみられ、遺構の遺存状態は悪い。出土遺物等から古墳時代後期の竪穴住居跡と考えられる。周溝のみの検出で、南東側の辺は SD290 溝跡と重複している。重複の新旧関係は、堆積土の差が不明確であり確定できなかった。主軸方向は ST2003・2004 竪穴住居跡とほぼ同方向である。北西辺、北東辺は断続的な検出にとどまるが、正方形に近い平面形の竪穴住居跡と考えられる。規模は北西-南東 6.8m、南西-北東 6.5m と推定される。

検出された周溝は、幅 20～30 cm で、当初は SD383・385・395・402・403 溝跡として登録した。周溝内部では広範囲の落ち込みなどが検出されており、掘り方など住居跡に関係する遺構の可能性はある。主柱穴、床面など、ST2005 竪穴住居跡の構成因子となる遺構は検出されなかった。

遺物は、周溝内から 6 世紀中葉から後半期の土師器坏、高坏、甕の各器種（第 129 図）、土製小玉（第 198 図 11）、石製模造品（第 199 図 2）が出土している。

ST 2006 竪穴住居跡（第 30 図）

V-19 区内で検出した。遺構の遺存状態は悪く、周溝のみの検出である。遺物は出土していない。周囲の状況等から、古墳時代後期の竪穴住居跡と考えられる。主軸方向は、ST2003・2004・2005 各竪穴住居跡とほぼ同方向で、正方形に近い平面形をもつ。床面、主柱穴等は検出されなかった。規模は、北西-南東 4 m、南西-北東 4.3m である。

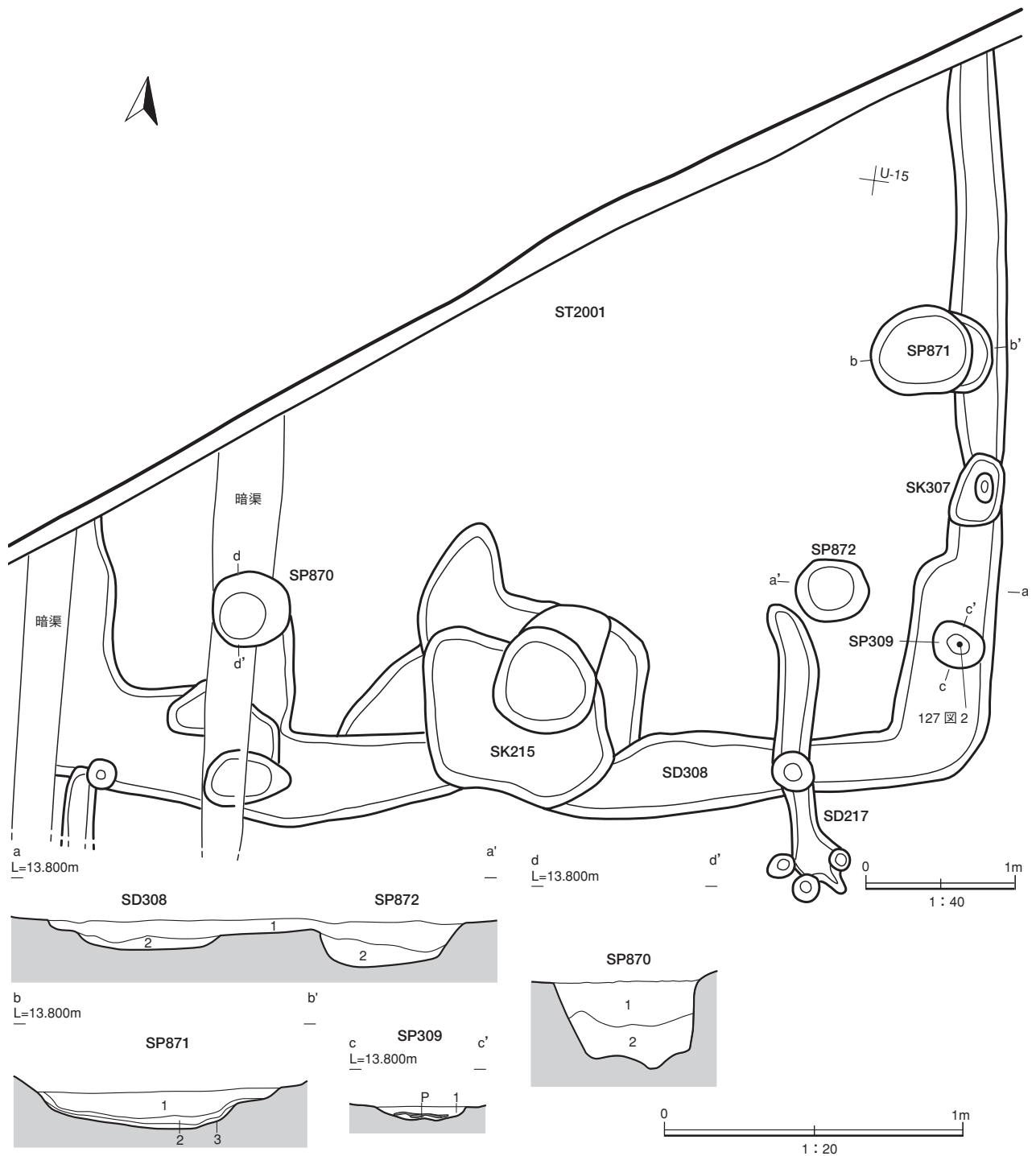
後世の削平の影響を受けているとみられ、周溝の南東角は検出されなかった。周溝の幅は 15～30 cm である。当初は SD293 溝跡として登録した。SD295 溝跡と重複する。重複関係から、SD295 溝跡よりもやや古い遺構と考えられる。なお、SD295 溝跡は、軸線が本竪穴住居跡の南西辺と揃い、幅も 15～30 cm とほぼ同じであることから、削平などで失われた竪穴住居跡の周溝の一部である可能性がある。

ST 2007 竪穴住居跡（第 31 図）

T～U-19 区内で検出した。遺構の遺存状態は悪く、遺物は出土していない。周囲の状況から、古墳時代後期の竪穴住居跡である可能性が高いと考えられる。後世の削平や攪乱、他の遺構との重複等があり、検出は困難であった。主軸方向は、ST2003・2004・2005・2006 各竪穴住居跡とほぼ同方向で、正方形に近い平面形をもつ。

周溝は北西から南西にかけて部分的に検出された。床面は検出されなかった。規模は北西-南東、南西-北東とも、5 m 程度と推定される。周溝は幅 20～40 cm で、当初 SD936 溝跡として登録した。周溝内では、本竪穴住居跡に伴う可能性のある柱穴が 5 基検出された。このうち SP438 を図化した。本柱穴は、土層断面から柱痕の存在が確認された。直径約 35 cm、遺構検出面からの深さ約 35 cm である。

なお、重複する SD926 溝跡は、本竪穴住居跡の南西辺に直交し、本竪穴住居跡の周溝に切られる。幅 15～35 cm、遺構検出面からの深さ約 28 cm と、検出された他の竪穴住居跡住居跡の周溝に類似することから、削平などで失われた ST2007 よりやや古い竪穴住居跡の周溝の一部である可能性がある。



SD308・SP872

- 1. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト しまりよし、2.5Y6/2 中粒砂塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、土器片、赤鉄化した植物痕を含む。
- 2. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト しまりよし、2.5GY4/1 細粒砂塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y6/2 砂塊を僅かに含む。

SP871

- 1. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト しまりよし、2.5Y6/2 砂、10Y5/1 砂を塊状に、赤鉄化した植物痕、炭化物、黄灰色泥炭を層状に下部に含む。
- 2. 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト しまりよし、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。泥炭層。
- 3. 10Y5/1 灰色砂 しまり悪い、2.5GY5/1 砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。

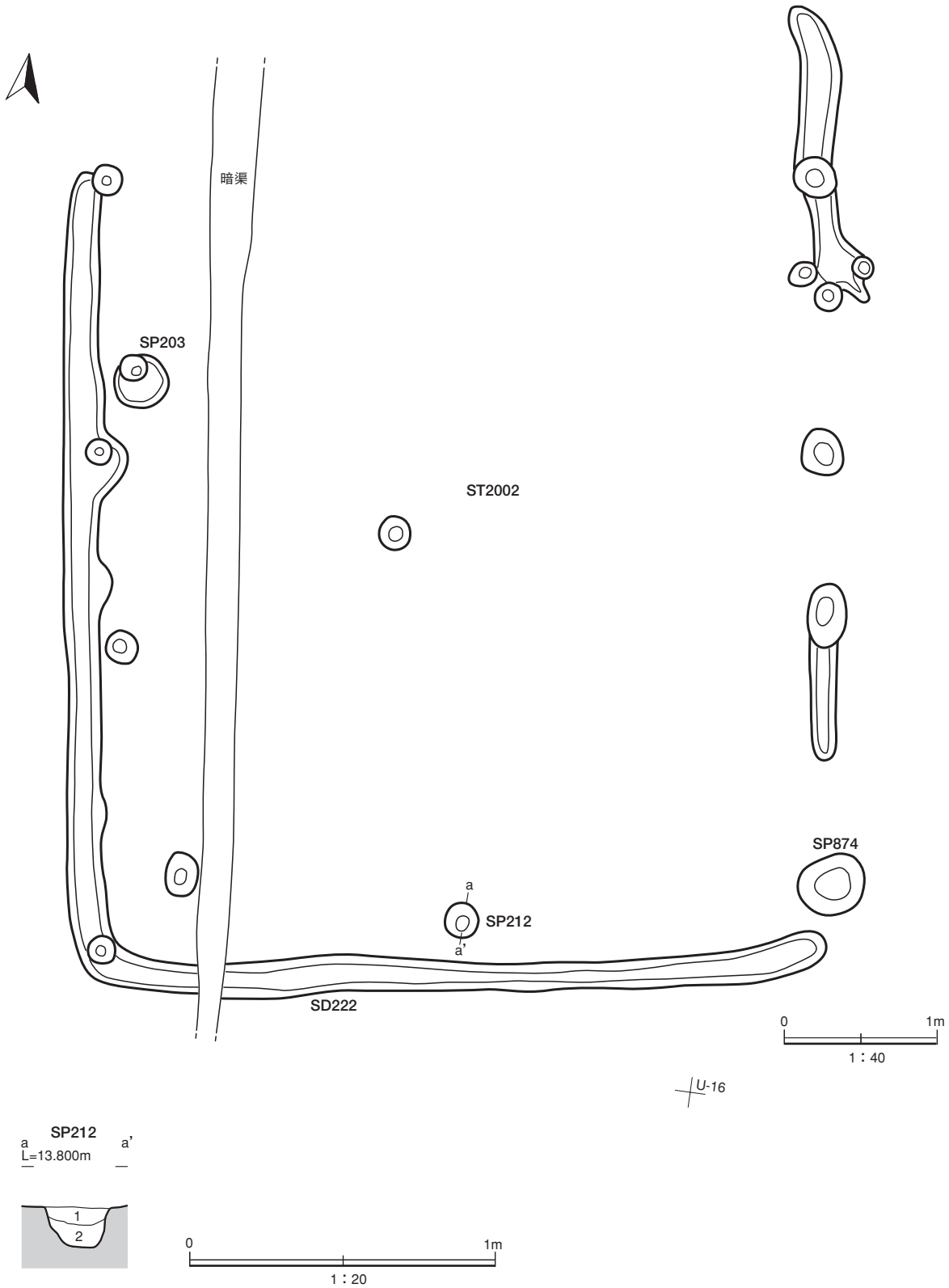
SP309

- 1. 10Y4/2 オリーブ灰色シルト しまりよし、炭化物を多く、2.5Y6/2 砂塊、10YR3/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、土器片を含む。

SP870

- 1. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト しまりよし、2.5Y6/2 中粒砂塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、土器片、赤鉄化した植物痕を含む。
- 2. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト しまりよし、2.5GY4/1 細粒砂塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y6/2 砂塊を僅かに含む。

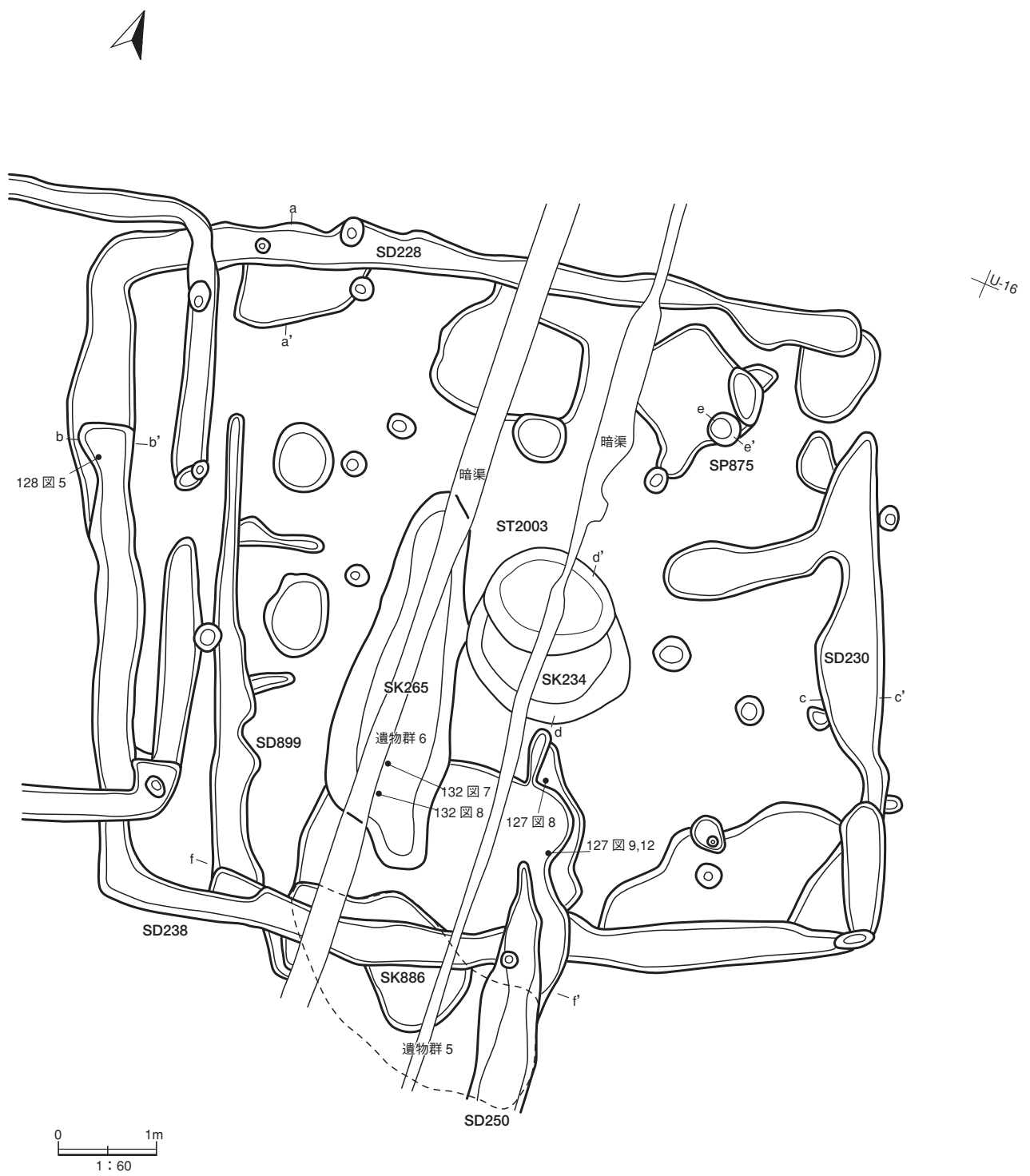
第 23 図 ST 2001 竪穴住居跡



SP212

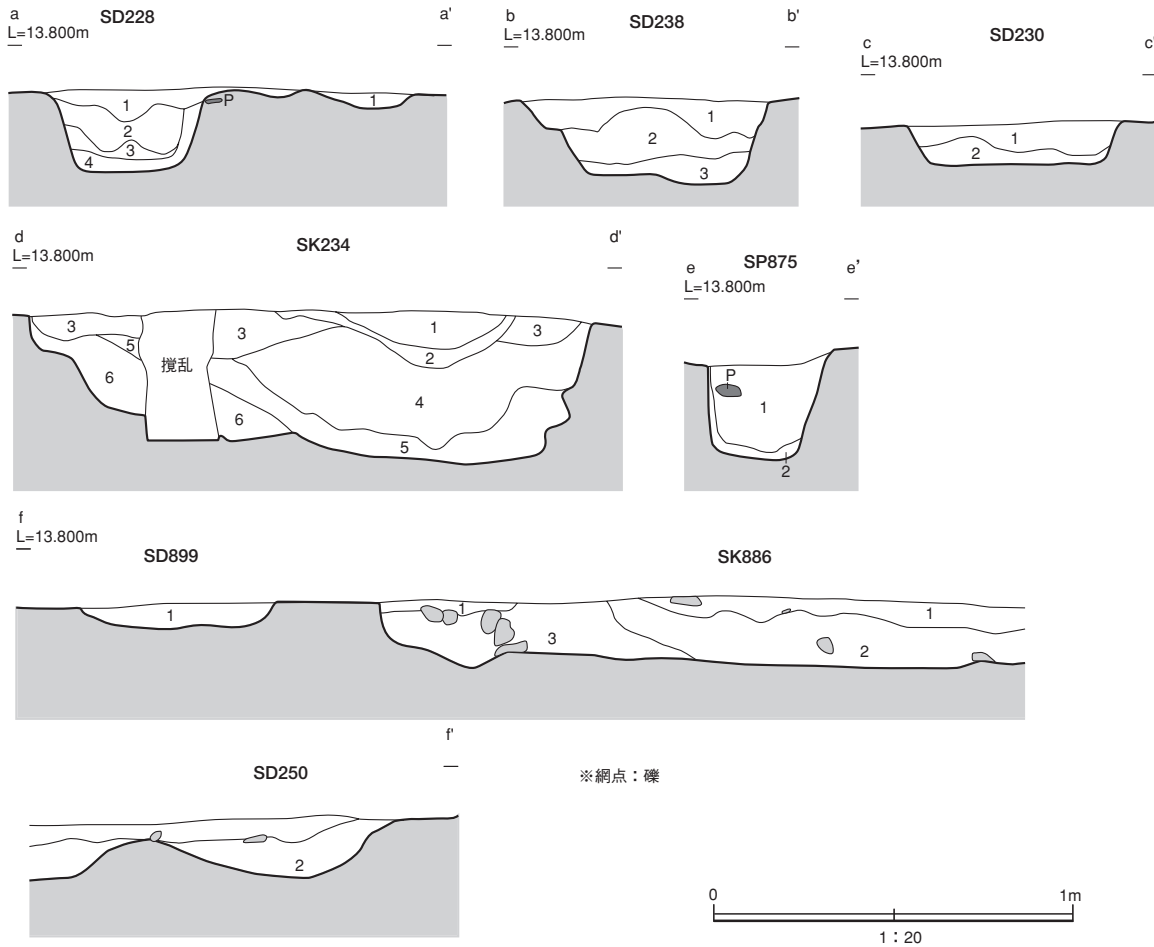
1. 10Y4/2 オリーブ灰色シルト しまり普通、赤鉄化した植物痕、炭化物を塊状に、2.5Y6/2 砂を層状、塊状に含む。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり普通、地山の2.5Y5/2 細粒砂～砂質シルト塊を多く含む。

第 24 図 S T 2002 竪穴住居跡



第 25 図 ST 2003 竪穴住居跡 (1)

IV 検出された遺構



SD228

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、10Y6/1 砂質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 2. 10Y6/1 灰色砂質シルト | しまり普通、2.5Y5/2 粘土（泥炭）を塊状、層状に、炭化物、泥炭を塊状に含む。 |
| 3. 10Y6/1 灰色砂 | しまり普通、2.5Y5/2 粘土を層状、塊状に含む。 |
| 4. 10Y4/1 灰色砂 | しまり普通、2.5Y5/2 粘土塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、炭化物を僅かに含む。 |

SD238

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 10Y4/2 オリーブ灰色粘質シルト | しまりよし、10Y5/2 砂質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 2. 10Y5/2 オリーブ灰色砂質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2 粘質シルト塊、僅かに 2.5Y6/4 砂塊、炭化物を含む。 |
| 3. 10Y4/1 灰色細～中粒砂 | しまり悪い、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2 粘質シルト（泥炭）塊を含む。 |

SD230

- | | |
|-------------------|--|
| 1. 10YR3/2 黒褐色シルト | しまりよし、10Y5/1 シルト塊、2.5Y6/4 砂塊、2.5Y4/1 粘質シルト（泥炭）を塊状、層状に、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。泥炭などの検出状況から向斜構造が認められる。 |
| 2. 10Y5/1 灰色シルト | しまり普通、10Y5/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |

SK234

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 10Y5/1 灰色粘質シルト | しまりよし、磁鉄鉱、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2 粘質シルト（泥炭）を塊状、層状に、炭化物を含む。 |
| 2. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、2.5Y5/3 砂質シルト塊が斑に混じる、上位層下部の泥炭と下位層砂の混合層。 |
| 3. 10Y5/1 灰色粘質シルト | しまりよし、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y5/3 砂を塊状に、まれに 2.5Y4/2 粘質シルト（泥炭）を層状に含む。 |
| 4. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y5/3 砂質シルト塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト（泥炭）を塊状、層状に、赤鉄化した植物痕、炭化物、2.5Y6/2 粘土を塊状に含む。 |
| 5. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、下部に 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト（泥炭）、部分的に 2.5Y6/2 粘土塊、赤鉄化した植物痕、炭化物、層下部に炭層を含む。 |
| 6. 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕、炭化物、地山との境界に 2.5Y4/2 粘質シルト（泥炭）を含む。 |

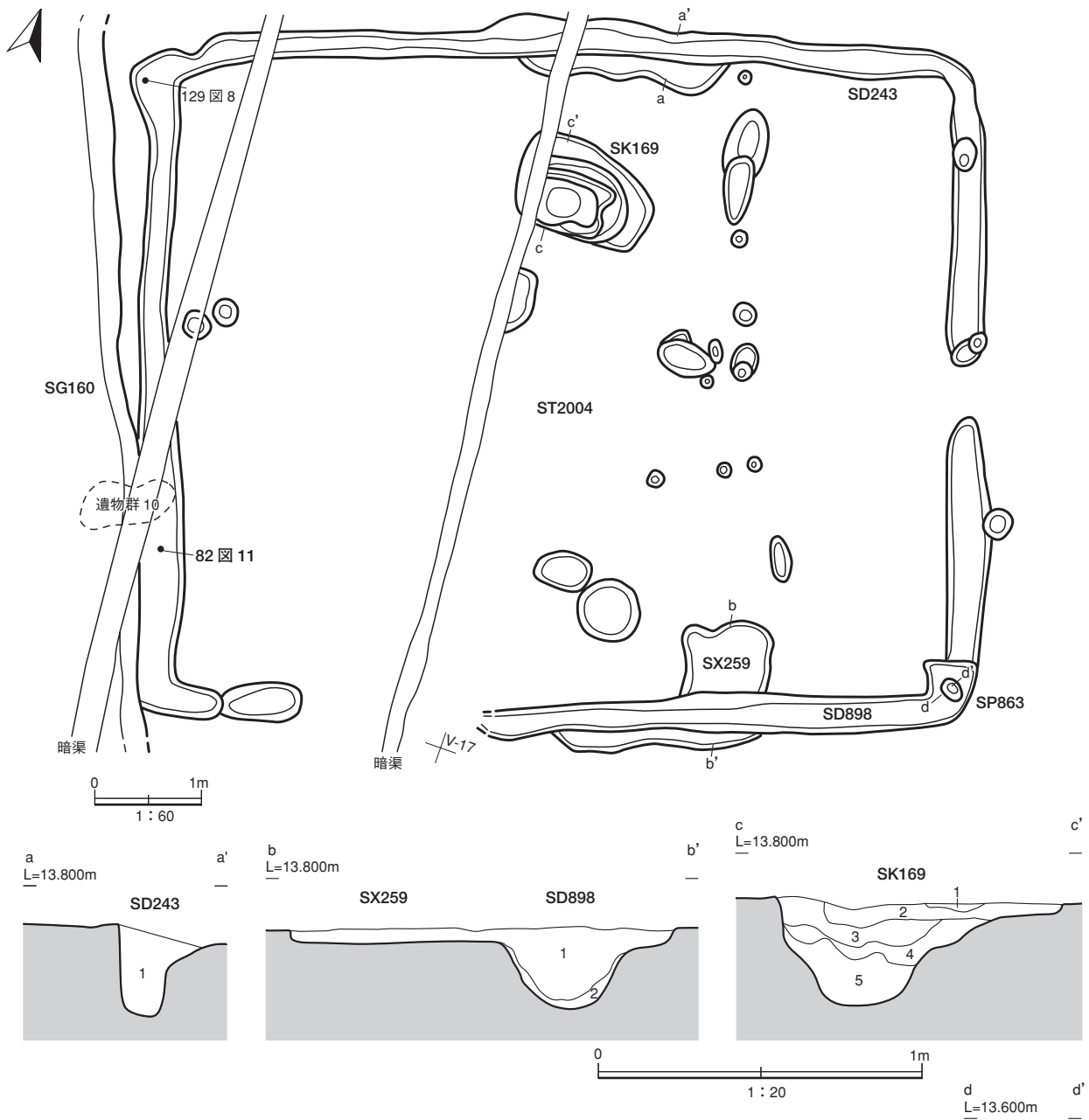
SP875

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| 1. 2.5Y5/1 黄灰色シルト | しまり普通、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5GY4/1 砂塊を含む。 |
| 2. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色砂 | しまり悪い、赤鉄化した植物痕を含む。 |

SD899・SK886・SD250

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 10Y4/2 オリーブ灰色粘質シルト | しまりよし、10Y5/2 砂質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 2. 10Y5/2 オリーブ灰色砂質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2 粘質シルト塊、稀に 2.5Y6/4 砂塊、炭化物を含む。 |
| 3. 10Y4/1 灰色細～中粒砂 | しまり悪い、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2 粘質シルト（泥炭）塊を含む。 |

第 26 図 S T 2003 竪穴住居跡（2）



SD243

- 1. 2.5Y4/2 明灰黄色シルト しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト（泥炭）塊、10Y4/1 砂塊、土器片を含む。

SD898・SX259

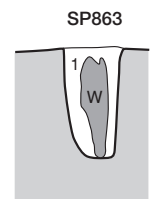
- 1. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト しまりよし、2.5Y6/2 中粒砂塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、土器片、赤鉄化した植物痕を含む。
- 2. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト しまりよし、2.5GY4/1 細粒砂塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕、僅かに2.5Y6/2 砂塊を含む。

SK169

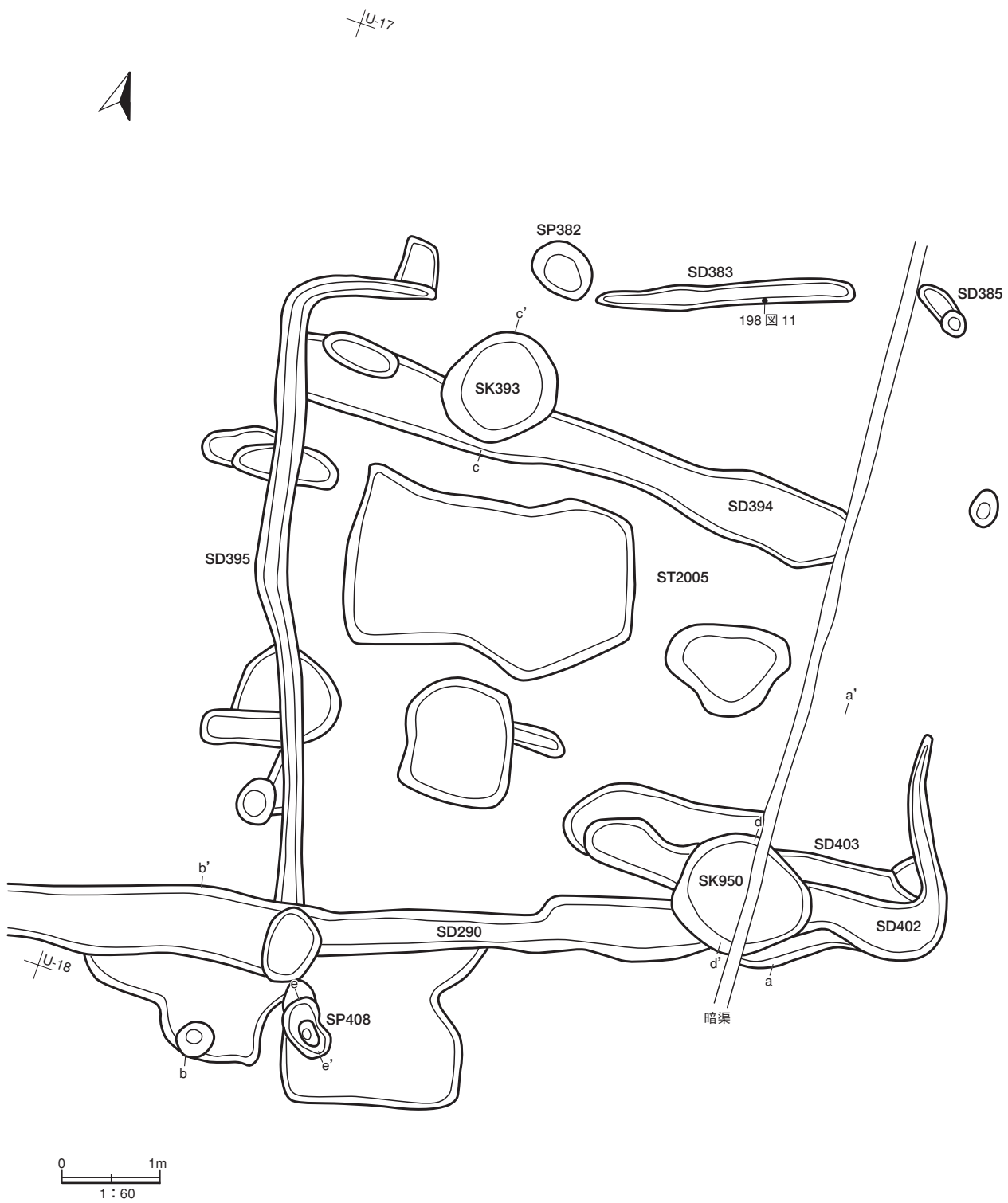
- 1. 2.5Y4/2 明灰黄色シルト しまりよし、赤鉄化した植物痕、石英粒等の砂粒を含む、泥炭層。
- 2. 2.5Y4/2 明灰黄色砂質シルト しまり普通、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y5/2シルト～粘質シルト、2.5Y4/1 粘質シルト（泥炭）塊を含む。
- 3. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト しまり普通、2.5Y5/2 粘質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。
- 4. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト しまり普通、2.5Y5/2シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。
- 5. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト しまり普通、2.5Y5/2 粘質シルト塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。

SP863

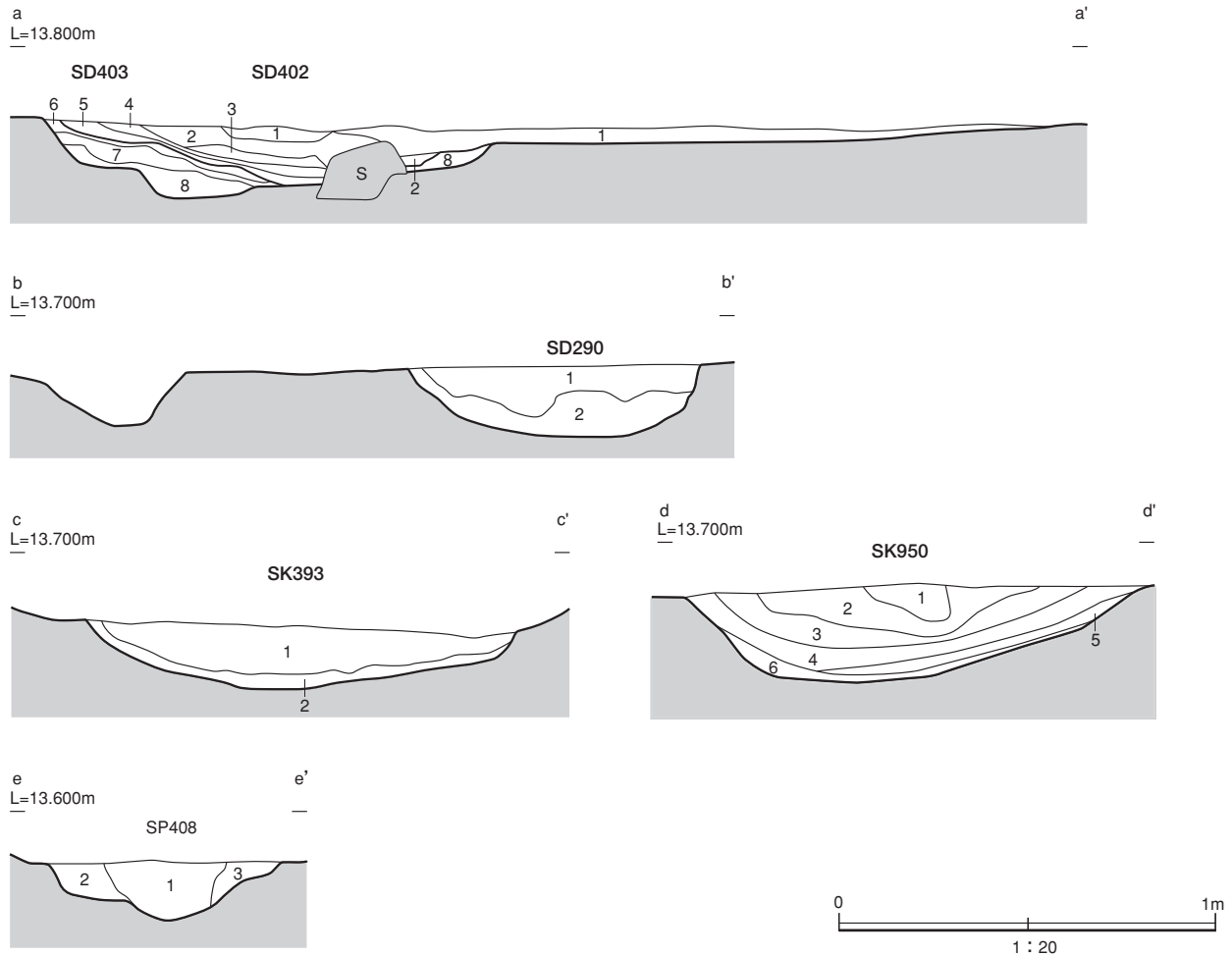
- 1. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y4/3 粘質シルト塊、炭化物、土器片、赤鉄化した植物痕を含む。



第 27 図 S T 2004 竪穴住居跡



第 28 図 S T 2005 竪穴住居跡 (1)

**SD402・403**

1. 2.5Y6/2 灰黄色中粒砂
2. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト
3. 2.5Y6/2 灰黄色中粒砂
4. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト
5. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト
6. 2.5Y6/2 灰黄色中粒砂
7. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト
8. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂

しまりよし、2.5Y3/2 粘質シルト塊が斑に混じる。2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。
 しまり普通、2.5Y6/2 中粒砂塊が斑に混じる。2.5Y4/2 粘質シルト塊、土器片、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり普通、2.5Y3/2 粘質シルト塊が斑に混じる。2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり普通、2.5Y6/2 中粒砂塊、粘性弱、2.5Y4/6 細砂、2.5Y4/2 粘質シルト塊、土器片、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり普通、2.5Y6/2 中粒砂塊が斑に混じる。2.5Y4/2 粘質シルト塊、僅かに炭化物を含む。
 しまり普通、2.5Y3/2 粘質シルト塊が斑に混じる。2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり普通、2.5Y6/2 中粒砂塊が斑に混じる。2.5Y4/2 粘質シルト塊、僅かに炭化物を含む。
 しまり普通 10Y4/1 粘質シルト塊、炭化物、2.5Y6/2 中粒砂塊、2.5Y6/4 砂塊を含む。

SD290

1. 10Y5/1 灰色シルト
2. 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色砂質シルト

2.5GY3/1 砂塊が斑に混じる。10YR3/2 粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕、10Y3/1 粘土塊を含む。
 しまり普通、赤鉄化した植物痕、10Y3/1 粘土塊を含む。

SK393

1. 10Y4/1 灰色粘質シルト
2. 2.5Y3/2 黒褐色粘質土

しまりよし、2.5Y4/2 粘土塊が斑に混じる。炭化物を帯状、塊状に、赤鉄化した植物痕、2.5Y6/4 砂塊を含む。
 しまり普通、2.5Y3/2 黒褐色粘土塊が斑に混じる。層の上下に炭化物層をもち、赤鉄化した植物痕、塊状炭化物、2.5Y6/4 砂塊を含む。

SK950

1. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト
2. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト
3. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト
4. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト
5. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト
6. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト

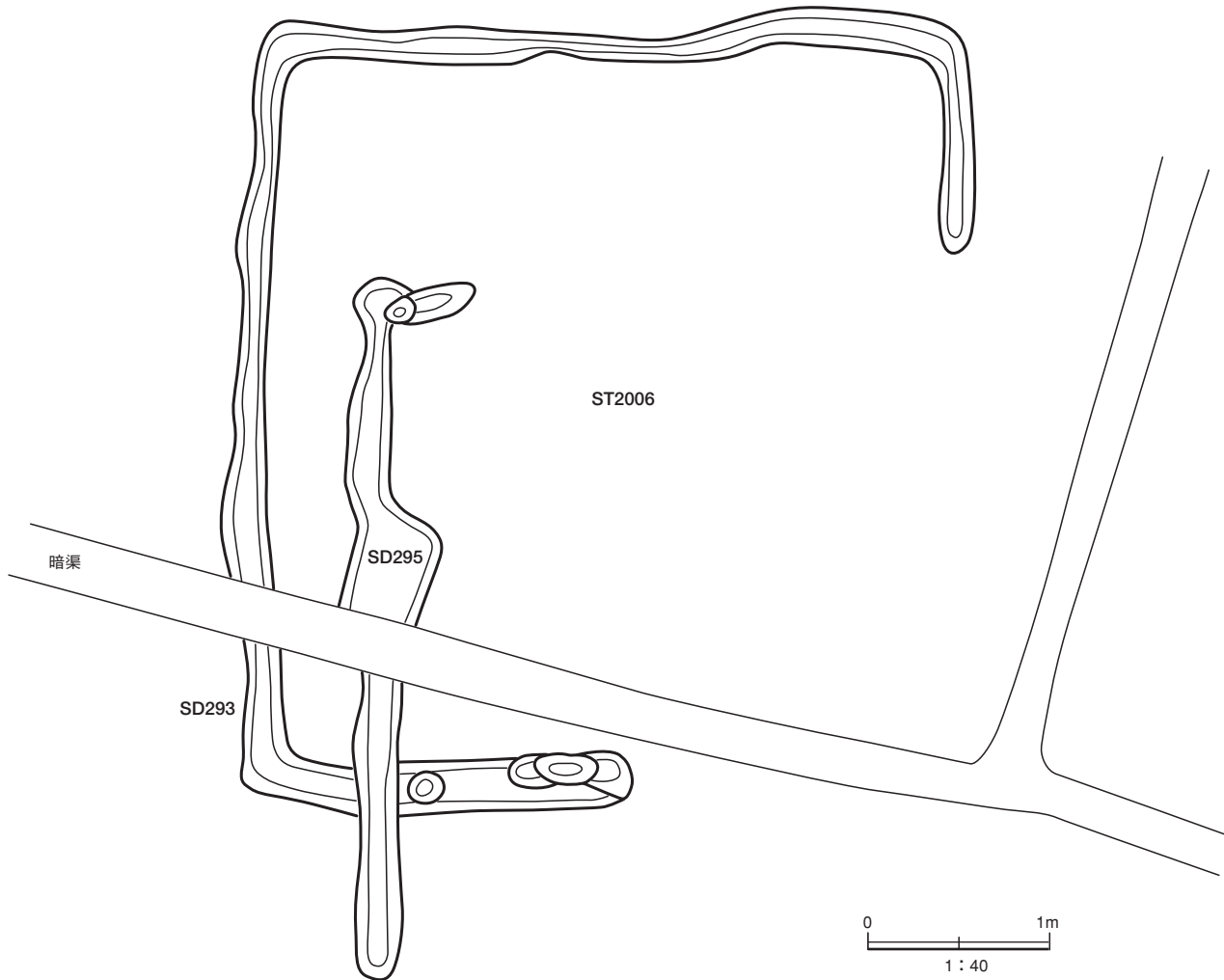
しまりよし、炭化物、2.5Y3/2 及び 2.5Y4/2 粘質シルト、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり普通、2.5Y5/2 シルト、炭化物を含む。泥炭層で特に層上部に泥炭が集まる。
 しまり普通、炭化物、2.5Y3/2 及び 2.5Y4/2 粘質シルト、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり普通、2.5Y5/2 シルト、炭化物を含む。泥炭層で特に層上部に泥炭が集まる。
 しまり普通、2.5Y5/2 シルト塊、2.5Y6/4 中粒砂塊、2.5Y6/2 細粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。泥炭層中部。
 しまり悪い、2.5Y6/2 細粒砂塊、2.5Y6/4 中粒砂塊、5GY4/1 細粒砂塊を含む。

SP408

1. 10Y4/1 灰色粘質シルト
2. 2.5Y6/4 にぶい黄色粗粒砂
3. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂

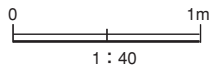
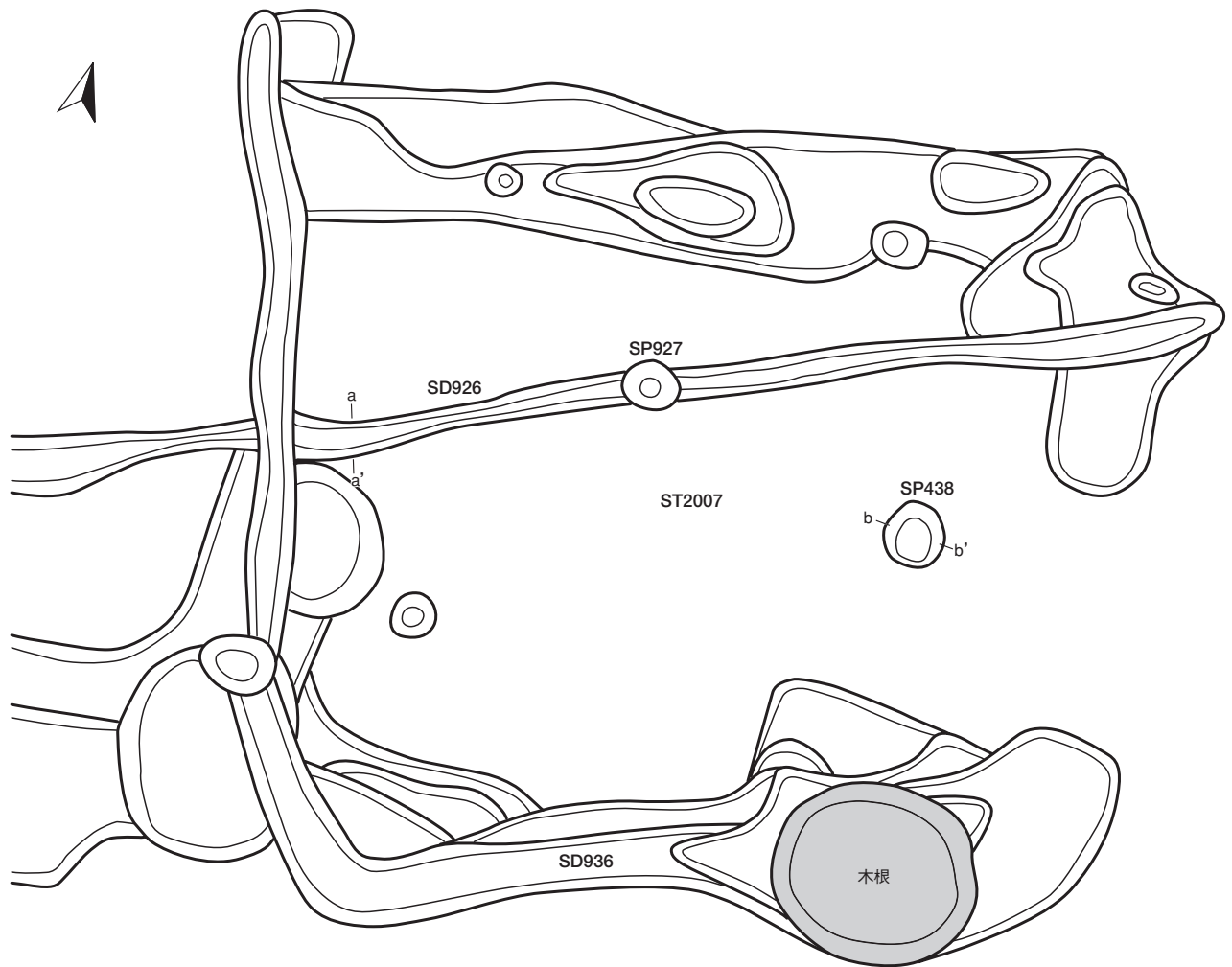
しまりよし、2.5GY4/1 中粒砂塊が斑に混じる。炭化物、2.5Y6/2 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり普通、10Y4/1 粘質シルト塊、2.5Y6/2 中粒砂塊、2.5GY4/1 中粒砂塊を含む。
 しまり普通、2.5GY3/1 粘質シルト塊が斑に混じる。10Y3/1 粘質シルト塊、2.5Y6/2 及び 2.5Y6/4 砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。

第 29 図 S T 2005 竪穴住居跡 (2)

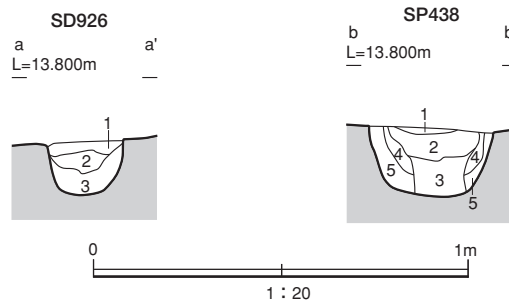


U-19

第 30 図 S T 2006 竪穴住居跡



I-19



SD926

1. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト しまりよし、10Y4/1 細粒砂、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。
2. 10Y4/1 灰色細粒砂 しまりよし、10Y3/1 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。
3. 10Y4/1 灰色中粒砂 しまり普通、10Y3/1 粘質シルト、2.5Y6/4 粗粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。

SP438

1. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト しまりよし、塊状の炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y3/2 粘質シルト塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊、層下部に炭化物層を含む。
2. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト しまりよし、炭化物、赤鉄化した植物痕、5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y6/4 中粒砂塊を含む。
3. 10Y4/1 灰色粘土 しまり悪い、2.5GY4/1 中粒砂、2.5GY4/2 粘質シルト、層状、塊状の多量の炭化物を含む。
4. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト しまり普通、10Y4/1 細粒砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y6/4 砂塊を含む。
5. 10Y4/1 灰色細粒砂 しまり普通、10Y3/1 粘質シルト、2.5Y3/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。

第 31 図 S T 2007 竪穴住居跡

C 溝 跡

SD 244 溝跡 (第 32 図)

第 3 次調査において、V・W-17 区内で 7.6m にわたって検出した。SK174 土坑と重複し、この土坑に切られる。西端は SD245 溝跡と一体化する。東端付近で遺物がまとまって出土し、遺物群 1 として登録した。出土遺物から古墳時代後期の溝跡と推定される。堆積土は炭化物、土器片を含み、地山と区別される。幅 55 cm～1 m、遺構検出面からの深さは約 17 cm である。

出土した遺物は、土師器の坏、高坏、甕などがあり、6 世紀中葉から後半期と考えられるものが主体となる (第 130 図)。

SD 245 溝跡 (第 32 図)

第 3 次調査において、V・W-17 区内で最大 8.6m にわたって検出した。北端は調査区外に伸びている。出土遺物から古墳時代後期の溝跡と推定される。堆積土は炭化物を含み、地山と区別される。幅 30～40 cm、遺構検出面からの深さは約 20 cm である。

出土した遺物は、土師器の坏、甕など、6 世紀中葉から後半期と考えられるものが主体である (第 130 図)。

SD 336 溝跡 (第 33 図)

第 3 次調査において、U-16 区内で 5.1m にわたって検出した。出土遺物から、古墳時代後期の溝跡と推定される。堆積土は炭化物を含むシルトで、砂質の地山と区別される。幅約 24 cm、遺構検出面からの深さは約 10 cm である。出土した遺物はわずかで、図化したものは土師器の坏 1 点のみである (第 131 図)。

SD 357 溝跡 (第 33 図)

第 3 次調査において、T・U-17 区内で 5.9m にわたって検出した。東側からまとまった遺物の出土が見られ、遺物群 3 として登録した。出土遺物から、古墳時代後期の溝跡と推定される。堆積土は炭化物を含むシルトで、砂質の地山と区別される。幅約 30 cm、遺構検出面からの深さは約 15 cm である。

出土した遺物は、土師器の坏、高坏、甕など、6 世紀中葉から後半期と考えられるものが主体となっている (第 131 図)。

SD339・357 溝跡は、ST2003・2004 竪穴住居跡の南西-北東軸とほぼ同方向をとる。また形状もこれらの住

居跡の周溝に類似することから、ひとつの竪穴住居跡を形成する周溝の一部である可能性がある。

SD 404 溝跡 (第 34 図)

第 3 次調査において、T・U-18 区内で 7.5m にわたって検出した。出土遺物から、古墳時代後期の溝跡と推定される。堆積土は炭化物を多量に含み、比較的容易に地山と区別される。幅 40～60 cm、遺構検出面からの深さは約 10 cm である。

土師器甕を中心に、6 世紀中葉から後半期と考えられる比較的まとまった量の遺物が出土した (第 131 図)。

SD 453 溝跡 (第 34 図)

第 3 次調査において、T-16・17 区内で最大 8 m にわたって検出した。複数の遺構と重複しており、両端とも他の遺構に切られている。また、SD357 溝跡と重複しており、本溝跡がやや古いと考えられる。出土遺物から、古墳時代後期の溝跡と推定される。堆積土はシルトで、砂質の地山と区別される。幅 70 cm～1.2m、遺構検出面からの深さは約 10 cm である。出土遺物はわずかで、1 点のみ図化した (第 131 図)。

SD 119 溝跡 (第 35 図)

第 4 次調査において、U-21 区内で最大 3.85m にわたって検出した。打ち込みの板材列であると考えられる。土色の違いから、溝跡として検出したが、掘り込んでみると、断面からは土質の変化はうかがえなかった。板材が打ち込まれたことにより、周辺の土色に変化したものと推察される。

検出された板材 (第 203～206 図) について、樹種同定および放射性炭素年代測定を行った。その結果、出土した板材のうち、1 個体 3 点がクリ材で、他はスギ材であった。スギは板材への加工のしやすさから選ばれた可能性が高い。また、クリは水に強く耐朽性が高いため、目的によって使い分けられたことも考えられる。これらの板材列は、当初奈良・平安時代の遺構と考えられたが、放射性炭素年代測定による測定の結果、4 世紀後半～6 世紀中頃の年代が示された (第 VI 章 1 参照)。

D 土坑・柱穴・性格不明遺構

SK 169 土坑 (第 36 図)

第 3 次調査において、V・W-17 区内で検出した。平面形は東西に長い不整楕円形で、短軸長 90 cm、長軸

は西端が暗渠に切られているため不明であるが、95 cm 以上ある。遺構検出面からの深さは 30 cm をはかる。壁の立ち上がりは南側が比較的急で、底面は丸みをもつ。堆積土は炭化物、泥炭のブロックなどを含み、地山と区別される。ST2004 堅穴住居跡と重複するが、後世の削平の影響があり、新旧関係は不明である。出土遺物はわずかであるが、古墳時代後期の土坑と考えられる。

S K 174 土坑 (第 36 図)

第 3 次調査において、V・W - 17 区内で検出した。規模および平面形は、長軸長 1.5m、短軸長 1.3m の東西に長い不整楕円形となる。遺構検出面からの深さは 18 cm をはかる。壁の立ち上がりは緩やかであり、底面はやや起伏がある。堆積土は炭化物等を含み、地山と区別される。SD244 溝跡と重複し、重複関係から、本土坑がやや新しい遺構であると考えられる。出土遺物はわずかであるが、古墳時代後期の土坑と考えられる。

S K 265 土坑 (第 36 図)

第 3 次調査において、V - 17 区内で検出した。規模および平面形は、長軸長 3.8m、短軸長 1.2m の南北に長い不整楕円形となる。遺構検出面からの深さは 26 cm をはかる。壁の立ち上がりは緩やかで、底面は丸みを持つ。堆積土は炭化物等を含み、地山と区別される。ST2004 堅穴住居跡と重複するが新旧関係は不明である。出土遺物から古墳時代後期の土坑と考えられる。遺物は遺物群 6 を含め、まとまった量が出土した。出土した遺物は土師器の坏・高坏・甕などで、6 世紀中葉から後半期と考えられるものが主体である (第 132・133 図)。

S K 282 土坑 (第 36 図)

第 3 次調査において、V - 18 区内で検出した。規模および平面形は、長軸長 2 m、短軸長 1.4m の南北に長い隅丸方形となる。遺構検出面からの深さは 50 cm をはかる。壁の立ち上がりは段をもち、底面には起伏がある。堆積土は炭化物等を多く含むため、比較的容易に地山と区別できる。出土遺物はわずかであるが、奈良時代末から平安時代初頭の所産と考えられる須恵器の坏 1 点 (第 135 図) と、中世の石鉢 1 点 (第 200 図) を図化した。出土遺物から中世の土坑であると考えられる。

S K 305 土坑 (第 37 図)

第 3 次調査において、V - 18 区内で検出した。規模および平面形は、南北 1.4m、東西 1.45m の隅丸方形と

なる。遺構検出面からの深さは 18 cm をはかる。壁の立ち上がりは緩やかである。堆積土は炭化物等を含み、地山と区別される。出土遺物から古墳時代後期の土坑と考えられる。遺物は遺物群 4 を含むまとまった量が出土し、土師器の坏・甕など 6 世紀中葉から後半期と考えられるものが主体である (第 135 図)。

S K 329 土坑 (第 37 図)

第 3 次調査において、U - 16 区内で検出した。規模および平面形は、長軸長 2.7m、短軸長 1.6m の不整楕円形となる。遺構検出面からの深さは 22 cm をはかる。壁の立ち上がりは緩やかで、底面は起伏がある。堆積土は炭化物等を含み、地山と区別される。出土遺物から古墳時代後期の土坑と考えられる。遺物は土師器の坏・甕などがややまとまって出土した (第 133・134 図)。6 世紀中葉から後半期と考えられるものが主体である。

S K 450 土坑 (第 37 図)

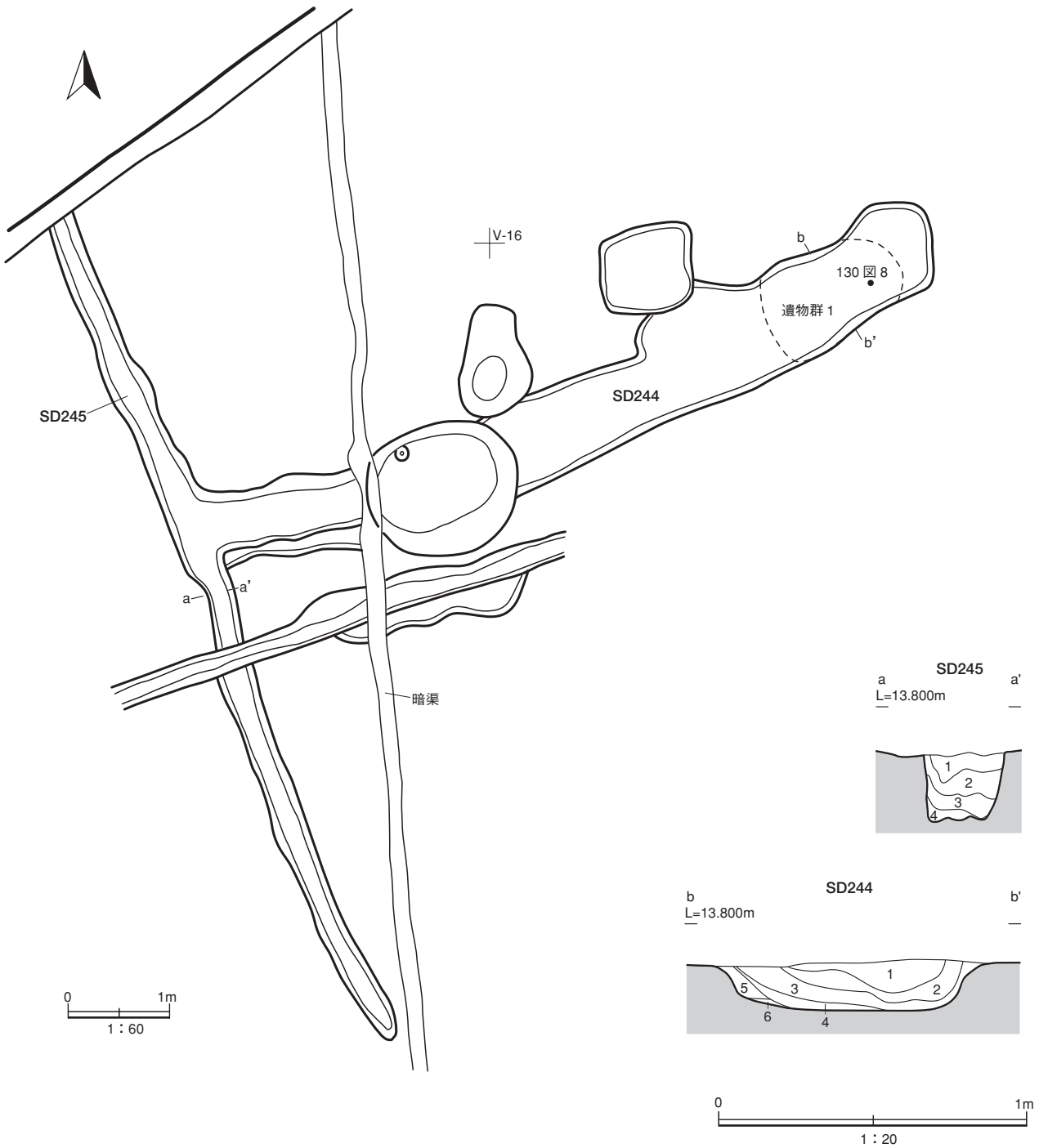
第 3 次調査において、T・U - 16 区内で検出した。規模および平面形は、長軸長 2.1m、短軸長 1.3m の南北に長い不整楕円形となる。遺構検出面からの深さは 26 cm をはかる。壁の立ち上がりは、南側では段をもち、北側では緩やかである。底面は平坦である。堆積土は炭化物を多量に含み、比較的容易に地山と区別される。出土遺物から古墳時代後期の土坑と考えられる。出土遺物は土師器の高坏・甕・甑などで、6 世紀中葉から後半期と考えられるものが主体である (第 134・135 図)。

S P 291 柱穴 (第 37 図)

T・U - 16 区内で検出した。規模および平面形は、長軸長 58 cm、短軸長 45 cm の不整楕円形となる。遺構検出面からの深さは 17 cm をはかる。堆積土は炭化物を含み、地山と区別される。底部には柱の痕跡がある。6 世紀中葉から後半期と考えられる土師器の坏 (第 137 図) が出土しており、古墳時代後期の柱穴と考えられる。

S X 391 落込み (第 37 図)

U - 18 区内で検出した。規模および平面形は、長軸長 1.9m、短軸長 85 cm の東西に長い不整楕円形となる。遺構検出面からの深さは 19 cm をはかる。壁の立ち上がりは比較的急で、底面は起伏がある。堆積土は炭化物を含み、地山と区別される。6 世紀中葉から後半期と考えられる土師器高坏が出土した (第 138 図)。遺構の性格は不明であるが、古墳時代後期の所産と考えられる。



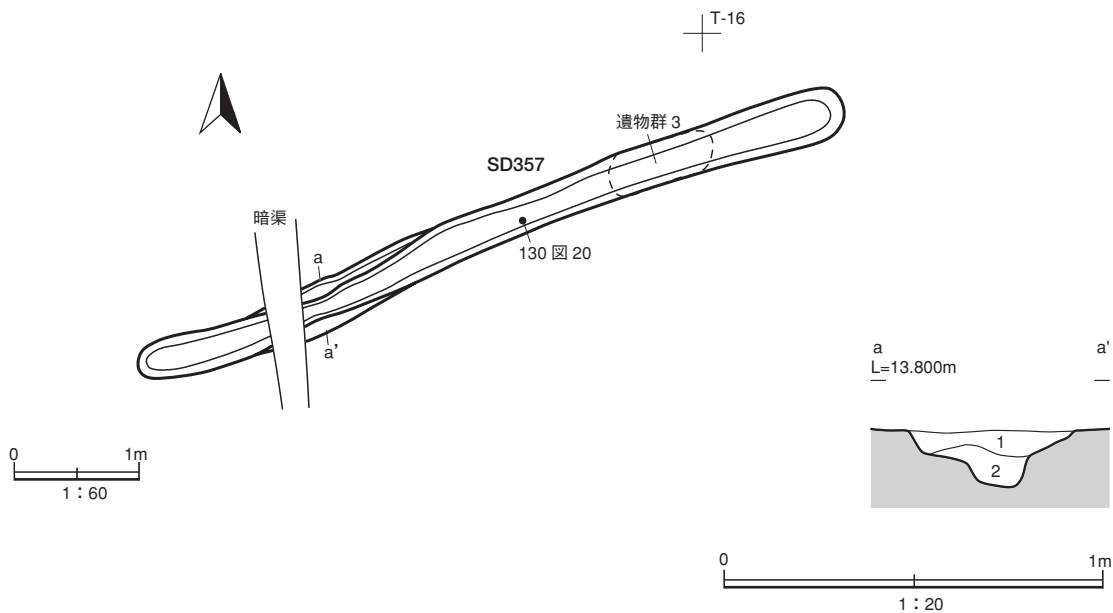
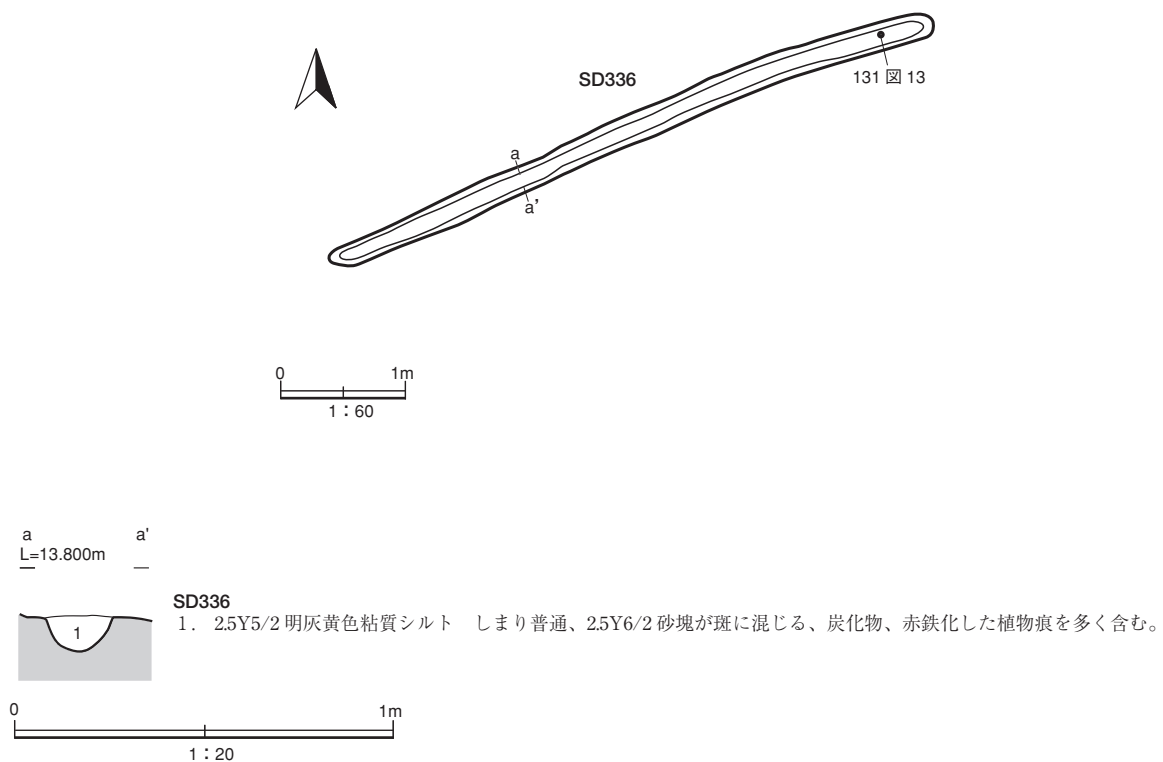
SD245

- | | |
|--------------------------|--|
| 1. 2.5Y4/2 明灰黄色シルト | しまり普通、炭化物、2.5Y5/2 粘質シルト塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y6/4 砂質シルト塊を含む。 |
| 2. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕、稀に 2.5Y6/4 砂塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。 |
| 3. 2.5Y4/2 明灰黄色シルト | しまり普通、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 4. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色砂質シルト | しまり普通、多量の炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2 ~ 5/2 粘質シルト塊（泥炭）を含む。 |

SD244

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト | しまりよし、2.5Y5/1 シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、炭化物、2.5Y6/2 砂質シルト塊を含む。 |
| 2. 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト | しまり普通、2.5Y6/2 砂塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕、土器片を含む。 |
| 3. 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/1 粘質シルト塊（泥炭）を含む。 |
| 4. N1.5/0 黒色炭化物 | しまりよし。 |
| 5. 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕、10Y4/2 オリーブ灰色粘質シルト（泥炭）塊、僅かに炭化物を含む。 |
| 6. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕、炭化物、層上部に 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト（泥炭）を層状に含む。 |

第 32 図 S D 244・245 溝跡

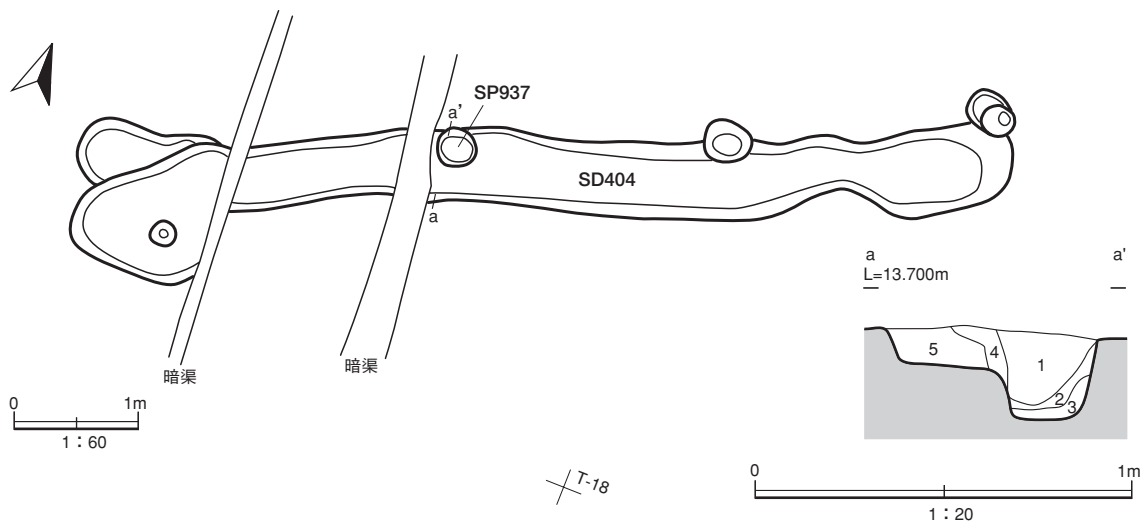


SD357

1. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト しまりよし、2.5GY4/1 細粒砂塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y6/4 中粒砂塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。

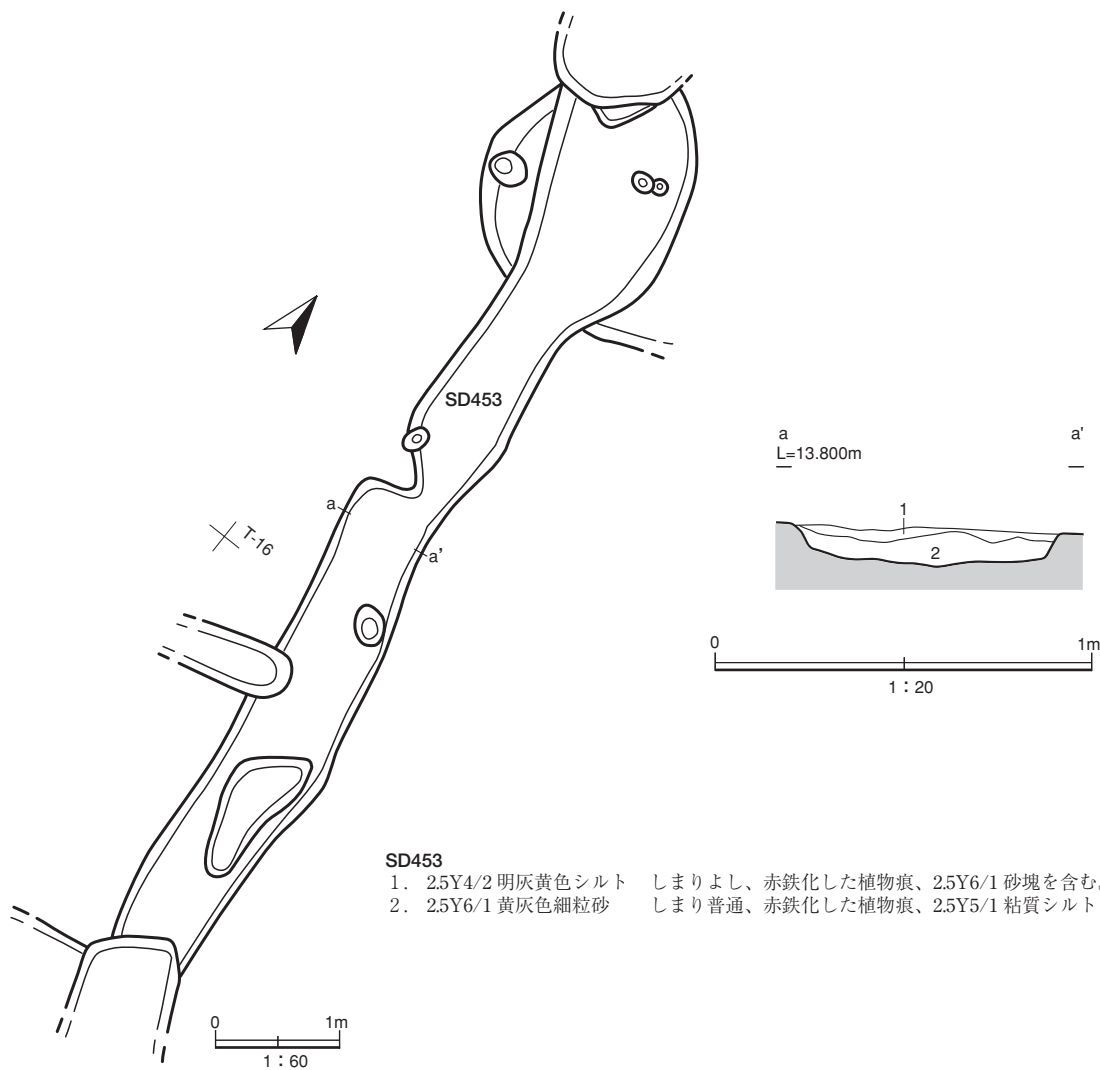
2. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y6/4 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。

第 33 図 S D 336・357 溝跡



SD404・SP937

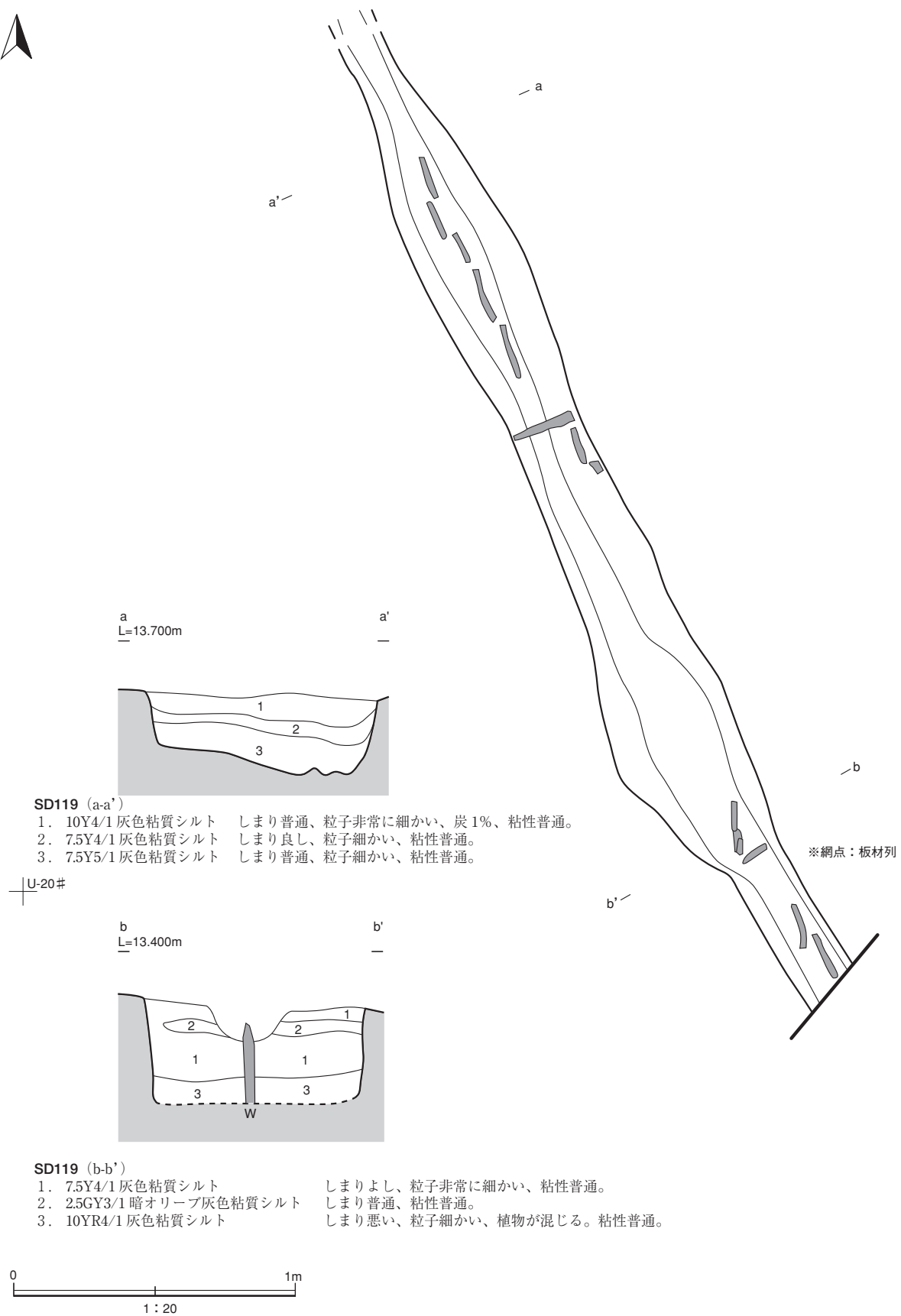
- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 10Y4/1 灰色細粒砂 2. 10Y3/1 オリーブ黒色細粒砂 3. 2.5GY2/1 黒色粘質シルト 4. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 5. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 | <ul style="list-style-type: none"> しまり普通、10Y3/1 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y6/4 砂塊、多量の炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 しまり普通、10Y3/1 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5GY4/1 砂塊、炭化物、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。 しまり普通、炭化物多量、10Y4/1 細粒砂塊が斑に混じる、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。 しまり悪い、2.5GY3/1 粘質シルト（泥炭）塊、2.5Y6/4 細粒砂塊、2.5Y5/2 シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。 しまり悪い、2.5GY3/1 粘質シルト（泥炭）塊、炭化物を含む。 |
|---|---|



SD453

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 2.5Y4/2 明灰黄色シルト 2. 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂 | <ul style="list-style-type: none"> しまりよし、赤鉄化した植物痕、2.5Y6/1 砂塊を含む。 しまり普通、赤鉄化した植物痕、2.5Y5/1 粘質シルト（泥炭）塊を含む。 |
|---|--|

第 34 図 S D 404・453 溝跡



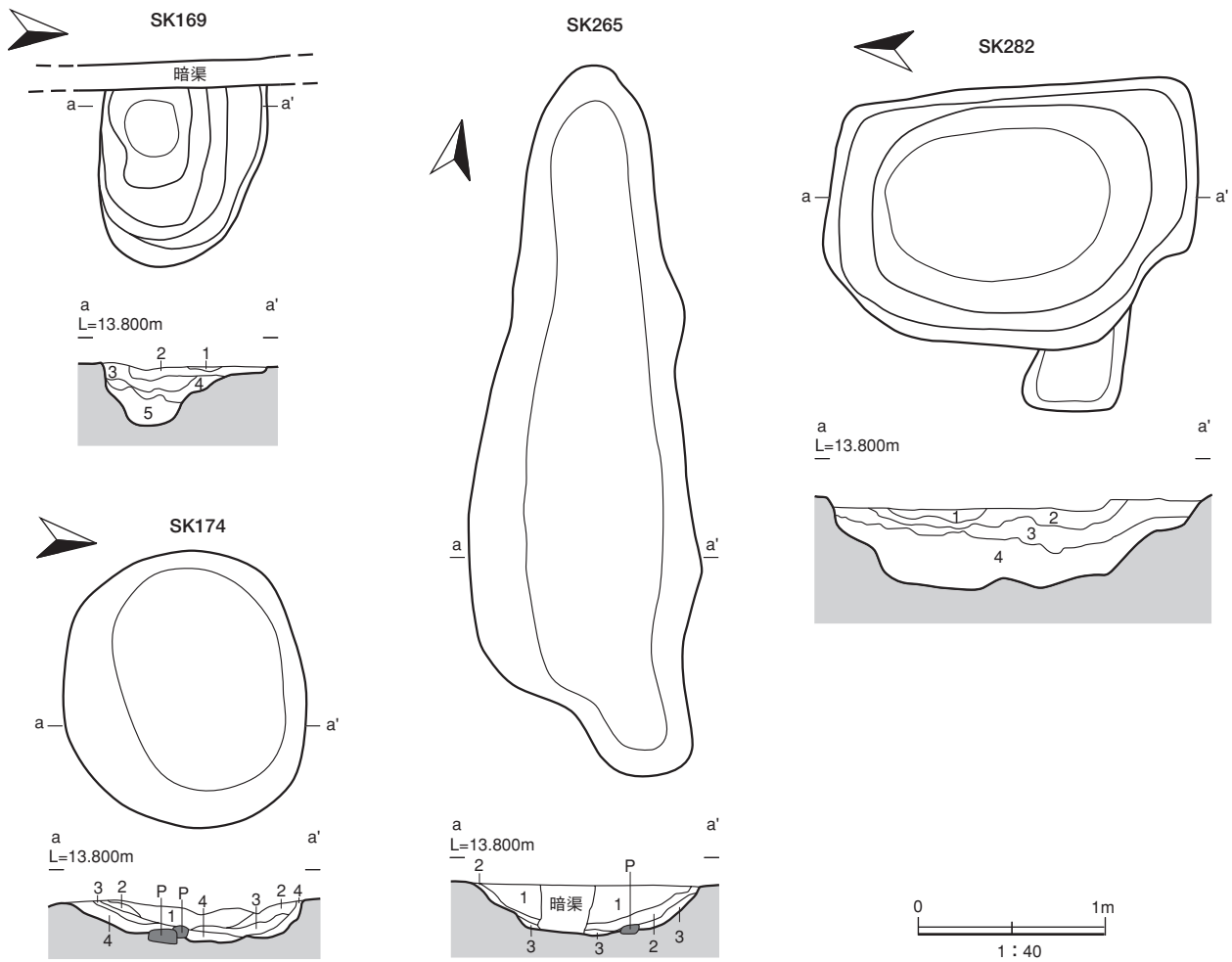
SD119 (a-a')

- 1. 10Y4/1 灰色粘質シルト しまり普通、粒子非常に細かい、炭1%、粘性普通。
- 2. 7.5Y4/1 灰色粘質シルト しまりよし、粒子細かい、粘性普通。
- 3. 7.5Y5/1 灰色粘質シルト しまり普通、粒子細かい、粘性普通。

SD119 (b-b')

- 1. 7.5Y4/1 灰色粘質シルト しまりよし、粒子非常に細かい、粘性普通。
- 2. 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色粘質シルト しまり普通、粘性普通。
- 3. 10YR4/1 灰色粘質シルト しまり悪い、粒子細かい、植物が混じる。粘性普通。

第 35 図 S D 119 溝跡



SK169

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 2.5Y4/2 明灰黄色シルト | しまりよし、赤鉄化した植物痕、石英粒等の砂粒を含む、泥炭層。 |
| 2. 2.5Y4/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y5/2シルト～粘質シルト、2.5Y4/1粘質シルト（泥炭）塊を含む。 |
| 3. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y5/2粘質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 4. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、2.5Y5/2シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 5. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y5/2粘質シルト塊、2.5Y4/2粘質シルト塊を含む。 |

SK174

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまりよし、多量の炭化物を層状、塊状に、稀に2.5Y6/2粘質シルト塊を含む。 |
| 2. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまりよし、2.5Y6/2粘質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 3. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまりよし、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y6/2粘質シルト塊を含む。 |
| 4. 2.5Y4/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y4/2粘質シルト（泥炭）塊、10Y4/1砂塊、土器片を含む。 |

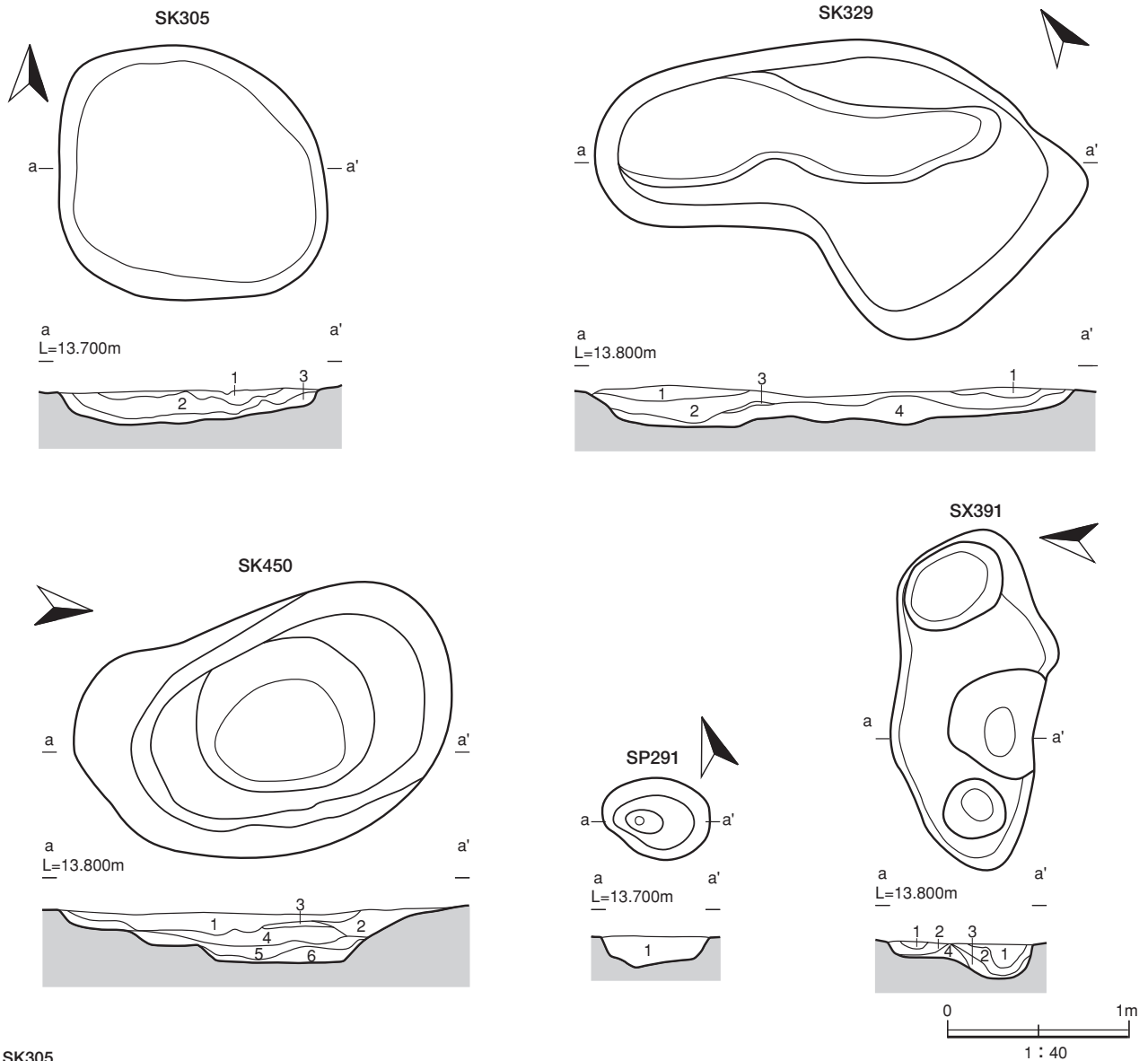
SK265

- | | |
|----------------------|---------------------------------------|
| 1. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、10Y6/1砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 2. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、炭化物を多く、2.5GY5/1砂、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 3. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、2.5GY5/1砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。 |

SK282

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. N1.5/0 黒色炭化物 | しまり普通、10Y5/1シルト質粘土塊を含む。 |
| 2. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、2.5Y6/4砂塊が斑に混じる、10Y4/1粘土塊、2.5Y4/3粘土の径の大きな塊、2.5Y4/2粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 3. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質シルト | しまり普通、10YR3/2粘土、2.5Y4/1粘土、10Y4/1粘土を塊状に、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 4. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり悪い、2.5Y3/2粘質シルト塊、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。 |

第36図 SK 169・174・265・282 土坑



SK305

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまりよし、2.5Y4/3 粘質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5GY4/1 砂塊を含む。 |
| 2. 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト | しまり普通、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5GY4/1 砂塊、2.5Y6/4 砂塊を含む。 |
| 3. 10Y4/1 灰色砂質シルト | しまり普通、2.5Y4/3 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y6/4 砂塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |

SK329

- | | |
|----------------------|-----------------------------------|
| 1. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 2. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 3. N1.5/0 黒色炭化物層 | しまり悪い。 |
| 4. 5Y5/2 灰オリーブ色中粒砂 | しまり普通、5Y5/2 灰オリーブ灰色粘質シルト塊、炭化物を含む。 |

SK450

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、2.5Y3/2 粘質シルト塊が斑に混じる、多量の炭化物、2.5GY4/1 細粒砂塊、2.5Y6/4 砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 2. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、2.5GY4/1 細粒砂塊、2.5Y6/4 砂塊、炭化物、稀に赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 3. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、2.5Y6/4 細粒砂塊、2.5GY4/1 細粒砂塊、多量の炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 4. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり悪い、10Y3/1 粘質シルト塊が斑に混じる、層状、塊状の炭化物、2.5GY4/1 細粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 5. 10Y3/1 オリーブ黒色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 細粒砂塊が斑に混じる、2.5GY4/1 砂塊、層状、塊状の炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 6. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 | しまり普通、2.5GY3/1 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |

SP291

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 10Y4/1 灰色シルト | しまりよし、炭化物、赤鉄化した植物痕、10Y3/1 粘質シルトを層状、塊状に含む。層下部に炭化物、泥炭の薄い葉理を含む。 |
|-----------------|--|

SX391

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまりよし、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、2.5Y6/4 中粒砂塊を含む。 |
| 2. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、2.5Y6/2 細粒砂塊が斑に混じる、2.5Y6/4 細粒砂塊を含む。炭化物を含み、特に層下部では層状を呈する。 |
| 3. 2.5Y5/2 明灰黄色細粒砂 | しまり普通、2.5Y6/4 及び 2.5Y6/2 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む、2.5Y4/2 粘質シルトを層状に含む。 |
| 4. 2.5Y6/4 鈍黄色中粒砂 | しまり悪い、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |

第 37 図 S K 305・329・450 土坑・S P 291 ピット・S X 391 性格不明遺構

3 北東部遺構群

第3次・第4次調査で検出したG～K-7～12区のSG771河川跡以東の遺構を北東部遺構群とした。主体となる年代は、奈良時代から平安時代である。一部の区域で、遺構確認面下約10cmにもう1面の遺構確認面の存在が確認されたが、出土遺物に上面との大きな時期差は見られなかった。

遺構群内の主な遺構には、河川跡(SG771・833)、堅穴住居跡(ST795・841・981・1171)、土坑などがある他、幅50cm前後の溝跡が多数検出された。多くは地震の際の液状化による噴砂の痕跡とみられるが、特に密に分布するC～E-5～8区付近のものは方向が比較的そろっており、畑の畝跡の可能性もある。遺構の堆積土は、全体に土色の変化に乏しく、地山との相違が不明確である。遺物は、SG771およびSG833両河川跡からまとまって出土した他、各堅穴住居跡と一部の土坑でも一括性の高い出土状況がみられた。

A 河川跡

SG 771 河川跡 (第38～41図)

SG771河川跡は、第2次調査(SG 3・5)、第3次調査および第4次調査で、G～K-7～12区で検出された河川跡である。調査区を南東から北西にはほぼ真っ直ぐに横断する。SG791・794河川跡と重複し、重複関係からSG771がやや古いことが推察される。幅約10m、遺構検出面からの深さは約85cmである。河川は堆積と浸食を繰り返しており、小規模な流路の変化も見られる。土層断面観察では、1～12層と13～26層の大きく2時期の変遷が見られ、1～12層の新しい川は最終的に土砂の堆積により埋没したことが窺われる(第41図)。堆積土は土色、土質とも地山と容易に区別され、流木と考えられる多量の木片を含む。また、土層中に火山灰と思われる灰黄色粘土塊が含まれていたため、テフラ分析を行ったが火山ガラスはほとんど検出されなかった(第VI章8参照)。

遺物は遺構内の全域から出土し、第4次調査遺物群1を含み、まとまった量の遺物が出土した。それらは土師器の坏・甕、須恵器の坏・蓋・壺・甕などの土器類が中心であるが(第154～159図)、皿・曲物・箸などの木

製品も出土している(第209・210図)。いずれも8世紀末～9世紀を主体とするものと考えられる。出土層位による遺物の時期差は見られなかった。なお、本河川跡から出土した木製の皿(第209図2)について放射性炭素年代測定を行ったところ、7世紀後半～9世紀後半の年代が示された(第VI章1参照)。

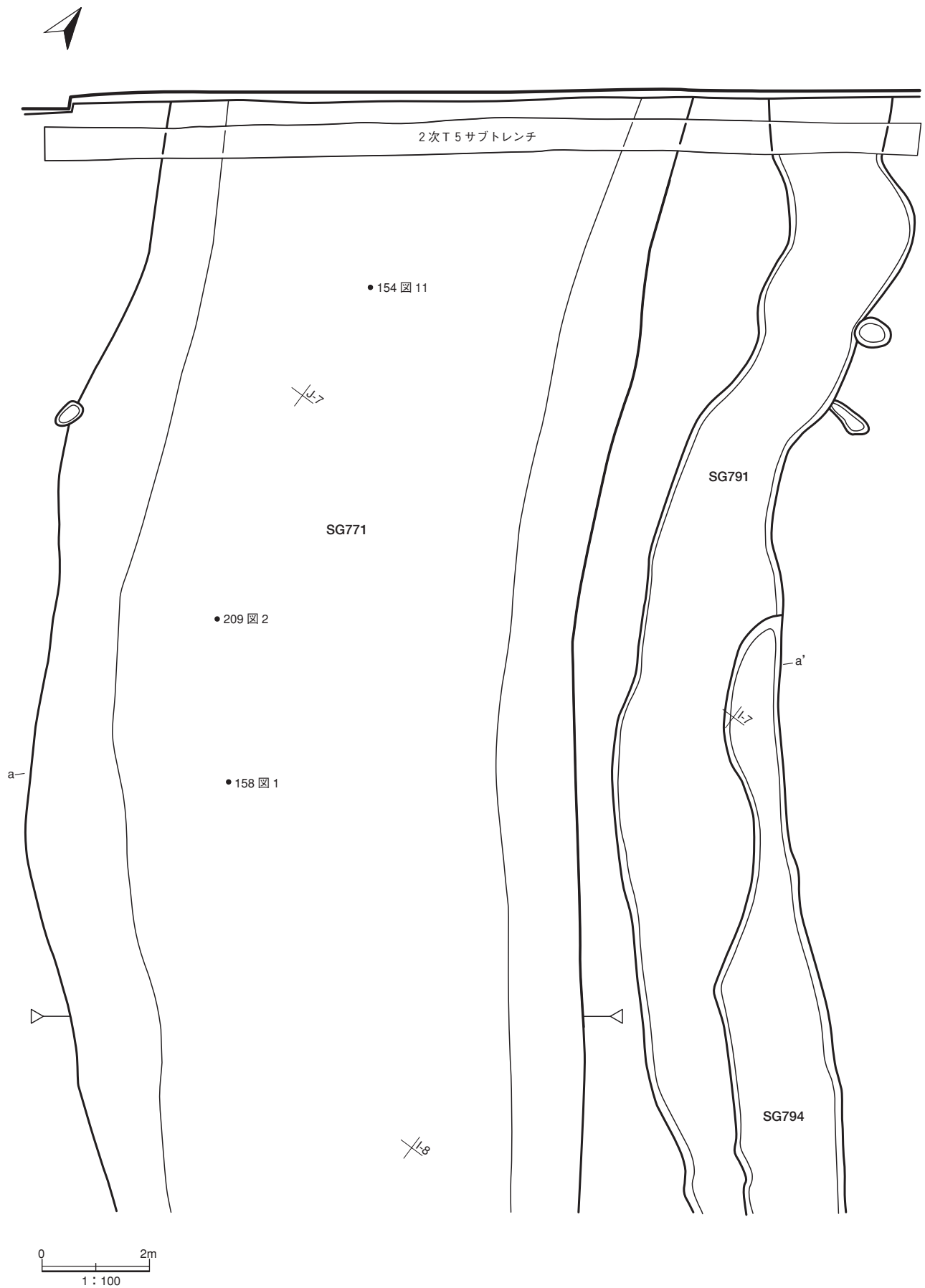
SG 833 河川跡 (第42～43図)

SG833河川跡は第2次調査(SG 1)、第3次調査および第4次調査で、調査区の北東端にあたるB～F-2～5区で検出された河川跡である。調査区の北西角を東西方向に横断する。大規模な河川であり、幅は最大で約17m、深さは遺構検出面から約1.5mまで確認したが、いずれもさらに広がることが確認された。土層断面観察では、大きく2～6層と7～14層の2時期の変遷が見られる(第43図)。1層は表土の一部と考えられる。堆積と浸食を繰り返しており、流路を変化させながら一帯を流れていたものと推察される。

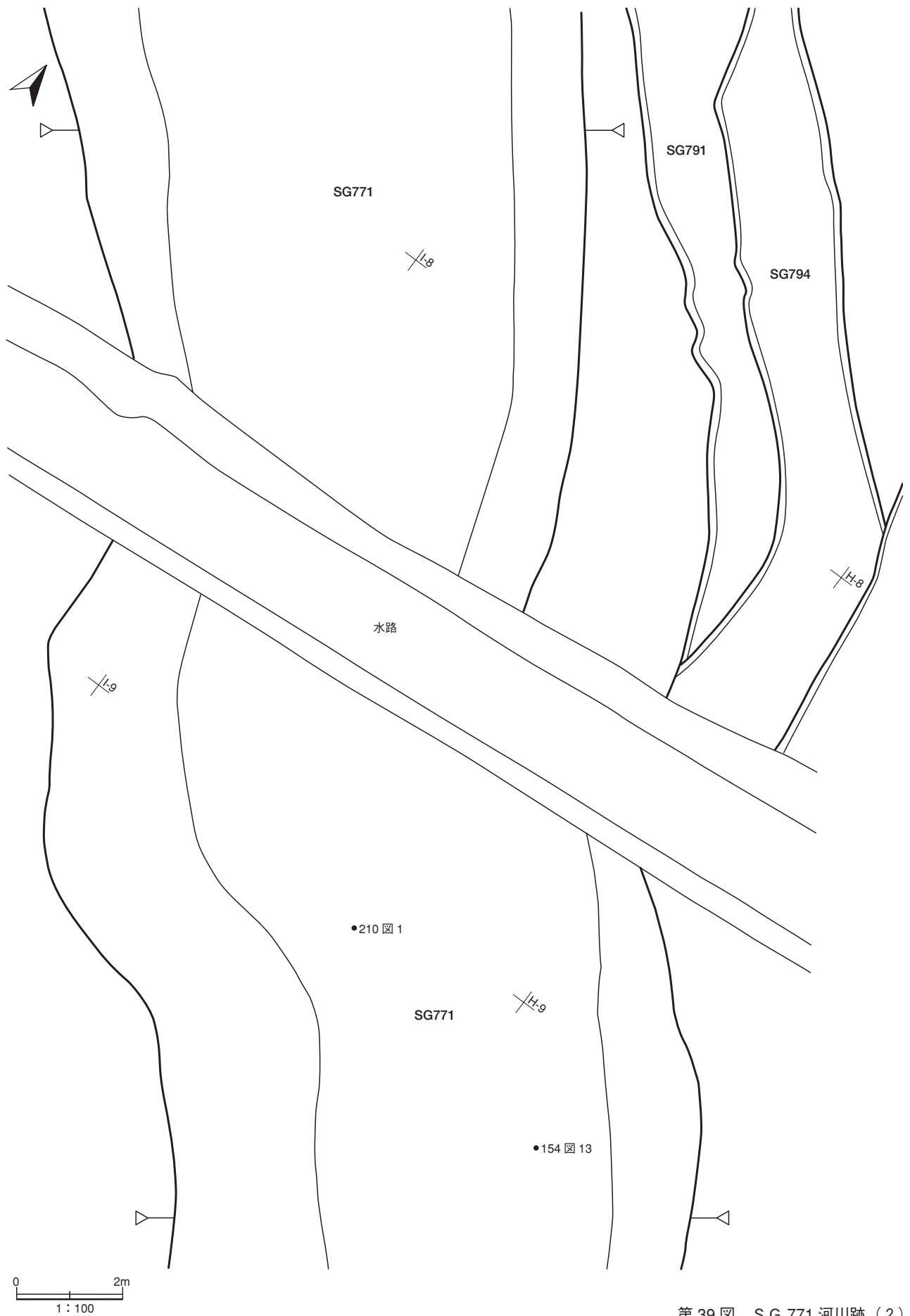
堆積土は上層の河川については比較的容易に地山と区別されるが、下層の河川については区別が難しく、断面を確認しながら掘り広げた。また、土層中に火山灰と思われる灰オリーブ色粘土塊および灰黄色粘土塊が含まれていた。これらについてテフラ分析を行ったところ、灰黄色粘土は十和田aテフラと同定された(第VI章8参照)。灰オリーブ色粘土については火山ガラスがほとんど含まれず、火山灰と同定することはできないという分析結果であった。

十和田火山では915年に大規模な噴火があったことが分かっている。十和田aテフラは7層とその直下の8層から検出されていることから、915年には下層の河川は堆積によりほぼ埋まっており、上層の河川は915年以降に埋没したことが分かる。

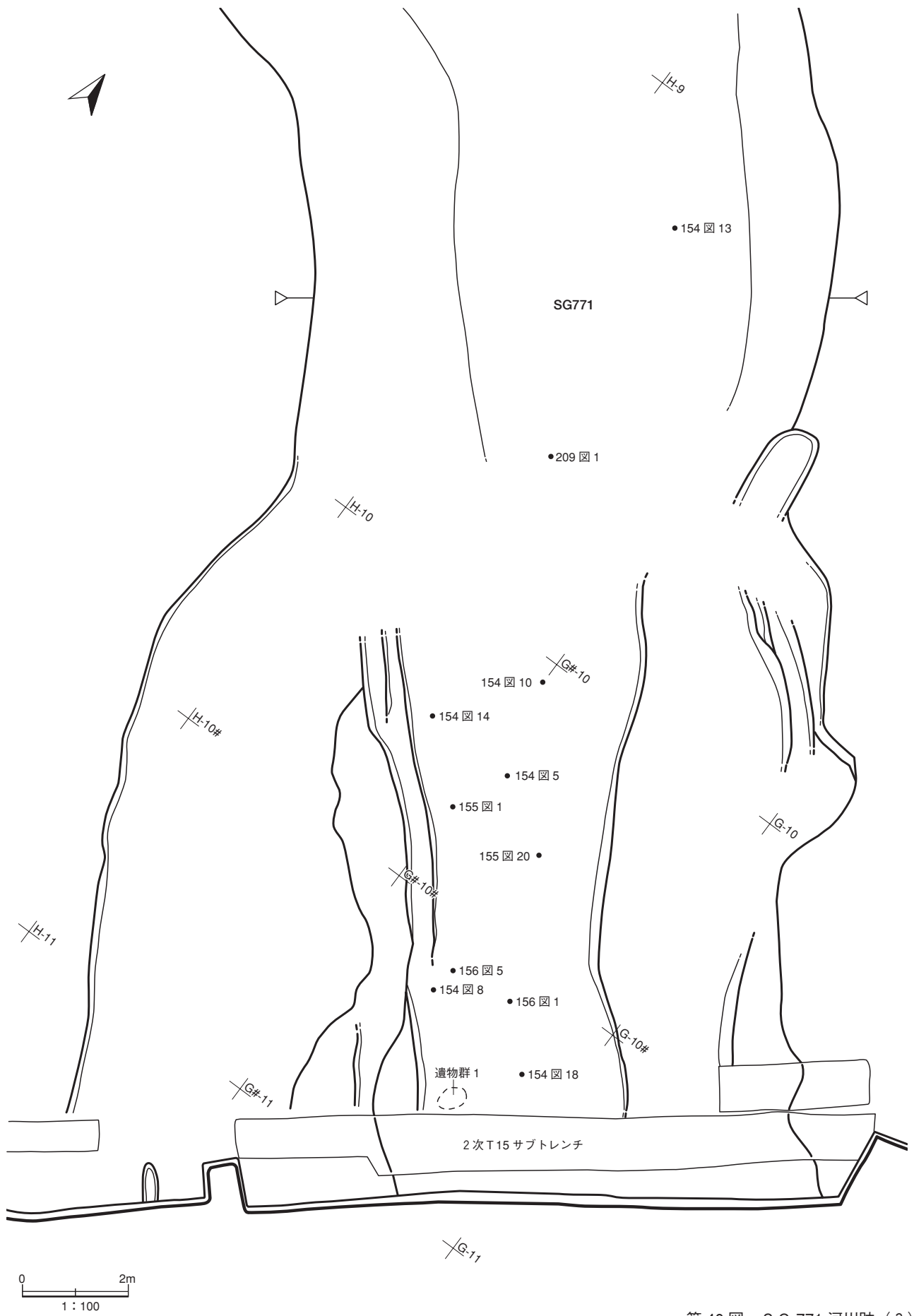
遺物は特に中央部でまとまって出土した。それらは土師器の坏・甕、須恵器の坏・蓋・壺・甕などの土器類が中心であるが(第160～166図)、皿・曲物・箸・斎串などの木製品も多い(第211～216図)。いずれも8世紀末葉～9世紀を主体とするものと考えられ、主に下層の河川からの出土である。なお、本河川跡から出土した木製の皿の一部(第211図5)について放射性炭素年代測定を行った。その結果、7世紀初頭から7世紀後半の年代範囲が示されている(第VI章1参照)。



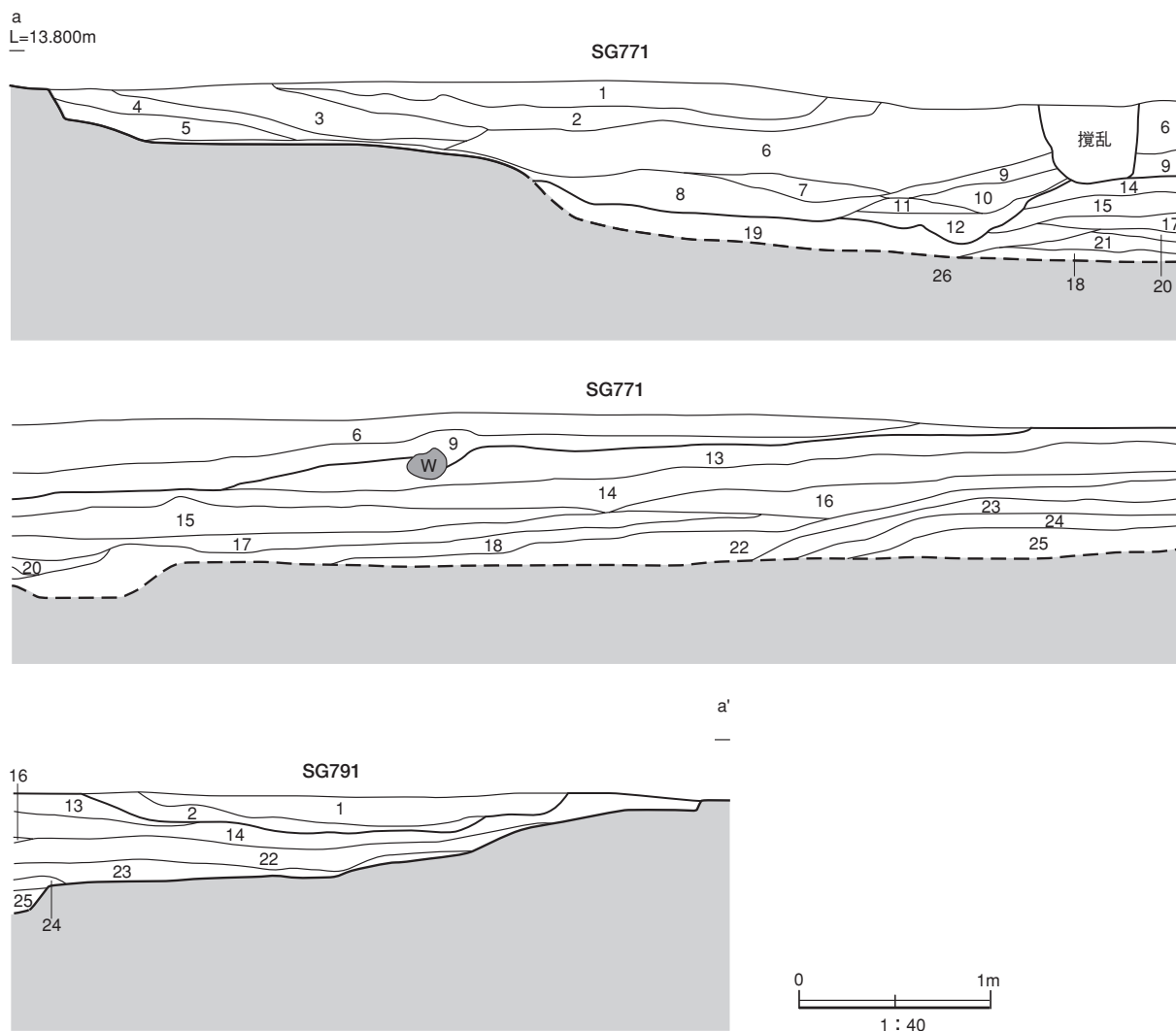
第 38 図 SG 771 河川跡 (1)



第39図 SG771河川跡(2)



第40図 SG771河川跡(3)



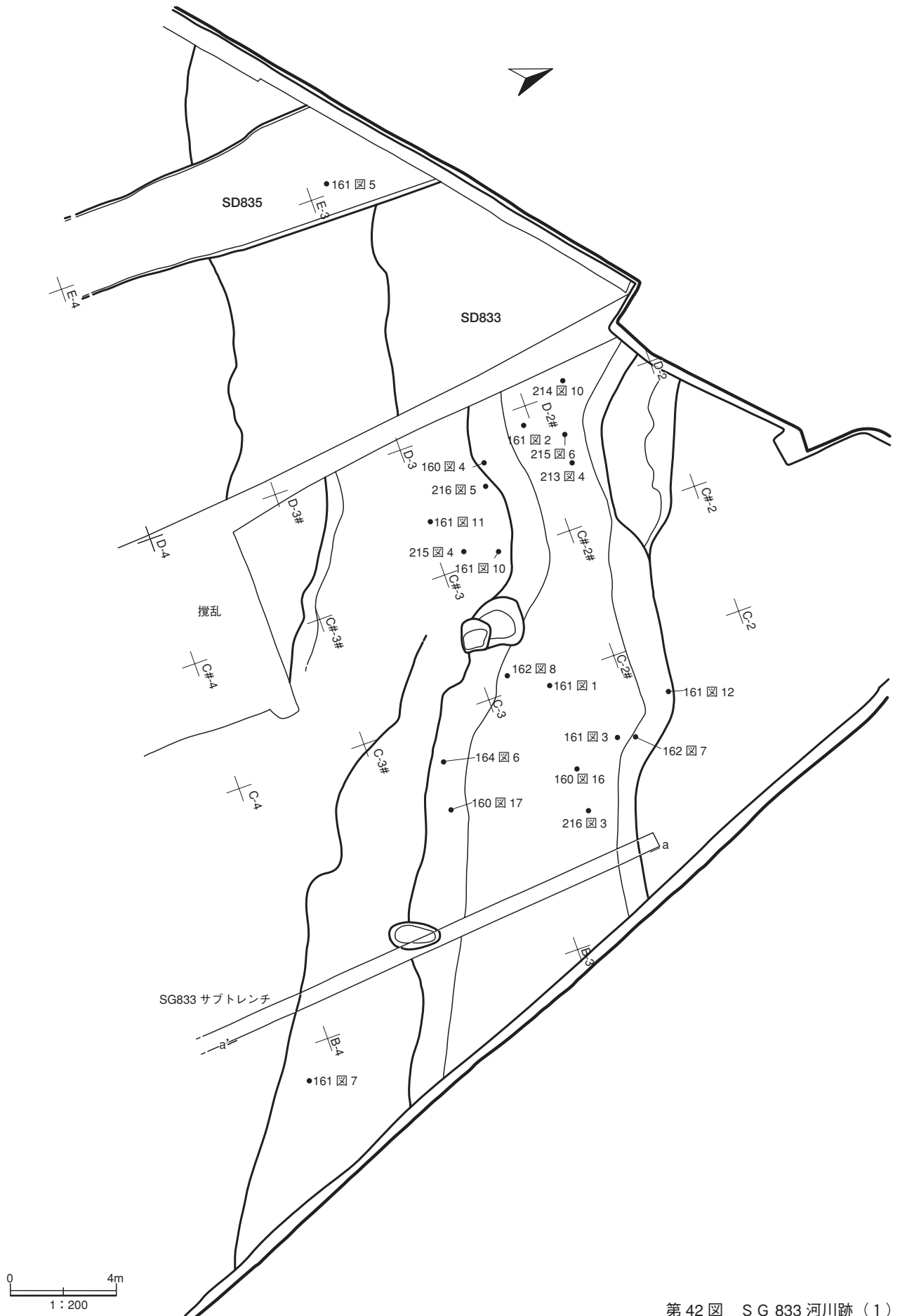
SG771 (1～12新河川・13～26旧河川)

- | | |
|---|--|
| 1. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、2.5Y6/2 中粒砂塊、層下部に多量の木片を含む。 |
| 2. 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト | しまり普通、木片、多くの腐植痕、2.5Y5/2 中粒砂、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む、最下部泥炭層。 |
| 3. 2.5Y5/2 明灰黄色粗～中粒砂 | しまり悪い、木片、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 4. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 | しまり悪い、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 5. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 6. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 中粒砂塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊、多量の木片、赤鉄化した植物痕、炭化物、層下部に基底礫岩状に2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。 |
| 7. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 8. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 | しまり悪い、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 9. 10Y5/1 灰色中粒砂 | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y6/2 粗粒砂塊、赤鉄化した植物痕、炭化物、木片を含む。 |
| 10. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、木片、2.5Y6/2 及び2.5Y6/4 粗粒砂塊を含む。 |
| 11. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂と2.5Y3/2 黒褐色粘質シルトの互層 | しまり普通、2.5Y6/4 粗粒砂塊、木片、2.5Y6/2 粘土塊(火山灰?)を含む。 |
| 12. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 中粒砂塊が斑に混じる、僅かに2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。 |
| 13. 2.5Y5/2 明灰黄色中粒砂と2.5Y3/2 黒褐色粘質シルトの互層 | しまり普通、木片、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 14. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、層状の2.5Y5/2 細粒砂、木片(流木?)、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 15. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、層状の10Y4/1 細粒砂、木片(流木?)、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 16. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 | しまり普通、層状の2.5Y4/2 粘質シルト、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 17. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、木片、炭化物、僅かに2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。 |
| 18. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、層状の2.5Y4/2 粘質シルト、木片、炭化物、2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。 |
| 19. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト、木片、炭化物、2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。 |
| 20. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 細粒砂塊、木片、炭化物、2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。 |
| 21. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト、木片、炭化物、2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。 |
| 22. 10Y4/1 灰色細粒砂と10Y3/1 オリーブ黒色粘質シルトの互層 | しまり普通、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 23. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、層状の10Y3/1 粘質シルト、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 24. 10Y4/1 灰色細粒砂と10Y3/1 オリーブ黒色粘質シルトの互層 | しまり普通、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 25. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、層状の10Y3/1 粘質シルト、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 26. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂 | しまり悪い、2.5Y6/4 粗粒砂塊が混じる。 |

SG791

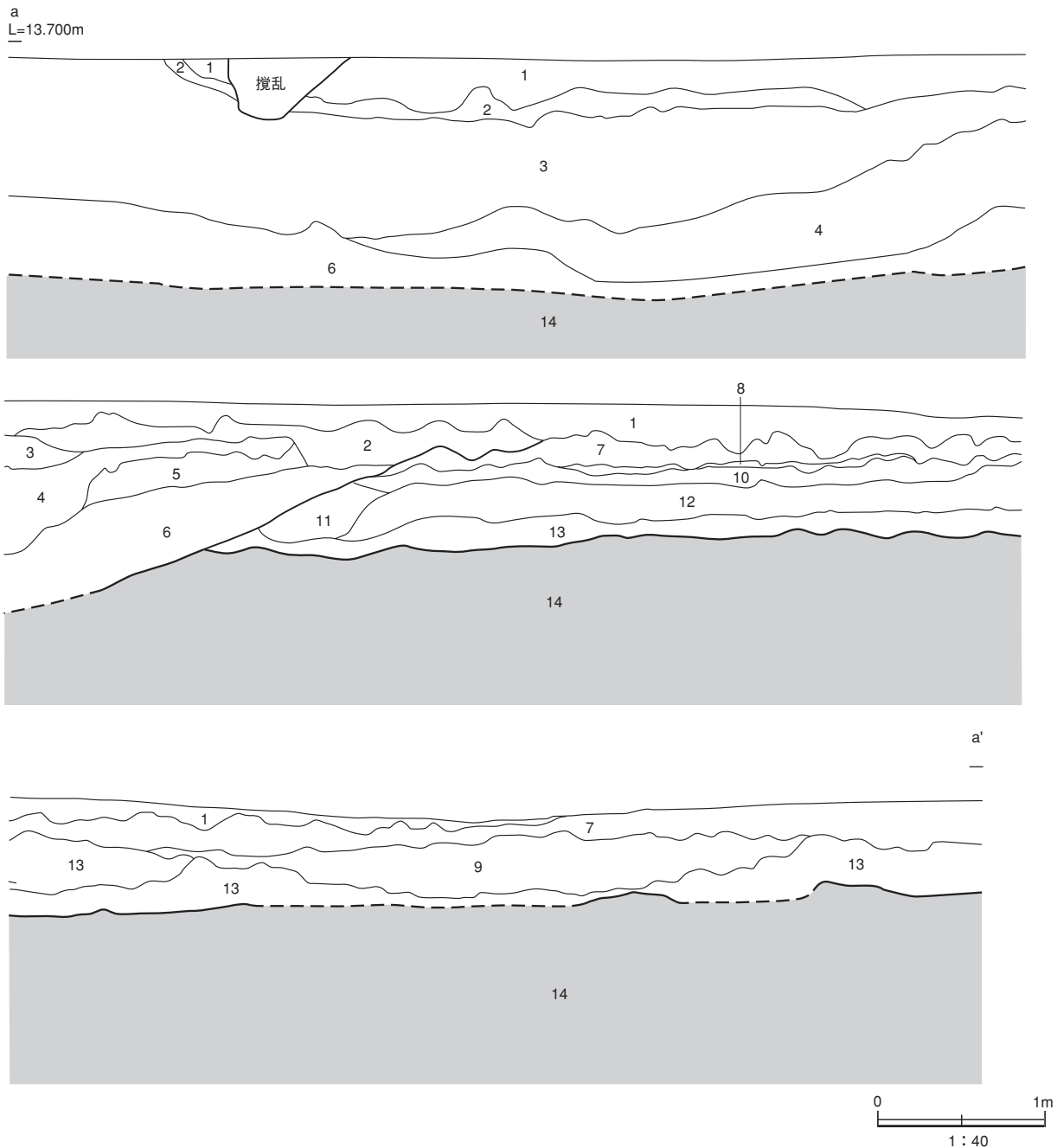
- | | |
|----------------------|--|
| 1. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、2.5Y6/2 中粒砂塊、層下部に多量の木片を含む。 |
| 2. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 中粒砂塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊、多量の木片、赤鉄化した植物痕、炭化物、層下部に基底礫岩状に2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。 |

第41図 SG 771 河川跡(4)



第 42 図 S G 833 河川跡 (1)

IV 検出された遺構



SG833

1. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト しまりよし、赤鉄化した植物痕、2.5Y5/2 粘質シルト、2.5Y6/2 粘土塊、2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。
2. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y3/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、2.5Y6/2 粘土塊（火山灰?）、2.5Y6/2 中粒砂塊、2.5Y6/4 粗粒砂塊を含む。
3. 5Y6/2 灰オリーブ色粘土（火山灰?）と 10Y4/2 オリーブ灰色粘質シルトの互層 しまり悪い、多量の木片、赤鉄化した植物痕、炭化物、白色粒（長石火山礫の変質物?）を含む。
4. 5Y6/2 灰オリーブ色粘土（火山灰?）と 2.5Y5/2 明灰黄色粗粒砂の混合層 しまり悪い、多量の木片、赤鉄化した植物痕、炭化物、白色粒（長石火山礫の変質物?）を含む。
5. 5Y6/2 灰オリーブ色粘土 しまり悪い、2.5Y6/2 粗粒砂塊、木片、2.5Y5/2 粗粒砂塊、炭化物を含む、火山灰?。
6. 5Y6/2 灰オリーブ色粘土 しまり悪い、2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y6/2 粗粒砂塊、木片、2.5Y5/2 粗粒砂塊、炭化物を含む、火山灰?。
7. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルトと 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルトの互層 しまり普通、赤鉄化した植物痕、木片、層下部に 2.5Y6/2 粘土塊（火山灰?）を含む。
8. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルトと 2.5Y6/2 灰黄色粘土（火山灰?）塊の互層 しまり普通、木片、赤鉄化した植物痕、層上部に多量の石英・長石粒を含む。
9. 10Y4/1 灰色中粒砂と 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルトの互層 しまり悪い、2.5Y6/2 粗粒砂塊、赤鉄化した植物痕、炭化物、木片を含む。
10. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルトと 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルトの互層 しまり悪い、途中に 5Y6/2 粘土（火山灰）を挟む、木片、炭化物、2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。
11. 2.5Y2/2 黒色粗粒砂 しまり悪い、多量に樹皮及び樹皮痕を含む、植物痕。
12. 5Y6/2 灰黄色粗粒砂 しまり悪い、木片、赤鉄化した植物痕を含む。
13. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂 しまり悪い、2.5Y3/2 粘質シルト塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊、層状、塊状の木片、炭化物を含む。
14. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂 しまり悪い、2.5Y3/2 粘質シルト塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊、層状、塊状の木片、炭化物を含む。

第 43 図 S G 833 河川跡（2）

B 竪穴住居跡

竪穴住居跡は、ST795・841・981・1171の4棟を検出した。ST795竪穴住居跡は第2次調査でST7として検出され、他は第3次調査において検出された。また、ST981竪穴住居跡は、第3次調査時に東側半分が、第4次調査時に西側半分が検出された。北東部遺構群内では竪穴住居跡は疎らに分布しており、集落の本体は調査区の北にあるものと考えられる。

ST 795 竪穴住居跡 (第44図)

第2次および第3次調査において、I-7区内で検出した。出土遺物から、奈良・平安時代の竪穴住居跡と推定される。SG771河川跡に隣接し、河川跡に沿うように北西-南東に主軸方向をそろえる。規模は、北西-南東は4.6m、南西-北東は4mで、平面形は、北西-南東方向にやや長い隅丸方形となる。遺構検出面からの深さは約8cmと浅く、周溝、柱穴、カマドおよび貼床等の施設は確認されなかった。

堆積土は地山との差が不明瞭であり、区別が困難であるが、土質がやや異なるため辛うじて検出することができた。遺存状況は良いとは言えず、一部は暗渠に切られている他、全体に後世の削平の影響を受けていると考えられる。

遺物は、8世紀末葉から9世紀を主体とするものである。須恵器の坏、土師器の坏、甕などが出土した(第167図)。

ST 841 竪穴住居跡 (第45・46図)

第3次調査において、E-4・5区内で検出した。出土遺物から、奈良・平安時代の竪穴住居跡と推定される。主軸はST795竪穴住居跡とほぼ同方向を向き、北西-南東に主軸方向を揃える。規模は、北西-南東5.9m、南西-北東は5.6m、平面形は、北西-南東方向にやや長い隅丸方形で、遺構検出面からの深さは約25cmである。後述するST1171竪穴住居跡によって、全体の約半分が壊されている。堆積土は地山との違いが不明瞭であり、区別が困難である。貼床等は見られず、周溝も明確には検出されなかった。カマドも確認されておらず、ST1711竪穴住居跡に壊されている可能性がある。また、遺構因子としてSP909柱穴が考えられる。

遺物は床面付近から出土したものがあるが、これらは

調査の進捗によって、ST1171竪穴住居跡に伴うものと推定された。

ST 1171 竪穴住居跡 (第45・46図)

第3次調査において、E-F-4~5区内で検出した。出土遺物から、奈良・平安時代の竪穴住居跡と推定される。ST841竪穴住居跡と重複関係にあり、主軸方向などが共通することから、ST841竪穴住居跡を建て替えたものである可能性が高い。

規模は、北西-南東5.2m、南西-北東は5mで、平面形は北西-南東方向にわずかに長い隅丸方形となる。遺構検出面からの深さは約28cmである。周溝、カマドなどが検出されており、周溝は幅約35cm、床面からの深さは約7cmである。カマドは南東側壁の東端付近で検出され、周囲からカマド袖の芯材と考えられる礫が出土した。貼床、柱穴などは確認されなかった。

堆積土は地山との差が不明瞭であり、区別が非常に困難である。そのため、ST1171竪穴住居跡は遺構検出時には確認できず、ST841竪穴住居跡の精査中にカマドが見つかったため検出することができた。遺存状況は比較的良いと言える。

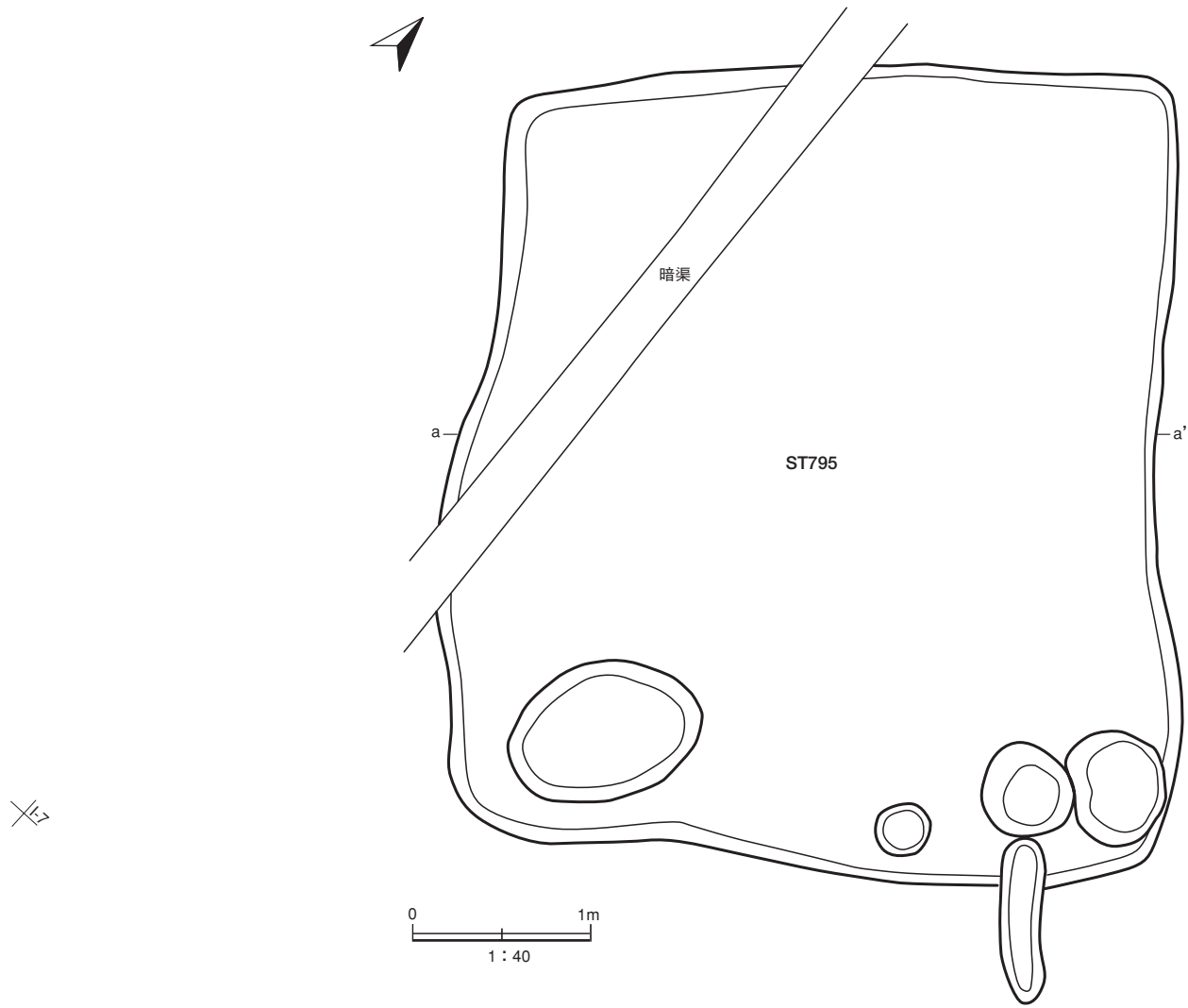
遺物は、カマド付近を中心に、須恵器の坏、土師器の甕等がまとまって出土した(第168・169図)。所属時期は8世紀末葉から9世紀を主体とするものである。

ST 981 竪穴住居跡 (第47~49図)

第3次および第4次調査において、D-5区内で検出した。出土遺物から、奈良・平安時代の竪穴住居跡と推定される。主軸方向はほぼ南北向きをそろえる。規模は、南北3.5m、東西3.6mと小形である。平面形はほぼ正方形となる。遺構検出面からの深さは約30cmである。周溝、カマド、貼床などの内部施設は確認されなかった。SP42は本住居跡に伴う柱穴の可能性が高い。また、EK1202・1203は本住居跡に伴う何らかの内部施設と考えられる。

堆積土は遺構検出面付近では比較的地山との区別がつきやすいが、遺構底面付近では地山との差が不明瞭になり、区別が困難である。

遺物は、須恵器の坏、蓋、甕、土師器の甕(第169~171図)の他、石製の紡錘車(第199図8)などが出土している。これらの所属時期は8世紀末葉から9世紀を主体とするものである。

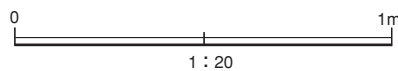
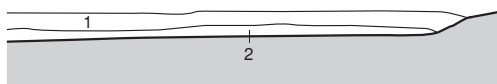


a
L=13.700m

ST795



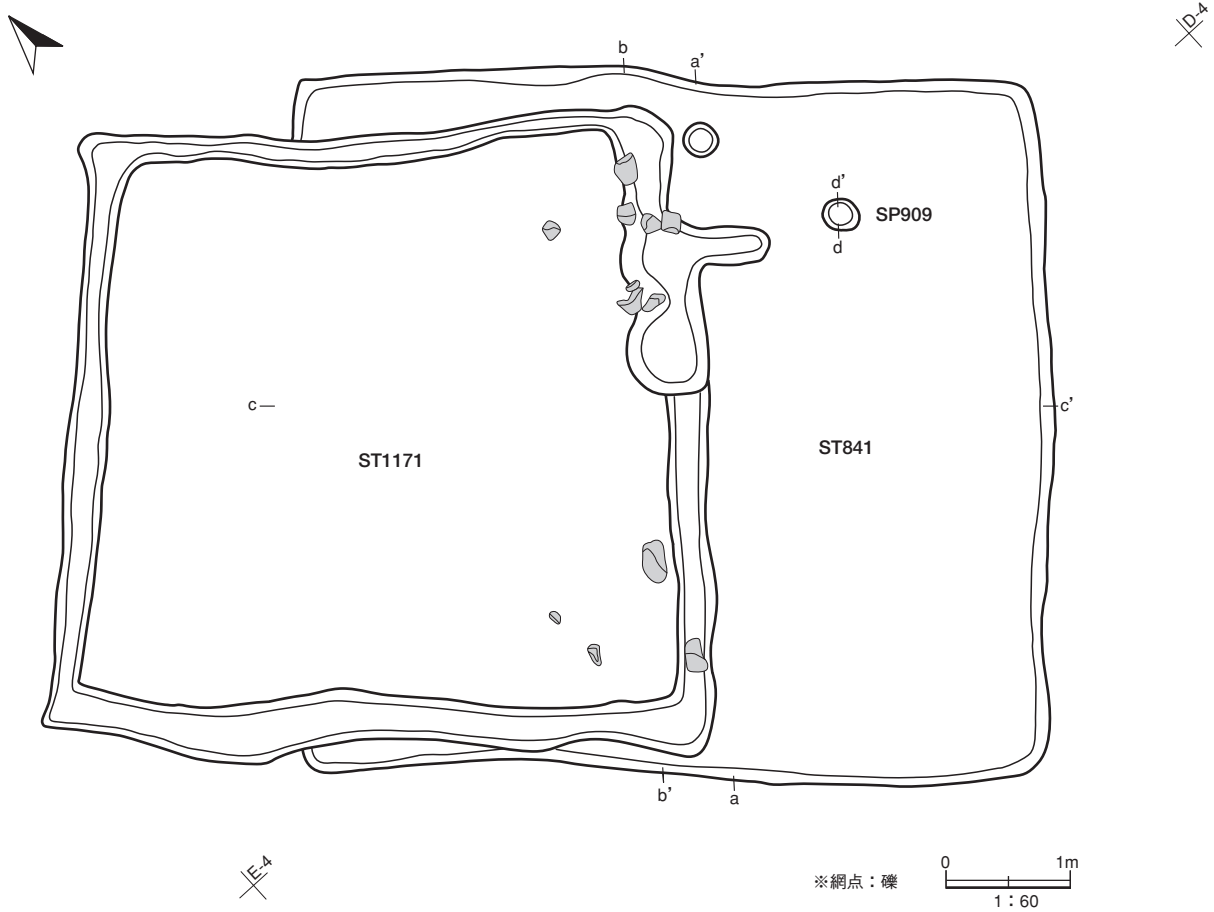
a'



ST795

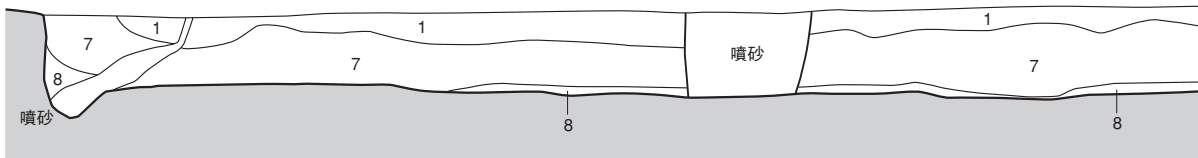
- 1. 25Y3/2 黒褐色粘質シルト しまり普通、炭化物、10Y5/1 砂質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。
- 2. 10Y5/1 灰色砂質シルト しまり悪い、2.5GY5/1 細粒砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。

第 44 図 S T 795 竪穴住居跡

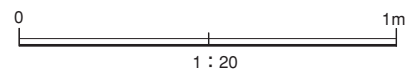
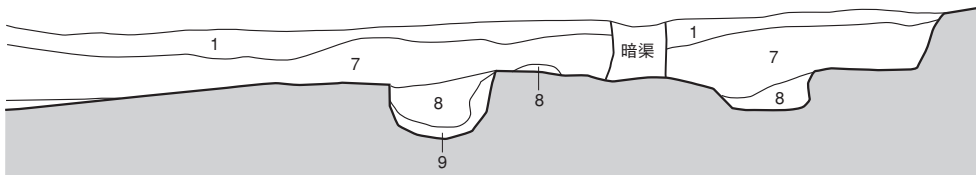


a
L=13.700m

ST841



a'

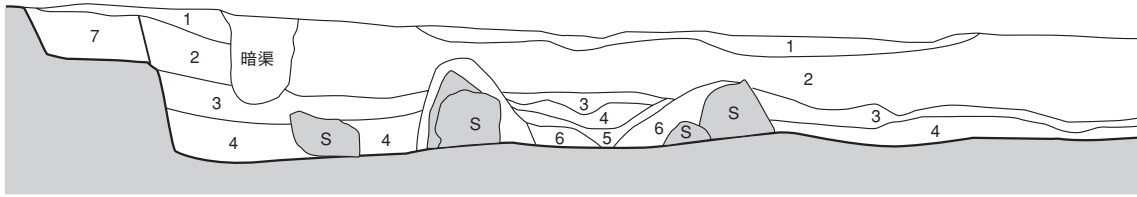


第45図 ST 841・1171 竪穴住居跡 (1)

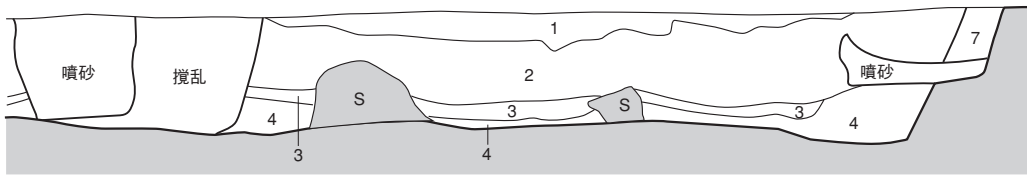
IV 検出された遺構

b
L=13.700m

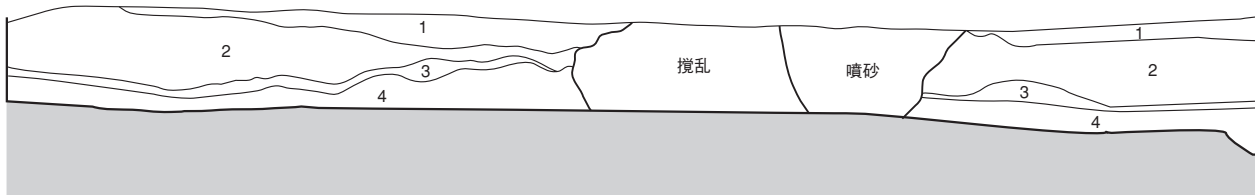
ST841・1171



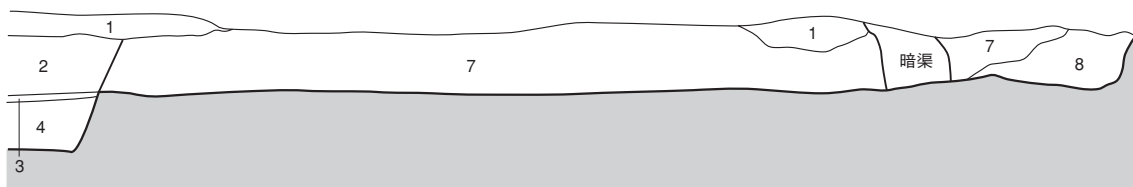
b'



c
L=13.600m



c'

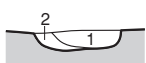


ST841・1171

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト | しまり悪い、10YR3/2 粘質シルト塊を含む、耕作土。 |
| 2. 7.5YR4/3 褐色砂質シルト | しまり悪い、多量に礫を含む。 |
| 3. 2.5Y3/2 黒褐色シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕、礫を含む。 |
| 4. 5Y3/2 オリーブ黒色シルト | しまり悪い、礫が混じる。 |
| 5. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y3/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 6. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y5/2 シルト塊、焼土、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 7. 2.5Y4/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、10Y4/1 中粒砂塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕、焼土を若干含む。 |
| 8. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、10Y4/1 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |
| 9. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、2.5Y5/2 シルト塊が斑に混じる、10Y4/1 中粒砂塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |

d SP909 d'

L=13.400m

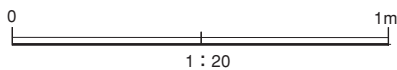


SP909

1. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト

2. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂

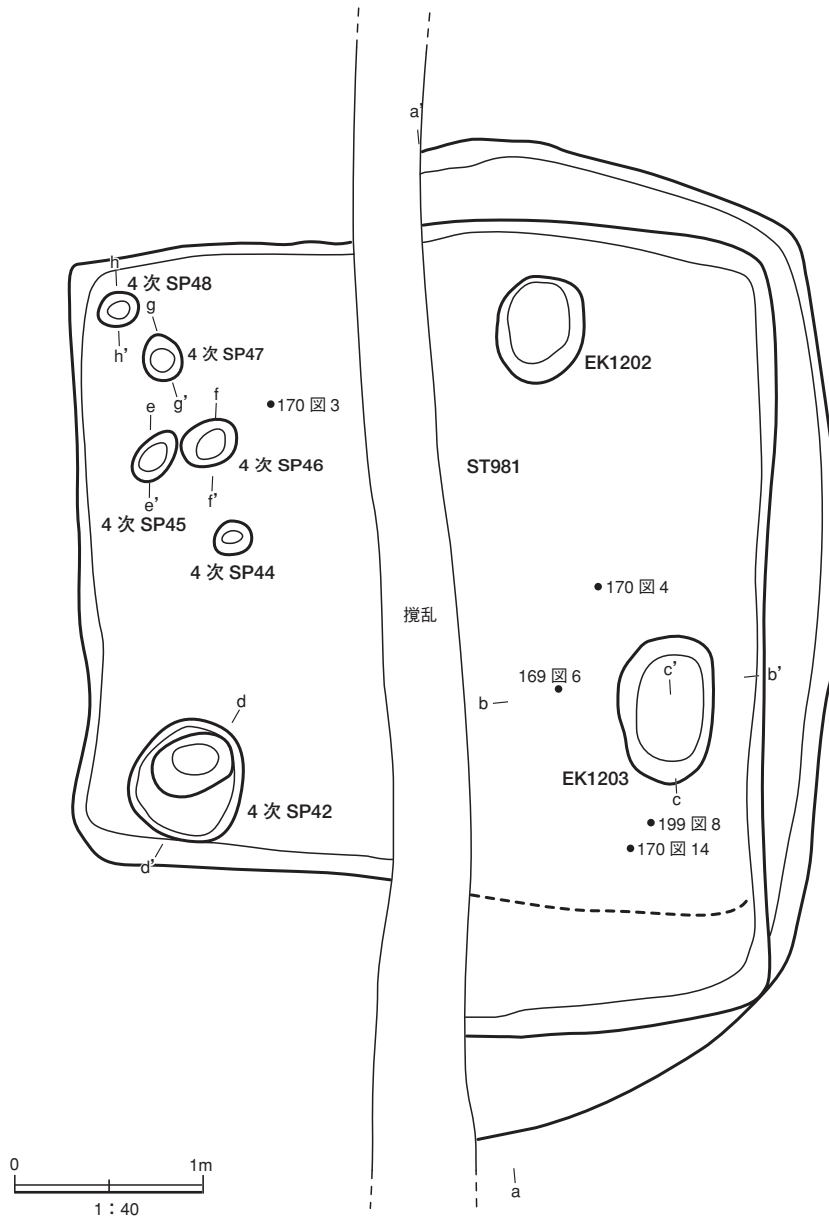
しまり悪い、2.5Y5/2 粘質シルト塊が斑に混じる、炭化物、2.5GY4/1 中粒砂塊、2.5Y6/2 中粒砂塊、2.5Y6/4 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。しまり悪い、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y6/2 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。



第46図 ST 841・1171 竪穴住居跡(2)

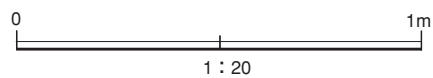
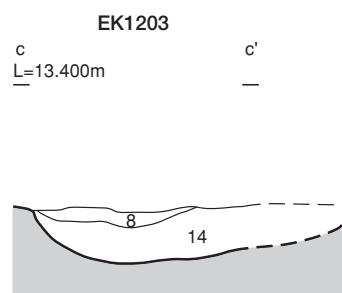
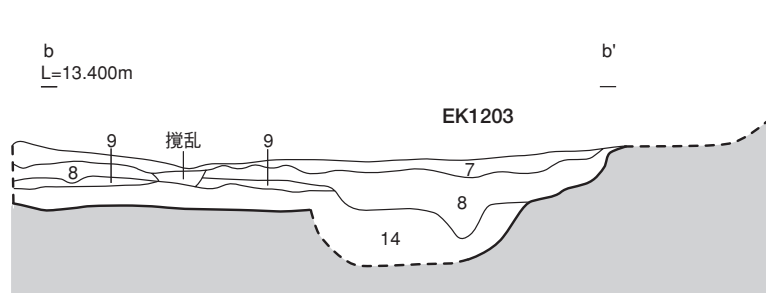
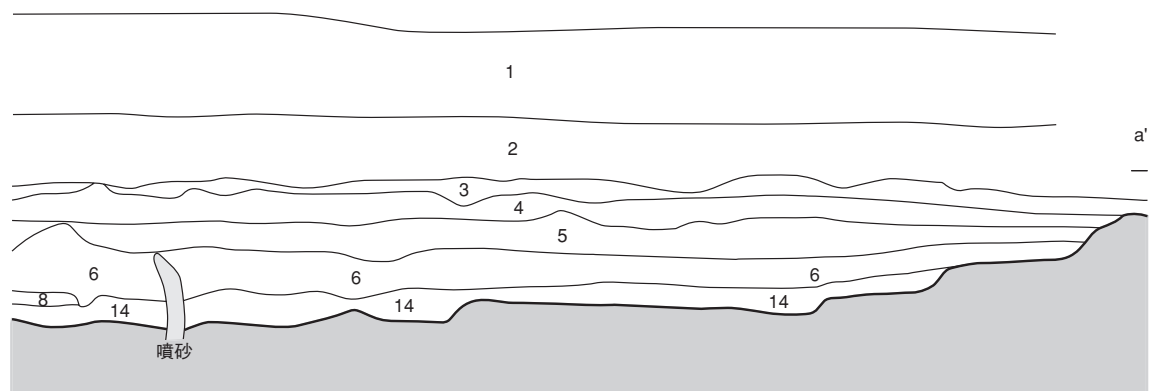
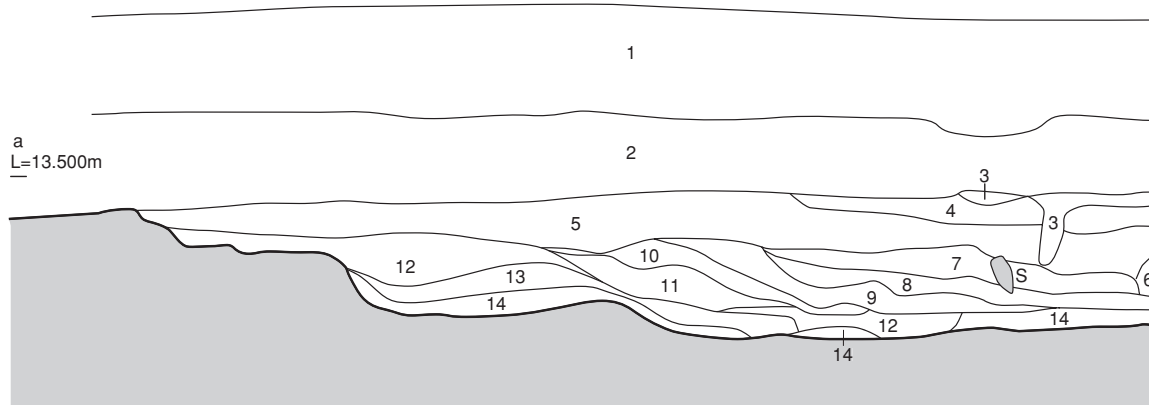


C-4



第 47 図 ST 981 竪穴住居跡 (1)

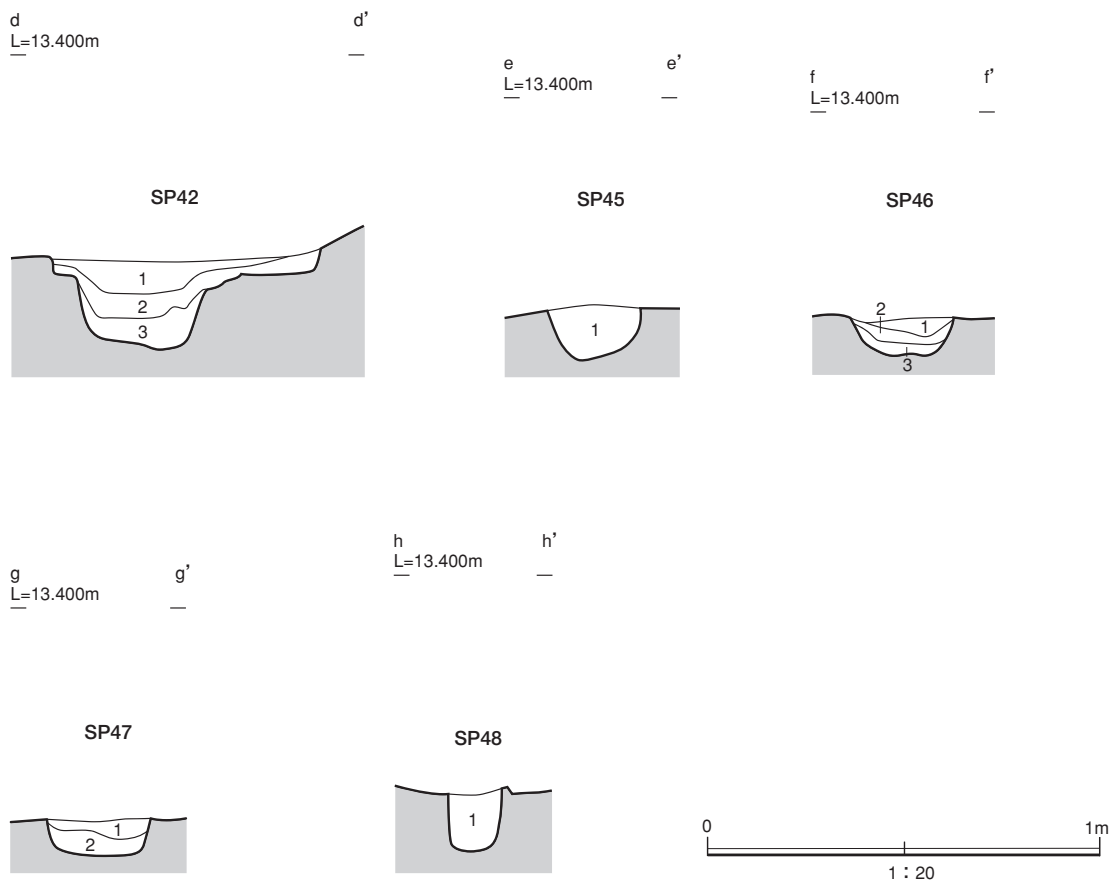
IV 検出された遺構



ST981

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト | しまり悪い、10YR3/2 粘質シルト塊を含む、耕作土。 |
| 2. 7.5YR4/3 褐色シルト | しまり悪い、多量に礫を含む、圃場整備の盛土？。 |
| 3. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕、礫を含む。 |
| 4. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質シルト | しまり悪い、礫が混じる、圃場整備の盛土？。 |
| 5. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y3/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 6. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y5/2 シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 7. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y5/2 シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 8. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 中粒砂塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 9. 10Y4/1 灰色中粒砂 | しまり悪い、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |
| 10. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、10Y4/1 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |
| 11. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、2.5Y5/2 シルト塊が斑に混じる、10Y4/1 中粒砂塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 12. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 13. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |
| 14. 10Y4/1 灰色中粒砂 | しまり悪い、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |

第 48 図 ST 981 竪穴住居跡 (2)



SP42

- 1. 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘土 炭 10%、下部に炭が堆積、粘性強い。
- 2. 7.5Y3/2 オリーブ黒色粘土 炭 3%、しまりよし、粘質強い。
- 3. 7.5Y4/1 灰色シルト 粒子非常に細かい、炭 3%、下部に有機物質の跡、2.5YR4/1 シルトに 20%の焼土混じる。

SP45

- 1. 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘土 粒子非常に細かい、炭 3%含む。粘性強い。

SP46

- 1. 2.5GY3/1 黒褐色粘土 粒子細かい、炭 5%含む。しまり強い。
- 2. 5Y4/1 灰色粘質シルト 粒子細かい、粘性強い。
- 3. 7.5Y4/1 灰色砂質シルト 粒子細かい、しまり普通、さらさらしている。

SP47

- 1. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質シルト 粒子非常に細かい、炭 1%含む。にごり、粘性やや強い。
- 2. 7.5Y4/1 灰色粘質シルト 粒子非常に細かい、植物根混じる。炭 5%含む。

SP48

- 1. 5Y4/1 灰色粘土 粒子細かい、炭 5%含む。5 mm前後の炭粒、にごり、粘性非常に強い。

第 49 図 S T 981 竪穴住居跡 (3)

C 土坑・性格不明遺構

S K 1046 土坑 (第 50 図)

第 3 次調査において、E・F-4・5 区で検出した。出土遺物から奈良・平安時代の土坑と考えられる。規模および平面形は、長軸長 3.5m、短軸長 2.4m の南北に長い不整楕円形となる。立ち上がりは緩やかで、底面は凹凸を持つ。遺構検出面からの深さは一定ではないが、15～30 cm 程である。ST1171 竪穴住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。堆積土は炭化物等を含むが、地山との区別がつき難い。また、後世の遺構や噴砂などによる攪乱も見られる。遺物は比較的まとまった量が出土した。出土した遺物は須恵器の坏・蓋、土師器の甕などで、8 世紀末葉から 9 世紀と考えられるものが主体である (第 172・173 図)。また、後世の攪乱からの混入と考えられる陶器の壺 (第 173 図 8) も出土している。

S K 1141 土坑 (第 50 図)

第 3 次調査において、B-7 区で検出した。出土遺物から奈良・平安時代の土坑と考えられる。規模および平面形は、長軸長 2.5m、短軸長 1.5m の東西に長い不整楕円形となる。立ち上がりは緩やかで、底面は起伏がある。遺構検出面からの深さは一定ではないが、15～25 cm 程である。堆積土は炭化物等を含み、層序中に炭化物層が見られるなど、地山との区別は比較的容易である。遺物はわずかであるが、土師器の坏 (第 173 図) や木製品 (第 217 図) などが出土した。

S K 1142 土坑 (第 50 図)

第 3 次調査において、B-7 区で検出した。出土遺物から奈良・平安時代の土坑と考えられる。規模および平面形は、長軸長 1.45m、短軸長 1.35m の南北にわずかに長い不整楕円形となる。立ち上がりは緩やかで、底面は南側へ向かって傾斜する。遺構検出面からの深さは一定ではないが、10～20 cm 程である。堆積土は炭化物等を含み、炭化物層が見られるなど、地山との区別は比較的容易である。遺物は 9 世紀代のもと考えられる土師器の坏 (第 173 図) が出土している。

S K 1179 土坑 (第 51 図)

第 3 次調査において、C-8 区で検出した。出土遺物から奈良～平安時代の土坑と考えられる。規模および平面形は、長軸長 55 cm、短軸長 1.15m の南北に長い不整

楕円形となる。底面は丸みを持ち、立ち上がりは、南側ではやや緩やかであるが、その他ではほぼ垂直に立ち上がる。遺構検出面からの深さは約 40 cm である。堆積土は炭化物等を含み、地山と区別される。また、堆積土は、炭化物を含む層と含まない層が互層になっており、柱穴の可能性も考えられる。出土した遺物は、8 世紀末葉から 9 世紀を主体とするものである。須恵器の坏・蓋、土師器の甕などが出土した (第 174 図)。

S K 76 土坑 (第 51 図)

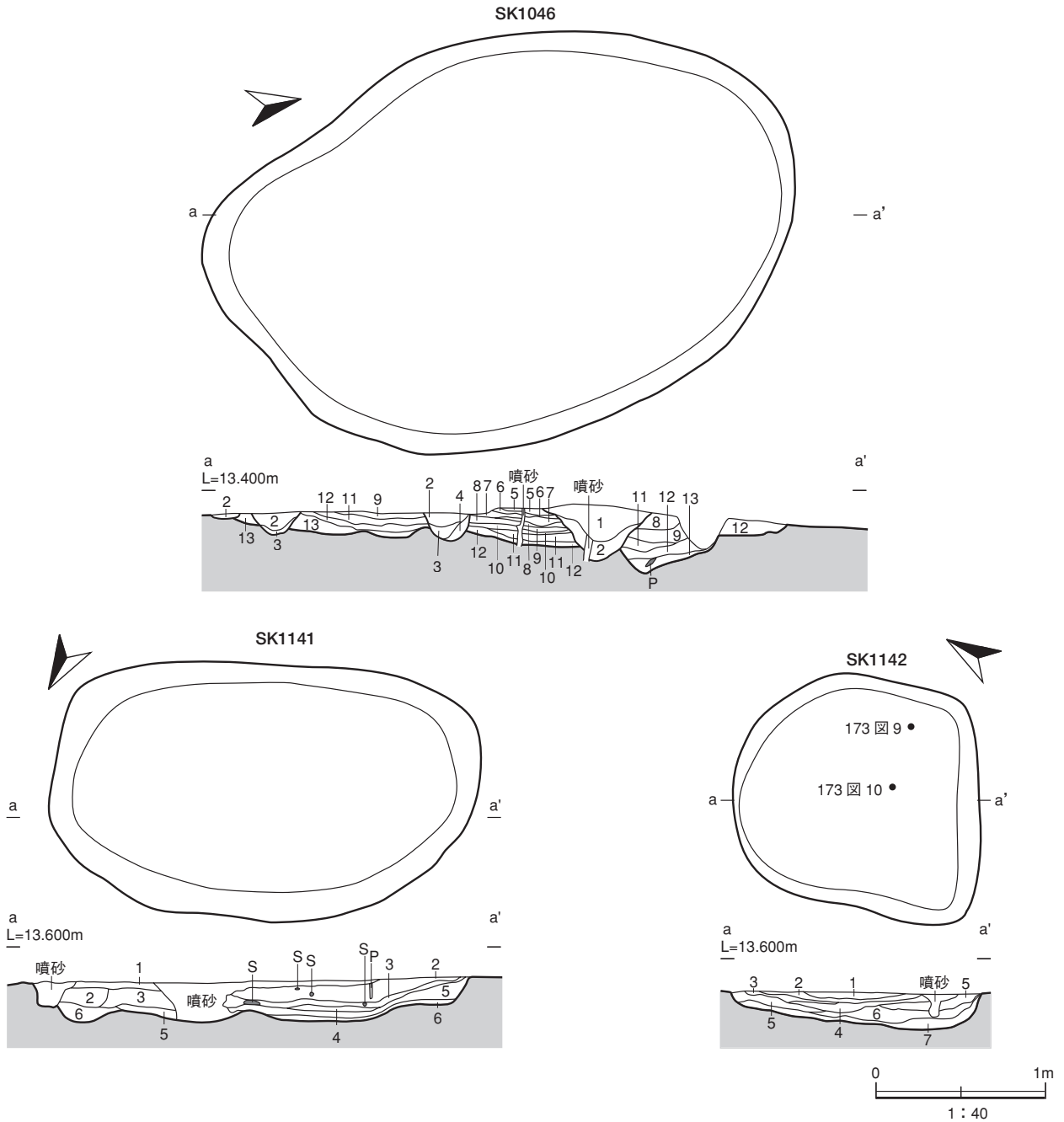
第 4 次調査において、D-7 区で検出した。出土遺物から奈良・平安時代の土坑と考えられる。西側の約半分が後世の攪乱により失われている。規模および平面形は南北 60 cm、東西 45 cm 以上の不整楕円形となる。立ち上がりは緩やかで、底面はやや起伏がある。遺構検出面からの深さは約 8 cm と浅い。堆積土はわずかであるが炭化物等を含み、地山と区別される。出土した遺物は、8 世紀末葉から 9 世紀を主体とするものである。土師器の甕や墨書のある須恵器の坏が出土した (第 180 図)。

S K 89 土坑 (第 51 図)

第 4 次調査において、D-8 区で検出した。出土遺物から奈良・平安時代の土坑と考えられる。南東端は調査区外に伸びており検出できなかった。規模および平面形は、長軸長 85 cm 以上、短軸長 85 cm の不整楕円形となる。立ち上がりは比較的急で底面が狭く、「V」字に近い断面形となる。遺構検出面からの深さは約 60 cm である。堆積土は、ごく少量であるが炭化物等を含み、地山と区別される。出土した遺物は、9 世紀を主体とするものである。土師器の坏を図化した (第 180 図)。

S X 1166・1168・1169 落込み (第 52 図)

第 3 次調査において、C-7 区で検出した。当初それぞれ別の遺構として登録したが、出土遺物などから同一の遺構と考えられる。後世の削平の影響を受けているとみられ、はっきりとした形状は確認できなかった。遺構検出面からの深さはごく浅い。堆積土は地山との区別がつき難く、遺物の出土によってその存在を把握することができた。遺物は比較的まとまった量が出土した。8 世紀末葉から 9 世紀を主体とするもので、須恵器の坏、土師器の坏・甕などがある (第 174～176 図)。また、墨書のある土師器の坏がまとまって出土しており、「成」の文字が書かれたものが複数確認された。



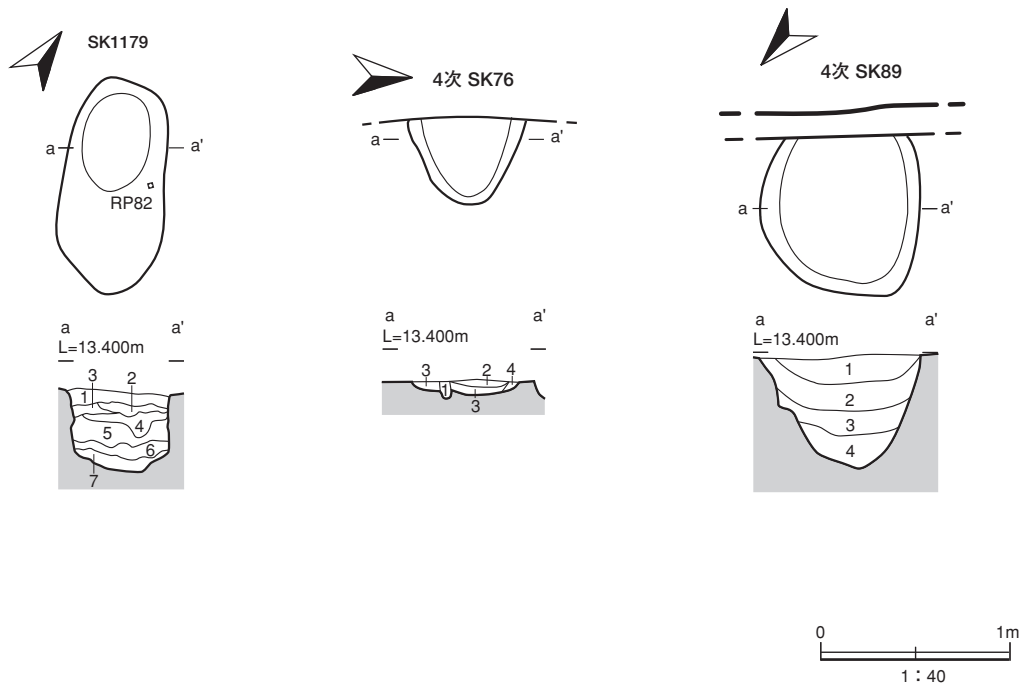
SK1046

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまりよし、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |
| 2. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 砂質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 3. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 砂質シルト塊、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 4. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 5. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 6. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |
| 7. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |
| 8. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 9. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、赤鉄化した植物痕、僅かに 2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物を含む。 |
| 10. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 細粒砂塊、炭化物を含む。 |
| 11. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、2.5Y5/2 砂質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 12. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 細粒砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |
| 13. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 細粒砂塊、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |

SK1141

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、炭化物、2.5Y5/2 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 2. 2.5Y3/2 黒褐色木炭層 | しまり悪い、2.5Y5/2 砂質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 3. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、炭化物、2.5Y5/2 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 4. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 5. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、炭化物、木片を含む。 |
| 6. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |

第 50 図 S K 1046・1141・1142 土坑



SK1142

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、炭化物、2.5Y5/2 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 2. 2.5Y3/2 黒褐色木炭層 | しまり悪い、2.5Y5/2 砂質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 3. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、炭化物、2.5Y5/2 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 4. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 5. 5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、炭化物、木片を含む。 |
| 6. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、稀に炭化物を含む。 |
| 7. 2.5Y5/2 明灰黄色細粒砂 | しまり悪い、赤鉄化した植物痕を含む。 |

SK1179

- | | |
|----------------------|---|
| 1. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 2. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む、塊状、層状に炭化物を含む。 |
| 3. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 4. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む、塊状、層状に炭化物を含む。 |
| 5. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 6. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む、塊状、層状に炭化物を含む。 |
| 7. 10Y4/1 灰色砂質シルト | しまり悪い、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |

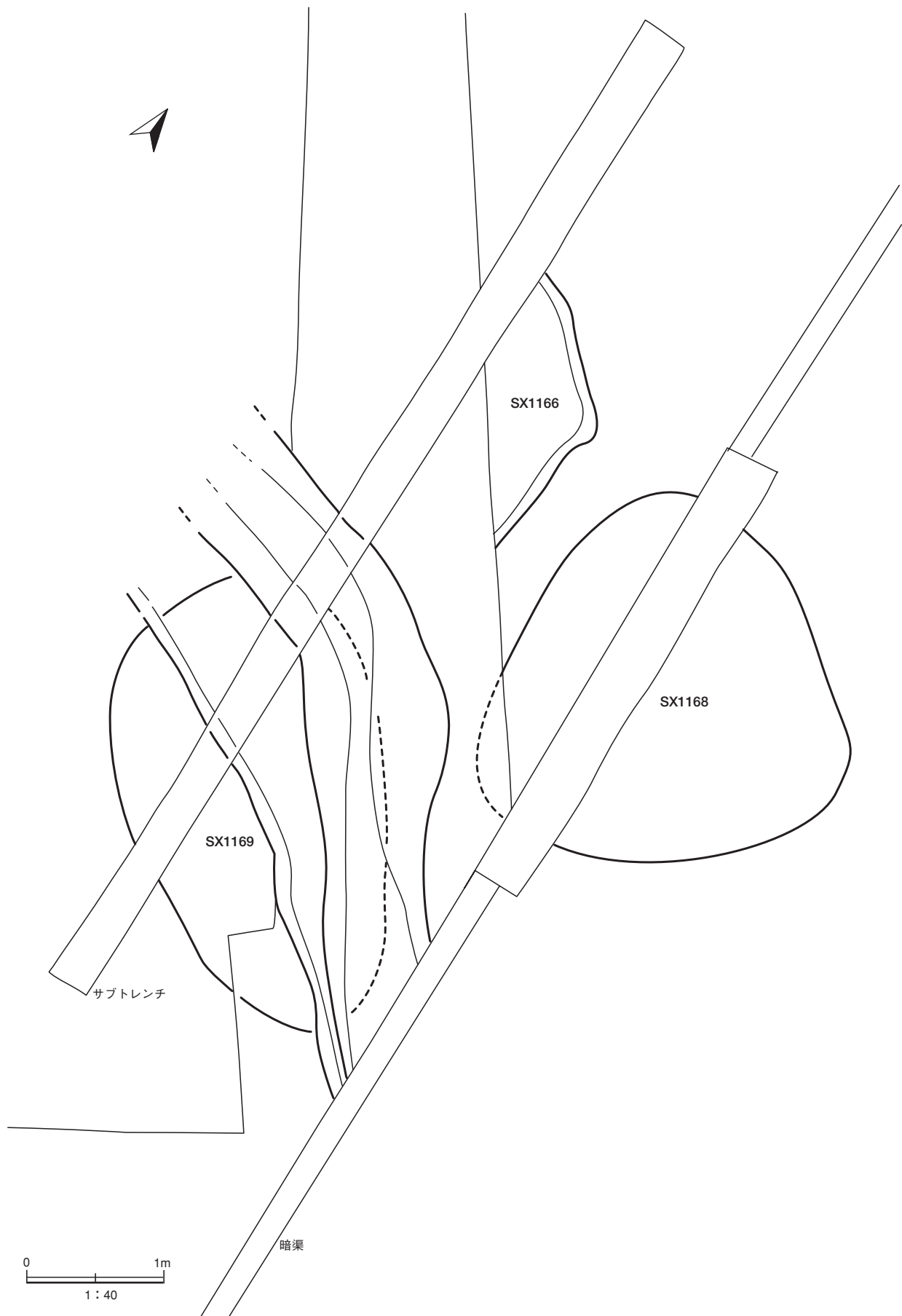
4次 SK76

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 5Y4/1 灰色粘質シルト | 粒子非常に細かい、しまりよし、粘性強い。 |
| 2. 5Y5/1 灰色粘質シルト | 粒子非常に細かい、しまりよし、粘性普通。 |
| 3. 5Y4/1 灰色粘質シルト | 粒子細かい、炭3%含む、しまり普通、粘性普通。 |
| 4. 5Y5/1 灰色粘質シルト | 粒子細かい、炭1%含む、しまり普通、粘性普通。 |

4次 SK89

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 1. 5Y5/1 灰色粘質シルト | 粒子非常に細かい、炭1%含む、しまりよし、粘性弱い。 |
| 2. 2.5Y5/1 黄灰色粘質シルト | 粒子非常に細かい、炭2%含む、しまり普通、粘性普通。 |
| 3. 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト | 粒子細かい、炭3%含む、しまり普通、粘性普通。 |
| 4. 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト | 粒子細かい、しまり悪い、粘性普通。 |

第51図 SK 1179・76・89土坑



第 52 図 S X 1166・1168・1169 性格不明遺構

4 中央部遺構群

南西部遺構群と北東部遺構群に挟まれた区域を、中央部遺構群とした。本遺構群は、奈良・平安時代の集落と中世の居館跡で構成されており、この二つの時期が主体となる。

本遺構群内の主な遺構には、河川跡 (SG1045)、溝跡 (SD589)、掘立柱建物跡 (SB960～965)、井戸跡、土坑などがある。SD589 溝跡と掘立柱建物跡をはじめとする柱穴群が中世の遺構で、土坑や井戸は主に奈良・平安時代の遺構と考えられる。これらの遺構は SD589 溝跡の内外に分布するが、その内側はやや密に分布し、外側は散漫となる。柱穴は、その一部が掘立柱建物跡や柱穴列としての組み合わせが可能であったが、多くは径が小さく浅いものであった。SD589 溝跡内の遺構検出面は周囲に比べてやや高いことから、後世の削平を深く受けている可能性がある。

中央部遺構群は他の遺構群に比べ、出土遺物の全体量が少ない。SG1045 河川跡や SD589 溝跡からは、比較的まとまった量が出土したものの、遺構規模に比べると量は少なく、その他の遺構からの出土はわずかである。ただし、木製品については、井戸跡から斎串や曲物、井戸枠などまとまった量の遺物が出土した。

A 河川跡

SG 1045 河川跡 (第 53～55 図)

SG1045 河川跡は、第 3 次調査において、Q～S-14～16 区で検出された大規模な河川跡である。遺構検出時に南西岸を検出したが、北東側の岸は確認できなかった。遺構精査においては、遺構の規模が大きく完掘による調査は難しかったため、トレンチ調査を行った。調査の結果、幅最大約 30m、深さは約 1.2m まで確認したが、いずれもさらに広がる。また、北東岸の立ち上がりは検出されなかった。

河川跡は、調査区を南東から北西に蛇行しつつ横断する。隣接する遺物包含層と重複し、それを切って流れていることが確認された。土層断面観察からは、堆積と浸食を繰り返していることが窺われ、流路を変化させながら一帯を流れていたことが推測される。主に川岸にあたる 16 層で遺物が出土している。

堆積土は主に砂質であり、南西岸付近では比較的容易に地山と区別できる。しかし、一帯が堆積地となるため、北東側では非常に区別が付き難い。また、堆積土の一部に火山灰の可能性のある暗オリーブ色の粘土が含まれていたため、その粘土を採取してテフラ分析を行った。分析の結果、粘土中には火山ガラスがほとんど含まれておらず、火山灰と同定することはできなかった (第 VI 章 8 参照)。

出土遺物は主に河岸部で検出されたが、遺構の規模に比べて出土量は少ない。土師器の坏・高坏・甕 (第 187 図)、木製品 (第 218 図) などが出土している。土師器は古墳時代後期を主体とするものであり、本河川跡は古墳時代の河川跡であると推定される。なお、出土した木材 3 点について放射性炭素年代測定を行ったところ、試料ごとに年代範囲が異なるものの、全体としては 4 世紀前半から 7 世紀前半、古墳時代から奈良時代の年代範囲が示された (第 VI 章 1 参照)。

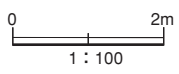
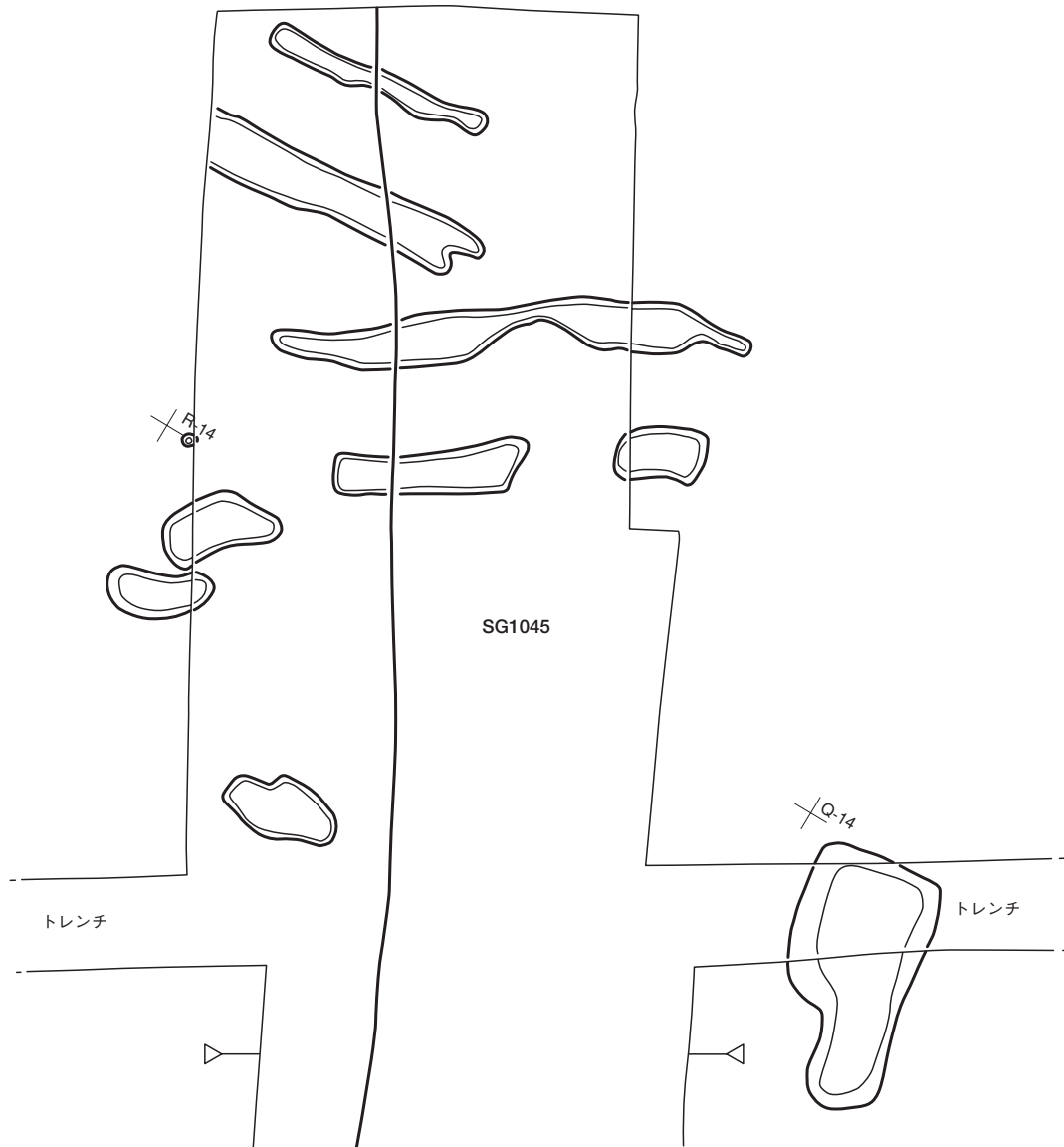
B 溝跡

SD 589 溝跡 (第 56～58 図)

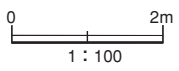
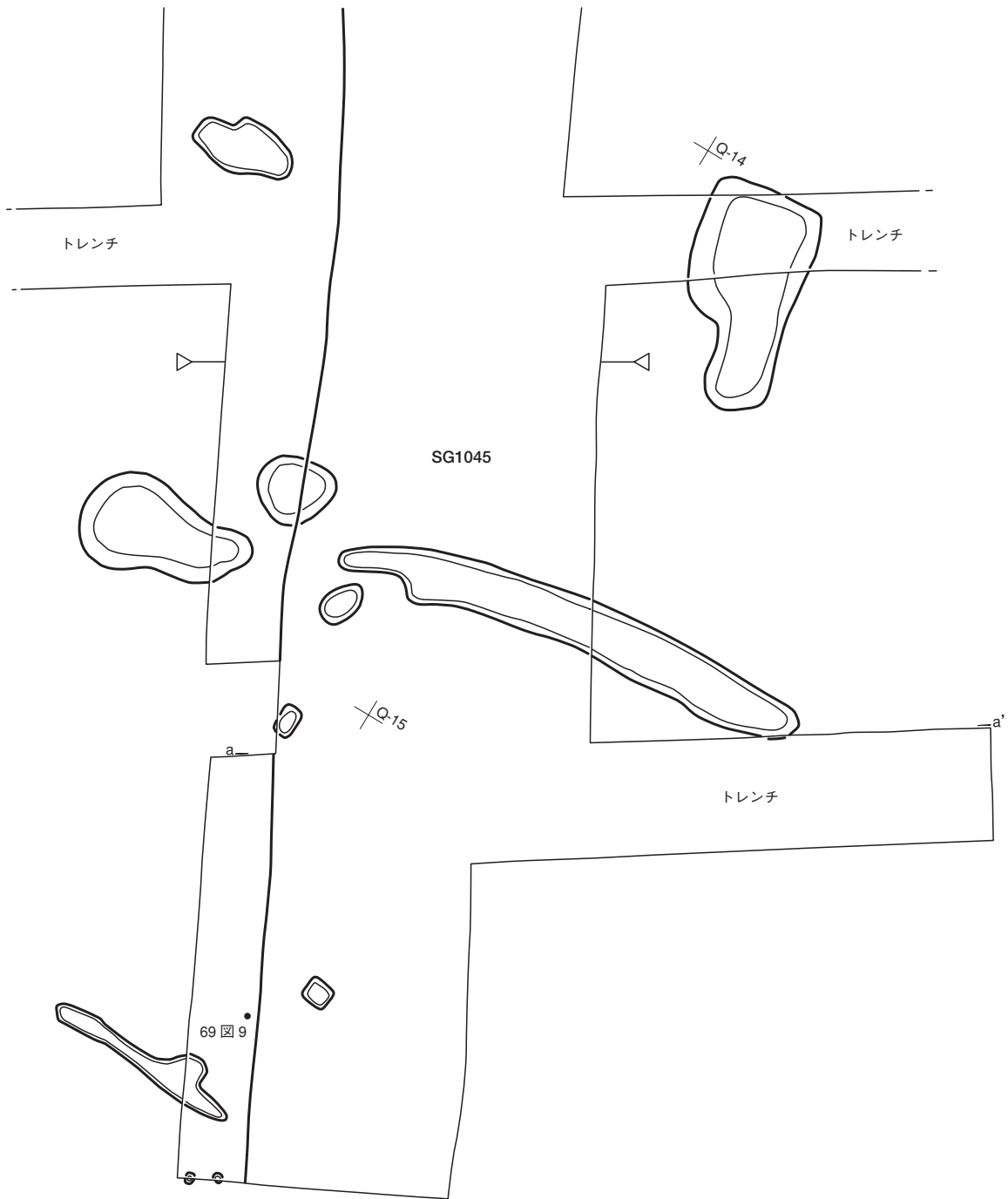
SD589 溝跡は第 3 次調査において、M～Q-10～15 区で検出した溝跡である。一辺約 45m で方形に廻っており、M-14 グリッド杭付近で、約 1.5m に渡り一部溝が切れている。中世の区画溝と考えられ、溝の切れる部分は出入口などの施設の可能性があると考えられる。

溝跡は、SG1045 河川跡によって堆積した砂の上に位置しており、区画された土地は周囲よりもやや高くなっている。堆積土は炭化物等を含むシルトであり、砂質の地山とは明確に区別される。幅 1.5～2.5m、遺構検出面からの深さは深いところでも 30 cm 程度と浅く、後世の削平を深く受けていると考えられる。区画内には柱穴・土坑・井戸跡などの遺構が分布しているが、居館跡を構成するものは主に柱穴群と考えられ、土坑・井戸跡は奈良・平安時代の遺構と考えられる。

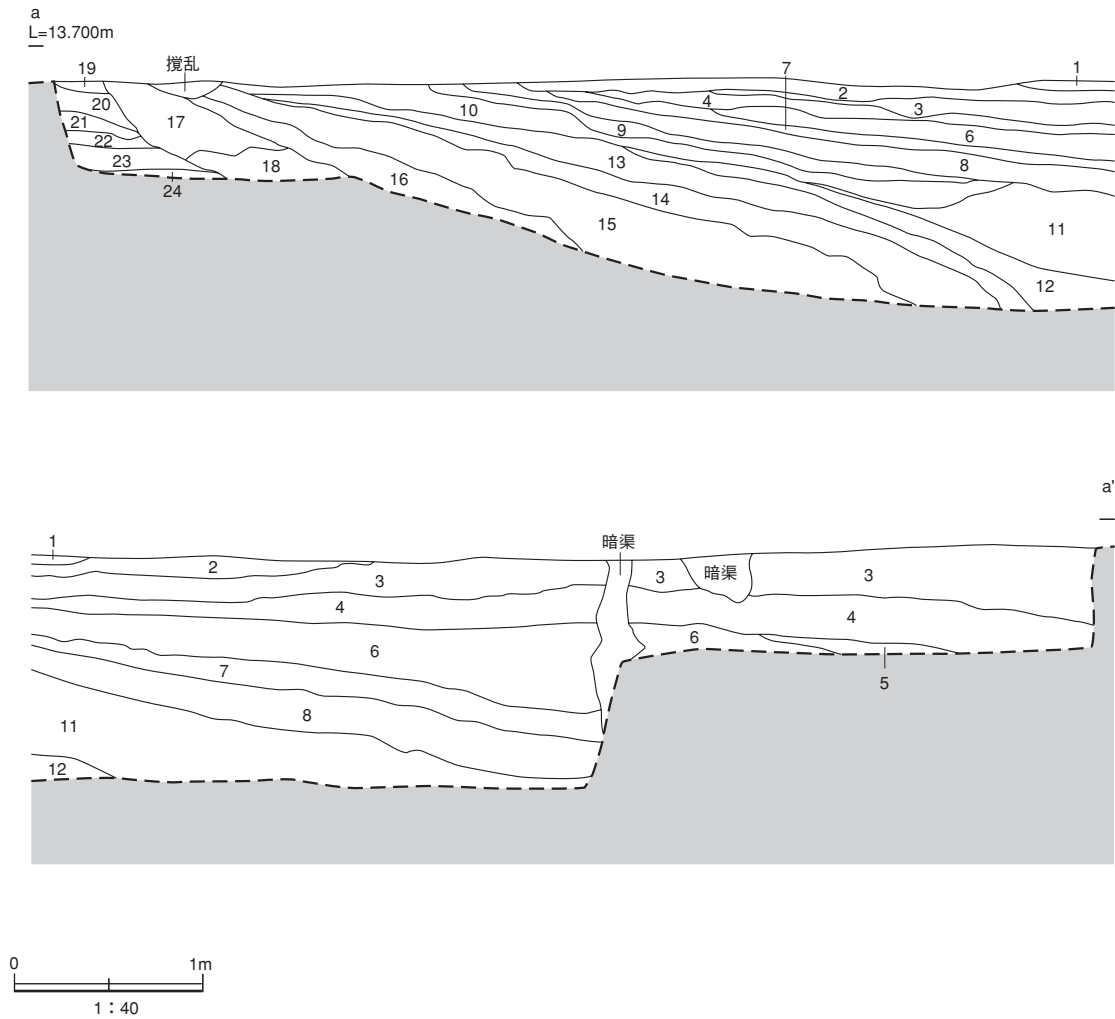
出土した遺物は、土師器の高坏・坏・甕、須恵器の坏・蓋・甕の土器類が大半を占める (第 188・189 図)。これらは、古墳時代および奈良・平安時代の遺構からの流れ込みと考えられる。中世の遺物は数が少ないが、青花の皿と小坏 (第 189 図 8・9) などが出土した。また、板材などの木製品 (第 218 図) も出土している。



第 53 図 S G 1045 河川跡 (1)



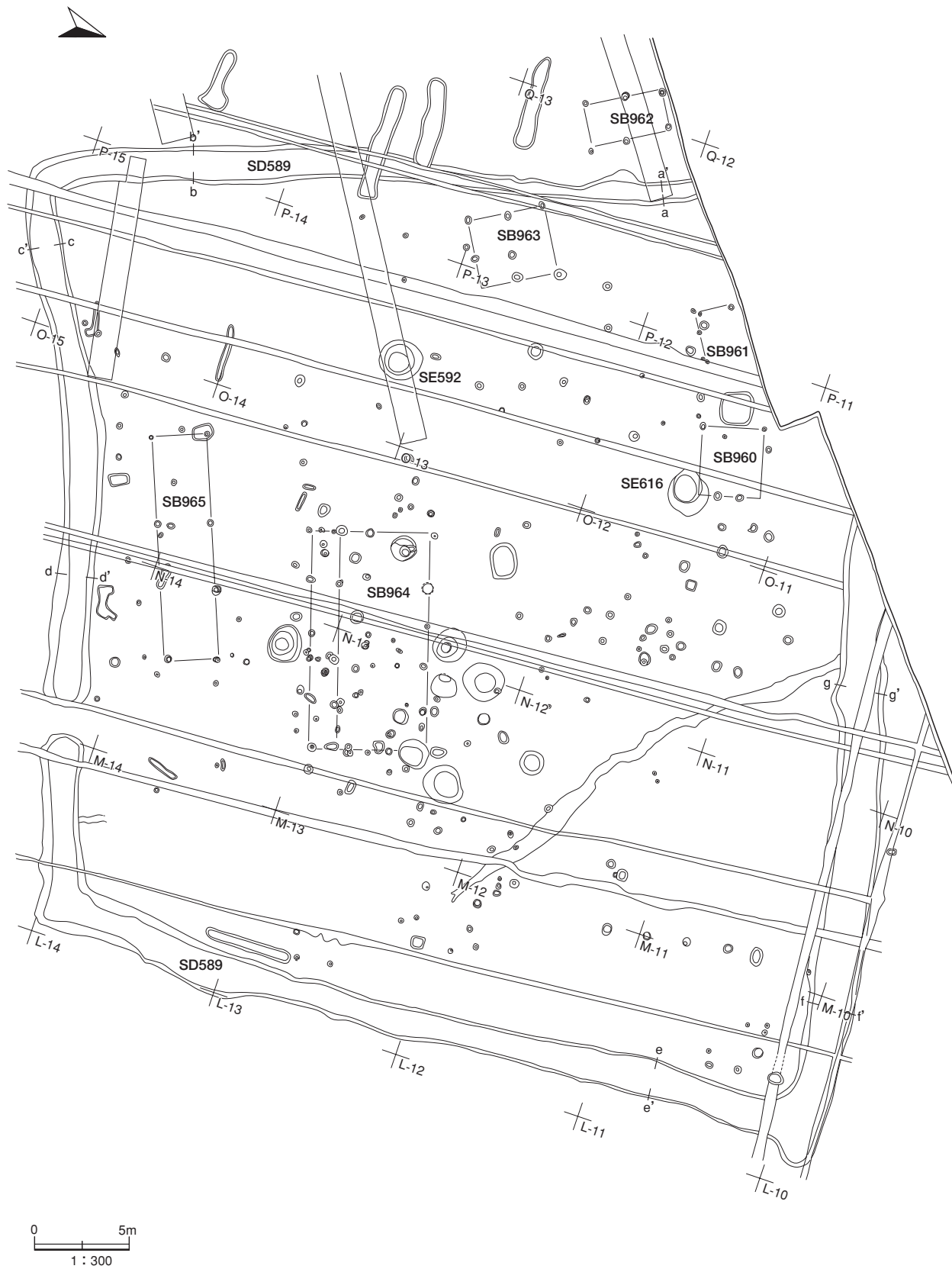
第54図 SG 1045河川跡(2)



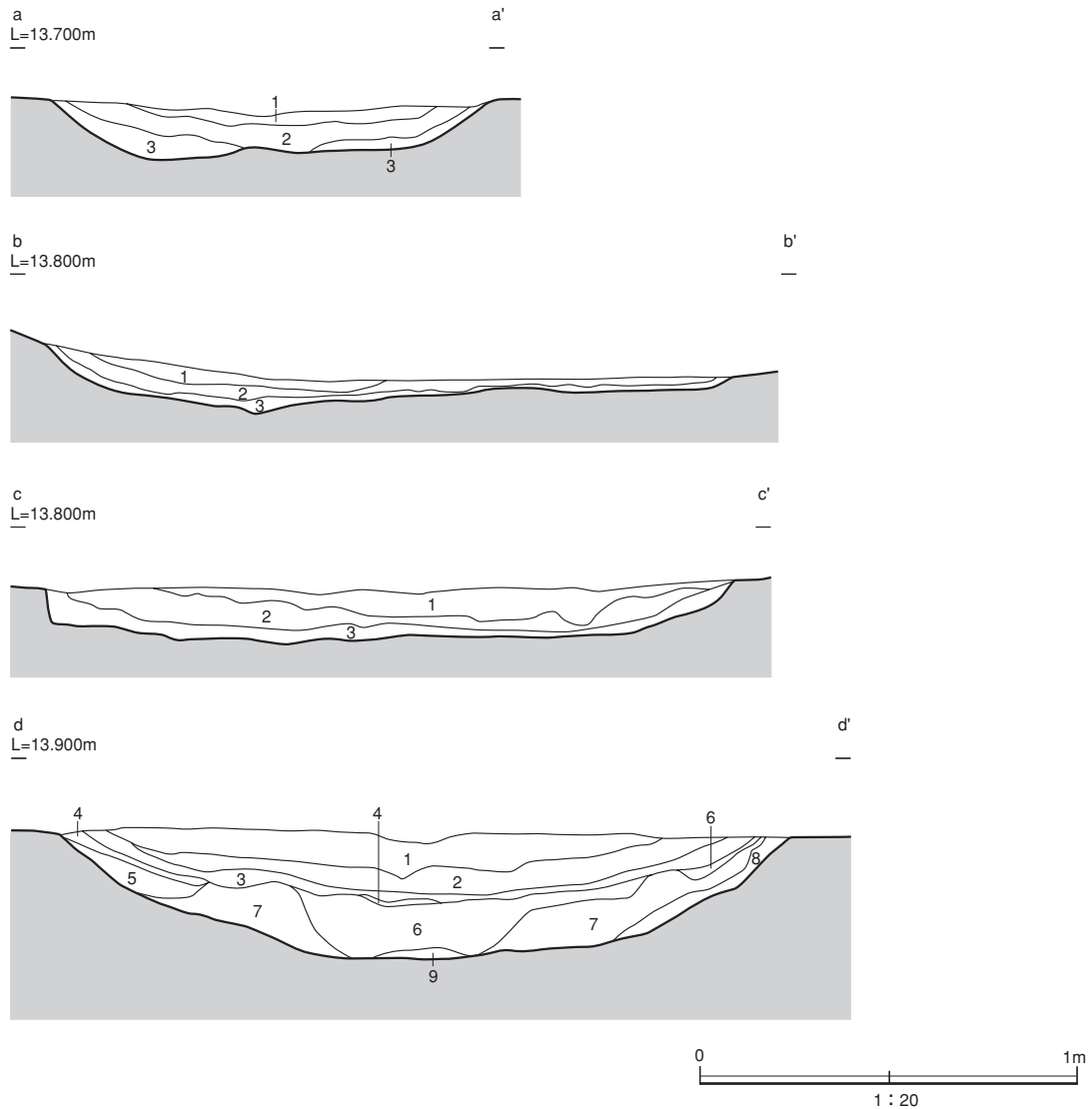
SG1045

1. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト しまりよし、2.5Y5/2シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。
2. 10Y4/1 灰色細粒砂と 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルトの互層 しまりよし、微量の炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。
3. 10Y4/1 灰色細粒砂と 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルトの互層 しまりよし、僅かに 2.5Y6/4 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。
4. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中～細粒砂と 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルトの互層 しまりよし、僅かに 2.5Y6/4 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。
5. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト しまりよし、層状、塊状の 2.5GY4/1 細粒砂を含む。
6. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂と 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルトの互層 しまりよし、僅かに 2.5Y6/4 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。
7. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト しまりよし、2.5GY4/1 細粒砂塊が斑に混じる、木片、赤鉄化した植物痕を含む。
8. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト しまりよし、2.5GY4/1 細粒砂塊が斑に混じる、木片、赤鉄化した植物痕を含む、上位層と斜交して接する。
9. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂と 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルトの互層 しまり普通、石英粒、長石粒、赤鉄化した植物痕を含む。
10. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y6/2 中粒砂塊を含む。
11. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルトと 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂の互層 しまり普通。
12. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト しまり普通、2.5GY4/1 細粒砂塊が斑に混じる、木片、赤鉄化した植物痕を含む。
13. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y6/2 中粒砂塊を含む。
14. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂と 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルトの互層 しまり普通、石英粒、長石粒、赤鉄化した植物痕を含む。
15. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト しまり普通、2.5GY4/1 細粒砂塊が斑に混じる、木片、赤鉄化した植物痕を含む。
16. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト しまり普通、2.5GY4/1 中粒砂塊、木片、土器片を含む。
17. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト しまり普通、木片、土器片、2.5GY4/1 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む、上位層と斜交して接する。
18. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 しまり普通、層状、塊状の炭化物、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。
19. 2.5Y6/4 にぶい黄色中粒砂 しまり普通、10Y4/1 中粒砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。
20. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粗粒砂 しまり悪い、10Y4/1 中粒砂塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。
21. 10Y4/1 灰色細粒砂 しまり悪い、10Y4/1 中粒砂塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。
22. 2.5Y6/4 にぶい黄色粗粒砂 しまり悪い、2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む、流砂?。
23. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト しまり悪い、層上部に炭化物、土器片、下部に 10Y4/1 細粒砂を層状、塊状に含む。
24. 10Y4/1 灰色細粒砂 しまり悪い、層状、塊状の 2.5Y4/2 粘質シルトを含む。

第 55 図 S G 1045 河川跡 (3)



第56図 SD589溝跡(1)

**SD589 (a-a')**

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |
| 2. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、炭化物、赤鉄化した植物痕、僅かに石英粒を含む、泥炭層。 |
| 3. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト | しまり普通、2.5Y5/2 粗粒砂塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。 |

SD589 (b-b')

- | | |
|-----------------------|-------------------------------------|
| 1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト | しまりよし、10YR4/2 砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 2. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、赤鉄化した植物痕、僅かに 10YR4/2 砂塊を含む。 |
| 3. 2.5Y4/2 明灰黄色シルト質粘土 | しまり普通、赤鉄化した植物痕、僅かに 10Y5/1 砂塊を含む。 |

SD589 (c-c')

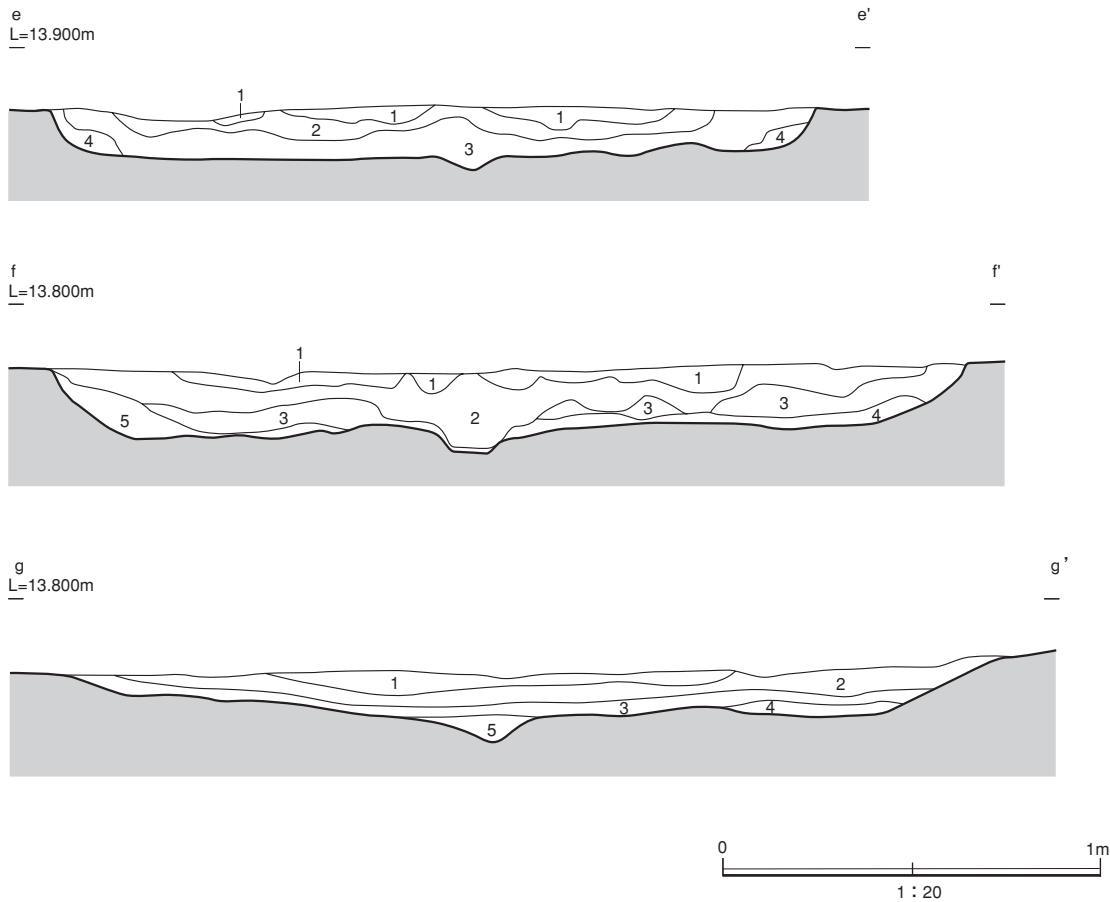
- | | |
|-----------------------|-------------------------------------|
| 1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト | しまりよし、10YR4/2 砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 2. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、赤鉄化した植物痕、僅かに 10YR4/2 砂塊を含む。 |
| 3. 2.5Y4/2 明灰黄色シルト質粘土 | しまり普通、赤鉄化した植物痕、僅かに 10Y5/1 砂塊を含む。 |

SD589 (d-d')

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、2.5Y6/4 砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 2. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト | しまりよし、2.5Y4/2 粘質シルト塊 (一部泥炭)、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 3. 7.5YR2/2 黒褐色粘質シルト | しまりよし、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 4. 2.5Y2/2 黒色シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 5. 10YR3/3 暗褐色シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 6. 10Y4/1 灰色シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 7. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 8. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 9. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕を含む。 |

第 57 図 S D 589 溝跡 (2)

IV 検出された遺構



SD589 (e-e')

1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト しまりよし、赤鉄化した植物痕を含む。
2. 10YR3/3 暗褐色粘質シルト しまりよし、2.5Y5/2 細粒砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。
3. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト しまりよし、10Y5/1 砂質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕、木片を含む。
4. 10Y5/1 灰色細粒砂 しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕、稀に炭化物を含む。

SD589 (f-f')

1. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト しまりよし、赤鉄化した植物痕を含む。
2. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト しまり普通、2.5Y3/3 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、2.5Y6/4 中粒砂塊、木片を若干含む。
3. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト しまり普通、10Y4/1 細粒砂塊、2.5Y6/4 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。
4. 10Y4/1 灰色細粒砂 しまり悪い、赤鉄化した植物痕を含む。
5. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 しまり普通、10Y4/1 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y3/2 粘質シルト塊を含む、泥炭層。

SD589 (g-g')

1. 10YR4/3 鈍黄褐色粘質シルト しまりよし、10YR3/3 粘質シルト（泥炭）塊、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。
2. 10YR3/3 暗褐色粘質シルト しまり普通、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む、泥炭層。
3. 10YR4/3 鈍黄褐色粘質シルト しまり普通、10YR3/3 粘質シルト（泥炭）塊、赤鉄化した植物痕、2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。
4. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト しまり普通、2.5Y6/2 粗粒砂塊、10YR3/3 粘質シルト、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。
5. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト しまり普通、10Y4/1 細粒砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。

第 58 図 S D 589 溝跡 (3)

C 掘立柱建物跡

中央部遺構群では、SD589 溝跡の内外で柱穴と考えられるピットの集中域を検出した。これらの柱穴の一部は組み合わせが可能であり、6 棟の掘立柱建物跡を検出した。これらの建物跡は向きがほぼ同じであり、柱穴同士の重複も少ないことから、いずれも同時期の建物であると考えられる。なお、集中域周辺は後世の削平を深く受けていることから、柱穴が失われていることも考慮し、組み合わせを行った。

S B 960 掘立柱建物跡 (第 59 図)

SB960 は P-12 区で検出された。SP599・603・614・615 各柱穴で構成される掘立柱建物跡である。桁行を北西-南東とし、桁行 3 間、梁行 1 間の建物跡と考えられるが、桁行に対して梁行が広い構造になっている。

規模は、桁行 3.2m (10.5 尺)、梁行 3.6m (12 尺) である。柱穴は径 25 ~ 40 cm の円形および楕円形で、深さはいずれも 15 cm 前後である。削平や他の遺構との重複により、残りの柱穴は失われたものと考えられる。柱根や遺物は出土していない。

S B 961 掘立柱建物跡 (第 59 図)

SB961 は O・P-12 区で検出された。SP593 ~ 597 各柱穴で構成される掘立柱建物跡である。調査区の区境際で検出されており、一部は調査区外に伸びる可能性がある。梁行を北西-南東とする構造で、桁行 2 間、梁行 1 間の建物跡と考えられる。

規模は、桁行 2.5m (8.3 尺)、梁行 1.9m (6.3 尺) である。柱穴は径 20 ~ 30 cm の円形および楕円形で、比較的小形である。攪乱により 2 基の柱穴が失われていると考えられる。南角と東角の柱穴は二つ並んだ状態で検出されており、建て替えが行われた可能性がある。SP596・598 柱穴からは柱根が検出された (第 219 図 2・3) が、その他の遺物は確認できなかった。

S B 962 掘立柱建物跡 (第 59 図)

SB962 は Q・R-13 区で検出された。SP553 ~ 556・933・934 各柱穴で構成される掘立柱建物跡である。SD589 溝跡の外側に位置するが、溝に沿うような向きで隣接することから、居館跡に関わる遺構と考えられる。桁行を北西-南東とする構造で、桁行 2 間、梁行 1 間の建物跡と考えられる。

規模は、桁行 4.2m (14 尺)、梁行 2.2m (7.3 尺) である。柱穴は径 30 ~ 40 cm の円形および楕円形で、深さは 45 ~ 75 cm と一定しない。柱根や遺物の出土は見られなかった。

S B 963 掘立柱建物跡 (第 59 図)

SB963 は P・Q-13・14 区で検出された。SP559・561 ~ 565・568 各柱穴で構成される掘立柱建物跡である。桁行を北西-南東とする構造で、桁行 2 間、梁行 2 間の建物跡と考えられる。

規模は、桁行 4 m (13.5 尺)、梁行 3.6m (12 尺) である。柱穴は径 40 ~ 65 cm の円形および楕円形で、比較的大形である。削平により、2 基の柱穴が失われていると考えられる。柱根や遺物は出土していない。

S B 964 掘立柱建物跡 (第 60・61 図)

SB964 は N・O-13・14 区で検出された掘立柱建物跡である。大規模な建物跡であり、居館跡の中核をなす建物であると考えられる。桁行を北西-南東とする構造で、桁行 5 間、梁行 3 間、間仕切りと庇を持つ。

規模は、桁行 11.45m (38 尺)、梁行 6m (20 尺) と大形で、間仕切りによって二間に分けられ、南側一面に庇がつく。柱穴は径 30 ~ 50 cm の円形および楕円形で、大きさにばらつきが見られ、深さも一定ではない。削平により、数基の柱穴が失われていると考えられる。また、一部の柱穴は数基が重なって検出されており、柱の建て替えが行われている可能性がある。柱根や遺物の出土は見られなかった。

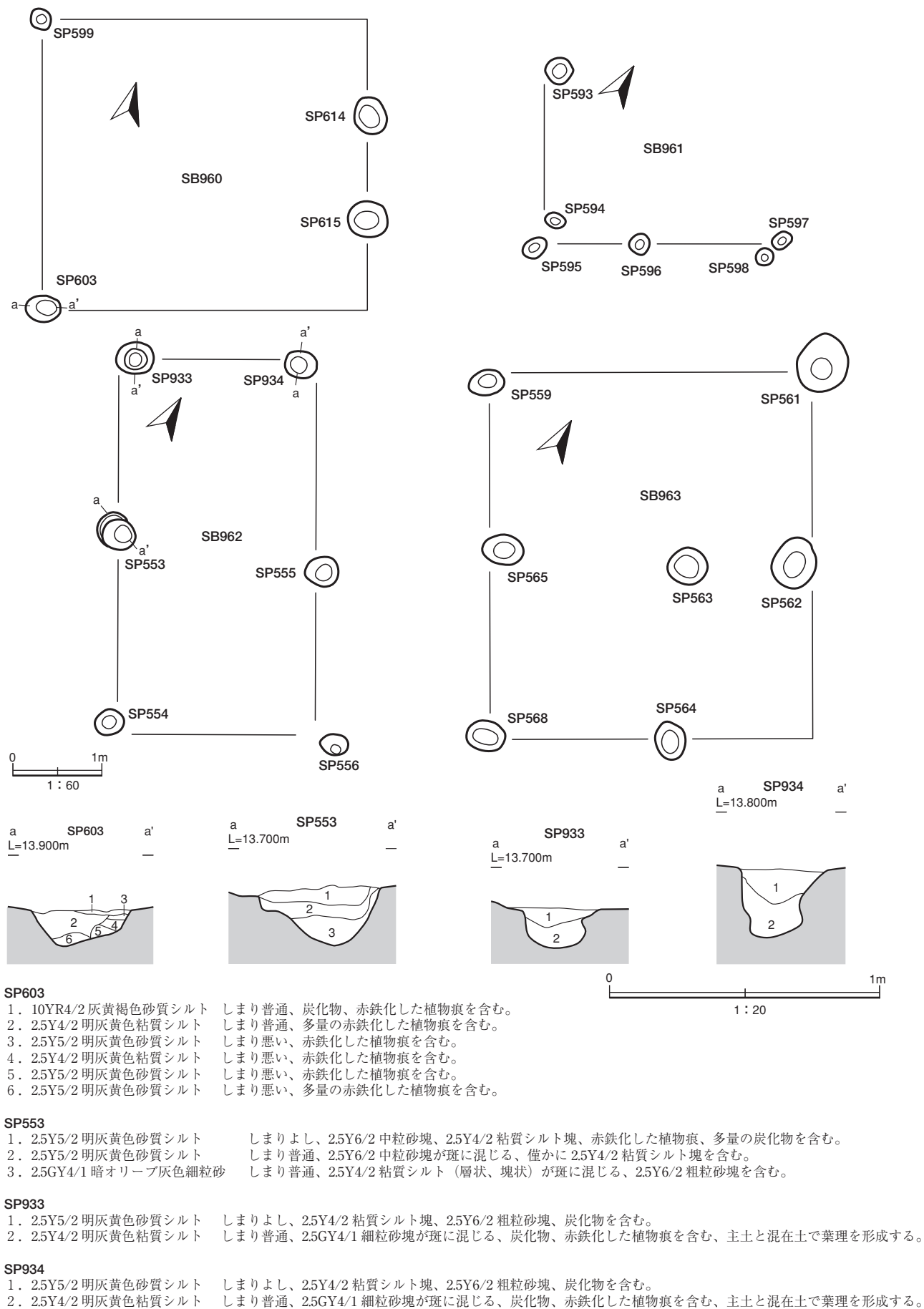
S B 965 掘立柱建物跡 (第 62 図)

SB965 は N・O-14・15 区で検出された。SP663・666・668・674・676・679・682・941 各柱穴で構成される掘立柱建物跡である。SD598 溝跡の出入り口付近に位置し、溝跡に平行して隣接する。梁行を北西-南東とする構造で、桁行 3 間、梁行 1 間の建物跡と考えられる。

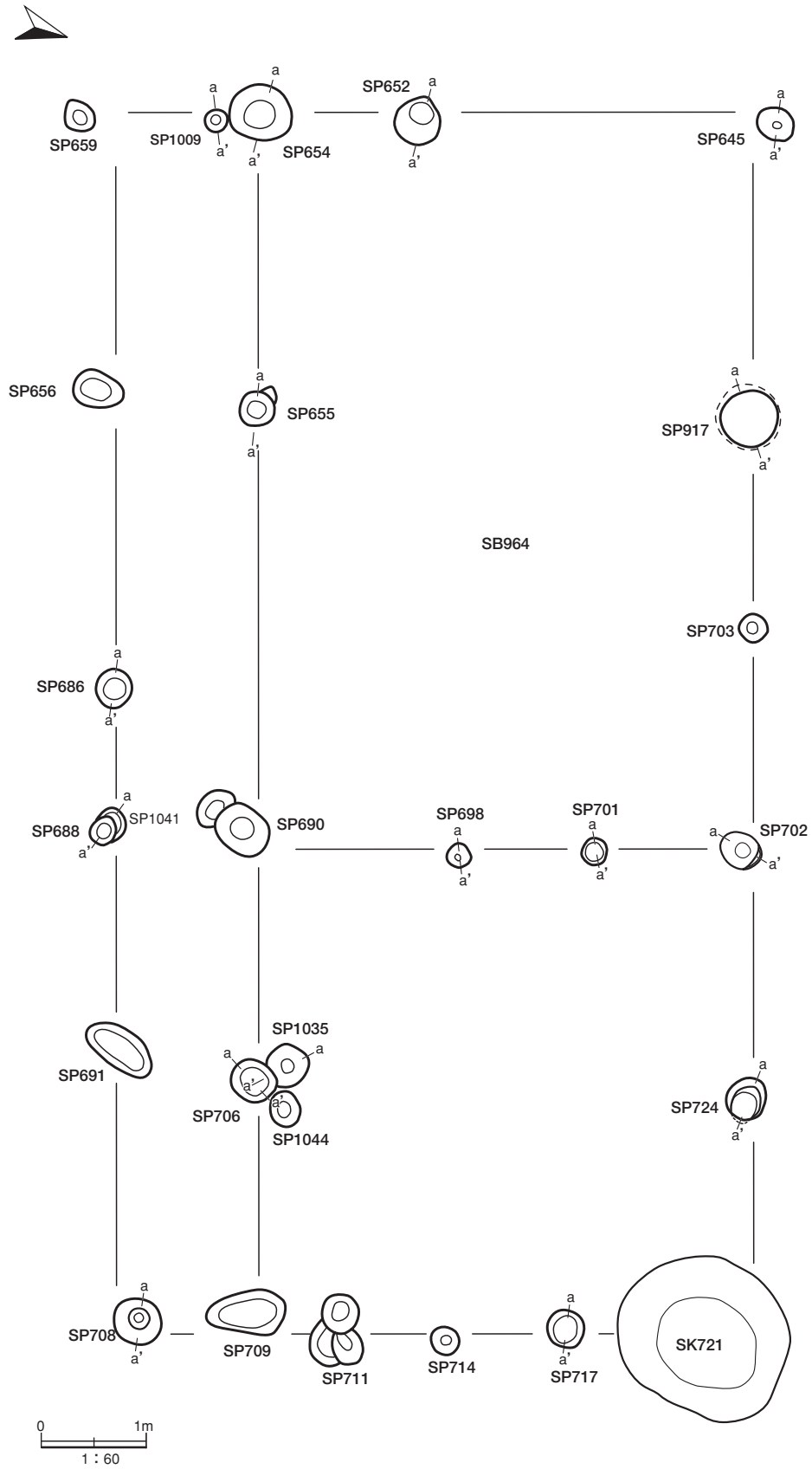
規模は、桁行 11.7m (39 尺)、梁行 2.85m (9.5 尺) を測る。柱穴は径 20 ~ 45 cm の円形および楕円形で、深さは浅いものもあるが、概ね 25 cm 程である。SP674 柱穴のみやや大形で、柱が抜き取られた痕跡であると推測される。柱根や遺物の出土は見られなかった。

本建物跡は、出入り口付近に位置し、梁行に対して桁行の長い特殊な形状であることから、厩などの付属施設的な建物の可能性が考えられる。

IV 検出された遺構

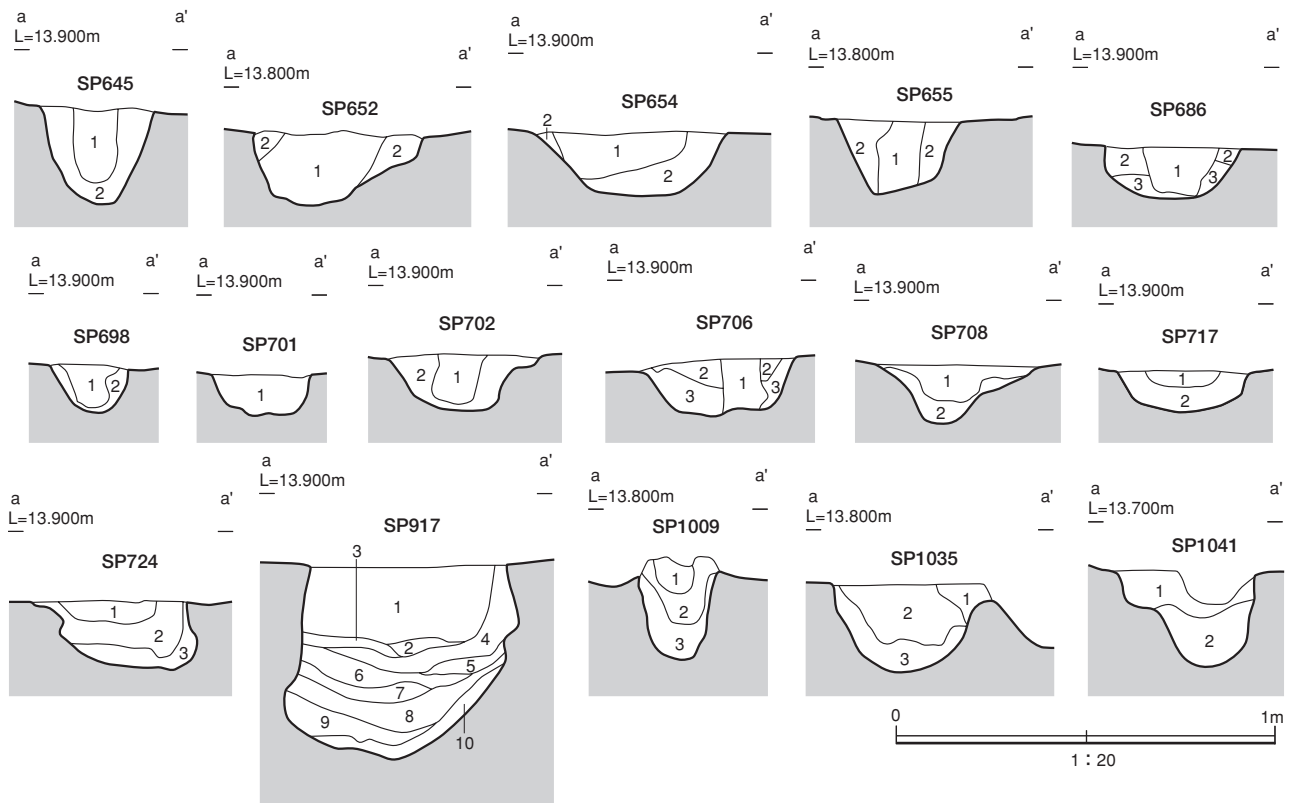


第 59 図 S B 960・961・962・963 掘立柱建物跡



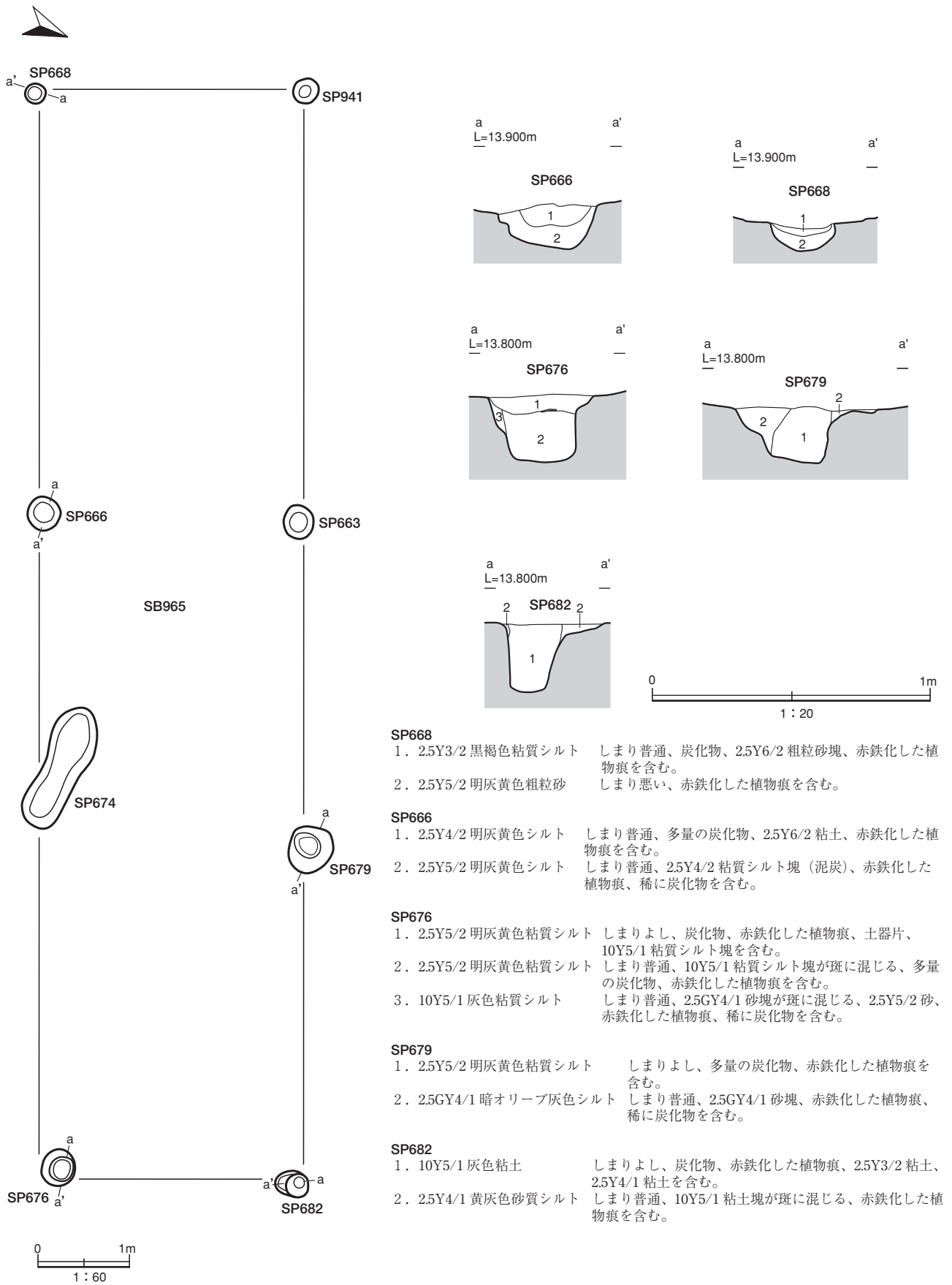
第 60 図 S B 964 掘立柱建物跡 (1)

IV 検出された遺構



- SP645**
 1. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト 10YR3/2 粘質シルト塊、2.5Y6/4 砂塊、僅かに炭化物を含む。
 2. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 2.5Y5/2 砂質シルト塊斑状、2.5Y6/4 砂塊を含む。
- SP652**
 1. 5Y6/2 灰オリーブ色細粒砂 5Y6/2 粘質シルト塊斑状、2.5Y6/4 粗粒砂塊、10YR3/2 粘質シルト塊を含む。
 2. 10Y6/1 灰色粗粒砂 2.5Y6/4 粗粒砂塊、10YR3/2 粘質シルト塊を含む。
- SP654**
 1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 2.5Y5/2 シルト塊斑状、2.5Y6/2 粘土塊、10YR4/6 粘土塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。
 2. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト 2.5Y6/2 粘土塊斑状、10YR3/2 粘土、2.5Y5/2 粗粒砂塊を含む。
- SP655**
 1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 2.5Y5/2 砂質シルト塊、2.5Y6/2 粘土、炭化物を含む。
 2. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト 2.5Y5/2 粗粒砂塊斑状、炭化物、2.5Y6/2 粘土を含む。
- SP686**
 1. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト 2.5Y3/2 粘質シルト、2.5Y6/2 粘質シルト、2.5Y6/4 粗粒砂塊、炭化物を含む。
 2. 2.5Y6/1 黄灰色シルト 7.5YR5/4 シルト、2.5Y5/2 粘質シルト塊、僅かに炭化物を含む。
 3. 7.5YR5/4 鈍褐色シルト質砂 2.5Y6/2 粘質シルト、炭化物を含む。
- SP698**
 1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 2.5Y3/2 砂質シルト塊、炭化物を含む。
 2. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 2.5Y5/2 砂塊斑に混じる。
- SP701**
 1. 10Y5/1 灰色砂 10Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y6/4 砂塊を含む。
- SP702**
 1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 2.5Y5/1 砂質シルト塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。
 2. 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト 2.5Y3/2 粘質シルト塊(泥炭)、10YR2/3 粘土塊を含む。
- SP706**
 1. 10YR2/3 黒褐色粘質シルト 10Y5/1 中粒砂塊、2.5Y6/2 粘土を含む。
 2. 10YR2/3 黒褐色粘質シルト 10Y5/1 砂の大塊、僅かに炭化物を含む。
 3. 2.5GY5/1 オリーブ灰色砂 10YR2/3 粘質シルト塊斑状、2.5GY6/1 粘土塊、2.5Y6/4 砂塊、2.5Y4/2 粘質シルト(泥炭)塊を含む。
- SP708**
 1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 2.5Y3/2 砂質シルト塊、炭化物を含む。
 2. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 2.5Y5/2 砂塊が斑に混じる。
- SP717**
 1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 2.5Y6/2 質砂塊斑状、10Y3/1 粘質シルト塊、炭化物を含む。
 2. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト質砂 10Y3/1 粘質シルト(泥炭)塊を含む。
- SP724**
 1. 10Y2/3 黒色粘質シルト 10Y5/1 砂の大塊、炭化物を含む。
 2. 2.5Y4/2 明灰黄色砂質シルト 10Y5/1 灰色粘質シルト塊、炭化物を含む。
 3. 2.5Y5/2 明灰黄色細粒砂 10YR2/3 粘質シルト、炭化物を含む。
- SP917**
 1. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト 2.5Y6/2 粘質シルト、炭化物を含む。
 2. 10Y5/1 灰色細粒砂 2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y3/2 粘質シルト塊を含む。
 3. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト 2.5Y6/2 中粒砂塊、層上部及び下部に炭化物層を含む。
 4. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト 2.5Y6/2 中粒砂塊、層上部及び下部に炭化物層を含む。
 5. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト 2.5Y6/2 中粒砂塊、層上部及び下部に炭化物層を含む。
 6. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト 2.5Y6/2 中粒砂塊、層上部及び下部に炭化物層を含む。
 7. 10Y5/1 灰色細粒砂 2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y3/2 粘質シルト塊を含む。
 8. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト 2.5Y6/2 中粒砂塊、層上部及び下部に炭化物層を含む。
 9. 10Y5/1 灰色中粒砂 2.5Y5/2 粘質シルト塊を含む。
 10. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細砂
- SP1009**
 1. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト 炭化物、2.5Y5/2 シルト塊、2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。
 2. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト 炭化物、2.5Y3/2 粘質シルト塊、2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。
 3. 2.5Y6/2 灰黄色中～粗粒砂 僅かに 2.5Y3/2 粘質シルト塊を含む。
- SP1035**
 1. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト 2.5Y3/2 粘質シルト塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。
 2. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 炭化物、2.5Y3/2 粘質シルト塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。
 3. 2.5Y5/2 明灰黄色中粒砂 2.5Y6/3 中粒砂塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。
- SP1041**
 1. 2.5Y5/2 明灰黄色細粒砂 2.5Y6/2 細粒砂塊、2.5Y6/4 鈍粗粒砂塊を含む。
 2. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト 2.5Y6/4 粗粒砂、2.5Y5/2 細粒砂塊を含む。

第 61 図 S B 964 掘立柱建物跡 (2)



第 62 図 S B 965 掘立柱建物跡

D 井戸跡・土坑

S E 479 井戸跡 (第 63 図)

第 3 次調査において、S-17 区で検出した。出土遺物から奈良・平安時代の井戸跡と考えられる。直径約 1.4m、遺構検出面からの深さは約 1 m で、段をつけて掘り込まれており、中央部には井戸枠を持つ。井戸枠は、一辺約 60 cm の方形で、スギの板材を縦に並べたものである。井戸枠として使用されていたスギ材について、放射性炭素年代測定を行った結果、7 世紀後半～8 世紀後半の年代が示された。(第 VI 章 1 参照)。

堆積土は炭化物や粘質シルト塊を含み、比較的容易に地山と区別される。また、堆積土中に火山灰の可能性のある灰白色シルトを検出したため、テフラ分析を行った結果、堆積物は十和田 a テフラと同定された。(第 VI 章 8 参照)。

出土した遺物は、井戸枠として検出した板材が主である(第 221～225 図)。この他に須恵器の坏、土師器の甕などが出土している(第 190 図)。

S E 515 井戸跡 (第 63 図)

第 3 次調査において、T-15 区で検出した。出土遺物等から奈良・平安時代の井戸跡と考えられる。直径 1.7m、遺構検出面からの深さは約 45 cm で、中央にスギの板材を井桁に組んだ井戸枠を持つ。井戸枠で囲まれた底面の中央やや東寄りに曲物を設置し、井戸眼としている。遺構検出面から底面までの深さが非常に浅く、後世の削平を深く受けていると思われる。また、井戸枠として使用されていたスギ材について、放射性炭素年代測定を行った結果、8 世紀中頃～9 世紀後半の年代が示された。(第 VI 章 1 参照)。

堆積土は泥炭塊等を含み、比較的容易に地山と区別される。堆積土中には、火山灰と疑われる灰色粘土が含まれていたため、テフラ分析を行ったが、火山灰と同定することはできなかった。(第 VI 章 8 参照)。

出土した遺物は、井戸枠として検出した板材と、井戸眼の曲物が主体である。この他、用途不明の部材等が多数出土した(第 226～231 図)。

S E 616 井戸跡 (第 64 図)

第 3 次調査において、P-12 区で検出した。出土遺物等から奈良・平安時代の井戸跡と考えられる。直径

2.1m、遺構検出面からの深さは約 70 cm である。遺構検出面から底面までの深さが浅く、後世の削平を受けていると思われる。井戸枠は検出されておらず、素掘りの井戸と考えられる。底面のほぼ中央から、井戸眼と考えられる曲物が出土した(第 232・233 図)。

堆積土は炭化物等を含み、比較的容易に地山と区別される。堆積土中には、火山灰と疑われる灰黄色粘土が含まれていたため、テフラ分析を行った。分析の結果、火山ガラス等はほとんど検出されず、火山灰と同定することはできなかった(第 VI 章 8 参照)。

遺物は曲物を含めわずかであるが、須恵器の蓋などが出土した(第 190 図)。また、曲物については放射性炭素年代測定を行い、7 世紀後半～8 世紀後半の年代が示された。(第 VI 章 1 参照)。

S E 1132 井戸跡 (第 65 図)

第 3 次調査において、R・S-18 区で検出した。出土遺物等から奈良・平安時代の井戸跡と考えられる。直径 1.8m、遺構検出面からの深さは約 35 cm である。遺構内からは、井戸枠の残骸と考えられるスギの板材等が出土しており、元は井戸枠を持つ井戸だったと考えられる。また、底面中央部に直径 30 cm、深さ 20 cm 程の穴があり、井戸眼が存在したことも考えられる。この他に、斎串がまとまって出土していることから、祭祀を行った後、廃棄された井戸である可能性がある。遺構検出面から底面までの深さは非常に浅く、後世の削平を深く受けていると思われる。

出土した遺物は、木製品が主体である。井戸枠と考えられる板材や部材の残骸、曲物の一部の他に、斎串がまとまって出土している(第 234 図)。

S E 1196 井戸跡 (第 65 図)

第 3 次調査において、Q・R-17 区で検出した。奈良・平安時代の井戸跡と考えられる。直径 1.75m、遺構検出面からの深さは約 60 cm である。当初土坑として登録したが、調査中に井戸枠の残骸と考えられるスギの板材等が検出され、井戸枠を持つ井戸であったと推定された。また、斎串が数点出土していることから、祭祀を行った後、廃棄された井戸である可能性がある。

出土した遺物は、木製品が主体である。井戸枠と考えられる板材の他に、比較的厚みのある板材片や、斎串などが出土している(第 235～237 図)。

S E 592 井戸跡 (第 65 図)

第 3 次調査において、P-14 区で検出した。出土遺物等から、奈良・平安時代の井戸跡と考えられる。直径 2.1m、遺構検出面からの深さは約 65 cm と浅く、後世の削平を受けていると思われる。中央部には一辺約 90 cm の井戸枠を持つ。井戸枠は板を縦に並べた構造で、北側から東側にかけて幅の狭い板材を並べ、西側から南側にかけては、一枚の幅の広い板材 (第 238 図 2) を使用している。南東角部分は板材が失われていた。

堆積土は炭化物等を含み、地山と区別される。火山灰と疑われる堆積物が確認されテフラ分析を行った結果、十和田 a テフラと同定された (第 VI 章 8 参照)。

出土した遺物は、木製品が主体であり、多くは井戸枠部材である (第 238・239 図)。その他にわずかであるが、土師器、須恵器の坏が出土した (第 190 図)。

S E 96 井戸跡 (第 65 図)

第 4 次調査において、M-15 区で検出した。奈良・平安時代の井戸跡と考えられる。長軸長 3 m、短軸長 1.8m の不整楕円形で、南西寄りに井戸枠を設置する。遺構検出面からの深さは約 60 cm と浅く、後世の削平を受けていると思われる。井戸枠は一辺約 80 cm で、スギの板材を縦に並べたものである。また、井戸枠内部の中央に板材が縦に刺さった状態で検出された。

出土した遺物は、木製品が主体である。井戸枠に使用された板材の他に、用途不明の部材などが出土した (第 240 ~ 242 図)。この他、須恵器の蓋などが出土している (第 190 図)。なお、遺構内から出土した井戸枠片とモモ種子について、放射線炭素年代測定を行った。その結果、井戸枠は 7 世紀中頃 ~ 8 世紀前半、モモ種子は 8 世紀後半 ~ 10 世紀後半と、それぞれ別の年代が示されたが、測定サンプルの性質から、遺構の年代としては 8 世紀後半 ~ 10 世紀後半の可能性が高いと考えられる (第 VI 章 1 参照)。

S K 685 土坑 (第 66 図)

第 3 次調査において、N-14 区で検出した。出土遺物等から奈良・平安時代の土坑と考えられる。規模および平面形は、長軸長 2 m、短軸長 1.7m の東西にやや長い不整楕円形となる。壁面の立ち上がりは緩やかであり、底面は起伏を持つ。遺構検出面からの深さは約 55 cm である。堆積土は炭化物等を含み、地山との区別が容易で

ある。

出土した遺物はわずかであるが、須恵器の坏・蓋などがある (第 190 図)。

S K 721 土坑 (第 66 図)

第 3 次調査において N-13 区で検出した。出土遺物等から奈良・平安時代の土坑と考えられる。規模および平面形は径約 1.6m の不整楕円形で、遺構検出面からの深さは約 60 cm である。壁面の立ち上がりはやや急で、底面は平坦である。堆積土は炭化物等を含み、地山と区別される。

遺物は、須恵器の甕が出土した (第 190 図)。

S K 728 土坑 (第 67 図)

第 3 次調査において、O-13 区で検出した。出土遺物等から奈良・平安時代の土坑と考えられる。規模および平面形は、長軸長 1.8m、短軸長 1.6m の不正楕円形となる。壁面の立ち上がりは緩やかで、底面は丸みをもつ。遺構検出面からの深さは約 55 cm である。堆積土は炭化物等を含み、地山と区別される。

出土した遺物はわずかであるが、須恵器の甕などがある (第 190 図)。

S K 916 土坑 (第 67 図)

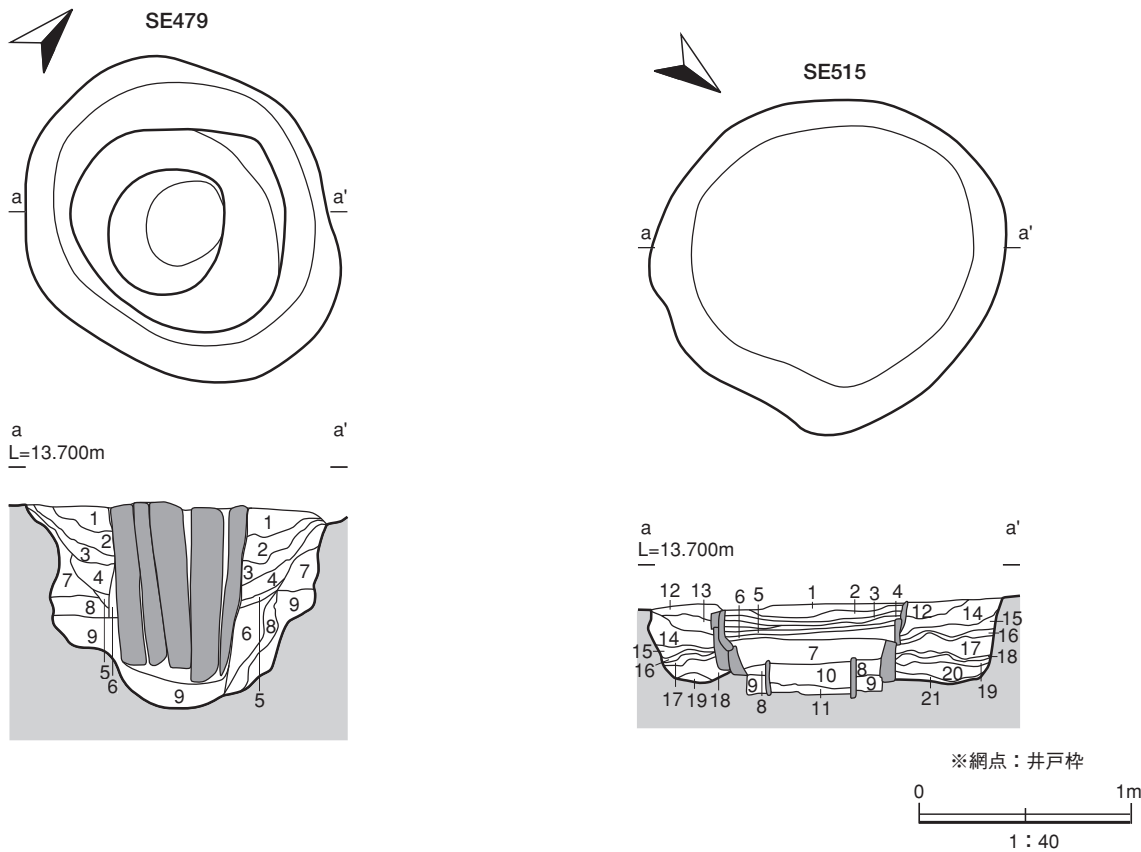
第 3 次調査において、N-13 区で検出した。奈良・平安時代の土坑と考えられる。規模および平面形は、直径約 2 m の不整楕円形となる。遺構検出面からの深さは約 75 cm である。壁面の立ち上がりは緩やかで、底面は丸みをもつ。堆積土は炭化物等を多く含み、地山と区別される。

遺物は、棒状の木製品が出土した (第 242 図)。

S K 1008 土坑 (第 67 図)

第 3 次調査において、O-13 区で検出した。出土遺物等から中世の土坑と考えられる。規模および平面形は、直径 1.25m の円形となる。遺構検出面からの深さは約 50 cm である。壁面の立ち上がりは段を持ち、底面は平坦である。堆積土は炭化物等を含み、地山と区別される。その形状から、柱穴の可能性もある。

出土した遺物はわずかであるが、須恵器の甕 (第 190 図) や用途不明の木製品 (第 242 図) などがある。なお、遺構内から出土した木製品について、放射性炭素年代測定を行った結果、13 世紀の年代が示された (第 VI 章 1 参照)。



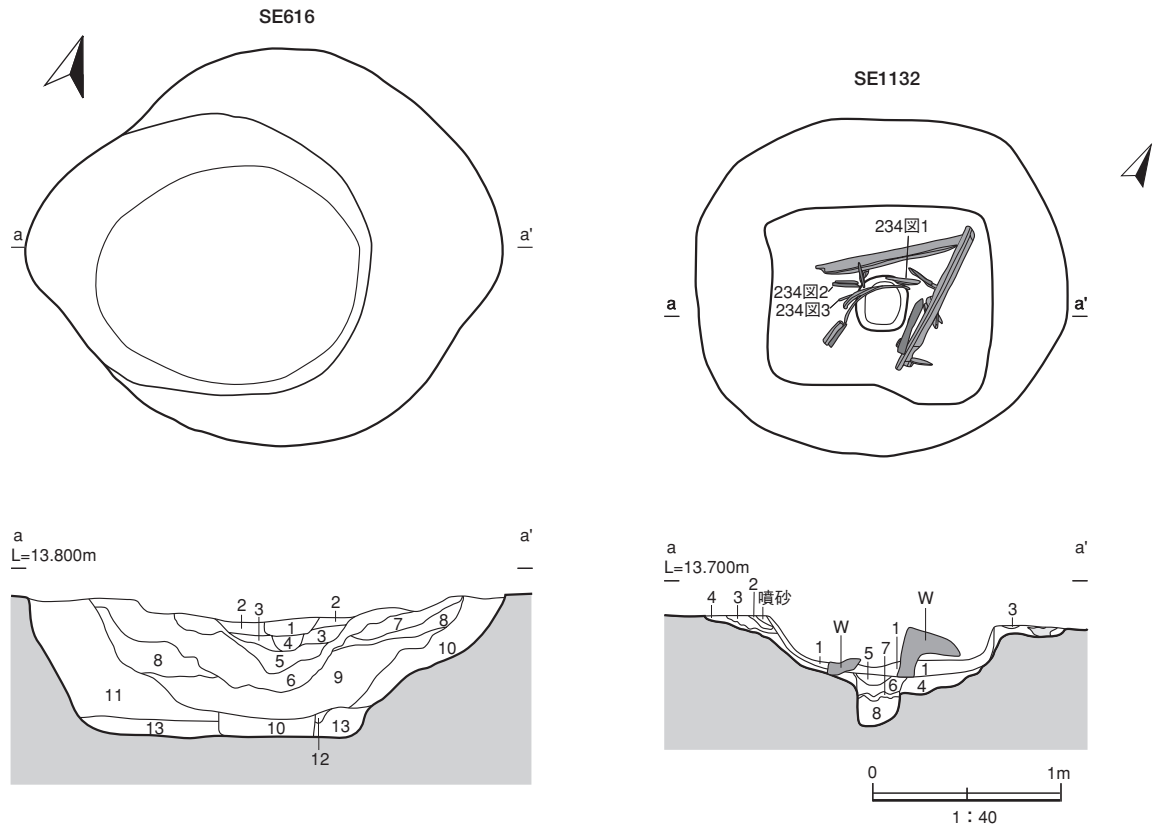
SE479

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 2. 2.5GY5/1 オリーブ灰色シルト 3. 2.5GY5/1 オリーブ灰色シルト 4. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト 5. 2.5GY5/1 オリーブ灰色シルト 6. 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色粘質シルト 7. 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色粘質シルト 8. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 9. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂と2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルトの互層 | <p>しまり普通、2.5GY5/1シルト塊が斑に混じる、炭化物、2.5Y3/2粘質シルト塊(特に層下部に)、2.5Y6/4中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y3/2粘質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2粘質シルト塊を含む。</p> <p>しまりよし、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y4/2粘質シルト塊を含む。</p> <p>しまり普通、2.5GY4/1細粒砂塊が斑に混じる、層上部に火山灰(10YR8/2シルト)塊、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまりよし、2.5Y4/2粘質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、層状に2.5GY4/1シルトを含む。</p> <p>しまり普通、2.5GY4/1シルト及び同色細粒砂を含む。</p> <p>しまり悪い、2.5Y4/2粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通。</p> |
|--|---|

SE515

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色砂質シルト 2. 10Y5/1 灰色シルト 3. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト 4. 2.5Y4/2 明灰黄色シルト 5. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト 6. 2.5Y4/2 明灰黄色シルト 7. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト 10. 10Y4/1 灰色細粒砂 11. 10Y4/1 灰色細粒砂と7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質シルトの互層 12. 10Y5/1 灰色シルト 13. 7.5Y4/1 灰色粘土 14. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 15. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 16. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 17. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 18. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 19. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 20. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 21. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂 | <p>しまり普通、2.5GY6/4砂塊、赤鉄化した植物痕、僅かに2.5Y4/1粘質シルト(泥炭)塊を含む。</p> <p>しまり普通、2.5GY3/1粘質シルト(泥炭)塊、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、2.5GY3/1粘質シルト(泥炭)塊、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y4/2粘質シルト(泥炭)塊、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、赤鉄化した植物痕を含む、層状に葉理を形成している。</p> <p>しまり普通、2.5Y4/2粘質シルト(泥炭)塊、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、木片、2.5Y4/2粘質シルト(泥炭)塊を含む。</p> <p>しまり普通、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y3/1粘土(泥炭)、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。</p> <p>しまり普通、赤鉄化した植物痕、稀に7.5Y4/1粘土を含む。</p> <p>しまり普通、2.5GY4/1粘質シルト塊が斑に混じる、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、僅かに2.5GY4/1シルトを含む。</p> <p>しまり普通、2.5GY4/1粘質シルト塊が斑に混じる、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、僅かに2.5GY4/1シルトを含む。</p> <p>しまり普通、2.5GY4/1粘質シルト塊が斑に混じる、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、僅かに2.5GY4/1シルトを含む。</p> <p>しまり普通、2.5GY4/1粘質シルト塊が斑に混じる、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり悪い、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、僅かに2.5GY4/1シルトを含む。</p> |
|---|--|

第 63 図 S E 479・515 井戸跡



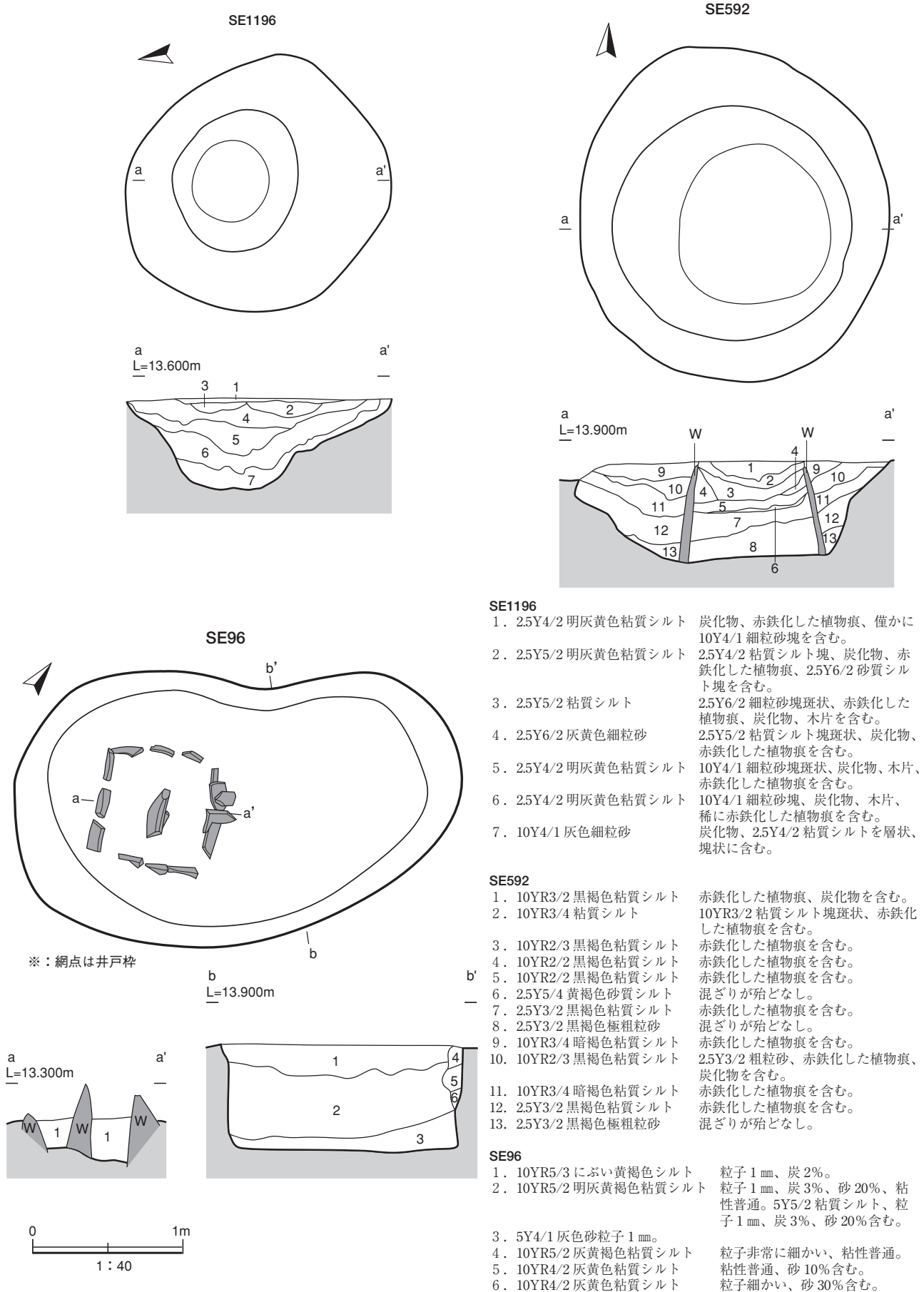
SE616

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト | しまりよし、赤鉄化した植物痕、多量の炭化物を含む。 |
| 2. 10YR4/3 鈍黄褐色砂質シルト | しまりよし、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |
| 3. 10YR4/4 褐色砂質シルト | しまり普通、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。 |
| 4. 10YR4/4 褐色粗粒砂 | しまり悪い、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 5. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、2.5Y5/2 明灰黄色細粒砂、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。 |
| 6. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト | しまりよし、2.5Y5/2 砂質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 7. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまりよし、2.5Y5/2 シルト塊が斑に混じる、炭化物、木片、2.5Y4/2 粘質シルト塊、僅かに 2.5Y6/4 粗粒砂塊を含む。 |
| 8. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、2.5Y6/4 砂質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 9. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト | しまり普通、2.5Y6/4 粗粒砂塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。 |
| 11. 2.5Y6/4 鈍黄色粗粒砂 | しまり悪い、2.5Y5/2 砂質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。 |
| 12. 2.5Y6/2 灰黄色粘土 | しまり普通、まざりなし、火山灰？。 |
| 13. 2.5Y5/2 明灰黄色中粒～粗粒砂 | しまり悪い、2.5Y6/4 中～粗粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。 |

SE1132

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 細粒砂塊、木片を含む。 |
| 2. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂 | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、2.5Y6/2 中粒砂塊を含む。 |
| 3. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり普通、10Y4/1 細粒砂塊、炭化物、2.5Y6/2 中粒砂塊を含む。 |
| 4. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり普通、2.5Y6/2 中粒砂塊、僅かに 2.5Y4/2 粘質シルト塊を含む。 |
| 5. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり悪い、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる。 |
| 6. 10Y4/1 灰色細粒砂 | しまり悪い、2.5Y5/2 粘質シルト塊が斑に混じる。 |
| 7. 2.5Y6/2 灰黄色粘土 | しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる。 |
| 8. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト | しまり悪い、10Y4/1 細粒砂塊が斑に混じる、層上部に層状に炭化物を含む。 |

第 64 図 S E 616・1132 井戸跡



SE1196

1. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト 炭化物、赤鉄化した植物痕、僅かに10Y4/1 細粒砂塊を含む。
2. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト 2.5Y4/2 粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y6/2 砂質シルト塊を含む。
3. 2.5Y5/2 粘質シルト 2.5Y6/2 細粒砂塊斑状、赤鉄化した植物痕、炭化物、木片を含む。
4. 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂 2.5Y5/2 粘質シルト塊斑状、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。
5. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト 10Y4/1 細粒砂塊斑状、炭化物、木片、赤鉄化した植物痕を含む。
6. 2.5Y4/2 明灰黄色粘質シルト 10Y4/1 細粒砂塊、炭化物、木片、稀に赤鉄化した植物痕を含む。
7. 10Y4/1 灰色細粒砂 炭化物、2.5Y4/2 粘質シルトを層状、塊状を含む。

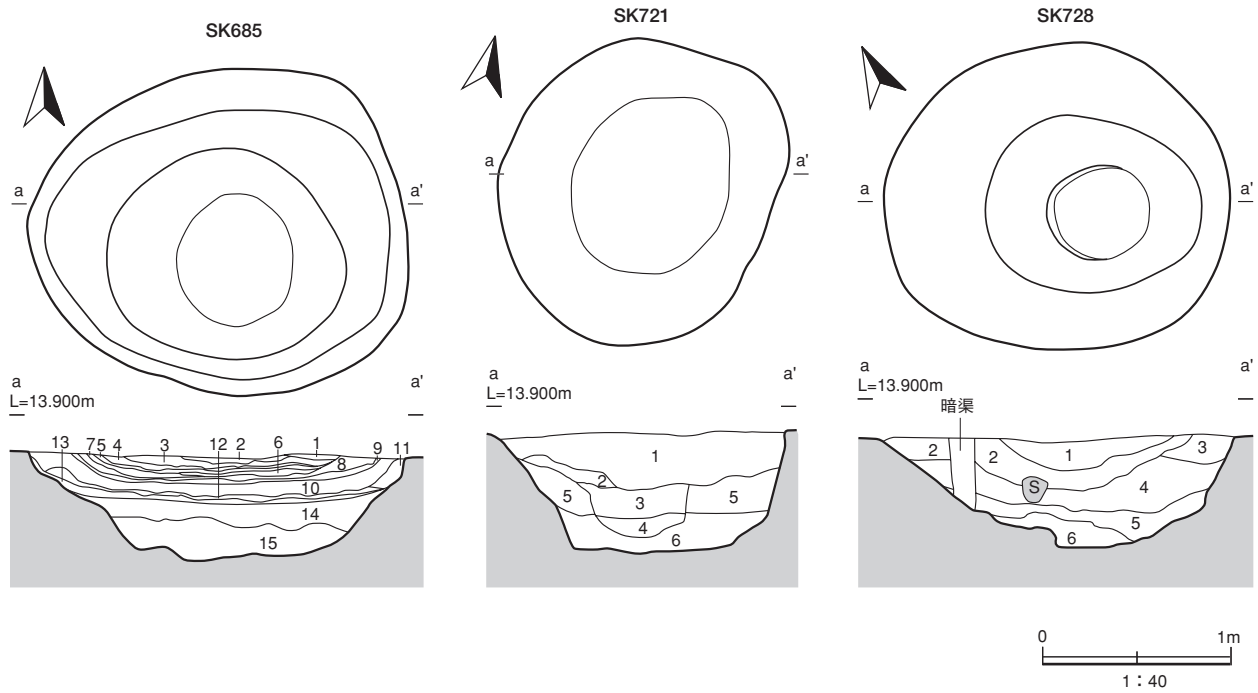
SE592

1. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。
2. 10YR3/4 粘質シルト 10YR3/2 粘質シルト塊斑状、赤鉄化した植物痕を含む。
3. 10YR2/3 黒褐色粘質シルト 赤鉄化した植物痕を含む。
4. 10YR2/2 黒褐色粘質シルト 赤鉄化した植物痕を含む。
5. 10YR2/2 黒褐色粘質シルト 赤鉄化した植物痕を含む。
6. 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト 混ざりが殆どなし。
7. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト 赤鉄化した植物痕を含む。
8. 2.5Y3/2 黒褐色極粗粒砂 混ざりが殆どなし。
9. 10YR3/4 暗褐色粘質シルト 赤鉄化した植物痕を含む。
10. 10YR2/3 黒褐色粘質シルト 2.5Y3/2 粗粒砂、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。
11. 10YR3/4 暗褐色粘質シルト 赤鉄化した植物痕を含む。
12. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト 赤鉄化した植物痕を含む。
13. 2.5Y3/2 黒褐色極粗粒砂 混ざりが殆どなし。

SE96

1. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粒子1mm、炭2%。
2. 10YR5/2 明灰黄褐色粘質シルト 粒子1mm、炭3%、砂20%、粘性普通。5Y5/2 粘質シルト、粒子1mm、炭3%、砂20%含む。
3. 5Y4/1 灰色砂粒子1mm。
4. 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト 粒子非常に細かい、粘性普通。
5. 10YR4/2 灰黄色粘質シルト 粘性普通、砂10%含む。
6. 10YR4/2 灰黄色粘質シルト 粒子細かい、砂30%含む。

第 65 図 S E 1196・592・96 井戸跡



SK685

1. 2.5Y5/2 明灰黄色シルト
2. N1.5/0 黒色粘土
3. 7.5YR2/2 黒褐色シルト
4. 7.5YR2/2 黒褐色粘質シルト
5. 7.5YR2/2 黒褐色シルト
6. 7.5YR2/2 黒褐色粘質シルト
7. N1.5/0 黒色粘土
8. 7.5YR2/2 黒褐色粘質シルト
9. 2.5Y6/2 灰黄色シルト質砂
10. 7.5YR2/2 黒褐色シルト
11. 2.5Y6/2 灰黄色シルト質砂
12. 2.5Y5/2 明灰黄色粘質シルト
13. 2.5Y6/4 にぶい黄色粗粒砂
14. 2.5Y6/4 鈍黄色粗粒砂
15. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂

しまりよし、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。
 しまり悪い、炭化物層、稀に2.5Y3/1シルトをレンズ状に挟む。
 しまり悪い、樹皮等の堆積した層。
 しまり悪い、木片を含む。
 しまり悪い、樹皮等の堆積した層。
 しまり悪い、炭化物、稀に2.5Y6/2砂塊を含む。
 しまり悪い、炭化物層、稀に2.5Y3/1シルトをレンズ状に挟む。
 しまり悪い、木片を含む。
 しまり悪い、2.5Y2/1シルトをレンズ状に、10Y5/1粘土を塊状に含む。
 しまり悪い、樹皮等の堆積した層。
 しまり悪い、2.5Y2/1シルトをレンズ状に、10Y5/1粘土を塊状に含む。
 しまり普通、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり悪い、2.5Y6/2シルト質砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり悪い、2.5Y4/2シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり悪い、2.5Y4/2シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。

SK721

1. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト
2. 2.5Y5/2 明灰黄色粘土
3. 2.5GY5/1 オリーブ灰色細粒砂
4. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト
5. 2.5Y5/2 明灰黄色細粒砂
6. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色細粒砂

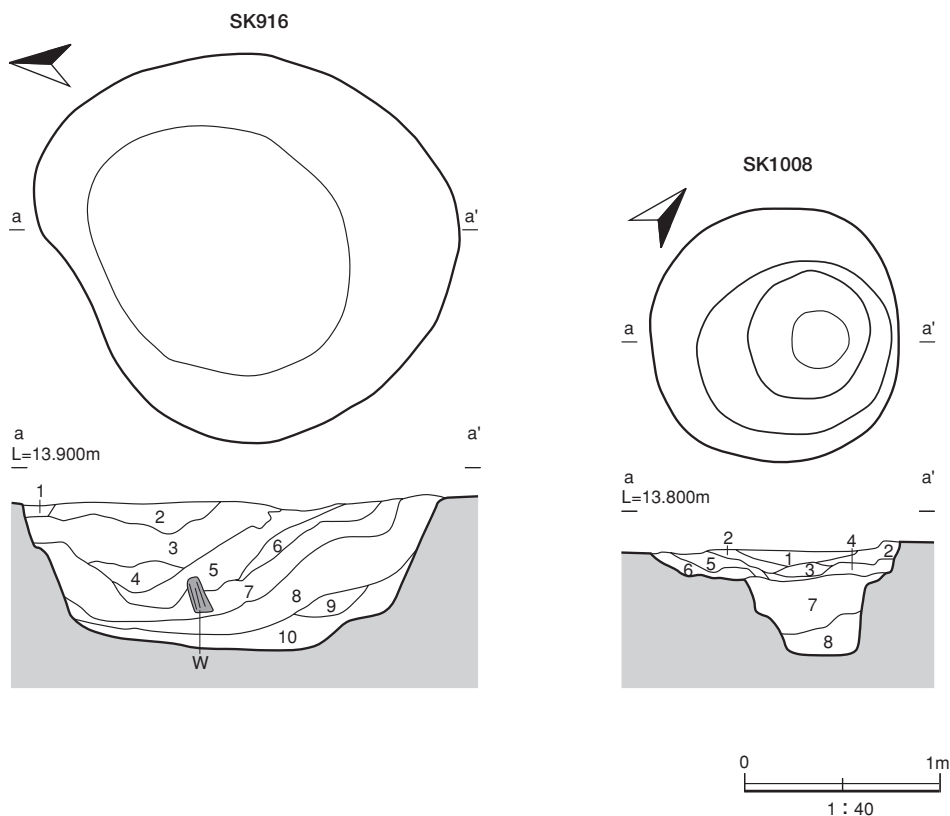
しまりよし、2.5Y6/2砂質シルト塊が斑に混じる、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり普通、2.5Y3/2粘質シルト塊、2.5Y4/2粘質シルト塊、2.5GY4/1細粒砂、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。
 しまり普通、2.5Y3/2粘質シルト塊、2.5Y5/2細粒砂塊、2.5Y6/4粗粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまりよし、2.5Y6/2粘質シルト塊が斑に混じる、2.5Y6/4粗粒砂塊を含む。
 しまり普通、2.5Y5/2シルト塊が斑に混じる、2.5Y6/4粗粒砂塊、2.5Y3/2粘質シルト塊、2.5Y4/2粘質シルト塊、2.5GY4/1細粒砂塊を含む。
 しまり悪い、赤鉄化した植物痕を含む。

SK728

1. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト
2. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト
3. 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂
4. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト
5. 10Y5/1 灰色細粒砂
6. 10Y5/1 灰色粗粒砂

しまりよし、赤鉄化した植物痕、僅かに炭化物を含む。
 しまりよし、10Y4/1細粒砂塊、石英粒、10YR2/2粘土塊、炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり悪い、10YR3/2粘質シルト塊、層状の炭化物、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり普通、2.5GY4/1細粒砂塊が斑に混じる、2.5Y4/2粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり普通、2.5Y4/2粘質シルト塊、10Y5/1粘質シルト塊、稀に2.5Y3/2粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕を含む。
 しまり悪い、10Y5/1粘質シルト塊が斑に混じる。

第 66 図 S K 685・721・728 土坑



SK916

- | | |
|---|---|
| <p>1. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト</p> <p>2. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト</p> <p>3. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト</p> <p>4. 2.5Y5/2 明灰黄色粗粒砂</p> <p>5. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト</p> <p>6. 2.5Y5/2 明灰黄色砂質シルト</p> <p>7. 2.5Y6/2 灰黄色粘土</p> <p>8. 10Y4/1 灰色細粒砂</p> <p>9. 2.5Y6/4 鈍黄色粗粒砂</p> <p>10. 10Y4/1 灰色細粒砂</p> | <p>しまりよし、10Y5/1 細粒砂塊、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y5/2 粘質シルト塊が斑に混じる、10Y5/1 細粒砂塊、2.5Y6/4 粗粒砂塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。</p> <p>しまり悪い、10Y4/1 細粒砂、僅かに赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり悪い、2.5Y6/4 砂塊を含む、地山の粗粒砂層の吹き出し。</p> <p>しまり普通、2.5Y5/2 粘質シルト塊が斑に混じる、10Y5/1 細粒砂塊、2.5Y6/4 粗粒砂塊、2.5Y4/2 粘質シルト塊、赤鉄化した植物痕、炭化物を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊が斑に混じる、2.5GY4/1 細粒砂を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y4/2 粘土塊、赤鉄化した植物痕を含む、火山灰層。</p> <p>しまり悪い、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり悪い。</p> <p>しまり悪い、僅かに 2.5YR4/2 粘質シルト塊を含む。</p> |
|---|---|

SK1008

- | | |
|---|---|
| <p>1. 7.5YR3/1 黒褐色粘土</p> <p>2. 10Y4/1 灰色中粒砂</p> <p>3. 10YR2/2 黒褐色粘土</p> <p>4. 7.5YR3/1 黒褐色粘土</p> <p>5. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色中粒砂</p> <p>6. 5Y6/2 灰黄色中粒砂</p> <p>7. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂</p> <p>8. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂</p> | <p>しまりよし、層状、塊状の炭化物、赤鉄化した植物痕、僅かに 2.5Y6/2 中粒砂塊を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y4/2 粘質シルト塊、7.5YR3/1 粘土塊を含む。</p> <p>しまり普通、10Y5/1 砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y6/2 及び 10Y4/1 中粒砂塊、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり普通、層状、塊状の 2.5Y4/2 粘質シルト塊、7.5YR3/1 粘土を含む。</p> <p>しまり普通、2.5Y3/2 粘質シルト塊、炭化物、赤鉄化した植物痕、2.5Y6/2 粗粒砂塊を含む。</p> <p>しまり悪い、2.5Y5/2 粘質シルト塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。</p> <p>しまり悪い、2.5Y5/2 粗粒砂塊が斑に混じる、赤鉄化した植物痕を含む。</p> |
|---|---|

第 67 図 S K 916・1008 土坑

V 出土した遺物

1 土器・陶磁器

矢馳A遺跡第2次～第4次発掘調査では、整理箱にして204箱の遺物が出土した。その殆どは土師器、須恵器、陶磁器である。以下では出土した土器、陶磁器について所属する時期や出土地点を基にⅠ～Ⅳ群に整理し、さらに分類を行う。なお、本文中では、個体数の多い類型については、それぞれの類型を代表する遺物図版番号を示し、個別の類型については表2～38に記載した。

A 第Ⅰ群土器

P～R-16～18区で検出された遺物包含層から出土した土器を第Ⅰ群土器とした(第68～80図)。所属時期は古墳時代であるが、同じく古墳時代に所属し、後述する第Ⅱ群土器よりも古い様相を持つ。遺構に関連して出土したものはないが、単一層序からまとまって出土しており、資料としての一括性は高いと考えられる。以下では、出土した土器を種別および器種ごとにAからJに分類し、さらに大きさや形態の特徴から細分化した。

A 土師器坏

坏は図化できたものが11点、そのうち全体の形がわかるものが9点出土している。いずれも非内黒である。

1類 塊状で、不定形な平底または平底風丸底の底部から、体部が内側に湾曲しながら立ち上がり、口縁部が短く外反する浅身の器形となる。第68図1・2は、底部にヘラケズリの痕跡を明瞭に残し、体部は粗いヘラミガキが施される。第68図6は、外面に繊細なハケメと疎らなヘラミガキ、口縁部の若干くびれた部分にヨコナデが施される。内面はいずれも粗いヘラミガキが施され、焼成状態は良好である(第68図1・2・6)。

2類 1類と同様に塊状となり、丸底となる底部から、体部が内側に湾曲しながら立ち上がり、口縁部が直立または内傾する器形となる。器面の整形は1類よりやや粗く、逆に底部はより丁寧な丸底に仕上げられている。以下のように細分できる。

a：浅身で器形の特徴や大きさが1類に似るもの(第68図3～5)。

b：深身の半球形となるもの(第68図9～11)。いずれも被熱しており、器面の整形状況は判然としない。また、第68図10は口縁部がわずかにくびれる。

c：深身で小形となるもの(第68図8)。体部から口縁部にかけて内傾の度合いが大きく、内外面は粗いヘラナデを主体に仕上げられ、むしろ小形壺C1類(後述)に見られる技法に類似する。

3類 深身、大形で、台上に丸く作り出された平底を持ち、体部が内側に湾曲しながらやや急に立ち上がり、口縁部がわずかにくびれた井形の器形となる。外面は下半部に粗いヘラミガキ、上半部にハケメ、口縁部にヨコナデ、内面にはヘラミガキが施される(第68図7)。

B 土師器高坏

高坏は図化できた39点のうち全体の形がわかるものは7点ある。坏身はすべて非内黒であり、A土師器坏に比べて大形となる。以下のように分類した。

1類 坏部は大ぶりの浅身となり、脚接合部から直線的に大きく開き、外面の体部下半に段を形成する。脚部は後述する4a類となる。さらに細分できる。

a：体部の段から口縁部にかけて直線的に外傾する器形となるもの(第68図13)。坏部の内外面には、ヘラナデおよび粗いヘラミガキが施される。

b：体部の段からやや膨らみながら立ち上がり、口縁部が短く外反する器形となるもの(第68図16)。器面のヘラミガキは1a類に比べて丁寧に仕上げられる。

2類 大きさは1類に類似するが、器形は坏部外面の段が弱いかまたは無い。脚部は4c類となる。

a：坏部が脚接合部から内側に湾曲しながら立ち上がり、そのまま口縁部にいたる半球形の器形となるもの(第68図14・17)。外面はヘラナデおよび粗いヘラミガキで仕上げられるが、仕上げ前に施されたヘラケズリ整形の痕跡を残すものもある。内面は外面に比べて丁寧なヘラミガキが施される。

b：口縁部が短く外反するもの（第 68 図 12・15）。坏部外面の整形は a 類と同様であるが、内面のヘラミガキは顕著ではない。

3 類 坏部は、1 類および 2 類に比べ厚手で、口径が小さく深身となり、脚接合部から丸みを持って立ち上がり、口縁部が短く外反する器形となるもの。脚部は 4 c 類となる。内外面はヘラミガキが施される（第 69 図 1・3）。

4 類 脚部の資料を一括する。

a：中空の長脚で裾が大ぶりに開く形態となるもの（第 69 図 2）。1 類に伴う。

b：中空の長脚になると思われるが、裾が a 類よりもさらに大きく開き、中程に段を持つもの（第 70 図 2）。

c：中空で、坏身との接合部から円錐状に開く形態となるもの（第 70 図 10）。2・3 類に伴う。

C 土師器壺

壺は図化できた 10 点のうち全体の形がわかるものが 6 点ある。以下のように分類した。

1 類 体部は断面形が楕円形となり、中程に最大径を持つ。底部は丸底となる。頸部から口縁部にかけては、若干内側に湾曲しながら外傾する。器面は、体部外面がハケメおよびヘラケズリとヘラナデの後、ヘラミガキで仕上げられ、内面はハケメまたはヘラナデが施される（第 70 図 14～16）。

2 類 形態は 1 類に類似するが、より小形となるもの。底部は平底または平底風の丸底となる。器面の整形も 1 類と同様の手法が見られるが、全体的に仕上げが粗い（第 70 図 17～19）。

D 土師器鉢

鉢は図化できたものが 3 点ある。器外面には被熱の痕跡や煤の付着が顕著であり、いずれも煮沸具として使用されたと考えられる。形態と大きさにより以下のように分類した。

1 類 小形で、丸底となる底部から体部がやや膨らみ、口縁部が短く外反する形態となる。器面は内外面ともにハケメ仕上げとなる（第 71 図 5）。

2 類 1 類に比べて大形で、小径の平底から体部が丸く膨らみ、頸部で締まって口縁部が外反する形態となる。器面は、体部外面がハケメ、内面がハケメまたはヘラナ

デにより仕上げられ、口縁部は内外面ともにヨコナデが施される（第 71 図 6・7）。

E 土師器甕

甕は第 I 群土器の各器種の中で最も多い 53 点を図化した。そのうち全体の形態が把握できるものは 27 点ある。形態は、底部が丸底または小径の平底となり、胴が丸く膨らんで頸部で締め、口縁部が外反するものが殆どである。器面は、胴の外面にハケメ、内面にハケメまたはヘラナデ、口縁部にヨコナデが施されるものが多い。大きさと形態により、以下のように分類した。

1 類 口径、胴径、器高のいずれもが 200 mm 未満となる小形のもの。以下のように細分できる。

a：胴張りであるが、頸部があまり締まらない器形となるもの。底部は丸底を呈し、口縁部は頸部で「く」字状に折れて直線的に短く外傾する（第 72 図 4）。

b：頸部が締まって胴が張る器形となり、口縁部が外反ぎみに外傾するもの。頸部から口縁部にかけての屈曲はなだらかである。（第 79 図 3・5）。

c：b 類と同様に頸部が締まって胴が張る器形となるが、頸部の屈曲が顕著であり内面に稜が発達する。口縁部は一旦直線的に外傾し、上部でさらに外側に短く引き出される。（第 77 図 5・第 79 図 1）。

2 類 口径、胴径、器高のいずれかが 200 mm 以上 250 mm 未満となる中形の大きさをもつもの。以下のように細分できる。

a：胴の張りは強くなく、頸部もあまり締まらない器形となるもの。平底となる底部は径が比較的大きく、口縁部は短く外反する（第 71 図 8）。

b：a 類と同様に、あまり胴が張らずに頸部もあまり締まらない形態となるもの。平底ではあるが、底径がごく小さく不安定である。頸部は「く」字状に屈曲し、口縁部は直線的に外傾する（第 71 図 9）。

c：小さい平底の底部から胴が丸く立ち上がり、頸部で締まって断面が「く」字状に屈曲し、口縁部が直線的に外傾する器形となるもの（第 74 図 3）。

d：c 類と同様に胴が丸く張り、頸部で屈曲し、口縁部が直線的に外傾し、口縁部付近でさらに外に引き出される形態となるもの（第 74 図 1）。底部は丸底もしくは小さく不安定な平底となる。

e：底部から胴にかけてはd類と同様の特徴をもつが、頸部の屈曲は顕著ではなく、口縁部が直上ぎみに立ち上がりながら外反して開く形態となるもの（第74図5）。

f：丸胴の器形であるが、口縁部が頸部から直上ぎみに短く立ち上がり、さらに内側に湾曲しながら開く形態となるもの（第79図4）。

3類 口径、胴径、器高のいずれかが250mm以上となる大形のもの。以下のように細分できる。

a：丸胴となり、「く」字状に屈曲した頸部から、口縁部が内側に湾曲しながら外傾して立ち上がる器形となるもの。器面は内外面ともに口縁部までハケメが密に施され、底部は不定形で小さい平底となる（第72図1）。

b：丸胴となり、頸部で屈曲し、口縁部が直線的に外傾して立ち上がり、口縁端部付近でさらに外に引き出される形態となるもの（第72図2）。

c：丸胴となり、比較的屈曲の弱い頸部から口縁部が直上ぎみに立ち上がりながら外反して開く形態となるもの（第73図1）。

d：丸胴ではあるがやや細く、底部が台状となり大径の平底となる。頸部から口縁部にかけての形態はb類に類似する（第76図1）。

F 土師器甑

甑は図化できたものが3点ある。いずれも鉢形で、口径184～198mm、器高92～95mmと大きさも同程度である。器面は外面がヘラケズリおよびハケメ、内面がハケメまたはヘラナデが施されるが、粗く輪積痕が明瞭に残る部分が多い。穿孔は径が20mm前後でそれぞれ1か所である。底部の特徴から以下のように分類した。

1類 小径の底部に穿孔しているもの（第80図5・6）。

2類 大径の平底に穿孔しているもの（第80図7）。

G 手捏ね土器

2点が出土した（第80図8・9）。

H 須恵器壺

頸部破片が1点出土した（第80図11）。

I 須恵器甗

小形ではあるが、全体形が把握できるものが1点出土

した（第80図10）。薄手であり、底部から体部下半には丁寧なヘラケズリ、体部中央には横方向のカキメが施され、口縁部は2段にわたって細かい櫛描波状文で装飾される。

J 須恵器甕

須恵器甕は体部破片1点を図化した（第80図12）。比較的薄手であり、外面に並行タタキとカキメ、内面に青海波アテが施される。

B 第Ⅱ群土器

遺構確認面で出土した古墳時代の土器を第Ⅱ群土器とした。本群は南西部遺構群の主体となる他、中央部遺構群のSG1045河川跡からも出土している。以下では、出土した土器を種別および器種ごとにAからLに分類し、さらに大きさや形態の特徴から細分化した。

A 土師器坏

坏は出土点数が多く、形態、大きさともに変化に富むが、数量的に主体となるのは、後述する3・5・6・7類に見られる、内黒で、丸底または平底風の丸底から体部がやや膨らみながら立ち上がり、口縁部が外反して開く浅身の形態である。口唇は素縁の他、玉縁となるものがある。器面は、底部から体部の外面がヘラケズリ整形後に粗いヘラミガキ、口縁部にヨコナデ、内面が口縁部に横方向、体部に放射状または平行のヘラミガキが精緻に施されるものが多い。

1類 碗状の器形となるもの。以下のように細分できる。

a：非内黒で、体部が内側に湾曲しながら立ち上がり、口縁部が直立または若干内傾する器形となる。第Ⅰ群A2類に類似した特徴をもつ。底部は丸底または平底風の丸底になると考えられる。器面は、外面が浅いハケメまたはヘラナデ、内面がヘラミガキまたはヘラナデが施される（第82図13）。

b：非内黒で、体部が大振りな浅身の碗状で、口縁部が短く外反する器形となり、第Ⅰ群B2b類に類似した特徴をもつ。器面は、内外面に疎らなヘラミガキが施される（第194図8）。

c：非内黒であり、器形の特徴はa類に類似するが、より小形となるもの（第96図17）。底部は丸底となる。

d：小形の丸底または小径の平底となる器形で、内黒となるもの。器面は、外面に輪積痕を残すが、内面はヘラミガキが密に施される（第96図19）。

2類 底部から内側に湾曲しながら立ち上がり、頸部で段をなしてくびれ、直上または内傾きみとなる口縁部をもつ須恵器の模倣形態を一括する。図化した4点が出土した。以下のように細分できる。

a：やや小形で、平底風の丸底から碗状となる体部をもち、口縁部が外面で削がれて頸部に段をなす器形となるもの。非内黒で内外面に疎らなヘラミガキが施される（第96図16）。

b：浅身の内黒となるもの（第95図20）。

c：小形で深身の内黒となるもの（第187図8）。底部は丸底風の平底となる。

d：小形で浅身の内黒となるもの（第96図18）。底部は平底となる。

3類 浅身の内黒で、平底風の丸底から内側に湾曲しながら立ち上がり、頸部で段をなし、口縁部が直線的または外反しながら大きく開く形態となるもの（第81図3）。

4類 内黒の深身となるが、3類と同様に頸部外面に段をもつもの（第82図6）。口縁部は深身である分3類に比べて相対的に短く、開きも小さい。

5類 形態や大きさの特徴は3類に類似するが、外面に目立った段がないもの。内面は体部が膨らみ、口縁部が肥厚するため、頸部に明瞭な稜が発達する。殆どが内黒となる。以下のように細分できる。

a：口縁部が外反しながら大きく開くもの（第81図2）。第Ⅱ群の坏類中で最も多く出土している。

b：口縁部があまり開かず、直線的に外傾するもの（第89図3）。

c：口縁部が「く」字状に屈曲し、短く開くもの（第127図11）。

d：小径の平底をもつもの（第141図4）。

6類 外面の形態は5類に類似する。殆どが内黒で、内面は口縁部が肥厚するものの、体部の膨らみが顕著ではなく、頸部に稜をもたない。以下のように細分できる。

a：口縁部が外反しながら大きく開くもの（第81図6）。

b：口縁部があまり開かず、直線的に外傾するもの（第91図3）。

7類 内黒で、形態の特徴は6類に類似するが、口縁部

内面が肥厚しないもの（第81図1）。

8類 内外面に目立った段や稜はなく、深身で体部が膨らむ形態となるもの。浅身の坏に比べて口縁部の開きは小さい。いずれも内黒であり、口縁部の特徴から以下のように細分できる。

a：口縁部が外反するもの（第82図7）。

b：口縁部が直立するもの（第141図7）。

c：口縁部が直立し、口縁端部が短く外に開くもの（第96図4）。

9類 深身であるが体部があまり膨らまない形態となるもの。いずれも丸底である。さらに細分できる。

a：非内黒で頸部が若干くびれ、口縁部が外反きみに直立し、端部で開く形態となるもの（第136図2）。

b：内黒で体部上半から口縁部にかけて直立するもの（第131図13）。

10類 1から9類に当てはまらない器形のものを一括する。以下のように細分できる。

a：非内黒の小形碗状を呈し、雑な整形ながら明瞭な平底となるもの（第141図12）。

b：小形の非内黒で、平底となる底部から口縁部にかけて直線的に外傾する器形となるもの。器面は、内外面ともにハケメが施される。

c：やや小形で浅身の内黒で、大径の平底から体部が直線的に外傾する形態となるもの（第95図18）。

d：小形浅身の内黒で、坏身の形態はcに類似するが、底部に台が付くもの（第149図1）。

e：小形の内黒で、皿形を呈するもの（第82図12）。

B 土師器高坏

高坏は、坏身が内黒が大半であり、その形態や器面の整形が坏の5～7類に類似するが、より大形となるものが多い。脚部は、柱実部が短く裾が「ハ」字状に開く形態となる。主に坏身の形態から以下のように分類した。

1類 坏身の形態は坏の5類に類似する。内面は体部が膨らみ口縁部が肥厚し、頸部に稜が発達する形態となる。大きさおよび形態で以下のように細分できる。

a：口径200mm未満となり、口縁部が外反しながら大きく開くもの（第82図16）。

b：口径200mm以上となる大形で、口縁部が外反しながら大きく開くもの（第97図2）。

c：大きさはa類に類似するが、頸部で屈曲して口縁部が短く直線的に開く形態となるもの（第97図10）。

2類 坏身の形態は坏の6類に類似する。外面は口縁部が大きく外反し、内面は口縁部が肥厚するが、頸部に稜が見られない。以下のように細分できる。

a：口径200mm未満のもの（第83図2）。

b：口径200mm以上の大形のもの（第151図1）。

3類 坏身の形態は坏の7類に類似し、口縁部の内面が肥厚しないもの（第97図1）。

4類 脚部の破片を一括した（第83図9）。

C 土師器壺

壺は、供善あるいは貯蔵具として使用されたと考えられるものが2点あり、他はすべて煮沸具として使用されたものである。煮沸具の器面は、口縁部ヨコナデ、胴の外面ハケメ、内面ハケメまたはヘラナデが施され、後述する土師器甕と同様の手法が用いられる。以下では使用形態および大きさをもとに分類する。

1類 供善具または貯蔵具として用いられたもの。

a：底部を欠くが、やや厚手の丸胴となり、頸部で締まって口縁部が外反して開く広口の器形となる。また、内面の頸部には稜がつく（第83図13）。

b：a類よりも小形のもの（第83図12）。体部の形態は第I群C2類に類似するが、やや広口となる。

2類 煮沸具で体部最大径、器高ともに200mm未満となるもの。

a：頸部外面に段をもつもの（第99図4）。

b：頸部外面に段をもたないもの（第99図1）。

3類 煮沸具で体部最大径、器高のいずれかが200mm以上250mm未満となるもの（第99図3）。

4類 煮沸具で体部最大径、器高のいずれかが250mm以上となる長胴の形態となるもの（第98図13）。

5類 煮沸具で体部最大径、器高のいずれかが250mm以上となる丸胴の形態となるもの（第98図13）。

D 土師器鉢

鉢は出土点数が8点と少ないが、大きさや形態にばらつきがある。器面はいずれも土師器甕に類似し、口縁部にヨコナデ、体部内外面にハケメまたはヘラナデが施される。大きさ並びに口縁部の形態により、以下のように

分類した。

1類 口径が100mm未満の小形のもの。底部を欠くが、体部が張らずに頸部から口縁部が緩く屈曲して直線的に開く器形となる（第98図12）。

2類 口径が100mm以上150mm未満のもの。以下のように細分できる。

a：体部が若干膨らみ、頸部で緩く締まり、口縁部が開く器形となるもの（第98図9）。

b：体部が丸く膨らみ、頸部で締まり、口縁部が短く直立する器形となるもの（第131図2）。

3類 口径が150mm以上200mm未満となる中形のもの。以下のように細分できる。

a：小径の平底から、やや膨らみながら立ち上がった体部が頸部で緩く締まり、口縁部が外反して大きく開く器形となるもの（第98図8）。

b：体部があまり膨らまず、頸部で若干締まり口縁部が外反ぎみに直立する器形となるもの（第98図11）。

4類 口径が200mm以上の大形となるもの。体部があまり膨らまず、頸部で若干締まって口縁部が外反ぎみに開く器形となる（第108図8）。

E 土師器甕

甕は坏と同様に出土点数が多く、形態、大きさともに変化に富むが、平底で体部の張りが小さいいわゆる長胴の形態で、頸部で締まって口縁部が外反しながら開く器形が主体となる。器面は、外面が口縁部にヨコナデ、体部に縦方向のハケメまたはヘラナデ、内面が口縁部にヨコナデまたはハケメ、体部に横方向のハケメまたはヘラナデを施すものが多い。口唇は素縁の他、玉縁となるものと端部を平坦に整形するものがある。以下では、全体の器形がわかるものを中心に、大きさおよび形態の特徴をもとに分類する。

1類 体部が張らない形態で口径、体部最大径、口径のいずれもが200mm未満となる小形のもの。以下のように細分できる。

a：口縁部が直線的に短く開くもの（第107図2）。

b：口縁部が外反しながら開くもの（第107図6）。

c：口縁部が直上ぎみに外傾し、口縁端部付近でさらに外に引き出される形態となるもの（第107図3）。

d：大径の平底から体部が殆ど膨らまずに立ち上がり、

頸部でもあまり締まらずに口縁部が緩く開く器形となるもの(第84図4)。

e：頸部外面に段をもつもの。口縁部の形態はc類に類似する(第84図3)。

f：頸部が殆ど締まらず体部から口縁部にかけて円筒形に近い形態となり、口縁部付近が短く外に引き出されるもの(第138図3)。

2類 体部が丸く張る形態で口径、体部最大径、口径のいずれもが200mm未満となる小形のもの。以下のように細分できる。

a：頸部の断面が「く」字状を呈し、口縁部が直線的に開くもの(第108図3)。

b：口縁部が外反しながら開くもの(第85図8)。

c：口縁部が直上ぎみに外傾し、口縁部付近でさらに外に引き出される器形となるもの(第108図1)。

d：頸部外面に段をもつもの。口縁部の形態はc類に類似する(第107図5)。

3類 長胴形態で口径、体部最大径、口径のいずれもが200mm以上250mm未満となる中形のもの。以下のように細分できる。

a：口縁部が直線的に開くもの(第103図5)。

b：口縁部が外反しながら開くもの(第84図1)。

c：口縁部が直上ぎみに外傾し、口縁部付近でさらに外に引き出される器形となるもの(第124図7)。

d：頸部外面に段をもつもの。口縁部の形態はc類に類似する(第86図3)。

4類 丸胴形態で口径、体部最大径、口径のいずれもが200mm以上250mm未満となる中形のもの。以下のように細分できる。

a：口縁部が直線的に開くもの(第101図2)。

b：口縁部が外反しながら開くもの(第151図8)。

c：口縁部が直上ぎみに外傾し、口縁部付近でさらに外に引き出される器形となるもの(第110図3)。

5類 長胴形態で口径、体部最大径、口径のいずれもが250mm以上となる大形のもの。以下のように細分できる。

a：口縁部が直線的に開くもの(第103図2)。

b：口縁部が外反しながら開くもの(第100図3)。

c：口縁部が直上ぎみに外傾し、口縁部付近でさらに外に引き出される器形となるもの(第101図4)。

d：底部に台が付くもの。口縁部の形態はc類に類似す

る(第86図3)。

6類 丸胴形態で口径、体部最大径、口径のいずれもが250mm以上となる大形のもの。以下のように細分できる。

a：口縁部が直線的に開くもの(第101図4)。

b：口縁部が外反しながら開くもの(第100図3)。

c：口縁部が直上ぎみに外傾し、口縁部付近でさらに外に引き出される器形となるもの(第101図1)。

d：頸部外面に段をもつもの。口縁部の形態はa類に類似する(第107図5)。

F 土師器甌

甌は出土点数は少ないが、鉢形のものや甕形のものがある。以下のように分類した。

1類 底部から内側に湾曲しながら大振りに外傾し口縁部に至る鉢形の器形となるもの。器面全体にヘラナデまたはハケメが施されるが、甕に比べて粗雑なものが多い。無底となるもの(第121図2)と底部の中央を1か所穿孔するもの(第135図2)がある。

2類 大形で甕の器形となるもの。本類はいずれも無底となる。器面は、口縁部にヨコナデ、体部外面に縦方向のハケメ、内面に横方向を主体とするハケメまたはヘラナデが施される。以下のように細分できる。

a：頸部直下に突起をもつもの(第120図1・3)。突起は相対する位置に2か所に設けられ、上部が開口し、体部側が穿孔される。器形はⅡE5b類に類似するが、甕に比べて幅広である。

b：頸部直下に突起をもたないもの。器形はⅡE5b類に類似するもの(第120図4)と、ⅡE6b類に類似するもの(第120図3)がある。

3類 小形で甕の器形となるもの(第121図1)。底部は不安定な平底で、中央を1か所穿孔する。器形はⅡE1c類に類似するが、頸部の締まりが弱く、口縁部の開きも小さい。口唇は外向きに平坦に整形される。器面は、口縁部にヨコナデ、体部外面上半に縦方向のハケメ、下半にヘラナデ、内面に縦方向のハケメが施される。

G 須恵器坏

図化できたものは5点で、そのうち3点がS G 160 河川跡から出土した。大きさにはばらつきがあるが、いずれも平底風の丸底から内側に湾曲しながら立ち上がり、

蓋受部が付き、口縁部が内傾する器形となる。器面は、外面の底部から体部下半にヘラケズリ、その他の部位にロクロナデが施される。焼成は硬調である。蓋受部が上方に引き出されて、器形の特徴は、口縁部が外反ぎみに内傾するもの（第121図8～10）と、口縁部が直線的に内傾するもの（第138図8）、浅身で蓋受部が水平に近く、口縁部が外反ぎみに内傾するもの（第195図2）がある。

H 須恵器高坏

SG160 河川跡より1点が出土した（第121図7）。脚底部を欠くが、坏部は碗状となり、体部と口縁部の境界に稜線が1条巡り区画される。稜の直下には印刻文が周巡する。脚柱部は四方に透かしが入る長脚で、横方向のカキメが施される。

I 須恵器蓋

蓋は5点出土した。器形全体が把握できるものはないが、いずれも焼成は硬調で、平坦な天井部と口縁部の境界に段をもつものが多い。器面は、天井部外面にヘラケズリ、その他の部位にロクロナデが施される。口縁部は内側に湾曲ぎみに垂下するもの（第147図14）と直線的にやや開きぎみに垂下するもの（第191図3）がある。どちらも口唇の断面形は内削ぎ状となる。

J 須恵器壺

SD244 溝跡から短頸の壺の口縁部破片が1点出土した（第130図10）。口縁部は外反しながら立ち上がり、上半部が外に開く形態となる。内外面ともにロクロナデ整形が施され、焼成は硬調である。

K 須恵器甕

グリッド出土であるが、甕と考えられる頸部から口縁部の破片が1点出土した（第153図3）。頸部と口縁部の境界に段をもち、器面には装飾が見られない。遺物包含層出土の第I群I類に比べてやや大形である。

L 須恵器甕

SG160 河川跡から口縁部破片と体部破片が出土した。個体数は不明であるが、いずれも中形の甕になると考え

られる。口縁部破片はロクロナデが施され、上半で大きく外に開き、端部が^{たが}籠状となる（第121図13）。また、体部破片（第122図）は薄手で外面に平行タタキとカキメ、内面に青海波アテが施される。

C 第Ⅲ群土器

奈良時代から平安時代の土器を第Ⅲ群土器とした。本群土器は、北東部遺構群および中央部遺構群から主体的に出土している他、南西部遺構群のSG1048 河川跡をはじめ、いくつかの遺構内からも出土している。以下では、出土した土器を種別および器種ごとにAからOに分類し、さらに大きさや形態の特徴から細分化した。

A 土師器坏

土師器坏はSG771やSG833 河川跡からややまとまって出土したものの、後述する須恵器坏に比べて出土数量が少ない。以下では製作技法や形態の特徴、大きさなどをもとに分類する。

1類 内外面に黒色処理が施されたもの。SG833 河川跡から2点が出土した（第160図6・7）。径の大きな平底から内側に湾曲しながら立ち上がり、口縁部に至る小形で浅身の器形となる。ロクロ整形と見られるが、器面は底部も含め内外面ヘラミガキ仕上げとなる。

2類 内面に黒色処理が施されたもの。全体の形態が把握できるものは、SD1115 溝跡から1点が出土した（第179図9）。ロクロ整形と見られ、器形の特徴は1類に類似するが、より大形で、器面は内外面にヘラミガキ、底部にナデが施される。底部のナデは、第160図12の破片資料にも見られる。また、径が小さく、底部切離しが回転糸切りによる破片が2点出土している（第160図11・第181図9）。

3類 ロクロ整形、非内黒で、底部の切離しが回転糸切りによるもの。全体の形態が把握できるものは15点出土している。これらは、器形の特徴から以下のように細分できる。

a：小形の浅身で、径の大きな底部から体部があまり外傾せずに立ち上がり口縁部に至る器形となるもの（第178図1・第179図12）。

b：径の大きな底部から、体部が直線的もしくは若干内側に湾曲ぎみに外傾して立ち上がり口縁部に至る器形と

なるもの（第160図5・第174図9・194図11）。

c：上記2類型に比べて底径が小さいが、やや深身の器形となるもの。体部から口縁部の傾きはb類に類似する（第173図9）。

4類 ロクロ整形、非内黒で、底部切離しが回転糸切りによるもの。全体の形態が把握できるものは14点出土している。これらは、器形の特徴から以下のように細分できる。

a：大形で体部が内側に湾曲しながら外傾し、口縁部が短く直立する器形となるもの（第160図1）。

b：底径が大きく、体部が若干内側に湾曲ぎみに大きく外傾し、口縁部が僅かに外に開く浅身の器形となるもの（第160図3）。

c：中間的な大きさで、底径が小さくやや深身となり、体部から口縁部にかけて、直線的あるいは若干内側に湾曲ぎみに外傾しながら立ち上がる器形となるもの（第154図4）。

d：器形はc類に類似するが、より小形となるもの（第154図1～3）。SG771河川跡から3点出土した。

5類 ロクロ整形、非内黒で、底部切離しが静止糸切りによるもの。器形は4d類に類似する（第154図5）。

6類 ロクロ整形、非内黒で、底部にナデが施され、切離しの技法が不明なもの。全体の形態が把握できるもの（第180図14）は、器形の特徴が4d類および5類に類似する。

B 土師器高台付坏

土師器の高台付坏は、土師器坏と同様に出土点数が少なく、全体の形態が把握できるものは2点のみである。これらは、製作技法により以下のように分類した。

1類 内外面に黒色処理が施されたもの（第169図3）。図化した1点が出土した。坏身は、大径の平底から体部が直線的に外傾し口縁部に至る浅身の形態となり、台は底部より小さく高めで、外開きに取り付けられる。ロクロ整形と見られるが、薄手で、底部を含む内外面がヘラミガキで仕上げられている。

2類 内面に黒色処理が施されたもの（第181図10）。底部破片が1点出土した。器形の詳細は不明であるが、台は底部よりやや小さく、ほぼ垂直に取り付けられ、また、大きさは1類に比べてより小形になると思われる。

器面は、外面がロクロナデ、内面がヘラミガキにより仕上げられる。

3類 ロクロ整形、非内黒で、底部の切離しが回転篋切りによるもの。底部破片が2点出土した（第194図27・28）。器形の詳細は不明であるが、いずれも台は低く若干外に開き、底部外周に取り付けられる。2類と同程度の大きさになると見られる。

4類 ロクロ整形、非内黒で底部切離しが回転糸切りによるもの（第154図6）。図化した1点のみの出土である。坏身は、大形の深身で、体部が内側に湾曲しながら口縁部に至る塊状の器形となる。台は低く、底部外周に外開きに取り付けられる。

C 土師器皿

SG771河川跡からロクロ整形の台付皿が1点出土した（第154図7）。底部切離しは不明である。台は底部外周に取り付けられ、若干外に開く。体部は内側に湾曲しながら外傾し、口縁部は外に引き出される器形となる。

D 土師器鉢

鉢は形態が把握できるものが3点出土した。以下のように分類した。

1類 底部を欠くが、厚手の大形で浅身となる。直線的に大きく外傾する体部から、口縁部が短く上方に立ち上がる器形となる（第182図6）。器面は、内外面ともにヘラナデが施される。

2類 小形で体部が膨らみ、頸部で締め、口縁部が直線的に短く外傾する器形となるもの（第178図6・第192図10）。器面は、口縁部にヨコナデ、体部内外面にハケメまたはヘラナデが施される。

E 土師器甕

甕は製作技法、大きさ、器形の特徴から以下のように分類した。

1類 ロクロ整形で小形となるもの。形態の特徴から、以下のように細分できる。

a：径の大きな平底から、体部があまり張らずに立ち上がり、頸部で緩く締まって屈曲し、口縁部が短く開く器形となるもの。口唇は内傾ぎみに平たく整形されるものが多い。底部がナデ整形されるもの（第156図8）と回

転糸切りの痕跡を残すもの（第 167 図 3）がある。

b：a 類に比べて底径が小さく、体部が膨らみ、頸部で締まって「く」字状に屈曲し、口縁部が短く開く器形となるもの。口縁部が直線的に外傾し、底部に回転糸切りの痕跡を残すもの（第 156 図 7）と、口縁部が内湾ぎみに外傾し、底部がナデ整形され体部下半にヘラケズリが施されるもの（第 172 図 5）がある。

2 類 非ロクロ整形で小形となるもの。以下のように細分できる。

a：径の大きな底部から、体部が殆ど膨らまずに立ち上がり、頸部で緩く締まって、口縁部が短く直線的に開く器形となるもの。器面は、口縁部内外面にヨコナデ、体部外面に縦方向のハケメ、内面に横方向のハケメまたはヘラナデが施される。底部に木葉痕をもつもの（第 156 図 9）がある。

b：a 類に比べて底径が小さく、体部が膨らみ、頸部で締まって「く」字状に屈曲し、口縁部が短く開く器形となるもの。器面は、全体にナデが施されるもの（第 168 図 7）と、体部内外面に横方向のハケメが施されるもの（第 172 図 6）がある。

c：平底から体部が内湾しながら外傾して立ち上がり、体部中央付近から直立し、頸部で屈曲して、口縁部が短く開く、広口の器形となるもの（第 170 図 12）。S T 981 竪穴住居跡から 1 点が出土している。器面の状況がわからないほどに被熱が顕著である。

d：体部上半が直線的に内傾し、そのまま口縁部に至り、口唇が僅かに外に引き出される器形となるもの（第 171 図 4）。S T 981 竪穴住居跡から破片資料が 1 点が出土しており、器面は内外面にヘラナデが施される。

3 類 ロクロ整形で、大形丸底の長胴形態となるもの。器形全体が把握できるものでは、体部が砲弾形となり、頸部で緩く締まって屈曲し、口縁部が開き、口唇でさらに屈曲して短く内傾する。器面は、底部から体部下半が外面タタキ、内面アテ、体部上半から口縁部がロクロナデが施される（第 168 図 9）。また、器形全体は不明であるが、体部が直立して口唇付近だけが緩く外に開くもの（第 180 図 3）がある。

4 類 非ロクロ整形の大形の甕を一括する。本類は器形全体が把握できるものは出土していないが、平底の長胴形態となるものが多いと考えられる。比較的遺存状態が

良いもの（第 178 図 12）では、体部が若干膨らむ長胴で、頸部が緩く締まって屈曲し、口縁部が直線的に開く器形となり、器面は口縁部にヨコナデ、体部外面縦方向、内面横方向のハケメが施される。また、薄手で口縁部が若干内傾ぎみに直立するもの（第 192 図 14）がある。

F 土師器埴

埴は 7 点出土したが、いずれも底部を欠く。体部が直線的に外傾し、口縁部が短く外傾するもの（第 156 図 12）、体部に膨らみをもち、頸部が緩く締まるもの（第 188 図 15）などがある。ロクロ整形が主体と見られるが、体部内外面にハケメが施されたもの（第 163 図 10・12）がある。

G 土師器甑

多孔の底部破片が 1 点出土した（第 195 図 1）。詳細は不明である。

H 酸化焰焼成の特殊な土器

1 類 小形の製塩土器と考えられるもの。底部は平底となり、体部から口縁部にかけて内湾ぎみに外傾する単純な器形となる。非ロクロ整形で輪積痕が明瞭に残る。器面は被熱が顕著である（第 180 図 12）。

2 類 焜炉形土器。厚手で非ロクロ整形であり、底部から直立する円筒形の器形となるもの（第 173 図 7・第 176 図 13）と、やや丸みのある器形で、体部中ほどに穿孔があるもの（第 164 図 5）がある。いずれも器面は粗く仕上げられ、口唇は内側に引き出される。

I 須恵器坏

1 類 ロクロ整形で、底部の切離しが回転篋切りによるもの。本類は出土点数が多く、今回出土した供膳形態の主体をなす。以下のように細分できる。

a：大径の底部から、体部が直線的もしくは内湾ぎみに外傾して口縁部に至る浅身の器形となるもの（第 154 図 8）。大きさにはばらつきがあるが、口径 130 mm、底径 70 mm、器高 35 mm を前後するものが多い。

b：体部の傾きが大きく、a 類よりも浅身の器形となるもの（第 155 図 1）。

2 類 ロクロ整形で底部切離しが回転糸切りによるもの

の。器形全体が把握できるものは11点と少ない。1類に比べて大きさには差がないが、底径が小さくやや深身となる。器形の特徴から以下のように細分できる。

a：浅身で、体部が内湾ぎみに立ち上がり口縁部に至る器形となるもの。口縁部が外に引き出されないもの（第154図10）と引き出されるもの（第155図5）がある。

b：口径が小さく深身となるもの（第182図9）。

J 須恵器高台付坏

1類 底部切離しが回転鏡切りによるもの。以下のように細分できる。

a：大形で浅身のもの（第162図6）。坏身の形態は須恵器坏I 1 a類に類似する。台は外に開き、底部より小さく取り付けられるものが多い。

b：小形で深身となるもの（第155図7）。坏身はあまり外傾せず、直線的に口縁部に至る器形となる。台は底部よりやや小さく取り付けられ、外開きとなる。

c：大形で深身となるもの（第162図10）。器形はb類に類似する。台は底部外周に取り付けられる。

2類 底部切離しが回転糸切りによるもの。底部破片が3点出土したにとどまり、器形全体は不明であるが、体部が開くもの（第183図15）と体部があまり外傾せずに立ち上がるもの（第191図11）がある。

K 須恵器皿

皿は破片が3点出土した。体部から口縁部の破片は、体部が内湾して外傾し、口縁部が外に引き出される（第183図9）。底部破片は、台付となるもの（第163図3）と無台のもの（第190図8）がある。

L 須恵器蓋

蓋は、坏の出土点数に比べて極端に少ない。これらはつまみの形態により、以下のように分類した。

1類 つまみの背が低く中央部がくぼむもの。器形全体が把握できるものでは、切離し面が平坦となり、体部が直線的に開き、口唇が内傾する器形となる（第156図2）。

2類 つまみの中央が平坦または突出するもの。さらに細分できる。

a：つまみの中央がほぼ平坦となり、切離し面から口縁部にかけてなだらかに内湾し、口唇が内傾する器形とな

るもの（第156図1）。

b：つまみの中央が突出するもの。切離し面は平坦となる。体部は直線的に開き、口縁部は外反して口唇が内傾もしくは垂直に立つ器形となる（第168図6）。

M 須恵器壺

壺はいずれも破片であり、器形全体を把握できるものはないが、大きさの違いから以下のように分類した。

1類 大形のもの。以下のように細分できる。

a：頸部が体部から外反して長く立ち上がり、口唇が箍状に整形される長頸の壺（第158図1）。

b：頸部が外反ぎみに立ち上がる短頸の壺（第158図2）。

c：底部の破片を一括する。台が付くもの（第158図3）と無台のもの（第193図7）がある。

2類 小形のもの。以下のように細分できる。

a：長頸の壺（第196図12）。特徴は1 a類に類似する。

b：肩が張る器形となるもの（第164図7）。

c：台付壺の底部から体部破片を一括する（第164図6）。

N 須恵器甕

出土した甕は、破片が殆どであるが、器形全体を把握できるものはSG771河川跡から出土したものが1点ある（第158図4）。底部は平底で、体部は膨らみ中央のやや上部に最大径をもつ。頸部は締まって「く」字状となり、口縁部は直線的に短く外傾する。口唇は平坦に整形されるが、中央で僅かにくぼむ。器面は、外面の体部下半が平行タタキ、上半が平行タタキと横方向のカキメ、内面には青海波アテが施される。

O 須恵器横瓶

口縁部破片が1点出土した（第148図19）。

D 第IV群土器

中世以降の土器・陶磁器を一括する。本群は調査区全体から出土しているが、点数が少なく殆どが小破片である。以下では、近・現代および出自の不明な在地系以外のものについて種別、器種ごとに分類した。

A かわらけ

小形の浅身の酸化焰焼成で、底部切離しが回転糸切りと

なる底部から体部が緩やかに内側に湾曲しながら立ち上がり、口縁部に至る器形となるものが1点出土した。器面は単純なロクロナデ整形である。口唇に煤が付着しており、燈明皿として使用されたことがうかがえる（第197図6）。

B 珠洲系陶器

珠洲系陶器は6点出土した。素焼きの還元焰焼成で色調は暗灰色である。いずれも破片で出土し、器形全体が把握できるものはなく詳細は不明であるが、以下の類型にまとめられる。

1 類 播鉢

口縁部破片（第166図4）はSG833河川跡から出土した。厚手で若干内側に湾曲ぎみに外傾し口縁部に至る器形となる。器面はロクロナデ整形される。内面に卸目は確認できないが、磨滅が認められ、播鉢と判断される。底部破片は以下のように細分できる。

a：底部切離しの糸切り痕を残し、内側に湾曲しながら体部が立ち上がる器形となるもの。SG833河川跡から出土した。外面はロクロナデ整形、内面は密に卸目が施される（第166図5）。

b：底部は切離しの後にナデ整形される。体部はほぼ直線的に外傾する器形となる。外面はロクロナデ整形、内面には20mm幅で8本の卸目がまばらに施される。南西部遺構群のSX380落ち込みから出土した（第138図4）。

2 類 壺

頸部破片（第153図2）は、中間的な大きさで、肩が張り頸部が屈曲して口縁部が直線的に外傾する器形となる。器面は、体部外面に条線状タタキが施される。底部破片（第196図17）はやや小形の平底で、若干内側に湾曲しながら体部が立ち上がる器形になると見られる。器外面に条線状タタキが施される。

3 類 甕

甕は体部破片が2点出土した（第197図2・3）。外面には条線状タタキが施され、内面には円形の押圧痕が見られる。

C 瓷器系陶器

1 類 耳壺

第2次調査T21トレンチから出土したが、小破片のため詳細は不明である（第147図16）。

2 類 甕

SG771河川跡の上層から大形甕の体部が出土した。体部上半に最大径をもつ肩が張る器形となる。色調は淡灰色を基調とし、器外面に条線状タタキ、内面に円形押圧痕が認められる（第159図1）。

D 白磁

小形で浅身の皿が1点出土した（第197図7）。

E 青磁

龍泉窯系とみられる碗の底部破片が1点出土した（第197図12）。

F 近世陶器

1 類 肥前系陶器

4点出土した。内外面に施釉され、底部は露胎となる。以下のように細分できる。

a：碗（第139図14）。

b：皿。台付で見込に胎土目があるもの（第153図4・第197図15）と無台のもの（第197図13）がある。

2 類 瀬戸美濃系陶器

小形の供膳具とみられる小破片が3点出土した。いずれも詳細は不明である。

a：碗（第193図11）。

b：絵志野皿（第197図19）。

c：灰釉皿（第197図21）。

G 近世磁器

1 類 青花

中央部遺構群のSD589溝跡から2点が出土した。いずれも薄手で、内外面に呉須による彩色がある。以下の2器種がある。

a：染付皿（第189図8）。

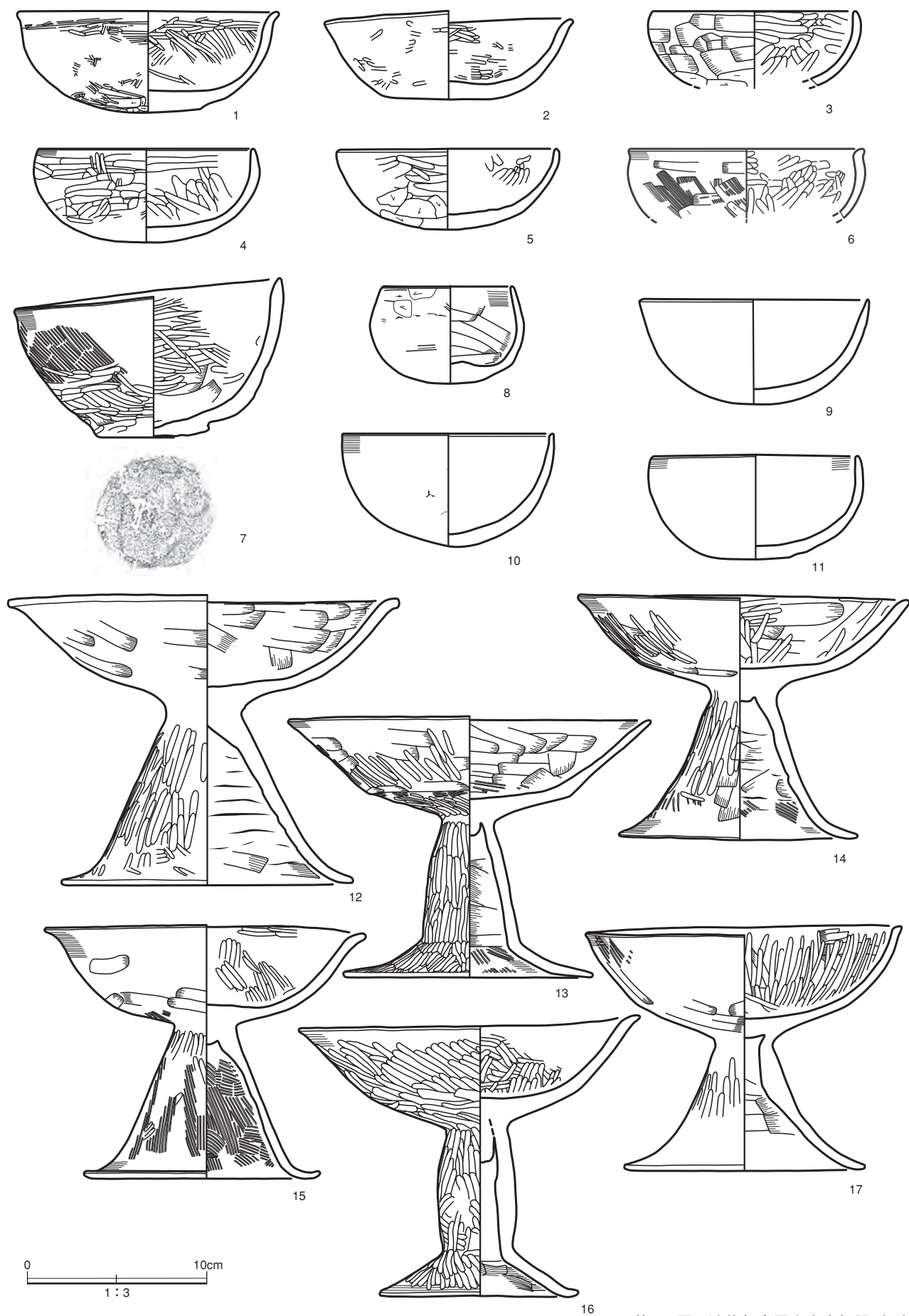
b：染付小杯（第189図9）。

2 類 肥前系磁器

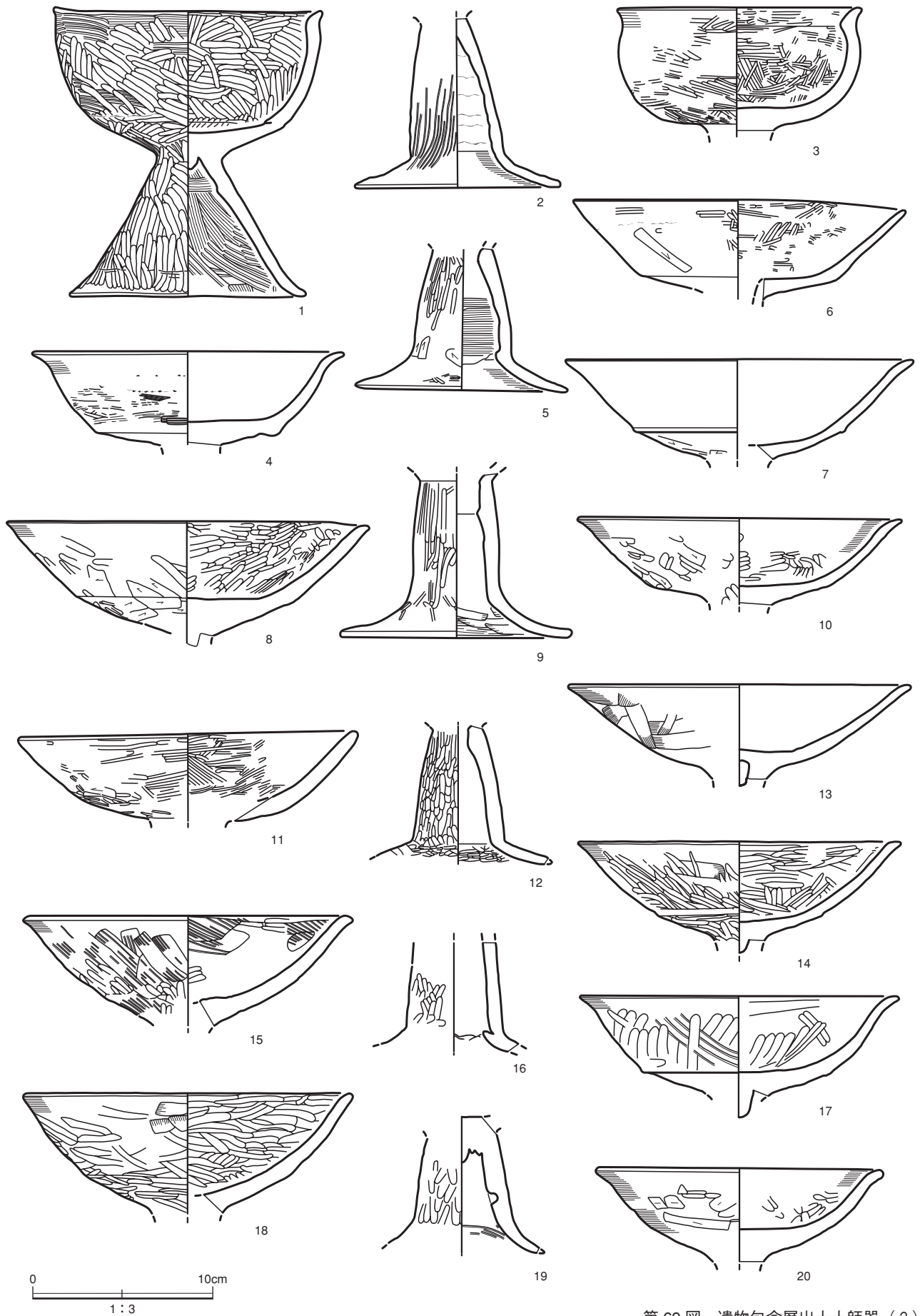
6点が出土した。いずれも江戸時代中期以降に生産されたものと見られる。以下の2器種がある。

a：染付碗（第139図4・第197図17・20）。

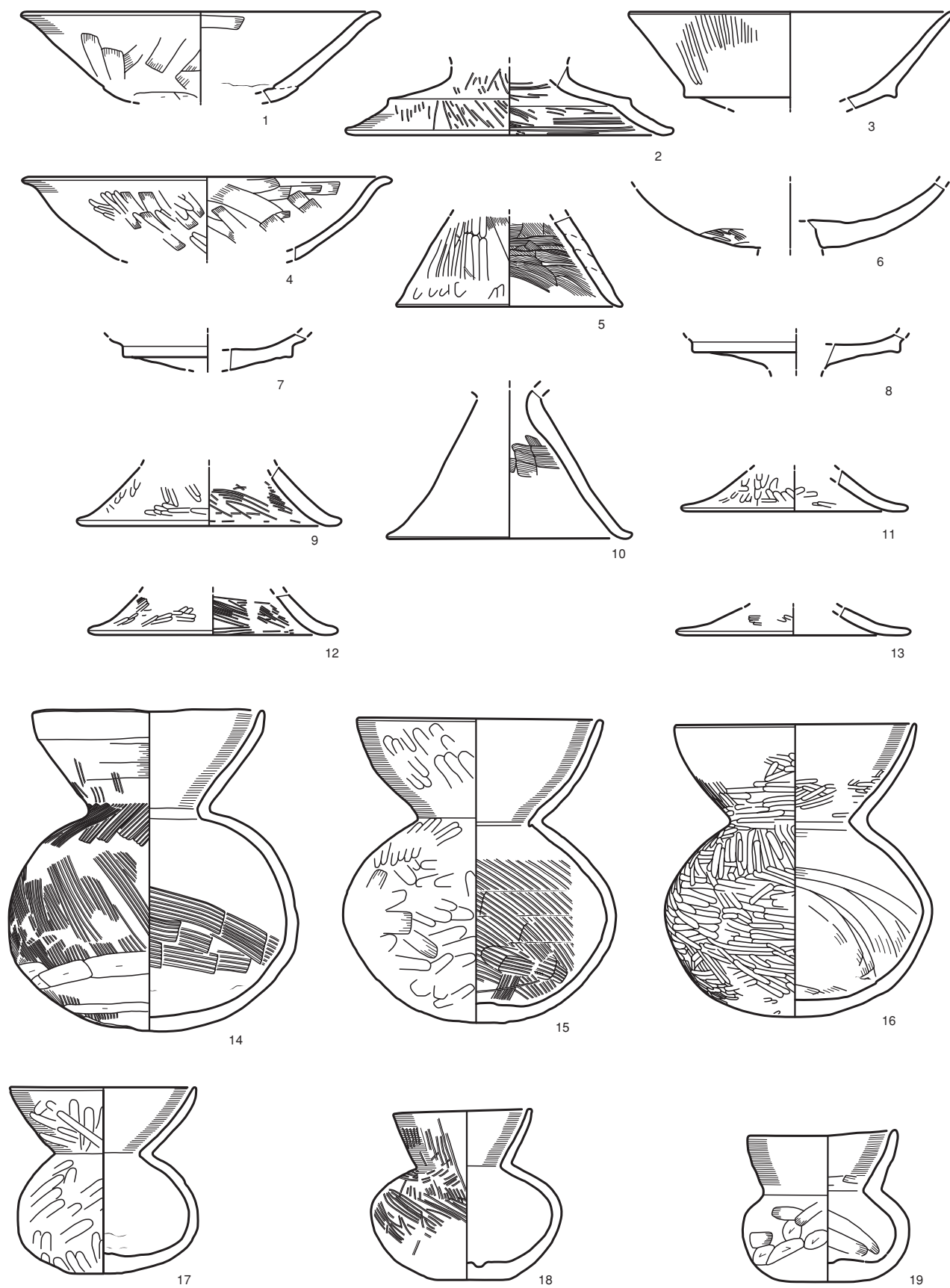
b：皿。やや深身で染付があるもの（第139図10・191図9）と、小形の白磁（第197図5）がある。



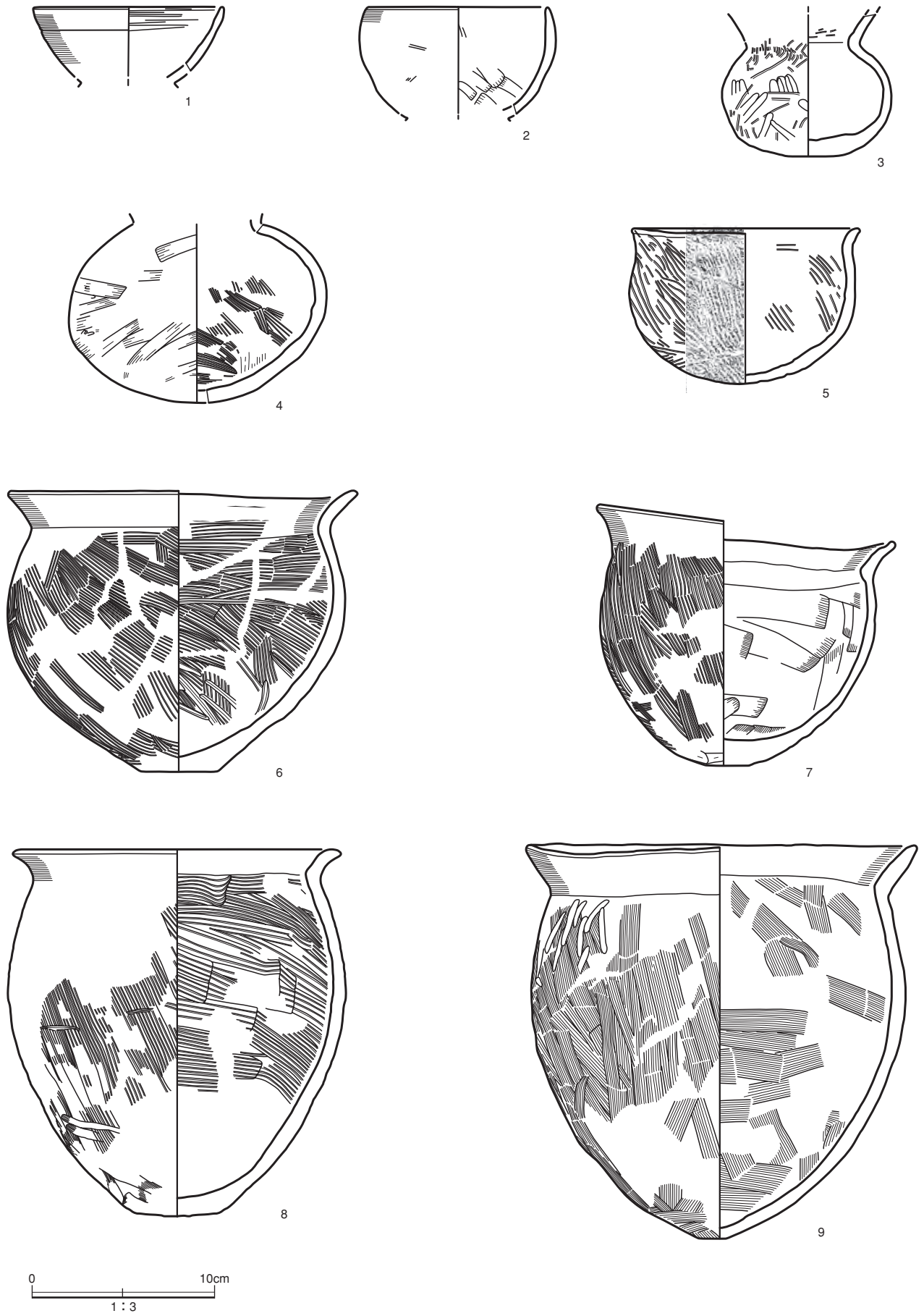
第 68 図 遺物包含層出土土師器 (1)



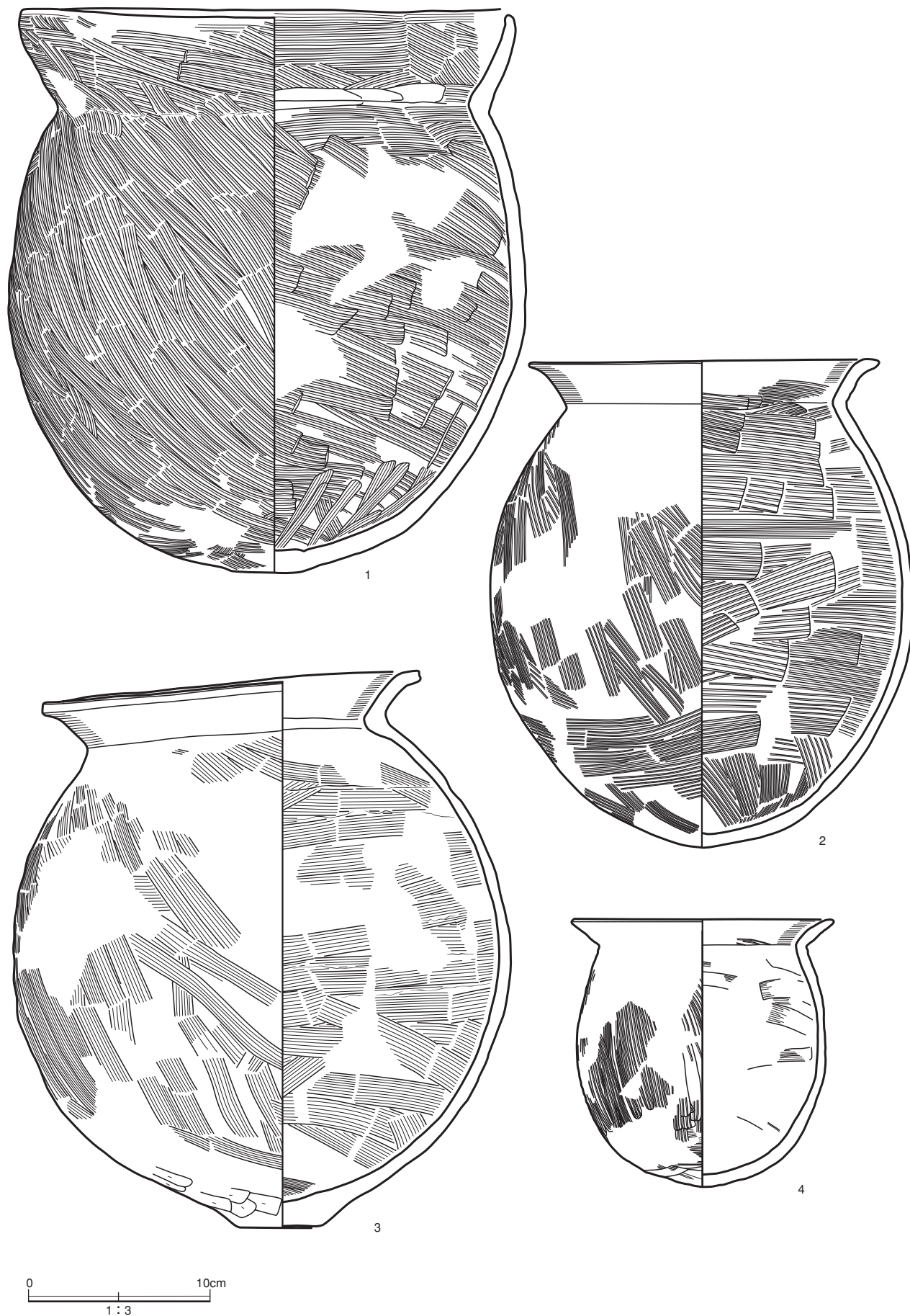
第 69 図 遺物包含層出土土師器 (2)



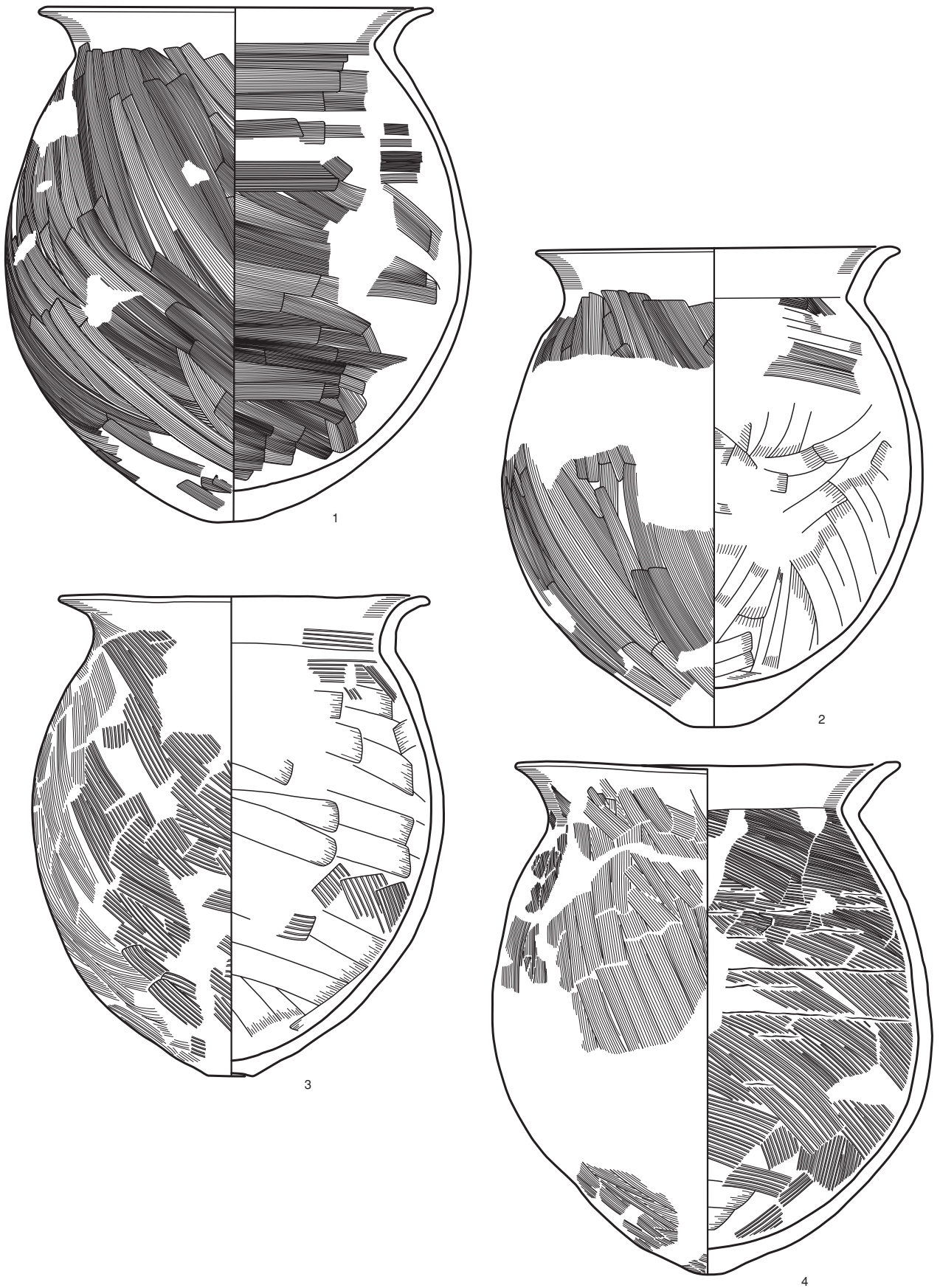
第70図 遺物包含層出土土師器(3)



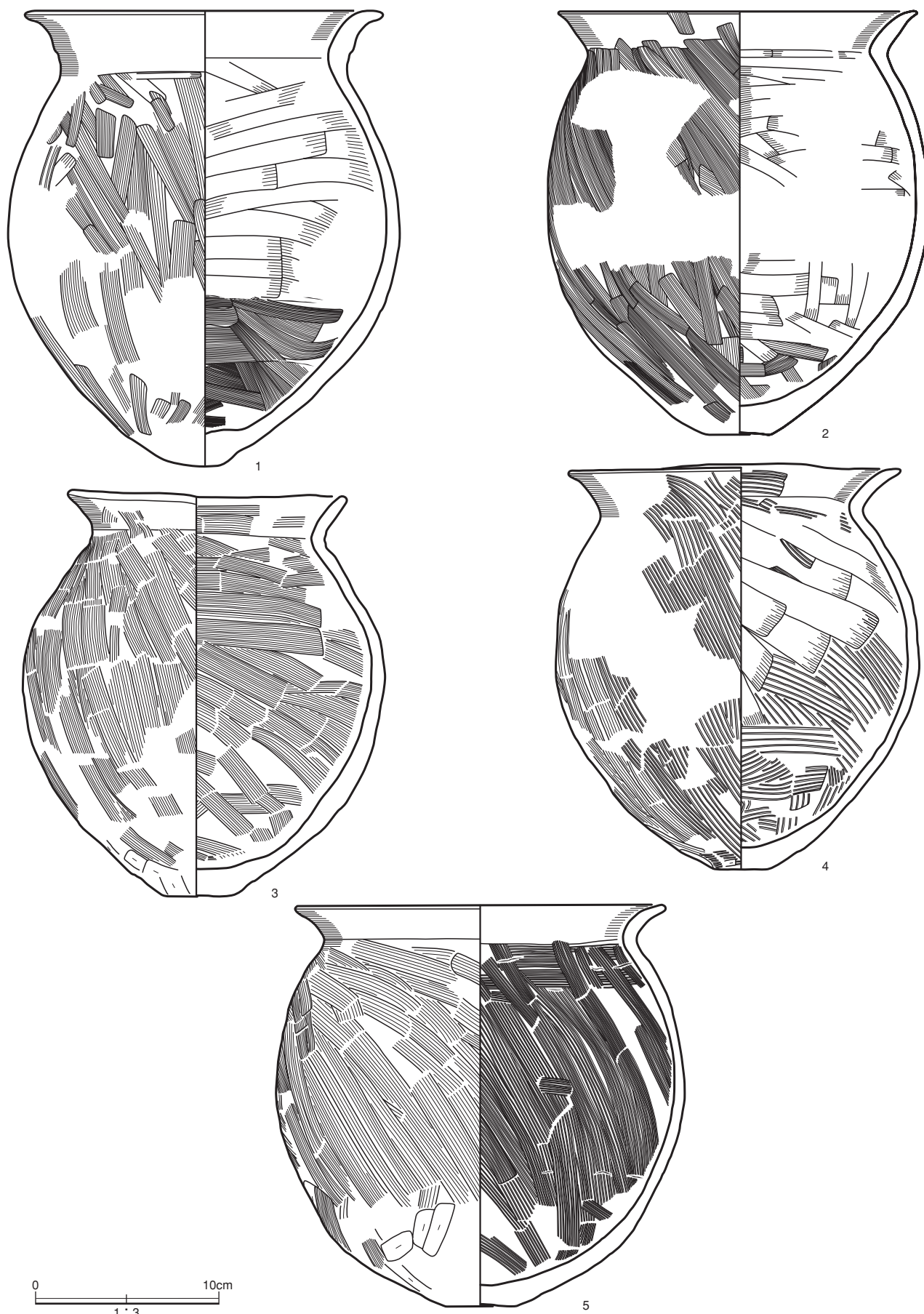
第71図 遺物包含層出土土師器(4)



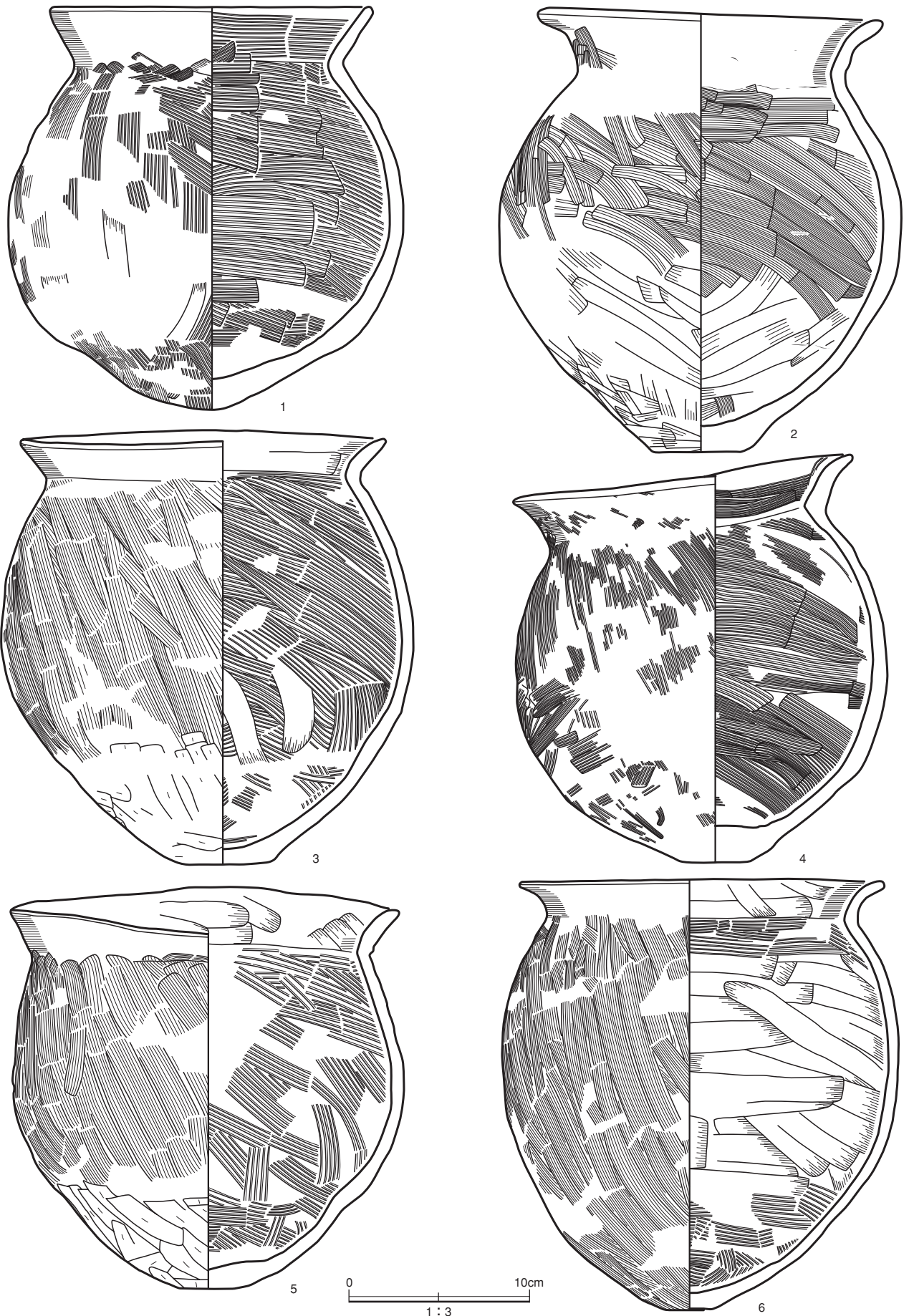
第 72 図 遺物包含層出土土師器 (5)



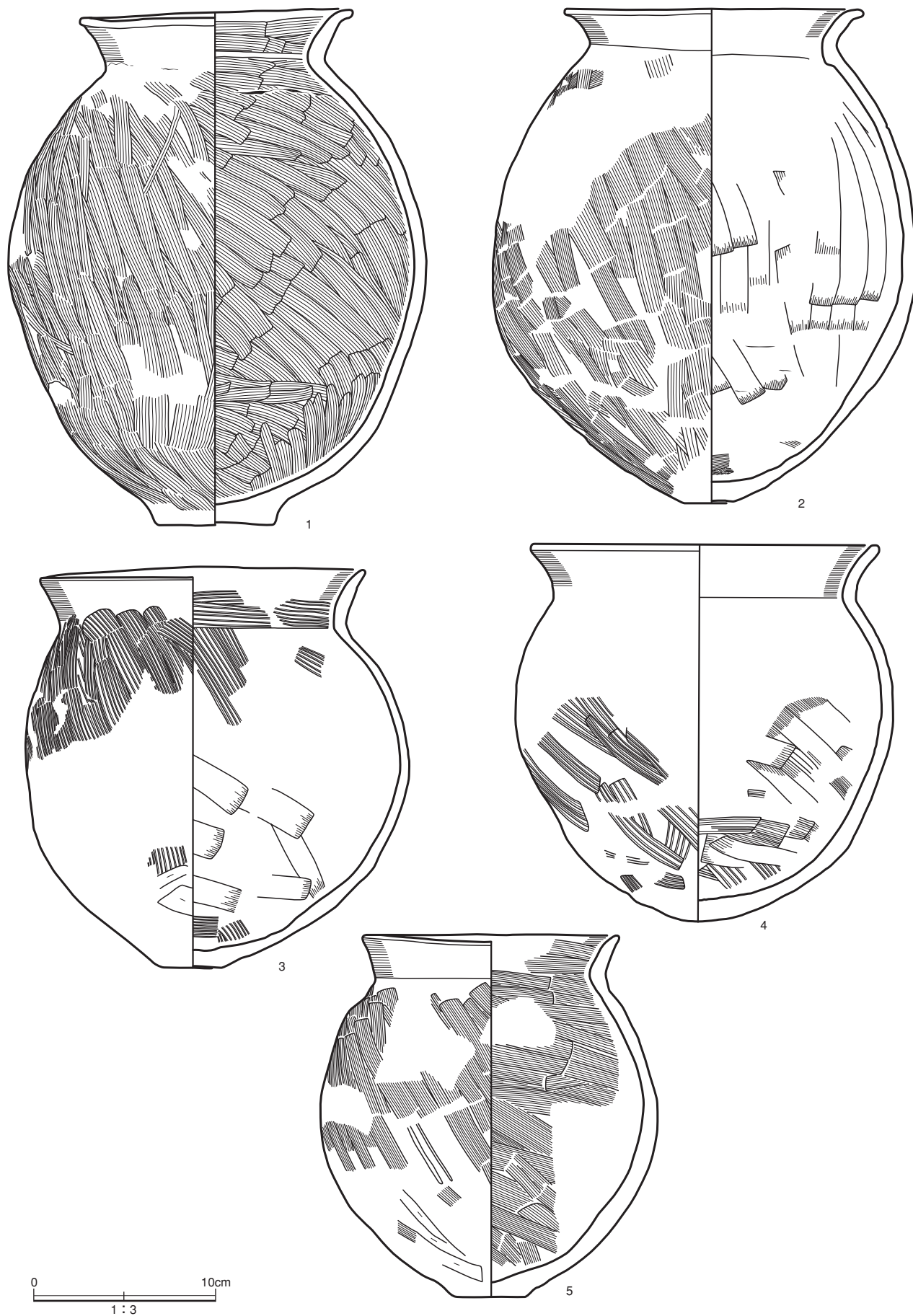
第73図 遺物包含層出土土師器(6)



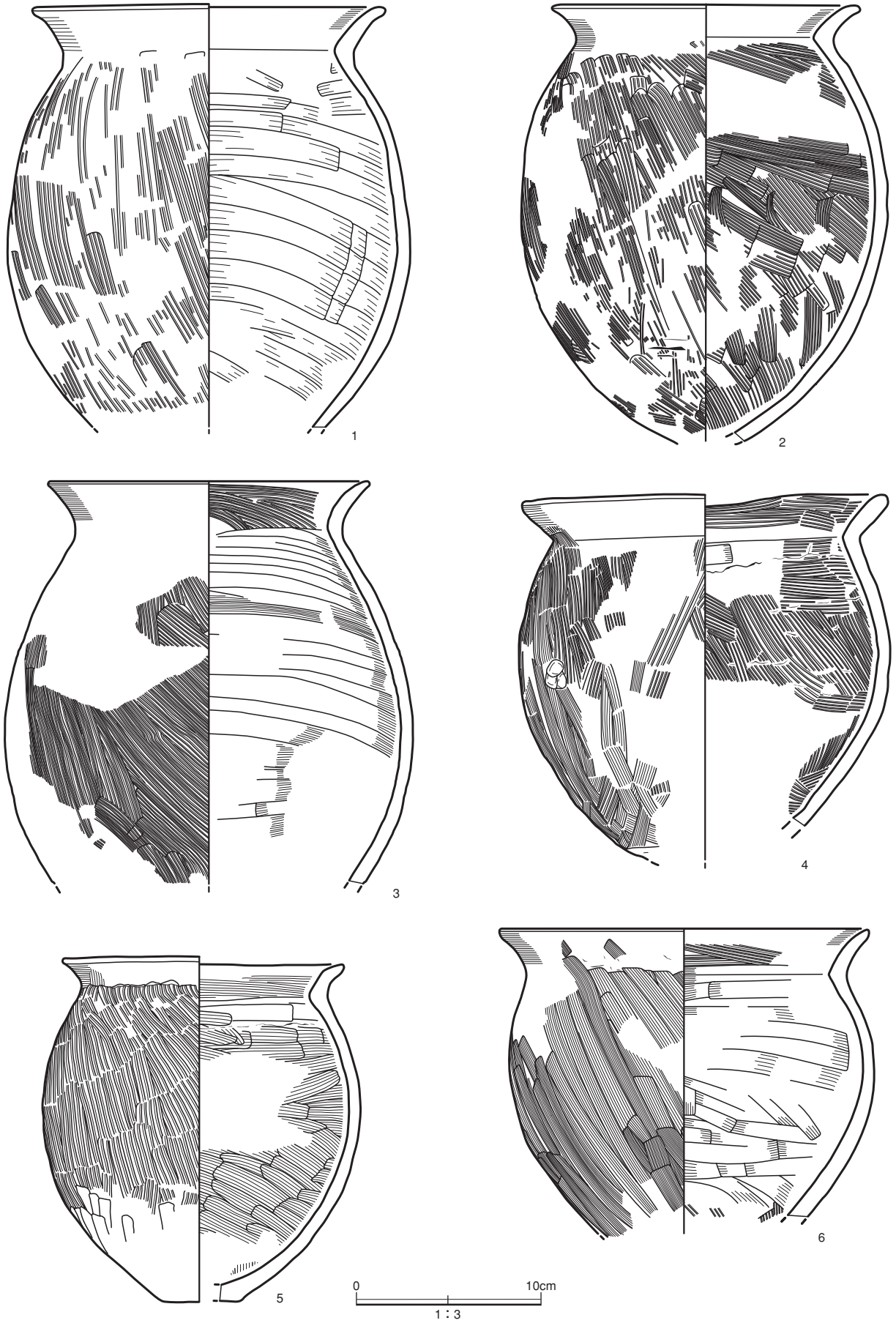
第74図 遺物包含層出土土師器(7)



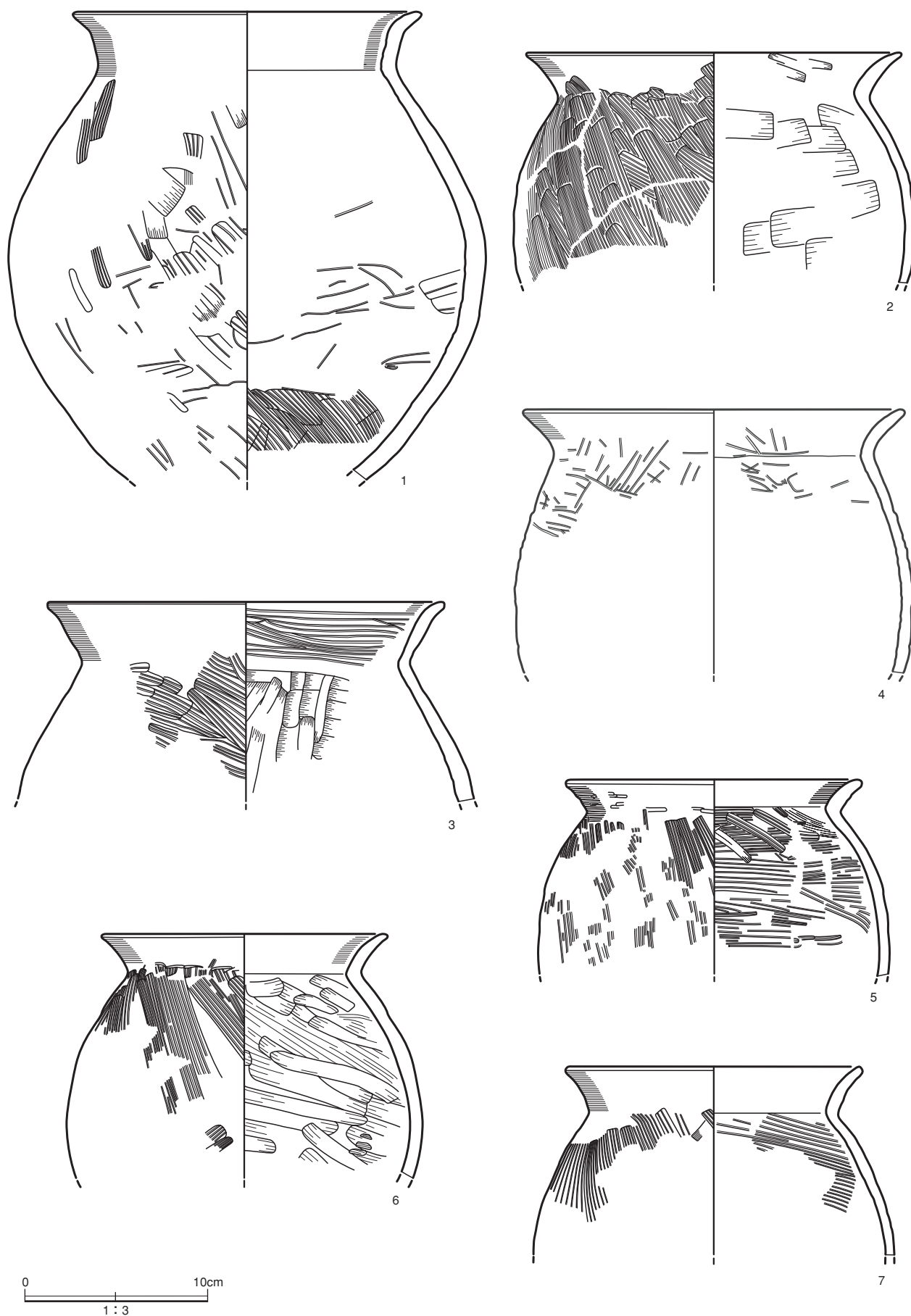
第75図 遺物包含層出土土師器(8)



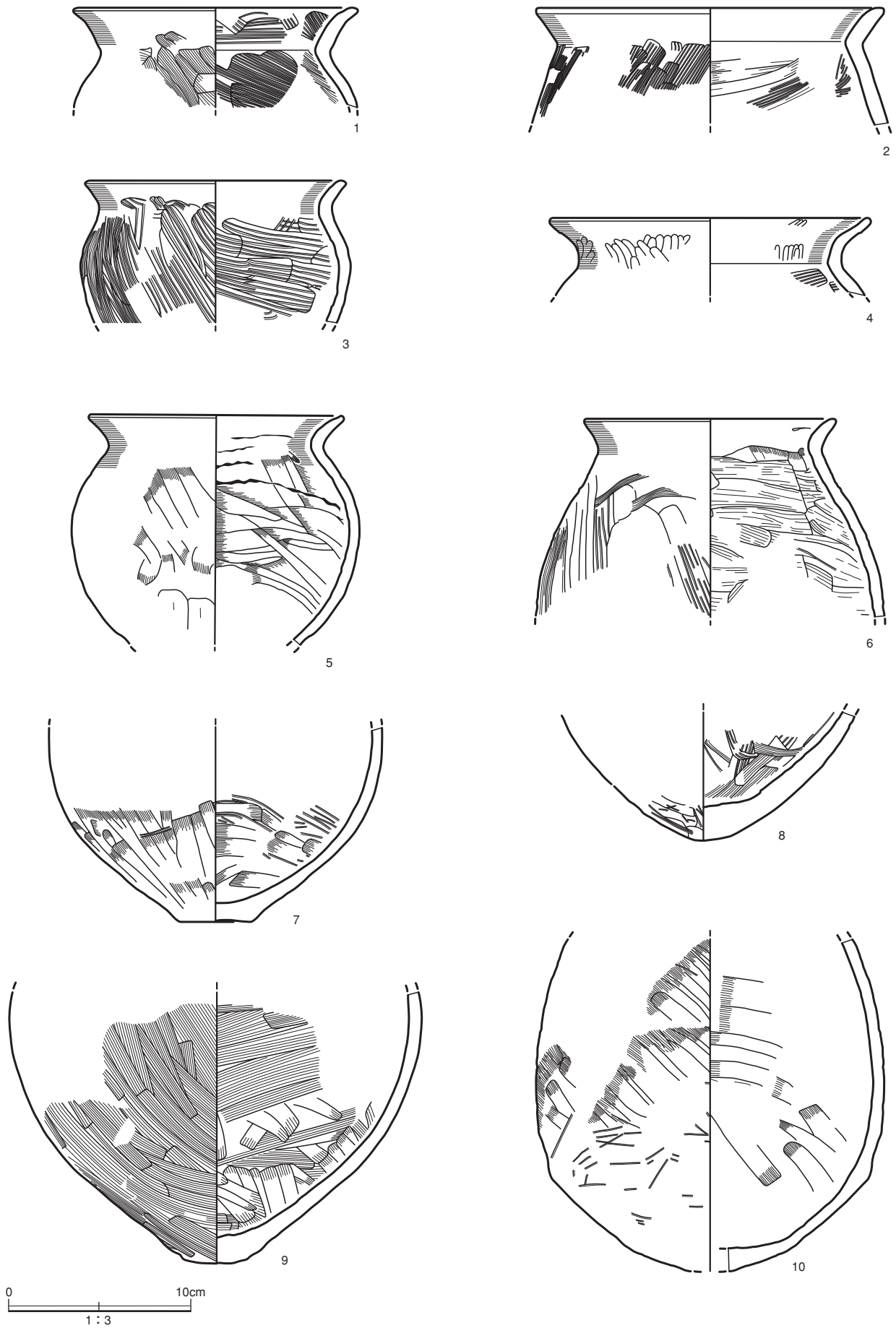
第76図 遺物包含層出土土師器(9)



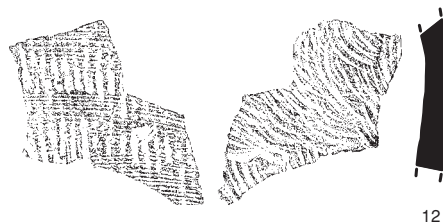
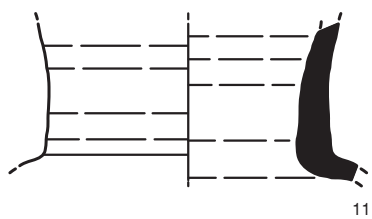
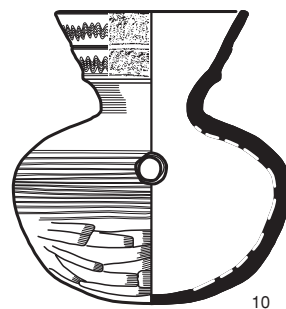
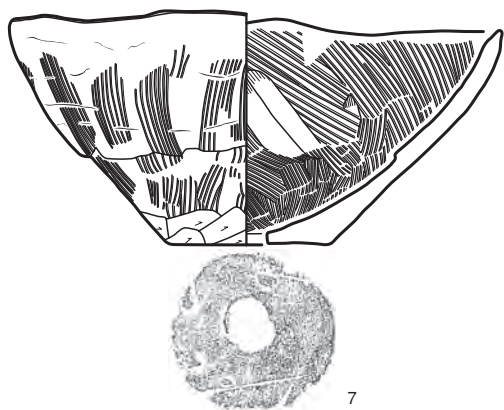
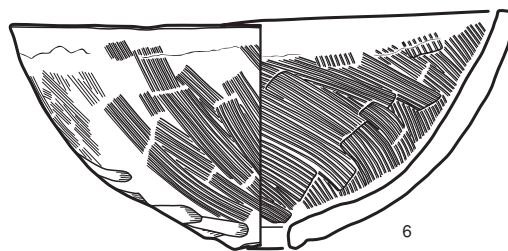
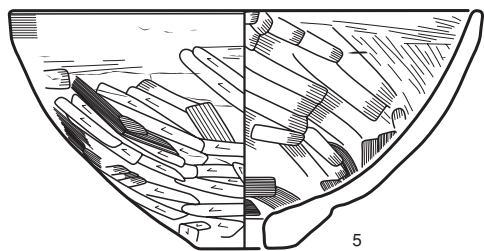
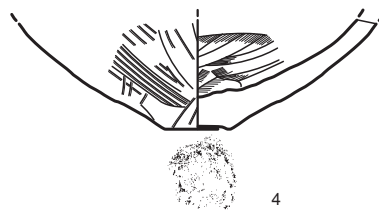
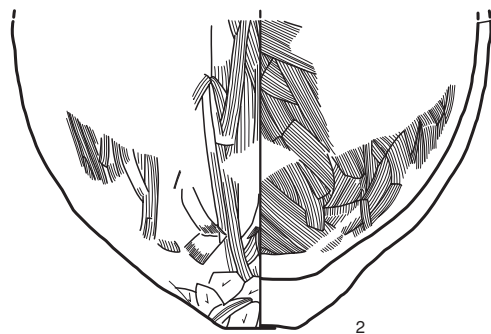
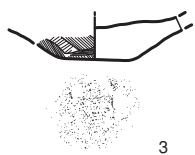
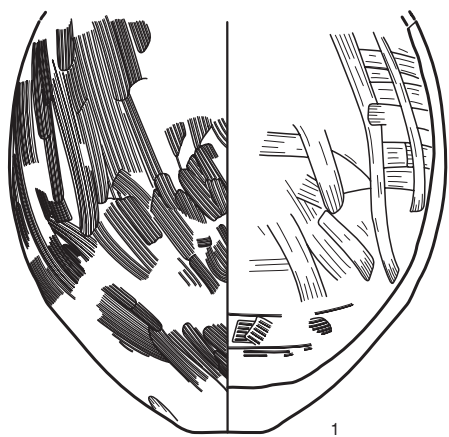
第 77 図 遺物包含層出土土師器 (10)



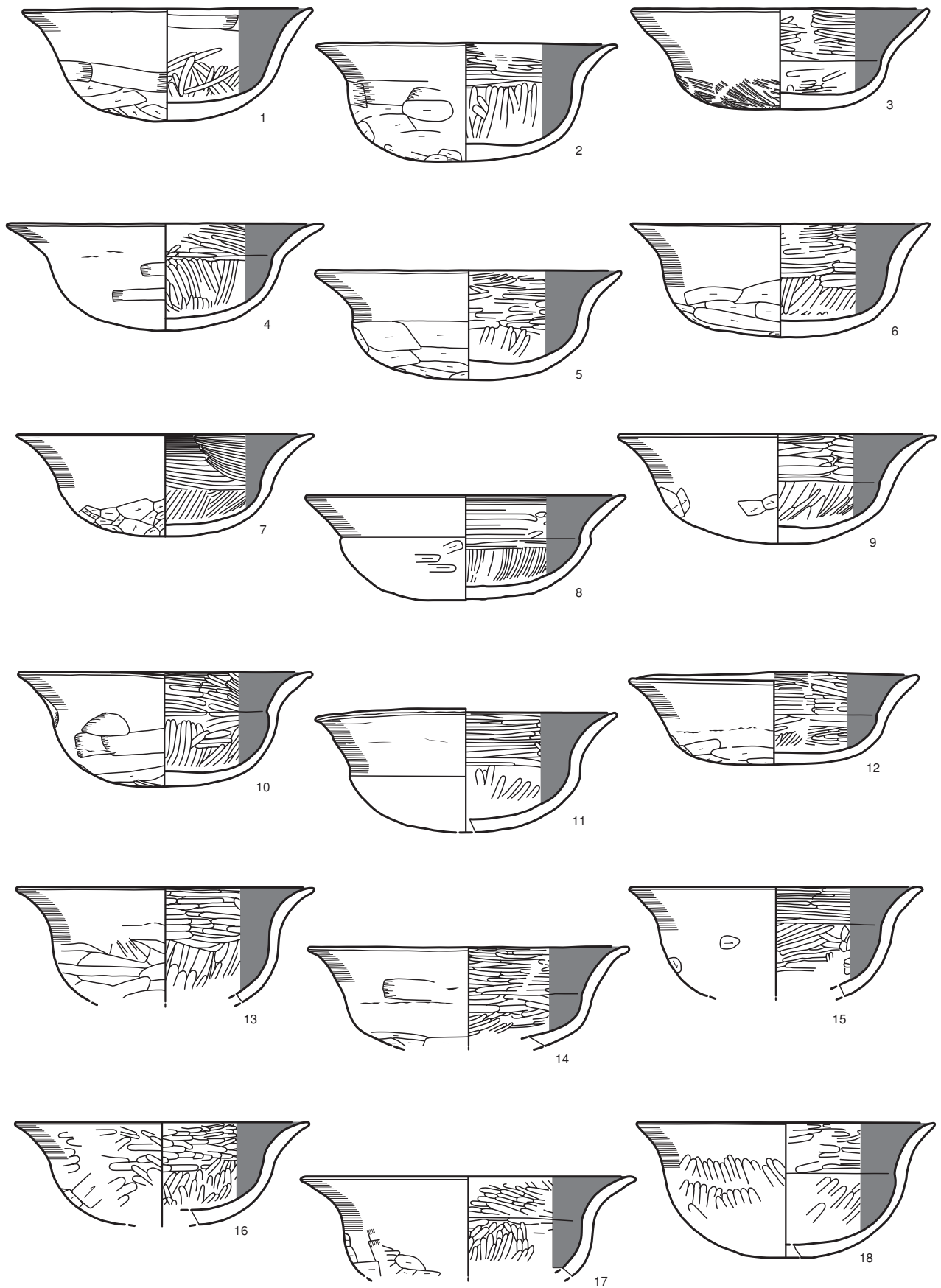
第78図 遺物包含層出土土師器 (11)



第79図 遺物包含層出土土師器(12)

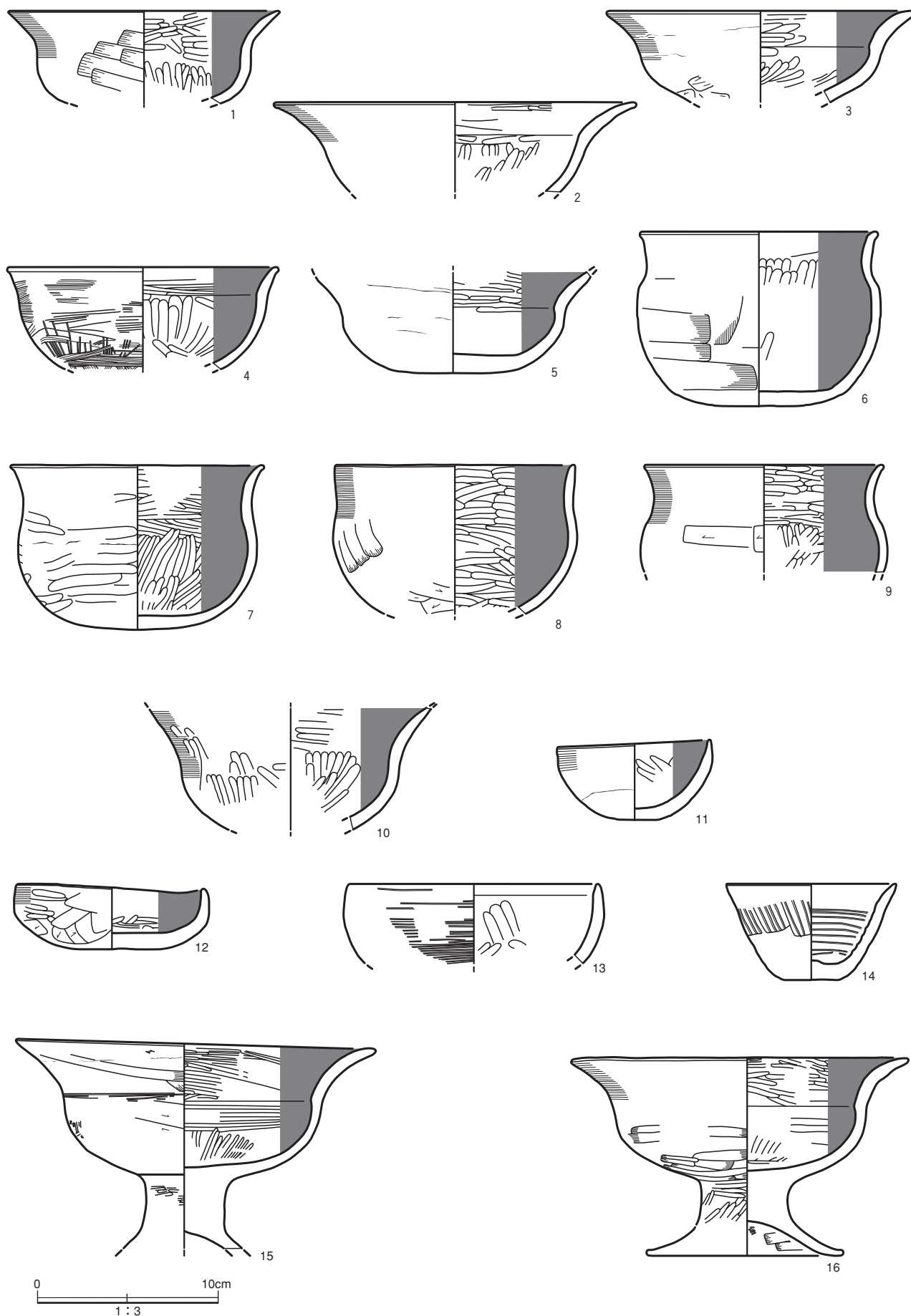


第 80 図 遺物包含層出土土師器・須恵器

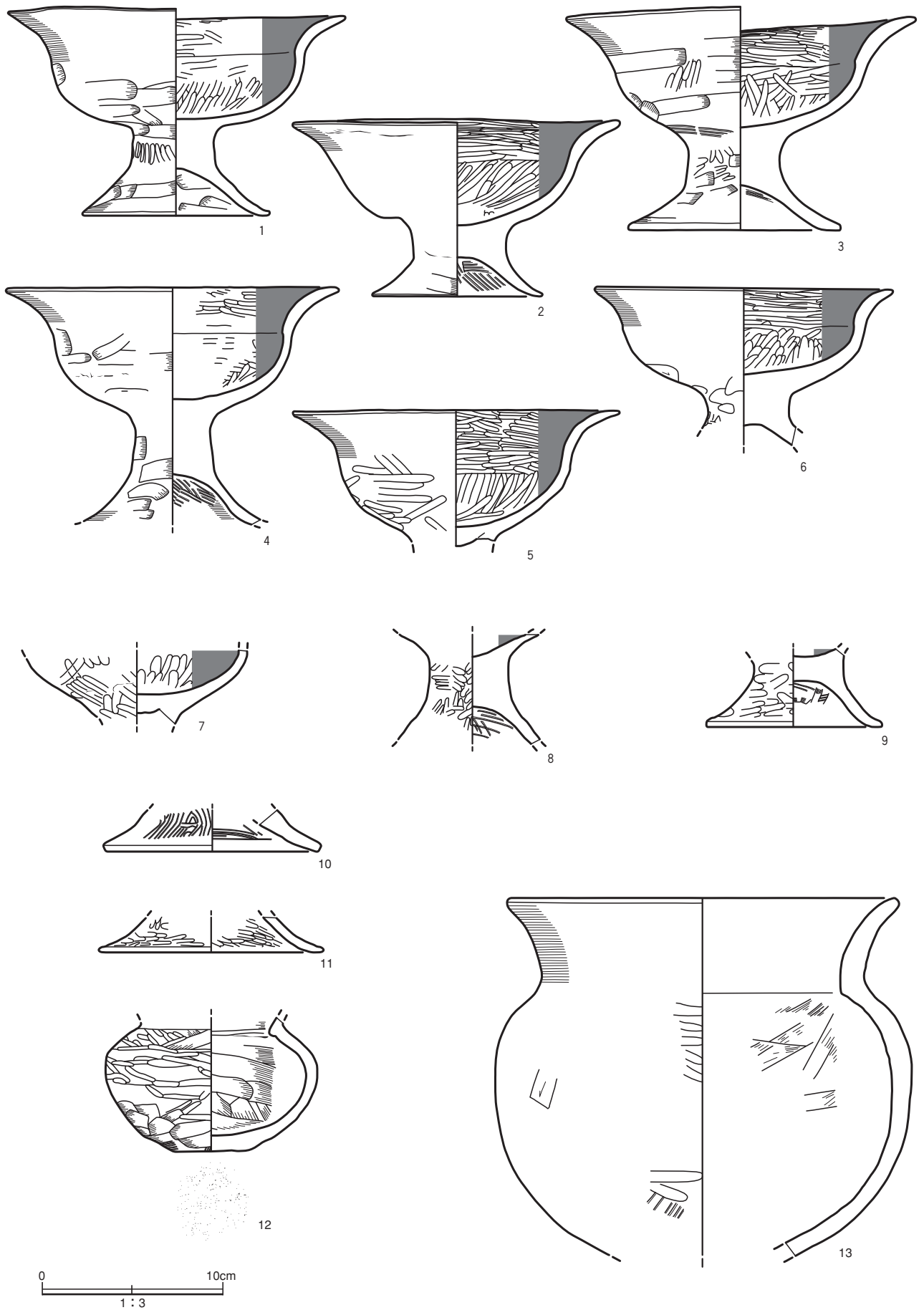


0 10cm
1:3

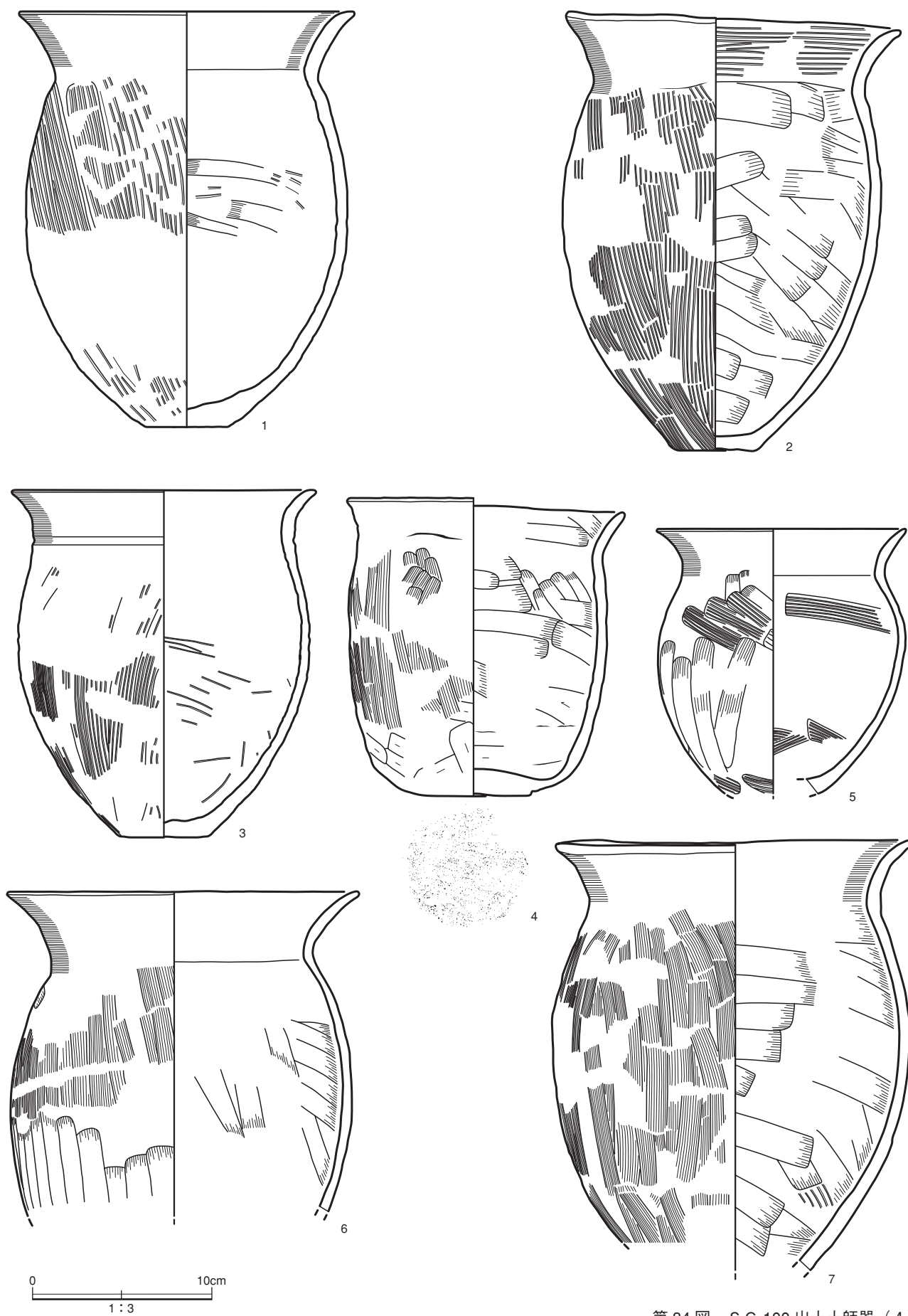
第81図 SG 100出土土師器(1)



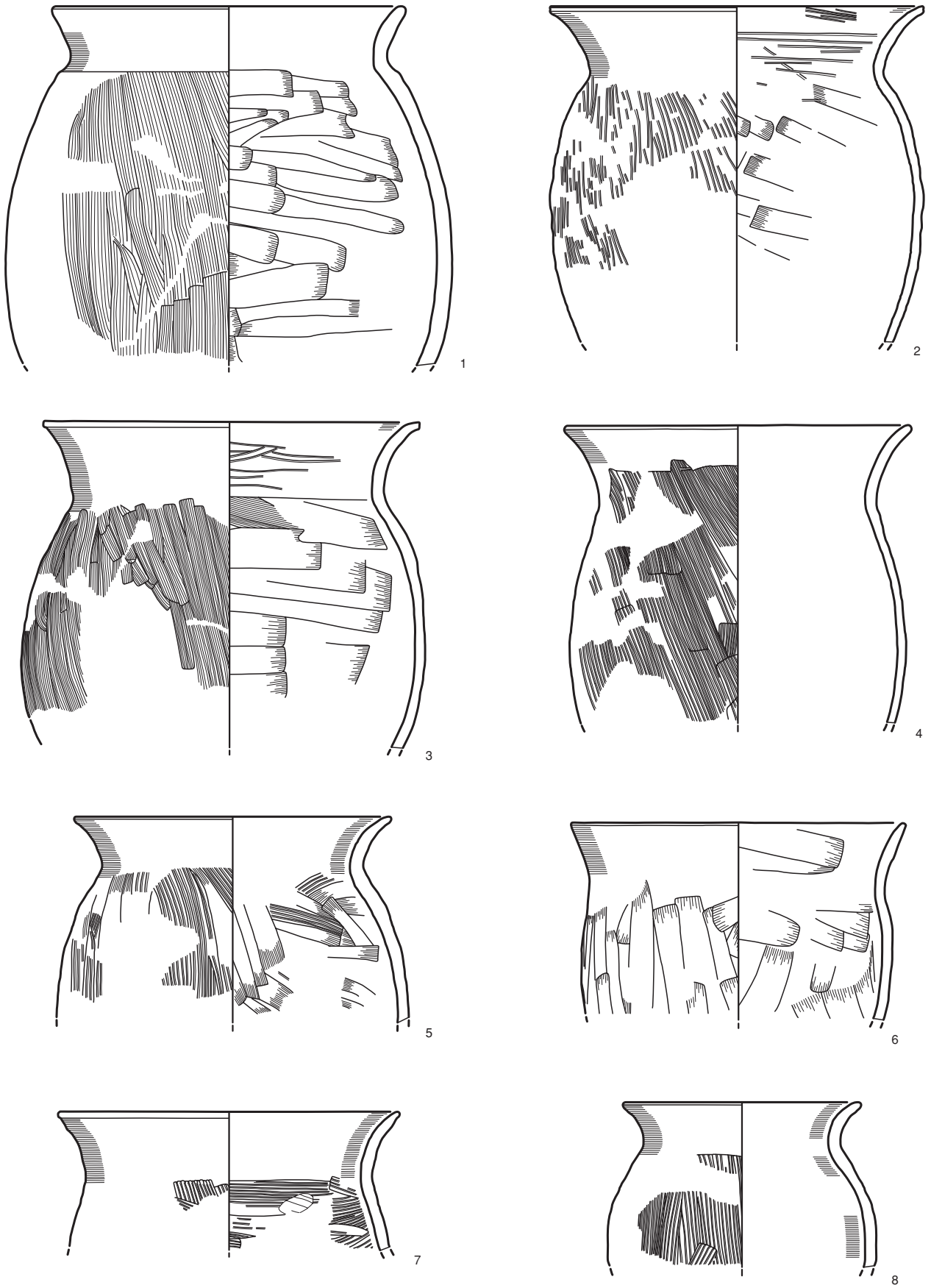
第82図 SG 100 出土土師器 (2)



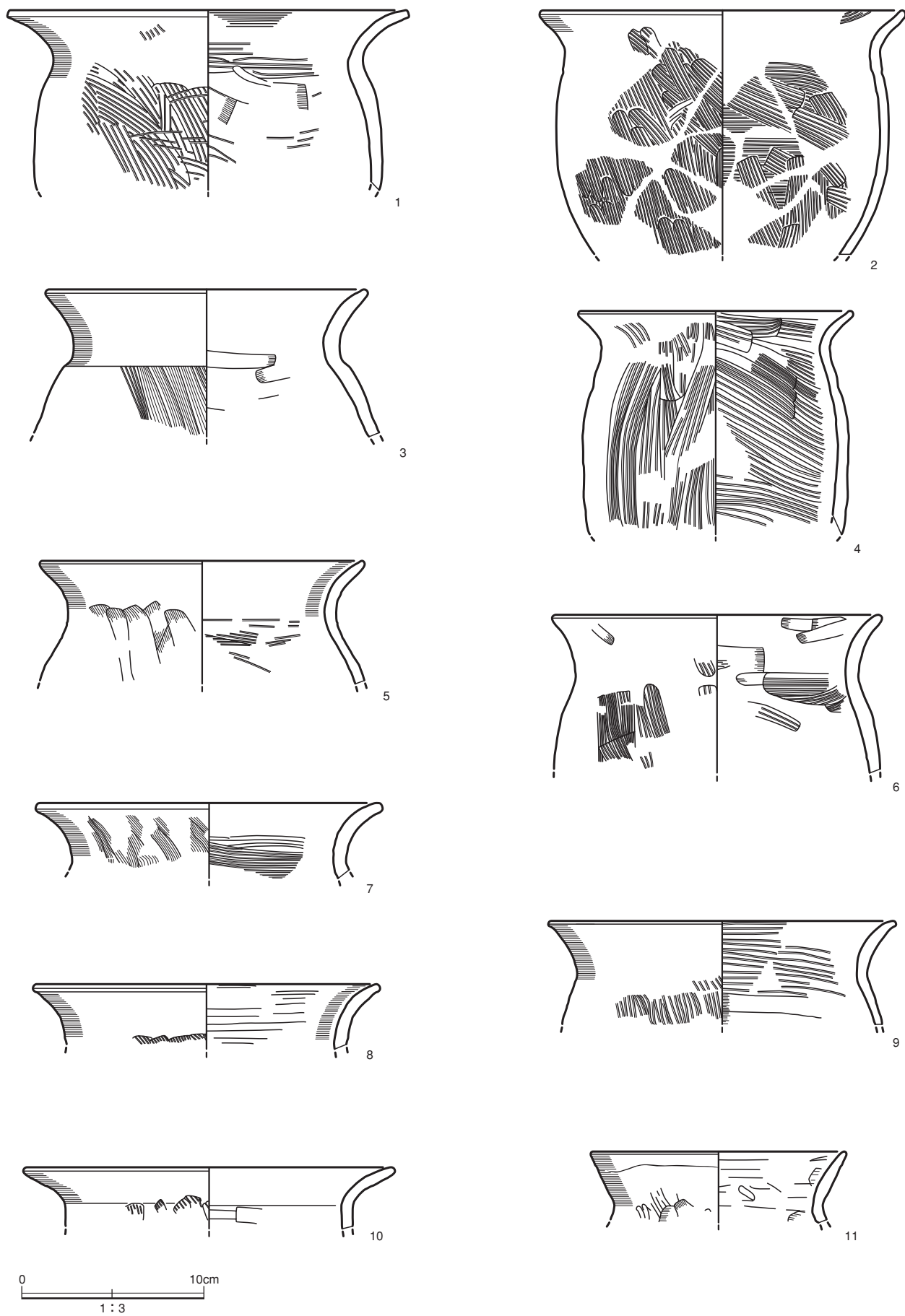
第 83 図 S G 100 出土土師器 (3)



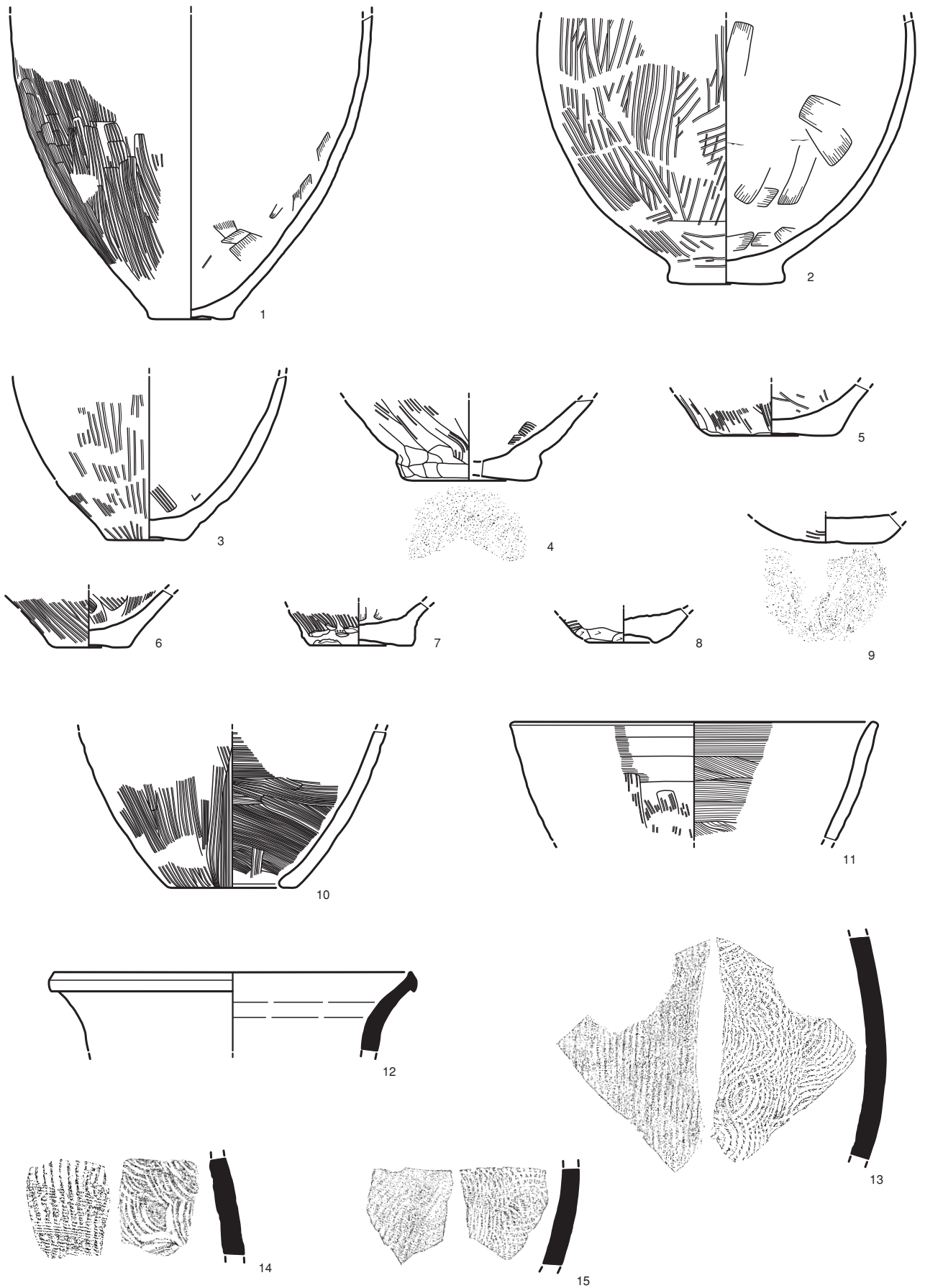
第84図 SG 100 出土土師器(4)



第 85 図 S G 100 出土土師器 (5)

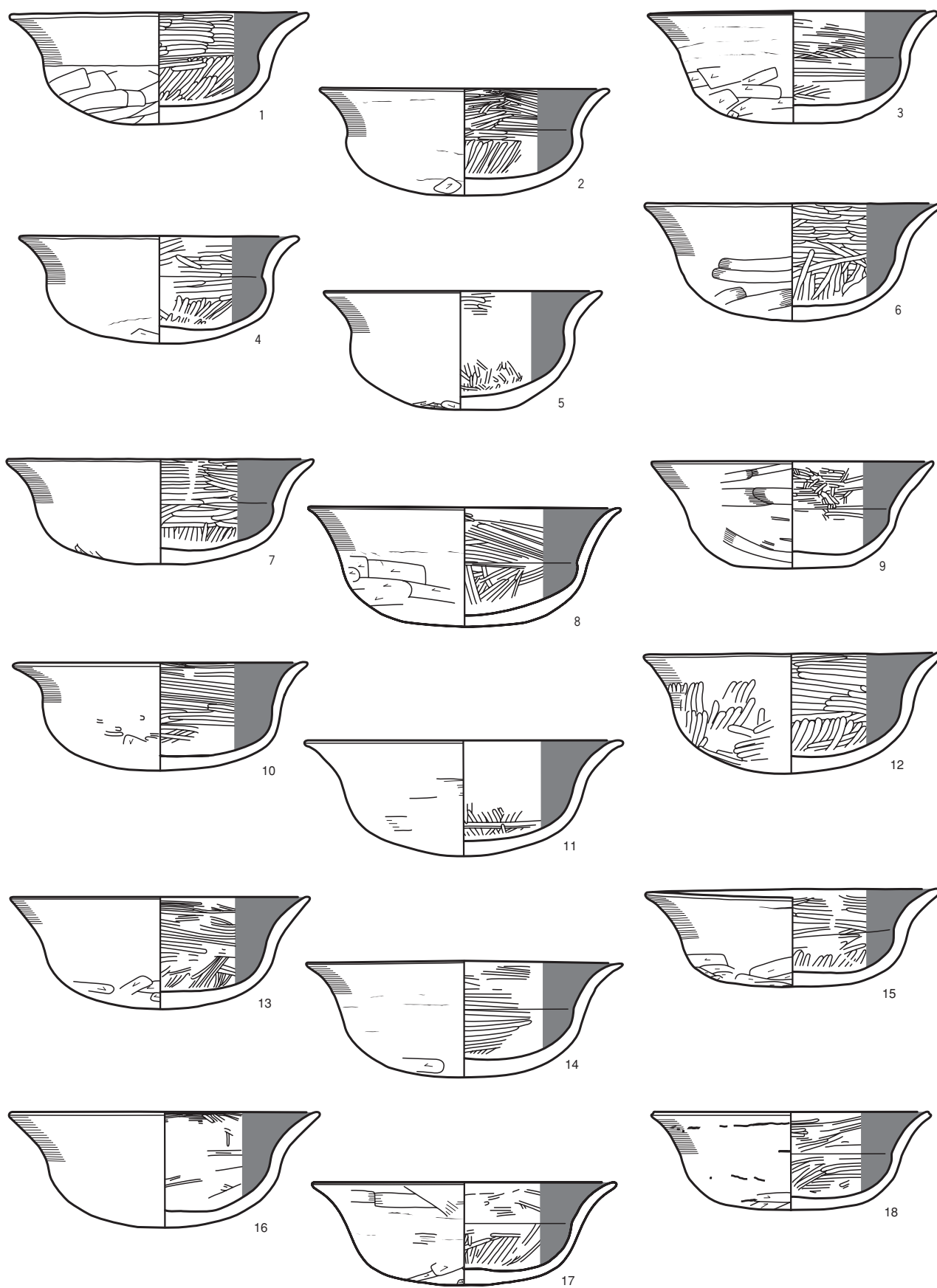


第 86 図 S G 100 出土土師器 (6)

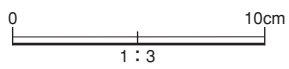
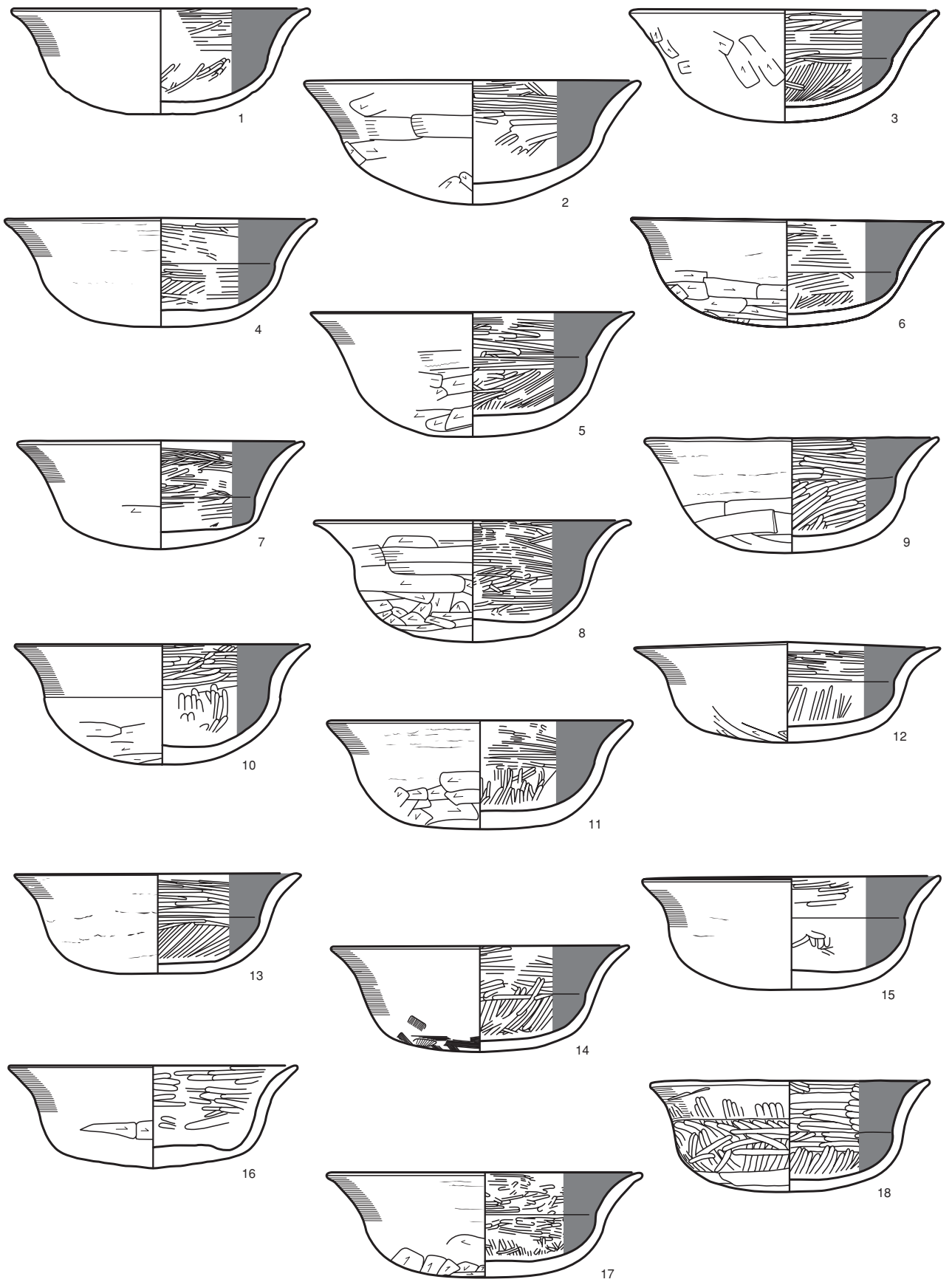


0 10cm
1:3

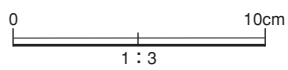
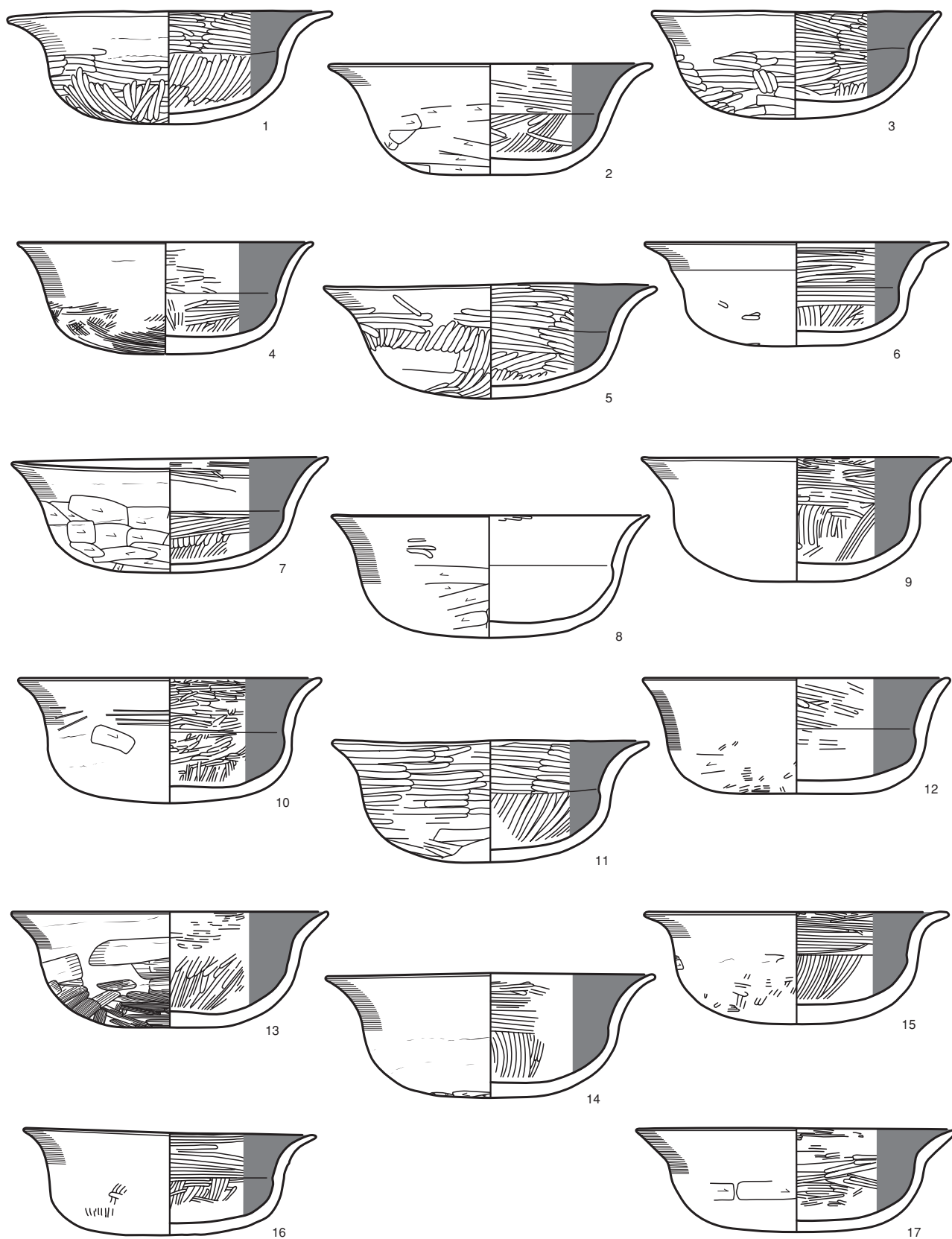
第 87 図 S G 100 出土土師器・須恵器



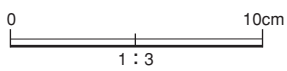
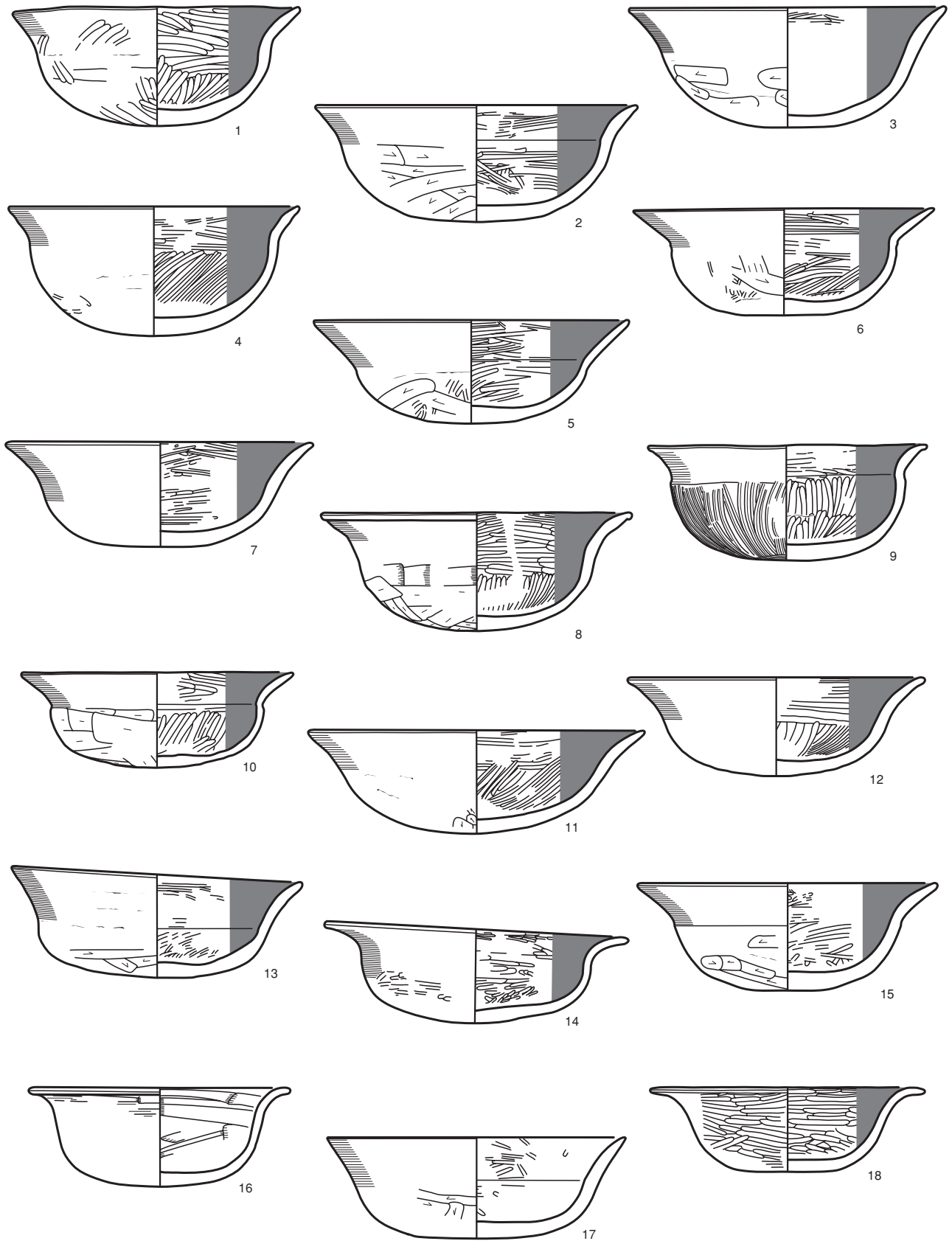
第 88 図 S G 160 出土土師器 (1)



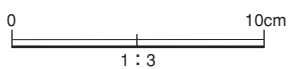
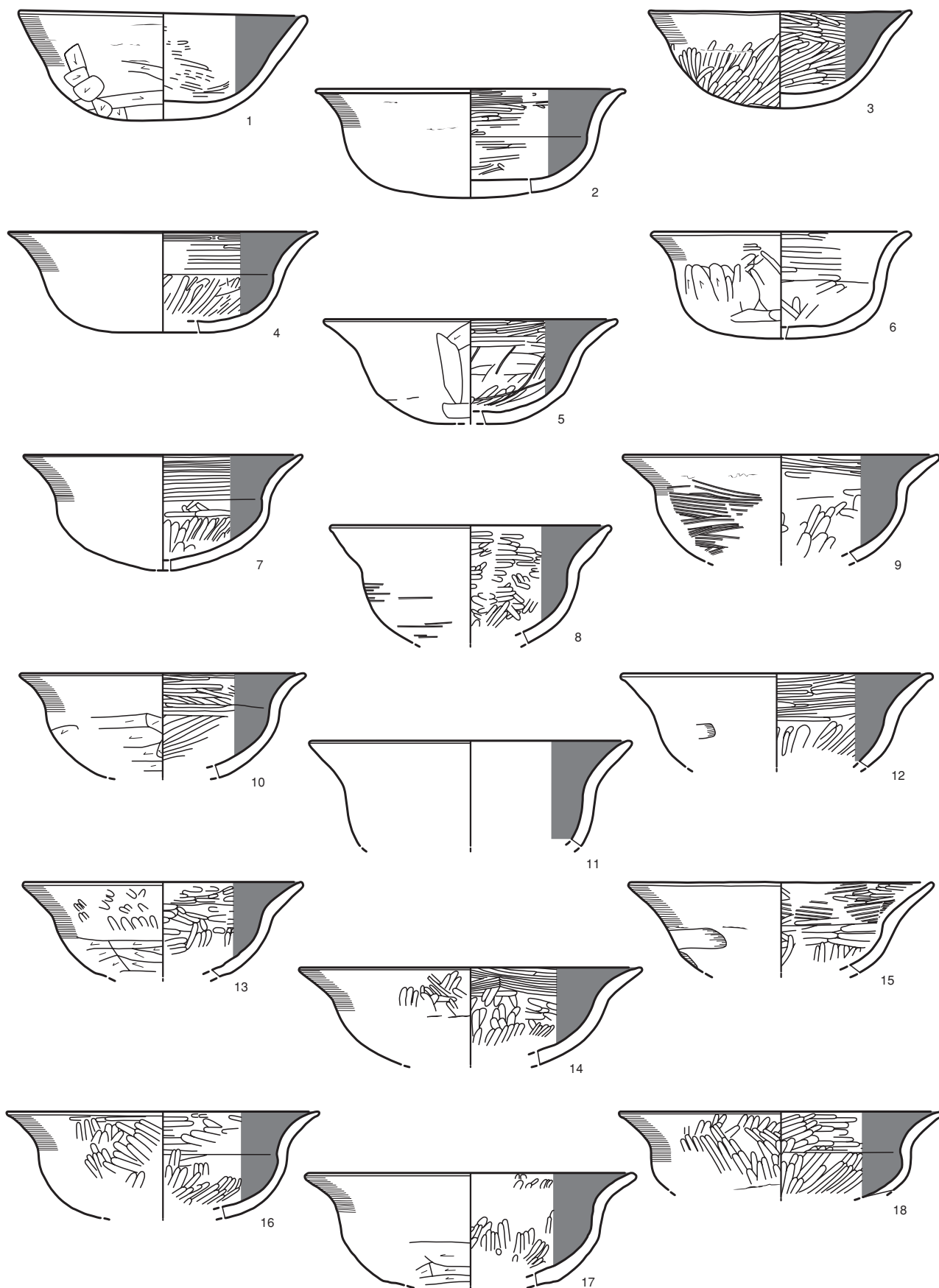
第 89 図 S G 160 出土土師器 (2)



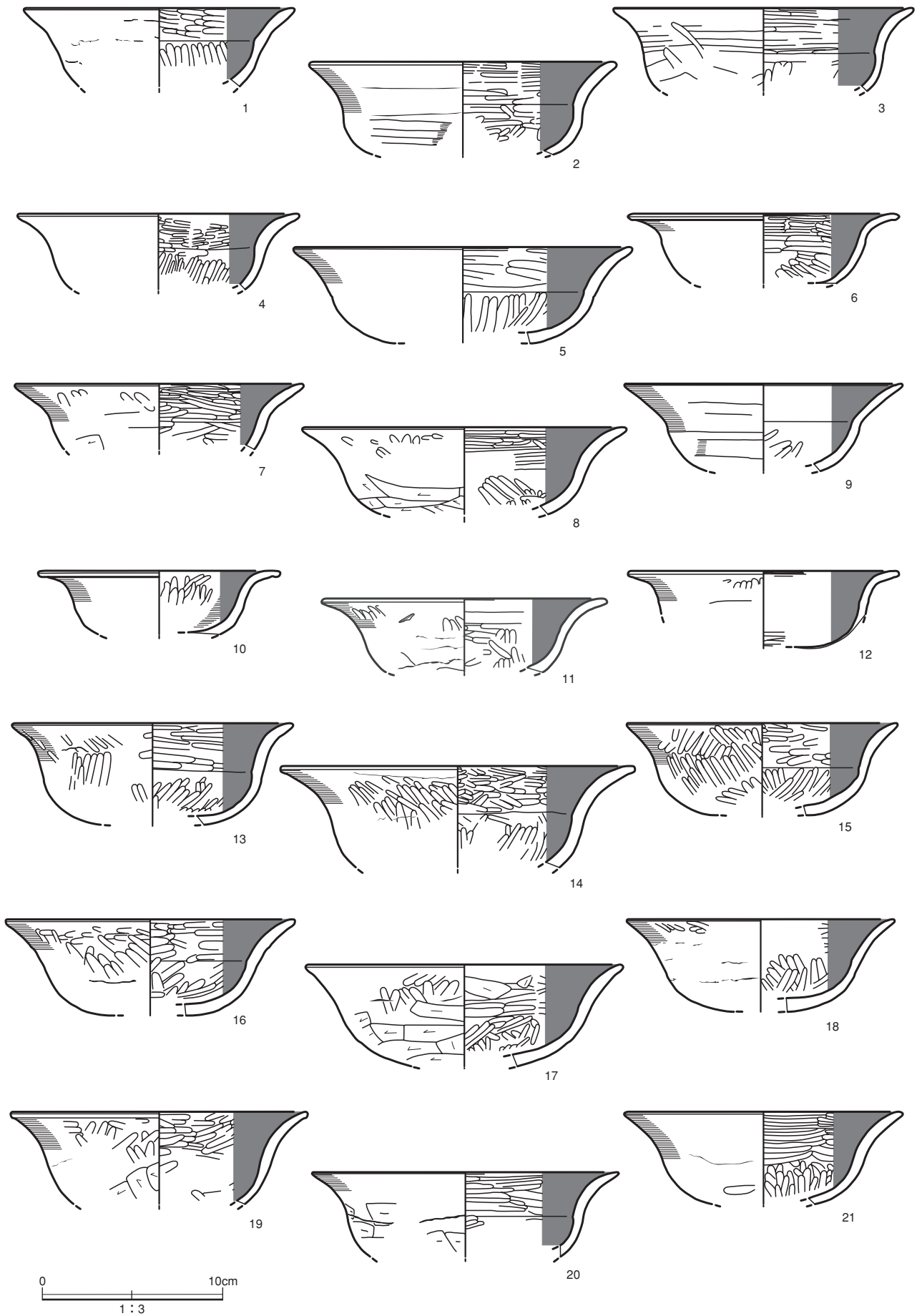
第90図 SG 160 出土土師器(3)



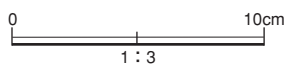
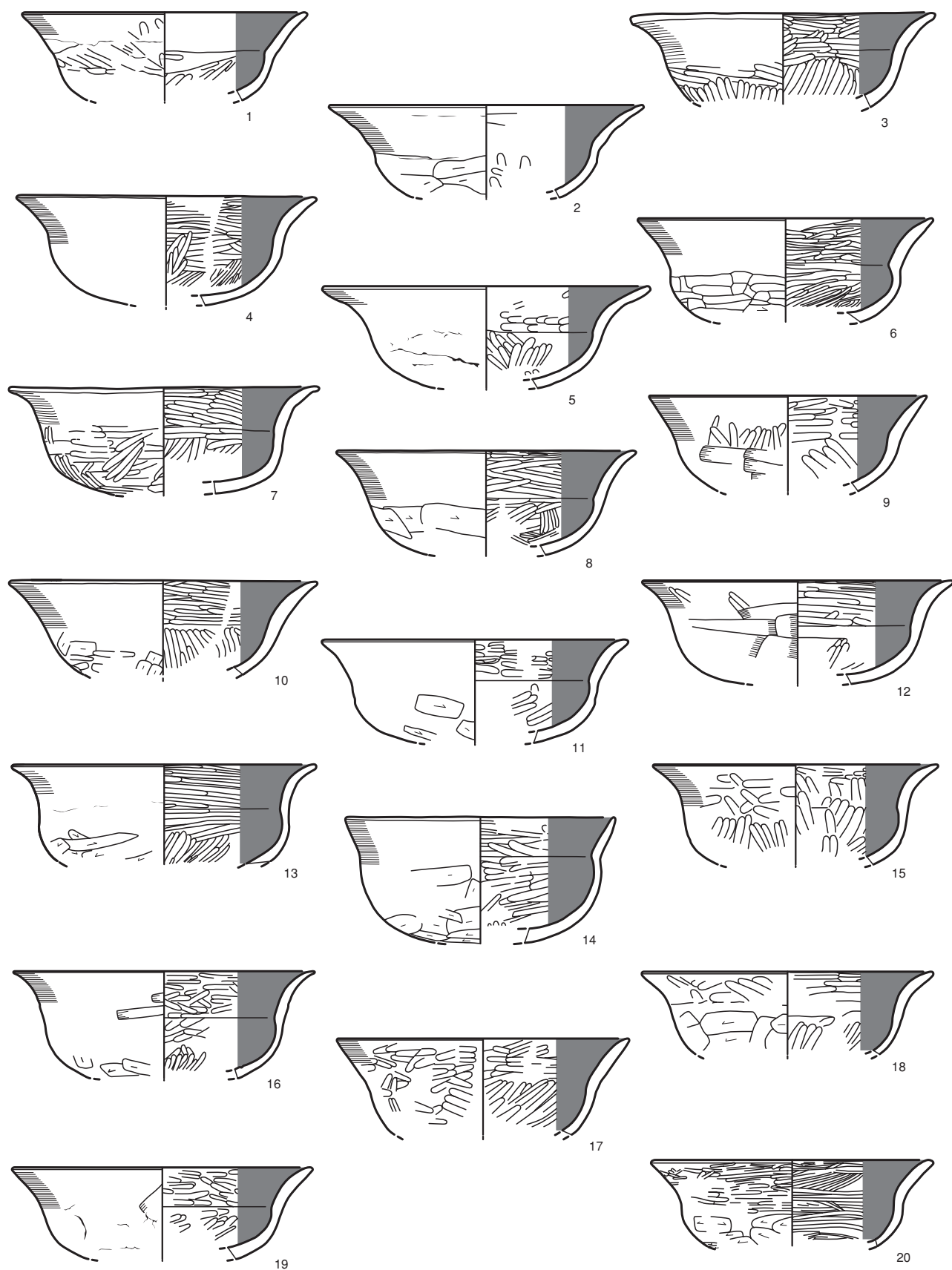
第91図 S G 160 出土土師器 (4)



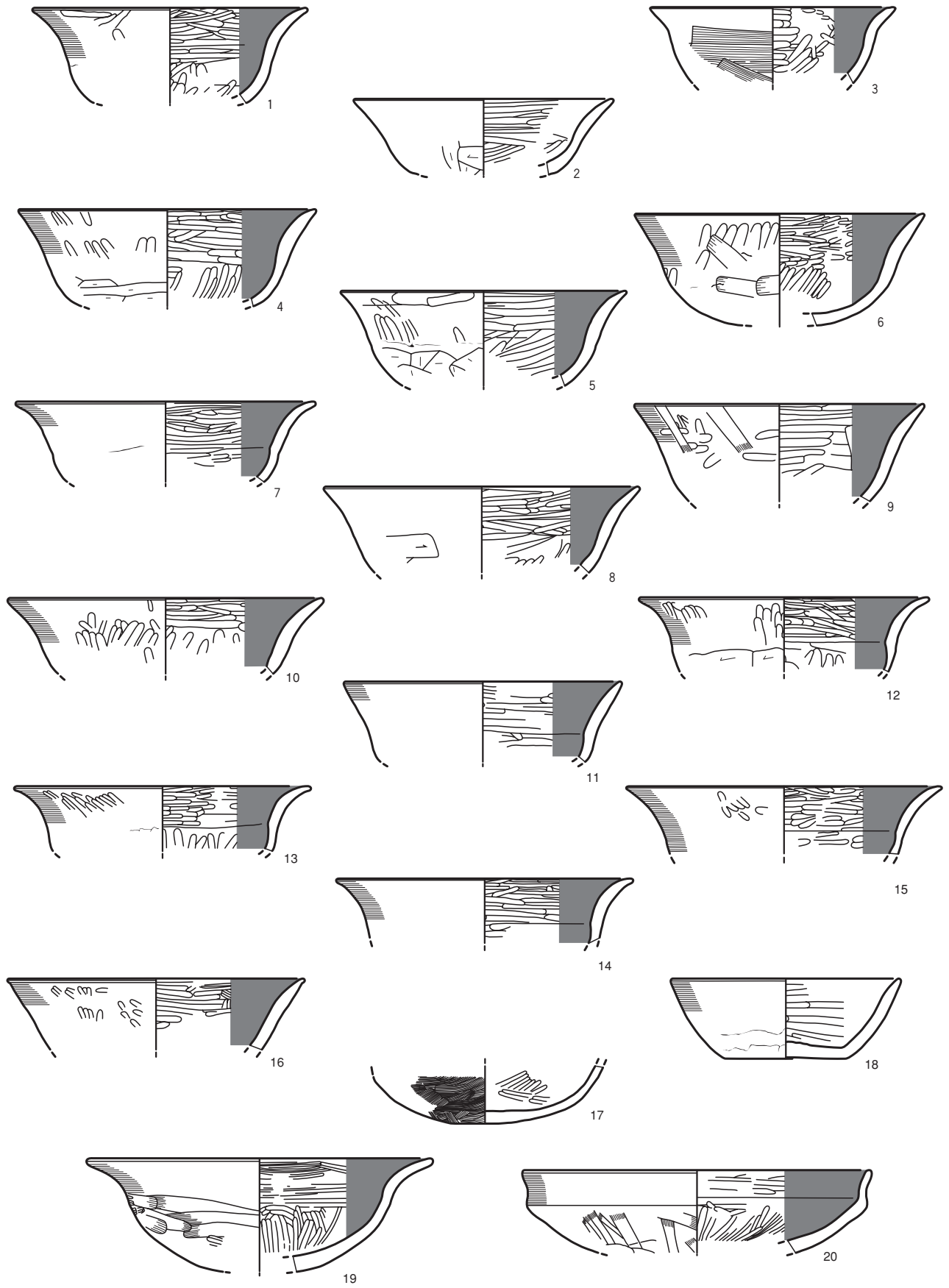
第92図 SG 160 出土土師器(5)



第 93 図 S G 160 出土土師器 (6)

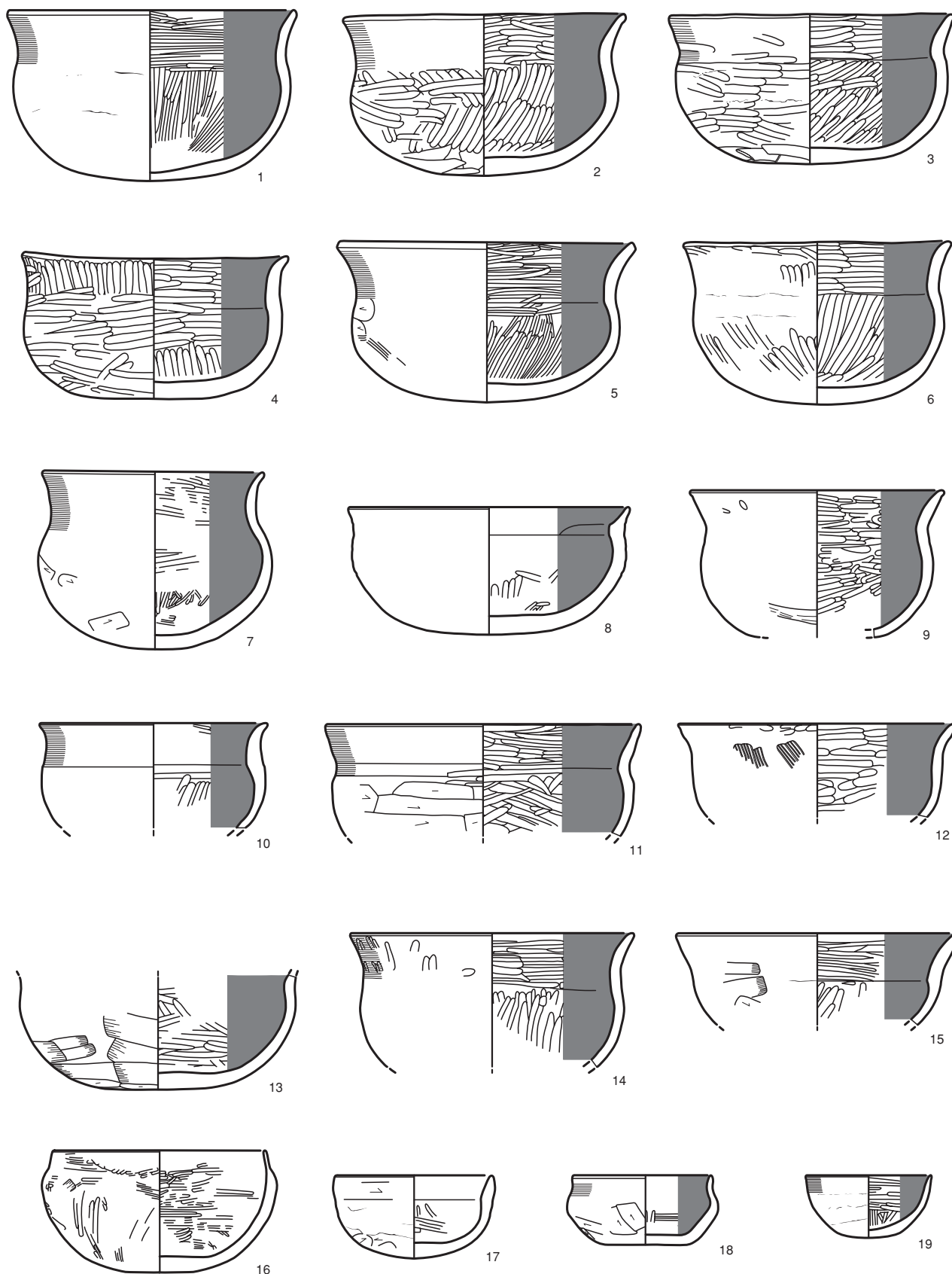


第94図 SG 160 出土土師器(7)



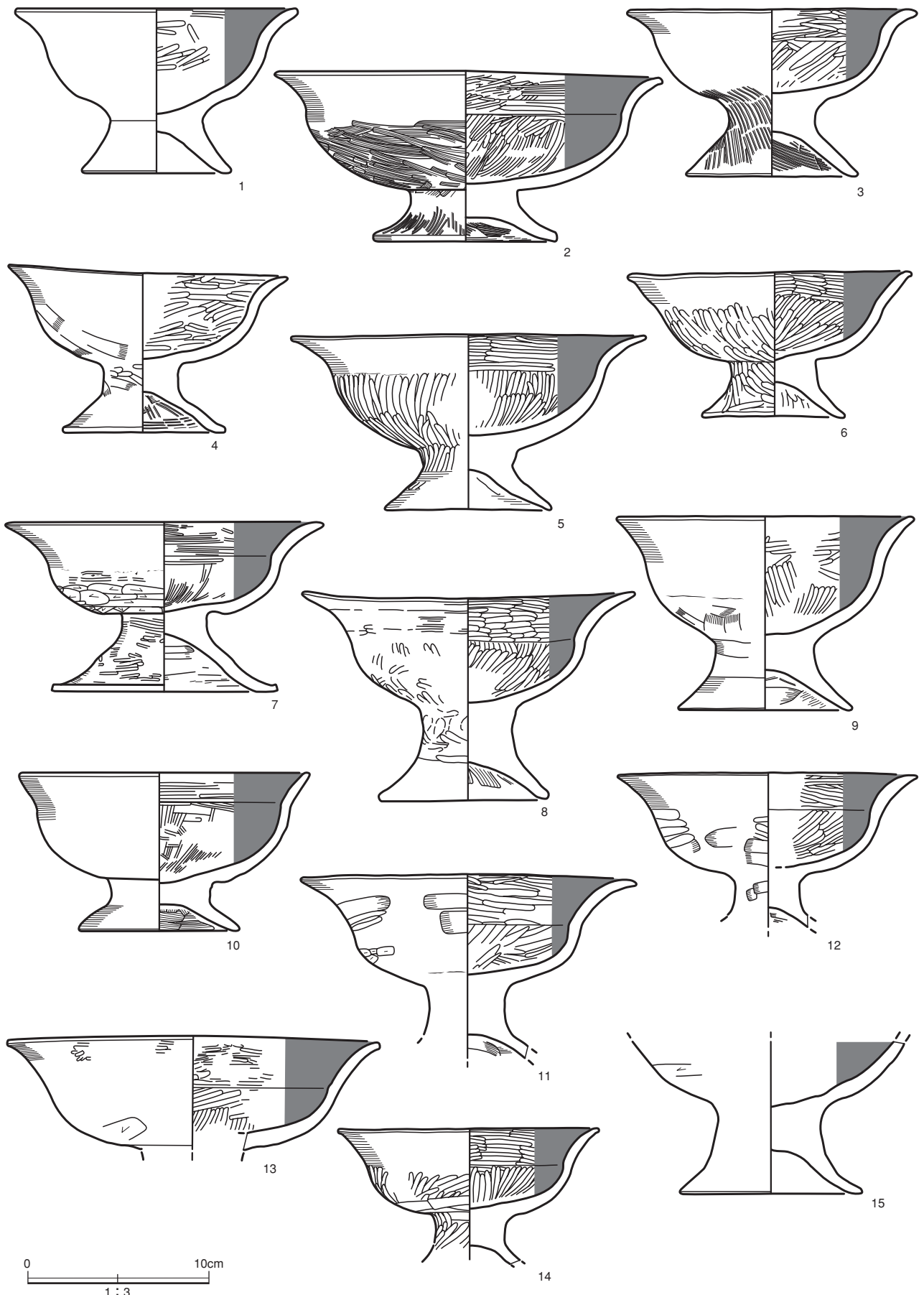
0 10cm
1:3

第95図 S G 160 出土土師器 (8)

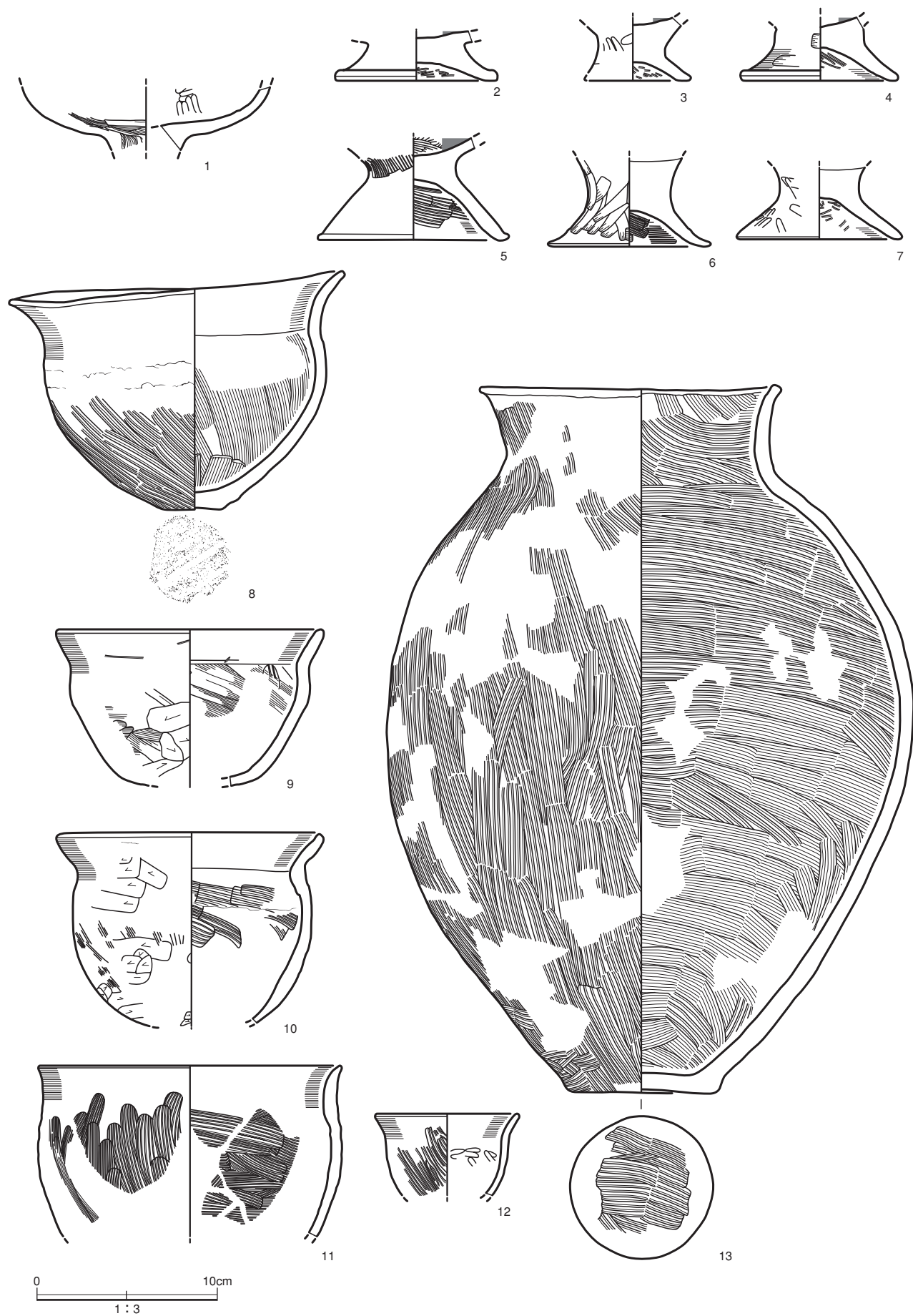


0 10cm
1:3

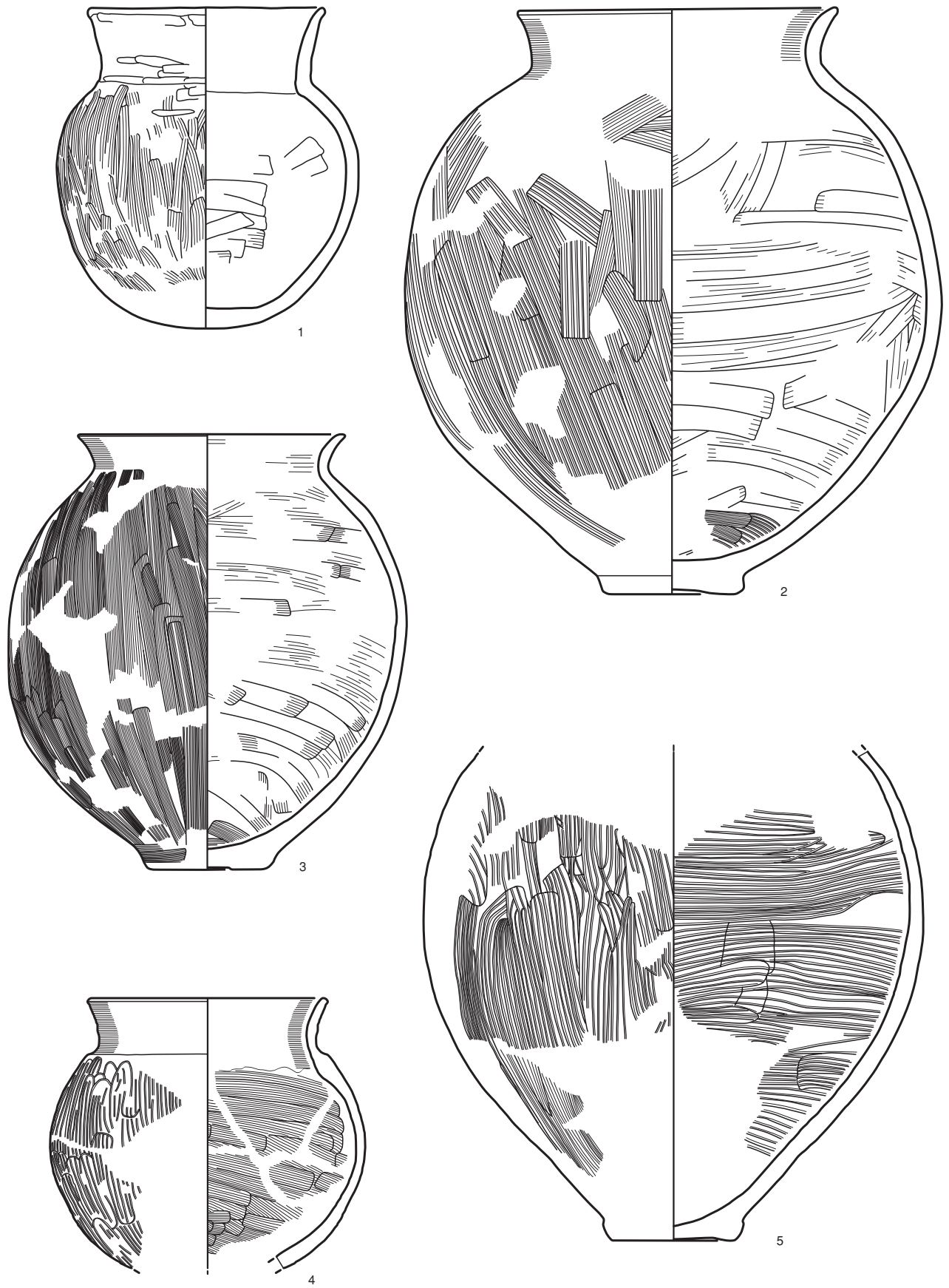
第96図 S G 160 出土土師器(9)



第97図 S G 160 出土土師器 (10)

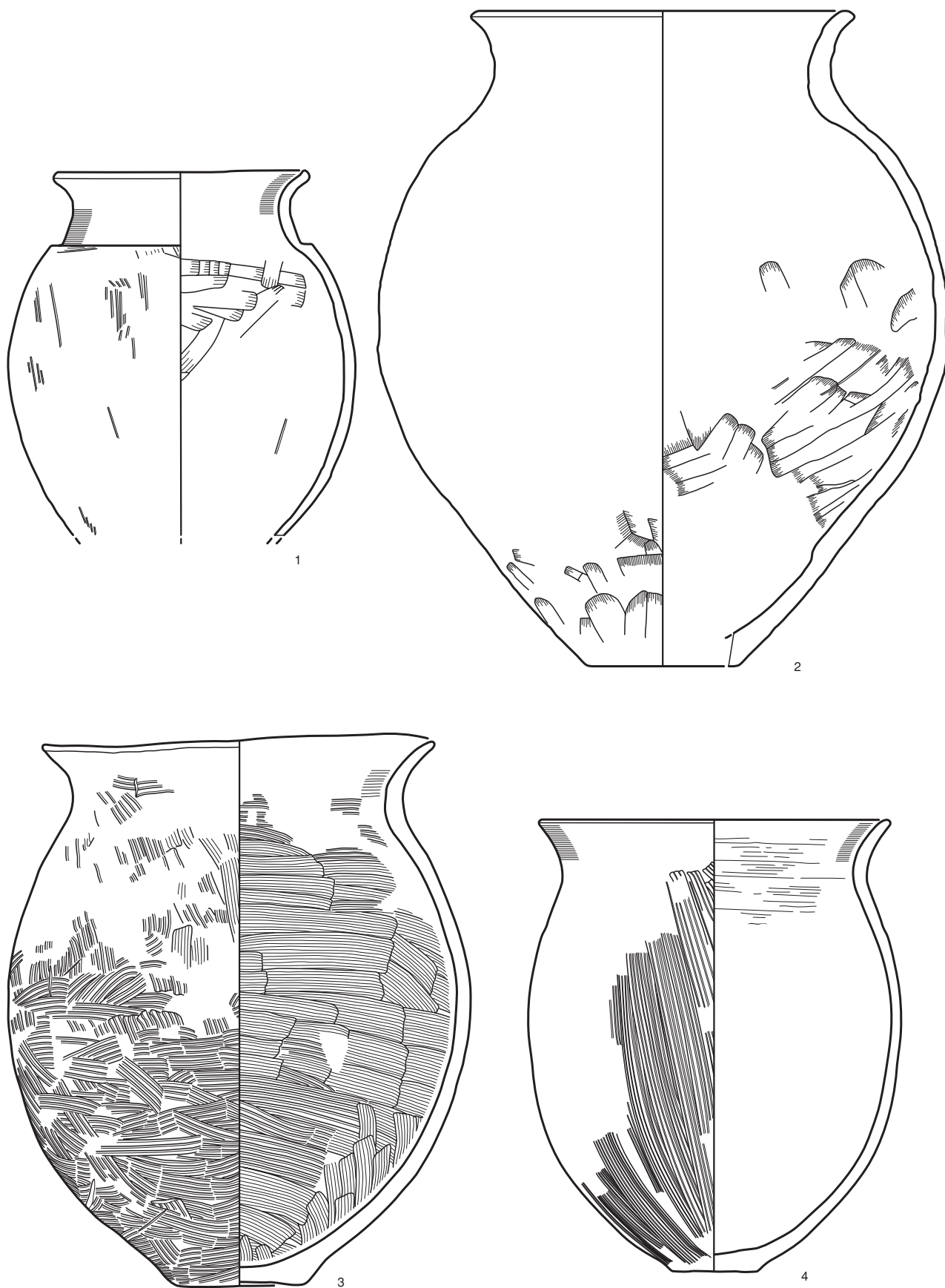


第98図 S G 160 出土土師器 (11)

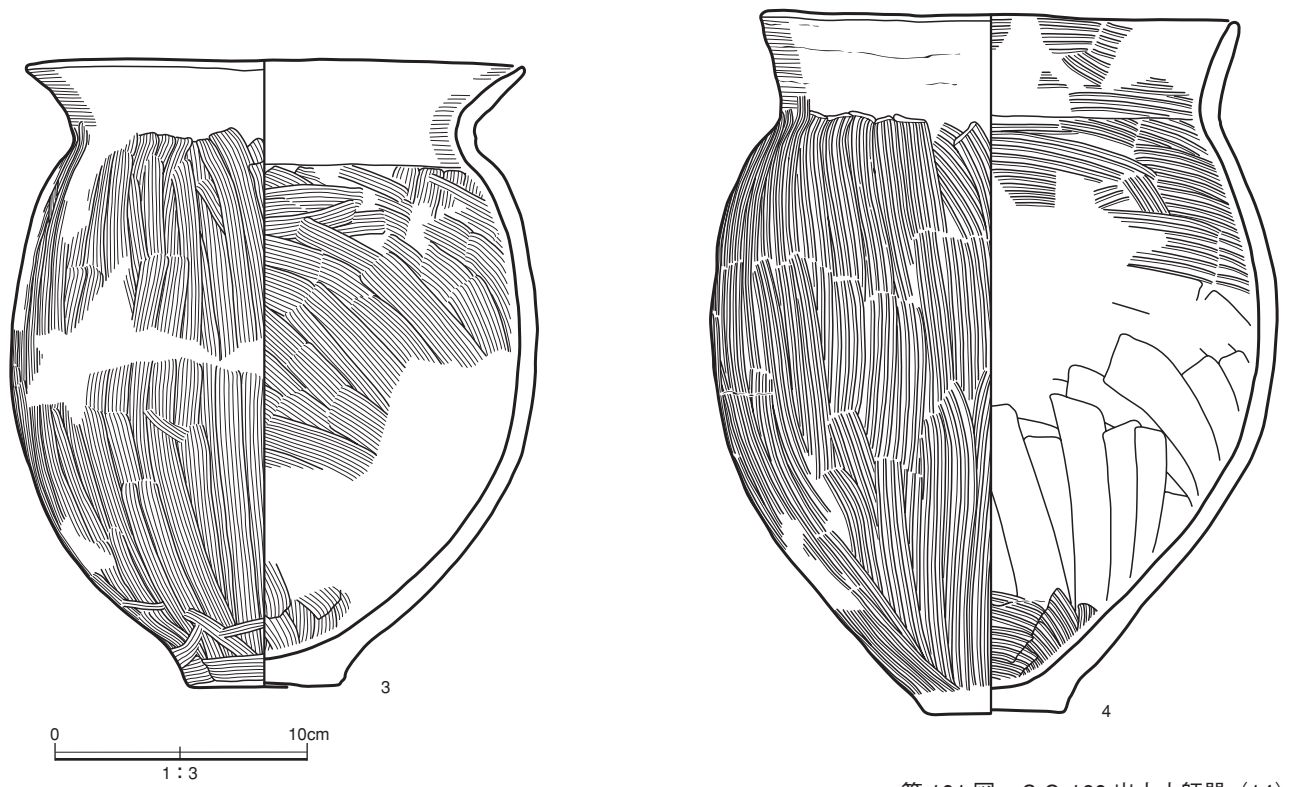
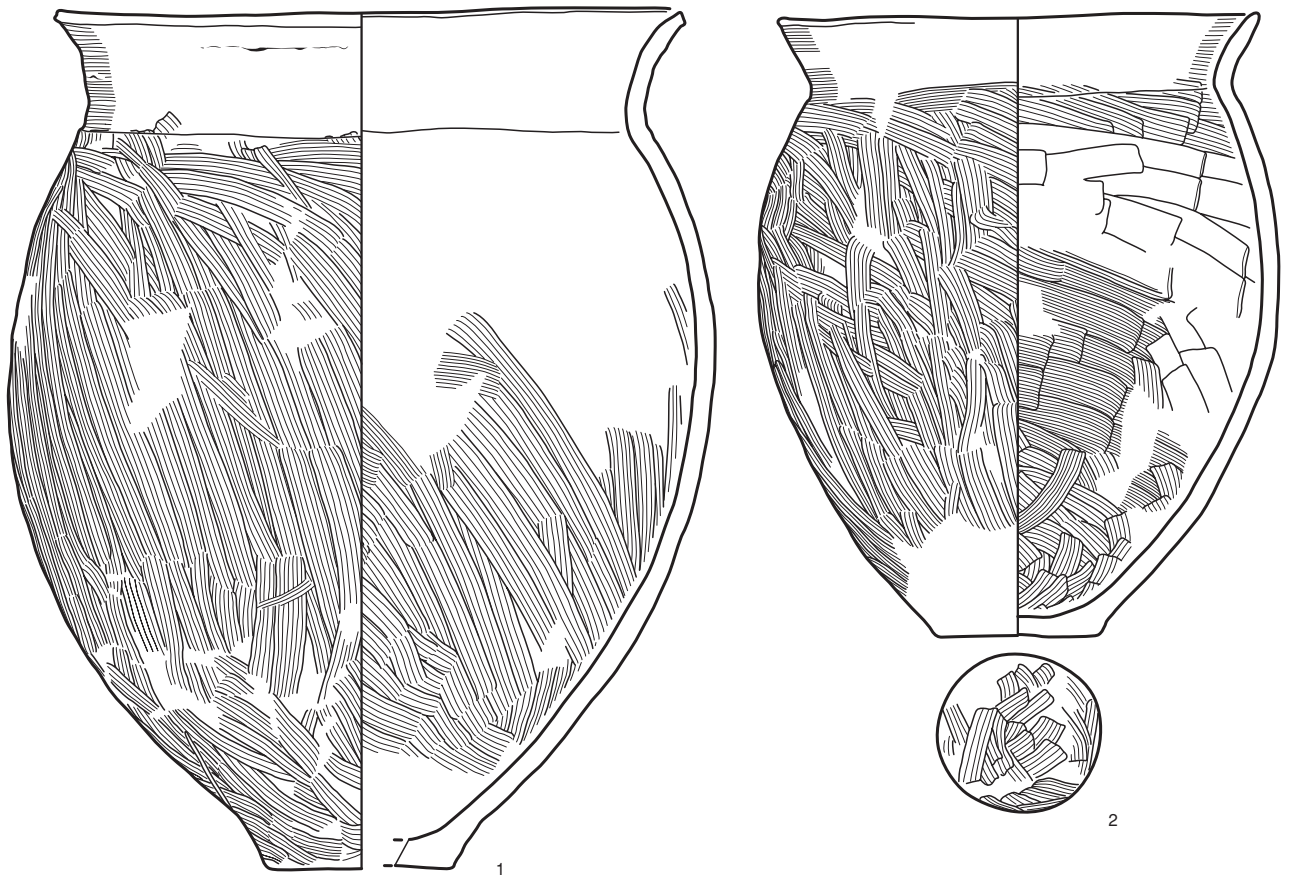


0 10cm
1:3

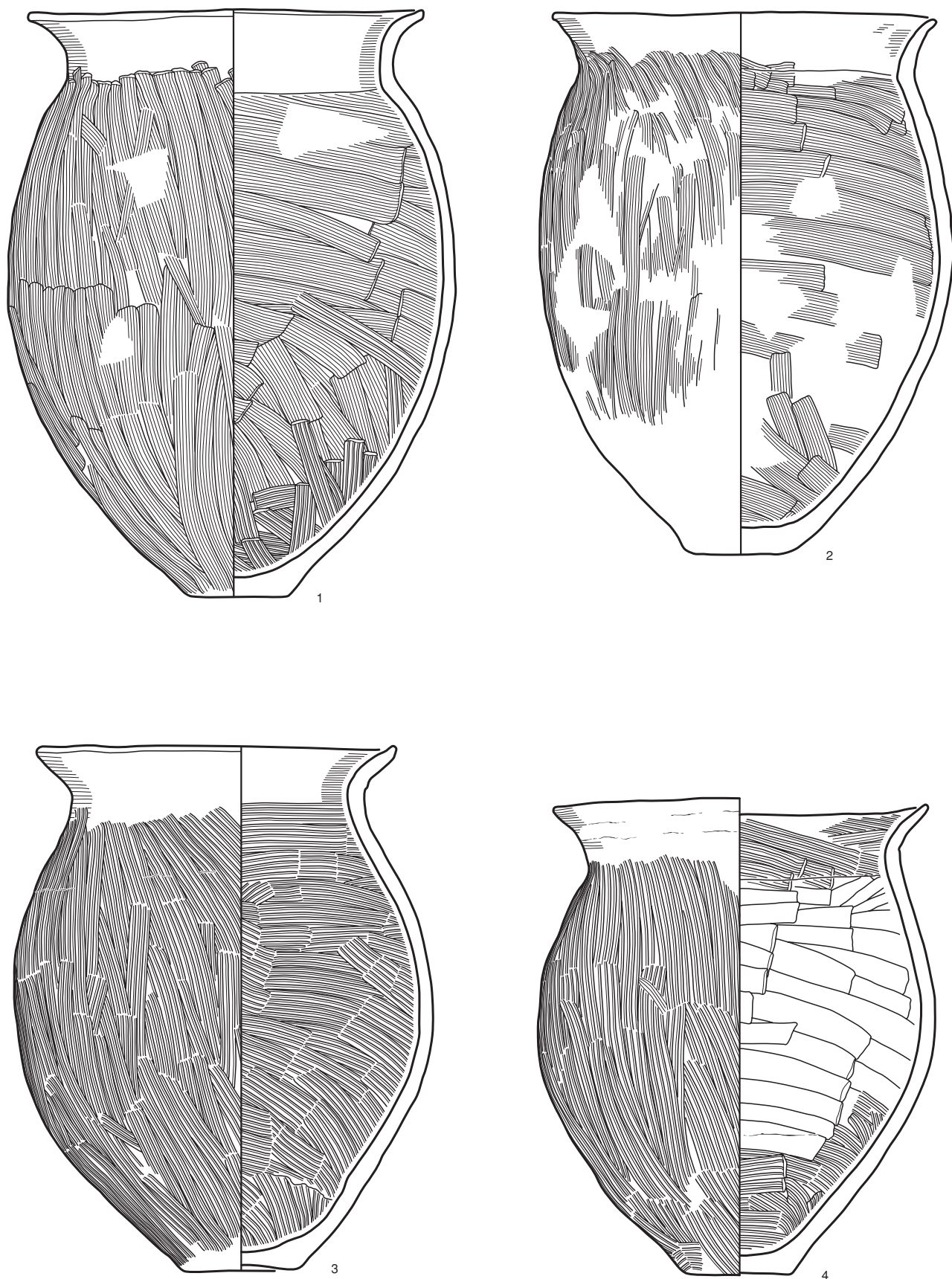
第99図 S G 160 出土土師器 (12)



第 100 図 S G 160 出土土師器 (13)

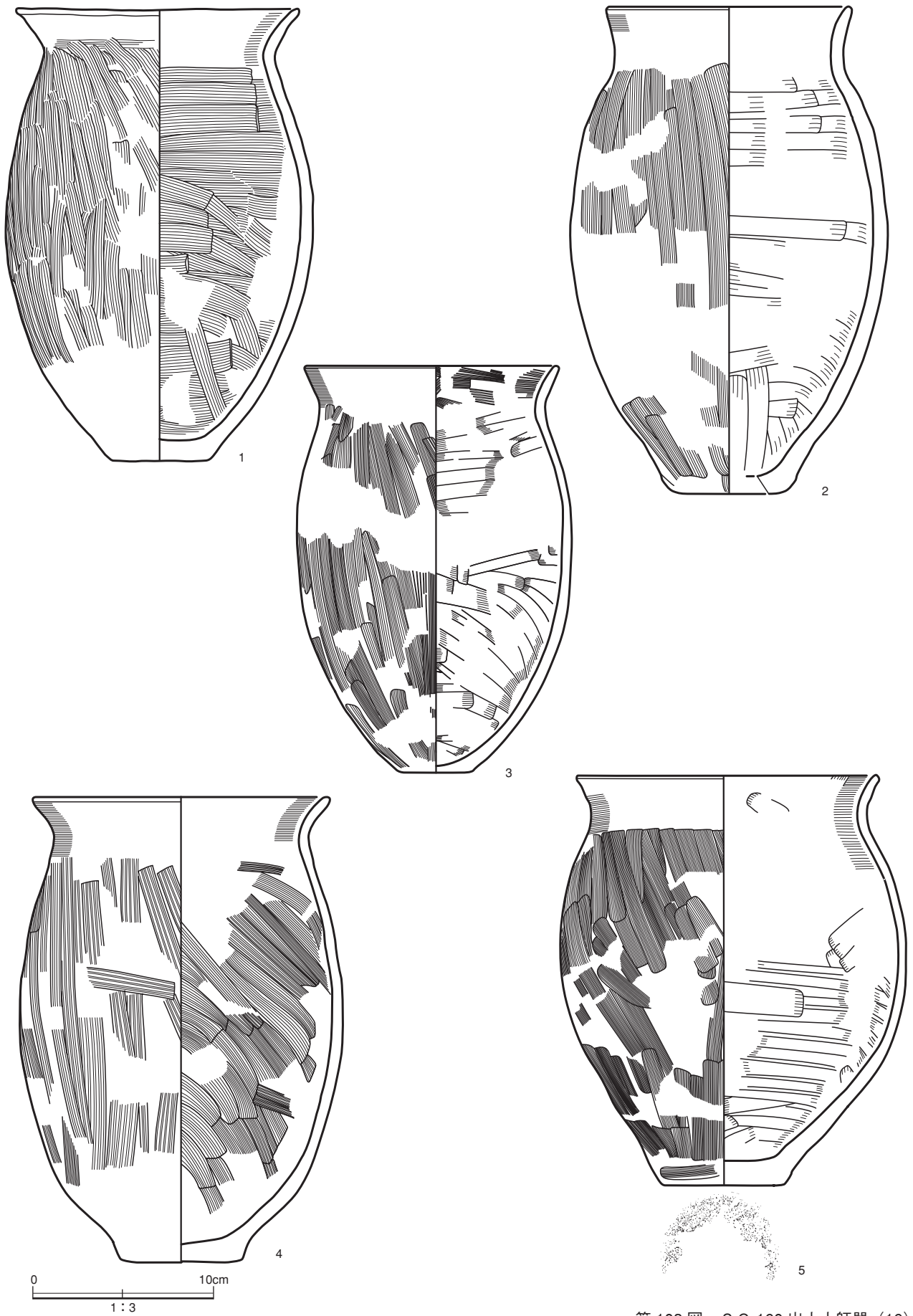


第101図 S G 160 出土土師器 (14)

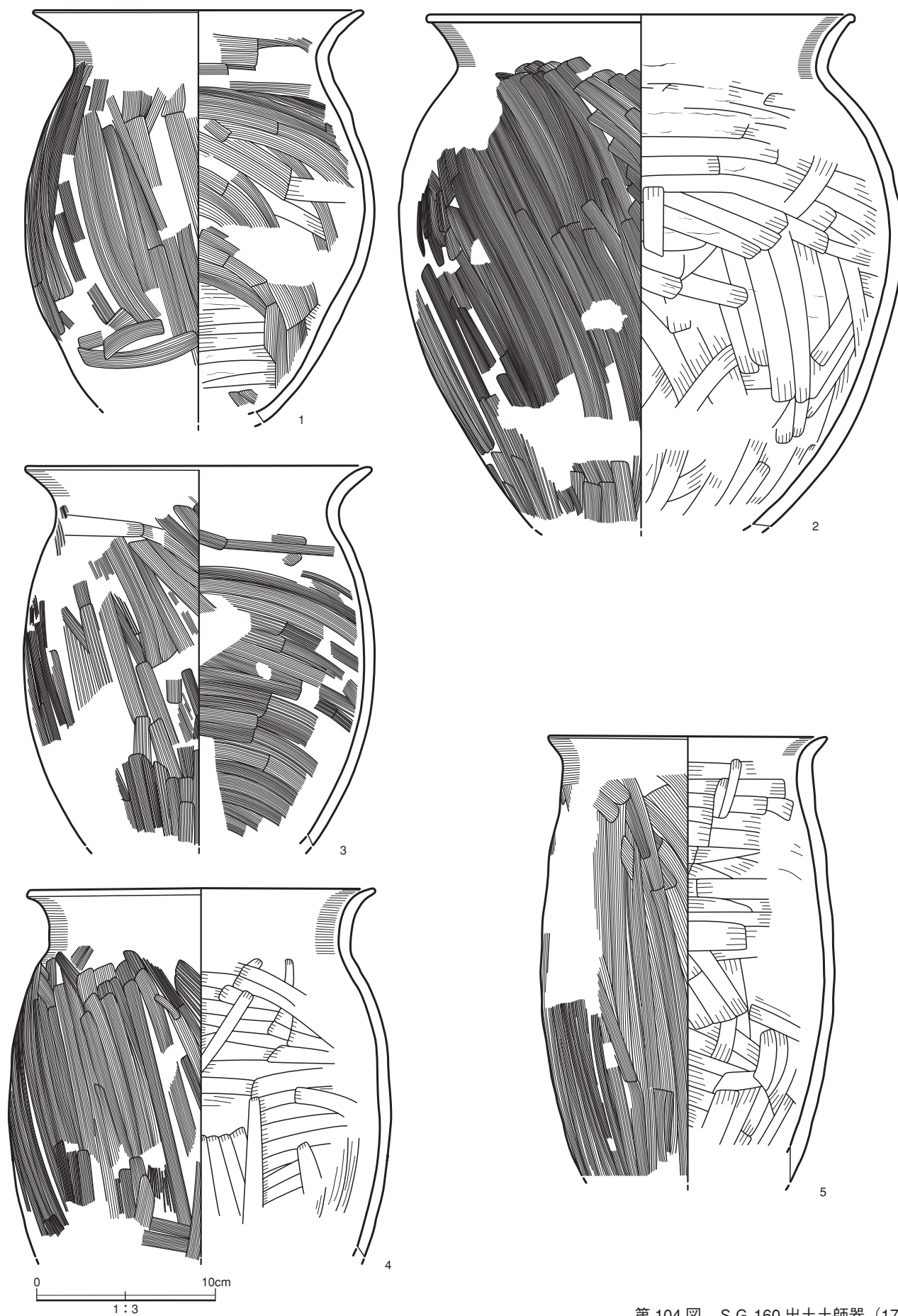


0 10cm
1:3

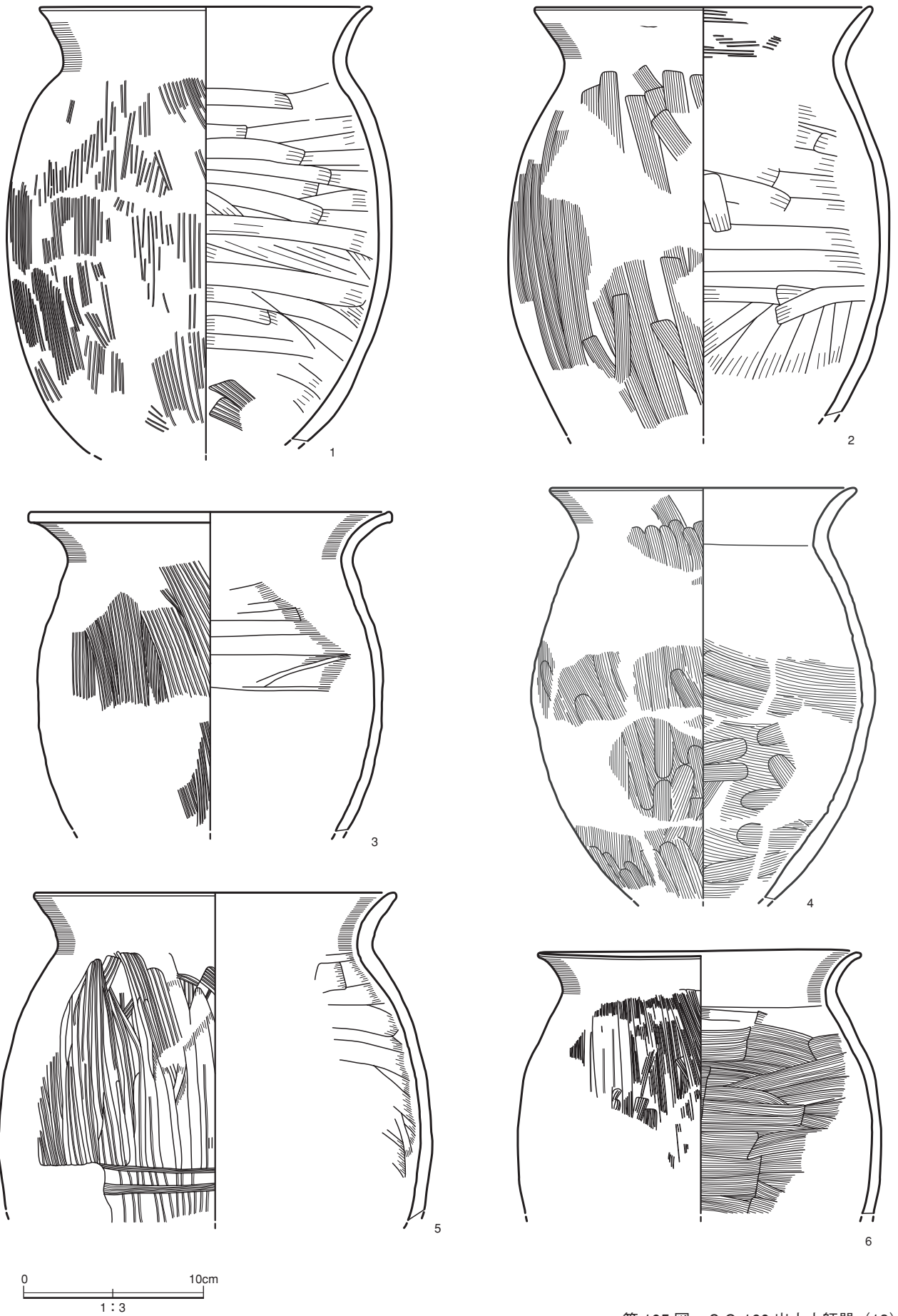
第 102 図 S G 160 出土土師器 (15)



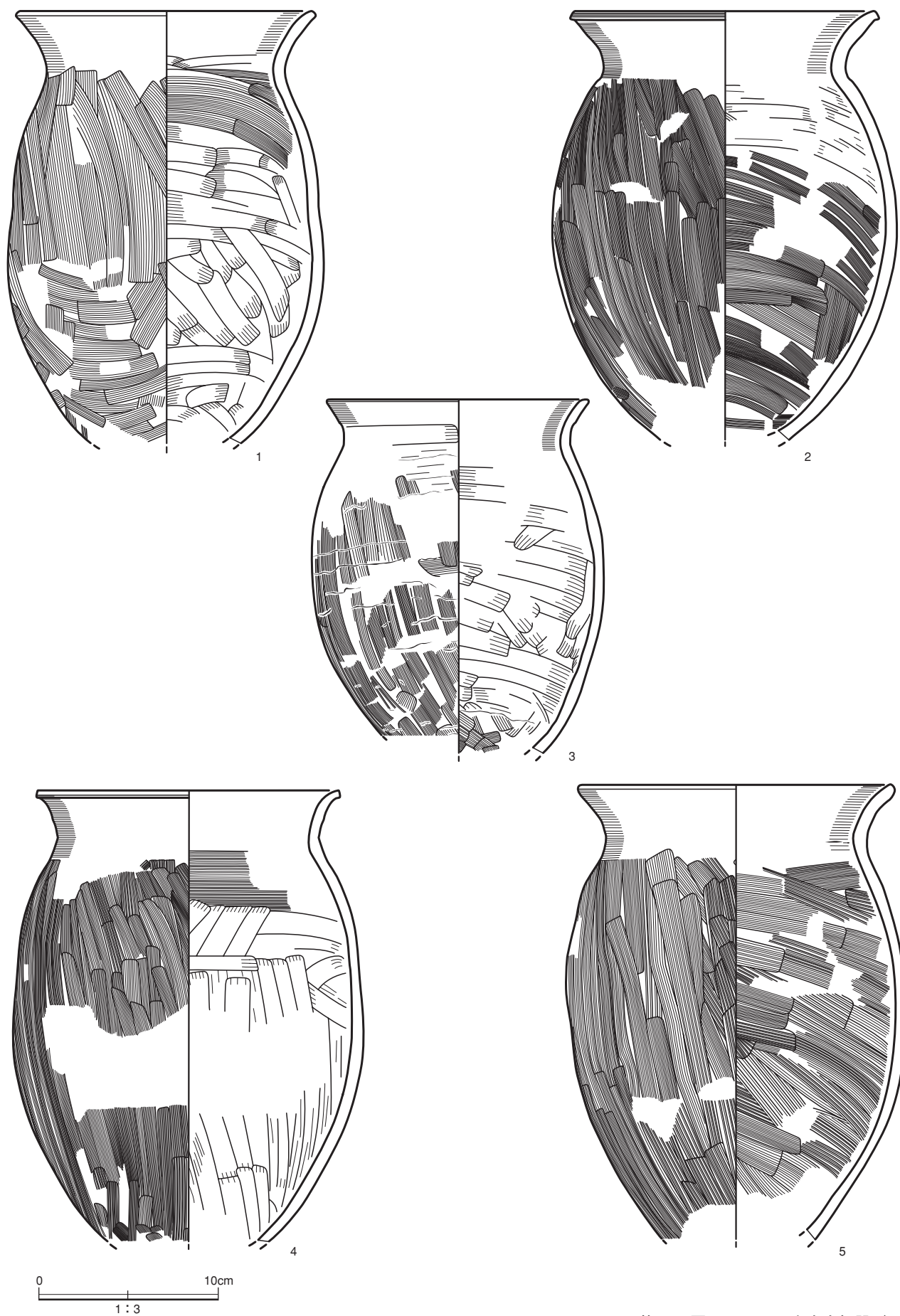
第103図 S G 160 出土土師器 (16)



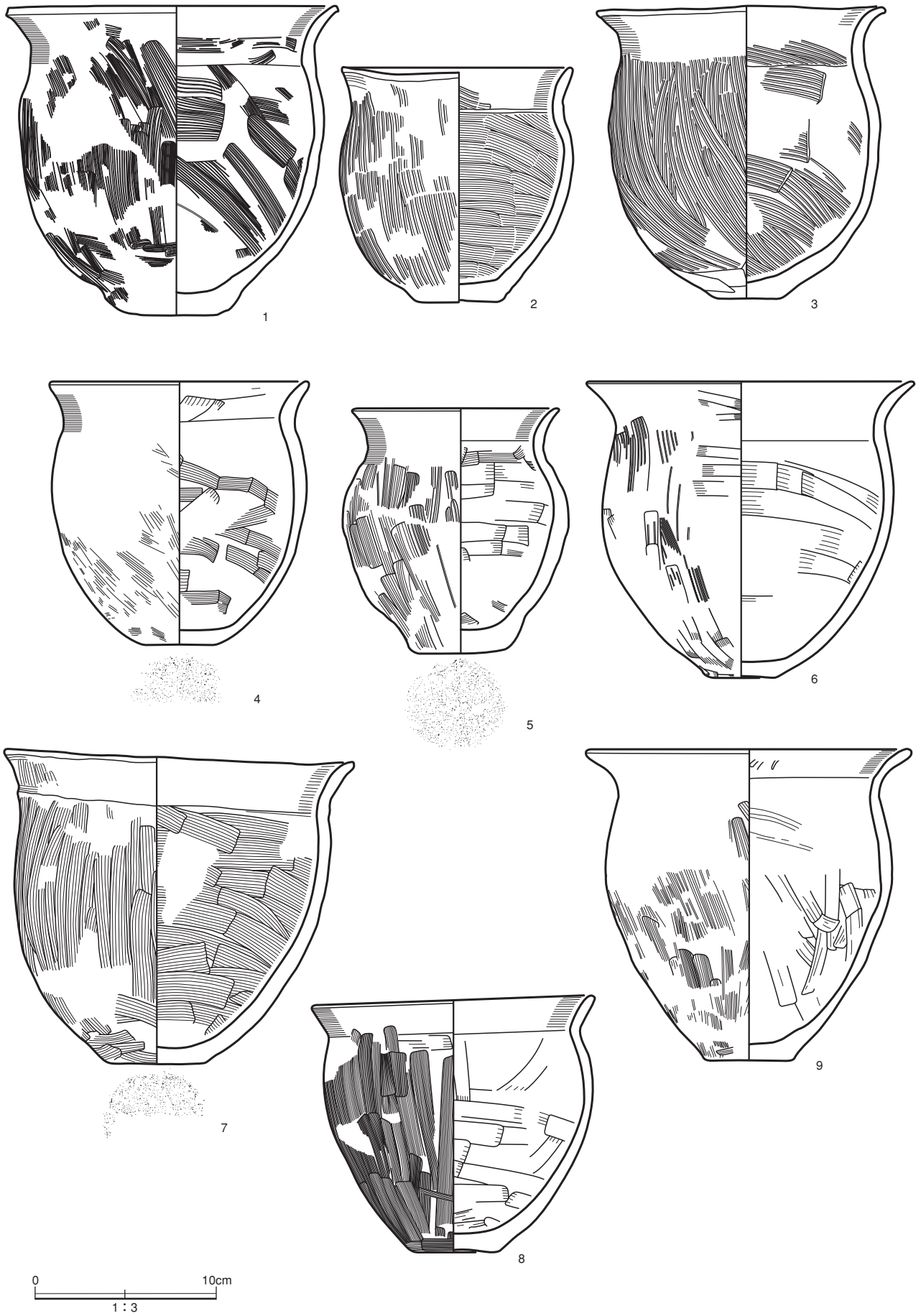
第 104 図 S G 160 出土土師器 (17)



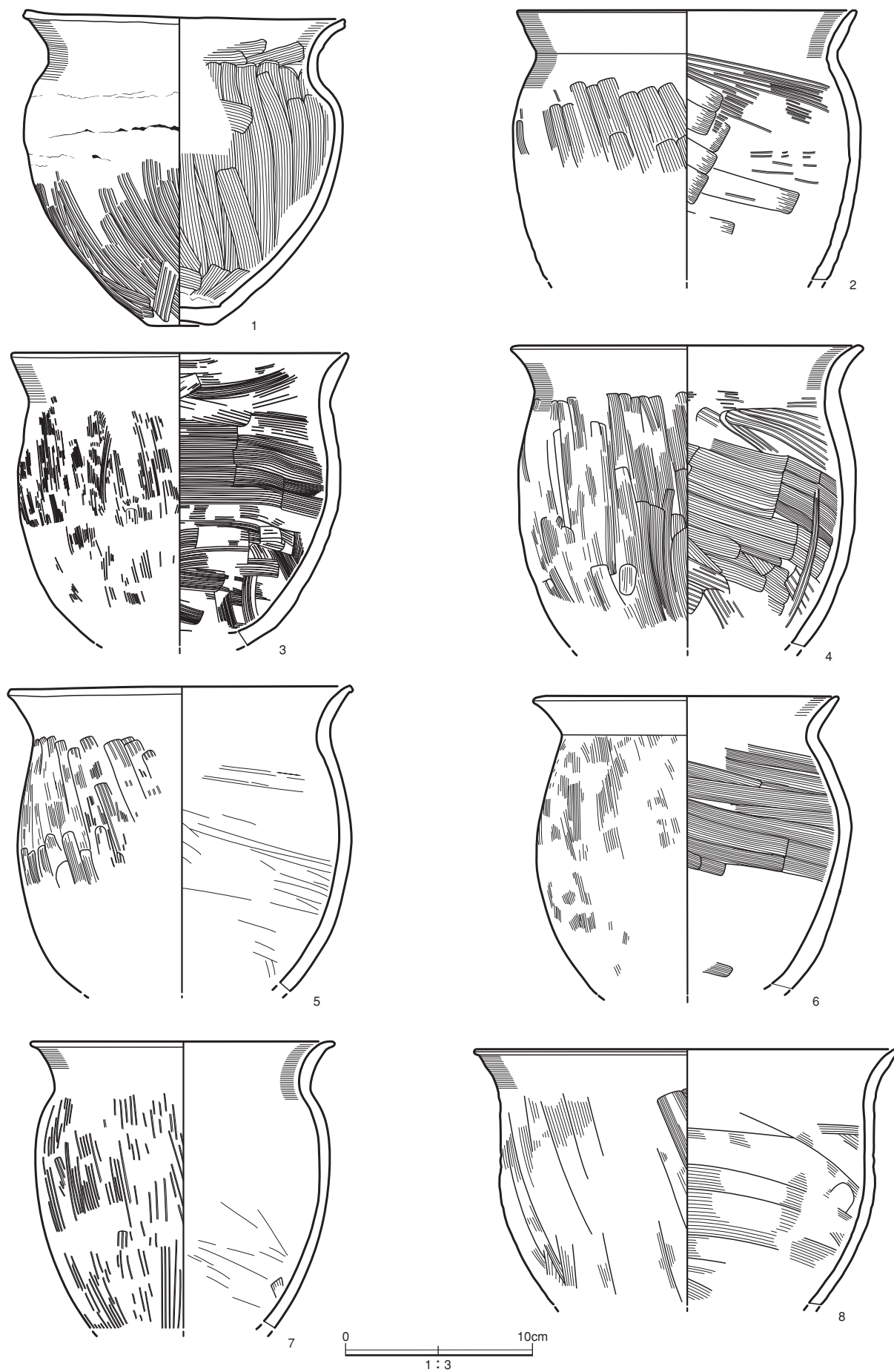
第 105 図 S G 160 出土土師器 (18)



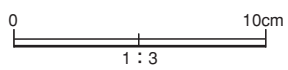
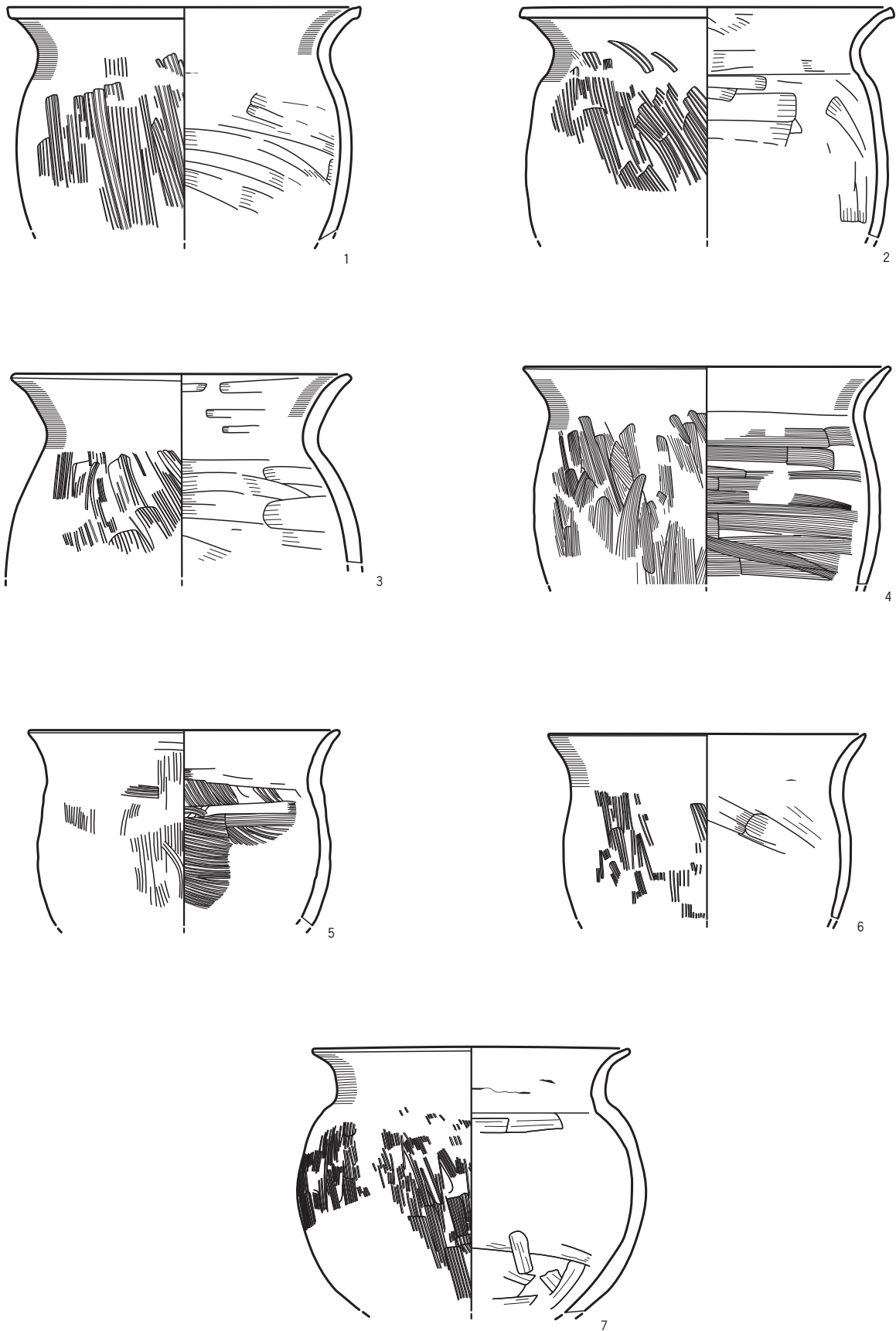
第 106 図 S G 160 出土土師器 (19)



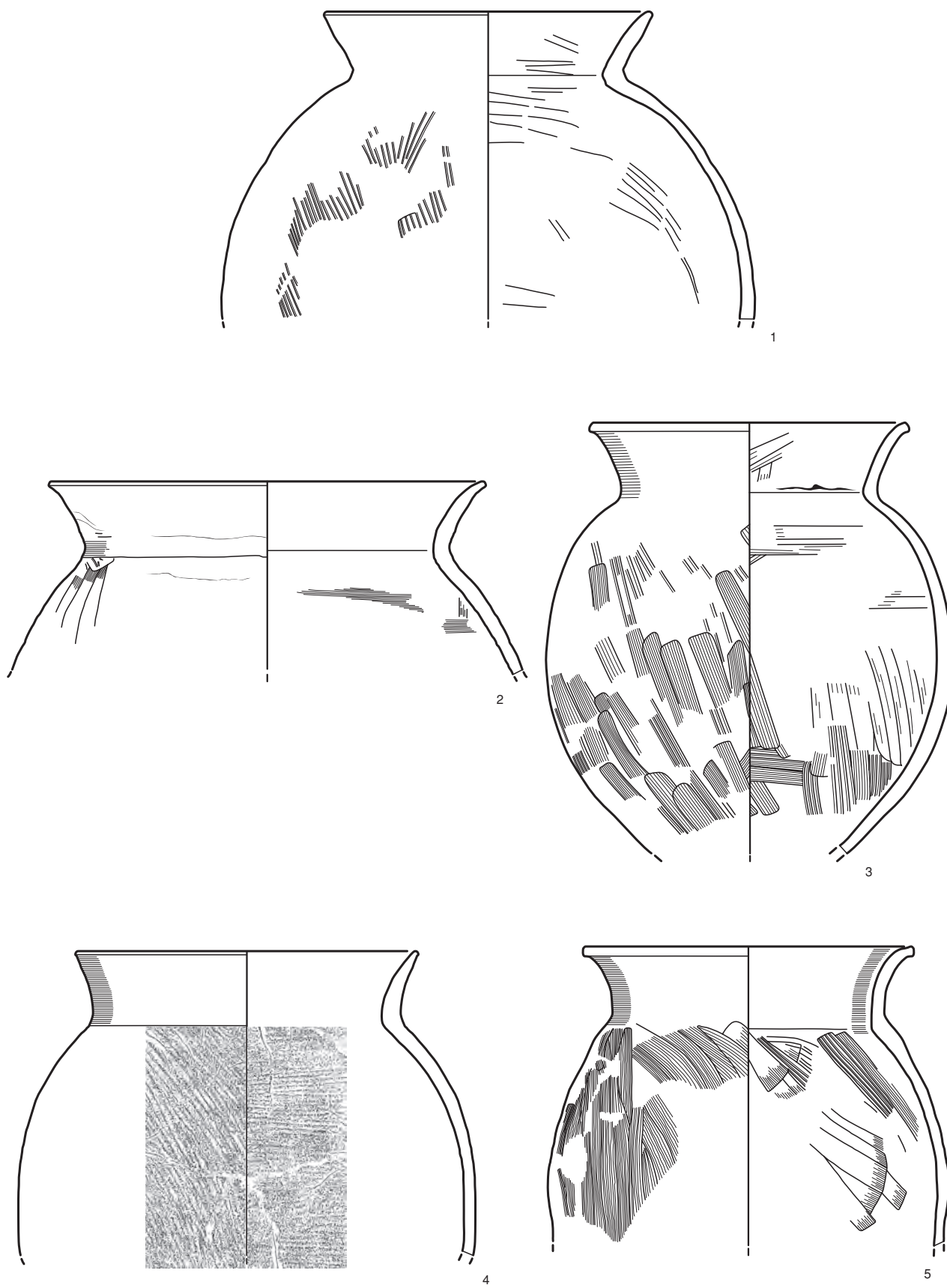
第 107 図 S G 160 出土土師器 (20)



第 108 図 S G 160 出土土師器 (21)

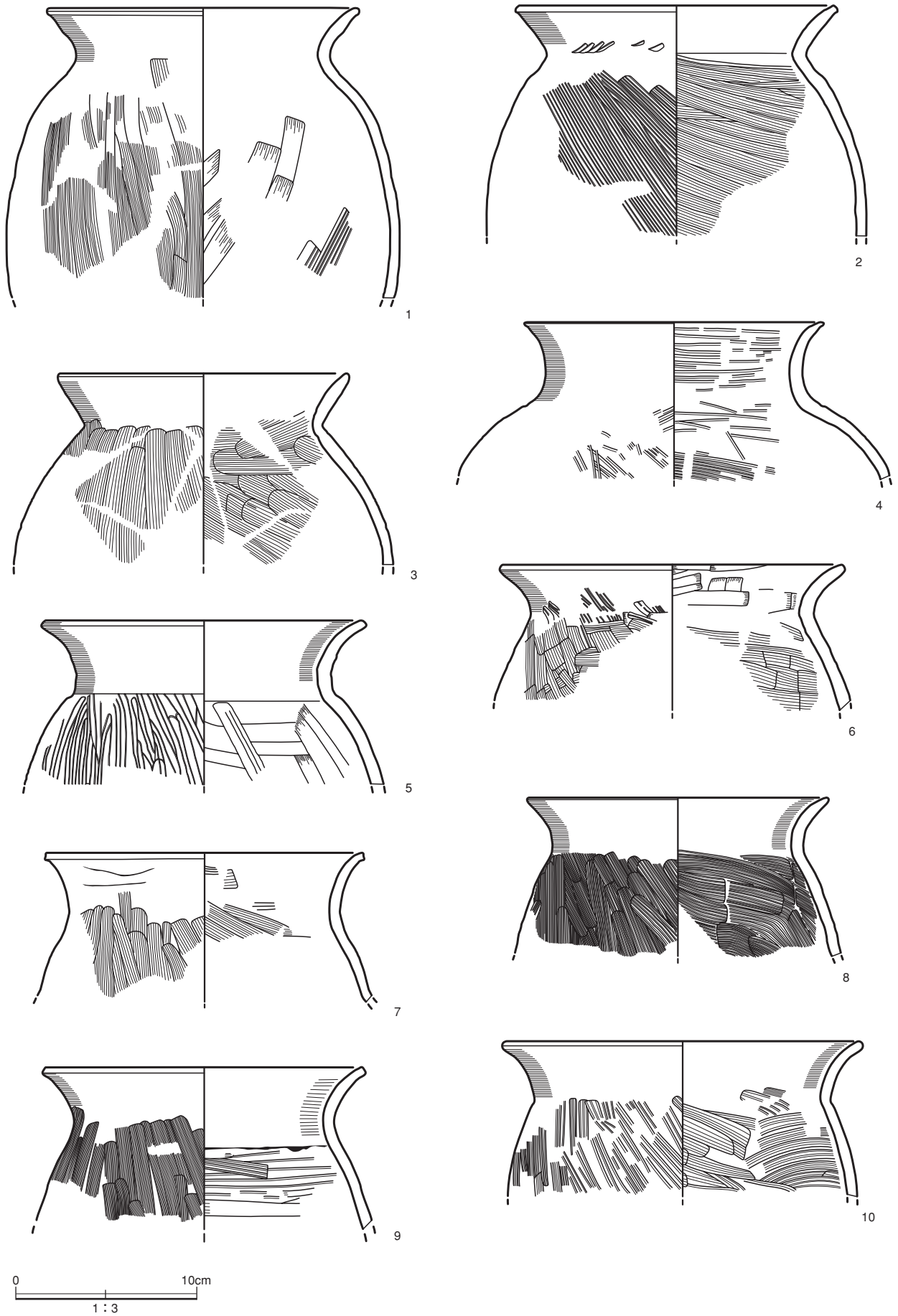


第 109 図 S G 160 出土土師器 (22)

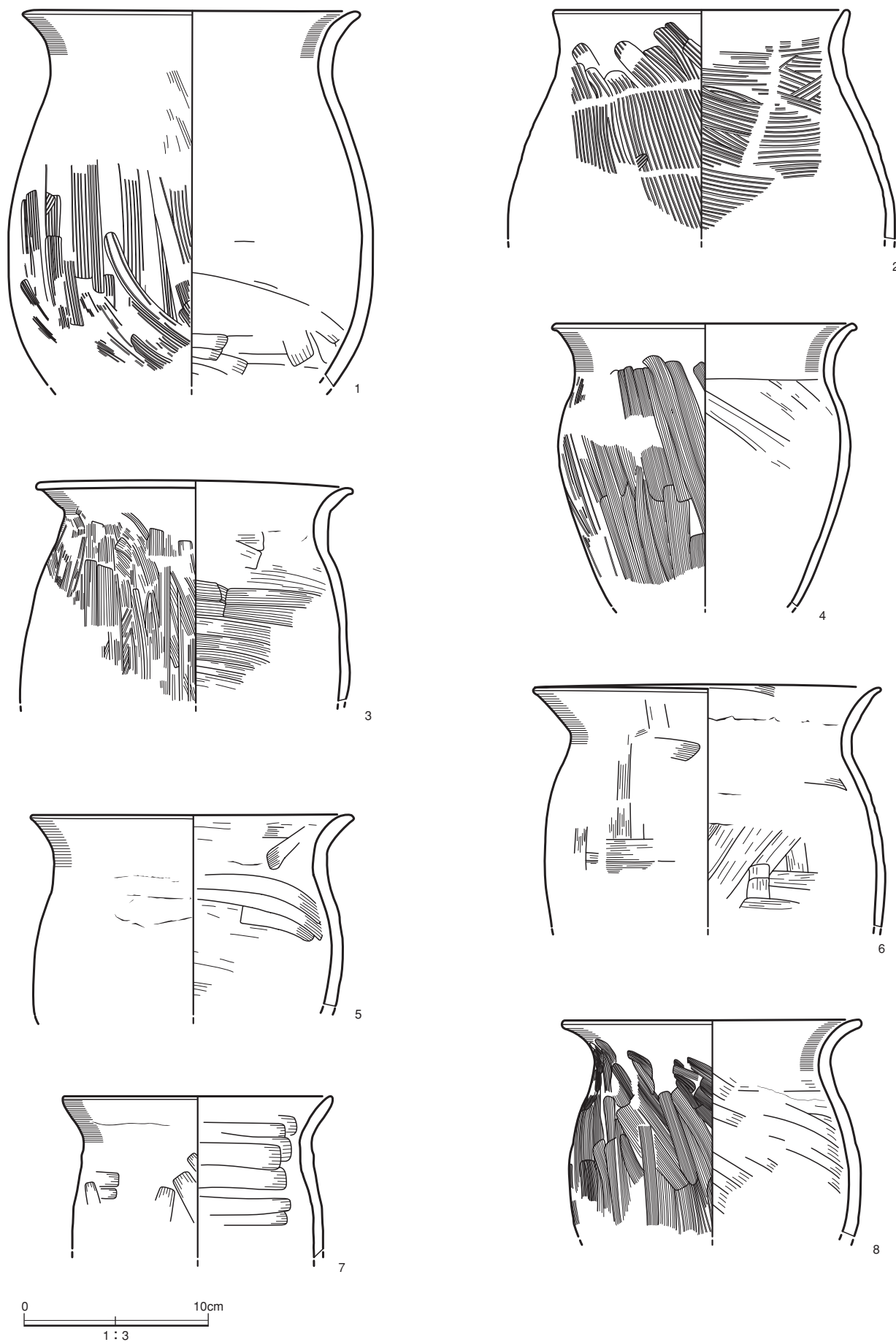


0 10cm
1:3

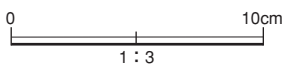
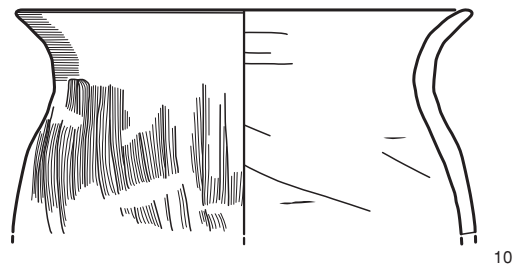
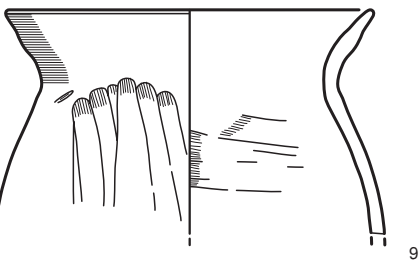
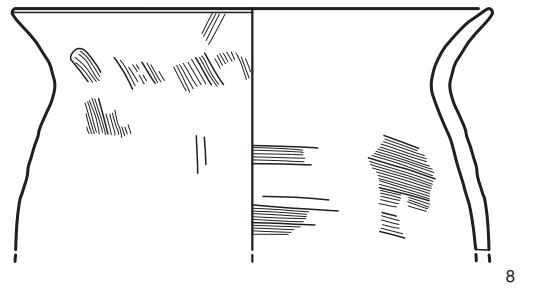
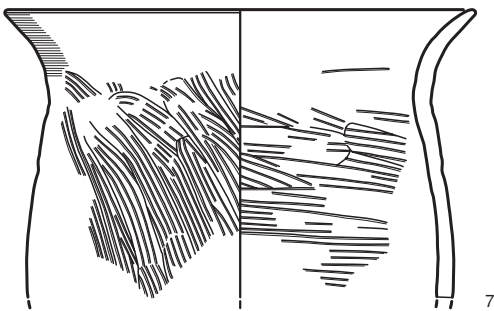
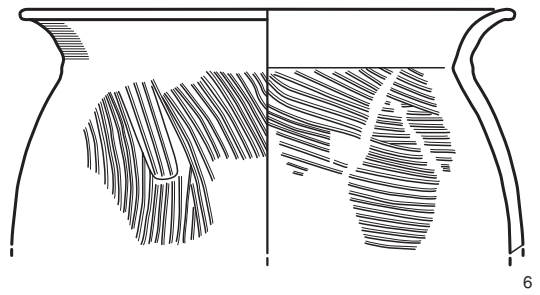
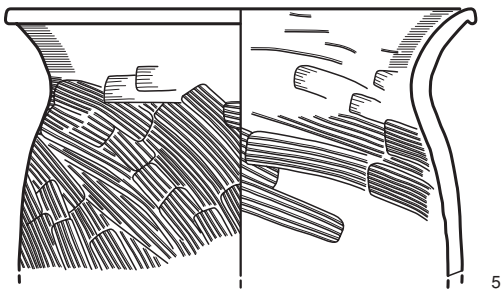
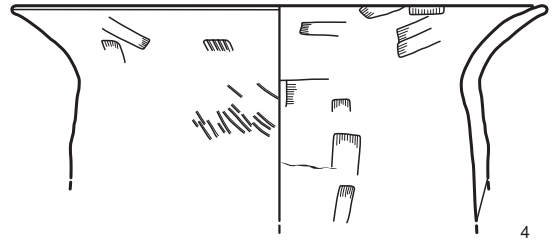
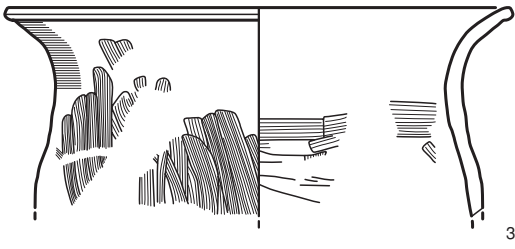
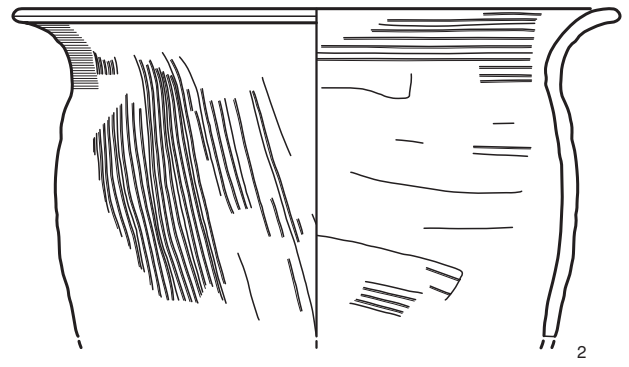
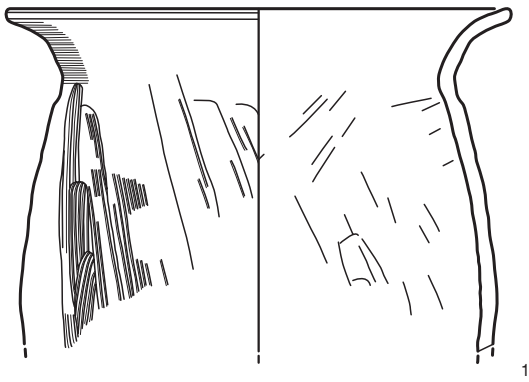
第 110 図 S G 160 出土土師器 (23)



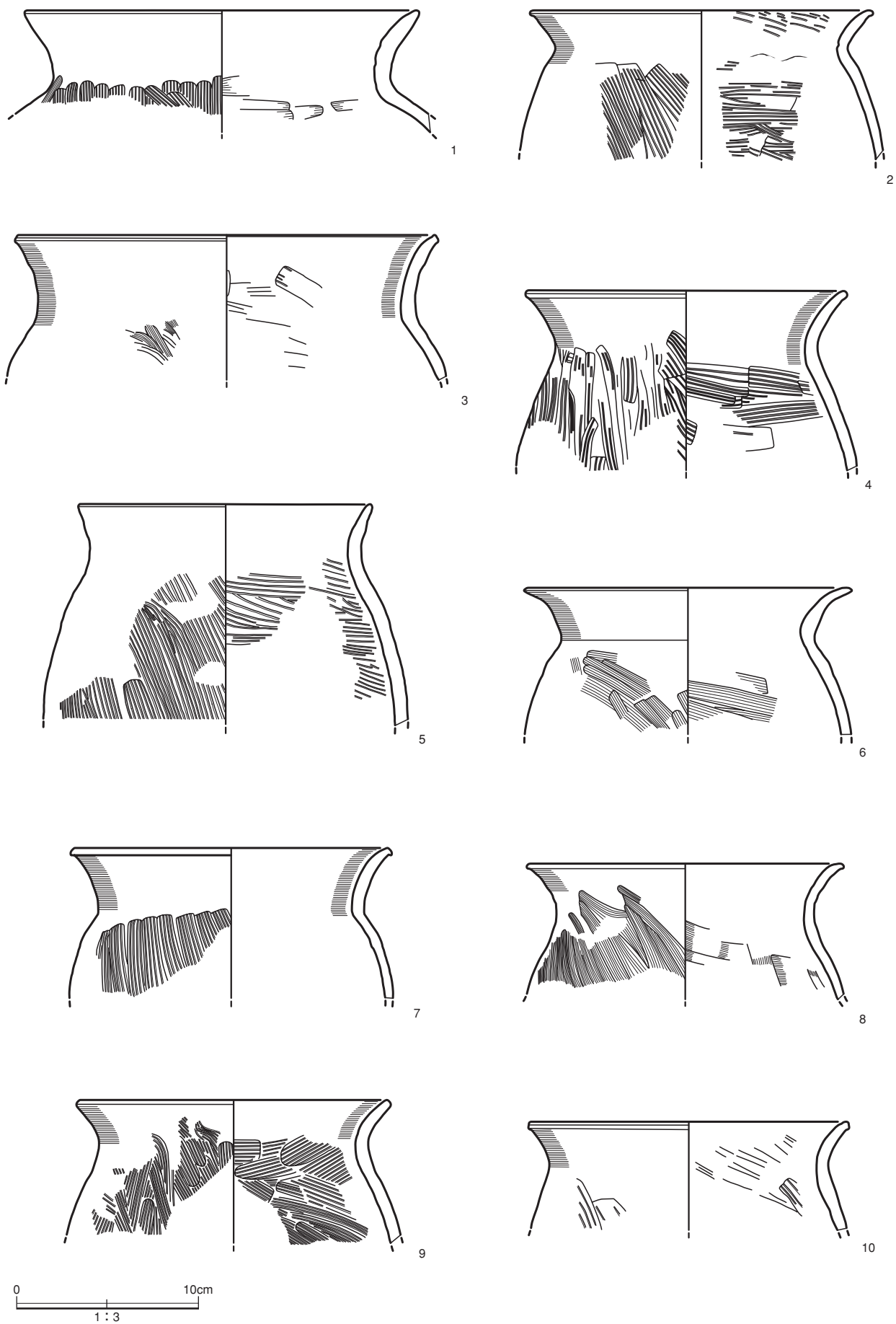
第111図 S G 160 出土土師器 (24)



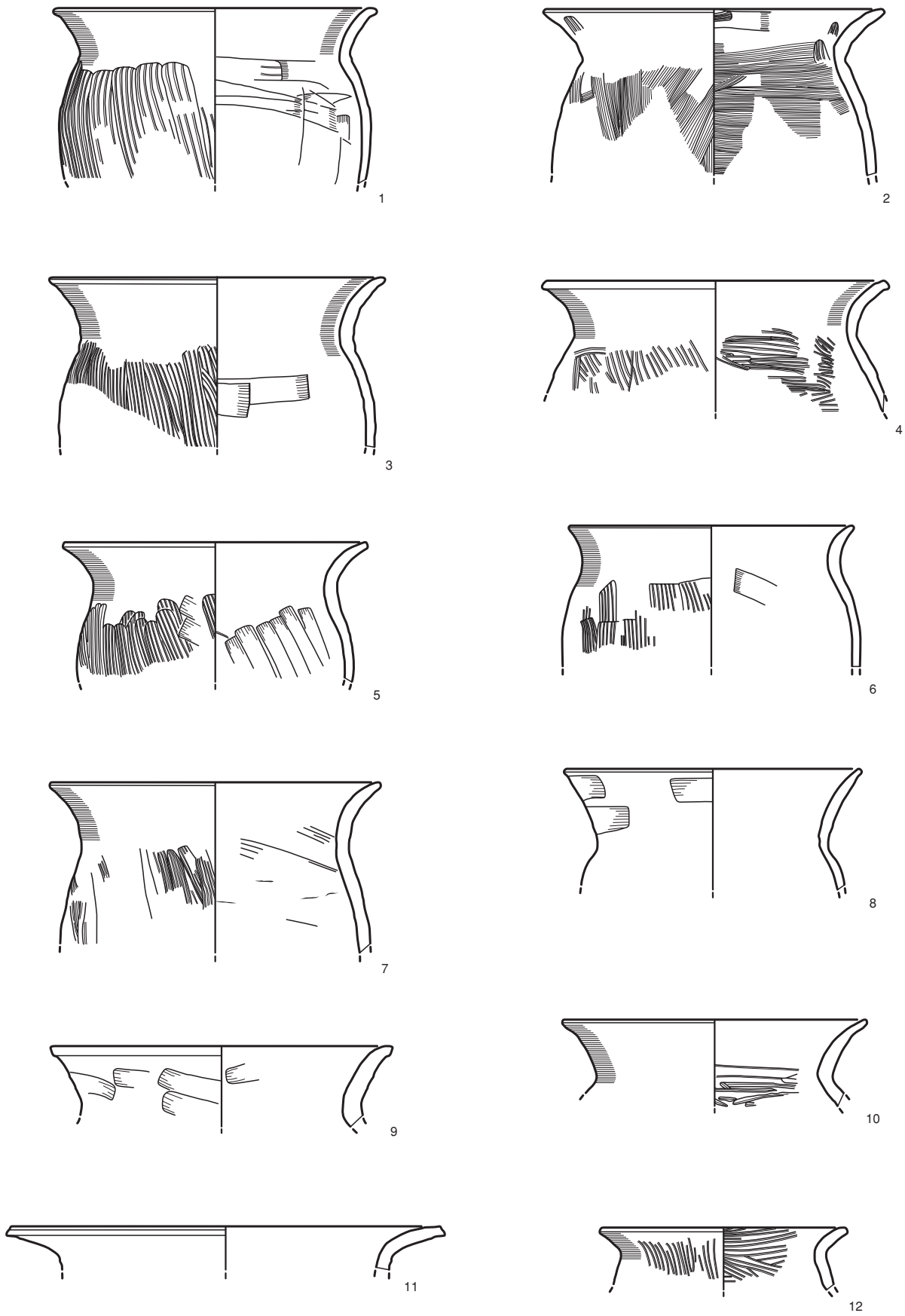
第 112 図 S G 160 出土土師器 (25)



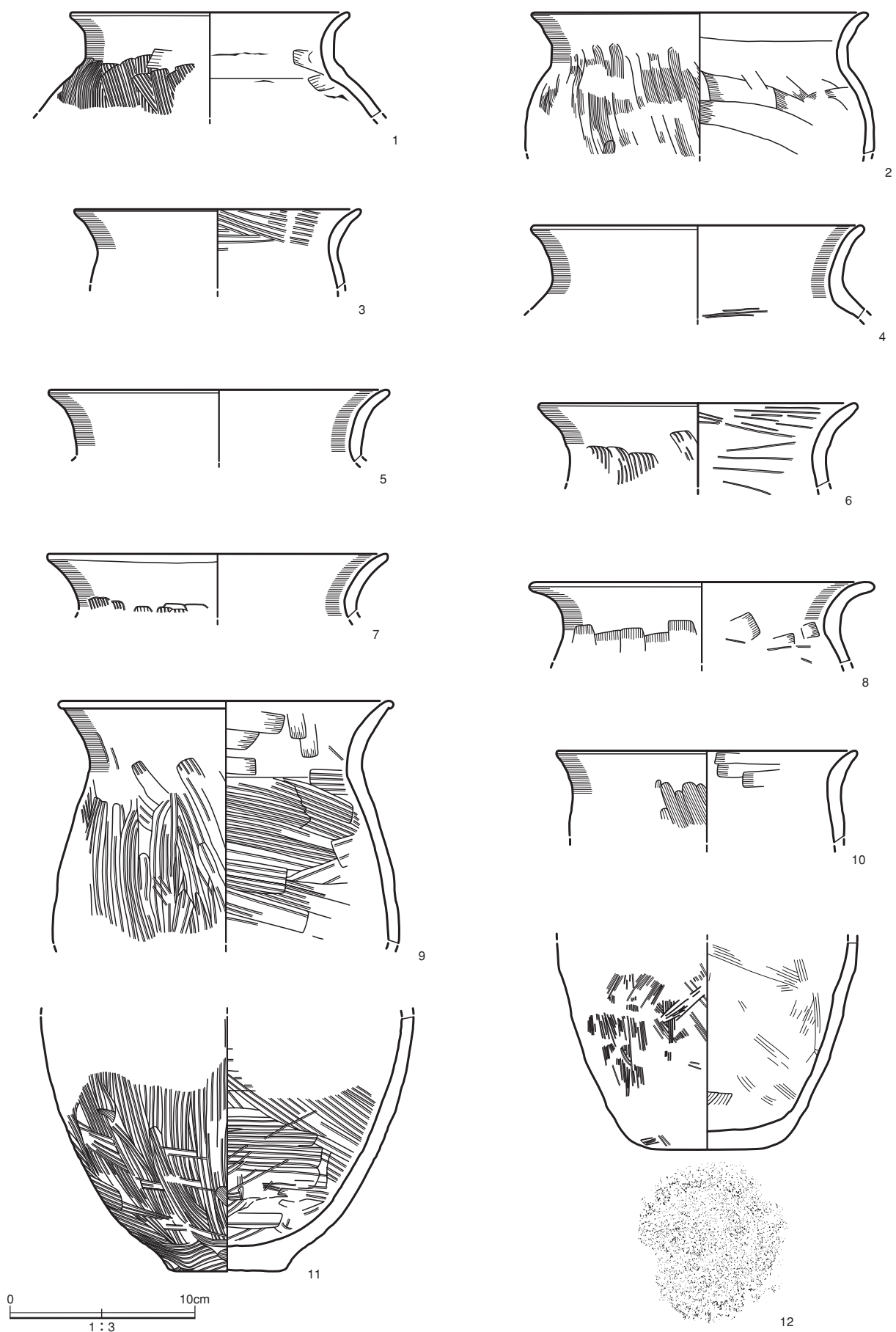
第113図 S G 160 出土土師器 (26)



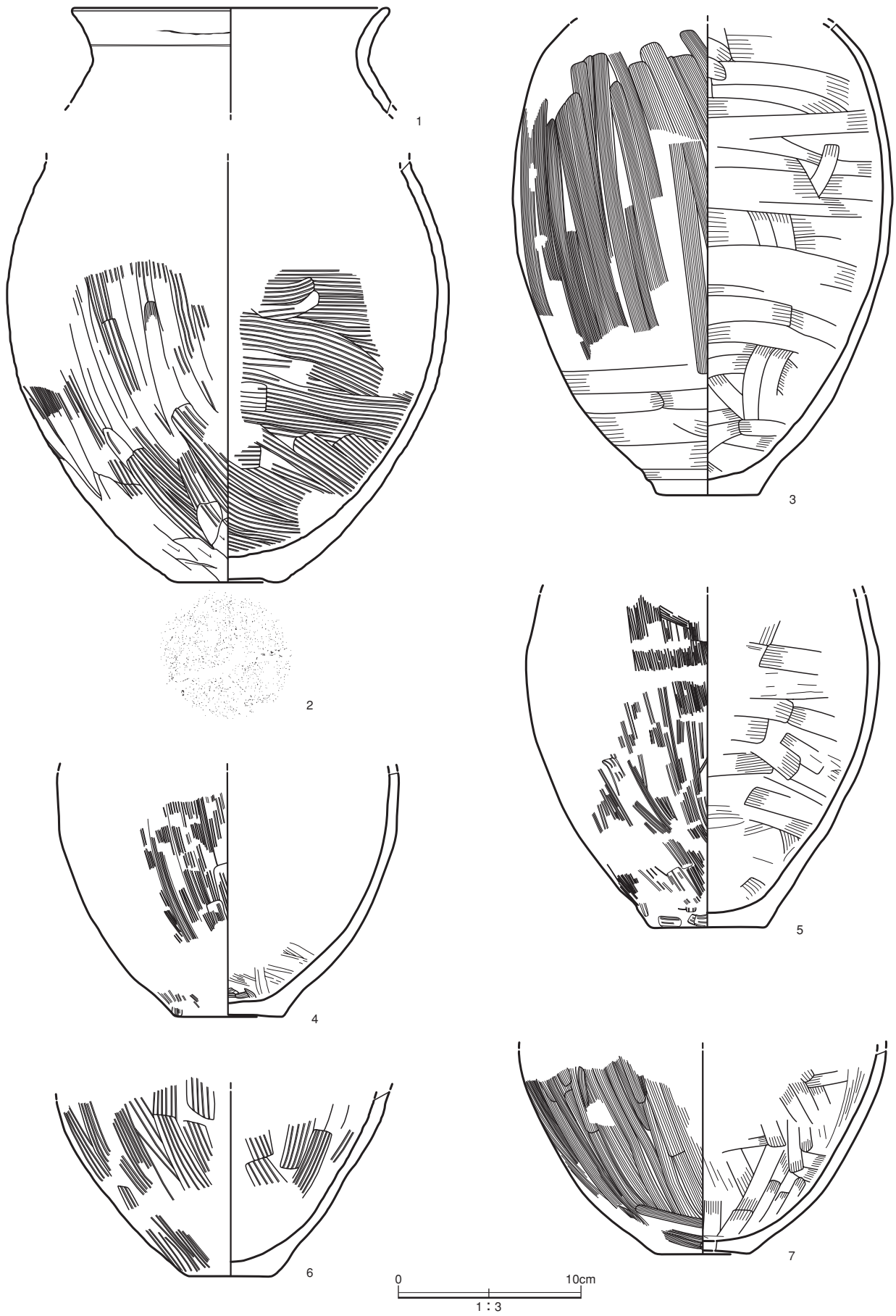
第 114 図 S G 160 出土土師器 (27)



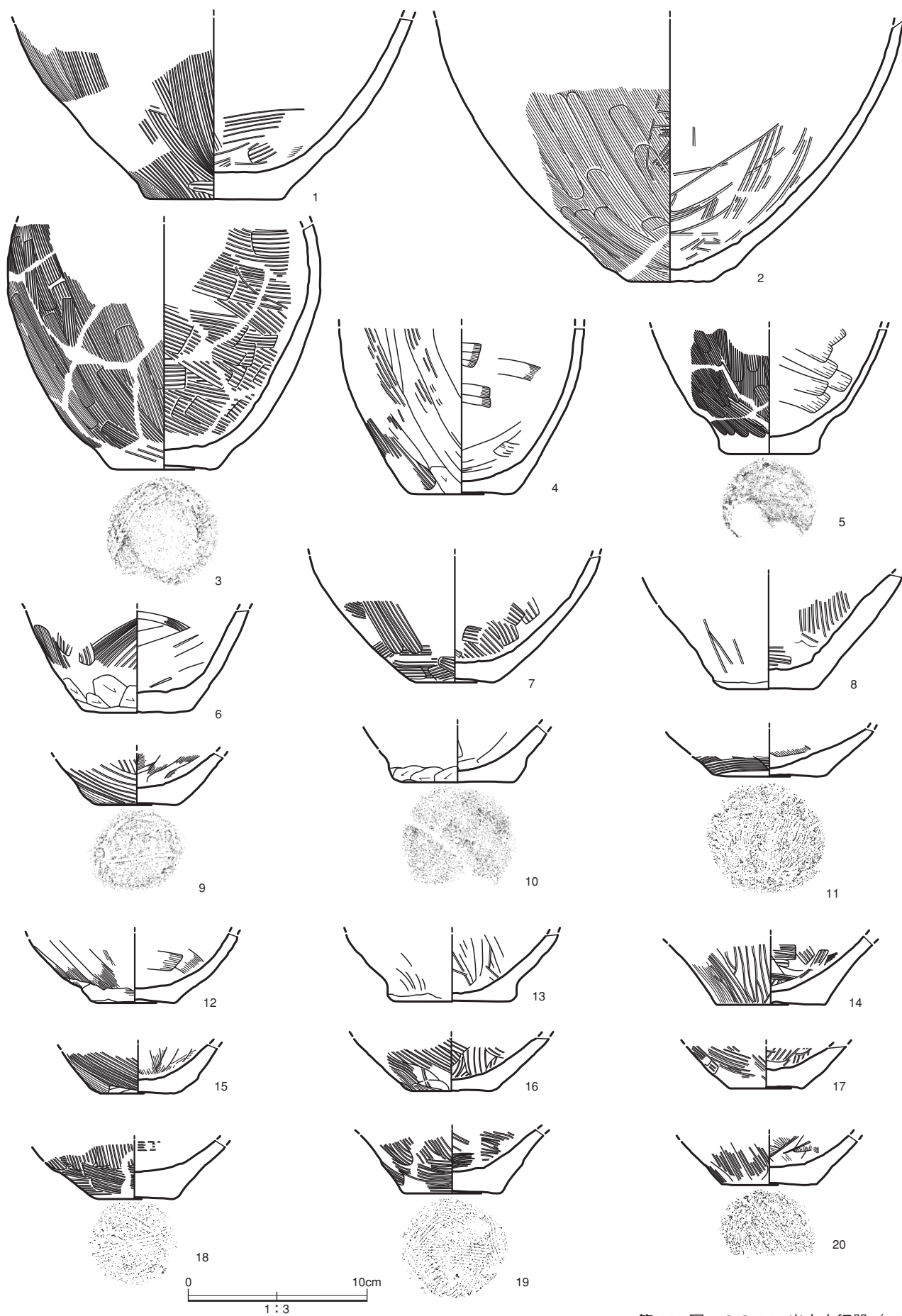
第115図 S G 160 出土土師器 (28)



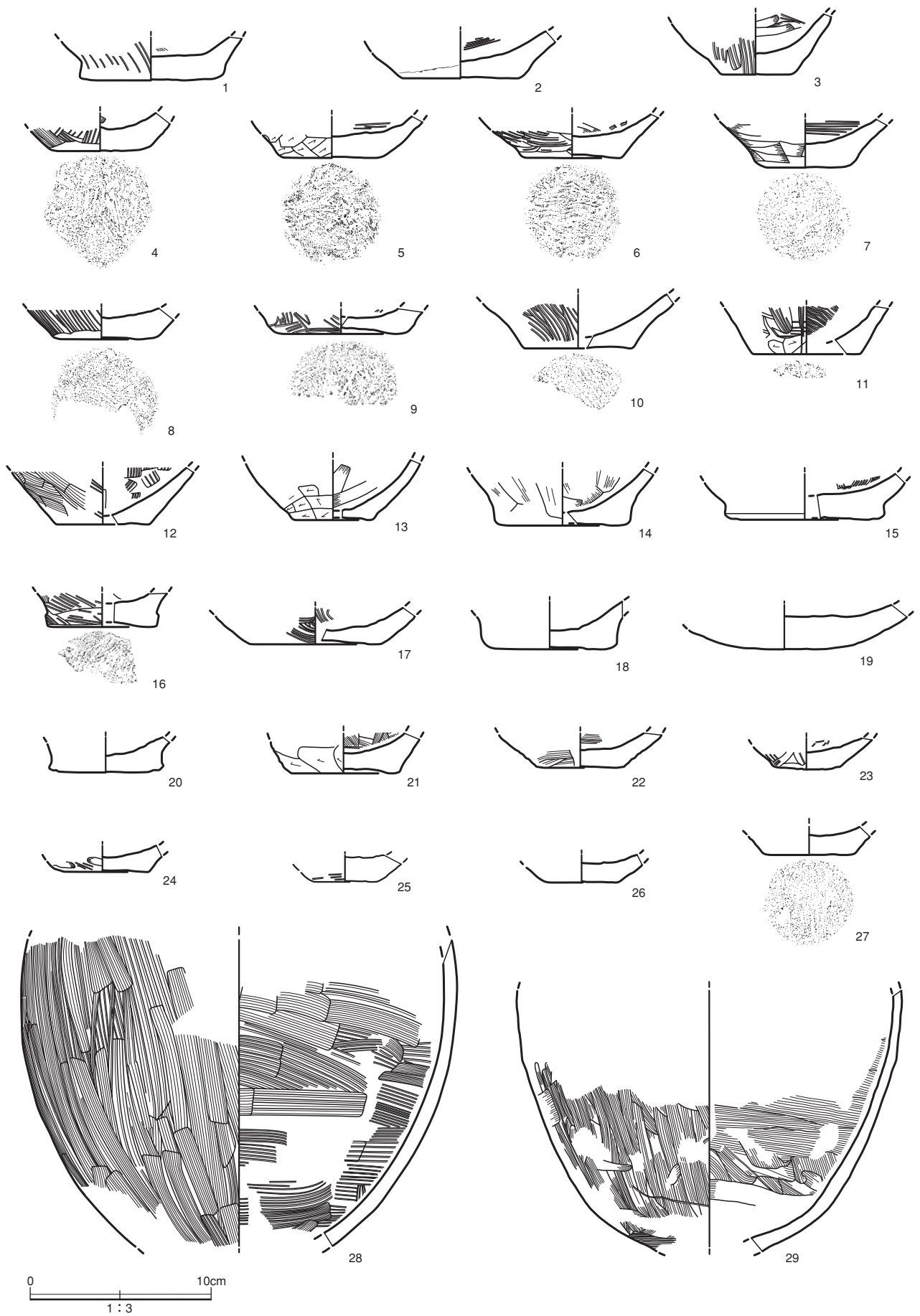
第 116 図 S G 160 出土土師器 (29)



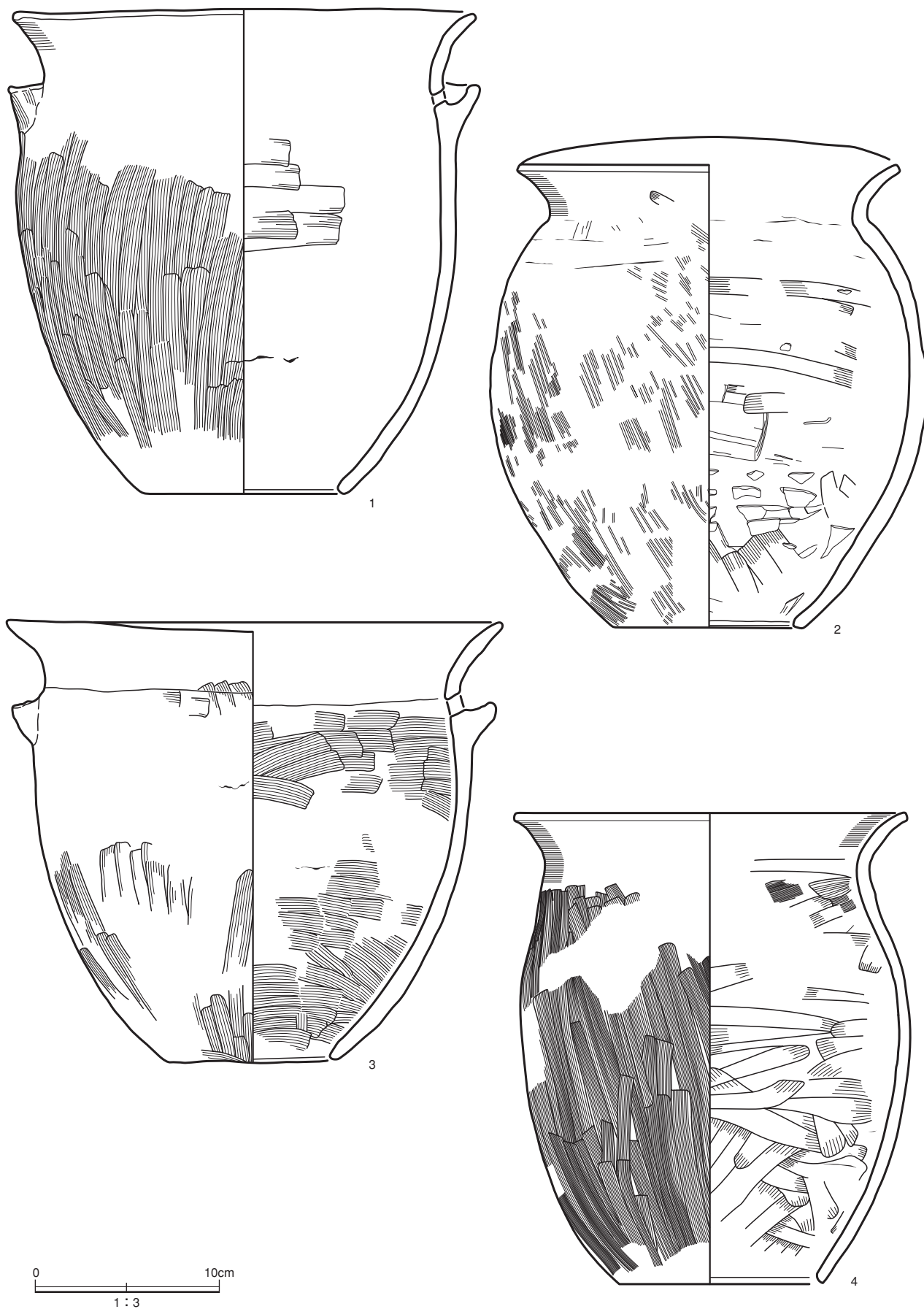
第117図 S G 160 出土土師器 (30)



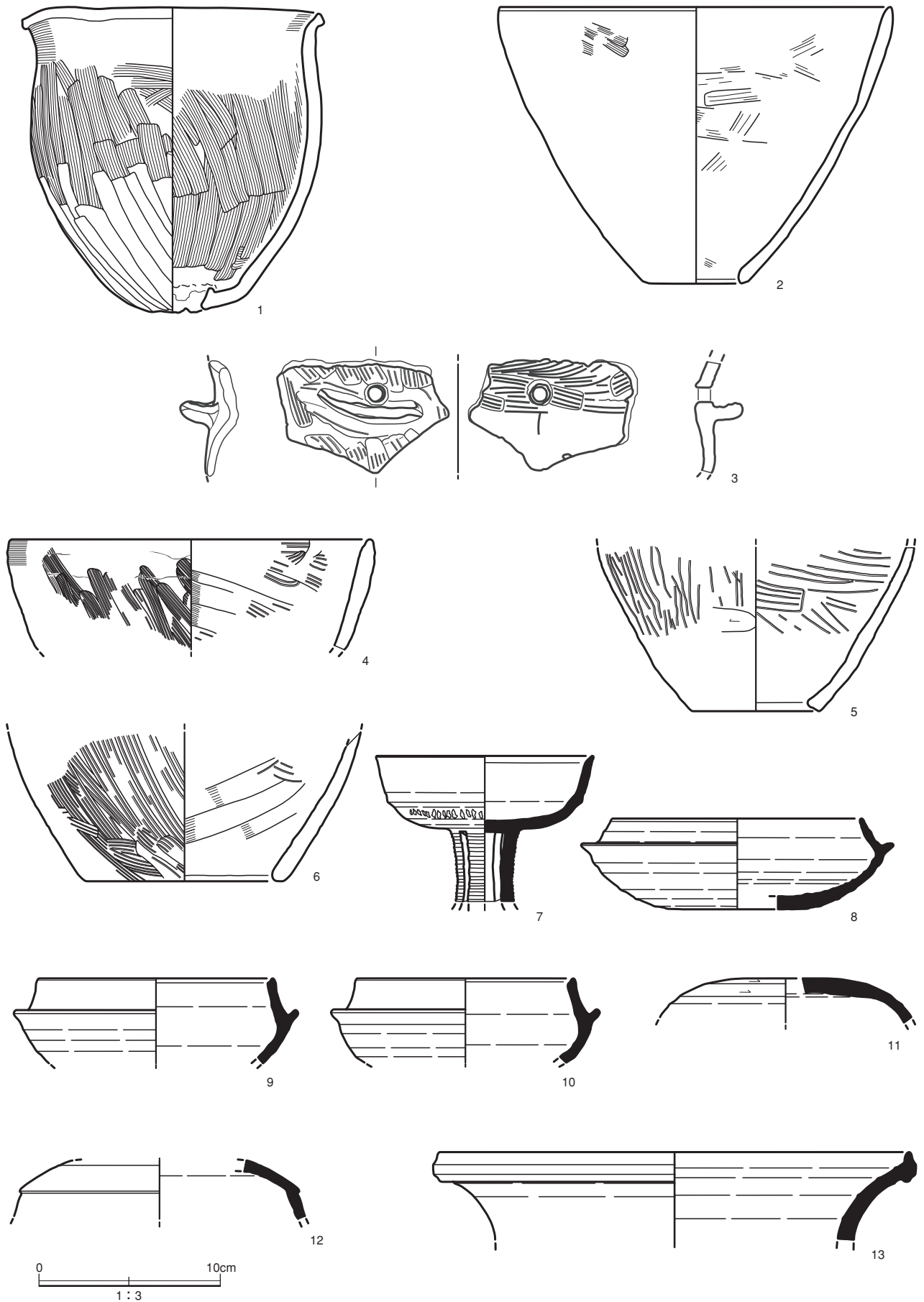
第118図 SG 160 出土土師器 (31)



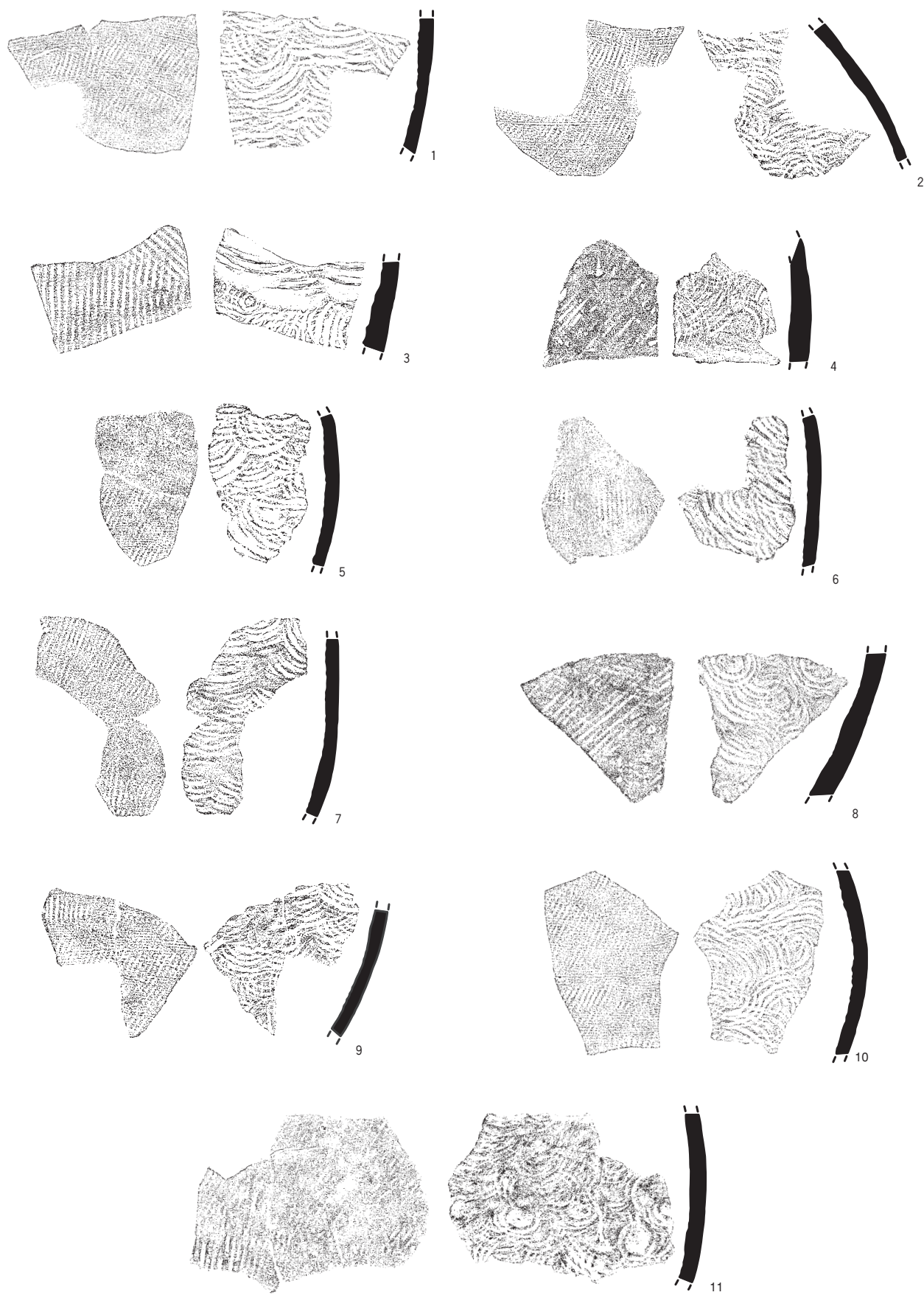
第119図 SG 160 出土土師器 (32)



第 120 図 S G 160 出土土師器 (33)

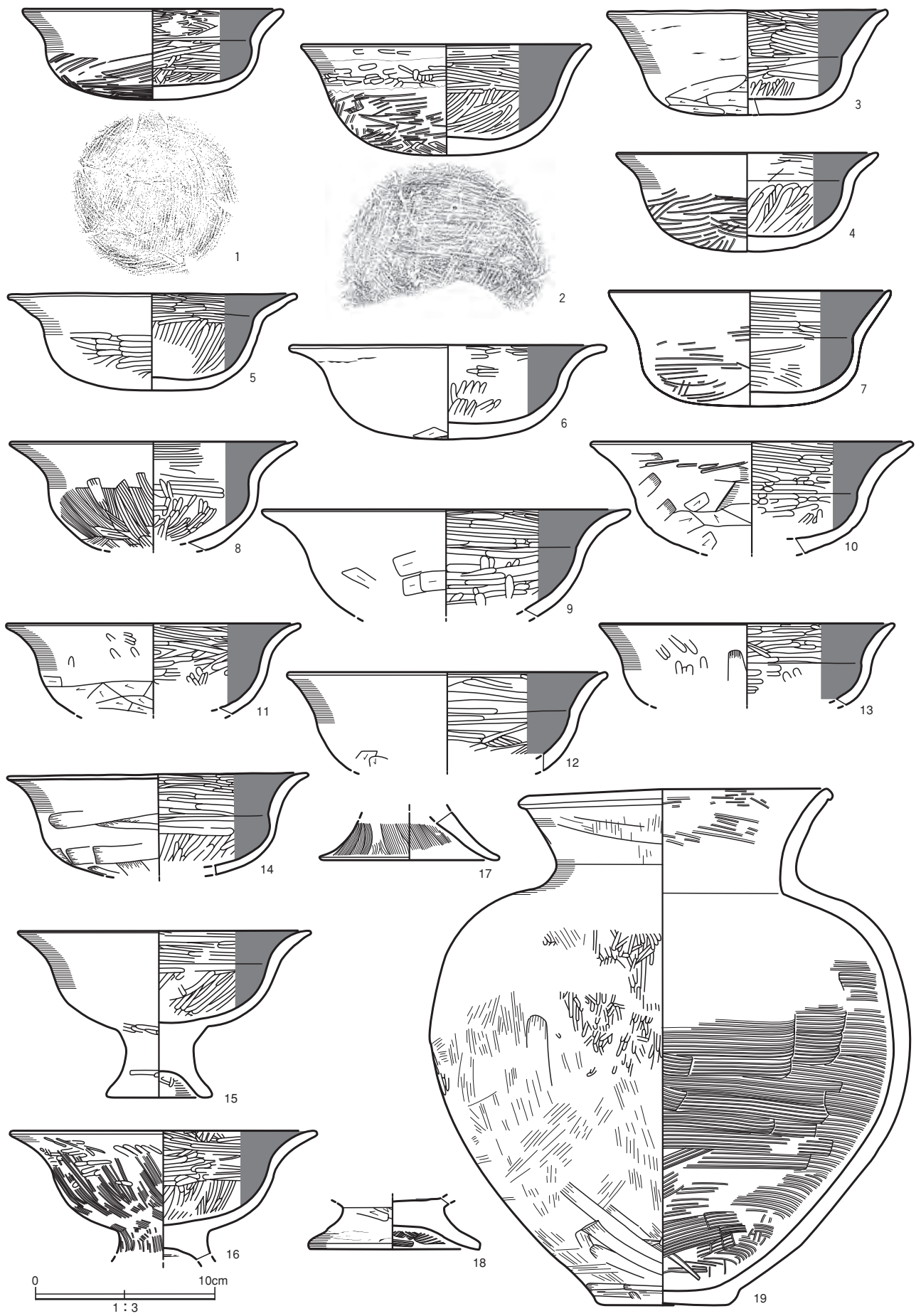


第 121 図 S G 160 出土土師器・須恵器

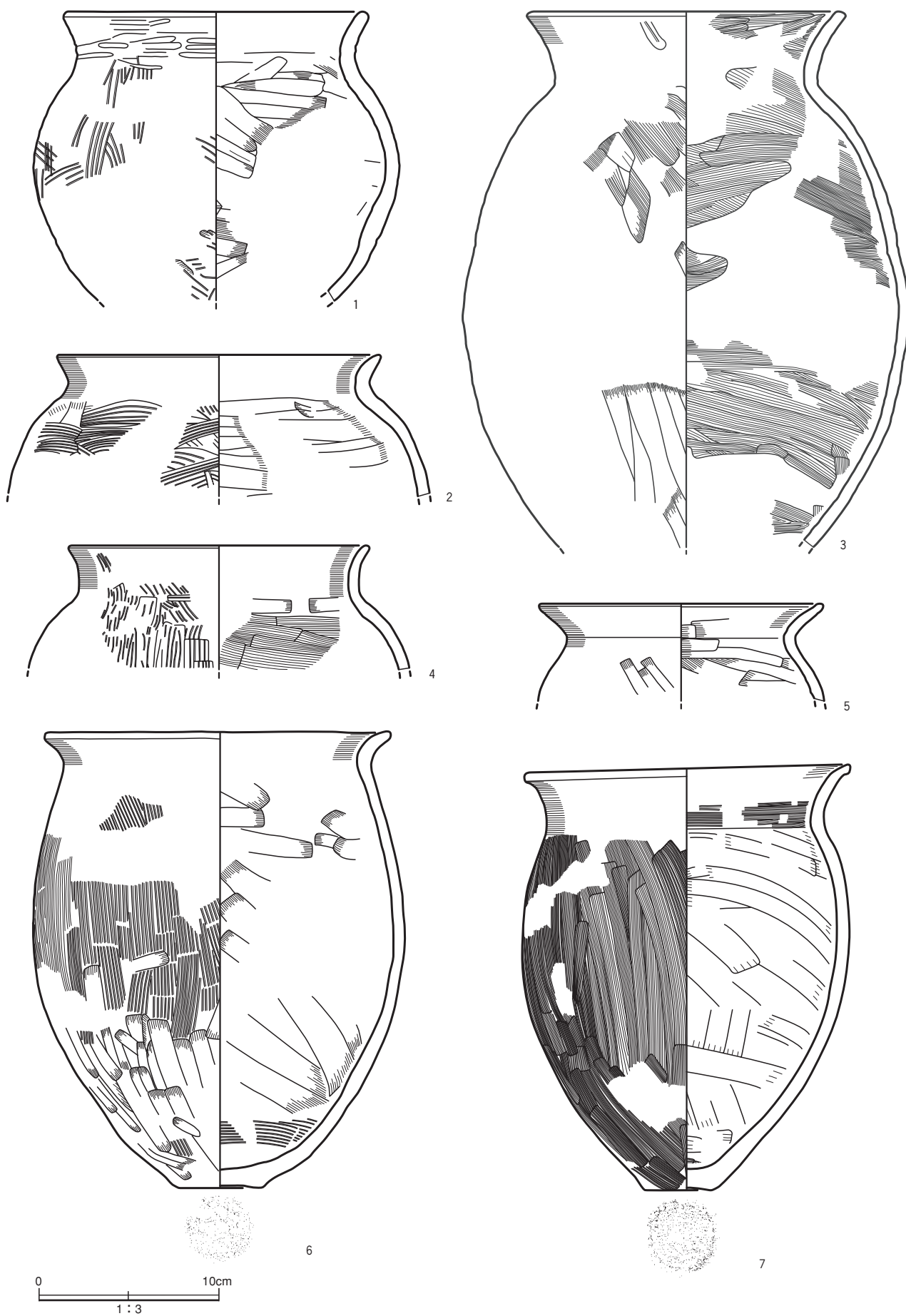


0 10cm
1:3

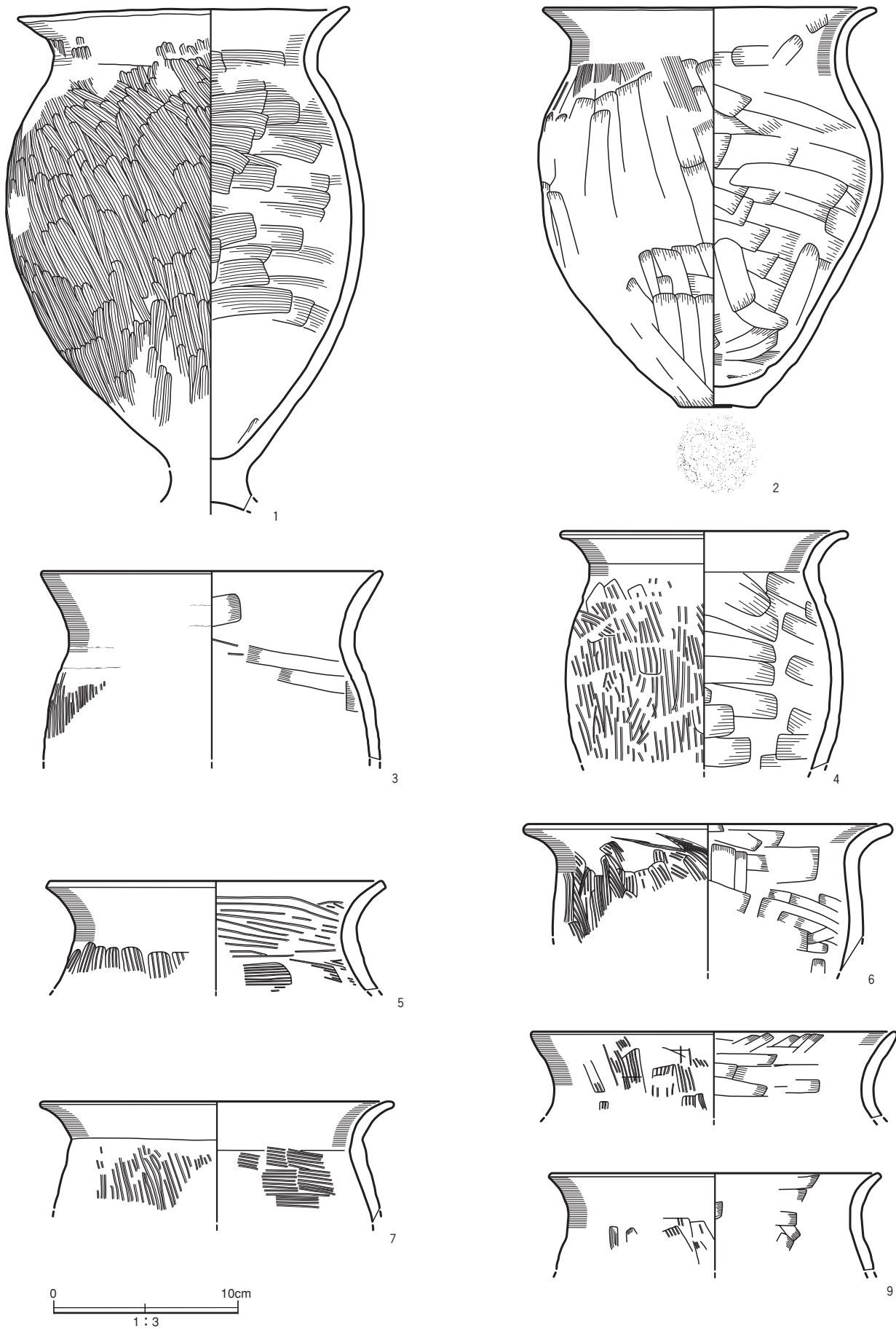
第 122 図 S G 160 出土須恵器



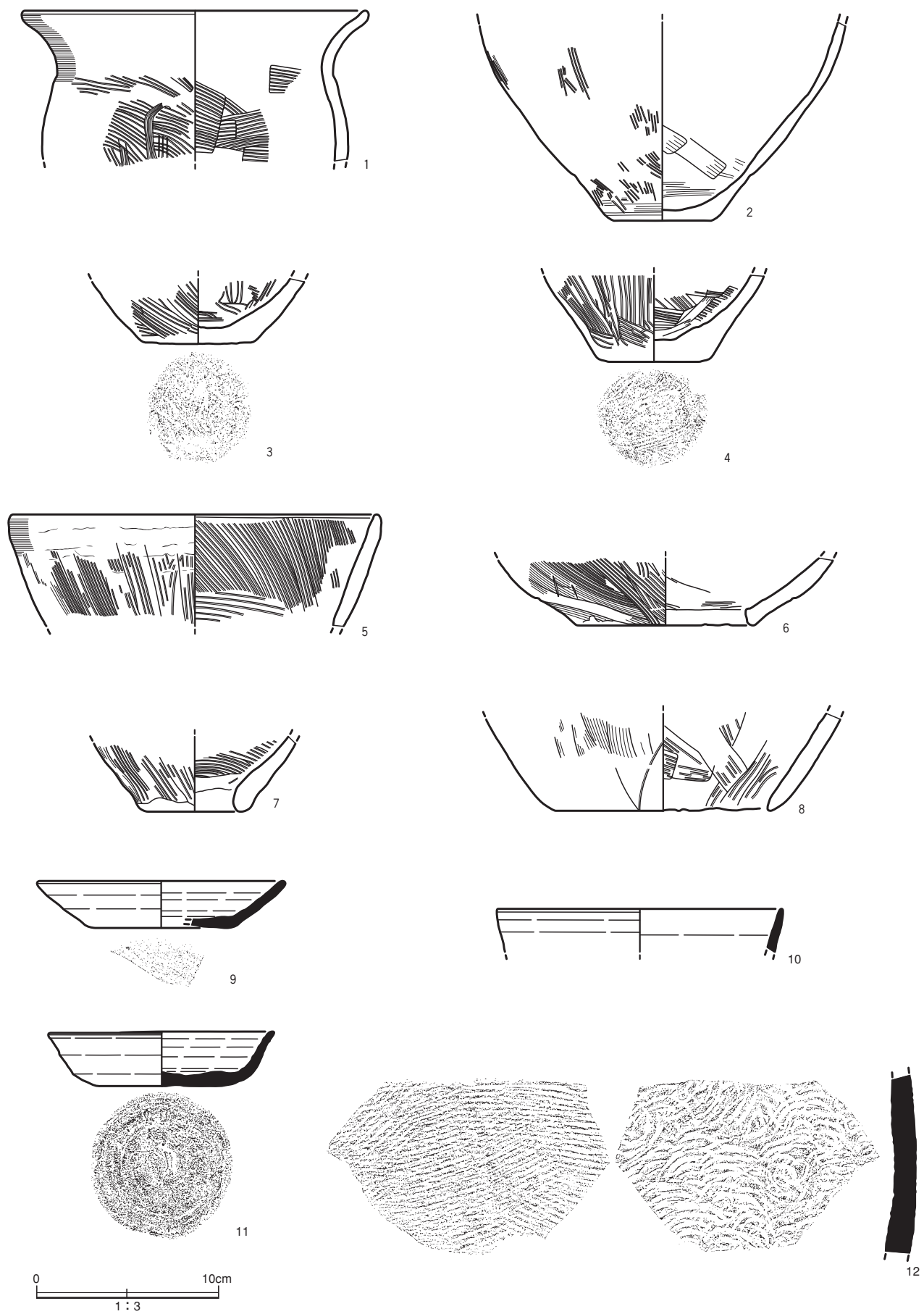
第123図 S G 1048 出土土師器(1)



第124図 SG 1048 出土土師器(2)



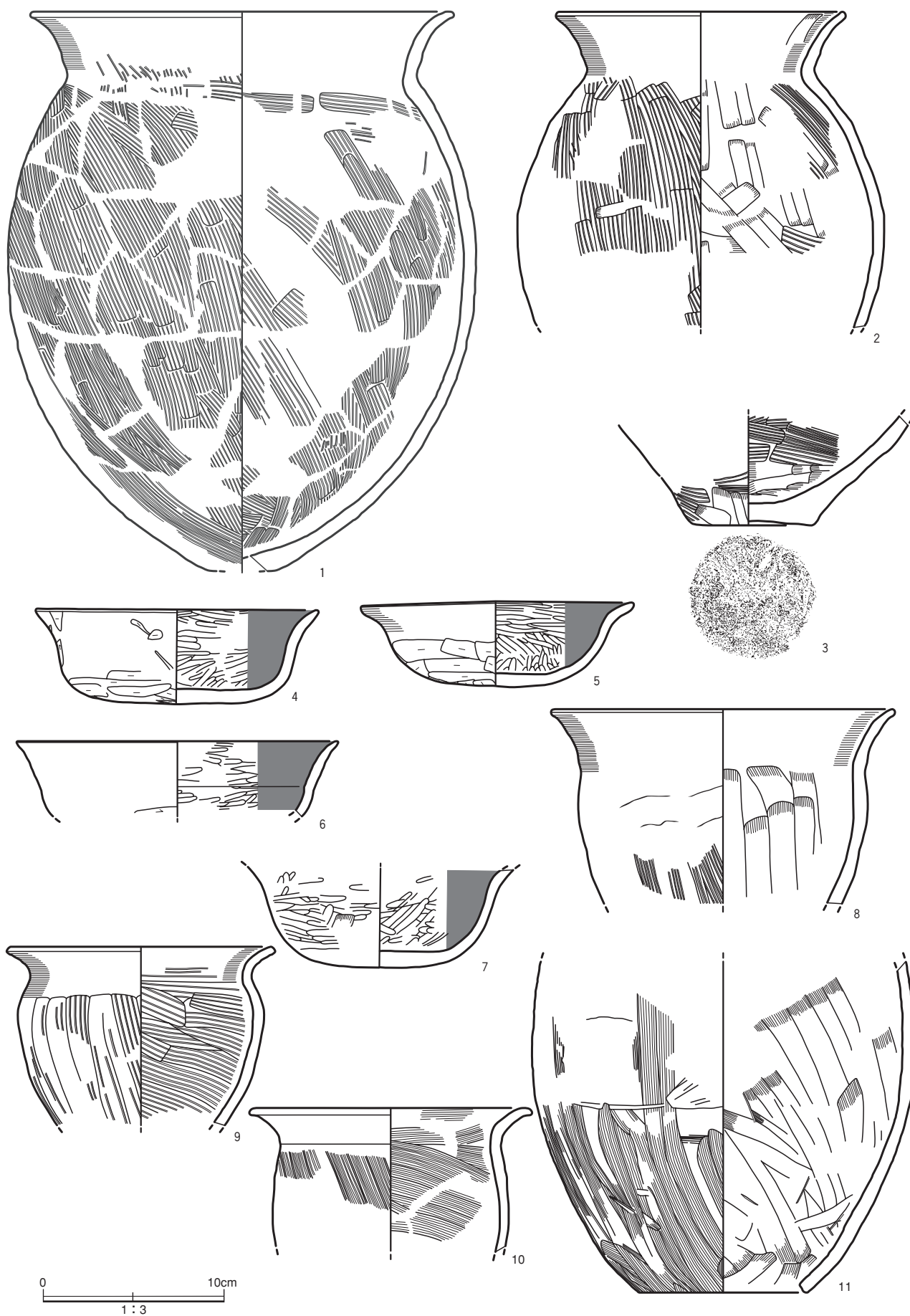
第125図 S G 1048 出土土師器 (3)



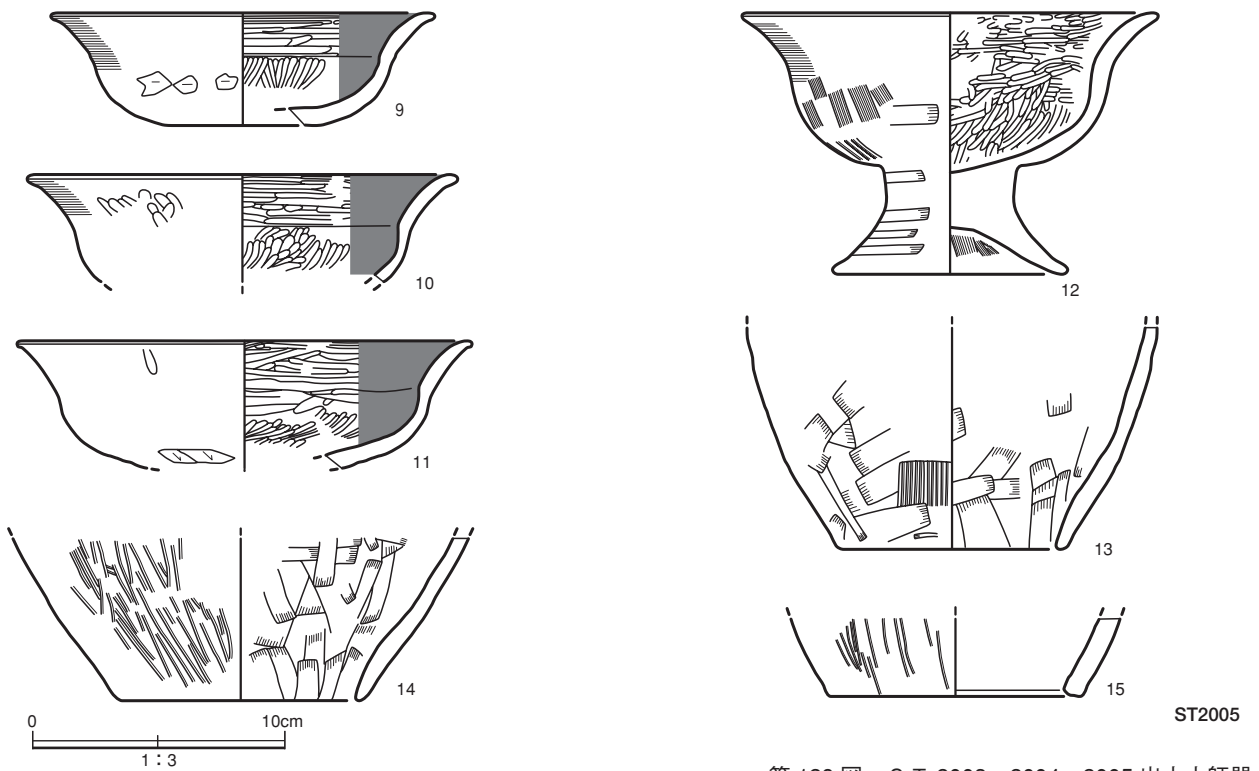
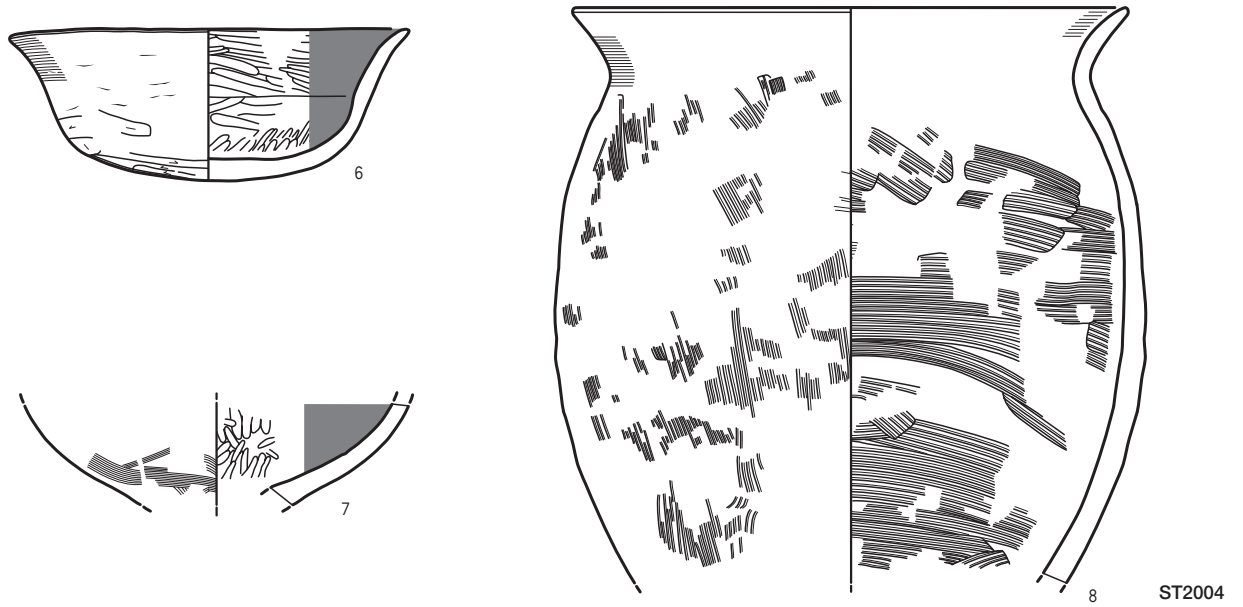
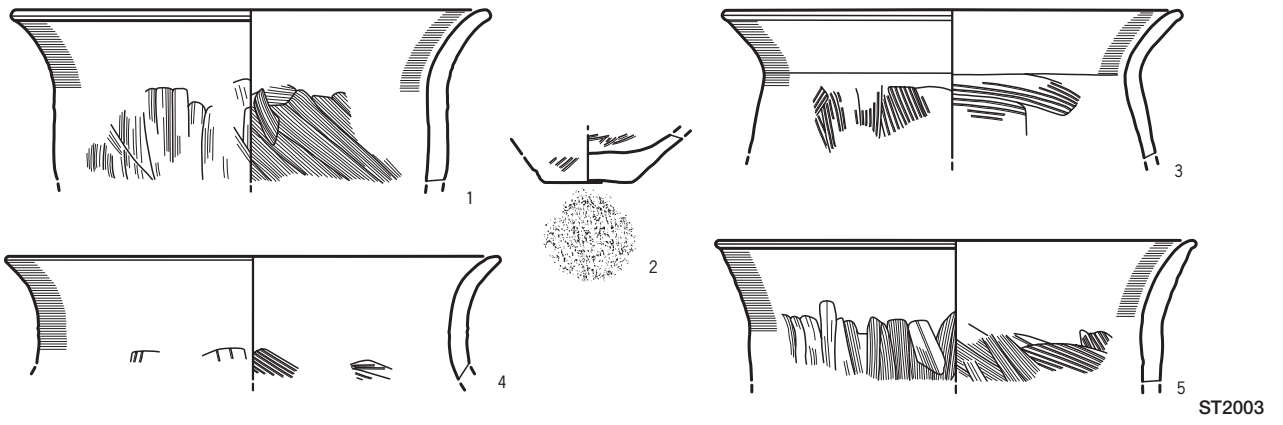
第126図 SG 1048 出土土師器・須恵器



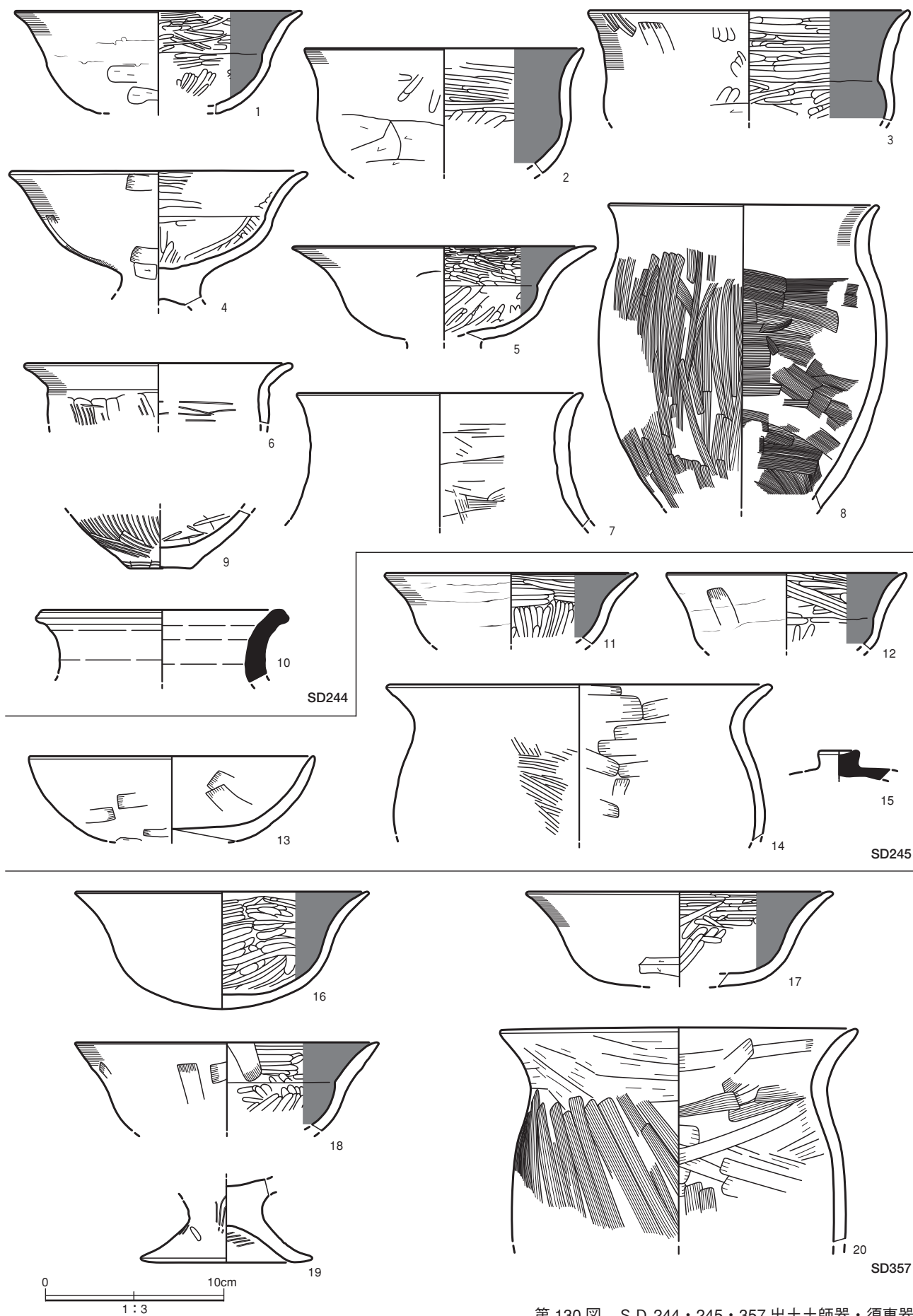
第127図 S T 2001・2002・2003 出土土師器



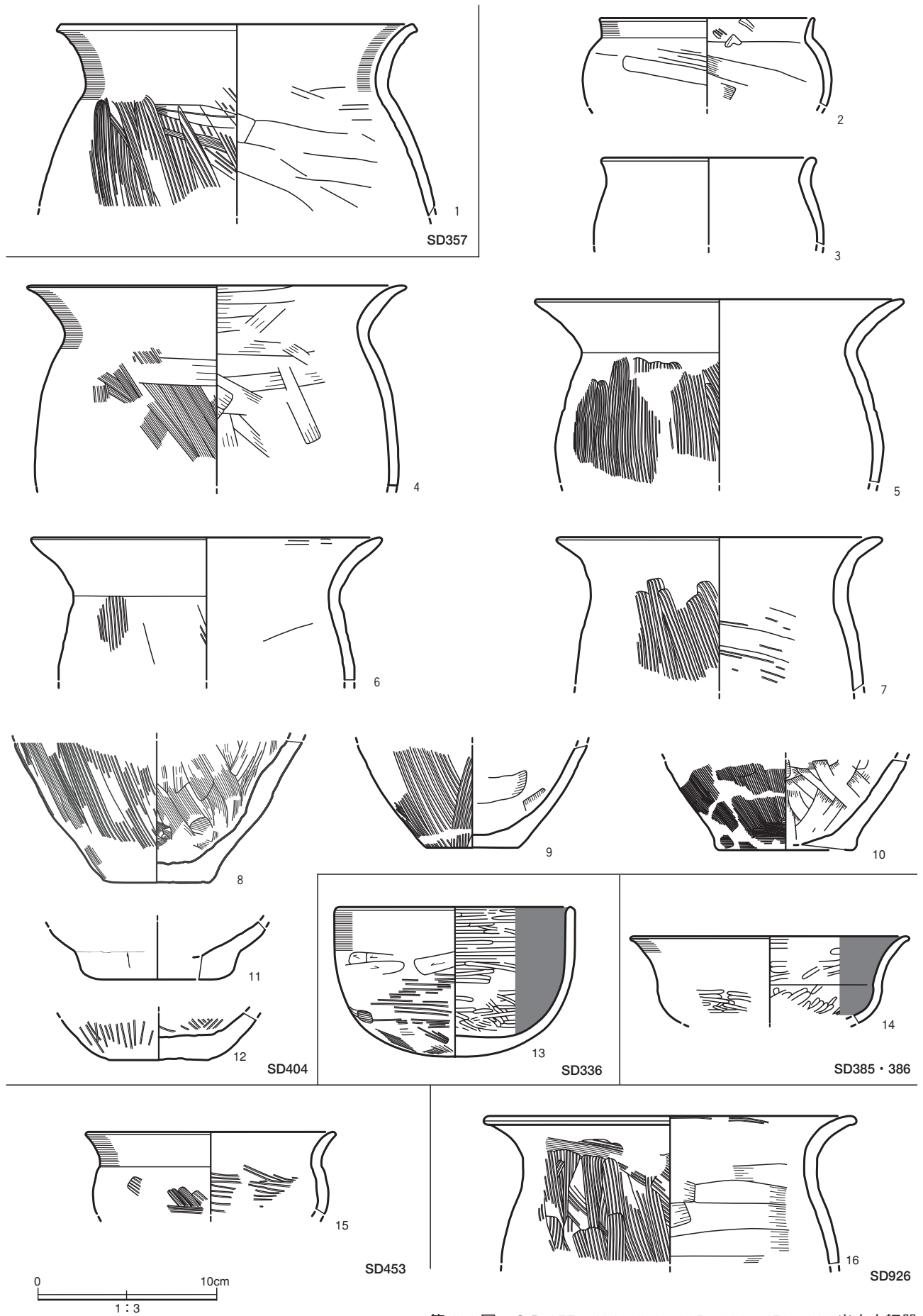
第128図 S T 2003 出土土師器



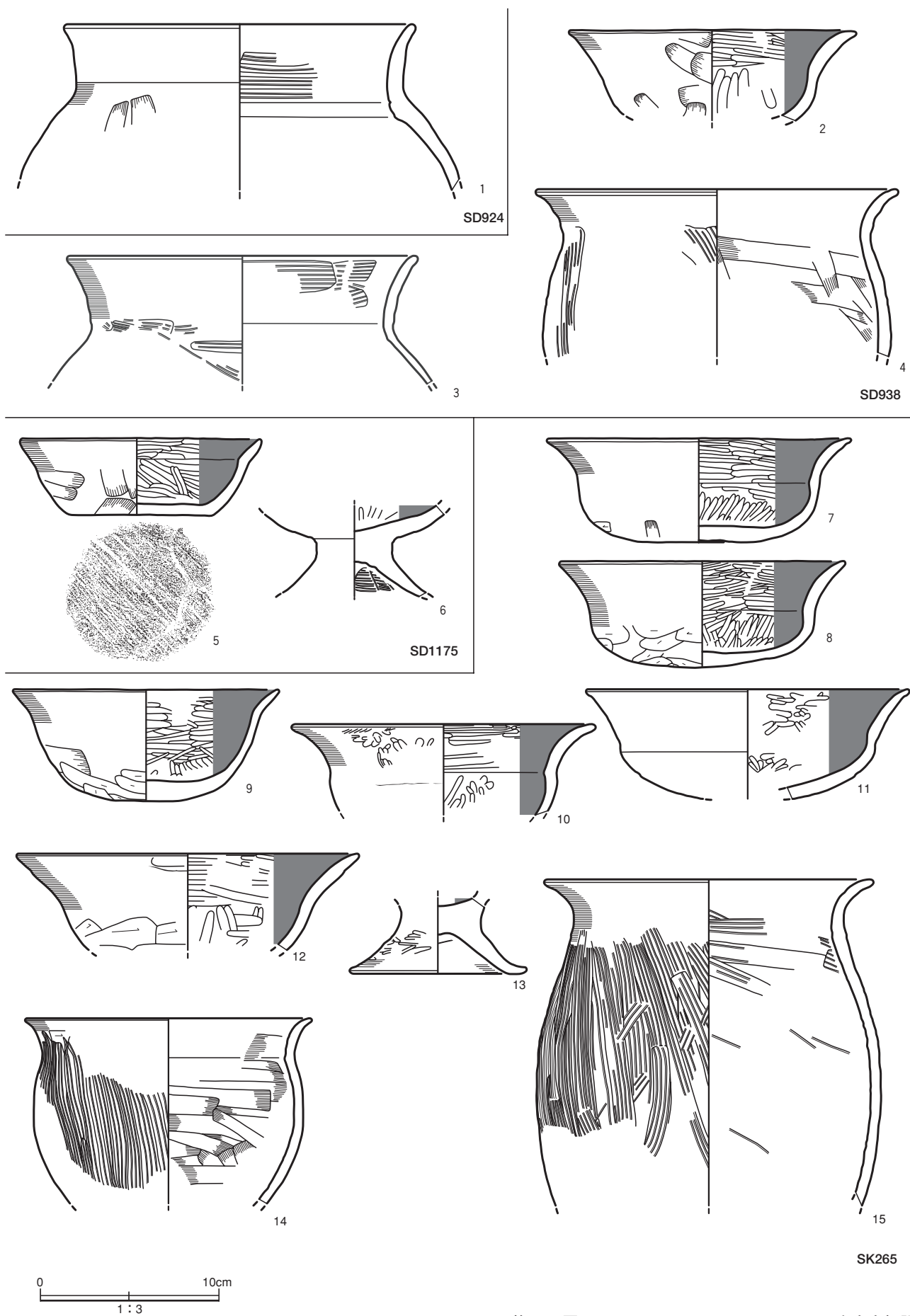
第129図 S T 2003・2004・2005 出土土師器



第130図 S D 244・245・357 出土土師器・須恵器



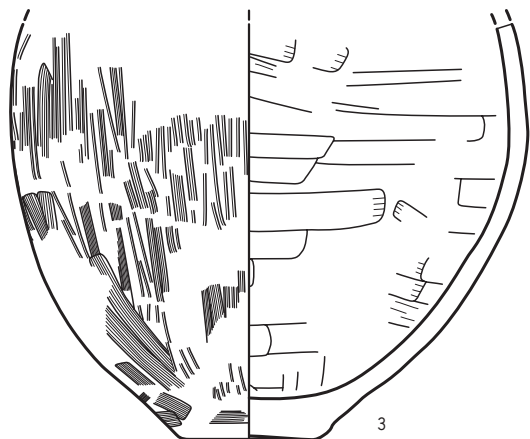
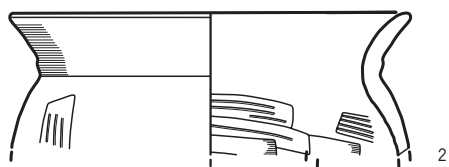
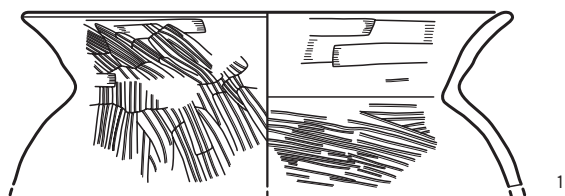
第 131 図 S D 357・404・336・385・386・453・926 出土土師器



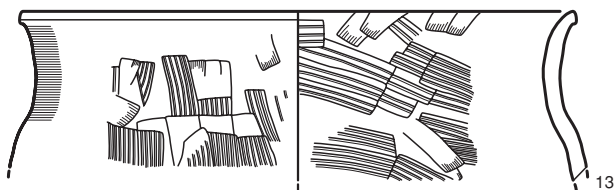
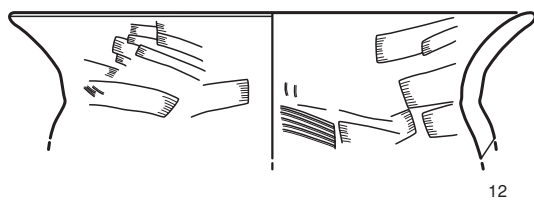
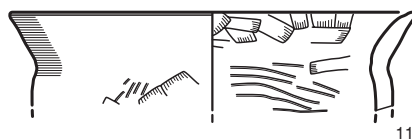
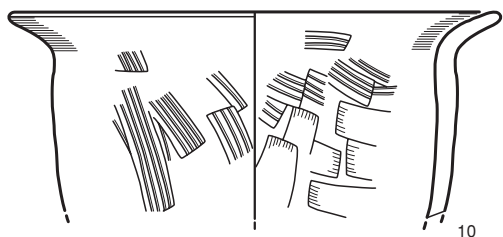
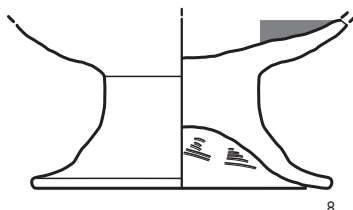
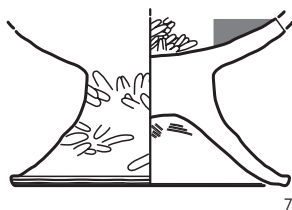
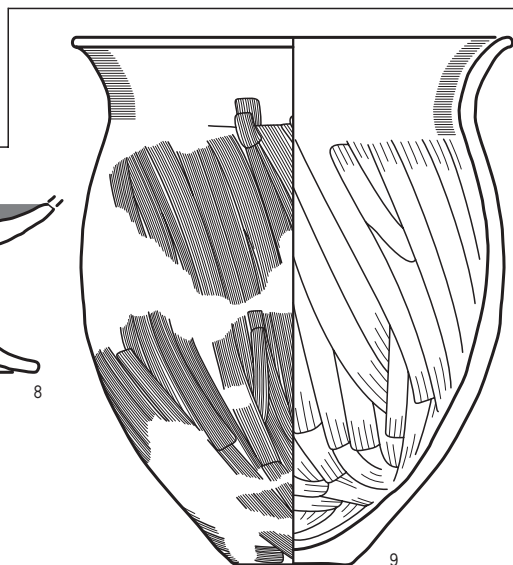
第132図 S D 924・938・1175・S K 265 出土土師器



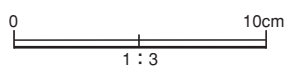
第133図 SK 265・329 出土土師器



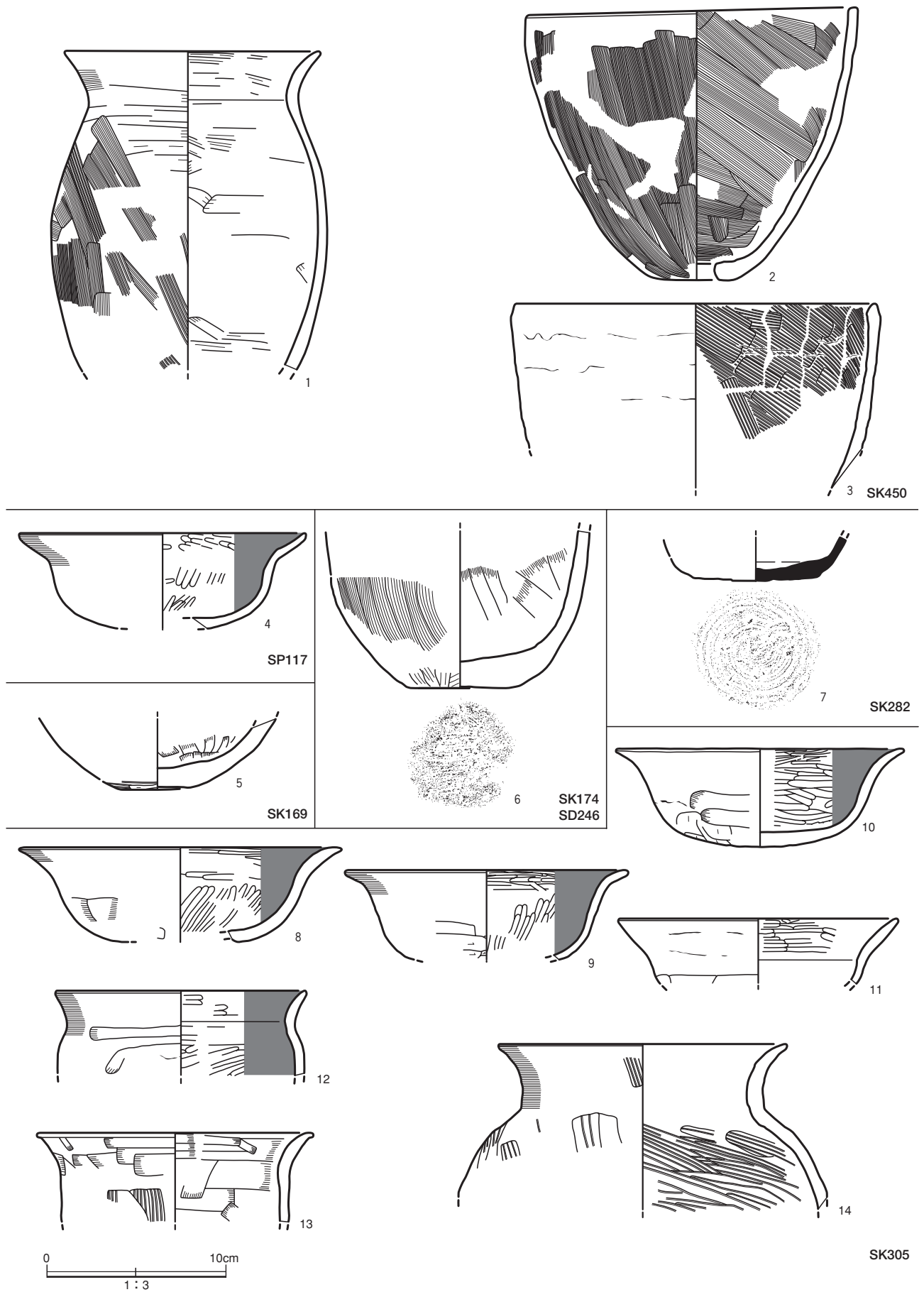
SX329



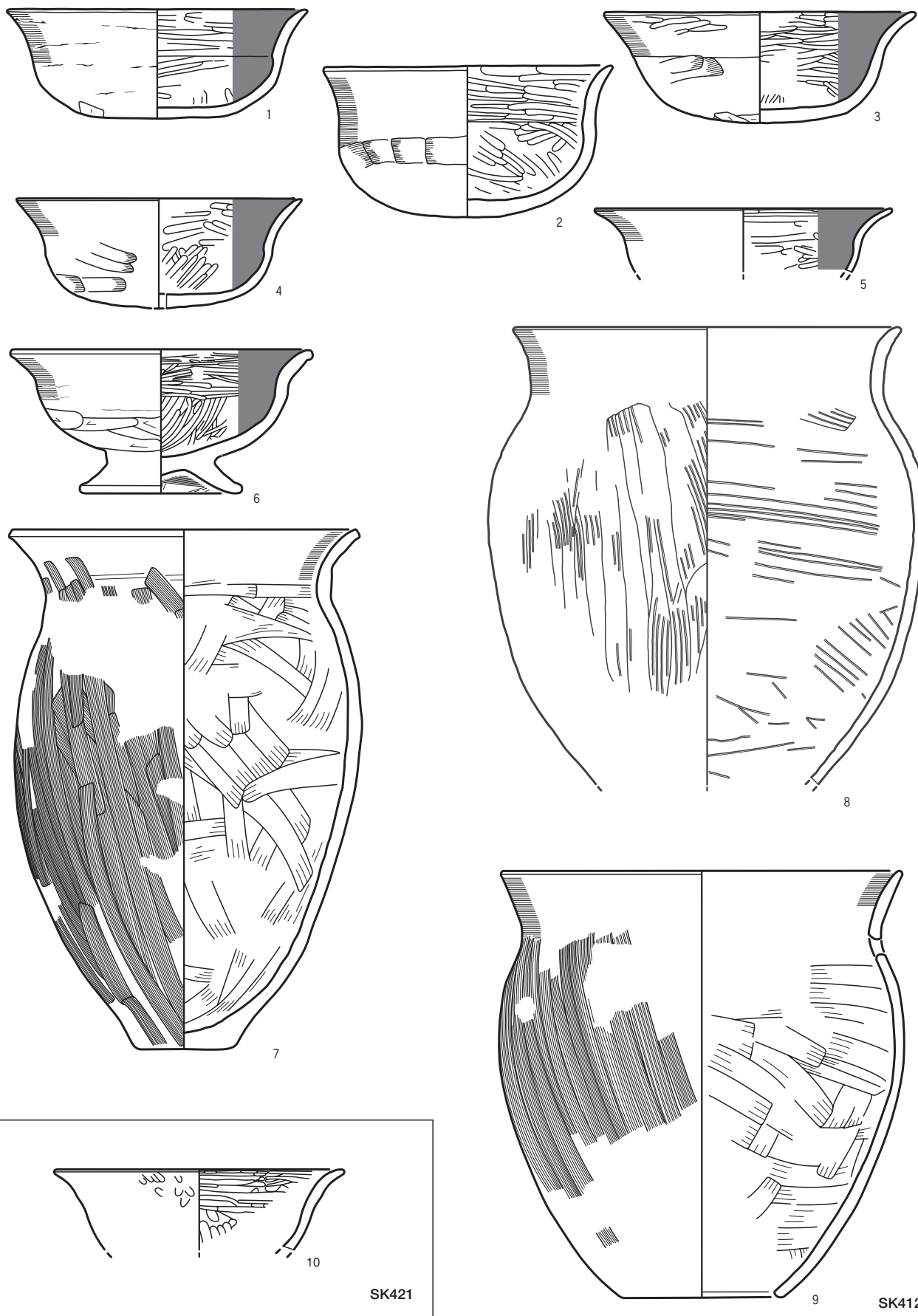
SK450



第 134 図 S K 329・450 出土土師器



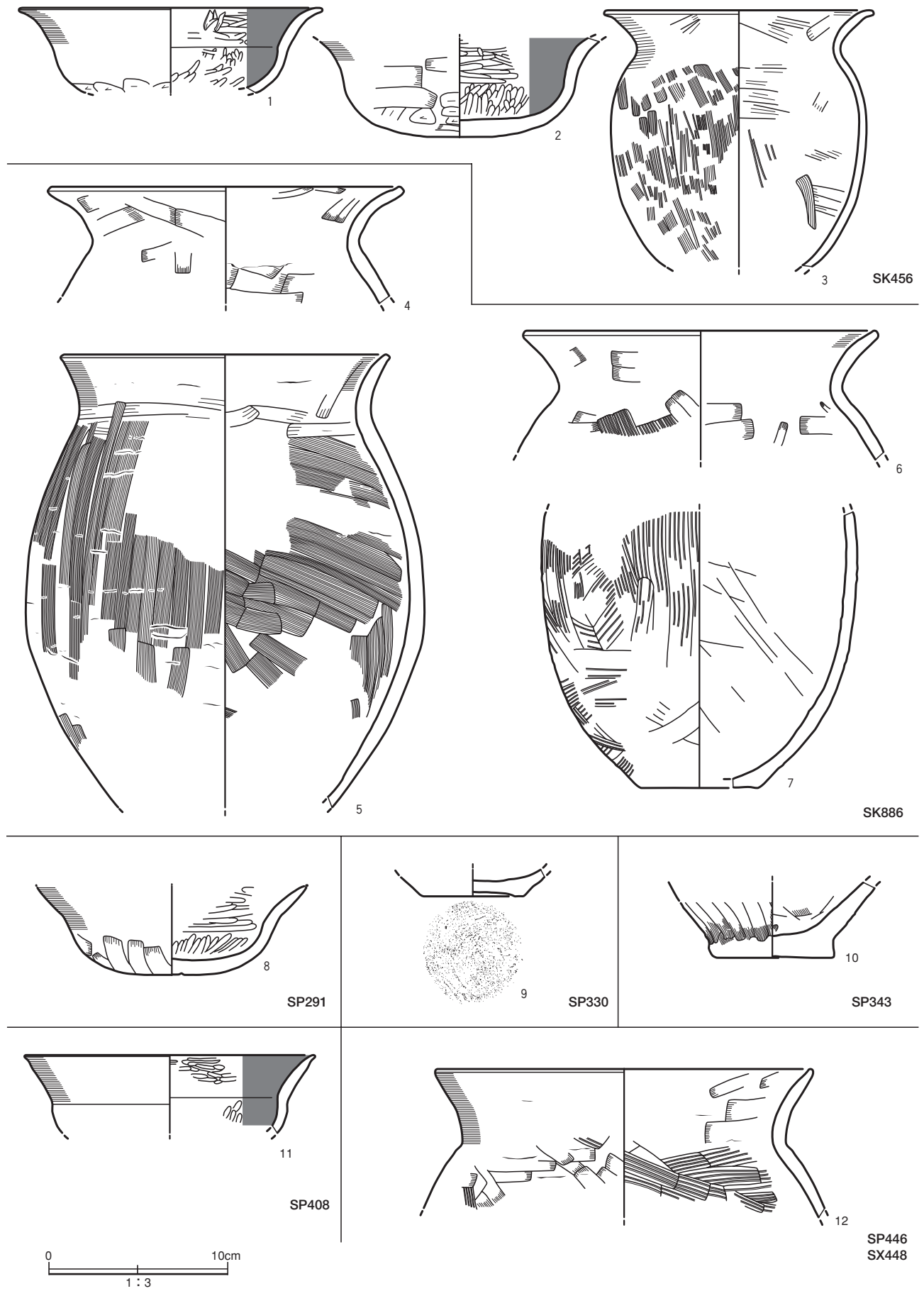
第 135 図 S K 450・169・174・282・305・S P 117 出土土師器・須恵器



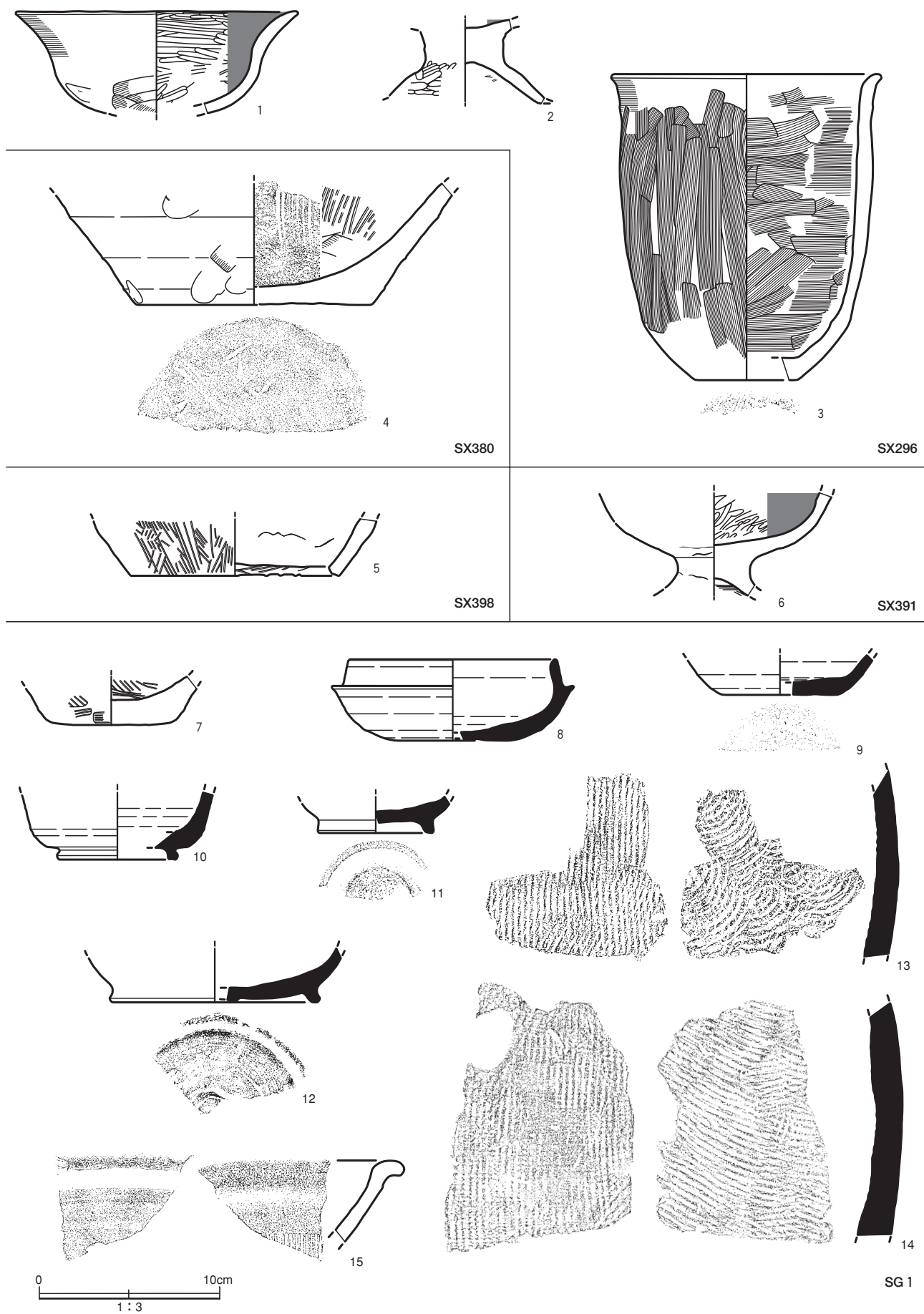
SK421

SK412

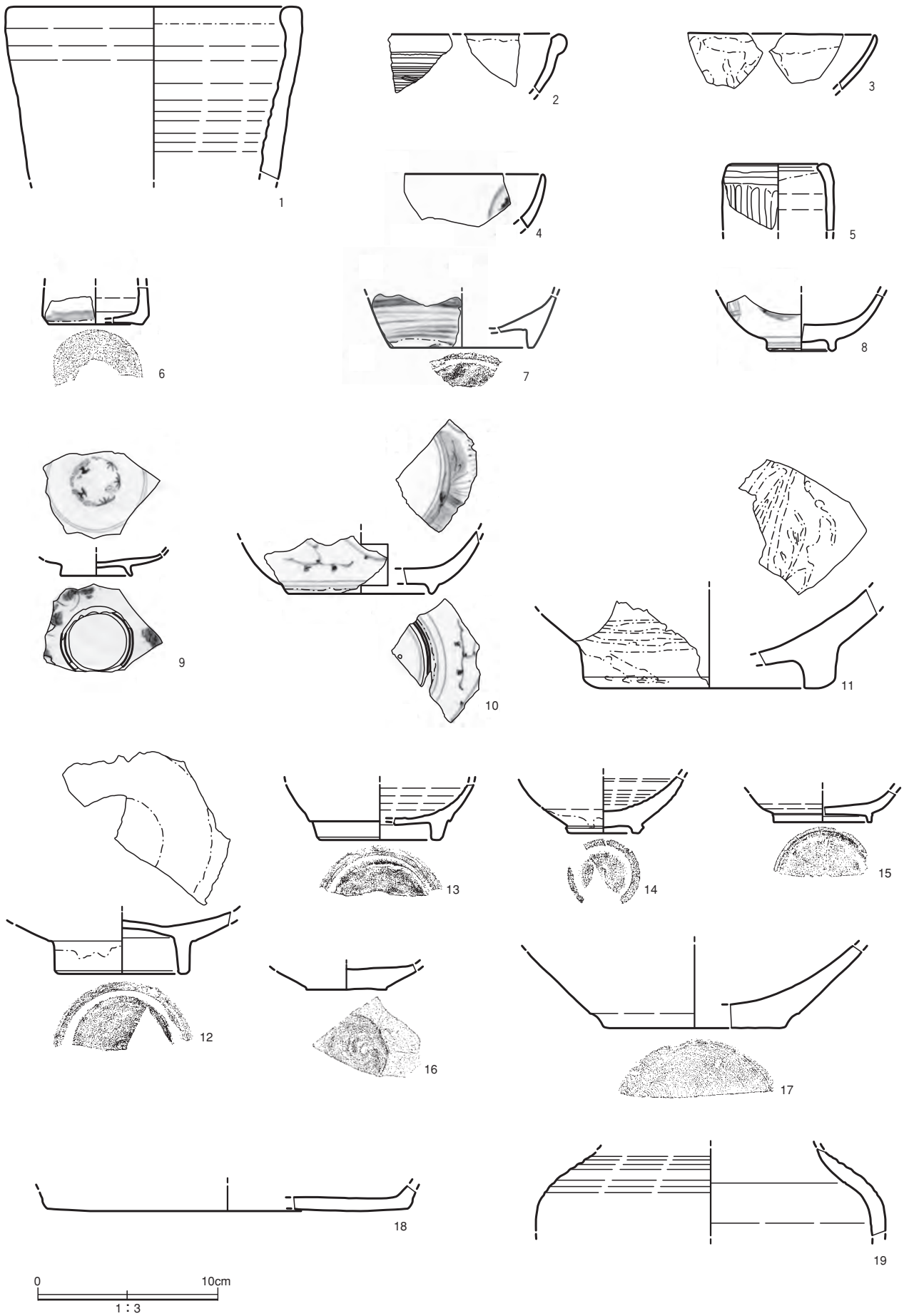
第 136 図 S K 412・421 出土土師器



第137図 SK 456・886・SP 291・330・343・408・446 出土土師器

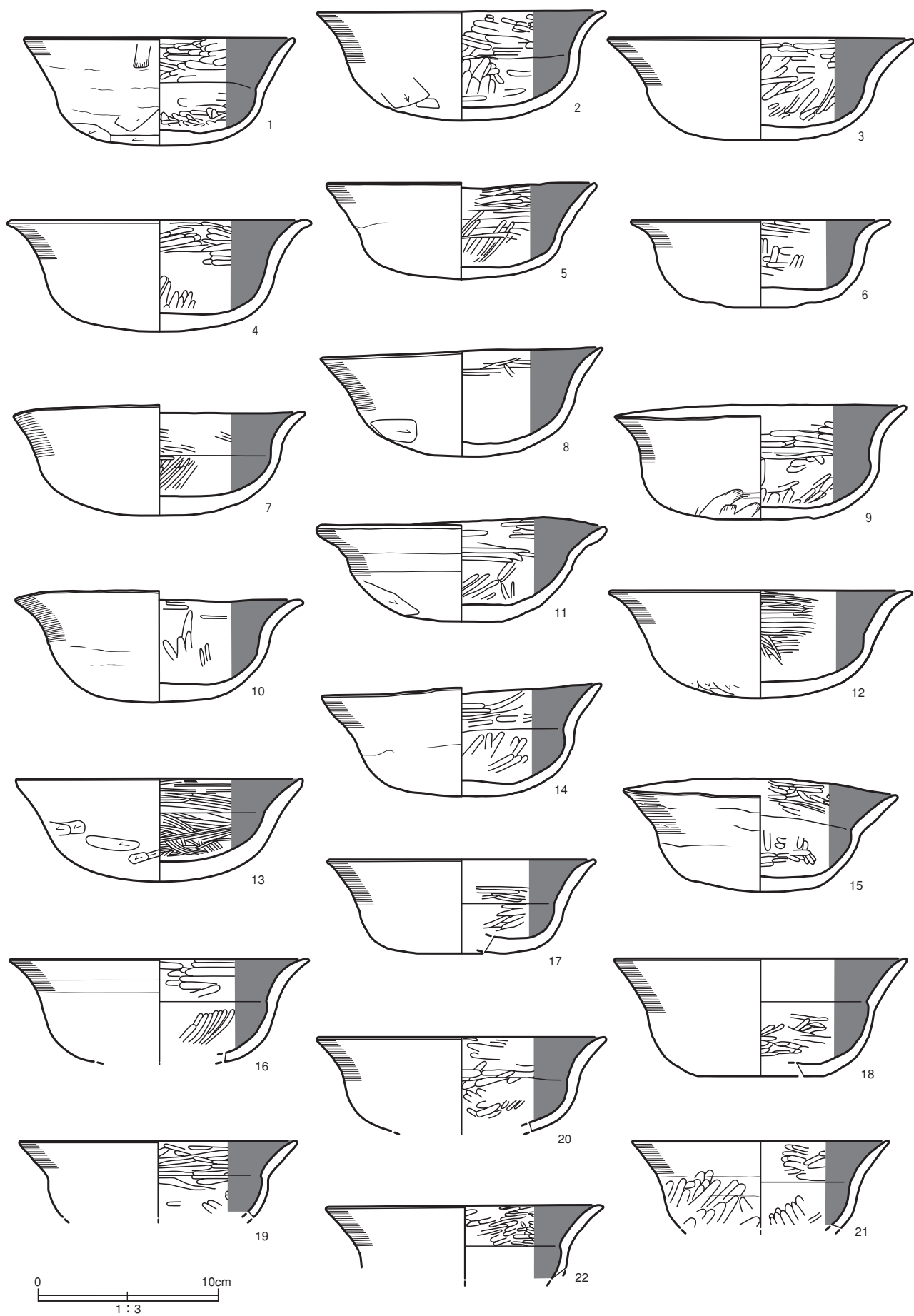


第 138 図 S X 296・380・398・391・S G 1 出土土師器・須恵器・陶器

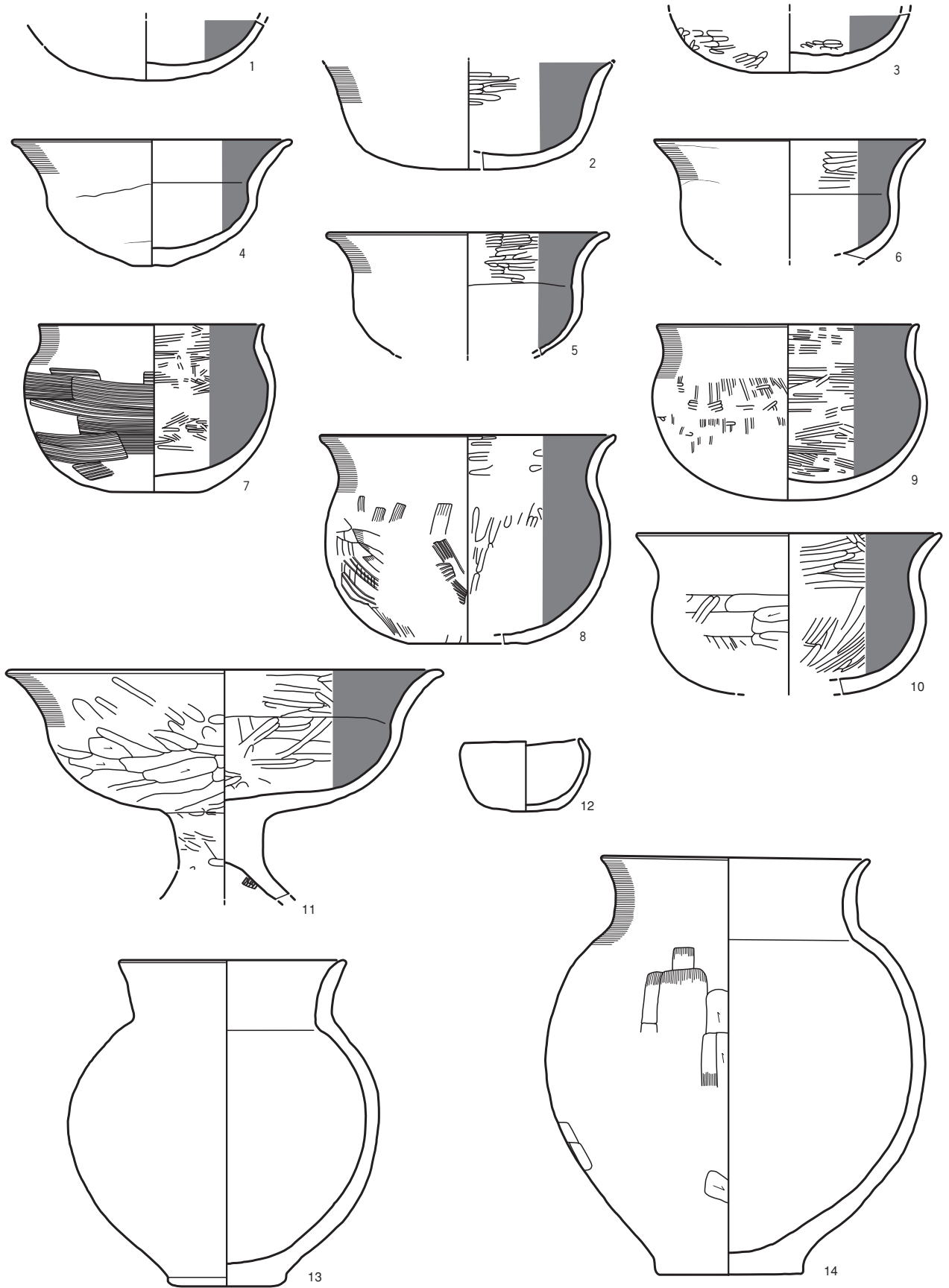


0 10cm
1:3

第139図 SG1出土陶磁器

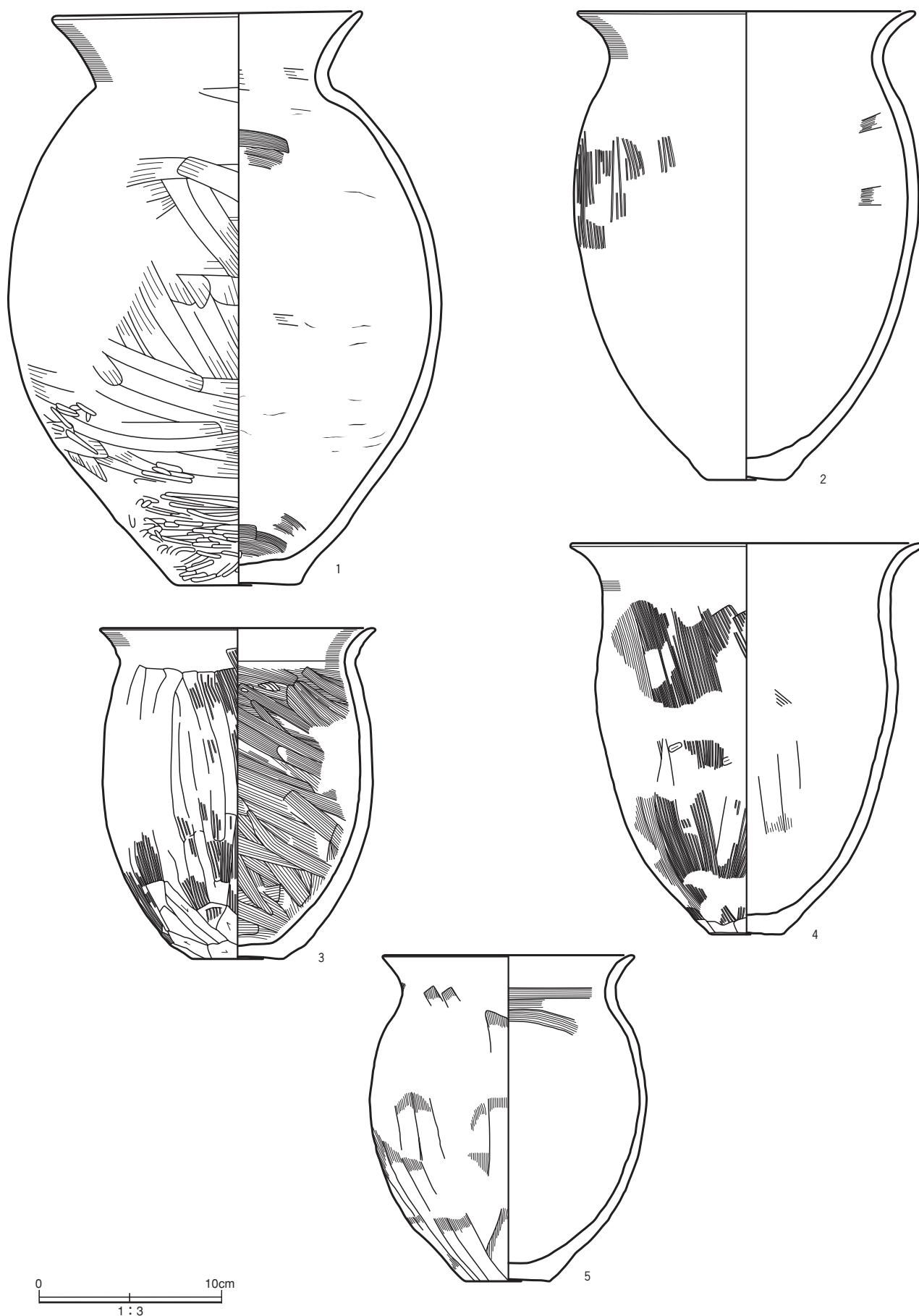


第140図 T 21 出土土師器(1)

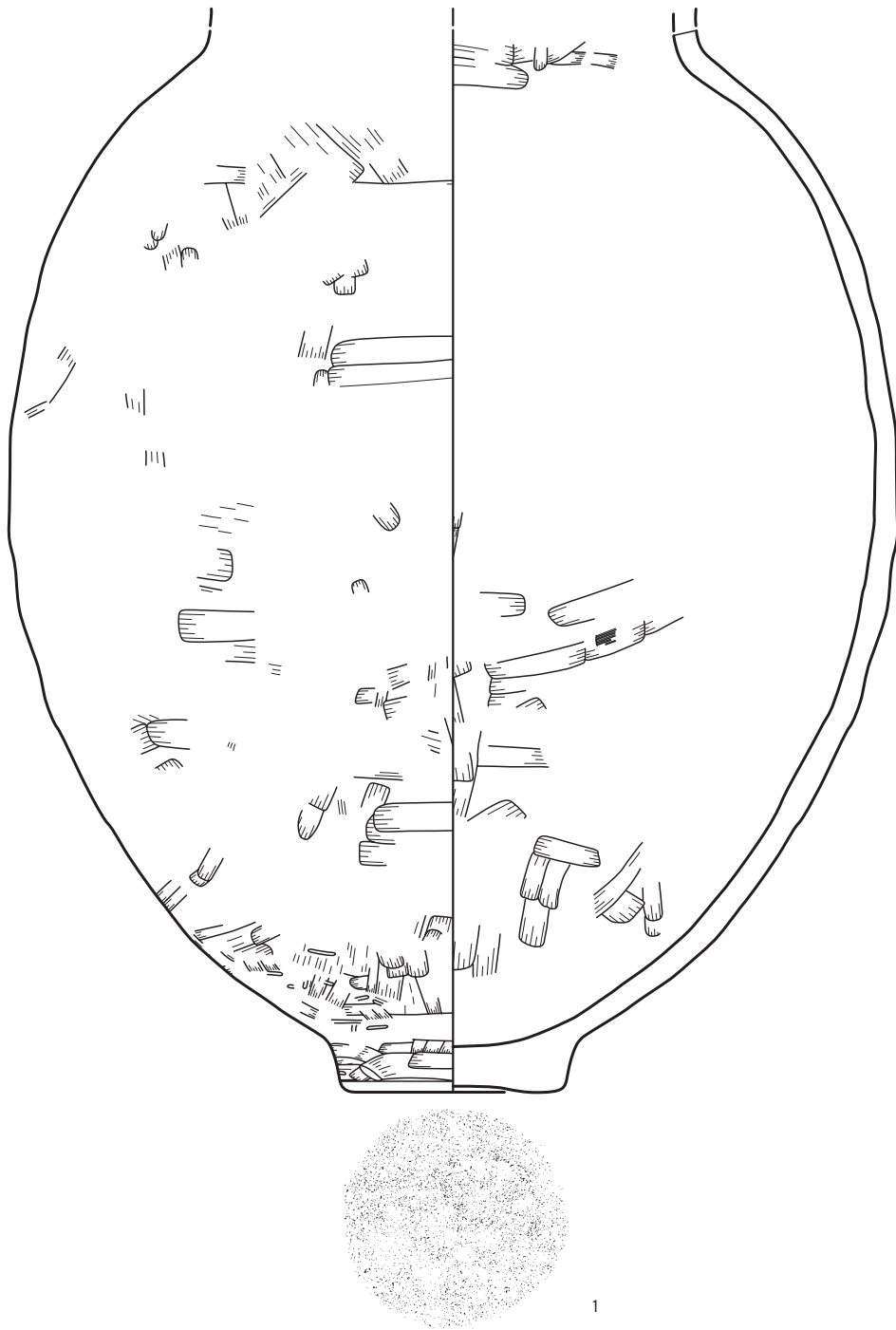


0 10cm
1:3

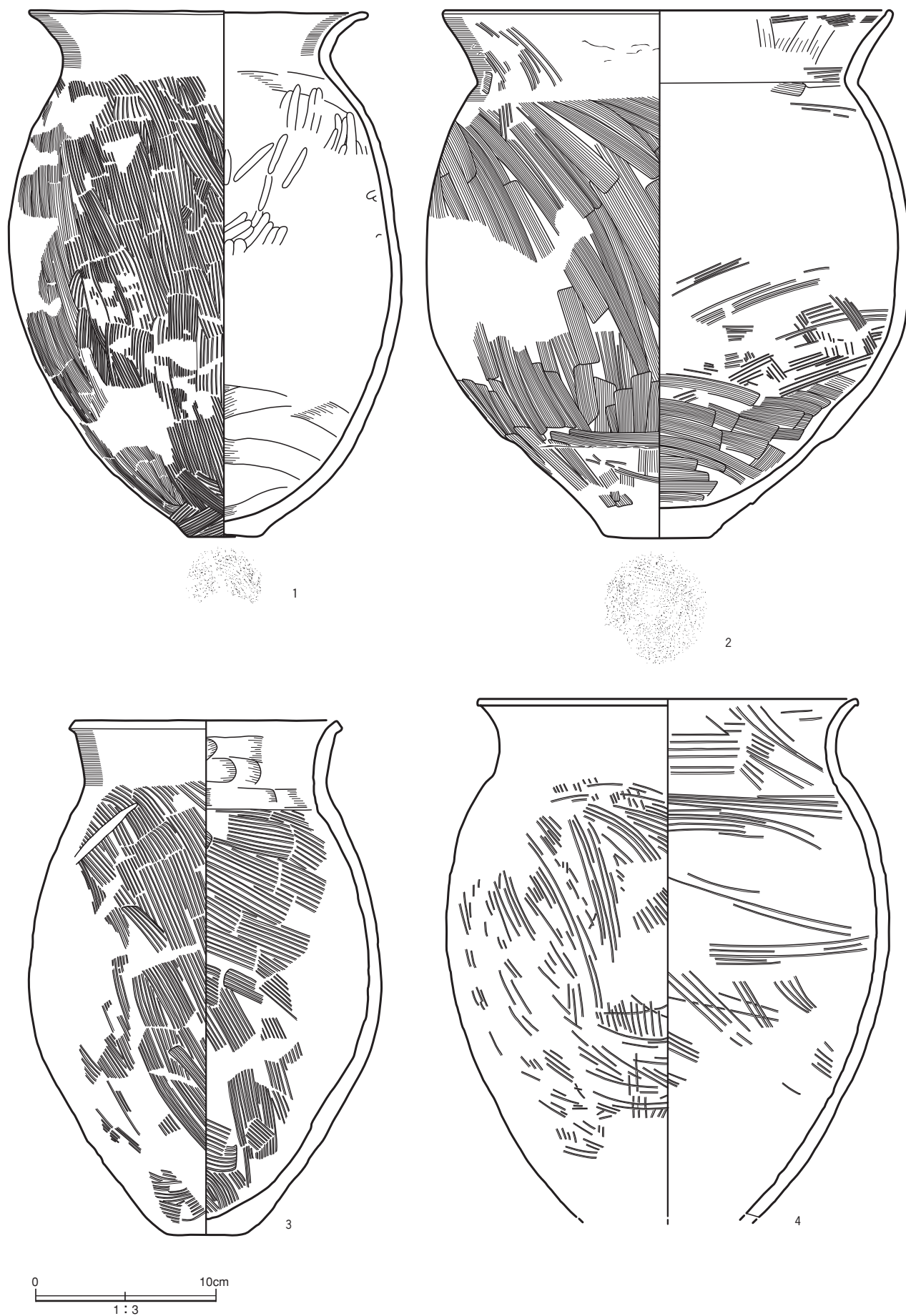
第141図 T 21 出土土師器(2)



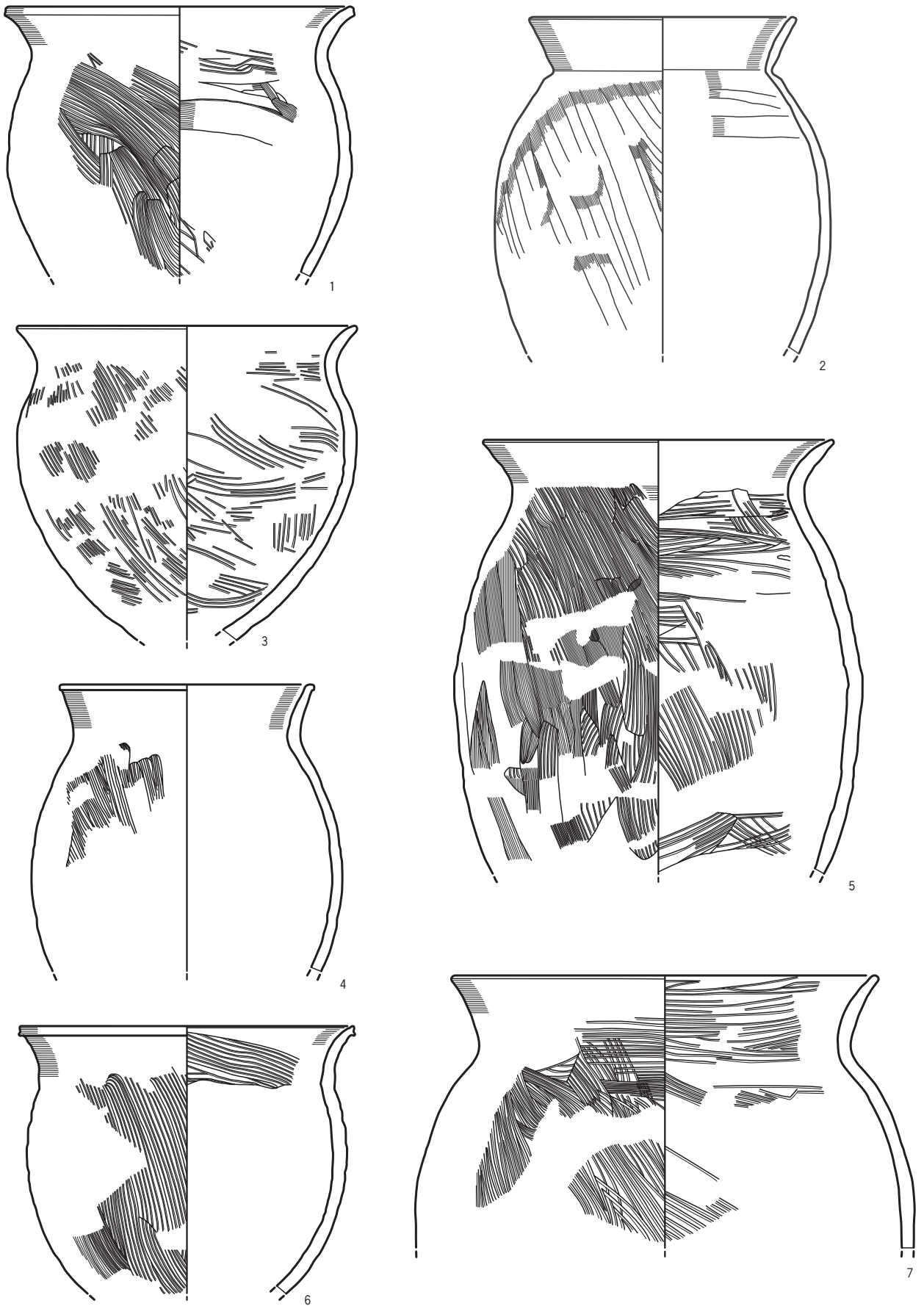
第142図 T 21 出土土師器(3)



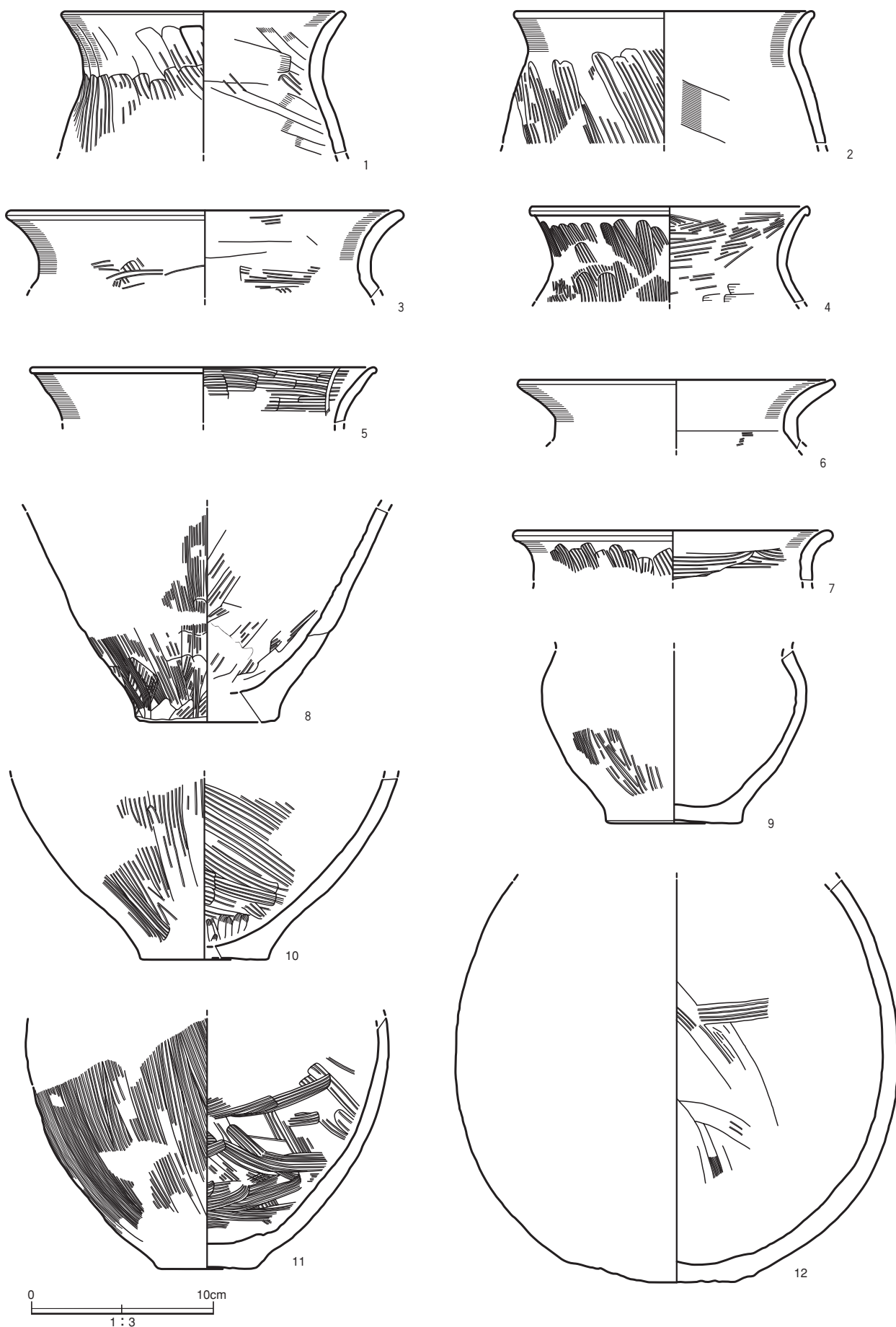
第 143 図 T 21 出土土師器 (4)



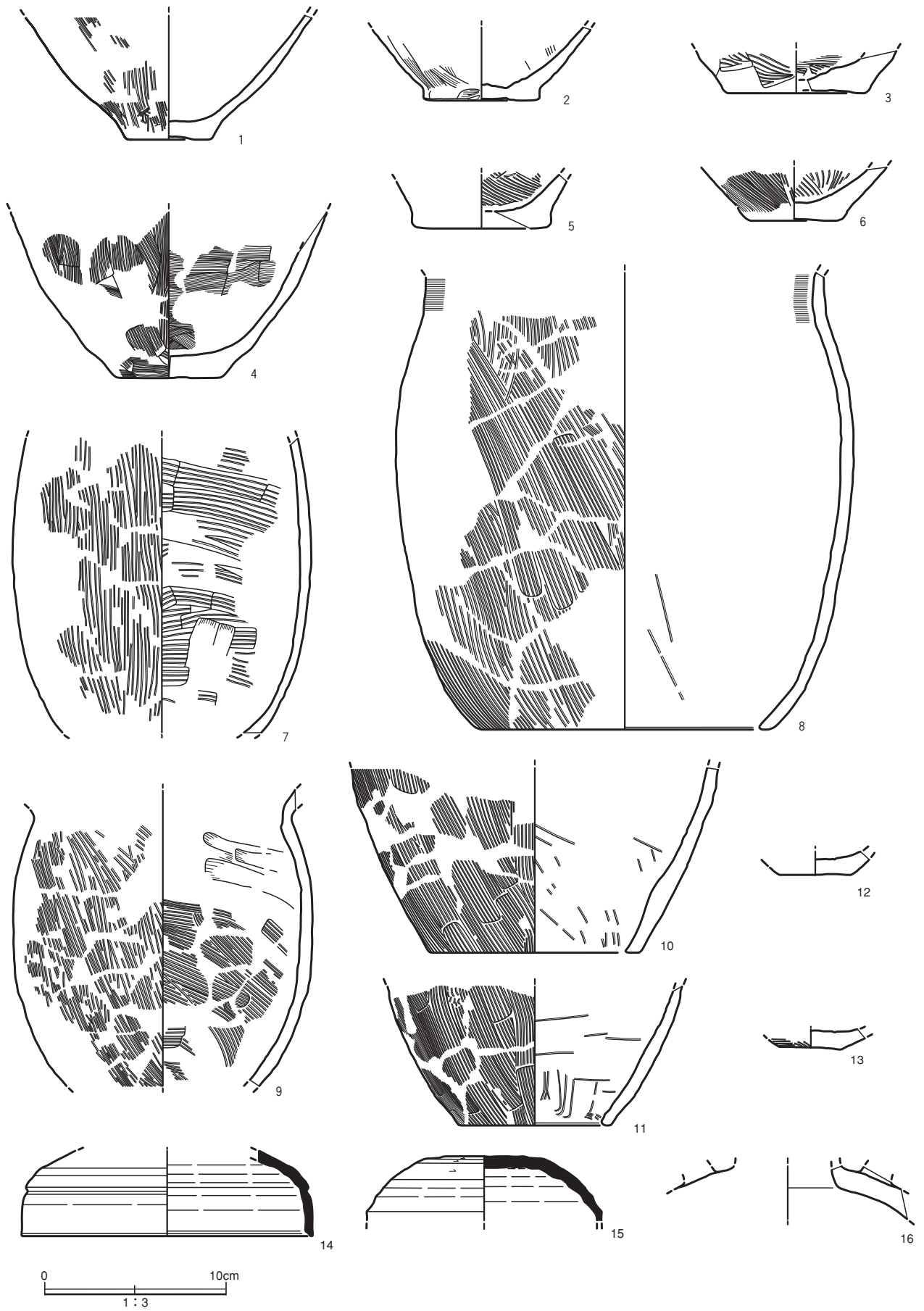
第144図 T 21 出土土師器 (5)



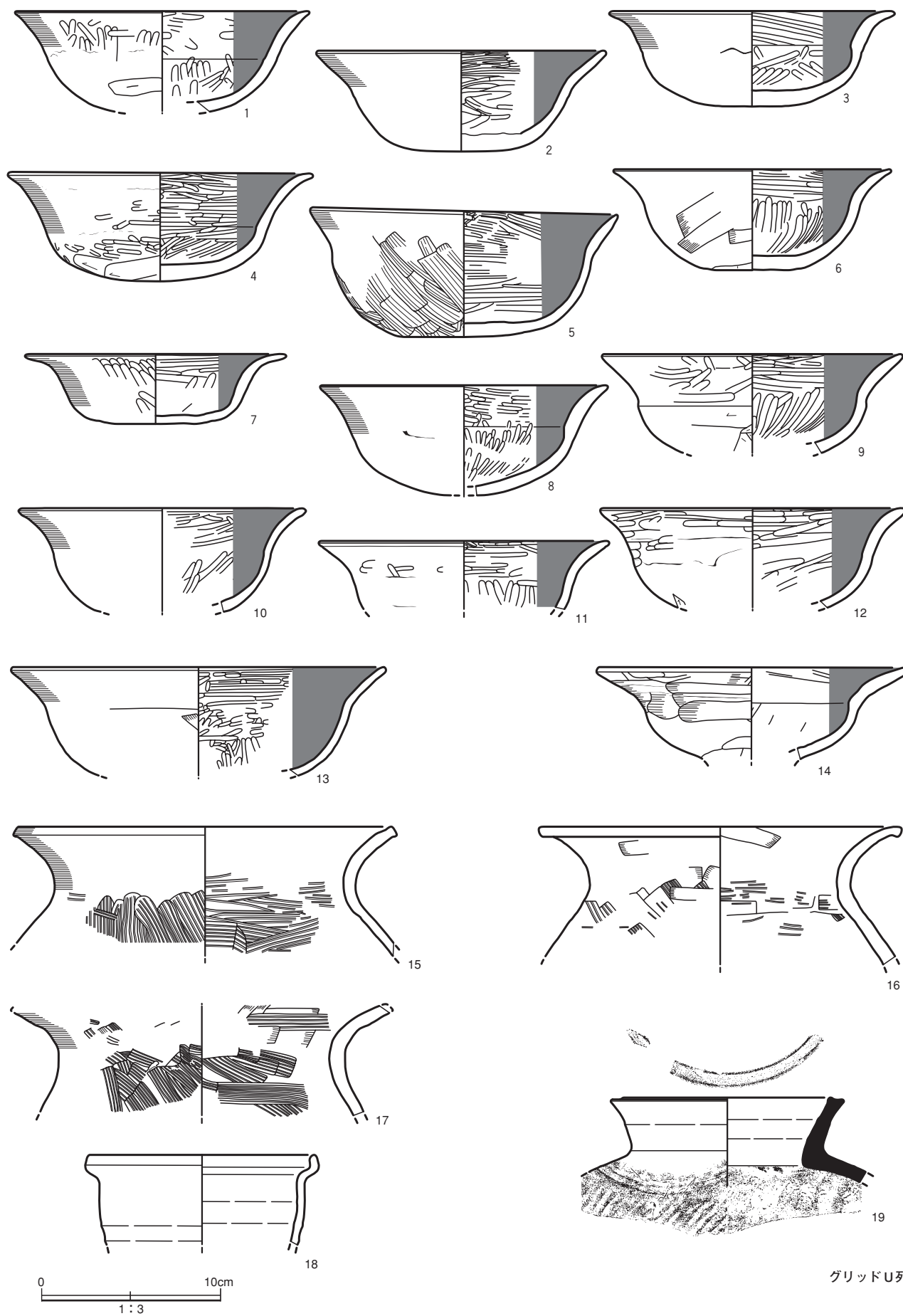
第 145 図 T 21 出土土師器 (6)



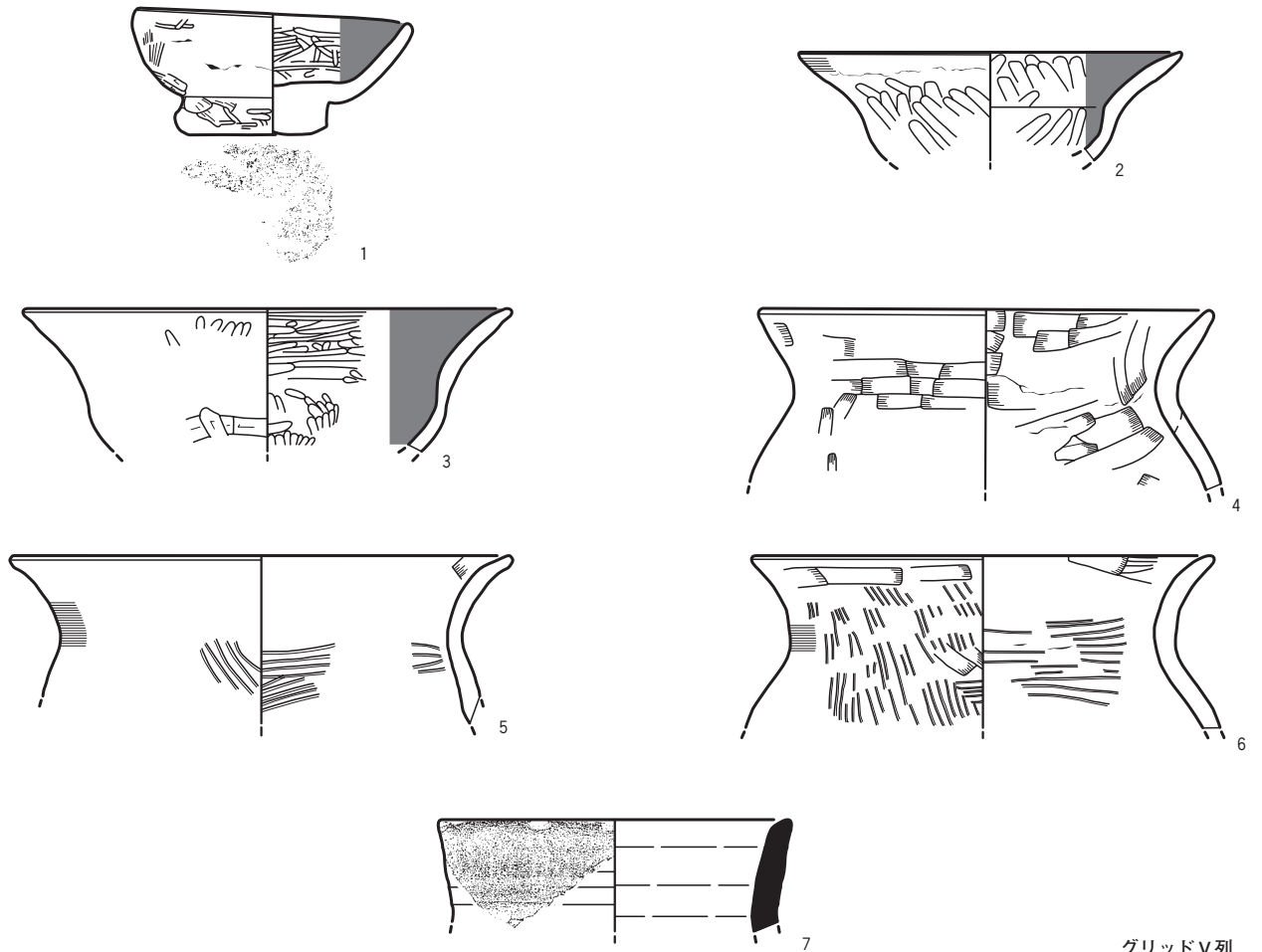
第146図 T 21 出土土師器(7)



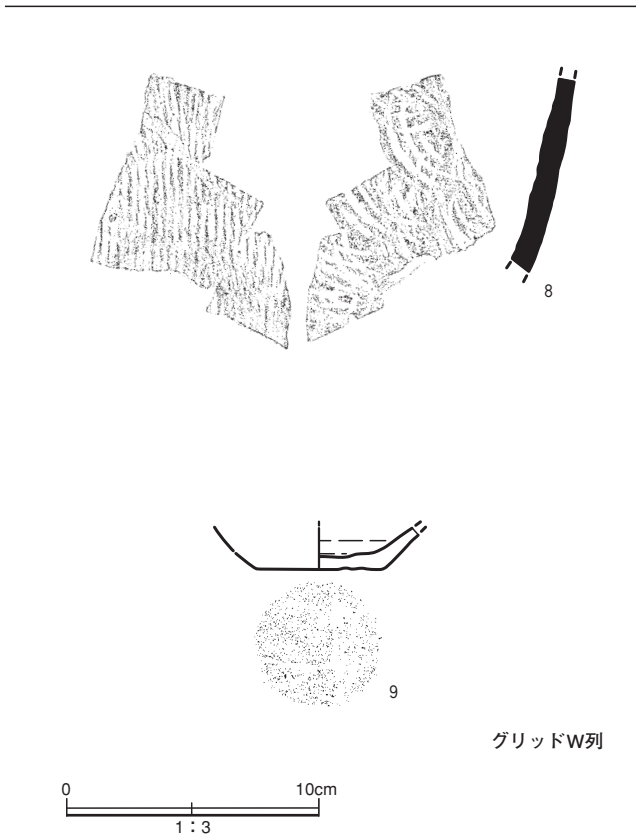
第147図 T 21 出土土師器・須恵器・陶器



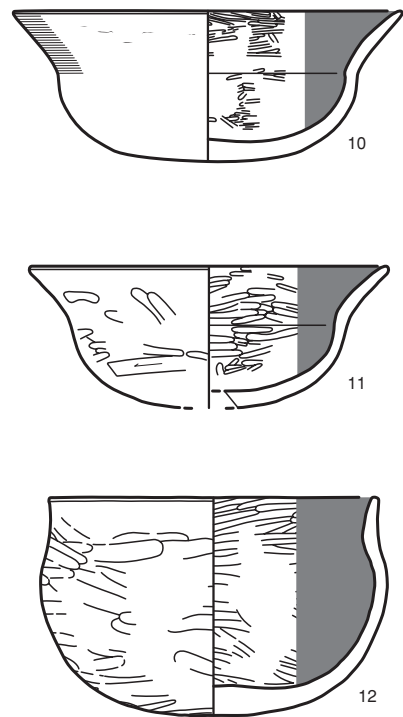
第148図 南西部遺構群グリッド出土土師器・須恵器(1)



グリッドV列

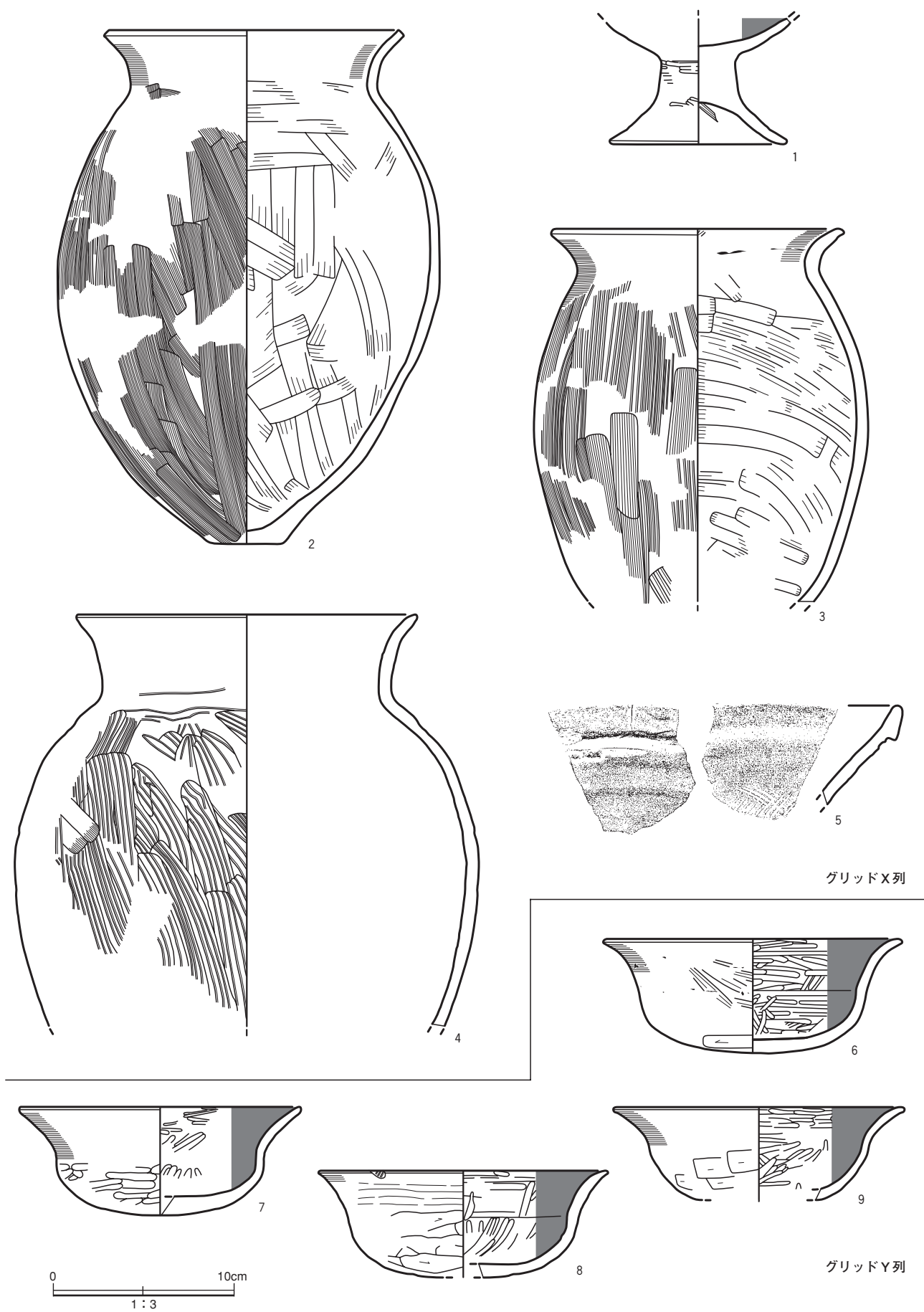


グリッドW列



グリッドX列

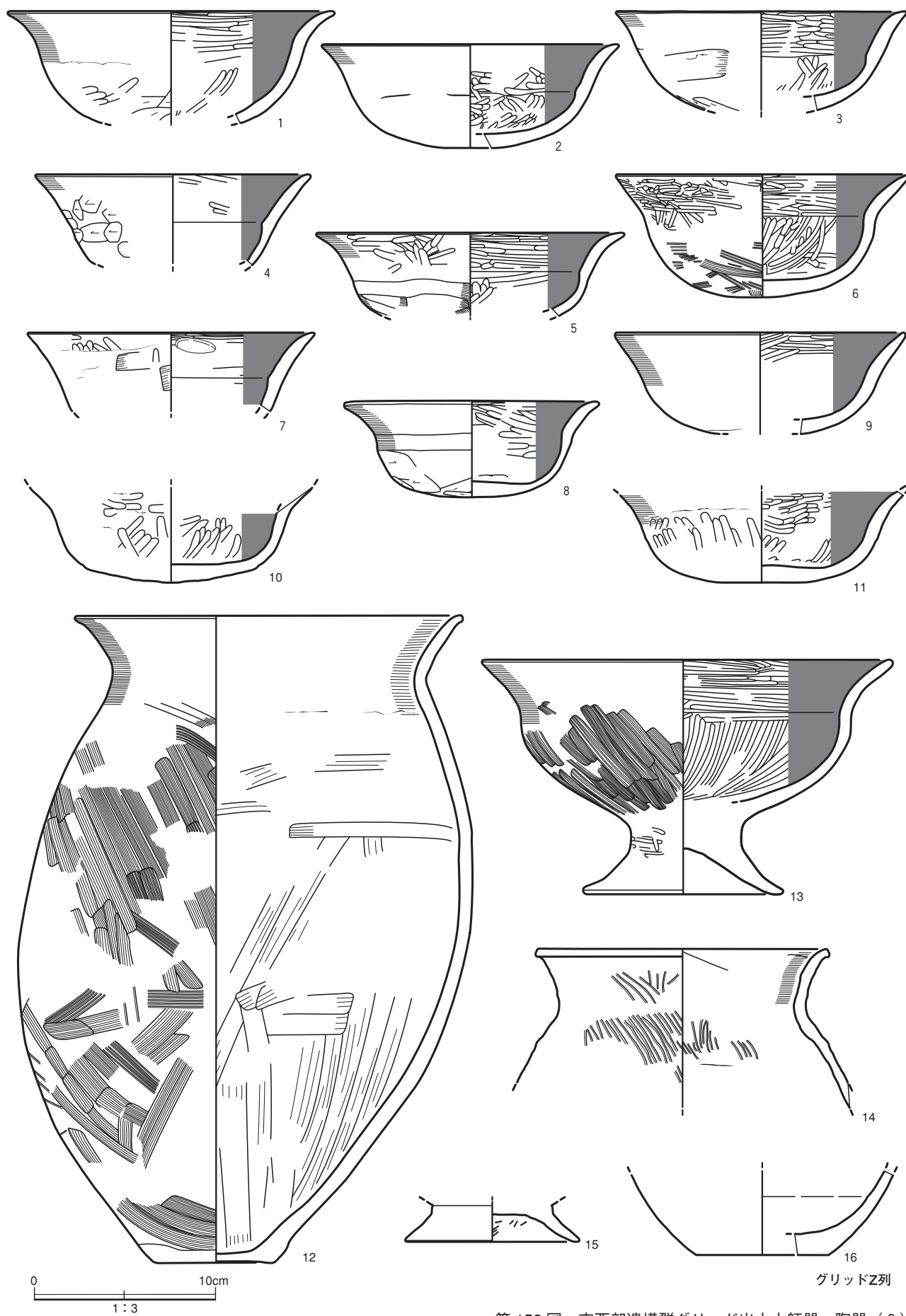
第149図 南西部遺構群グリッド出土土師器・須恵器(2)



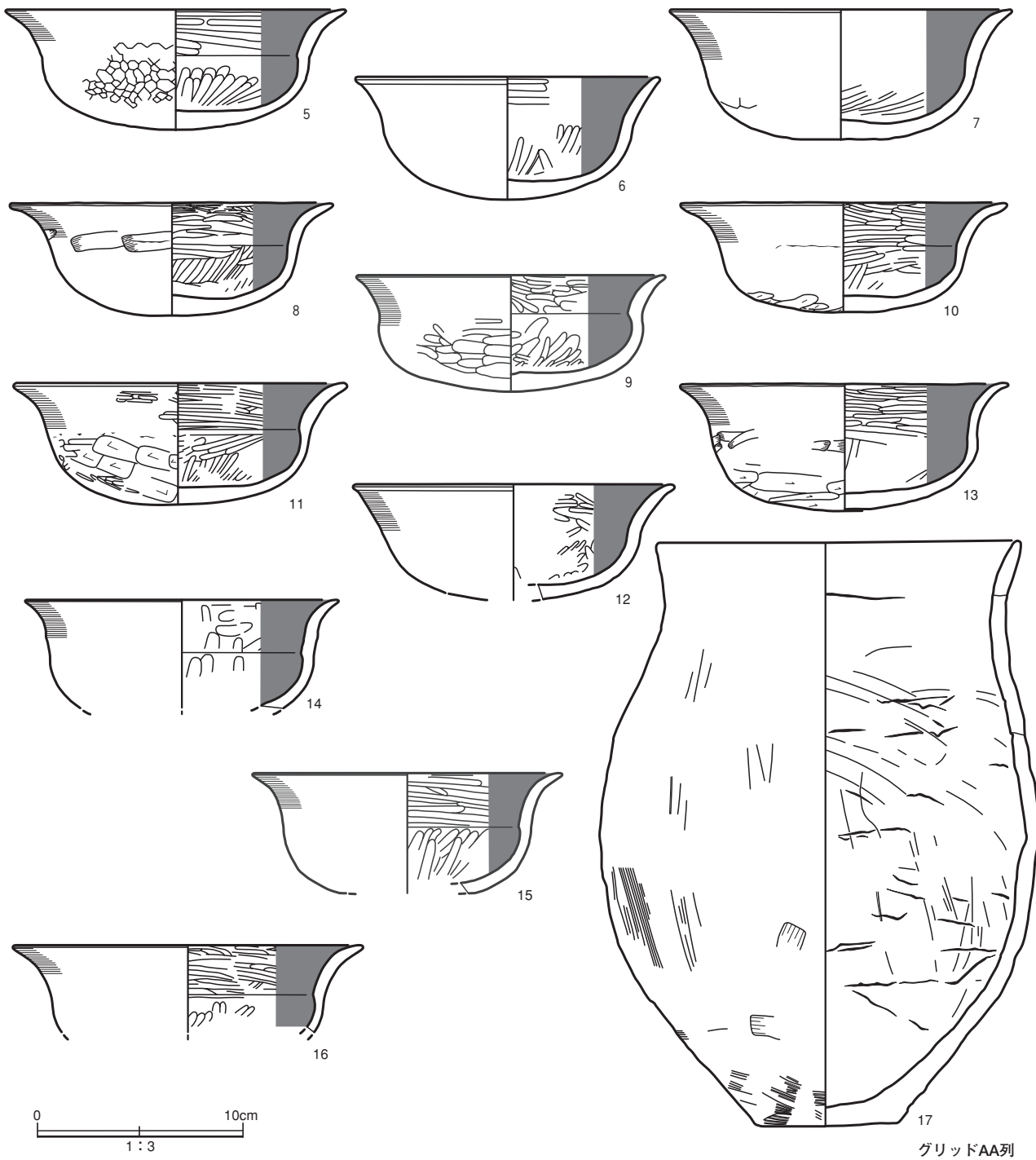
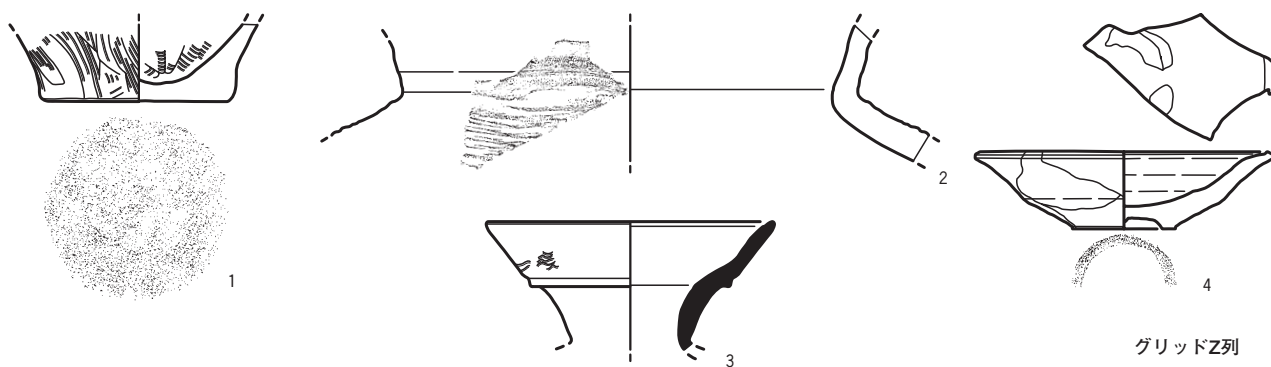
第150図 南西部遺構群グリッド出土土師器・陶器(1)



第 151 図 南西部遺構群グリッド出土土師器

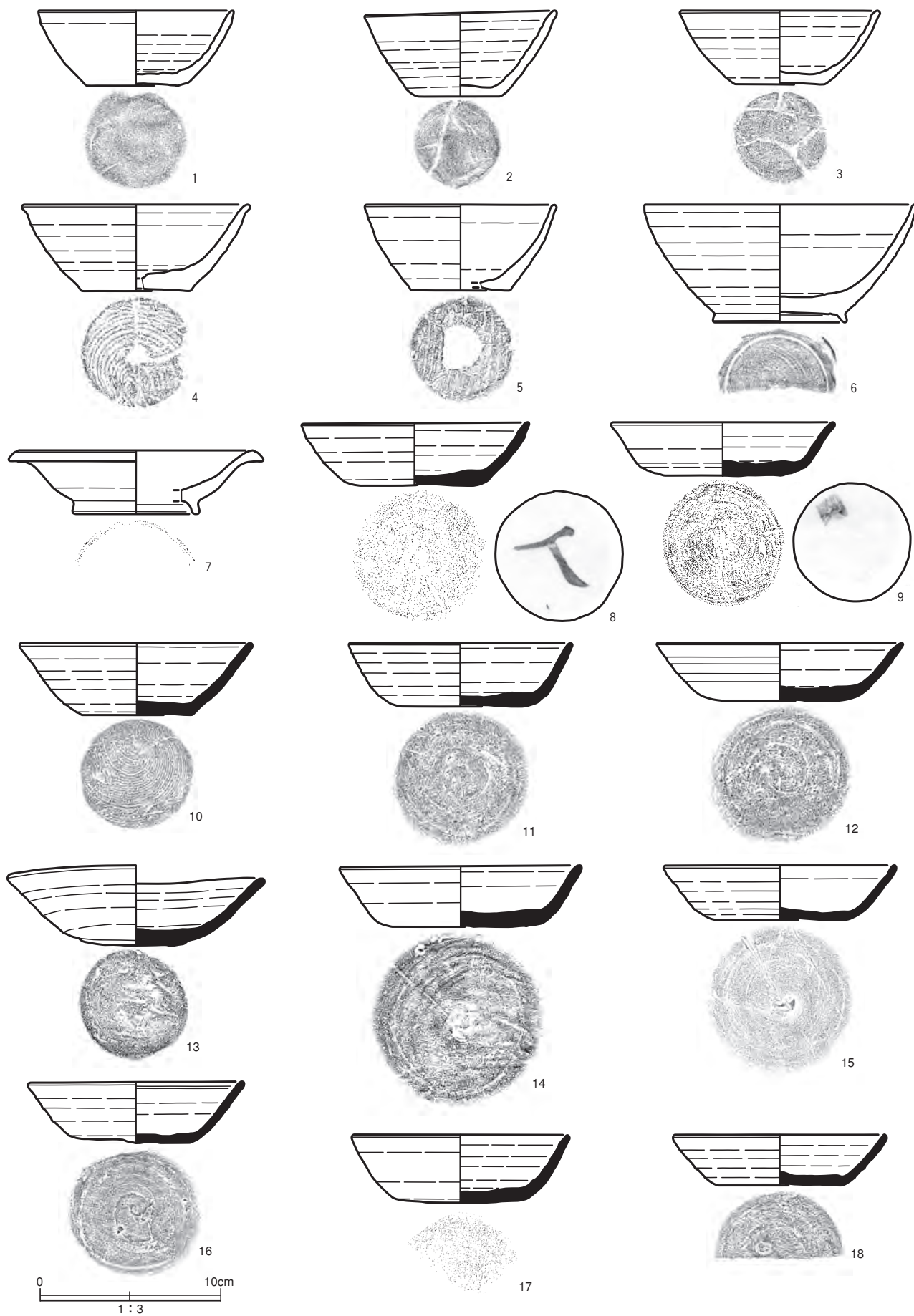


第152図 南西部遺構群グリッド出土土師器・陶器（2）

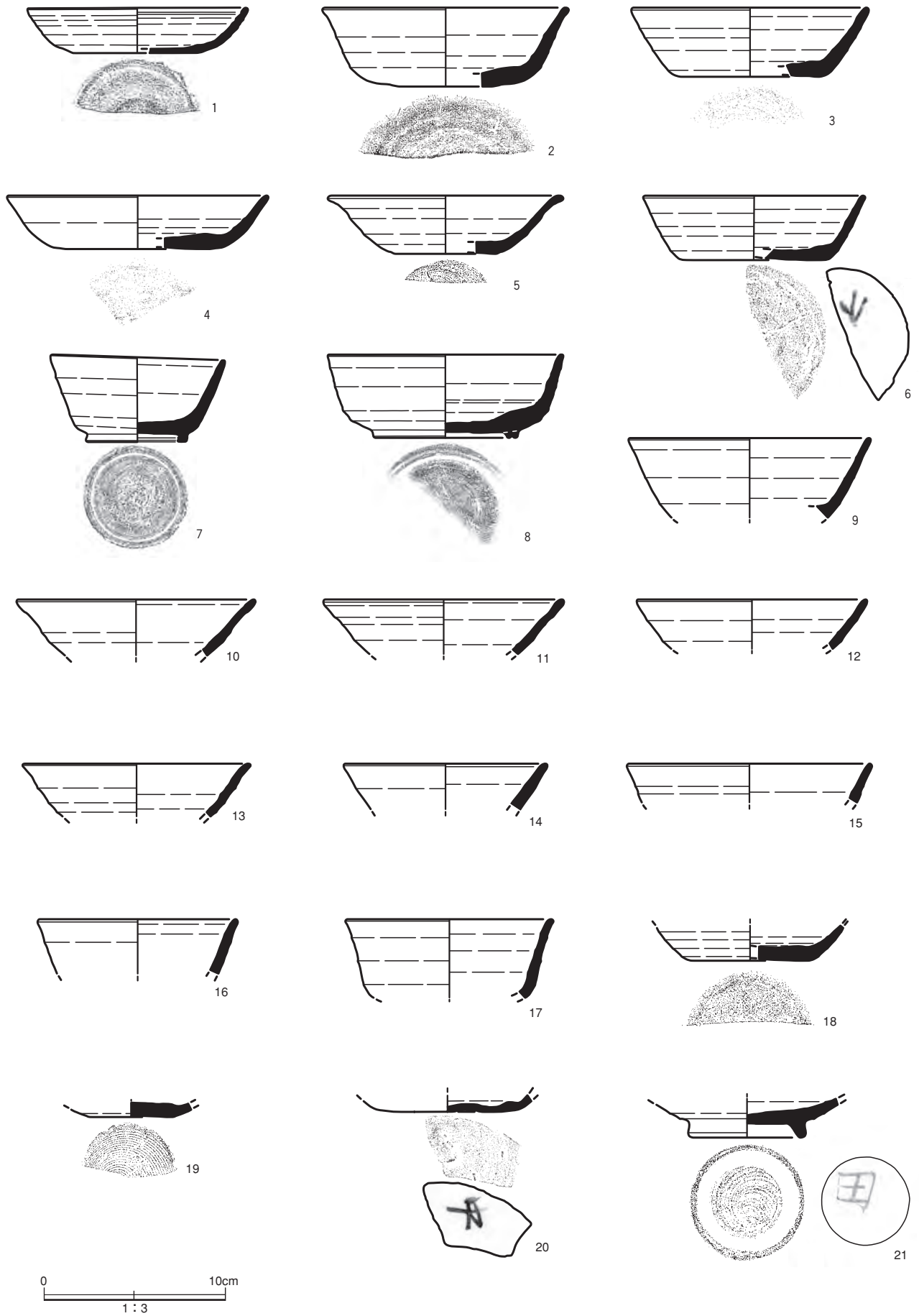


0 10cm
1:3

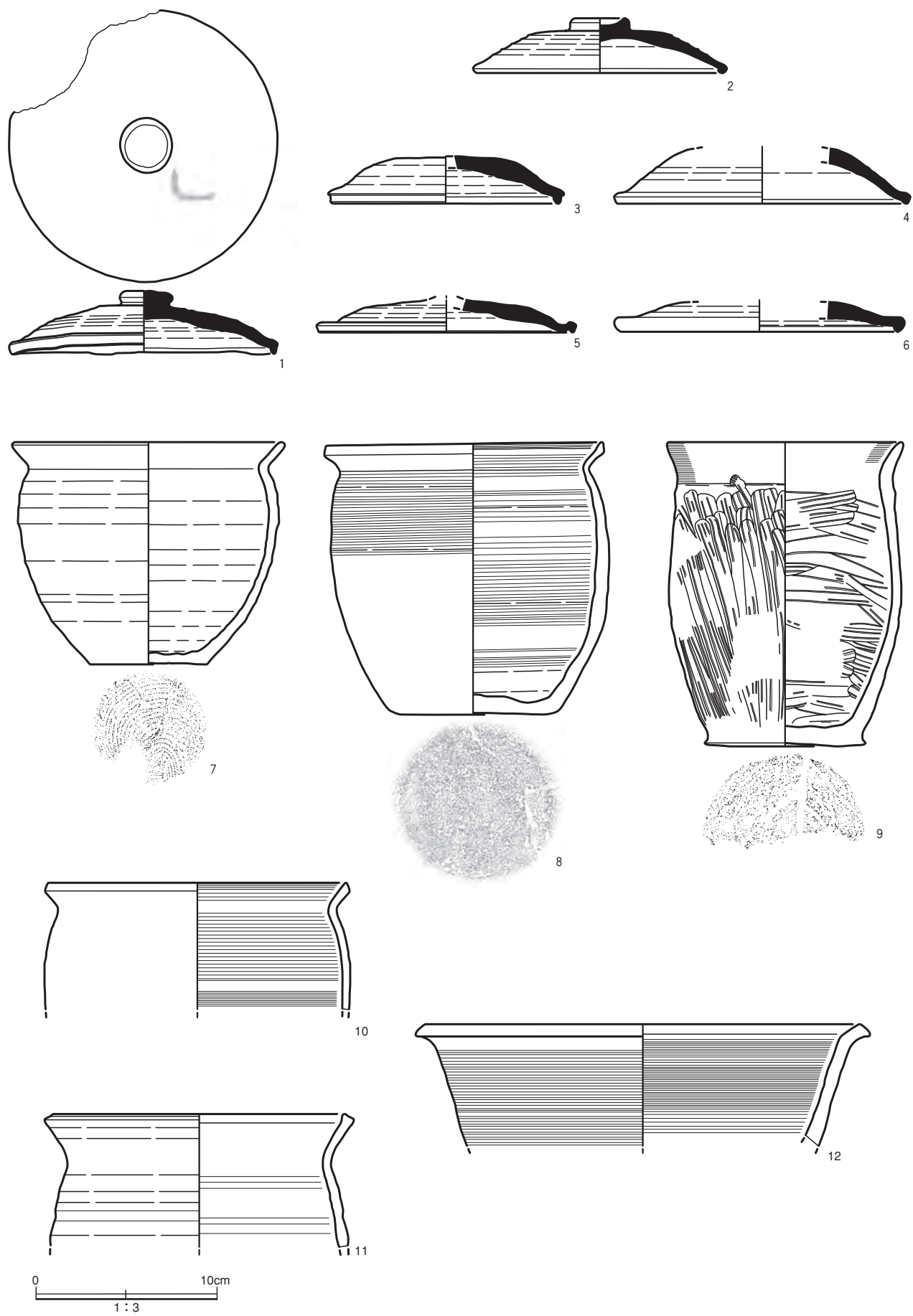
第153図 南西部遺構群グリッド出土土師器・須恵器・陶器



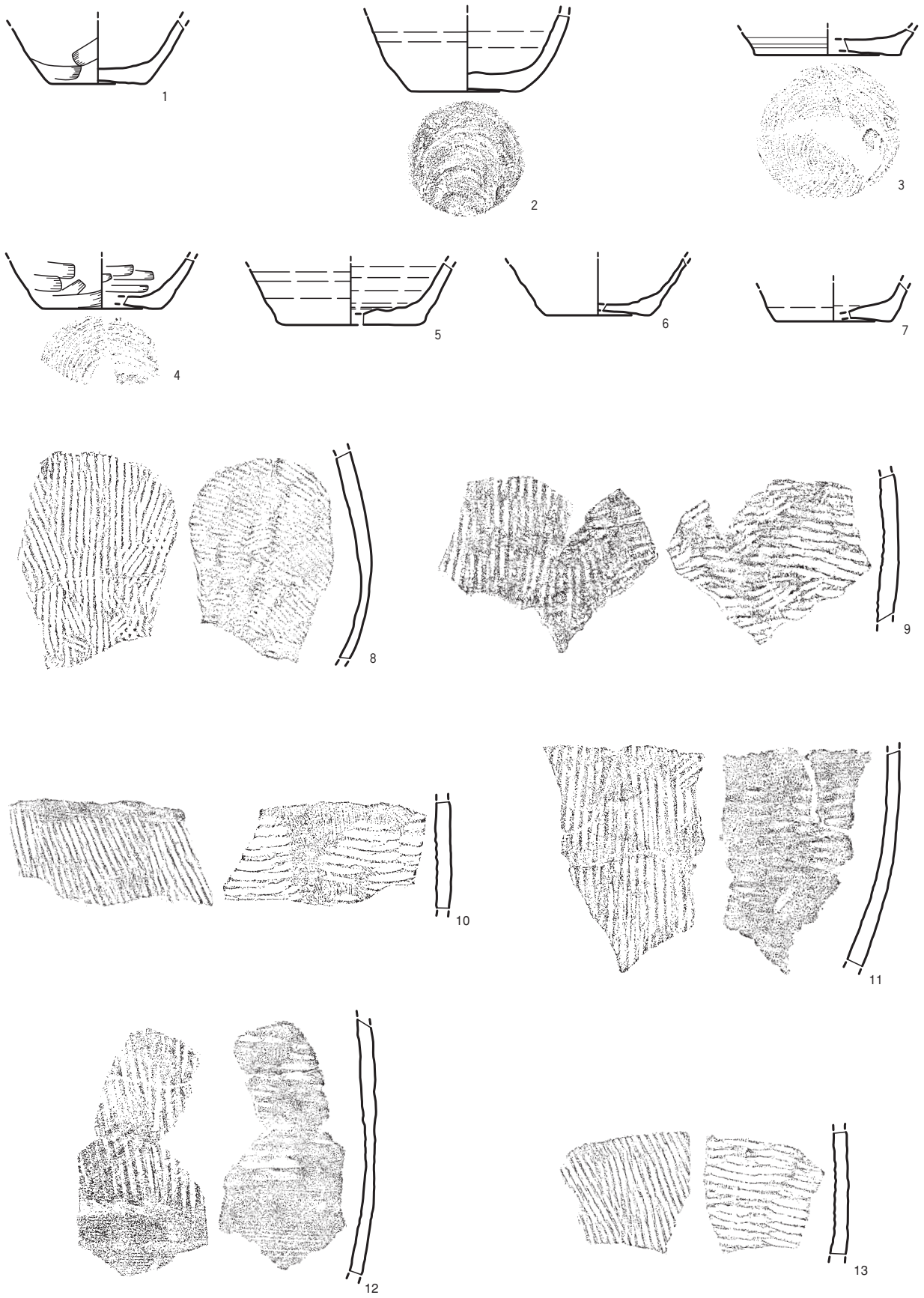
第154図 SG 771 出土土師器・須恵器 (1)



第 155 図 SG 771 出土須恵器 (1)

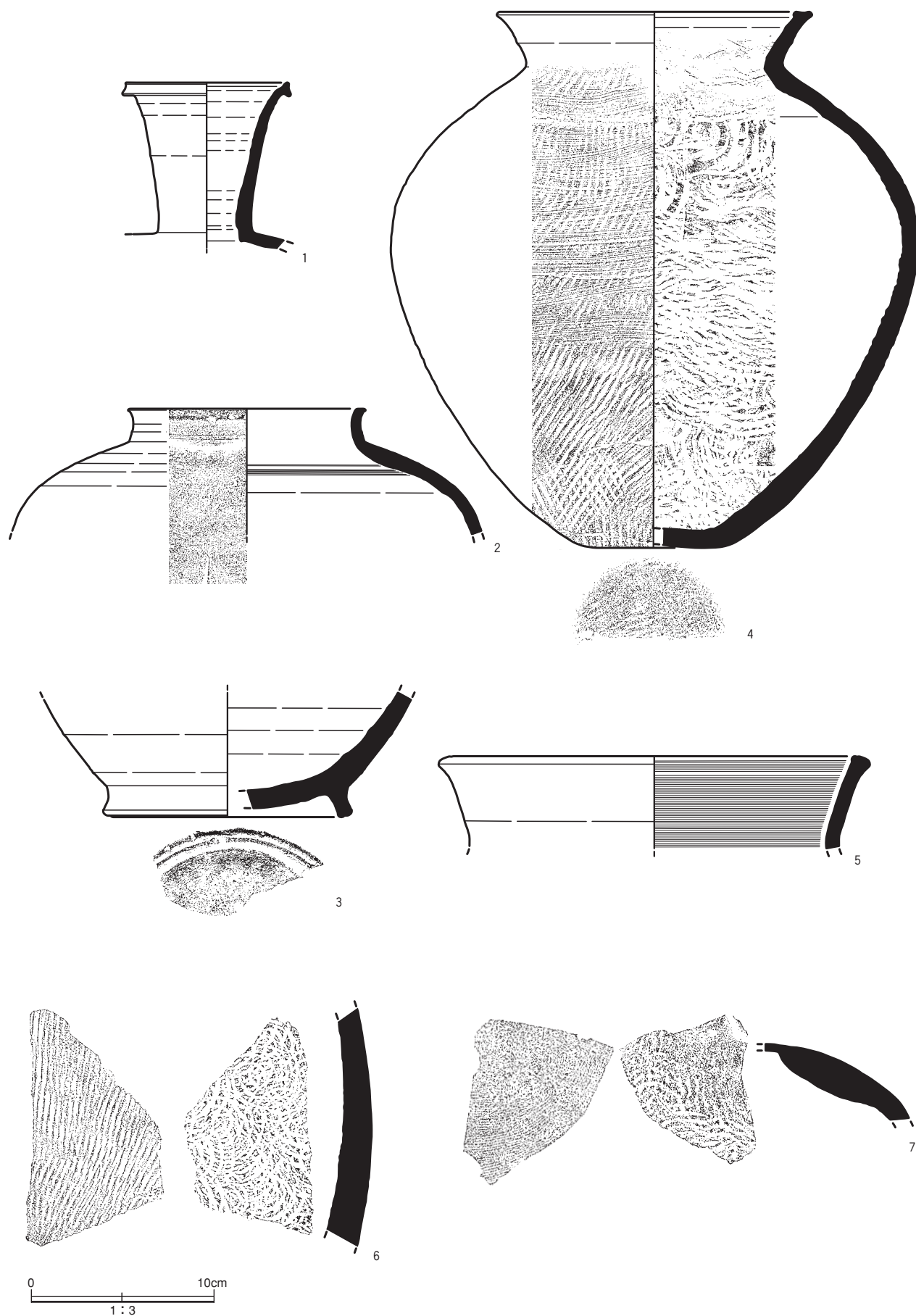


第156図 S G 771 出土土師器・須恵器（2）

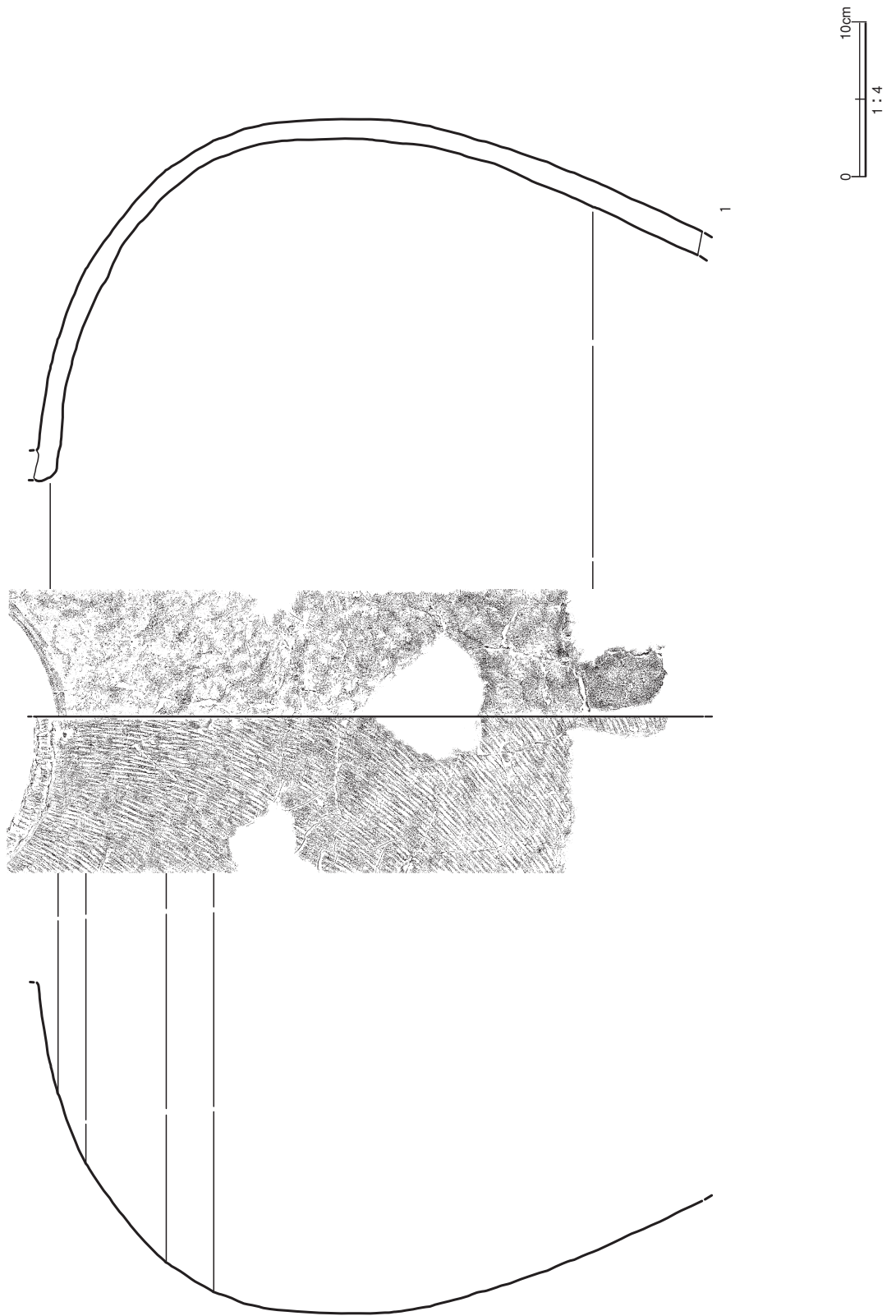


0 10cm
1:3

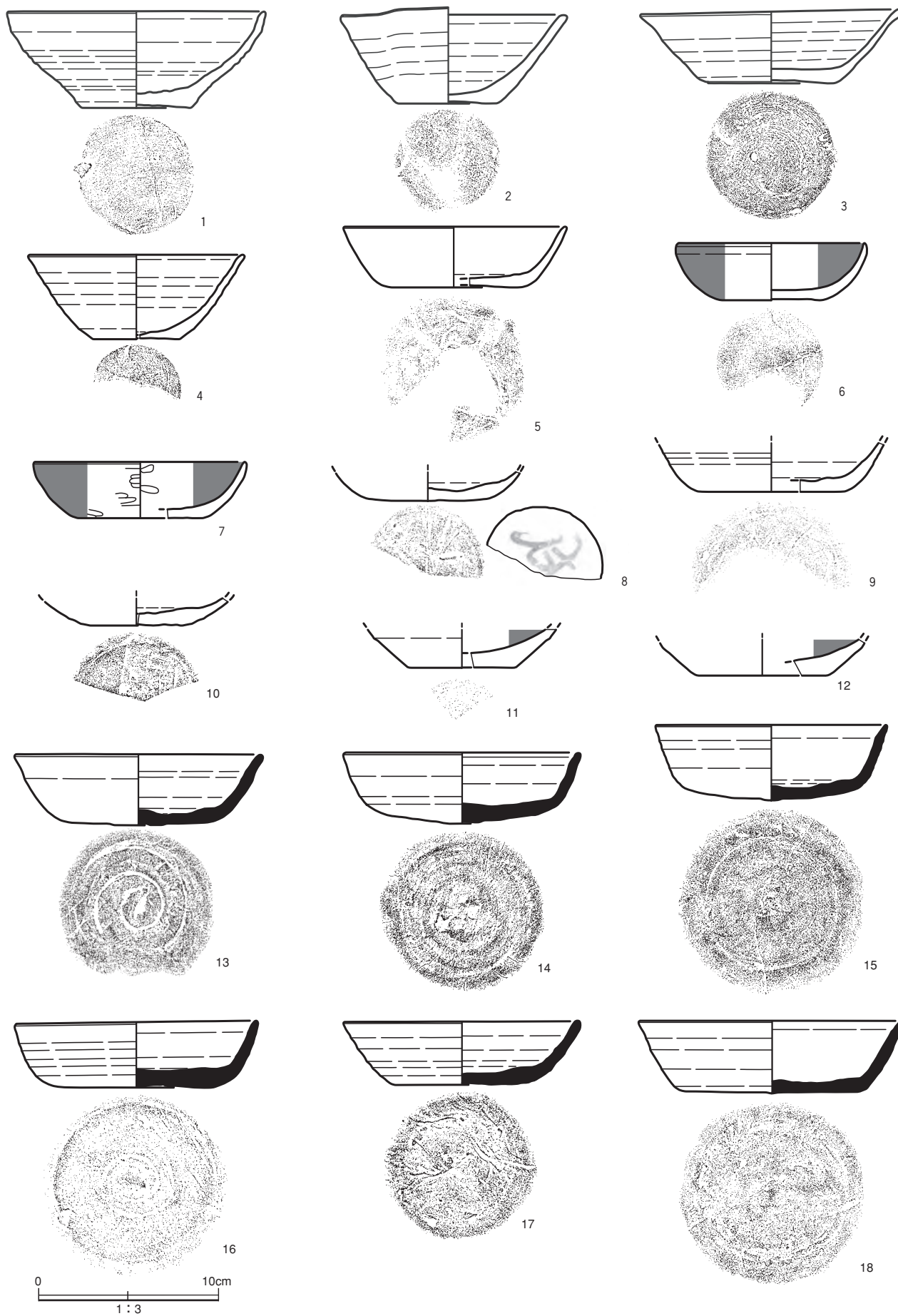
第157図 SG 771 出土土師器



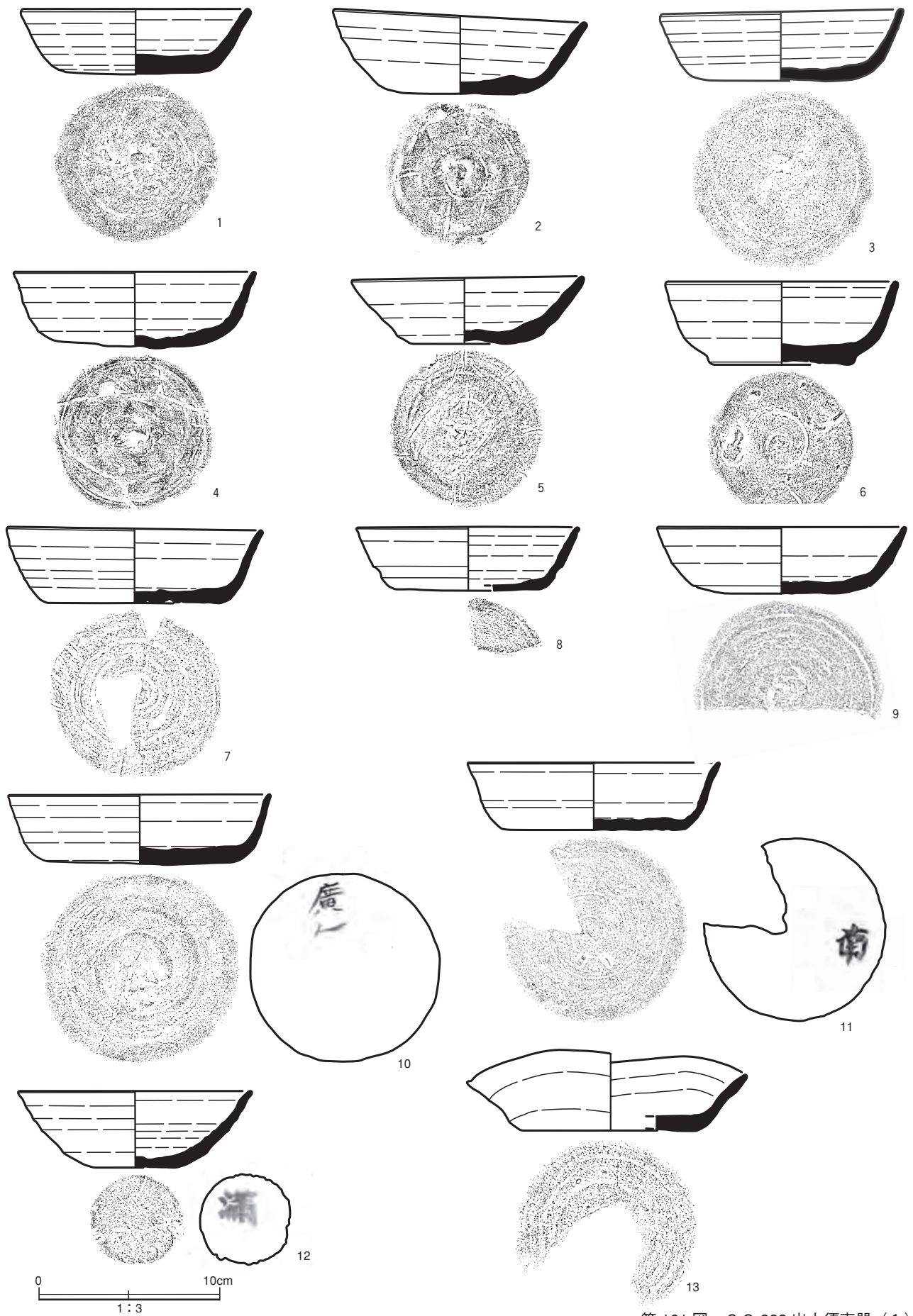
第158図 SG 771 出土須恵器(2)



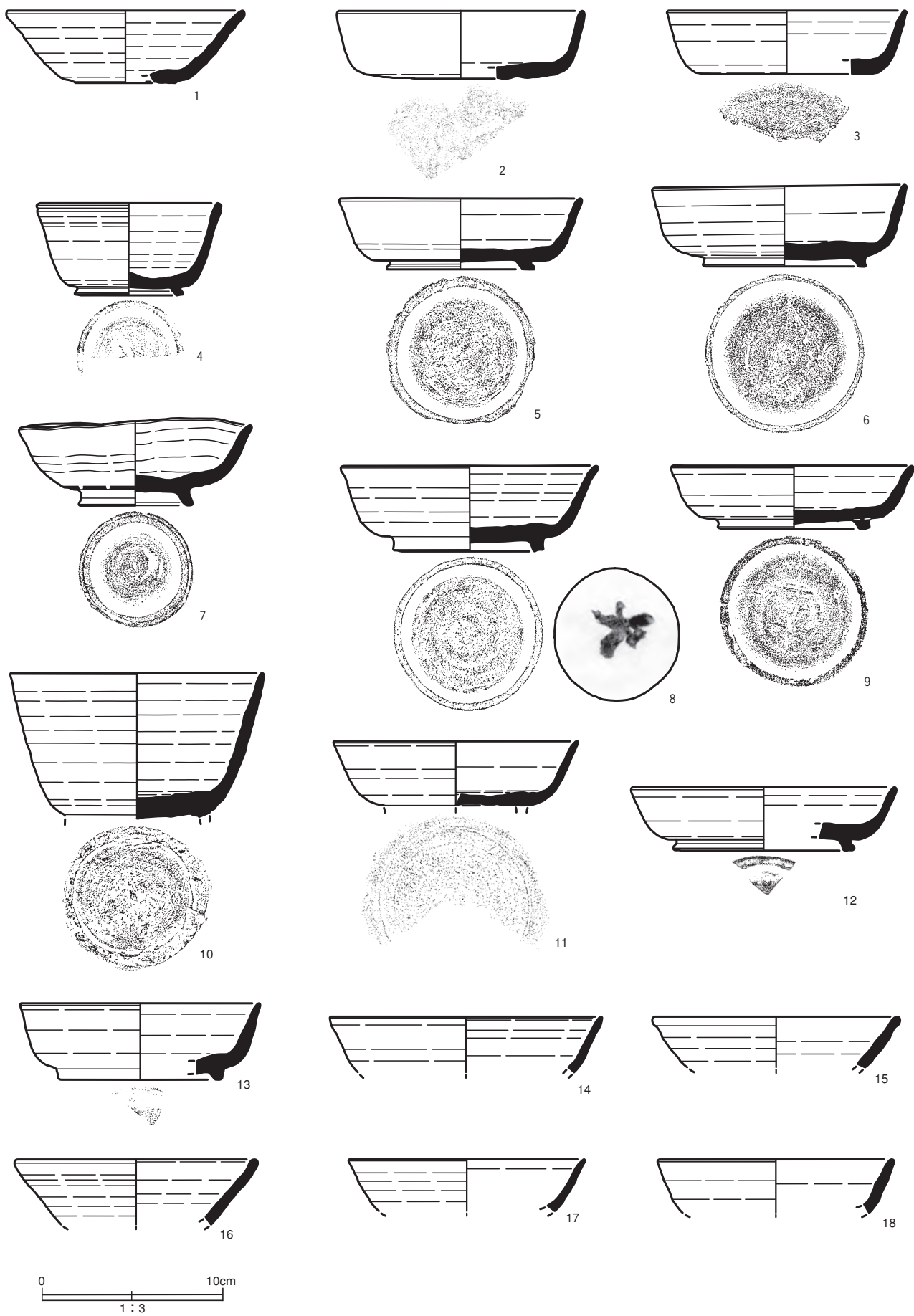
第 159 図 S G 771 出土陶器



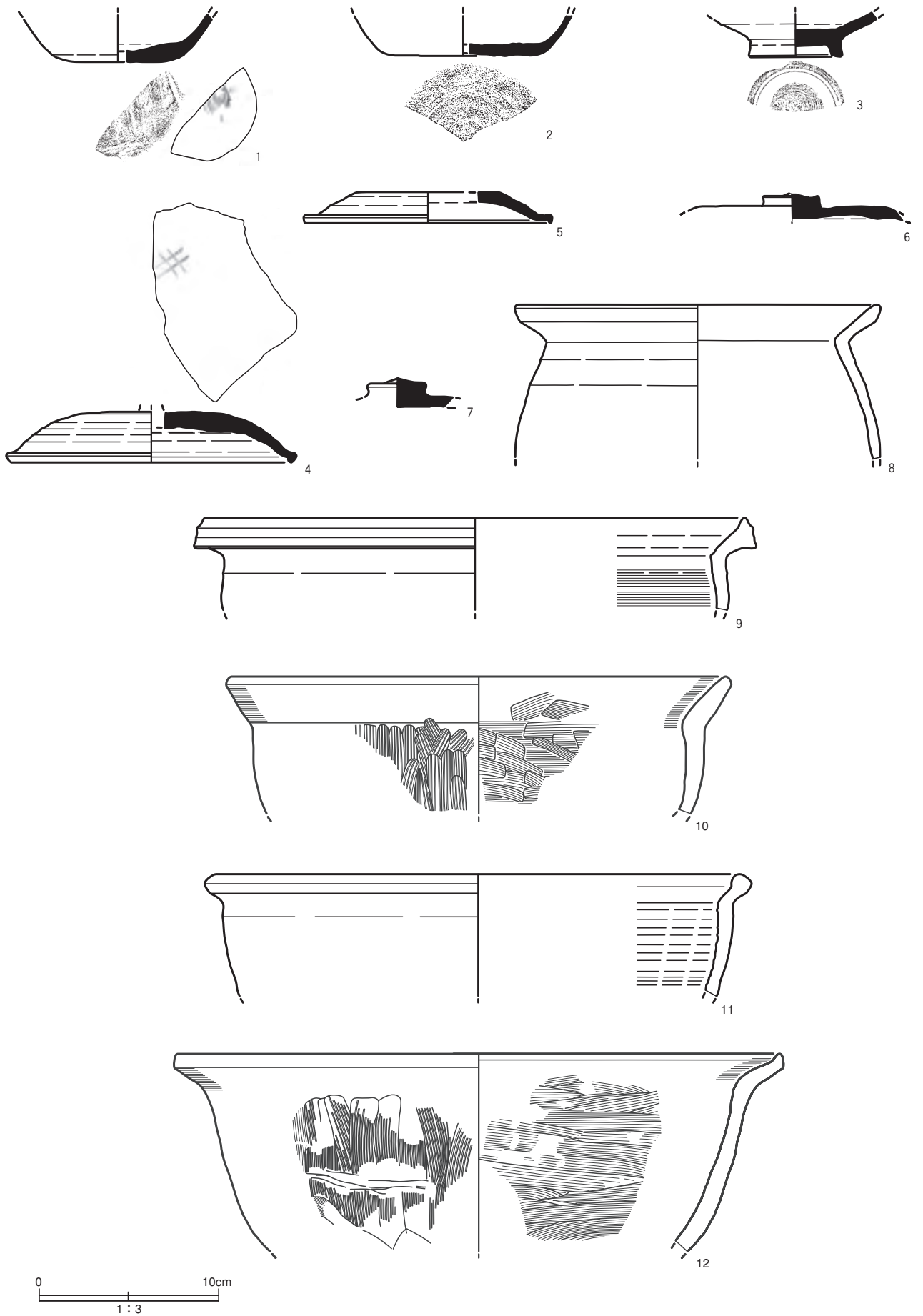
第160図 S G 883 出土土師器・須恵器 (1)



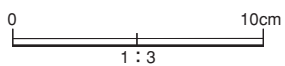
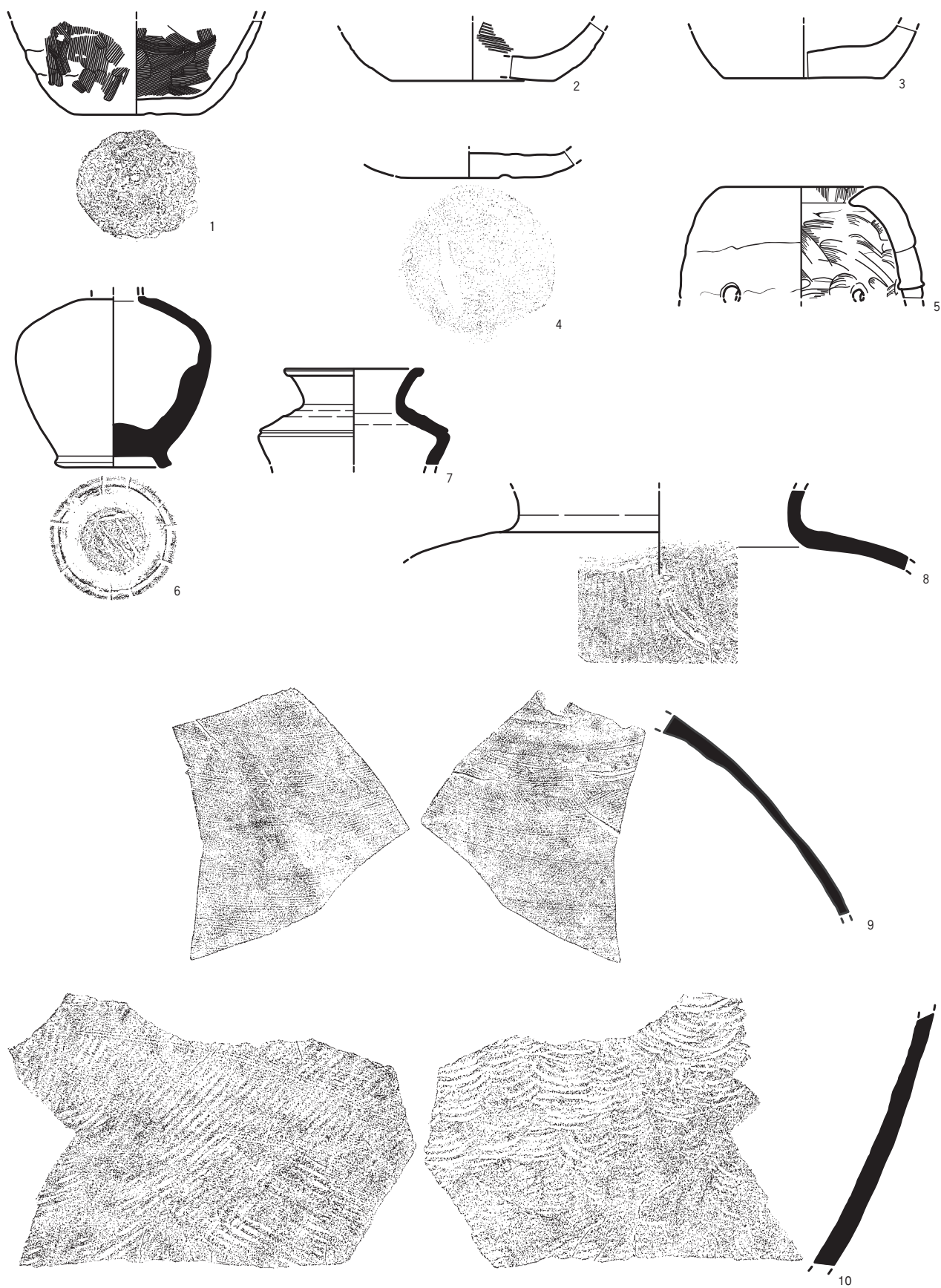
第 161 図 S G 883 出土須恵器 (1)



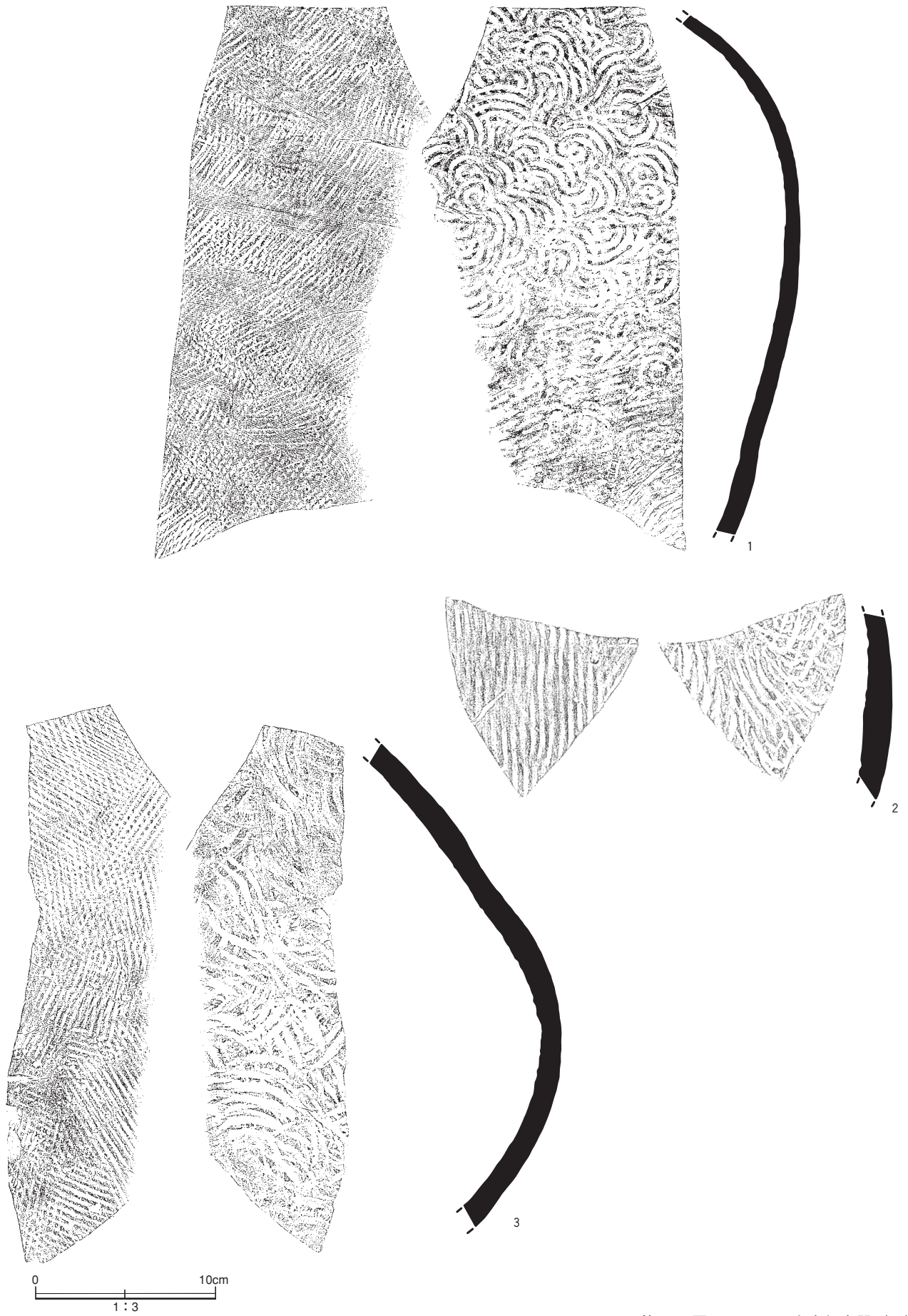
第 162 図 S G 883 出土須恵器 (2)



第 163 図 S G 883 出土土師器・須恵器 (2)



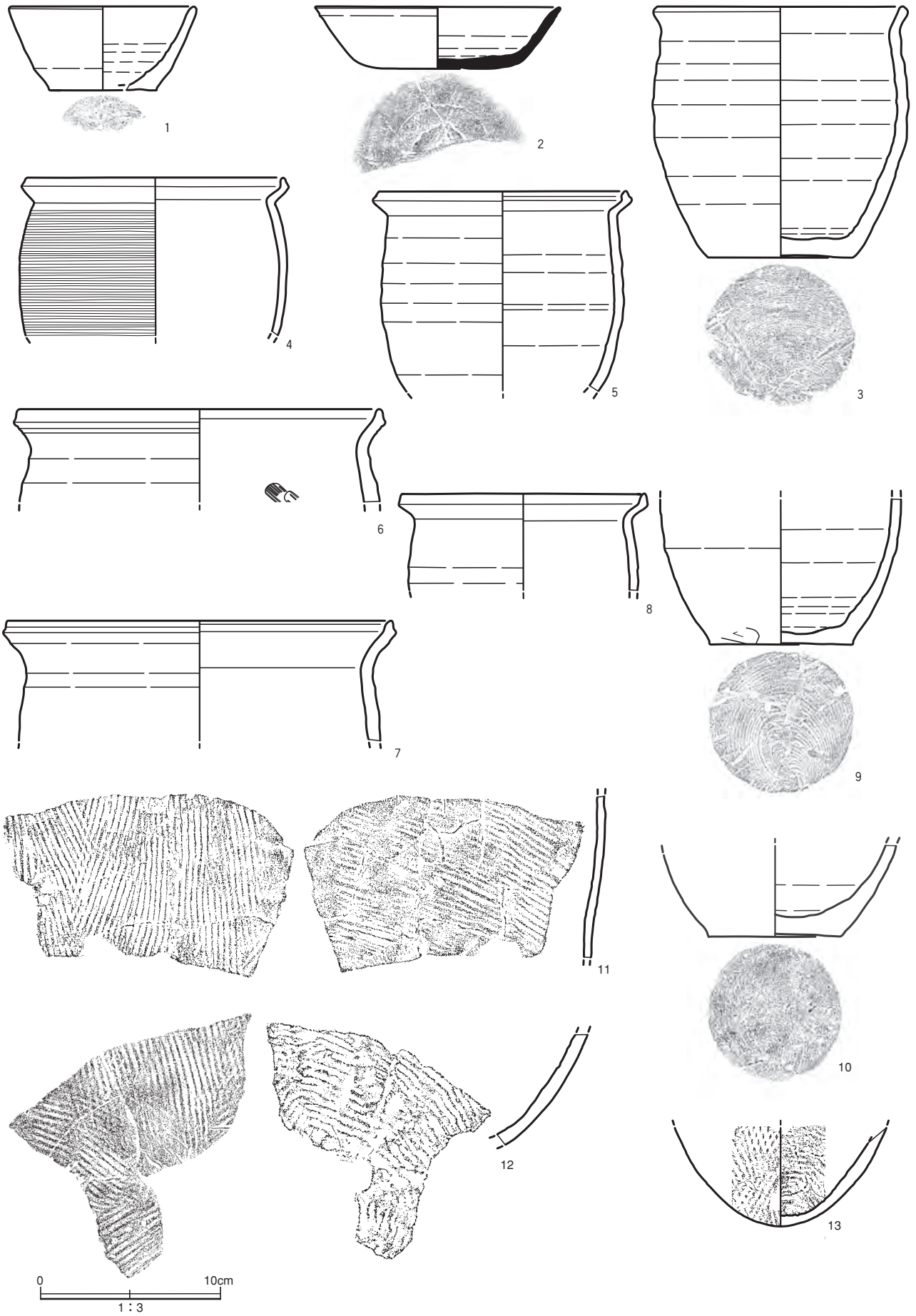
第164図 S G 883 出土土師器・須恵器(3)



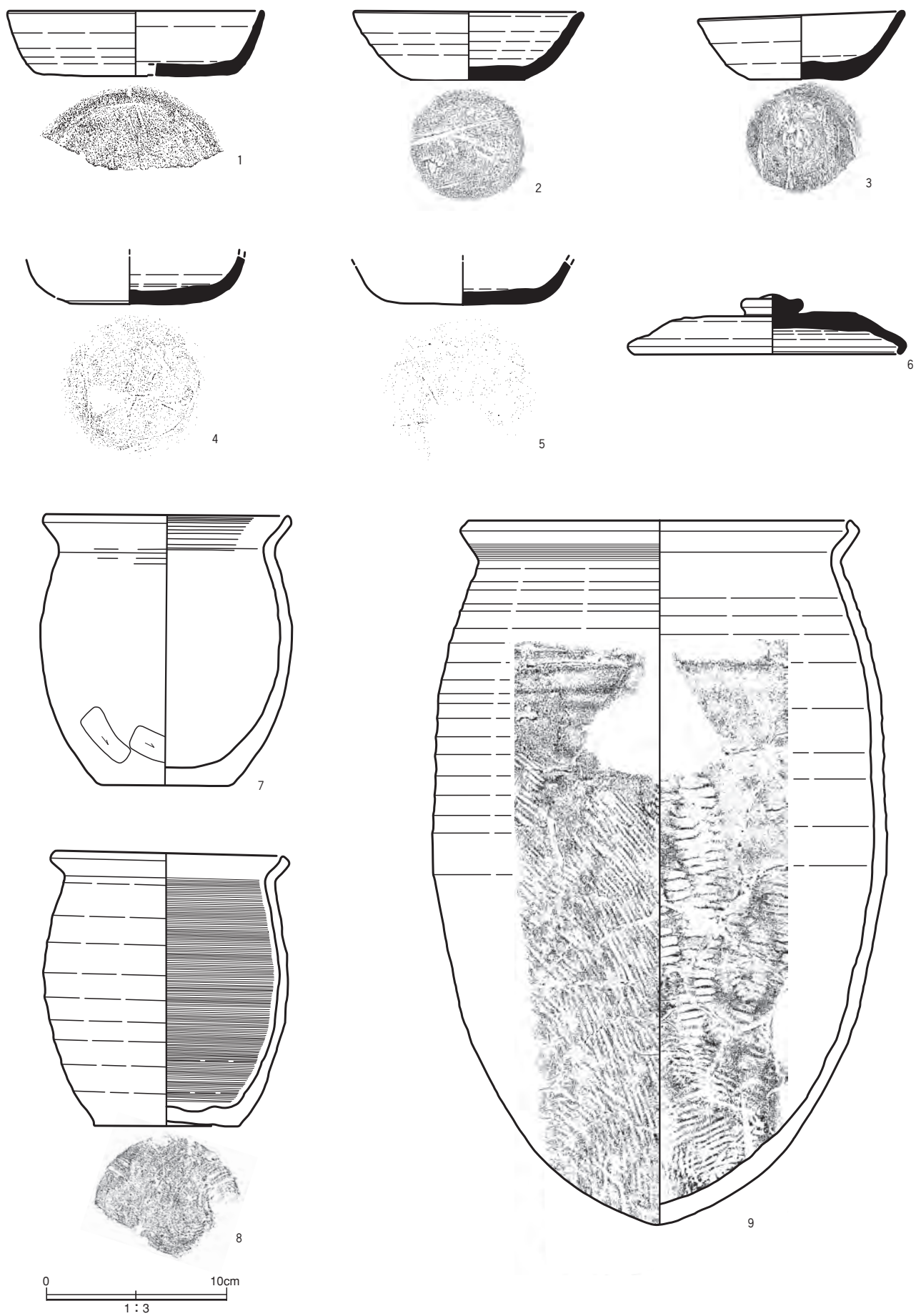
第 165 図 S G 883 出土須恵器 (3)



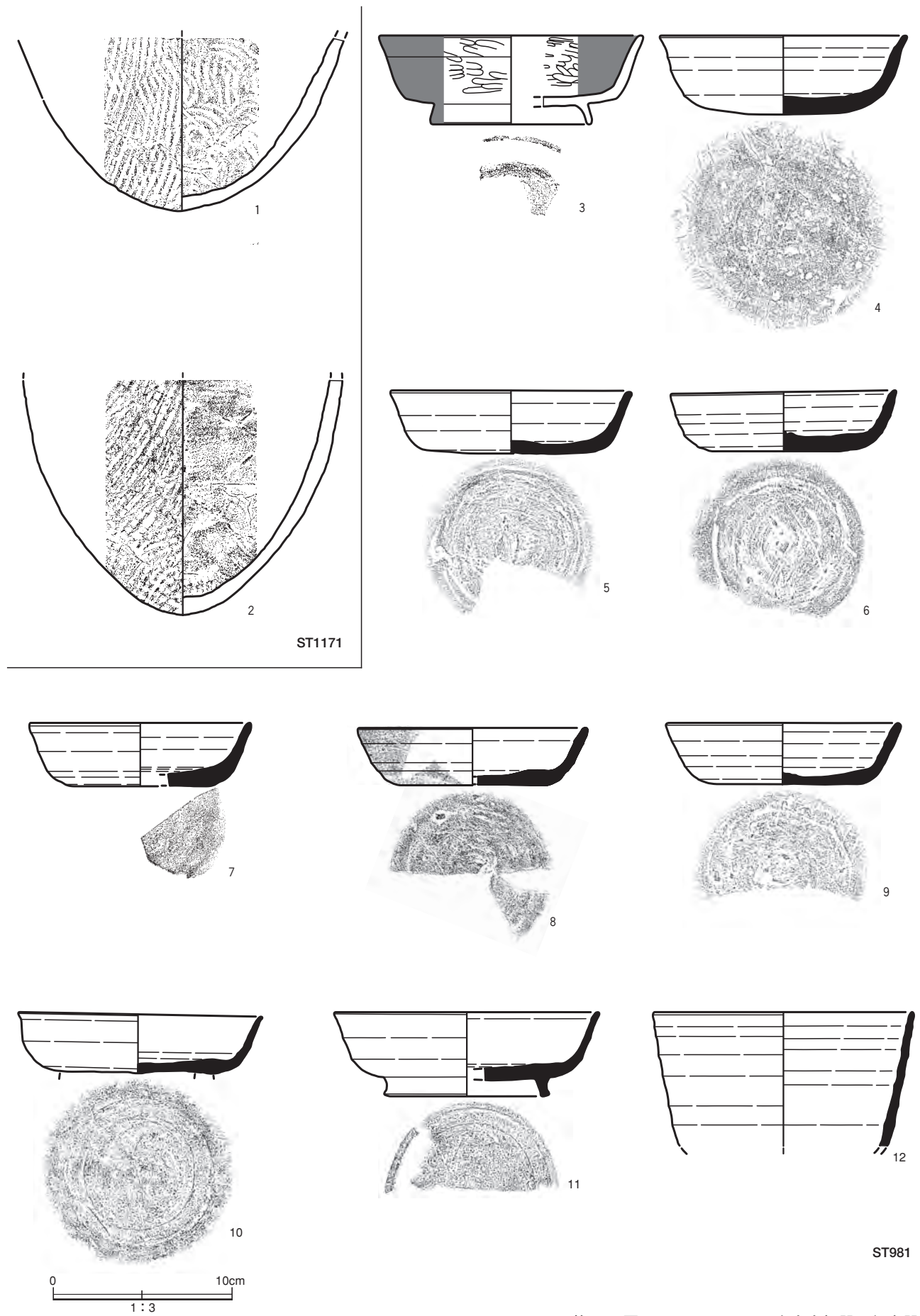
第166図 S G 883 出土土師器・陶器



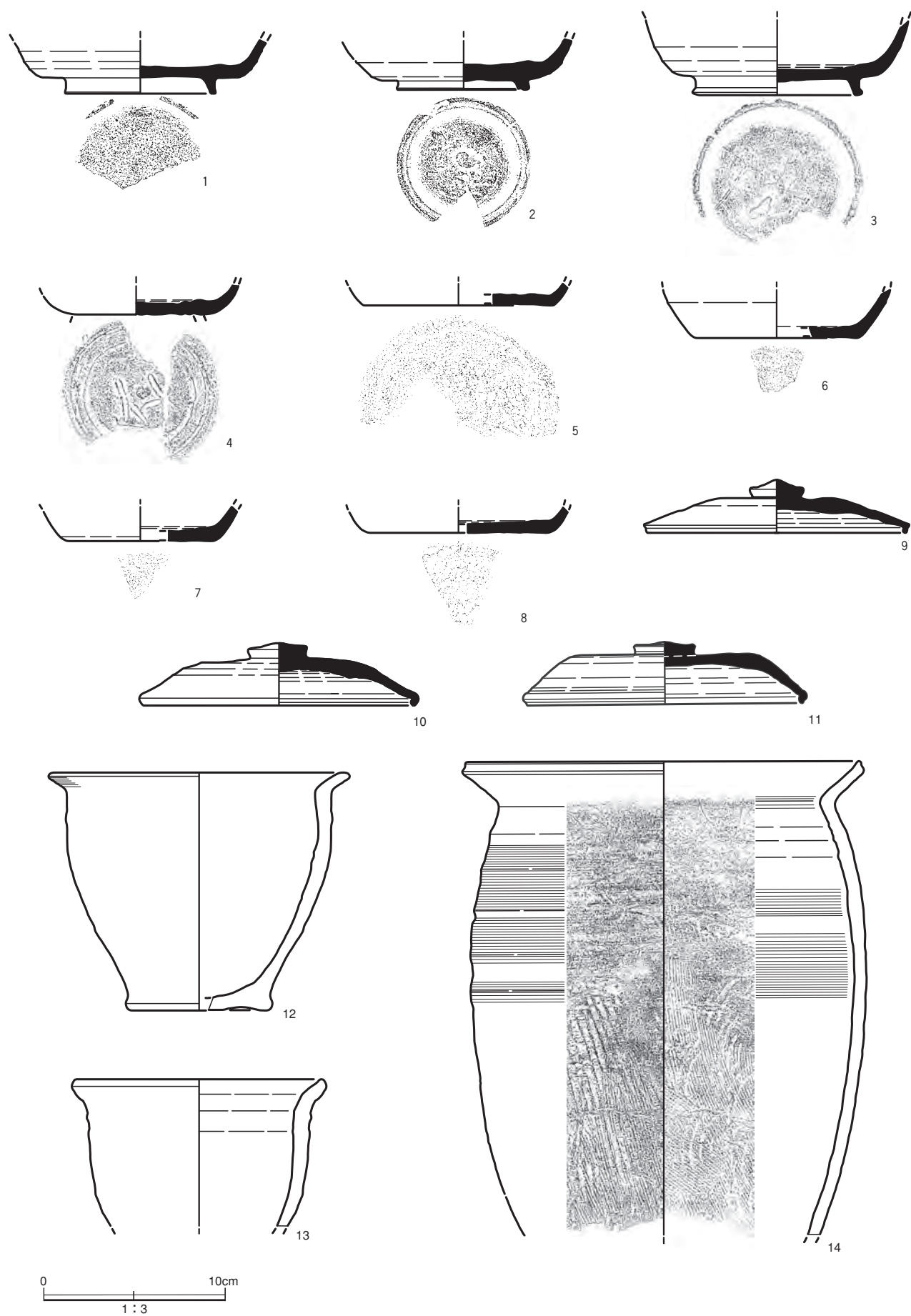
第 167 図 S T 795 出土土師器・須恵器



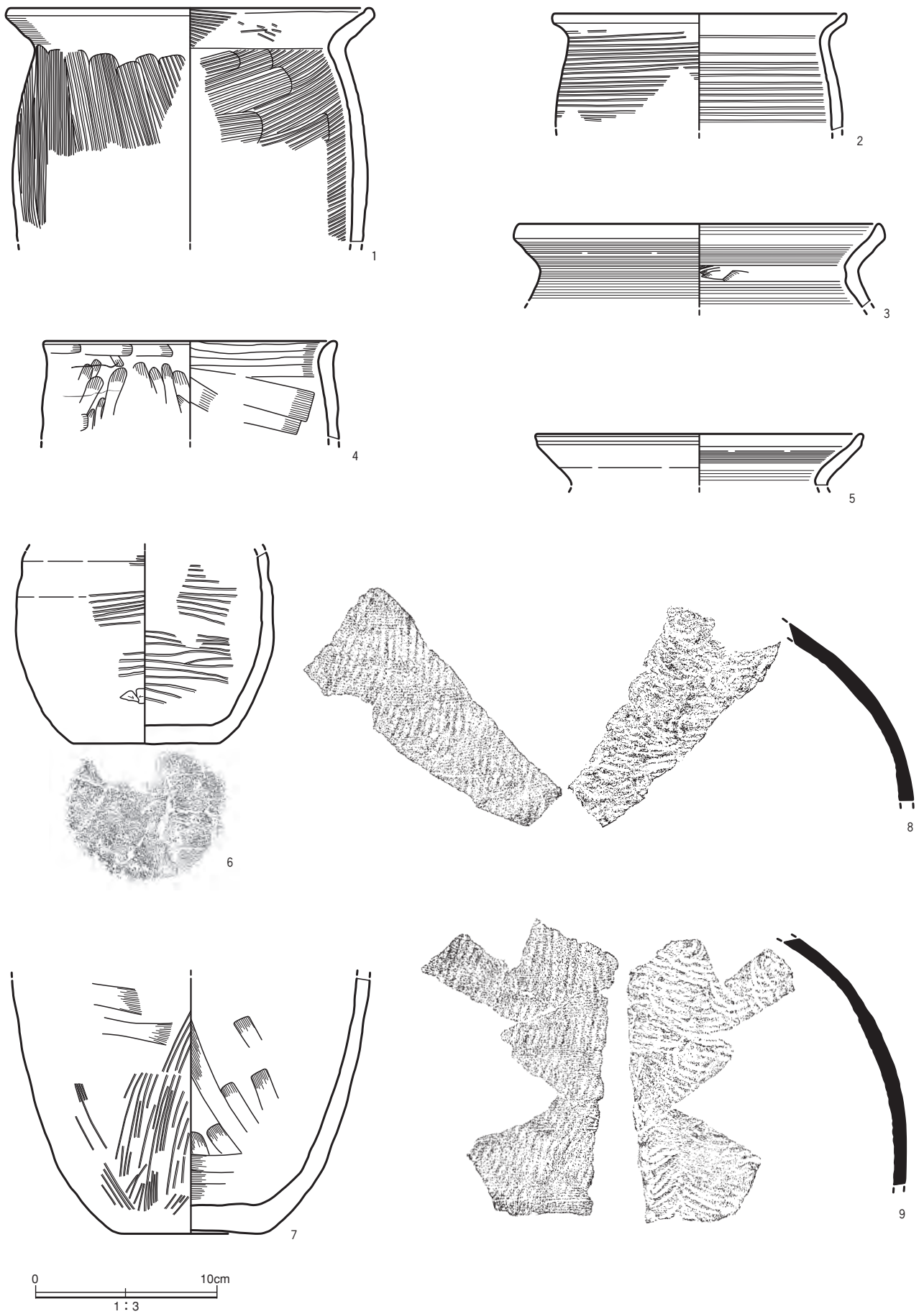
第 168 図 S T 1171 出土土師器・須恵器



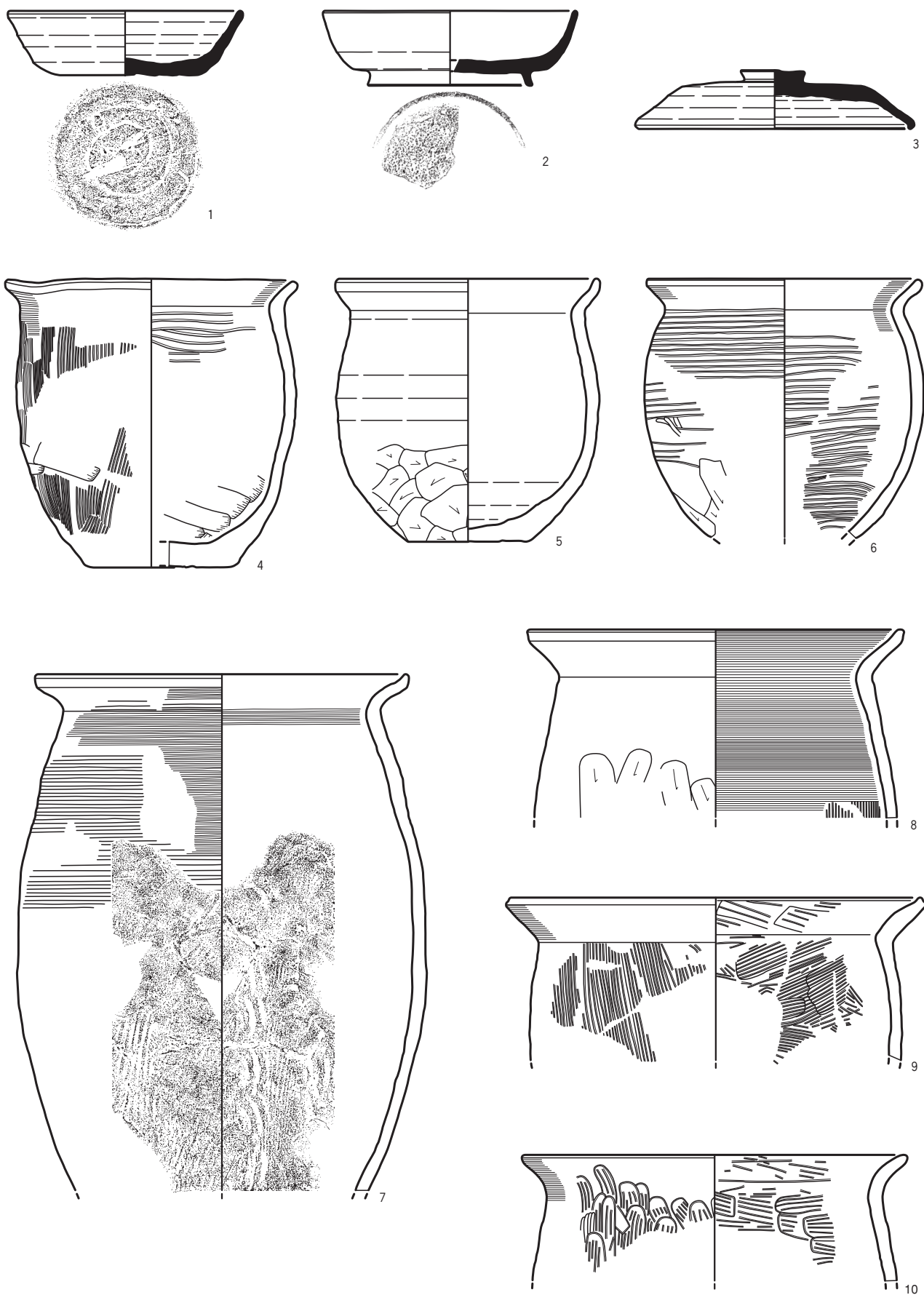
第 169 図 S T 1171・981 出土土師器・須恵器



第170図 ST 981 出土土師器・須恵器(1)

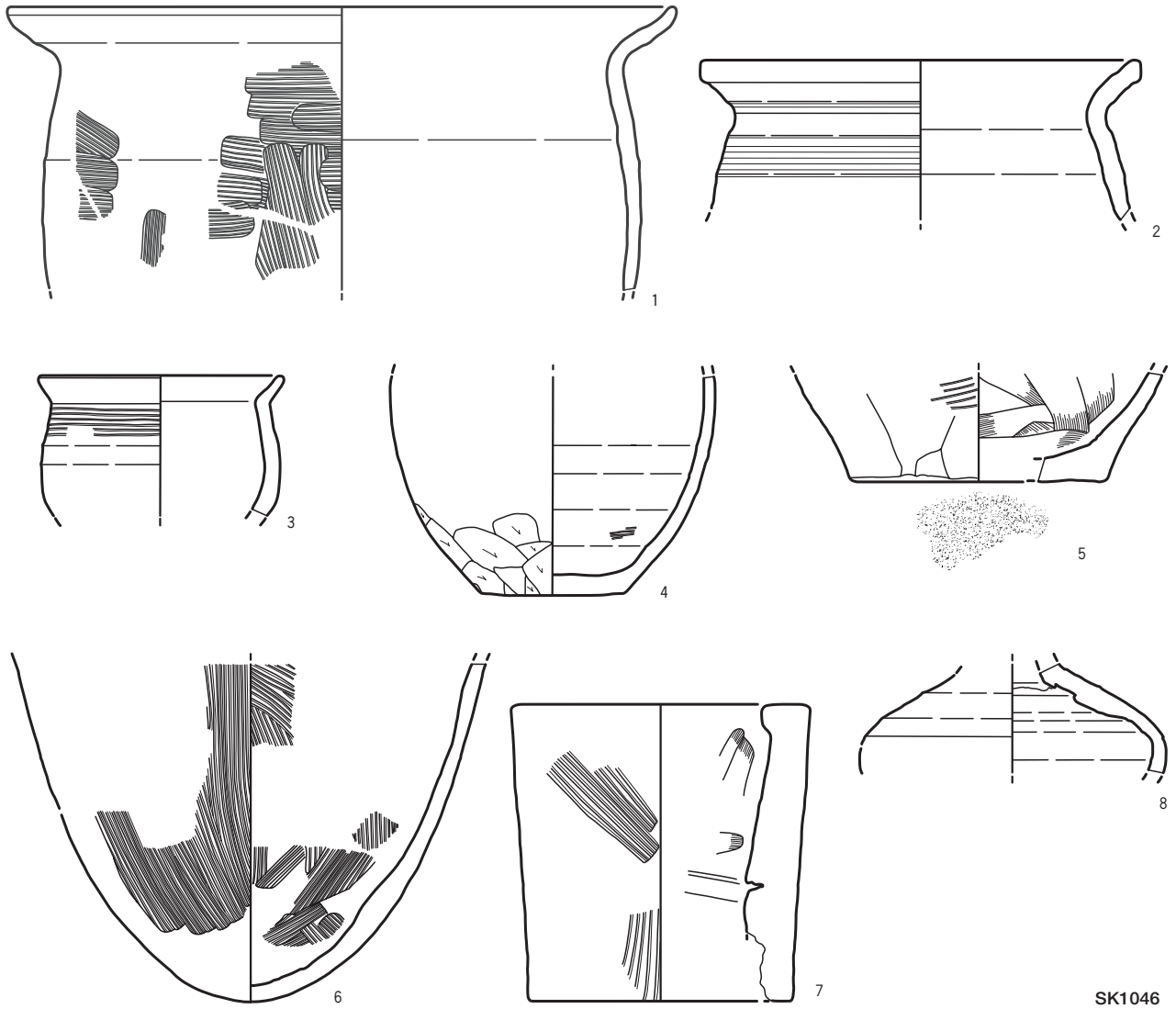


第171図 ST 981 出土土師器・須恵器(2)



0 10cm
1:3

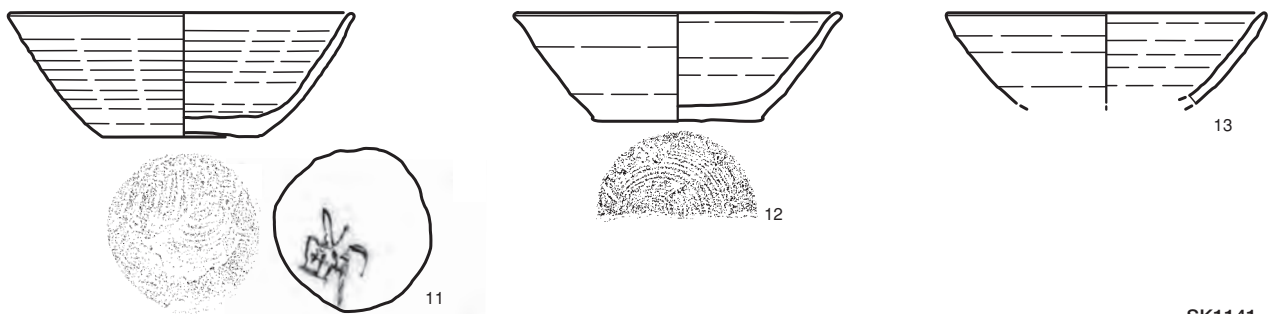
第 172 図 S K 1046 出土土師器・須恵器



SK1046



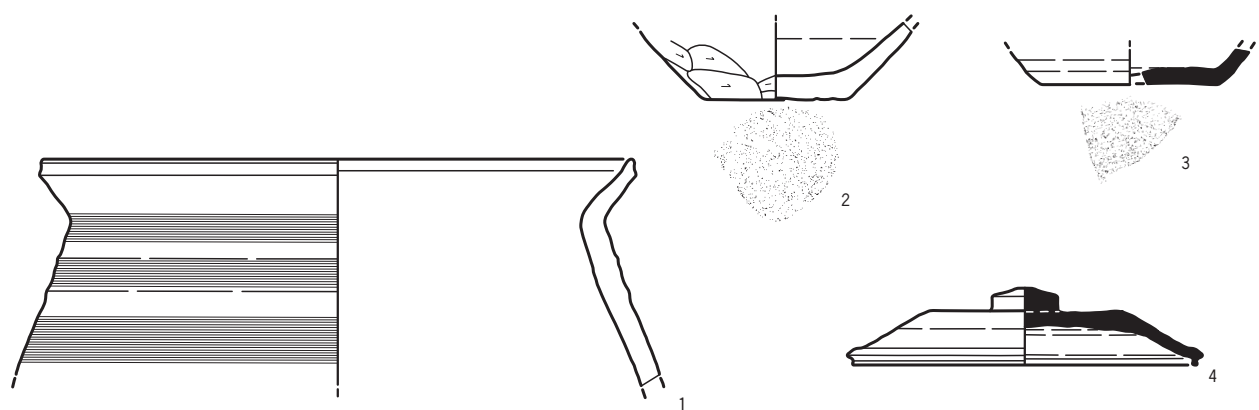
SK1142



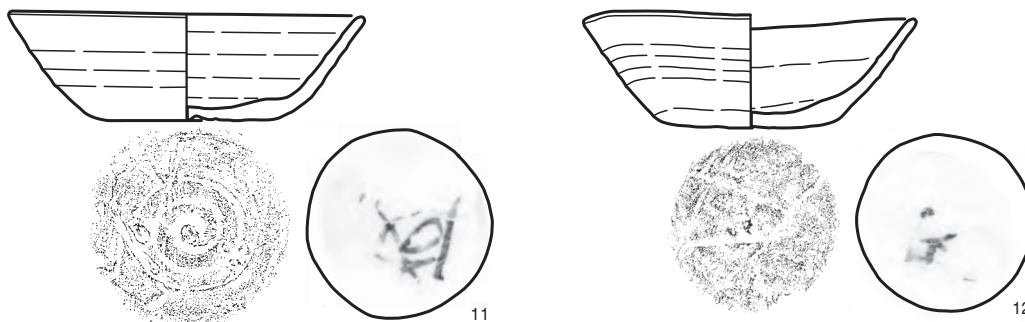
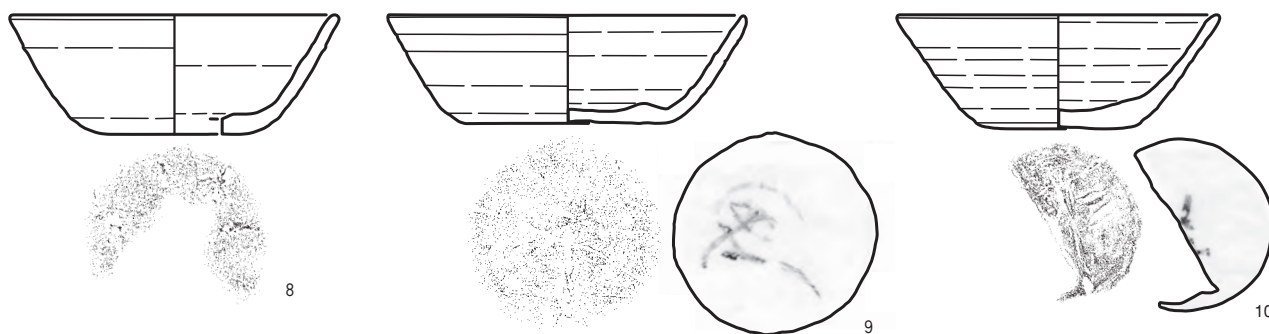
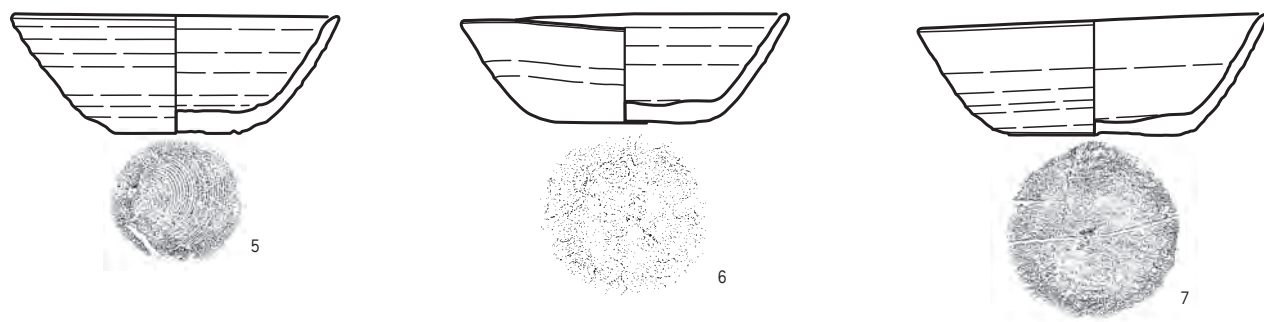
SK1141

0 10cm
1:3

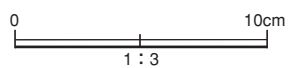
第 173 図 S K 1046・1141・1142 出土土師器・陶器



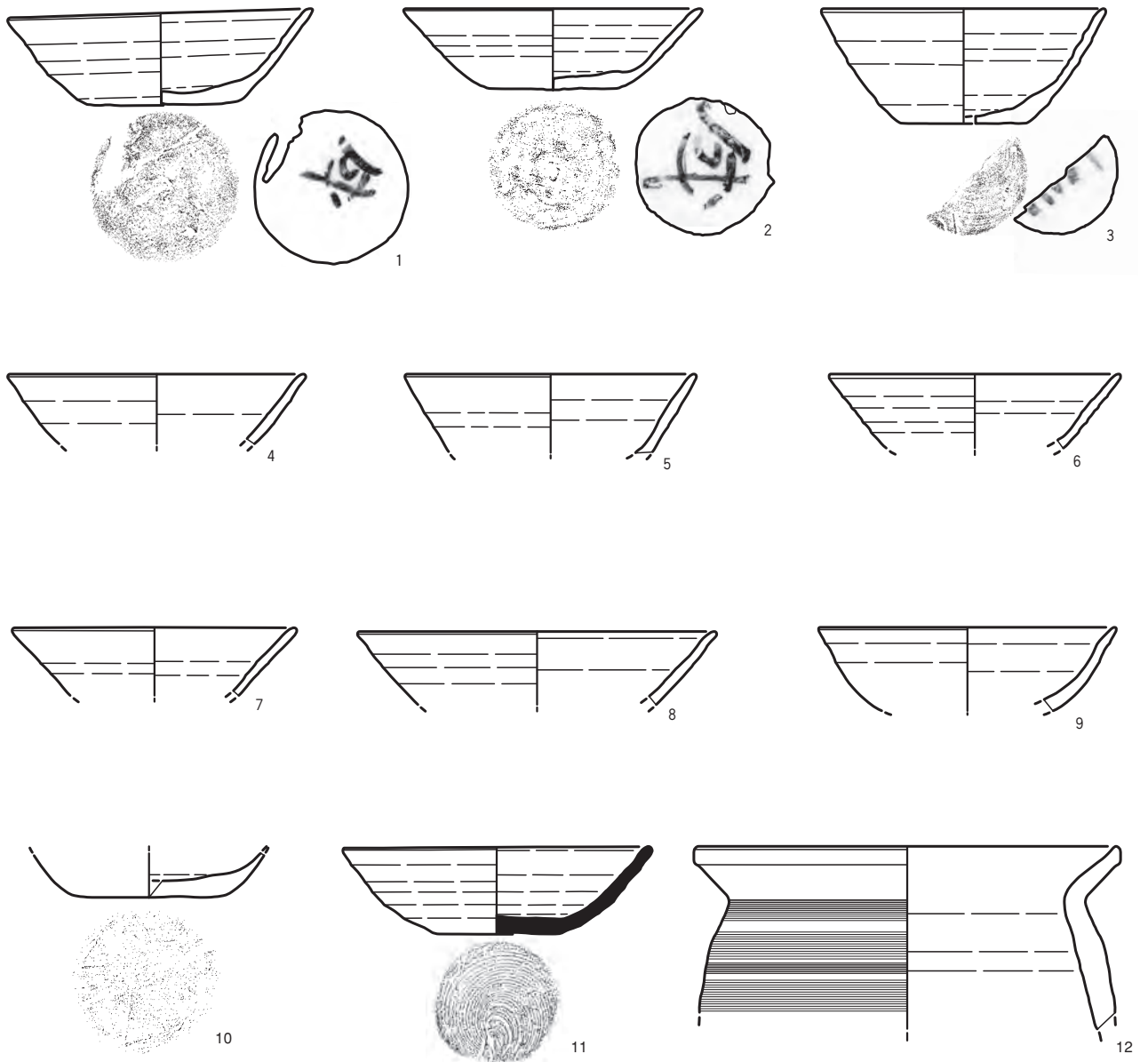
SK1179



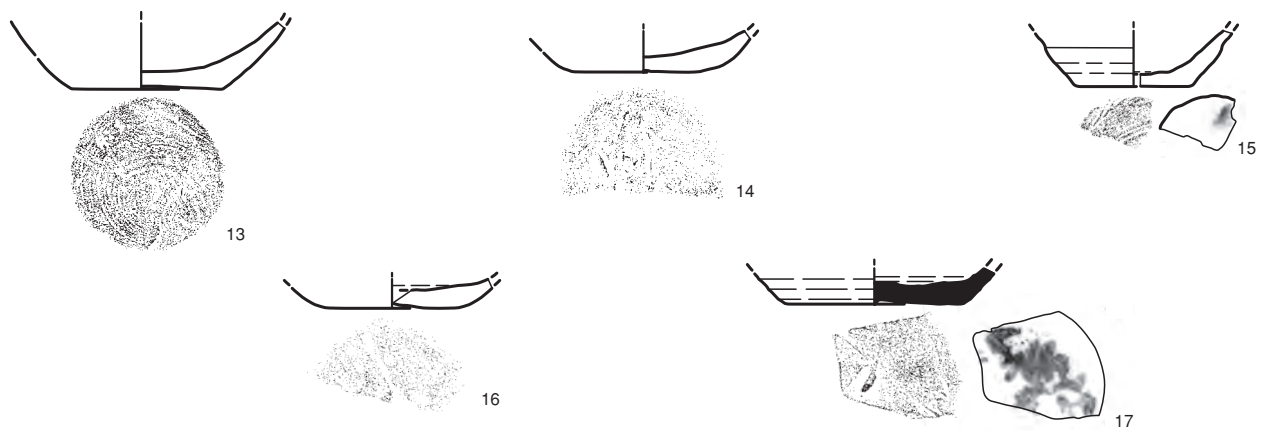
SX1166



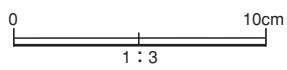
第174図 SK 1179・SX 1166 出土土師器・須恵器



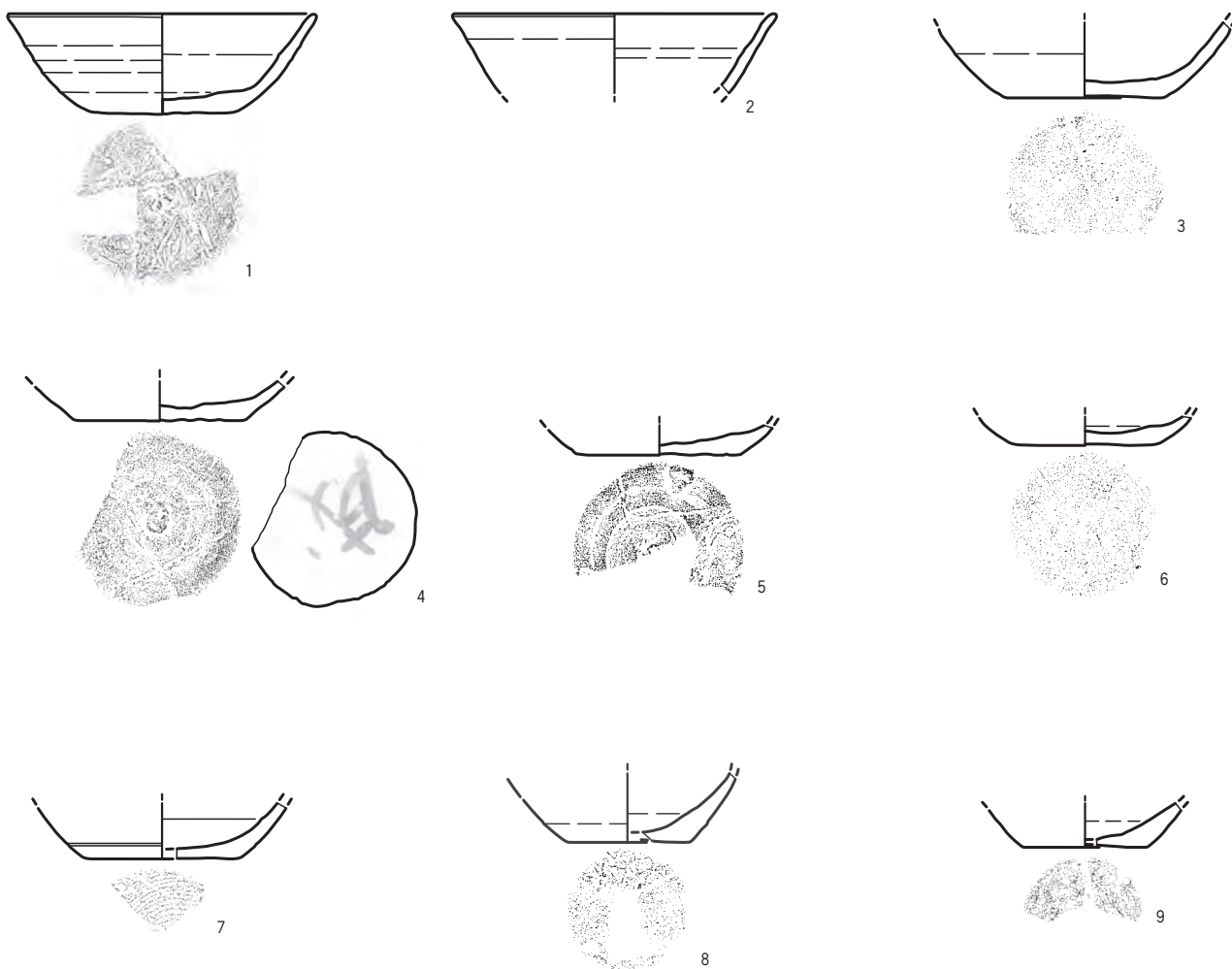
SX1166



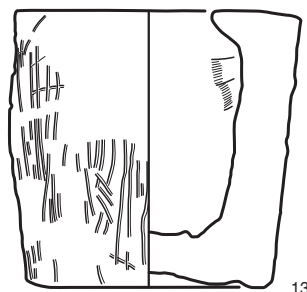
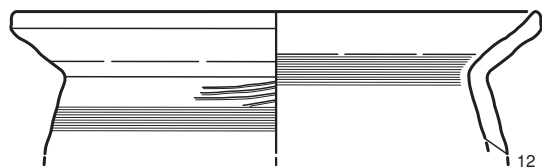
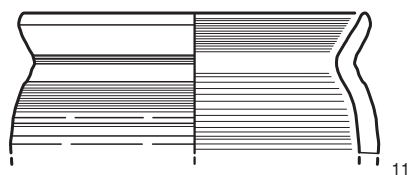
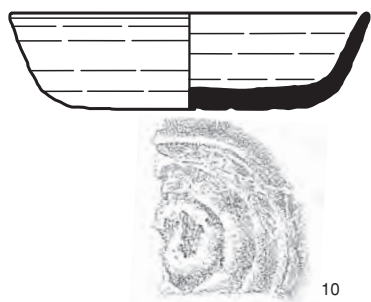
SX1168



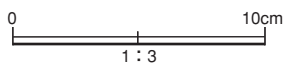
第 175 図 S X 1166・1168 出土土師器・須恵器



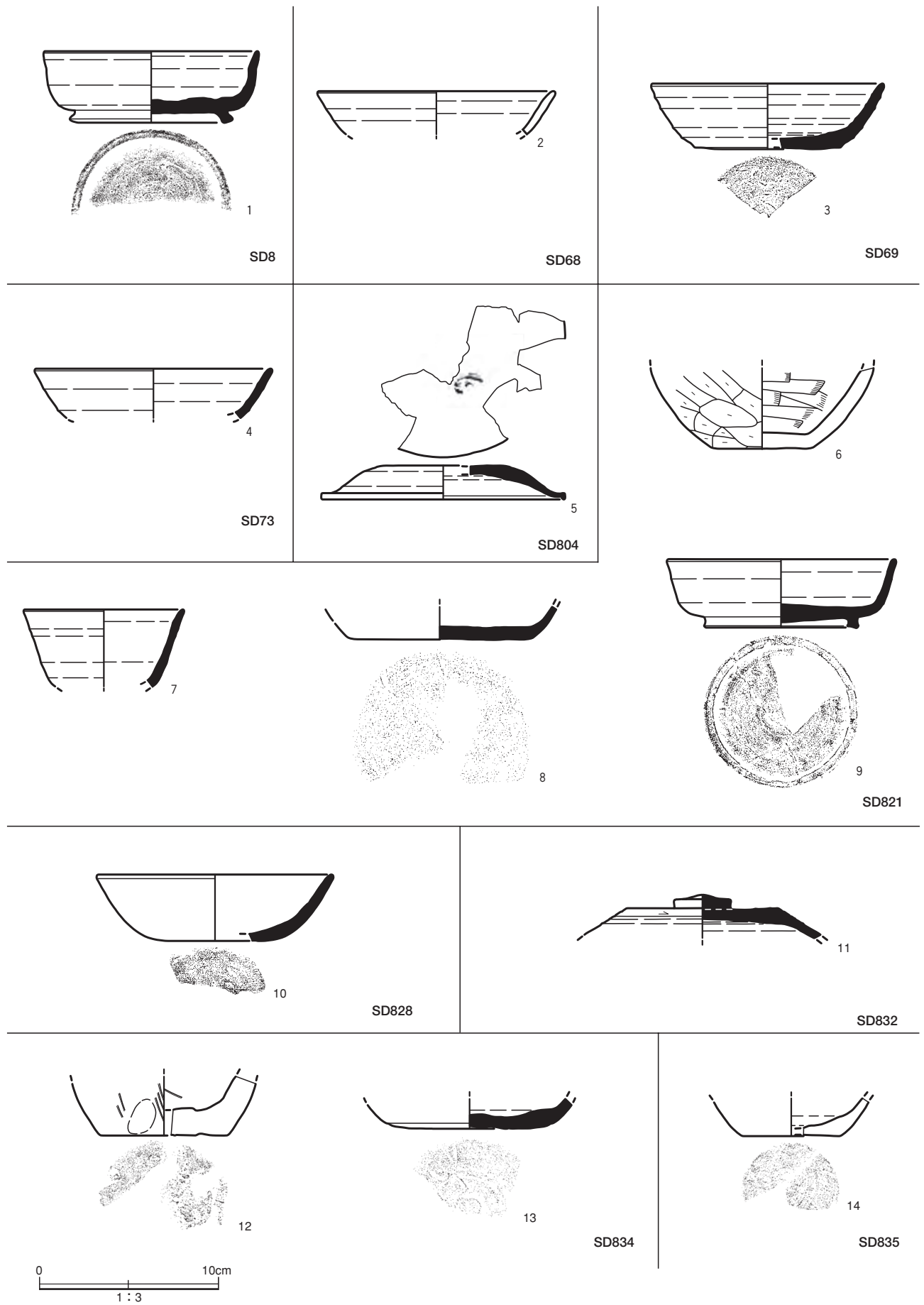
SX1169



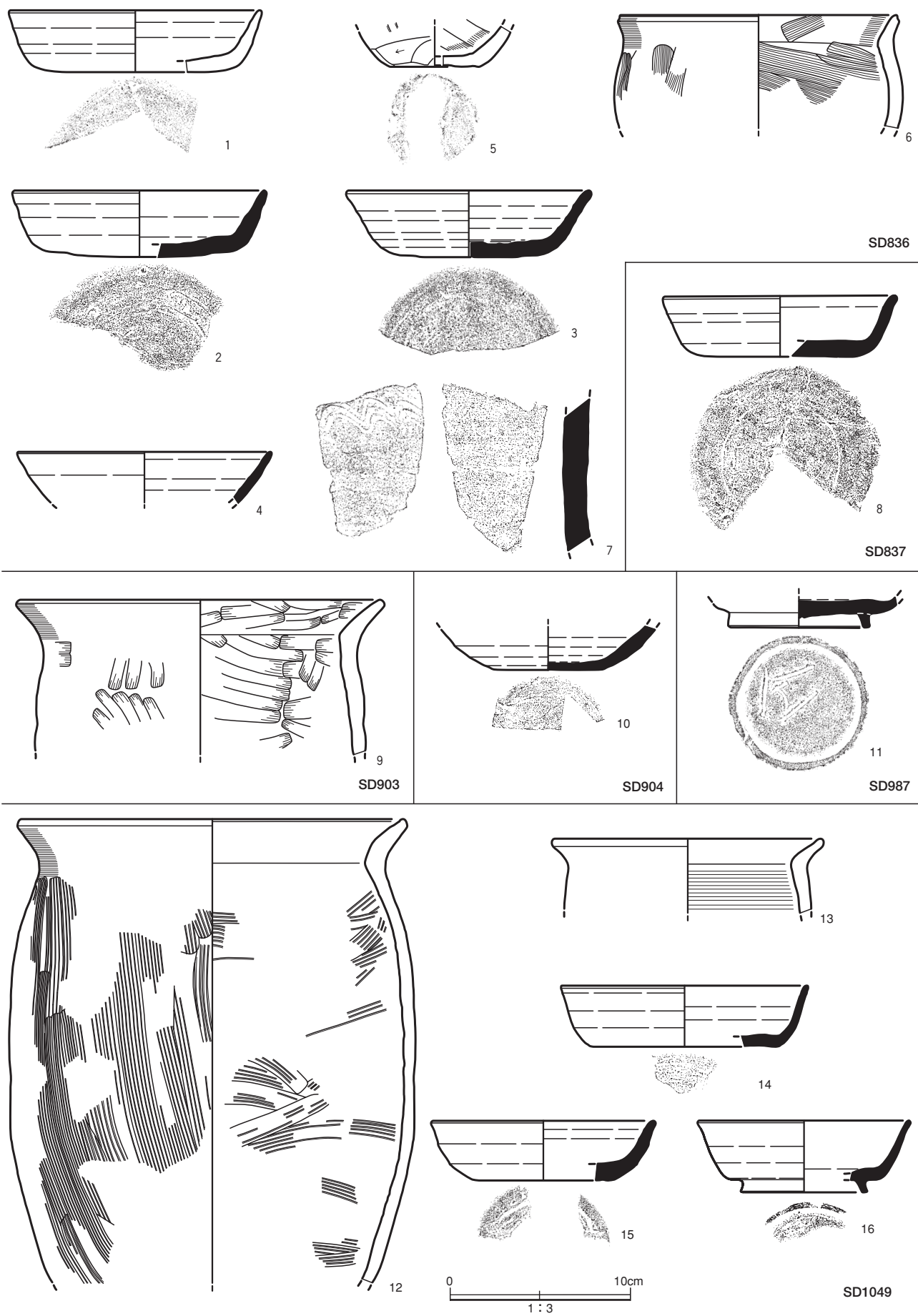
SX1029



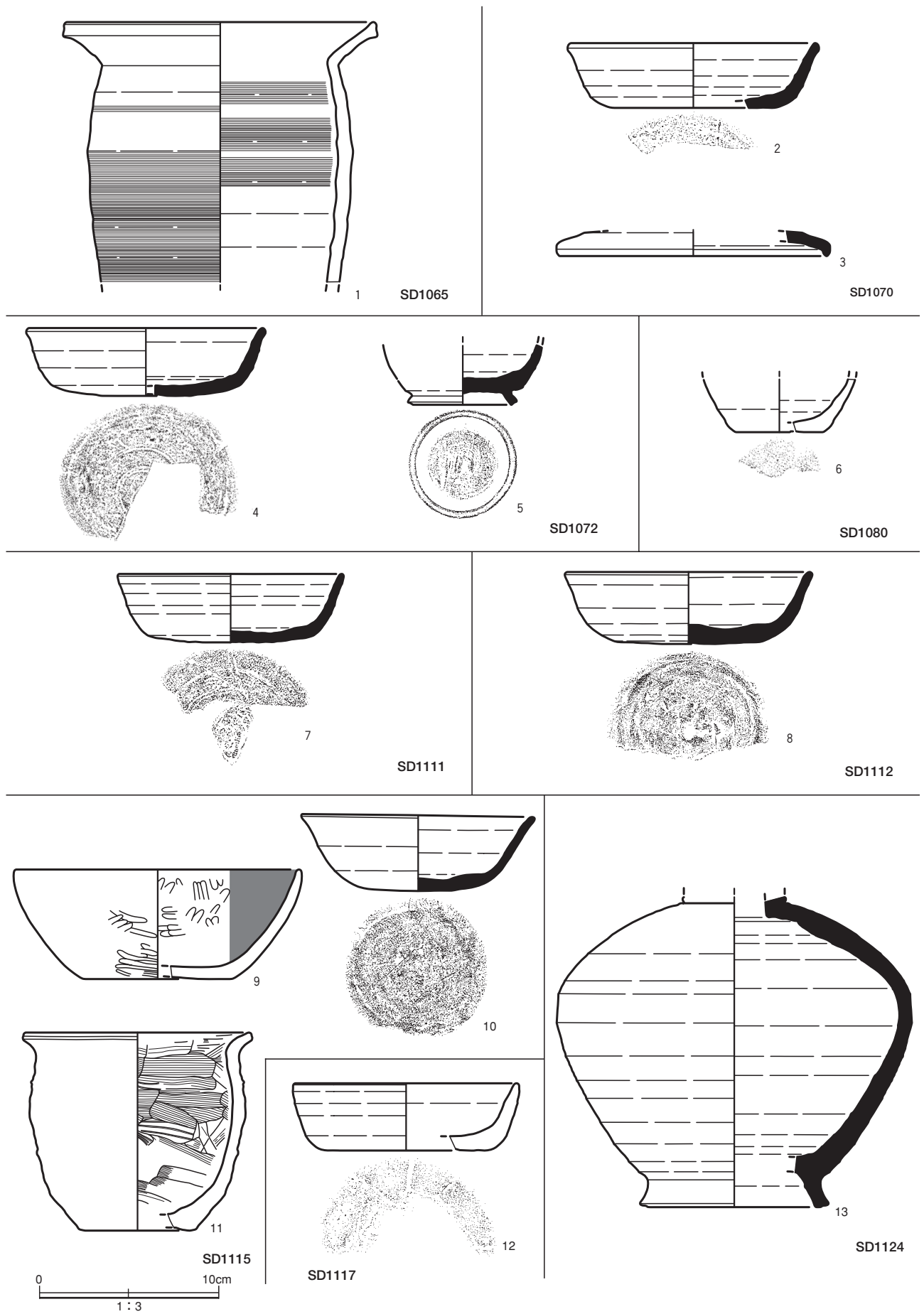
第176図 S X 1169・1029 出土土師器・須恵器



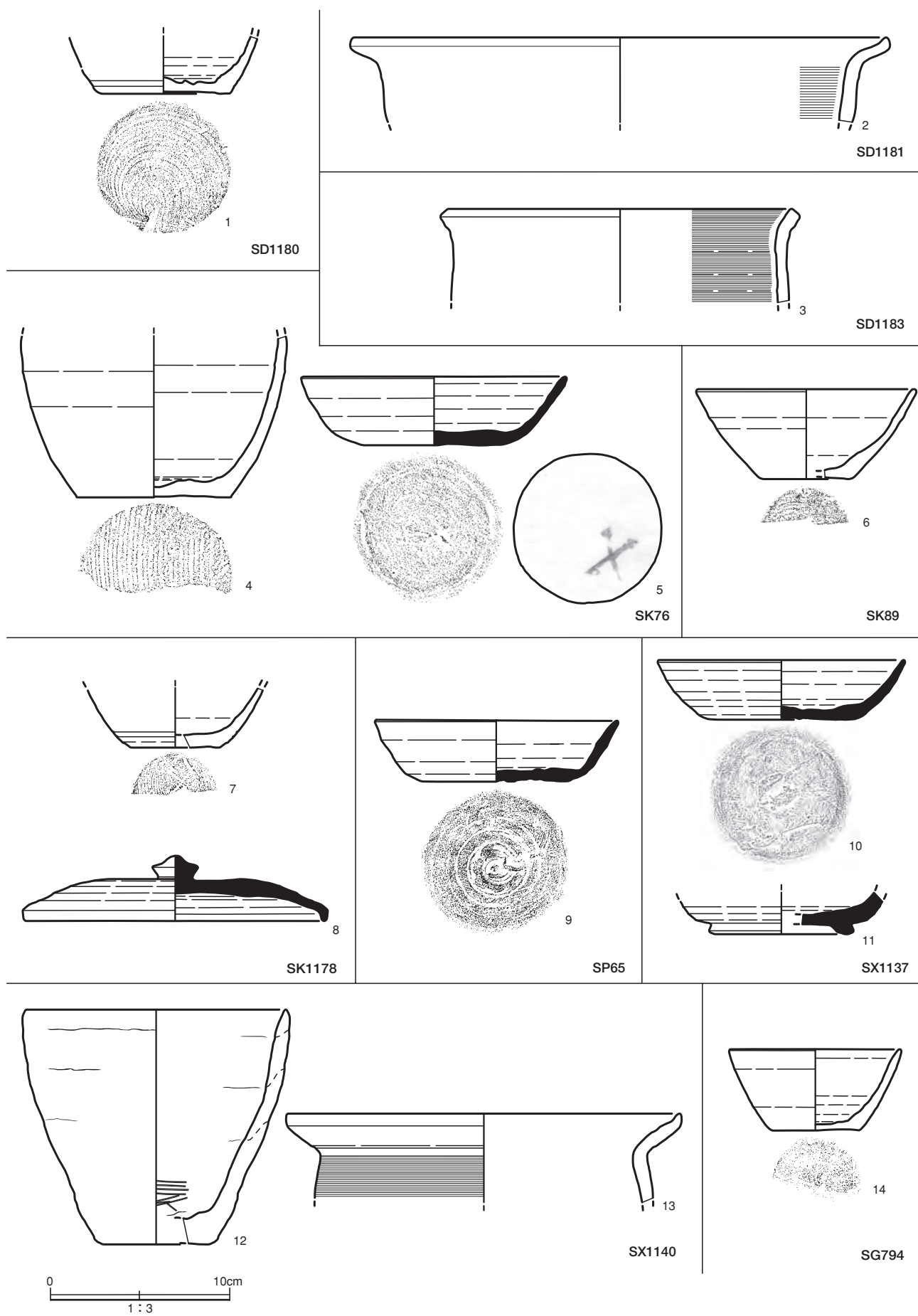
第 177 図 北東部遺構群溝跡出土土師器・須恵器 (1)



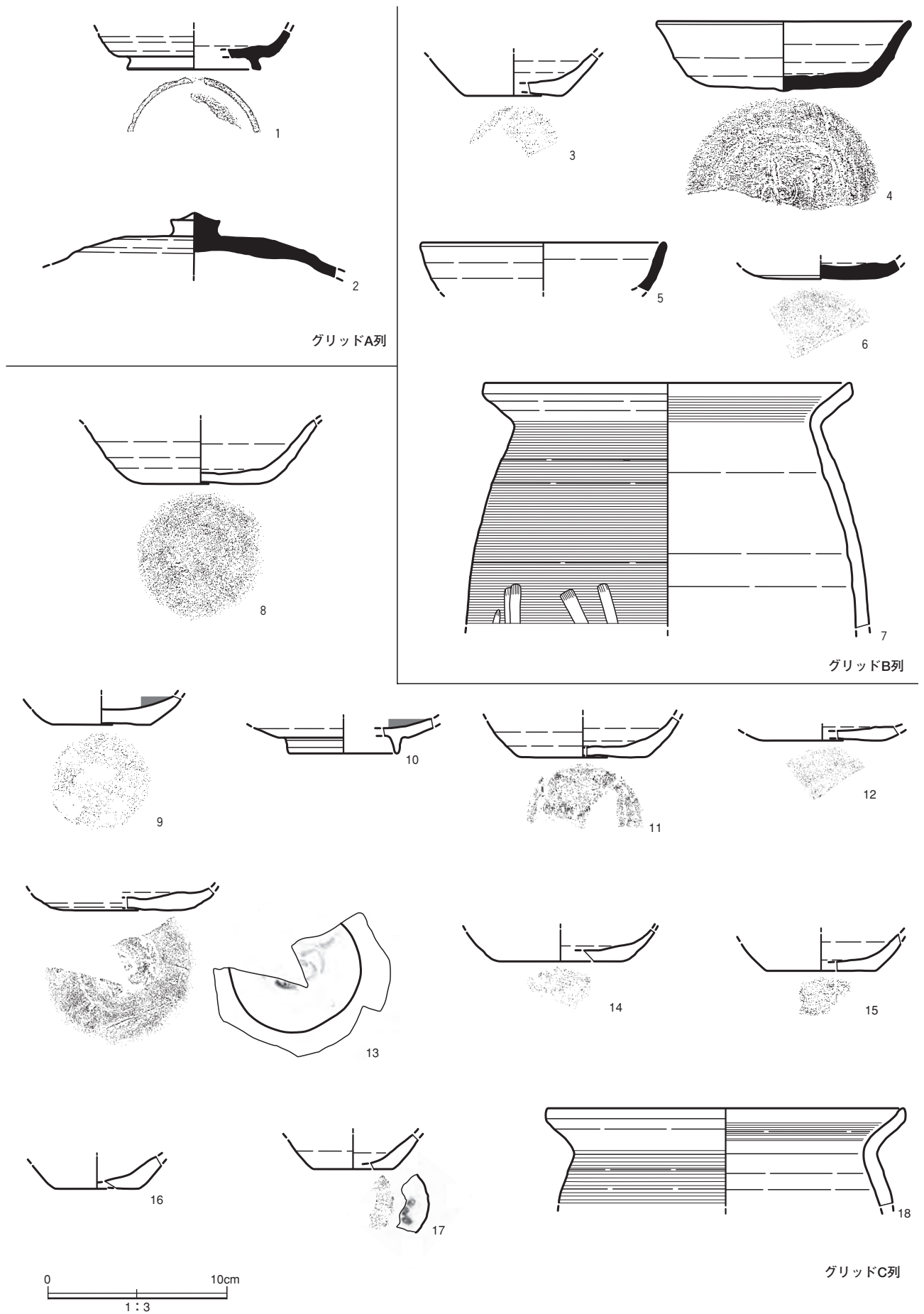
第 178 図 北東部遺構群溝跡出土土師器・須恵器 (2)



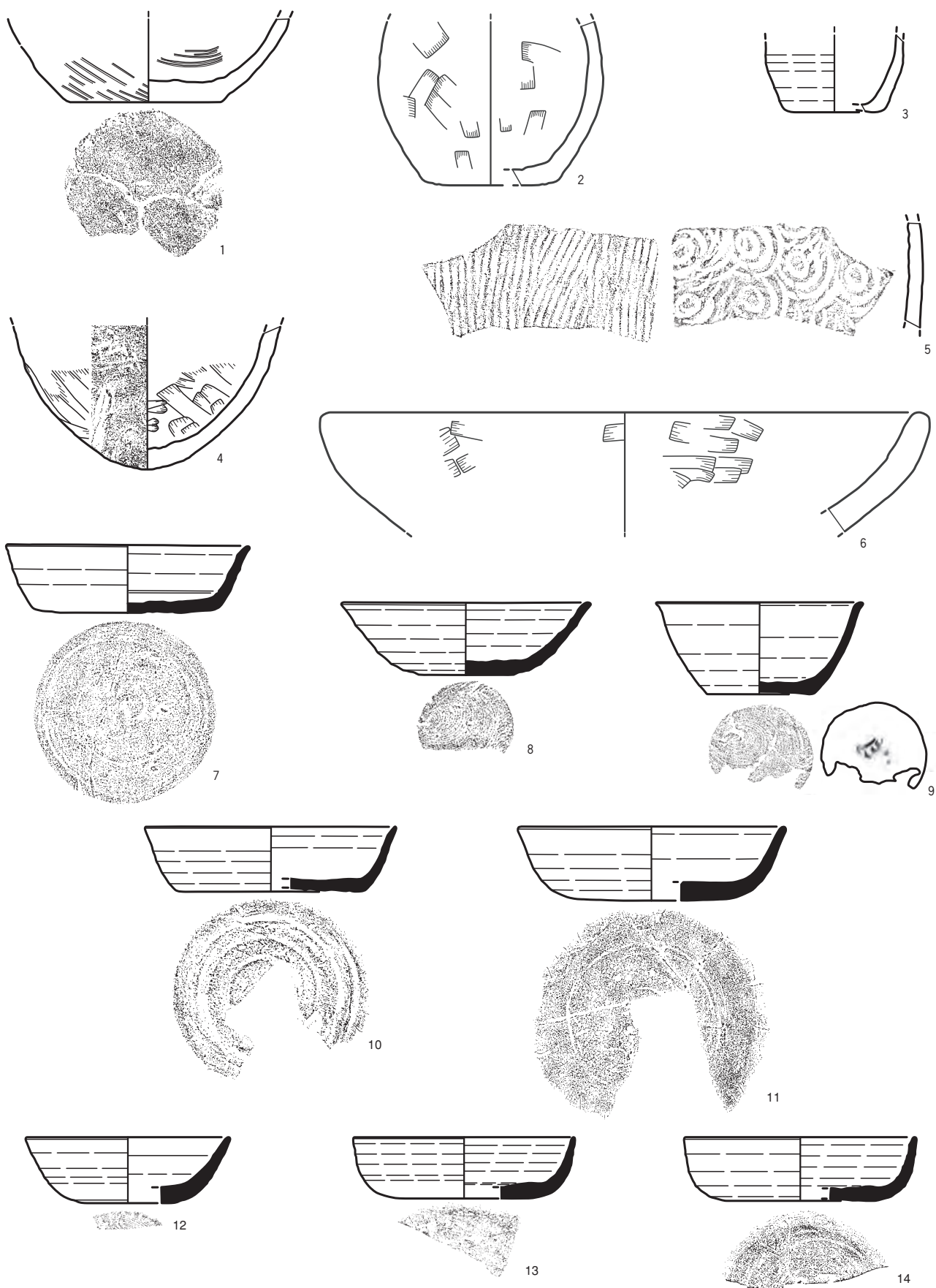
第 179 図 北東部遺構群溝跡出土土師器・須恵器 (3)



第 180 図 北東部遺構群溝跡・土抗・ピット・性格不明遺構・河川跡出土土師器・須恵器



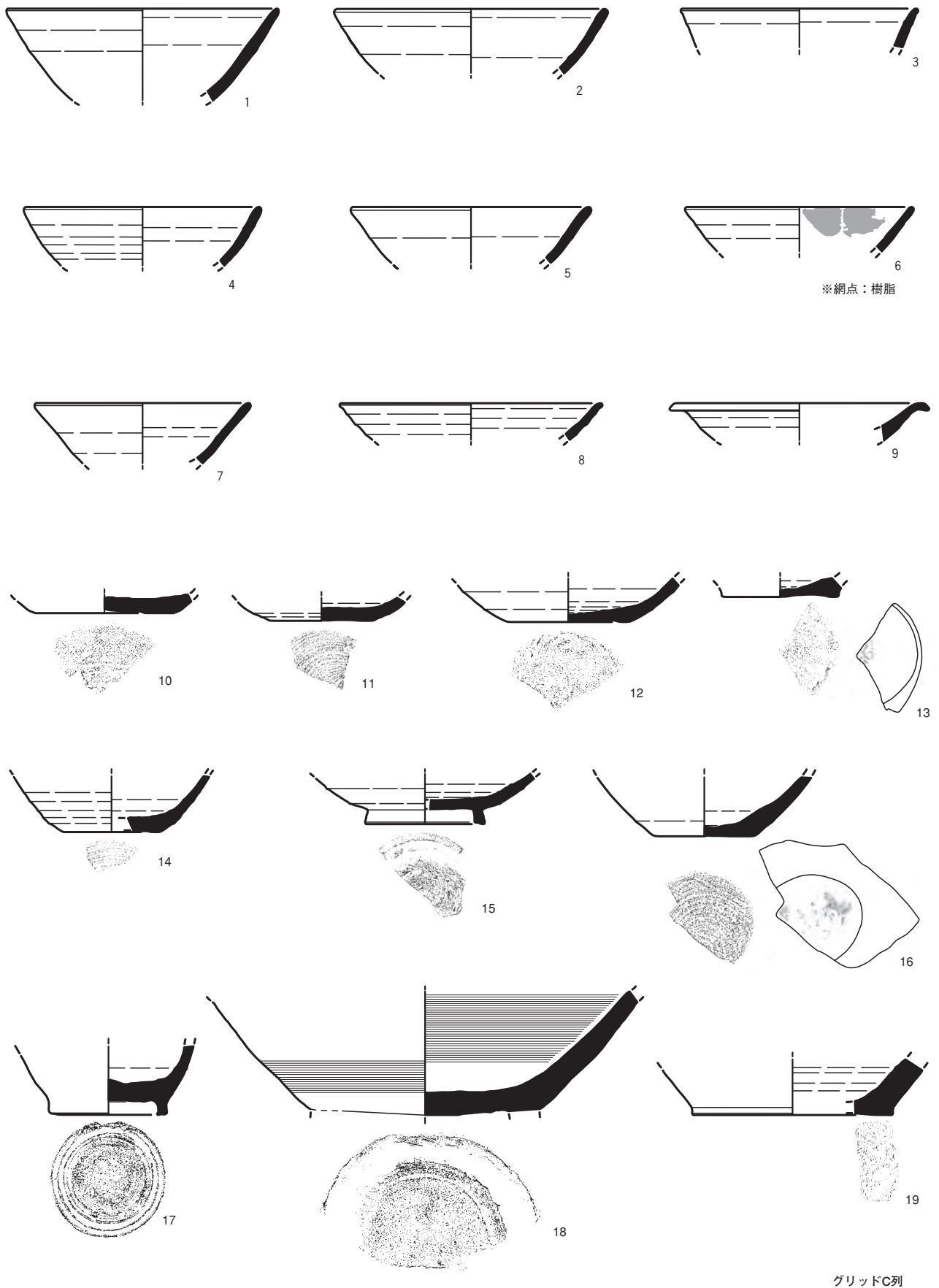
第181図 北東部遺構群グリッド出土土師器・須恵器(1)



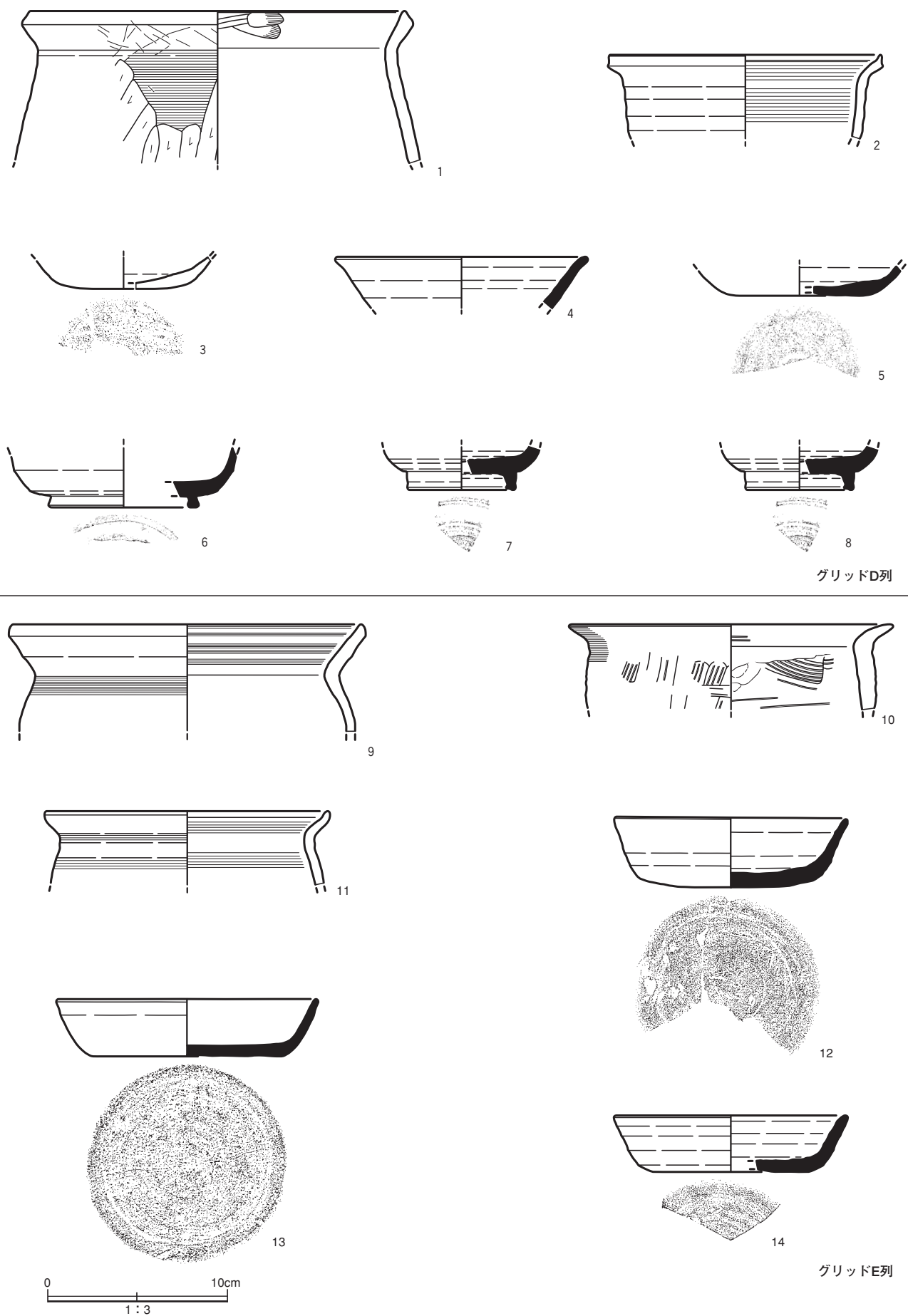
0 10cm
1:3

グリッドC列

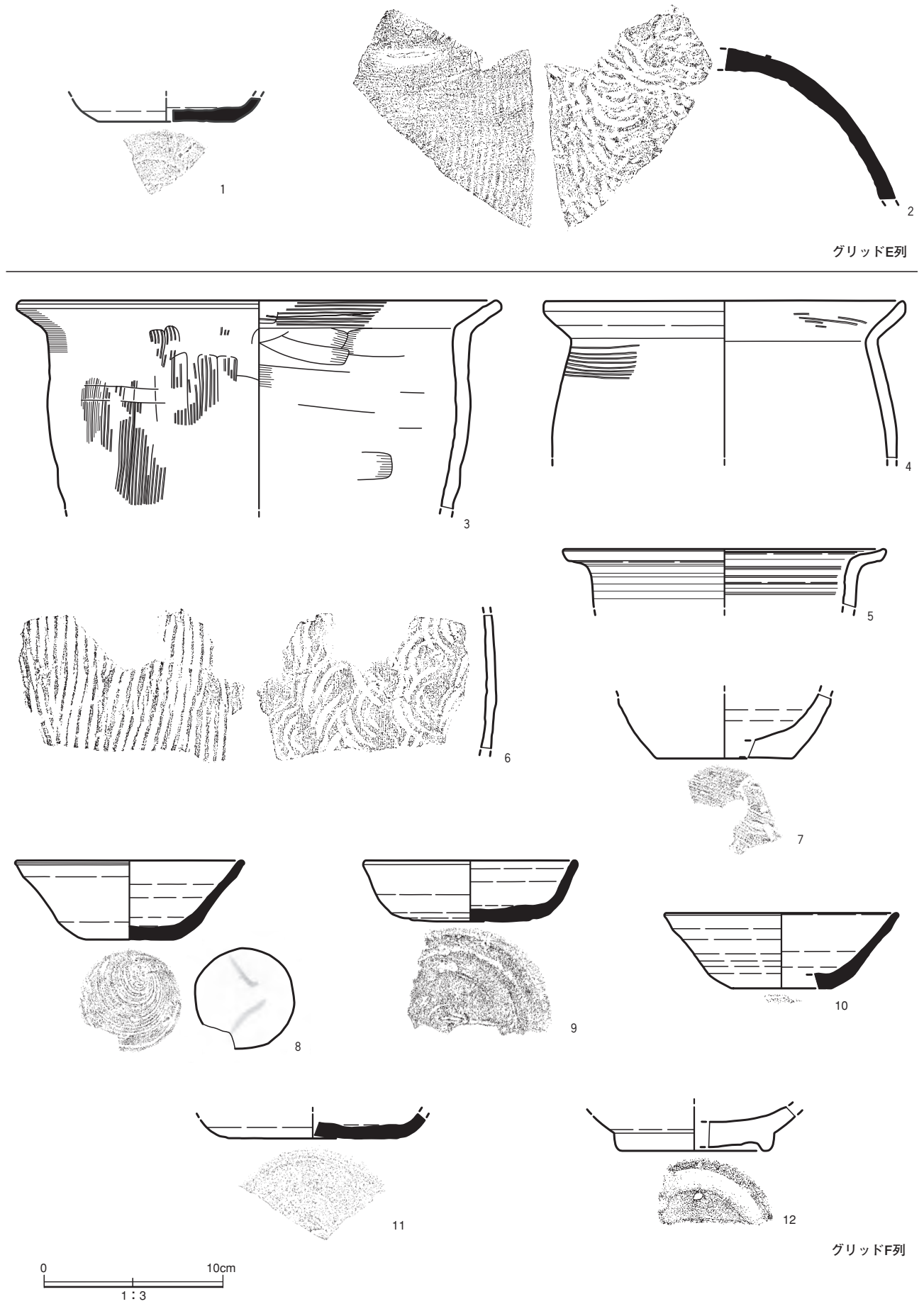
第 182 図 北東部遺構群グリッド出土土師器・須恵器 (2)



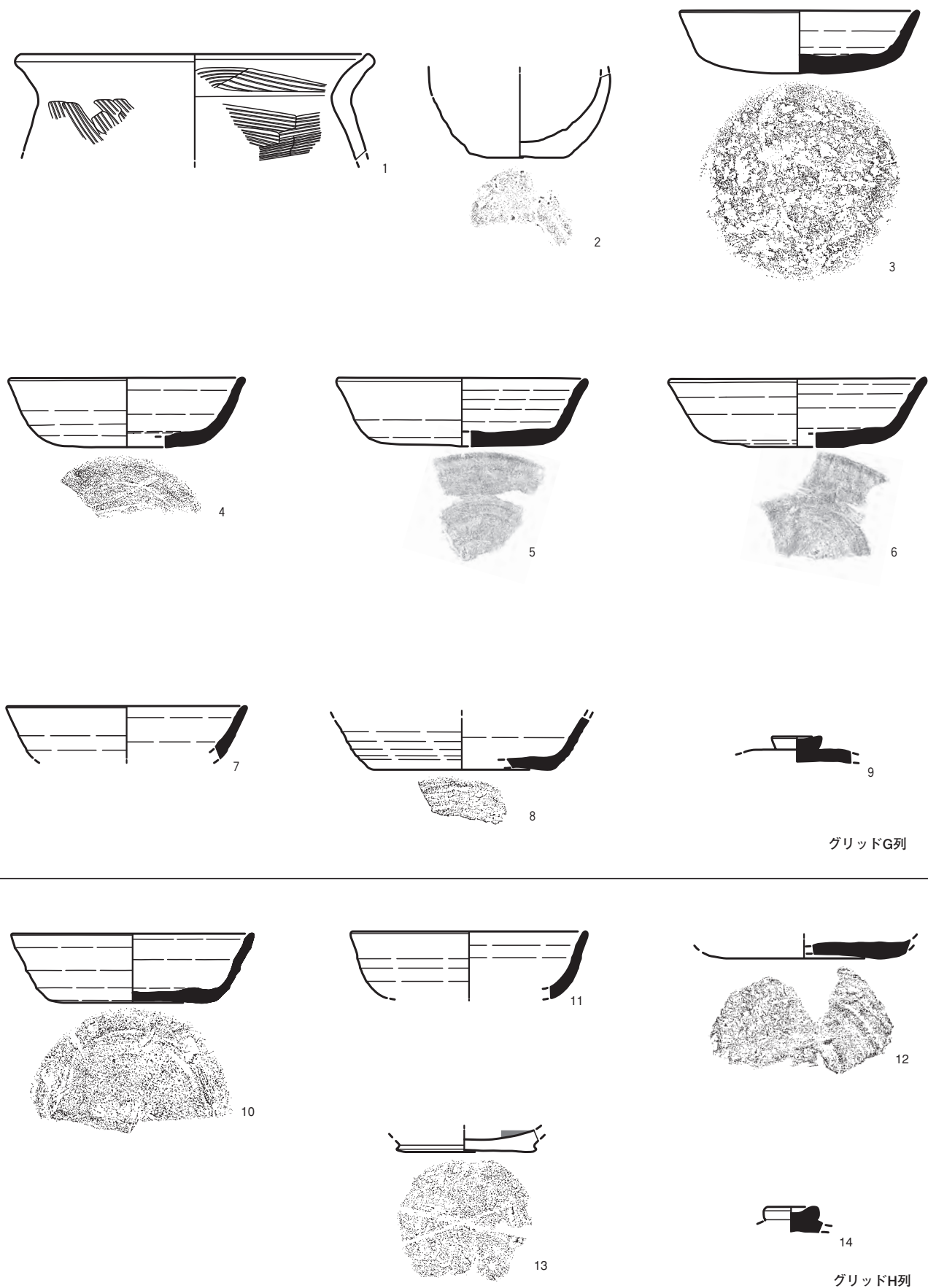
第 183 図 北東部遺構群グリッド出土須恵器



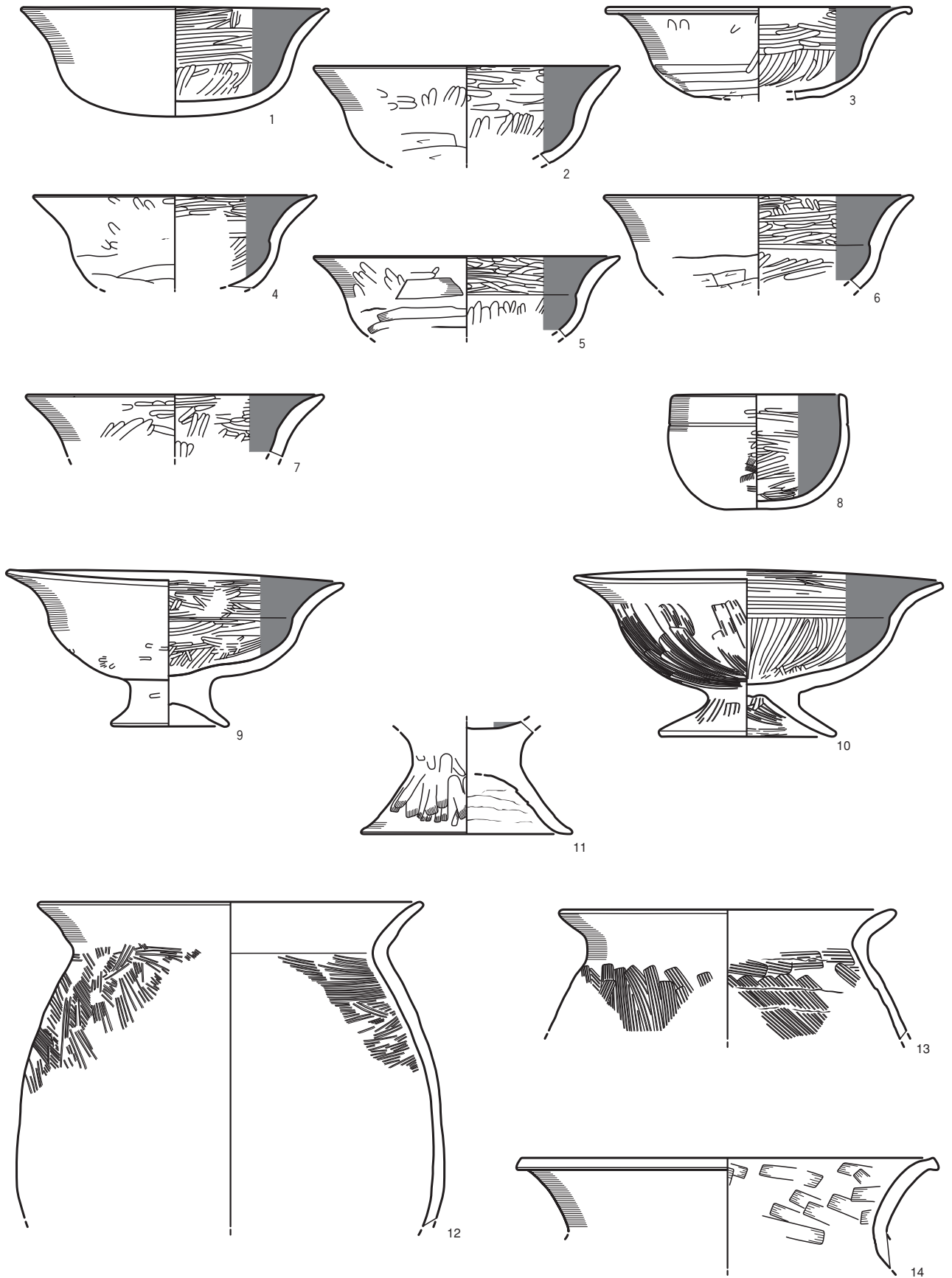
第184図 北東部遺構群グリッド出土土師器・須恵器（3）



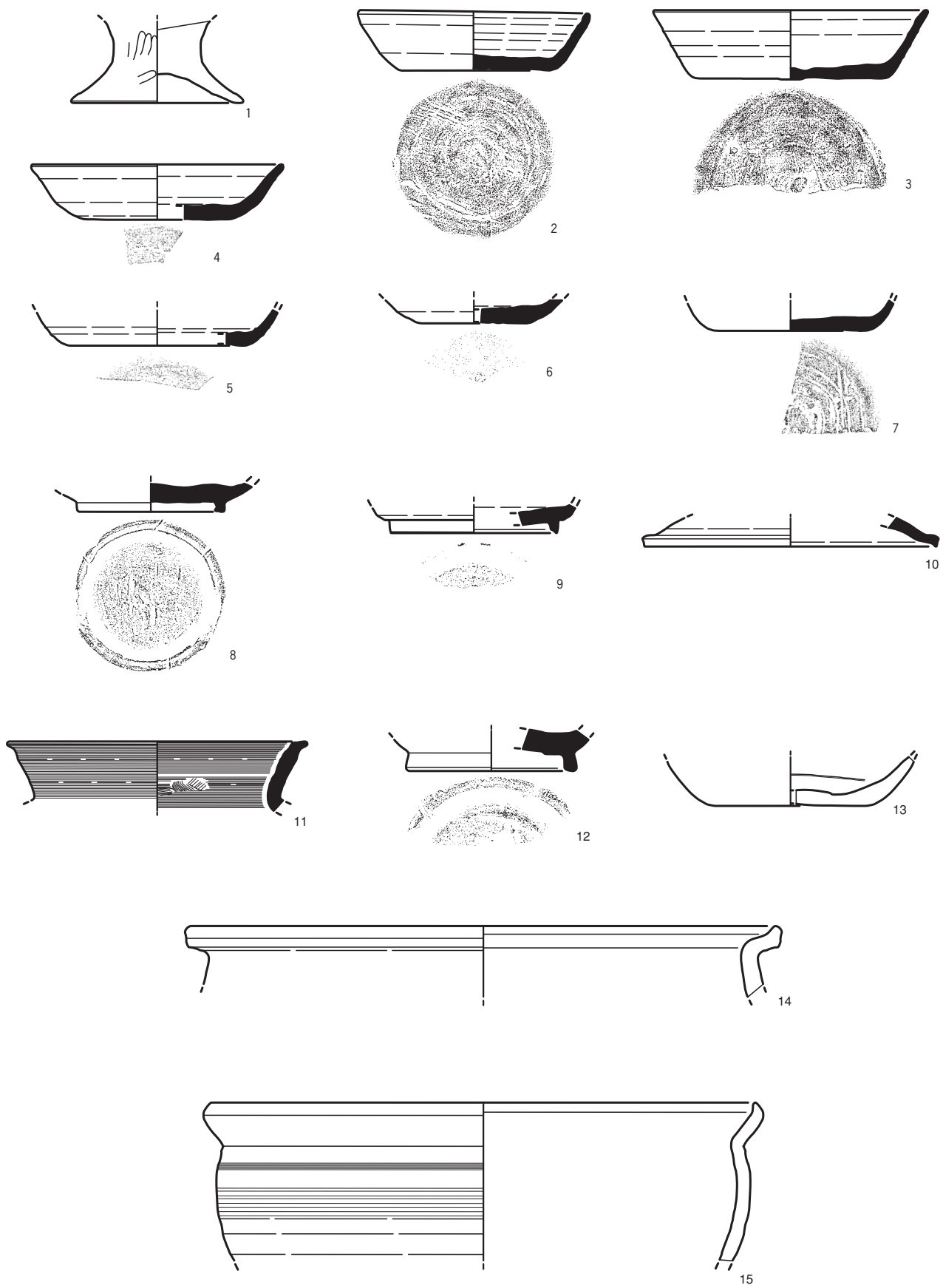
第185図 北東部遺構群グリッド出土土師器・須恵器・陶器



第186図 北東部遺構群グリッド出土土師器・須恵器(4)

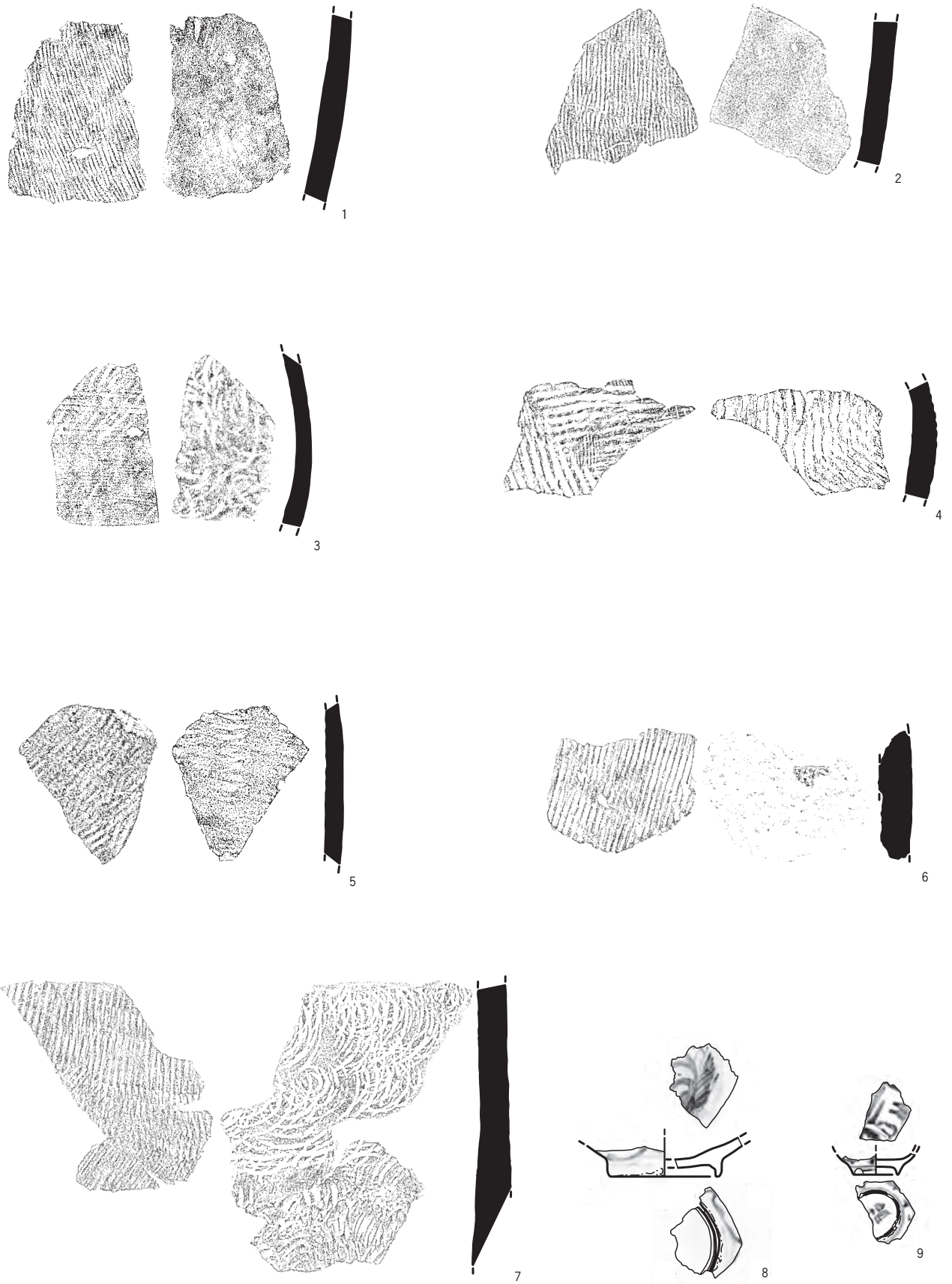


第 187 図 S G 1045 出土土師器

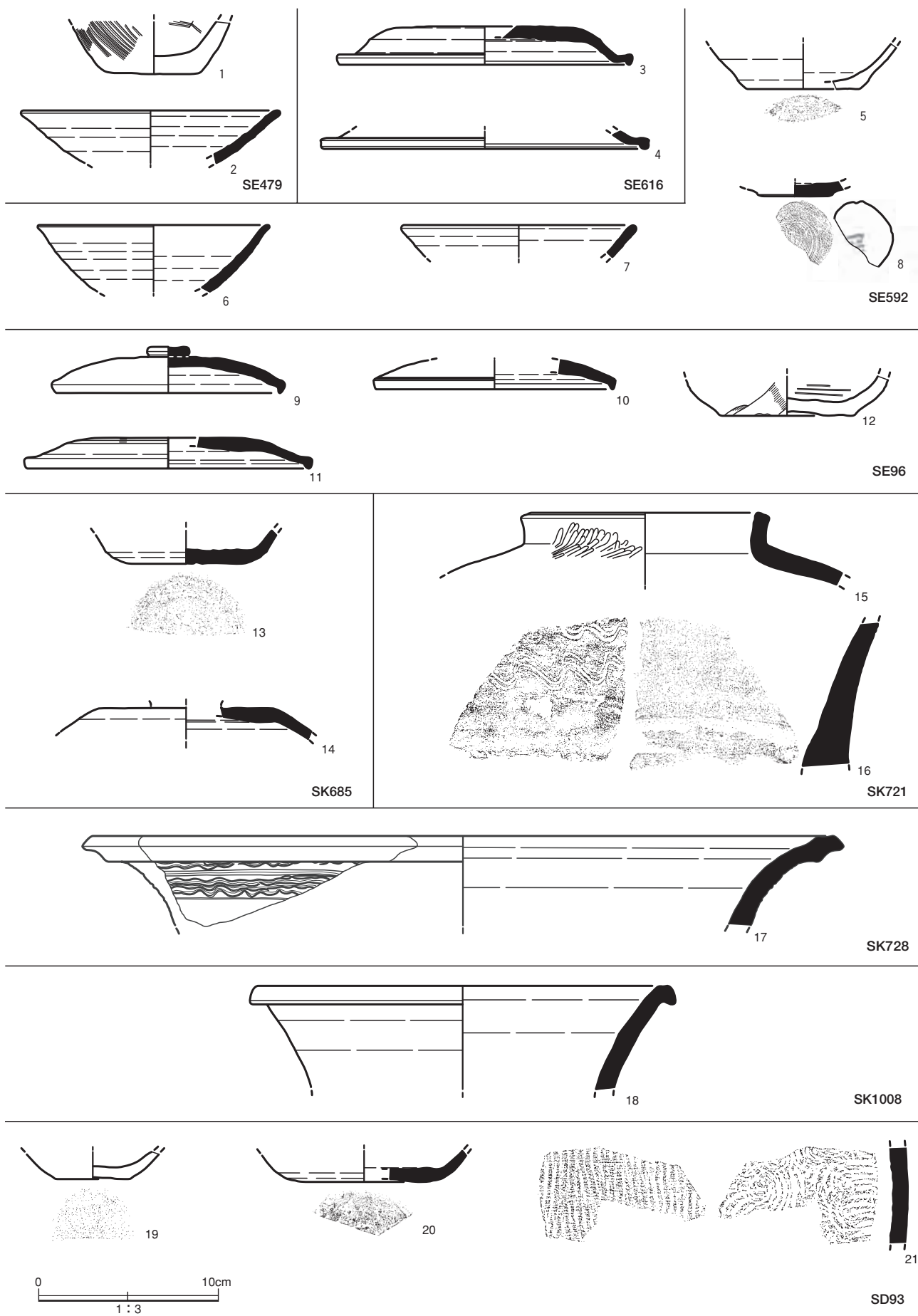


0 10cm
1 : 3

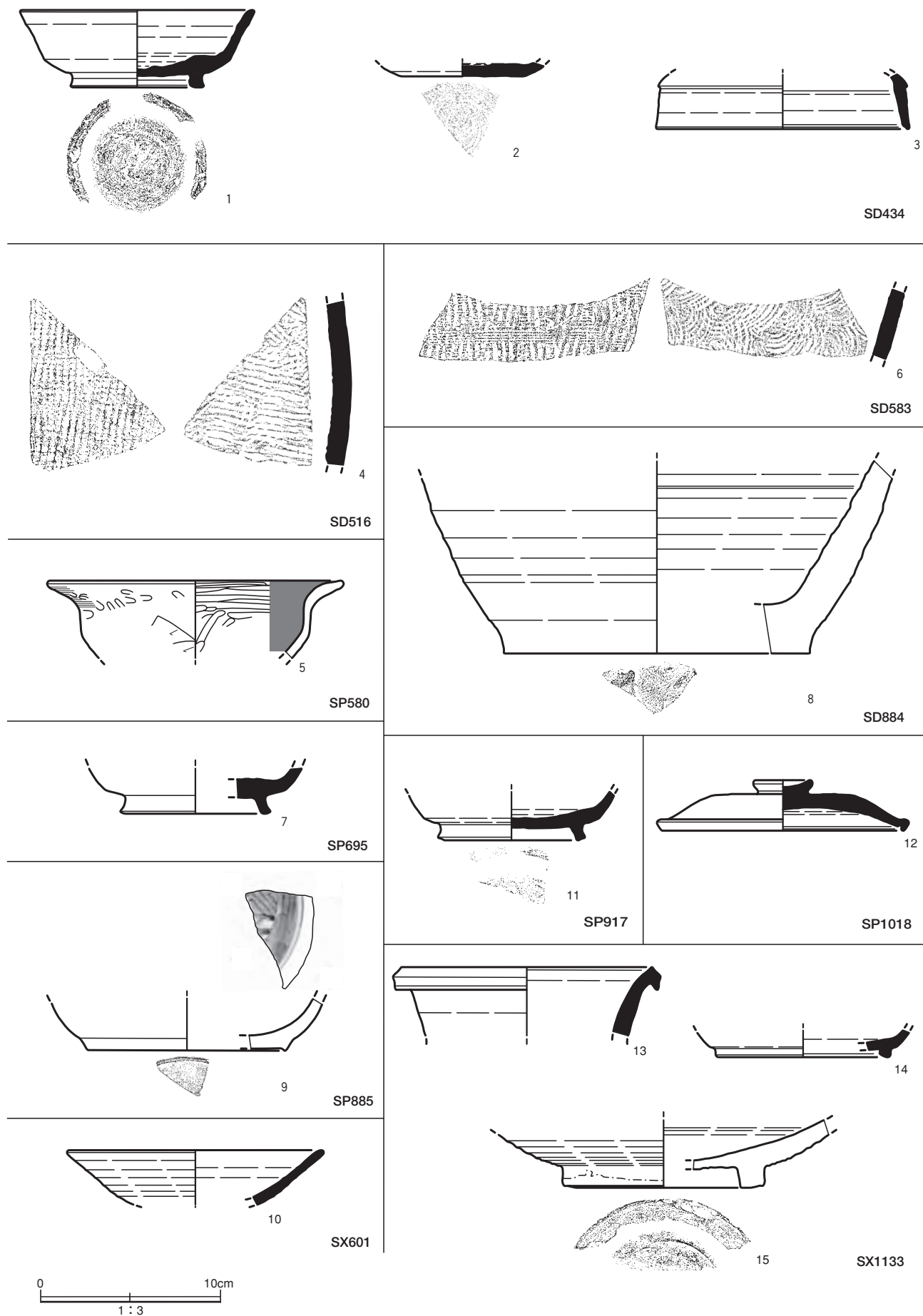
第 188 図 S D 589 出土土師器・須恵器



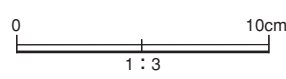
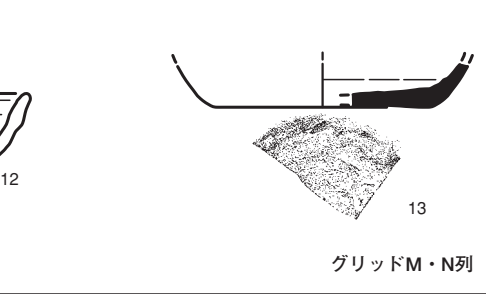
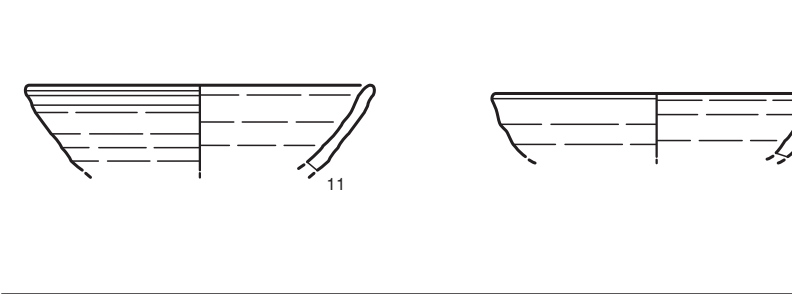
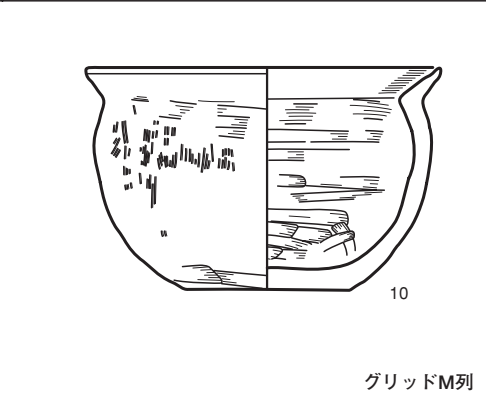
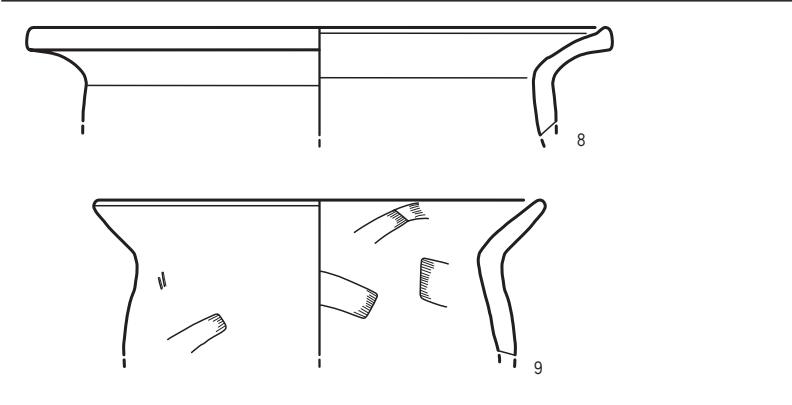
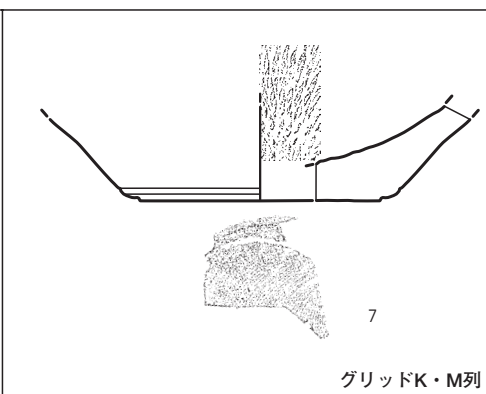
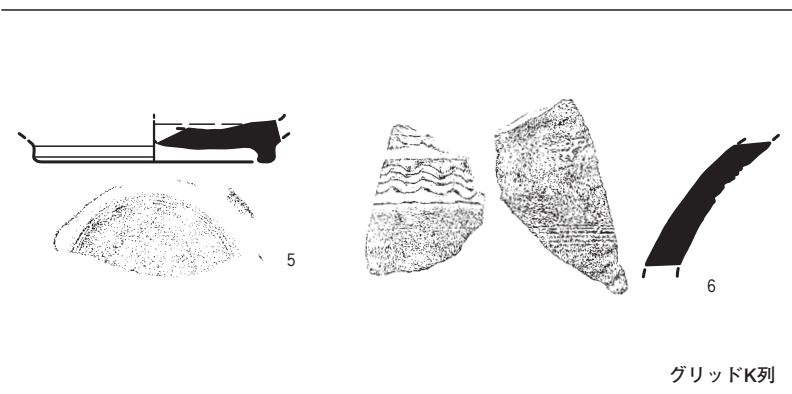
第 189 図 S D 589 出土土師器・磁器



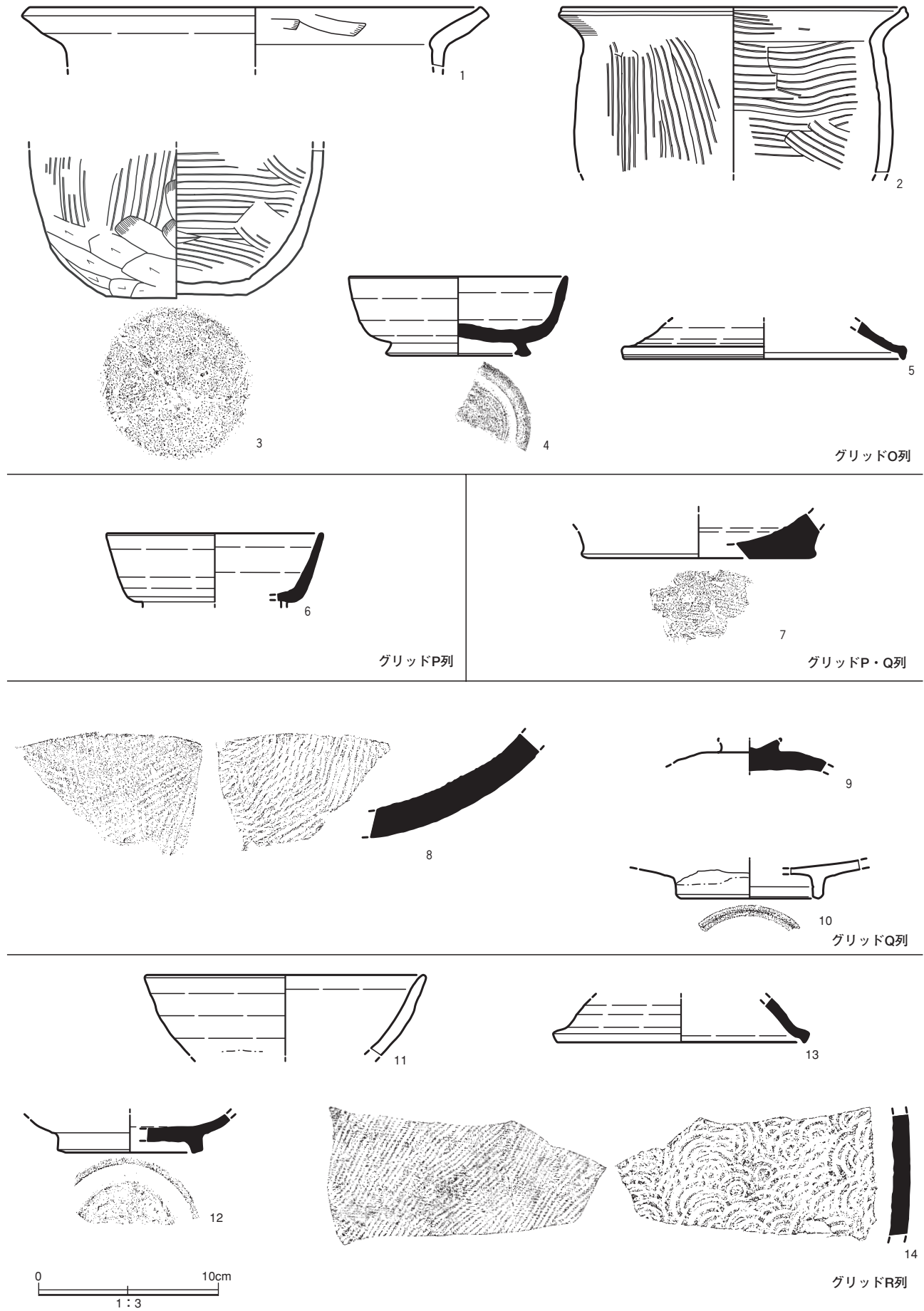
第190図 中央部遺構群井戸跡・土抗・溝跡出土土師器・須恵器



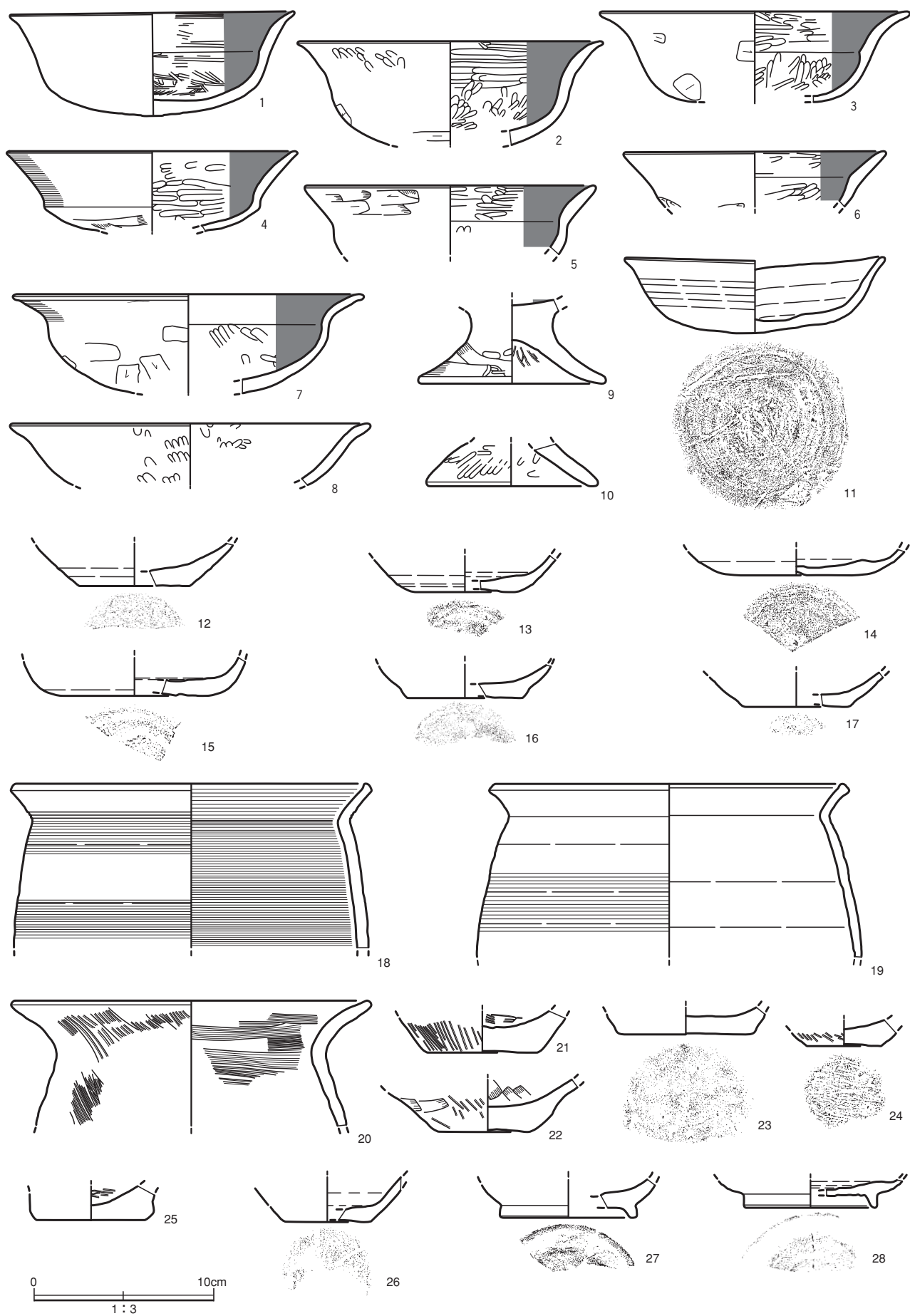
第 191 図 中央部遺構群溝跡・ピット・性格不明遺構出土土師器・須恵器・陶磁器



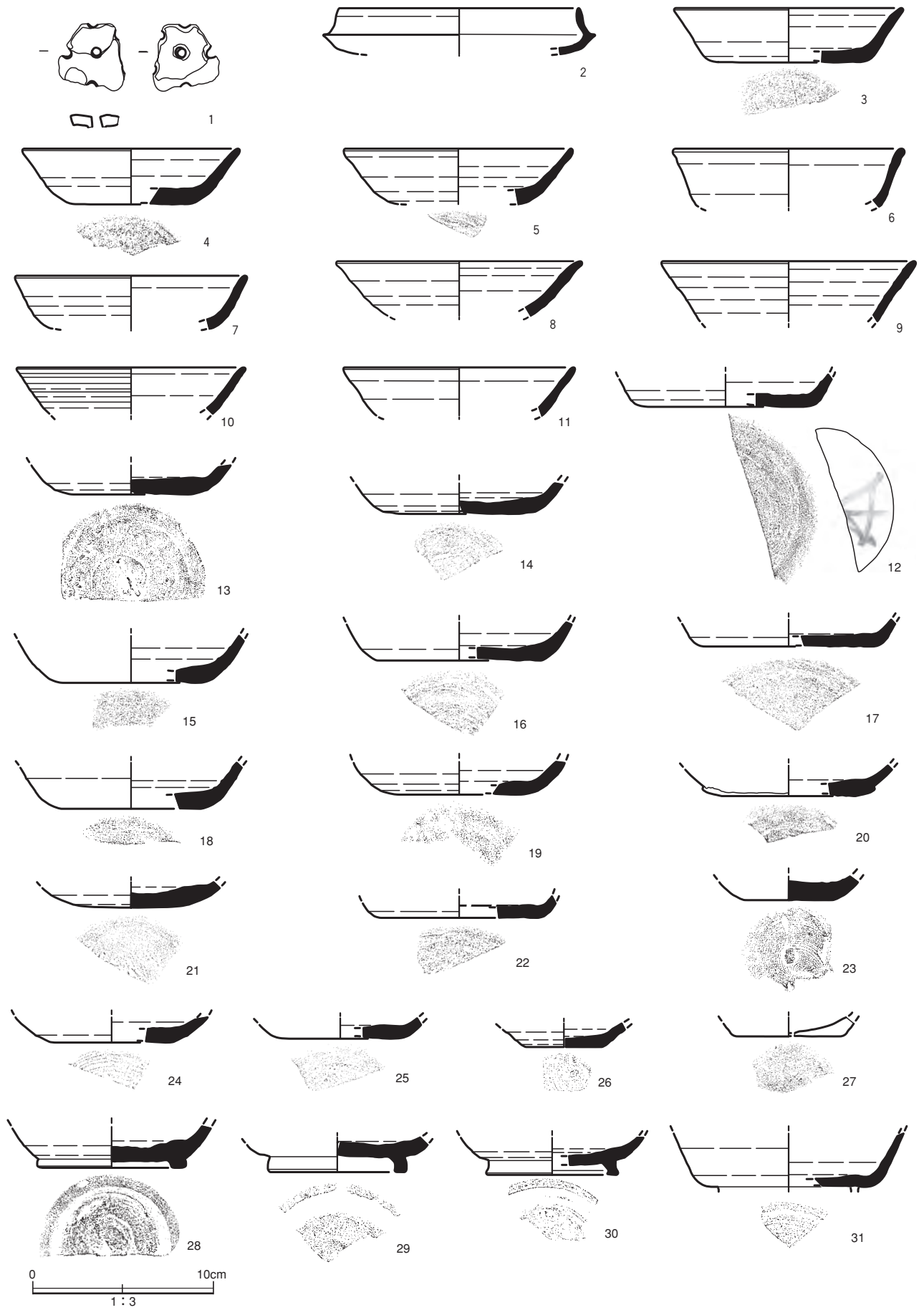
第 192 図 中央部遺構群グリッド出土土師器・須恵器・陶器（1）



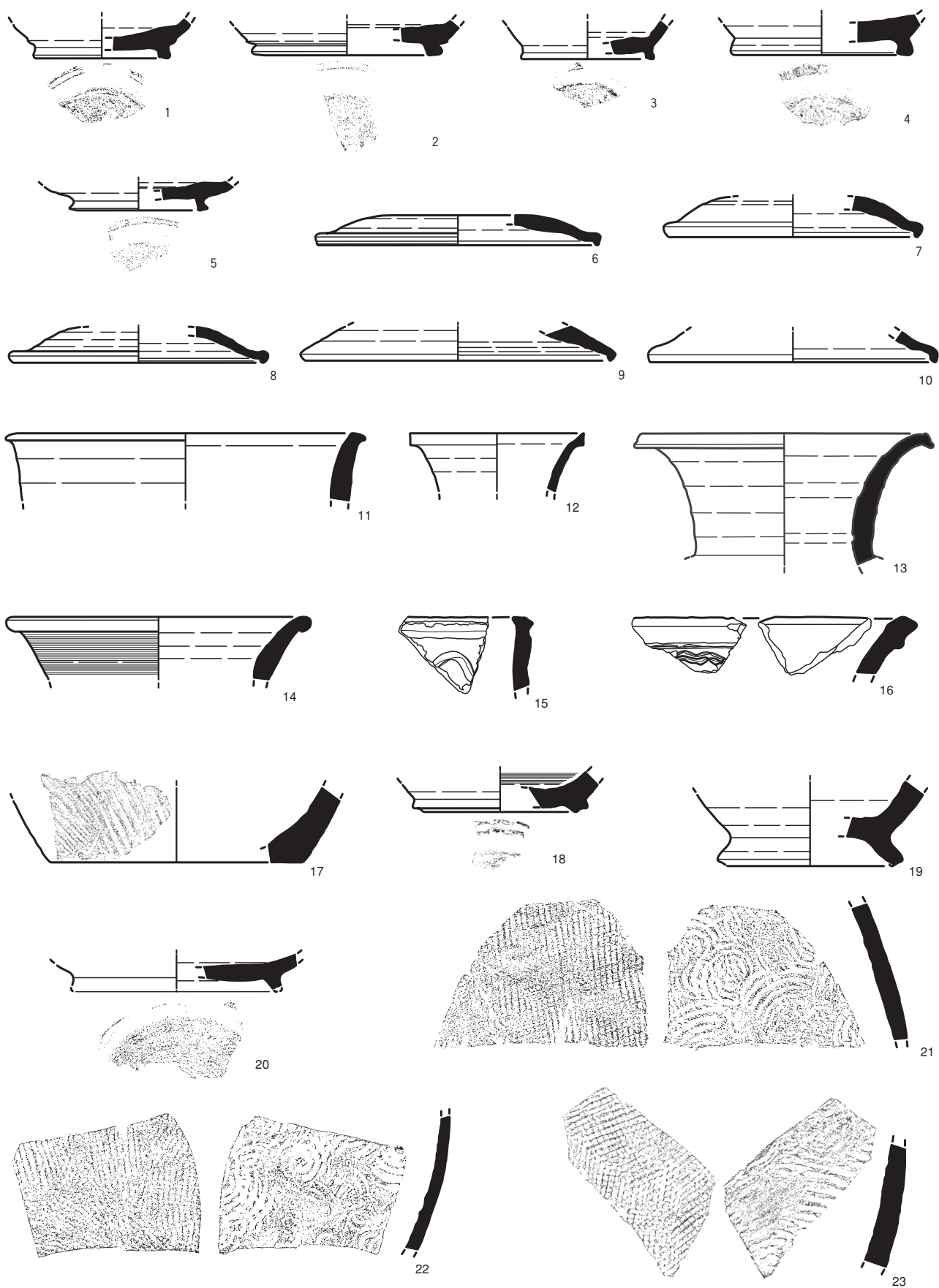
第193図 中央部遺構群グリッド出土土師器・須恵器・陶器（2）



第 194 図 調査区内出土土師器



第 195 図 調査区内出土土師器・須恵器



第 196 図 調査区内出土須恵器



第 197 図 調査区内出土須恵器・陶磁器

表2 土器計測表(1)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
68 図 1	76-1	3	C	遺物包含層	Q-17	RP93	土師器	坏	143			57	内面樹脂付着	I A1
68 図 2	76-2	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	坏	136		53	48		I A1
68 図 3		4	F	遺物包含層	P#-17#		土師器	坏	(112)			[41]	被熱	I A2a
68 図 4	76-3	4	F	遺物包含層	P-17#	RP83	土師器	坏	119			52	外面ハケメ→ミガキ	I A2a
68 図 5	76-4	4	F	遺物包含層	P#-17	RP95	土師器	坏	120			45		I A2a
68 図 6		4	F	遺物包含層	Q-18	RP96								
68 図 7	76-5	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP26	土師器	坏	(131)			[39]		I A1
68 図 8	76-6	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	坏	146		60	89	輪積痕	I A3
68 図 9	76-6	3	C	遺物包含層	Q-17	RP89	土師器	坏	71	86		54	輪積痕,内面樹脂付着	I A2c
68 図 10	76-7	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	坏	125			58	被熱	I A2b
68 図 11	76-8	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	坏	116			63	輪積痕,被熱	I A2b
68 図 12	76-9	3	C	遺物包含層	Q-17	RP87	土師器	坏	114			58	輪積痕,被熱	I A2b
68 図 13	77-1	4	F	遺物包含層	P-17	RP86	土師器	高坏	216		159	162	脚内面輪積痕,被熱	I B2b
68 図 14	77-2	4	F	遺物包含層	P-17	RP88								
68 図 15	77-3	4	F	遺物包含層	P-17	RP87	土師器	高坏	202		136	146	坏身内面樹脂付着	I B1a
68 図 16	77-4	4	F	遺物包含層	P#-17	RP97								
68 図 17	77-5	4	F	遺物包含層	P-17	RP94	土師器	高坏	185		126	137	脚内面輪積痕	I B2a
68 図 18	77-4	4	F	遺物包含層	P-17#	RP84	土師器	高坏	176		122	142	坏身火ハネ	I B2b
68 図 19	77-5	3	C	遺物包含層	Q-17	RP83	土師器	高坏	187		100	157	被熱 坏身内面樹脂付着	I B1b
68 図 20	77-6	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP36								
69 図 1	77-6	4	F	遺物包含層	P-17	RP85	土師器	高坏	176		128	138	被熱	I B2a
69 図 2	78-1	3	C	遺物包含層	P-17	RP94								
69 図 3	78-1	3	C	遺物包含層	Q-17	RP88 RP90	土師器	高坏	148		129	162	輪積痕	I B3
69 図 4	79-7	4	F	遺物包含層	P#-17	RP90	土師器	高坏			110	[69]	脚内面輪積痕	I B4a
69 図 5	78-2	3	C	遺物包含層	Q-17	RP84	土師器	高坏	131	135		[68]	被熱,内外面樹脂付着	I B3
69 図 6	78-3	3	C	遺物包含層	Q-17	RP91	土師器	高坏	169			[52]	輪積痕,被熱	I B1b
69 図 7	79-8	3	C	遺物包含層	R-18		土師器	高坏			111	[79]	脚内面輪積痕	I B4a
69 図 8	78-4	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	高坏	182			[55]	外面樹脂付着	I B1a
69 図 9	78-5	3	C	遺物包含層	Q-16	遺物群 8	土師器	高坏	190			[56]	内面樹脂付着	I B1b
69 図 10	78-6	4	F	遺物包含層	P-17	RP107	土師器	高坏	198			[69]	被熱	I B1b
69 図 11	79-9	3	C	遺物包含層	P#-17									
69 図 12	79-9	3	C	遺物包含層	Q-16	遺物群 8 RP58	土師器	高坏			125	[91]		I B4a
69 図 13	78-7	4	F	遺物包含層	P-17	RP101	土師器	高坏	176			[49]		I B1b
69 図 14	78-8	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	高坏	185			[47]		I B2a
69 図 15	79-10	4	F	遺物包含層	Q#-17#	RP72	土師器	高坏				[76]		I B4a
69 図 16	78-9	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	高坏	(187)			[56]		I B2a
69 図 17	79-1	4	F	遺物包含層	Q-17#.18		土師器	高坏	(175)			[62]		I B1b
69 図 18	79-2	4	F	遺物包含層	P#-17	RP117	土師器	高坏	174			[55.5]		I B2b
69 図 19	79-3	4	F	遺物包含層	P#-18		土師器	高坏				[60]		I B4a
69 図 20	79-3	4	F	遺物包含層	Q-17#									
70 図 1	79-3	4	F	遺物包含層	P#-17	RP103	土師器	高坏	174			[67]	口縁部煤付着	I B1b
70 図 2	79-4	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP29	土師器	高坏	(179)			[67]	口縁外面煤付着	I B1a
70 図 3	79-4	4	F	遺物包含層	Q#-18#		土師器	高坏				[75]	脚内面輪積痕,被熱	I B4a
70 図 4	79-5	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP26	土師器	高坏	154			[52]	被熱	I B2b
70 図 5	79-6	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	高坏	(184)			[48]	口縁部煤付着	I B2b
70 図 6	79-6	3	C	遺物包含層	Q-16		土師器	高坏			(164)	[36]		I B4b
70 図 7	79-3	4	F	遺物包含層	Q-18#		土師器	高坏	(169)			[51]	外面煤付着	I B1a
70 図 8	79-3	4	F	遺物包含層	P-17									
70 図 9	79-3	4	F	遺物包含層	P#-17#		土師器	高坏	(188)			[44]		I B2b
70 図 10	79-3	4	F	遺物包含層	R#-17									
70 図 11	79-5	3	C	遺物包含層	Q-16	遺物群 8	土師器	高坏		(118)		[47]	脚内面輪積痕	I B4c
70 図 12	79-6	4	F	遺物包含層	Q-17		土師器	高坏		[163]		[34]		I B2
70 図 13	79-7	2	T9	遺物包含層	P#-R-17-19		土師器	高坏		[104]		[18]		I B1
70 図 14	79-8	2	T9	遺物包含層	P#-R-17-19		土師器	高坏		[115]		[17]		I B1
70 図 15	79-9	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	高坏		(140)		[31]		I B4c

表3 土器計測表(2)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
70 図 10	79-11	3	C	遺物包含層	R-18		土師器	高坏	130	[78]		胎土に骨針,被熱	I B4c	
70 図 11		4	F	遺物包含層	P-17		土師器	高坏	(120)	[21]		被熱	I B4a	
70 図 12		3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	高坏	(132)	[21]			I B4c	
70 図 13		4	F	遺物包含層	Q-17#		土師器	高坏	(124)	[14]			I B4a	
70 図 14	80-1	4	F	遺物包含層	P#-17	RP98	土師器	壺	124	155	171		I C1	
70 図 15	80-2	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP69	土師器	壺	128	145	160		I C1	
70 図 16	80-3	3	C	遺物包含層	Q-16	遺物群 8	土師器	壺	126	142	155		I C1	
70 図 17	80-4	4	F	遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層	P#-17 P#-17 P-17 P#-17 P-16#	RP98 RP106 RP107 RP109	土師器	壺	98	96	98	外面煤付着	I C2	
70 図 18	80-5	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP31	土師器	壺	72	101	45	90	外面煤付着	I C2
70 図 19	80-6	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP37	土師器	壺	(77)	88	50	80	輪積痕	I C2
71 図 1	81-1	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	壺	103			[38]	I C2	
71 図 2	81-2	3	C	遺物包含層	Q-16.17		土師器	壺	(98)			[58]	I C2	
71 図 3	81-3	3	C	遺物包含層	R-17	RP130	土師器	壺		93		[77]	I C2	
71 図 4	81-4	3	C	遺物包含層	Q-17	RP98	土師器	壺		142		[98]	I C1	
71 図 5	81-5	4	F	遺物包含層	P#-17#		土師器	鉢	123			85	被熱	I D1
71 図 6	81-6	4	F	遺物包含層	P-17	RP105	土師器	鉢	191	185	120	154	被熱,外面煤付着	I D2
71 図 7	81-7	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP27	土師器	鉢	(165)	152	33	144	外面煤付着	I D2
71 図 8	81-8	3	C	遺物包含層	Q-16	遺物群 8	土師器	甕	(180)	(185)	44	200	被熱,外面煤付着	I E2a
71 図 9	82-1	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP30 RP32 RP34	土師器	甕	214	206	(15)	217	内外面煤付着	I E2b
72 図 1	82-2	3	C	遺物包含層	R-17.18		土師器	甕	267	286		319	被熱,外面煤付着	I E3a
72 図 2	82-3	4	F	遺物包含層	P#-17	RP108	土師器	甕	194	234		269	内面輪積痕 被熱,外面煤付着	I E3b
72 図 3	82-4	4	F	遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層	P#-17 P-17 P#-17 P-17# Q-17	RP99 RP106 RP110	土師器	甕	209	274	43	300	底部に粉痕 内面輪積痕 被熱,外面煤付着	I E3b
72 図 4	83-1	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP30	土師器	甕	144	137		147	被熱,外面煤付着	I E1a
73 図 1	83-2	3	C	遺物包含層	Q.R-17.18		土師器	甕	212	252		276	被熱,外面上半炭化物付着	I E3c
73 図 2	83-3	3	C	遺物包含層 遺物包含層	Q-17 R-17.18		土師器	甕	196	227	20	256	被熱,外面炭化物付着	I E3b
73 図 3	83-4	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP35	土師器	甕	199	222	24	259	被熱,外面煤付着	I E3c
73 図 4	84-1	4	F	遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層	P-17 P-17 P-17#	RP91 RP92	土師器	甕	207	237		273	内面輪積痕 被熱,外面煤付着	I E3b
74 図 1	84-2	3	C	遺物包含層	R-17.18		土師器	甕	195	214		249	被熱,外面煤付着	I E2d
74 図 2	84-3	3	C	遺物包含層 遺物包含層	Q-17 R-17.18		土師器	甕	196	208	34	231	内面輪積痕 被熱,外面炭化物付着	I E2d
74 図 3	84-4	4	F	遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層	P#-17 P#-17 P-17 P#-17#	RP96 RP97	土師器	甕	153	198	32	217	内面輪積痕 被熱,外面煤付着	I E2c
74 図 4	85-1	4	F	遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層	P-17 P-17 P#-17	RP89 RP107	土師器	甕	181	198	27	222	被熱,外面煤付着	I E2d
74 図 5	85-2	4	F	遺物包含層	Q-18	RP74	土師器	甕	(199)	223	38	219	被熱,外面煤付着	I E2e
75 図 1	85-3	4	F	遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層	P#-17 P-17 P-16#	RP98 RP106	土師器	甕	175	220		224	内面輪積痕 被熱,外面煤付着	I E2c
75 図 2	85-4	2	T9	遺物包含層	P.Q-18		土師器	甕	182	224	47	245	被熱,外面煤付着	I E2d

表4 土器計測表(3)

図版番号	写真番号	調査次数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
75 図3	86-1	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP32	土師器	甗	202	230	(44)	241	内面輪積痕 被熱,外面炭化物付着	I E2c
75 図4	86-2	3	C	遺物包含層	Q-16	遺物群 8	土師器	甗	185	207	38	225	被熱,外面煤付着	I E2d
75 図5	86-3	4	F	遺物包含層	Q-18	RP75	土師器	甗	215	218	30	223	内面輪積痕 被熱,外面炭化物付着	I E2b
75 図6	86-4	4	F	遺物包含層	P-17#	RP82	土師器	甗	202	220	25	239	被熱,外面炭化物付着	I E2e
76 図1	87-1	3	C	遺物包含層	Q-17	RP85	土師器	甗	150	231	62	284	内外面輪積痕 外面煤付着	I E3d
76 図2	87-2	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP33 RP34	土師器	甗	160	234	27	273	被熱,外面煤付着	I E3b
76 図3	87-3	4	F	遺物包含層 遺物包含層	Q-18 Q-18	RP74 RP75	土師器	甗	179	211	32	221	外面煤付着	I E2c
76 図4	87-4	3	C	遺物包含層	Q-16	遺物群 8	土師器	甗	(194)	207		(206)	被熱,外面煤付着	I E2d
76 図5	88-1	4	F	遺物包含層 遺物包含層	Q-17# P#-17	RP20 RP110	土師器	甗	141	186	38	200	内面輪積痕 被熱	I E2c
77 図1	88-2	3	C	遺物包含層	Q-16		土師器	甗	185	219		[238]	被熱,外面炭化物付着	I E2d
77 図2	88-3	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	甗	159	200		[236]	内面輪積痕 被熱,外面煤付着	I E2e
77 図3	88-4	3 4	C F	遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層	R-15.16 P#-17 P-17 Q-17	RP102 RP106	土師器	甗	(170)	220		[215]	内面輪積痕 被熱,外面炭化物付着	I E2e
77 図4	89-1	4	F	遺物包含層 遺物包含層	Q-17# P#-17#.18	RP35	土師器	甗	195	202		[199]	内面輪積痕 被熱,外面炭化物付着	I E2c
77 図5	89-2	3	C	遺物包含層	Q-17	RP86	土師器	甗	152	173	38	188	内面輪積痕 被熱,外面煤付着	I E1c
77 図6	89-3	3	C	遺物包含層 遺物包含層	Q-17 R-18		土師器	甗	198	198		[164]	被熱,外面炭化物付着	I E2e
78 図1	89-4	4	F	遺物包含層	Q-17	RP38	土師器	甗	(184)	256		[255]	初痕 被熱,外面煤付着	I E3b
78 図2		4	F	遺物包含層	Q#-17#		土師器	甗	(200)	(218)		[125]	被熱,外面煤付着	I E2d
78 図3		4	F	遺物包含層	P.P#-17		土師器	甗	(212)	[248]		[108]	外面煤付着	I E2d
78 図4		3	C	遺物包含層	Q-16	遺物群 8	土師器	甗	(204)	216		[143]	被熱,外面炭化物付着	I E2e
78 図5	89-5	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	甗	157	192		[107]	外面炭化物付着	I E2e
78 図6	90-1	3	C	遺物包含層	R-15		土師器	甗	(152)	195		[133]	体部上半炭化物付着	I E2e
78 図7	90-2	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	甗	(158)	[196]		[102]	外面炭化物付着	I E2e
79 図1		4	F	遺物包含層	Q-17.18		土師器	甗	(150)	[156]		[54]	内面輪積痕 被熱,内外面煤付着	I E1c
79 図2	90-3	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	甗	187	[197]		[64]	外面煤付着	I E2e
79 図3	90-4	3	C	遺物包含層	Q-16	遺物群 8	土師器	甗	(138)	148		[78]	被熱,内外面煤付着	I E1b
79 図4		3	C	遺物包含層	Q-16	遺物群 8	土師器	甗	(172)	[170]		[42]		I E2f
79 図5	90-6	4	F	遺物包含層 遺物包含層	P#-17 P#-17	RP90 RP108	土師器	甗	138	158		[125]	内面輪積痕 被熱,内外面煤付着	I E1b
79 図6	91-1	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	甗	(136)	[190]		[125]	外面煤付着	I E2c
79 図7	90-5	4	F	遺物包含層	Q-17	RP39	土師器	甗		[182]	40	[106]	内外面煤付着	I E2
79 図8	91-2	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	甗		[102]		[75]	外面煤付着	I E2
79 図9	91-3	3	C	遺物包含層	Q-17	RP100	土師器	甗		227	17	[149]	外面煤付着	I E2
79 図10	91-4	3	C	遺物包含層	Q-16	遺物群 8	土師器	甗		190		[182]	被熱,外面炭化物付着	I E2
80 図1	91-5	3	C	遺物包含層	Q-17		土師器	甗		174	27	[163]	外面煤付着	I E2
80 図2		4	F	遺物包含層 遺物包含層	P-17.17# P#-17		土師器	甗		(183)	28	[121]	外面煤付着	I E2
80 図3		2	T9	遺物包含層	P.Q-17-19		土師器	甗		[69]	28	[17]	底部ハケメ 被熱,外面炭化物付着	I E
80 図4		3	C	遺物包含層	Q-16		土師器	甗		[142]	26	[43]	被熱,外面煤付着	I E2
80 図5	91-6	3	C	遺物包含層	Q-17	RP109	土師器	甗	(184)		33	95	輪積痕	I F1
80 図6	92-1	4	F	遺物包含層	P#-17	RP104	土師器	甗	198		24	95	輪積痕,被熱	I F1
80 図7	92-2	4	F	遺物包含層	Q-17#	RP28	土師器	甗	193		60	92	輪積痕	I F2
80 図8	92-3	4	F	遺物包含層	P-17	RP93	土師器	手捏 土器	37		36	27		I G
80 図9	92-4	4	F	遺物包含層	Q#-17	RP61	土師器	手捏 土器	53		40	36		I G

表5 土器計測表 (4)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
80 図 10	92-5	4	F	遺物包含層 遺物包含層	P-17 P-16#	RP100	須恵器	甕	(73)	110	115		I I	
80 図 11		4	F	遺物包含層	P#-17#		須恵器	壺	[133]		[61]		I H	
80 図 12		3	C	遺物包含層	Q-17		須恵器	甕			[60]		I J	
81 図 1	93-1	4	F	SG100	Q#-18#		土師器	坏	154		61	内黒, 被熱	II A7	
81 図 2	93-2	4	F	SG100	R#-18#	RP55	土師器	坏	160		64	内黒	II A5a	
81 図 3	93-3	4	F	SG100 SG100	R#-18# R-18#	RP58	土師器	坏	(161)		54	内黒, 底部ハケメ	II A5a	
81 図 4	93-4	4	F	SG100	P#-18		土師器	坏	(171)		58	内黒	II A5a	
81 図 5	93-5	4	F	SG100	S#-19	RP67	土師器	坏	165		59	内黒, 被熱	II A3	
81 図 6	93-6	4	F	SG100	S-19	RP47	土師器	坏	169		62	内黒, 輪積痕, 被熱	II A6a	
81 図 7	93-7	4	F	SG100 SG100	R#-18#.19 S-18#	遺物群 2	土師器	坏	(160)		54	内黒	II A6a	
81 図 8	93-8	4	F	SG100 SG100	S-19 R#-18#	RP48 RP54	土師器	坏	172		56	内黒, 被熱	II A3	
81 図 9	93-9	2	T9	SG100	Q,R-18,19		土師器	坏	168		59	内黒	II A5a	
81 図 10	93-10	4	F	SG100	R#-19	RP43	土師器	坏	156		67	内黒, 輪積痕, 被熱	II A5a	
81 図 11	94-1	4	F	SG100	Q#-18#	RP63	土師器	坏	160		66	内黒, 輪積痕	II A3	
81 図 12	94-2	4	F	SG100	R#-18#	RP73	土師器	坏	153		50	内黒, 輪積痕	II A5a	
81 図 13	94-3	2	T9	SG100	Q,R-18,19		土師器	坏	(160)		[61]	内黒, 輪積痕, 被熱	II A6a	
81 図 14	94-4	4	F	SG100	Q-18	RP21	土師器	坏	(173)		[54]	内黒, 輪積痕	II A5a	
81 図 15	94-5	4	F	SG100 SG100	R#-18#.19 R#-19	遺物群 2 RP45	土師器	坏	(158)		[57]	内黒, 輪積痕	II A5a	
81 図 16	94-6	4	F	SG100	R#-18#.19	遺物群 2	土師器	坏	(156)		(55)	内黒	II A6a	
81 図 17		4	F	SG100 SG100 SG100	R#-18#.19 R#-19 R-19	遺物群 2 RP44	土師器	坏	(174)		[53]	内黒, 輪積痕	II A5a	
81 図 18		2	T9	SG100	Q,R-18,19		土師器	坏	(160)		[72]	内黒	II A5a	
82 図 1		4	F	SG100	S-19		土師器	坏	(148)		[51]	内黒 被熱, 外面樹脂附着	II A6a	
82 図 2		2	T9	SG100	P,R-17~19		土師器	坏	(198)		[49]		II A6a	
82 図 3		4	F	SG100	S-19		土師器	坏	(167)		[52]	内黒, 輪積痕	II A5a	
82 図 4		4	F	SG100	T-19#		土師器	坏	(148)		[56]	内黒, 底部ハケメ	II A5b	
82 図 5	94-7	4	F	SG100	R-19		土師器	坏	(152)		(55)	内黒, 輪積痕, 被熱	II A5a	
82 図 6	94-8	4	F	SG100	S-19	RP49	土師器	坏	132	135	96	内黒, 被熱	II A4	
82 図 7	94-9	4	F	SG100	R,R#-19		土師器	坏	(140)	132	92	内黒, 輪積痕	II A8a	
82 図 8	95-1	4	F	SG100	P#-18		土師器	坏	133	136	[83]	内黒, 被熱	II A8b	
82 図 9		4	F	SG100	R#-19		土師器	坏	(130)	(137)	[59]	内黒, 輪積痕	II A8a	
82 図 10	95-2	2	T9	SG100	Q,R-18,19		土師器	坏	(156)		[67]	内黒	II A9a	
82 図 11	95-3	4	F	SG100	Q#-18#	RP62	土師器	坏	85	25	44	内黒, 輪積痕	II A10a	
82 図 12	95-4	4	F	SG100	S-19	RP52	土師器	坏	108		36	内黒, 輪積痕	II A10e	
82 図 13		4	F	SG100	T-19#		土師器	坏	(138)	(145)	[44]		II A1a	
82 図 14	95-5	4	F	SG100	T-19#		土師器	坏	(94)	30	53	輪積痕	II A10b	
82 図 15	95-6	2	T8 拵	SG100	R-19		土師器	高坏	194		[125]	内黒, 輪積痕	II B1a	
82 図 16	95-7	4	F	SG100	R#-18#	RP56	土師器	高坏	187	(103)	164	内黒, 輪積痕	II B1a	
83 図 1	95-8	4	F	SG100	S-19	RP46	土師器	高坏	187	101	116	内黒, 被熱	II B1a	
83 図 2	96-1	4	F	SG100	S-19	RP51	土師器	高坏	181	93	98	内黒, 輪積痕, 被熱	II B2a	
83 図 3	96-2	4	F	SG100	R#-19	RP44	土師器	高坏	193	116	124	内黒, 輪積痕 外面樹脂附着	II B1a	
83 図 4	96-3	4	F	SG100 SG100	R#-19 R-19	RP40	土師器	高坏	182	(101)	(132)	内黒, 輪積痕	II B1a	
83 図 5	96-4	4	F	SG100 SG100	S-19 S-19	RP48 RP49	土師器	高坏	181		[76]	内黒 被熱, 外面煤附着	II B1a	
83 図 6	96-5	4	F	SG100	R#-18#	RP53	土師器	高坏	165		[87]	内黒	II B	
83 図 7		4	F	SG100	R#-18#.19	遺物群 2	土師器	高坏	[124]		[41]	内黒	II B	
83 図 8	96-6	4	F	SG100	R#-19	RP41	土師器	高坏	[78]		[60]	内黒	II B4	
83 図 9		4	F	SG100	R#-18#		土師器	高坏		97	[43]	内黒	II B4	
83 図 10		2	T8	SG100	R-19		土師器	高坏		(116)	[23]		II B4	
83 図 11		4	F	SG100	R#-18#		土師器	高坏		(120)	[19]		II B4	

表 6 土器計測表(5)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値(mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
83 図 12	96-7	4	F	SG100	S-19	RP68	土師器	壺	117	38	[74]	底部ハケメ 外面煤付着	II C1b	
83 図 13	97-1	2	T8 拡	SG100	R-19		土師器	壺	(142)	(154)	[131]		II C1a	
84 図 1	97-2	4	F	SG100 SG100	R#-18#.19 R#-19	遺物群 2 RP41	土師器	甕	186	178	46	230	被熱, 外面煤付着	II E3b
84 図 2	97-3	4	F	SG100	R#-18#	RP57	土師器	甕	187	178	28	236	輪積痕 被熱, 外面煤付着	II E3b
84 図 3	97-4	4	F	SG100	R-19	RP60	土師器	甕	168	168	(50)	192	輪積痕 被熱, 外面煤付着	II E1e
84 図 4	97-5	4	F	SG100	S-19	RP50	土師器	甕	152	145	56	167	底部管葉痕, 輪積痕 被熱, 外面煤付着	II E1d
84 図 5	98-1	2	T8 拡	SG100	R-19		土師器	甕	138	(138)		[146]	被熱, 外面煤付着	II E1b
84 図 6	98-2	4	F	SG100 SG100	R#-19 R#-18#	RP40	土師器	甕	197	191		[181]	被熱, 外面煤付着	II E3b
84 図 7	98-3	4	F	SG100	R#-19	RP59	土師器	甕	196	200		[240]	被熱, 外面煤付着	II E5c
85 図 1		4	F	SG100	S#-19		土師器	甕	(186)	(240)		[193]	被熱	II E6d
85 図 2	98-4	4	F	SG100	R#-19	RP41	土師器	甕	(200)	200		[180]	被熱, 外面炭化物付着	II E3b
85 図 3	98-5	4	F	SG100 SG100	R#-19 R#-19	RP41 RP45	土師器	甕	210	217		[174]	外面煤付着	II E4c
85 図 4	99-1	2	T8 拡	SG100	R-19		土師器	甕	(184)	(180)		[160]	被熱, 外面煤付着	II E3b
85 図 5	99-2	4	F	SG100	R#-19	RP41	土師器	甕	170	[188]		[111]	外面炭化物付着	II E4b
85 図 6	99-3	4	F	SG100	R#-19	RP42	土師器	甕	179	168		[107]	被熱, 外面煤付着	II E3a
85 図 7	99-4	2	T9	SG100	Q-R-18.19		土師器	甕	182	[172]		[73]	外面煤付着	II E3c
85 図 8	99-5	2	T9	SG100	Q-R-18.19		土師器	甕	(128)	(144)		[83]		II E2b
86 図 1		2	T9	SG100	P-R-17-19		土師器	甕	(220)	(190)		[98]		II E3b
86 図 2		4	F	SG100	U-20		土師器	甕	(200)	(182)		[133]	外面煤付着	II E3a
86 図 3		4	F	SG100	Q#-18#		土師器	甕	(173)	[190]		[80]	被熱	II E3d
86 図 4		4	F	SG100	R-19		土師器	甕	(150)	(146)		[122]	外面煤付着	II E1a
86 図 5		2	T9	SG100	P-R-17-19		土師器	甕	(178)	[178]		[67]		II E1b
86 図 6		2	T9	SG100	P-R-17-19		土師器	甕	(180)	[178]		[86]		II E3b
86 図 7		2	T8	SG100	R-19		土師器	甕	(183)			[41]		II E
86 図 8		2	T8	SG100	R-19		土師器	甕	(186)			[36]		II E
86 図 9		4	F	SG100	R-S-19		土師器	甕	(190)	[174]		[57]	外面煤付着	II E
86 図 10		2	T8	SG100	R-19		土師器	甕	(200)	[158]		[34]		II E
86 図 11		2	T8	SG100	R-19		土師器	甕	(140)	[118]		[39]	輪積痕	II E
87 図 1	99-6	4	F	SG100	R#-18#.19	遺物群 2	土師器	甕	198	43		[167]		II E
87 図 2		4	F	SG100	S#-19		土師器	甕	(208)	64		[145]		II E
87 図 3		4	F	SG100	R#-18#.19	遺物群 2	土師器	甕	[150]	42		[89]	被熱	II E
87 図 4		2	T9	SG100	P-R-17-19		土師器	甕	[136]	66		[44]	底部ハケメ 胎土に骨針含む, 被熱	II E
87 図 5		4	F	SG100	R#-18#		土師器	甕	[104]	68		[28]	被熱	II E
87 図 6		4	F	SG100	R#-18#.19	遺物群 2	土師器	甕	[76]	42		[31]	底部樹脂付着	II E
87 図 7		4	F	SG100	Q-18		土師器	甕	[75]	56		[23]	被熱	II E
87 図 8		2	T9	SG100	P-R-17-19		土師器	甕	[70]	35		[19]	被熱	II E
87 図 9		2	T9	SG100	P-R-17-19		土師器	甕	[80]	62		[16]	底部ハケメ, 被熱	II E
87 図 10		4	F	SG100	R#-19		土師器	甕	[168]	(70)		[86]	外面煤付着	II F
87 図 11		4	F	SG100	R#-19		土師器	甕	(198)			[65]		II F1
87 図 12		2	T8	SG100	R-19		須恵器	甕	(196)			[43]		II M
87 図 13		4	F	SG100	T-19#		須恵器	甕				[121]		II M
87 図 14		4	F	SG100	R#-18#		須恵器	甕				[53]		II M
87 図 15		2	T8	SG100	R-19		須恵器	甕				[52]	内外面煤付着	II M
88 図 1	100-1	3	C	SG160 SG160	W-17 V.W-18		土師器	坏	158			60	内黒	II A6a
88 図 2	100-2	3	C	SG160	V.W-17-20		土師器	坏	(152)			58	内黒, 輪積痕	II A3
88 図 3	100-3	3	C	SG160	W-18		土師器	坏	151			60	内黒	II A5a
88 図 4	100-4	3	C	SG160	W-17.18		土師器	坏	(150)			58	内黒	II A5a
88 図 5	100-5	3	C	SG160	V-20	RP158	土師器	坏	(147)			64	内黒, 被熱	II A3
88 図 6	100-6	3	C	SG160	W-18	RP137	土師器	坏	157			64	内黒, 輪積痕	II A6a

表7 土器計測表(6)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値(mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
88 図7	100-7	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(165)		57	内黒		II A5a
88 図8	100-8	3	C	SG160	W-17.18	遺物群 19	土師器	坏	(164)		64	内黒,輪積痕		II A5a
88 図9	100-9	3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(149)		57	内黒,被熱		II A5a
88 図10	100-10	3	C	SG160	W-18	遺物群 20	土師器	坏	152		58	内黒		II A6a
88 図11	101-1	3	C	SG160	W-18	RP166	土師器	坏	166		62	内黒,被熱		II A6a
88 図12	101-2	3	C	SG160	W-18	遺物群 18	土師器	坏	158		66	内黒,輪積痕		II A6a
88 図13	101-3	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(157)		60	内黒		II A6a
88 図14	101-4	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	167		62	内黒		II A5a
88 図15	101-5	3	C	SG160	W-18	遺物群 13	土師器	坏	159		53	内黒		II A5a
				SG160	W-17									
88 図16	101-6	3	C	SG160	V-18		土師器	坏	(164)		62	内黒		II A6a
				SG160	W-19									
88 図17	101-7	3	C	SG160	W-17.18		土師器	坏	(160)		55	内黒,輪積痕		II A5a
88 図18	101-8	3	C	SG160	W-18	RP118	土師器	坏	(146)		53	内黒,輪積痕		II A5a
				SG160	W-17									
89 図1	101-9	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(160)		57	内黒		II A6a
89 図2	101-10	3	C	SG160	W-17	遺物群 9	土師器	坏	(176)		66	内黒,輪積痕		II A6a
89 図3	102-1	3	C	SG160	W-17.18		土師器	坏	(160)		60	内黒		II A5b
89 図4	102-2	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(163)		59	内黒		II A5a
89 図5	102-3	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(172)		67	内黒,輪積痕		II A5a
89 図6	102-4	3	C	SG160	W-17	RP115	土師器	坏	166		58	内黒,輪積痕		II A5a
89 図7	102-5	3	C	SG160	W-17.18		土師器	坏	(149)		58	内黒		II A5a
89 図8	102-6	3	C	SG160	W-18	RP65	土師器	坏	165		65	内黒		II A6a
89 図9	102-7	3	C	SG160	W-18	遺物群 12 RP140	土師器	坏	155		62	内黒,輪積痕		II A5a
89 図10		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(156)		64	内黒		II A3
89 図11	102-8	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(159)		58	内黒,輪積痕,被熱		II A6a
89 図12	102-9	3	C	SG160	W-18	遺物群 15	土師器	坏	(165)		52	内黒		II A5a
89 図13	102-10	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	150		53	内黒		II A5a
89 図14	103-1	3	C	SG160	W-17	遺物群 9 RP111	土師器	坏	157		57	内黒,底部ハケメ,輪積痕 外面煤付着		II A5a
89 図15	103-2	3	C	SG160	V-18.19		土師器	坏	157		60	内黒,輪積痕,被熱		II A5a
89 図16	103-3	3	C	SG160	V.W-18		土師器	坏	(156)		55			II A6a
89 図17	103-4	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(164)		56	内黒,輪積痕		II A5a
89 図18	103-5	3	C	SG160	W-18	遺物群 15	土師器	坏	148		61	内黒,被熱,外面煤付着		II A5a
				SG160	W-17									
90 図1	103-6	3	C	SG160	W-18	遺物群 20	土師器	坏	179		60	内黒,輪積痕		II A5a
				SG160	W-17									
90 図2	103-7	3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(167)		59	内黒,輪積痕		II A5a
90 図3	103-8	3	C	SG160	W-18	遺物群 14	土師器	坏	152		58	内黒		II A5a
				SG160	W-17									
90 図4	103-9	3	C	SG160	W-17	RP96 RP120	土師器	坏	155		59	内黒,底部ハケメ		II A5a
90 図5	103-10	3	C	SG160	W-17	RP104	土師器	坏	177		61	内黒		II A5a
90 図6	104-1	3	C	SG160	W-18	遺物群 17	土師器	坏	(158)		55	内黒,輪積痕		II A3
				SG160	W-18					遺物群 20				
				SG160	W-17									
90 図7	104-2	3	C	SG160	W-17	RP114	土師器	坏	166		61	内黒,輪積痕		II A5a
90 図8	104-3	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(165)		65			II A5a
90 図9	104-4	3	C	SG160	W-17.18	遺物群 13	土師器	坏	(162)		66	内黒,被熱		II A6a
90 図10	104-5	3	C	SG160	W-17	遺物群 10	土師器	坏	(158)		66	内黒		II A5a
90 図11	104-6	3	C	SG160	W-18	RP116	土師器	坏	166		66	内黒,輪積痕		II A5a
90 図12	104-7	3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(159)		61	内黒		II A5a
90 図13	104-8	3	C	SG160	V-18.19	遺物群 21	土師器	坏	(149)		55	内黒,底部ハケメ,輪積痕		II A6a
90 図14	104-9	3	C	SG160	V.W-18	遺物群 22	土師器	坏	172		66	内黒,輪積痕,外面煤付着		II A6a
90 図15	104-10	3	C	SG160	W-18	遺物群 22 RP165	土師器	坏	(155)		59	内黒,輪積痕,被熱		II A5a
90 図16	105-1	3	C	SG160	W-17.18	遺物群 17 遺物群 20	土師器	坏	152		58	内黒		II A5a

表8 土器計測表(7)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
90 図 17	105-2	3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(168)		55	内黒,被熱	II A6a	
91 図 1	105-3	3	C	SG160	W-17,18		土師器	坏	153		64	内黒	II A7	
91 図 2	105-4	3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(170)		63	内黒,被熱	II A5a	
91 図 3	105-5	3	C	SG160 SG160	W-18 V-18	遺物群 18	土師器	坏	168		64	内黒,輪積痕	II A6b	
91 図 4	105-6	3	C	SG160	W-18	RP148	土師器	坏	(154)		69	内黒,被熱	II A7	
91 図 5	105-7	3	C	SG160	V-19	RP145	土師器	坏	(162)		57	内黒,輪積痕,被熱	II A3	
91 図 6	105-8	3	C	SG160	V-20	遺物群 24	土師器	坏	(159)		57	内黒,被熱,外面煤付着	II A3	
91 図 7	105-9	3	C	SG160	V-18	RP141	土師器	坏	160		56	内黒	II A5a	
91 図 8	105-10	3	C	SG160	V-18		土師器	坏	(164)		64	内黒,被熱,外面煤付着	II A6a	
91 図 9	106-1	3	C	SG160	W-18	RP149	土師器	坏	148		63	内黒,底部ハケメ	II A3	
91 図 10	106-2	4	F	SG160	U.U#-21		土師器	坏	(145)		52	内黒	II A3	
91 図 11	106-3	3	C	SG160	W-18	RP126	土師器	坏	177		55	内黒	II A6b	
91 図 12	106-4	3	C	SG160	V.W-18		土師器	坏	(160)		53	内黒	II A6a	
91 図 13	106-5	3	C	SG160	W-18	遺物群 15 RP128	土師器	坏	(153)		59	内黒	II A5a	
91 図 14	106-6	3	C	SG160	W-18	RP127	土師器	坏	(157)		53	内黒,外面煤付着	II A7	
91 図 15	106-7	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(161)		58	内黒,輪積痕,被熱	II A6a	
91 図 16	106-8	3	C	SG160 SG160	V-20 V-19	RP159	土師器	坏	135		53	被熱	II A7	
91 図 17	106-9	3	C	SG160	V.W-18	遺物群 22	土師器	坏	(158)		54		II A6b	
91 図 18	106-10	3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(139)		46	内黒,被熱	II A7	
92 図 1	107-1	3	C	SG160	V-19	RP146	土師器	坏	152		60	内黒,輪積痕,被熱	II A6b	
92 図 2	107-2	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	163		[55]	内黒,輪積痕	II A5a	
92 図 3	107-3	3	C	SG160	V-20	RP153	土師器	坏	140		53	内黒	II A6b	
92 図 4	107-4	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(166)		[54]	内黒	II A5a	
92 図 5		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(156)		56	内黒,被熱	II A6a	
92 図 6	107-5	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(140)		57		II A6a	
92 図 7	107-6	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(150)		62	内黒	II A3	
92 図 8		3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(152)		[63]	内黒	II A6a	
92 図 9		3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(168)		[57]	内黒,底部ハケメ,輪積痕	II A7	
92 図 10		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(152)		[56]	内黒	II A5a	
92 図 11		3	C	SG160	V-18,19		土師器	坏	(172)		[56]	内黒,被熱	II A6a	
92 図 12		3	C	SG160	W-18	遺物群 18	土師器	坏	(164)		[50]	内黒	II A6a	
92 図 13		3	D	SG160	V-20		土師器	坏	(148)		[51]	内黒,胎土に骨針,被熱	II A7	
92 図 14		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(182)		[52]	内黒,輪積痕	II A6a	
92 図 15	107-7	3 4	D F	SG160 SG160	V-20,21 U#-20#		土師器	坏	162		[49]	外面煤付着	II A5a	
92 図 16		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(166)		[57]	内黒	II A5a	
92 図 17		3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(174)		[60]	内黒,被熱	II A7	
92 図 18		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(172)		[48]	内黒,輪積痕	II A5a	
93 図 1		3	D	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 16	土師器	坏	(146)		[43]	内黒,輪積痕	II A5a	
93 図 2		3	C	SG160	W-18	遺物群 20	土師器	坏	(166)		[51]	内黒	II A5a	
93 図 3		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(164)		[46]	内黒	II A5a	
93 図 4		3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 18	土師器	坏	(154)		[42]	内黒,被熱	II A5a	
93 図 5		3	C	SG160	V-19	RP145	土師器	坏	(188)		[53]	内黒,輪積痕	II A5a	
93 図 6	107-8	3	C	SG160 SG160	V-20 W-19		土師器	坏	(150)		[39]	内黒,被熱	II A7	
93 図 7		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(158)		[36]	内黒	II A7	
93 図 8		3	C	SG160	W-18	遺物群 18	土師器	坏	(178)		[48]	内黒,被熱	II A6a	
93 図 9		3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(153)		[48]	内黒	II A3	
93 図 10	107-9	3	C	SG160	V-19,20		土師器	坏	(134)		[37]	内黒	II A7	
93 図 11		3	C	SG160	V-19,20		土師器	坏	(154)		[42]	内黒,輪積痕,被熱	II A7	
93 図 12		3	C	SG160	V.W-17-20		土師器	坏	(148)		[44]	内黒,被熱	II A7	
93 図 13		3	C	SG160	W-18	遺物群 17	土師器	坏	(152)		[56]	内黒	II A5a	

表9 土器計測表(8)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			備考	分類
									口径	胴径	底径 器高		
93 図 14		3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 15	土師器	坏	(190)	[56]	内黒, 輪積痕	II A5a	
93 図 15		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(148)	[51]	内黒	II A5a	
93 図 16		3	D	SG160	W-18	遺物群 18	土師器	坏	(158)	[53]	内黒, 被熱	II A5a	
93 図 17		3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(174)	[56]	内黒	II A6a	
93 図 18		3	C	SG160	W-17	遺物群 9	土師器	坏	(146)	[51]	内黒, 輪積痕 外面煤付着	II A5a	
93 図 19		3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(162)	[51]	内黒, 輪積痕, 被熱	II A6a	
93 図 20		3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 12	土師器	坏	(168)	[46]	内黒, 輪積痕	II A5a	
93 図 21		3	C	SG160	V.W-17~20		土師器	坏	(150)	[51]	内黒	II A6a	
94 図 1		3	C	SG160	W-17	遺物群 9	土師器	坏	(150)	[47]	内黒, 輪積痕 被熱, 外面煤付着	II A5a	
94 図 2		3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(166)	[49]	内黒, 輪積痕, 被熱	II A3	
94 図 3	107-10	3	C	SG160	V.W-18	遺物群 22	土師器	坏	158	[50]	内黒, 被熱, 外面煤付着	II A6a	
94 図 4	108-1	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 20	土師器	坏	161	[59]	内黒	II A6a	
94 図 5		3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(172)	[55]	内黒, 輪積痕	II A5a	
94 図 6	108-2	3	C	SG160	W-17	RP129	土師器	坏	158	[55]	内黒, 輪積痕	II A3	
94 図 7	108-3	3	C	SG160 SG160 SG160	W-18 W-18 W-17	遺物群 17 遺物群 20	土師器	坏	162	[59]	内黒	II A5a	
94 図 8	108-4	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(160)	[56]	内黒	II A5a	
94 図 9		3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(146)	[51]	内黒	II A6a	
94 図 10	108-5	3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(165)	[51]	内黒	II A6a	
94 図 11		3	C	SG160	W-17.18		土師器	坏	(162)	[55]	内黒, 輪積痕, 被熱	II A5a	
94 図 12		3	C	SG160	V.W-18		土師器	坏	(164)	[55]	内黒	II A5a	
94 図 13	108-6	3	C	SG160	W-17	RP123	土師器	坏	159	[53]	内黒	II A5a	
94 図 14	108-7	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	145	129	[68]	内黒, 輪積痕	II A3
94 図 15		3	D	SG160	W-17		土師器	坏	(150)	[53]	内黒	II A5a	
94 図 16		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(160)	[57]	内黒	II A5a	
94 図 17		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(156)	[51]	内黒	II A5a	
94 図 18		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(154)	[44]	内黒	II A6a	
94 図 19		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(160)	[46]	内黒, 被熱	II A5a	
94 図 20	108-8	3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(146)	[48]	内黒	II A3	
95 図 1		3	D	SG160 SG160	V-18 W-17		土師器	坏	(146)	[51]	内黒	II A6a	
95 図 2		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(138)	[41]		II A6b	
95 図 3		3	C	SG160	W-17	遺物群 9	土師器	坏	(131)	[41]	内黒	II A7	
95 図 4		3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(158)	[52]	内黒	II A6b	
95 図 5		3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(152)	[51]	内黒, 被熱	II A6b	
95 図 6		3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(154)	[60]	内黒	II A6b	
95 図 7		3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(160)	[43]	内黒	II A5a	
95 図 8		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(168)	[46]	内黒	II A6b	
95 図 9		3	C	SG160	W-17.18		土師器	坏	(154)	[53]	内黒	II A6b	
95 図 10		3	D	SG160	V-20.21		土師器	坏	(168)	[41]	内黒, 被熱	II A6a	
95 図 11		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(148)	[43]	内黒, 被熱	II A6b	
95 図 12		3	C	SG160	W-18	遺物群 16	土師器	坏	(154)	[40]	内黒, 外面煤付着	II A5a	
95 図 13		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(154)	[35]	内黒	II A5a	
95 図 14		3	C	SG160	V.W-17~20		土師器	坏	(154)	[35]	内黒	II A5a	
95 図 15		3	C	SG160 SG160	V-19 W-17		土師器	坏	(166)	[38]	内黒	II A5a	
95 図 16		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(159)	[38]	内黒	II A6b	
95 図 17		3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 16	土師器	坏	[125]	[31]	底部ハケメ, 外面煤付着	II A	
95 図 18	108-9	3	C	SG160	V-19		土師器	坏	(124)	(64)	43 外面煤付着	II A10c	
95 図 19	108-10	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(182)	[62]	内黒	II A6a	
95 図 20		3	C	SG160	W-18	遺物群 16	土師器	坏	(186)	(184)	[45]	内黒	II A2b

表 10 土器計測表 (9)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
96 図 1	109-1	3	C	SG160	W-17	RP111	土師器	坏	(149)	147	89	内黒, 輪積痕	II A8a	
96 図 2	109-2	3	C	SG160	W-17	遺物群 9	土師器	坏	145	141	86	内黒, 輪積痕 被熱, 外面煤付着	II A8a	
96 図 3	109-3	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 17	土師器	坏	148	143	79	内黒, 輪積痕, 底部螺旋状ナデ 外面煤付着	II A4	
96 図 4	109-4	3	C	SG160	W-18	RP132	土師器	坏	140	136	78	内黒, 被熱	II A8c	
96 図 5	109-5	3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(152)	141	84	内黒	II A8a	
96 図 6	109-6	3	C	SG160	W-18	RP64	土師器	坏	137	132	84	内黒, 輪積痕, 被熱	II A8c	
96 図 7	109-7	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(114)	123	93	内黒	II A8c	
96 図 8	109-8	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(148)	145	67	内黒, 被熱	II A5a	
96 図 9		3	C	SG160	V.W-17-20		土師器	坏	(134)	(122)	[77]	内黒	II A8a	
96 図 10	110-1	3	C	SG160	W-17.18		土師器	坏	(120)	118	[55]	内黒, 被熱	II A8c	
96 図 11		3	C	SG160	W-18		土師器	坏	(164)	(160)	[59]	内黒, 輪積痕	II A4	
96 図 12		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(144)		[49]	内黒, 被熱	II A7	
96 図 13	110-2	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	[146]	(146)	[60]	内黒, 被熱	II A	
96 図 14		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(148)	(139)	[70]	内黒, 被熱	II A8a	
96 図 15		3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(146)		[48]	内黒, 輪積痕	II A5b	
96 図 16	110-3	3	C	SG160	W-18	遺物群 16	土師器	坏	111	124	64		II A2a	
96 図 17	110-4	3	C	SG160	W-17		土師器	坏	(82)		44	輪積痕	II A1c	
96 図 18	110-5	3	C	SG160	W-17.18		土師器	坏	(72)	80	43	36	内黒, 輪積痕	II A2d
96 図 19	110-6	3	C	SG160	W-18	RP117	土師器	坏	(87)		44	内黒, 輪積痕	II A1d	
97 図 1	111-2	3	C	SG160	W-17		土師器	高坏	(156)	82	91	内黒	II B3	
97 図 2	111-1	3	C	SG160	V-18.19	遺物群 21	土師器	高坏	209		98	94	内黒, 輪積痕	II B1b
97 図 3	111-3	3	C	SG160	W-17		土師器	高坏	153	(92)	93	内黒, 輪積痕	II B2a	
97 図 4	111-4	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 13	土師器	高坏	153	90	95		II B1a	
97 図 5	111-5	3	C	SG160	W-17.18	遺物群 13	土師器	高坏	(194)	(90)	61	内黒, 輪積痕	II B1a	
97 図 6	112-1	3	C	SG160 SG160 SG160	W-17 W-17 W-17	遺物群 10 遺物群 11 RP122	土師器	高坏	152	77	81	内黒	II B1a	
97 図 7	112-2	3	C	SG160	W-17.18	遺物群 13	土師器	高坏	167	120	93	内黒, 輪積痕	II B1a	
97 図 8	112-3	3	C	SG160	W-17		土師器	高坏	(181)	(91)	116	内黒, 被熱	II B1a	
97 図 9	112-4	3	C	SG160	W-17.8		土師器	高坏	(165)	(93)	107	内黒, 輪積痕	II B2a	
97 図 10	112-5	3	C	SG160	W-18	RP124	土師器	高坏	157	86	87	内黒	II B1c	
97 図 11	112-6	3	C	SG160	W-18	RP136	土師器	高坏	180		[102]	内黒, 外面煤付着	II B1a	
97 図 12	112-7	3	C	SG160	W-17		土師器	高坏	164		[86]	内黒	II B1a	
97 図 13	112-8	3	C	SG160	W-17		土師器	高坏	203		[63]	内黒, 被熱	II B1b	
97 図 14	113-1	3	C	SG160	W-17.18	遺物群 17	土師器	高坏	144		[75]	内黒	II B1a	
97 図 15	113-2	3	C	SG160	W-18		土師器	高坏		(96)	[84]	内黒, 被熱	II B	
98 図 1		3	D	SG160	V-20		土師器	高坏	[138]		[39]	被熱	II B	
98 図 2		3	C	SG160	V-18		土師器	高坏		(90)	[27]	内黒, 被熱	II B4	
98 図 3		3	C	SG160	W-17		土師器	高坏			[34]	内黒	II B4	
98 図 4		3	C	SG160	W-17		土師器	高坏		87	[35]	内黒	II B4	
98 図 5	113-3	3	C	SG160	V-20	RP161	土師器	高坏		101	[56]	内黒	II B4	
98 図 6		3	C	SG160	W-17		土師器	高坏		(90)	[49]	被熱, 外面樹脂付着	II B4	
98 図 7		3	C	SG160	W-18		土師器	高坏		(92)	[40]	内黒	II B4	
98 図 8	113-4	3	C	SG160	W-18	遺物群 20	土師器	鉢	183	156	30	133	輪積痕, 底部笹葉痕 被熱, 外面煤付着	II D1a
98 図 9	113-5	3	C	SG160	W-17	RP112	土師器	鉢	148	133	86	輪積痕	II D2a	
98 図 10	113-6	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 12	土師器	鉢	141	132	[107]		II D2a	
98 図 11		3	C	SG160 SG160	W-17.18 W-17	遺物群 19	土師器	鉢	(166)	(168)	[94]		II D1b	
98 図 12		3	C	SG160	W-17		土師器	鉢	(80)		[45]		II D3	
98 図 13	113-7	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 13	土師器	壺	162	292	78	393	被熱	II C4
99 図 1	114-1	3	C	SG160	W-17	遺物群 9	土師器	壺	(124)	162	173	被熱	II C2b	

表 11 土器計測表 (10)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
99 図 2	114-2	3	C	SG160 SG160 SG160	W-17 W-17 W-18	遺物群 9 遺物群 11 遺物群 18	土師器	壺	168	289	68	315	被熱,外面煤付着	II C5
99 図 3	114-3	3	C	SG160	V.W-18	RP150	土師器	壺	(140)	214	58	233	被熱,外面煤付着	II C3
99 図 4	114-4	3	C	SG160	W-17	RP104	土師器	壺	(128)	168		[144]		II C2a
99 図 5	114-5	3	D	SG160 SG160	V-20 V-21	RP51	土師器	壺		264	64	[261]	被熱,外面煤付着	II C5
100 図 1	115-1	3	C	SG160	V-18.19	遺物群 21	土師器	壺	(132)	186		[195]	被熱	II C2a
100 図 2	115-2	3	C	SG160	W-17.18	遺物群 19	土師器	壺	(204)	303	(80)	(345)	被熱,外面煤付着	II C5
100 図 3	115-3	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 20	土師器	甕	207	248	63	297	被熱,外面煤付着	II E6b
100 図 4	115-4	3	C	SG160	W-17	遺物群 9	土師器	甕	(184)	201	45	242	被熱,外面煤付着	II E5b
101 図 1	116-1	3	C	SG160 SG160	V.W-18 W-18	遺物群 22 RP154	土師器	甕	246	280	(70)	340	被熱,外面煤付着	II E6c
101 図 2	116-2	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	RP131	土師器	甕	190	207	62	248	底部ハケメ 被熱,外面煤付着	II E4a
101 図 3	116-3	3	C	SG160 SG160 SG160 SG160	W-18 W-18 W-18 W-17	遺物群 12 遺物群 13 遺物群 20	土師器	甕	195	209	57	250	輪積痕 被熱,外面煤付着	II E6b
101 図 4	116-4	3	C	SG160	V.W-19	RP155	土師器	甕	190	225	51	280	被熱,外面煤付着	II E6a
102 図 1	117-1	3	C	SG160 SG160	W-18 W-18	遺物群 17 遺物群 20	土師器	甕	210	240	46	315	被熱,内外面煤付着	II E5c
102 図 2	117-2	3	C	SG160	W-17	RP104	土師器	甕	202	221	44	289	被熱,外面煤付着	II E5b
102 図 3	117-3	3	C	SG160	W-17	RP54	土師器	甕	(187)	224	57	281	被熱,外面煤付着	II E6a
102 図 4	117-4	3	C	SG160	W-17	RP107	土師器	甕	197	211	52	255	輪積痕 被熱,外面炭化物付着	II E6c
103 図 1	118-1	3	C	SG160	W-17	RP104	土師器	甕	154	171	51	252	被熱,外面煤付着	II E5b
103 図 2	118-2	3	C	SG160	W-17	遺物群 9	土師器	甕	(133)	176	(50)	270	被熱,外面煤付着	II E5a
103 図 3	118-3	3	C	SG160	V.W-19	RP156	土師器	甕	185	152	46	299	被熱,外面煤付着	II E5a
103 図 4	118-4	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	RP135	土師器	甕	(161)	179	52	258	被熱,外面煤付着	II E5a
103 図 5	119-1	3	C	SG160 SG160	W-18 W-18	遺物群 20 RP144	土師器	甕	164	192	66	226	底部ハケメ 被熱,外面煤付着	II E3a
104 図 1	119-2	3	C	SG160	V.W-18	遺物群 22	土師器	甕	181	195		[229]	被熱,外面煤付着	II E3b
104 図 2	119-3	3	C	SG160 SG160	W-18 V.W-18	遺物群 18 遺物群 22	土師器	甕	(235)	279		[286]	被熱,外面煤付着	II E6b
104 図 3	119-4	3	C	SG160 SG160 SG160	W-18 W-18 W-18	遺物群 13 遺物群 20 RP147	土師器	甕	(190)	197		[212]	被熱,外面煤付着	II E3b
104 図 4	120-1	3	C	SG160	V-18	RP138	土師器	甕	190	215		[206]	被熱	II E5c
104 図 5	120-2	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 13	土師器	甕	154	165		[249]	被熱,外面煤付着	II E5a
105 図 1	120-3	3	C	SG160	V-20	RP160	土師器	甕	182	214		[250]	被熱,外面煤付着	II E5c
105 図 2	120-4	3	D	SG160	V-20	RP168	土師器	甕	(186)	212		[237]	被熱,外面煤付着	II E5a
105 図 3	121-1	3	C	SG160	W-18		土師器	甕	(200)	190		[177]	外面煤付着	II E3b
105 図 4	121-2	3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(170)	190		[227]	被熱,外面煤付着	II E3b
105 図 5	121-3	3	C	SG160	W-18	RP133	土師器	甕	(200)	240		[182]	外面煤付着	II E5b
105 図 6	121-4	3	C	SG160	W-17		土師器	甕	174	203		[146]	被熱,外面炭化物付着	II E3b
106 図 1	122-1	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 13	土師器	甕	(162)	177		[239]	被熱	II E3b
106 図 2	122-2	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	RP125	土師器	甕	166	192		[238]	被熱,外面煤付着	II E3c
106 図 3	122-3	3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(143)	163		[196]	輪積痕,被熱	II E3c
106 図 4	122-4	3	C	SG160	W-17.18		土師器	甕	(167)	195		[250]	被熱	II E5c
106 図 5	123-1	3	C	SG160	V-18.19	遺物群 21	土師器	甕	171	189		[252]	被熱,外面煤付着	II E5c
107 図 1	123-2	3	C	SG160 SG160	W-18 W-18	遺物群 15 遺物群 16	土師器	甕	180	169	42	171	被熱,外面煤付着	II E1b

表 12 土器計測表 (11)

図版番号	写真番号	調査回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
107 図 2	123-3	3	C	SG160 SG160	V-18.19 W-18	遺物群 21	土師器	甗	130	129	42	130	被熱, 外面煤付着	II E1a
107 図 3	123-4	3	C	SG160	W-18	RP164	土師器	甗	157	151	32	163	被熱, 外面煤付着	II E1c
107 図 4	123-5	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 12	土師器	甗	140	142	(38)	144	底部ハケメ	II E1a
107 図 5	124-1	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	RP134	土師器	甗	(110)	125	47	135	底部ハケメ, 被熱	II E2d
107 図 6	124-2	3	C	SG160 SG160	V-20 V-19	遺物群 24	土師器	甗	(178)	161	34	163	被熱, 外面煤付着	II E1b
107 図 7	124-3	3	C	SG160	W-17	遺物群 9	土師器	甗	193	174	47	174	底部ハケメ 被熱, 外面煤付着	II E1e
107 図 8	124-4	3	C	SG160 SG160 SG160	V-18.19 V-18 W-18	遺物群 21 RP142	土師器	甗	151	148	45	141	被熱, 内外面煤付着	II E1a
107 図 9	124-5	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 15	土師器	甗	(174)	159	(45)	172	被熱	II E1b
108 図 1	124-6	3	C	SG160	W-18	RP144	土師器	甗	170	171	32	169	輪積痕 被熱, 外面煤付着	II E2c
108 図 2	125-1	3	D	SG160	V-20		土師器	甗	180	184		[143]	被熱, 外面煤付着	II E3a
108 図 3	125-2	3	C	SG160	W-17	RP105	土師器	甗	177	173		[155]	被熱, 外面煤付着	II E2a
108 図 4	125-3	3	C	SG160 SG160	V.W-18 V.W-18	遺物群 22 RP150	土師器	甗	182	180		[160]	被熱, 外面煤付着	II E3b
108 図 5	125-4	3	C	SG160	W-18		土師器	甗	(182)	179		[164]	被熱, 外面煤付着	II E3b
108 図 6	125-5	3	C	SG160	V-20	RP160	土師器	甗	160	153		[159]	被熱, 外面煤付着	II E2a
108 図 7	125-6	3	C	SG160	W-17		土師器	甗	(159)	158		[153]	被熱, 外面煤付着	II E1c
108 図 8	126-1	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 17	土師器	鉢	226	200		[136]	被熱	II D4
109 図 1	126-2	3	C	SG160	V.W-18	遺物群 22	土師器	甗	180	172		[119]	輪積痕, 被熱	II E1e
109 図 2	126-3	3	C	SG160	V.W-18		土師器	甗	189	186		[119]	被熱, 外面煤付着	II E3d
109 図 3	126-4	3	C	SG160	W-17		土師器	甗	170	[181]		[103]	被熱, 外面煤付着	II E3b
109 図 4	126-5	3	C	SG160	W-17		土師器	甗	(181)	177		[110]	外面煤付着	II E3a
109 図 5		3	C	SG160	W-17		土師器	甗	(158)	(152)		[99]	被熱	II E
109 図 6	126-6	3	C	SG160	W-18 W-17	遺物群 17	土師器	甗	(162)	148		[96]	被熱, 外面煤付着	II E
109 図 7	127-1	3	C	SG160 SG160	V-19 W-17.18		土師器	甗	(161)	179		[136]		II E2c
110 図 1		3	C	SG160	V.W-17-20		土師器	甗	(170)	(282)		[161]	被熱	II E6a
110 図 2	127-2	3	C	SG160	W-18	遺物群 13	土師器	甗	(228)	[268]		[99]	被熱	II E6b
110 図 3	127-4	3	C	SG160	W-17	遺物群 9	土師器	甗	(164)	216		[228]	被熱, 外面煤付着	II E4c
110 図 4	127-3	3	C	SG160	V-21.W-17		土師器	甗	(180)	240		[160]	被熱, 内外面煤付着	II E6a
110 図 5	127-5	3	C	SG160 SG160	W-18 W-17	遺物群 14	土師器	甗	175	212		[157]	被熱	II E5c
111 図 1	127-6	3	C	SG160	W-17		土師器	甗	172	217		[158]	被熱, 外面煤付着	II E5c
111 図 2	128-1	3	C	SG160 SG160	W-17 W-18	遺物群 9	土師器	甗	172	208		[126]	外面煤付着	II E5c
111 図 3	128-2	3	C	SG160	W-17	RP120	土師器	甗	(160)	[208]		[105]	被熱	II E
111 図 4	128-3	3	C	SG160 SG160	W-17 W-18	RP120	土師器	甗	(164)	[236]		[86]	被熱, 内外面煤付着	II E
111 図 5	128-4	3	C	SG160 SG160 SG160	W-18 W-18 V.W-19	遺物群 18 遺物群 20 RP156	土師器	甗	180	[198]		[90]	被熱, 外面煤付着	II E
111 図 6		3	C	SG160	V.W-18	遺物群 22	土師器	甗	(186)	[196]		[80]	被熱, 外面煤付着	II E
111 図 7		3	C	SG160	W-17		土師器	甗	(174)	[184]		[82]	被熱	II E
111 図 8		3	C	SG160	W-18		土師器	甗	(164)	[180]		[87]	被熱, 外面煤付着	II E
111 図 9	128-5	3	C	SG160 SG160	W-18 V.W-18	遺物群 18 遺物群 22	土師器	甗	174	[187]		[91]	被熱	II E
111 図 10	128-6	3	C	SG160	W-17.18	遺物群 19	土師器	甗	(195)	[194]		[85]	被熱, 外面煤付着	II E
112 図 1	129-1	3	C	SG160 SG160 SG160	W-17 W-18 V.W-18	遺物群 10 遺物群 18 遺物群 22	土師器	甗	(174)	198		[206]	被熱, 外面炭化物付着	II E

表 13 土器計測表 (12)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
112 図 2		3	C	SG160	W-18		土師器	甕	(158)	(210)		[123] 被熱	II E	
112 図 3	129-2	3	C	SG160	W-18	遺物群 15	土師器	甕	161	180		[121]	II E	
112 図 4	129-4	3	C	SG160	W-17		土師器	甕	160	159		[154] 被熱,外面煤付着	II E	
112 図 5	129-3	3	C	SG160	W-17.18		土師器	甕	171	167		[109] 被熱,外面煤付着	II E	
112 図 6	129-5	3	C	SG160	W-17		土師器	甕	185	186		[131] 被熱	II E	
112 図 7		3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(144)	[136]		[87] 被熱	II E	
112 図 8	130-1	3	C	SG160	V.W-18	遺物群 22	土師器	甕	160	162		[117] 被熱	II E	
113 図 1		3	C	SG160	W-18		土師器	甕	(197)	(189)		[135] 被熱	II E	
113 図 2		3	D	SG160	V-20		土師器	甕	(232)	(206)		[129] 被熱,外面煤付着	II E	
113 図 3		3	C	SG160	W-17.18		土師器	甕	(188)	(178)		[82] 被熱,外面煤付着	II E	
113 図 4		3	C	SG160	V-19		土師器	甕	(208)	[166]		[85] 被熱	II E	
113 図 5		3	C	SG160	W-18	遺物群 16	土師器	甕	(182)	[176]		[105] 被熱,外面煤付着	II E	
113 図 6		3	D	SG160	V-20.21		土師器	甕	(190)	[202]		[96] 内外面煤付着	II E	
113 図 7		3	C	SG160	W-18		土師器	甕	(184)	(169)		[113] 被熱,外面煤付着	II E	
113 図 8		3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(188)	(188)		[95] 被熱,外面煤付着	II E	
113 図 9		3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(143)	[154]		[88] 被熱,外面煤付着	II E	
113 図 10		3	C	SG160	W-18	遺物群 12	土師器	甕	(176)	[183]		[88] 被熱,外面煤付着	II E	
114 図 1		3	C	SG160	W-17.18		土師器	甕	(214)	[226]		[67] 被熱,内外面煤付着	II E	
114 図 2		3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(184)	[200]		[82] 被熱,外面煤付着	II E	
114 図 3		3	C	SG160	W-18	遺物群 18	土師器	甕	(228)	[240]		[79]	II E	
114 図 4	130-2	3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(176)	[186]		[98] 外面煤付着	II E	
114 図 5	130-3	3	C	SG160	V-18.19	遺物群 21	土師器	甕	161	200		[145] 外面煤付着	II E	
114 図 6		3	D	SG160	V-18		土師器	甕	(173)	[180]		[80] 被熱,内外面煤付着	II E	
114 図 7		3	C	SG160	V.W-17~20		土師器	甕	(172)	178		[82] 外面煤付着	II E	
114 図 8		3	C	SG160	W-17.18		土師器	甕	(170)	[174]		[74] 被熱	II E	
114 図 9		3	C	SG160	V.W-17~20		土師器	甕	(168)	[184]		[78] 被熱	II E	
114 図 10		3	C	SG160	V.W-18	遺物群 22	土師器	甕	(172)	[173]		[59] 被熱	II E	
115 図 1		3	C	SG160	W-18	遺物群 13	土師器	甕	(164)	(164)		[92] 被熱	II E	
115 図 2		3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(176)	[170]		[87] 被熱	II E	
115 図 3		3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(172)	[176]		[89] 被熱,外面煤付着	II E	
115 図 4		3	D	SG160	V-20		土師器	甕	(178)	[176]		[68] 被熱,外面煤付着	II E	
115 図 5		3	C	SG160	W-18	遺物群 20	土師器	甕	(158)	(146)		[74] 外面煤付着	II E	
115 図 6		3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(146)	(157)		[74] 被熱,内外面煤付着	II E	
115 図 7		3	C	SG160	W-18	遺物群 12	土師器	甕	(170)	[163]		[89] 被熱,外面煤付着	II E	
115 図 8		3	C	SG160	W-18		土師器	甕	(154)	[138]		[63] 被熱	II E	
115 図 9		3	C	SG160	W-19		土師器	甕	(176)	[148]		[42]	II E	
115 図 10		3	D	SG160	V-20		土師器	甕	(158)	[136]		[48] 被熱,外面煤付着	II E	
115 図 11		3	D	SG160	W-18		土師器	甕	(225)			[23] 被熱	II E	
115 図 12		3	C	SG160	V-19		土師器	甕	(128)	[116]		[33] 被熱,外面煤付着	II E	
116 図 1		3	C	SG160	V-18		土師器	甕	(150)	[184]		[56]	II E	
116 図 2		3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(178)	(188)		[76] 被熱,外面煤付着	II E	
116 図 3		3	D	SG160	W-17		土師器	甕	(152)	[137]		[43] 被熱	II E	
116 図 4		3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(176)	[180]		[50]	II E	
116 図 5		3	C	SG160	W-18		土師器	甕	(180)			[39] 被熱,外面煤付着	II E	
116 図 6		3	C	SG160	W-17	遺物群 9	土師器	甕	(168)	[141]		[45] 被熱,外面煤付着	II E	
116 図 7		3	C	SG160	W-18		土師器	甕	(180)			[34] 外面煤付着	II E	
116 図 8		3	C	SG160	V-18		土師器	甕	(180)	[160]		[44] 被熱	II E	
116 図 9	130-5	3	C	SG160	W-17	RP113	土師器	甕	(180)	[186]		[130] 被熱,外面煤付着	II E	
116 図 10	130-4	3	C	SG160	W-17	遺物群 11	土師器	甕	162	[149]		[53] 外面煤付着	II E	
116 図 11		3	C	SG160	W-17	RP113	土師器	甕		[200]	63	[137] 被熱,外面煤付着	II E	
116 図 12	130-6	3	C	SG160	W-17	遺物群 11	土師器	甕		[162]	60	[111] 底部ハケメ 被熱,外面煤付着	II E	
117 図 1	131-1	3	C	SG160	W-17	RP113	土師器	甕	(172)	[177]		[56]	II E	
117 図 2	131-2	3	C	SG160	W-17	RP113	土師器	甕	(238)	54		[229] 被熱,外面煤付着	II E	
117 図 3	131-3	3	C	SG160	V.W-19	RP156	土師器	甕	207	52		[257] 被熱,外面煤付着	II E	

表 14 土器計測表 (13)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			備考	分類
									口径	胴径	底径		
117	図 4	131-4	3	C	SG160 SG160	V-18 W-17.18		土師器 甕	187	57	[132]	底部へラケズリ 被熱, 外面炭化物付着	II E
117	図 5	131-5	3	C	SG160	V-19	遺物群 23	土師器 甕	193	60	[182]	被熱, 外面煤付着	II E
117	図 6	131-6	3	C	SG160	V.W-18	遺物群 22	土師器 甕	[180]	40	[118]	被熱, 外面煤付着	II E
117	図 7	132-1	3	C	SG160 SG160	V.W-18 W-18	遺物群 22	土師器 甕	[199]	(50)	[111]	被熱, 内外面煤付着	II E
118	図 1	132-4	3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[222]	74	[100]	被熱, 外面煤付着	II E
118	図 2	132-2	3	C	SG160	W-18	RP163	土師器 甕	[260]	46	[146]	被熱, 外面煤付着	II E
118	図 3		3	C	SG160	W-17.18		土師器 甕	(174)	58	[136]	底部ハケメ 被熱, 内外面煤付着	II E
118	図 4	132-5	3	D	SG160	V-20		土師器 甕	[137]	54	[91.5]	被熱, 外面煤付着	II E
118	図 5		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[130]	46	[69]		II E
118	図 6		3	C	SG160	W-17.18		土師器 甕	[124]	44	[57]	底部へラケズリ 被熱, 外面煤付着	II E
118	図 7		3	C	SG160	V.W-18	遺物群 22	土師器 甕	[162]	44	[70]	被熱	II E
118	図 8		3	C	SG160	V.W-19		土師器 甕	[125]	47	[64]	被熱	II E
118	図 9		3	C	SG160	W-18		土師器 甕	[92]	44	[29]	底部笹葉痕	II E
118	図 10		3	C	SG160 SG160	V-20 X-20	遺物群 24	土師器 甕	[100]	63	[31]	被熱	II E
118	図 11		3	C	SG160	W-18		土師器 甕	[116]	53	[27]	底部ハケメ	II E
118	図 12		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[116]	43	[39]	被熱, 外面煤付着	II E
118	図 13		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[118]	64	[37]	被熱	II E
118	図 14		3	C	SG160	V-19		土師器 甕	[114]	60	[38]	被熱	II E
118	図 15		3	C	SG160	W-17	RP104	土師器 甕	[85]	40	[27]	被熱	II E
118	図 16		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[108]	46	[29]	被熱	II E
118	図 17		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[90]	40	[24]	外面煤付着	II E
118	図 18		3	C	SG160	V.W-17-20		土師器 甕	[91]	42	[33]	底部ハケメ 被熱, 外面煤付着	II E
118	図 19		3	C	SG160 SG160	V-19 W-19	遺物群 23	土師器 甕	[102]	52	[36]	底部ハケメ 被熱, 外面煤付着	II E
118	図 20		3	C	SG160	W-18		土師器 甕	[98]	52	[28]	底部ハケメ 被熱, 外面煤付着	II E
119	図 1		3	C	SG160	W-18		土師器 甕	[98]	78	[42]	被熱	II E
119	図 2		3	C	SG160	V-18		土師器 甕	[93]	64	[26]	被熱	II E
119	図 3		3	C	SG160	W-18	遺物群 12	土師器 甕	[87]	37	[33]	被熱	II E
119	図 4		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[74]	45	[21]		II E
119	図 5		3	C	SG160	V-19		土師器 甕	[95]	52	[23]	被熱, 外面煤付着	II E
119	図 6		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[100]	52	[24]	底部ハケメ 被熱, 外面煤付着	II E
119	図 7		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[90]	42	[26]	被熱, 内面煤付着	II E
119	図 8		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[76]	50	[17]	底部ハケメ	II E
119	図 9		3	C	SG160	V-19		土師器 甕	[90]	(68)	[14]	底部ハケメ, 被熱	II E
119	図 10		3	C	SG160	V-19		土師器 甕	[106]	(60)	[30]	底部ハケメ, 被熱	II E
119	図 11		3	C	SG160	W-18	遺物群 20	土師器 甕	[90]	(58)	[26]	底部ハケメ, 被熱	II E
119	図 12		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[100]	(51)	[31]	被熱, 外面煤付着	II E
119	図 13		3	C	SG160	V-19		土師器 甕	[96]	(44)	[33]	被熱, 外面煤付着	II E
119	図 14		3	C	SG160	W-18		土師器 甕	[100]	(74)	[31]	被熱	II E
119	図 15		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[110]	(70)	[25]	被熱	II E
119	図 16		3	C	SG160	W-18		土師器 甕	[72]	(60)	[19]	底部ハケメ, 被熱	II E
119	図 17		3	C	SG160	W-19		土師器 甕	[110]	70	[20]	底部穿孔? 被熱	II E
119	図 18		3	C	SG160	W-18		土師器 甕	[81]	59	[26]	被熱	II E
119	図 19		3	C	SG160	W-18	遺物群 15	土師器 甕	[136]		[25]	被熱, 外面煤付着	II E
119	図 20		3	C	SG160	V-19		土師器 甕	[66]	50	[20]	被熱, 外面煤付着	II E
119	図 21		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[81]	56	[22]	被熱	II E
119	図 22		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[90]	49	[19]	被熱	II E
119	図 23		3	C	SG160	W-17		土師器 甕	[61]	38	[17]	被熱, 外面煤付着	II E
119	図 24		3	C	SG160	W-18		土師器 甕		47	[15]	被熱, 底部煤付着	II E
119	図 25		3	C	SG160	W-17		土師器 甕		35	[15]	被熱	II E

表 15 土器計測表 (14)

図版 番号	写真 番号	調査 次数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
119 図 26		3	C	SG160	W-17		土師器	甕	[62]	40	[15]	被熱,外面煤付着	II E	
119 図 27		3	C	SG160	W-18		土師器	甕	[66]	44	[16]	底部ハケメ 被熱,外面煤付着	II E	
119 図 28	132-3	3	C	SG160	W-17.18	遺物群 19	土師器	甕	241		[168]	被熱,外面煤付着	II E	
119 図 29	132-6	3	C	SG160	W-17	RP104	土師器	甕	212		[144]	外面煤付着	II E	
120 図 1	133-1	3	C	SG160	W-17	RP106	土師器	甕	252	240	(108)	263 耳付,穿孔,輪積痕 被熱,外面煤付着	II F2a	
120 図 2	133-2	3	C	SG160	W-17.18		土師器	甕	(204)	237	102	267 輪積痕,被熱	II F2b	
120 図 3	133-3	3	C	SG160	W-17	遺物群 10	土師器	甕	270	240	90	241 耳付,穿孔 被熱,外面煤付着	II F2a	
120 図 4	133-4	3	C	SG160	W-17	遺物群 10	土師器	甕	213	212	(106)	256 被熱,外面煤付着	II F2b	
121 図 1	134-1	3	C	SG160	W-18	RP152	土師器	甕	163	161	30	169 被熱	II F3	
121 図 2	134-2	3	C	SG160	W-17		土師器	甕	215		(51)	152 被熱	II F1	
121 図 3		3	C	SG160	V-19		土師器	甕			(281)	[60] 耳付,穿孔	II F2a	
121 図 4		3	C	SG160	W-17		土師器	甕	(196)		[61]		II F1	
121 図 5		3	C	SG160	W-17		土師器	甕		[147]	(70)	[90] 被熱	II F	
121 図 6		3	C	SG160	W-17		土師器	甕		[194]	(108)	[82] 被熱	II F	
121 図 7	134-3	3	C	SG160	W-18	RP151	須恵器	高坏	(120)		[80]		II H	
121 図 8	134-4	3	C	SG160	W-17	RP119	須恵器	坏	(137)	(173)	[50]		II G	
121 図 9		3	C	SG160	W-17		須恵器	坏	(129)	(157)	[47]		II G	
121 図 10		3	D	SG160	V-20.21		須恵器	坏	(120)	(149)	[46]	被熱,口縁内面煤付着	II G	
121 図 11		3	C	SG160	W-17		須恵器	蓋		[139]	[24]		II I	
121 図 12		3	C	SG160	W-18		須恵器	蓋		[160]	[32]		II I	
121 図 13		3	C	SG160 SG160	W-18 W-18	遺物群 18 遺物群 20	須恵器	甕	(266)		[49]		II L	
122 図 1		3	C	SG160	W-17		須恵器	甕			[72]		II L	
122 図 2		3	C	SG160 SG160	V-18 W-17		須恵器	甕			[73]		II L	
122 図 3		3	D	SG160	W-17		須恵器	甕			[48]		II L	
122 図 4		3	C	SG160	W-18		須恵器	甕			[65]		II L	
122 図 5		3	C	SG160 SG160	W-17 X-18		須恵器	甕			[81]		II L	
122 図 6		3	C	SG160	W-18		須恵器	甕			[81]		II L	
122 図 7		3	C	SG160	W-17.18		須恵器	甕			[95]		II L	
122 図 8		3	C	SG160	W-18	遺物群 16	須恵器	甕			[75.5]	内面煤付着	II L	
122 図 9		3	C	SG160	W-18	遺物群 18	須恵器	甕			[67]		II L	
122 図 10		3	C	SG160	W-18	遺物群 20	須恵器	甕			[98]		II L	
122 図 11		3	C	SG160 SG160	V.W-18 W-17	遺物群 22	須恵器	甕			[90]		II L	
123 図 1	135-1	3	C	SG1048	W-20	RP173	土師器	坏	142		51	内黒,底部ハケメ,煤付着	II A5a	
123 図 2	135-2	3	C	SG1048	W-18		土師器	坏	158		62	内黒,底部ハケメ,輪積痕	II A6b	
123 図 3	135-3	3	C	SG1048	W-20		土師器	坏	(154)		59	内黒	II A5b	
123 図 4	135-4	4	F	SG1048	U#-21	RP65	土師器	坏	(146)		55	内黒,底部ハケメ	II A5a	
123 図 5	135-5	3	C	SG1048	X-17	RP55	土師器	坏	158		54	内黒	II A5a	
123 図 6	135-6	3	C	SG1048	W-19		土師器	坏	(172)		53	内黒,輪積痕	II A5a	
123 図 7	135-7	3	C	SG1048	X-19	RP28	土師器	坏	(155)		65	内黒,底部ハケメ	II A5a	
123 図 8		3	C	SG1048	W.X-17~20		土師器	坏	(158)		[60]	内黒	II A6a	
123 図 9		3	D	SG1048	W-21		土師器	坏	(202)		[59]	内黒,被熱	II A5a	
123 図 10		3	C	SG1048	X-18		土師器	坏	(176)		[62]	内黒,被熱	II A5a	
123 図 11		3	C	SG1048	W.X-17~20 Y-18		土師器	坏	(160)		[50]	内黒	II A6a	
123 図 12		3	C	SG1048	W-19		土師器	坏	(176)		[55]	内黒	II A5a	
123 図 13		3	C	SG1048	X-18		土師器	坏	(162)		[45]	内黒	II A3	
123 図 14	135-8	3	C	SG1048	X-17	RP57	土師器	坏	(166)		[57]	内黒	II A5a	
123 図 15	135-9	3	C	SG1048	X-18	RP139	土師器	高坏	163		(55)	92 内黒	II B1a	
123 図 16	135-10	3	C	SG1048	X-17	RP56	土師器	高坏	167		[71]	内黒	II B2a	
123 図 17		3	C	SG1048	W-18		土師器	高坏			98	[26]	II B4	
123 図 18	136-1	3	C	SG1048	V-20		土師器	高坏			94	[28] 内黒,坏体内面火ハネ	II B4	
123 図 19	136-2	3	C	SG1048 SG1048	W-19 W-19	RP167 RP171	土師器	壺	166	269	68	287 被熱	II C5	

表 16 土器計測表 (15)

図版 番号	写真 番号	調査 次数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
124 図1	136-3	3	C	SG1048	W-18		土師器	甕	(164)	202	[159]	被熱, 体部外面煤付着	II E2a	
124 図2		3	C	SG1048	W-19		土師器	壺	(178)	[234]	[78]		II E	
124 図3	136-4	3	C	SG1048	V-X-17~20 X-18 Z-18~20		土師器	壺	(166)	244	[296]	被熱, 外面煤付着	II E	
124 図4		3	C	SG1048	X-18		土師器	甕	(164)	[211]	[69]		II E	
124 図5		4	F	SG1048	V-21		土師器	甕	(154)	[158]	[54]	外面煤付着	II E	
124 図6	136-5	4	F	SG1048	V-21	RP64	土師器	甕	(193)	207	45	254	底部ハケメ, 被熱	II E5a
124 図7	137-1	3	C	SG1048	W-19	RP172	土師器	甕	176	183	37	236	底部ハケメ	II E3c
125 図1	137-2	3	C	SG1048	X-18	RP143	土師器	台付甕	176	195	[274]	被熱	II E5d	
125 図2	137-3	4	F	SG1048	U#-21#	RP66	土師器	甕	178	187	41	217	底部ハケメ 体部上半煤付着	II E3c
125 図3	137-4	3	C	SG1048	V-20		土師器	甕	(182)	[182]	[102]	被熱, 体部外面煤付着	II E	
125 図4		3	C	SG1048	X-17		土師器	甕	(150)	(150)	[128]	被熱, 外面煤付着	II E	
125 図5		3	C	SG1048	W-19		土師器	甕	(180)	[176]	[59]	被熱, 外面煤付着	II E	
125 図6		3	C	SG1048	V-X-17~20		土師器	甕	(194)	[168]	[79]		II E	
125 図7		3	C	SG1048	X-17		土師器	甕	(186)	[176]	[65]	被熱, 内外面煤付着	II E	
125 図8		3	C	SG1048	X-18		土師器	甕	(194)	[182]	[47]	内外面樹脂付着	II E	
125 図9		3	C	SG1048	X-18		土師器	甕	(176)	[172]	[52.5]	被熱	II E	
126 図1		3	C	SG1048	X-18		土師器	甕	(186)	168	[82]	外面煤付着	II E	
126 図2	137-5	3	C	SG1048	X-19	RP28	土師器	甕	[202]	54	[109]	被熱, 外面煤付着	II E	
126 図3		3	C	SG1048	V-20		土師器	甕	[116]	60	[36]	底部ハケメ 被熱, 外面煤付着	II E	
126 図4		3	C	SG1048	W-20		土師器	甕	[120]	51	[48]	底部ハケメ 内外面煤付着	II E	
126 図5		3	C	SG1048	V-X-17~20 Z-19.20		土師器	甕	(200)	[61]	[61]	被熱, 外面煤付着	II F1	
126 図6		3	C	SG1048	W-20		土師器	甕	[184]	(96)	[37]	被熱, 外面煤付着	II F	
126 図7		3	C	SG1048	V-X-17~20 Z-20		土師器	甕	[111]	(52)	[41]	被熱	II F	
126 図8		3	C	SG1048	W-18		土師器	甕	[194]	(117)	[53]	被熱, 外面煤付着	II F	
126 図9		3	C	SG1048	X-18		須恵器	坏	(133)	(73)	26	回転窰切	III I1b	
126 図10		3	C	SG1048	W-19		須恵器	坏	(156)	[24]	[24]		III I1a	
126 図11	136-6	3	C	SG1048	X-18	RP63	須恵器	坏	125	68	30	回転窰切	III I	
126 図12		3	C	SG1048	W-19		須恵器	甕	[96]	[96]			II M	
127 図1	138-1	3	C	ST2001SK215	V-16		土師器	坏	(164)	[62]	[62]	内黒	II A5a	
127 図2	138-2	3	C	ST2001SP309	U-16	RP1	土師器	坏	166	[56]	[56]	内黒	II A5a	
127 図3		3	C	ST2001SP309	U-16		土師器	坏	(152)	[51]	[51]	内黒, 被熱	II A5a	
127 図4		3	C	ST2001SD308	U-15.16		土師器	甕	(208)	[188]	[60]	被熱	II E	
127 図5		3	C	ST2002SD222	U.V-16		土師器	坏	(154)	[42]	[42]	内黒, 被熱	II A6a	
127 図6		3	C	ST2001SK215 ST2002SD222	V-16 U.V-16		土師器	甕	[156]	(58)	[92]	底部ハケメ 被熱, 外面煤付着	II E	
127 図7	138-3	3	C	ST2003SD230 SK886	U.V-17 V-17	遺物群 5	土師器	坏	160	[59]	[59]	内黒, 被熱	II A6a	
127 図8	138-4	3	C	ST2003SD230	U-17	RP3	土師器	坏	163	[61]	[61]	内黒	II A6a	
127 図9	138-5	3	C	ST2003SD230	U-17	RP4	土師器	坏	(167)	[67]	[67]	内黒	II A5a	
127 図10	138-6	3	C	ST2003SD230 SD265	U.V-17 V-17	遺物群 6	土師器	坏	161	[69]	[69]	内黒, 火ハネ	II A5a	
127 図11	138-7	3	C	ST2003SD230	U.V-17		土師器	坏	(140)	[55]	[55]	内黒	II A5c	
127 図12	138-8	3	C	ST2003SD230	U-17	RP4	土師器	坏	174	[56]	[56]	内黒, 輪積痕	II A5a	
127 図13		3	C	ST2003SD230	U.V-17		土師器	坏	(100)	(106)	[43]	被熱	II A1c	
127 図14		3	C	ST2003SD230	U.V-17		土師器	坏	(146)	(114)	[60]	内黒	II A5a	
127 図15		3	C	ST2003SD230	U.V-17		土師器	坏	(146)	[28]	[28]	内黒, 被熱	II A	
127 図16		3	C	ST2003SD230	U.V-17		土師器	甕	(206)	[186]	[51]	被熱	II E	
128 図1		3	C	ST2003SD230 SD404 SK886	U.V-17 T.U-18 V-17	遺物群 5	土師器	甕	(228)	(257)	[307]	被熱, 外面煤付着	II E5c	
128 図2		3	C	ST2003SD230 SK234 SK886	U.V-17 V-17 V-17	遺物群 5	土師器	甕	(160)	(202)	[173]	外面煤付着	II E	

表 17 土器計測表 (16)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類	
									口径	胴径	底径	器高			
128	図 3	3	C	ST2003SD228	V-17		土師器	甕	[176]	60	[60]	外面煤付着	II E		
128	図 4	138-9	3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	坏	(157)		53	内黒	II A6a	
128	図 5	138-10	3	C	ST2003SD238	V-17	RP7	土師器	坏	151		48	内黒, 胎土に骨針含む	II A5a	
128	図 6		3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	坏	(176)		[41]	内黒	II A5b	
128	図 7		3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	坏	[147]		[55]	内黒	II A6a	
128	図 8		3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	甕	(186)	(160)	(107)	被熱, 外面煤付着	II E1b	
128	図 9		3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	甕	(144)	(136)	[98]	被熱, 内外面煤付着	II E1b	
128	図 10		3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	甕	(156)	(130)	[79]	被熱	II E1b	
128	図 11	139-1	3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	甕		210	92	[182]	外面煤付着	II F2
129	図 1		3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	甕	(186)	[156]		[68]	被熱, 外面煤付着	II E
129	図 2		3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	甕		[53]	34	[19]	底部ハケメ 被熱, 外面煤付着	II E
129	図 3		3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	甕	(179)	[160]		[58]	被熱, 外面煤付着	II E
129	図 4		3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	甕	(194)	[171]		[49]	被熱, 外面煤付着	II E
129	図 5		3	C	ST2003SD238	V-17		土師器	甕	(186)	[164]		[55]		II E
129	図 6	139-2	3	C	ST2003SD238 ST2004SD243 SD244	V-17 V.W-17 V.W-16.17		土師器	坏	156		61	内黒, 輪積痕 内面火ハネ	II A5a	
129	図 7	139-3	3	C	ST2004SD243 SD244	V.W-17 V.W-16.17		土師器	高坏	[153]		[40]	内黒, 被熱	II B	
129	図 8	139-4	3	C	SG160 ST2004SD243	W-17 W-17	RP107 RP97	土師器	甕	(218)	235	[227]	被熱	II E5c	
129	図 9	139-5	3	C	ST2005SD402 SD404	U-18 T.U-18		土師器	坏	(152)		[44]	内黒, 被熱	II A5a	
129	図 10		3	C	ST2005SD403 SD404	T.U-18 T.U-18		土師器	坏	(168)		[42]	内黒, 被熱	II A5a	
129	図 11		3	C	ST2005SD403	T.U-18		土師器	坏	(180)		[50]	内黒, 被熱	II A5a	
129	図 12	139-6	3	C	ST2005SD403	T.U-18		土師器	高坏	(169)	(88)	103	輪積痕	II B2a	
129	図 13		3	C	ST2005SD290	U.V-18.19		土師器	甕	[162]	(88)	[87]	被熱	II F	
129	図 14		3	C	ST2005SD290	U.V-18.19		土師器	甕	[180]	(94)	[64]	被熱	II F	
129	図 15		3	C	ST2005SD402	U-18		土師器	甕	[130]	(100)	[31]	被熱	II F	
130	図 1		3	C	SD244	V.W-16.17		土師器	坏	(160)		[58]	内黒, 輪積痕	II A5a	
130	図 2		3	C	SD244	V-16.17	遺物群 1	土師器	坏	(154)		[70]	内黒, 被熱	II A8a	
130	図 3		3	C	SD244	V.W-16.17		土師器	坏	(178)		[61]	内黒, 被熱, 外面樹脂付着	II A8c	
130	図 4	139-7	3	C	SD244	V-16.17	遺物群 1	土師器	高坏	171		[75]	被熱	II B1a	
130	図 5	140-1	3	C	SD244	V.W-16.17		土師器	高坏	(170)		[52]	内黒, 外面樹脂付着	II B1a	
130	図 6		3	C	SD244	V-16.17	遺物群 1	土師器	甕	(148)	[134]	[24]	被熱	II E	
130	図 7		3	C	SD244	V.W-16.17		土師器	甕	(160)	[166]	[74]	被熱	II E	
130	図 8	140-2	3	C	SD244	V-17	遺物群 1 RP12	土師器	甕	(149)	162	[170]	被熱, 外面煤付着	II E1c	
130	図 9		3	C	SD244	V-16.17	遺物群 1	土師器	甕	[100]	34	[32]	被熱, 内面煤付着	II E	
130	図 10		3	C	SD244	V.W-16.17		須恵器	壺	(134)	[116]	[40]		II J	
130	図 11		3	C	SD245	V-16.17 W-17		土師器	坏	(140)		[40]	内黒, 輪積痕	II A6a	
130	図 12		3	C	SD245	V-16.17		土師器	坏	(132)		[43]	内黒, 輪積痕	II A6a	
130	図 13		3	C	SD245	V-16.17		土師器	坏	(158)		[48]	被熱	II A1a	
130	図 14		3	C	SD245	V-16.17		土師器	甕	(212)	(208)	[87]	外面煤付着	II E	
130	図 15		3	C	SD245	V-16.17		須恵器	蓋	[57]		[16]		III L1	
130	図 16	140-3	3	C	SD357	T.U-17	遺物群 3	土師器	坏	(164)		66	内黒	II A6a	
130	図 17	140-4	3	C	SD357	T.U-17	遺物群 3	土師器	坏	(172)		53	内黒	II A6a	
130	図 18		3	C	SD357	T.U-17	遺物群 3	土師器	坏	(170)		[49]	内黒, 被熱	II A5a	
130	図 19	140-5	3	C	SD357	T.U-17	遺物群 3	土師器	高坏		96	[46]	被熱	II B4	
130	図 20	140-6	3	C	SD357	U-17	RP11	土師器	甕	(198)	187	[119]	被熱	II E	
131	図 1		3	C	SD357	T.U-17	遺物群 3	土師器	甕	(196)	[220]	[106]		II E	
131	図 2		3	C	SD404	T.U-18		土師器	鉢	(118)	(139)	[49]	被熱	II D2b	
131	図 3		3	C	SD404	T.U-18		土師器	鉢	(116)	(128)	[48]	被熱	II E	
131	図 4	140-7	3	C	SD404	U-18		土師器	甕	208	203	[111]	被熱	II E	
131	図 5		3	C	SD404	T.U-18		土師器	甕	(203)	(184)	[101]	被熱, 外面煤付着	II E	

表 18 土器計測表 (17)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
131 図 6		3	C	SD404	T.U-18		土師器	甕	(192)	[165]	[79]	被熱,内外面煤付着	II E	
131 図 7		3	C	SD404	T.U-18		土師器	甕	(176)	[160]	[85]	被熱	II E	
131 図 8		3	C	SD404	T.U-18		土師器	甕	[161]	59	[79]	被熱	II E	
131 図 9		3	C	SD404	T.U-18		土師器	甕	[128]	(52)	[57]		II E	
131 図 10		3	C	SD404	T.U-18		土師器	甕	[135]	(73)	[50]	被熱	II E	
131 図 11		3	C	SD404	T.U-18		土師器	甕	[120]	(62)	[32]	被熱	II E	
131 図 12		3	C	SD404	T.U-18		土師器	甕	[108]	(56)	[26]	被熱	II E	
131 図 13	140-8	3	C	SD336	U-16	RP9	土師器	坏	(129)		83	内黒,底部ハケメ	II A9b	
131 図 14		3	C	SD385 SD386	U-18 T-V-17.18		土師器	坏	(152)		[48]	内黒	II A5a	
131 図 15		3	C	SD453	T-16.17		土師器	鉢	(138)	(132)	[46]	被熱,外面煤付着	II D2a	
131 図 16		3	C	SD926	T.U-19		土師器	甕	(202)	[188]	[82]	被熱	II E	
132 図 1	141-1	3	C	SD924	T.U-19.20		土師器	壺	(192)	[244]	[93]	被熱	II C	
132 図 2	141-2	3	C	SD938	T.U-17 U-17		土師器	坏	158		[51]	内黒	II A5a	
132 図 3		3	C	SD938	T.U-17		土師器	甕	(194)	[212]	[71]	被熱	II E	
132 図 4		3	C	SD938	T.U-17		土師器	甕	(198)	194	[93]	被熱,外面煤付着	II E	
132 図 5	141-3	3	C	SD1175	U-20		土師器	坏	132		78 44	内黒,底部笹葉痕	II A10c	
132 図 6		3	C	SD1175	U-20		土師器	高坏	[100]		[51]	内黒,被熱	II B	
132 図 7	141-4	3	C	SK265	V-17	遺物群 6 RP5	土師器	坏	(168)		58	内黒,被熱	II A5a	
132 図 8	141-5	3	C	SK265	V-17	遺物群 6 RP6	土師器	坏	158		60	内黒,被熱	II A5a	
132 図 9	141-6	3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	坏	(149)		63	内黒,輪積痕	II A7	
132 図 10		3	C	SK265	V-17		土師器	坏	(166)		[51]	内黒,輪積痕	II A5a	
132 図 11	141-7	3	C	SK265	V-17		土師器	坏	(180)		[61]	内黒	II A3	
132 図 12		3	C	SK265	V-17		土師器	坏	(190)		[54]	内黒,輪積痕	II A6a	
132 図 13	141-8	3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	高坏			99 [42]	内黒	II B4	
132 図 14		3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	甕	(160)	(150)	[103]	外面煤付着	II E2b	
132 図 15		3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	甕	(180)	(192)	[182]	被熱,外面煤付着	II E3b	
133 図 1	141-9	3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	甕	(145)	143	[137]	外面煤付着	II E1c	
133 図 2		3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	甕	(206)	(176)	[86]	被熱,外面煤付着	II E	
133 図 3		3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	甕	(174)	[144]	[52]	被熱	II E	
133 図 4		3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	甕	[154]	55	[85]	被熱,外面煤付着	II E	
133 図 5		3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	甕	[130]	(58)	[47]	底部ハケメ 被熱,外面煤付着	II E	
133 図 6		3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	甕	[94]	42	[28]	被熱,内外面煤付着	II E	
133 図 7		3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	甕	[124]	46	[36]	被熱,外面煤付着	II E	
133 図 8		3	C	SK265	V-17		土師器	甕	[68]	42	[16]	被熱,外面煤付着	II E	
133 図 9		3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	甕	[69]	36	[15]	被熱,外面煤付着	II E	
133 図 10		3	C	SK265	V-17		土師器	甕	[70]	49	[24]		II E	
133 図 11		3	C	SK265	V-17	遺物群 6	土師器	甕	[66]	50	[24]	底部ハケメ 被熱,外面煤付着	II E	
133 図 12		3	C	SK265	V-17		土師器	甕	[70]	(56)	[20]	底部ハケメ 被熱,外面煤付着	II E	
133 図 13	142-1	3	C	SK329	T.U-15.16		土師器	坏	164		69	内黒	II A6a	
133 図 14	142-2	3	C	SK329	T.U-15.16		土師器	坏	(186)		[52]	内黒	II A5a	
133 図 15	142-3	3	C	SK329	U-16		土師器	坏	(137)	130	[62]	被熱,外面煤付着	II A7	
133 図 16		3	C	SK329	T.U-15.16		土師器	甕	(146)	(146)	[108]	被熱,外面煤付着	II E1c	
133 図 17		3	C	SK329	T.U-15.16		土師器	甕	(180)	(170)	[103]	被熱,外面煤付着	II E	
133 図 18		3	C	SK329	T.U-15.16		土師器	甕	(228)	[210]	[78]	外面煤付着	II E	
134 図 1		3	C	SK329	T.U-15.16		土師器	甕	(188)	[201]	[69]	外面煤付着	II E	
134 図 2	142-4	3	C	SK329	U-16		土師器	甕	156	[156]	[56]	被熱,外面煤付着	II E	
134 図 3	142-5	3	C	SK329	U-16		土師器	甕		205	50 [163]	被熱,外面煤付着	II E	
134 図 4		3	C	SK329	T.U-15.16		土師器	甕	(210)		[113]	内外面煤付着	II E	
134 図 5		3	C	SK329	T.U-15.16		土師器	甕	[102]	45	[28]	被熱,外面煤付着	II E	
134 図 6		3	C	SK329	T.U-15.16		土師器	甕	[97]	48	[23]	被熱	II E	
134 図 7	142-6	3	C	SK450	T.U-16		土師器	高坏	[107]	(106)	[66]	内黒	II B4	

表 19 土器計測表 (18)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
134 図 8	142-7	3	C	SK450	T.U-16		土師器	高坏		[132]	(118)	[66]	内黒	II B4
134 図 9	142-8	3	C	SK450	U-16	RP10	土師器	甕	(171)	168	44	209	被熱	II E3b
134 図 10		3	C	SK450	T.U-16		土師器	甕	(188)	(160)		[81]	被熱,外面煤付着	II E
134 図 11		3	C	SK450	T.U-16		土師器	甕	(158)	[143]		[40]	被熱	II E
134 図 12		3	C	SK450	T.U-16		土師器	甕	(206)	[176]		[58]	外面煤付着	II E
134 図 13		3	C	SK450	T.U-16		土師器	甕	(218)	[228]		[67]	被熱	II E
135 図 1	143-1	3	C	SK450	U-16	RP10	土師器	甕	140	155		[177]	被熱	II E3b
135 図 2	143-2	3	C	SK450	U-16	RP10	土師器	甕	183	184	35	152	輪積痕,被熱	II F1
135 図 3		3	C	SK450	T.U-16		土師器	甕	(200)			[102]	輪積痕	II F1
135 図 4		4	F	SP117	U-20#		土師器	坏	(158)			[53]	内黒,被熱	II A5a
135 図 5		3	C	SK169	V.W-17		土師器	甕		[132]	38	[40]	被熱,外面煤付着	II E
135 図 6		3	C	SK174 SD246	V.W-17 V-17-19		土師器	甕		[142]	56	[88]	底部ハケメ 被熱,外面煤付着	II E
135 図 7		3	C	SK282	V-18		須恵器	坏		[102]	68	[24]	回転窺切,煤付着	III I1a
135 図 8		3	C	SK305	V-18	遺物群 4	土師器	坏	(174)			[53]	内黒	II A6a
135 図 9		3	C	SK305	V-18	遺物群 4	土師器	坏	(154)			[50]	内黒	II A7
135 図 10	143-3	3	C	SX305	V-18	遺物群 4 RP16	土師器	坏	(160)			55	内黒	II A6a
135 図 11		3	C	SK305	V-18	遺物群 4	土師器	坏	(154)			[36]	被熱	II A5a
135 図 12		3	C	SK305	V-18	遺物群 4	土師器	坏	(138)			[42]	内黒	II A8a
135 図 13		3	C	SK305	V-18	遺物群 4	土師器	甕	(150)	(128)		[50]	被熱,外面煤付着	II E
135 図 14	143-4	3	C	SK305	V-18	遺物群 4 RP13	土師器	甕	(160)	[204]		[92]	被熱	II E
136 図 1	143-5	3	C	SK412	U-19	遺物群 7	土師器	坏	160			60	内黒,輪積痕	II A5a
136 図 2	143-6	3	C	SK412	U-19	RP15	土師器	坏	154			82	輪積痕,被熱	II A9a
136 図 3	143-7	3	C	SK412	U-19	遺物群 7	土師器	坏	168			60	内黒	II A3
136 図 4	144-1	3	C	SK412	U-19	RP19	土師器	坏	(154)			59	内黒	II A5a
136 図 5		3	C	SK412	U-19	遺物群 7	土師器	坏	(158)			[34]	内黒,被熱	II A5a
136 図 6	144-2	3	C	SK412	U-19	遺物群 7	土師器	高坏	158		81	77	内黒,輪積痕	II B2a
136 図 7	144-3	3	C	SK412	U-19	RP18	土師器	甕	185	187	46	281	被熱	II E5c
136 図 8	144-4	3	C	SK412	U-19	遺物群 7	土師器	甕	(184)	252		[227]	被熱,外面煤付着	II E6c
136 図 9	144-5	3	C	SK412	U-19	遺物群 7	土師器	甕	(214)	219	86	230	頸部穿孔,被熱	II F2b
136 図 10		3	C	SK421	U-19		土師器	坏	(154)			[43]	被熱	II A6a
137 図 1		3	C	SK456	U-18		土師器	坏	(166)			[47]	内黒	II A5a
137 図 2		3	C	SK456	U-18		土師器	坏		[156]		[55]	内黒	II A6a
137 図 3	145-1	3	C	SK456	U-18	RP17	土師器	甕	146	144		[144]	被熱	II E1b
137 図 4		3	C	SK886	V-17	遺物群 5	土師器	甕	(194)	[182]		[65]	被熱	II E
137 図 5	145-2	3	C	SK265 SK886	V-17 V-17	遺物群 5	土師器	甕	(180)	223		[253]	輪積痕,被熱	II E5a
137 図 6		3	C	SK886	V-17	遺物群 5	土師器	甕	(194)	[204]		[72]	被熱	II E
137 図 7		3	C	SK265 SK886	V-17 V-17	遺物群 5	土師器	甕		(176)	(64)	[145]	被熱,外面煤付着	II E
137 図 8		3	C	SP291	V-19		土師器	坏				[49]		II A6a
137 図 9		3	C	SP330	U-16		土師器	坏		[81]	(56)	[15]	回転糸切,被熱	III A4
137 図 10		3	C	SP343	U-16		土師器	甕		[116]	65	[42]	被熱,外面煤付着	II E
137 図 11		3	C	SP408	U-18		土師器	坏	(162)			[44]	内黒,被熱	II A3
137 図 12		3	C	SP446 SX448	V-17 V-16		土師器	甕	(211)	[221]		[82]		II E
138 図 1	145-3	3	C	SX296	V-19		土師器	坏	(155)			[57]	内黒	II A6a
138 図 2	145-4	3	C	SX296	V-19.20		土師器	高坏			87	[46]	内黒	II B4
138 図 3	145-5	3	C	SX296	V-19	RP20	土師器	甕	(145)	141		[169]	底部ハケメ,被熱	II E1f
138 図 4		3	C	SX380	T-17	RP2	陶器	搦鉢		[220]	(129)	[67]	珠洲系陶器 胎土に骨針含む	IV B1b
138 図 5		3	C	SX398	U-18		土師器	甕		[156]	(114)	[32]	底部ハケメ,被熱	II F
138 図 6		3	C	SX391	T.U-18		土師器	高坏		[130]		[58]	内黒	II B
138 図 7		3	D	SG1	W-AC- 21-23		土師器	甕		[94]	(46)	[27]	被熱	II E
138 図 8		3	D	SG1	W-AC- 21-23		須恵器	坏	(113)	(135)		45		II G
138 図 9		3	D	SG1	AB-23		須恵器	坏		[103]	(64)	[22]	回転窺切	III I1a

表 20 土器計測表 (19)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
138	図 10	3	D	SG1	W-21		須恵器	高台坏		[107]	(64)	[37]		Ⅲ J
138	図 11	3	D	SG1	W-AC-21~23		須恵器	高台坏		[83]	(62)	[20]	回転篋切, 小型台付壺?	Ⅲ J1b
138	図 12	3	D	SG1	X-22		須恵器	台付壺		[140]	(114)	[30]	回転篋切	Ⅲ L
138	図 13	3	D	SG1	X-22		須恵器	甕				[111]		Ⅲ N
138	図 14	3	D	SG1	X-22		須恵器	甕				[127]		Ⅲ N
138	図 15	3	D	SG1	AA-1		陶器	播鉢				[45]		IV
139	図 1	3	D	SG1 SG1	Y-22 AB-23		陶器	鉢	(152)			[95]		IV
139	図 2	3	D	SG1	Y-22		陶器	播鉢				[32]	口唇部施釉	IV
139	図 3	3	D	SG1	X-21		陶器	皿				[30]		IV
139	図 4	3	D	SG1	Y-22		磁器	碗				[30]	肥前	IV G2a
139	図 5	3	D	SG1	W-AC-21~23		磁器	香炉	(50)	(62)		[36]		IV
139	図 6	3	D	SG1 SG1	W-21 X-22		陶器	德利		(59)	52	[20]		IV
139	図 7	3	D	SG1	W-AC-21~23		陶器	鉢		[104]	(79)	[29]		IV
139	図 8	3	D	SG1	W-AC-21~23		磁器	染付碗		[91]	(34)	[31]		IV
139	図 9	3	D	SG1	W-AC-21~23		磁器	皿		[75]	40	[12]		IV
139	図 10	3	D	SG1	W-22		磁器	皿		[132]	(80)	[35]	肥前	IV G2b
139	図 11	3	D	SG1	Z-23		陶器	甕		[186]	(124)	[54]		IV
139	図 12	3	D	SG1	W-AC-21~23		陶器	皿		[119]	(70)	[34]		IV
139	図 13	3	D	SG1	W-AC-21~23		磁器	植木鉢		[104]	(67)	[31]		IV
139	図 14	3	D	SG1	X-22		陶器	碗		[92]	39	[31]	唐津	IV F1a
139	図 15	3	D	SG1	Y-22		陶器	皿		[81]	(54)	[17]		IV
139	図 16	3	D	SG1	Z-22		陶器	皿		[77]	(44)	[14]		IV
139	図 17	3	D	SG1	W-AC-21~23		陶器	播鉢		[186]	(96)	[46]	内面磨減	IV
139	図 18	3	D	SG1	AA-1		陶器	甕		[209]	(200)	[14]		IV
139	図 19	3	D	SG1	Y-22		陶器	壺		(194)		[48]		IV
140	図 1	146-1	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	150		60		内黒, 輪積痕, 被熱	Ⅱ A5a
140	図 2	146-2	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	160		61		内黒, 輪積痕	Ⅱ A6a
140	図 3	146-3	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(168)		56		内黒	Ⅱ A6a
140	図 4	146-4	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(168)		62		内黒, 被熱	Ⅱ A6a
140	図 5	146-5	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(150)		54		内黒, 輪積痕	Ⅱ A5a
140	図 6	146-6	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(140)		49		内黒, 被熱	Ⅱ A7
140	図 7	146-7	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	162		61		内黒, 外面煤付着	Ⅱ A5a
140	図 8	146-8	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	156		60		内黒, 外面煤付着	Ⅱ A3
140	図 9	146-9	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	162		63		内黒	Ⅱ A5a
140	図 10	146-10	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	154		61		内黒, 輪積痕	Ⅱ A6a
140	図 11	147-1	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(161)		67		内黒, 被熱	Ⅱ A7
140	図 12	147-2	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(164)		59		内黒	Ⅱ A5a
140	図 13	147-3	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	157		57		内黒, 輪積痕, 被熱	Ⅱ A5b
140	図 14	147-4	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	155		60		内黒	Ⅱ A5a
140	図 15	147-5	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	150		62		内黒, 輪積痕	Ⅱ A5a
140	図 16	147-6	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(163)		[57]		内黒	Ⅱ A5a
140	図 17	147-7	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(146)		52		内黒	Ⅱ A5a
140	図 18	147-8	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(162)		[65]		内黒, 輪積痕	Ⅱ A5a
140	図 19		2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(153)		[43]		内黒, 輪積痕	Ⅱ A5a
140	図 20		2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(160)		[52]		内黒, 被熱	Ⅱ A5a
140	図 21	147-9	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	142		[48]		内黒, 輪積痕	Ⅱ A5a
140	図 22	147-10	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	150		[44]		内黒, 輪積痕	Ⅱ A5a
141	図 1		2	T21	Y.Z-17		土師器	坏		[126]	[31]		内黒	Ⅱ A
141	図 2	148-1	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(154)		57		内黒	Ⅱ A6b
141	図 3	148-2	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏		[128]	[31]		内黒	Ⅱ A
141	図 4	148-3	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(146)		20	68	内黒, 輪積痕	Ⅱ A5d
141	図 5	148-4	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(146)		[65]		内黒	Ⅱ A5a
141	図 6	148-5	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(144)		[68]		内黒, 輪積痕	Ⅱ A5a
141	図 7	148-6	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	(119)	134	46	89	内黒	Ⅱ A8b
141	図 8	148-7	2	T21	Y.Z-17		土師器	坏	157	152		110	内黒, 底部ハケメ 外面煤付着	Ⅱ A8a

表 21 土器計測表 (20)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
141 図 9	148-8	2	T21		Y.Z-17		土師器	坏	136	146	93	内黒	II A8c	
141 図 10	149-1	2	T21		Y.Z-17		土師器	坏	(160)	146	[85]	内黒	II A8a	
141 図 11	149-2	2	T21		Y.Z-17		土師器	高坏	232		[120]	内黒	II B1b	
141 図 12	149-3	2	T21		Y.Z-17		土師器	坏	62	40	37	被熱	II A10a	
141 図 13	149-4	2	T21		Y.Z-17		土師器	壺	120	164	50	173	被熱	II C2b
141 図 14	149-5	2	T21		Y.Z-17		土師器	壺	141	199	(75)	222	被熱	II C3
142 図 1	149-6	2	T21		Y.Z-17		土師器	壺	161	238	64	314		II C4
142 図 2	150-1	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(182)	(186)	42	256	被熱,外面煤付着	II E5b
142 図 3	150-2	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(150)	(147)	70	180	被熱	II E1b
142 図 4	150-3	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(192)	(164)	40	213	被熱,外面煤付着	II E3b
142 図 5	150-4	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	136	150	46	178	底部ヘラケズリ,被熱	II E1b
143 図 1	151-1	2	T21		Y.Z-17		土師器	壺		371	83	[444]	底部木葉痕,被熱	II C4
144 図 1	151-2	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	183	(217)	37	293	底部ハケメ 被熱,外面煤付着	II E5b
144 図 2	151-3	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(246)	269	55	292	底部ハケメ	II E6a
144 図 3	151-4	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(145)	(197)	36	286	被熱,外面煤付着	II E5c
144 図 4	152-1	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(208)	242	[286]	被熱,外面煤付着	II E5b	
145 図 1	152-2	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(187)	184	[146]	外面煤付着	II E2b	
145 図 2	152-3	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(143)	(180)	[179]	被熱,外面煤付着	II E3a	
145 図 3	152-4	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(182)	(182)	[167]	被熱,外面煤付着	II E2b	
145 図 4	153-1	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(136)	166	[154]	被熱,外面煤付着	II E1c	
145 図 5	153-2	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(186)	(218)	[233]	被熱,外面煤付着	II E5b	
145 図 6	152-5	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(180)	(172)	[143]	外面煤付着	II E2b	
145 図 7	153-3	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(230)	(268)	[145]		II E6b	
146 図 1		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(176)	[156]	[77]	外面煤付着	II E	
146 図 2	153-4	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(164)	[176]	[115]	被熱,外面煤付着	II E	
146 図 3		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(214)	[191]	[48]		II E	
146 図 4		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(154)	[147]	[52]		II E	
146 図 5		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(190)		[30]		II E	
146 図 6		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(174)		[38]	外面煤付着	II E	
146 図 7		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕	(170)	[152]	[27]	外面煤付着	II E	
146 図 8	153-5	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[210]	(76)	[122]	被熱	II E
146 図 9	154-1	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		(144)	70	[94]	被熱	II E
146 図 10	154-2	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[210]	(70)	[99]	被熱	II E
146 図 11	154-3	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		(198)	54	[137]	被熱,外面煤付着	II E
146 図 12	154-4	2	T21		Y.Z-17		土師器	壺		(242)	45	[218]		II C5
147 図 1	154-5	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[156]	46	[68]	被熱	II E
147 図 2		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[120]	64	[40]	被熱	II E
147 図 3		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[110]	(76)	[23]	被熱	II E
147 図 4	154-6	2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[172]	54	[91]	被熱	II E
147 図 5		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[94]	72	[30]	被熱	II E
147 図 6		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[102]	50	[30]	被熱	II E
147 図 7		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		164		[162]		II E
147 図 8		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		(250)		[250]	被熱	II F2
147 図 9		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		(164)		[162]	被熱	II E
147 図 10		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[202]	(116)	[101]	外面煤付着	II F
147 図 11		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[162]	(84)	[76]	外面煤付着	II F
147 図 12		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[60]	40	[13]	被熱	II E
147 図 13		2	T21		Y.Z-17		土師器	甕		[51]	34	[11]	被熱	II E
147 図 14		2	T21		Y.Z-17		須恵器	蓋	(160)			[47]		II I
147 図 15		2	T21		Y.Z-17		須恵器	蓋		[129]		[35]	内面煤付着	II I
147 図 16		2	T21		Q~AD-11~20		陶器	耳壺		[124]		[29]	瓷器系	IV C1
148 図 1		3	C		T-19		土師器	坏	(160)			[56]	内黒	II A5a
148 図 2	155-1	3	C		U-20	遺物群 26 遺物群 28	土師器	坏	(158)			56	内黒,被熱	II A6b
148 図 3	155-2	3	C		U-20	遺物群 25 RP169	土師器	坏	166			61	内黒,輪積痕	II A5a
148 図 4	155-3	3	C		U-19	RP38	土師器	坏	(154)			53	内黒,輪積痕	II A5a

表 22 土器計測表 (21)

図版番号	写真番号	調査回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
148 図 5	155-4	3	C		U-20	遺物群 25	土師器	坏	168			72	内黒	II A6b
148 図 6		3	C		U-19		土師器	坏	(156)			56	内黒	II A6a
148 図 7	155-5	3	C		U-20 Y-20		土師器	坏	(140)			39	内黒	II A7
148 図 8		3	C		U-19		土師器	坏	(160)			[61]	内黒, 輪積痕	II A5a
148 図 9		3	C		U-19		土師器	坏	(166)			[55]	内黒, 外面煤付着	II A3
148 図 10	155-6	3	C		U-19		土師器	坏	(156)			[58]	内黒, 輪積痕	II A6a
148 図 11		3	C		U-19		土師器	坏	(160)			[38]	内黒	II A6a
148 図 12		3	C		U-19		土師器	坏	(166)			[55]	内黒, 輪積痕	II A6a
148 図 13		3	C		U-20	遺物群 25	土師器	坏	(208)			[60]	内黒	II A6b
148 図 14	155-7	3	C		U-20	遺物群 25	土師器	高坏	(173)			[51]	内黒, 被熱	II B1a
148 図 15		3	C		U-19		土師器	甕	(208)	[210]		[72]	外面煤付着	II E
148 図 16		3	C		U-19		土師器	甕	(196)	[196]		[77]	被熱	II E
148 図 17		3	C		U-19		土師器	甕	(209)	[180]		[61]	被熱	II E
148 図 18		3	C		U-15		土師器	甕	(124)	114		[50]	被熱	III E1a
148 図 19		3	C		U-15		須恵器	横瓶	(114)	[154]		[47]	遺構消滅	III O
149 図 1	155-8	3	C		V-20		土師器	台付坏	107		48	50	内黒, 輪積痕, 底部布目	II A10d
149 図 2		3	C		V-20		土師器	坏	(152)			[43]	内黒, 被熱	II A5a
149 図 3		3	D		V-21		土師器	坏	(190)			[57]	内黒, 被熱	II A6a
149 図 4		3	D		V-20		土師器	甕	(178)	[188]		[72]	被熱	II E
149 図 5		3	C		V-20		土師器	甕	(196)	[174]		[66]	被熱, 外面煤付着	II E
149 図 6		3	D		V-21		土師器	甕	(184)	[188]		[68]	被熱	II E
149 図 7		3	C		V-20		須恵器	壺	(140)			[44]		III M1b
149 図 8		3	C		W-19		須恵器	甕				[76]		III N
149 図 9		3	C		W-20		土師器	甕		[80]	49	[17]		III E1
149 図 10	155-9	3	C		X-19	RP29	土師器	坏	152			59	内黒, 被熱	II A5a
149 図 11	155-10	3	C		X-18		土師器	坏	(140)			[57]	内黒	II A5a
149 図 12	156-1	3	C		X-19.20		土師器	坏	(129)	138		87	内黒	II A8b
150 図 1	156-2	3	C		X-17		土師器	高坏		[102]	(94)	[69]	内黒	II B4
150 図 2	156-3	3	C		X-19 W-19 X-20	RP81	土師器	甕	(160)	212	36	284	被熱	II E5c
150 図 3	156-4	3	C		X-19	RP68	土師器	甕	156	185		[205]	被熱, 外面煤付着	II E3b
150 図 4	156-5	3	C		X-18		土師器	壺	(202)	237		[246]	被熱	II C5
150 図 5		3	C		X-19		陶器	播鉢	(290)			[55]	口縁内外面施釉	IV
150 図 6	157-1	3	C		Y-19		土師器	坏	160			63	内黒, 輪積痕	II A5a
150 図 7	157-2	3	C		Y-19	RP66	土師器	坏	(154)			60	内黒	II A6a
150 図 8	157-3	3	C		Y-19		土師器	坏	(158)			[59]	内黒	II A5a
150 図 9		4	F		Y-23		土師器	坏	(156)			[51]	内黒	II A3
151 図 1	157-4	4	F		Y-23.23#		土師器	高坏	(251)			[79]	内黒	II B2b
151 図 2	157-5	4	F		Y-23		土師器	高坏	(240)			[89]	内黒	II B2b
151 図 3	157-6	3	C		Y-19		土師器	甕	(236)	260	74	281	輪積痕, 被熱	II E6b
151 図 4	157-7	3	C		Y.Z-19		土師器	高坏	163		93	84	内黒	II B1a
151 図 5	157-8	3	C		Y-19		土師器	坏	(128)			[51]		II A1a
151 図 6	158-1	3	C		Y-19		土師器	坏	(95)			[51]		II A1c
151 図 7	158-2	3	C		Y.Z-19		土師器	壺	127	223		[241]	被熱	II C4
151 図 8	158-3	3	C		Y-19		土師器	甕	229	235		[208]	輪積痕 被熱, 外面煤付着	II E4b
151 図 9	158-4	3	C		Y-20	RP67	土師器	甕	120	121		[83]	被熱	II E2a
151 図 10		3	C		Y-19		土師器	甕		[112]	53	[45]	被熱, 外面煤付着	II E
152 図 1		3	C		Z.AA-20		土師器	坏	(176)			[62]	内黒, 輪積痕	II A6a
152 図 2	158-5	3	C		Z-19	RP77	土師器	坏	(164)			57	内黒, 輪積痕	II A5a
152 図 3	158-6	3	C		Z.AA-20		土師器	坏	150			[49]	内黒, 輪積痕	II A5a
152 図 4	158-7	3	C		Z-19	RP77	土師器	坏	(160)			55	内黒	II A5a
152 図 5		3	C		Z-19		土師器	坏	(168)			[46]	内黒	II A5a
152 図 6	159-1	3	C		Z-20	RP99	土師器	坏	(160)			68	内黒, 底部ハケメ	II A5a
152 図 7		3	C		Z-19		土師器	坏	(157)			[43]	内黒, 被熱	II A5a
152 図 8	159-2	3	C		Z-20		土師器	坏	141			54	内黒	II A3

表 23 土器計測表 (22)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
152 図 9		3	C		Z.AA-20 AB-21		土師器	坏	(158)		[56]	内黒		II A6b
152 図 10		3	C		Z-20		土師器	坏	[156]		[54]	内黒		II A5a
152 図 11		3	C		Z-19		土師器	坏	[157]		[50]	内黒, 輪積痕		II A6a
152 図 12	159-3	3	C		Z-19.20		土師器	甕	210	248	64	355	輪積痕, 被熱	II E5b
152 図 13	159-4	3	C		Z.AA-20		土師器	高坏	227		(108)	130	内黒	II B1b
152 図 14		3	D		Z-20		土師器	甕	(158)	[182]		[87]	被熱, 外面煤付着	II E
152 図 15		3	D		Z-24		土師器	高坏			(96)	[22]		II B4
152 図 16		3	D		Z-23		陶器	甕	[144]	(73)	[46]			IV
153 図 1		3	C		Z-19		土師器	甕	[93]	71	[31]		底部ハケメ, 被熱	II E
153 図 2		2	T20		S-Z-20*26		陶器	壺	[236]		[53]		珠洲系	IV B2
153 図 3	159-5	3	C		Z-20		須恵器	甗	(112)		[51]		内外面自然釉	II K
153 図 4		3	D		Z-20		陶器	皿	(114)	41	31		唐津, 胎土目, 釉	IV F1b
153 図 5	159-6	3	C		AA.AB-20		土師器	坏	(160)			59	内黒	II A5a
153 図 6	159-7	3	C		AA-20.21		土師器	坏	146			59	内黒	II A6a
153 図 7	160-1	3	C		AA-20		土師器	坏	(164)			63	内黒	II A6a
153 図 8	160-2	3	C		AA-20	RP103	土師器	坏	157			55	内黒	II A5a
153 図 9	160-3	3	C		AA-20		土師器	坏	(148)			57	内黒	II A3
153 図 10	160-4	3	C		AA-20	RP102	土師器	坏	(159)			54	内黒, 輪積痕	II A5a
153 図 11	160-5	3	C		AA-20		土師器	坏	158			59	内黒	II A5a
153 図 12	160-6	3	C		AA-20		土師器	坏	153	60	56		内黒	II A6a
153 図 13	160-7	3	C		AA-20	RP102	土師器	坏	160			63	内黒	II A6a
153 図 14		3	C		AA-20		土師器	坏	(149)		[52]		内黒	II A5a
153 図 15	160-8	3	C		AA-20 AB-21	RP103	土師器	坏	(148)			[58]	内黒, 輪積痕	II A5a
153 図 16		3	D		AA.AB-20		土師器	坏	(166)		[42]		内黒	II A5a
153 図 17	160-9	3	C		AA-20	RP101	土師器	甕	172	211	70	283	被熱	II E5a
154 図 1	161-1	4	F	SG771	G#-10		土師器	坏	(108)		52	42	回転糸切	III A4d
154 図 2	161-2	4	F	SG771	G#-10.10#		土師器	坏	106		45	48	回転糸切	III A4d
154 図 3	161-3	4	F	SG771	G-11		土師器	坏	(110)		49	41	回転糸切	III A4d
154 図 4	161-4	3	B	SG771	J-8		土師器	坏	(126)		60	48	回転糸切, 底部穿孔	III A4c
154 図 5	161-5	4	F	SG771	G#-10#	RP15	土師器	坏	(106)		54	47	静止糸切, 底部穿孔?	III A5
154 図 6	161-6	3	C	SG771	H-10		土師器	高台坏	(150)		(72)	65	回転糸切	III B4
154 図 7	161-7	2	T15	SG771	G.H-11.12		土師器	台付皿	(130)		(68)	35	回転糸切	III C
154 図 8	161-8	4	F	SG771 SG771 SG771	G#-11 G#-11 G-11	遺物群 1 RP16	須恵器	坏	126		64	35	回転斫切, 墨書『人』	III 11a
154 図 9	162-1	3	B	SG771	I-9		須恵器	坏	124		64	30	回転斫切, 墨書『?』	III 11a
154 図 10	162-2	4	F	SG771	H-10#	RP25	須恵器	坏	129		60	40	回転糸切	III 12a
154 図 11	162-3	3	B	SG771	K-7	RP121	須恵器	坏	124		70	35	回転斫切	III 11a
154 図 12	162-4	3	B	SG771	J-9		須恵器	坏	(136)		64	32	回転斫切	III 11a
154 図 13	162-5	3	C	SG771	H-10	RP25	須恵器	坏	142		58	44	回転糸切後ナデ整形	III 12a
154 図 14	162-6	4	F	SG771 SG771	H-10# I#-10#	RP14	須恵器	坏	134		84	34	回転斫切	III 11a
154 図 15	162-7	2	T5	SG771	J.K-7		須恵器	坏	122		68	30	回転斫切, 転用硯?	III 11a
154 図 16	162-8	4	F	SG771	G#-10		須恵器	坏	120		65	34	回転斫切	III 11a
154 図 17	162-9	2	T5	SG771	J.K-7		須恵器	坏	(124)		(60)	39	回転斫切	III 11a
154 図 18	163-1	4	F	SG771	G#-11	RP23	須恵器	坏	(118)		(68)	28	回転斫切	III 11a
155 図 1	163-2	4	F	SG771	H-10#	RP11	須恵器	坏	(122)		(69)	25	回転斫切	III 11b
155 図 2		3	C	SG771	I-9		須恵器	坏	(134)		(80)	44	回転斫切	III 11a
155 図 3		4	F	SG771	G#-10#		須恵器	坏	(130)		(78)	38	回転斫切	III 11a
155 図 4		3	C	SG771	H-J-9*11		須恵器	坏	(144)		(80)	30	回転斫切	III 11b
155 図 5		4	F	SG771	G#-10#		須恵器	坏	(124)		(57)	32	回転糸切	III 12a
155 図 6	163-3	3	B	SG771	J-9		須恵器	坏	(122)		(78)	36	回転斫切, 墨書『?』	III 11a
155 図 7	163-4	3	B	SG771	J-9		須恵器	高台坏	97		54	48	回転斫切	III J1b
155 図 8	163-5	3	B	SG771	I-K-7*9		須恵器	高台坏	(130)		(80)	46	回転斫切	III J1a
155 図 9		4	F	SG771	G#-10		土師器	坏	(133)		[44]		内面煤付着	III 1J

表 24 土器計測表 (23)

図版 番号	写真 番号	調査 次数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
155 図 10		4	F	SG771	G#-10#		須恵器	坏	(130)			[31]		Ⅲ IJ
155 図 11		3	C	SG771	J-9		須恵器	坏	(132)			[30]		Ⅲ IJ
155 図 12		2	T5	SG771	J.K-7		須恵器	坏	(126)			[27]		Ⅲ IJ
155 図 13		4	F	SG771	G#-10		須恵器	坏	(124)			[30]		Ⅲ IJ
155 図 14		3	C	SG771	H-K-7-9		土師器	坏	(109)			[25]	内外面煤付着	Ⅲ IJ
155 図 15		3	C	SG771	H-I-10		須恵器	坏	(134)			[22]		Ⅲ IJ
155 図 16		3	C	SG771	J-8		須恵器	坏	(110)			[30]		Ⅲ IJ
155 図 17		3	C	SG771	H-10		須恵器	坏	(112)			[43]		Ⅲ IJ
155 図 18		3	C	SG771	I-9		須恵器	坏	[103]	(66)	[20]		回転斫切	Ⅲ I1
155 図 19		4	F	SG771	G-11		須恵器	坏	[67]	(45)	[8]		回転斫切	Ⅲ I2
155 図 20	163-6	4	F	SG771	G#-10#	RP12	須恵器	坏	[94]	(60)	[9]		回転斫切, 墨書『中』	Ⅲ I1
155 図 21		2	T15	SG771	G.H-11.12		須恵器	高台坏	[101]	64	[22]		回転斫切, 転用硯 内外面墨付着, 墨書『田』	Ⅲ J
156 図 1	163-7	4	F	SG771	G#-11	RP24	須恵器	蓋	145				墨書『?』	Ⅲ L2a
156 図 2		2	T15	SG771	G.H-11.12		須恵器	蓋	(135)				転用硯, 内面墨付着	Ⅲ L1
156 図 3	164-1	4	F	SG771	G#-10#.11		須恵器	蓋	124				胎土に骨針含む	Ⅲ L
156 図 4		2	T15	SG771	G.H-11.12		須恵器	蓋	(158)					Ⅲ L
156 図 5	164-2	4	F	SG771	G#-11	RP13	須恵器	蓋	(140)					Ⅲ L
156 図 6		2	T15	SG771	G.H-11.12		須恵器	蓋	(152)					Ⅲ L
156 図 7	164-3	4	F	SG771	G#-11		土師器	甕	150	144	64	122	回転斫切 被熱, 内外面煤付着	Ⅲ E1b
156 図 8	164-4	2	T15	SG771	G.H-11.12		土師器	甕	154	154	80	150	被熱, 口縁内面炭化物付着	Ⅲ E1a
156 図 9	164-5	2 3	T5 B	SG771 SG771	J.K-7 I-K-7-9		土師器	甕	(130)	128	(88)	166	底部木葉痕 被熱, 内外面煤付着	Ⅲ E2a
156 図 10		2	T15	SG771	G.H-11		土師器	甕	(164)	(168)		[69]		Ⅲ E1a
156 図 11		4	F	SG771	G-11		土師器	甕	(160)	[164]		[73]		Ⅲ E1a
156 図 12		4	F	SG771	G#-10		土師器	埴	(240)			[67]		Ⅲ F
157 図 1		2	T15	SG771	G.H-11.12		土師器	甕	[90]	(50)	[33]		被熱	Ⅲ E1
157 図 2		3	C	SG771	H-J-9-11		土師器	甕	[106]	57	[40]		底部ヘラケズリ, 被熱	Ⅲ E1
157 図 3		4	F	SG771	G.G#-11		土師器	甕	[90]	(77)	[14]		回転斫切	Ⅲ E1
157 図 4		4	F	SG771	G#-11		土師器	甕	[96]	(62)	[26]		回転斫切, 被熱	Ⅲ E1
157 図 5		2	T5	SG771	J.K-7		土師器	甕	[106]	(71)	[32]		被熱	Ⅲ E1
157 図 6		4	F	SG771	G#-10		土師器	甕	[93]	54	[30]		内外面火ハネ	Ⅲ E1
157 図 7		3	C	SG771	I-9		土師器	甕	[77]	(60)	[20]			Ⅲ E1
157 図 8		4	F	SG771	G.G#-11		土師器	甕				[108]	内外面炭化物付着	Ⅲ E3
157 図 9		4	F	SG771 SG771	G-10 H-11		土師器	甕				[77]		Ⅲ E3
157 図 10		3	C	SG771	J-9		土師器	甕				[55]		Ⅲ E3
157 図 11		4	F	SG771	H-10# N-16		土師器	甕				[112]	被熱, 外面炭化物付着	Ⅲ E3
157 図 12		3 4	C F	SG771 SG771	H-J-9.10 H-10#		土師器	甕				[134]	被熱, 外面炭化物付着	Ⅲ E3
157 図 13		3	C	SG771	J-8		土師器	甕				[64]		Ⅲ E3
158 図 1	164-6	3	B	SG771	J-8	RP92	須恵器	壺	89	[86]		[90]		Ⅲ M1a
158 図 2		4	F	SG771	G-10		須恵器	壺	(128)	[256]		[68]		Ⅲ M1b
158 図 3		4	F	SG771	G#-10		須恵器	台付壺	[200]	(126)	[68]		回転斫切	Ⅲ M1c
158 図 4	165-1	4	F	SG771	G#-11	RP17	須恵器	甕	170	284	(70)	292	底部被熱	Ⅲ N
158 図 5		4	F	SG771	G#-11		須恵器	甕	(224)			[51]		Ⅲ N
158 図 6		3	B	SG771	J-8		須恵器	甕				[128]		Ⅲ N
158 図 7		3	C	SG771	J-9		須恵器	壺				[42]		Ⅲ N
159 図 1	165-2	3	B	SG771	J-8		陶器	甕	(770)			[470]	瓷器系	Ⅳ C2
160 図 1	166-1	4	E	SG833	D-3		土師器	坏	142		60	53	回転斫切, 口縁煤付着	Ⅲ A4a
160 図 2	166-2	3	A	SG833	C-3 C-4		土師器	坏	126		58	53	回転斫切	Ⅲ A4c
160 図 3	166-3	3	A	SG833 SG833	B-4 C.D-3		土師器	坏	146		70	41	回転斫切	Ⅲ A4b
160 図 4	166-4	4	E	SG833	D-3	RP3	土師器	坏	(120)		(48)	47	回転斫切	Ⅲ A4c
160 図 5		3	A	SG833	B-D-3-5 C-3-5		土師器	坏	(124)		70	34	回転斫切	Ⅲ A3b
160 図 6	166-5	3	A	SG833	B-D-3-5		土師器	坏	(103)		56	32	両黒, 底部ミガキ	Ⅲ A1

表 25 土器計測表 (24)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
160 図 7		3	B	SG833	E-4		土師器	坏	(116)	(70)	[32]	両黒, 底部ミガキ	Ⅲ A1	
160 図 8		3		SG833	B-F-3-5		土師器	坏	[102]	(66)	[16]	回転斫切, 墨書『成』	Ⅲ A3	
160 図 9		3	A	SG833	B-4		土師器	坏	[125]	(80)	[27]	回転斫切, 墨書?	Ⅲ A3	
		4	E		C-3.5 C#-6									
160 図 10		3	A	SG833	C-3		土師器	坏	[102]	(52)	[15]	回転斫切	Ⅲ A3	
160 図 11		3	A	SG833	C-3		土師器	坏	[106]	(60)	[21]	内黒, 回転糸切	Ⅲ A2	
160 図 12		3	B	SG833	E-F-3.4		土師器	坏	[113]	(70)	[20]	内黒	Ⅲ A2	
160 図 13	166-6	3	A	SG833	B-D-3-5		須恵器	坏	138	80	39	回転斫切	Ⅲ I1a	
160 図 14	166-7	3	A	SG833	B-D-3-5		須恵器	坏	132	80	39	回転斫切	Ⅲ I1a	
160 図 15	166-8	3	A	SG833	B-D-3-5 B-5		須恵器	坏	(128)	84	42	回転斫切	Ⅲ I1a	
160 図 16	166-9	3	A	SG833	C-3	RP41	須恵器	坏	135	81	37	回転斫切	Ⅲ I1a	
160 図 17	166-10	3	A	SG833	C-4	RP43	須恵器	坏	132	68	35	回転斫切 口縁樹脂付着	Ⅲ I1a	
160 図 18	166-11	2	T1	SG833	E-F-3		須恵器	坏	148	100	40	回転斫切, 焼成不良	Ⅲ I1a	
161 図 1	166-12	3	A	SG833	C-3	RP44	須恵器	坏	127	80	36	回転斫切 外面樹脂付着	Ⅲ I1a	
161 図 2	167-1	4	E	SG833	D-3	RP1	須恵器	坏	140	70	47	回転斫切	Ⅲ I1a	
				SG833	D-2#									
161 図 3	167-2	3	A	SG833	C-3	RP42	須恵器	坏	134	75	40	回転斫切	Ⅲ I1a	
161 図 4	167-3	3	A	SG833	B-D-3-5		須恵器	坏	134	86	42	回転斫切, 転用硯?	Ⅲ I1a	
161 図 5	167-4	3	B	SG833	F-3	RP27	須恵器	坏	127	60	35	回転斫切	Ⅲ I1b	
161 図 6	167-5	3	A	SG833	C-3		須恵器	坏	(124)	72	46	回転斫切	Ⅲ I1a	
161 図 7	167-6	3	A	SG833	B-5	RP39	須恵器	坏	142	94	40	回転斫切	Ⅲ I1a	
161 図 8	167-7	2	T1	SG833	E-F-3.4		須恵器	坏	(123)	(76)	[35]	回転斫切 内面樹脂付着	Ⅲ I1a	
161 図 9	167-8	3	A	SG833	B-D-3-5		須恵器	坏	(138)	124	92	38 回転斫切 底部外面煤付着	Ⅲ I1a	
161 図 10	167-9	4	E	SG833	D-3	RP9	須恵器	坏	145	100	39	回転斫切, 墨書『廣人』	Ⅲ I1a	
161 図 11	168-1	3	A		C-6	RP5	須恵器	坏	140	100	37	回転斫切, 墨書『南』	Ⅲ I1a	
		4	E	SG833	D-3									
				SG833	C#-3# D-3#									
161 図 12	168-2	3	A	SG833	C-3	RP30	須恵器	坏	130	48	37	回転糸切, 墨書『満』	Ⅲ I2a	
161 図 13	168-3	3	A		B-5		須恵器	坏	(155)	96	44	回転斫切	Ⅲ I1a	
					C-6									
		4	E	SG833	D-3									
162 図 1		4	E	SG833	D-2#.3		須恵器	坏	(130)	(56)	40	回転糸切?	Ⅲ I2a	
162 図 2		3	A		X-O		須恵器	坏	(136)	(90)	37	回転斫切	Ⅲ I1a	
			B	SG833	E-F-3.4									
162 図 3		3	B	SG833	E-F-3.4		須恵器	坏	(130)	(100)	35	回転斫切	Ⅲ I1a	
			E	SG833	D-2#									
162 図 4	168-4	3	A	SG833	B-D-3-5 C-6		須恵器	高台坏	(102)	60	51	回転斫切	Ⅲ J1b	
162 図 5	168-5	3	A	SG833	B-D-3-5 B-6		須恵器	高台坏	134	82	39	回転斫切	Ⅲ J1a	
162 図 6	168-6	3	A	SG833	B-D-3-5		須恵器	高台坏	141	90	45	回転斫切	Ⅲ J1a	
162 図 7	168-7	3	A	SG833	C-3	RP35	須恵器	高台坏	128	62	45	回転斫切	Ⅲ J1a	
162 図 8	169-1	3	A	SG833	D-3	RP45	須恵器	高台坏	142	82	47	回転斫切, 墨書『火』	Ⅲ J1a	
162 図 9	169-2	3	A	SG833	B-D-3-5 A-5		須恵器	高台坏	134	84	35	回転斫切	Ⅲ J1a	
162 図 10	169-3	3	B	SG833	E-F-3.4		須恵器	高台坏	140	(80)	[81]	回転斫切	Ⅲ J1c	
162 図 11	169-4	3	A	SG833	B-D-3-5		須恵器	高台坏	(136)	82 (坏身)	[35]	回転斫切	Ⅲ J1a	
162 図 12		3	B	SG833	C-3		須恵器	高台坏	(144)	(98)	35		Ⅲ J1a	
162 図 13		3	B	SG833	E-F-3.4		須恵器	高台坏	(132)	(88)	42	回転斫切, 転用硯 内外面墨付着	Ⅲ J1a	

表 26 土器計測表 (25)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
162 図 14		4	E	SG833	D-3#		須恵器	坏	(150)		[31]		Ⅲ I	
162 図 15		4	E	SG833	D-3		須恵器	坏	(136)		[28]		Ⅲ I	
162 図 16		3 4	B E	SD836 SG833	E.F-5-10 C#.D-2#-4		須恵器	坏	(130)		[36]		Ⅲ I	
162 図 17		3	B	SG833	E.F-3.4		須恵器	坏	(130)		[29]		Ⅲ I	
162 図 18		3	B	SG833	E.F-3.4		須恵器	坏	(130)		[30]		Ⅲ I	
163 図 1		3	B	SG833	E.F-3.4		須恵器	坏	[105]	(50)	[26]	回転斡切, 墨書『?』	Ⅲ I1a	
163 図 2		2	T1	SG833	E.F-3.4		須恵器	坏	[121]	(80)	[22]	回転斡切	Ⅲ I1a	
163 図 3		3	B	SG833	E.F-3.4		須恵器	高台皿	[91]	(50)	[24]	回転糸切	Ⅲ K	
163 図 4		3	B	SG833	E.F-3.4		須恵器	蓋	(156)		[33]	墨書『井』	Ⅲ L	
163 図 5		2	T1	SG833	E.F-3.4		須恵器	蓋	(136)		[18]	転用硯?, 内面墨? 付着	Ⅲ L	
163 図 6		3	B	SG833	E.F-3.4		須恵器	蓋	[124]		[15]		Ⅲ L2b	
163 図 7		2	T1	SG833	E.F-3.4		須恵器	蓋	[62]		[16]		Ⅲ L2b	
163 図 8	169-5	3	B	SG833 SD836	E.F-3.4 E.F-5-10		土師器	甕	(200)	203	[86]		Ⅲ E3	
163 図 9		4	E	SG833	C#-3		土師器	甕	(320)		[51]	内面煤付着	Ⅲ F	
163 図 10		3	B	SG833	E.F-3.4		土師器	塀	(274)	(250)	[76]	被熱, 内外面煤付着	Ⅲ F	
163 図 11		3	B	SG833	E.F-3.4		土師器	塀	(310)		[67]		Ⅲ F	
163 図 12		3	B	SG833	E.F-3.4		土師器	塀	(334)		[109]	被熱, 外面炭化物付着	Ⅲ F	
164 図 1		3	B	SG833	E.F-3.4		土師器	甕	[134]	66	[50]	内外面煤付着	Ⅲ E2	
164 図 2		3 4	B E	SG833 SG833	E.F-3.4 C#.D-2#-4		土師器	甕	[140]	(86)	[31]		Ⅲ E2	
164 図 3		4	E	SD34 SG833	D-5 D-2#		土師器	甕	[120]	(84)	[28]	内外面煤付着	Ⅲ E2	
164 図 4		3	B	SG833	E.F-3.4		土師器	鉢	[112]	76	[14]	回転斡切	Ⅲ D	
164 図 5		3	B	SG833	E.F-3.4		土師器	焜炉型土器	[130]	(80)	[59]	被熱	Ⅲ H2	
164 図 6	169-6	3	A	SG833	C-4	RP37	須恵器	台付壺	105	62	[91]		Ⅲ M2c	
164 図 7	169-7	3 4	A E F	SG833	B-D-3-5 D-5# D-6#		須恵器	壺	(74)	102	[51]		Ⅲ M2b	
164 図 8		4	E	SG833	D-2#		須恵器	甕	[266]		[42]		Ⅲ N	
164 図 9		4	E	SG833	D-2#		須恵器	壺			[105]		Ⅲ M1	
164 図 10		3	B	SG833	E.F-3.4		須恵器	甕			[110]	胎土に骨針含む	Ⅲ N	
165 図 1		3	B	SG833	C-4		須恵器	甕			[286]		Ⅲ N	
165 図 2		3	B	SG833	E.F-3.4		須恵器	甕			[102]		Ⅲ N	
165 図 3		3	A	SG833	B-D-3-5		須恵器	甕			[267]		Ⅲ N	
166 図 1		3 4	B E	SG833 SG833	E.F-3.4 D-3		須恵器	甕			[34]	被熱	Ⅲ N	
166 図 2		3 4	A E	SG833 SG833	B-D-3-5 D-3#		須恵器	甕			[227]		Ⅲ N	
166 図 3		3	A	SG833	B-D-3-5		須恵器	甕			[135]		Ⅲ N	
166 図 4		3	A	SG833	D-4		珠洲系	播鉢	(308)		[42]		Ⅳ B1	
166 図 5		3	B	SG833	E.F-3.4		陶器	播鉢	[230]	(132)	[62]	珠洲系陶器 15.6c 回転糸切	Ⅳ B1a	
167 図 1	170-1	2	T18	ST795	I-7		土師器	坏	(101)	(60)	46	被熱	Ⅲ A6	
167 図 2	170-2	3	B	ST795	IJ-7		須恵器	坏	(136)	(65)	34	回転斡切 外面煤付着	Ⅲ I1a	
167 図 3	170-3	2	T18	ST795	I-7		土師器	甕	(136)	(142)	82	138 回転糸切 被熱, 内外面煤付着	Ⅲ E1a	
167 図 4	170-4	2	T18	ST795	I-7		土師器	甕	(142)	[148]	[87]	外面煤付着	Ⅲ E1b	
167 図 5	170-5	2	T18	ST795	I-7		土師器	甕	(136)	(136)	[110]	被熱, 内外面煤付着	Ⅲ E1a	
167 図 6	170-6	2	T18	ST795	I-7		土師器	甕	(200)	200	[52]	被熱	Ⅲ E3	
167 図 7		2 3	T18 B	ST795 SD773 ST795	I-7 H-I-6-9 H-I-7		土師器	甕	(212)	200	[66]		Ⅲ E3	
167 図 8		2	T18	ST795	I-7		土師器	甕	(134)	(128)	[53]	被熱, 内外面煤付着	Ⅲ E1a	
167 図 9	170-7	2	T18	ST795	I-7		土師器	甕	[134]	80	[80]	回転糸切 被熱, 内外面煤付着	Ⅲ E1a	

表 27 土器計測表 (26)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
167 図 10	171-1	2	T18	ST795	I-7		土師器	甕	[130]	73	[50]	回転糸切 被熱,外面煤付着	Ⅲ E1a	
167 図 11		2	T18	ST795	I-7		土師器	甕			[89]	被熱,外面炭化物付着	Ⅲ E3	
167 図 12		2	T18	ST795	I-7		土師器	甕			[60]	被熱	Ⅲ E3	
167 図 13		2	T18	ST795	I-7		土師器	甕	[117]		[55]	被熱,内外面煤付着	Ⅲ E3	
168 図 1		3	B	ST1171	E-4.5 E-4		須恵器	坏	(140)		(102)	36	回転篋切	Ⅲ I1a
168 図 2	171-2	3	B	ST1171	E-4.5 C-4 E-4		須恵器	坏	126		63	39	回転篋切,内面煤付着	Ⅲ I1b
168 図 3	171-3	3	B	ST1171	E-5	RP34	須恵器	坏	114		58	35	回転篋切 口縁内面煤付着	Ⅲ I1b
168 図 4		3	B	ST1171	E-4.5 E-5		須恵器	坏	[120]		63	[26]	回転篋切	Ⅲ I1a
168 図 5		3	A B	SP853 SG833 ST1171 SG833	D-2 E.F-3.4 E-4.5 F-4 D-3		須恵器	坏	[119]	(90)	[24]		回転篋切	Ⅲ I1a
		4	E											
168 図 6	171-4	3	B	SD834 ST841 SD1074	F-4.5 E-4.5 E-5.6 E-6 F-5		須恵器	蓋	154			33	回転篋切 胎土に骨針含む	Ⅲ L2b
168 図 7	171-5	3	B	SG833 ST1171 SK1046	E.F-3.4 E-4.5 E.F-4.5 E-4 F-5		土師器	甕	(134)	140	72	149	被熱	Ⅲ E2b
168 図 8	171-6	3	B	ST1171	E-5	RP33	土師器	甕	132	135	80	151	回転糸切 被熱,口縁炭化物付着	Ⅲ E1a
168 図 9	172-1	3	B	ST1171	E-4.5		土師器	甕	252			[385]	外面煤付着	Ⅲ E3
169 図 1		3	B	ST1171	E-4		土師器	甕	[180]			[96]	被熱,内外面煤付着	Ⅲ E3
169 図 2		3	B	ST1171	E-4		土師器	甕	[178]			[130]	被熱,外面炭化物付着	Ⅲ E3
169 図 3		3	A	ST981	D-5		土師器	高台坏	(146)		(88)	49	両黒,底部ミガキ	Ⅲ B1
169 図 4	172-2	3	B		E-4									
		4	E	ST981 SD34	C#-4# D-5 D-4#-6		須恵器	坏	(138)		95	44	回転篋切 体部両面樹脂付着	Ⅲ I1a
169 図 5	172-3	3	A	ST981	D-5		須恵器	坏	134		90	35	回転篋切	Ⅲ I1a
169 図 6	172-4	3 4	A E	ST981 ST981	D-5 C#-4#	RP48	須恵器	坏	126		72	34	回転篋切	Ⅲ I1a
169 図 7		3	A B	ST981 SG833	D-5 E.F-3.4		須恵器	坏	(122)		(83)	35	回転篋切	Ⅲ I1a
169 図 8	172-5	3 4	B E	ST981	E-6 C#-4#		須恵器	坏	128		85	32	回転篋切	Ⅲ I1a
169 図 9	172-6	3	A	ST981	D-5 C-4		須恵器	坏	(130)		86	34	回転篋切	Ⅲ I1a
169 図 10	172-7	3 4	B E	ST981	F-4 C#-4#	RP61	須恵器	高台坏	137		86 (坏身)	[34]	回転篋切	Ⅲ J1a
169 図 11	172-8	3	A	SG833 ST981	B-D-3-5 D-5 C-4		須恵器	高台坏	148		(84)	47	回転篋切	Ⅲ J1a
169 図 12	172-9	4	E	SG833 ST981	C#-D#-2#-4 C#-4#		須恵器	高台坏	(144)			[75]		Ⅲ J

表 28 土器計測表 (27)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
170 図 1		3 4	A E	SD1049 SD11 ST981	D.E-5.6 C#.D-4#.5 C#-4# D-5		須恵器	高台坏	[139]	(82)	[29]	回転篋切	Ⅲ J1	
170 図 2		3 4	A E	ST981	C-3.4 C#-4#		須恵器	高台坏	[119]	71	[27]	回転篋切	Ⅲ J1	
170 図 3	172-10	3 4	E	SG833 SG833 ST981	B-F-3.5 D-2# C#-4#	RP4	須恵器	高台坏	[145]	86	[41]	回転篋切 内外面樹脂付着	Ⅲ J1	
170 図 4	173-1	3 4	A E E	ST981 ST981 SD34	D-5 C#-4# D-5	RP47	須恵器	高台坏	[113]	73 (坏身)	[16]	回転篋切, 刻書『全』	Ⅲ J1	
170 図 5		3 4	B E	SD1052 ST981	D.E-6 C#-4#		須恵器	坏	[121]	104	[12]	回転篋切 火ハネ, 749 同一個体	Ⅲ IIa	
170 図 6		3	A B	ST981	D-5 E-5		須恵器	坏	[125]	(88)	[27]	回転篋切 胎土に骨針含む	Ⅲ IIa	
170 図 7		4	E	ST981	C#-4#		須恵器	坏	[108]	(80)	[19]	回転篋切	Ⅲ IIa	
170 図 8		4	E	ST981	C#-4#		須恵器	坏	[120]	(98)	[14]	回転篋切 底部火ハネ, 712 同一個体	Ⅲ IIa	
170 図 9	173-2	3 4	A E	ST981 ST981	D-5 C-3 C#-4#		須恵器	蓋	(142)		39		Ⅲ L2b	
170 図 10	173-3	4	E	ST981	C#-4#		須恵器	蓋	148		34		Ⅲ L2b	
170 図 11	173-4	3 4	A B E	SG833 SD836 SD1049 ST981	B-D-3.5 E.F-5.10 D.E-5.6 C#-4#		須恵器	蓋	(150)		34	胎土に骨針含む	Ⅲ L2b	
170 図 12		3	A	ST981	D-5 C-5		土師器	甕	(150)	136	[60]	被熱	Ⅲ E2c	
170 図 13		4	E	ST981	C#-4#		土師器	甕	(136)	124	[80]	被熱, 内面煤付着	Ⅲ E1a	
170 図 14	174-1	3	A	ST981	D-5	RP49	土師器	甕	212	215	[260]	外面煤付着	Ⅲ E3	
171 図 1	174-2	3 4	B E	SD836 SK1046 SD1049 ST981 SD10	E.F-5.10 E.F-4.5 D.E-5.6 C#-4# C#.D-4#.5		土師器	甕	196	196	[128]	被熱	Ⅲ E4	
171 図 2	174-3	4	E	ST981	C#-4#		土師器	甕	(160)	158	[64]	被熱	Ⅲ E1a	
171 図 3		3 4	A E	ST981 ST981	D-5 C#-4#		土師器	甕	(198)	[188]	[46]	被熱, 外面煤付着	Ⅲ E3	
171 図 4		4	E	ST981	C#-4# F-4		土師器	甕	(158)	164	[54]	被熱	Ⅲ E2d	
171 図 5		4	E	ST981	C#-4#		土師器	甕	(180)	140	[28]	被熱	Ⅲ E3	
171 図 6	174-4	3 4	A E	SK1046 ST981	E.F-4.5 C#-4#		土師器	甕		142	80	[105]	底部ヘラケズリ, 被熱	Ⅲ E2b
171 図 7	174-5	3 4	B E	SD834 SD835 SK1046 ST981 SD8	F-4.5 E-F-3.10 E.F-4.5 C#-4# C#.D-4.4#		土師器	甕	[196]	(80)	[139]	被熱	Ⅲ E4	
171 図 8		4	E	ST981	C#-4#		須恵器	甕			[85]	胎土に骨針含む	Ⅲ N	
171 図 9		3	A	ST981	D-5 C-4		須恵器	甕			[134]	胎土に骨針含む	Ⅲ N	
172 図 1	175-1	3	B	SD386 SK1046 SD1047	E.F-5.10 E.F-4.5 D.E-5.6 E-4		須恵器	坏	128	75	35	回転篋切	Ⅲ IIa	

表 29 土器計測表 (28)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
172 図 2	175-2	3	B	SG833	E.F-3.4		須恵器	高台坏	138	89	41	回転窓切	Ⅲ J1a	
		4	E	SK1046 SD9	E.F-4.5 C#.D-4.4#									
172 図 3	175-3	3	B	SG833 SD836 SK1046	E-4 E.F-5-10 E.F-4.5 E-5		須恵器	蓋	148		32		Ⅲ L2b	
172 図 4	175-4	3	B	SG833 SD834 SK1046	E.F-3.4 F-4.5 E.F-4.5 E-5		土師器	甕	155	153	(74)	158	被熱	Ⅲ E2a
172 図 5	175-5	3	B	SK1046	E.F-4.5		土師器	甕	(140)	144	66	142	被熱	Ⅲ E1b
172 図 6		3	A	SK1046	E.F-4.5		土師器	甕	(146)	152		[146]	被熱	Ⅲ E2b
172 図 7	176-1	3	B	SK1046	E.F-4.5		土師器	甕	(196)	220		[280]	Ⅲ E3	
		4	E	SD836	E.F-5-10 X-O									
172 図 8		3	B	SK1046 SD1114	E.F-4.5 G-6 F-5.6		土師器	甕	(202)	[198]		[102]	被熱	Ⅲ E3
172 図 9		3	B	SK1046	E.F-4.5		土師器	甕	(222)	(202)		[88]	内外面煤付着	Ⅲ E4
172 図 10		3	B	SK1046	E.F-4.5		土師器	甕	(206)	[198]		[68]	被熱, 内外面煤付着	Ⅲ E4
		4	E	SD8	C#.D-4.4#									
173 図 1		3	B	SK1046	E.F-4.5		土師器	甕	(285)	(258)		[121]	被熱	Ⅲ E4
173 図 2		3	B	SK1046	E.F-4.5		土師器	甕	(186)	[180]		[69]	被熱	Ⅲ E1a
173 図 3	176-2	3	B	SK1046	E.F-4.5		土師器	甕	104	104		[60]	下半被熱	Ⅲ E1b
173 図 4	176-3	3	B	SD836 SD837 SK1046 SD1049 SD1068	F-5 E-5.6 E.F-4.5 D.E-5.6 E.F-5 E-5		土師器	甕		140	60	[94]	被熱	Ⅲ E1b
173 図 5		3	B	SK1046	E.F-4.5 F-5		土師器	甕		[158]	(110)	[47]	被熱	Ⅲ E4
173 図 6	176-4	3	B	SD836 SK1046	E.F-5-10 E.F-4.5		土師器	甕		[200]		[145]	被熱	Ⅲ E3
		4	E	SD1068 SX38 SG833	E.F-5 D-4# C#.D#-2#~4									
173 図 7	176-5	3	B	SK1046	E.F-4.5 E-5		土製品	焔炉型土器	(128)		(112)	127	被熱	Ⅲ H2
173 図 8		3	B	SK1046 SD1068	E.F-4.5 E.F-5 E-5		陶器	壺		131		[47]	胎土に骨針含む	Ⅳ
173 図 9	176-6	3	A	SK1142	B-7	RP95	土師器	坏	138		59	41	回転窓切	Ⅲ A3c
173 図 10	177-1	3	A	SK1142	B-7	RP94	土師器	坏	130		46	52	回転窓切, 焼成不良	Ⅲ A4c
173 図 11	177-2	3	A	SK1141	B-7	RP110	土師器	坏	137		61	49	回転窓切, 墨書『野』	Ⅲ A4c
173 図 12	177-3	3	A	SK1141	B-7		土師器	坏	(130)		60	43	回転窓切	Ⅲ A4c
173 図 13		3	A	SK1141	B-7		土師器	坏	(126)			[36]		Ⅲ A
174 図 1		3	A	SK1179 SP1180	C-8 C-8		土師器	甕	(232)	[254]		[90]		Ⅲ E3
174 図 2		3	A	SK1179	C-8		土師器	甕		[107]	(55)	[30]	被熱	Ⅲ E
174 図 3		3	A	SK1179	C-8		須恵器	坏		[95]	(70)	[14]	回転窓切, 内面煤付着	Ⅲ I1a
174 図 4	177-4	3	A	SK1179	C-8	RP82	須恵器	蓋	(136)			30	回転窓切	Ⅲ L2b
174 図 5	177-5	3	A	SX1166	C-7		土師器	坏	130		50	47	回転窓切	Ⅲ A4c
174 図 6	177-6	3	A	SX1166 SX1169	C-7 C-7		土師器	坏	128		56	43	回転窓切	Ⅲ A3c
174 図 7	177-7	3	A	SX1166	C-7	RP79	土師器	坏	139		66	47	回転窓切	Ⅲ A3c

表 30 土器計測表 (29)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
174 図 8	177-8	3	A	SX1166 SX1169	C-7 C-7 B-6.7		土師器	坏	(126)	58	47	回転斡切?	Ⅲ A3c	
174 図 9	178-1	3	A	SX1166	C-7		土師器	坏	140	84	43	回転斡切, 墨書『成』?	Ⅲ A3b	
174 図 10	178-2	3	A	SX1166	C-7		土師器	坏	(128)	60	45	回転斡切, 墨書『成』	Ⅲ A3c	
174 図 11	178-3	3	A	SX1166 SX1168	C-7 C-7		土師器	坏	139	70	43	回転斡切, 墨書『成』	Ⅲ A3c	
174 図 12	178-4	3	A	SX1166	C-7 C-6		土師器	坏	132	60	46	回転斡切, 墨書『成』	Ⅲ A3c	
175 図 1	178-5	3	A	SX1166	C-7		土師器	坏	136	65	43	墨書『成』	Ⅲ A3c	
175 図 2	179-1	3	A	SX1166	C-7		土師器	坏	(133)	58	36	回転斡切, 墨書『成』	Ⅲ A3c	
175 図 3	179-2	3	A	SX1166 SX1168	C-7 C-7 C-6		土師器	坏	124	(56)	51	回転糸切, 墨痕	Ⅲ A4c	
175 図 4		3	A	SX1168	C-7		土師器	坏	(132)		[31]		Ⅲ A	
175 図 5		3	A	SX1166 SX1169	C-7 C-7		土師器	坏	(130)		[35]		Ⅲ A	
175 図 6		3	A	SX1166	C-7		土師器	坏	(128)		[33]		Ⅲ A	
175 図 7		3	A	SX1166	C-7		土師器	坏	(126)		[31]		Ⅲ A	
175 図 8		3	A	SX1166 SX1169	C-7 C-7		土師器	坏	(160)		[33]	口縁内外面煤付着	Ⅲ A	
175 図 9		3	A	SX1166	C-7		土師器	坏	(132)		[37]	回転糸切	Ⅲ A	
175 図 10		3	A	SX1166	C-7		土師器	坏	[102]	64	[20]	回転斡切	Ⅲ A3	
175 図 11	179-3	3	A	SX1166	C-7		須恵器	坏	136	56	39	回転糸切, 転用硯	Ⅲ I2a	
175 図 12		3	A	SX1166	C-7		土師器	甕	(186)	[184]	[81]	外面煤付着	Ⅲ E3	
175 図 13		3	A	SX1168	C-7		土師器	甕	[114]	59	[26]	回転糸切, 被熱	Ⅲ E1	
175 図 14		3	A	SX1168	C-7		土師器	坏	[84]	50	[16]	回転斡切	Ⅲ A3	
175 図 15		3	A	SX1168	C-7		土師器	甕	[78]	(44)	[22]	回転糸切, 墨書?	Ⅲ E1	
175 図 16		3	A	SX1168	C-7		土師器	坏	[80]	(50)	[12]	回転斡切	Ⅲ A3	
175 図 17		3	A	SX1168	C-7		須恵器	坏	[95]	(70)	[14]	回転斡切, 墨痕	Ⅲ I1	
176 図 1	179-4	3	A	SX1169	C-7		土師器	坏	(124)	56	41	回転斡切	Ⅲ A3	
176 図 2		3	A	SX1169	C-7		土師器	坏	(132)		[32]		Ⅲ A	
176 図 3		3	A	SX1169	C-7		土師器	甕	[118]	(64)	[31]	被熱	Ⅲ E1	
176 図 4		3	A	SX1169	C-7		土師器	坏	[102]	(70)	[16]	回転斡切, 墨書『成』	Ⅲ A3	
176 図 5		3	A	SX1169	C-7		土師器	坏	[92]	66	[13]	回転斡切	Ⅲ A3	
176 図 6		3	A	SX1169	C-7		土師器	坏	[87]	(59)	[12]	回転斡切	Ⅲ A3	
176 図 7		3	A	SX1169	C-7		土師器	坏	[101]	(62)	[23]	回転糸切	Ⅲ A4	
176 図 8		3	A	SX1169	C-7		土師器	坏	[88]	50	[28]	回転糸切	Ⅲ A4	
176 図 9		3	A	SX1169	C-7		土師器	甕	[78]	(52)	[18]		Ⅲ E1	
176 図 10	179-5	3	A	SX1029	B.C-5.6 C-6		土師器	坏	(140)	(96)	[38]	回転斡切	Ⅲ I1a	
176 図 11		3	A	SX1029	B.C-5.6		土師器	甕	(134)	[146]	[56]	被熱, 口縁内面炭化物付着	Ⅲ E1b	
176 図 12		3	A	SX1029	B.C-5.6		土師器	甕	(206)	[182]	[56]	外面煤付着	Ⅲ E3	
176 図 13	179-6	3	A	SX1029	B.C-5.6 B-6 C-5.6		土師器	焜炉型土器	113	86	109	製塩土器?	Ⅲ H2	
177 図 1	180-1	4	E	SD8	C#.D-4.4#		須恵器	高台坏	(120)	(82)	40	回転斡切	Ⅲ J1a	
177 図 2		4	F	SD68	C#.7		土師器	坏	(132)		[24]	内面煤付着	Ⅲ A	
177 図 3		4	F	SD69	D-7		須恵器	坏	(128)	(82)	36	回転斡切	Ⅲ I1a	
177 図 4		4	F	SD73	D-7		須恵器	坏	(132)		[28]		Ⅲ I	
177 図 5	180-2	3	B	SD804	H-8 X-0	RP24	須恵器	蓋	(136)		[19]	アスファルト付着	Ⅲ L	
177 図 6		3	B	SD821 SD1110	G-4.6 F.G-5.6 G-6		土師器	甕	[124]	(50)	[45]	被熱, 外面煤付着	Ⅲ E2b	
177 図 7		2 3	T2 B	SD821	G.H-4.5 G-4.6		須恵器	坏	(89)		[43]		Ⅲ J	
177 図 8		3	B	SD821	G-6 G-6		須恵器	坏	[132]	93	[19]	回転斡切	Ⅲ I1a	

表 31 土器計測表 (30)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
177 図 9	180-3	3	B	SD821 SD1123	G-4-6 G-5 E-6 F-4.5 G-5.6		須恵器	高台坏	128	84	48	回転斫切, 転用硯	Ⅲ J1a	
177 図 10		3	B	SD828	F-5.6		須恵器	坏	(130)	(66)	37	回転斫切	Ⅲ I1a	
177 図 11	180-4	3	B	SD832	F-5	RP59	須恵器	蓋		[134]	[24]	回転斫切	Ⅲ L2b	
177 図 12		3	B	SD834	F-4.5 F-5		土師器	甕		[102]	70	[33] 被熱	Ⅲ E2	
177 図 13		3	B	SD834	F-4.5		須恵器	坏		[114]	(66)	[17] 回転斫切	Ⅲ I1a	
177 図 14		3	B	SD835 SD1055	E.F-3-10 E-6.7		土師器	甕		[87]	54	[21] 回転糸切	Ⅲ E1	
178 図 1		3	B	SD836 SD904	E.F-5-10 D-F-6.7		土師器	坏	(138)	(82)	34	回転斫切, 被熱	Ⅲ A3a	
178 図 2	180-5	3	B	SD836	E.F-5-10		須恵器	高台坏	(140)		[60]	回転斫切 内外面煤付着	Ⅲ J1a	
178 図 3		3	B	SD836	E.F-5-10		須恵器	坏	(136)	(80)	37	回転斫切 内外面煤付着	Ⅲ I1a	
178 図 4		3	B	SD836	E.F-5-10		須恵器	坏	(140)		[28]		Ⅲ I	
178 図 5		3	B	SD836 SD1049	E.F-5-10 D.E-5.6		土師器	甕		[84]	50	[22] 被熱, 内面煤付着	Ⅲ E2	
178 図 6	180-6	3	B	SD836 SD1049	E.F-5-10 D.E-5.6 E-4 F-5		土師器	鉢	(152)	160	[63]	被熱, 内外面煤付着	Ⅲ D2	
178 図 7		3	B	SD836	E.F-5-10		須恵器	甕			[83]		Ⅲ N	
178 図 8	180-7	3	B	SD837	E-5.6 C-3 E-5		須恵器	坏	130	80	34	回転斫切	Ⅲ I1a	
178 図 9		3	B	SD903	E-5		土師器	甕	(198)	[183]	[85]	被熱, 外面煤付着	Ⅲ E4	
178 図 10		3 4	B E	SD904	D-F-6.7 C#-6		須恵器	坏		[119]	(60)	[24] 回転糸切 内外面煤付着	Ⅲ I2	
178 図 11	180-8	3	A	SD987	C-5	RP31	須恵器	高台坏		[102]	78	[17] 回転斫切, 刻書『全』	Ⅲ J1a	
178 図 12	181-1	3 4	B E	SD1049	C-5.6 D.E-5.6 E-5 D-5#		土師器	甕	(213)	222	[256]	被熱, 内外面煤付着	Ⅲ E4	
178 図 13		3	B	SD1049	E-5		土師器	甕	(146)	[136]	[41]	被熱	Ⅲ E1a	
178 図 14		3	B	SD1049	D.E-5.6		須恵器	坏	(136)	(100)	34	回転斫切 胎土に骨針含む	Ⅲ I1a	
178 図 15	181-2	3	B	SD1049 トレンチ 31	D.E-5.6 F-5.6.G-6 E-5		須恵器	坏	(124)	(74)	33	回転斫切	Ⅲ I1a	
178 図 16	181-3	3	B	SD1049	D.E-5.6 E-6		須恵器	高台坏	(118)	(70)	40	回転斫切	Ⅲ J1a	
179 図 1		3	B	SD1065	D.E-5.6 E-6 F-5		土師器	甕	(170)	146	[144]	外面煤付着	Ⅲ E1a	
179 図 2		3	B	SD1070	E.F-5.6 E-5		須恵器	坏	(136)	(94)	36	回転斫切 口縁内外面煤付着	Ⅲ I1a	
179 図 3		3	B	SD1070	E.F-5.6		須恵器	蓋	(148)		[14]	内面煤付着	Ⅲ L	
179 図 4	181-4	3	B	SD1072	E.F-5.6 E-5.6		須恵器	坏	(134)	(80)	38	回転斫切 内外面煤付着	Ⅲ I1a	
179 図 5		3 4	B F	SD1072	E.F-5.6 C#-7#		須恵器	高台坏		[88]	(54)	[33] 回転斫切	Ⅲ J1b	
179 図 6		3	B	SD1080	F-5.6		土師器	甕		[84]	(48)	[30] 静止糸切, 被熱	Ⅲ E1	

表 32 土器計測表 (31)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
179 図7	181-5	3	B	SD1111	G.H-5 G-5.6 H-6		須恵器	坏	(126)	(50)	38	回転斡切	Ⅲ I1a	
179 図8	181-6	3	B	SD1112	G.H-5 G-5 H-6		須恵器	坏	(138)	(80)	40	回転斡切	Ⅲ I1a	
179 図9		3	B	SD1115	G-5.6		土師器	坏	(158)	(84)	(61)	内黒	Ⅲ A2	
179 図10	181-7	3	B	SD1115	G-5.6 G-6		須恵器	坏	130	65	43	回転斡切	Ⅲ I1a	
179 図11	181-8	3	B	SD1115 SD1116	G-5.6 F.G-6 G-6		土師器	甕	(128)	121	(58)	110	外面被熱	Ⅲ E2a
179 図12	181-9	3	B	SD1117	F.G-6 E-6 G-6		土師器	坏	(126)	(92)	38	被熱	Ⅲ A3a	
179 図13	182-1	3	B	SD1124	G-5 F-4 G-6		須恵器	台付壺		198	(96)	[171]	Ⅲ M1c	
180 図1		3	A	SD1180	C-8		土師器	甕	[104]	72	[33]	回転斡切, 被熱	Ⅲ E1	
180 図2		3	A	SD1181	C-8		土師器	埴	(316)		(47)	被熱	Ⅲ F	
180 図3		3	A	SD1183	C-8		土師器	甕	(220)		[52]	被熱, 内面炭化物付着	Ⅲ E3	
180 図4		4	F	SP57 SK76	C#-6# D-7		土師器	甕	(148)	(82)	[89]	静止斡切 被熱, 内面煤付着	Ⅲ E1a	
180 図5	182-2	4	F	SK76	D-7	RP19	須恵器	坏	147	78	38	回転斡切, 墨書『十』	Ⅲ I1a	
180 図6		4	F	SX89	C#-7#		土師器	坏	(120)	(50)	50	回転斡切 被熱, 内面煤付着	Ⅲ A4c	
180 図7		3	A	SK1178	C-8		土師器	坏	[98]	(50)	[33]	回転斡切	Ⅲ A4	
180 図8	182-3	3	A	SK1178 SD1181	C-8 C-8		須恵器	蓋	(166)		35		Ⅲ L2b	
180 図9	182-4	4	F	SD65 SD94	C#-7 C#-7		須恵器	坏	135	81	34	回転斡切	Ⅲ I1a	
180 図10	182-5	3	A	SX1137	A-6.7		須恵器	坏	132	72	34	回転斡切	Ⅲ I1a	
180 図11		3	A	SX1137	A-6.7 C-6		須恵器	高台坏	[113]	(76)	[23]	回転斡切	Ⅲ J1	
180 図12		3	A	SX1140	A.B-7 B-7		土師器	製塩土器	(144)	149	(55)	(130)	被熱	Ⅲ H1
180 図13		3	A	SX1140	A.B-7		土師器	甕	(218)	[188]	[50]	被熱	Ⅲ E3	
180 図14	182-6	3	B	SG794	I.J-7-9 I-8		土師器	坏	(96)	(48)	45		Ⅲ A6	
181 図1		3	A		A-6.7 C-6		須恵器	高台坏	[106]	(72)	[22]	回転斡切	Ⅲ J1	
181 図2		3	A		A-6.7		須恵器	蓋	[159]	(58)	[34]		Ⅲ L2b	
181 図3		3	A		B-6.7 C-7		土師器	甕	[94]	(54)	[23]	被熱	Ⅲ E1	
181 図4	183-1	3	A		B-6		須恵器	坏	(140)	(86)	39	回転斡切 樹脂(墨?)付着	Ⅲ I1a	
181 図5		3	A		B-7		須恵器	坏	(137)		[27]		Ⅲ I	
181 図6		3	A		B-6.7		須恵器	坏	[88]	(38)	[11]	回転斡切	Ⅲ I1	
181 図7		3	A		B-5		土師器	甕	(192)	[214]	[134]	被熱	Ⅲ E3	
181 図8		3	A		C-6		土師器	坏	[130]	68	[36]	回転斡切	Ⅲ A3	
181 図9		3	A		C-4		土師器	坏	[88]	56	[16]	回転斡切, 内黒, 被熱	Ⅲ A2	
181 図10		3	A		C-7		土師器	高台坏	[104]	(60)	[19]	内黒	Ⅲ B2	
181 図11		3	A		C-7		土師器	坏	[107]	(70)	[22]	回転斡切	Ⅲ A3	
181 図12		3	A		C-7		土師器	坏	[86]	(68)	[8]	回転斡切	Ⅲ A3	
181 図13		3	A		C-7		土師器	坏	[102]	72	[12]	回転斡切, 墨書『?』	Ⅲ A3	
181 図14		3	A		C-7		土師器	甕	[105]	(70)	[18]		Ⅲ E1	
181 図15		3	A		C-6		土師器	甕	[89]	(60)	[20]		Ⅲ E1	
181 図16		3	A		C-6		土師器	甕	[72]	(47)	[18]		Ⅲ E1	

表 33 土器計測表 (32)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
181	図 17	3	A		C-6		土師器	甕	[73]	(44)	[19]	回転糸切 墨書?, 内面底煤付着	Ⅲ E1	
181	図 18	3	A		C-6		土師器	甕	(200)	[186]	[54]	被熱	Ⅲ E3	
182	図 1	183-2	3	A	C-3.4		土師器	甕	138	84	[45]	被熱	Ⅲ E4	
182	図 2		3	A	C-6		土師器	甕	(122)	(50)	[88]	被熱	Ⅲ E2b	
182	図 3		3	A	C-6		土師器	甕	(75)	(48)	[42]		Ⅲ E1	
182	図 4	183-3	3	A	C-4.5		土師器	甕	[144]		[77]	被熱, 外面煤付着	Ⅲ E3	
182	図 5		3	A	C-7		土師器	甕			[56]		Ⅲ E3	
182	図 6		3	A	C-5		土師器	製塩土器	(320)		[65]	被熱	Ⅲ D1	
182	図 7	183-4	3	A	C-3.4		須恵器	坏	130	100	36	回転笠切	Ⅲ I1a	
182	図 8	183-5	3	A	C-4.5		須恵器	坏	(132)	54	39	回転糸切	Ⅲ I2a	
182	図 9	183-6	3	A	C-6.8		須恵器	坏	110	56	50	回転糸切, 墨書『成』	Ⅲ I2b	
182	図 10	183-7	3 4	A E	C-4-6 D-5#		須恵器	坏	(135)	102	35	回転笠切	Ⅲ I1a	
182	図 11	183-8	3	A	C-5		須恵器	坏	(144)	86	40	回転笠切	Ⅲ I1a	
182	図 12	183-9	3	A	C-4		須恵器	坏	(111)	(50)	36	回転糸切 燈明皿, 口縁内面煤付着	Ⅲ I2a	
182	図 13		3	A	C-4		須恵器	坏	(120)	(70)	33	回転笠切	Ⅲ I1a	
182	図 14		3 4	A E	C-5 C#-5#		須恵器	坏	(124)	(82)	35	回転笠切	Ⅲ I1a	
183	図 1		3	A	C-6		土師器	坏	(145)		[50]		Ⅲ I	
183	図 2		3	A	C-7		土師器	坏	(148)		[35]		Ⅲ I	
183	図 3		3	A	C-5		須恵器	坏	(128)		[21]		Ⅲ I	
183	図 4		3	A	C-7		土師器	坏	(128)		[32]		Ⅲ I	
183	図 5		3	A	C-7		土師器	坏	(130)		[30]		Ⅲ I	
183	図 6		3	A	C-7		須恵器	坏	(124)		[24]	内面樹脂付着	Ⅲ I	
183	図 7		3	A	C-7		土師器	坏	(117)		[33]		Ⅲ I	
183	図 8		3	A	C-5		須恵器	坏	(140)		[20]		Ⅲ I	
183	図 9		3	A	C-8		土師器	皿	(132)		[20]		Ⅲ K	
183	図 10		3	A	C-7		須恵器	坏	[95]	(76)	[10]	回転笠切	Ⅲ I1	
183	図 11		3	A	C-7		須恵器	坏	[91]	(54)	[13]	回転糸切, 内面煤付着	Ⅲ I2	
183	図 12		3	A	C-7		土師器	坏	[121]	(64)	[24]	回転糸切	Ⅲ I2	
183	図 13		3	A	C-6		土師器	坏	[67]	(62)	[10]	回転糸切, 墨書『?』	Ⅲ I2	
183	図 14		3	A	C-5		須恵器	坏	[107]	(52)	[31]	回転糸切 胎土に骨針含む	Ⅲ I2	
183	図 15		3	A	C-7		須恵器	高台坏	[119]	(64)	[27]	回転糸切, 転用硯?	Ⅲ J2	
183	図 16		3	A	C-6		土師器	甕	[116]	(52)	[32]	回転糸切, 墨書『?』	Ⅲ E1	
183	図 17		3	A	C-4		須恵器	台付壺	[94]	53	[37]	回転糸切, 自然釉	Ⅲ M2c	
183	図 18		3	A	C-5		須恵器	台付壺	[230]	[125]	[67]		Ⅲ M1c	
183	図 19		3	A	C-4		須恵器	甕	[140]	(108)	[30]		Ⅲ N	
184	図 1		4	F	C#-7		土師器	甕	(208)	[224]	[84]	被熱	Ⅲ E3	
184	図 2		4	F	C#-7		土師器	甕	(150)	(134)	[46]		Ⅲ E1a	
184	図 3		3	B	D-6		土師器	坏	[97]	(50)	[18]		Ⅲ A6	
184	図 4		4	F	C#-7		須恵器	坏	(137)		[29]	内外面煤付着	Ⅲ I	
184	図 5		4	F	C#-7		須恵器	坏	[113]	(68)	[17]	回転笠切	Ⅲ I1	
184	図 6		4	E	C#-5		須恵器	高台坏	[125]	(80)	[33]	回転笠切	Ⅲ J1	
184	図 7		4	F	C#-6#		須恵器	高台坏	[111]	(80)	[27]	回転笠切	Ⅲ J1	
184	図 8		4	F	D-6#		須恵器	高台坏	[87]	(58)	[24]	回転笠切	Ⅲ J1	
184	図 9		3	B	E-5		土師器	甕	(193)	[186]	[59]	被熱	Ⅲ E1b	
184	図 10		3	B	E-5		土師器	甕	(176)	(162)	[47]	被熱	Ⅲ E2a	
184	図 11		3	B	E-5		土師器	甕	(158)	[151]	[41]	被熱, 口縁内面煤付着	Ⅲ E1a	
184	図 12		3	B	E-5		須恵器	坏	(128)		96	39	回転笠切	Ⅲ I1a
184	図 13	184-1	3 4	B E	F-4 E-5 X-0	RP60	須恵器	坏	144		108	32	回転笠切	Ⅲ I1a
184	図 14		3	B	E-6		須恵器	坏	(128)		(90)	31	回転笠切, 外面煤付着	Ⅲ I1a
185	図 1		3	B	E-6		須恵器	坏	[105]	(76)	[13]	回転笠切	Ⅲ I1	
185	図 2		4	F	D#-7#		須恵器	甕			[82]	外面自然釉	Ⅲ N	

表 34 土器計測表 (33)

図版番号	写真番号	調査次数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
185 図3		3	B	トレンチ 30	F-5 E-5.6		土師器	甕	(264)	(236)	[115]	被熱, 外面煤付着	Ⅲ E4	
185 図4	184-2	3	B		F-4		土師器	甕	(198)	[192]	[87]	被熱	Ⅲ E4	
185 図5		3	B		F-4		土師器	甕	(180)	(148)	[32]		Ⅲ E1a	
185 図6		3	C		F-4		土師器	甕			[74]		Ⅲ E3	
185 図7		3	B		F-5		土師器	甕		[118]	(76)	[36]	底部ハケメ, 被熱	Ⅲ E1
185 図8	184-3	3	B		F-5		須恵器	坏	(126)	56	44	回転糸切, 墨書『八』	Ⅲ I2a	
185 図9	184-4	3	B		F-5		須恵器	坏	(117)	(84)	34	回転斡切	Ⅲ I1a	
185 図10		3	B		F-5		須恵器	坏	(130)	(55)	42	回転糸切 口縁内外煤付着	Ⅲ I2a	
185 図11		3	B		F-5		須恵器	坏		[126]	(93)	[19]	回転斡切 胎土に骨針含む	Ⅲ I1
185 図12		3	B		F-5		陶器	鉢		[112]	(83)	[24]		Ⅳ
186 図1		3	B		G-7		土師器	甕	(188)	[185]	[57]	被熱	Ⅲ E2a	
186 図2		3	B		G-6		土師器	甕		94	43	[45]	被熱	Ⅲ E2b
186 図3	184-5	3	B		G-6		土師器	坏	128	75	34	回転斡切 外面煤付着, 被熱	Ⅲ I1a	
186 図4	184-6	3	B		G-5		須恵器	坏	(126)	(80)	38	回転斡切	Ⅲ I1a	
186 図5	184-7	2	T2		G.H-4.5		須恵器	坏	(136)	(70)	37	回転斡切	Ⅲ I1a	
186 図6	184-8	2	T2		G.H-4.5		須恵器	坏	(140)	(50)	37	回転斡切	Ⅲ I1a	
186 図7		3	B		G-6		須恵器	坏	(130)		[28]		Ⅲ I	
186 図8		2	T2		G.H-4.5		須恵器	坏		[138]	(86)	[10]	回転斡切, 被熱	Ⅲ I1a
186 図9		3	B		G-6		須恵器	蓋		[58]	[14]		Ⅲ L1	
186 図10	184-9	2 3	T3 B		H.I-5.6 G-6		須恵器	坏	(130)	90	38	回転斡切	Ⅲ I1a	
186 図11		3	B		H-6		須恵器	坏	(128)		[36]		Ⅲ I	
186 図12		2	T3		H.I-5.6		須恵器	坏		[111]	(97)	[27.5]	回転斡切	Ⅲ I1
186 図13		2	T3		H.I-5.6		土師器	甕	[78]	71	[12]	被熱	Ⅲ E	
186 図14		2	T18		H.I-6-9		須恵器	蓋		[36]	[14]		Ⅲ L1	
187 図1	185-1	3	C	SG1045 トレンチ 23	R-15		土師器	坏	163		59	内黒	Ⅱ A6a	
187 図2		3	C	SG1045	R-15		土師器	坏	(162)		[52]	内黒, 被熱	Ⅱ A6a	
187 図3		3	C	SG1045	R-15		土師器	坏	(158)		[49]	内黒, 被熱	Ⅱ A6a	
187 図4		3	C	SG1045	R-14		土師器	坏	(150)		[50]	内黒	Ⅱ A5a	
187 図5		3	C	SG1045	R-15		土師器	坏	(164)		[43]	内黒	Ⅱ A5a	
187 図6		3	C	SG1045	R-15		土師器	坏	(164)		[50]	内黒, 輪積痕	Ⅱ A5a	
187 図7		3	C	SG1045	R-15		土師器	坏	(160)		[34]	内黒	Ⅱ A5a	
187 図8	185-2	3	C	SG1045 トレンチ 24	Q-16		土師器	坏	(88)	47	61	内黒, 外面樹脂付着	Ⅱ A2c	
187 図9	185-3	3	C	SG1045	R-15		土師器	高坏	178		[83]	内黒	Ⅱ B1a	
187 図10	185-4	3	C	SG1045	R-15		土師器	高坏	195	(92)	89	内黒	Ⅱ B1b	
187 図11		3	C	SG1045 トレンチ 24	Q-16		土師器	高坏		(112)	[59]	内黒	Ⅱ B4	
187 図12	185-5	3	C	SG1045 トレンチ 24	Q-16		土師器	甕	(202)	228	[173]	被熱	Ⅱ E5b	
187 図13		3	C	SG1045	Q-S-14-16		土師器	甕	(176)	[192]	[69]	外面煤付着	Ⅱ E	
187 図14		3	C	SG1045	R-15		土師器	甕	(220)		[59]	内外面煤付着	Ⅱ E	
188 図1		3	C	SD589	M-Q-10-16		土師器	高坏		(92)	[42]	被熱	Ⅱ B4	
188 図2	185-6	3	C	SD589	M-12	RP14	須恵器	坏	124	80	32	回転斡切	Ⅲ I1a	
188 図3	185-7	4	F	SD589	L#-14#	RP18	須恵器	坏	(145)	(100)	37	回転斡切	Ⅲ I1a	
188 図4		4	F	SD589	M-14#		須恵器	坏	(134)	(78)	29	回転斡切	Ⅲ I1b	
188 図5		4	F	SD589	M-14#		須恵器	坏		[129]	(96)	[19]	回転斡切	Ⅲ I1
188 図6		3	C	SD589	N-15		須恵器	坏		[95]	(58)	[12]	回転斡切	Ⅲ I1
188 図7		4	F	SD589	L#-13#		須恵器	坏		[111]	(78)	[16]	回転斡切	Ⅲ I1
188 図8		3	C	SD589	M-Q-10-16		須恵器	高台坏		[110]	79	[15]	回転斡切	Ⅲ J1
188 図9		4	F	SD589	L#-14		須恵器	高台坏		[110]	(88)	[15]	回転斡切	Ⅲ J1
188 図10		3	C	SD589	M-12		須恵器	蓋	(156)		[15]		Ⅲ L	
188 図11		3	C	SD589	L-Q-10-16		須恵器	甕	(160)	[134]	[37]		Ⅲ N	

表 35 土器計測表 (34)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
188 図 12		3	C	SD589	M-12		須恵器	台付壺		(88)	[22]	回転斫切	Ⅲ M2c	
188 図 13		4	F	SD589	L#-14		土師器	甕	[132]	(84)	[26]		Ⅲ E2	
188 図 14		3	C	SD589	M-13		土師器	甕	(312)	[299]	[38]	被熱	Ⅲ E3	
188 図 15		4	F	SD589	L#-14		土師器	埴	(290)	(284)	[84]	被熱	Ⅲ F	
189 図 1		4	F	SD589	M-14#		須恵器	甕			[98]		Ⅲ N	
189 図 2		3	C	SD589	M-Q-10-16		須恵器	甕			[75]		Ⅲ N	
189 図 3		3	C	SD589	M-13		須恵器	甕			[91]		Ⅲ N	
189 図 4		3	C	SD589	M-Q-10-16		須恵器	甕			[61]		Ⅲ N	
189 図 5		3	C	SD589	N-15		須恵器	甕			[84]	胎土に骨針含む	Ⅲ N	
189 図 6		4	F	SD589	L#-14		須恵器	甕			[61]		Ⅲ N	
189 図 7		4	F	SD589 SD589	L-14# M-14#		須恵器	甕			[47]		Ⅲ N	
189 図 8		3	C	SD589	O-15		磁器	皿	[83]	(58)	[21]	青花, 被熱	Ⅳ G1a	
189 図 9		3	C	SD589	M-Q-10-16		磁器	小坏	[42]	24	[11]	青花 15.6c	Ⅳ G1b	
190 図 1		3	C	SE479	S-17		土師器	甕	[86]	42	[29]	被熱	Ⅲ E2	
190 図 2		3	C	SE479	S-17		須恵器	坏	(140)		[29]		Ⅲ I	
190 図 3		3	C	SE616	P-12		須恵器	蓋	(160)		[21]	回転糸切	Ⅲ L	
190 図 4		3	C	SE616	P-12		須恵器	蓋	(178)		[9.5]		Ⅲ L	
190 図 5		3	C	SE592	P-14		土師器	坏	[103]	(62)	[25]	被熱	Ⅲ A6	
190 図 6		3	C	SE592	P-14		須恵器	坏	(128)		[37]		Ⅲ I	
190 図 7		3	C	SE592	P-14		須恵器	坏	(126)		[18]		Ⅲ I	
190 図 8		3	C	SE592	P-14		須恵器	皿	[54]	(42)	[8]	墨書『?』, 内面樹脂付着	Ⅲ K	
190 図 9	186-1	4	F	SE96	L#-14#15		須恵器	蓋	(124)		26	転用硯	Ⅲ L2a	
190 図 10		4	F	SE96 SD589	L#-14#15 L#-14		須恵器	蓋	(132)		[16]	内面煤付着	Ⅲ L	
190 図 11		4	F	SE96	L#-14#15		須恵器	蓋	(156)		[17]		Ⅲ L	
190 図 12		4	F	SE96	L#-14#15		土師器	甕	[112]	72	[22]	被熱	Ⅲ E2	
190 図 13		3	C	SK685	N-14		須恵器	坏	[100]	(64)	[19]	回転斫切	Ⅲ I1a	
190 図 14		3	C	SK685	N-14		須恵器	蓋	[140]	(104)	[16]		Ⅲ L	
190 図 15		3	C	SK721	N-13		須恵器	短頸壺	(126)	[218]	[40]		Ⅲ M1b	
190 図 16		3	C	SK721	N-13		須恵器	甕			[81]		Ⅲ N	
190 図 17	186-2	3	C	SK728	O-13	RP36	須恵器	甕	(422)		[50]		Ⅲ N	
190 図 18		3	C	SK1008	O-13		須恵器	甕	(228)		[57]	胎土に骨針含む	Ⅲ N	
190 図 19		4	F	SD93	Q-17#		土師器	坏	[74]	(42)	[15]	回転糸切	Ⅲ A4	
190 図 20		4	F	SD93	P#-17#		須恵器	坏	[114]	(66)	[18]	回転斫切	Ⅲ I1	
190 図 21		4	F	SD93	Q-17.17#		須恵器	甕			[51]		Ⅲ N	
191 図 1	186-3	3	C	SX329 SD434	T.U-15.16 S.T-14-20		須恵器	高台坏	(130)		72 43	回転斫切 胎土に骨針含む	Ⅲ J1a	
191 図 2		3	C	SD434	S.T-14-20		須恵器	坏	[91]	(68)	[7.5]	回転糸切	Ⅲ I2	
191 図 3		3	C	SD434	S.T-14-20		須恵器	蓋	(140)		[30]		Ⅱ I	
191 図 4		3	C	SD516	R.S-14-17		須恵器	甕			[90]		Ⅲ N	
191 図 5		3	C	SP580	Q-16		土師器	坏	(162)		[44]	内黒	Ⅱ A7	
191 図 6		3	C	SD583	Q-16		須恵器	甕			[38]	外面煤付着	Ⅲ N	
191 図 7		3	C	SP695	N-13		須恵器	高台坏	[120]	(78)	[25]	回転糸切	Ⅲ J2	
191 図 8		3	C	SD884	J-11		陶器	甕	[260]	(169)	[107]		Ⅳ	
191 図 9		3	C	SP885	M-11		磁器	皿	[150]	(110)	[29]	肥前	Ⅳ G2b	
191 図 10		3	C	SX601	P-12		須恵器	坏	(140)		[30]	胎土に骨針含む	Ⅲ I	
191 図 11		3	C	SP917	O-13		須恵器	高台坏	[115]	(74)	[27]	回転斫切 内外面煤付着	Ⅲ J1	
191 図 12	186-5	3	C	SP1018	N-12		須恵器	蓋	(140)		28		Ⅲ L1	
191 図 13		3	C	SX1133	Q.R-17		須恵器	甕	(138)		[38]		Ⅲ N	
191 図 14		3	C	SX1133	Q.R-17		須恵器	高台坏	[118]	(94)	[15]	回転糸切	Ⅲ J2	
191 図 15		3	C	SX1133	Q.R-17		陶器	鉢	[182]	(100)	[37]	見込砂目	Ⅳ	
192 図 1		4	F		J-12		陶器	茶入	[62]	34	[23]		Ⅳ	
192 図 2		4	F		J-12#		須恵器	坏	[93]	(59)	[16]	回転斫切	Ⅲ I1	
192 図 3		3	C	トレンチ 7	J-11		土師器	甕	[122]	68	[33]	被熱, 内外面煤付着	Ⅲ E2	
192 図 4		2	T4		J-6		須恵器	甕			[85]		Ⅲ N	
192 図 5		4	F		J#-13		須恵器	高台坏	[100]	(92)	[16]	回転斫切	Ⅲ J1	

表 36 土器計測表 (35)

図版 番号	写真 番号	調査 次数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
192	図 6	3	C		K-11		須恵器	甕			[50]			Ⅲ N
192	図 7	2	T6		K-M-7.8		陶器	播鉢		[167]	(107)	[37]	回転糸切	Ⅳ
192	図 8	3	C		M-11		土師器	甕	(226)	[188]		[43]	被熱	Ⅲ E3
192	図 9	3	C	トレンチ 14	M-10		土師器	甕	(174)	[156]		[61]	被熱	Ⅲ E2b
192	図 10	186-4	3	C	トレンチ 14	M-10	土師器	鉢	(138)	134	70	88	被熱	Ⅲ D2
192	図 11	2	T7		M.N-9		土師器	坏	(138)			[34]		Ⅲ A
192	図 12	2	T7		M.N-9		土師器	坏	(127)			[25]		Ⅲ A
192	図 13	2	T7		M.N-9		須恵器	坏		[115]	(86)	[17]	回転篋切	Ⅲ I1
192	図 14	3	C		N-13.14		土師器	甕	(238)	[244]		[73]	被熱	Ⅲ E4
192	図 15	3	C		N-14		須恵器	坏		[108]	(80)	[16]	回転篋切	Ⅲ I1
193	図 1	3	C		O-14		土師器	甕	(250)	[211]		[33]		Ⅲ E3
193	図 2	3	C		P-15	RP52	土師器	甕	(190)	176		[91]	被熱	Ⅲ E2a
193	図 3	186-6	3	C	P-15	RP52	土師器	甕		[168]	80	[81]	被熱	Ⅲ E2a
193	図 4	186-7	3	C	O-13		須恵器	高台坏	(120)		(74)	44	回転篋切	Ⅲ J1a
193	図 5	3	C		O-13		須恵器	蓋	(154)			[20]		Ⅲ L
193	図 6	3	C	トレンチ 26	P-15		須恵器	高台坏	(120)		[87]	[38]		Ⅲ J1a
193	図 7	2	T9		P-R-17-19		須恵器	壺		[134]	(124)	[24]	回転糸切	Ⅲ M1c
193	図 8	4	F		P#-17#		須恵器	甕				[57]		Ⅲ N
193	図 9	4	F		P#-17#		須恵器	蓋		[85]		[17]		Ⅲ L1
193	図 10	4	F		Q-17		陶器	皿		[123]	(77)	[21]		Ⅳ
193	図 11	3	C		R-17		陶器	碗	(156)			[45]	瀬戸美濃 外面下半露胎 割面樹脂附着	Ⅳ F2a
193	図 12	3	C		R-17		須恵器	高台坏		[112]	(70)	[21]	回転篋切	Ⅲ J1
193	図 13	3	C	トレンチ 23	R.S-15.16		須恵器	蓋	(137)			[24]		Ⅲ L
193	図 14	3	C		R-18		須恵器	甕				[66]		Ⅲ N
194	図 1	187-1	3	C	X-0		土師器	坏	(157)			57	内黒	Ⅱ A5a
194	図 2	3	D		X-0		土師器	坏	(166)			[58]	内黒	Ⅱ A6a
194	図 3	3	C		X-0		土師器	坏	(168)			[50]	内黒	Ⅱ A5a
194	図 4	3	B		X-0		土師器	坏	(161)			[44]	内黒	Ⅱ A3
194	図 5	3	C		X-0		土師器	坏	(160)			[38]	内黒	Ⅱ A5a
194	図 6	3	C		X-0		土師器	坏	(144)			[31]	内黒,被熱	Ⅱ A5b
194	図 7	3	C		X-0		土師器	坏	(190)			[55]	内黒	Ⅱ A7
194	図 8	4	F		X-0		土師器	坏	(196)			[34]		Ⅱ A1b
194	図 9	187-2	3	C	X-0		土師器	高坏			(100)	[46]	内黒	Ⅱ B4
194	図 10	3	C		X-0		土師器	高坏			95	[24]		Ⅱ B4
194	図 11	187-3	3	A	X-0		土師器	坏	142		88	42	回転篋切 変形,須恵器焼成不良?	Ⅲ A3b
194	図 12	3	A		X-0		土師器	甕		[109]	(61)	[24]	回転糸切,被熱	Ⅲ E1
194	図 13	3	A		X-0		土師器	坏		[101]	(58)	[20]	回転篋切	Ⅲ A3
194	図 14	3	A		X-0		土師器	坏		[120]	(66)	[14]	回転篋切,被熱 内外面煤附着	Ⅲ A3
194	図 15	3			X-0		土師器	坏		[123]	(84)	[21]	回転篋切	Ⅲ A3
194	図 16	3	C		X-0		土師器	甕		[96]	(64)	[19]	回転糸切,被熱	Ⅲ E1
194	図 17	3	C		X-0		土師器	甕		[97]	(58)	[19]		Ⅲ E1
194	図 18	187-4	3	C	X-0		土師器	甕	(194)	198		[91]		Ⅲ E3
194	図 19	4	F		X-0		土師器	甕	(194)	[214]		[96]	被熱	Ⅲ E3
194	図 20	3	D		X-0		土師器	甕	(196)	[172]		[69]	被熱	Ⅱ E
194	図 21	3	C		X-0		土師器	甕		[92]	62	[23]	被熱,外面煤附着	Ⅱ E
194	図 22	3	C		X-0		土師器	甕		[99]	52	[29]	被熱	Ⅱ E
194	図 23	3	B		X-0		土師器	甕		[89]	70	[15]	被熱	Ⅱ E
194	図 24	3	C		X-0		土師器	甕		[58]	42	[14]	底部ハケメ 被熱,外面煤附着	Ⅱ E
194	図 25	3	C		X-0		土師器	甕		[69]	61	[19]	被熱	Ⅱ E
194	図 26	4	F		X-0		土師器	坏		[81]	46	[25]	小型甕?	Ⅲ A6
194	図 27	4	E		X-0		土師器	高台坏		[97]	(72)	[21]		Ⅲ B3
194	図 28	4	F		X-0		土師器	高台坏		[103]	(71)	[16]	回転篋切	Ⅲ B3
195	図 1	3	C		X-0		土師器	甕						Ⅲ G

表 37 土器計測表 (36)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)				備考	分類
									口径	胴径	底径	器高		
195 図 2		3	C		X-0		須恵器	坏	(132)	(152)		[26]		II G
195 図 3		4	F		X-0		須恵器	坏	(126)		(77)	30	回転篋切, 内面煤付着	III I1a
195 図 4		4	F		X-0		須恵器	坏	(120)		(63)	31	回転篋切	III I1a
195 図 5		3	C		X-0		須恵器	坏	(124)			[31]	回転篋切	III I1a
195 図 6		3	B		X-0		須恵器	坏	(124)			[32]		III I
195 図 7		3	C		X-0		須恵器	坏	(128)			[29]		III I
195 図 8		3	A		X-0		須恵器	坏	(136)			[30]		III I
195 図 9		3	A		X-0		土師器	坏	(140)			[33]		III I
195 図 10		3	B		X-0		須恵器	坏	(126)			[26]	胎土に骨針含む	III I
195 図 11		3	A		X-0		須恵器	坏	(127)			[27]		III I
195 図 12		3	C		X-0		須恵器	坏		[118]	(86)	[18]	回転篋切, 墨書『本?』	III I1
195 図 13		4	F		X-0		須恵器	坏		[111]	(64)	[16]	回転篋切	III I1
195 図 14		3	C		X-0		須恵器	坏		[115]	(70)	[17]	回転篋切	III I1
195 図 15		3	C		X-0		須恵器	坏		[125]	(78)	[26]	回転篋切	III I1
195 図 16		3	-		X-0		須恵器	坏		[125]	(90)	[21]	回転篋切	III I1
195 図 17		3			X-0		須恵器	坏		[118]	(92)	[15]	回転篋切 胎土に骨針含む	III I1
195 図 18		4	F		X-0		須恵器	坏		[123]	(78)	[26]	回転篋切	III I1
195 図 19		3	A		X-0		須恵器	坏		[117]	(70)	[18]	回転篋切	III I1
195 図 20		3	C		X-0		須恵器	坏		[115]	(74)	[17]	回転篋切	III I1
195 図 21		3	C		X-0		須恵器	坏		[99]	(50)	[14]	回転篋切 胎土に骨針含む	III I1
195 図 22		3	A		X-0		須恵器	坏		[104]	(88)	[12]	回転篋切	III I1
195 図 23		3	C		X-0		須恵器	坏		[77]	(48)	[13]	回転糸切	III I2
195 図 24		3	-		X-0		須恵器	坏		[107]	(68)	[14]	回転糸切	III I2
195 図 25		3	C		X-0		須恵器	坏		[90]	(64)	[12]	回転篋切	III I1
195 図 26		3	C		X-0		須恵器	坏		[68]	(40)	[18]	回転糸切	III I2
195 図 27		3	C		X-0		土師器	坏		[72]	(58)	[10]		III A6
195 図 28		3	B		X-0		須恵器	高台坏		[110]	(78)	[23]	回転篋切	III J1
195 図 29		3	C		X-0		須恵器	高台坏		[100]	(74)	[19]	回転篋切	III J1
195 図 30		3	B		X-0		須恵器	高台坏		[101]	(72)	[21]	回転篋切	III J1
195 図 31		3	A		X-0		須恵器	高台坏		[127]	[91]	[29]	回転篋切 胎土に骨針含む	III J1
196 図 1		3	C		X-0		須恵器	高台坏		[96]	(72)	[21]	回転篋切	III J1
196 図 2		3			X-0		須恵器	台付壺		[122]	(90)	[19]	回転篋切	III M2c
196 図 3		3	C		X-0		須恵器	台付壺		[87]	(70)	[20]	回転篋切	III M2c
196 図 4		4	F		X-0		須恵器	台付壺		[106]	(93)	[21]		III M2c
196 図 5		3	C		X-0		須恵器	高台坏		[113]	(67)	[16]	回転篋切	III J1
196 図 6		3	C		X-0		須恵器	蓋	(160)			[16]		III L
196 図 7		4	F		X-0		須恵器	蓋	(134)			[22]		III L
196 図 8		3	B		X-0		須恵器	蓋	(134)			[19]	内面煤付着 胎土に骨針含む	III L
196 図 9		4	F		X-0		須恵器	蓋	(166)			[18.5]		III L
196 図 10		3	C		X-0		須恵器	蓋	(154)			[16]		III L
196 図 11		3	B		X-0		須恵器	甕	(180)			[36]		III N
196 図 12		3	C		X-0		須恵器	壺	(94)			[32]	自然釉	III M2a
196 図 13	187-5	3	C		X-0		須恵器	壺	(162)			[71]		III M1a
196 図 14		4	F		X-0		須恵器	壺	(156)			[34]		III M1a
196 図 15		3	C		X-0		須恵器	甕				[41]		III N
196 図 16		3	C		X-0		須恵器	甕				[31]		III N
196 図 17		3	C		X-0		陶器	壺		[176]	(136)	[40]	珠洲系	IV B2
196 図 18		3	C		X-0		須恵器	台付壺		[107]	(82)	[16]		III M2c
196 図 19		3	C		X-0		須恵器	台付壺		[122]	(91)	[45]		III M2c
196 図 20		3	C		X-0		須恵器	台付壺		[130]	(110)	[18]	回転篋切	III M2c
196 図 21		3	C		X-0		須恵器	甕				[73]		III N
196 図 22		3	C		X-0		須恵器	甕				[72]	被熱	III N
196 図 23		3	C		X-0		須恵器	甕				[66]		III N
197 図 1		3	C		X-0		須恵器	甕				[60]		III N

表 38 土器計測表 (37)

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種	計測値 (mm)			備考	分類	
									口径	胴径	底径			器高
197 図 2		3	D		X-0		陶器	甕		[99]	珠洲系	IV B3		
197 図 3		3	C		X-0		陶器	甕		[85]	珠洲系, 胎土に骨針含む	IV B3		
197 図 4		3	A		X-0		陶器	播鉢		[34]	口唇部施釉	IV		
197 図 5		3	C		X-0		磁器	皿	(123)	(45)	34	肥前	IV G2b	
197 図 6	187-6	3	C		X-0		かわらけ	皿	(98)	31	28	口縁煤付着, 灯明皿	IV A	
197 図 7		3	C		X-0		磁器	皿	(100)		[17]	白磁 15.6c	IV D	
197 図 8		3	C		X-0		磁器	紅皿	(43)	(12)	16		IV	
197 図 9		3	C		X-0		陶器	鉢	(82)		[32]		IV	
197 図 10		3			X-0		陶器	播鉢		[140]	(98)	[27]	IV	
197 図 11		3	C		X-0		磁器	瓶		[130]	(100)	[46]	IV	
197 図 12		3	D		X-0		磁器	碗		[100]	50	[25]	青磁, 龍泉 13c	IV E
197 図 13		4	E		X-0		陶器	皿		[64]	41	[13]	唐津	IV F1b
197 図 14		3	C		X-0		陶器	皿		[60]	46	[14]	見込蛇の目釉剥	IV
197 図 15		3	D		X-0		陶器	皿		[78]	(50)	[22]	唐津, 見込胎土目	IV F1b
197 図 16		3	C		X-0		磁器	皿		[93]	(42)	[21]	見込蛇の目釉剥	IV
197 図 17	187-7	3	C		X-0		磁器	碗	(96)		(37)	51	肥前	IV G2a
197 図 18		3	C		X-0		陶器	染付瓶		[106]	(92)	[38]		IV
197 図 19		3	C		X-0		陶器	皿			(60)	[9]	瀬戸・美濃 (絵志野)	IV F2b
197 図 20		3	C		X-0		磁器	染付碗		[84]	40	[23]	肥前	IV G2a
197 図 21		3	B		X-0		陶器	灰釉皿		[78]	(56)	[11]	瀬戸・美濃	IV F2c
197 図 22		3	C		X-0		陶器	皿		[133]	(90)	[21]	見込蛇の目釉剥	IV

表 39 土製品計測表

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	器種	高さ 直径			備考
								高さ	直径	(mm)	
198 図 1	188-1	3	C	ST2004SD243	W-17	RP62	支脚	103	50		被熱
198 図 2	188-2	3	C	SK412	U-19	RP21	支脚	132	50		被熱
198 図 3		3	C	SG160	W-17		支脚	94	(52)		被熱
198 図 4		3	C	SG160	V-19	遺物群 23	支脚	[65]	(52)		被熱
198 図 5		3	C	SE515	T-15		支脚	[49]	(52)		被熱
198 図 6		3	C	SD434	S.T-14'20		支脚	[70]	(43)		被熱
198 図 7		3	C		U-19		支脚	[48]	(43)		被熱
198 図 8		3	C	SG160	W-18		支脚	[38]	(47)		被熱
198 図 9		4	F	SG100	R#-18#		支脚	[18]	50		
198 図 10		3	C	SX283	V-18		土錘	[68]	(57)		被熱
198 図 11	188-3	3	C	ST2005SD383	U-18	RP8	小玉	9	12		
198 図 12	188-4	3	C	SE1132	RS-18		小玉	8	9		
198 図 13	188-5	3	C	SX448	V-16		小玉	6	10		
198 図 14	188-6	3	C	SX448	V-16		小玉	4	12		
198 図 15	188-7	3	C	SX448	V-16		小玉	7	10		
198 図 16	188-8	4		SG100	Q`S#-18`19#		管玉?	[24]	9		
198 図 17	188-9	3	C	SG1048	W-20	RP170	土製紡錘車	27	44		
198 図 18	188-10	3	C		X-0		環状	7	25		
198 図 19	188-11	3	C		X-0		環状	10	26		
								高さ	幅	厚さ	
198 図 20	188-12	3	D	SG1	X-22		人形 (犬)	41	27	25	
198 図 21	188-13	3	C		X-0		人形	30	20	13	
198 図 22	188-14	3	D	SG1	AA-23		人形 (大黒天)	21	15	6	

2 土・石・金属製品

A 土製品

土製支脚（第198図2～9）

カマドの支脚は9点あり、いずれも南西部遺構群またはそれに隣接する遺構から出土しており、古墳時代のものと考えられる。完形のものとは2点出土しており、高さは1が103mm、2が130mmで、いずれも直径50mmの円筒形となる。表面は粗いヘラナデが施される。

土錘（第198図10）

南西部遺構群のSX283落込みから1点が出土した。破片ではあるが、最大径57mmで、紡錘形に近い形状になると見られる。古墳時代以降のものと考えられる。

土製小玉（第198図11～15）

小玉は5点中3点が南西部遺構群のSX448落込みから出土した。直径9～12mm、高さ4～9mmのつぶれた球形で、表面は黒色処理される。いずれも古墳時代のものと考えられる。

土製管玉（第198図16）

SG100河川跡から1点が出土した。直径9mmの円筒状で、古墳時代のものと考えられる。

土製紡錘車（第198図17）

SG1048河川跡から1点が出土した。高さ27mm、下部径44mm、上部径20mmの断面台形で、表面はヘラミガキにより丁寧に仕上げられ、表面が黒色処理される。古墳時代のものと考えられる。

環状土製品（第198図18・19）

2点が出土した。機能は不明であるが近世以降のものと考えられる。

土人形（第198図20～22）

小形の素焼き人形は3点が出土した。いずれも近世以降のものと考えられる。

B 石製品

石製模造品（第199図1～5）

南西部遺構群で5点が出土した。厚さ2～5mmの滑石製で、5は2か所、他は1か所ずつ穿孔されている。形状は4が円盤状となる他は不定形である。表面は細かい擦痕が顕著である。一部は出土遺構に問題があるものの、

いずれも古墳時代のものと考えられる。

管玉（第199図7）

完形の管玉が遺構外から1点出土した。古墳時代のものと考えられる。

基石（第199図6）

艶のある黒色の小石で、扁平な円盤状となる。北東部遺構群から出土し、奈良時代以降のものと考えられる。

石製紡錘車（第199図8）

ST981堅穴住居跡から1点が出土した。円盤状の凝灰岩製で、大振りで表面の仕上げが粗いことから、戸車等の別の機能をもつ可能性も考えられる。奈良時代以降のものと考えられる。

砥石（第199図9～12・第200図1・3・4）

砥石は7点出土した。第200図1は目の粗い大形となり、主たる機能面に縦方向の線条痕が数条ある。他の6点は原形が立方体となる小形の仕上げ砥である。

擦痕ある礫（第200図2）

SG160河川跡から1点が出土した。扁平な楕円形の自然礫であるが、表面には多方向からの擦痕が顕著である。

石鉢（第200図5）

南西部遺構群のSK282土坑から破片1点が出土した。安山岩製で、底部を欠くが、器形は厚手の碗状となる。中世のものと考えられる。

C 金属製品

鉄砲玉（第200図6・7）

2点が出土した。直径12～13mmの球形の鉛玉である。近代以前の鉄砲玉と考えられる。

煙管（第200図8～17）

雁首と吸口を合わせて10点が出土した。いずれも近世以降のものと考えられる。

簪（第200図18）

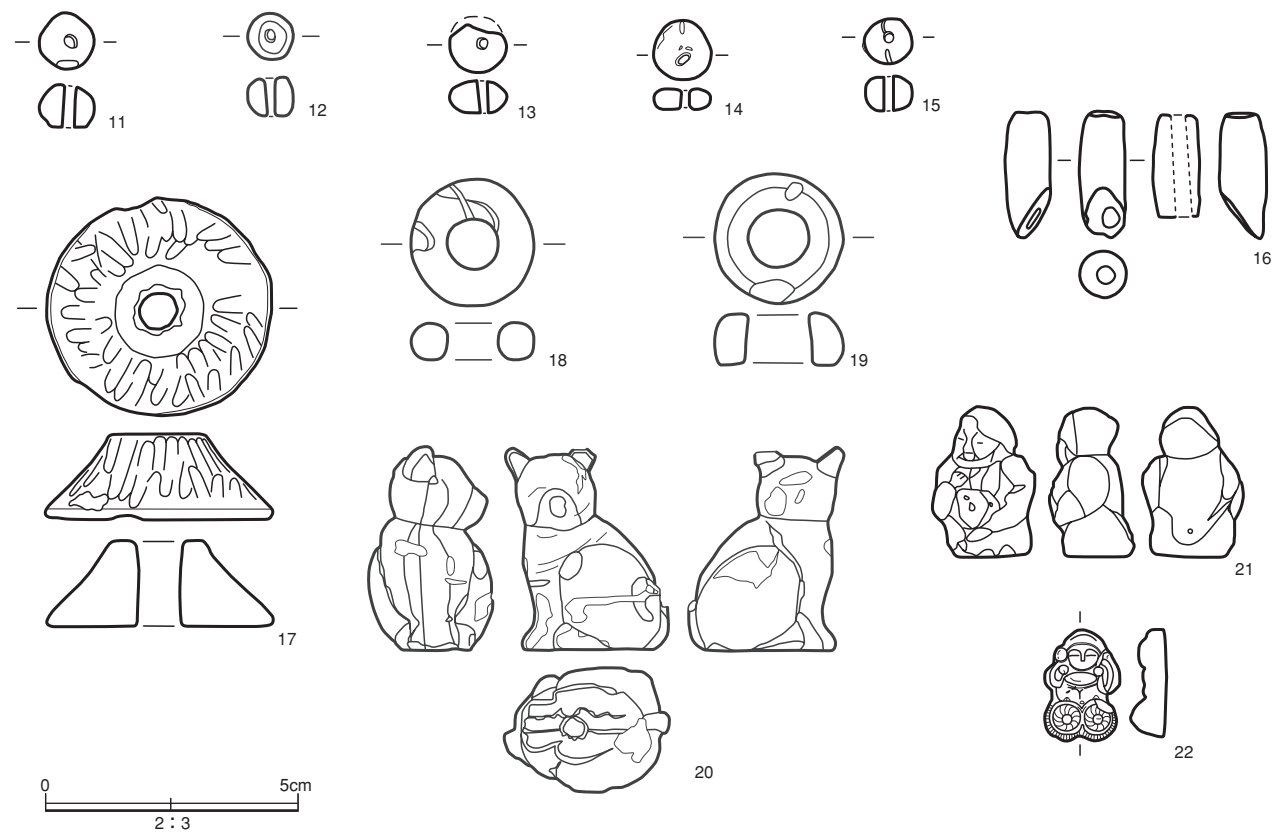
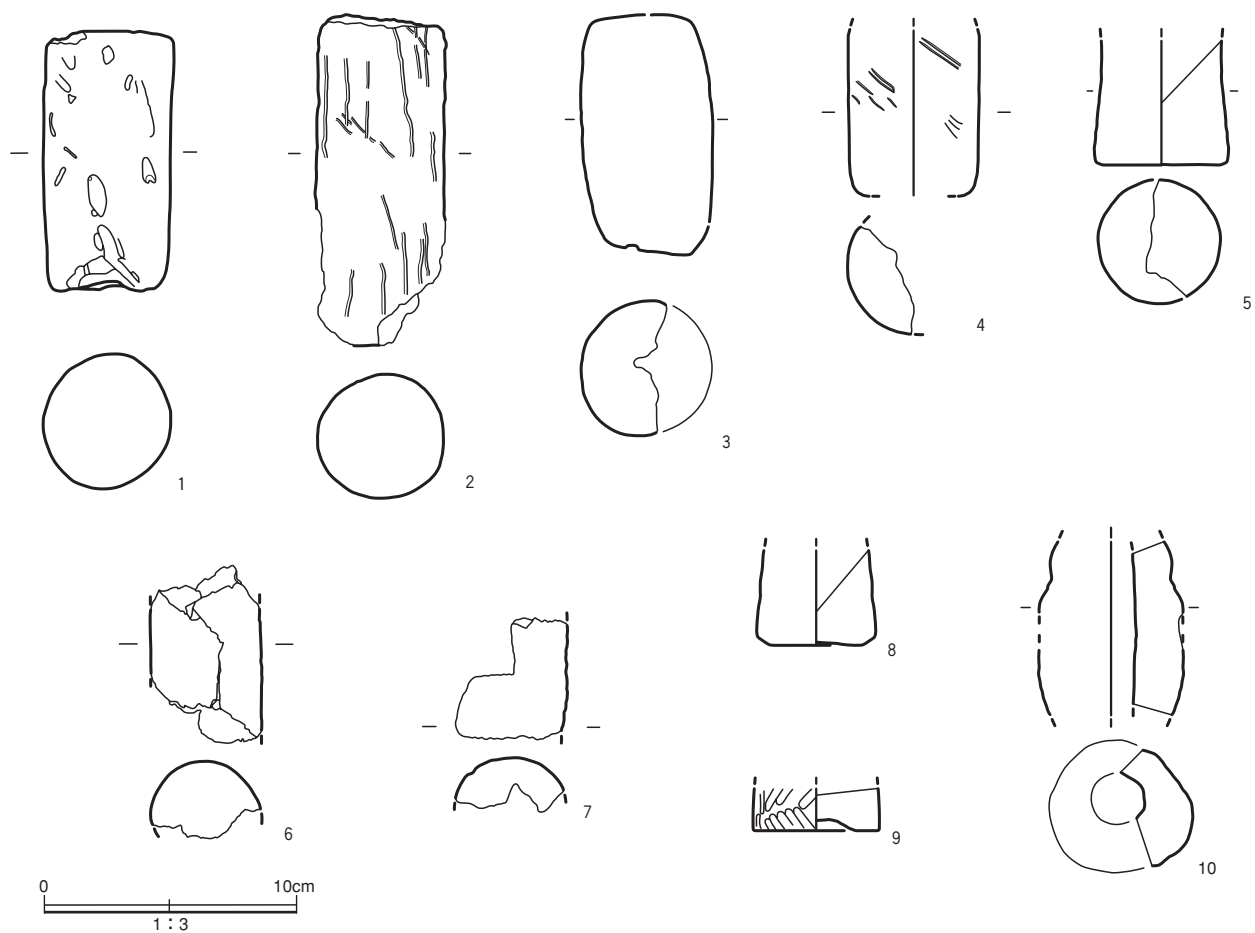
下半部を欠損したものが1点出土した。片面に草花文が浮き彫りされる。近世以降のものと考えられる。

刀子（第200図19）

鉄製で柄を欠損したものが1点出土した。

貨幣（第201図）

貨幣は寛永通宝が15点、永楽通宝が1点出土した他、元豊通宝（写真図版192－10）、元祐通宝（同193－9）、皇宋通宝（同193－10）が各1点出土している。

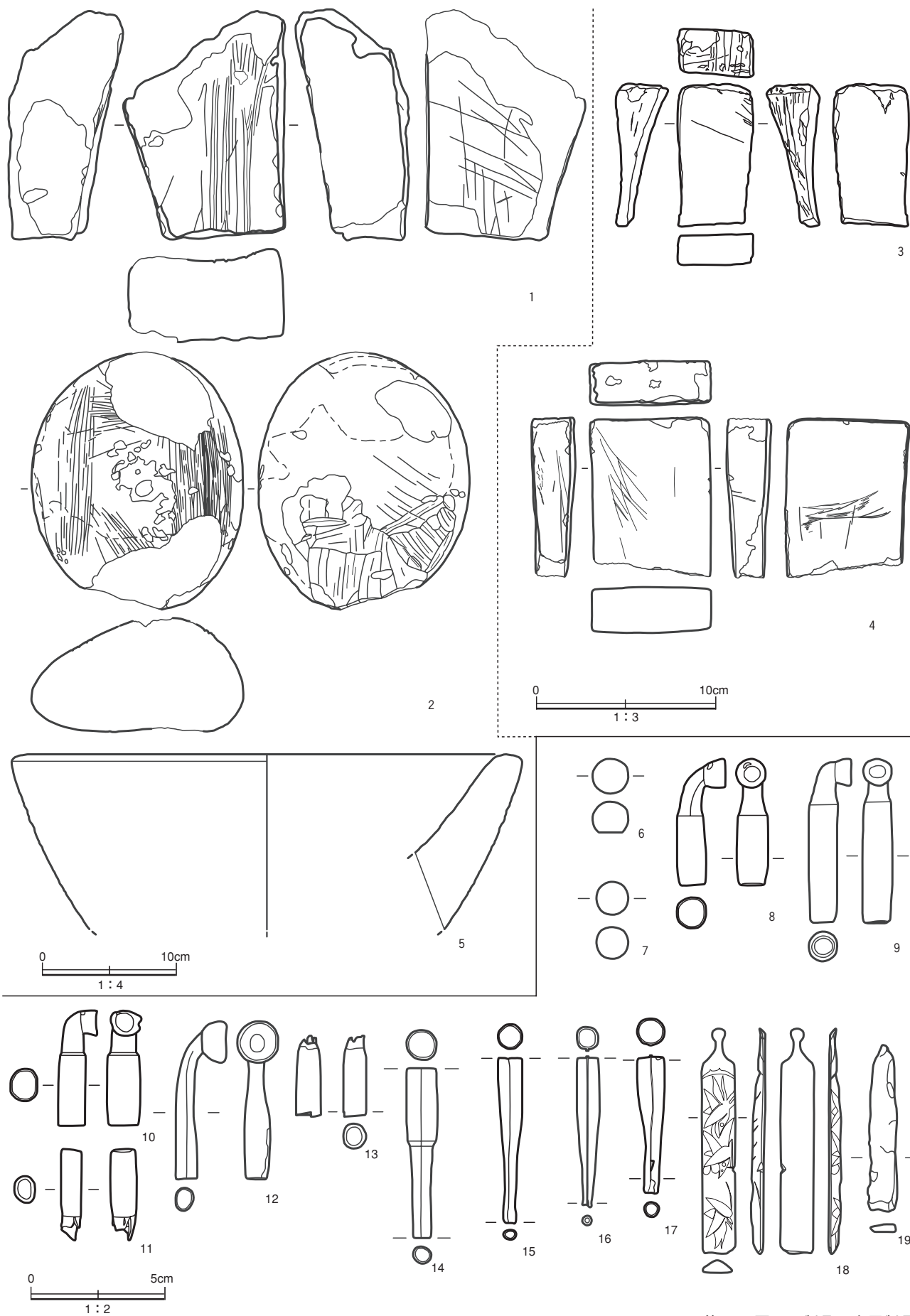


第198図 土製品

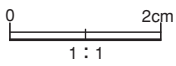
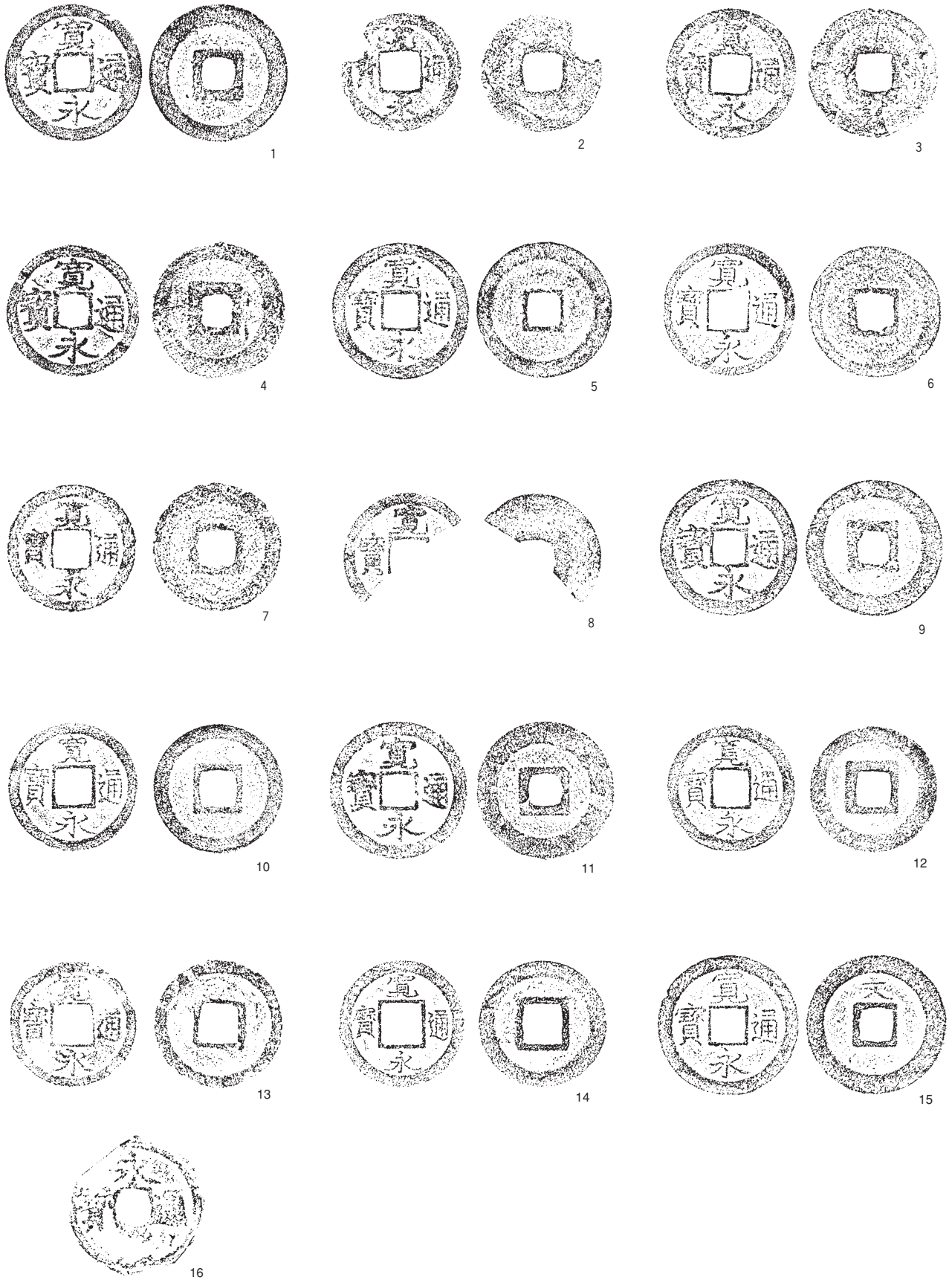


0 5cm
2:3

第199図 石製品



第200図 石製品・金属製品



第 201 図 貨幣

表 40 石・金属製品計測表

図版 番号	写真 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録番号	種別	器種・名称	長さ	幅 (mm)	厚さ	備考
199 図 1	189-1	3	D	SG1	W-AC-21~23		石製品	石製模造品	23	21	4	
199 図 2	189-2	3	C	ST2005SD403	T.U-18		石製品	石製模造品	19	13	5	
199 図 3	189-3	3	C	SG160	V-19		石製品	石製模造品	17	17	3	
199 図 4	189-4	3	C	SG1	W-21		石製品	石製模造品	19	19	2	
199 図 5	189-5	3	C	SG160	W-17	遺物群 11	石製品	石製模造品	36	19	5	
199 図 6	189-6	3	B		X-0		石製品	碁石	13	21	7	
199 図 7	189-7	3	C		X-0		石製品	管玉	29	11	10	
199 図 8	189-8	3	D	ST981	D-5	RQ46	石製品	石製紡錘車	64	66	12	
199 図 9	189-9	3	D	SG1	Y-22		石製品	碇石	38	53	52	
199 図 10	189-10	3	C		U-20		石製品	碇石	52	31	14	
199 図 11	190-1	3	D	SG1	W-AC-21~23		石製品	碇石	39	24	14	
199 図 12	190-2	2			T-15		石製品	碇石	42	29	29	
200 図 1	190-3	3	A	SG833	B-D-3~5		石製品	碇石	170	119	69	
200 図 2	190-4	3	C	SG160	V-18		石製品	擦痕ある礫	191	150	84	
200 図 3	190-5	3	B	SD836	E.F-5~10		石製品	碇石	79	42	16	
200 図 4	191-1	3	D	SG1	W-AC-21~23		石製品	碇石	85	67	24	
200 図 5	191-2	3	C	SK282	V-18		石製品	石鉢	(380)	[130]		
200 図 6	191-3	3	C		V-20	RM80	金属製品	鉄砲玉			12	
200 図 7	191-4	3	C	SX1133	Q.R-17		金属製品	鉄砲玉			13	
200 図 8	191-5	3	C	S X 1133	Q.R-17		金属製品	キセル 雁首・火口	47	11	13	
200 図 9	191-6	3	C		X-0		金属製品	キセル 雁首・火口	61	11	11	
200 図 10	191-8	3	D	SG1	X-22		金属製品	キセル 雁首・火口	43	12	10	
200 図 11	191-9	3	D	SG1	X-22		金属製品	キセル 竹筒	[35]	10		200 図 10 同一個体
200 図 12	191-7	3	D	SG1	X-22		金属製品	キセル 雁首・火口	59	9	15	
200 図 13		3	D	SG1	X-22		金属製品	キセル 竹筒	[30]	10		200 図 14 同一個体
200 図 14	191-10	3	D	SG1	X-22		金属製品	キセル 吸口	63	11		
200 図 15	191-11	3	D	SG1	X-21		金属製品	キセル 吸口	61	9		
200 図 16	191-12	3	C		X-0		金属製品	キセル 吸口	56	9		
200 図 17	191-13	3	C		X-0		金属製品	キセル 吸口	51	10		
200 図 18	191-14	3	C	SX1133	Q.R-17		金属製品	簞	[83]	13	5	
200 図 19	191-15	3	C		X-0		金属製品	刀子	[62]	10	3	
201 図 1	192-1	3		SG1	Y-22		金属製品	寛永通宝	24.5	1.1		
201 図 2	193-6	3	D	SG1	Y-22		金属製品	寛永通宝	21.4	0.6		
201 図 3	192-6	3	D	SG1	X-22		金属製品	寛永通宝	23.1	1.1		
201 図 4	192-3	3	C	SD516	R-17		金属製品	寛永通宝	23.6	1.1		
201 図 5	192-4	3	D	SD11	Z-24		金属製品	寛永通宝	24.3	1.1		
201 図 6	192-2	3	C	SD516	R-17		金属製品	寛永通宝	23.4	0.9		
201 図 7	192-7	3	C	SX1133	Q.R-17		金属製品	寛永通宝	22.8	0.8		
201 図 8	193-1	3	C	SG771	H-J-9~11		金属製品	寛永通宝	23.0	0.9		
201 図 9	192-8	2	T20		S-Z-20~26		金属製品	寛永通宝	24.3	1.0		
201 図 10	192-5	4	F		U-20		金属製品	寛永通宝	22.8	0.9		
201 図 11	193-3	3	C		AA20		金属製品	寛永通宝	24.5	1.0		
201 図 12	193-7	4	F		L-14		金属製品	寛永通宝	22.6	0.8		
201 図 13	193-4 193-8	3	C		X-0		金属製品	寛永通宝	22.5 20.6	0.8 0.4		
201 図 14	192-5	3	D		X-0		金属製品	寛永通宝	22.7	0.9		
201 図 15	192-2	3	D		X-0		金属製品	寛永通宝	25.1	1.1		
201 図 16	192-9	3	D		X-0		金属製品	永楽通宝	22.7	0.5		
	192-10	3			X-0		金属製品	元豊通宝	24.5	1.2		
	193-9	3	C		X-0		金属製品	元祐通宝	24.2	1.2		
	193-10	4	F	SG1	W-22		金属製品	皇宋通宝	23.5	1.2		

3 木製品

今回の調査では多様な木製品が出土した。それらは後世の腐蝕や破損によって原形をとどめていないものが多く、完形であっても用途が不明なものも多い。時代別では、奈良時代・平安時代に所属するものが主体となり、各井戸跡の部材が大半を占める。遺構では SG771 および SG833 両河川跡からまとまって出土している。以下では、土器との供伴関係、遺構内での出土状況や年代測定の結果を踏まえて、出土した木製品の主要なものについて、時代別、器種別に述べる。

A 古墳時代の木製品

板材 SG160 河川跡から出土した（第 202 図 1）。スギ材で両端を欠くが、残存長 444 mm、幅 229 mm、厚さ 20 mm の大形板材である。SG160 河川跡からは多量の木質遺物が出土したが、加工木はごく少ない。

柱材 ST2004 堅穴住居跡の遺構因子とみられる SP863 柱穴のクリの柱材である（第 203 図 1）。腐蝕が顕著であるが、元は丸材と考えられる。末端部を杭状に尖らせる加工が施される。本遺物は 4 世紀前半から 5 世紀中頃の年代測定結果が得られている。また、中央部遺構群の SP537 柱穴の柱材（第 219 図 1）からは 5 世紀前半から 6 世紀後半の年代が得られた。

板材列板材 SD119 溝跡の板材列構成部材である。破片も含めて 14 点ある（第 203 図 2～6・第 204～206 図）。幅 114～192 mm、厚さ 20 mm 前後の板材を主体とし、末端を「V」字状に尖らせる加工が施される。樹種は主にスギ材で、一部にクリ材が使われる。第 203 図 4 の年代測定では 4 世紀後半から 6 世紀中頃の結果が得られた。

上記の他 SG1048 河川跡から用途不明の加工木が 8 点（第 207 図 5～12）、SG1045 河川跡から棒状の加工木が 1 点出土している（第 218 図 1）。

B 奈良・平安時代の木製品

柱材 南西部遺構群の SP874（第 202 図 2・3）、SP958（第 208 図 1・2）、中央部遺構群の SP596 および SP598（第 219 図 2・3）各柱穴から柱材が出土した。いずれも腐蝕が進行し原形は不明である。これらは、7 世紀から 9 世紀代の年代測定結果が得られた。

皿 木製の皿は SG771 および SG833 河川跡から出土している。器形は、丸底風で体部が湾曲しながら立ち上がるもの（第 209 図 2）、大径の平底から体部が直線的に立ち上がるもの（第 209 図 1・第 211 図 1）、底部が台状となるもの（第 211 図 2・3）がある。

箸状木製品 SG771（第 209 図）および SG833 河川跡（第 212 図）からまとまって出土した。大半が破損しているが、完形のもの（第 212 図 17）では長さ 322 mm、径 7 mm の断面円形となる。

篋状木製品 SG833 河川跡から 1 点が出土した。

曲物 大形の曲物は、SG771 河川跡（第 210 図 1）、SE515 井戸跡（第 226 図 1）、SE616 井戸跡（第 232 図）から出土した。井戸跡出土のものは、井戸眼として使用されている。また、小形の曲物が SG833 河川跡から出土している（第 216 図 3）。

斎串 斎串は SE1132 井戸跡から 7 点がまとまって出土した（第 234 図 1～7）。薄板の末端を尖らせ頂部を山形に整形し、上半部に刻みを入れて毛羽立たせている。

鋤 SE96 井戸跡の井戸杵部材に転用されたものが 2 点出土した。いずれも頂部は平坦で、末端に向かって細く薄くなり、末端部は丸く加工される。末端部は金属装着の痕跡が黒く変色している。樹種はアサダが用いられる。着柄のための長方形の孔が貫通するもの（第 240 図 11）と貫通していないもの（第 241 図 8）がある。

C 中世以降の木製品

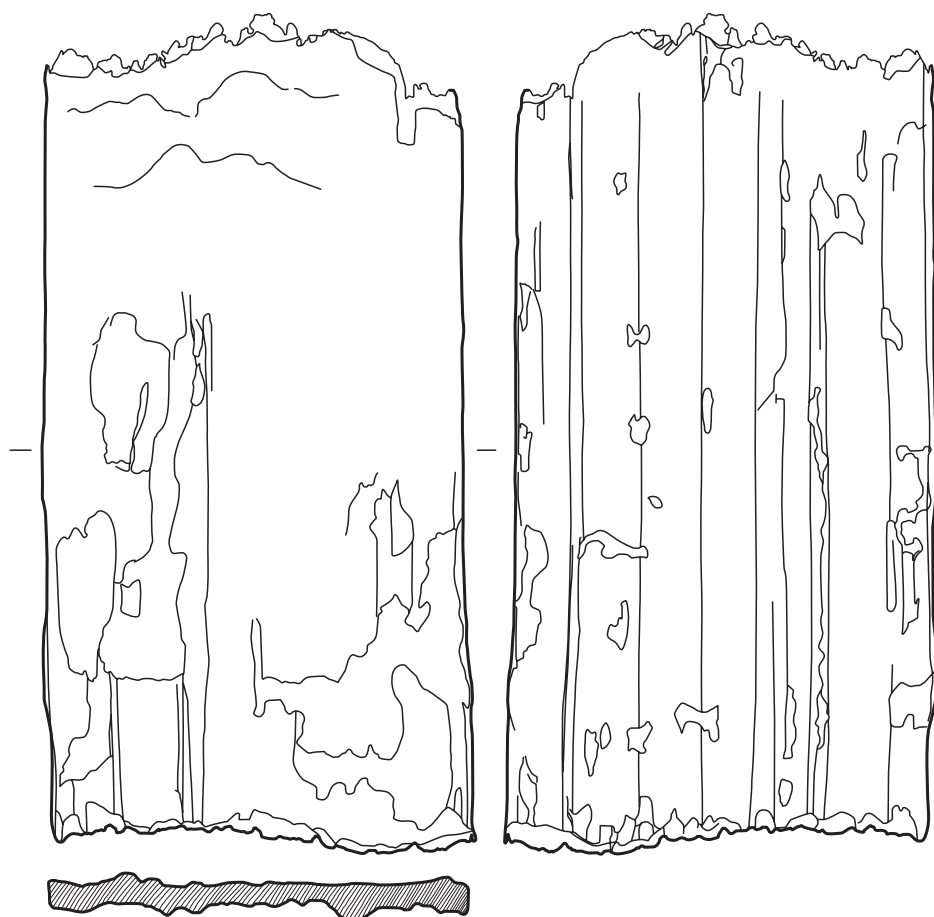
柱材 南西部遺構群の SP959（第 208 図 3）、中央部遺構群の SP697（第 220 図 2）、SP705（第 220 図 3・4）各柱穴から柱材が出土した。SP959 は 13 世紀末から 14 世紀後半、SP697 および 705 は 15 世紀後半から 17 世紀中頃の年代測定結果が得られた。

漆器椀 SG 1 河川跡から台付の漆器椀が 1 点出土した（第 207 図 1）。本体は丸みが強く、口縁部が薄く仕上げられており、全面に黒漆が塗布される。近世以降の所産と考えられる。

漆器皿 中央部遺構群から 1 点が出土した。小形で浅身の台付皿で、内外面に赤漆、高台内に黒漆が塗布される（第 243 図 1）。近世以降の所産と考えられる。

独楽 SG 1 河川跡から 1 点が出土した（第 207 図 2）。

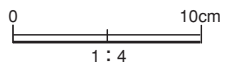
こけし SD434 河川跡から 2 点出土した（第 218 図 4）。



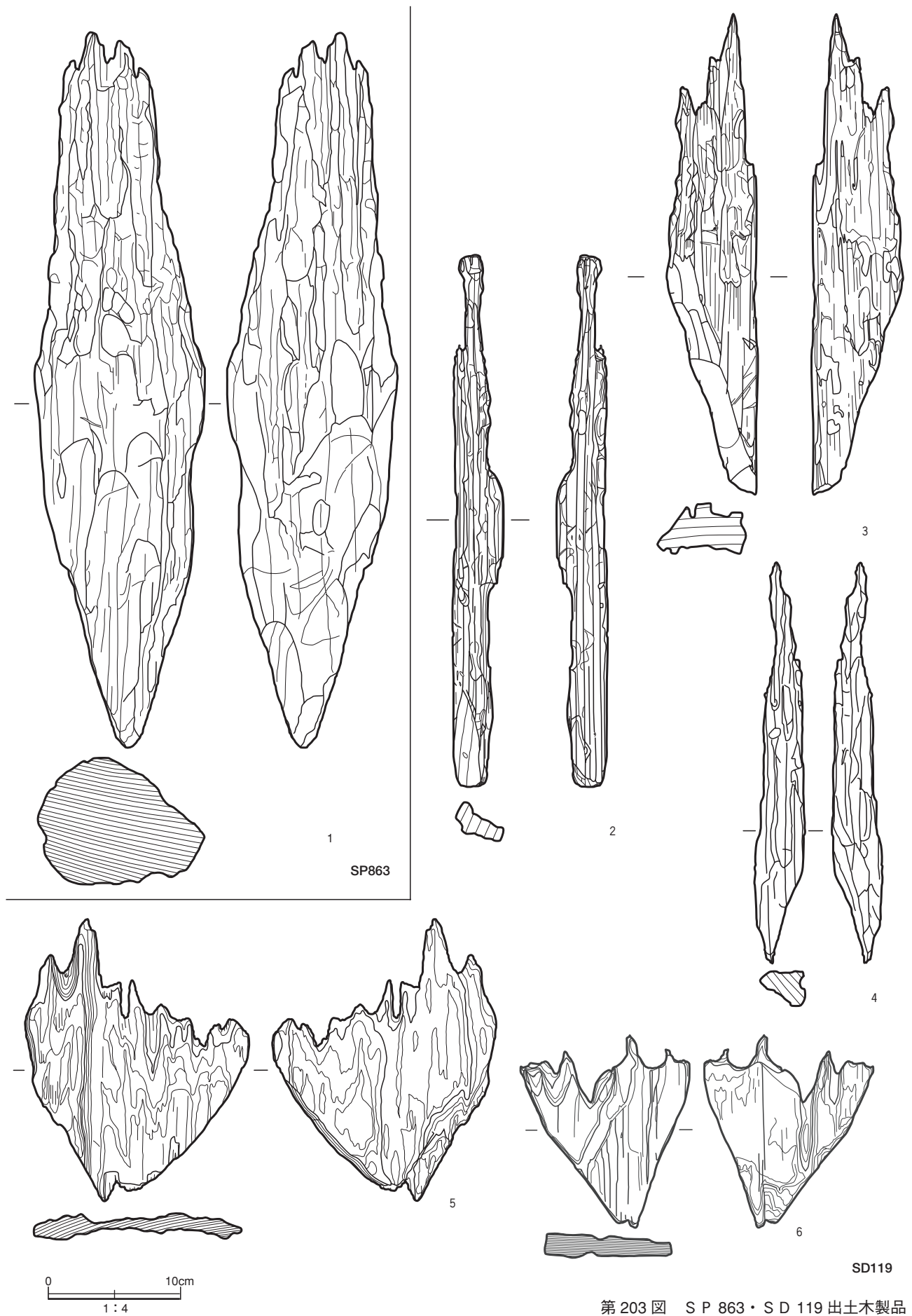
SG160



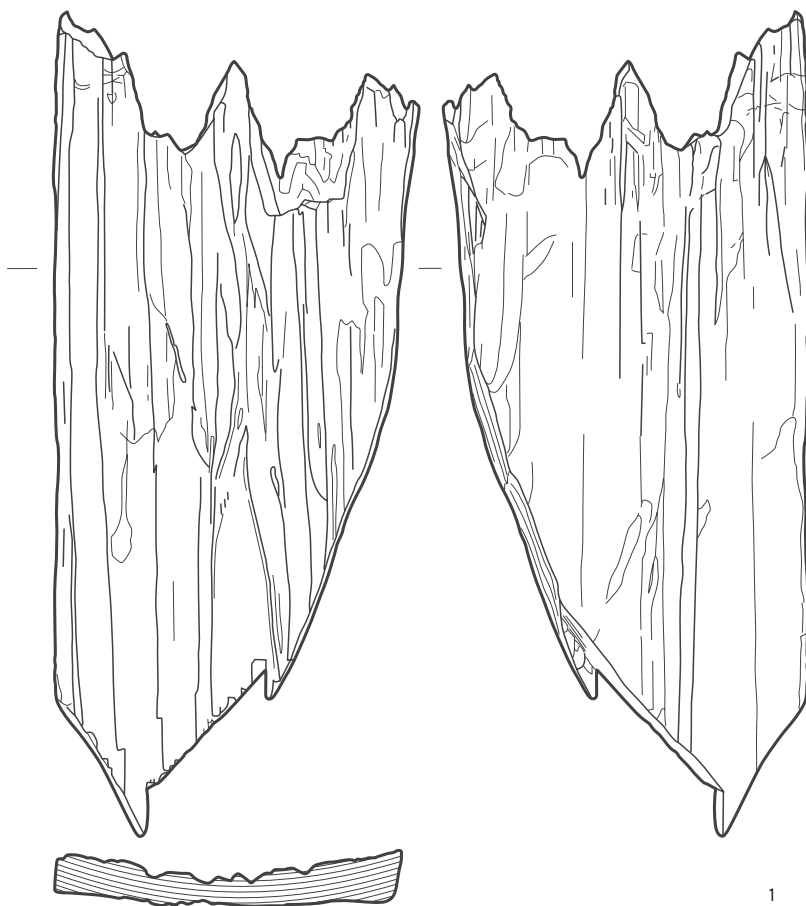
SP874



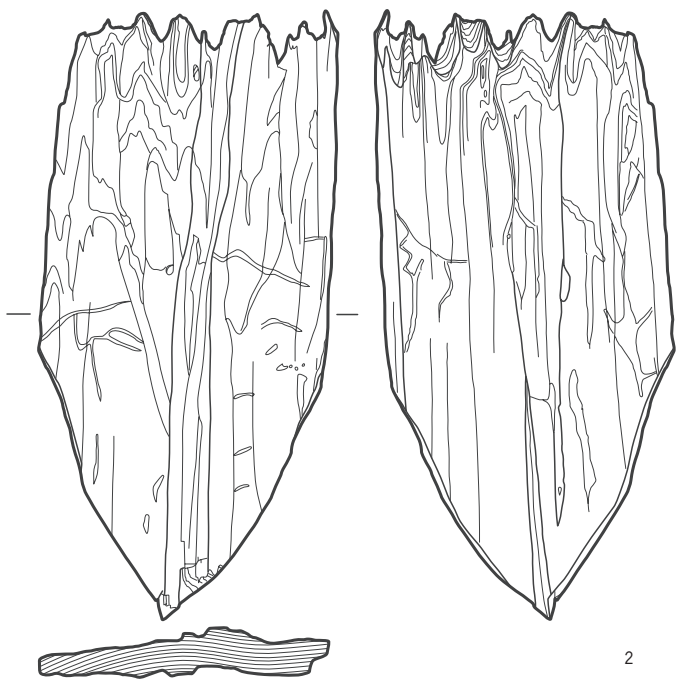
第 202 図 S G 160 ・ S P 874 出土木製品



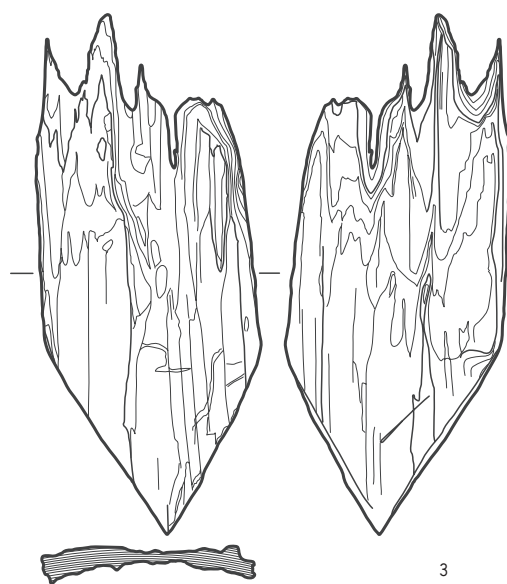
第 203 図 S P 863 ・ S D 119 出土木製品



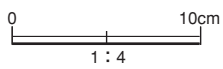
1



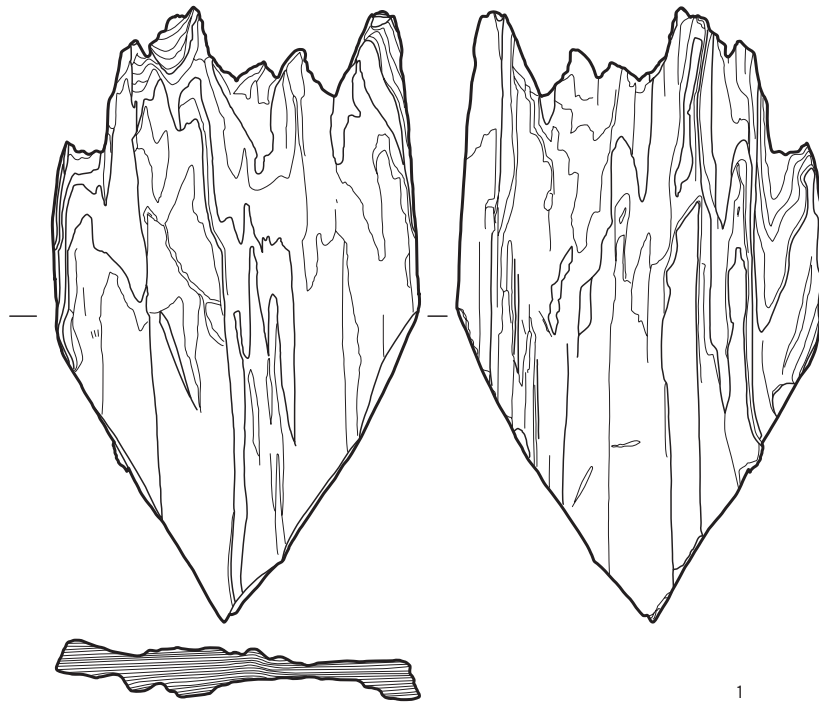
2



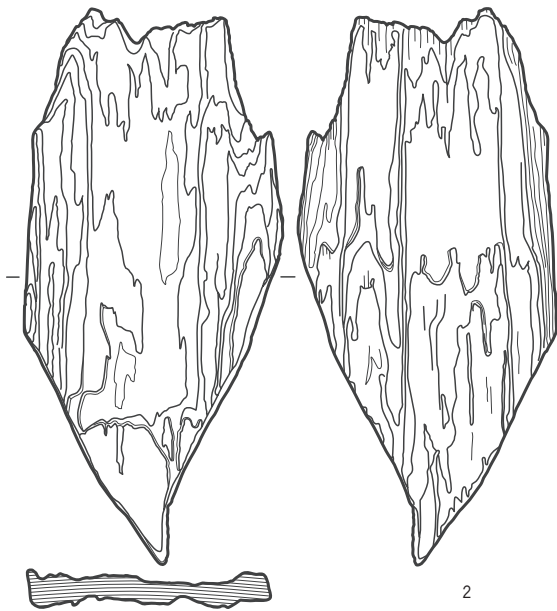
3



第204図 S D 119 出土木製品(1)



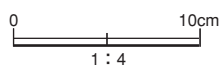
1



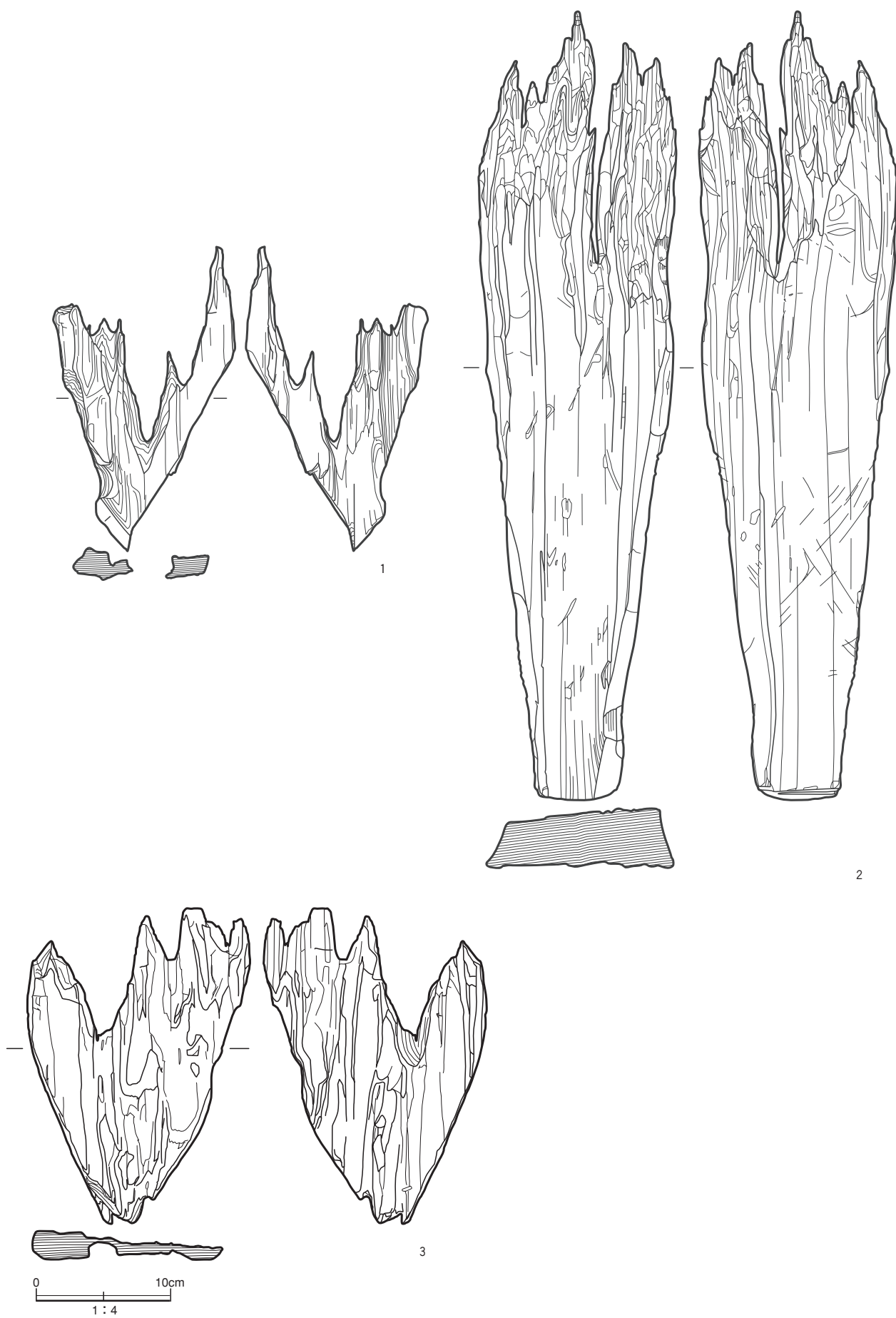
2



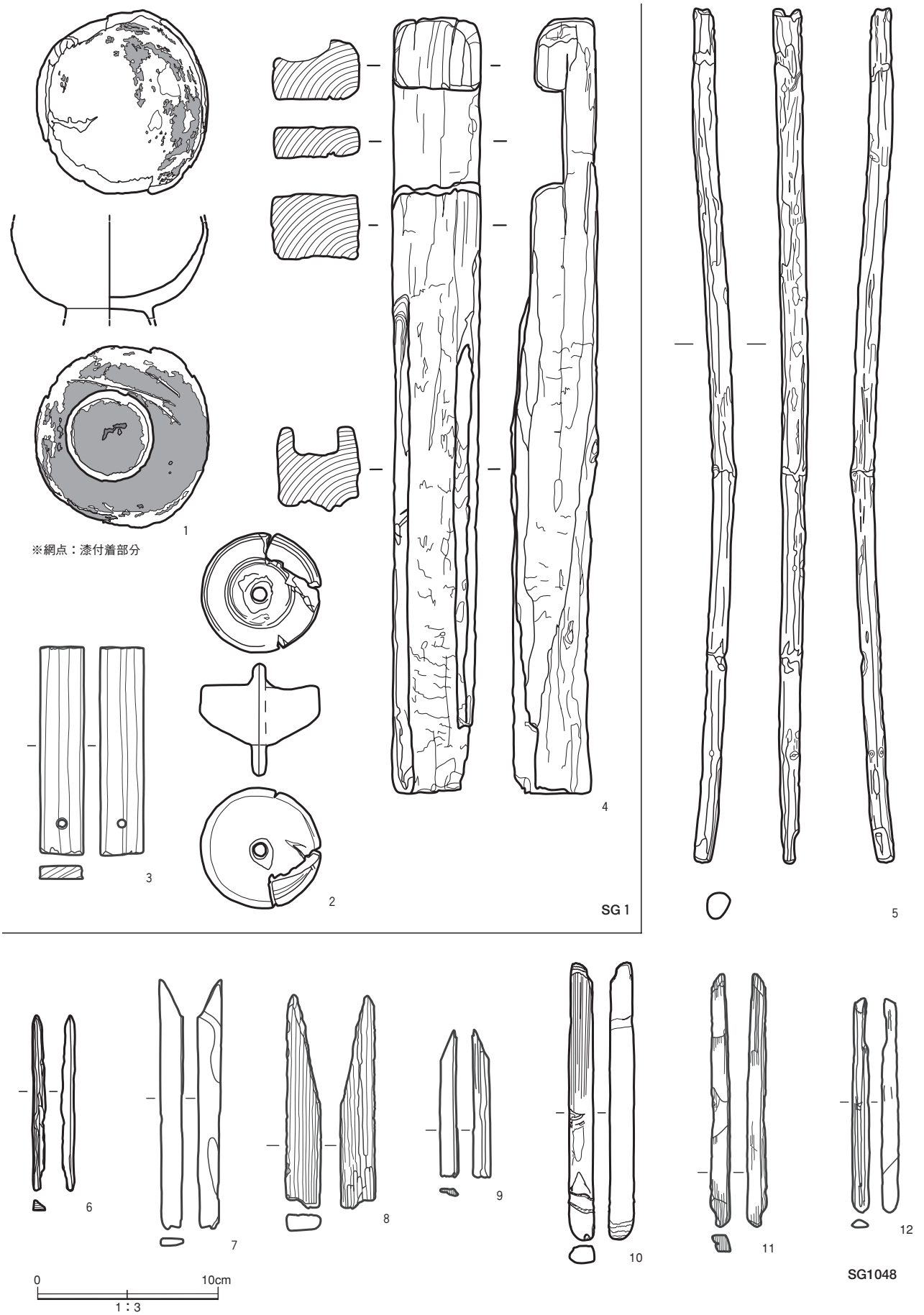
3



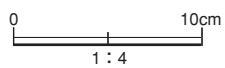
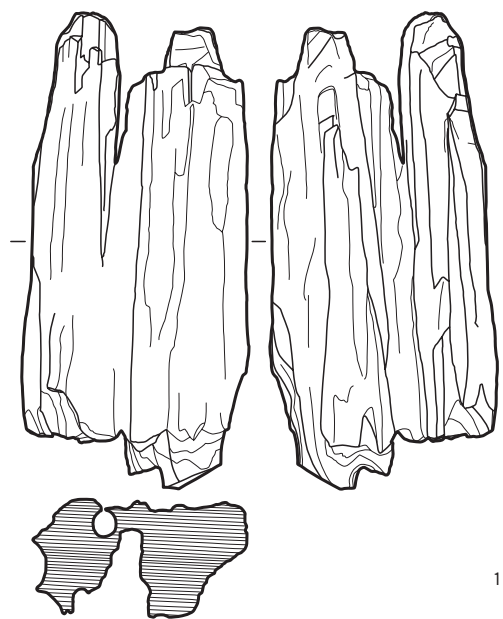
第 205 図 S D 119 出土木製品 (2)



第206図 S D 119 出土木製品(3)



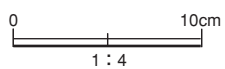
第 207 図 SG 1・1048 出土木製品



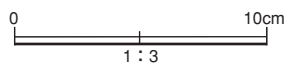
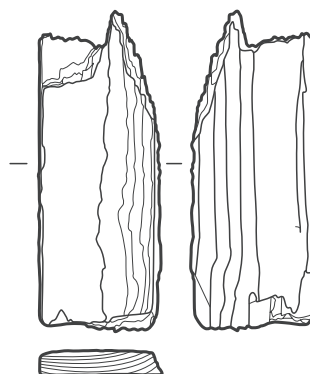
2



SP958

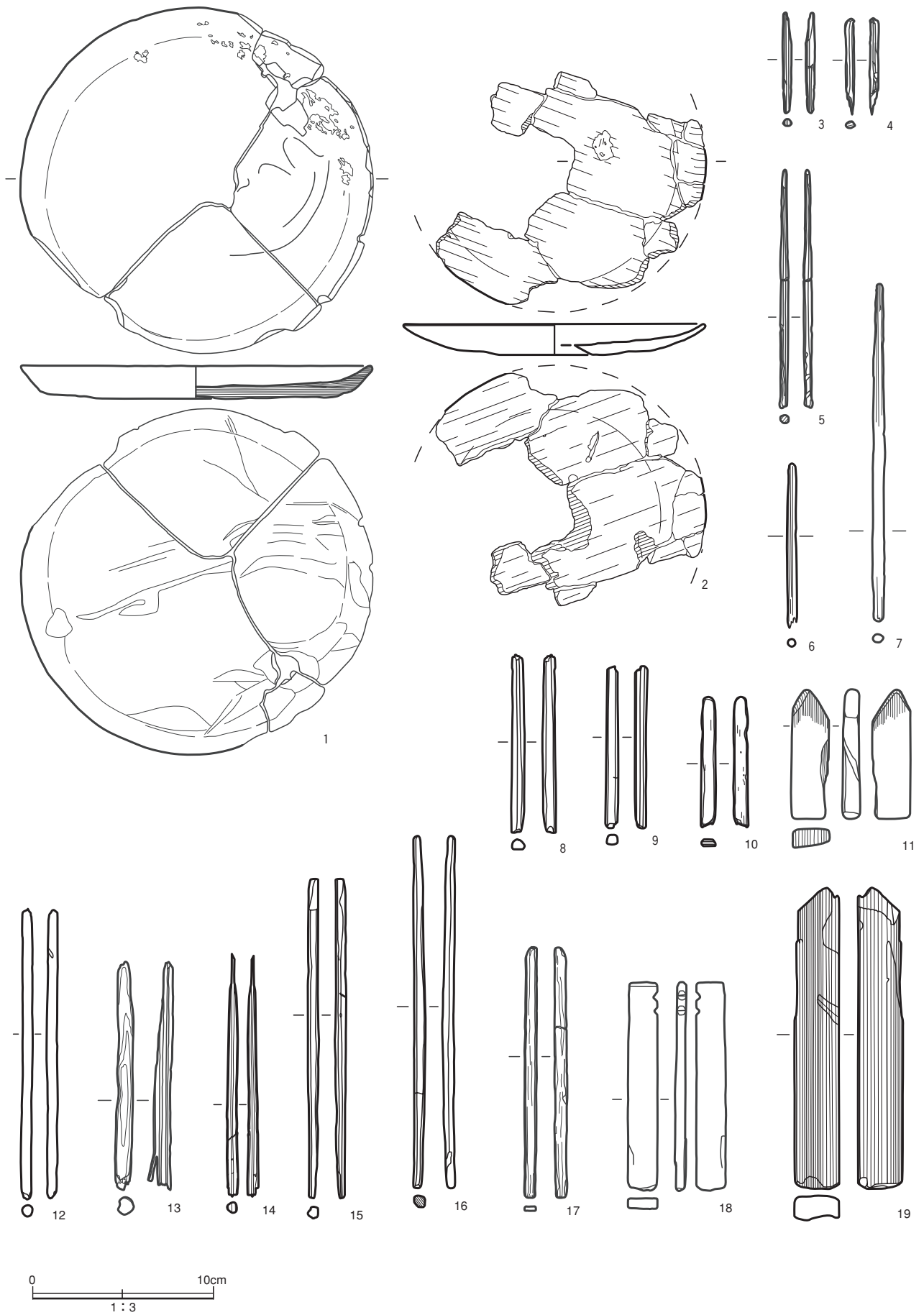


SP959

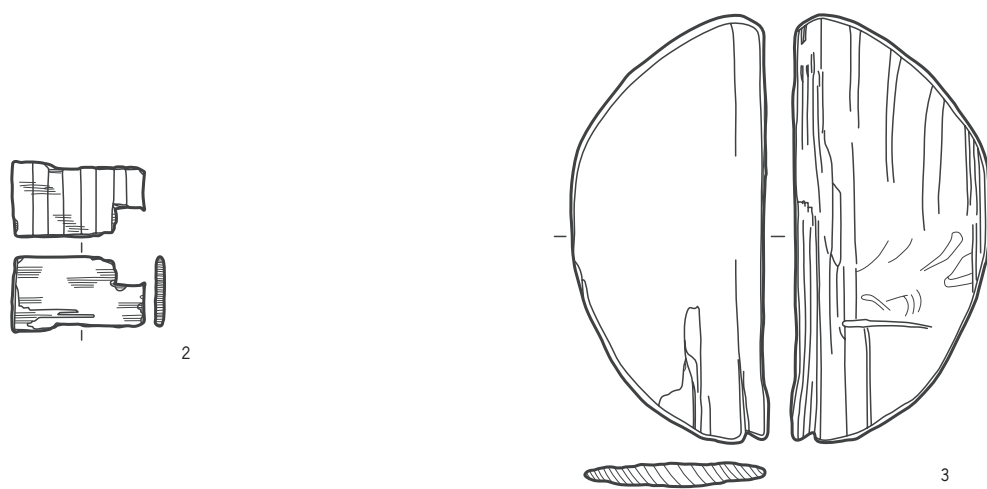
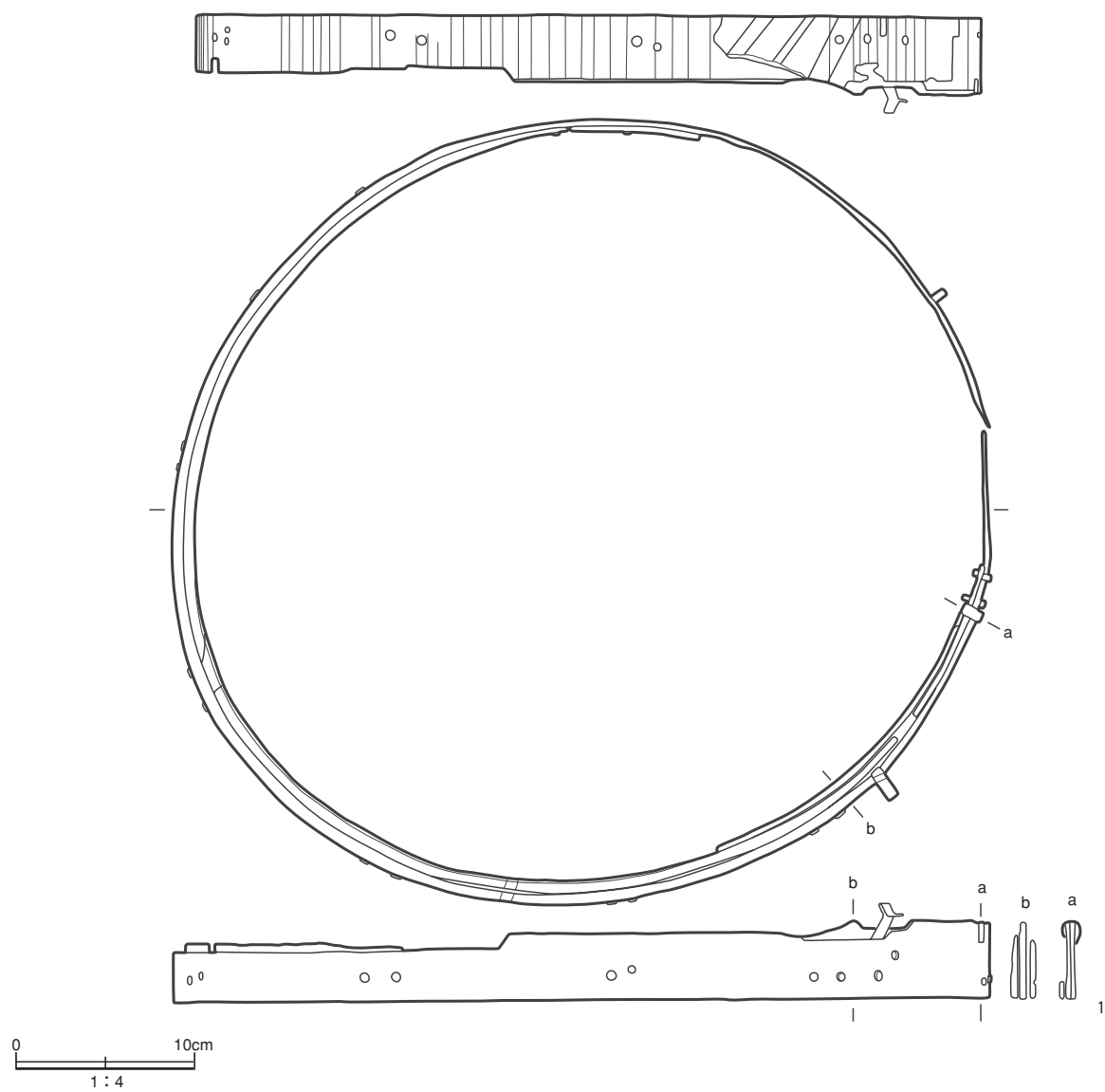


SD280

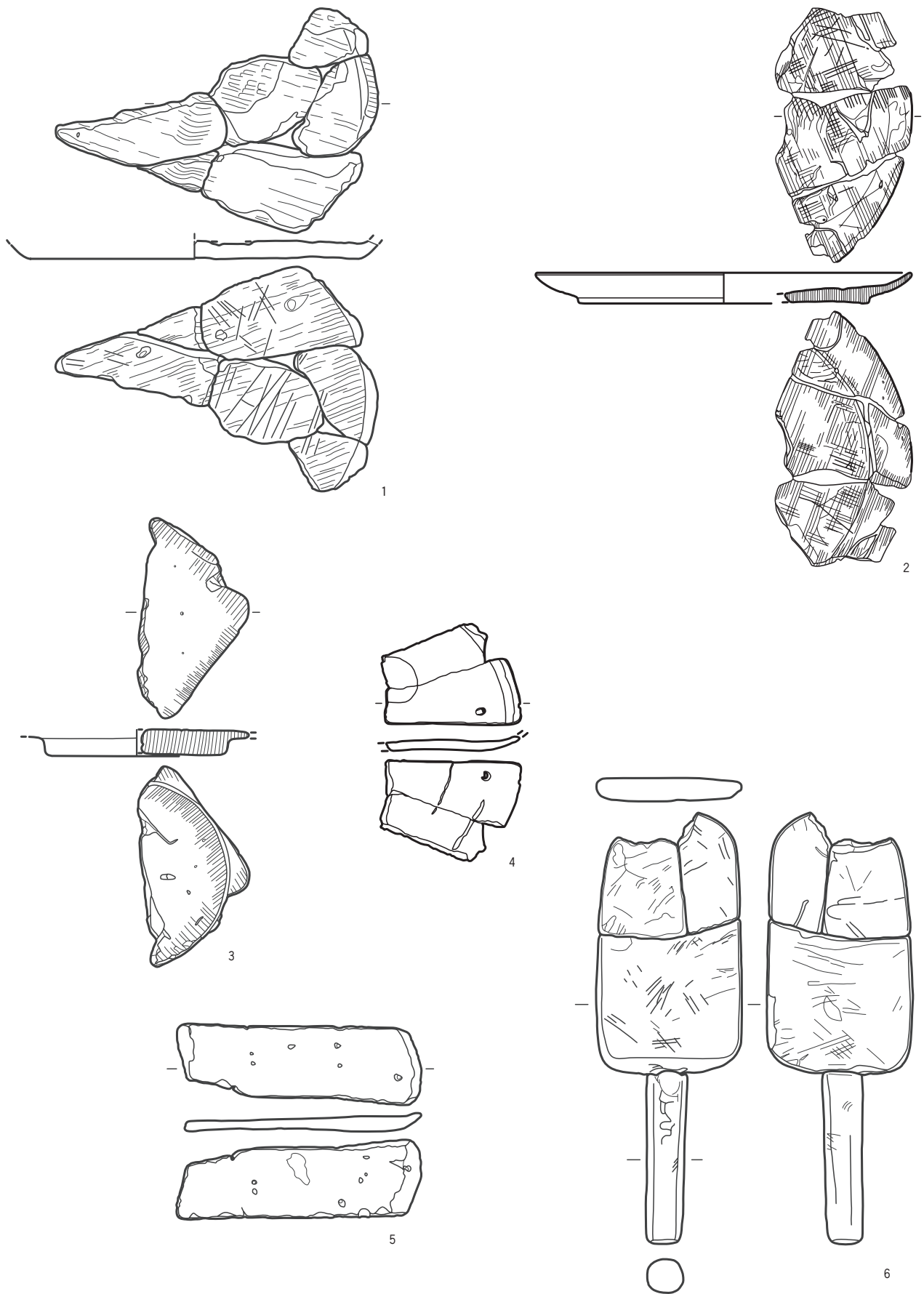
第 208 図 S P 958・959・280 出土木製品



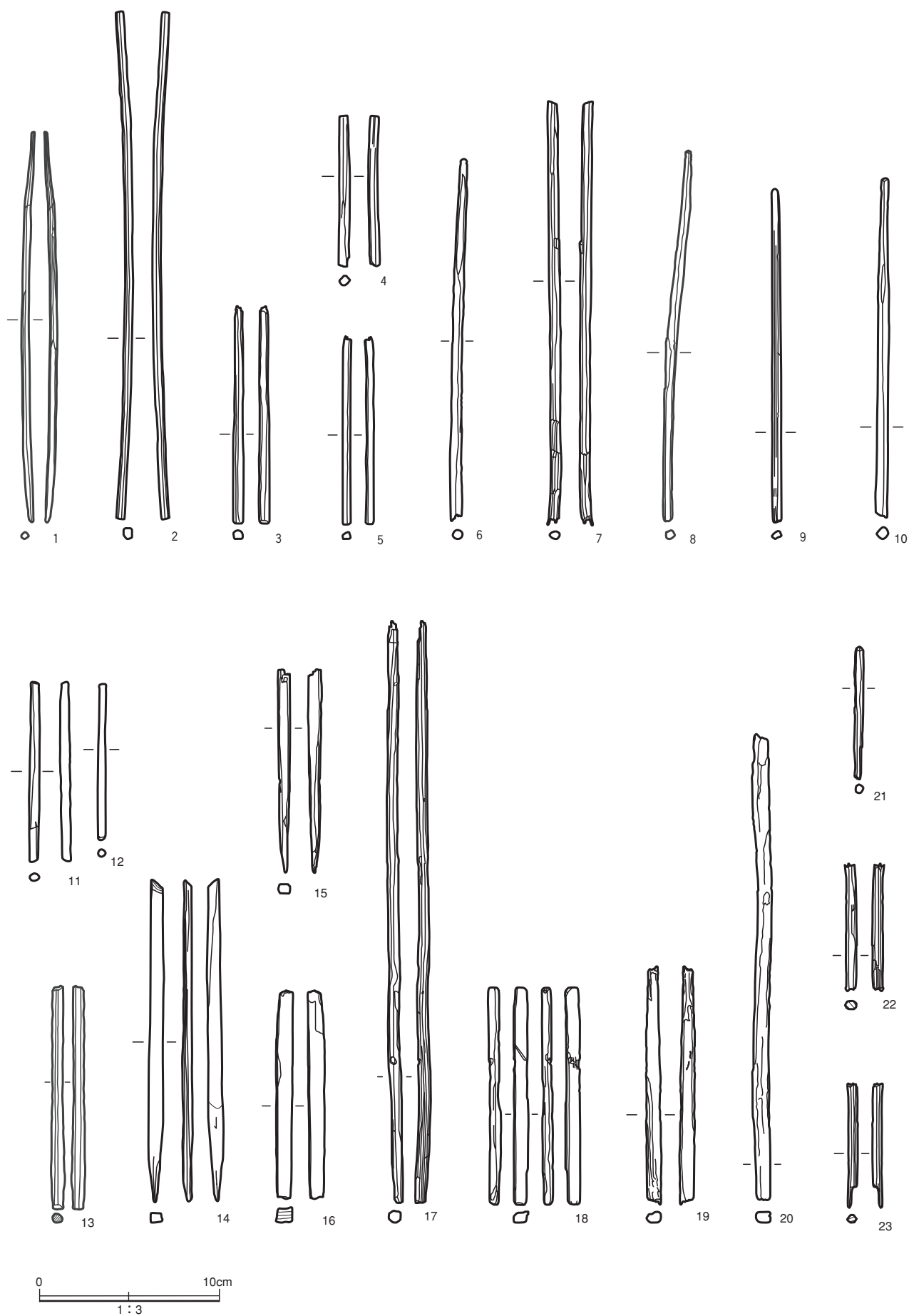
第209図 S G 771 出土木製品(1)



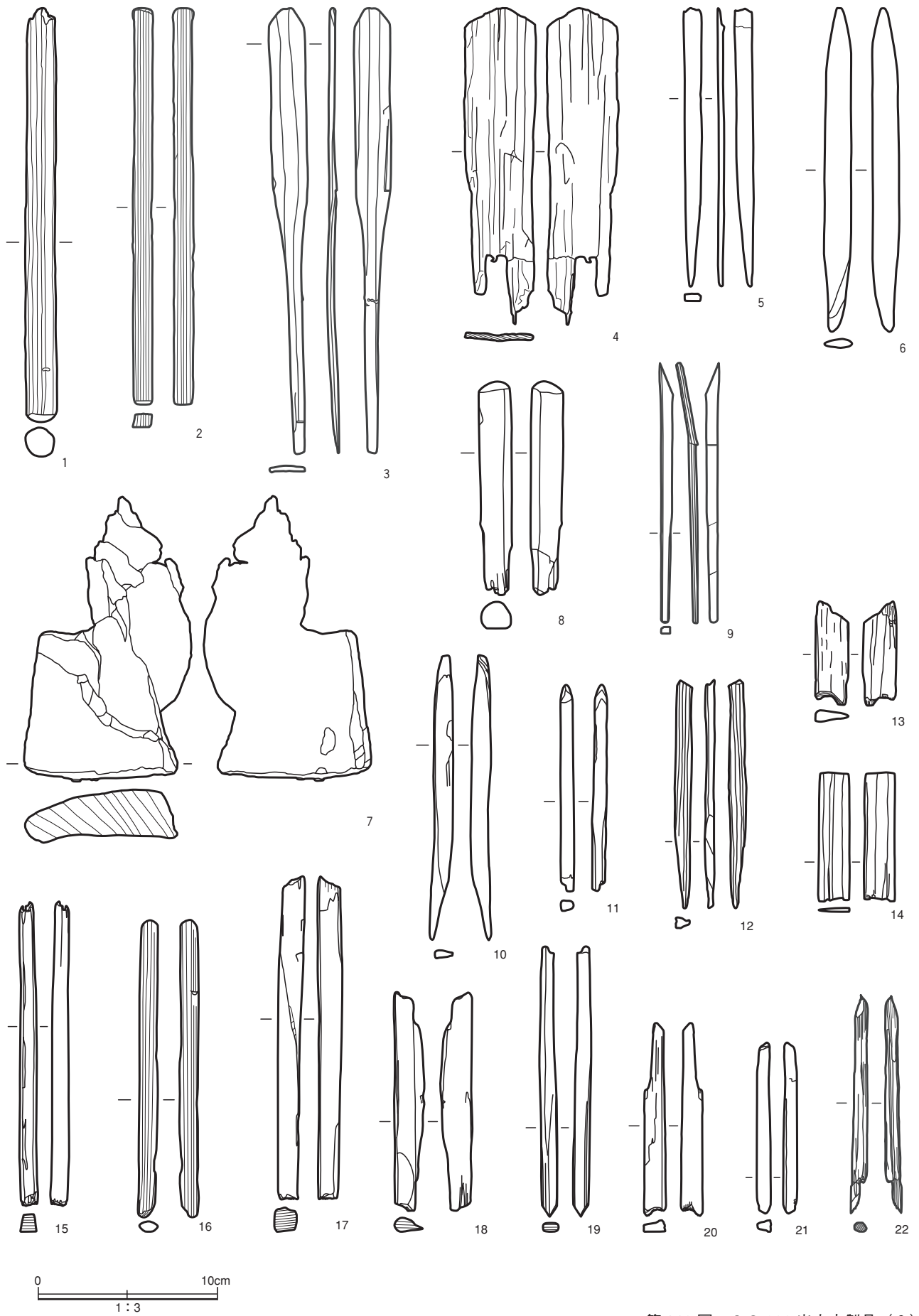
第 210 図 SG 771 出土木製品 (2)



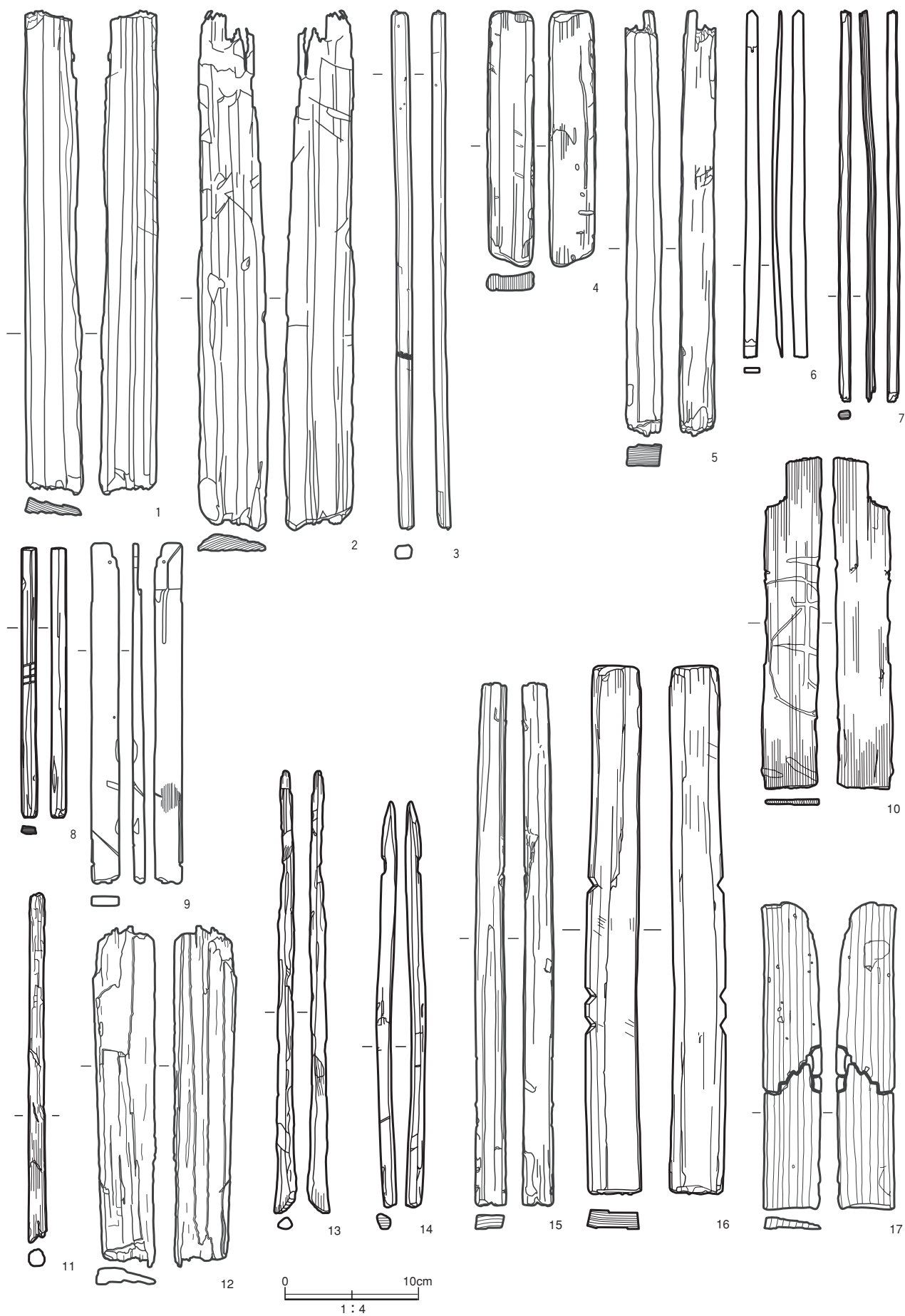
第211図 S G 833 出土木製品 (1)



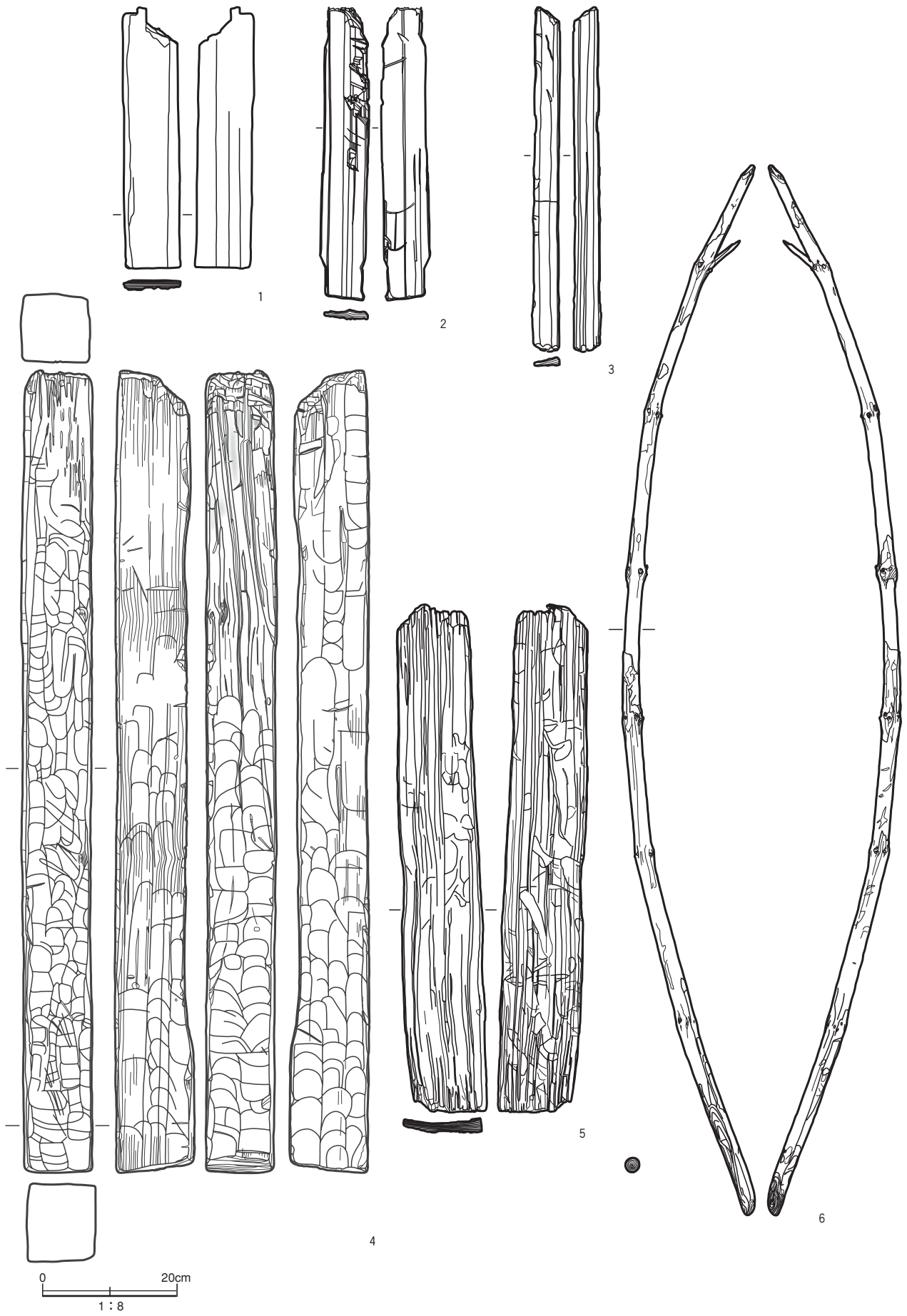
第212図 S G 833 出土木製品(2)



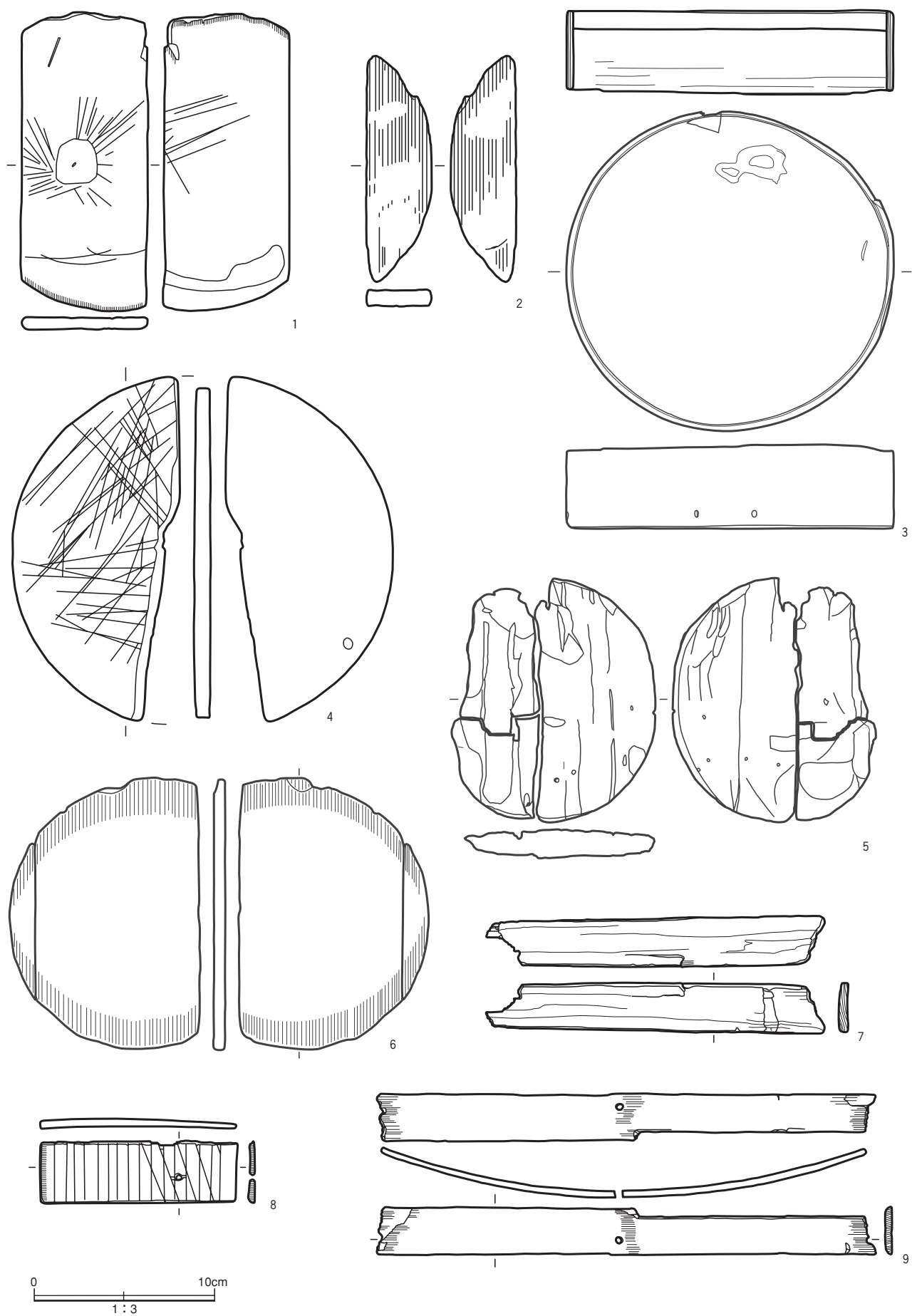
第213図 S G 833 出土木製品 (3)



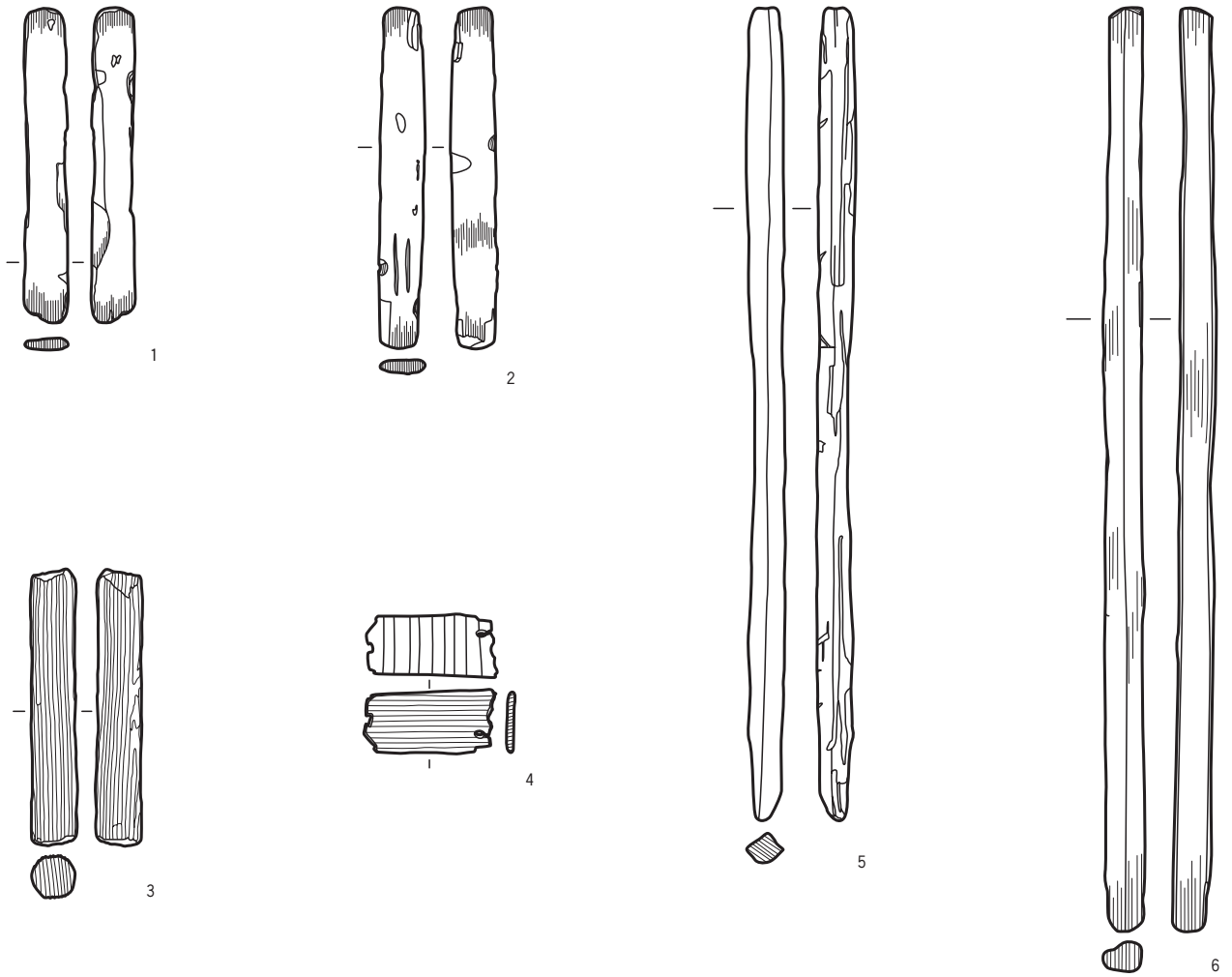
第214図 S G 833 出土木製品(4)



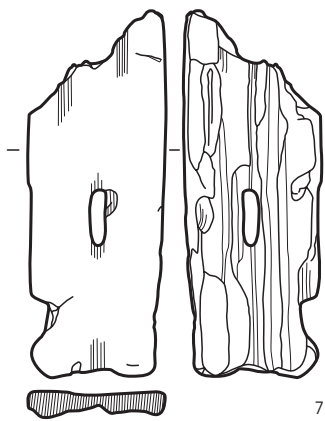
第215図 S G 833 出土木製品 (5)



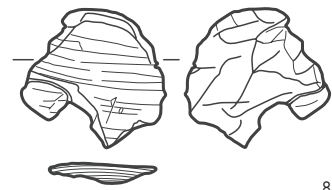
第216図 SG 833 出土木製品(6)



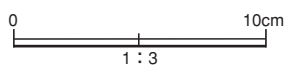
SK1141



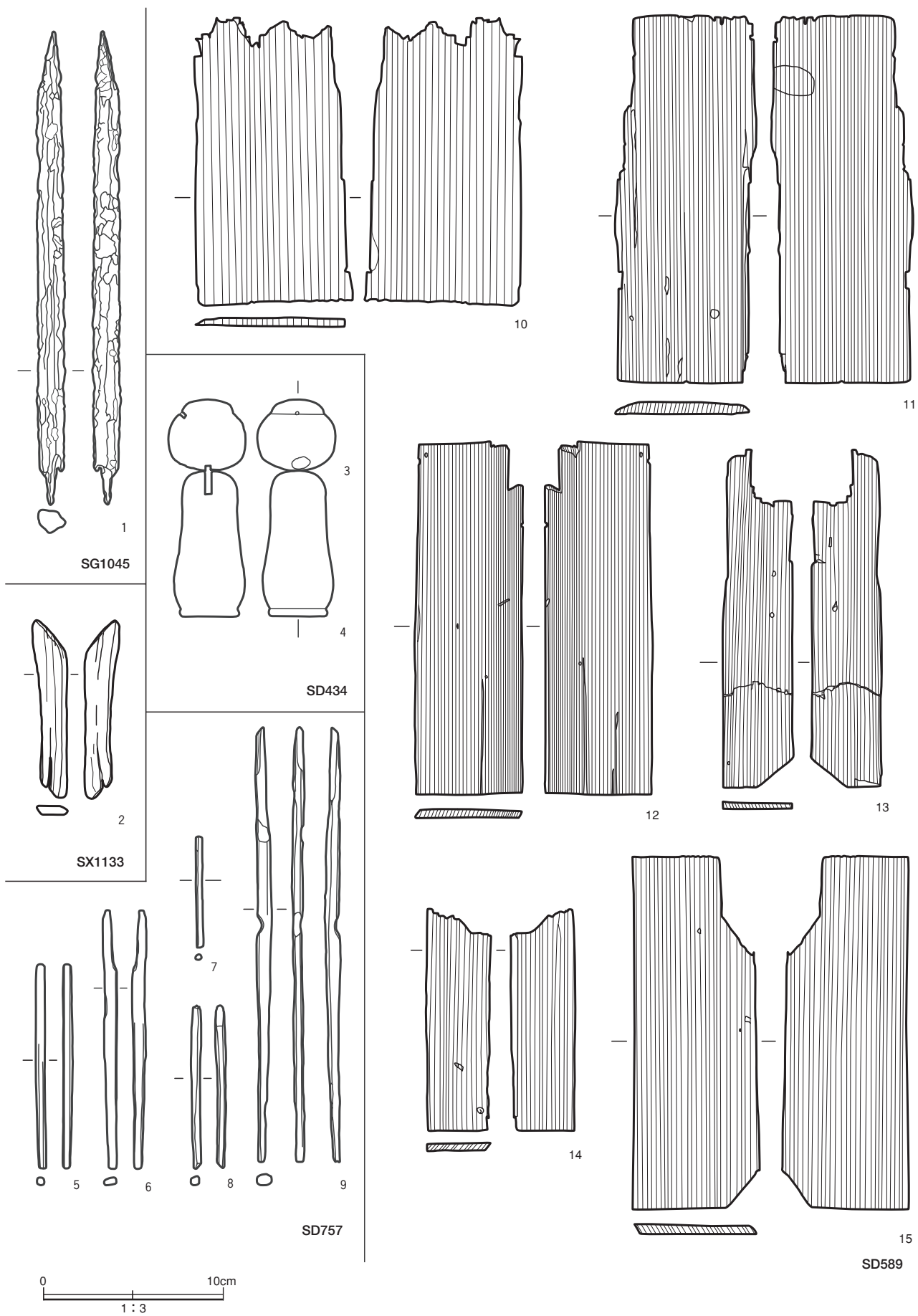
SK1179



SD835



第 217 図 S K 1141・1179・S D 835 出土木製品

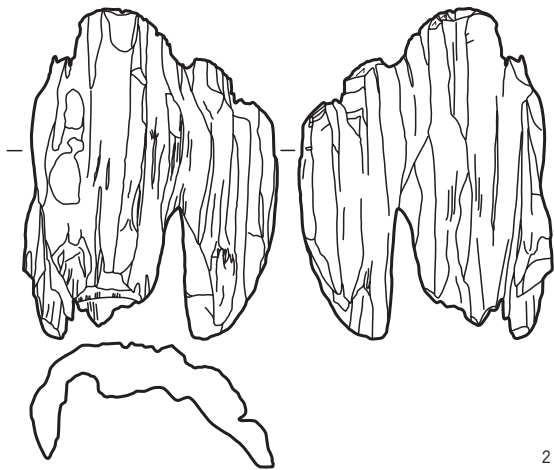


第218図 S G 1045・S D 589・434・757・S X 1133 出土木製品



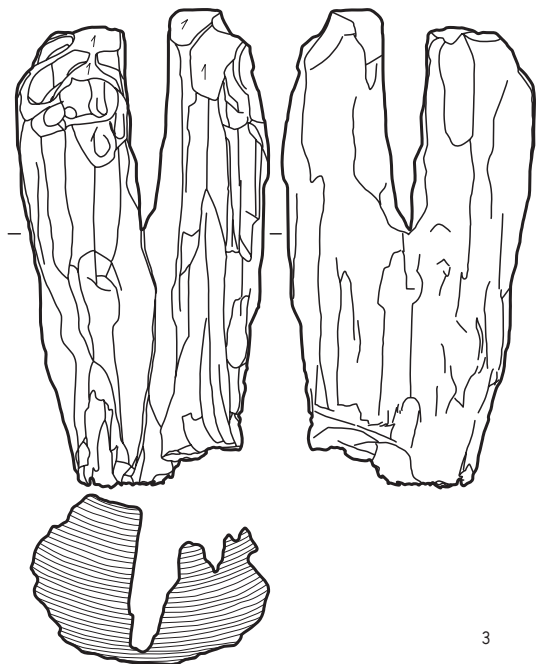
1

SP537



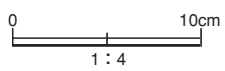
2

SP596

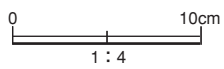
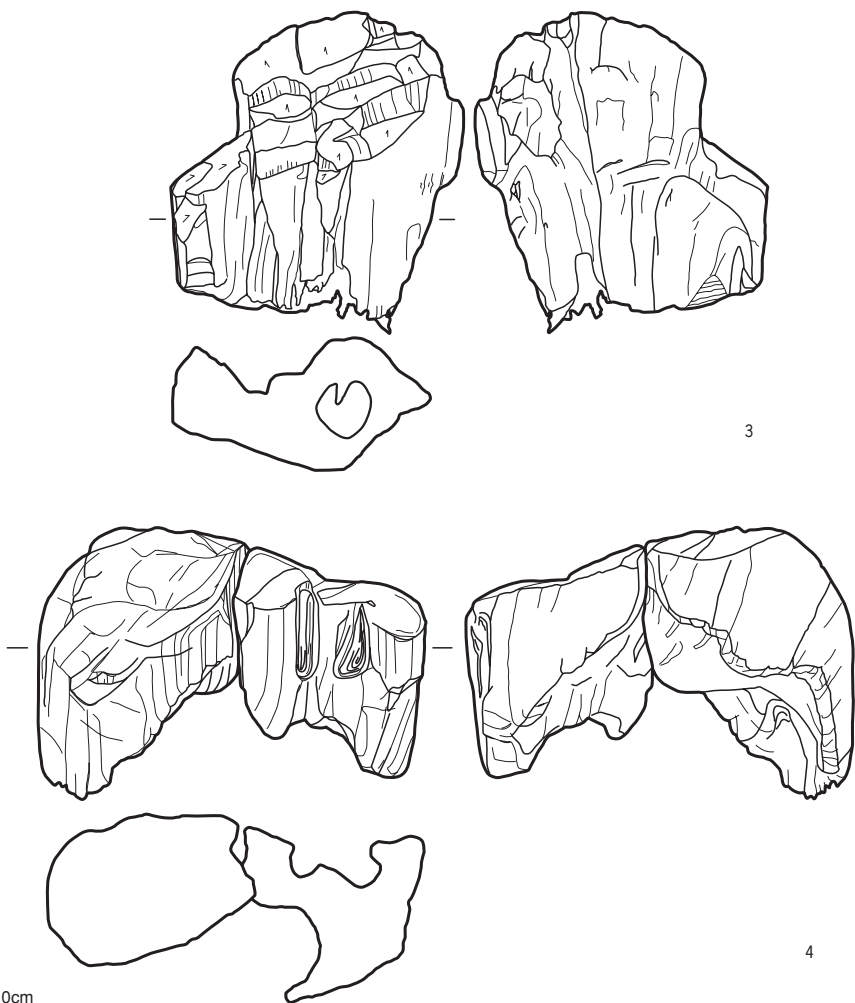
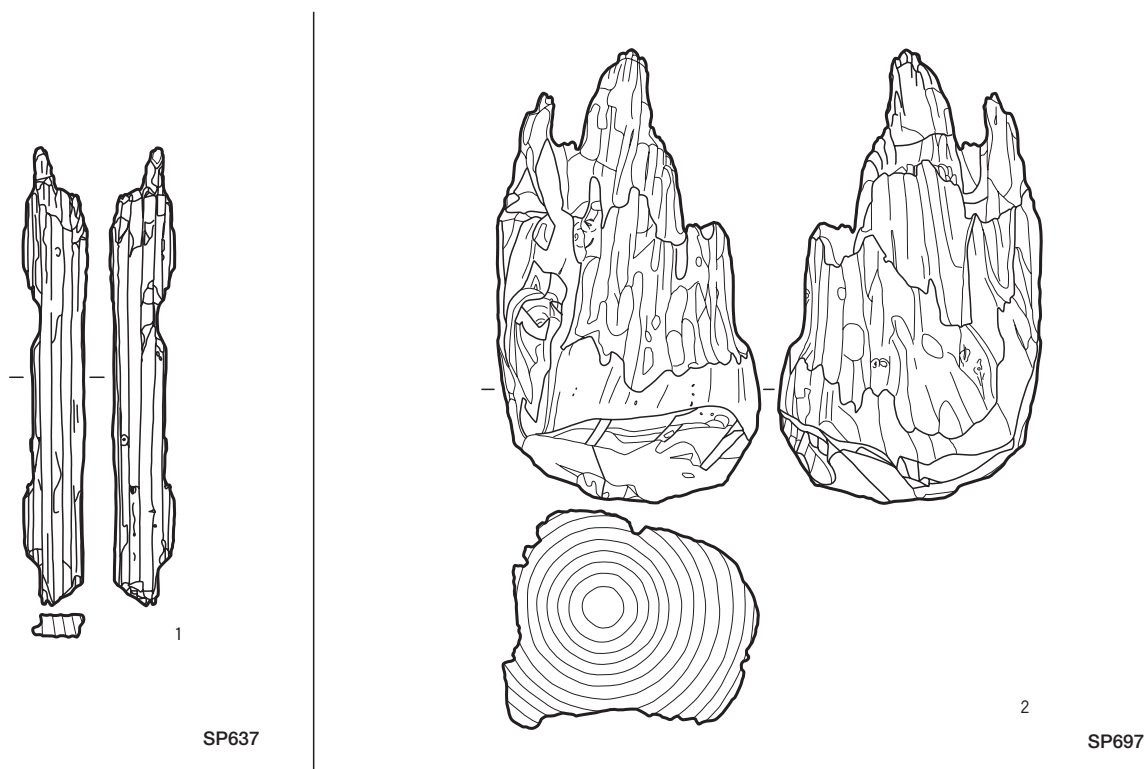


3

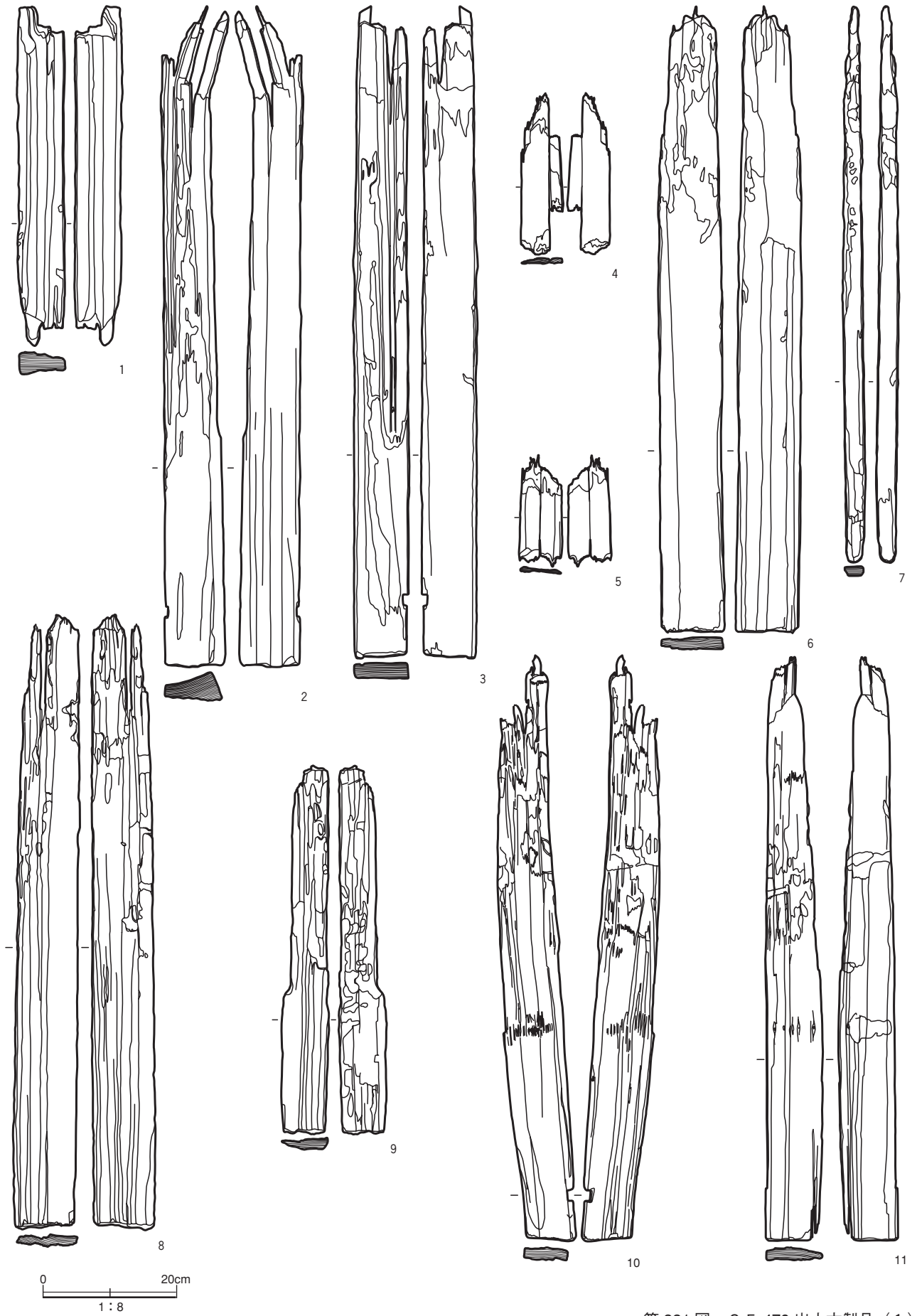
SP598



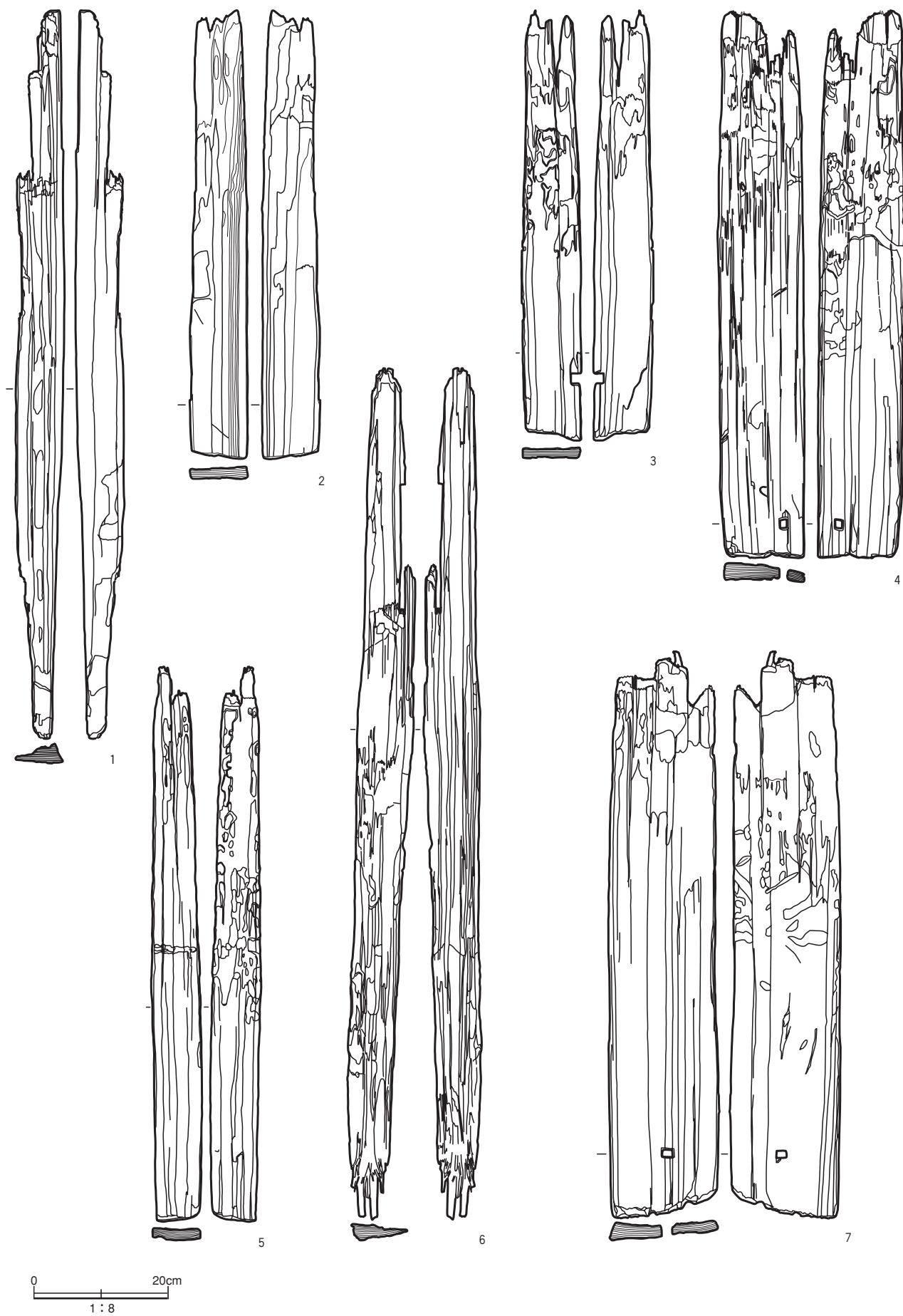
第 219 図 S P 537・596・598 出土木製品



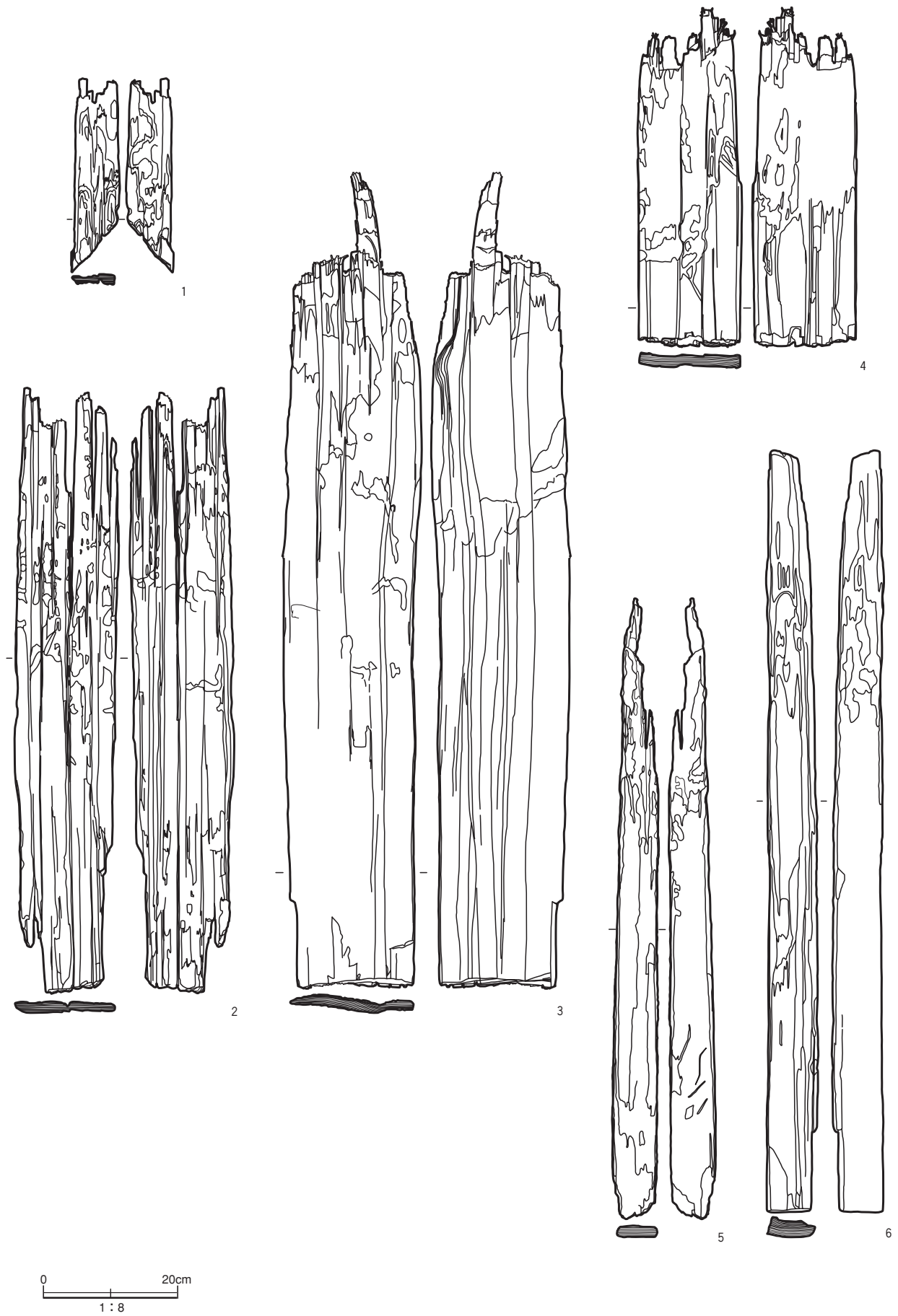
第 220 図 S P 637・697・705 出土木製品



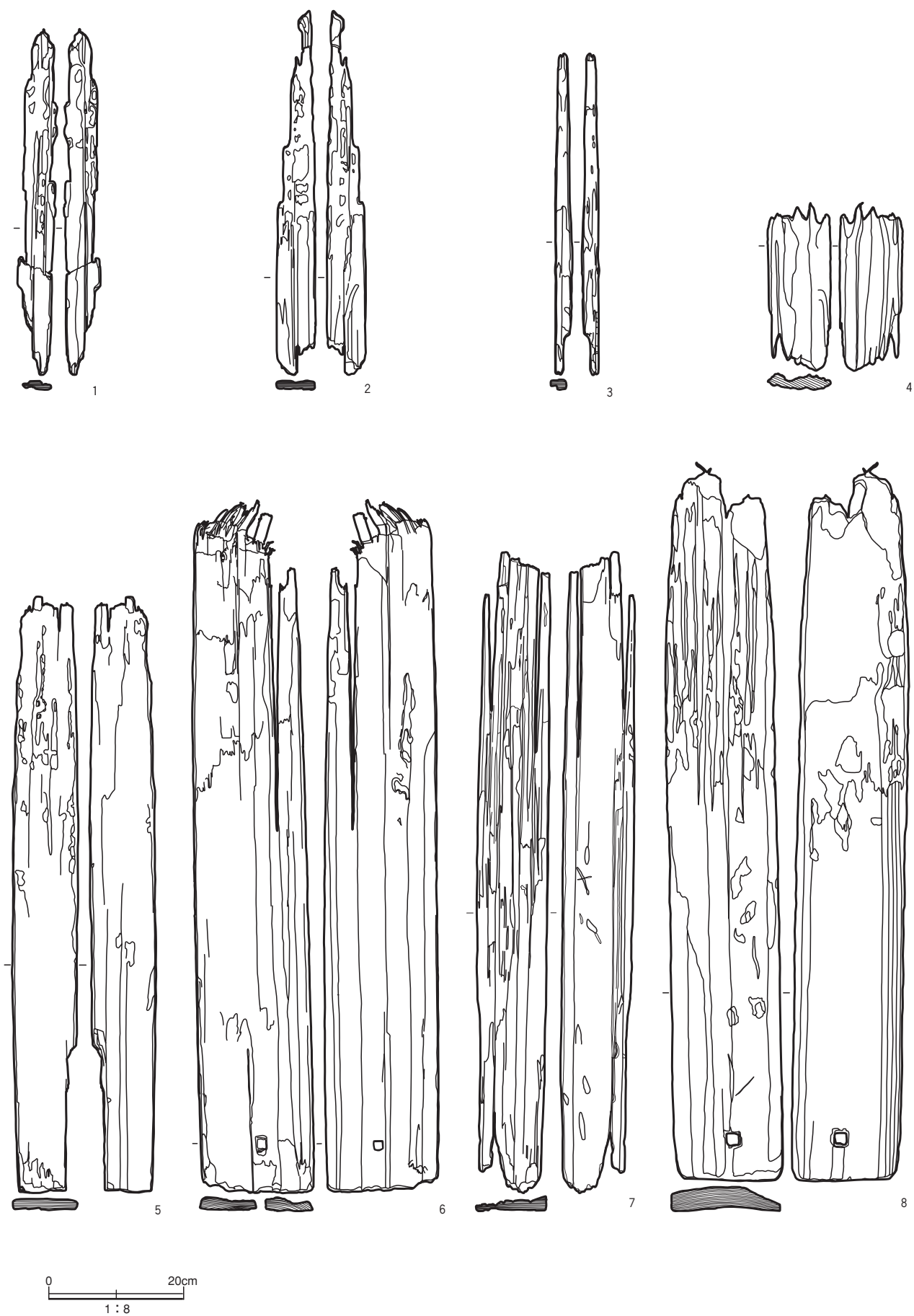
第 221 図 S E 479 出土木製品 (1)



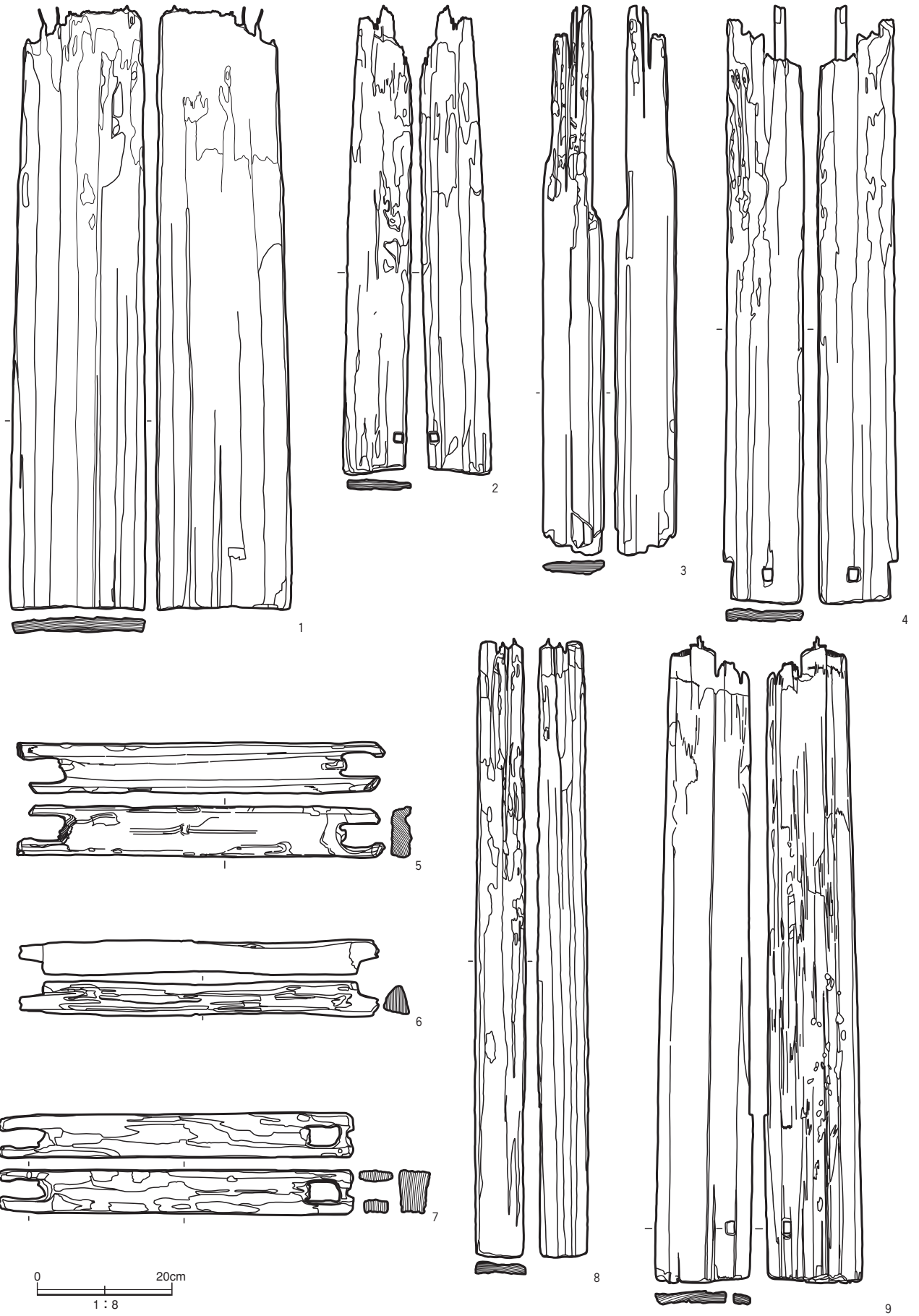
第222図 S E 479 出土木製品 (2)



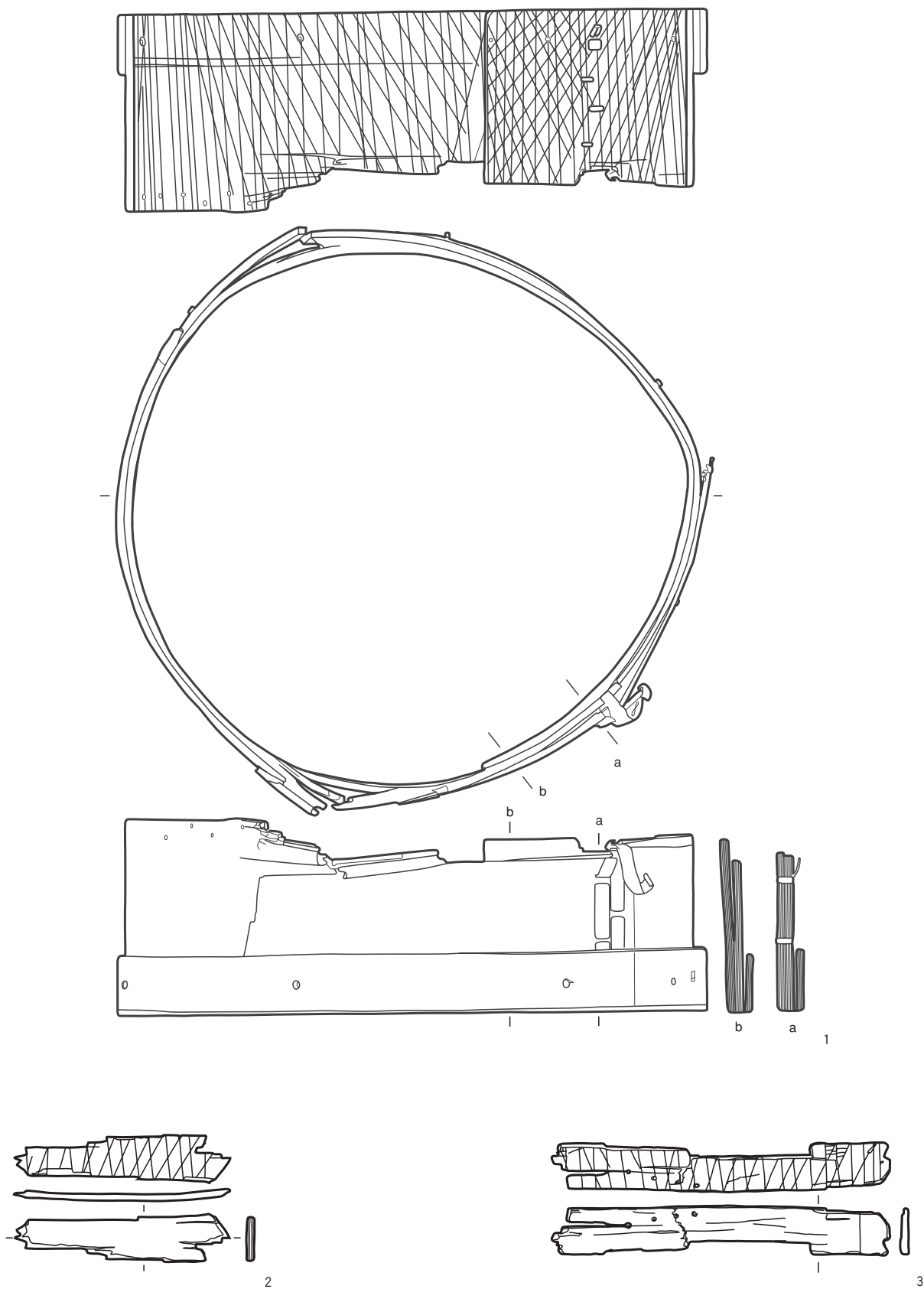
第 223 図 S E 479 出土木製品 (3)



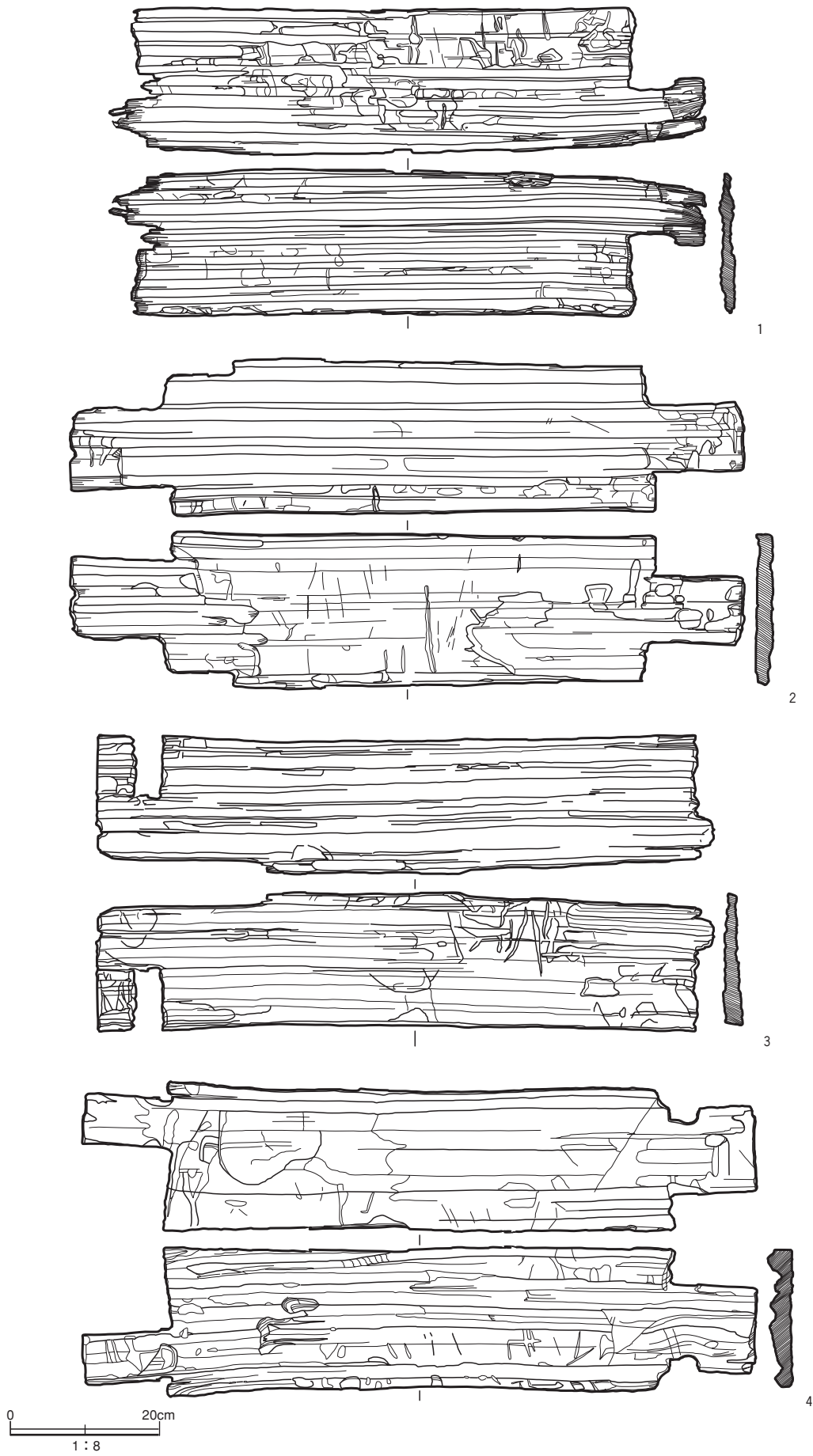
第224図 S E 479 出土木製品(4)



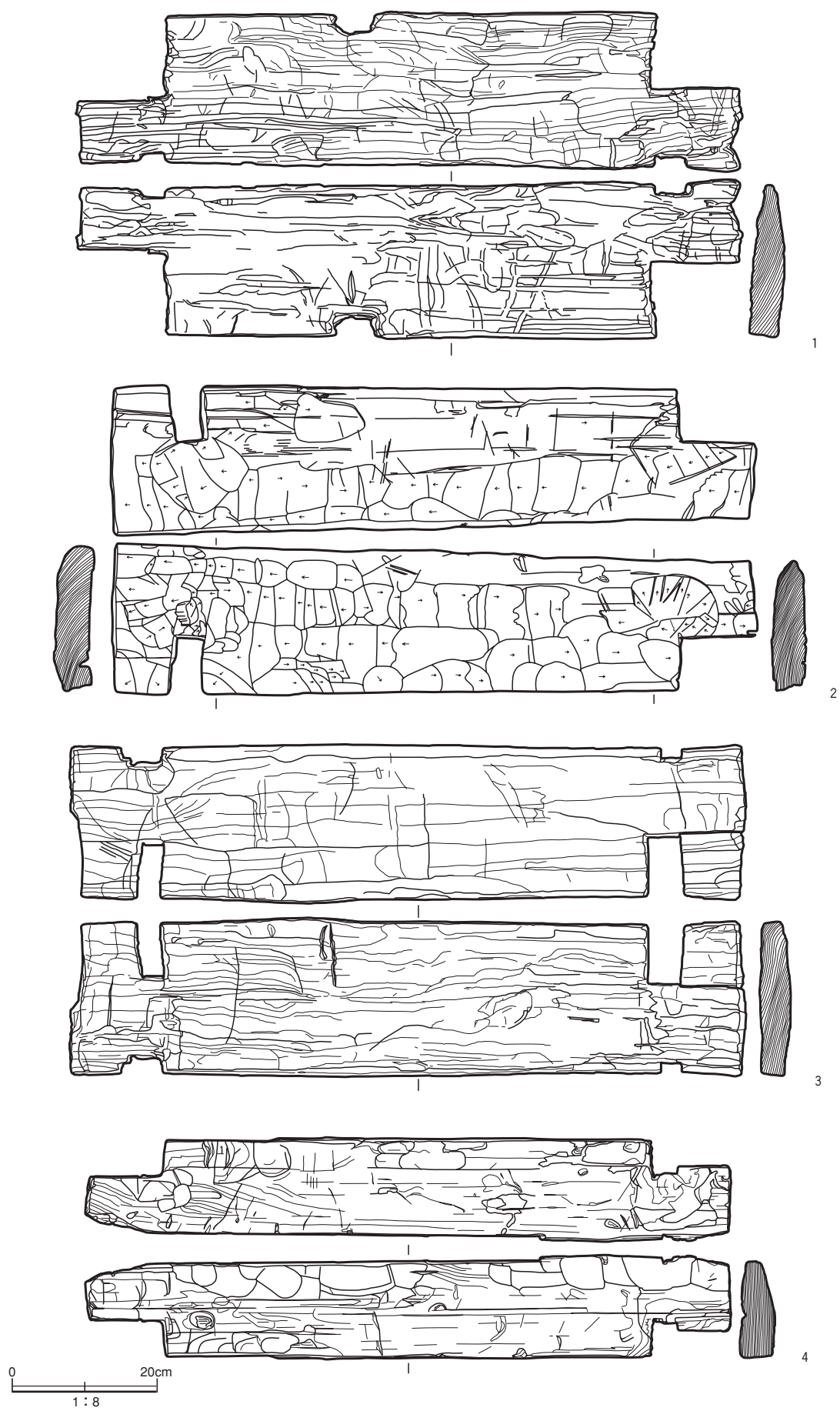
第 225 図 S E 479 出土木製品 (5)



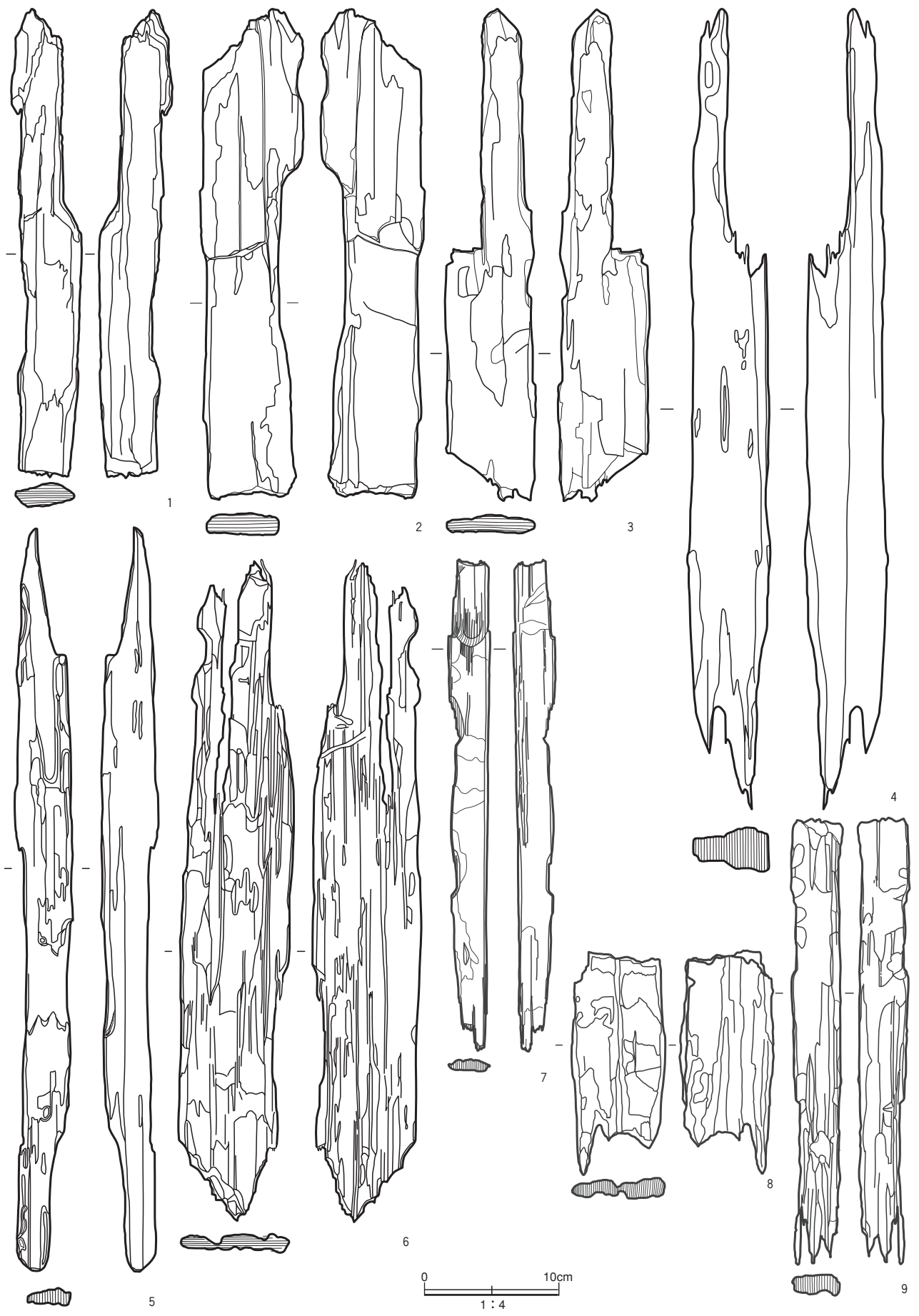
第 226 図 S E 515 出土木製品 (1)



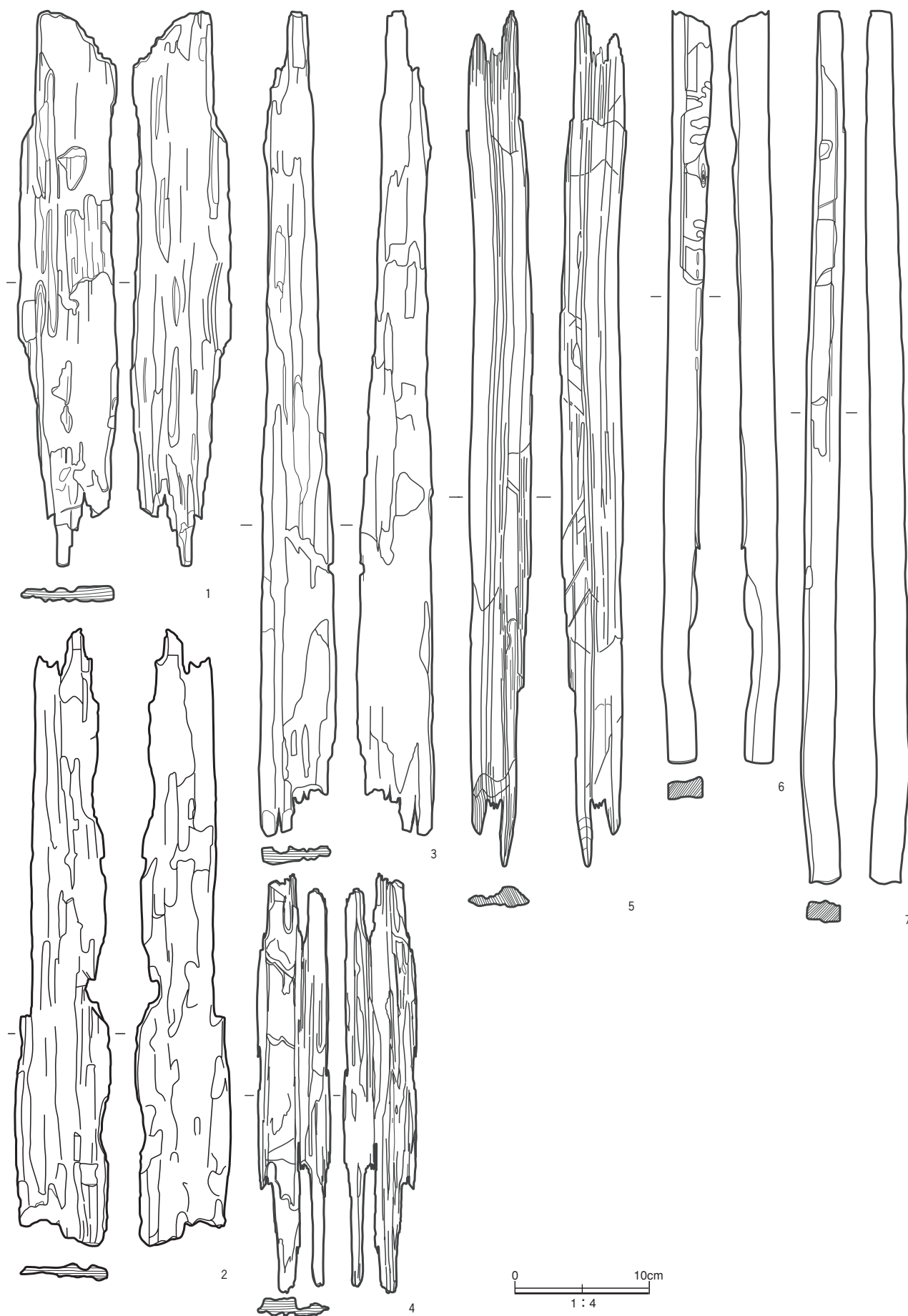
第 227 図 S E 515 出土木製品 (2)



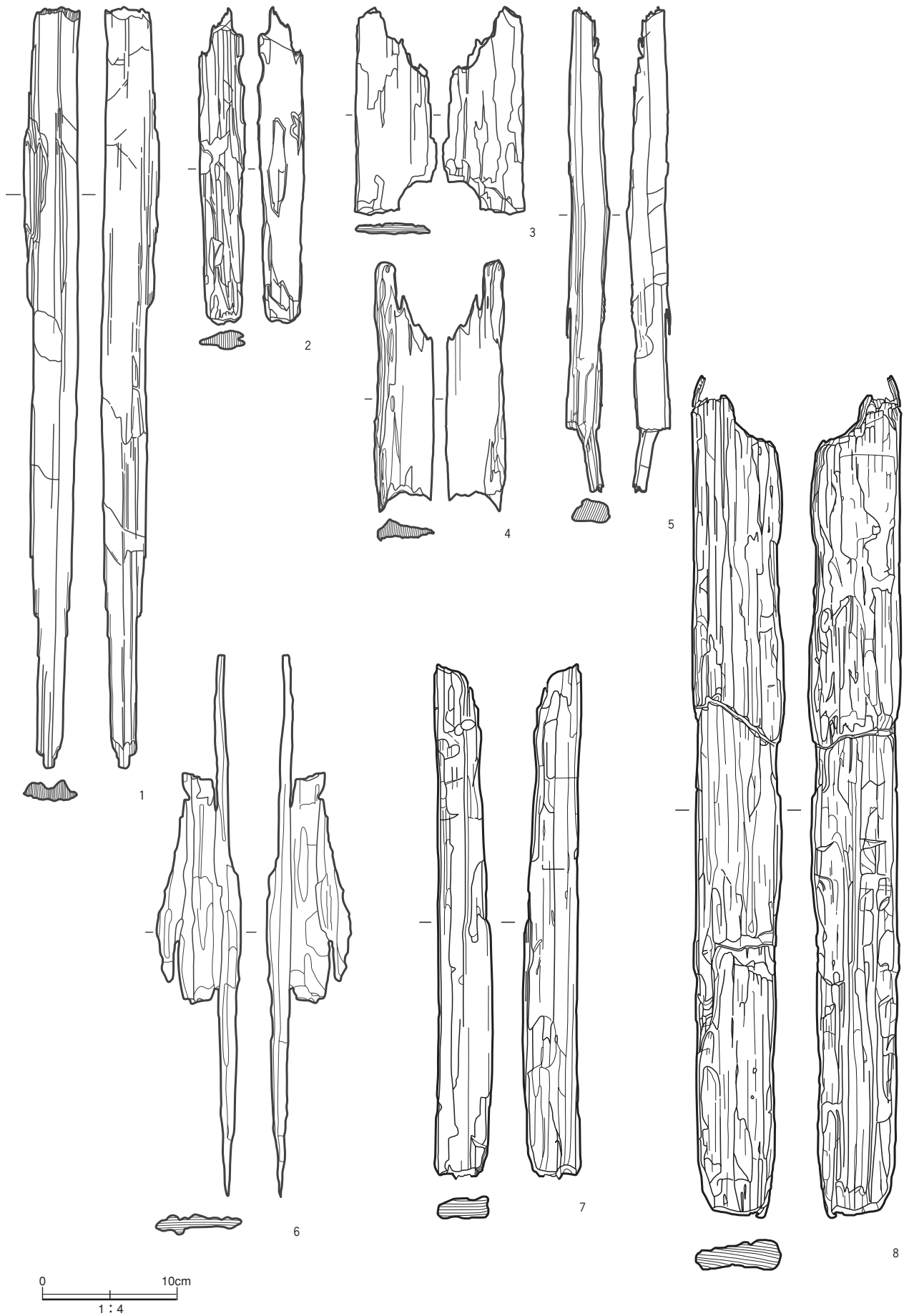
第 228 図 S E 515 出土木製品 (3)



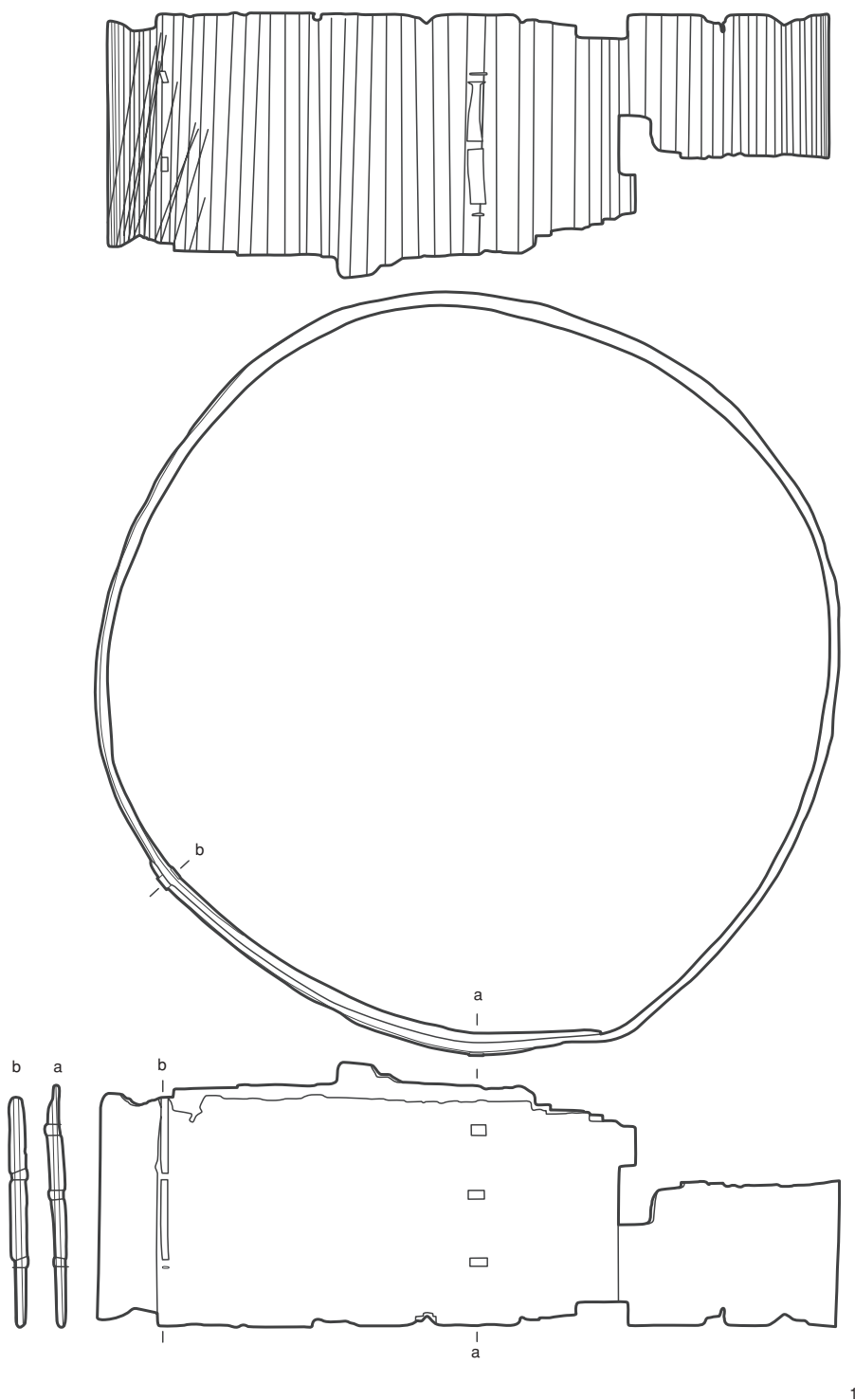
第 229 図 S E 515 出土木製品 (4)



第230図 S E 515 出土木製品 (5)

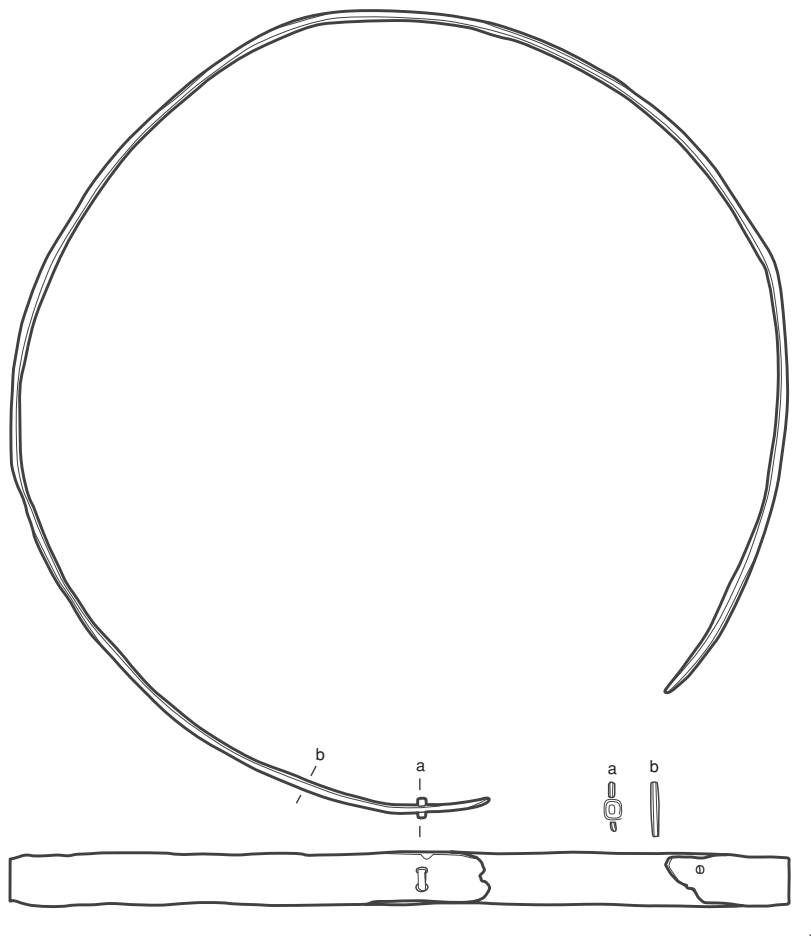


第 231 図 S E 515 出土木製品 (6)

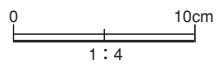


0 10cm
1 : 4

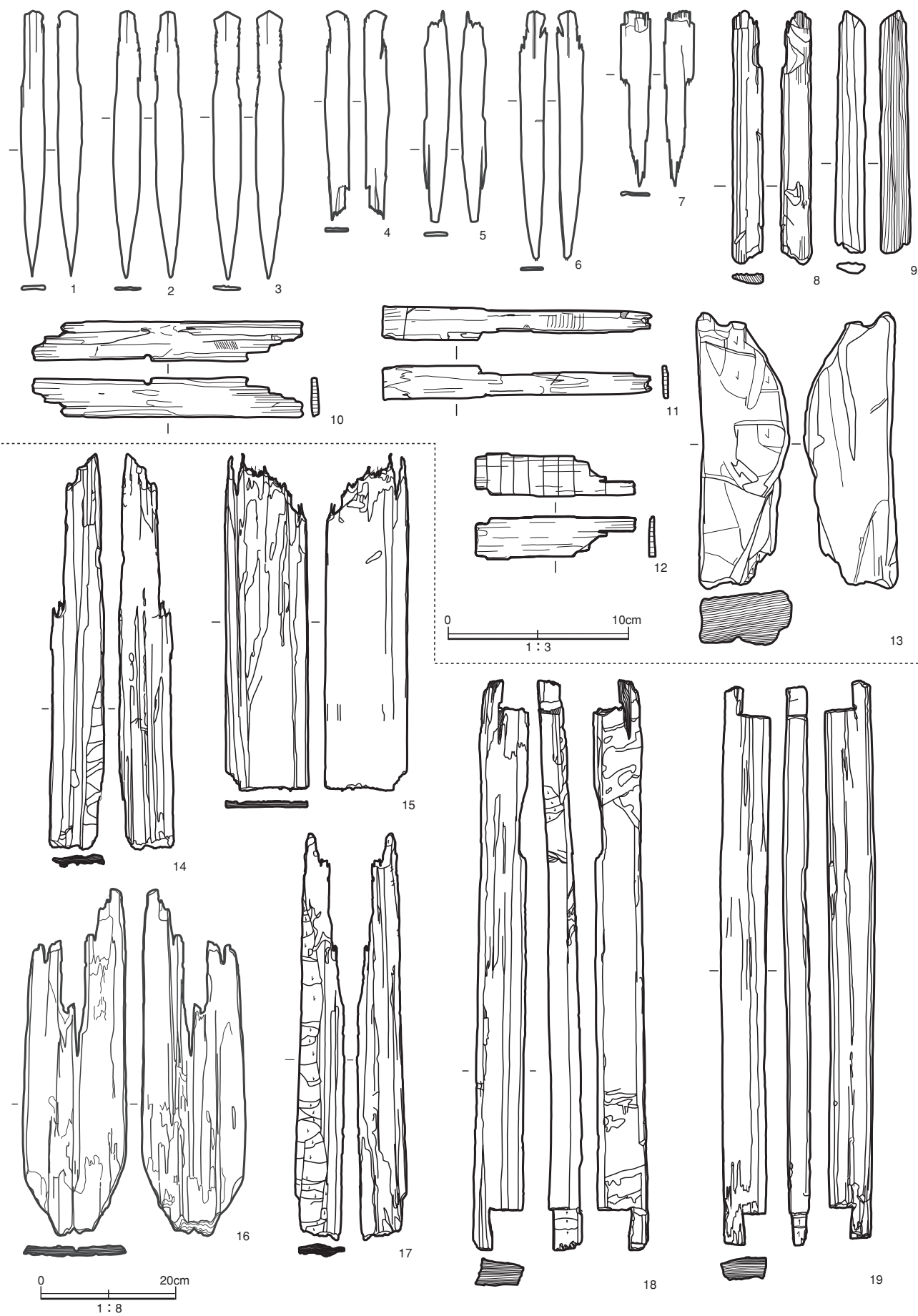
第 232 図 S E 616 出土木製品 (1)



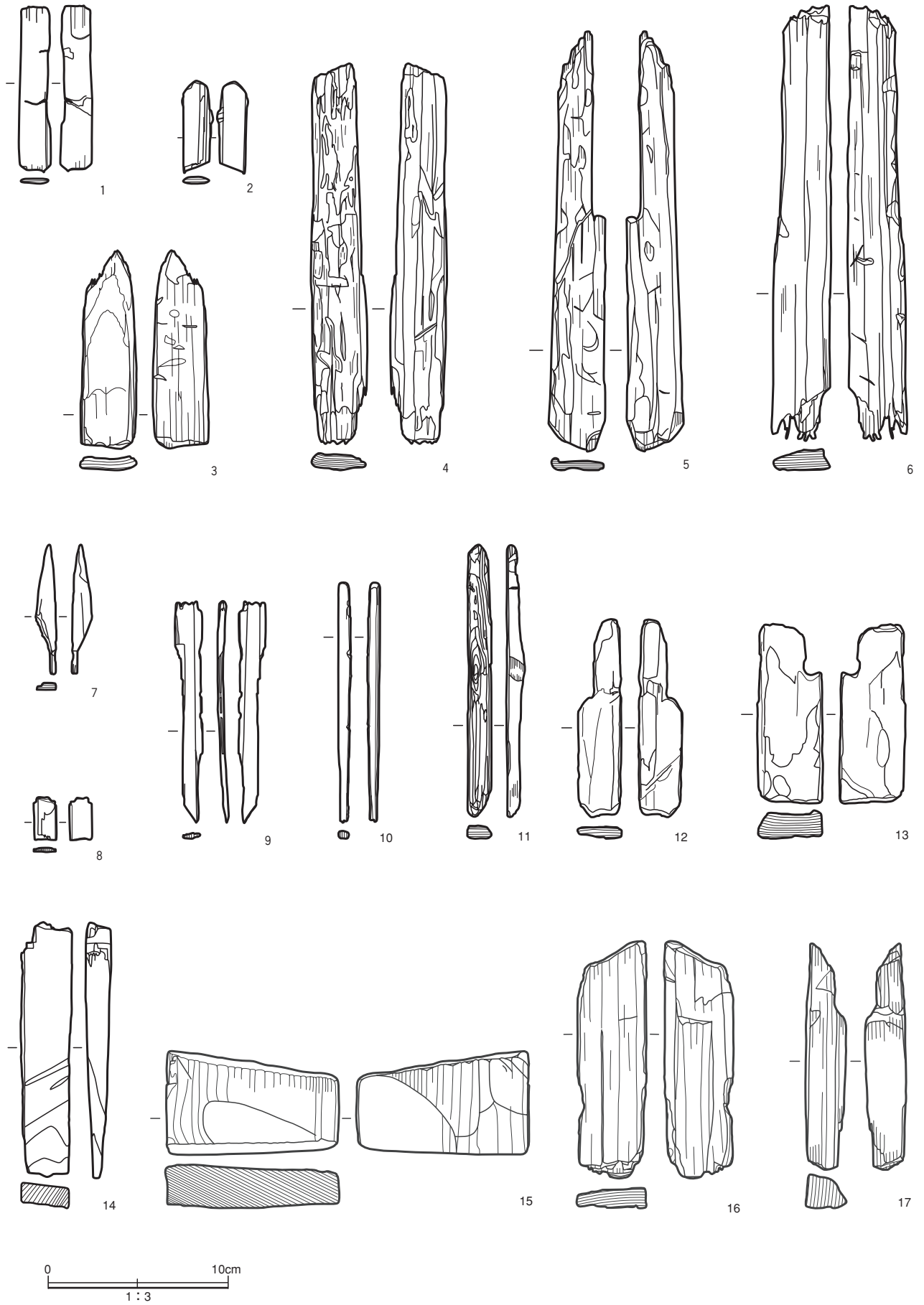
1



第 233 図 S E 616 出土木製品 (2)



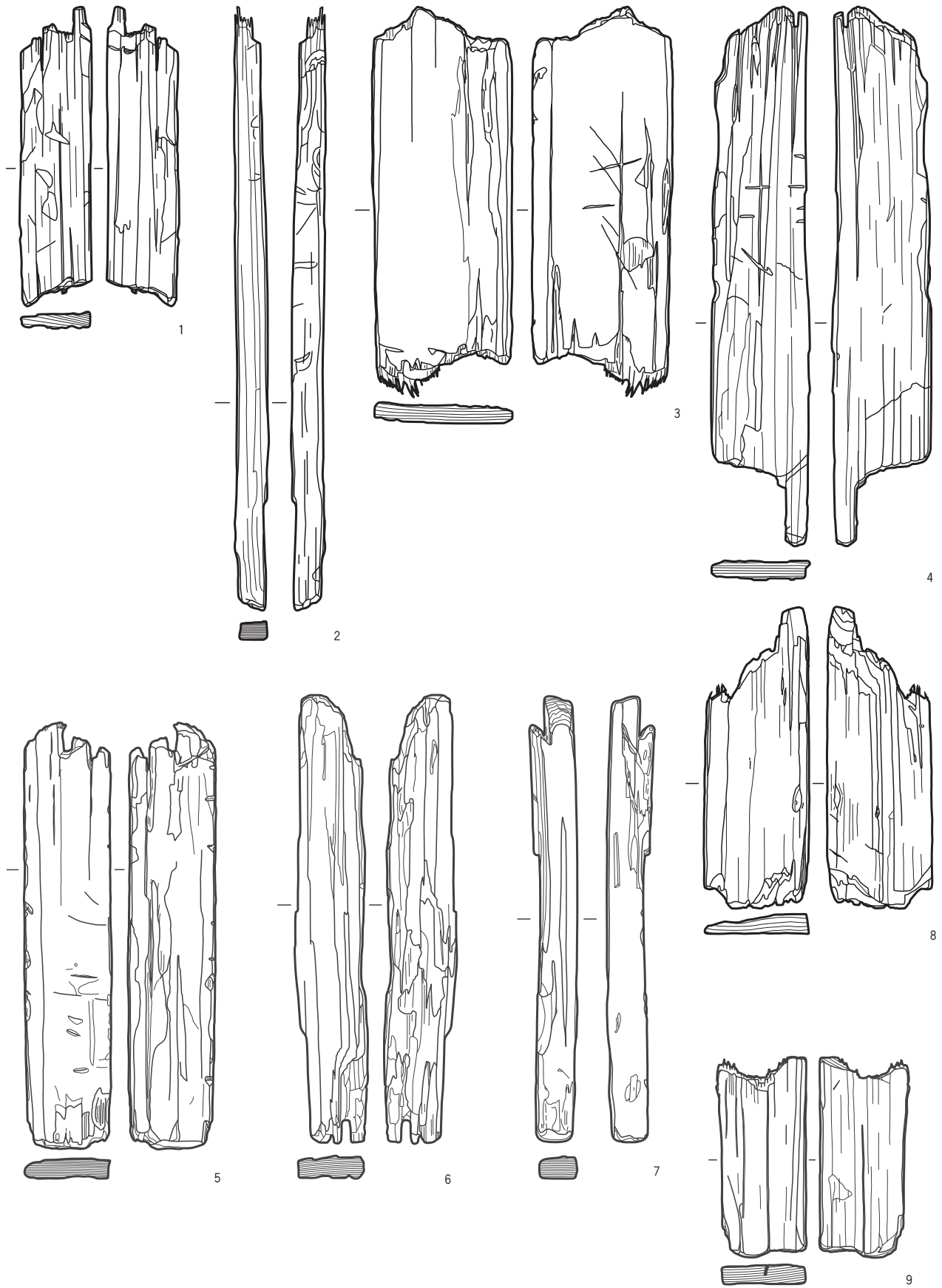
第 234 図 S E 1132 出土木製品



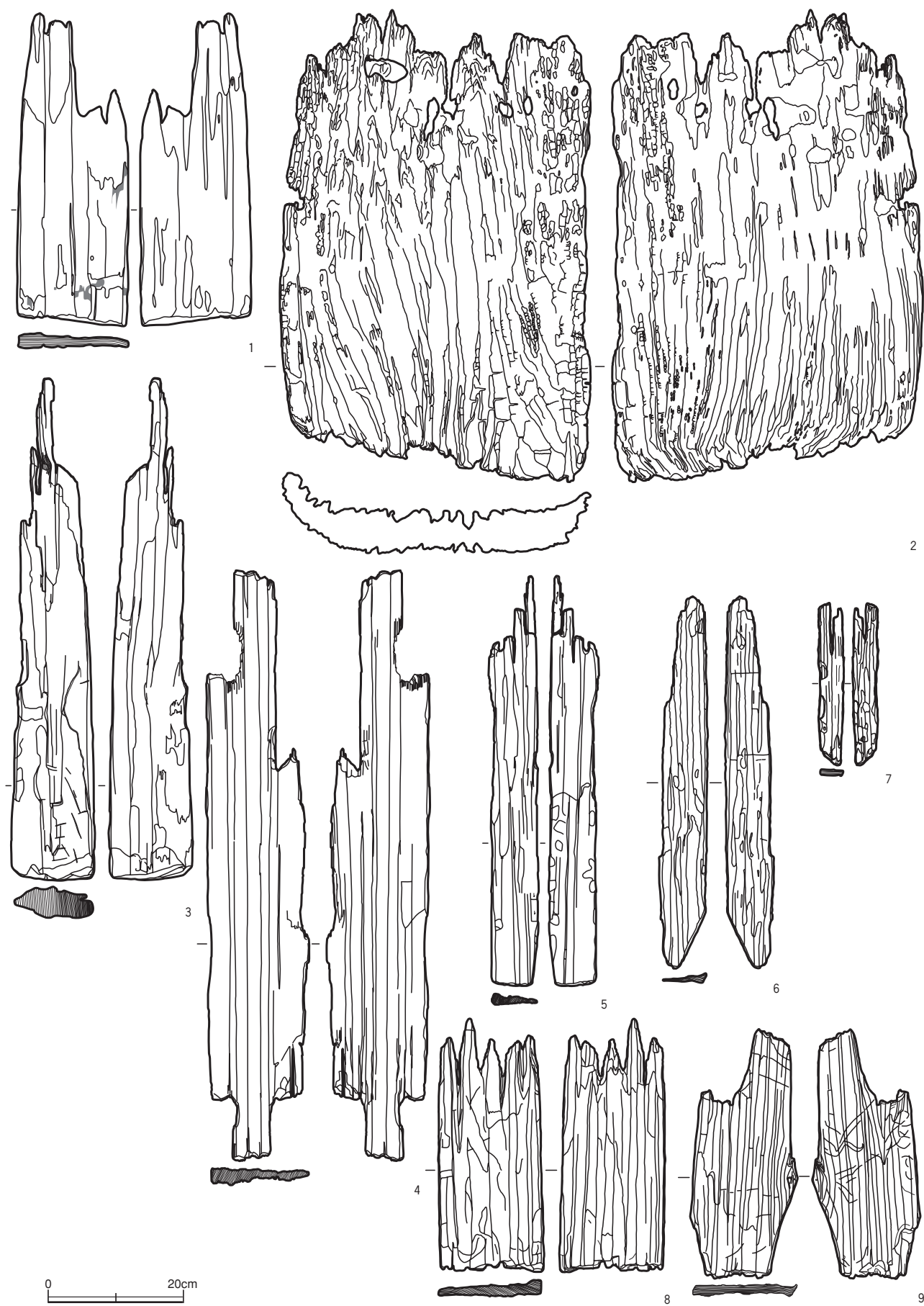
第 235 図 S E 1196 出土木製品 (1)



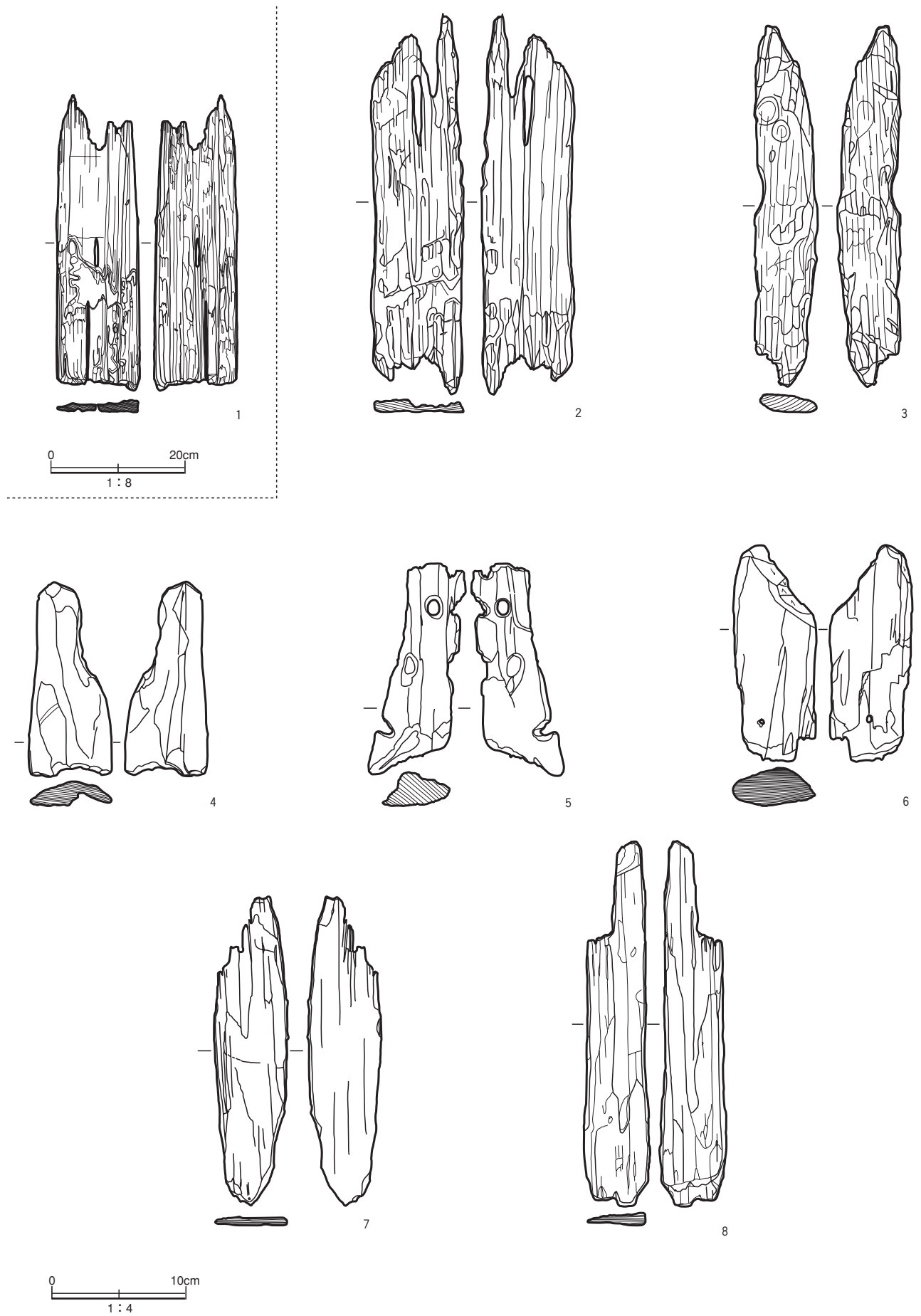
第 236 図 S E 1196 出土木製品 (2)



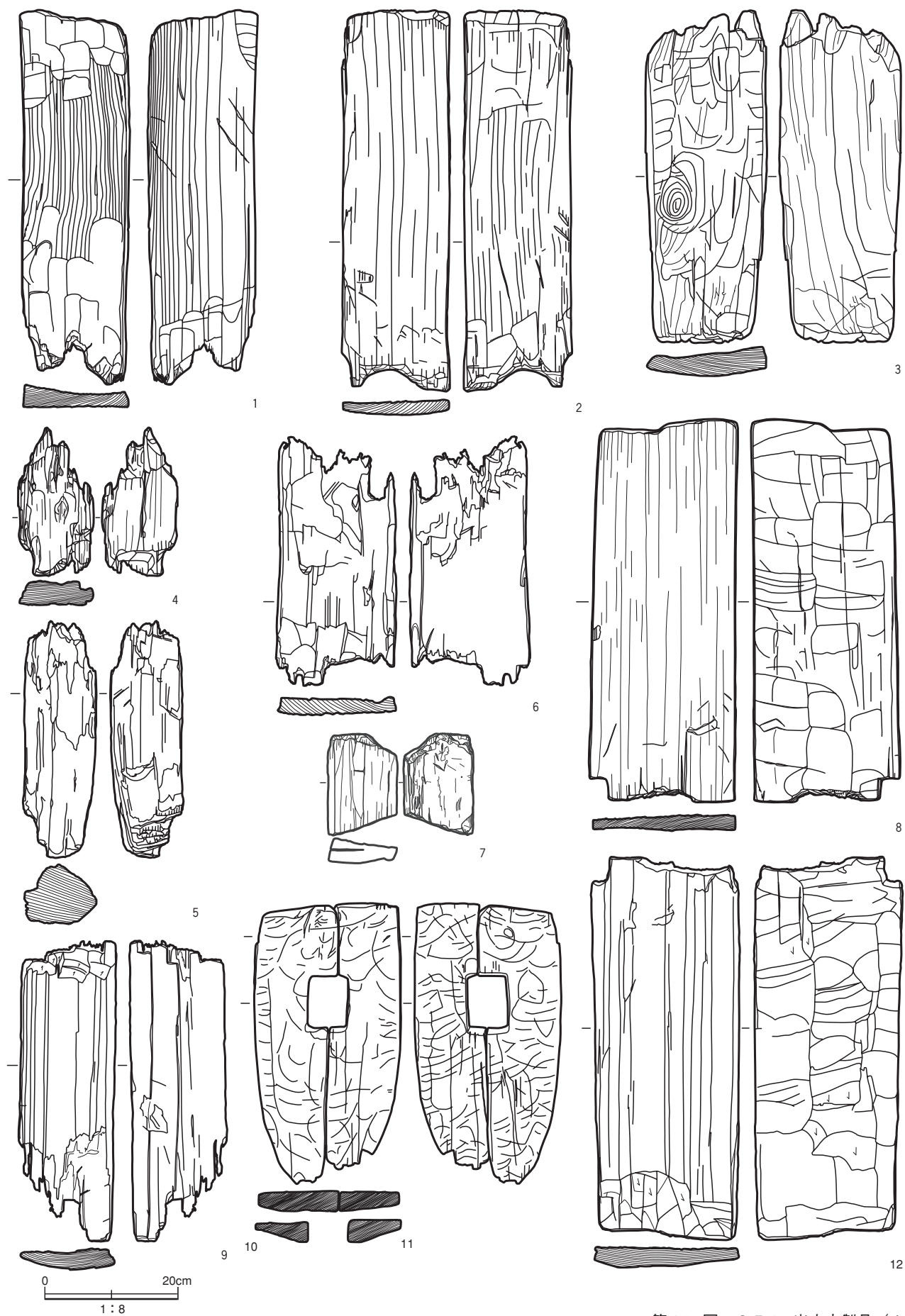
第 237 図 S E 1196 出土木製品 (3)



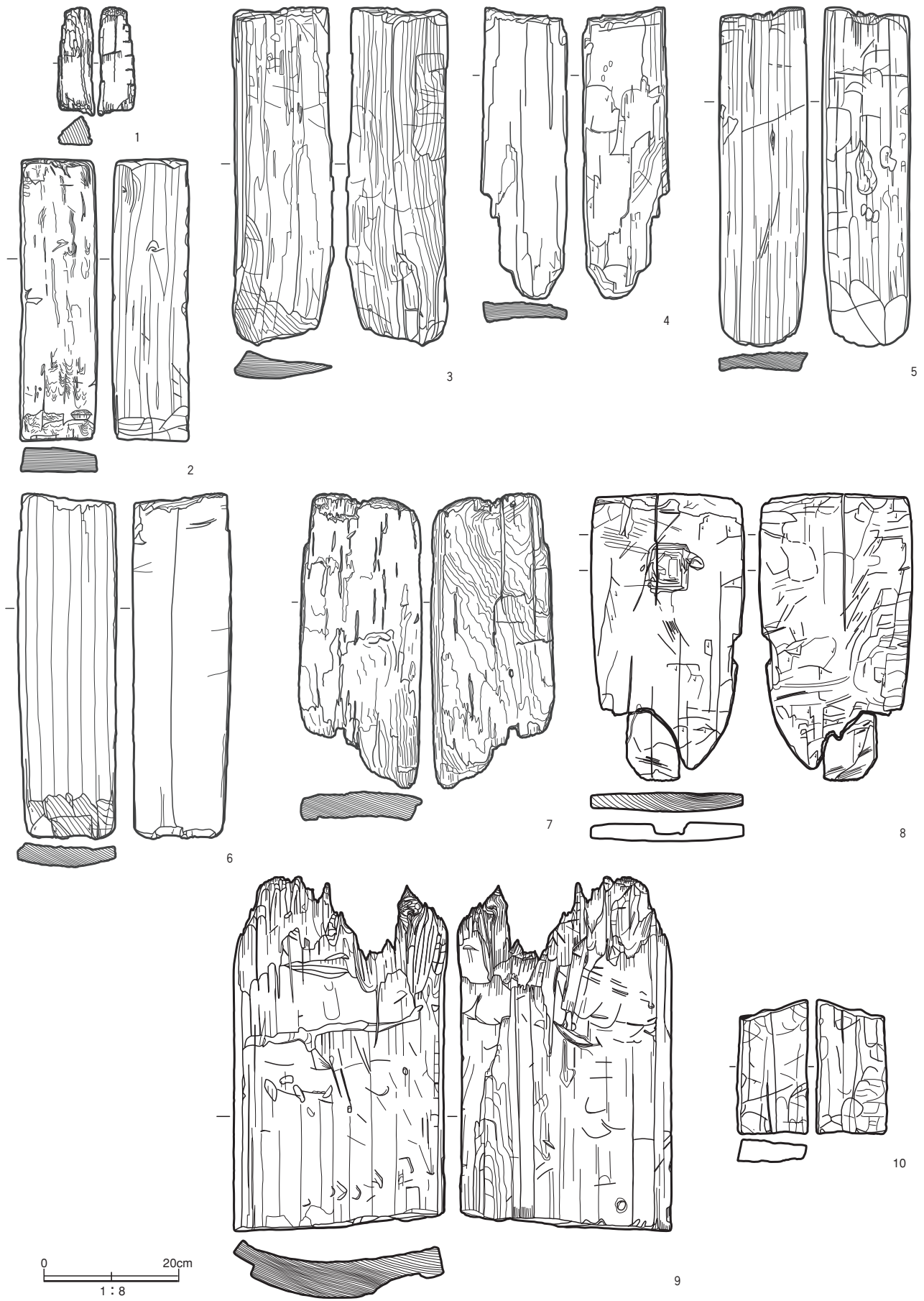
第238図 S E 592 出土木製品 (1)



第 239 図 S E 592 出土木製品 (2)



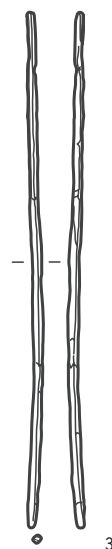
第 240 図 S E 96 出土木製品 (1)



第 241 図 S E 96 出土木製品 (2)



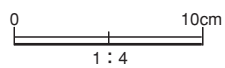
SK916



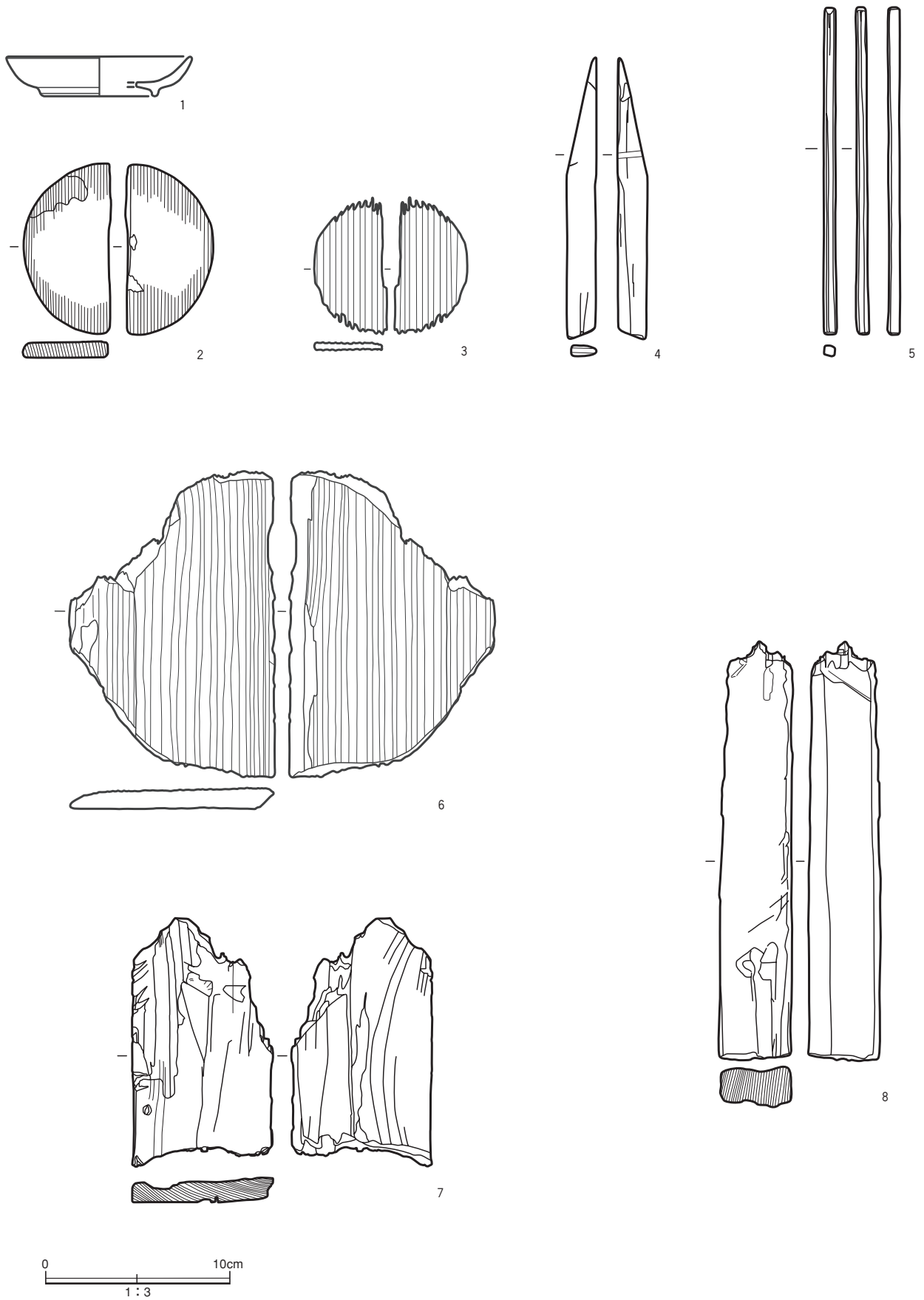
SE96



SK1008



第242図 S E 96・S K 916・1008 出土木製品



第243図 グリッド出土木製品

表 41 木製品計測表 (1)

図版 番号	写真 番号	分析 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録 番号	測定 年代	樹種	器種	長さ	幅 (mm)	厚さ	備考
202 図 1	194-1	166	3	C	SG160	V-20	RW162		スギ	板材	444	229	20	
202 図 2		50	3	C	SP874	U-16		762AD-880AD	コナラ節	柱	232	102	50	379.2 同一個体
202 図 3		50	3	C	SP874	U-16		762AD-880AD	コナラ節	柱	239	92	36	379.1 同一個体
203 図 1		49	3	C	SP863	V-17		326AD-441AD	クリ	柱	540	129	95	
203 図 2	194-2	81	4	F	SD119	U-21	RW113		クリ	板列部材	362	65	31	末端 V 字状
203 図 3	194-3	81	4	F	SD119	U-21	RW113		クリ	板列部材	405	26	35	末端 V 字状
203 図 4		22	4	F	SD119	U-21	RW113	380AD-540AD	クリ	板列部材	302	37	17	
203 図 5	194-4	74	4	F	SD119	U-21	RW77		スギ	板列部材	214	169	18	末端 V 字状
203 図 6	194-5	80	4	F	SD119	U-21	RW112		スギ	板列部材	146	127	17	末端 V 字状
204 図 1	194-6	79	4	F	SD119	U-21	RW111		スギ	板列部材	436	192	20	末端 V 字状
204 図 2	194-7	78	4	F	SD119	U-21	RW81		スギ	板列部材	323	152	21	末端 V 字状
204 図 3	194-8	76	4	F	SD119	U-21	RW79		スギ	板列部材	275	114	15	末端 V 字状
205 図 1	194-9	75	4	F	SD119	U-21	RW78		スギ	板列部材	238	194	20	末端 V 字状
205 図 2	194-10	77	4	F	SD119	U-21	RW80		スギ	板列部材	295	135	20	末端 V 字状
205 図 3	194-11	82	4	F	SD119	U-21	RW114		スギ	板列部材	163	44	12	
206 図 1	194-12	83	4	F	SD119	U-21	RW115		スギ	板列部材	225	133	20	末端 V 字状
206 図 2		84	4	F	SD119	U-21	RW116		クリ	板列部材	584	146	43	
206 図 3	195-1	73	4	F	SD119	U-21	RW76		スギ	板列部材	234	161	21	末端 V 字状
207 図 1	195-2	227	3	D	SG1	W-AC-21*23			ブナ属	漆器椀	口径 底径 器高		50	[53] 全面黒漆塗
207 図 2	195-4	228	3	D	SG1	W-AC-21*23			ミズキ属	コマ	高さ 直径		66	66
207 図 3	195-3	182	3	D	SG1	AA-23			スギ	板材	114	24	7	木札状 穿孔 1 箇所
207 図 4	195-5	183	3	D	SG1	W-22	A		クリ	加工木	462	55	47	溝が切られた角材
207 図 5	195-7	68	3	C	SG1048	W-18	RW157		イヌガヤ	加工木	470	14	12	棒状 一部炭化
207 図 6	195-6		3	C	SG1048	W-20	B			加工木	97	7	6	
207 図 7	195-8		3	C	SG1048	V-20	C			加工木	142	13	4	斎串片? 末端切出状
207 図 8	195-9		3	C	SG1048	V-20	D			加工木	117	19	9	末端切出状
207 図 9	195-10		3	C	SG1048	V-20	E			加工木	81	10	4	斎串片? 末端切出状
207 図 10	195-11		3	C	SG1048	V-20	F			加工木	153	14	10	
207 図 11	195-12		3	C	SG1048	V-20	G			加工木	141	11	9	一部炭化
207 図 12	195-13		3	C	SG1048	W-20				加工木	118	10	4	
208 図 1		51	3	C	SP958	V-16		770AD-897AD	クリ	柱	250	119	59	380.2 同一個体
208 図 2		51	3	C	SP958	V-16		770AD-897AD	クリ	柱	223	79	59	380.1 同一個体
208 図 3		52	3	C	SP959	V-16		1299AD-1370AD	コナラ節	柱	292	110	76	
208 図 4	195-14	184	3	C	SD280	V-18	A		ツガ属	加工木	126	48	10	板状
209 図 1	195-15	63	3	C	SG771	H-10	RW26		ケヤキ	皿	口径 底径 器高		208	175 19
209 図 2	196-1	10	3	B	SG771	J-8	RW22	670AD-870AD		皿	(177)	(125)	15	
209 図 3	196-2		3	B	SG771	J-8	C			箸	56	5	4	
209 図 4	196-3		3	B	SG771	J-8	C			箸	54	4	4	
209 図 5	196-4		3	B	SG771	J-8	D			箸	131	4	4	
209 図 6	196-5		3	B	SG771	I-9	K			箸	90	6	4	
209 図 7	196-6		3	B	SG771	I-9	I			箸	186	7	4	
209 図 8	196-7		4	F	SG771	H-10	b			箸	98	7	6	
209 図 9	196-8		2	T5	SG771	J.K-7				箸	89	7	6	
209 図 10	196-9		4	F	SG771	H-10	a			箸	72	8	4	一部炭化
209 図 11	196-10		3		SG771	G-K-7-12	C			加工木	71	21	10	末端 V 字状
209 図 12	196-11		3		SG771	G-K-7-12	D			箸	160	6	6	
209 図 13			3	C	SG771	I-9	E			箸	127	10	10	
209 図 14	196-12	240	4	F	SG771	H-10#			スギ	箸	133	6	6	
209 図 15	196-13	241	4	F	SG771	G#-10#	a		スギ	箸	176	6	7	
209 図 16	196-14	244	4	F	SG771	G#-10	d		スギ	箸	194	7	7	
209 図 17	196-15		3	C	SG771	I-9	J			加工木	138	7	2	薄板状
209 図 18	196-16		3		SG771	G-K-7-12	B			加工木	115	16	6	刻み 2 箇所
209 図 19	196-17	243	4	F	SG771	G#-10#			スギ	加工木	166	25	13	

表 42 木製品計測表 (2)

図版 番号	写真 番号	分析 番号	調査 次数	調査区	出土遺構	グリッド	登録 番号	測定 年代	樹種	器種	高さ	直径 (mm)	長さ 幅 厚さ	備考
210 図 1	197-1	64	3	C	SG771	I-10	RW108		スギ	曲物	44	457	16	
												長さ	幅	厚さ
210 図 2	197-7		3	B	SG771	I-9	L			曲物片	30	52	3	
												直径	厚さ	
210 図 3	197-2		3	C	SG771	HL-10	A			曲物底		(170)	9	
											口径	底径	器高	
211 図 1	197-3		3	A	SG833	C-4	RP37直下			皿		(192)	[9]	
211 図 2	197-4	72	4	E	SG833	D-2#			ケヤキ	皿	(220)	(176)	18	
211 図 3	197-5		3	A	SG833	B-D-3'5	D			皿		(106)	[14]	
											長さ	幅	厚さ	
211 図 4	197-6		3		SG833	B-F-3'5	BH			皿	77	59	5	
211 図 5	197-8	12	3	B	SG833	F-4	F	605AD-670AD		皿	143	45	9	
211 図 6	197-9	67	3	A	SG833	B-D-3.4	BL		アサダ	篋状木器	249	84	19	
212 図 1	198-1	235	4	E	SG833	D-2#	c		スギ	箸	232	5	4	
212 図 2	198-2	238	4	E	SG833	D-2#3	f		スギ	箸	281	5	7	
212 図 3	198-3		4	E	SG833	D-3	g			箸	121	6	5	
212 図 4	198-4		4	E	SG833	D-3	h			箸	84	6	6	
212 図 5			4	E	SG833	D-3	i			箸	104	5	4	
212 図 6	198-5		3		SG833	B-F-3'5	J 1			箸	201	7	5	
212 図 7	198-6		3	B	SG833	E-F-3.4	J 2			箸	235	6	4	
212 図 8	198-7		3		SG833	B-F-3'5	L			箸	220	7	5	
212 図 9	198-8		3		SG833	B-F-3'5	M 1			箸	185	5	4	
212 図 10	198-9		3		SG833	B-F-3'5	M 2			箸	188	7	7	
212 図 11			3		SG833	B-F-3'5	N			箸	99	6	4	
212 図 12	198-10		3		SG833	B-F-3'5	N			箸	85	4	4	
212 図 13	198-11		4	E	SG833	E-3 南東				箸	123	8	5	一部炭化
212 図 14	198-12		3		SG833	B-F-3'5	O			箸	18	1	1	完形 平串状
212 図 15	198-13		3	B	SG833	E-F-3.4	R			箸	113	7	5	
212 図 16	198-14		3	A	SG833	B-D-3'5	AH			箸	115	9	8	
212 図 17	198-15		3		SG833	B-F-3'5	AO			箸	322	7	6	
212 図 18	198-16		3	B	SG833	E-F-3.4	AQ			箸	120	8	6	
212 図 19	198-17		3		SG833	B-F-3'5	AR			箸	133	8	6	
212 図 20	198-18		3		SG833	B-F-3'5	AW			箸	258	10	8	
212 図 21	198-19		3	A	SG833	C-4	AZ			箸	73	5	5	
212 図 22	198-20		3	A	SG833	C-4	BA			箸	71	6	5	
212 図 23	198-21		3	A	SG833	C-4	BB			箸	69	5	4	
213 図 1	198-24	230	4	E	SG833	C#-3#			スギ	加工木	230	17	16	丸棒状
213 図 2	198-22		4	E	SG833	D-3	a			加工木	221	11	8	角棒状
213 図 3	198-23	65	3	A	SG833	B-D-3.4	RW76		スギ	斎串	247	20	4	
213 図 4	198-25	70	4	B	SG833	E-3	RW7		スギ	斎串	176	40	4	
213 図 5	198-26		3		SG833	B-F-3'5	T			加工木	154	10	4	平串状
213 図 6	198-27		3		SG833	B-F-3'5	BJ			加工木	180	15	5	斎串片? 末端 V 字状
213 図 7	199-1		3	A	SG833	B-D-3'5				加工木	157	92	25	板状
213 図 8	199-2		3	A	SG833	B-D-3'5	W			加工木	119	18	15	丸棒状
213 図 9	199-3	236	4	E	SG833	D-2#	d		スギ	加工木	145	7	4	末端切出状
213 図 10	199-4		3		SG833	B-F-3'5	P			加工木	158	11	4	完形 平串状
213 図 11	199-5		3		SG833	B-F-3'5	Q			加工木	115	8	6	串状
213 図 12	199-6		3		SG833	B-F-3'5	S			加工木	127	10	6	平串状
213 図 13	199-7		3		SG833	B-F-3'5	U			加工木	58	19	6	薄板状
213 図 14	199-8		3		SG833	B-F-3'5	V			加工木	72	18	2	薄板状
213 図 15	199-9		3		SG833	B-F-3'5	Z			加工木	170	10	10	角棒状
213 図 16	197-10		3		SG833	B-F-3'5	AA			加工木	165	10	6	棒状
213 図 17	199-11		3		SG833	B-F-3'5	AB			加工木	180	14	13	角棒状
213 図 18	199-12		3		SG833	B-F-3'5	AC			加工木	122	17	8	薄板状
213 図 19	199-13		3	A	SG833	B-D-3'5	AD			加工木	151	9	5	平串状
213 図 20	199-14		3		SG833	B-F-3'5	AG			加工木	107	12	6	角棒状
213 図 21	199-15		3		SG833	B-F-3'5	AF			加工木	95	8	6	角棒状
213 図 22	199-16		3	A	SG833	B-D-3'5	BK			加工木	121	9	5	一部炭化

表 43 木製品計測表 (3)

図版 番号	写真 番号	分析 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録 番号	測定 年代	樹種	器種	長さ	幅 (mm)	厚さ	備考
214 図 1	199-17	187	3	A	SG833	B-D-3.4	A		スギ	板材	361	43	12	
214 図 2	199-18	188	3	A	SG833	B-D-3.4	B		スギ	板材	389	52	12	
214 図 3	199-19		3		SG833	B-F-3.5	E			加工木	388	13	10	角棒状
214 図 4	199-20	189	3	A	SG833	B-D-3.4	G		スギ	加工木	131	35	13	板状
214 図 5	199-21	190	3	A	SG833	B-D-3.4	I		アスナロ属	加工木	317	27	16	角棒状
214 図 6	199-22		3	A	SG833	B-D-3.5	X			加工木	259	11	3	平串状
214 図 7	199-23		3		SG833	B-F-3.5	Y			加工木	293	9	6	平串状
214 図 8	199-24		3		SG833	B-F-3.5	AE			加工木	212	12	6	平角棒状
214 図 9	200-1		3		SG833	B-F-3.5	H			加工木	254	21	7	薄板状 穿孔 1 箇所
214 図 10		69	4	F	SG833	D#-2#	RW2		スギ	加工木	248	42	4	薄板状
214 図 11	200-2		3		SG833	B-F-3.5	AV			加工木	262	13	12	丸棒状
214 図 12	200-3	237	4	E	SG833	D-2#.3	a		スギ	加工木	254	43	12	板材片?
214 図 13	200-4	234	4	E	SG833	D-2#	a		スギ	加工木	330	15	8	棒状
214 図 14	200-5	239	4	E	SG833	D-3	l		スギ	加工木	303	11	11	
214 図 15	200-6	233	4	E	SG833	D-3			スギ	加工木	391	23	10	細板状 切込
214 図 16			3	A	SG833	B-D-3.5				加工木	395	40	13	板状 切込 3 箇所
214 図 17	200-7	231	4	E	SG833	C#-3#			クワ属?	加工木	229	44	8	薄板状
215 図 1	200-8		3		SG833	B-F-3.5	AJ			板材	387	83	14	
215 図 2	200-9		3		SG833	B-F-3.5	AK			板材	434	67	14	
215 図 3	200-10		3		SG833	B-F-3.5	AI			板材	510	41	12	一部炭化
215 図 4	200-11	42.110	4	E	SG833	D-3	RW10	767AD-895AD	トネリコ属	角材	1,190	105	116	
215 図 5		108	3	A	SG833	B-D-3.4			スギ	板材	753	121	21	
215 図 6		71	4	E	SG833	D-3	RW8		イヌガヤ	加工木	1,560	31	22	
											高さ	直径	厚さ	
216 図 1	200-12		3		SG833	B-F-3.5	AX			曲物底		166	6	
216 図 2	200-13		3		SG833	B-F-3.5	AP			曲物底		(156)	9	
216 図 3	201-1	66	3	A	SG833	C-3	RW40		スギ	曲物	47	181	5	
216 図 4	201-2		3		SG833	B-F-3.5	BF			曲物底		(194)	10	側面穿孔 2 箇所
216 図 5	201-3	167	4	E	SG833	D-3	RW6		キリ	曲物底		135	16	
216 図 6	201-4		3	A	SG833	B-D-3.5				曲物底		161	7	
											高さ	幅	厚さ	
216 図 7	201-5		3		SG833	B-F-3.5	BI			曲物箆片	27	187	5	
216 図 8			3	A	SG833	C-4	AY			曲物片	34	109	4	穿孔 1 箇所
216 図 9	201-6	191.192	3	A	SG833	C-4	BD.BE		スギ	曲物箆片	26	275	4	穿孔 1 箇所
											長さ	幅	厚さ	
217 図 1	201-7		3	A 拡	SK1141	B-7	G			加工木	126	18	5	薄板状
217 図 2	201-8		3	A 拡	SK1141	B-7	F			加工木	130	19	5	薄板状
217 図 3	201-9		3	A 拡	SK1141	B-7	B			加工木	113	19	17	丸棒状
											高さ	幅	厚さ	
217 図 4	199-10		3	A 拡	SK1141	B-7	D			曲物片	25	54	3	
											長さ	幅	厚さ	
217 図 5	201-11		3	A 拡	SK1141	B-7	E			加工木	332	15	12	縦両
217 図 6	201-12		3	A 拡	SK1141	B-7	A			加工木	377	16	12	角棒状
217 図 7	201-13	194	3	A 拡	SK1179	C-8			スギ	加工木	145	54	11	板状
											口径	底径	器高	
217 図 8	201-14		3	B	SD835	E-F-3.10				皿	(68)	(40)	9	一部炭化
											長さ	幅	厚さ	
218 図 1	201-15		3	C.T23	SG1045	R-15				加工木	263	15	8	一部炭化
218 図 2	202-3		3	C	SX1133	Q.R-17	B			加工木	98	18	5	末端切出状
											高さ	直径		
218 図 3	202-1		3	C	SD434	S.T-14.20	A			こけし頭部	44	48		
218 図 4	202-2	185	3	C	SD434	T-18	B		カエデ属	こけし胴部	90	44		
											長さ	幅	厚さ	
218 図 5			3	C	SD757	M-10				箸	113	6	5	
218 図 6			3	C	SD757	M-10				箸	143	7	4	
218 図 7	202-4		3	C	SD757	M-10	K3			箸	83	5	4	
218 図 8			3	C	SD757	M-10				箸	90	6	5	
218 図 9			3	C	SD757	M-10				箸	258	9	7	

表 44 木製品計測表 (4)

図版 番号	写真 番号	分析 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録 番号	測定 年代	樹種	器種	長さ	幅 (mm)	厚さ	備考
218 図 10	202-5		4	F	SD589	M-14	d			加工木	160	86	5	薄板状
218 図 11	202-6	245	4	F	SD589	L#-14	a		スギ	加工木	220	80	7	薄板状
218 図 12	202-7	246	4	F	SD589	L#-14	c		スギ	加工木	210	64	5	薄板状
218 図 13	202-9		4	F	SD589	M-14	b			加工木	160	39	4	薄板状
218 図 14	202-8		4	F	SD589	M-14	e			加工木	123	36	4	薄板状
218 図 15	202-10	247	4	F	SD589	L#-14	f		スギ	加工木	210	75	6	薄板状 穿孔 2 箇所
219 図 1		43	3	C	SP537	R-16		425AD-574AD	カエデ属	柱	246	147	135	
219 図 2	202-11	44	3	C	SP596	Q-12		684AD-870AD	クリ	柱	175	131	47	
219 図 3	202-12	45	3	C	SP598	P-12		687AD-874AD	クリ	柱	254	133	84	
220 図 1			3	C	SP637	O-12				板材片	243	34	12	
220 図 2		46	3	C	SP697	O-13		1495AD-1602AD	クリ	柱	240	136	109	
220 図 3	202-13	47	3	C	SP705	N-13		1489AD-1604AD	ヤナギ属	柱	170	146	69	
220 図 4		48	3	C	SP705	N-13		1472AD-1641AD	ヤナギ属	柱	143	203	75	
221 図 1	202-16	145	3	C	SE479	S-17	W1		スギ	井戸枠	506	71	33	
221 図 2	202-17	88	3	C	SE479	S-17	W2		スギ	井戸枠	985	90	42	切込 1 箇所
221 図 3	202-18	143	3	C	SE479	S-17	W3		スギ	井戸枠	973	83	23	切込 1 箇所
221 図 4	202-14	179	3	C	SE479	S-17	W2B		スギ	井戸枠	241	62	9	
221 図 5	202-15	180	3	C	SE479	S-17	W2B		スギ	井戸枠	166	64	8	
221 図 6	202-19	136	3	C	SE479	S-17	W4A		スギ	井戸枠	935	95	18	
221 図 7	202-20	137	3	C	SE479	S-17	W4B		スギ	井戸枠	830	31	14	
221 図 8	203-1	150	3	C	SE479	S-17	W5		スギ	井戸枠	916	94	16	
221 図 9	203-2	147	3	C	SE479	S-17	W6		スギ	井戸枠	550	71	16	
221 図 10	203-3	149	3	C	SE479	S-17	W7		スギ	井戸枠	874	91	19	切込 1 箇所
221 図 11	203-4	2.131	3	C	SE479	S-17	W8	670AD-780AD	スギ	井戸枠	871	85	18	
222 図 1	203-5	148	3	C	SE479	S-17	N10		スギ	井戸枠	1,081	71	28	
222 図 2	203-6	140	3	C	SE479	S-17	N11		スギ	井戸枠	666	87	19	
222 図 3	203-7	161	3	C	SE479	S-17	N12		スギ	井戸枠	638	89	16	切込 1 箇所
222 図 4	203-8	132	3	C	SE479	S-17	N13		スギ	井戸枠	814	128	25	臍穴 1 箇所
222 図 5	203-9	160	3	C	SE479	S-17	N14		スギ	井戸枠	824	73	17	
222 図 6	203-10	89	3	C	SE479	S-17	N27		スギ	井戸枠	1,264	84	23	
222 図 7	203-11	91	3	C	SE479	S-17	N28		スギ	井戸枠	840	163	25	臍穴 1 箇所
223 図 1	203-12	133	3	C	SE479	S-17	N29B		スギ	井戸枠	290	68	15	末端切出状
223 図 2	203-14	134	3	C	SE479	S-17	N29		スギ	井戸枠	895	150	16	
223 図 3	203-15	90	3	C	SE479	S-17	N30		スギ	井戸枠	1,211	201	17	
223 図 4	203-13	155	3	C	SE479	S-17	N31		スギ	井戸枠	504	154	20	
223 図 5	203-16	157	3	C	SE479	S-17	E16R		スギ	井戸枠	921	67	17	
223 図 6	203-17	135	3	C	SE479	S-17	E16B		スギ	井戸枠	1,131	75	27	
224 図 1	204-3	138	3	C	SE479	S-17	E16C		スギ	井戸枠	511	51	12	
224 図 2	204-1	139	3	C	SE479	S-17	E16L		スギ	井戸枠	538	57	13	
224 図 3	204-2		3	C	SE479	S-17	E16L		スギ	井戸枠	470	20	12	
224 図 4	204-4	142	3	C	SE479	S-17	E18B		スギ	井戸枠	248	94	21	
224 図 5	204-5	158	3	C	SE479	S-17	E16		スギ	井戸枠	880	96	17	
224 図 6	204-6	92	3	C	SE479	S-17	E17		スギ	井戸枠	1,020	169	20	臍穴 1 箇所
224 図 7	204-7	141	3	C	SE479	S-17	E18A		スギ	井戸枠	946	105	21	
224 図 8	204-8	87	3	C	SE479	S-17	E19		スギ	井戸枠	1,090	162	32	臍穴 1 箇所
225 図 1	204-9	93	3	C	SE479	S-17	S21		スギ	井戸枠	895	202	22	
225 図 2	204-10	156	3	C	SE479	S-17	S22		スギ	井戸枠	695	95	15	臍穴 1 箇所
225 図 3	204-11	152	3	C	SE479	S-17	S23		スギ	井戸枠	812	91	19	
225 図 4	204-12	153	3	C	SE479	S-17	S24		スギ	井戸枠	886	117	17	切込、臍穴各 1 箇所
225 図 5	204-15	154	3	C	SE479	S-17	N9		スギ	井戸枠補強材	544	76	30	両端に臍穴
225 図 6	204-16	159	3	C	SE479	S-17	E15		スギ	井戸枠補強材	531	51	36	
225 図 7	204-17	151	3	C	SE479	S-17	S20		スギ	井戸枠補強材	526	67	45	両端に臍穴
225 図 8	204-13	144	3	C	SE479	S-17	S25		スギ	井戸枠	916	76	17	
225 図 9	204-14	146	3	C	SE479	S-17	S26		スギ	井戸枠	957	142	18	臍穴 1 箇所
											高さ	直径	厚さ	
226 図 1	205-1	60	3	C	SE515	T-15	RW50		スギ	曲物	136	409	12	井戸眼

表 45 木製品計測表 (5)

図版 番号	写真 番号	分析 番号	調査 回数	調査区	出土構	グリッド	登録 番号	測定 年代	樹種	器種	高さ (mm)	幅 (mm)	長さ	厚さ (mm)	備考	
226	図 2		170	3	C	SE515	T-15	F	スギ	曲物片	32	150		5	RW50 の一部分	
226	図 3	204-18	186	3	C	SE515	T-15		スギ	曲物片	32	235		6	穿孔 5箇所	
											長さ	幅	厚さ			
227	図 1	205-2	96	3	C	SE515	T-15	AB(No.1)S 上	スギ	井戸枠	795	195		19		
227	図 2	205-3	97	3	C	SE515	T-15	AC(No.2)W 上	スギ	井戸枠	900	206		20		
227	図 3	205-4	98	3	C	SE515	T-15	AD(No.3)N 上	スギ	井戸枠	825	180		24		
227	図 4	205-5	99	3	C	SE515	T-15	AE(No.4)E 上	スギ	井戸枠	900	199		32		
228	図 1	206-1	100	3	C	SE515	T-15	AF(No.5)S 下	スギ	井戸枠	915	215		44		
228	図 2	206-2	86	3	C	SE515	T-15	AA(No.6)W 下	スギ	井戸枠	889	205		48		
228	図 3	206-3	101	3	C	SE515	T-15	AG(No.7)N 下	スギ	井戸枠	929	218		42		
228	図 4	206-4	102	3	C	SE515	T-15	AH(No.8)E 下	スギ	井戸枠	888	140		46		
229	図 1	207-1	118	3	C	SE515	T-15	A	スギ	板材	346	45		17		
229	図 2	207-2	119	3	C	SE515	T-15	B	スギ	板材	368	75		17		
229	図 3	207-3	120	3	C	SE515	T-15	C	スギ	板材	368	66		13		
229	図 4	207-4	121	3	C	SE515	T-15	G	スギ	板材片	592	62		31		
229	図 5	207-5	122	3	C	SE515	T-15	H	スギ	板材片	550	43		12		
229	図 6	207-6	123	3	C	SE515	T-15	I	スギ	板材	491	81		12	末端 V 字状	
229	図 7	207-7	171	3	C	SE515	T-15	J	スギ	板材	364	31		8		
229	図 8	207-8	173	3	C	SE515	T-15	L	スギ	板材	165	69		14		
229	図 9		174	3	C	SE515	T-15	M	スギ	板材	331	39		16		
230	図 1	207-9	124	3	C	SE515	T-15	N	スギ	板材	412	73		12		
230	図 2	207-10	125	3	C	SE515	T-15	O	スギ	板材	457	70		10		
230	図 3	207-11	126	3	C	SE515	T-15	P	スギ	板材片	611	52		13		
230	図 4	207-12	175	3	C	SE515	T-15	Q	スギ	板材片	314	54		14		
230	図 5	207-13	127	3	C	SE515	T-15	R	スギ	板材片	634	46		15		
230	図 6	207-15	128	3	C	SE515	T-15	S	スギ	板材片	557	26		15		
230	図 7	207-14	129	3	C	SE515	T-15	T	スギ	板材片	647	25		17		
231	図 1	207-16	130	3	C	SE515	T-15	U	スギ	板材片	564	41		15		
231	図 2	208-2	177	3	C	SE515	T-15	V	スギ	板材片	235	34		14		
231	図 3	208-3	178	3	C	SE515	T-15	W	スギ	板材片	155	60		8		
231	図 4	208-4	224	3	C	SE515	T-15	X	スギ	板材片	187	44		13		
231	図 5	208-5	225	3	C	SE515	T-15	Y	スギ	板材片	359	28		16		
231	図 6	208-6	226	3	C	SE515	T-15	Z	スギ	板材片	401	63		9		
231	図 7		229	3	C	SE515	T-15	AI	スギ	板材片	380	39		14		
231	図 8		103	3	C	SE515	T-15	AJ	スギ	板材	622	67		21		
											高さ	直径	厚さ			
232	図 1	208-1	562	3	C	SE616	P-12	RW53	675AD-775AD	スギ	曲物	149	429		12	井戸眼
233	図 1			3	C	SE616	P-12	RW53			曲物箍	29	444		8	井戸眼
											長さ	幅	厚さ			
234	図 1	208-7	53	3	C	SE1132	R-18	RW69	アスナロ属	齋串	147	13		3		
234	図 2	208-8	54	3	C	SE1132	R-18	RW70	アスナロ属	齋串	147	15		1		
234	図 3	208-9	55	3	C	SE1132	R-18	RW71	スギ	齋串	148	15		3		
234	図 4	208-10	56	3	C	SE1132	R-18	RW72	スギ	齋串	115	13		2		
234	図 5	208-11	57	3	C	SE1132	R-18	RW73	スギ	齋串	117	14		2		
234	図 6	208-12	58	3	C	SE1132	R-18	RW74	スギ	齋串	138	15		1		
234	図 7	208-13	59	3	C	SE1132	R-18	RW75	スギ	齋串	97	16		2		
234	図 8	208-14		3	C	SE1132	R.S-18	A		加工木	140	17		6	一部炭化	
234	図 9	208-15		3	C	SE1132	R.S-18	B		加工木	134	17		6		
											高さ	幅	厚さ			
234	図 10			3	C	SE1132	R.S-18	F		曲物片	22	150		3	穿孔	
234	図 11			3	C	SE1132	R.S-18	F		曲物片	18	149		3		
234	図 12			3	C	SE1132	R.S-18	F		曲物片	22	89		3		
											長さ	幅	厚さ			
234	図 13	208-16	193	3	C	SE1132	R.S-18	C	トチノキ	加工木	152	48		28	厚板状	
234	図 14	208-17	112	3	C	SE1132	R.S-18	A	スギ	板材	586	79		14		
234	図 15	209-1	114	3	C	SE1132	R.S-18	C	スギ	板材	499	122		10		
234	図 16	209-2	115	3	C	SE1132	R.S-18	D	スギ	板材	513	154		15	末端 V 字状	
234	図 17	209-3	113	3	C	SE1132	R.S-18	B	スギ	板材	602	69		16		

表 46 木製品計測表(6)

図版 番号	写真 番号	分析 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録 番号	測定 年代	樹種	器種	長さ	幅 (mm)	厚さ	備考
234 図 18	209-4	116	3	C	SE1132	R.S-18	E		スギ	木組部材	843	74	40	
234 図 19	209-5	117	3	C	SE1132	R.S-18	F		スギ	木組部材	827	70	32	
235 図 1	209-6		3	C	SE1196	Q.R-17	C			加工木	93	18	3	斎串片?一部炭化
235 図 2	209-7		3	C	SE1196	Q.R-17	D			加工木	52	17	4	斎串片?一部炭化
235 図 3	209-8		3	C	SE1196	Q.R-17	O			加工木	117	33	8	削り屑?
235 図 4	209-9	195	3	C	SE1196	Q.R-17	F		スギ	加工木	223	33	10	板状
235 図 5	209-10	196	3	C	SE1196	Q.R-17	H		スギ	加工木	249	34	7	板状
235 図 6	209-11	198	3	C	SE1196	Q.R-17	J		スギ	加工木	258	35	12	板状
235 図 7	209-12		3	C	SE1196	Q.R-17	AA			加工木	71	11	4	薄板状破片
235 図 8	209-13		3	C	SE1196	Q.R-17	AB			加工木	24	13	2	削り屑?
235 図 9	209-14		3	C	SE1196	Q.R-17	AC			加工木	123	16	3	薄板状破片 一部炭化
235 図 10	209-15		3	C	SE1196	Q.R-17	AD			箸	133	7	4	
235 図 11	209-16		3	C	SE1196	Q.R-17	AE			加工木	150	13	7	細棒状
235 図 12	209-17		3	C	SE1196	Q.R-17	AI			加工木	110	24	7	薄板状
235 図 13	209-18	212	3	C	SE1196	Q.R-17	AL		スギ	加工木	100	36	14	板状破片
235 図 14	209-19		3	C	SE1196	Q.R-17	AO			加工木	141	29	11	楔状
235 図 15	209-20	217	3	C	SE1196	Q.R-17	AS		スギ	加工木	58	96	23	厚板状
235 図 16	209-21	219	3	C	SE1196	Q.R-17	AU		スギ	加工木	132	38	11	板状
235 図 17	209-22	220	3	C	SE1196	Q.R-17	AV		スギ	加工木	125	22	19	角棒状
236 図 1	209-23		3	C	SE1196	Q.R-17	R			加工木	101	70	27	厚板状
236 図 2	209-24	213	3	C	SE1196	Q.R-17	AM		スギ	加工木	116	98	27	厚板状
236 図 3	209-25	206	3	C	SE1196	Q.R-17	T		スギ	加工木	106	103	28	厚板状
236 図 4	209-26	201	3	C	SE1196	Q.R-17	M		スギ	加工木	98	88	20	厚板状
236 図 5	209-27	205	3	C	SE1196	Q.R-17	S		スギ	加工木	74	90	20	厚板状
236 図 6	209-28		3	C	SE1196	Q.R-17	W			加工木	73	27	25	角材状
236 図 7	209-29	207	3	C	SE1196	Q.R-17	U		スギ	加工木	94	93	19	厚板状
236 図 8	210-1		3	C	SE1196	Q.R-17	AG			加工木	68	82	21	厚板状 一部炭化
236 図 9	210-2	209	3	C	SE1196	Q.R-17	X		スギ	加工木	68	38	25	厚板状破片 一部炭化
236 図 10	210-3	208	3	C	SE1196	Q.R-17	V		スギ	加工木	83	85	23	厚板状
236 図 11	210-4		3	C	SE1196	Q.R-17	AJ			加工木	75	51	18	板状
236 図 12	210-5	211	3	C	SE1196	Q.R-17	AK		スギ	加工木	64	58	25	厚板状
236 図 13	210-6	203	3	C	SE1196	Q.R-17	P		スギ	加工木	121	67	20	厚板状
236 図 14	210-7	202	3	C	SE1196	Q.R-17	N		スギ	加工木	122	59	18	板状
237 図 1	210-8	197	3	C	SE1196	Q.R-17	I		スギ	板材	215	51	11	
237 図 2	210-9	199	3	C	SE1196	Q.R-17	K		スギ	加工木	435	23	13	角棒状
237 図 3	210-10	200	3	C	SE1196	Q.R-17	L		スギ	板材	281	101	14	
237 図 4	210-11	204	3	C	SE1196	Q.R-17	Q		スギ	板材	387	71	13	
237 図 5	210-12	214	3	C	SE1196	Q.R-17	AP		スギ	板材	305	62	13	
237 図 6	210-13	215	3	C	SE1196	Q.R-17	AQ		スギ	板材	320	49	16	
237 図 7	210-14	216	3	C	SE1196	Q.R-17	AR		スギ	板材	319	31	16	
237 図 8	210-15	210	3	C	SE1196	Q.R-17	AF		スギ	板材	217	76	14	
237 図 9	210-16	218	3	C	SE1196	Q.R-17	AT		スギ	板材	144	64	14	
238 図 1		4.165	3	C	SE592	P-14		660AD-780AD	スギ	井戸枠	462	164	22	
238 図 2	210-17	61	3	C	SE592	P-14			カツラ	井戸枠	695	458	119	
238 図 3	210-18	94	3	C	SE592	P-14	A		クリ	井戸枠	740	124	45	
238 図 4	210-19	95	3	C	SE592	P-14	B		スギ	井戸枠	870	145	23	
238 図 5	210-20	181	3	C	SE592	P-14	F		クリ	井戸枠	604	72	16	
238 図 6		105	3	C	SE592	P-14	H		スギ	井戸枠	548	70	12	
238 図 7		105	3	C	SE592	P-14	H		スギ	井戸枠片	236	36	8	
238 図 8		106	3	C	SE592	P-14	I		スギ	井戸枠	374	154	22	一部炭化
238 図 9		106	3	C	SE592	P-14	I		スギ	井戸枠	365	149	14	
239 図 1		107A	3	C	SE592	P-14	J		スギ	井戸枠	440	124	18	一部炭化
239 図 2		107A	3	C	SE592	P-14	J		スギ	井戸枠片	280	44	10	
239 図 3		107B	3	C	SE592	P-14	J		モクレン属	井戸枠片	268	45	12	
239 図 4	210-21	162	3	C	SE592	P-14	C		カツラ	井戸枠片	146	62	18	
239 図 5	210-22	163	3	C	SE592	P-14	D		カツラ	井戸枠片	158	55	25	
239 図 6	210-23	164	3	C	SE592	P-14	E		カツラ	井戸枠片	162	61	28	
239 図 7		104	3	C	SE592	P-14	G		スギ	井戸枠片	230	53	6	

表 47 木製品計測表 (7)

図版 番号	写真 番号	分析 番号	調査 回数	調査区	出土遺構	グリッド	登録 番号	測定 年代	樹種	器種	長さ	幅 (mm)	厚さ	備考
239 図 8		104	3	C	SE592	P-14	G		スギ	井戸枠片	290	47	11	
240 図 1	211-1	248	4	F	SE96	L#-14#.15	N-1		スギ	井戸枠	561	165	33	末端楔状
240 図 2	211-2	249	4	F	SE96	L#-14#	N-2		スギ	井戸枠	572	165	21	末端楔状
240 図 3	211-3	250	4	F	SE96	L#-14#	N-3		スギ	井戸枠	498	182	35	末端楔状
240 図 4	211-4	251	4	F	SE96	L#-14#	E4		スギ	井戸枠	223	112	36	
240 図 5	211-5	252	4	F	SE96	L#-14#	E-5		クリ	井戸枠	355	109	87	
240 図 6	211-6	253	4	F	SE96	L#-14#	E6		スギ	井戸枠	373	177	26	
240 図 7	211-7	259	4	F	SE96	L#-15	E12		アサダ	板材	151	104	35	厚板状 中央 22 に接合
240 図 8	212-1	254	4	F	SE96	L#-14#	E-7		スギ	井戸枠	574	220	23	
240 図 9	212-2	255	4	F	SE96	L#-14#.15	E-8		スギ	井戸枠	450	143	29	末端楔状
240 図 10	212-4	256	4	F	SE96	L#-14#.15	E-9		アサダ	井戸枠	398	107	34	鋤転用 末端部黒く変色 E-10 と接合
240 図 11	212-3	257	4	F	SE96	L#-15	E-10		アサダ	井戸枠	417	125	31	鋤転用 末端部黒く変色 E-9 と接合
240 図 12	212-7	258	4	F	SE96	L#-15	E-11		スギ	井戸枠	574	221	30	末端楔状
241 図 1	212-8	260	4	F	SE96	L#-15	S13		トネリコ属	加工木	159	54	42	杭状
241 図 2	212-5	261	4	F	SE96	L#-15	S-14		アサダ	井戸枠	419	113	35	末端楔状
241 図 3	212-6	262	4	F	SE96	L#-15	S-15		スギ	井戸枠	500	146	39	末端楔状
241 図 4	213-1	263	4	F	SE96	L#-15	S-16		スギ	井戸枠	432	126	29	末端楔状
241 図 5	213-2	264	4	F	SE96	L#-15	S-17		スギ	井戸枠	502	131	26	末端楔状
241 図 6	213-3	265	4	F	SE96	L#-15	W-18		スギ	井戸枠	511	146	29	末端楔状
241 図 7	213-4	266	4	F	SE96	L#-15	W-19		スギ	井戸枠	436	180	36	
241 図 8	213-5	267	4	F	SE96	L#-15	W-20		アサダ	井戸枠	425	227	28	鋤転用 末端部黒く変色
241 図 9	213-6	111	4	F	SE96	L#-15	中央 21		スギ	板材	525	314	55	
241 図 10	214-1	268	4	F	SE96	L#-15	中央 22		アサダ	板材	199	106	32	厚板状 E12 に接合
242 図 1		109	3	C	SK916	N-13			クリ	板材	737	74	17	
242 図 2	214-2		3	C	SK916	N-13				加工木	530	23	20	穿孔 2 箇所
242 図 3	214-3	85	4	F	SE96	L#-15			スギ	箸	291	6	5	
242 図 4	214-4		3	C	SK1008	O-13	B			板材片	256	115	30	
											口径	底径	器高	
243 図 1	214-5		3	C		M-11				漆器皿	(100)	(60)	(22)	内外面朱塗 高台内黒塗
											直径	厚さ		
243 図 2	214-6		3	D		X-0				曲物底		92	10	
243 図 3	214-7		3	C		N-12				曲物底		74	4	
											長さ	幅	厚さ	
243 図 4	214-8		3	C		X-20	A			加工木	153	16	6	平串状
243 図 5	214-9		3	B		X-0				箸	176	7	6	
243 図 6	214-10	232	4	F		T-19#			スギ	板材片	166	110	11	
243 図 7	214-11	221	3	C		X-20	B		ツガ属	加工木	134	76	12	板状
243 図 8	214-12	222	3	C		U-19			スギ	加工木	227	39	25	

VI 理化学分析

1 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
 小林絃一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹
 廣田正史・瀬谷薫・Zaur Lomtadize
 Ineza Jorjoliani・孔智賢・佐々木由香

A はじめに

矢馳 A 遺跡第 3 次・第 4 次発掘調査より検出された試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。第 3 次調査試料の調製は山形、瀬谷、Lomtadize、Jorjoliani が、測定は小林、丹生、伊藤が行い、また、第 4 次調査測定試料の採取は佐々木、試料の調製は廣田、瀬谷、Lomtadize、Jorjoliani、測定は小林、丹生、伊藤が行い、本文は伊藤、孔、佐々木が作成した。

B 試料と方法

第 3 次調査測定試料は、炭化材 6 点、生材 12 点、炭化種実 (クルミ) 1 点、植物遺体 1 点の計 20 点 (PLD-7394 ~ 7413) である。材の場合、SG1045 河川跡から出土した生材 (PLD-7399・7400) とトレンチ 14・15 から出土した炭化材 (PLD-7411) の 3 点は最外年輪を採取して測定を行った。残りの材 15 点は最外年輪以外の部位不明である。

第 4 次調査測定試料は 17 点 (PLD-9128 ~ 9144) で、生材 10 点、炭化材 3 点、生の種実 3 点、炭化種実 1 点である。なお、年代測定試料と同じ試料を用いて、生材および炭化材の樹種同定、種実同定が行われている (第 VI 章 2 生材の樹種同定 p.346 ~ 350・3 炭化材の樹種同定 p.440 ~ 442・4 種実同定 p.443 ~ 446 を参照)。生材および炭化材については、採取部位の差異による古木効果を考慮して、伐採もしくは枯死年代を示す最外年輪あるいはその個体で最も樹皮側に近い部位から採取した。

PLD-9128 の生材は SG100 河川跡から出土し、想定年代は古墳時代中～後期 (6 世紀後半) である。PLD-

9129 の生材は SD119 溝跡から出土し、想定年代は奈良・平安時代である。PLD-9130 の生材と PLD-9141 の種実は SE96 井戸跡から出土し、想定年代は奈良・平安時代である。PLD-9131 の生材は SG120、PLD-9132 ~ 9137 の生材と PLD-9142 の種実は SG121 の各河川跡から出土し、想定年代は遺物が出土していないため不明であるが、中世以前と考えられている。PLD-9138 ~ 9140 の炭化材と PLD-9143・9144 の種実は古墳時代中期の遺物包含層中の焼土から出土し、想定年代は 5 世紀後半から 6 世紀初頭である。

測定試料の情報、調製データは表 48・49 のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

C 結果

表 50・51 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行った ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年較正に用いた年代値を、第 244 ~ 280 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、

表 48 第 3 次調査年代測定試料及び処理 パレオ・ラボ

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-7394	グリッド：Q-16 遺構：SG1045 試料 No.：1	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7395	グリッド：S-17 遺構：SE479 試料 No.：2 (131)	試料の種類：生材 (井戸枠 W8：スギ) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7396	グリッド：T-15 遺構：SE515 試料 No.：3	試料の種類：生材 (板材) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7397	グリッド：P-14 遺構：SE592 試料 No.：4 (165)	試料の種類：生材 (井戸枠片) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7398	グリッド：P-12 遺構：SE616 遺物 No.：RW53 試料 No.：5 (62)	試料の種類：生材 (曲物：スギ) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7399	グリッド：Q-15 遺構：SG1045 試料 No.：6	試料の種類：生材 (自然木) 試料の性状：最外年輪 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7400	グリッド：R-15 遺構：SG1045 試料 No.：7	試料の種類：生材 (自然木) 試料の性状：最外年輪 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7401	グリッド：W-21 遺構：SG1048 試料 No.：8	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7402	グリッド：W-21 遺構：SG1048 試料 No.：9	試料の種類：生材 (加工木?) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7403	グリッド：J-8 遺構：SG771 遺物 No.：RW22 試料 No.：10	試料の種類：生材 (木皿) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7404	グリッド：H-10 遺構：SG771 試料 No.：11	試料の種類：炭化種実 (クルミ) 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7405	グリッド：F-4 遺構：SG833 試料 No.：12	試料の種類：生材 (木皿) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7406	グリッド：O-13 遺構：SK1008 試料 No.：13	試料の種類：生材 (自然木) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7407	グリッド：B-7 遺構：SK1141 試料 No.：14	試料の種類：炭化植物遺体 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7408	グリッド：B-7 遺構：SK1142 試料 No.：15	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7409	グリッド：T-19 試料 No.：16	試料の種類：生材 (自然木) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7410	グリッド：M-10 遺構：トレンチ 14・15 試料 No.：17	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7411	グリッド：M-10 遺構：トレンチ 14・15 試料 No.：18	試料の種類：炭化植物遺体 試料の性状：最外年輪 状態：dry、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7412	グリッド：U-19 試料 No.：19	試料の種類：生材 (自然木) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-7413	グリッド：M-10 遺構：トレンチ 14・15 試料 No.：20	試料の種類：炭化材 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet、カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸 1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸 1.2N)	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH

表 49 第 4 次調査年代測定試料及び処理 バレオ・ラボ

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-9128	グリッド：R#-19 遺構：SG100 試料 No.：21 その他：自然木	試料の種類：生材 (5 年輪分：マツ属) 試料の性状：最外以外樹皮に近い部分 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9129	グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW113 試料 No.：22 その他：板材列板材片	試料の種類：生材 (1 年輪分：クリ) 試料の性状：最外以外樹皮に近い部分 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9130	グリッド：L#-14# 遺構：SE96 試料 No.：23 その他：井戸枠片?	試料の種類：生材 (年輪数不明：クリ) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9131	グリッド：W-22 遺構：SG120 試料 No.：24 その他：自然木サンプル	試料の種類：生材 (1 年輪分：クマシデ属イヌシデ節) 試料の性状：最外年輪 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9132	グリッド：K#-L#-14.14# 遺構：SG121 試料 No.：25 その他：自然木サンプル	試料の種類：生材 (2 年輪分：オニグルミ) 試料の性状：最外年輪 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9133	グリッド：K#-L#-14.14# 遺構：SG121 試料 No.：26 その他：自然木サンプル	試料の種類：生材 (4 年輪分：コナラ属コナラ節) 試料の性状：最外年輪 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9134	グリッド：K#-L#-14.14# 遺構：SG121 試料 No.：27 その他：自然木サンプル	試料の種類：生材 (2 年輪分：ヤナギ属) 試料の性状：最外以外樹皮に近い部分 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9135	グリッド：K#-L#-14.14# 遺構：SG121 試料 No.：28 その他：自然木サンプル	試料の種類：生材 (1 年輪分：ブナ属) 試料の性状：最外年輪 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9136	グリッド：K#-L#-14.14# 遺構：SG121 試料 No.：29 その他：自然木サンプル	試料の種類：生材 (5 年輪分：クマシデ属イヌシデ節) 試料の性状：最外以外部位不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9137	グリッド：K#-L#-14.14# 遺構：SG121 試料 No.：30 その他：自然木サンプル	試料の種類：生材 (1 年輪分：ガマズミ属) 試料の性状：最外以外樹皮に近い部分 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9138	グリッド：P-17 遺構：焼土 試料 No.：31	試料の種類：炭化材 (5 年輪分：トネリコ属) 試料の性状：最外年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9139	グリッド：P-17 遺構：焼土 試料 No.：32	試料の種類：炭化材 (枝材：双子葉植物) 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9140	グリッド：P-17 遺構：焼土 試料 No.：33	試料の種類：炭化材 (枝材：散孔材) 試料の性状：最外年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9141	グリッド：L#-14#-15 遺構：SE96 試料 No.：34	試料の種類：生試料・種実 (モモ核：1 点) 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9142	グリッド：K#-L#-14.14# 遺構：SG121 試料 No.：35	試料の種類：生試料・種実 (オニグルミ核：1 点) 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9143	グリッド：P-17 遺構：焼土 試料 No.：36	試料の種類：生試料・種実 (エゴノキ種子：1 点) 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :0.5N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス
PLD-9144	グリッド：P-17 遺構：焼土 試料 No.：37	試料の種類：炭化種実 (タデ属炭化果実：1 点) 試料の性状：不明 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム :0.1N, 塩酸 :1.2N) サルフィックス

表 50 第 3 次調査放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果 パレオ・ラボ

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)
			1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	
PLD-7394	-27.17 \pm 0.12	1665 \pm 25	345AD(18.8%)370AD 375AD(49.4%)420AD	260AD(4.6%)280AD 320AD(90.8%)430AD	1666 \pm 25
PLD-7395	-24.98 \pm 0.18	1270 \pm 20	685AD(41.5%)730AD 735AD(15.8%)755AD 760AD(10.9%)775AD	670AD(95.4%)780AD	1268 \pm 22
PLD-7396	-26.28 \pm 0.18	1230 \pm 25	710AD(21.4%)750AD 760AD(35.9%)830AD 840AD(11.0%)870AD	680AD(31.9%)750AD 760AD(63.5%)880AD	1231 \pm 25
PLD-7397	-27.24 \pm 0.60	1305 \pm 25	665AD(46.9%)710AD 745AD(21.3%)770AD	660AD(95.4%)780AD	1303 \pm 25
PLD-7398	-25.85 \pm 0.21	1275 \pm 20	685AD(37.2%)725AD 740AD(31.0%)770AD	675AD(95.4%)775AD	1274 \pm 19
PLD-7399	-32.36 \pm 0.13	1535 \pm 25	430AD(30.7%)490AD 530AD(37.5%)570AD	430AD(95.4%)600AD	1536 \pm 24
PLD-7400	-30.03 \pm 0.16	1505 \pm 25	545AD(68.2%)595AD	460AD(2.5%)490AD 530AD(92.9%)630AD	1504 \pm 23
PLD-7401	-24.82 \pm 0.21	1685 \pm 25	335AD(68.2%)405AD	250AD(13.1%)300AD 320AD(82.3%)420AD	1685 \pm 24
PLD-7402	-24.72 \pm 0.14	1595 \pm 25	420AD(21.5%)460AD 480AD(46.7%)540AD	410AD(95.4%)540AD	1595 \pm 25
PLD-7403	-29.51 \pm 0.15	1250 \pm 25	690AD(54.8%)750AD 760AD(13.4%)780AD	670AD(95.4%)870AD	1251 \pm 25
PLD-7404	-27.18 \pm 0.28	1300 \pm 25	665AD(45.8%)710AD 745AD(22.4%)770AD	660AD(95.4%)780AD	1299 \pm 25
PLD-7405	-28.54 \pm 0.15	1390 \pm 25	635AD(68.2%)665AD	605AD(95.4%)670AD	1389 \pm 25
PLD-7406	-30.86 \pm 0.59	740 \pm 25	1260AD(68.2%)1285AD	1225AD(95.4%)1290AD	741 \pm 24
PLD-7407	-29.16 \pm 0.23	1230 \pm 25	710AD(19.7%)750AD 760AD(36.2%)830AD 840AD(12.2%)870AD	690AD(30.6%)750AD 760AD(64.8%)880AD	1230 \pm 27
PLD-7408	-29.05 \pm 0.24	1240 \pm 25	690AD(42.8%)750AD 760AD(25.4%)810AD	680AD(95.4%)870AD	1240 \pm 25
PLD-7409	-29.78 \pm 0.17	1785 \pm 25	180AD(2.2%)190AD 210AD(40.8%)260AD 280AD(25.2%)330AD	130AD(95.4%)340AD	1783 \pm 26
PLD-7410	-28.00 \pm 0.14	1310 \pm 25	660AD(48.2%)710AD 740AD(20.0%)770AD	650AD(95.4%)780AD	1309 \pm 25
PLD-7411	-28.01 \pm 0.15	1385 \pm 25	635AD(68.2%)665AD	610AD(95.4%)675AD	1384 \pm 25
PLD-7412	-29.41 \pm 0.23	1705 \pm 25	260AD(13.9%)280AD 320AD(54.3%)390AD	250AD(95.4%)410AD	1704 \pm 24
PLD-7413	-26.72 \pm 0.11	1265 \pm 20	690AD(59.5%)750AD 760AD(8.7%)775AD	670AD(93.3%)780AD 790AD(2.1%)810AD	1263 \pm 22

表 51 第 4 次調査放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果 パレオ・ラボ

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-9128	-28.18 \pm 0.20	1792 \pm 23	1790 \pm 25	140AD(3.5%)150AD 160AD(11.9%)200AD 210AD(43.5%)260AD 300AD(9.3%)320AD	<u>130AD(79.3%)260AD</u> 280AD(16.1%)330AD
PLD-9129	-29.90 \pm 0.16	1628 \pm 21	1630 \pm 20	<u>390AD(61.0%)440AD</u> 490AD(7.2%)510AD	<u>380AD(95.4%)540AD</u>
PLD-9130	-31.61 \pm 0.13	1308 \pm 21	1310 \pm 20	<u>660AD(47.6%)710AD</u> 740AD(20.6%)770AD	<u>650AD(68.0%)730AD</u> 740AD(27.4%)770AD
PLD-9131	-31.57 \pm 0.16	1608 \pm 22	1610 \pm 20	410AD(27.2%)440AD <u>480AD(41.0%)540AD</u>	<u>400AD(95.4%)540AD</u>
PLD-9132	-31.81 \pm 0.13	1344 \pm 21	1345 \pm 20	<u>650AD(68.2%)675AD</u>	<u>640AD(92.3%)700AD</u> 750AD(3.1%)770AD
PLD-9133	-28.09 \pm 0.11	1455 \pm 22	1455 \pm 20	<u>590AD(68.2%)640AD</u>	<u>565AD(95.4%)650AD</u>
PLD-9134	-32.40 \pm 0.13	1300 \pm 22	1300 \pm 20	<u>665AD(45.0%)710AD</u> 745AD(23.2%)765AD	<u>660AD(95.4%)780AD</u>
PLD-9135	-30.78 \pm 0.14	1425 \pm 25	1425 \pm 25	<u>610AD(68.2%)650AD</u>	<u>585AD(95.4%)660AD</u>
PLD-9136	-31.02 \pm 0.13	1483 \pm 23	1485 \pm 25	<u>560AD(68.2%)610AD</u>	<u>540AD(95.4%)635AD</u>
PLD-9137	-30.97 \pm 0.12	1461 \pm 23	1460 \pm 25	<u>580AD(68.2%)635AD</u>	<u>560AD(95.4%)645AD</u>
PLD-9138	-28.81 \pm 0.24	1655 \pm 25	1655 \pm 25	350AD(9.8%)370AD <u>380AD(58.4%)425AD</u>	260AD(2.2%)280AD <u>320AD(91.7%)440AD</u> 490AD(1.5%)510AD
PLD-9139	-24.05 \pm 0.17	1631 \pm 23	1630 \pm 25	<u>380AD(61.8%)440AD</u> 490AD(6.4%)510AD	350AD(2.9%)370AD <u>380AD(92.5%)540AD</u>
PLD-9140	-26.86 \pm 0.19	1614 \pm 24	1615 \pm 25	400AD(32.3%)440AD <u>480AD(35.9%)540AD</u>	<u>390AD(95.4%)540AD</u>
PLD-9141	-30.45 \pm 0.11	1156 \pm 29	1155 \pm 30	780AD(2.6%)790AD <u>810AD(44.3%)900AD</u> 910AD(21.3%)950AD	<u>770AD(95.4%)970AD</u>
PLD-9142	-33.32 \pm 0.17	1252 \pm 24	1250 \pm 25	<u>690AD(55.1%)750AD</u> 760AD(13.1%)780AD	<u>670AD(91.8%)830AD</u> 840AD(3.6%)870AD
PLD-9143	-31.13 \pm 0.17	1640 \pm 25	1640 \pm 25	350AD(2.5%)370AD <u>380AD(65.7%)440AD</u>	<u>330AD(82.2%)470AD</u> 480AD(13.2%)540AD
PLD-9144	-25.92 \pm 0.10	1669 \pm 26	1670 \pm 25	<u>345AD(68.2%)415AD</u>	260AD(6.1%)290AD <u>320AD(89.3%)430AD</u>

表 52 第 3 次調査出土試料の測定結果 パレオ・ラボ

遺構・遺物番号	測定番号	遺物・検体名	想定年代	¹⁴ C 年代 (yrBP ± 1 σ)	較正年代 calAD 2 σ 暦年代範囲	暦年代
SG1045	PLD-7394	炭化材	古墳～奈良・平安	1665 ± 25	260-280(4.6%) 320-430(90.8%)	古墳時代
SG1045	PLD-7399	生材 (自然木)	古墳～奈良・平安	1535 ± 25	430-600(95.4%)	古墳時代
SG1045	PLD-7400	生材 (自然木)	古墳～奈良・平安	1505 ± 25	460-490AD(2.5%) 530-630AD(92.9%)	古墳～奈良
SG1048	PLD-7401	炭化材	古墳時代	1685 ± 25	250-300(13.1%) 320-420(82.3%)	古墳時代
SG1048	PLD-7402	生材 (加工木?)	古墳時代	1595 ± 25	410-540(95.4%)	古墳時代
SG771RW22	PLD-7403	生材 (木皿)	奈良・平安	1250 ± 25	670-870(95.4%)	奈良・平安
SG771	PLD-7404	炭化種実 (クルミ)	奈良・平安	1300 ± 25	660-780(95.4%)	奈良時代
SG833	PLD-7405	生材 (木皿)	奈良・平安	1390 ± 25	605-670(95.4%)	古墳～奈良
SE479	PLD-7395	生材 (井戸枠)	奈良・平安～中世	1270 ± 20	670-780(95.4%)	古墳～奈良
SE515	PLD-7396	生材 (井戸枠片)	奈良・平安	1230 ± 25	680-750(31.9%) 760-880(63.5%)	奈良・平安
SE592	PLD-7397	生材 (井戸枠片)	奈良・平安～中世	1305 ± 25	660-780(95.4%)	古墳～奈良
SE616RW53	PLD-7398	生材 (曲物)	奈良・平安～中世	1275 ± 20	675-775(95.4%)	古墳～奈良
SK1008	PLD-7406	生材 (自然木)	奈良・平安～中世	740 ± 25	1225-1290(95.4%)	平安時代
SK1141	PLD-7407	炭化物 (植物遺体)	奈良・平安	1230 ± 25	690-750(30.6%) 760-880(64.8%)	奈良～平安
SK1142	PLD-7408	炭化材	奈良・平安	1240 ± 25	680-870(95.4%)	古墳～平安
トレンチ 14・15	PLD-7410	炭化材	奈良・平安～中世	1310 ± 25	650-780(95.4%)	古墳～奈良
トレンチ 14・15	PLD-7411	炭化物 (植物遺体)	奈良・平安～中世	1385 ± 25	610-675(95.4%)	古墳時代
トレンチ 14・15	PLD-7413	炭化材	奈良・平安～中世	1265 ± 20	670-780(93.3%) 790-810(2.1%)	古墳～奈良
T-19 グリッド	PLD-7409	生材 (自然木)	古墳時代	1785 ± 25	130-340(95.4%)	弥生～古墳
U-19 グリッド	PLD-7412	生材 (自然木)	古墳～奈良	1705 ± 25	250-410(95.4%)	弥生～古墳

表 53 第4次調査出土試料の測定結果 パレオ・ラボ

遺構・遺物番号	測定番号	遺物・検体名	想定年代	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	較正年代 calAD 2 σ 暦年代範囲	暦年代
SG100	PLD-9128	生材 (自然木)	古墳時代中～後期	1790 \pm 25	<u>130-260(79.3%)</u> 280-330(16.1%)	弥生～古墳
SD119RW113	PLD-9129	生材 (板材列板材片)	奈良・平安	1630 \pm 20	<u>380-540(95.4%)</u>	古墳時代
SE96	PLD-9130	生材 (井戸椀片)	奈良・平安	1310 \pm 20	<u>650-730(68.0%)</u> 740-770(27.4%)	奈良時代
SE96	PLD-9141	生種実 (モモ)	奈良・平安	1155 \pm 30	<u>770-970(95.4%)</u>	奈良～平安
SG120	PLD-9131	生材 (自然木)	中世以前	1610 \pm 20	<u>400-540(95.4%)</u>	古墳時代
SG121	PLD-9132	生材 (自然木)	中世以前	1345 \pm 20	<u>640-700(92.3%)</u> 750-770(3.1%)	古墳時代
SG121	PLD-9133	生材 (自然木)	中世以前	1455 \pm 20	<u>565-650(95.4%)</u>	古墳時代
SG121	PLD-9134	生材 (自然木)	中世以前	1300 \pm 20	<u>660-780(95.4%)</u>	古墳～奈良
SG121	PLD-9135	生材 (自然木)	中世以前	1425 \pm 25	<u>585-660(95.4%)</u>	古墳時代
SG121	PLD-9136	生材 (自然木)	中世以前	1485 \pm 25	<u>540-635(95.4%)</u>	古墳時代
SG121	PLD-9137	生材 (自然木)	中世以前	1460 \pm 25	<u>560-645(95.4%)</u>	古墳時代
SG121	PLD-9142	生種実 (オニグルミ)	中世以前	1250 \pm 25	<u>670-830(91.8%)</u> 840-870(3.6%)	古墳～平安
P-17 焼土	PLD-9138	炭化材	古墳時代中期	1655 \pm 25	260-280(2.2%) <u>320-440(91.7%)</u> 490-510(1.5%)	古墳時代
P-17 焼土	PLD-9139	炭化材	古墳時代中期	1630 \pm 25	350-370(2.9%) <u>380-540(92.5%)</u>	古墳時代
P-17 焼土	PLD-9140	炭化材	古墳時代中期	1615 \pm 25	<u>390-540(95.4%)</u>	古墳時代
P-17 焼土	PLD-9143	生種実 (エゴノキ)	古墳時代中期	1640 \pm 25	<u>330-470(82.2%)</u> 480-540(13.2%)	古墳時代
P-17 焼土	PLD-9144	炭化種実 (タデ属)	古墳時代中期	1670 \pm 25	260-290(6.1%) <u>320-430(89.3%)</u>	古墳時代

及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal3.10 (較正曲線データ: INTCAL04) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。第 244 ~ 280 図の暦年較正年代グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表 50・51 に下線で示してある。

D 第 3 次調査試料の考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

表 52 は遺構ごとに区分し測定番号順にまとめたものである。較正年代の 2σ (95.4% の確率) で高い確率の暦年代範囲を中心に記載する。

河川跡の SG1045 から出土した材の暦年代範囲をみると、炭化材 (PLD-7394) は $320 \sim 430\text{calAD}$ (90.8%)、生材 (PLD-7399・7400) は、 $430 \sim 600\text{calAD}$ (95.4%) と $530 \sim 630\text{calAD}$ (92.9%) が高い確率の年代範囲であった。試料ごとに年代範囲が異なり、全体としては 4 世紀前半から 7 世紀前半の年代範囲に含まれた。

同じく河川跡の SG1048 から出土した炭化材と生材 (PLD-7401・7402) は、 $320 \sim 420\text{calAD}$ (82.3%)、 $410 \sim 540\text{calAD}$ (95.4%) で、4 世紀前半から 6 世紀前半の年代範囲に含まれた。

SG771・833 両河川跡から出土した木製品 (PLD-7403・7405) は、 $670 \sim 870\text{calAD}$ (95.4%)、 $605 \sim 670\text{calAD}$ (95.4%) で、7 世紀後半から 9 世紀後半、7 世紀初頭から 7 世紀後半の年代範囲であった。

SG771 から出土したクルミ (PLD-7404) は、 $660 \sim 780\text{calAD}$ (95.4%) で、7 世紀中頃から 8 世紀後半の年代範囲であった。上記の河川跡は想定年代が古墳時代か

ら平安時代であり、 2σ の高い確率では想定年代範囲に含まれた。

SE479・515・592・616 各井戸跡出土の木製品 (PLD-7395 ~ 7398) は、 $670 \sim 780\text{calAD}$ (95.4%)、 $760 \sim 880\text{calAD}$ (63.5%)、 $660 \sim 780\text{calAD}$ (95.4%)、 $675 \sim 775\text{calAD}$ (95.4%) が高い確率の年代範囲であった。

SE479 は 7 世紀後半から 8 世紀後半、SE515 は 8 世紀中頃から 9 世紀後半、SE592 は 7 世紀中頃から 8 世紀後半、SE616 は 7 世紀後半から 8 世紀後半の年代範囲であり、いずれも想定年代範囲に含まれた。ただし、試料の採取位置が最外年輪以外の部分であるため、伐採年よりも古い年代値が得られている可能性を考慮する必要がある。

土坑の SK1008・1142 から出土した材 (PLD-7406・7408) は、それぞれ $1225 \sim 1290\text{calAD}$ (95.4%)、 $680 \sim 870\text{calAD}$ (95.4%) で、13 世紀前半から 13 世紀後半、7 世紀後半から 9 世紀後半の年代範囲であった。

SK1008 の想定年代は奈良・平安時代から中世であるが、測定した生材 (PLD-7406) は中世の年代範囲に含まれる可能性がもっとも高い。SK1142 の炭化材 (PLD-7406) は想定年代の奈良・平安時代に含まれた。

SK1141 から出土した植物遺体 (PLD-7407) は、 $760 \sim 880\text{calAD}$ (64.8%) で、8 世紀中頃から 9 世紀後半の年代範囲を示し、想定年代範囲に含まれた。

トレンチ 14・15 から出土した炭化材 (PLD-7410・7411・7413) は、 $650 \sim 780\text{calAD}$ (95.4%)、 $610 \sim 675\text{calAD}$ (95.4%)、 $670 \sim 780\text{calAD}$ (93.3%) で、7 世紀初頭から 8 世紀後半の年代範囲に含まれた。想定年代である奈良・平安時代から中世の年代範囲で、奈良時代に含まれる可能性が高い。

T-19・U-19 グリッドから出土した生材 (PLD-7409・7412) は、 $130 \sim 340\text{calAD}$ (95.4%)、 $250 \sim 410\text{calAD}$ (95.4%) で、2 世紀前半から 4 世紀前半、3 世紀中頃から 5 世紀初頭の年代範囲であった。

PLD-7409・7412 は、想定年代の古墳から奈良時代の年代範囲よりやや古い弥生時代から古墳時代の年代範囲に含まれた。

今回、測定を行った試料は、 2σ の高い確率では想定年代範囲に含まれた。ただし、18 点中の 3 点以外は最外年輪以外の部位で測定したため、枯死年または伐採

年よりも古い年代値が得られている可能性を考慮する必要がある。

E 第4次調査試料の考察

2 σ 暦年代範囲に注目して試料番号順、ただし同一遺構の場合はまとめて年代を整理する(表53)。2 σ 暦年代範囲は、95.4%の確率で年代がこの範囲に収まることを意味する。

SG100 出土試料 PLD-9128 の生材は 130 ~ 260calAD (79.3%)、280 ~ 330calAD (16.1%) で、2 世紀前半から 4 世紀前半の年代範囲であった。想定年代の 6 世紀後半より古い年代範囲が得られた。

SD119 出土試料 PLD-9129 の生材は、380 ~ 540calAD (95.4%) の年代範囲であった。想定年代の奈良・平安時代より古い年代範囲が得られた。この試料は木材の最外年輪に近い部分から採取したため、測定した年代はほぼ枯死年代を示すと考えられるが、1 点のみの測定年代のため、遺構の時期については木材の産出状況や再堆積の可能性を考慮する必要がある。

SE96 出土試料 PLD-9130 の生材は、650 ~ 730calAD (68.0%)、740 ~ 770calAD (27.4%)、PLD-9141 の種実は、770 ~ 970calAD (95.4%) の年代範囲であった。同じ遺構からの出土であるが、PLD-9130 は井戸枿材で最外年輪 (= 伐採年代) が不明な枿材から採取したため、試料の年代は井戸構築年代以前、試料 PLD-9141 は井戸構築

年代以後の年代を示している。種実の出土位置にもよるが、年代は新しくみても 10 世紀後半になるため、想定年代の奈良・平安時代と整合的であった。

SG120 出土試料 PLD-9131 の生材は、400 ~ 540calAD (95.4%) の年代範囲であった。想定年代の中世以前と整合的であった。

SG121 出土試料 PLD-9132 ~ 9137 の生材と PLD-9142 の種実は、2 σ の高い確率でまとめると 540 ~ 830calAD の年代範囲内であった。試料 PLD-9136 以外は最外年輪もしくは最外年輪近くの部位を試料としているため、枯死年代を示している。それぞれの年代範囲をみると、おおよそ 6 世紀中頃から 7 世紀中頃の確率が高い試料 PLD-9133・9135 ~ 9137 と、やや新しい 7 世紀中頃から 8 世紀後半の確率が高い試料 PLD-9134、6 世紀後半から 9 世紀前半とさらに新しい年代範囲を含む試料 PLD-9142 のおおよそ 3 つに分かれる。想定年代の中世以前と整合的であった。

遺物包含層の焼土から出土した試料 PLD-9138 ~ 9140 の炭化材と試料 PLD-9143・9144 の種実は、想定年代は古墳時代の 5 世紀後半から 6 世紀初頭である。これらは 320 ~ 540calAD の年代範囲内であった。想定年代を含むが、全体的にやや古い年代範囲を示した。特に一年生の種実である試料 PLD-9143 と 9144 の年代範囲が 4 世紀前半から 5 世紀後半のため、遺構の年代としてはやや古い可能性がある。

引用文献

- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, Radiocarbon 37, p.425-430.
 Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43, p.355-363.
 中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の 14C 年代』p. 3 ~ 20
 Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer.
 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration. 0-26 cal kyr BP, Radiocarbon 46, p.1029-1058.

(株) 加速器分析研究所

A 測定対象試料

測定対象試料は、第2次調査の T 21 堆積土から出土した木片 (IAAA-80790)、同じく第2次調査の T 5 から検出の SG 3 (SG771) の河床面付近から出土した木片 (IAAA-80791)、T 15 検出 SG 5 (SG771) の河床面付近から出土した木片 2 点 (IAAA-80792・80793)、第

4 次調査 SG833 の上部から中部堆積土より出土した木片 (IAAA-80794)、第3次調査 SP537 出土木柱 (IAAA-90219)、SP596 出土木柱 (IAAA-90220)、SP598 出土木柱 (IAAA-90221)、SP697 出土木柱 (IAAA-90222)、SP705 出土木柱 (IAAA-90223・90224)、SP863 出土木柱 (IAAA-90225)、SP874 出土木柱 (IAAA-90226)、SP958 出土木柱 (IAAA-90227)、SP959 出土木柱 (IAAA-90228)、合計 15 点である。

試料は年代測定と同時に樹種同定を実施し（第VI章 2 樹種同定 p.351 ~ 356 参照）、これらの年代と種類から、遺構の実年代とその植物生態を明らかにしたい。

B 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA: Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で 30 分、850℃で 2 時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO₂）を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

C 測定方法

測定機器は、加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

D 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polash 1977）。
- (2) ¹⁴C 年代（Libby Age: yrBP）は、過去の大気中 ¹⁴C

濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。¹⁴C 年代と誤差は、1 桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の ¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ¹³C 濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により ¹³C/¹²C を測定した場合には表中に（AMS）と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ¹⁴C 濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ¹⁴C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ¹⁴C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（ $1\sigma = 68.2\%$ ）あるいは 2 標準偏差（ $2\sigma = 95.4\%$ ）で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ¹⁴C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv4.0 較正プログラム (Bronk Ransey 1995 Bronk Ransey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

E 測定結果

試料データ及び上記算出方法による測定結果、暦年較正結果を表 54・55 に、また参考として暦年較正年代グラフを第 281 ~ 295 図に掲載した。

¹⁴C 年代は、IAAA-80790 が $120 \pm 30\text{yrBP}$ 、IAAA-80791 が $1230 \pm 30\text{yrBP}$ 、T 15SG5 河床面付近の木片 2 点が $1380 \pm 30\text{yrBP}$ (IAAA-80792)・ $1450 \pm 30\text{yrBP}$

表 54 年代測定試料及び測定結果 加速器分析研究所

測定番号	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
					Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-80790	調査年次：2次 トレンチ：T21 層位：堆積土 試料 No.38	木片	AAA	-27.32 ± 0.56	120 ± 30	98.56 ± 0.33
IAAA-80791	調査年次：2次 トレンチ：T5 遺構：SG3 (3・4次 SG771) 層位：河床面付近 試料 No.39	木片	AAA	-27.95 ± 0.66	1230 ± 30	85.81 ± 0.30
IAAA-80792	調査年次：2次 トレンチ：T15 遺構：SG5 (3・4次 SG771) 層位：河床面付近 試料 No.40	木片	AAA	-30.19 ± 0.61	1380 ± 30	84.25 ± 0.30
IAAA-80793	調査年次：2次 トレンチ：T15 遺構：SG5 (3・4次 SG771) 層位：河床面付近 試料 No.41	木片	AAA	-30.88 ± 0.73	1450 ± 30	83.44 ± 0.31
IAAA-80794	調査年次：4次 グリッド：D-3 遺構：SG833 層位：上部～中部堆積土 遺物 No.：RW10 試料 No.42 (110)	木片	AAA	-30.51 ± 0.59	1200 ± 30	86.12 ± 0.30
IAAA-90219	調査年次：3次 グリッド：R-16 遺構：SP537 層位：堆積土 試料 No.43	木片	AAA	-28.01 ± 0.50	1550 ± 30	82.42 ± 0.32
IAAA-90220	調査年次：3次 グリッド：Q-12 遺構：SP596 層位：堆積土 試料 No.44	木片	AAA	-26.46 ± 0.34	1240 ± 30	85.66 ± 0.32
IAAA-90221	調査年次：3次 グリッド：P-12 遺構：SP598 層位：堆積土 試料 No.45	木片	AAA	-26.46 ± 0.39	1240 ± 30	85.72 ± 0.29
IAAA-90222	調査年次：3次 グリッド O-13 遺構：SP697 層位：堆積土 試料 No.46	木片	AAA	-26.26 ± 0.44	290 ± 30	96.46 ± 0.34
IAAA-90223	調査年次：3次 グリッド：N-13 遺構：SP705 層位：堆積土 試料 No.47	木片	AAA	-28.77 ± 0.59	310 ± 30	96.23 ± 0.34
IAAA-90224	調査年次：3次 グリッド：N-13 遺構：SP705 層位：堆積土 試料 No.48	木片	AAA	-28.72 ± 0.52	340 ± 30	95.89 ± 0.36
IAAA-90225	調査年次：3次 グリッド：V-17 遺構：SP863 層位：堆積土 試料 No.49	木片	AAA	-25.27 ± 0.49	1650 ± 30	81.41 ± 0.30
IAAA-90226	調査年次：3次 グリッド：U-16 遺構：SP874 層位：堆積土 試料 No.50	木片	AAA	-27.31 ± 0.44	1230 ± 30	85.79 ± 0.30
IAAA-90227	調査年次：3次 グリッド：V-16 遺構：SP958 層位：堆積土 試料 No.51	木片	AAA	-28.03 ± 0.39	1190 ± 30	86.22 ± 0.31
IAAA-90228	調査年次：3次 グリッド：V-16 遺構：SP959 層位：堆積土 試料 No.52	木片	AAA	-27.65 ± 0.51	590 ± 30	92.88 ± 0.32

表 55 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 加速器分析研究所

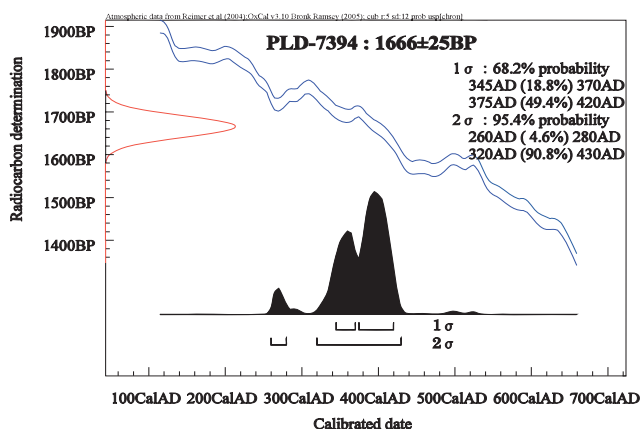
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-80790	150 \pm 30	98.09 \pm 0.3	116 \pm 26	1690AD - 1708AD (10.4%) 1718AD - 1729AD (6.1%) 1810AD - 1827AD (9.5%) 1832AD - 1889AD (34.0%) 1910AD - 1925AD (8.2%)	1681AD - 1739AD (27.4%) 1751AD - 1763AD (2.0%) 1802AD - 1938AD (65.9%)
IAAA-80791	1280 \pm 30	85.29 \pm 0.28	1229 \pm 28	715AD - 744AD (17.9%) 768AD - 828AD (36.3%) 839AD - 865AD (14.0%)	690AD - 751AD (29.6%) 762AD - 882AD (65.8%)
IAAA-80792	1460 \pm 30	83.35 \pm 0.28	1376 \pm 28	642AD - 668AD (68.2%)	611AD - 681AD (95.4%)
IAAA-80793	1550 \pm 30	82.43 \pm 0.28	1454 \pm 29	590AD - 641AD (68.2%)	558AD - 650AD (95.4%)
IAAA-80794	1290 \pm 30	85.14 \pm 0.28	1200 \pm 28	780AD - 794AD (11.5%) 801AD - 872AD (56.7%)	715AD - 745AD (5.3%) 767AD - 895AD (89.5%) 928AD - 934AD (0.6%)
IAAA-90219	1600 \pm 30	81.91 \pm 0.3	1553 \pm 30	435AD - 491AD (45.2%) 508AD - 519AD (7.2%) 528AD - 548AD (15.7%)	425AD - 574AD (95.4%)
IAAA-90220	1270 \pm 30	85.41 \pm 0.31	1243 \pm 29	689AD - 753AD (44.4%) 761AD - 782AD (14.0%) 790AD - 809AD (9.7%)	684AD - 870AD (95.4%)
IAAA-90221	1260 \pm 30	85.46 \pm 0.29	1238 \pm 27	693AD - 749AD (38.9%) 764AD - 782AD (13.2%) 789AD - 810AD (12.9%) 848AD - 855AD (3.2%)	687AD - 874AD (95.4%)
IAAA-90222	310 \pm 30	96.22 \pm 0.33	289 \pm 28	1523AD - 1573AD (45.9%) 1630AD - 1651AD (22.3%)	1495AD - 1602AD (63.3%) 1616AD - 1662AD (32.1%)
IAAA-90223	370 \pm 30	95.49 \pm 0.31	308 \pm 28	1521AD - 1576AD (45.8%) 1582AD - 1591AD (5.6%) 1621AD - 1643AD (16.8%)	1489AD - 1604AD (72.1%) 1610AD - 1649AD (23.3%)
IAAA-90224	400 \pm 30	95.16 \pm 0.34	337 \pm 30	1491AD - 1527AD (22.3%) 1555AD - 1603AD (31.5%) 1610AD - 1633AD (14.3%)	1472AD - 1641AD (95.4%)
IAAA-90225	1660 \pm 30	81.36 \pm 0.29	1652 \pm 29	350AD - 368AD (12.1%) 380AD - 427AD (56.1%)	261AD - 281AD (3.0%) 326AD - 441AD (85.2%) 485AD - 532AD (7.2%)
IAAA-90226	1270 \pm 30	85.38 \pm 0.29	1231 \pm 28	713AD - 745AD (21.1%) 767AD - 826AD (35.4%) 841AD - 863AD (11.6%)	690AD - 751AD (32.1%) 762AD - 880AD (63.3%)
IAAA-90227	1240 \pm 30	85.68 \pm 0.3	1191 \pm 29	781AD - 791AD (8.0%) 807AD - 881AD (60.2%)	722AD - 741AD (2.6%) 770AD - 897AD (90.0%) 923AD - 941AD (2.8%)
IAAA-90228	640 \pm 30	92.38 \pm 0.3	593 \pm 27	1314AD - 1357AD (53.4%) 1388AD - 1401AD (14.8%)	1299AD - 1370AD (69.7%) 1380AD - 1411AD (25.7%)

(IAAA-80793)、SG833 上部から中部堆積土の木片 (IAAA-80794) が $1200 \pm 30\text{yrBP}$ である。IAAA-80792 と 80793 については、木片に樹皮が残存しており、その内側から測定試料を採取した。したがって、この2点については、年輪による古木効果を考慮する必要は無い。IAAA-80790 ~ 80793 が自然木、IAAA-80794 が木柱の破片と判断されており、河川跡出土遺物との整合性を検討する上では、IAAA-80794 の年代が基準となる。また、IAAA-90219 が $1550 \pm 30\text{yrBP}$ 、IAAA-90220 が $1240 \pm$

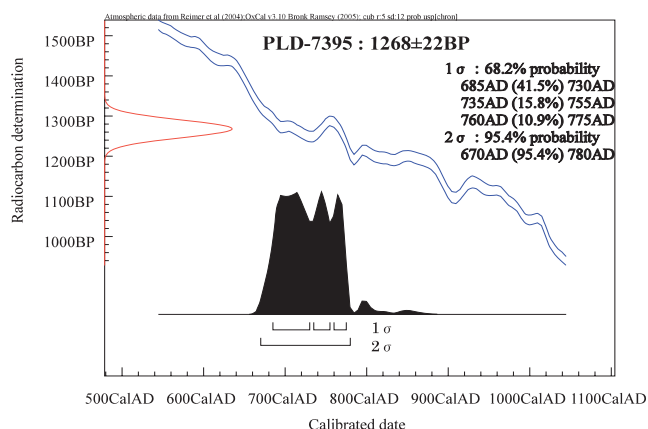
30yrBP 、IAAA-90221 が $1240 \pm 30\text{yrBP}$ 、IAAA-90222 が $290 \pm 30\text{yrBP}$ 、IAAA-90223 が $310 \pm 30\text{yrBP}$ 、IAAA-90224 が $340 \pm 30\text{yrBP}$ 、IAAA-90225 が $1650 \pm 30\text{yrBP}$ 、IAAA-90226 が $1230 \pm 30\text{yrBP}$ 、IAAA-90227 が $1190 \pm 30\text{yrBP}$ 、IAAA-90228 が $590 \pm 30\text{yrBP}$ である。試料 5 点の炭素含有率は全て 50% を超える十分な値である。化学処理および測定内容にも問題は無く、妥当な年代と判断される。

引用文献

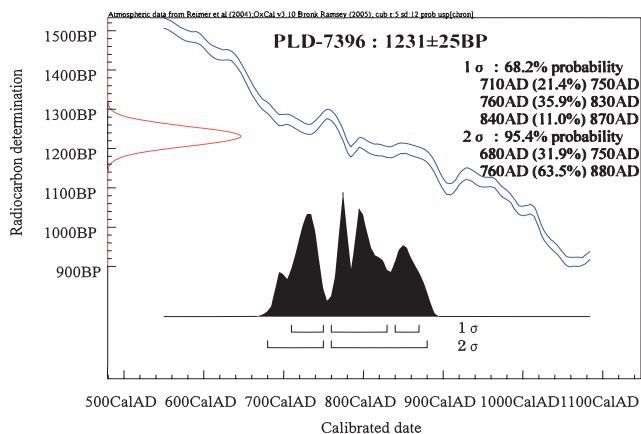
- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19, p.355-363
 Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), p.425-430
 Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), p.355-363
 Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), p.381-389
 Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, p.1029-1058



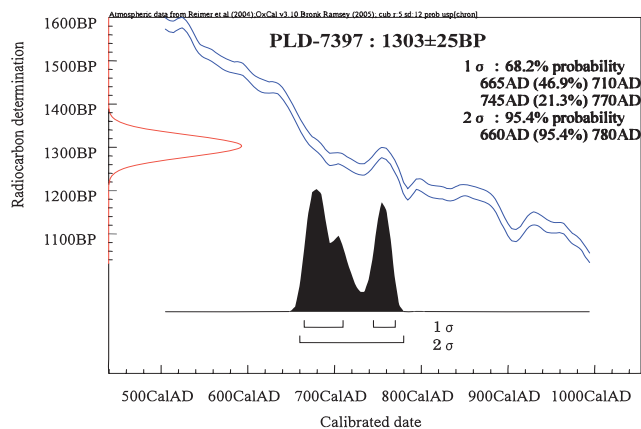
第 244 図 暦年較正グラフ PLD-7394



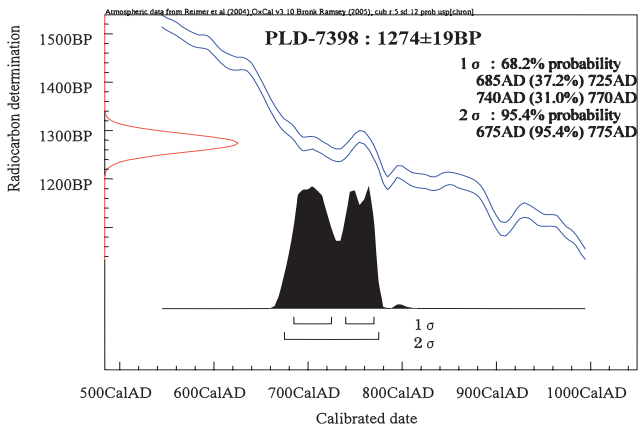
第 245 図 暦年較正グラフ PLD-7395



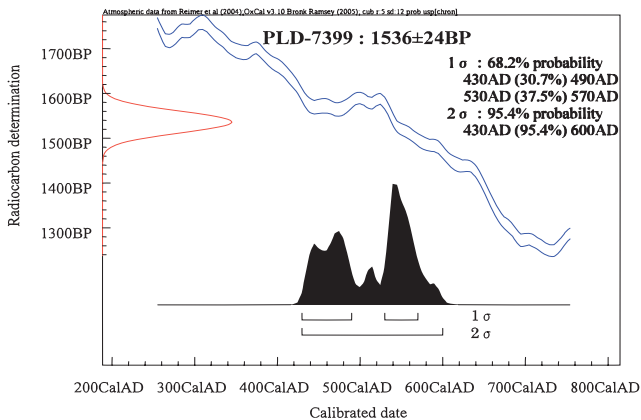
第 246 図 暦年較正グラフ PLD-7396



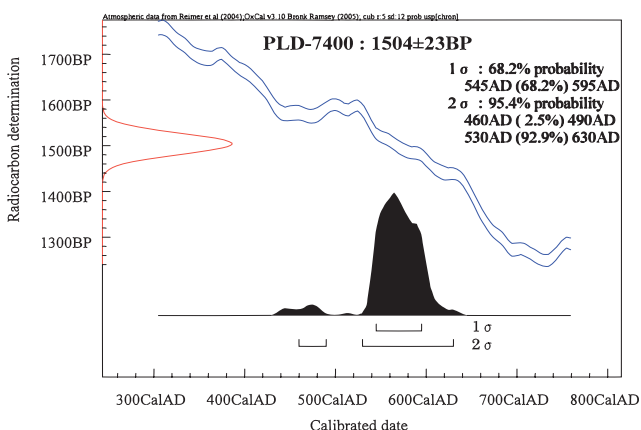
第 247 図 暦年較正グラフ PLD-7397



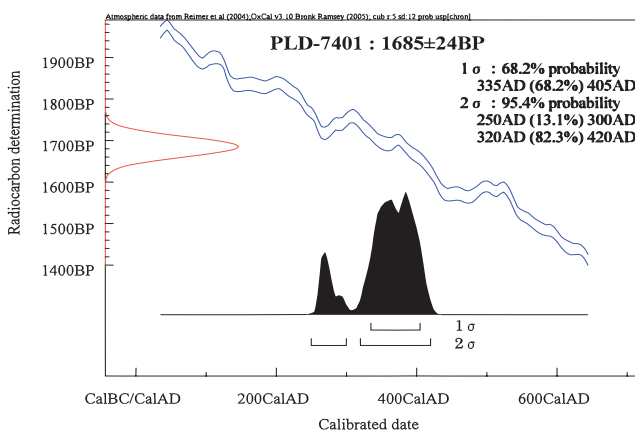
第 248 図 暦年較正グラフ PLD-7398



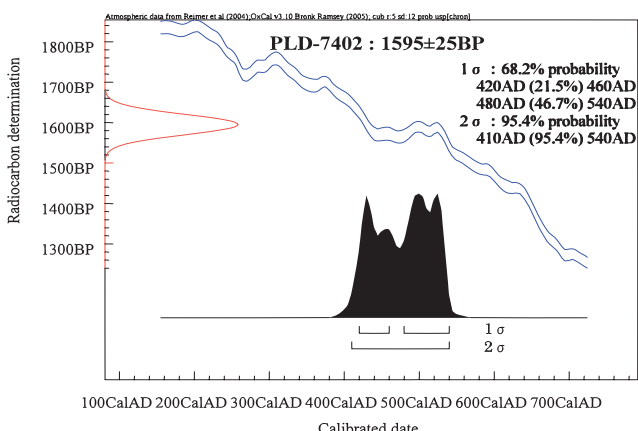
第 249 図 暦年較正グラフ PLD-7399



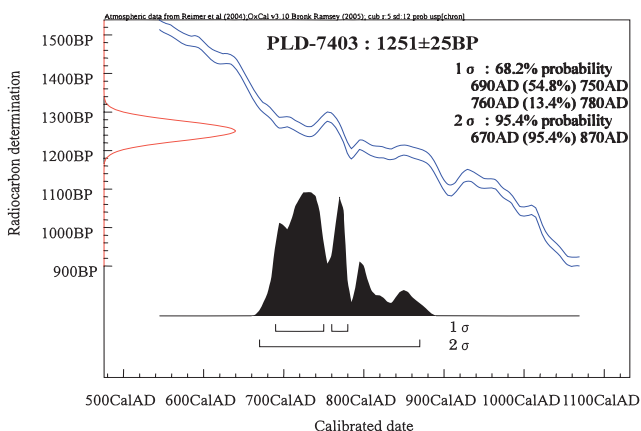
第 250 図 暦年較正グラフ PLD-7400



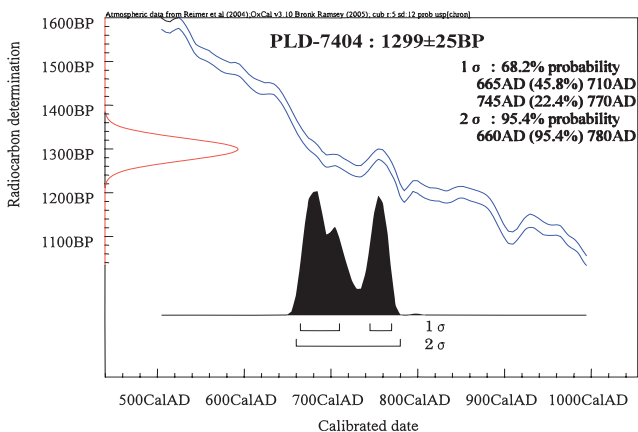
第 251 図 暦年較正グラフ PLD-7401



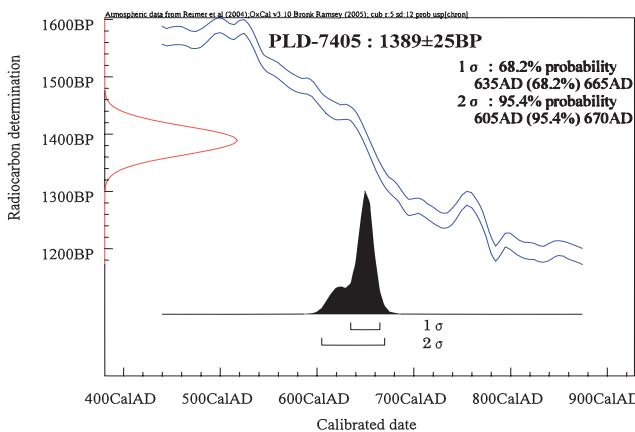
第 252 図 暦年較正グラフ PLD-7402



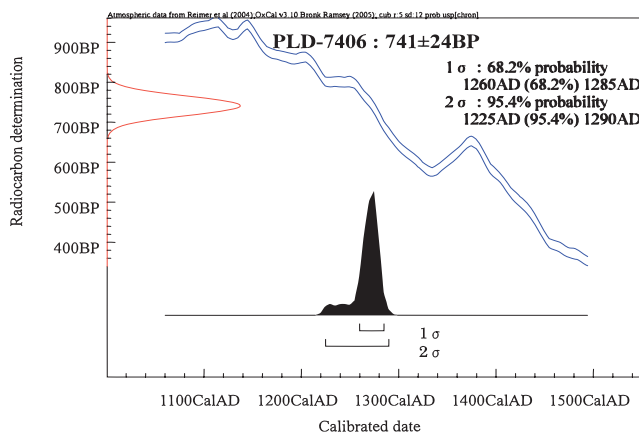
第 253 図 暦年較正グラフ PLD-7403



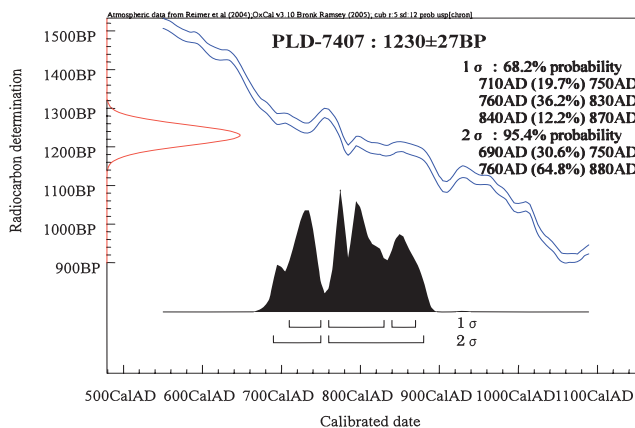
第 254 図 暦年較正グラフ PLD-7404



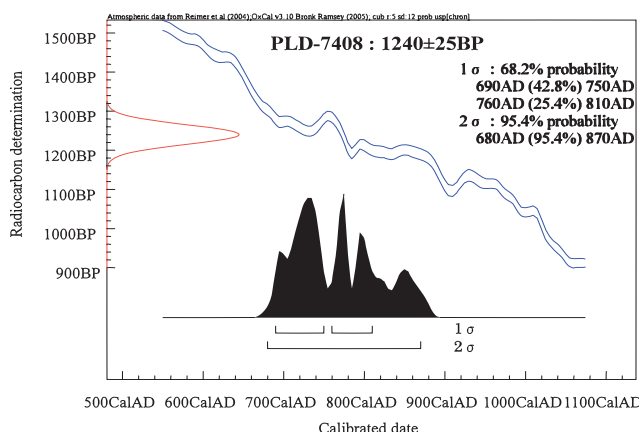
第 255 図 暦年較正グラフ PLD-7405



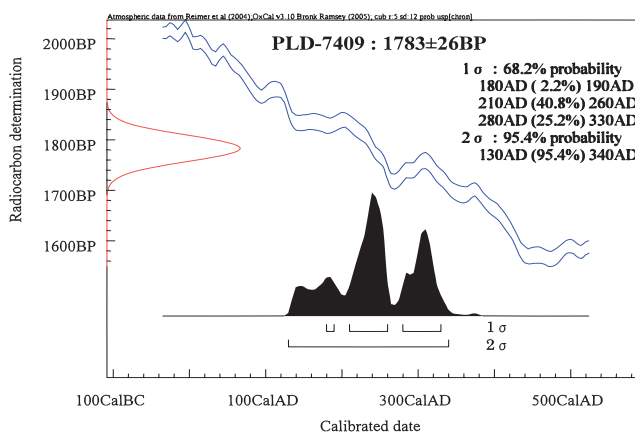
第256図 暦年較正グラフ PLD-7406



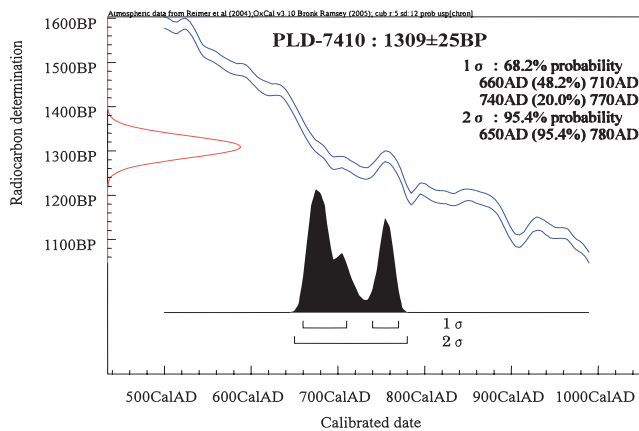
第257図 暦年較正グラフ PLD-7407



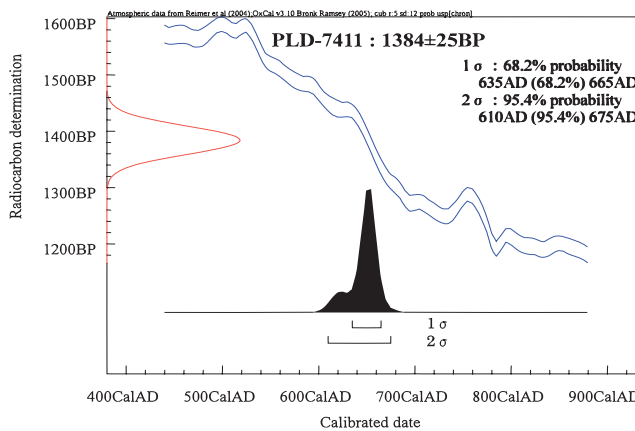
第258図 暦年較正グラフ PLD-7408



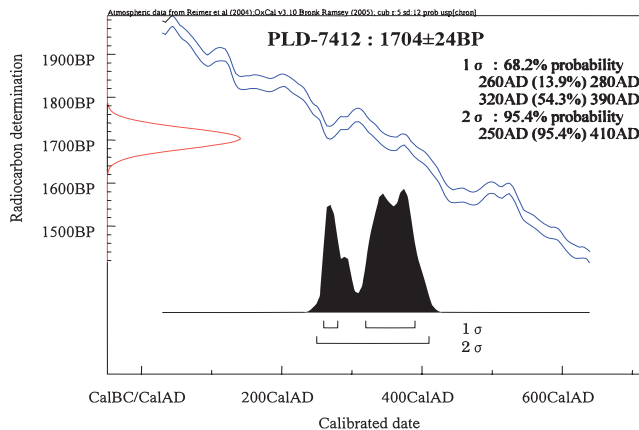
第259図 暦年較正グラフ PLD-7409



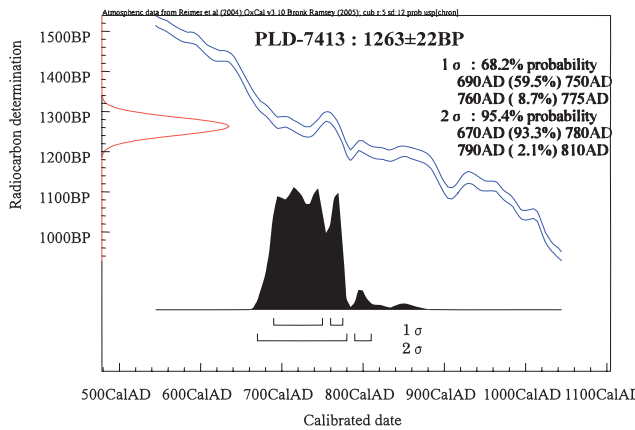
第260図 暦年較正グラフ PLD-7410



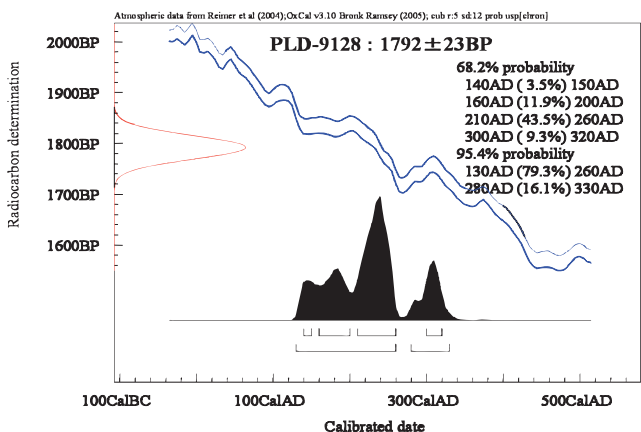
第261図 暦年較正グラフ PLD-7411



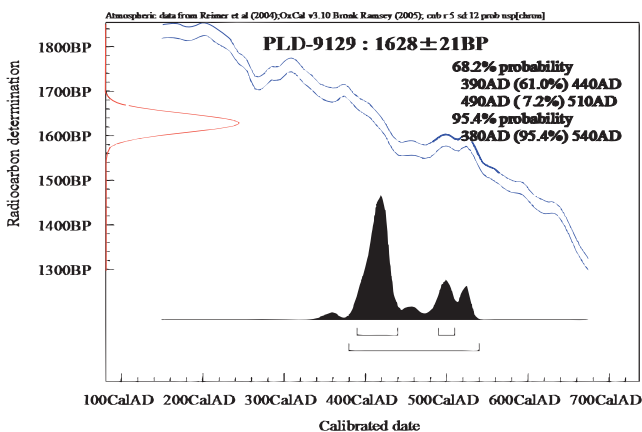
第262図 暦年較正グラフ PLD-7412



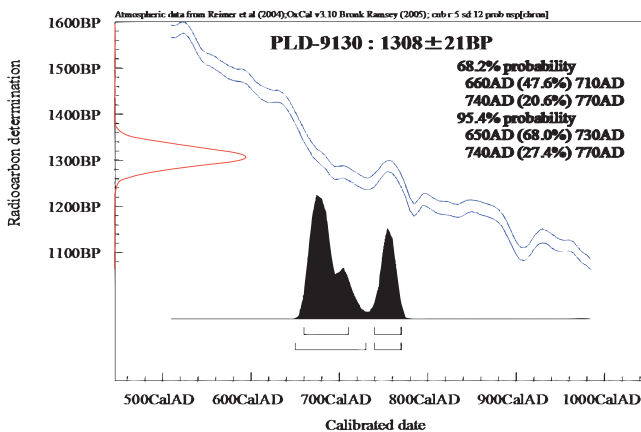
第263図 暦年較正グラフ PLD-7413



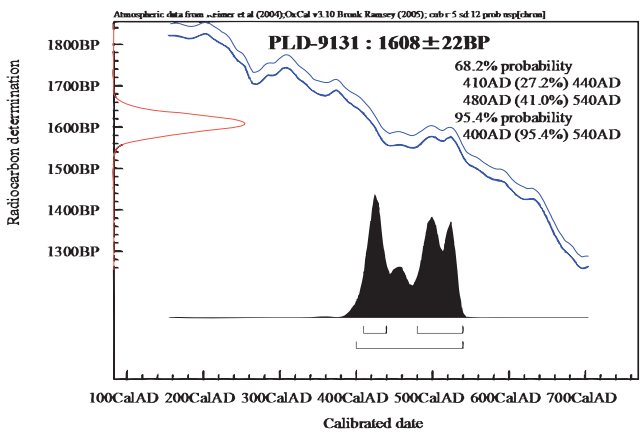
第 264 図 暦年較正グラフ PLD-9128



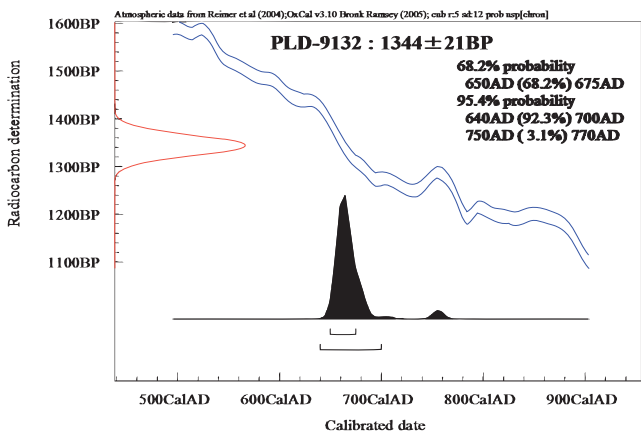
第 265 図 暦年較正グラフ PLD-9129



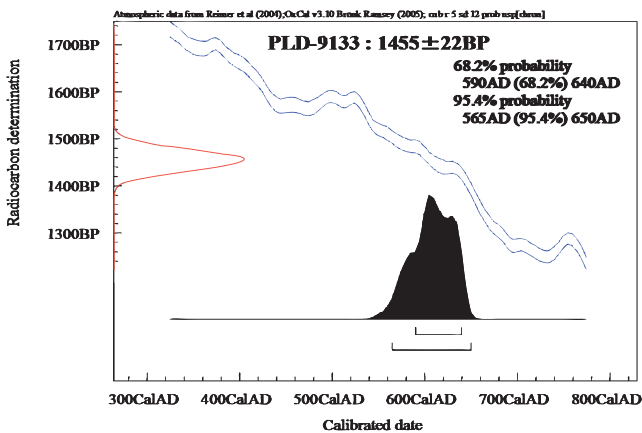
第 266 図 暦年較正グラフ PLD-9130



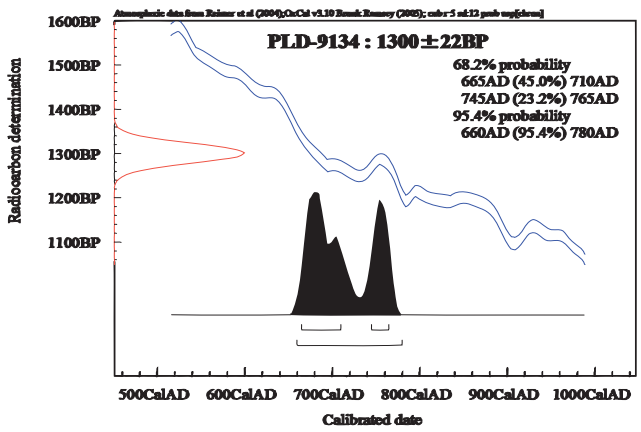
第 267 図 暦年較正グラフ PLD-9131



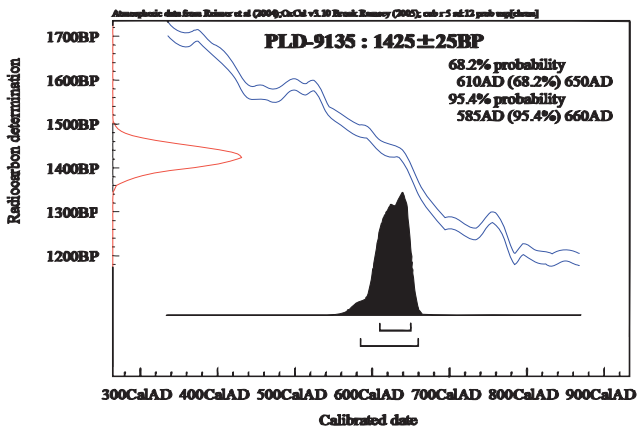
第 268 図 暦年較正グラフ PLD-9132



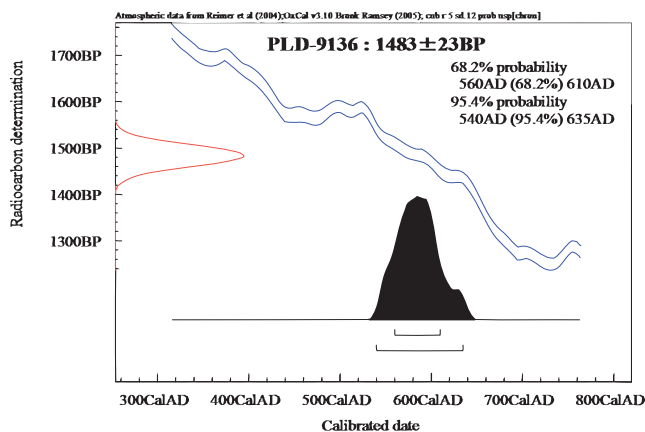
第 269 図 暦年較正グラフ PLD-9133



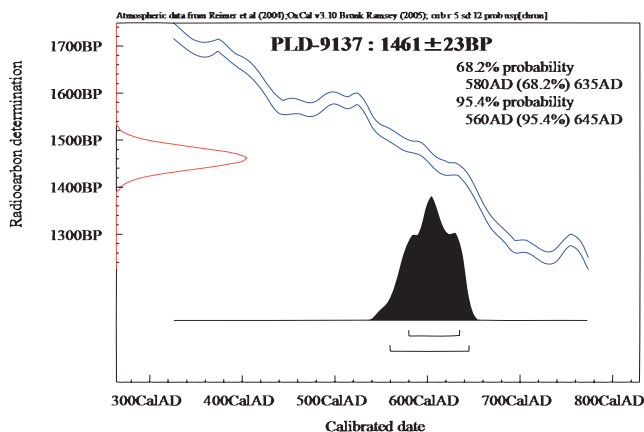
第 270 図 暦年較正グラフ PLD-9134



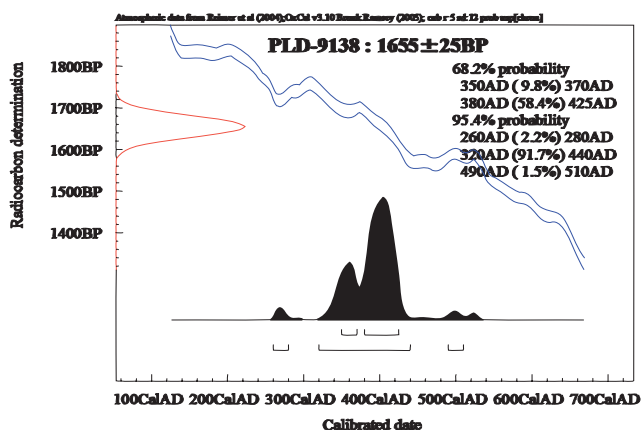
第 271 図 暦年較正グラフ PLD-9135



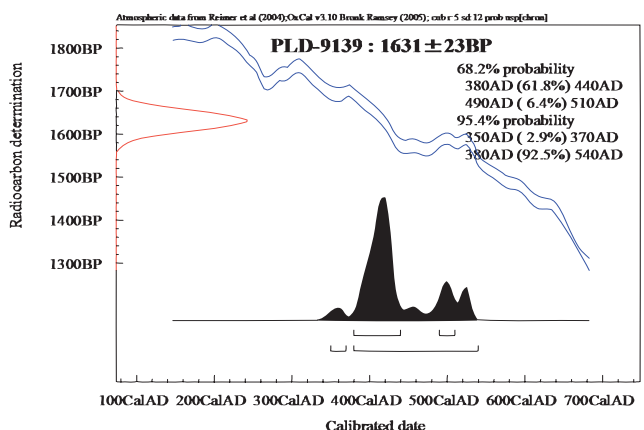
第 272 図 暦年較正グラフ PLD-9136



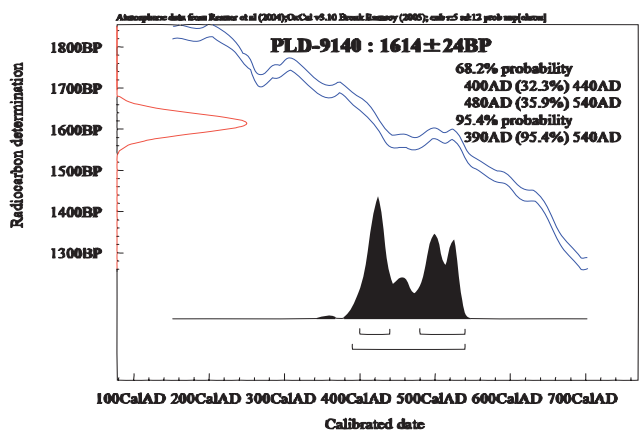
第 273 図 暦年較正グラフ PLD-9137



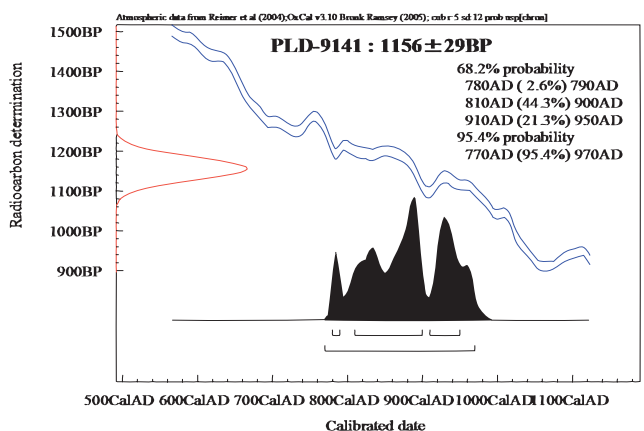
第 274 図 暦年較正グラフ PLD-9138



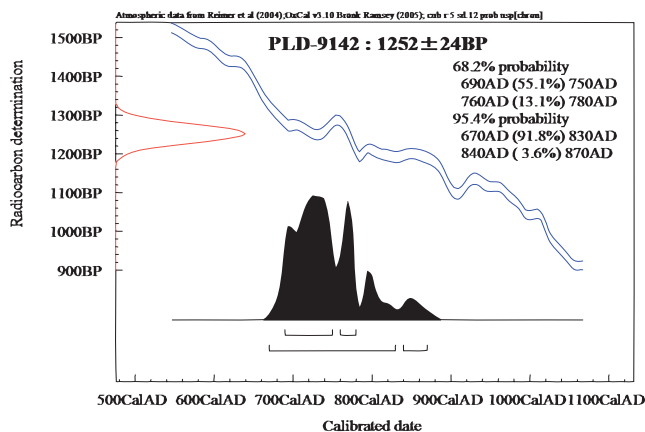
第 275 図 暦年較正グラフ PLD-9139



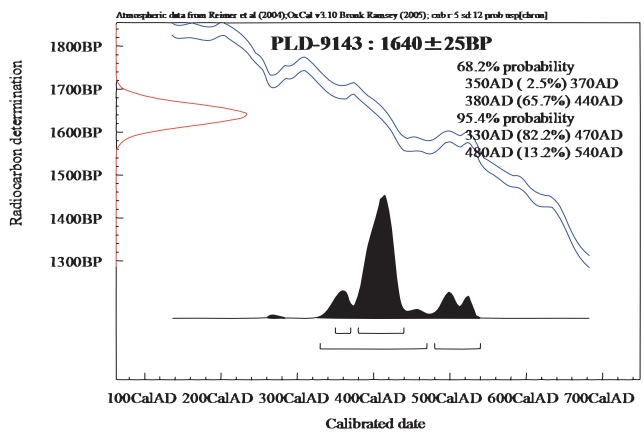
第 276 図 暦年較正グラフ PLD-9140



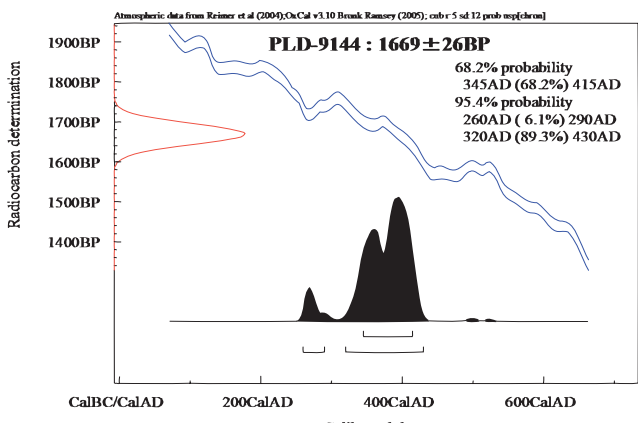
第 277 図 暦年較正グラフ PLD-9141



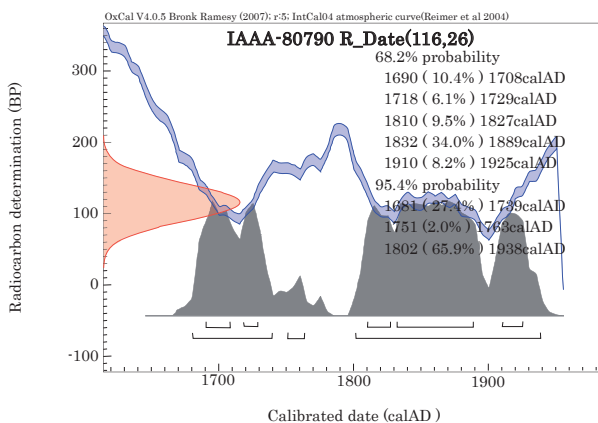
第 278 図 暦年較正グラフ PLD-9142



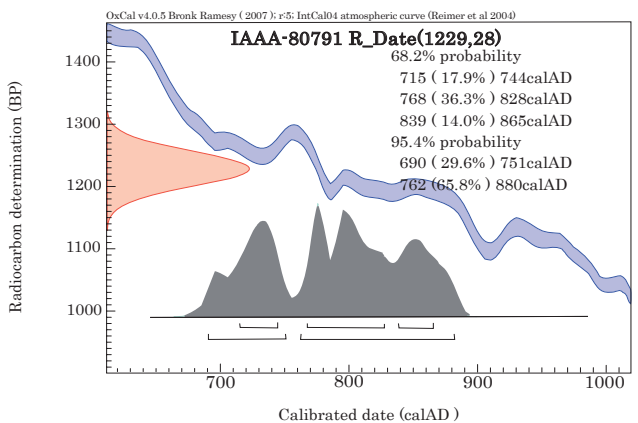
第 279 図 暦年較正グラフ PLD-9143



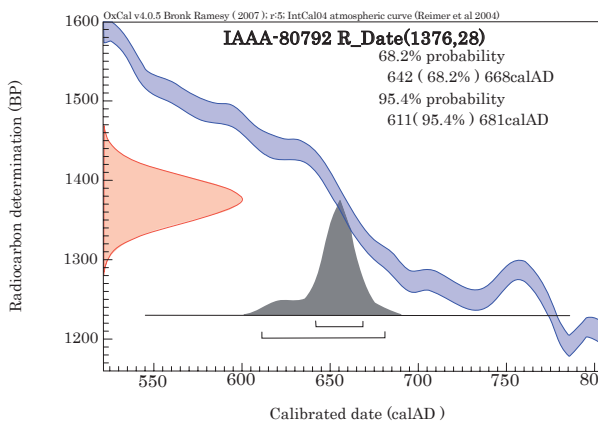
第 280 図 暦年較正グラフ PLD-9144



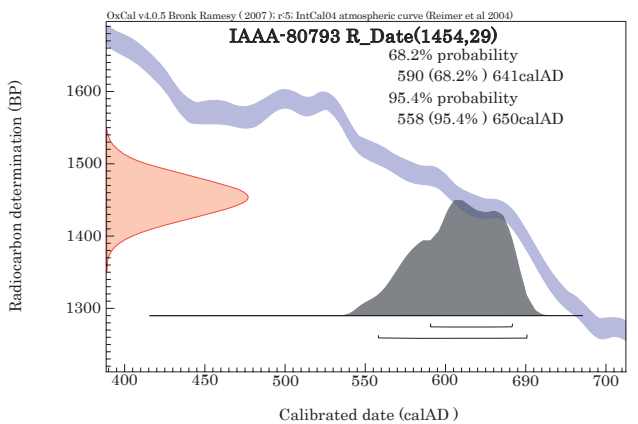
第 281 図 暦年較正グラフ IAAA-80790



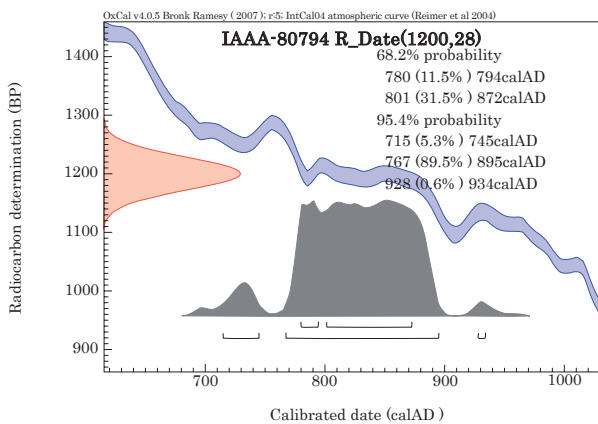
第 282 図 暦年較正グラフ IAAA-80791



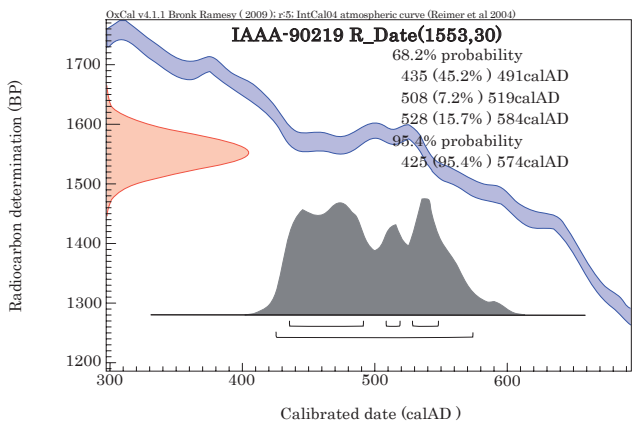
第 283 図 暦年較正グラフ IAAA-80792



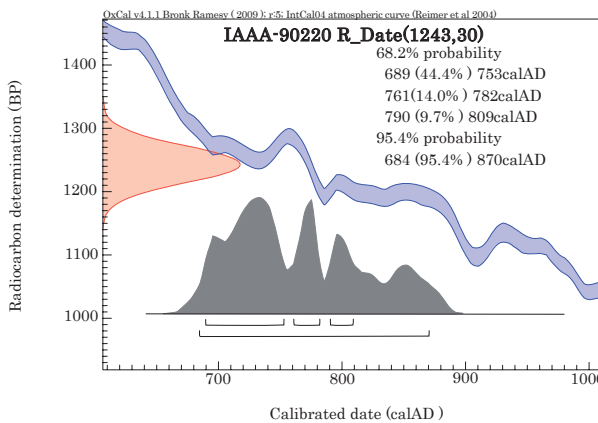
第 284 図 暦年較正グラフ IAAA-80793



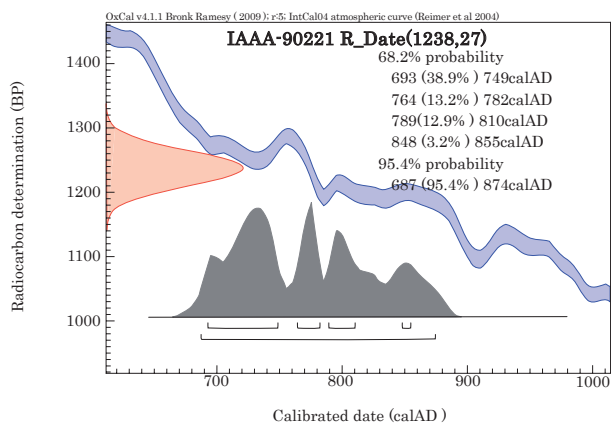
第 285 図 暦年較正グラフ IAAA-80794



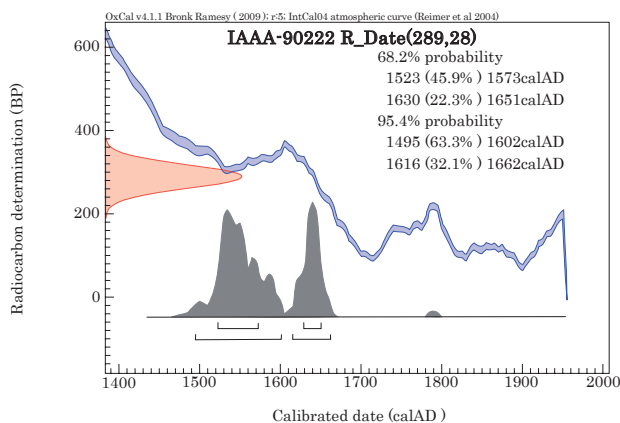
第 286 図 暦年較正グラフ IAAA-90219



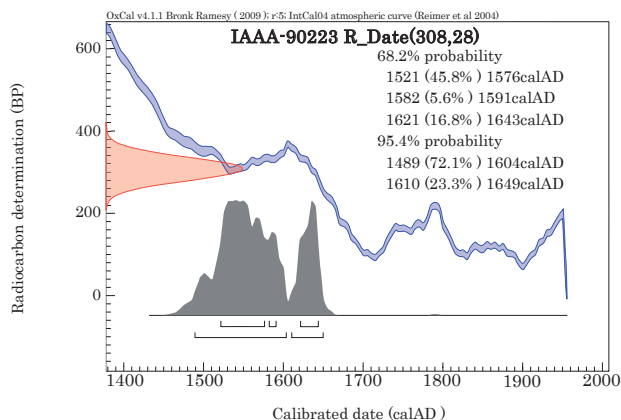
第 287 図 暦年較正グラフ IAAA-90220



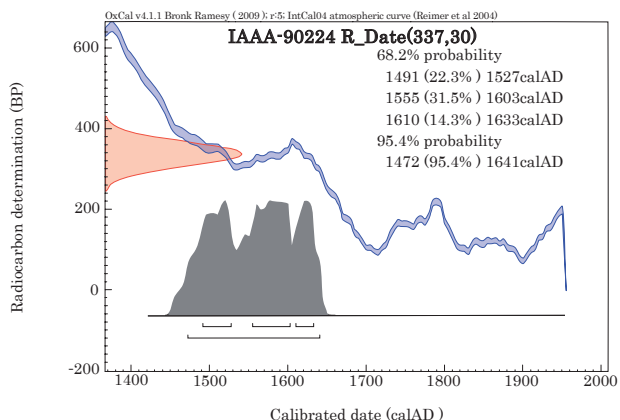
第 288 図 暦年較正グラフ IAAA-90221



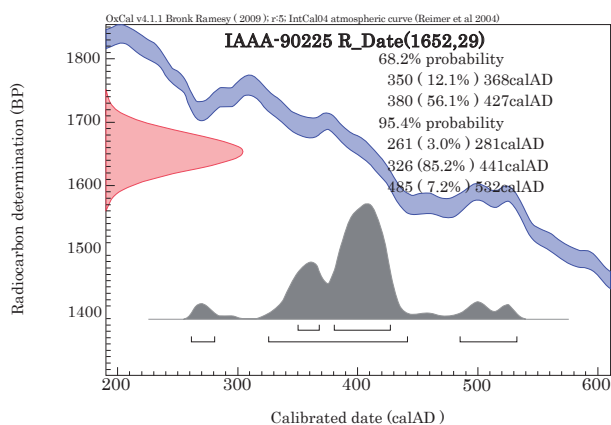
第 289 図 暦年較正グラフ IAAA-90222



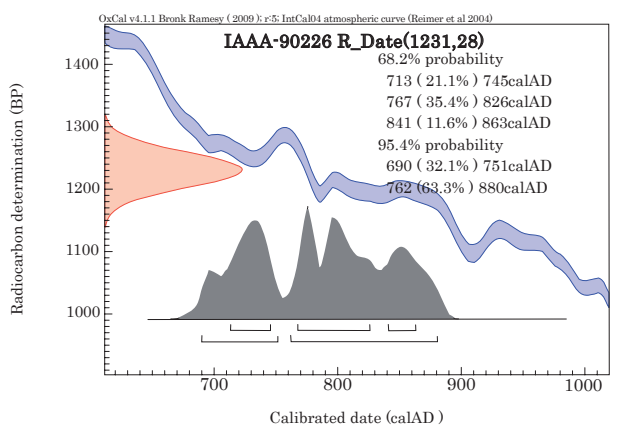
第 290 図 暦年較正グラフ IAAA-90223



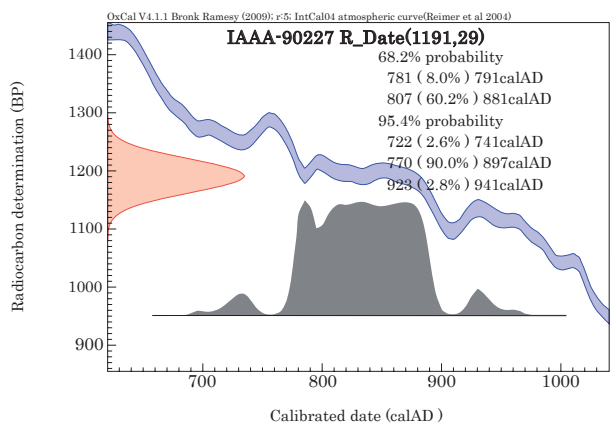
第 291 図 暦年較正グラフ IAAA-90224



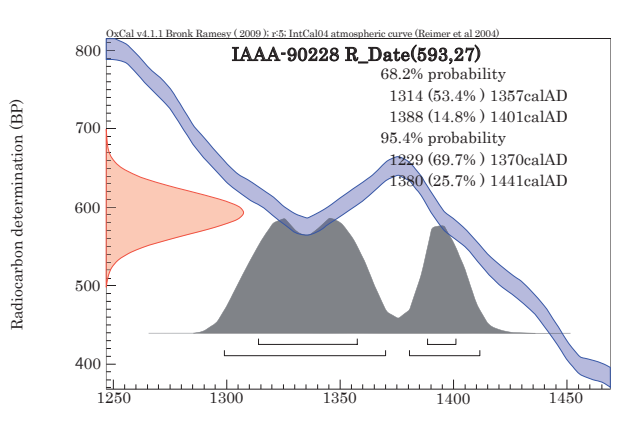
第 292 図 暦年較正グラフ IAAA-90225



第 293 図 暦年較正グラフ IAAA-90226



第 294 図 暦年較正グラフ IAAA-90227



第 295 図 暦年較正グラフ IAAA-90228

2 生材の樹種同定

パレオ・ラボ
佐々木由香

A はじめに

矢馳A遺跡第4次調査で出土した木材10点の樹種同定結果を報告する。ここでは、古墳時代から中世までの川や溝、井戸から出土した樹種を同定し、その用材や選択について検討した。またこれらの試料と同じ試料で放射性炭素年代測定が行われている（詳細は第VI章1放射性炭素年代測定 p.327～335参照）。

B 試料と方法

試料は、SG100が1点、SD119が1点、SE96が1点、SG120が1点、SG121が6点の生材計10点である。生材については、木材の木取りや目視できる組織を観察しながら直接切片を採取して、プレパラートを作製した。切片は片刃剃刀を用いて、横断面（木口）・接線断面（板目）・放射断面（柾目）の3断面を採取し、ガムクロール（抱水クロール 50g、アラビアゴム粉末 40g、グリセリン 20ml、蒸留水 50mlの割合で調整した混合液）で封入した。同定はこれらのプレパラートを光学顕微鏡にて40～400倍で検鏡した。プレパラートは（株）パレオ・ラボに保管されている。

C 結果

樹種同定結果を表56に示す。針葉樹のマツ属の1分類群、広葉樹のヤナギ属と、オニグルミ、クマシデ属イヌシデ節（以下イヌシデ節）、クリ、ブナ属、コナラ属コナラ節（以下コナラ節）、ガマズミ属の7分類群が見いだされた。クリとイヌシデ節が2点見いだされたほかは、1点の産出数であった。

遺構別に出土した樹種を記載する。

SG100：自然木（試料 No.21）はマツ属であった。

SD119：端部に加工痕がある加工木（試料 No.22）はクリであった。

SE96：井戸枠の破砕片と思われる加工木片（試料 No.23）はクリであった。

SG120：自然木（試料 No.24）はクマシデ属イヌシデ

節であった。

SG121：自然木（試料 No.25～30）はヤナギ属、オニグルミ、イヌシデ節、ブナ属、コナラ節、ガマズミ属がそれぞれ1点であった。

以下に材組織の特徴や第296～298図に1分類群1点の写真を示し、同定の根拠とする。そのほか、生態・分布・材質を記載する。

マツ属 *Pinus* マツ科

（試料 No.21）

（第296図1a～1c）

垂直・水平樹脂道がある針葉樹材。分野壁孔は窓状。仮道管が観察できないため、マツ属の同定に留めた。

ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科

（試料 No.27）

（第296図2a～2c）

やや小型で丸い管孔が単独あるいは放射方向に2～3個複合して、均一に密に散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列異性で、道管との壁孔は大型で密に配列する。

日本産のヤナギ属には40種あり、落葉高木または低木である。材は軽軟で、強度や耐久性は低いが、加工は容易である。

オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var.

sachalinensis (Miyabe et Kudo) Kitam. クルミ科

（試料 No.25）

（第297図3a～3c）

中型で丸い管孔が単独あるいは放射方向に2～3個複合して、年輪内で徐々に径を減じながら疎らに散在する半環孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は周囲状および接線状。放射組織は同性で3～4細胞幅。

オニグルミは、落葉高木で加工は容易で、狂いが少なく粘りのある材である。材の保存性はあまり良くない。

クマシデ属イヌシデ節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus*

カバノキ科

（試料 No.29）

（第297図4a～4c）

小型で丸い管孔が単独あるいは放射方向に2～数個複合して散在する散孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は短接線状～接線状。放射組織は異性で2～3細胞幅の小型のものと大型の複合状のものからなる。

クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科

(試料 No.23)

(第 297 図 5 a ~ 5 c)

大型の道管が年輪界に数列並び、それ以外の部分では径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。放射組織は単列で同性である。道管の穿孔は単穿孔、放射組織と道管の壁孔は柵状である。

クリは北海道（石狩・日高地方以南）・本州・四国・九州の丘陵から山地に分布する落葉高木で高さ 20 m ほどになる。材は耐朽性が強く、水湿に耐え、保存性がきわめて高い。

ブナ属 *Fagus* ブナ科

(試料 No.28)

(第 298 図 6 a ~ 6 c)

小型のやや丸い道管が、ほぼ単独でときに数個複合して密に配列する散孔材。道管の直径は年輪の終わりでやや急に減少する。道管の穿孔は単一または階段状。放射組織は 1 ~ 数列の小型のものから広放射組織までが混在する。

ブナ属には温帯上部に分布する高木性の落葉広葉樹

であるブナとイヌブナがある。ブナは雪に対する生理的・生態的な耐性が高く、日本海側の多雪地帯でしばしば優占林を形成する。イヌブナはそのような地域には分布していない。材はやや重硬で均質、強度もあるが、保存性は低い。

コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科

(試料 No.26)

(第 298 図 7 a ~ 7 c)

年輪のはじめに大型の丸い道管が単独で 1 ~ 2 列に並び、晩材では小型でやや角張った道管が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列同性のものに大型の広放射組織が混在する。

いわゆるナラ類の材で、温帯下部 ~ 暖温帯に分布するコナラ、暖温帯に点在して分布するナラガシワなどが含まれる。いずれも重硬で弾性を持つ材で、保存性は中庸、割裂・加工は困難である

ガマズミ属 *Viburnum* スイカズラ科

(試料 No.30)

(第 298 図 8 a ~ 8 c)

小型でやや角張った単独道管がやや疎らに散在する散

表 56 第 4 次調査出土木材の樹種同定結果 パレオ・ラボ

試料 No.	出土遺構	器種	木取り	樹種	木口の長軸×短軸 (cm)	年代測定番号	備考
21	グリッド：R#-19 遺構：SG100	自然木	芯持丸木	マツ属	4.2 × 3.3	PLD-9128	分枝部
22	グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW113	加工木	みかん割り	クリ	3.6 × 3.0	PLD-9129	
23	グリッド：L#-14# 遺構：SE96	井戸碎片?	柁目	クリ		PLD-9130	
24	グリッド：W-22 遺構：SG120	自然木	みかん割り	クマシデ属イヌシデ節	残存径 6.0	PLD-9131	
25	グリッド：K# ~ L#-14・14# 遺構：SG121	自然木	芯持丸木	オニグルミ	12.3 × 10.9	PLD-9132	
26	グリッド：K# ~ L#-14・14# 遺構：SG121	自然木	芯持丸木	コナラ属コナラ節	11.7 × 6.5	PLD-9133	
27	グリッド：K# ~ L#-14・14# 遺構：SG121	自然木	みかん割り	ヤナギ属	残存径 10.5	PLD-9134	
28	グリッド：K# ~ L#-14・14# 遺構：SG121	自然木	芯持丸木	ブナ属	7.8 × 6.8	PLD-9135	
29	グリッド：K# ~ L#-14・14# 遺構：SG121	自然木	不明	クマシデ属イヌシデ節	不明	PLD-9136	
30	グリッド：K# ~ L#-14・14# 遺構：SG121	自然木	芯持丸木	ガマズミ属	5.0 × 3.5	PLD-9137	

孔材。道管の穿孔は30～40本ほどの横棒からなる階段状。放射組織は異性で4細胞幅くらい。

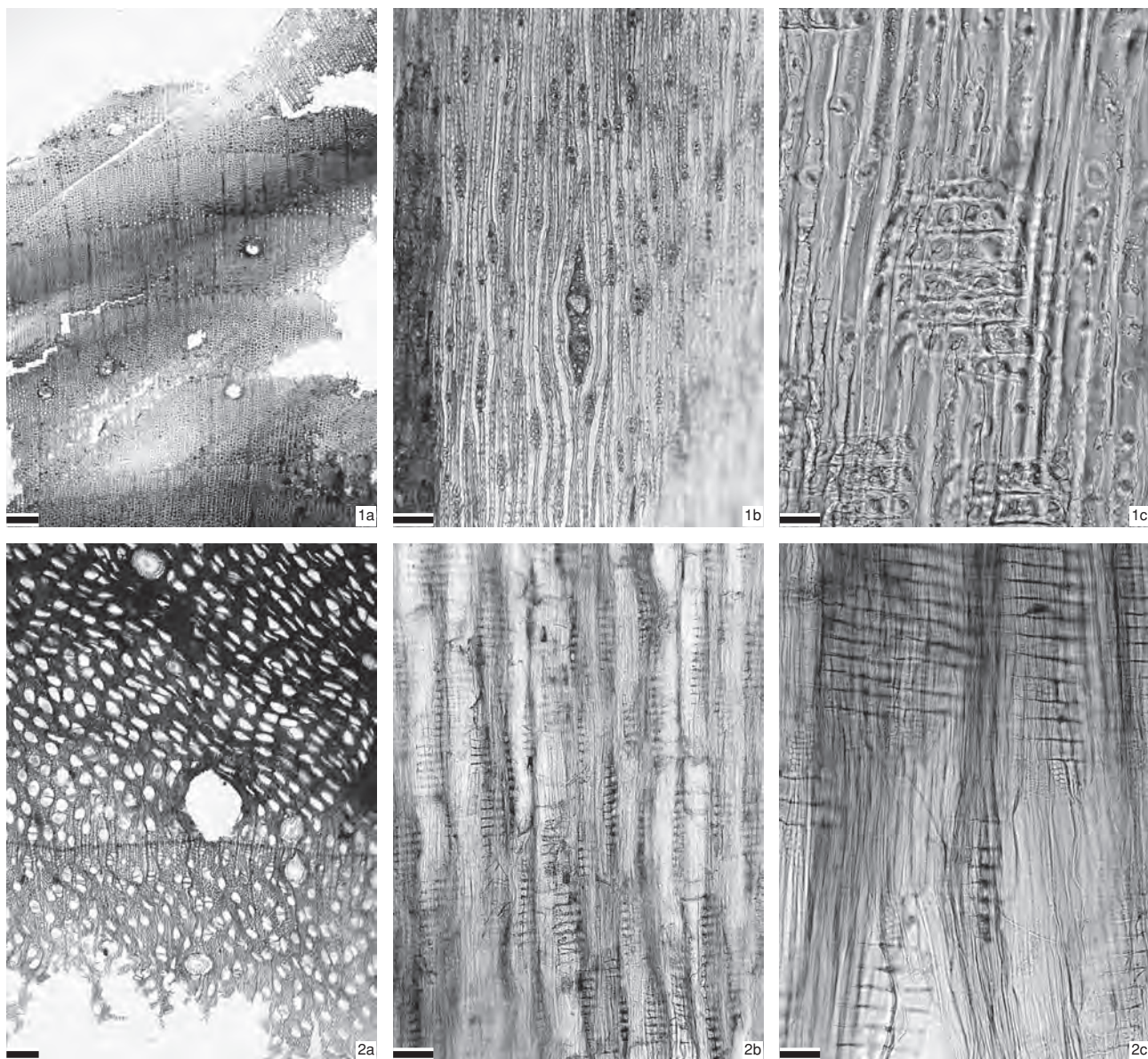
日本産のガマズミ属には15種あり、ガマズミ、オオデマリ、サンゴジュなどがある。ガマズミは日本全国の丘陵帯から山地帯下部に分布する落葉または常緑低木。萌芽再生力が高いため、二次林に良く生育する種である。

D 考 察

SE96の井戸枠材とSD119の杭状の加工がある加工木にはクリが使用されていた。クリは水湿に強く、耐朽性

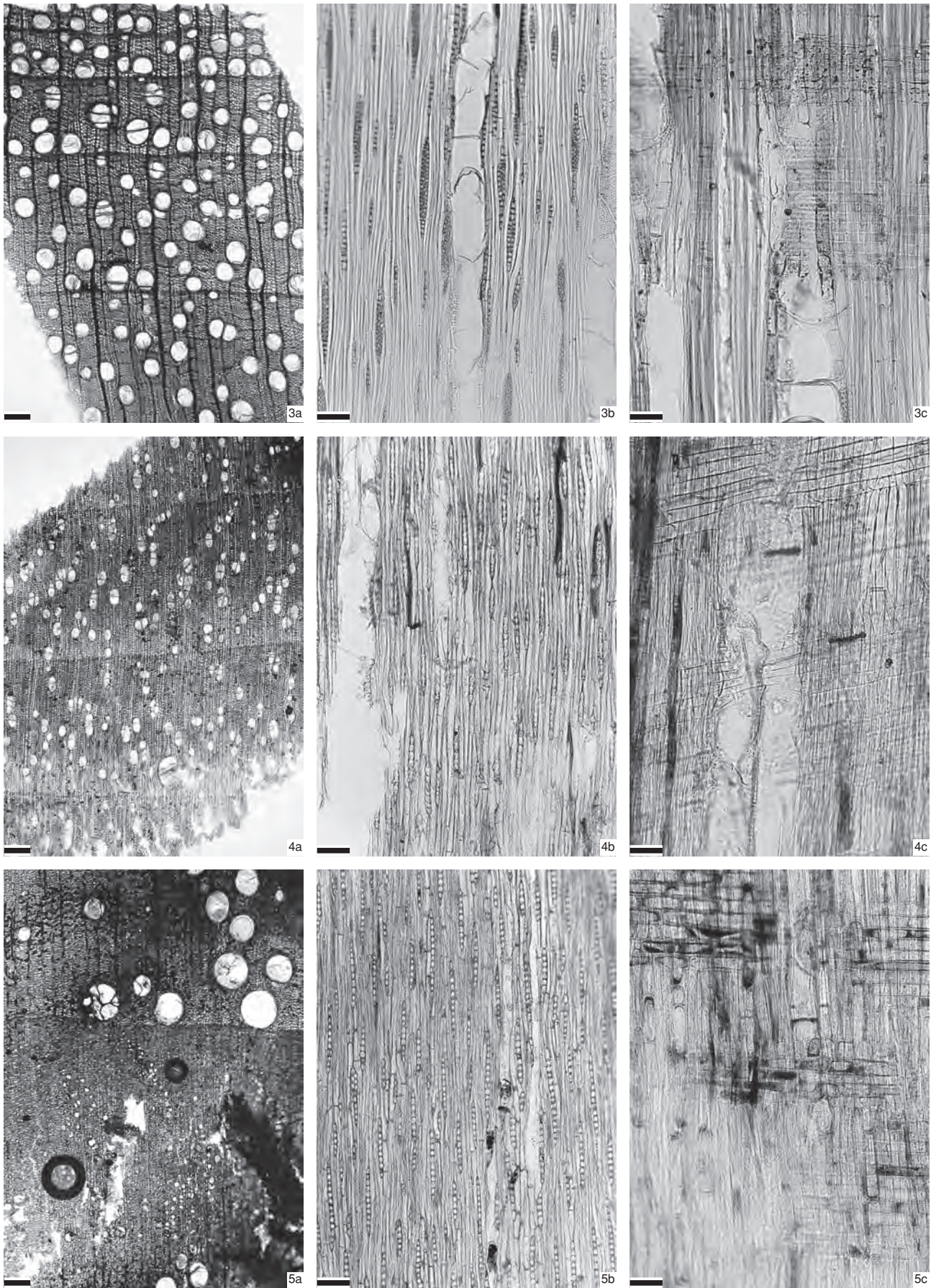
が高いため、しばしば建築材や土木用材に使用される樹種である。常に水の影響をうける環境下でクリが使用されていたことは、用途に見合った樹種が使用されていたと考えられる。

そのほかの広葉樹の自然木は、いずれの樹種も落葉広葉樹林に生育する樹種であった。本遺跡の川や溝周辺にはヤナギ属やオニグルミ、乾いた台地上から丘陵にはイヌシデ節やコナラ節、ガマズミ属、丘陵から山地にはブナ属が生育していたと思われる。



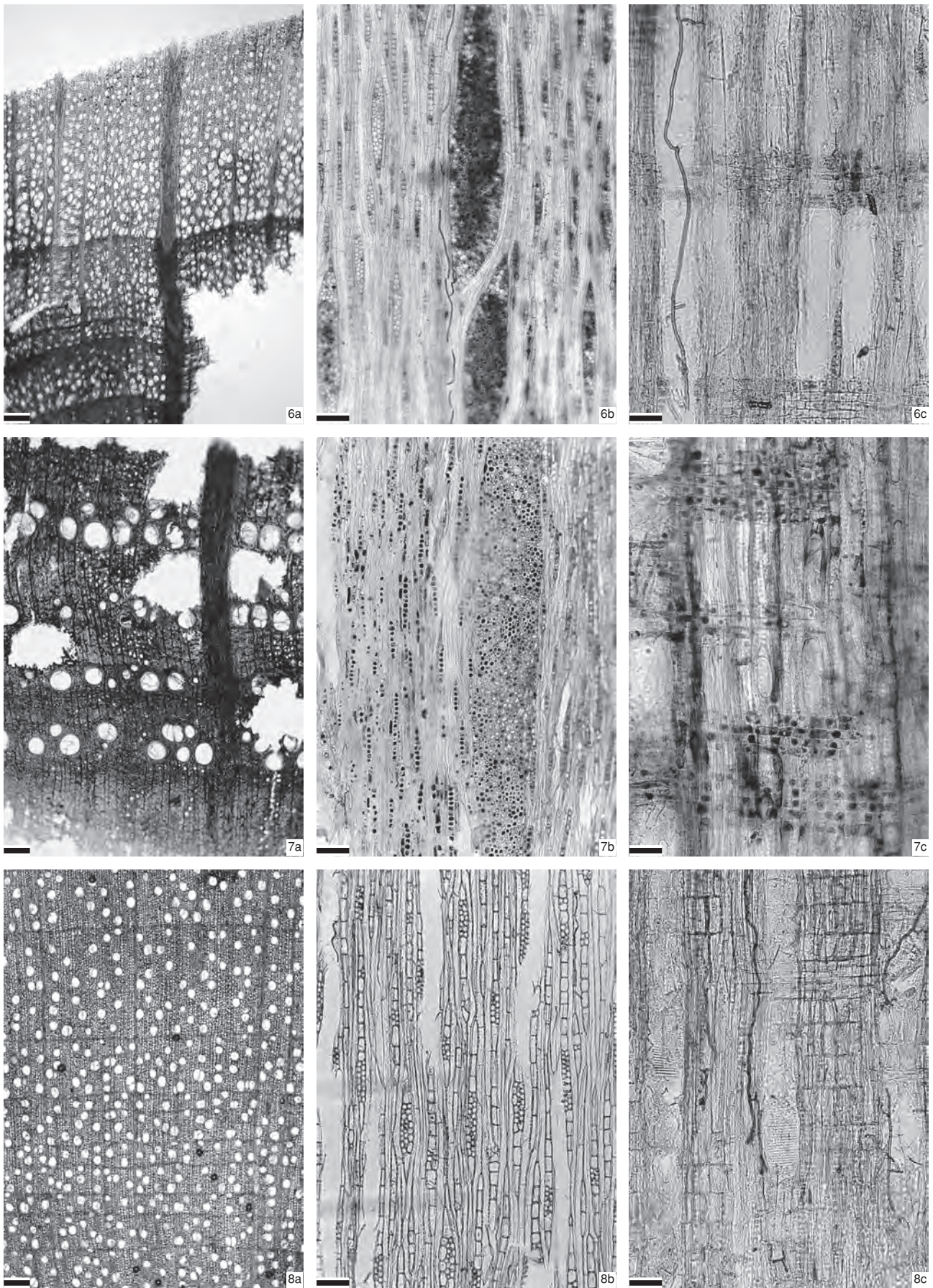
1a—1c: マツ属 (試料 No.21)、2a—2c: ヤナギ属 (試料 No.27)
a: 横断面 (スケール=200 μ m)、b: 接線断面 (スケール=100 μ m)、c: 放射断面 (スケール=1:25 μ m、2:50 μ m)

第296図 木材組織の光学顕微鏡写真(1) パレオ・ラボ



3a—3c: オニグルミ (試料 No.25)、4a—4c: クマシダ属イヌシダ節 (試料 No.29)、5a—5c: クリ (試料 No.23)
 a: 横断面 (スケール=200 μ m)、b: 接線断面 (スケール=100 μ m)、c: 放射断面 (スケール=50 μ m)

第 297 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (2) パレオ・ラボ



6a—6c: プナ属 (試料 No.28)、7a—7c: コナラ属コナラ節 (試料 No.26)、8a—8c: ガマズミ属 (試料 No.30)
a: 横断面 (スケール= 200 μ m)、b: 接線断面 (スケール= 100 μ m)、c: 放射断面 (スケール= 50 μ m)

第 298 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (3) パレオ・ラボ

加速器分析研究所

A はじめに

本報告では、本遺跡周辺の古植生や木材利用を明らかにするために、樹種同定を実施する。

B 試料

試料は、第2次調査検出の河川跡等から出土した自然木4点(試料 No.38～41)と第4次調査で出土した木柱の破片1点(試料 No.42)、第3次調査で出土した木柱10点(試料 No.43～52)である。なおこれらの試料は、同時に AMS 法による年代測定を行っている(第VI章1放射性炭素年代測定 p.335～339 参照)。

C 分析方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴については、(島地・伊東 1982) および (Wheeler 他 1998) を参考にする。また、各分類群の組織配列については、(林 1991) や (伊東 1995・1996・1997・1998・1999) を参考にする。

D 結果

樹種同定結果を表 57 に、主な試料の写真を第 299～301 図に示す。試料 No.39 は樹皮のみで、木部細胞が観察できなかったため種類の同定には至らない。その他の試料はいずれも落葉広葉樹で 5 分類群(コナラ属コナラ亜属コナラ節・カエデ属・トネリコ属・ヤナギ属・クリ属)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。**コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科**

環孔材で、孔圏部はやや疎な 1 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20 細胞高のものと同定放射組織と

がある。

カエデ属 (*Acer*) カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または 2 個が複合して散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～3 細胞幅、1～30 細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

カエデ属を木材組織で区別することは難しいが、試料 No.43 は放射組織が比較的大きい特徴を持つ。山内 (1962)、Ogata (1967) および現生標本との比較から、イタヤカエデ類、テツカエデ、オニモミジ(カジカエデ)等の可能性がある。

トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

環孔材で、孔圏部は 1～2 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または 2 個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～3 細胞幅、1～30 細胞高。

ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または 2～3 個が複合して散在し、年輪界付近でやや管径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1～15 細胞高。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は 3～4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15 細胞高。

E 考察

第2次調査で出土した自然木と第4次調査 SG833 から出土した木柱の破片は、いずれも平安時代の試料と考えられているが、木柱の破片については出土状況から中世の可能性もあるとされる。

自然木は、樹皮1点を除く3点がコナラ節、カエデ属、トネリコ属に同定された。いずれも落葉高木であり、河畔林や湿地林を構成する種類を含むことから、本遺跡周囲の沖積地にこれらの落葉広葉樹が生育していたと考えられる。本地域では、完新世の古植生変遷に関する資料

が少ないため、今回の結果は貴重な資料である。今後、花粉や種実分析等も実施し、後背山地の森林植生や草本植生も含めた古植生について検討することが望まれる。

SG833 から出土した木柱の破片は、角材状の資料であり、トネリコ属に同定された。トネリコ属は、自然木にも確認されていることから、周囲で入手が可能であったと考えられる。トネリコ属の木材は、重硬で強度が高

い材質を有しており、こうした材質から選択・利用された可能性がある。

山形県における古代の柱材の木材利用は、遊佐町木原遺跡、川西町太夫小屋1遺跡、米沢市古志田東遺跡、米沢市馳上遺跡、酒田市中谷地遺跡、酒田市土崎遺跡等で調査例が知られている（山形県埋蔵文化財センター 1994・1996 パリノ・サーヴェイ株式会社 1996・2002a

表 57 出土木材の樹種同定結果 加速器分析研究所

試料 No.	試料データ	器 種	樹 種	年代測定番号	補正年代
38	調査年次：2次 トレンチ：T21 層位：堆積土	自然木	トネリコ属	IAAA-80790	120 ± 30BP
39	調査年次：2次 トレンチ：T5 遺構：SG3 (3・4次 SG771) 層位：河床面付近	自然木	樹皮	IAAA-80791	1230 ± 30BP
40	調査年次：2次 トレンチ：T15 遺構：SG5 (3・4次 SG771) 層位：河床面付近	自然木	カエデ属	IAAA-80792	1380 ± 30BP
41	調査年次：2次 トレンチ：T15 遺構：SG5 (3・4次 SG771) 層位：河床面付近	自然木	コナラ属コナラ亜属コナラ節	IAAA-80793	1450 ± 30BP
42	調査年次：4次 グリッド：D-3 遺構：SG833 層位：上部～中部堆積土 遺物 No.：RW10	角材の破片	トネリコ属	IAAA-80794	1200 ± 30BP
43	調査年次：3次 グリッド：R-16 遺構：SP537	木柱	カエデ属	IAAA-90219	1,550 ± 30BP
44	調査年次：3次 グリッド：Q-12 遺構：SP596	木柱	クリ	IAAA-90220	1,240 ± 30BP
45	調査年次：3次 グリッド：P-12 遺構：SP598	木柱	クリ	IAAA-90221	1,240 ± 30BP
46	調査年次：3次 グリッド O-13 遺構：SP697	木柱	クリ	IAAA-90222	290 ± 30BP
47	調査年次：3次 グリッド：N-13 遺構：SP705	木柱	ヤナギ属	IAAA-90223	310 ± 30BP
48	調査年次：3次 グリッド：N-13 遺構：SP705	木柱	ヤナギ属	IAAA-90224	340 ± 30BP
49	調査年次：3次 グリッド：V-17 遺構：SP863	木柱	クリ	IAAA-90225	1,650 ± 30BP
50	調査年次：3次 グリッド：U-16 遺構：SP874	木柱	コナラ属コナラ亜属コナラ節	IAAA-90226	1,230 ± 30BP
51	調査年次：3次 グリッド：V-16 遺構：SP958	木柱	クリ	IAAA-90227	1,190 ± 30BP
52	調査年次：3次 グリッド：V-16 遺構：SP959	木柱	コナラ属コナラ亜属コナラ節	IAAA-90228	590 ± 30BP

汐見・岡田 2001 米沢市教育委員会 2001)。これらの報告をみると、比較的解析点数の多い遺跡ではクリの利用が多く見られるが、中谷地遺跡ではスギやカツラ、土崎遺跡ではスギが多い結果が得られており、時期や地域によって木材利用が異なる例もある。トネリコ属は、木原遺跡でクリに混じって確認された例が1例あるが、今回のような角材状の資料とは形状が異なっている。また、中世の資料では、米沢市上浅川遺跡でヒノキ、山形市長表遺跡でクリとヤナギ属が確認された例がある（米沢市教育委員会 1985 山形県埋蔵文化財センター 2001）。一方、古代～中世の資料で建築部材以外の用途にトネリコ属が確認された例は知られていない。古代～中世の資料については、樹種選択に関する資料そのものが少ないため、今後さらに資料を蓄積することが望まれる。

第3次調査で出土した木柱は、いずれも古墳時代以降とされているが、以下に詳述するが年代測定結果で $1650 \pm 30 \sim 290 \pm 30\text{BP}$ の値が得られており、中世から近世初頭の年代を示す試料もみられる。これらの木柱は、クリを中心に合計4種類（ヤナギ属・コナラ節・クリ・カエデ属）の広葉樹が認められた。

木柱は年代測定結果から、 $1650 \pm 30 \sim 1550 \pm 30\text{BP}$ （試料 No.43・49）、 $1240 \pm 30 \sim 1190 \pm 30\text{BP}$ （試料 No. 44・45・50・51）、 $590 \pm 30\text{BP}$ （試料 No.52）、 $340 \pm 30 \sim 290 \pm 30\text{BP}$ （試料 No.46～48）の4時期に概ね区分できる。

$1650 \pm 30 \sim 1550 \pm 30\text{BP}$ の年代値が得られた2点（試料 No.43・49）は、調査区の中央付近（試料 No.43）と調査区西端付近（試料 No.49）で、検出地点が離れている。樹種は、カエデ属とクリであり、比較的重硬で強度の高い木材が利用されている。

$1240 \pm 30 \sim 1190 \pm 30\text{BP}$ の年代値が得られた4点（試料 No.44・45・50・51）のうち、試料 No.44・45（SP596・598）は、3基の柱穴が直線上にほぼ等間隔で配列したうちの2基であり、年代測定結果では全く同じ年代値（ $1240 \pm 30\text{BP}$ ）が得られていることから、同じ遺構の柱穴の可能性がある。樹種はいずれもクリであり、強度・耐朽性に優れた木材を利用したことが推定される。一方、試料 No.50・51は、共に調査区西側から検出されているが、位置はやや離れている。柱の樹種は、クリとコナラ節で異なるが、共に重硬で強度の高い木材を利用している点では共通点がある。

$590 \pm 30\text{BP}$ の年代値が得られた1点（試料 No.52）は、試料 No.51の東側から検出されている。コナラ節であり、強度の高い木材を利用していることが推定される。

$340 \pm 30 \sim 290 \pm 30\text{BP}$ の年代値が得られた3点（試料 No.46～48）のうち、試料 No.47・48は同じ柱穴（SP705）内から出土しており、年代値もほぼ同時期を示す。いずれもヤナギ属であることから、本来は同一個体であった可能性がある。ヤナギ属の木材は、強度および保存性が低いことから、他の柱材とは異なる利用状況であった可能性もある。試料 No.46は、試料 No.47・48の西側の柱穴（SP697）から出土している。クリが利用されており、強度・耐朽性の高い木材が利用されたと考えられる。

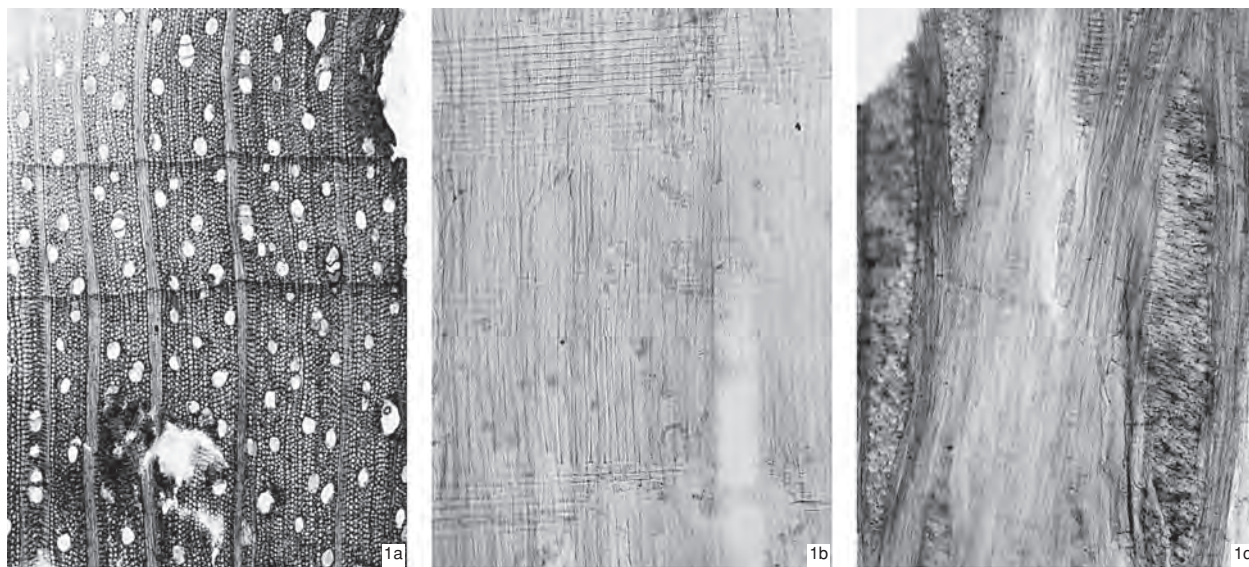
山形県内では、これまでも古墳時代以降の柱材について、多くの樹種同定が行われている。古墳時代中期～後期の資料では、梅野木前2遺跡で1棟の掘立柱建物を構成する柱4点が全てクリに同定されている（山形市教育委員会 2004）。古墳時代末期から平安時代前半にかけての資料では、木原遺跡、太夫小屋1遺跡、古志田東遺跡、馳上遺跡、的場遺跡でクリを主体とした結果が得られているが、石田遺跡ではコナラ節を主体として、クリが混じる組成となっている（山形県埋蔵文化財センター 1994 汐見・岡田 2001 米沢市教育委員会 2001 パリノ・サーヴェイ株式会社 2002a 株式会社吉田生物研究所 2004 北野ほか 2004）。平安時代の資料では、中谷地遺跡でスギやカツラを主体とした結果が報告されており、土崎遺跡では6点全点がスギ、山形元屋敷遺跡では2点がコナラ節に同定されている（山形県埋蔵文化財センター 1996 パリノ・サーヴェイ株式会社 1996 2002b）。平安時代では古墳時代から平安時代前半にかけて多く見られたクリの利用が減る傾向があるが、今回の結果では時期による木材利用の違いは明瞭ではない。

中世から近世にかけての資料では、長表遺跡の室町時代前半の柱材がクリとヤナギ属に同定されており（山形県埋蔵文化財センター 2001）、今回の $340 \pm 30 \sim 290 \pm 30\text{BP}$ の年代値が得られた3点と結果が似ている。また白鳥館跡では、戦国時代から江戸時代初期の柱材にクリ、コナラ節、ケンボナシ属が確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社 2001）。この他、飛泉寺跡遺跡の柱穴内から出土した炭化材の樹種同定で、クリを中心に針葉樹の複維管束亜属、広葉樹のモクレン属、トネリコ属

が混じる組成が確認された例がある（パリノ・サーヴェイ株式会社 2004）。中世から近世の資料は、遺跡によって種類構成が異なるが、クリが利用されている点で共通点があり、今回の結果とも調和的といえる。

引用文献

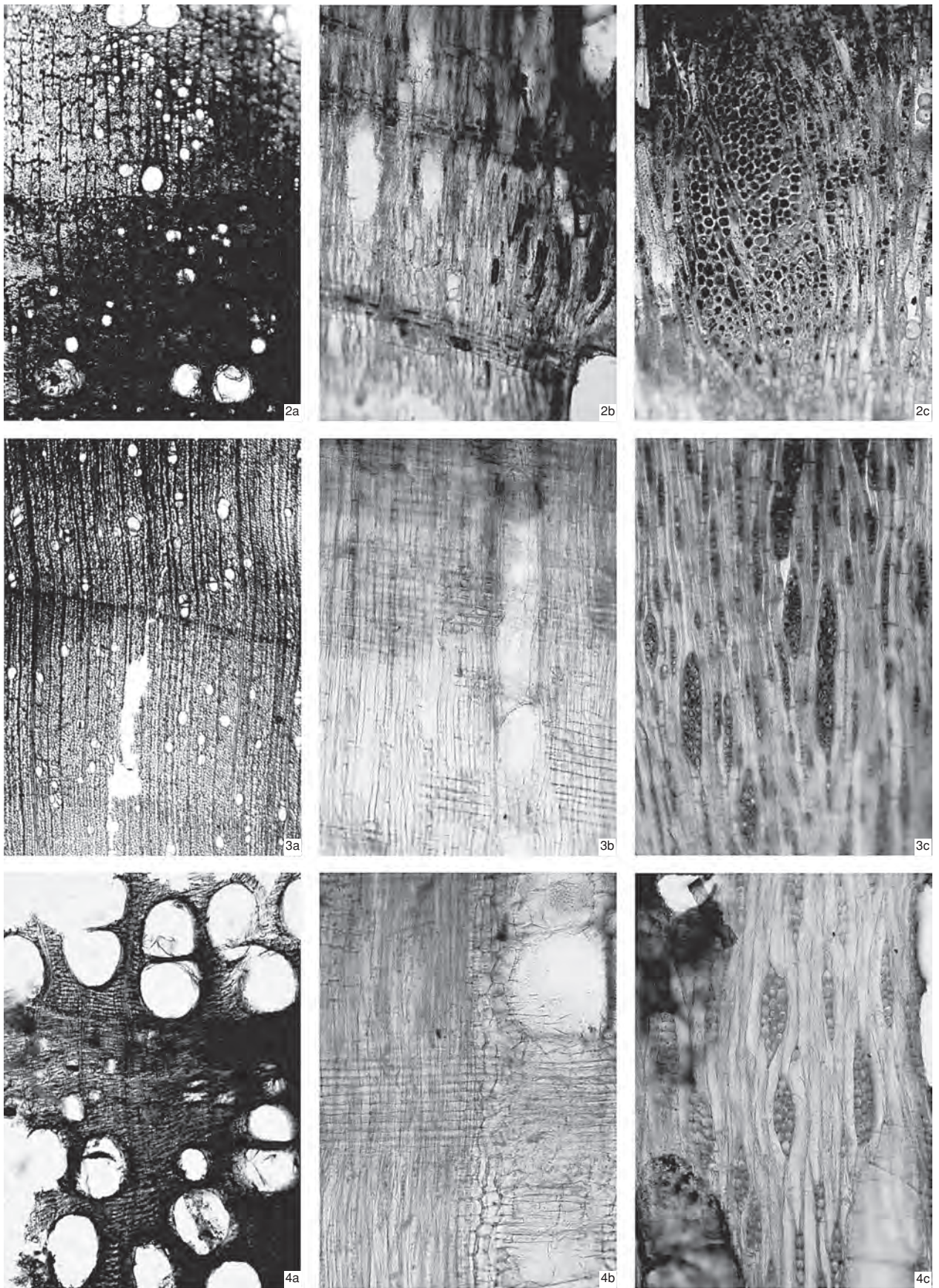
林昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
 伊東隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料.31』p.81～p.181 京都大学木質科学研究所
 伊東隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料.32』p.66～p.176 京都大学木質科学研究所
 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料.33』p.83～p.201 京都大学木質科学研究所
 伊東隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料.34』p.30～p.166 京都大学木質科学研究所
 伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料.35』p.47～p.216 京都大学木質科学研究所
 株式会社吉田生物研究所 2004 「山形県の場合遺跡出土木製品の樹種調査結果」『の場合遺跡第2・3次発掘調査報告書』p.29～p.33 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第126集 財団法人山形県埋蔵文化財センター
 北野博司・松井敏也・小林啓 2004 「石田遺跡出土木質遺物の樹種」『石田遺跡発掘調査報告書』附編 p.1～p.8 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第122集 財団法人山形県埋蔵文化財センター
 Ogata Ken 1967 「A Systematic Study of the Genus Acer」『演習林報告63』p.89～p.206 東京大学農学部付属演習林
 パリノ・サーヴェイ株式会社 1996 「土崎遺跡 SK4 土壌分析・樹種同定」『土崎遺跡 梵天塚遺跡 中谷地遺跡発掘調査報告書』附編 p.1～p.11 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第42集 財団法人山形県埋蔵文化財センター
 パリノ・サーヴェイ株式会社 2001 「白鳥館跡から出土した木材の年代と樹種」『白鳥館跡発掘調査報告書』附編 p.1～p.3 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第85集 財団法人山形県埋蔵文化財センター
 パリノ・サーヴェイ株式会社 2002a 「馳上遺跡から出土した柱材の樹種」『馳上遺跡発掘調査報告書』附編 p.1～3 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第101集 財団法人山形県埋蔵文化財センター
 パリノ・サーヴェイ株式会社 2002b 「山形元屋敷遺跡から出土した木材の樹種」『山形元屋敷遺跡発掘調査報告書』p.19～p.20 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第109集 財団法人山形県埋蔵文化財センター
 パリノ・サーヴェイ株式会社 2004 「自然科学分析」『飛泉寺跡遺跡発掘調査報告書』p.44～p.47 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第134集 財団法人山形県埋蔵文化財センター
 島地謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』p.176 地球社
 汐見真・岡田文男 2001 「山形県太夫小屋1遺跡出土木製品の樹種調査結果」『太夫小屋1・2・3遺跡発掘調査報告書』附編 p.1～p.2 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第81集 財団法人山形県埋蔵文化財センター
 Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 「広葉樹材の識別」『IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修）p.122 海青社 [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. 1989 *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*]
 山形市教育委員会 2004 「河原田遺跡 梅野木前2遺跡発掘調査報告書」p.101 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第22集 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1994 「木原遺跡第2次発掘調査報告書」p.38 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第8集 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1996 「土崎遺跡 梵天塚遺跡 中谷地遺跡発掘調査報告書」p.181 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第42集 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2001 「長表遺跡発掘調査報告書」p.63 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第87集
 山内文 1962 「カエデ属の材の解剖学的識別」『資源科学研究所彙報58～59』p.3～p.11
 米沢市教育委員会 2001 「古志田東遺跡発掘調査報告書」p.282 米沢市埋蔵文化財調査報告書第73集
 米沢市教育委員会 1985 「上浅川1次・2次調査報告書」p.53 米沢市埋蔵文化財調査報告書第14集



1 カエデ属 (試料No.43)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

300 μm : a
 200 μm : b,c

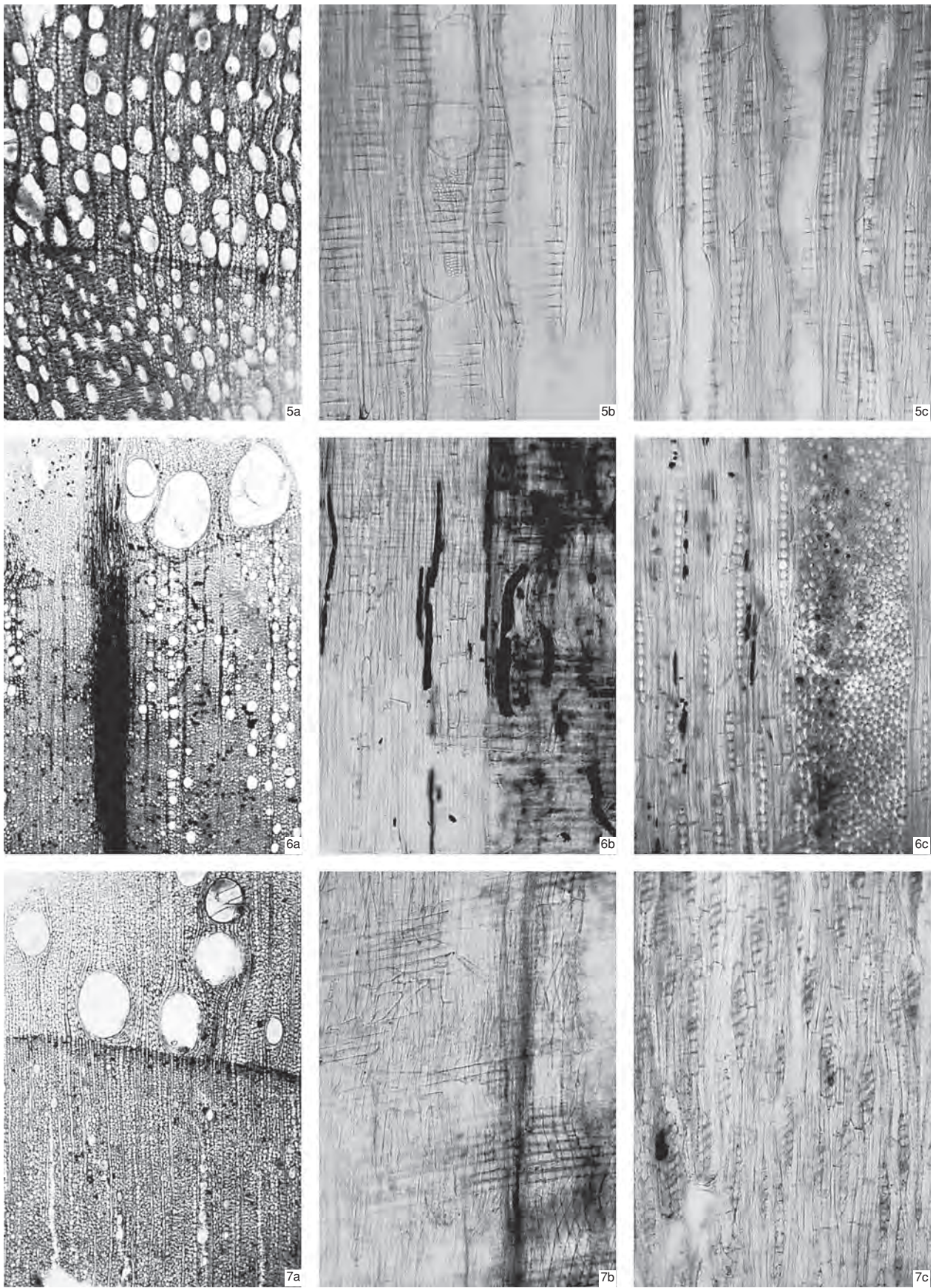
第 299 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (1) 加速器分析研究所



2 コナラ属コナラ亜属コナラ節 (試料 No.41)
 3 カエデ属 (試料 No.40)
 4 トネリコ属 (試料 No.42)
 a: 木口、b: 柎目、c: 板目

300 μm : a
 200 μm : b,c

第 300 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (2) 加速器分析研究所



5 ヤナギ属 (試料 No.47)
 6 コナラ属コナラ亜属コナラ節 (試料 No.50)
 7 クリ (試料 No.46)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

300 μm : a
 200 μm : b,c

第 301 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (3) 加速器分析研究所

(株) 吉田生物研究所

A 試料

試料は山形県矢馳A遺跡第3・4次調査で出土した篋状木製品1点、食器具1点、祭祀具9点、容器12点、遊戯具2点、建築部材152点、用途不明品37点の合計216点である。

B 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柎目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

C 結果

出土した試料の樹種同定結果(針葉樹4種、広葉樹12種、樹皮1種)を表58～65に、木材組織の顕微鏡写真を第302～373図に示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ (*Cephalotaxus Haringtonia* K. Koch f. *drupacea* Kitamura)

(試料 No.68・71)

(第307図16・第308図19)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は漸進的で、晩材の幅は非常に狭く、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柎目では放射組織の分野壁孔はトウヒ型で1分野に1～2個ある。仮道管内部には螺旋肥厚が見られる。短冊形をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続(ストランド)して存在する。板目では放射組織はほぼ単列であった。イヌガヤは本州(岩手以南)、四国、九州に分布する。

マツ科ツガ属 (*Tsuga* sp.)

(試料 No.184・221)

(第346図132・第358図169)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。柎目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔はスギ型、ヒノキ型で1分野に2～4個ある。細胞壁には数珠状末端壁がある。上下両端には放射仮道管がある。板目では放射組織はすべて単列であった。ツガ属はツガ、コメツガがあり、本州、四国、九州に分布する。

スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don)

(試料 No.55～60・62・64～66・69・70・73～80・82・83・85～93・95～107 A・108・111～161・165・166・168～180・182・186～189・191・192・194～220・222～226・229・230・232～241・243～251・253～255・258・262～266)

(第302～373図3～8・10・12～14・17・18・21～28・30・31・33～41・43～55 A・56・59～109・113・114・116～128・130・134～137・139・140・142～168・170～174・177・178・180～189・191～199・201～203・206・210～214)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柎目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1～3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)

(試料 No.53・54・190)

(第302図1・2・第348図138)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柎目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2～4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

カツラ科カツラ属カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.)

(試料 No.61・162～164)

(第304図9・第338図110・第339図111～112)

散孔材である。木口ではやや小さい薄壁で角張っている道管(～100 μ m)がおおむね単独または2～3個不規則に接合して平等に分布する。道管の占有面積は大きい。放射柔組織は不顕著。柎目では道管は階段穿孔と側壁に階段壁孔を有する。放射組織は平伏、方形と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状の壁孔がある。道管内腔には充填物(チロース)がある。板目では放射組織は方形ないし直立細胞か

らなる単列のもの、方形ないし直立細胞の単列部と平伏細胞の2列部からなるものがある。高さ～900 μm からなる。カツラは北海道、本州、四国、九州に分布する。

モクレン科モクレン属 (*Magnolia* sp.)

(試料 No.107B)

(第 320 図 55B)

散孔材である。木口ではやや小さい道管 (～110 μm) が単独ないし2～4個複合して多数分布する。軸方向柔組織は1～2層の幅で年輪界に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に階段壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性と平伏と直立細胞からなる異性がある。道管放射組織間壁孔は階段状である。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ～700 μm となっている。モクレン属はホオノキ、コブシなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)

(試料 No.63・72)

(第 305 図 11・第 308 図 20)

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管 (～270 μm) が1列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している (イニシアル柔組織)。放射組織は1～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の1～3列のものと大部分を占める6～7細胞列のほぼ大きさの様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

ノウゼンカズラ科キリ属キリ (*Paulownia tomentosa* Steud.)

(試料 No.167)

(第 340 図 115)

環孔材である。木口では大道管 (～300 μm) が単列ないし多列で孔圏部を形成している。孔圏外への移行は緩やかで数個複合して散在する。軸方向柔細胞は顕著で周

圍状、翼状、連合翼状、帯状を呈する。柾目では道管は単穿孔と内腔にチロースを有する。道管放射組織間壁孔は小型から中型である。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は1～4細胞列、高さ～500 μm からなる。軸方向柔細胞、木繊維ともに階層状である。キリは古くから全国で栽培されており、特に東北、関東北部、新潟、岐阜で盛んである。原産地は不明。

カバノキ科アサダ属アサダ (*Ostrya japonica* Sarg.)

(試料 No.67・256・257・259・261・267・268)

(第 306 図 15・第 369～371 図 204・205・207・209・第 373 図 215・216)

散孔材である。木口ではやや大きい道管 (～200 μm) が単独ないし数個放射方向に複合して分布している。軸方向柔細胞は年輪界と接線状が顕著である。柾目では道管は単穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏細胞からなる同性と直立、平伏細胞からなる異性がある。道管放射組織間壁孔は中型である。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ～750 μm であった。アサダは北海道、本州、四国、九州に分布する。

ブナ科ブナ属 (*Fagus* sp.)

(試料 No.227)

(第 360 図 175)

散孔材である。木口ではやや小さい道管 (～110 μm) がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少が見られる配列をする。放射組織には単列のもの、2～3列のもの、非常に列数の広いものがある。柾目では道管は単穿孔と階段穿孔を持ち、内部には充填物 (チロース) が見られる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、2～3列、広放射組織の3種類がある。広放射組織は肉眼でも1～3mmの高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはっきりと見られる。ブナ属はブナ、イヌブナがあり、北海道 (南部)、本州、四国、九州に分布する。

ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

(試料 No.81・84・94・109・181・183・252)

(第 311 図 29・第 312 図 32・第 315 図 42・第 321 図 57・第 345 図 129・131・第 368 図 200)

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管 (～500 μm) が年輪にそって幅のかなり広

い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2～3個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

クワ科クワ属 (*Morus sp.*) ?

(試料 No.231)

(第 361 図 179)

環孔材である。木口では年輪に沿って大道管がみられる。孔圏外の小道管については収縮で分布等不明。柾目では大道管は単穿孔と対列壁孔を有する。小道管には加えて螺旋肥厚を有する。放射組織は直立と平伏細胞からなり異性。板目では放射組織は1～4細胞列、高さ～500 μ mからなる。遺物が乾燥による収縮で解剖学的特長を捉えることが難しかった。

カエデ科カエデ属 (*Acer sp.*)

(試料 No.185)

(第 346 図 133)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～100 μ m）が単独ないし数個複合して分布する。軸方向柔細胞は年輪界で顕著である。木繊維の壁に厚薄があり木口面で濃淡模様が出る。柾目では道管は単穿孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ～1mmからなる。カエデ属はウリカエデ、イタヤカエデ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

トチノキ科トチノキ属トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume)

(試料 No.193)

(第 349 図 141)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～80 μ m）が単独かあるいは2～4個放射方向に接する複合管孔を構成する。道管の大きさ、分布数ともに年輪中央部で大きく年輪界近辺ではやや小さくなる傾向がある。軸方向柔細胞は1～3細胞の幅で年輪の一番外側（ターミナル状）に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁

孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔は六角形をした比較的大きな壁孔が密に詰まって篩状になっている（上下縁辺の1～2列の柔細胞に限られる）。板目では放射組織は単列で大半が高さ～300 μ mとなっている。それらは比較的大きさが揃って階層状に規則正しく配列しており、肉眼では微細な縞模様（リップルマーク）として見られる。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。

ミズキ科ミズキ属 (*Cornus sp.*)

(試料 No.228)

(第 360 図 176)

散孔材である。木口では中庸の道管（～130 μ m）が単独あるいは2～4個放射方向に複合して分布する。道管の大きさは年輪中央部で大きくなる傾向がある。年輪界は波状である。柾目では道管は階段穿孔と側壁に多数の壁孔を有する。放射組織は平伏、方形と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1～4細胞列、高さ～1mmである。ミズキ属はミズキ、ヤマボウシ等があり北海道、本州、四国、九州に分布する。

モクセイ科トネリコ属 (*Fraxinus sp.*)

(試料 No.110・260)

(第 321 図 58・第 371 図 208)

環孔材である。木口では大道管（～400 μ m）が単～数列で孔圏部を形成している。孔圏外では厚壁の小道管が単独ないし2～4個放射方向に複合して散在している。軸方向柔細胞は顕著で周囲状、翼状、連続翼状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織は平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は1～4細胞列、高さ～400 μ mからなる。トネリコ属はシオジ、ヤチダモ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

樹皮

(試料 No.242)

(第 365 図 190)

横断面と放射断面では死滅した篩部、軸方向柔細胞、じん皮繊維がある程度層をなして並んでいる。途切れ途切れの放射組織が見られる。接線断面では紡錘形の放射組織と死滅した篩部、じん皮繊維、軸方向柔細胞の複雑に入り混じった状態が見られる。

参考文献

- 島地謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版
 島地謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』地球社
 伊東隆夫 1999 『日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V』京都大学木質科学研究所
 北村四郎・村田源 1979 『原色日本植物図鑑木本編 I・II』保育社
 深澤和三 1997 『樹体の解剖』海青社
 奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録 近畿古代篇』奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊
 奈良国立文化財研究所 1993 『木器集成図録 近畿原始篇』奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊

使用顕微鏡

Nikon DS-Fi1

表 58 出土木材の樹種同定結果 (1) 吉田生物研究所

試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種	試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種
53	302-1	調査年次：3 次 グリッド：R-18 遺構：SE1132 遺物 No.：RW69	齋串	ヒノキ科アスナロ属	5 (62)	305-10	調査年次：3 次 グリッド：P-12 遺構：SE616 遺物 No.：RW53	曲物	スギ科スギ属スギ
54	302-2	調査年次：3 次 グリッド：R-18 遺構：SE1132 遺物 No.：RW70	齋串	ヒノキ科アスナロ属	63	305-11	調査年次：3 次 グリッド：H-10 遺構：SG771 遺物 No.：RW26	皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
55	302-3	調査年次：3 次 グリッド：R-18 遺構：SE1132 遺物 No.：RW71	齋串	スギ科スギ属スギ	64	305-12	調査年次：3 次 グリッド：I-10 遺構：SG771 遺物 No.：RW108	曲物	スギ科スギ属スギ
56	303-4	調査年次：3 次 グリッド：R-18 遺構：SE1132 遺物 No.：RW72	齋串	スギ科スギ属スギ	65	306-13	調査年次：3 次 グリッド：B～D-3・4 遺構：SG833 遺物 No.：RW76	齋串	スギ科スギ属スギ
57	303-5	調査年次：3 次 グリッド：R-18 遺構：SE1132 遺物 No.：RW73	齋串	スギ科スギ属スギ	66	306-14	調査年次：3 次 グリッド：C-3 遺構：SG833 遺物 No.：RW40	曲物	スギ科スギ属スギ
58	303-6	調査年次：3 次 グリッド：R-18 遺構：SE1132 遺物 No.：RW74	齋串	スギ科スギ属スギ	67	306-15	調査年次：3 次 グリッド：B～D-3・4 遺構：SG833	鏡状木器	カバノキ科アサダ属 アサダ
59	304-7	調査年次：3 次 グリッド：R-18 遺構：SE1132 遺物 No.：RW75	齋串	スギ科スギ属スギ	68	307-16	調査年次：3 次 グリッド：W-18 遺構：SG1048 遺物 No.：RW157	加工木	イヌガヤ科イヌガヤ属 イヌガヤ
60	304-8	調査年次：3 次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：RW50	曲物	スギ科スギ属スギ	69	307-17	調査年次：4 次 グリッド：D#-2# 遺構：SG833 遺物 No.：RW2	加工木	スギ科スギ属スギ
61	304-9	調査年次：3 次 グリッド：P-14 遺構：SE592	井戸枠	カツラ科カツラ属 カツラ	70	307-18	調査年次：4 次 グリッド：D-3 遺構：SG833 遺物 No.：RW7	齋串	スギ科スギ属スギ

表 59 出土木材の樹種同定結果 (2) 吉田生物研究所

試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種	試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種
71	308-19	調査年次：4次 グリッド：D-2# 遺構：SG833 遺物 No.：RW8	加工木	イヌガヤ科イヌガヤ属 イヌガヤ	85	312-33	調査年次：4次 グリッド：L#-15 遺構：SE96	箸	スギ科スギ属スギ
72	308-20	調査年次：4次 グリッド：D-2# 遺構：SG833	皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ	86	313-34	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：AA6W 下	井戸枠	スギ科スギ属スギ
73	308-21	調査年次：4次 グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW76	板材	スギ科スギ属スギ	87	313-35	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：E19	井戸枠	スギ科スギ属スギ
74	309-22	調査年次：4次 グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW77	板材	スギ科スギ属スギ	88	313-36	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：W2	井戸枠	スギ科スギ属スギ
75	309-23	調査年次：4次 グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW78	板材	スギ科スギ属スギ	89	314-37	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：N27	井戸枠	スギ科スギ属スギ
76	309-24	調査年次：4次 グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW79	板材	スギ科スギ属スギ	90	314-38	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：N30	井戸枠	スギ科スギ属スギ
77	310-25	調査年次：4次 グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW80	板材	スギ科スギ属スギ	91	314-39	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：N28	井戸枠	スギ科スギ属スギ
78	310-26	調査年次：4次 グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW81	板材	スギ科スギ属スギ	92	315-40	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：E17	井戸枠	スギ科スギ属スギ
79	310-27	調査年次：4次 グリッド：U-20 遺構：SD119 遺物 No.：RW111	板材	スギ科スギ属スギ	93	315-41	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：S21	井戸枠	スギ科スギ属スギ
80	311-28	調査年次：4次 グリッド：U-20 遺構：SD119 遺物 No.：RW112	板材	スギ科スギ属スギ	94	315-42	調査年次：3次 グリッド：P-14 遺構：SE592 遺物 No.：A	井戸枠	ブナ科クリ属クリ
81	311-29	調査年次：4次 グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW113	板材	ブナ科クリ属クリ	95	316-43	調査年次：3次 グリッド：P-14 遺構：SE592 遺物 No.：B	井戸枠	スギ科スギ属スギ
82	311-30	調査年次：4次 グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW114	板材	スギ科スギ属スギ	96	316-44	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：ABIS 上	井戸枠	スギ科スギ属スギ
83	312-31	調査年次：4次 グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW115	板材	スギ科スギ属スギ	97	316-45	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：AC2W 上	井戸枠	スギ科スギ属スギ
84	312-32	調査年次：4次 グリッド：U-20# 遺構：SD119 遺物 No.：RW116	板材	ブナ科クリ属クリ	98	317-46	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：AD3N 上	井戸枠	スギ科スギ属スギ

表 60 出土木材の樹種同定結果 (3) 吉田生物研究所

試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種	試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種
99	317-47	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：AE4E 上	井戸枠	スギ科スギ属スギ	113	322-61	調査年次：3次 グリッド：R・S-18 遺構：SE1132 遺物 No.：B	板材	スギ科スギ属スギ
100	317-48	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：AF5S 下	井戸枠	スギ科スギ属スギ	114	322-62	調査年次：3次 グリッド：R・S-18 遺構：SE1132 遺物 No.：C	板材	スギ科スギ属スギ
101	318-49	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：AG7N 下	井戸枠	スギ科スギ属スギ	115	323-63	調査年次：3次 グリッド：R・S-18 遺構：SE1132 遺物 No.：D	板材	スギ科スギ属スギ
102	318-50	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：AH8E 下	井戸枠	スギ科スギ属スギ	116	323-64	調査年次：3次 グリッド：R・S-18 遺構：SE1132 遺物 No.：E	角材	スギ科スギ属スギ
103	318-51	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：AJ	板材	スギ科スギ属スギ	117	323-65	調査年次：3次 グリッド：R・S-18 遺構：SE1132 遺物 No.：F	角材	スギ科スギ属スギ
104	319-52	調査年次：3次 グリッド：P-14 遺構：SE592 遺物 No.：G	井戸枠	スギ科スギ属スギ	118	324-66	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：A	板材	スギ科スギ属スギ
105	319-53	調査年次：3次 グリッド：P-14 遺構：SE592 遺物 No.：H	井戸枠	スギ科スギ属スギ	119	324-67	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：B	板材	スギ科スギ属スギ
106	319-54	調査年次：3次 グリッド：P-14 遺構：SE592 遺物 No.：I	井戸枠	スギ科スギ属スギ	120	324-68	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：C	板材	スギ科スギ属スギ
107	320-55A 320-55B	調査年次：3次 グリッド：P-14 遺構：SE592 遺物 No.：J	A 井戸枠 B 井戸枠	スギ科スギ属スギ モクレン科モクレン属	121	325-69	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：G	板材	スギ科スギ属スギ
108	320-56	調査年次：3次 グリッド：B～D 3・4 遺構：SG833	板材	スギ科スギ属スギ	122	325-70	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：H	板材	スギ科スギ属スギ
109	321-57	調査年次：3次 グリッド：N-13 遺構：SK916	板材	ブナ科クリ属クリ	123	325-71	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：I	板材	スギ科スギ属スギ
42 (110)	321-58	調査年次：4次 グリッド：D-3 遺構：SG833 遺物 No.：RW10	角材	モクセイ科トネリコ属	124	326-72	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：N	板材	スギ科スギ属スギ
111	321-59	調査年次：4次 グリッド：L#-15 遺構：SE96 遺物 No.：中央 21	板材	スギ科スギ属スギ	125	326-73	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：O	板材	スギ科スギ属スギ
112	322-60	調査年次：3次 グリッド：R・S-18 遺構：SE1132 遺物 No.：A	板材	スギ科スギ属スギ	126	326-74	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：P	板材	スギ科スギ属スギ

表 61 出土木材の樹種同定結果 (4) 吉田生物研究所

試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種	試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種
127	327-75	調査年次: 3 次 グリッド: T-15 遺構: SE515 遺物 No.: R	板材	スギ科スギ属スギ	141	331-89	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: E18A	井戸枠	スギ科スギ属スギ
128	327-76	調査年次: 3 次 グリッド: T-15 遺構: SE515 遺物 No.: S	板材	スギ科スギ属スギ	142	332-90	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: E18B	井戸枠	スギ科スギ属スギ
129	327-77	調査年次: 3 次 グリッド: T-15 遺構: SE515 遺物 No.: T	板材	スギ科スギ属スギ	143	332-91	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: W3	井戸枠	スギ科スギ属スギ
130	328-78	調査年次: 3 次 グリッド: T-15 遺構: SE515 遺物 No.: U	板材	スギ科スギ属スギ	144	332-92	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: S25	井戸枠	スギ科スギ属スギ
2 (131)	328-79	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: W8	井戸枠	スギ科スギ属スギ	145	333-93	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: W1	井戸枠	スギ科スギ属スギ
132	328-80	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: N13	井戸枠	スギ科スギ属スギ	146	333-94	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: S26	井戸枠	スギ科スギ属スギ
133	329-81	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: N29B	井戸枠	スギ科スギ属スギ	147	333-95	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: W6	井戸枠	スギ科スギ属スギ
134	329-82	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: N29	井戸枠	スギ科スギ属スギ	148	334-96	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: N10	井戸枠	スギ科スギ属スギ
135	329-83	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: E16B	井戸枠	スギ科スギ属スギ	149	334-97	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: W7	井戸枠	スギ科スギ属スギ
136	330-84	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: W4A	井戸枠	スギ科スギ属スギ	150	334-98	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: W5	井戸枠	スギ科スギ属スギ
137	330-85	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: W4B	井戸枠	スギ科スギ属スギ	151	335-99	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: S20	井戸枠	スギ科スギ属スギ
138	330-86	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: E16C	井戸枠	スギ科スギ属スギ	152	335-100	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: S23	井戸枠	スギ科スギ属スギ
139	331-87	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: E16L	井戸枠	スギ科スギ属スギ	153	335-101	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: S24	井戸枠	スギ科スギ属スギ
140	331-88	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: N11	井戸枠	スギ科スギ属スギ	154	336-102	調査年次: 3 次 グリッド: S-17 遺構: SE479 遺物 No.: N9	井戸枠	スギ科スギ属スギ

表 62 出土木材の樹種同定結果 (5) 吉田生物研究所

試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種	試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種
155	336-103	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：N31	井戸枠	スギ科スギ属スギ	169	341-117	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：E	板材片	スギ科スギ属スギ
156	336-104	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：S22	井戸枠	スギ科スギ属スギ	170	341-118	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：F	曲物片	スギ科スギ属スギ
157	337-105	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：E16R	井戸枠	スギ科スギ属スギ	171	341-119	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：J	板材	スギ科スギ属スギ
158	337-106	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：E16	井戸枠	スギ科スギ属スギ	172	342-120	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：K	板材	スギ科スギ属スギ
159	337-107	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：E15	井戸枠	スギ科スギ属スギ	173	342-121	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：L	板材	スギ科スギ属スギ
160	338-108	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：N14	井戸枠	スギ科スギ属スギ	174	342-122	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：M	板材	スギ科スギ属スギ
161	338-109	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：N12	井戸枠	スギ科スギ属スギ	175	343-123	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：Q	板材	スギ科スギ属スギ
162	338-110	調査年次：3次 グリッド：P-14 遺構：SE592 遺物 No.：C	井戸枠片	カツラ科カツラ属 カツラ	176	343-124	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：U	板材	スギ科スギ属スギ
163	339-111	調査年次：3次 グリッド：P-14 遺構：SE592 遺物 No.：D	井戸枠片	カツラ科カツラ属 カツラ	177	343-125	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：V	板材	スギ科スギ属スギ
164	339-112	調査年次：3次 グリッド：P-14 遺構：SE592 遺物 No.：E	井戸枠片	カツラ科カツラ属 カツラ	178	344-126	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：W	板材	スギ科スギ属スギ
4 (165)	339-113	調査年次：3次 グリッド：P-14 遺構：SE592	井戸枠	スギ科スギ属スギ	179	344-127	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：W2B	井戸枠	スギ科スギ属スギ
166	340-114	調査年次：3次 グリッド：V-20 遺構：SG160 遺物 No.：RW162	板材	スギ科スギ属スギ	180	344-128	調査年次：3次 グリッド：S-17 遺構：SE479 遺物 No.：W2B	井戸枠	スギ科スギ属スギ
167	340-115	調査年次：4次 グリッド：D-3 遺構：SG833 遺物 No.：RW6	曲物底	ノウゼンカズラ科 キリ属キリ	181	345-129	調査年次：3次 グリッド：P-14 遺構：SE592 遺物 No.：F	井戸枠	ブナ科クリ属クリ
168	340-116	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515 遺物 No.：D	板材片	スギ科スギ属スギ	182	345-130	調査年次：3次 グリッド：AA-23 遺構：SG1	板材	スギ科スギ属スギ

表 63 出土木材の樹種同定結果 (6) 吉田生物研究所

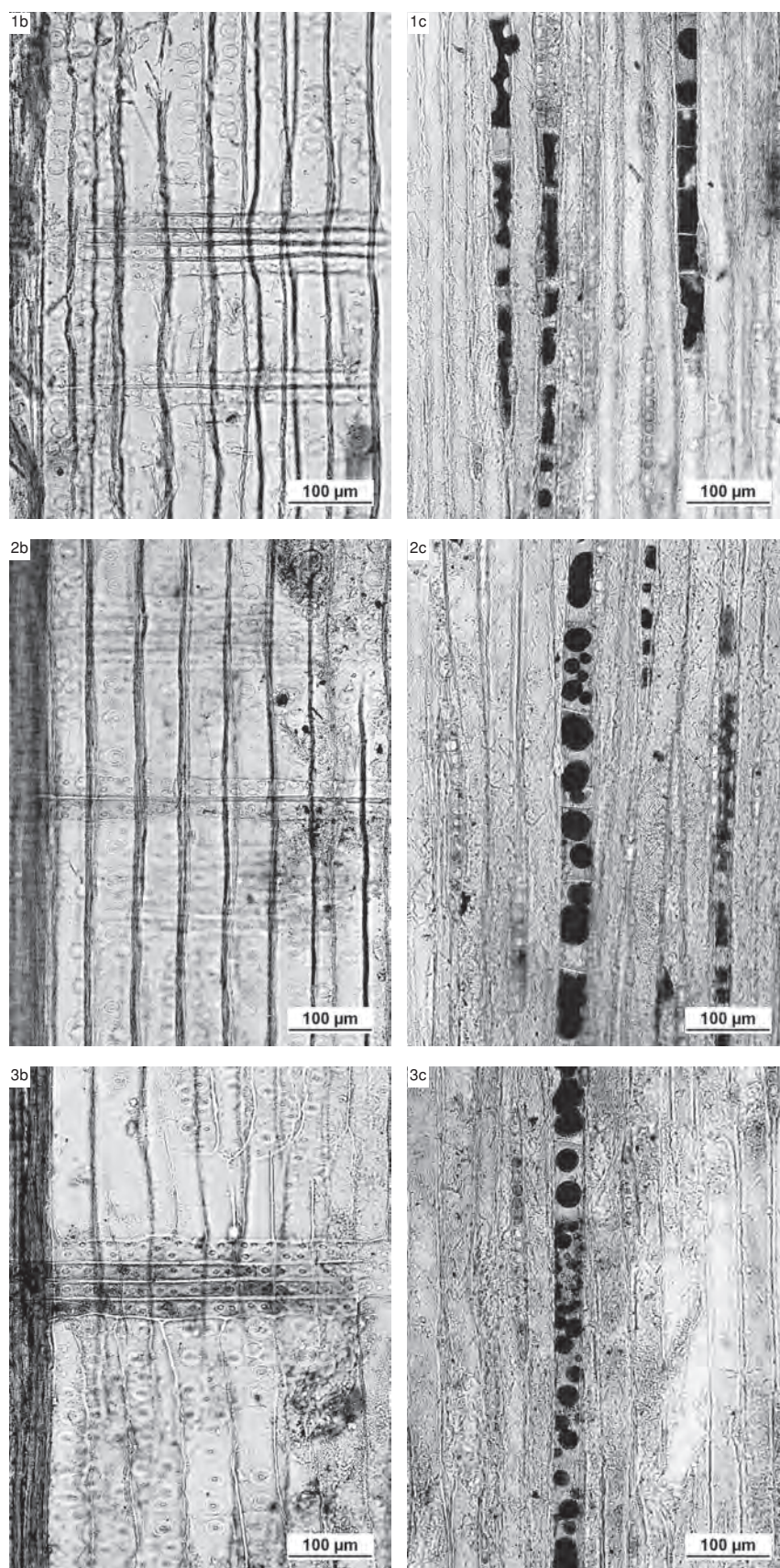
試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種	試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種
183	345-131	調査年次：3次 グリッド：W-22 遺構：SG1 遺物 No.：A	加工木	ブナ科クリ属クリ	197	350-145	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：I	板材	スギ科スギ属スギ
184	346-132	調査年次：3次 グリッド：V-18 遺構：SD280 遺物 No.：A	加工木	マツ科ツガ属	198	350-146	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：J	加工木	スギ科スギ属スギ
185	346-133	調査年次：3次 グリッド：T-18 遺構：SD434 遺物 No.：B	挽物	カエデ科カエデ属	199	351-147	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：K	加工木	スギ科スギ属スギ
186	346-134	調査年次：3次 グリッド：T-15 遺構：SE515	曲物片	スギ科スギ属スギ	200	351-148	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：L	板材	スギ科スギ属スギ
187	347-135	調査年次：3次 グリッド：B～D-3・4 遺構：SG833 遺物 No.：A	板材	スギ科スギ属スギ	201	351-149	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：M	加工木	スギ科スギ属スギ
188	347-136	調査年次：3次 グリッド：B～D-3・4 遺構：SG833 遺物 No.：B	板材	スギ科スギ属スギ	202	352-150	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：N	加工木	スギ科スギ属スギ
189	347-137	調査年次：3次 グリッド：B～D-3・4 遺構：SG833 遺物 No.：G	加工木	スギ科スギ属スギ	203	352-151	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：P	加工木	スギ科スギ属スギ
190	348-138	調査年次：3次 グリッド：B～D-3・4 遺構：SG833 遺物 No.：I	加工木	ヒノキ科アスナロ属	204	352-152	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：Q	板材	スギ科スギ属スギ
191	348-139	調査年次：3次 グリッド：C-4 遺構：SG833 遺物 No.：BD	曲物片	スギ科スギ属スギ	205	353-153	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：S	加工木	スギ科スギ属スギ
192	348-140	調査年次：3次 グリッド：C-4 遺構：SG833 遺物 No.：BE	曲物片	スギ科スギ属スギ	206	353-154	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：T	加工木	スギ科スギ属スギ
193	349-141	調査年次：3次 グリッド：R・S-18 遺構：SG1132 遺物 No.：C	加工木	トチノキ科トチノキ属 トチノキ	207	353-155	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：U	加工木	スギ科スギ属スギ
194	349-142	調査年次：3次 グリッド：C-8 遺構：SK1179	加工木	スギ科スギ属スギ	208	354-156	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：V	加工木	スギ科スギ属スギ
195	349-143	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：F	加工木	スギ科スギ属スギ	209	354-157	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：X	加工木	スギ科スギ属スギ
196	350-144	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：H	加工木	スギ科スギ属スギ	210	354-158	調査年次：3次 グリッド：Q・R-17 遺構：SK1196 遺物 No.：AF	板材	スギ科スギ属スギ

表 64 出土木材の樹種同定結果 (7) 吉田生物研究所

試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種	試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種
211	355-159	調査年次: 3 次 グリッド: Q・R-17 遺構: SK1196 遺物 No.: AK	加工木	スギ科スギ属スギ	225	359-173	調査年次: 3 次 グリッド: T-15 遺構: SE515 遺物 No.: Y	板材	スギ科スギ属スギ
212	355-160	調査年次: 3 次 グリッド: Q・R-17 遺構: SK1196 遺物 No.: AL	加工木	スギ科スギ属スギ	226	360-174	調査年次: 3 次 グリッド: T-15 遺構: SE515 遺物 No.: Z	板材片	スギ科スギ属スギ
213	355-161	調査年次: 3 次 グリッド: Q・R-17 遺構: SK1196 遺物 No.: AM	加工木	スギ科スギ属スギ	227	360-175	調査年次: 3 次 グリッド: W ~ AC -21 ~ 23 遺構: SG1	漆器椀	ブナ科ブナ属
214	356-162	調査年次: 3 次 グリッド: Q・R-17 遺構: SK1196 遺物 No.: AP	板材	スギ科スギ属スギ	228	360-176	調査年次: 3 次 グリッド: W ~ AC -21 ~ 23 遺構: SG1	コマ	ミズキ科ミズキ属
215	356-163	調査年次: 3 次 グリッド: Q・R-17 遺構: SK1196 遺物 No.: AQ	板材	スギ科スギ属スギ	229	361-177	調査年次: 3 次 グリッド: T-15 遺構: SE515 遺物 No.: AI	板材	スギ科スギ属スギ
216	356-164	調査年次: 3 次 グリッド: Q・R-17 遺構: SK1196 遺物 No.: AR	板材	スギ科スギ属スギ	230	361-178	調査年次: 4 次 グリッド: C#-3# 遺構: SG833	加工木	スギ科スギ属スギ
217	357-165	調査年次: 3 次 グリッド: Q・R-17 遺構: SK1196 遺物 No.: AS	加工木	スギ科スギ属スギ	231	361-179	調査年次: 4 次 グリッド: C#-3# 遺構: SG833	加工木	クワ科クワ属?
218	357-166	調査年次: 3 次 グリッド: Q・R-17 遺構: SK1196 遺物 No.: AT	板材	スギ科スギ属スギ	232	362-180	調査年次: 4 次 グリッド: T-19#	板材	スギ科スギ属スギ
219	357-167	調査年次: 3 次 グリッド: Q・R-17 遺構: SK1196 遺物 No.: AU	加工木	スギ科スギ属スギ	233	362-181	調査年次: 4 次 グリッド: D-3 遺構: SG833	加工木	スギ科スギ属スギ
220	358-168	調査年次: 3 次 グリッド: Q・R-17 遺構: SK1196 遺物 No.: AV	加工木	スギ科スギ属スギ	234	362-182	調査年次: 4 次 グリッド: D-2# 遺構: SG833 遺物 No.: a	加工木	スギ科スギ属スギ
221	358-169	調査年次: 3 次 グリッド: X-20 遺物 No.: B	加工木	マツ科ツガ属	235	363-183	調査年次: 4 次 グリッド: D-2# 遺構: SG833 遺物 No.: c	箸	スギ科スギ属スギ
222	358-170	調査年次: 3 次 グリッド: U-19	加工木	スギ科スギ属スギ	236	363-184	調査年次: 4 次 グリッド: D-2# 遺構: SG833 遺物 No.: d	加工木	スギ科スギ属スギ
223	359-171	調査年次: 3 次 グリッド: P-12 遺構: SE616 遺物 No.: RW53	曲物片	スギ科スギ属スギ	237	363-186	調査年次: 4 次 グリッド: D-2#・3 遺構: SG833 遺物 No.: a	加工木	スギ科スギ属スギ
224	359-172	調査年次: 3 次 グリッド: T-15 遺構: SE515 遺物 No.: X	板材	スギ科スギ属スギ	238	363-185	調査年次: 4 次 グリッド: D-2#・3 遺構: SG833 遺物 No.: f	箸	スギ科スギ属スギ

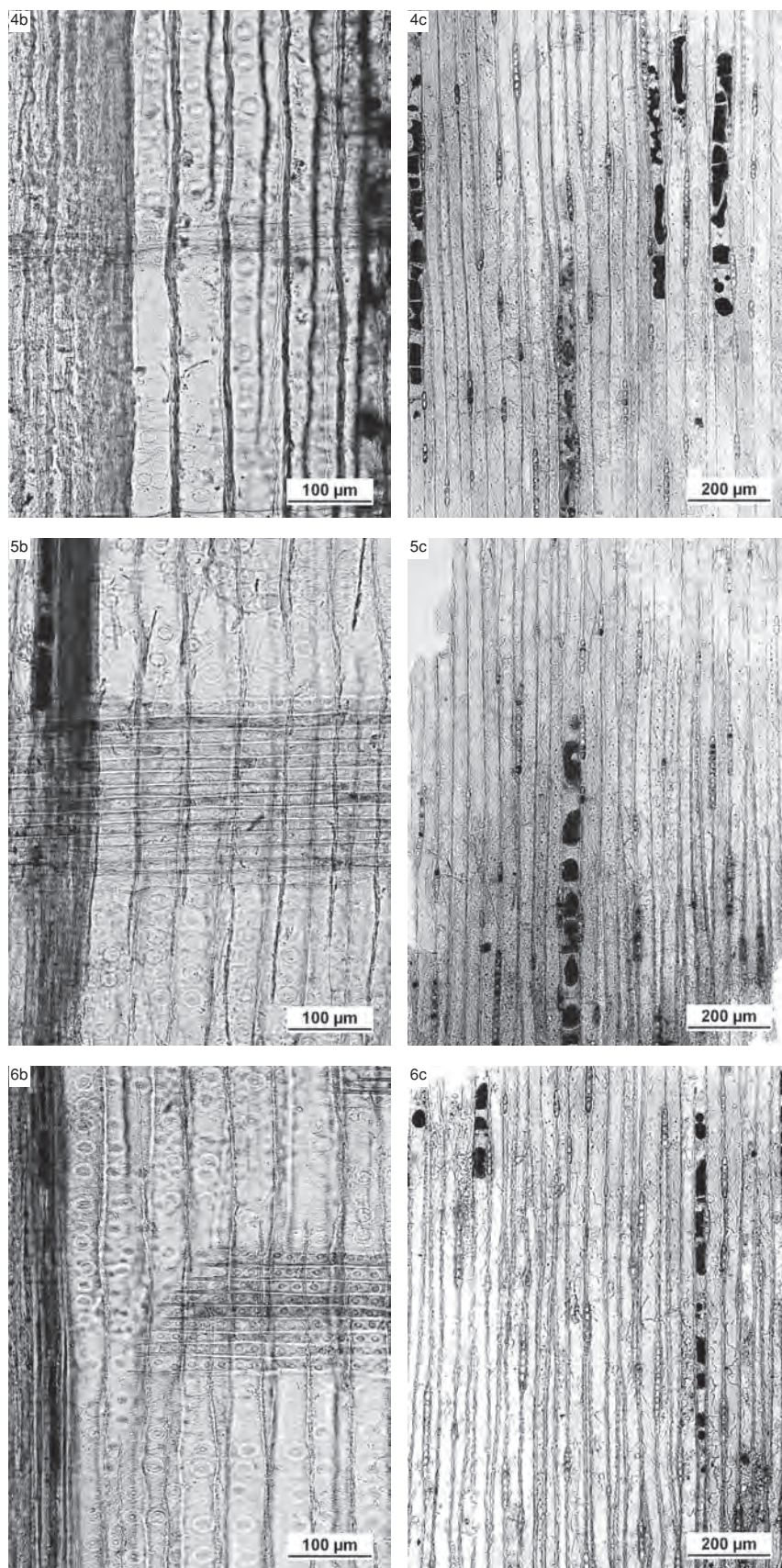
表 65 出土木材の樹種同定結果(8) 吉田生物研究所

試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種	試料 No.	図版 No.	試料データ	品名	樹種
239	364-187	調査年次:4次 グリッド:D-2#・3 遺構:SG833 遺物 No.: l	加工木	スギ科スギ属スギ	254	369-202	調査年次:4次 グリッド:L#-14# 遺構:SE96 遺物 No.: E7	井戸枠	スギ科スギ属スギ
240	364-188	調査年次:4次 グリッド:H-10# 遺構:SG771	箸	スギ科スギ属スギ	255	369-203	調査年次:4次 グリッド:L#-14#・15 遺構:SE96 遺物 No.: E8	井戸枠	スギ科スギ属スギ
241	364-189	調査年次:4次 グリッド:G#-10# 遺構:SG771 遺物 No.: a	箸	スギ科スギ属スギ	256	369-204	調査年次:4次 グリッド:L#-14#・15 遺構:SE96 遺物 No.: E9	井戸枠 鋤転用	カバノキ科アサダ属 アサダ
242	365-190	調査年次:4次 グリッド:G#-10 遺構:SG771 遺物 No.: RW22	植物遺体	樹皮	257	370-205	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: E10	井戸枠 鋤転用	カバノキ科アサダ属 アサダ
243	365-191	調査年次:4次 グリッド:G#-10# 遺構:SG771	板材	スギ科スギ属スギ	258	370-206	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: E11	井戸枠	スギ科スギ属スギ
244	365-192	調査年次:4次 グリッド:G#-10 遺構:SG771 遺物 No.: d	箸	スギ科スギ属スギ	259	370-207	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: E12	板材	カバノキ科アサダ属 アサダ
245	366-193	調査年次:4次 グリッド:L#-14 遺構:SD589 遺物 No.: a	加工木	スギ科スギ属スギ	260	371-208	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: S13	加工木	モクセイ科トネリコ属
246	366-194	調査年次:4次 グリッド:L#-14 遺構:SD589 遺物 No.: c	加工木	スギ科スギ属スギ	261	371-209	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: S14	井戸枠	カバノキ科アサダ属 アサダ
247	366-195	調査年次:4次 グリッド:L#-14 遺構:SD589 遺物 No.: f	加工木	スギ科スギ属スギ	262	371-210	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: S15	井戸枠	スギ科スギ属スギ
248	367-196	調査年次:4次 グリッド:L#-14#・15 遺構:SE96 遺物 No.: N1	井戸枠	スギ科スギ属スギ	263	372-211	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: S16	井戸枠	スギ科スギ属スギ
249	367-197	調査年次:4次 グリッド:L#-14# 遺構:SE96 遺物 No.: N2	井戸枠	スギ科スギ属スギ	264	372-212	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: S17	井戸枠	スギ科スギ属スギ
250	367-198	調査年次:4次 グリッド:L#-14# 遺構:SE96 遺物 No.: N3	井戸枠	スギ科スギ属スギ	265	372-213	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: W18	井戸枠	スギ科スギ属スギ
251	368-199	調査年次:4次 グリッド:L#-14# 遺構:SE96 遺物 No.: E4	井戸枠	スギ科スギ属スギ	266	373-214	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: W19	井戸枠	スギ科スギ属スギ
252	368-200	調査年次:4次 グリッド:L#-14# 遺構:SE96 遺物 No.: E5	井戸枠	ブナ科クリ属クリ	267	373-215	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: W20	井戸枠 鋤転用	カバノキ科アサダ属 アサダ
253	368-201	調査年次:4次 グリッド:L#-14# 遺構:SE96 遺物 No.: E6	井戸枠	スギ科スギ属スギ	268	373-216	調査年次:4次 グリッド:L#-15 遺構:SE96 遺物 No.: 中央 22	板材	カバノキ科アサダ属 アサダ



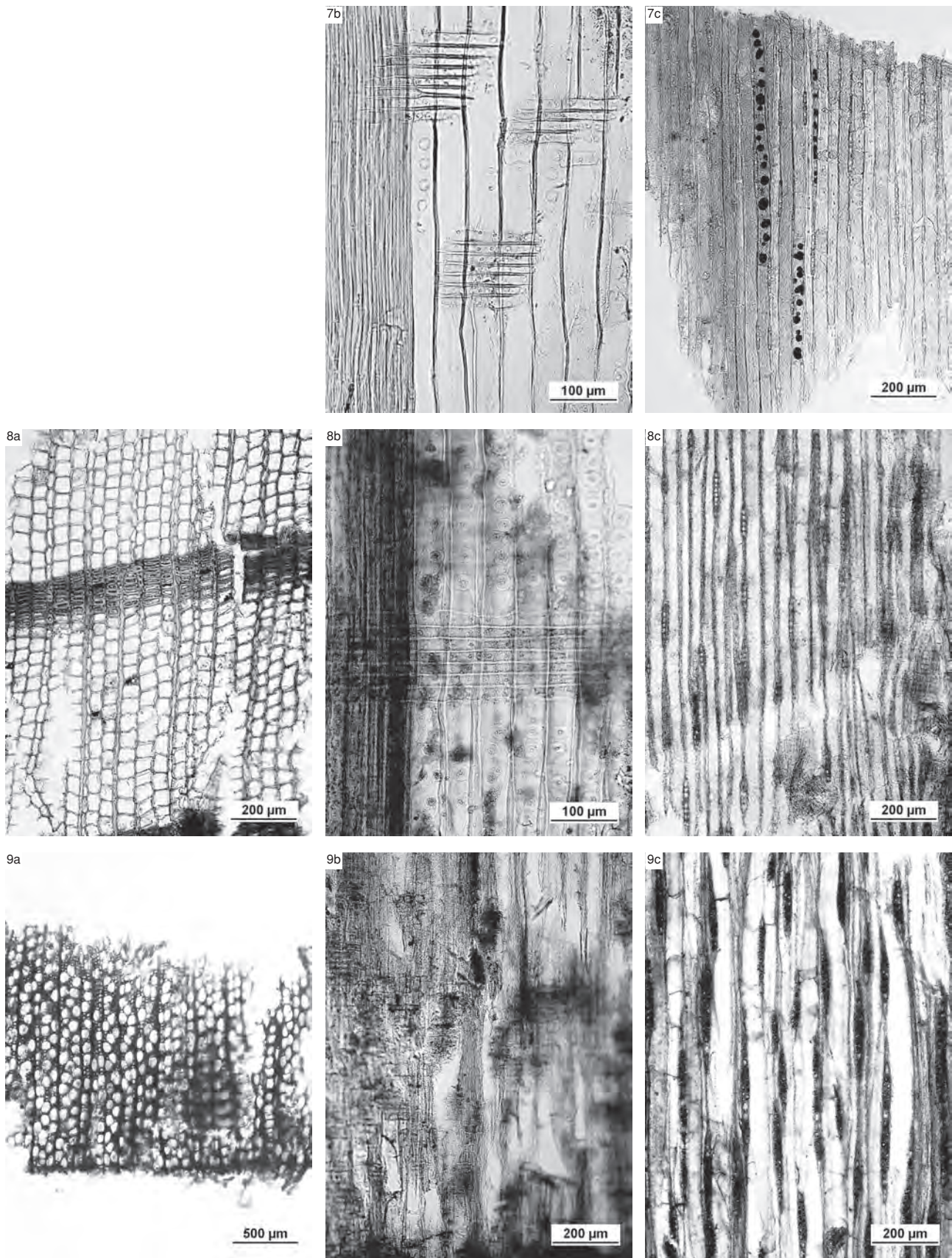
- 1 ヒノキ科アスナロ属 (試料 No.53)
 - 2 ヒノキ科アスナロ属 (試料 No.54)
 - 3 スギ科スギ属スギ (試料 No.55)
- b: 柾目、c: 板目

第 302 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (1) 吉田生物研究所



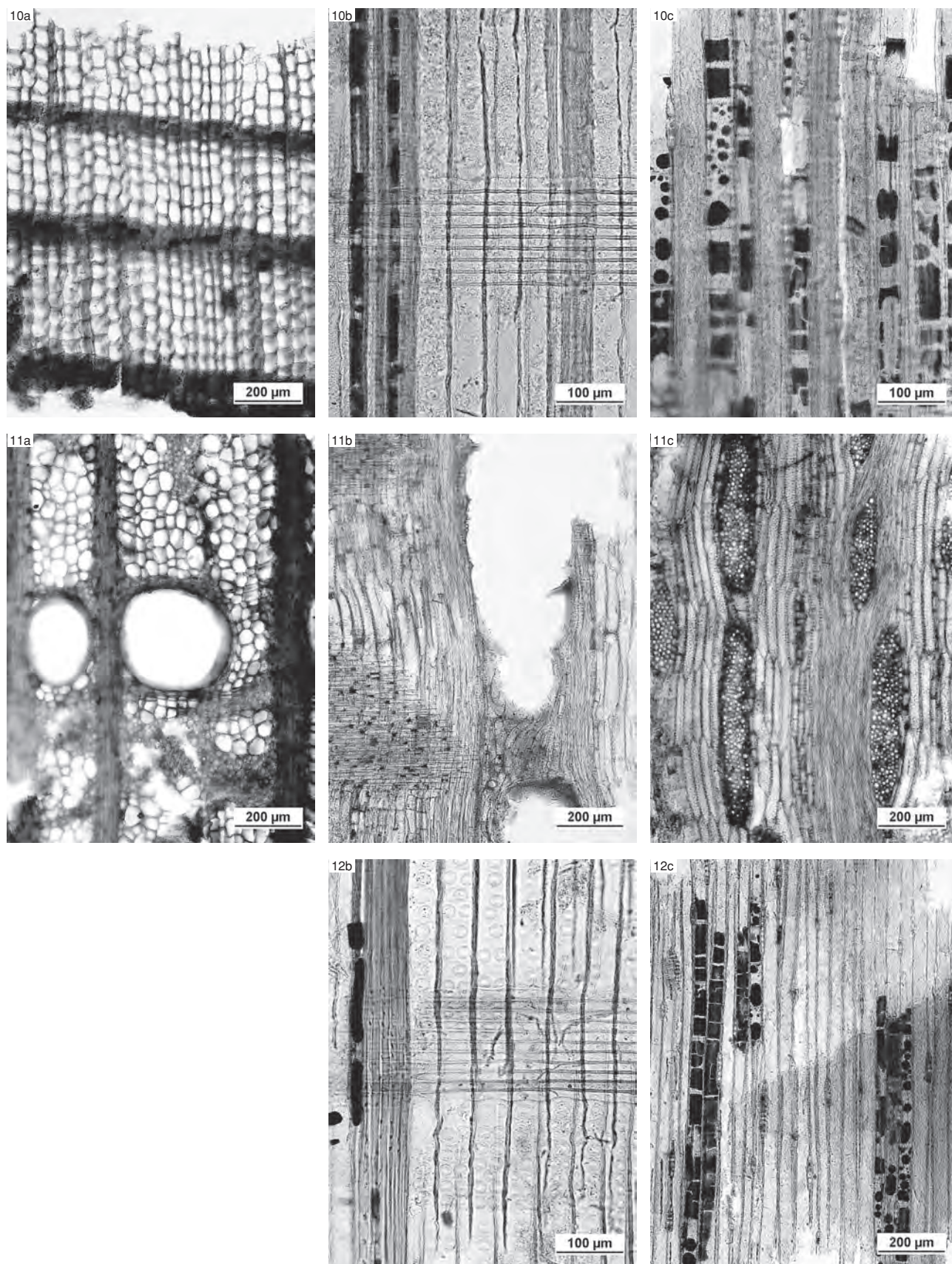
- 4 スギ科スギ属スギ (試料 No.56)
 5 スギ科スギ属スギ (試料 No.57)
 6 スギ科スギ属スギ (試料 No.58)
 b: 柾目、c: 板目

第 303 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (2) 吉田生物研究所



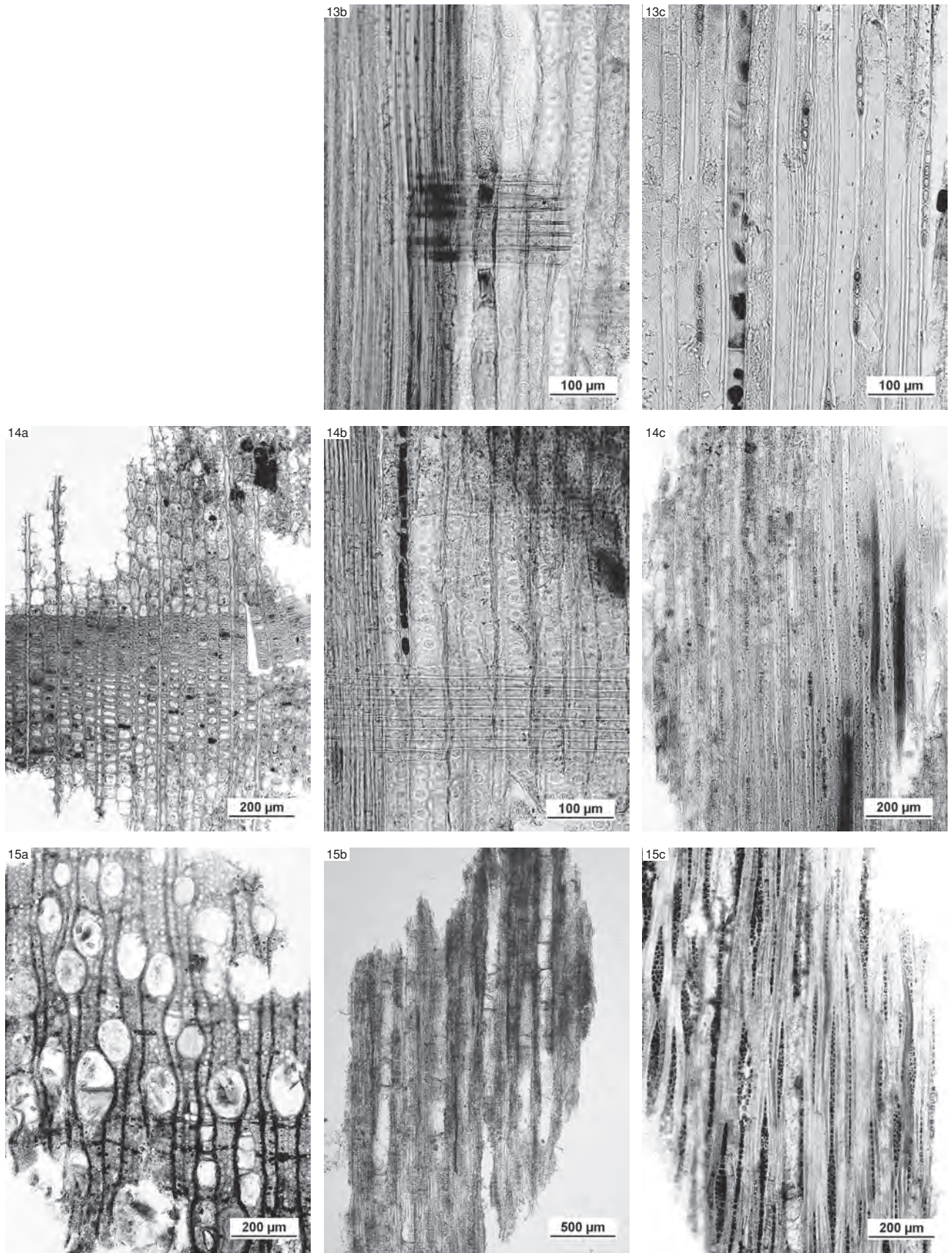
7 スギ科スギ属スギ (試料 No.59)
 8 スギ科スギ属スギ (試料 No.60)
 9 カツラ科カツラ属カツラ (試料 No.61)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 304 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (3) 吉田生物研究所



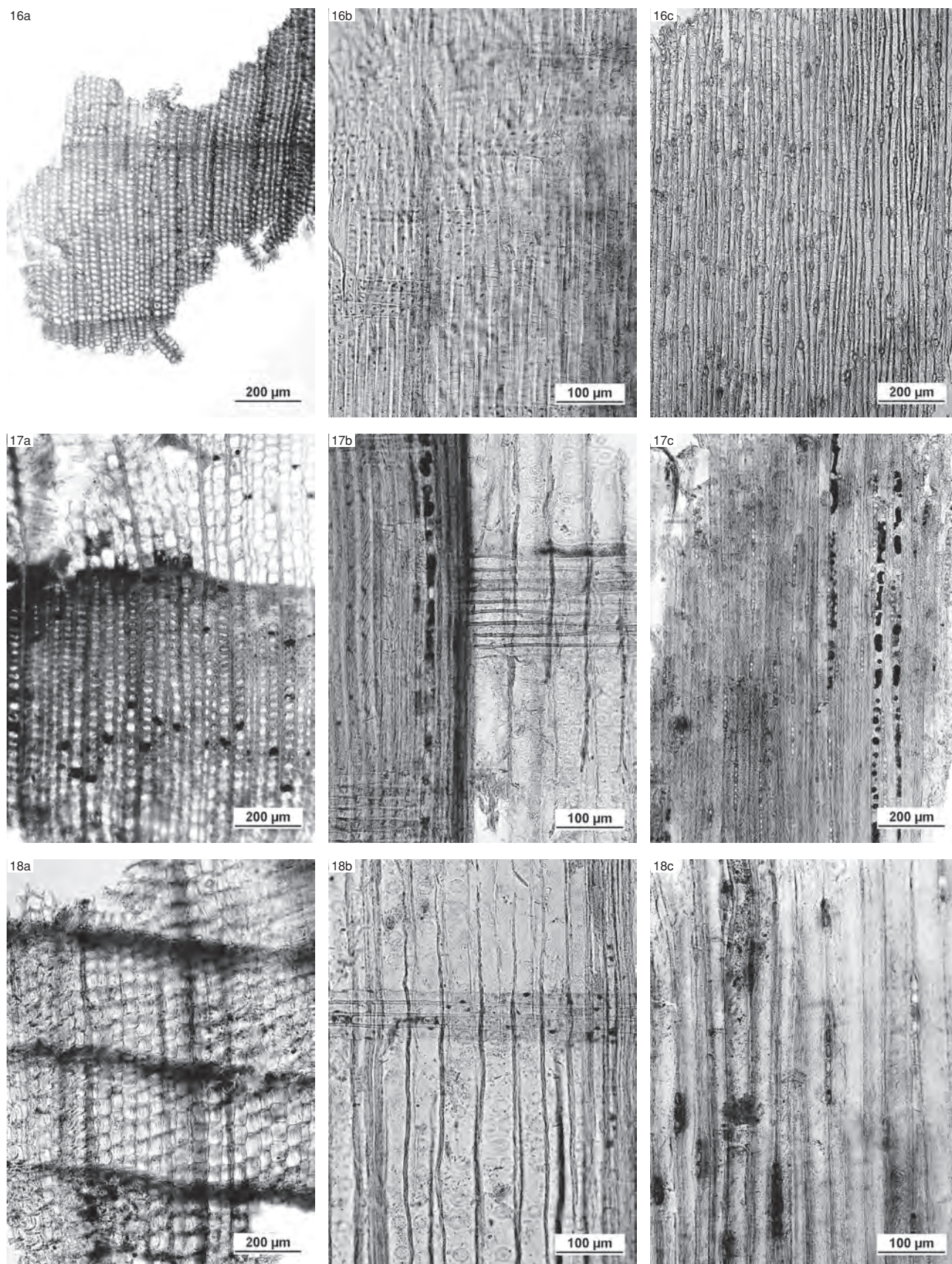
- 10 スギ科スギ属スギ (試料 No.5(62))
 11 ニレ科ケヤキ属ケヤキ (試料 No.63)
 12 スギ科スギ属スギ (試料 No.64)
 a: 木口、b: 柢目、c: 板目

第 305 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (4) 吉田生物研究所



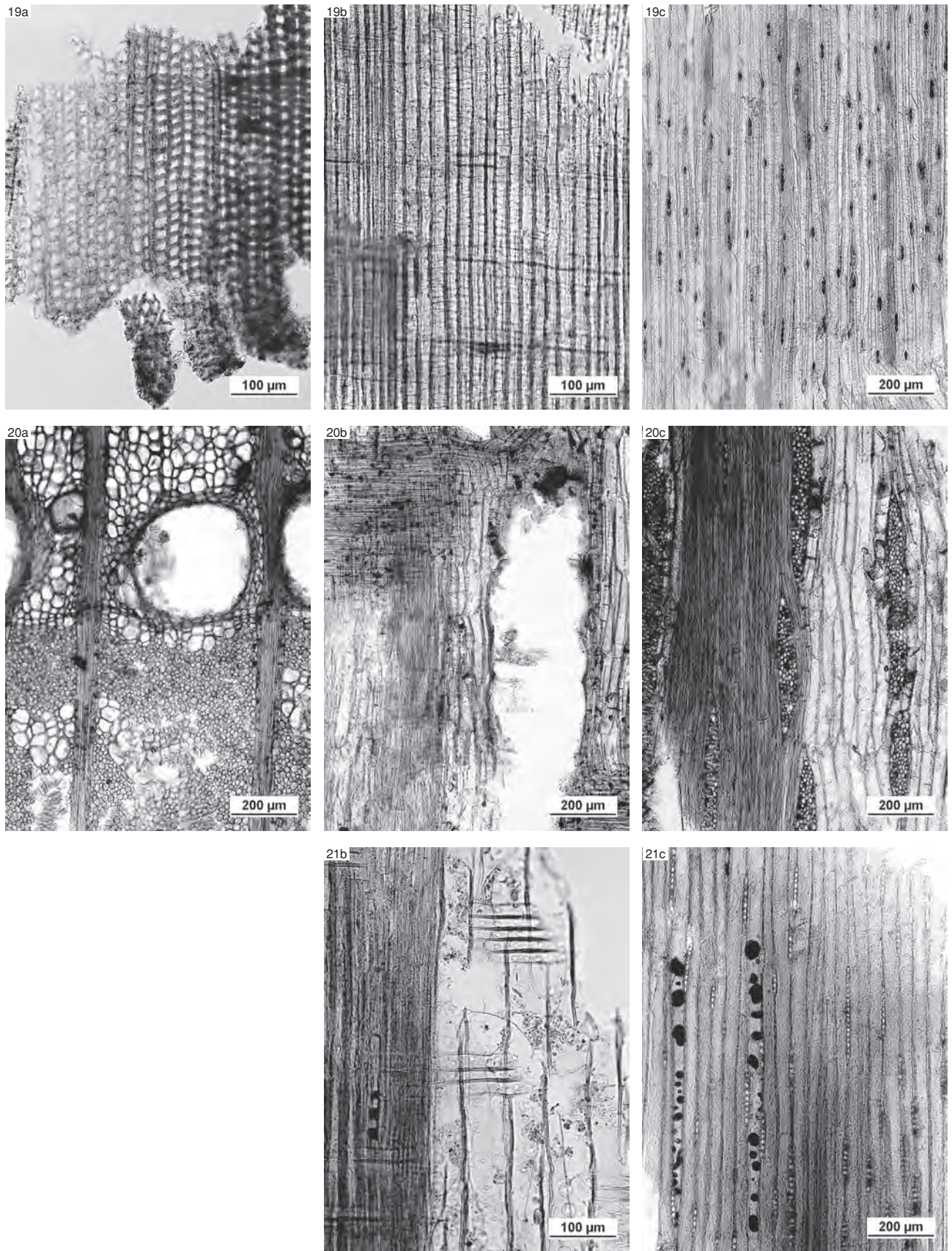
13 スギ科スギ属スギ (試料 No.65)
 14 スギ科スギ属スギ (試料 No.66)
 15 カバノキ科アサダ属アサダ (試料 No.67)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 306 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (5) 吉田生物研究所



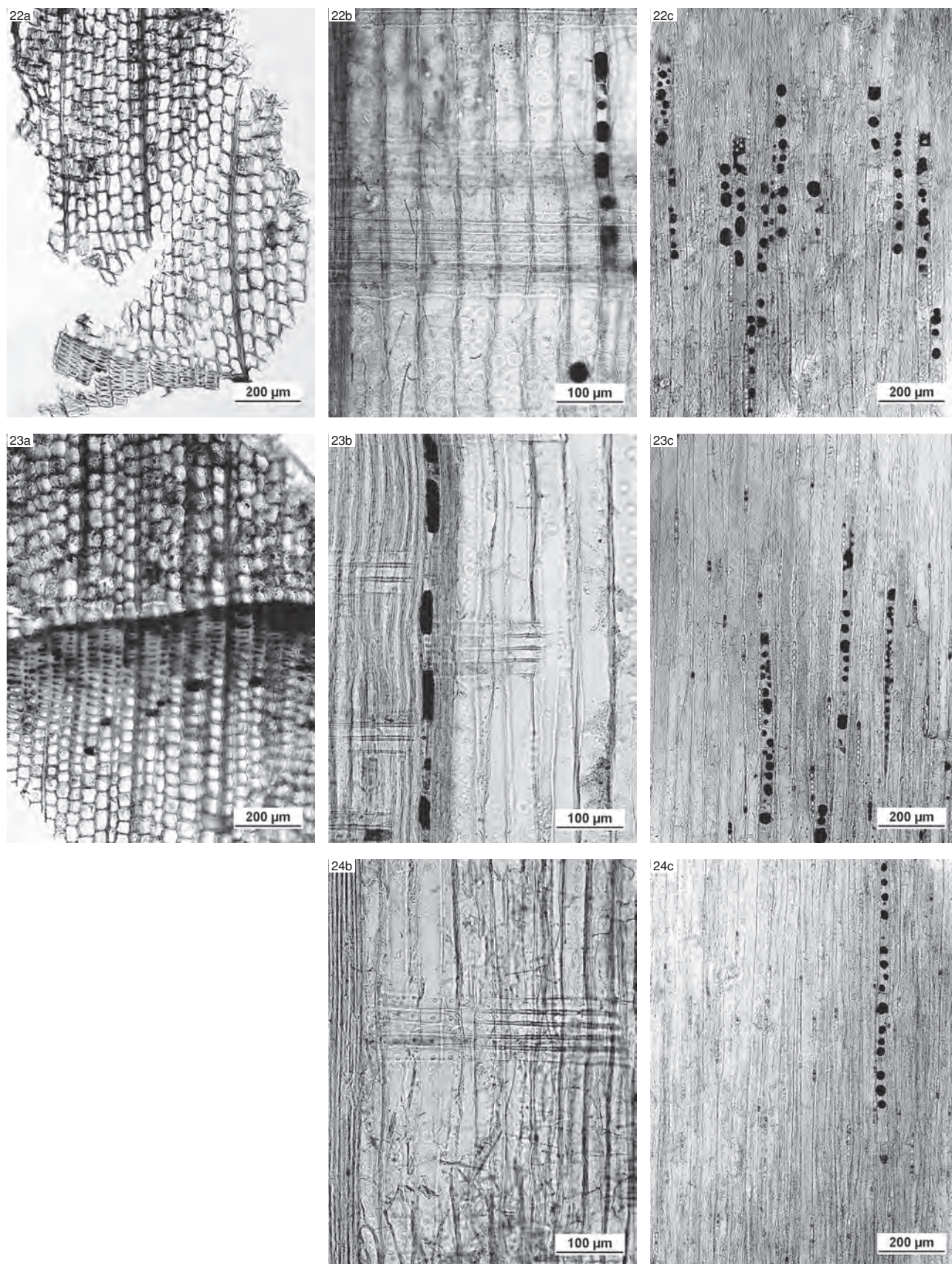
16 イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ (試料 No.68)
 17 スギ科スギ属スギ (試料 No.69)
 18 スギ科スギ属スギ (試料 No.70)
 a: 木口、b: 柃目、c: 板目

第 307 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (6) 吉田生物研究所



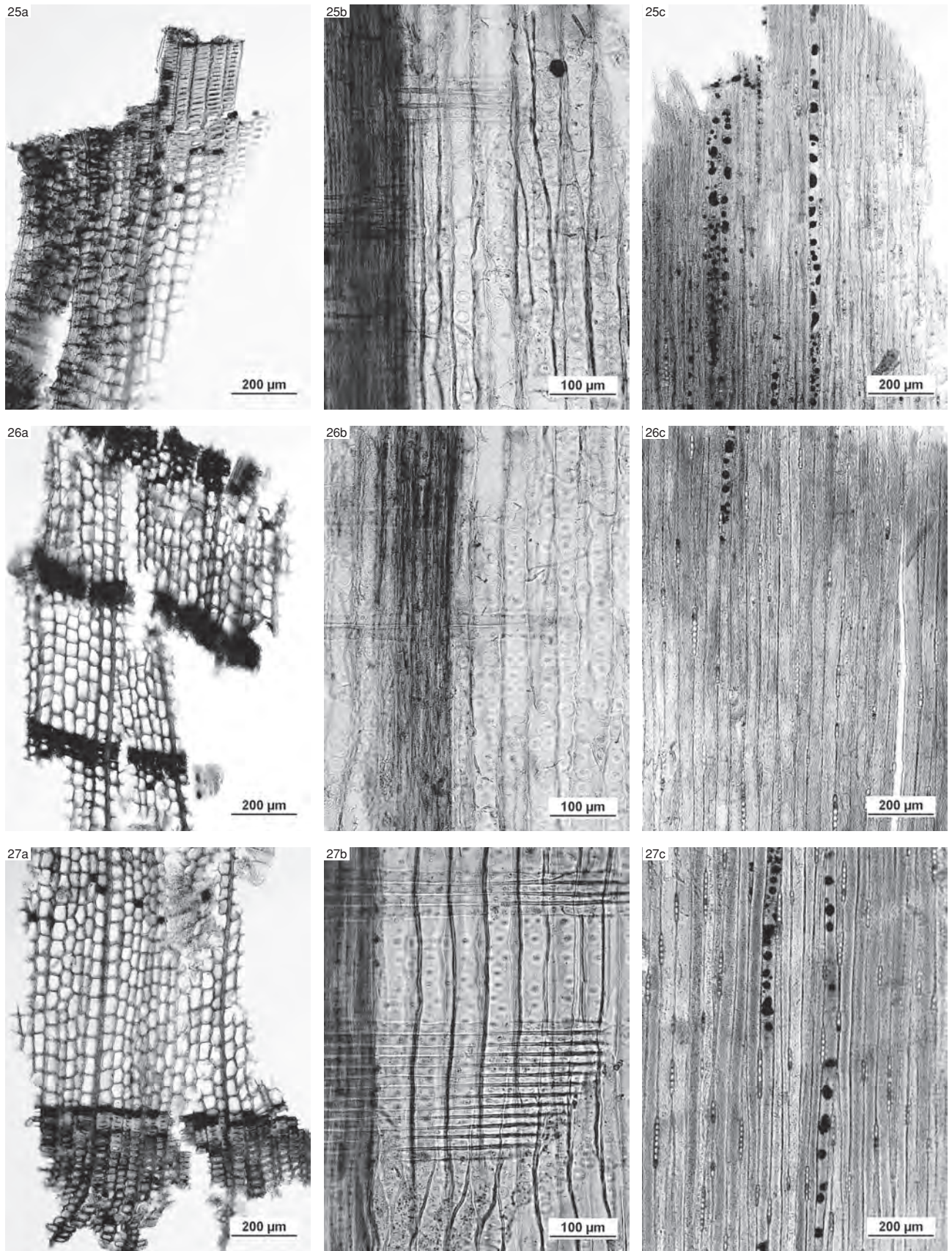
19 イスガヤ科イスガヤ属イスガヤ (試料 No.71)
20 ニレ科ケヤキ属ケヤキ (試料 No.72)
21 スギ科スギ属スギ (試料 No.73)
a: 木口、b: 柾目、c: 板目

第 308 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (7) 吉田生物研究所



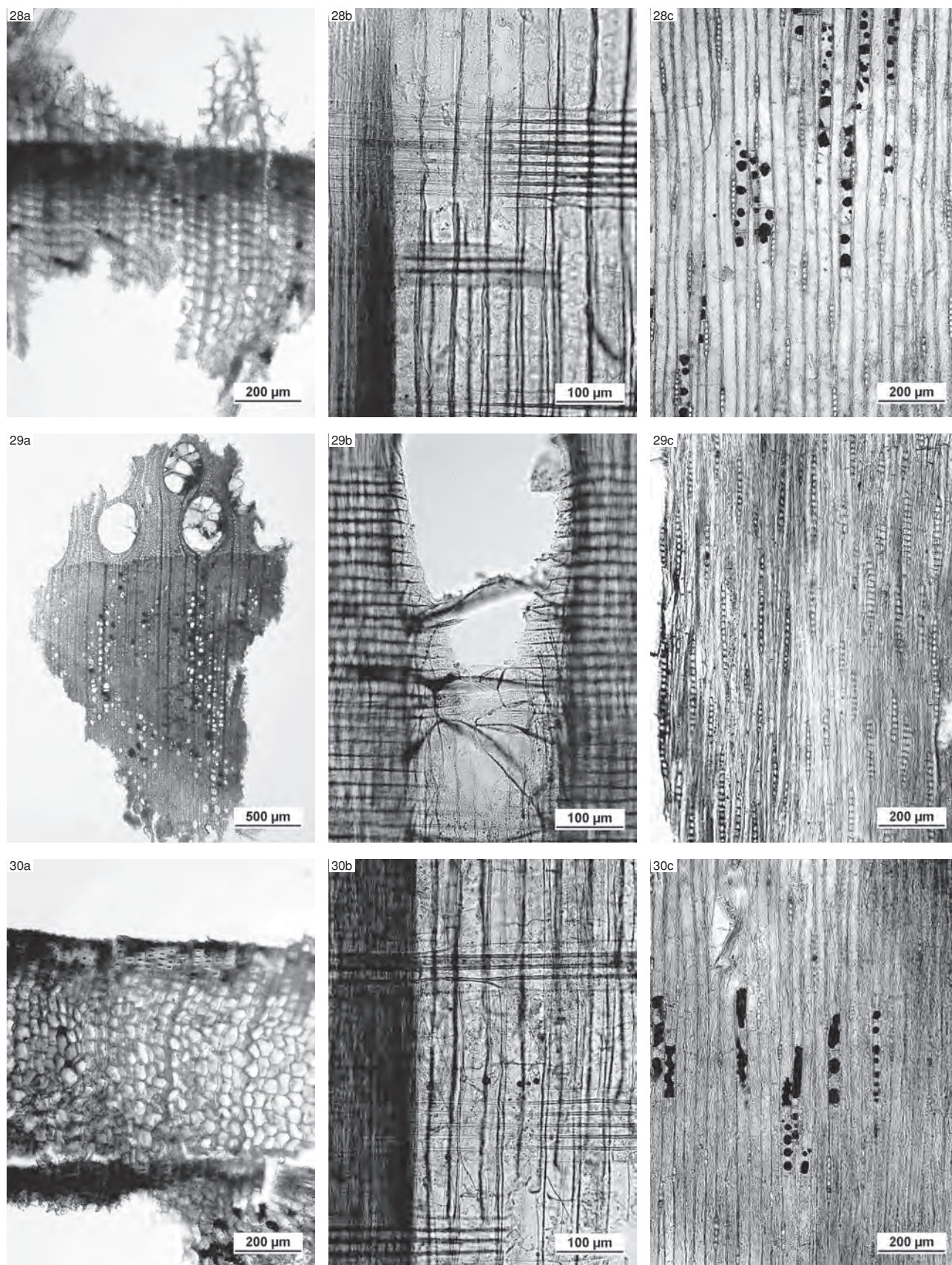
22 スギ科スギ属スギ (試料 No.74)
 23 スギ科スギ属スギ (試料 No.75)
 24 スギ科スギ属スギ (試料 No.76)
 a: 木口、b: 柢目、c: 板目

第 309 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (8) 吉田生物研究所



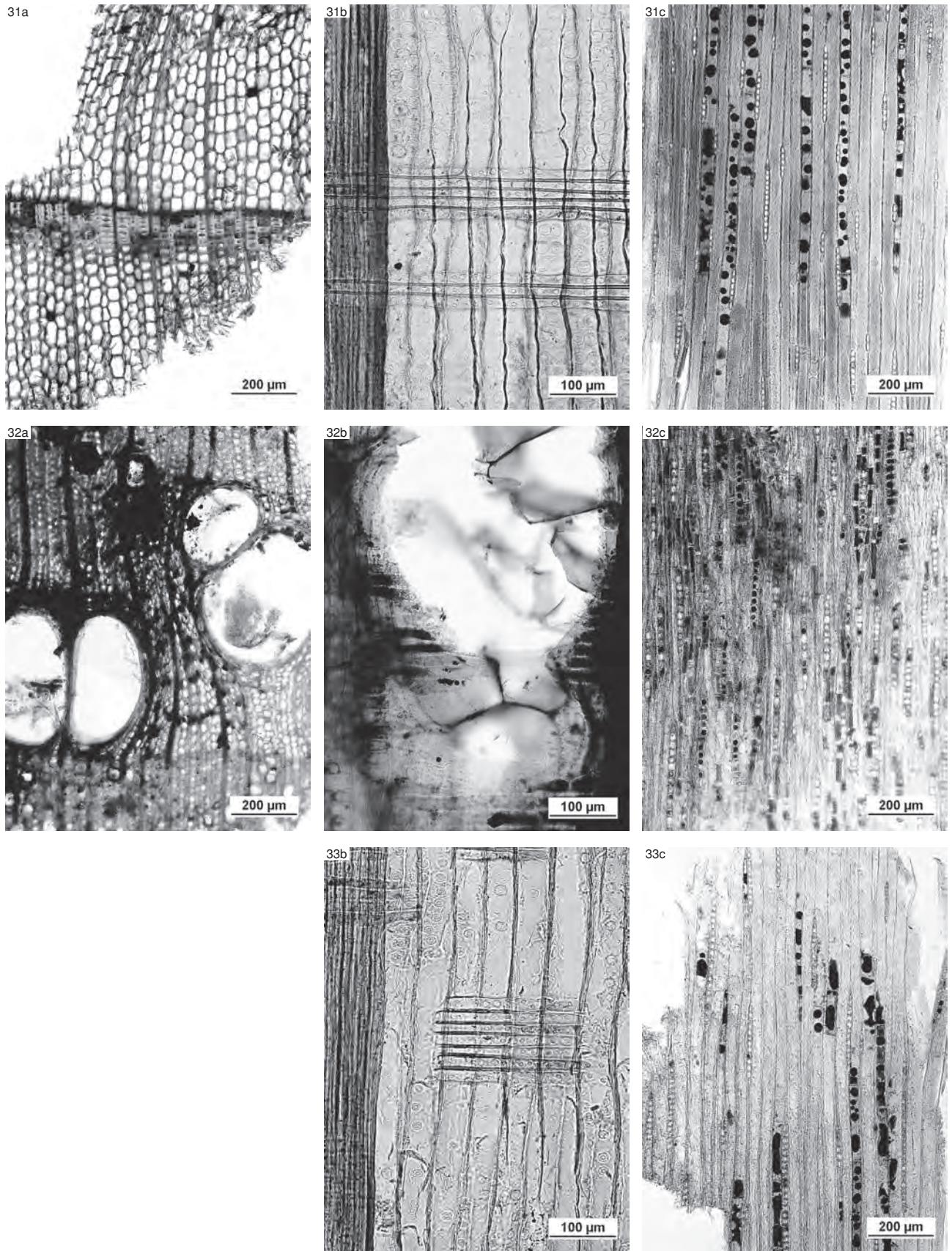
25 スギ科スギ属スギ (試料 No.77)
26 スギ科スギ属スギ (試料 No.78)
27 スギ科スギ属スギ (試料 No.79)
a: 木口、b: 柢目、c: 板目

第 310 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (9) 吉田生物研究所



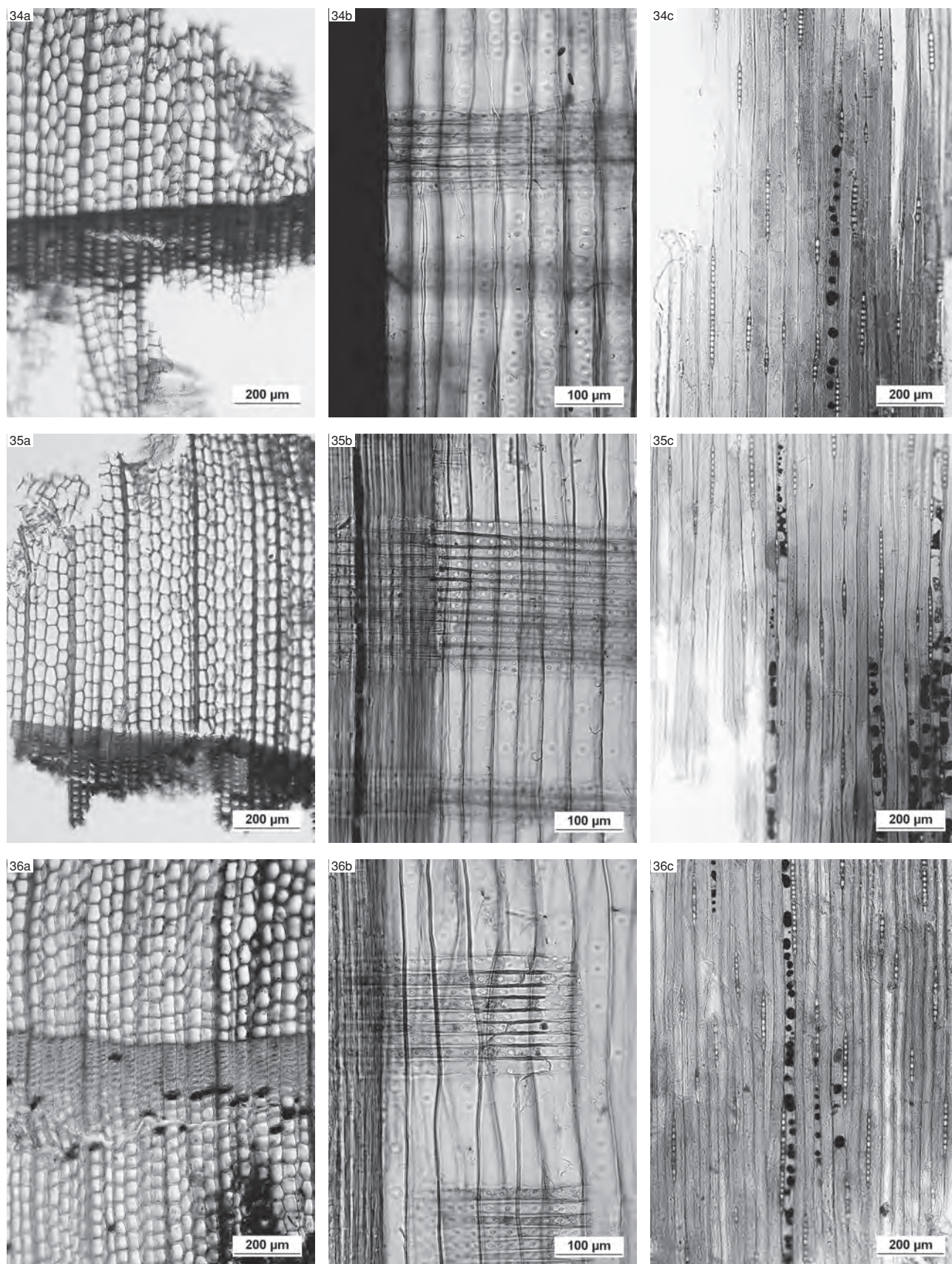
28 スギ科スギ属スギ (試料 No.80)
 29 ブナ科クリ属クリ (試料 No.81)
 30 スギ科スギ属スギ (試料 No.82)
 a: 木口、b: 柾目、c: 板目

第 311 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (10) 吉田生物研究所



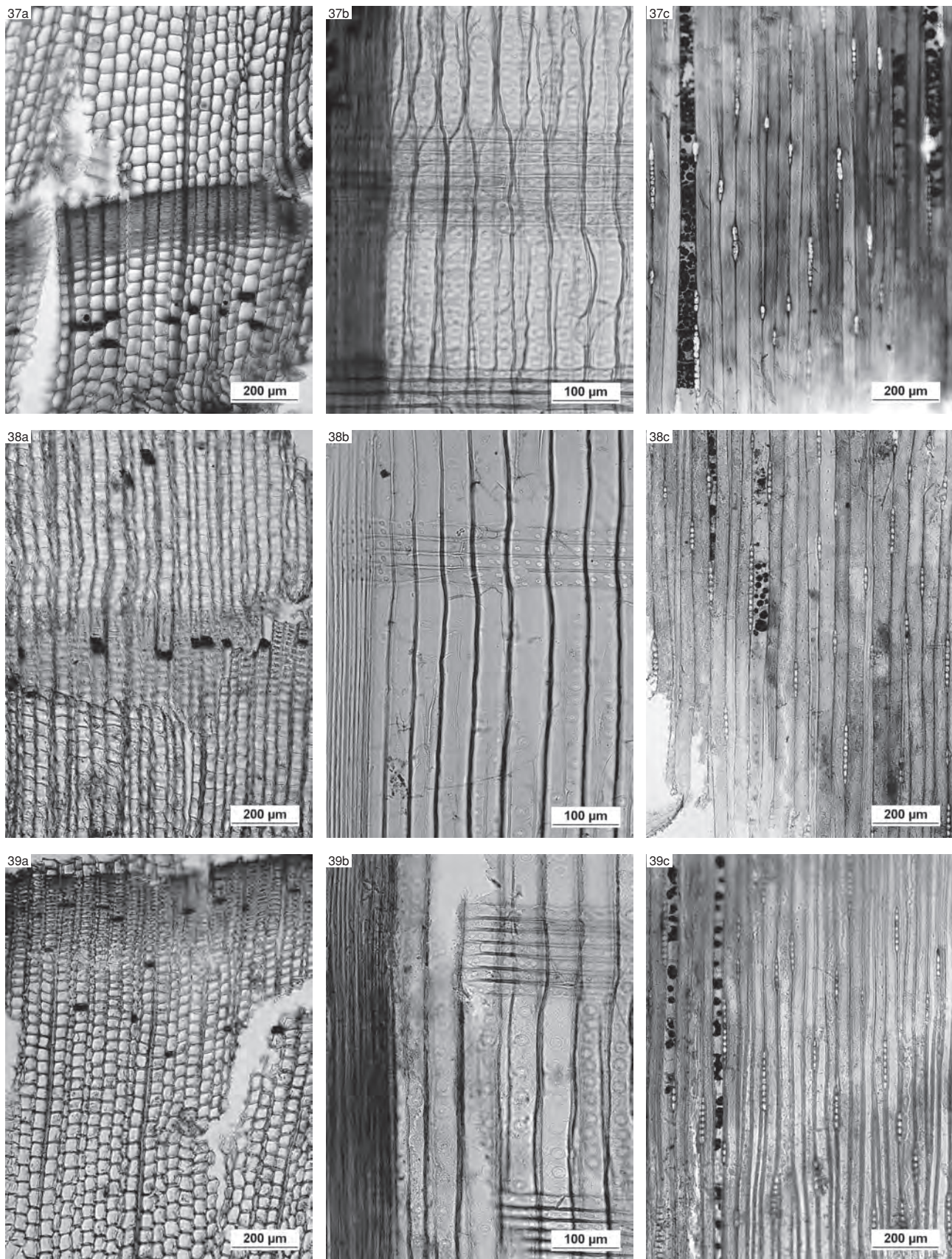
31 スギ科スギ属スギ (試料 No.83)
32 ブナ科クリ属クリ (試料 No.84)
33 スギ科スギ属スギ (試料 No.85)
a: 木口、b: 柎目、c: 板目

第 312 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (11) 吉田生物研究所



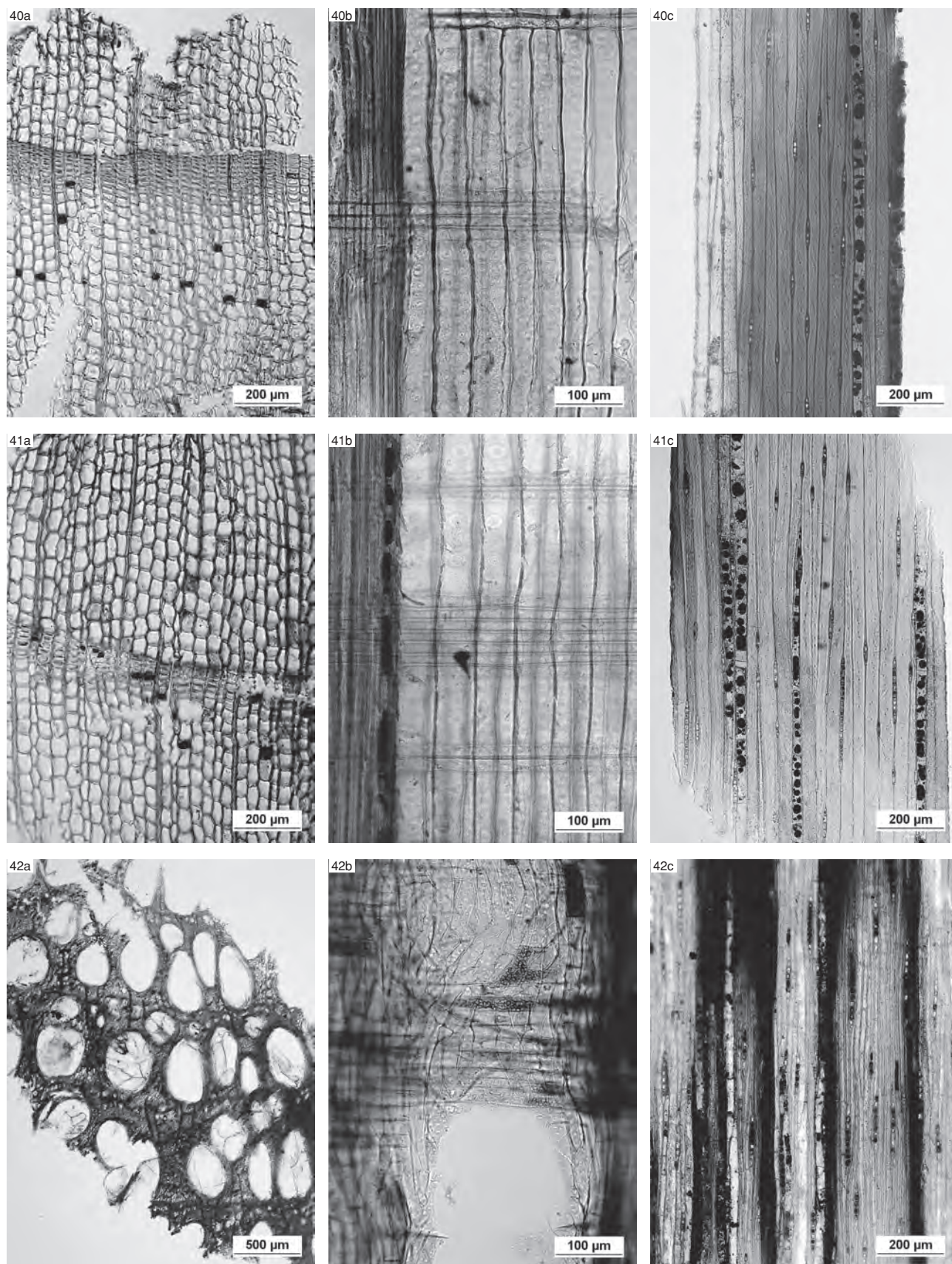
34 スギ科スギ属スギ (試料 No.86)
 35 スギ科スギ属スギ (試料 No.87)
 36 スギ科スギ属スギ (試料 No.88)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 313 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (12) 吉田生物研究所



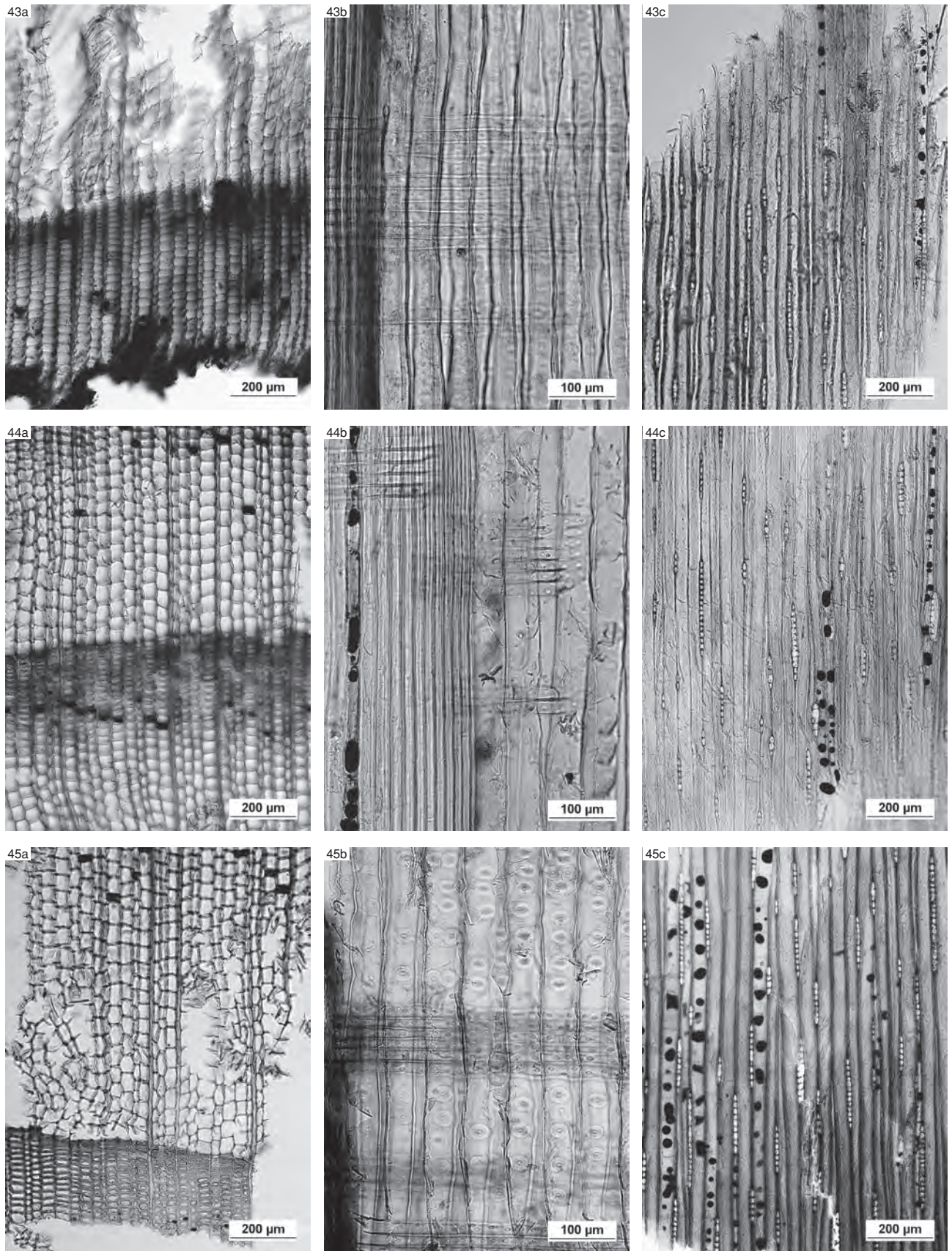
37 スギ科スギ属スギ (試料 No.89)
38 スギ科スギ属スギ (試料 No.90)
39 スギ科スギ属スギ (試料 No.91)
a: 木口, b: 柢目, c: 板目

第 314 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (13) 吉田生物研究所



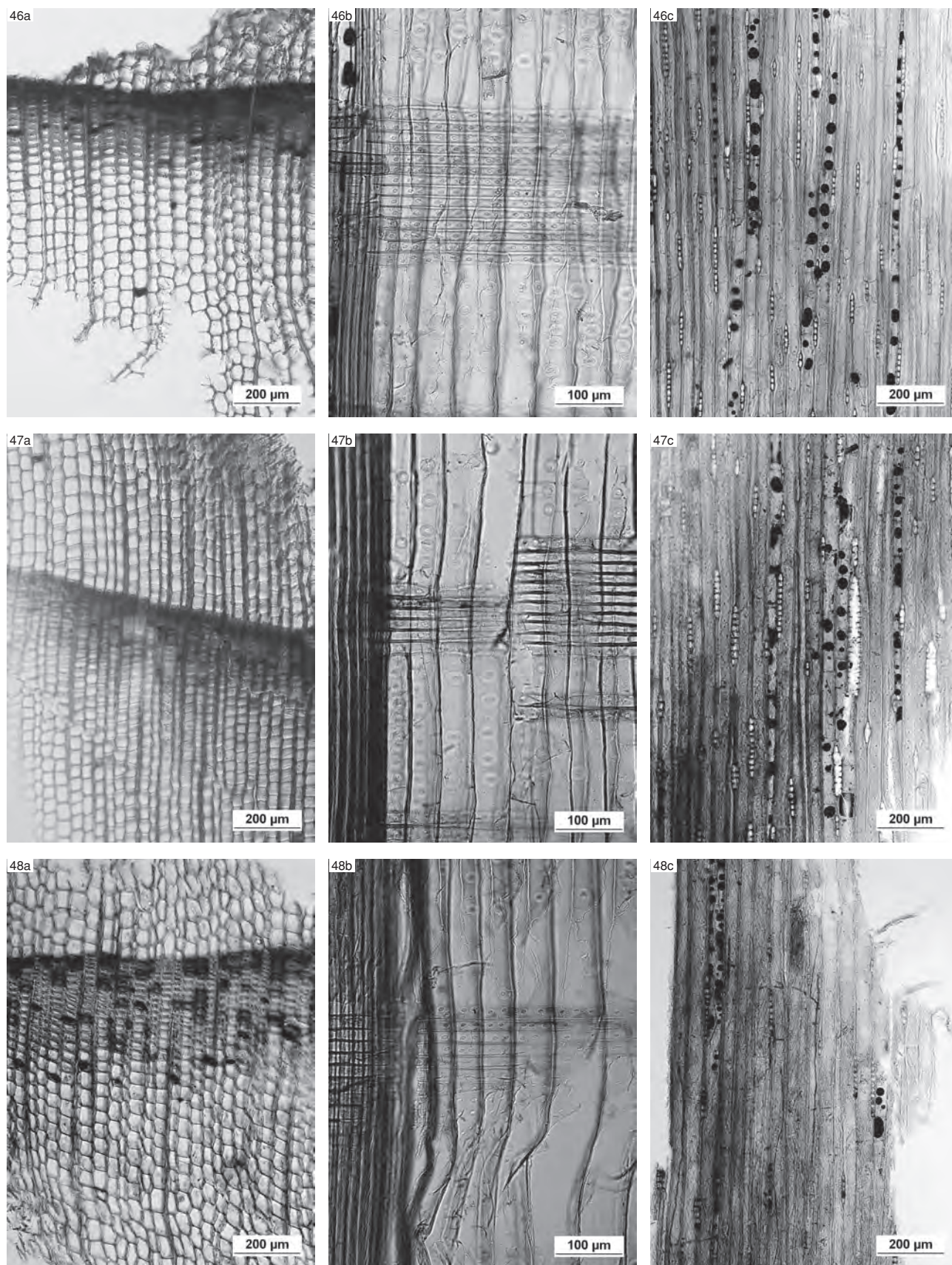
40 スギ科スギ属スギ (試料 No.92)
 41 スギ科スギ属スギ (試料 No.93)
 42 フナ科クリ属クリ (試料 No.94)
 a: 木口、b: 柾目、c: 板目

第 315 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (14) 吉田生物研究所



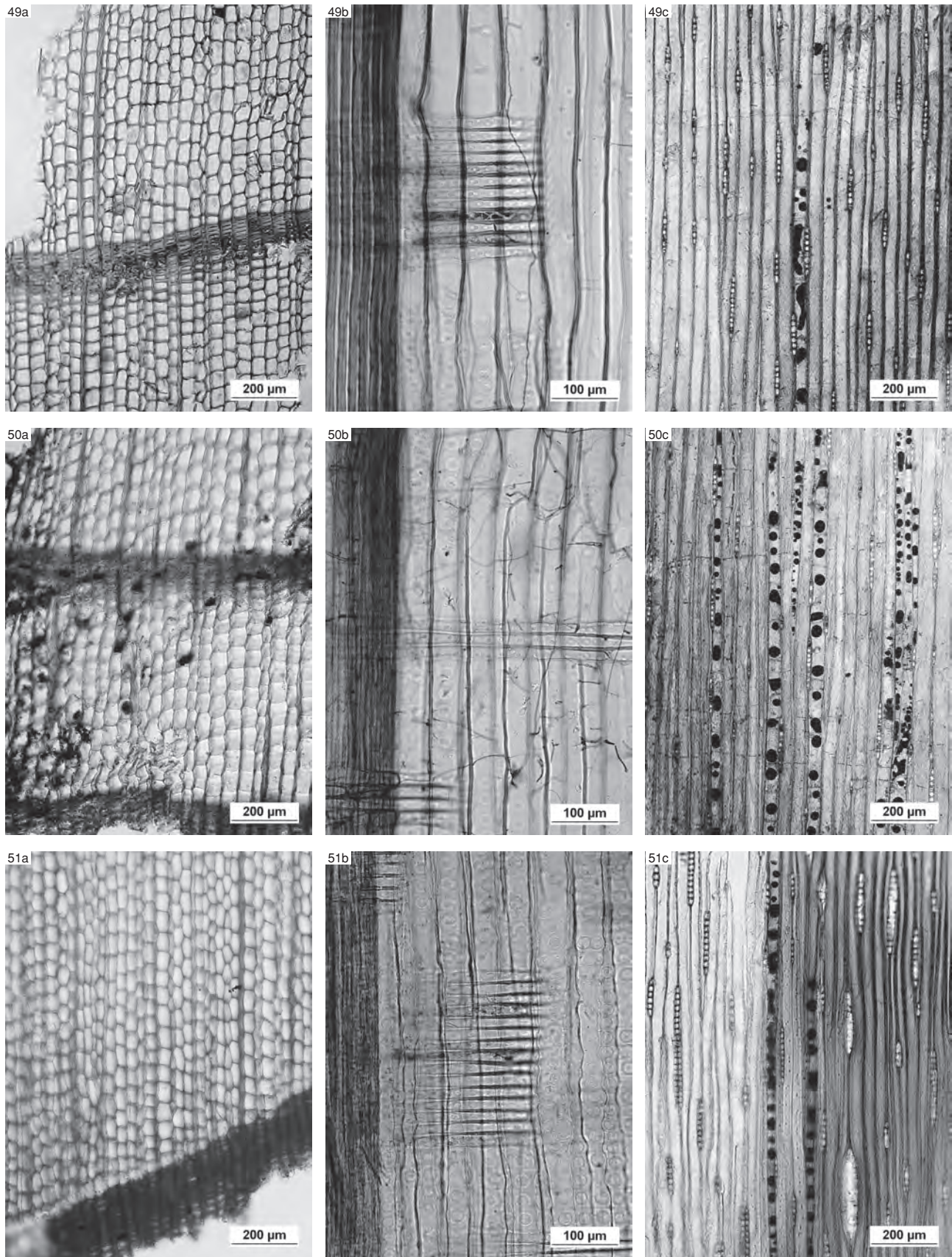
43 スギ科スギ属スギ (試料 No.95)
 44 スギ科スギ属スギ (試料 No.96)
 45 スギ科スギ属スギ (試料 No.97)
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

第 316 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (15) 吉田生物研究所



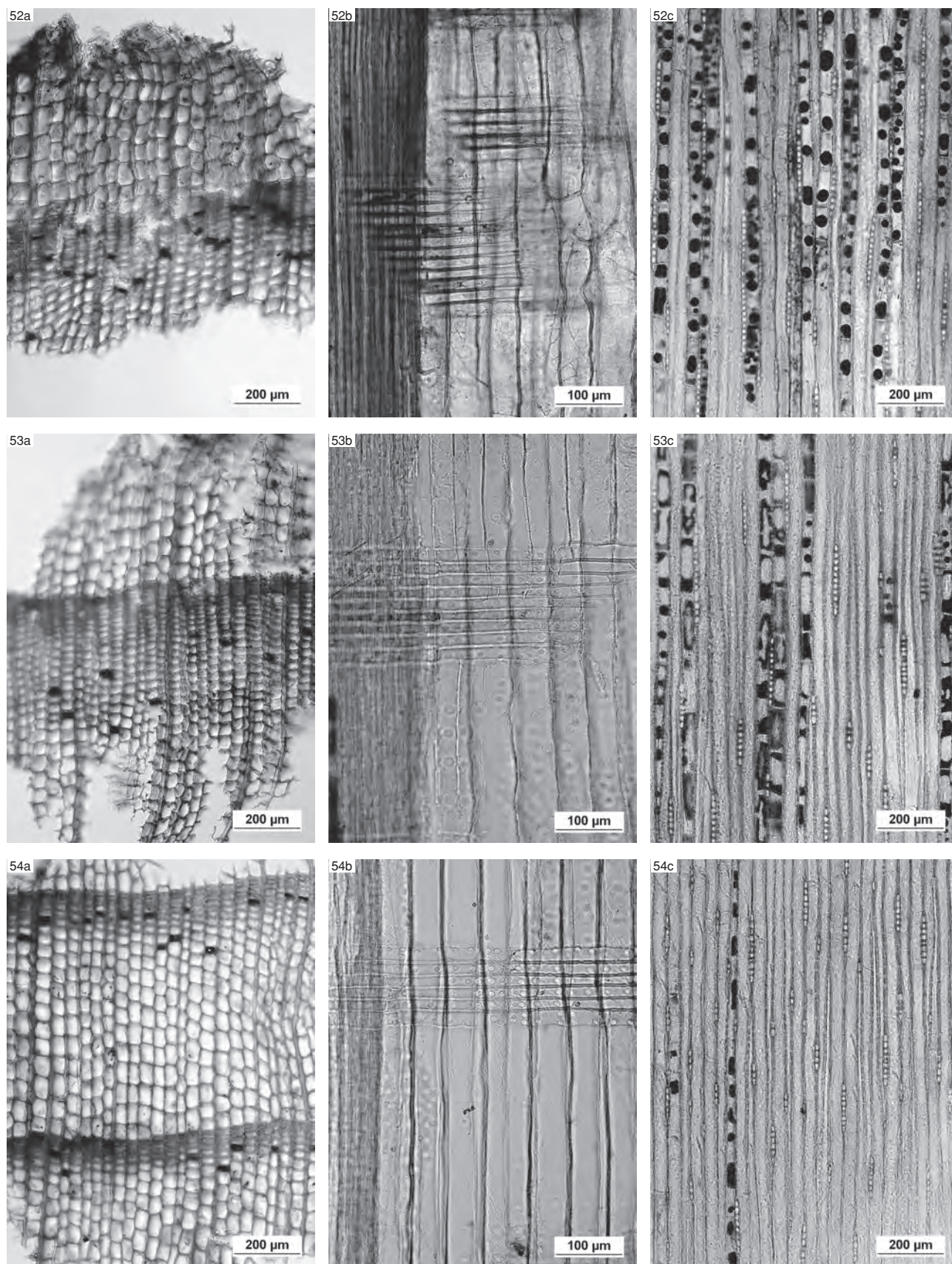
46 スギ科スギ属スギ (試料 No.98)
 47 スギ科スギ属スギ (試料 No.99)
 48 スギ科スギ属スギ (試料 No.100)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 317 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (16) 吉田生物研究所



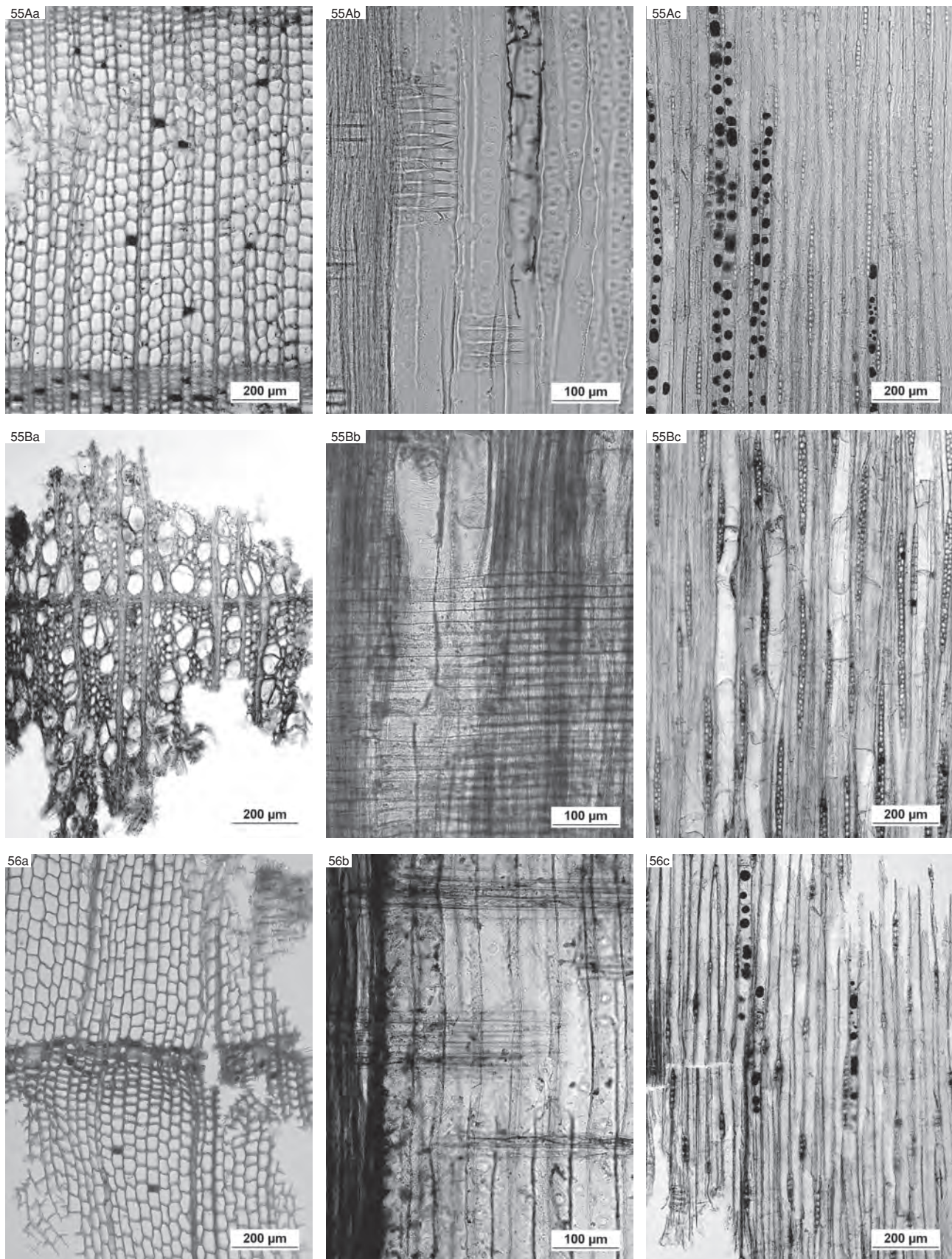
49 スギ科スギ属スギ (試料 No.101)
 50 スギ科スギ属スギ (試料 No.102)
 51 スギ科スギ属スギ (試料 No.103)
 a: 木口、b: 柎目、c: 板目

第 318 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (17) 吉田生物研究所



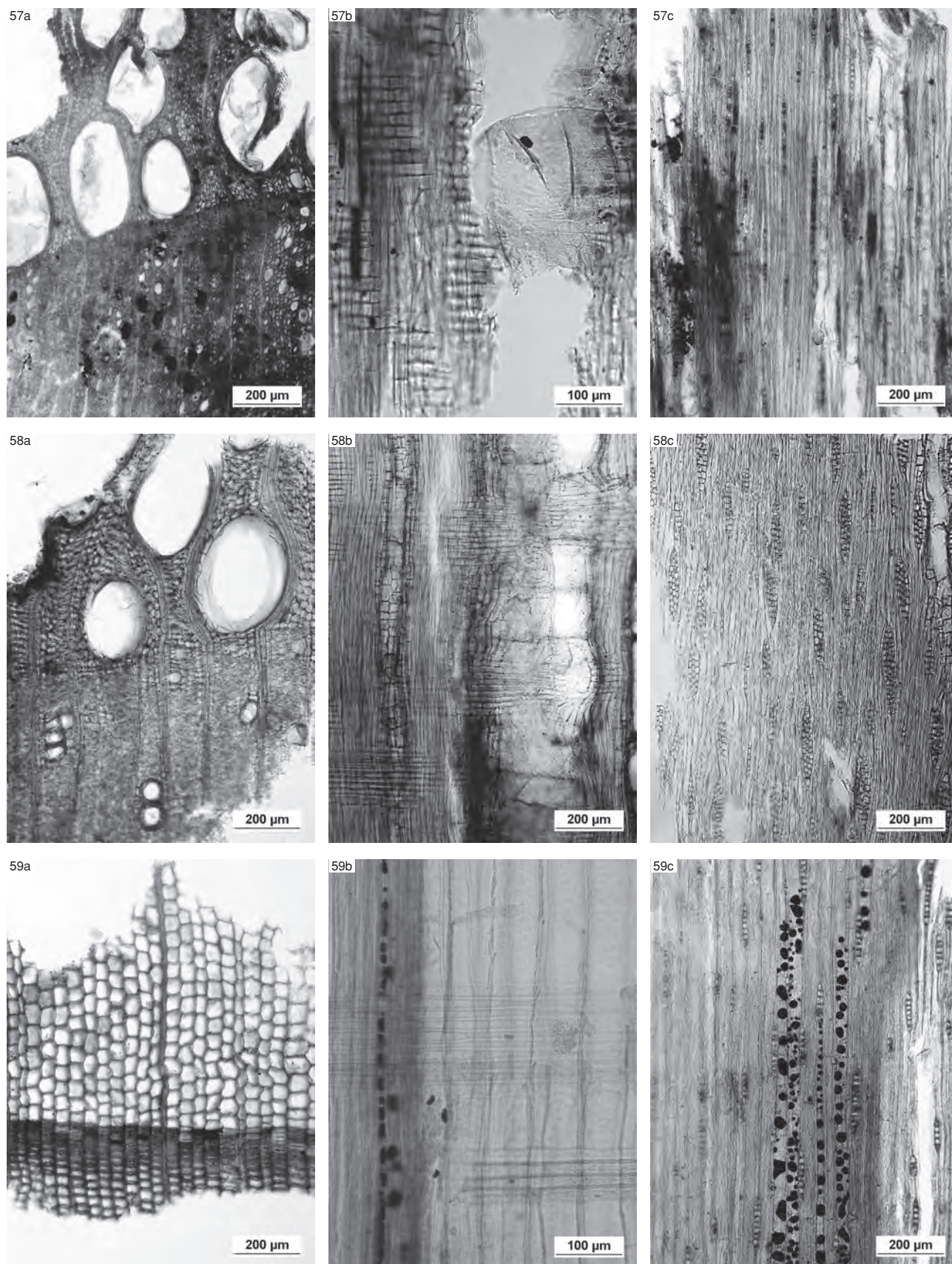
52 スギ科スギ属スギ (試料 No.104)
 53 スギ科スギ属スギ (試料 No.105)
 54 スギ科スギ属スギ (試料 No.106)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 319 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (18) 吉田生物研究所



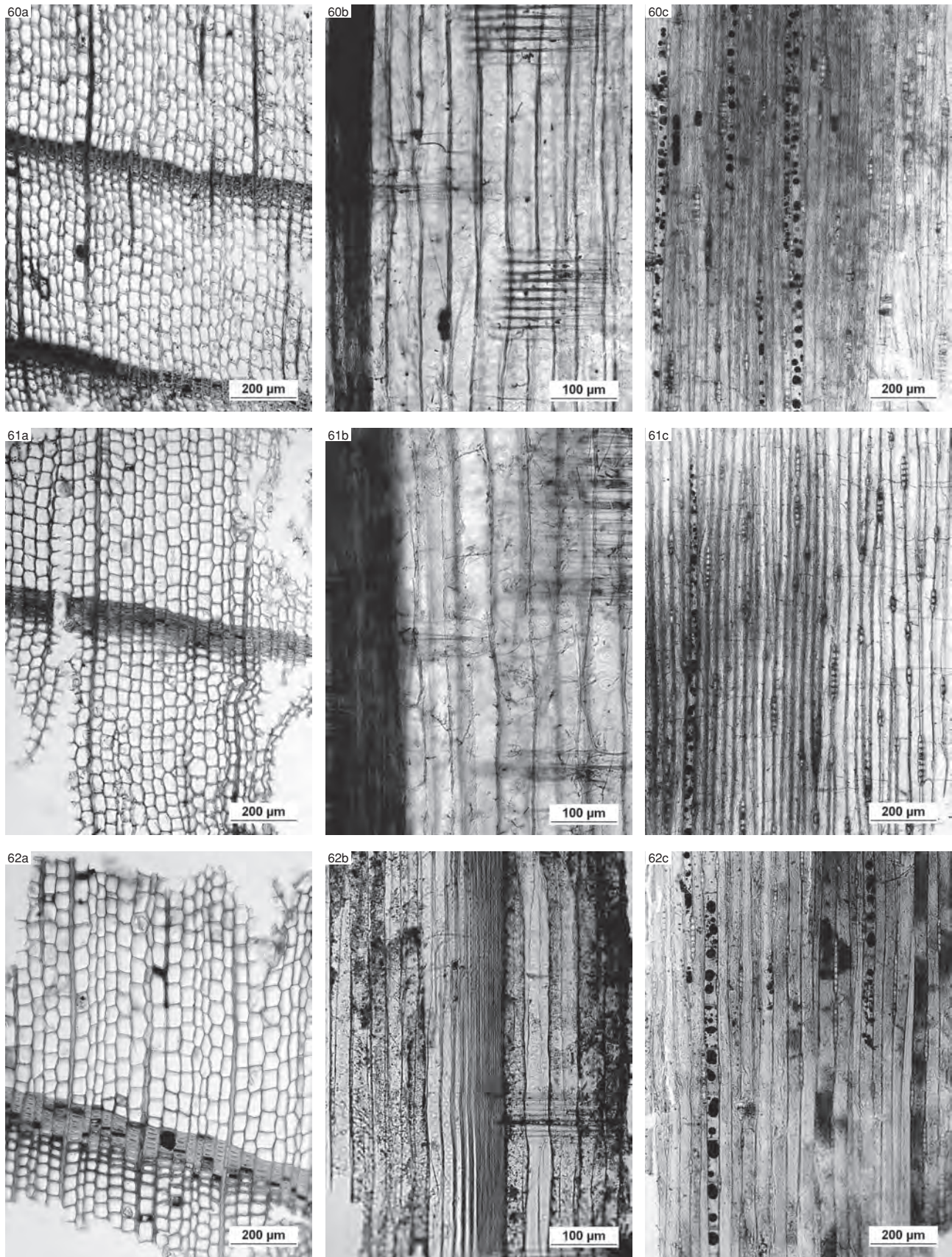
55A スギ科スギ属スギ (試料 No.107A)
 55B モクレン科モクレン属 (試料 No.107B)
 56 スギ科スギ属スギ (試料 No.108)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 320 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (19) 吉田生物研究所



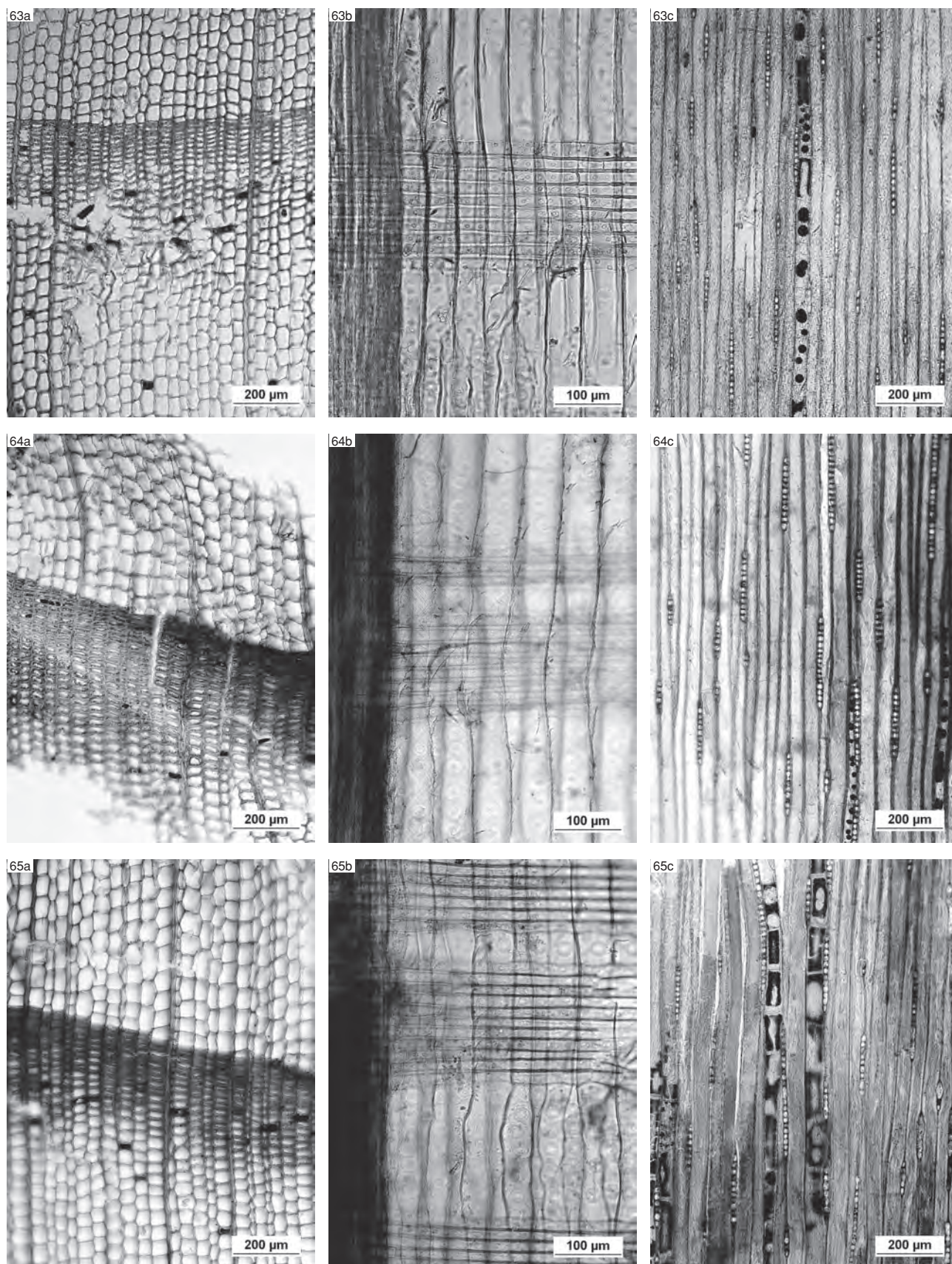
57 ブナ科クリ属クリ (試料 No.109)
 58 モクセイ科トネリコ属 (試料 No.42(110))
 59 スギ科スギ属スギ (試料 No.111)
 a: 木口、b: 柢目、c: 板目

第 321 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (20) 吉田生物研究所



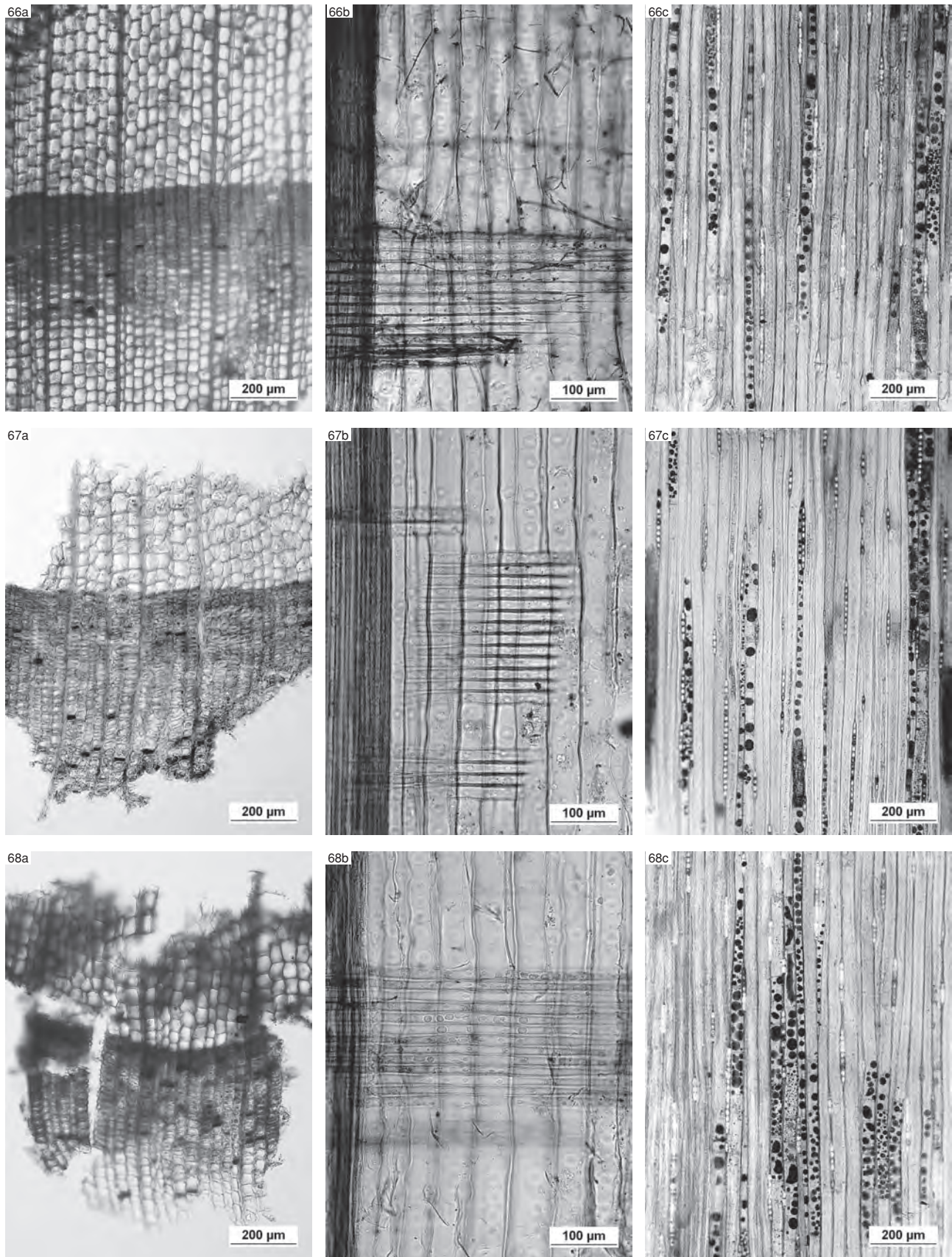
60 スギ科スギ属スギ (試料 No.112)
61 スギ科スギ属スギ (試料 No.113)
62 スギ科スギ属スギ (試料 No.114)
a: 木口, b: 柁目, c: 板目

第 322 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (21) 吉田生物研究所



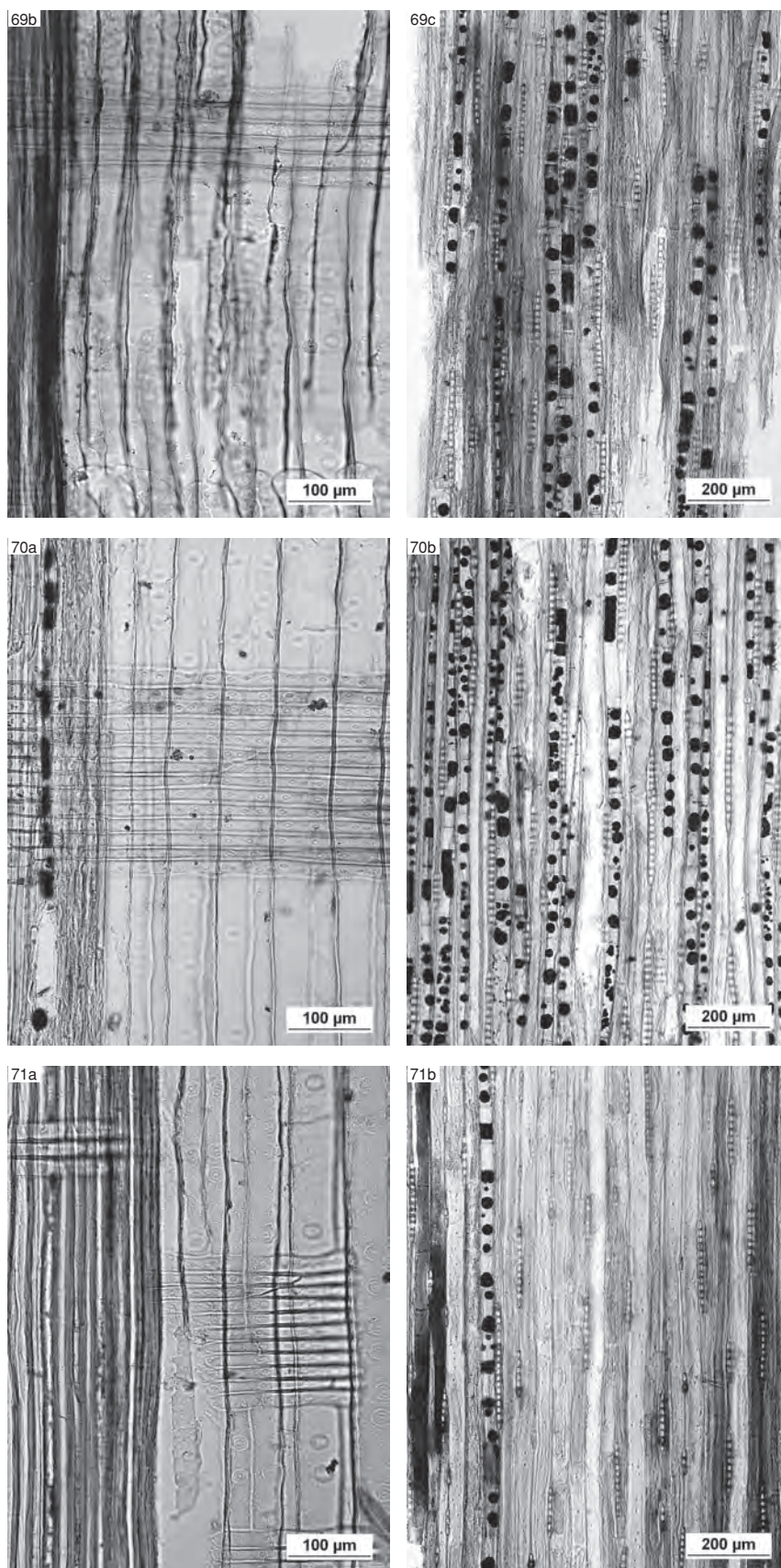
63 スギ科スギ属スギ (試料 No.115)
 64 スギ科スギ属スギ (試料 No.116)
 65 スギ科スギ属スギ (試料 No.117)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 323 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (22) 吉田生物研究所



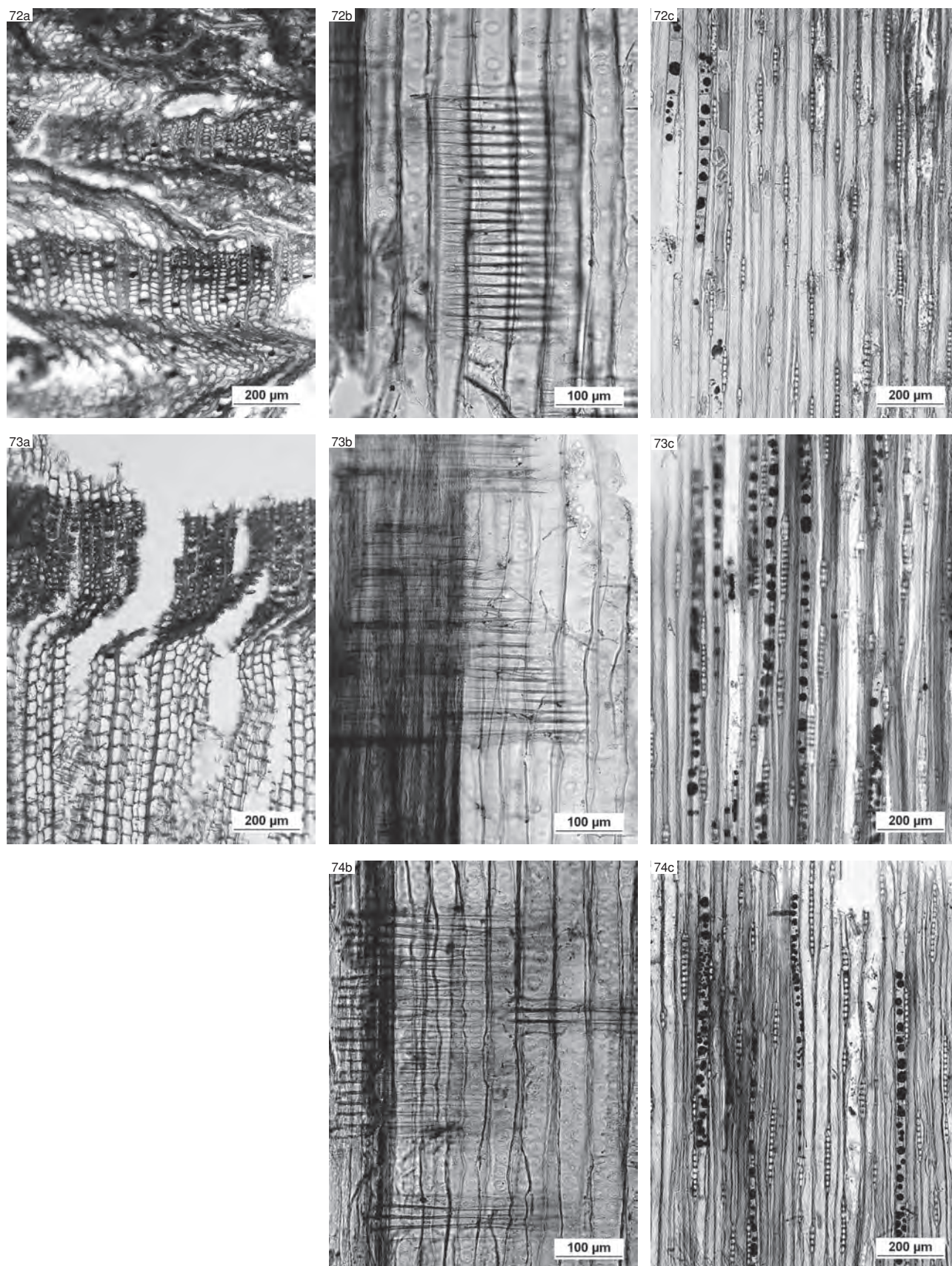
66 スギ科スギ属スギ (試料 No.118)
 67 スギ科スギ属スギ (試料 No.119)
 68 スギ科スギ属スギ (試料 No.120)
 a: 木口, b: 柢目, c: 板目

第 324 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (23) 吉田生物研究所



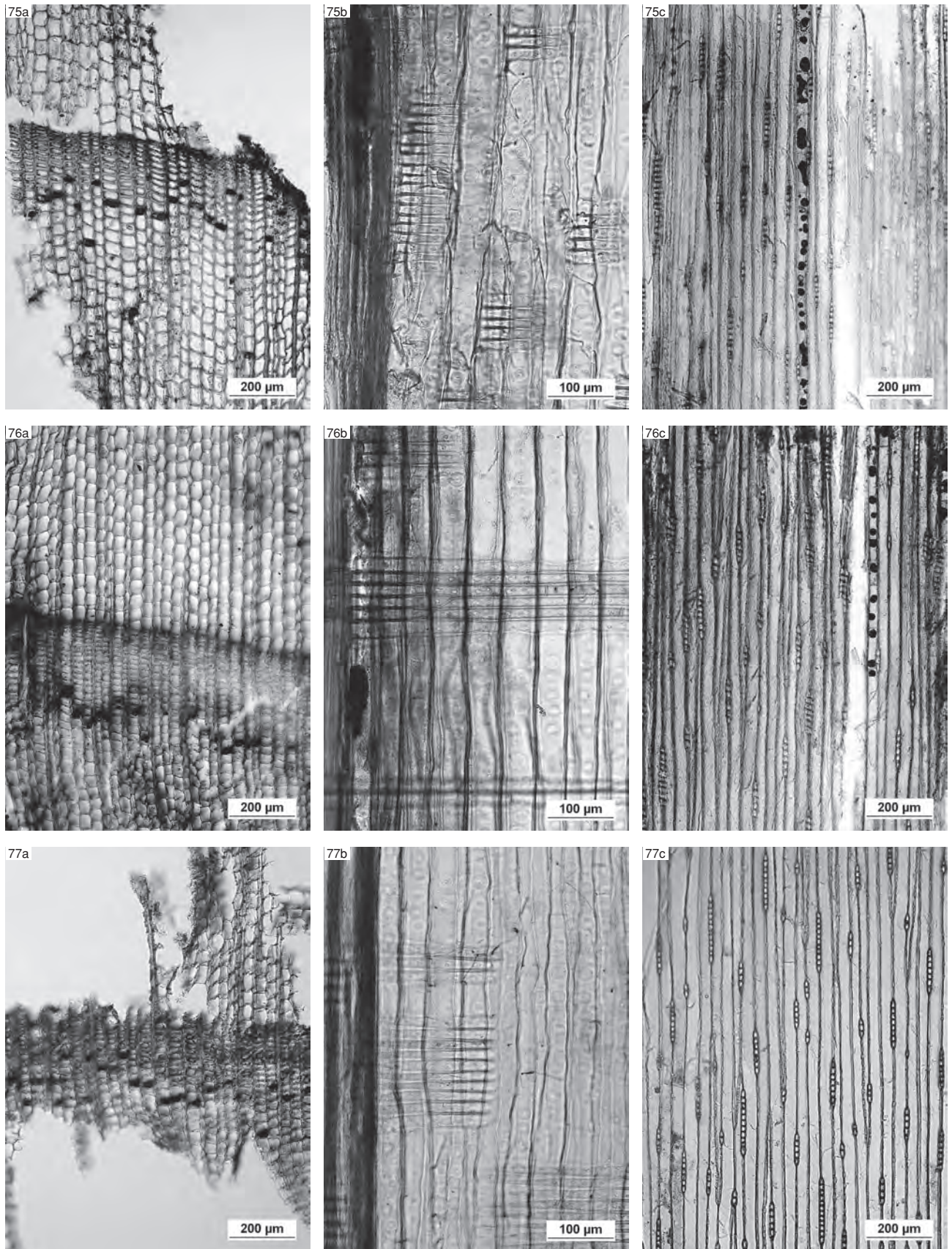
- 69 スギ科スギ属スギ (試料 No.121)
 70 スギ科スギ属スギ (試料 No.122)
 71 スギ科スギ属スギ (試料 No.123)
 b: 柎目、c: 板目

第 325 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (24) 吉田生物研究所



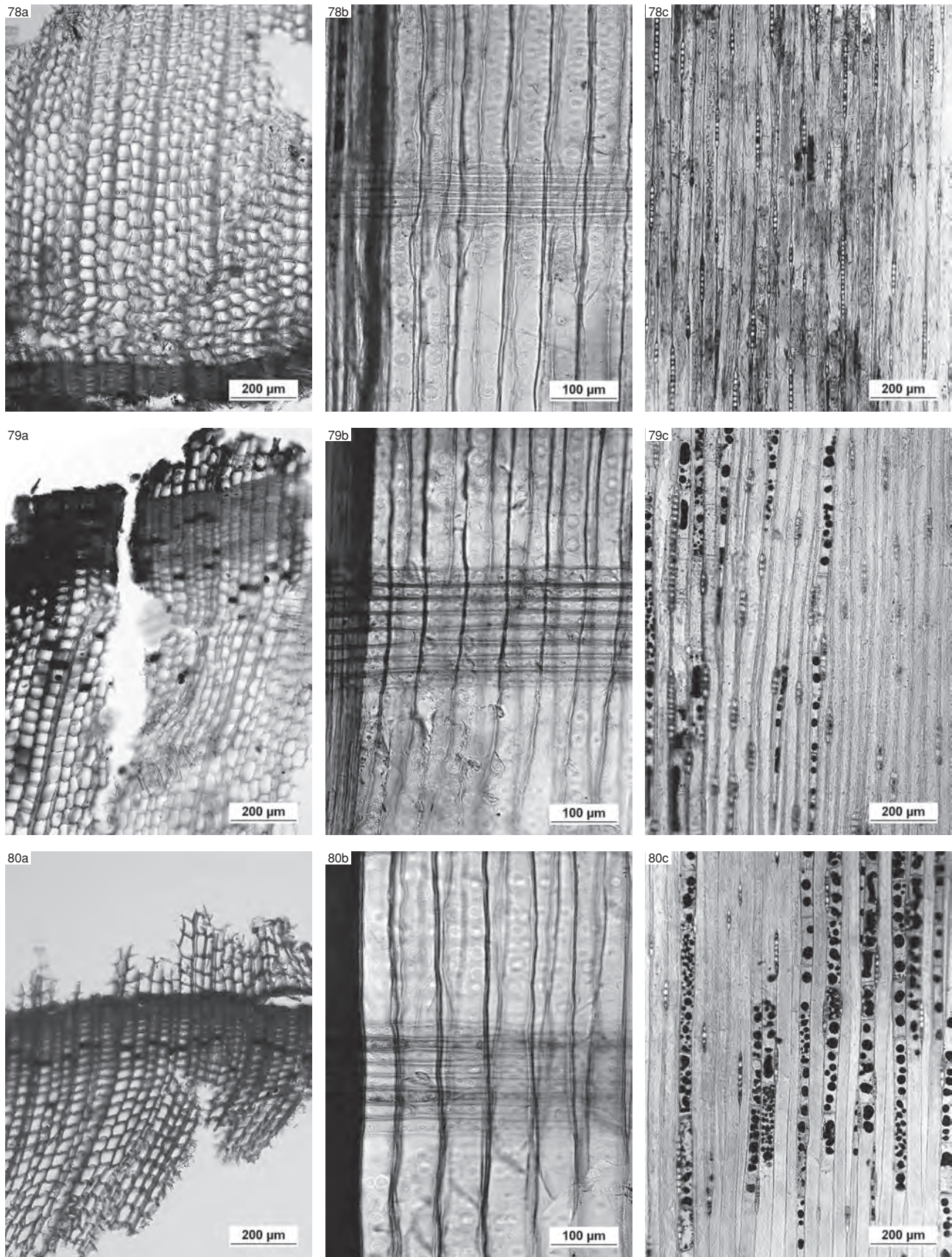
72 スギ科スギ属スギ (試料 No.124)
 73 スギ科スギ属スギ (試料 No.125)
 74 スギ科スギ属スギ (試料 No.126)
 a: 木口、b: 柎目、c: 板目

第 326 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (25) 吉田生物研究所



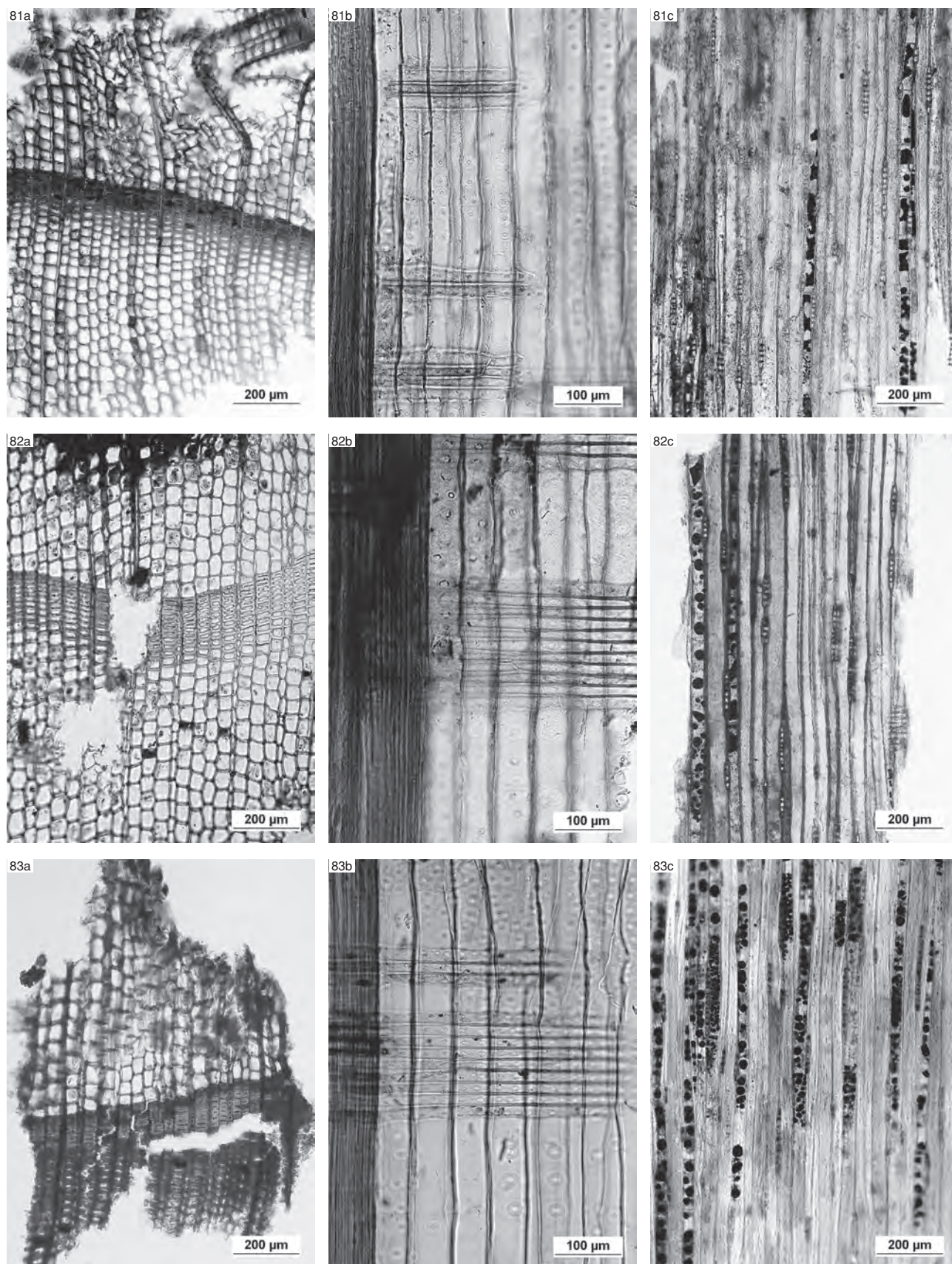
75 スギ科スギ属スギ (試料 No.127)
 76 スギ科スギ属スギ (試料 No.128)
 77 スギ科スギ属スギ (試料 No.129)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 327 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (26) 吉田生物研究所



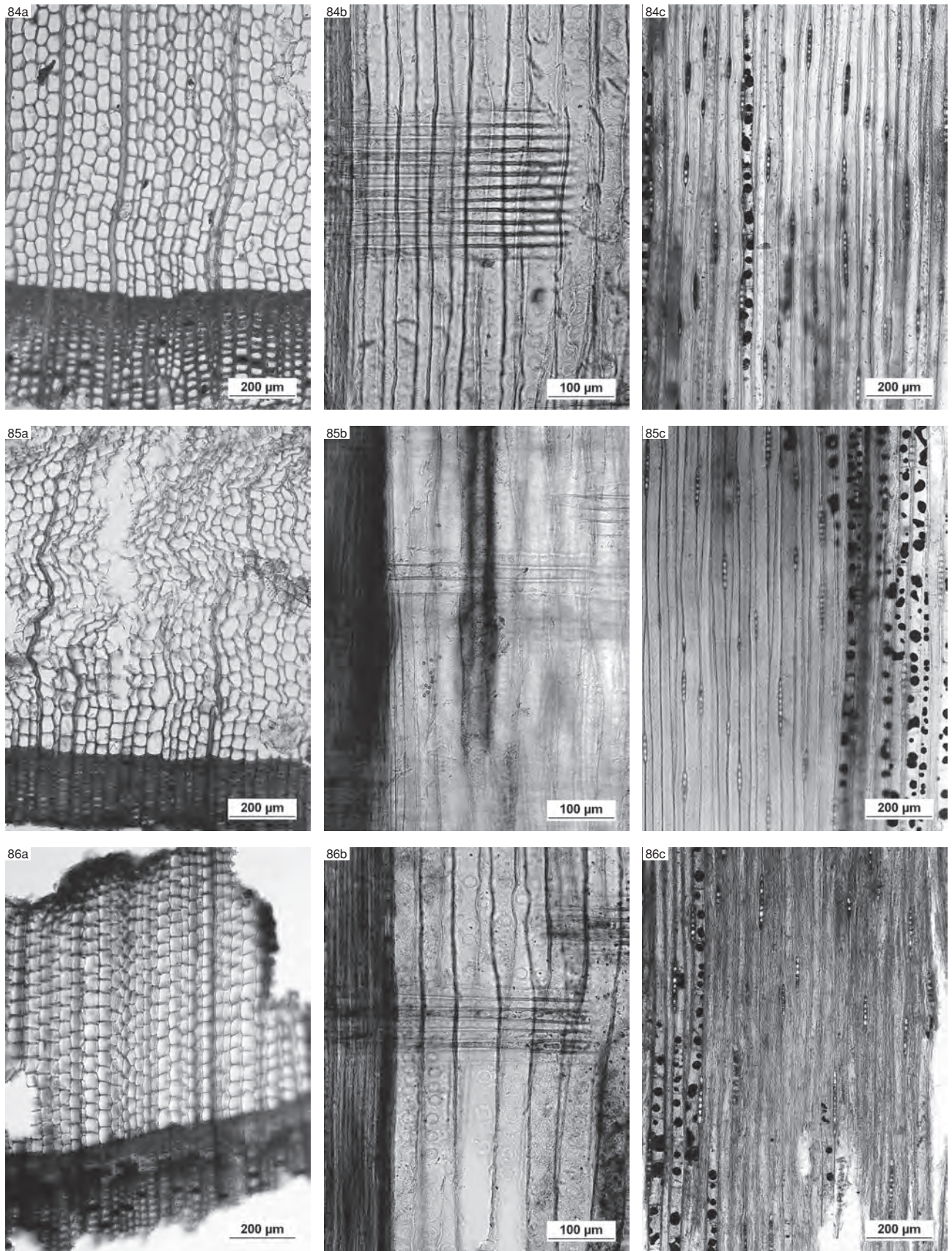
78 スギ科スギ属スギ (試料 No.130)
 79 スギ科スギ属スギ (試料 No.2(131))
 80 スギ科スギ属スギ (試料 No.132)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 328 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (27) 吉田生物研究所



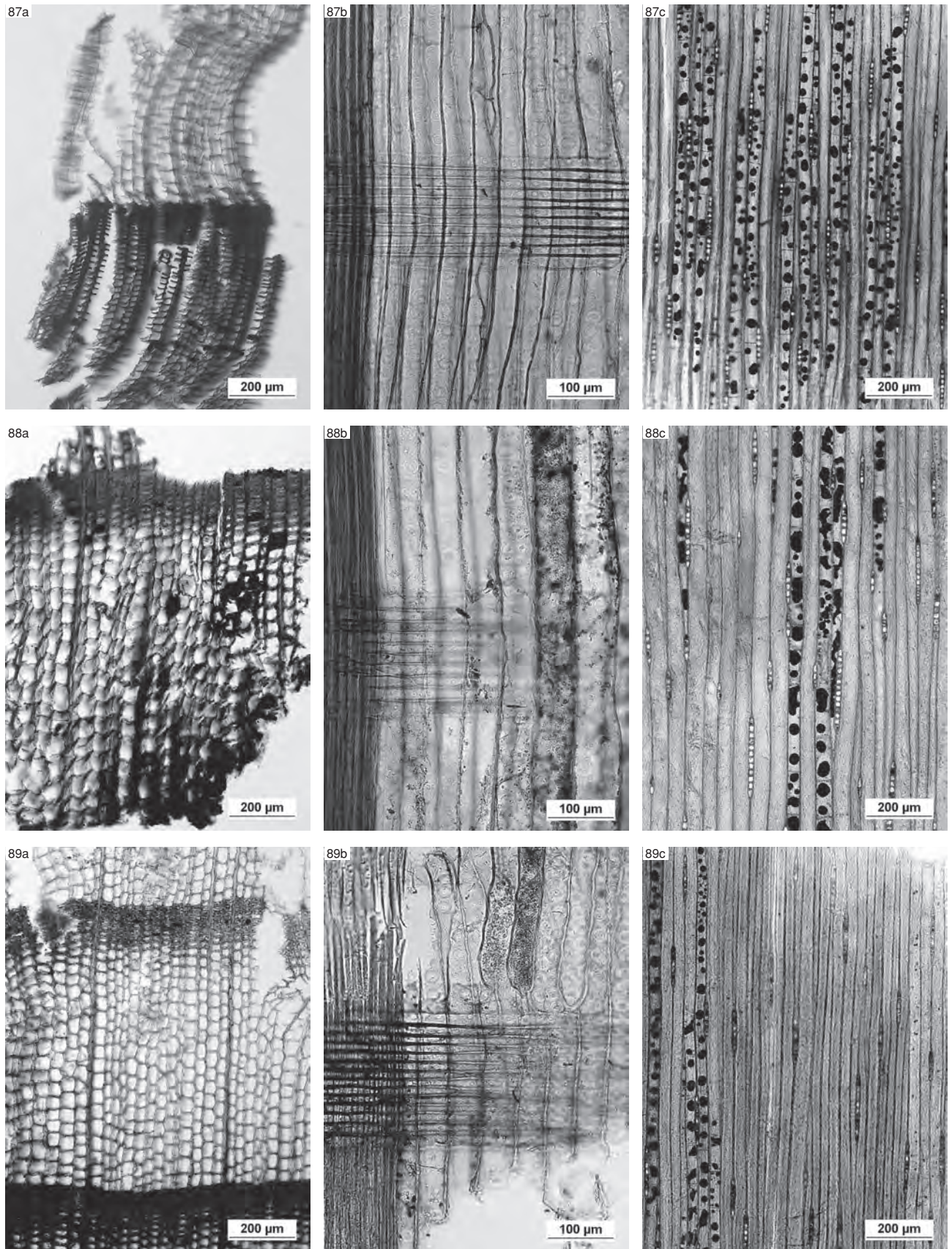
- 81 スギ科スギ属スギ (試料 No.133)
 82 スギ科スギ属スギ (試料 No.134)
 83 スギ科スギ属スギ (試料 No.135)
 a: 木口、b: 柎目、c: 板目

第 329 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (28) 吉田生物研究所



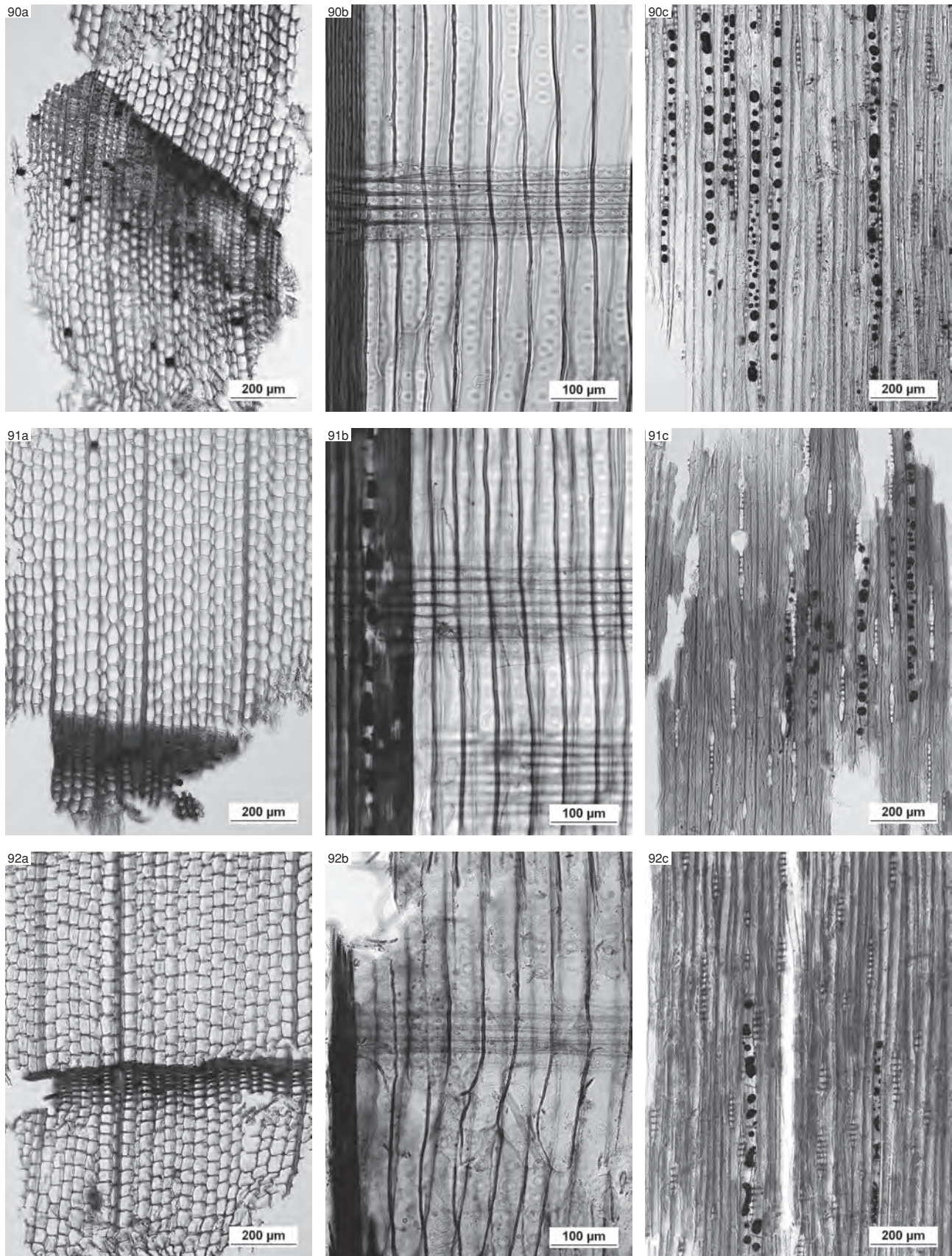
84 スギ科スギ属スギ (試料 No.136)
85 スギ科スギ属スギ (試料 No.137)
86 スギ科スギ属スギ (試料 No.138)
a: 木口, b: 柁目, c: 板目

第 330 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (29) 吉田生物研究所



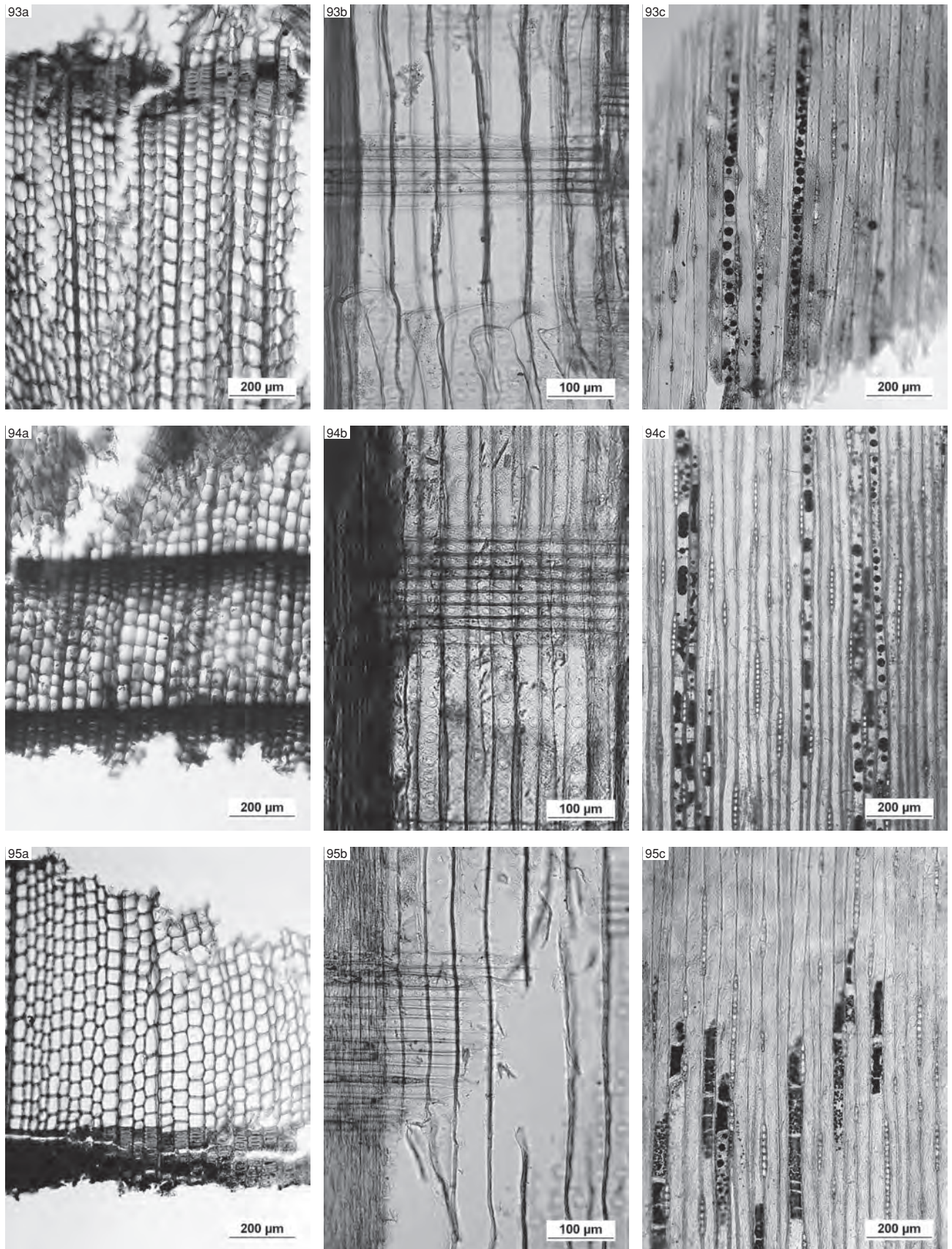
87 スギ科スギ属スギ (試料 No.139)
 88 スギ科スギ属スギ (試料 No.140)
 89 スギ科スギ属スギ (試料 No.141)
 a: 木口、b: 柢目、c: 板目

第 331 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (30) 吉田生物研究所



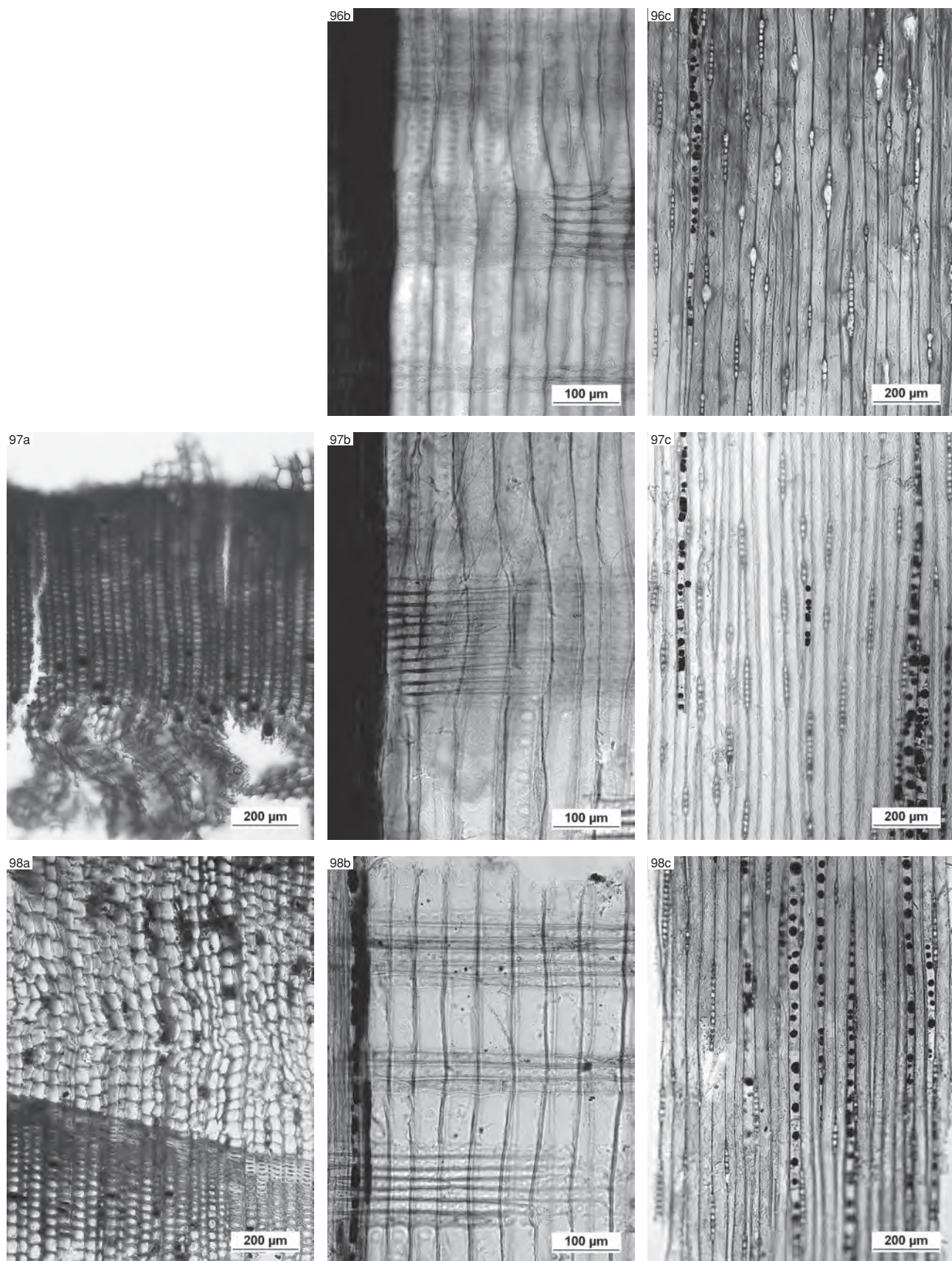
90 スギ科スギ属スギ (試料 No.142)
 91 スギ科スギ属スギ (試料 No.143)
 92 スギ科スギ属スギ (試料 No.144)
 a: 木口、b: 柢目、c: 板目

第 332 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (31) 吉田生物研究所



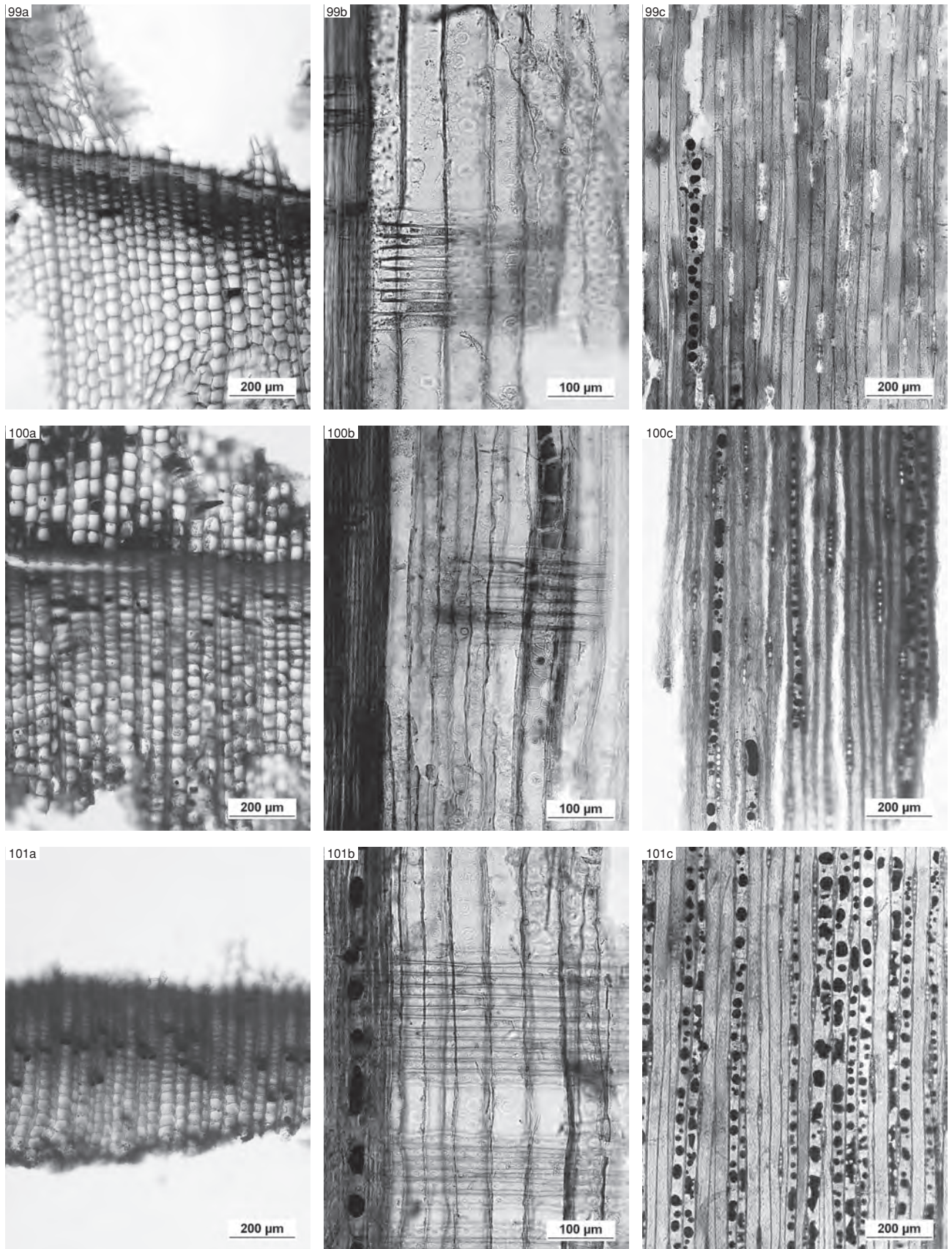
93 スギ科スギ属スギ (試料 No.145)
 94 スギ科スギ属スギ (試料 No.146)
 95 スギ科スギ属スギ (試料 No.147)
 a: 木口、b: 柃目、c: 板目

第 333 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (32) 吉田生物研究所



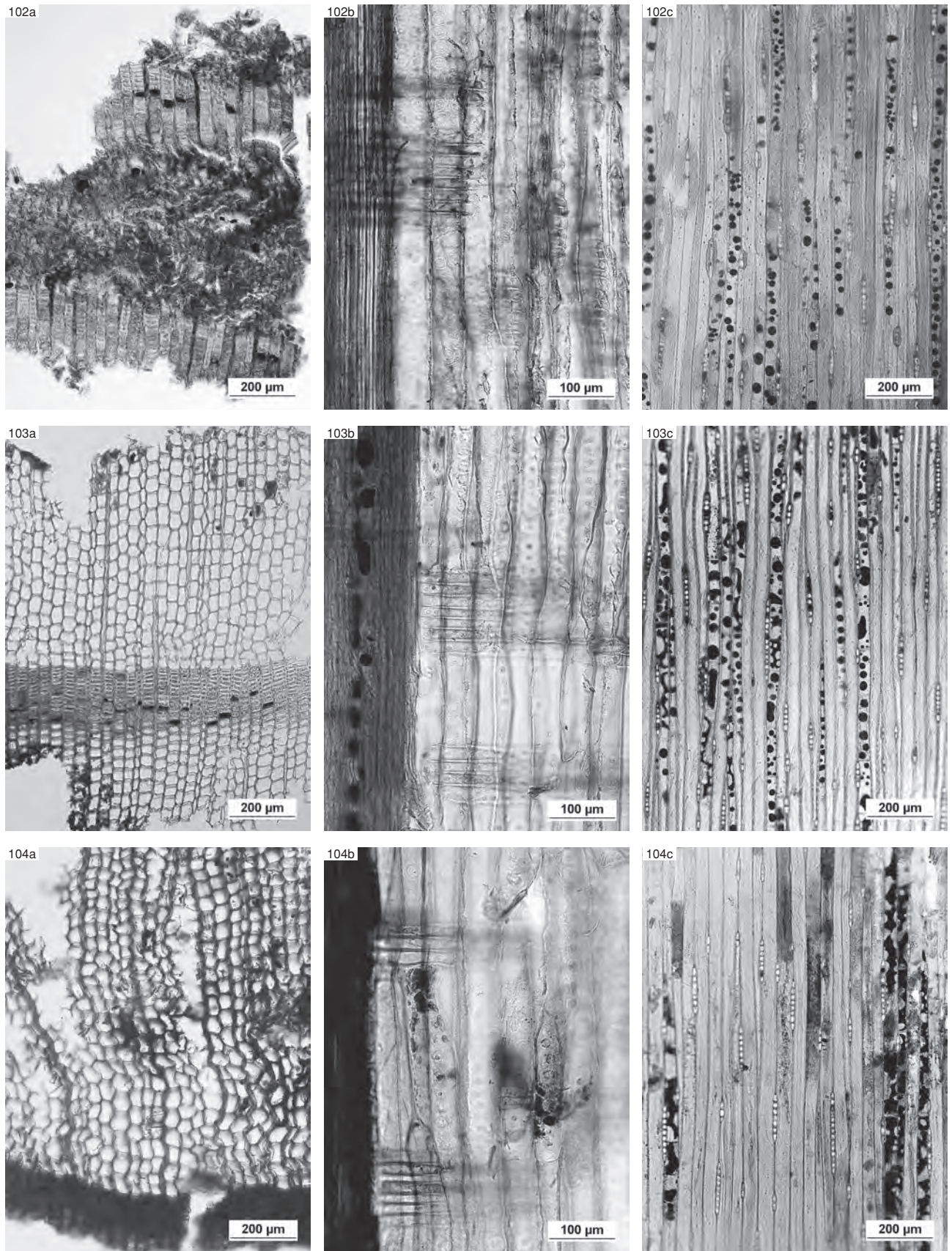
96 スギ科スギ属スギ (試料 No.148)
 97 スギ科スギ属スギ (試料 No.149)
 98 スギ科スギ属スギ (試料 No.150)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 334 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (33) 吉田生物研究所



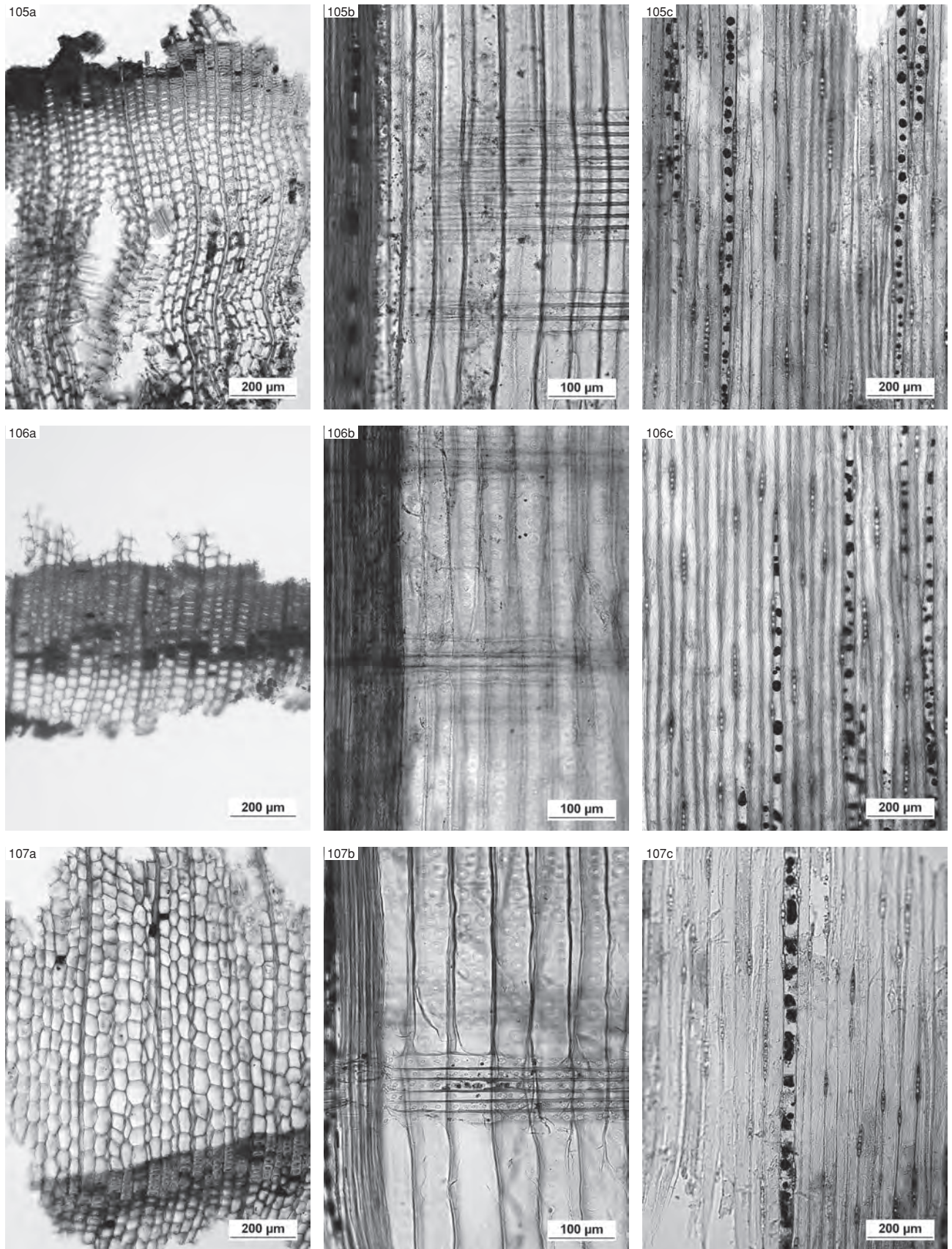
99 スギ科スギ属スギ (試料 No.151)
 100 スギ科スギ属スギ (試料 No.152)
 101 スギ科スギ属スギ (試料 No.153)
 a: 木口、b: 柾目、c: 板目

第 335 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (34) 吉田生物研究所



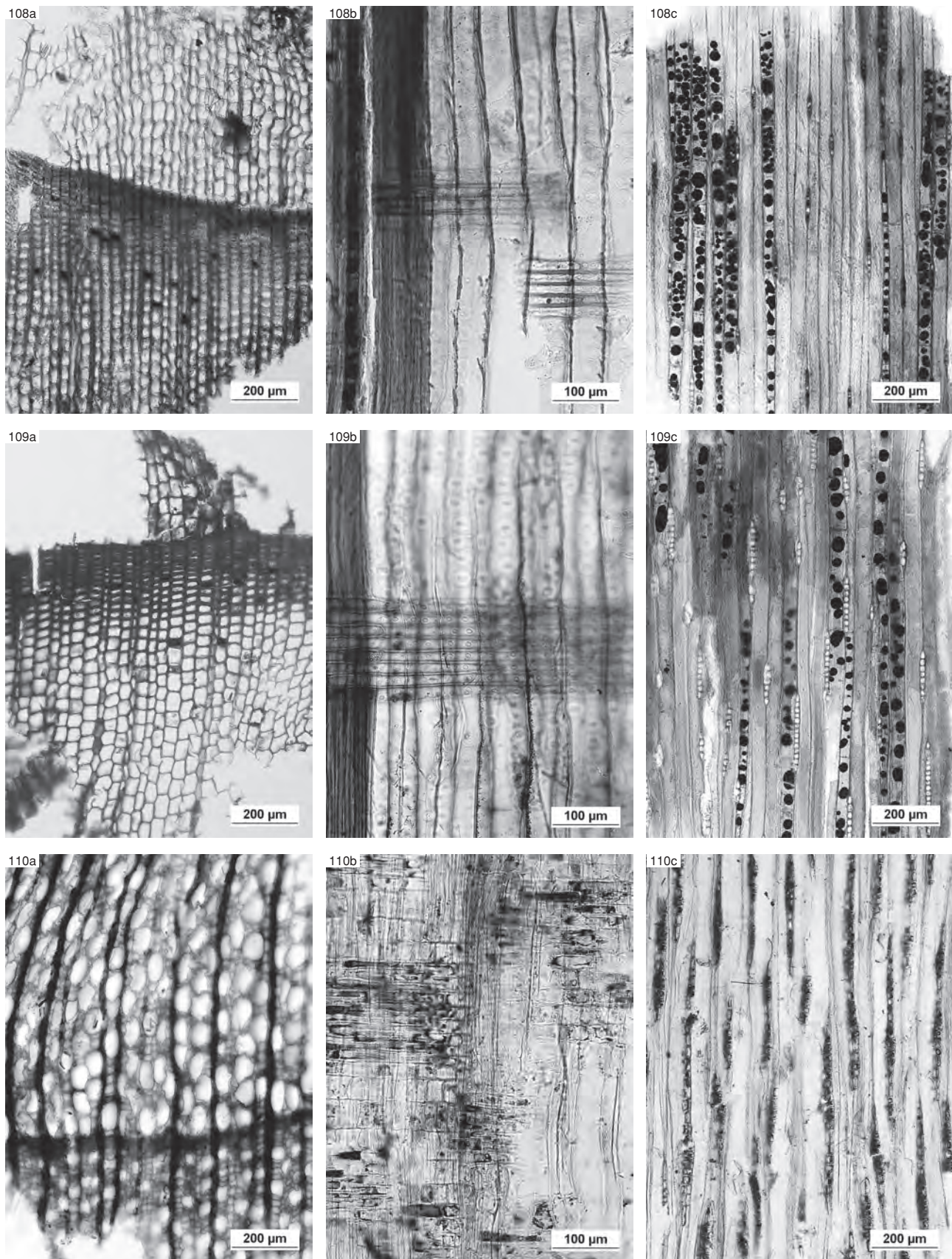
102 スギ科スギ属スギ (試料 No.154)
103 スギ科スギ属スギ (試料 No.155)
104 スギ科スギ属スギ (試料 No.156)
a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 336 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (35) 吉田生物研究所



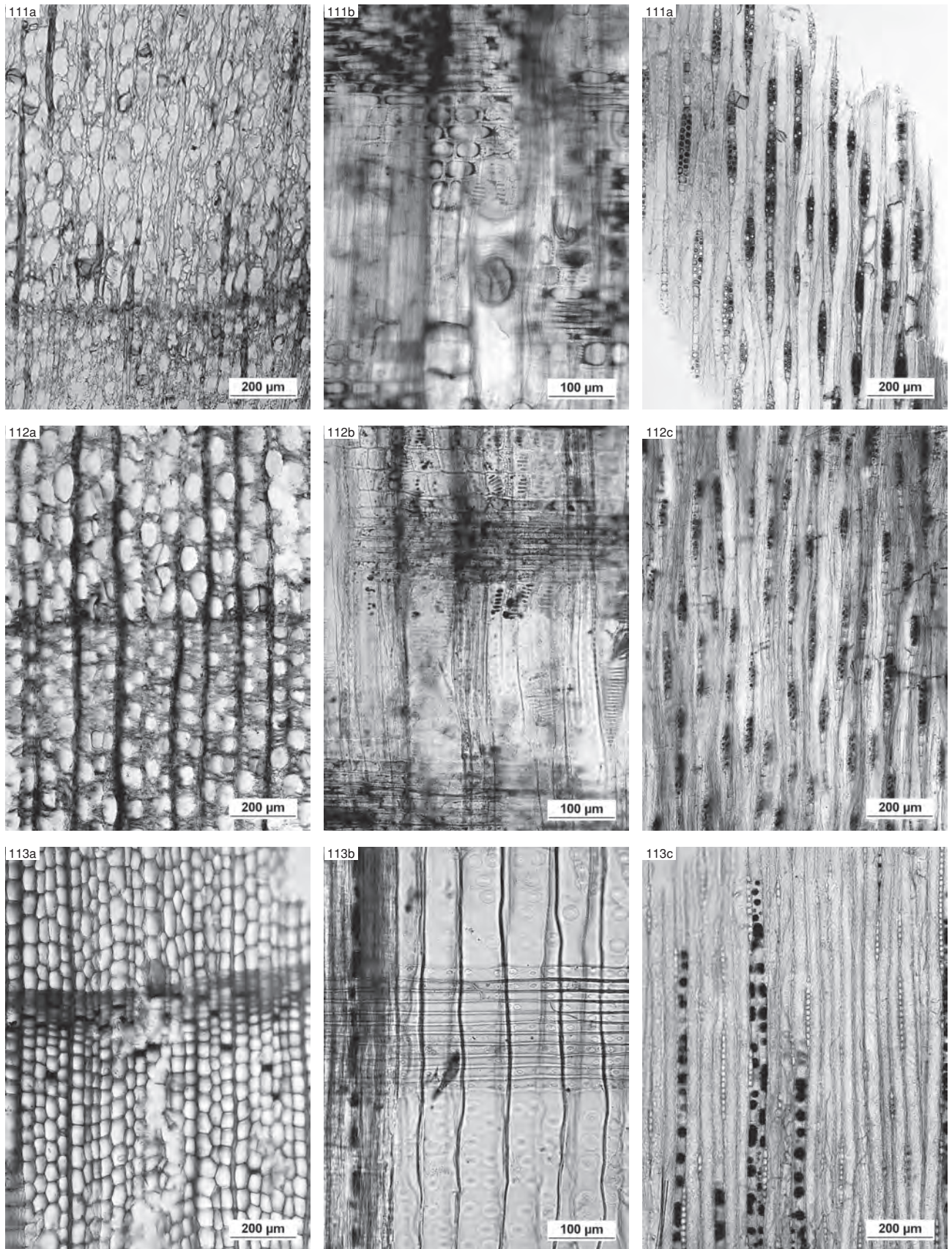
105 スギ科スギ属スギ (試料 No.157)
 106 スギ科スギ属スギ (試料 No.158)
 107 スギ科スギ属スギ (試料 No.159)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 337 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (36) 吉田生物研究所



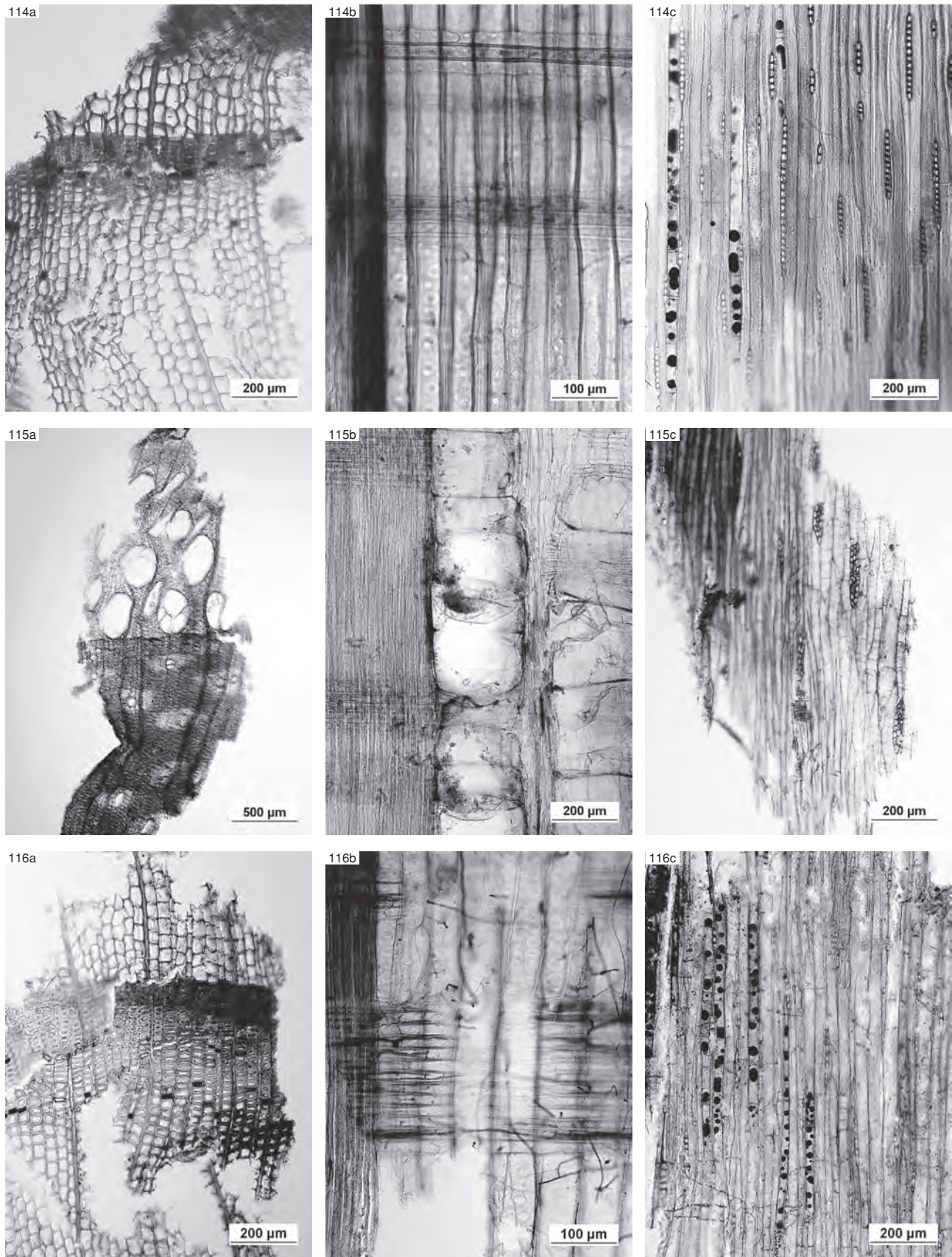
108 スギ科スギ属スギ (試料 No.160)
 109 スギ科スギ属スギ (試料 No.161)
 110 カツラ科カツラ属カツラ (試料 No.162)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 338 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (37) 吉田生物研究所



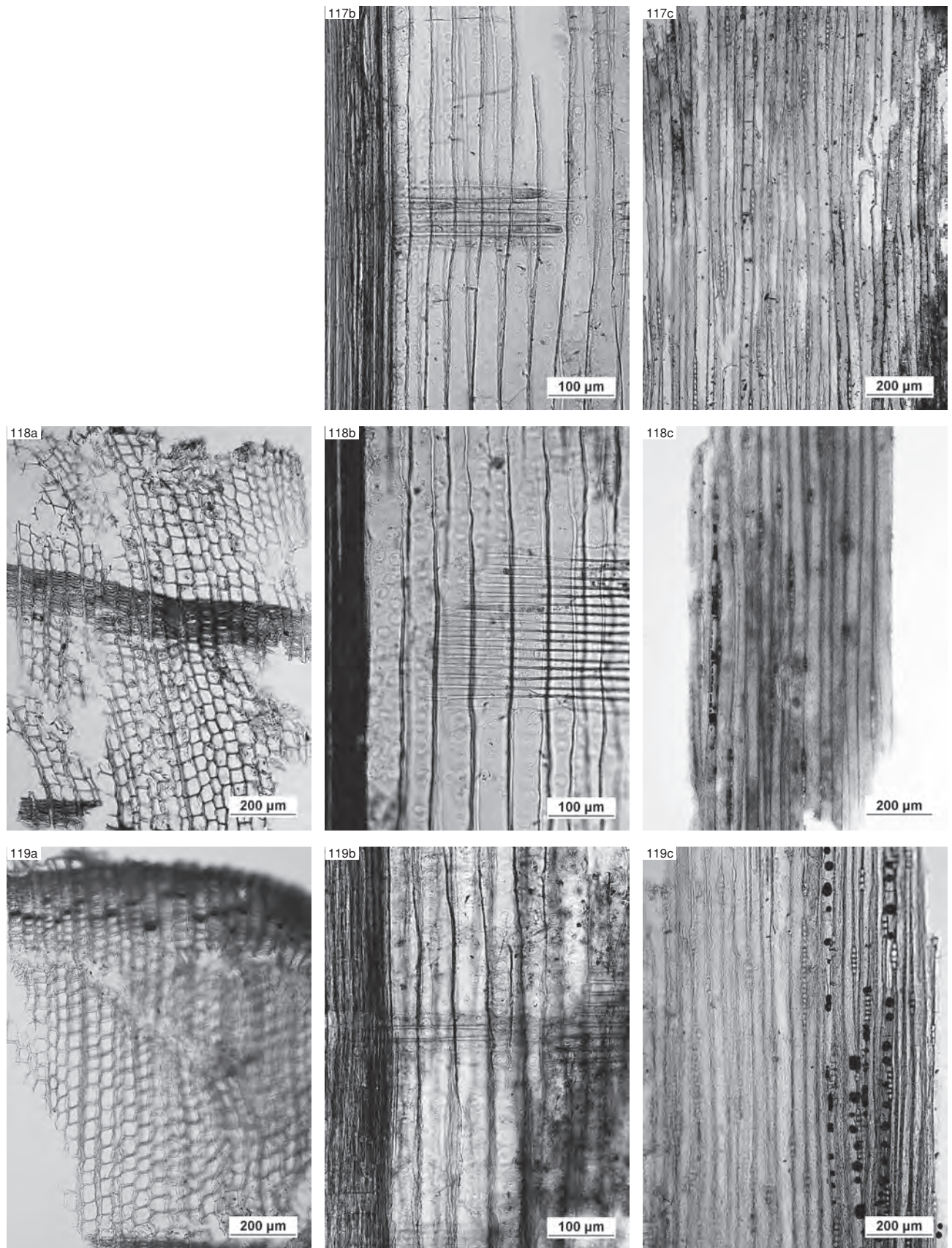
111 カツラ科カツラ属カツラ (試料 No.163)
 112 カツラ科カツラ属カツラ (試料 No.164)
 113 スギ科スギ属スギ (試料 No.4(165))
 a: 木口、b: 柎目、c: 板目

第 339 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (38) 吉田生物研究所



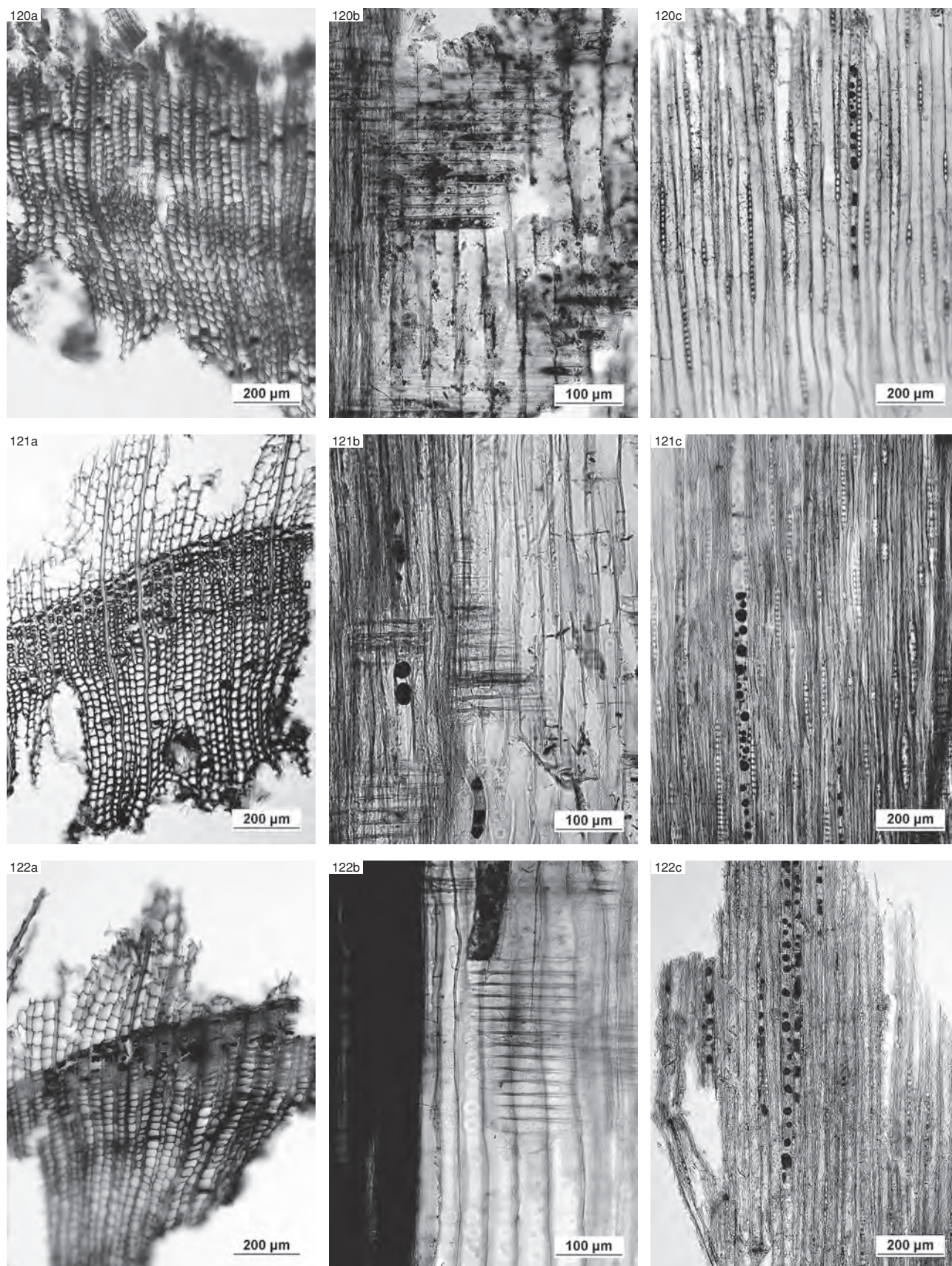
114 スギ科スギ属スギ (試料 No.166)
 115 ノウゼンカズラ科キリ属キリ (試料 No.167)
 116 スギ科スギ属スギ (試料 No.168)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 340 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (39) 吉田生物研究所



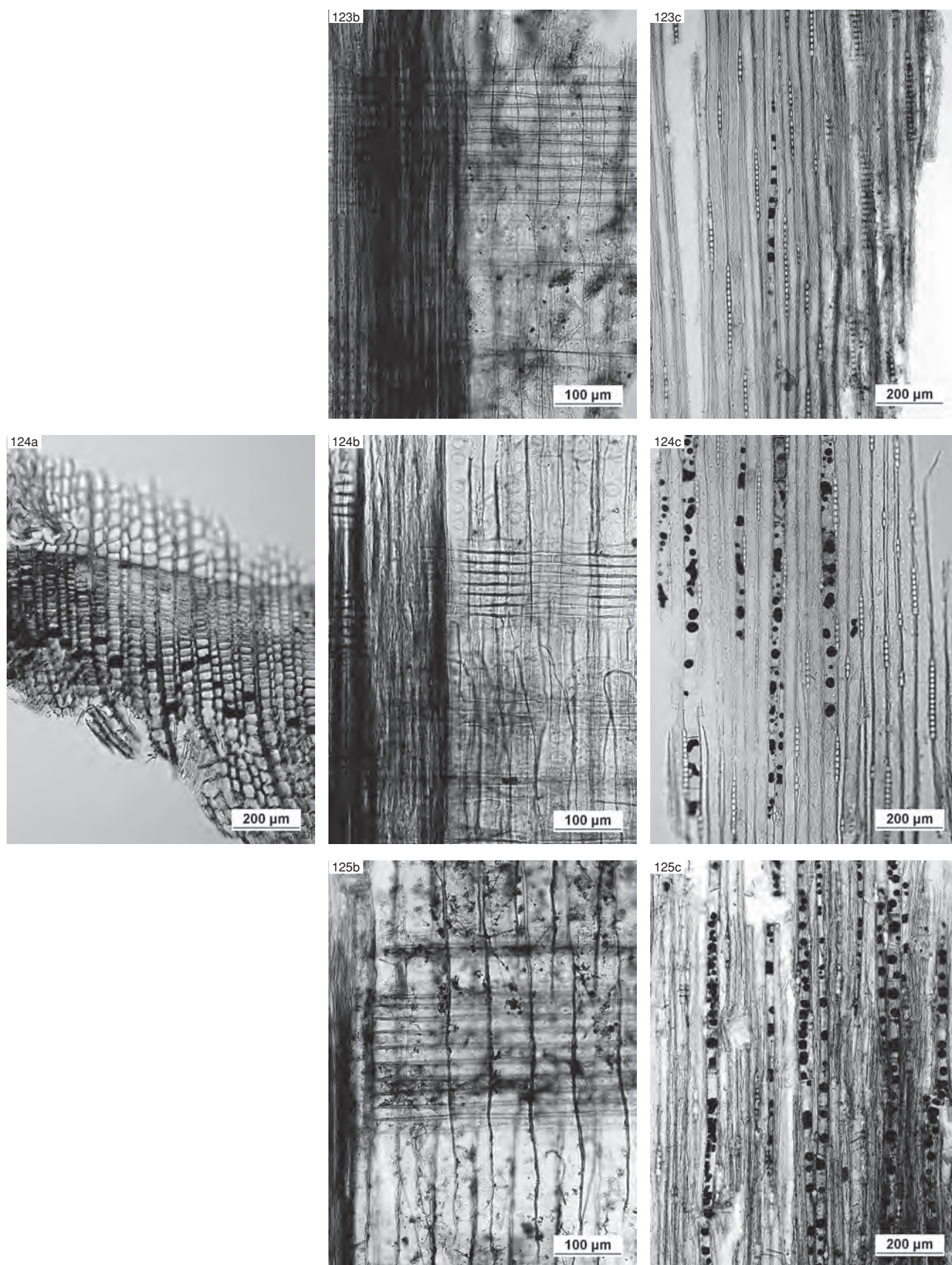
117 スギ科スギ属スギ (試料 No.169)
 118 スギ科スギ属スギ (試料 No.170)
 119 スギ科スギ属スギ (試料 No.171)
 a: 木口、b: 柾目、c: 板目

第 341 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (40) 吉田生物研究所



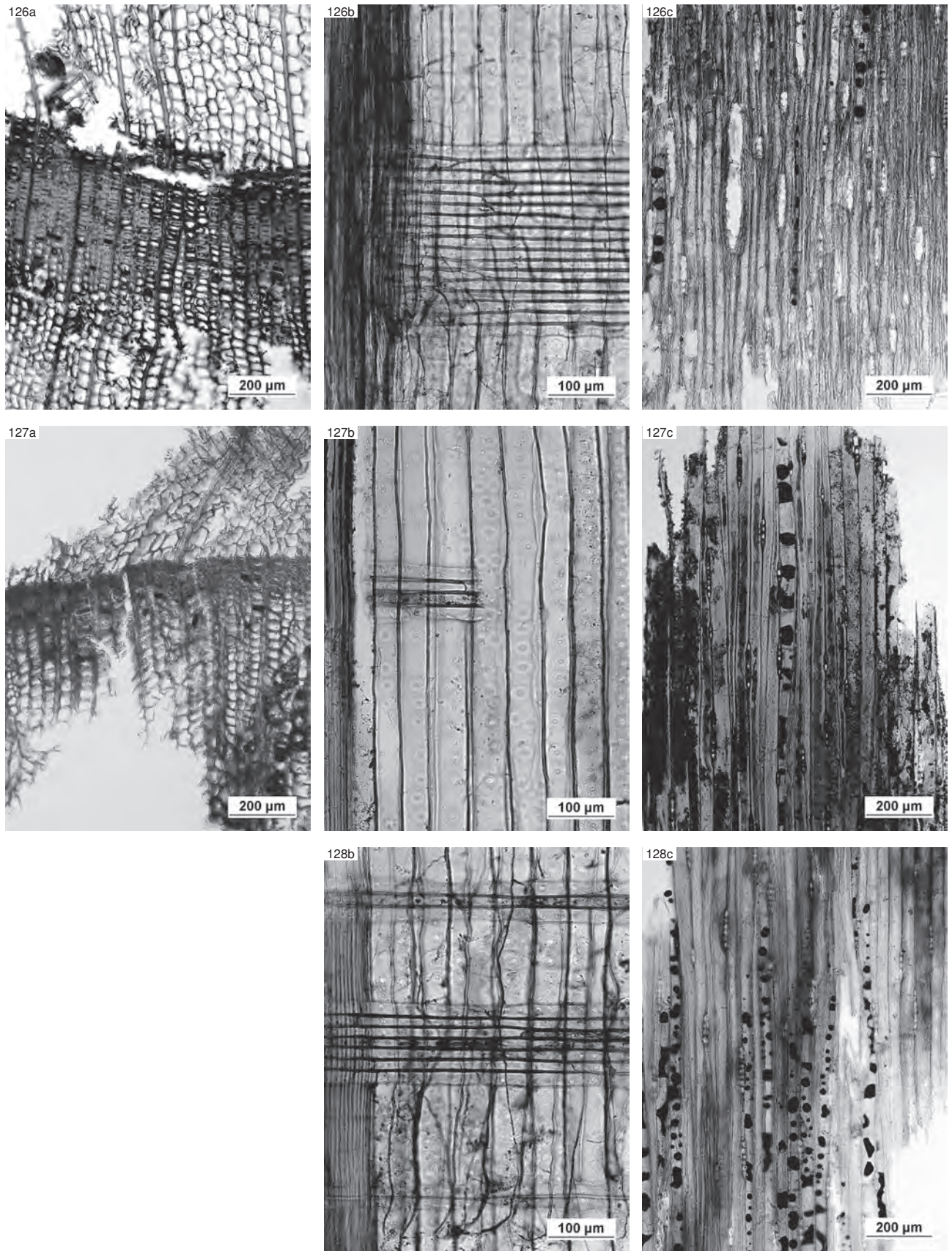
120 スギ科スギ属スギ (試料 No.172)
 121 スギ科スギ属スギ (試料 No.173)
 122 スギ科スギ属スギ (試料 No.174)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 342 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (41) 吉田生物研究所



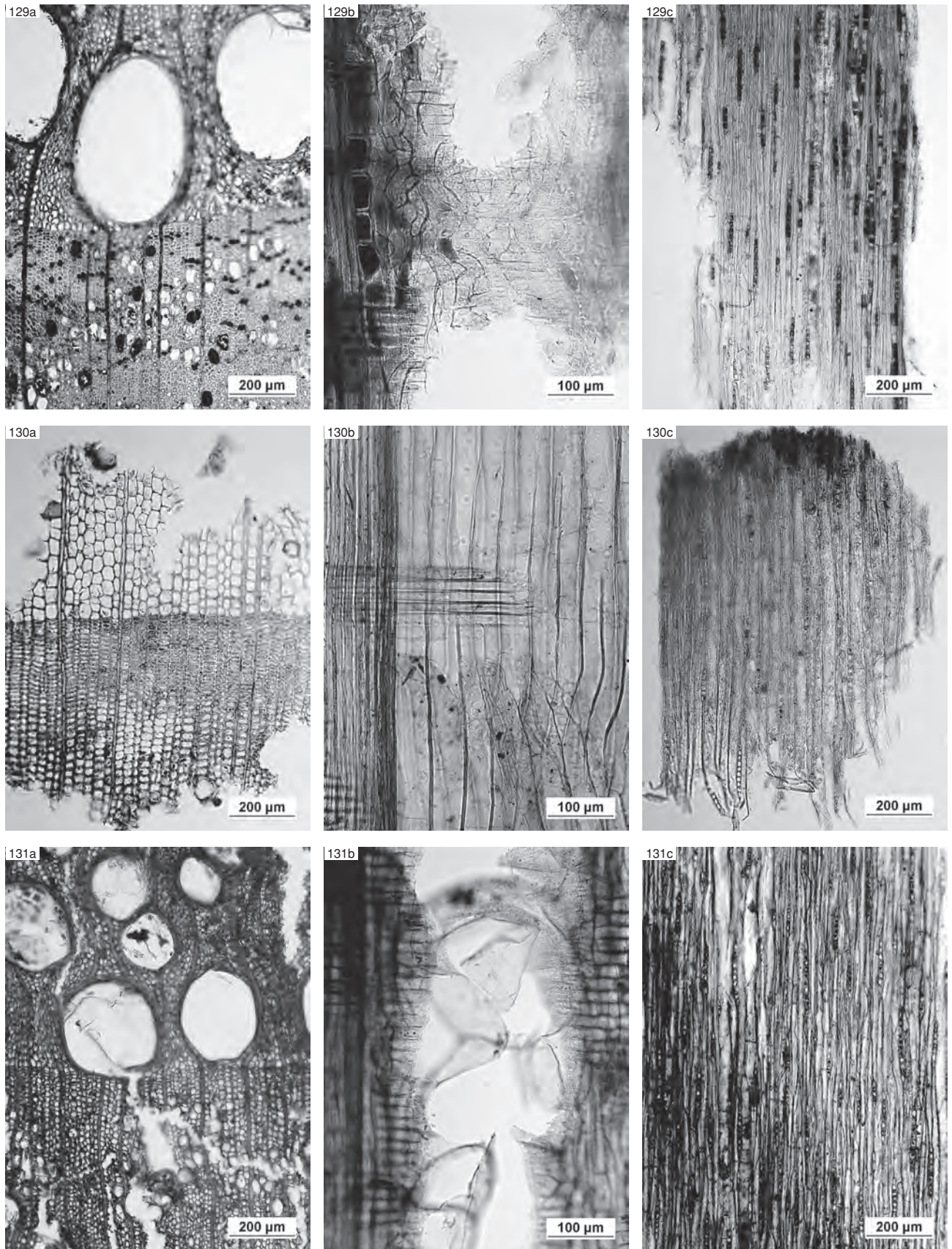
123 スギ科スギ属スギ (試料 No.175)
 124 スギ科スギ属スギ (試料 No.176)
 125 スギ科スギ属スギ (試料 No.177)
 a: 木口、b: 柾目、c: 板目

第 343 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (42) 吉田生物研究所



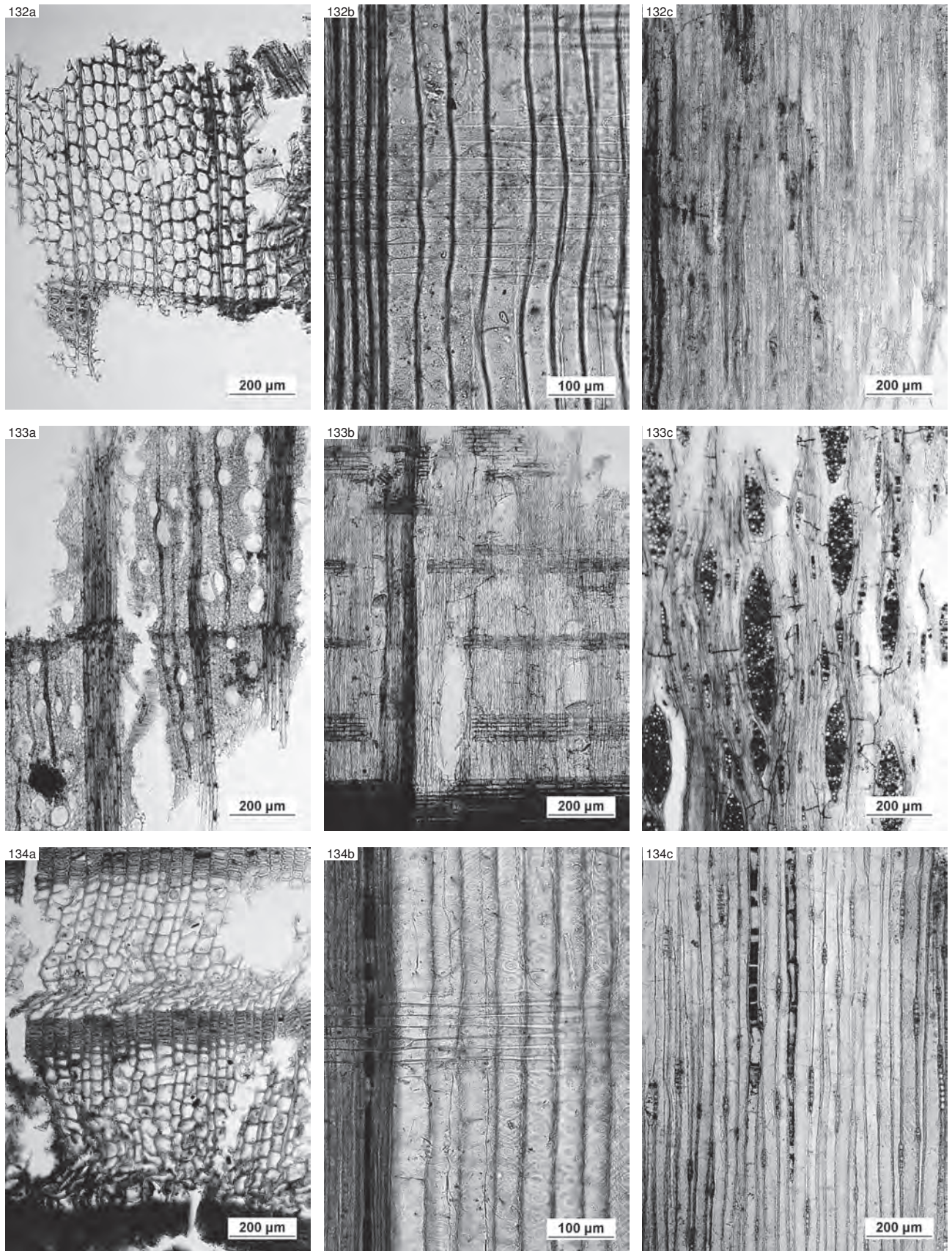
126 スギ科スギ属スギ (試料 No.178)
127 スギ科スギ属スギ (試料 No.179)
128 スギ科スギ属スギ (試料 No.180)
a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 344 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (43) 吉田生物研究所



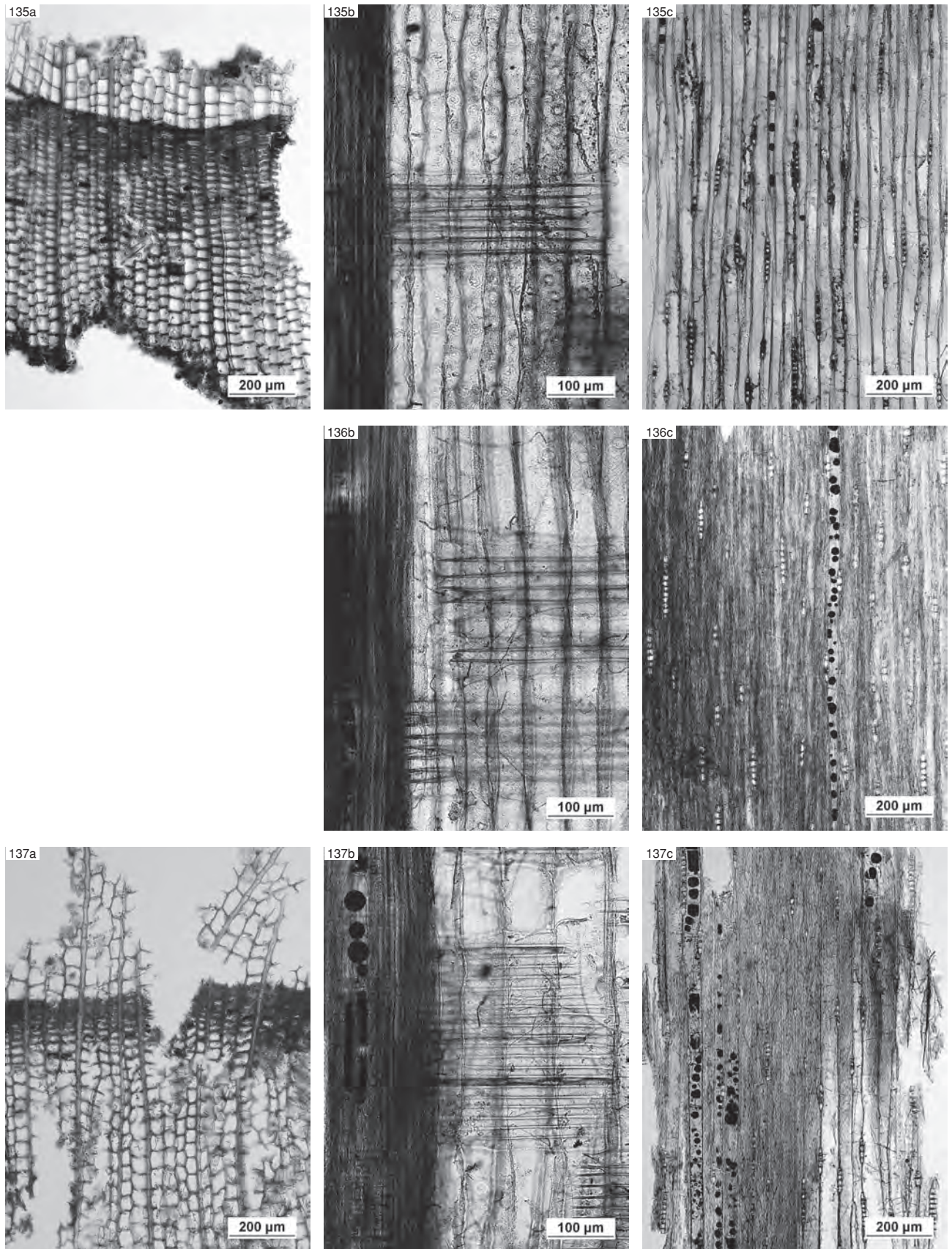
129 ブナ科クリ属クリ (試料 No.181)
 130 スギ科スギ属スギ (試料 No.182)
 131 ブナ科クリ属クリ (試料 No.183)
 a: 木口、b: 柀目、c: 板目

第 345 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (44) 吉田生物研究所



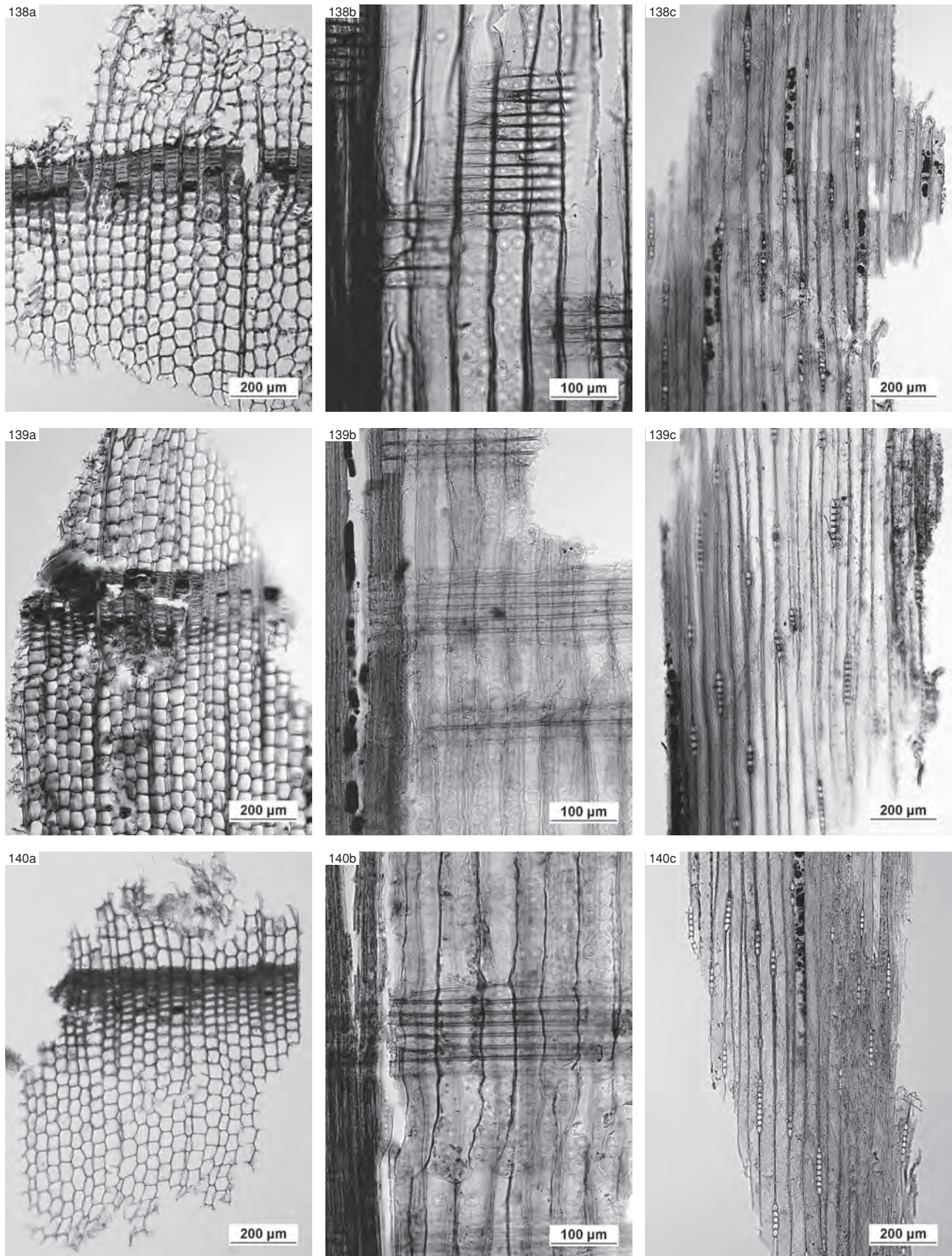
132 マツ科ツガ属 (試料 No.184)
133 カエデ科カエデ属 (試料 No.185)
134 スギ科スギ属スギ (試料 No.186)
a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 346 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (45) 吉田生物研究所



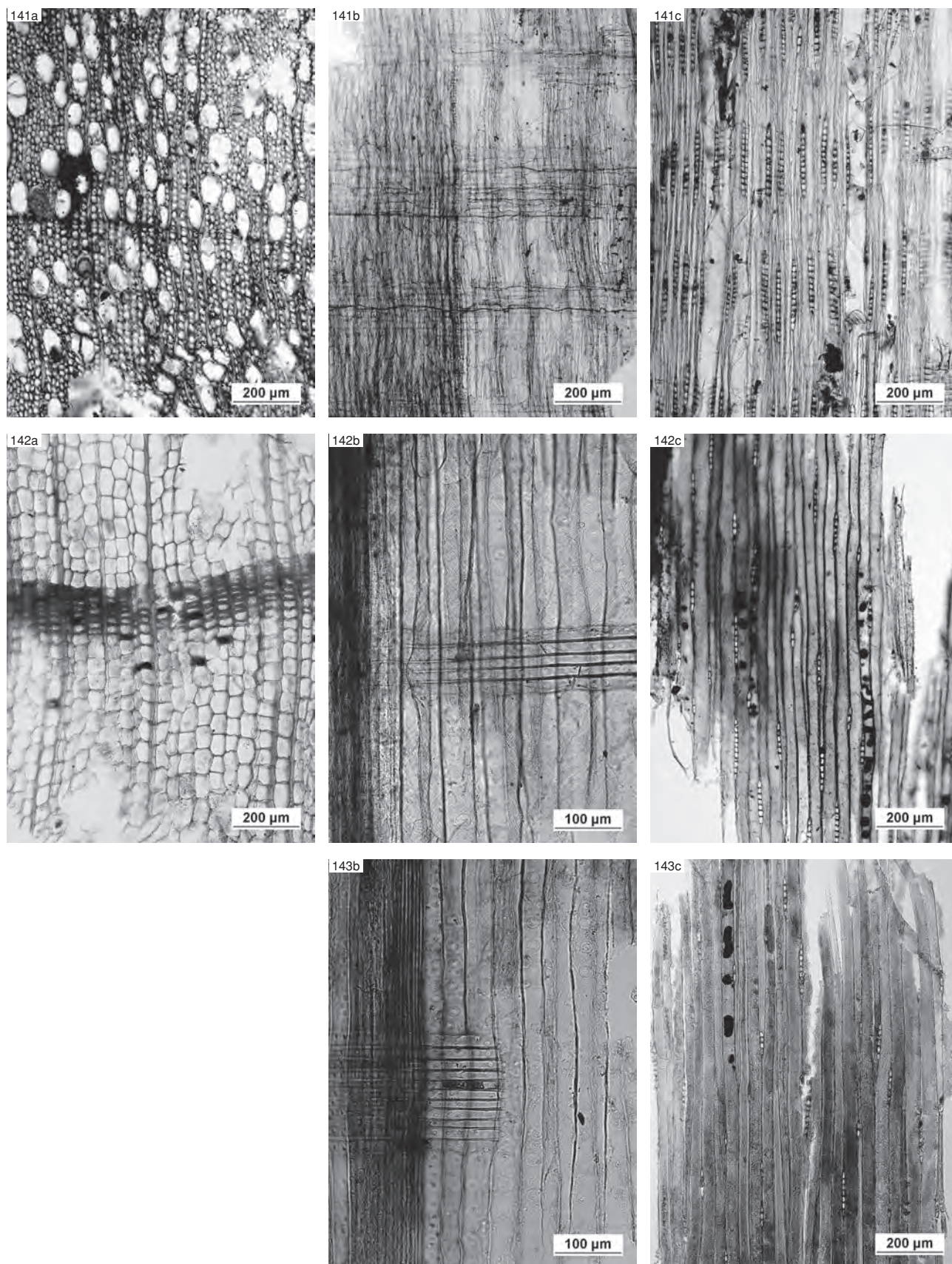
135 スギ科スギ属スギ (試料 No.187)
 136 スギ科スギ属スギ (試料 No.188)
 137 スギ科スギ属スギ (試料 No.189)
 a: 木口、b: 柾目、c: 板目

第 347 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (46) 吉田生物研究所



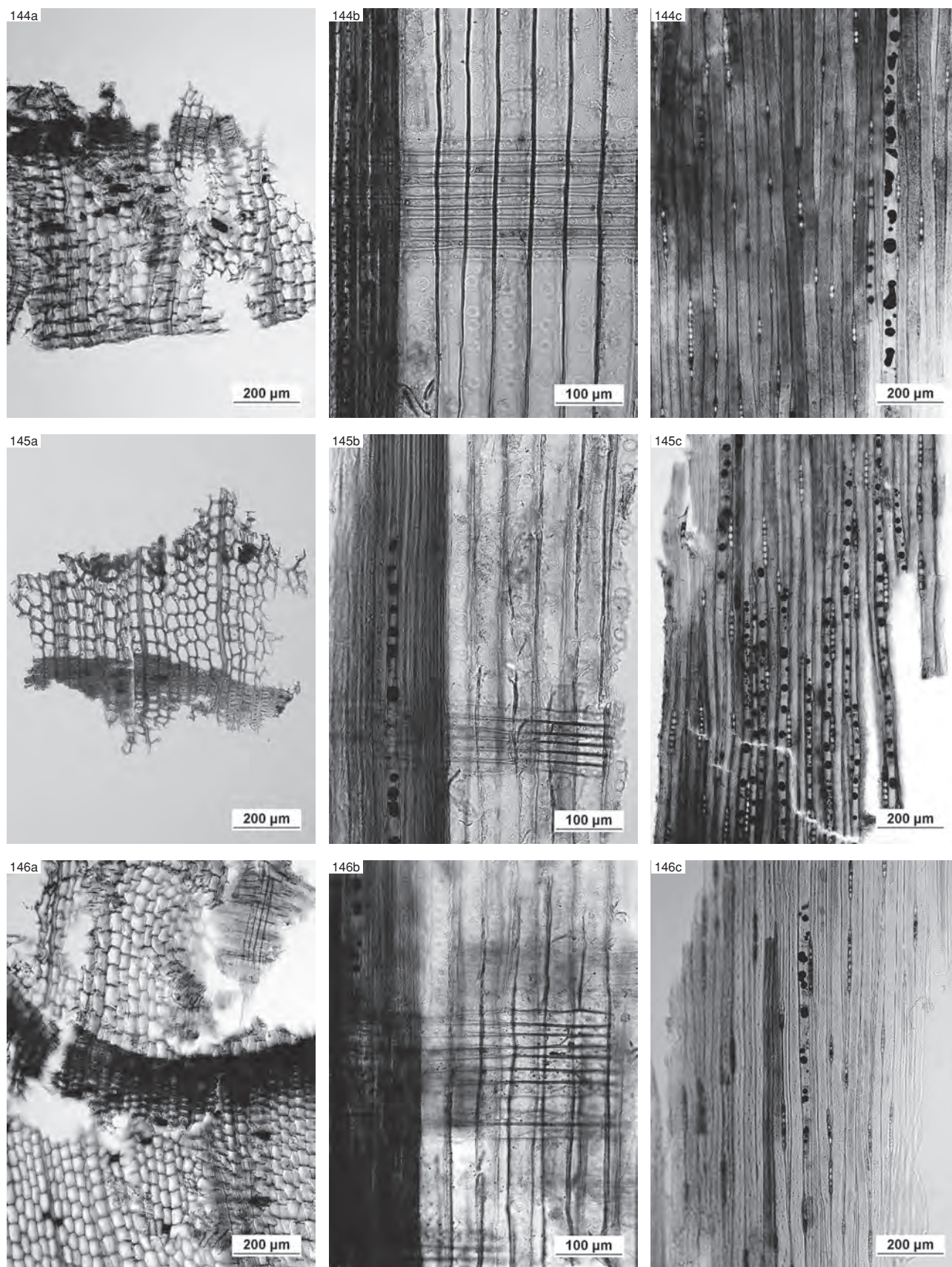
138 ヒノキ科アスナロ属 (試料 No.190)
139 スギ科スギ属スギ (試料 No.191)
140 スギ科スギ属スギ (試料 No.192)
a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 348 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (47) 吉田生物研究所



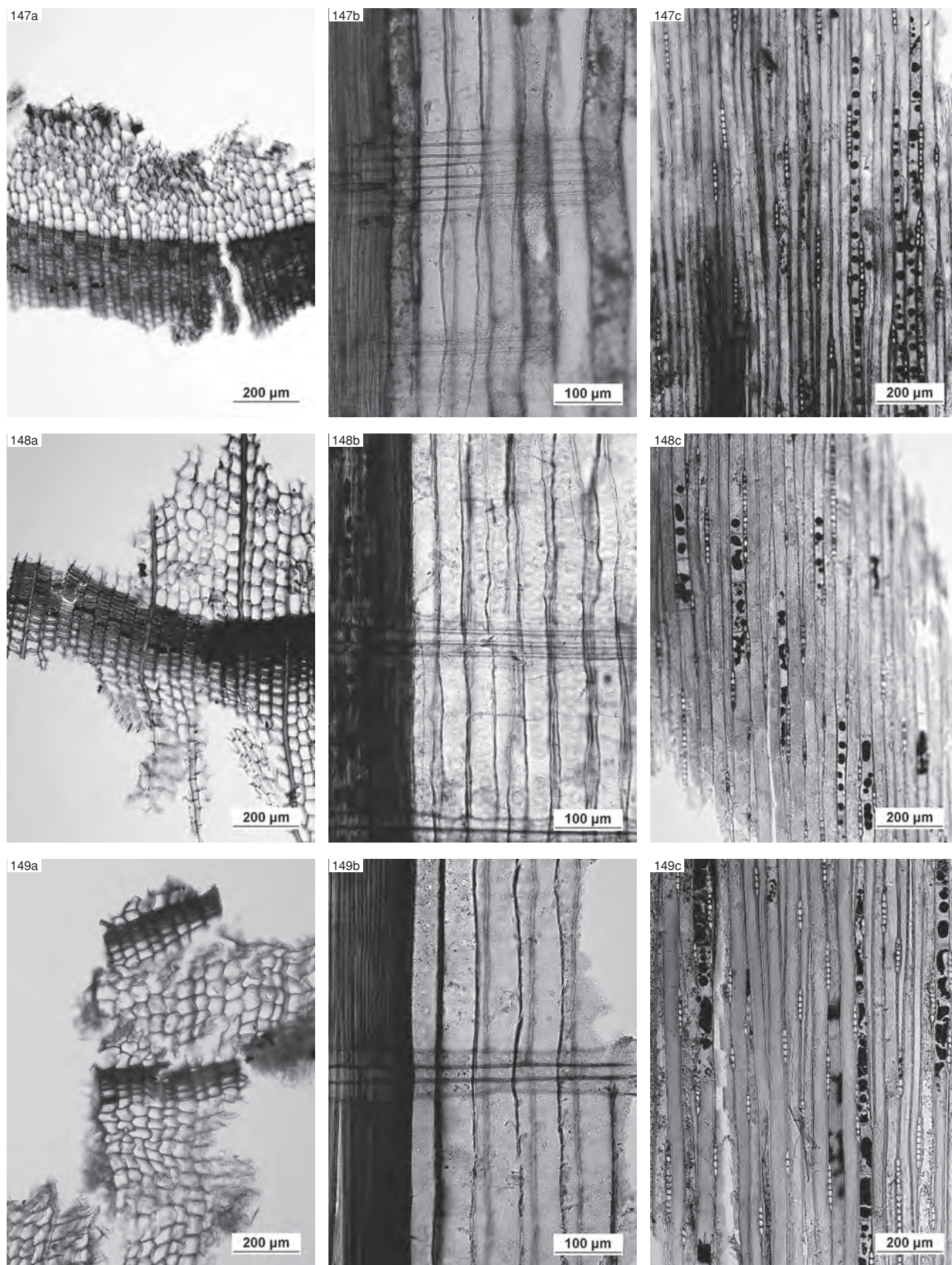
141 トチノキ科トチノキ属トチノキ (試料 No.193)
 142 スギ科スギ属スギ (試料 No.194)
 143 スギ科スギ属スギ (試料 No.195)
 a: 木口、b: 板目、c: 桁目

第 349 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (48) 吉田生物研究所



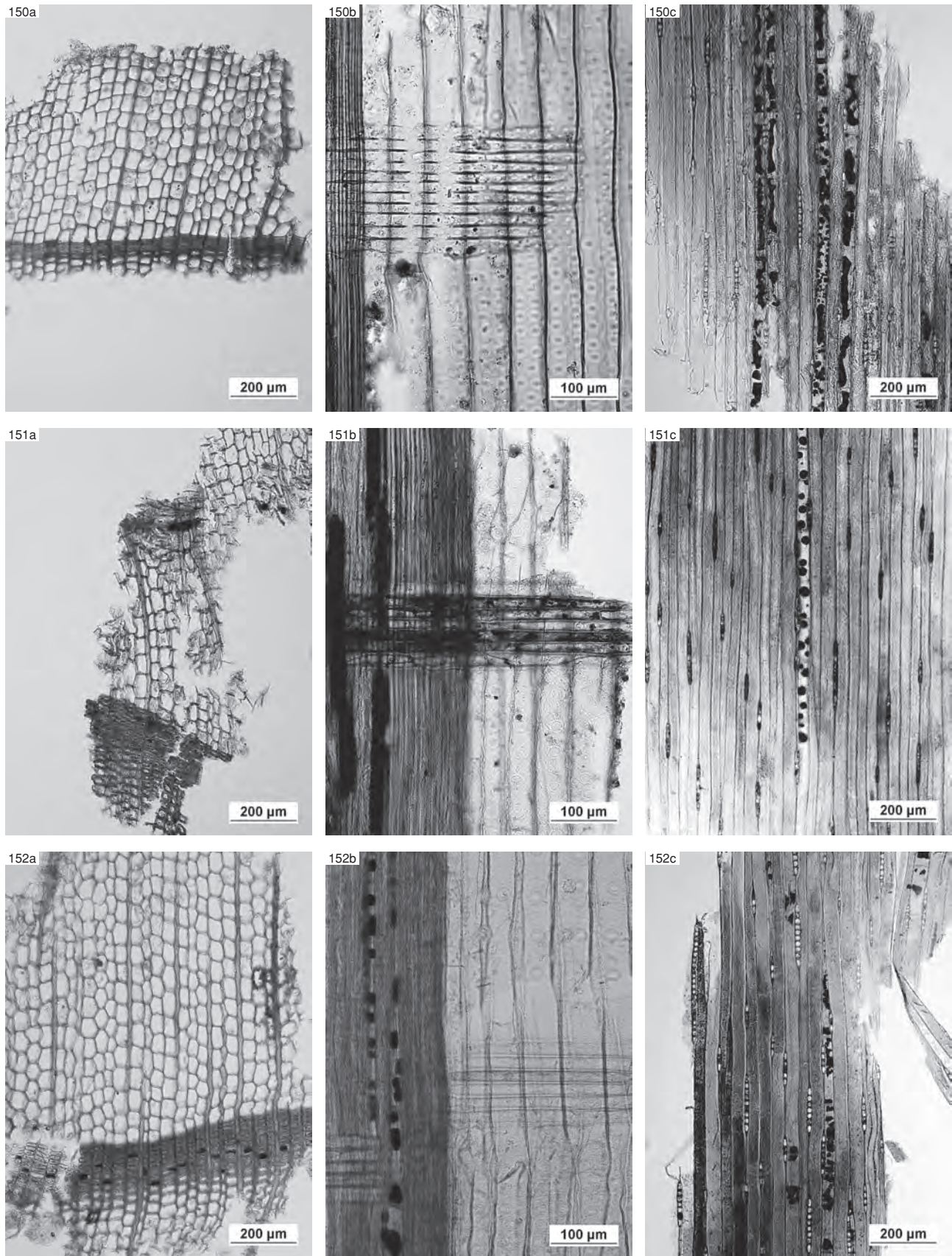
144 スギ科スギ属スギ (試料 No.196)
145 スギ科スギ属スギ (試料 No.197)
146 スギ科スギ属スギ (試料 No.198)
a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 350 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (49) 吉田生物研究所



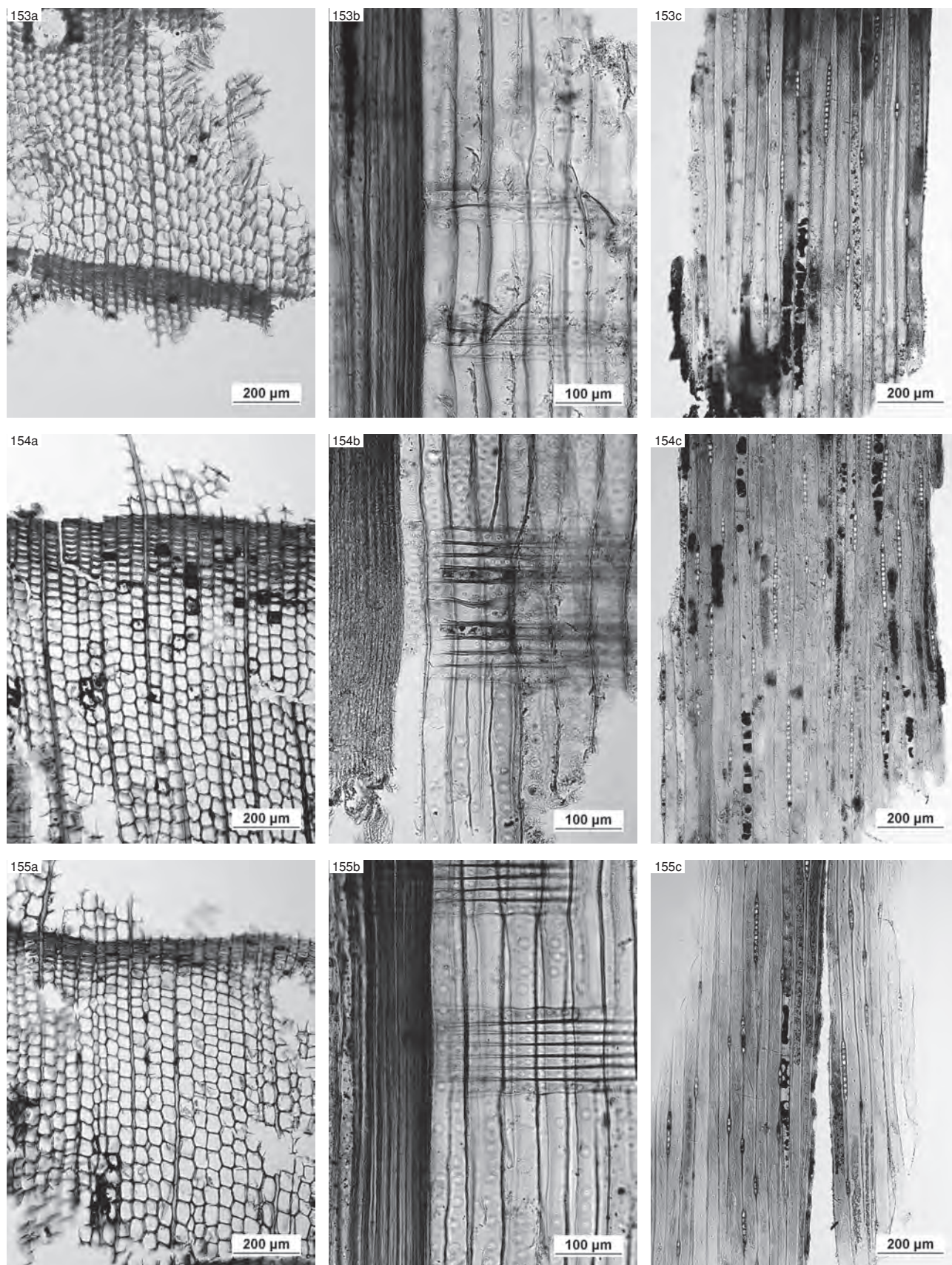
147 スギ科スギ属スギ (試料 No.199)
 148 スギ科スギ属スギ (試料 No.200)
 149 スギ科スギ属スギ (試料 No.201)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 351 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (50) 吉田生物研究所



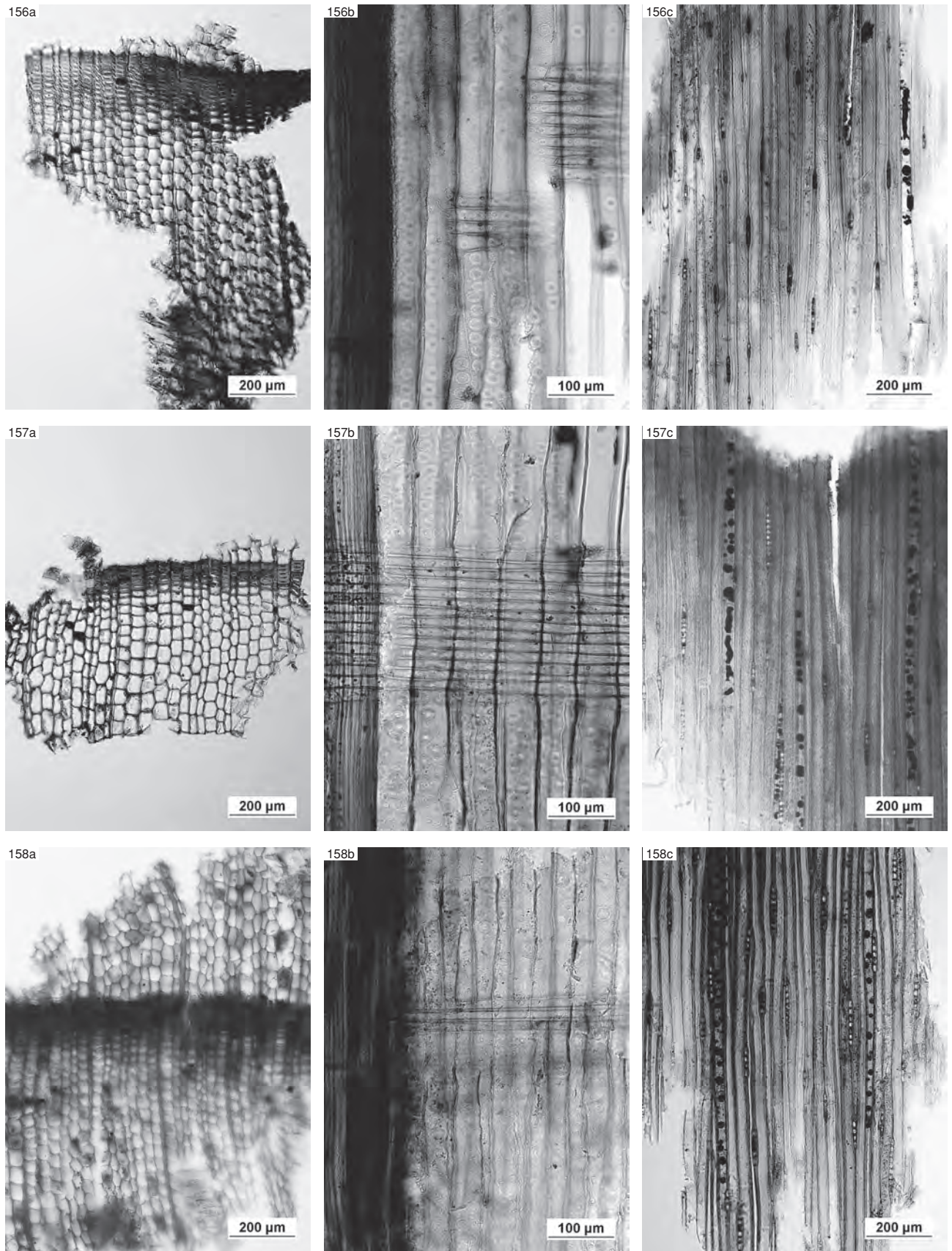
150 スギ科スギ属スギ (試料 No.202)
151 スギ科スギ属スギ (試料 No.203)
152 スギ科スギ属スギ (試料 No.204)
a: 木口, b: 柢目, c: 板目

第 352 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (51) 吉田生物研究所



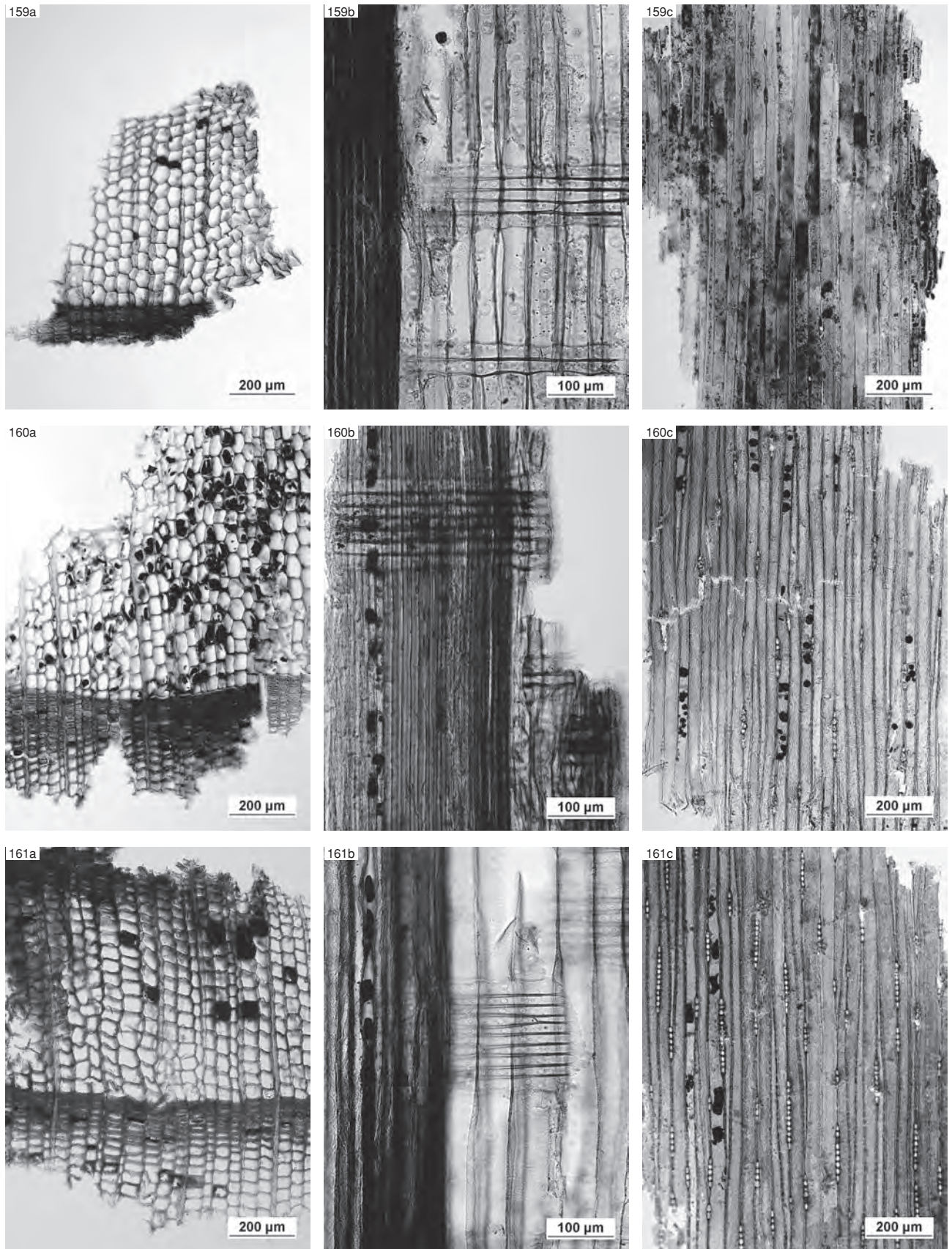
153 スギ科スギ属スギ (試料 No.205)
 154 スギ科スギ属スギ (試料 No.206)
 155 スギ科スギ属スギ (試料 No.207)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 353 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (52) 吉田生物研究所



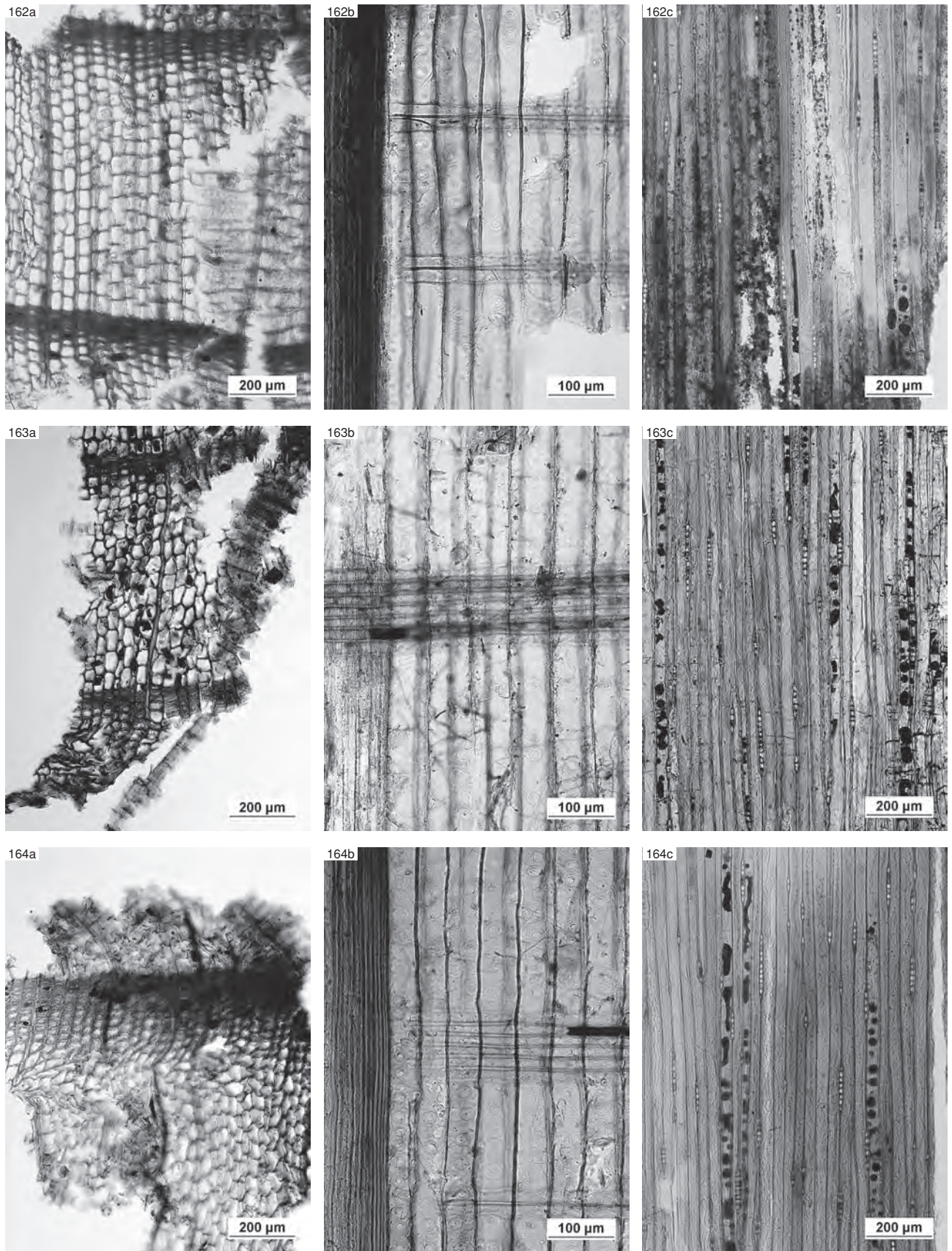
156 スギ科スギ属スギ (試料 No.208)
157 スギ科スギ属スギ (試料 No.209)
158 スギ科スギ属スギ (試料 No.210)
a: 木口, b: 柢目, c: 板目

第 354 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (53) 吉田生物研究所



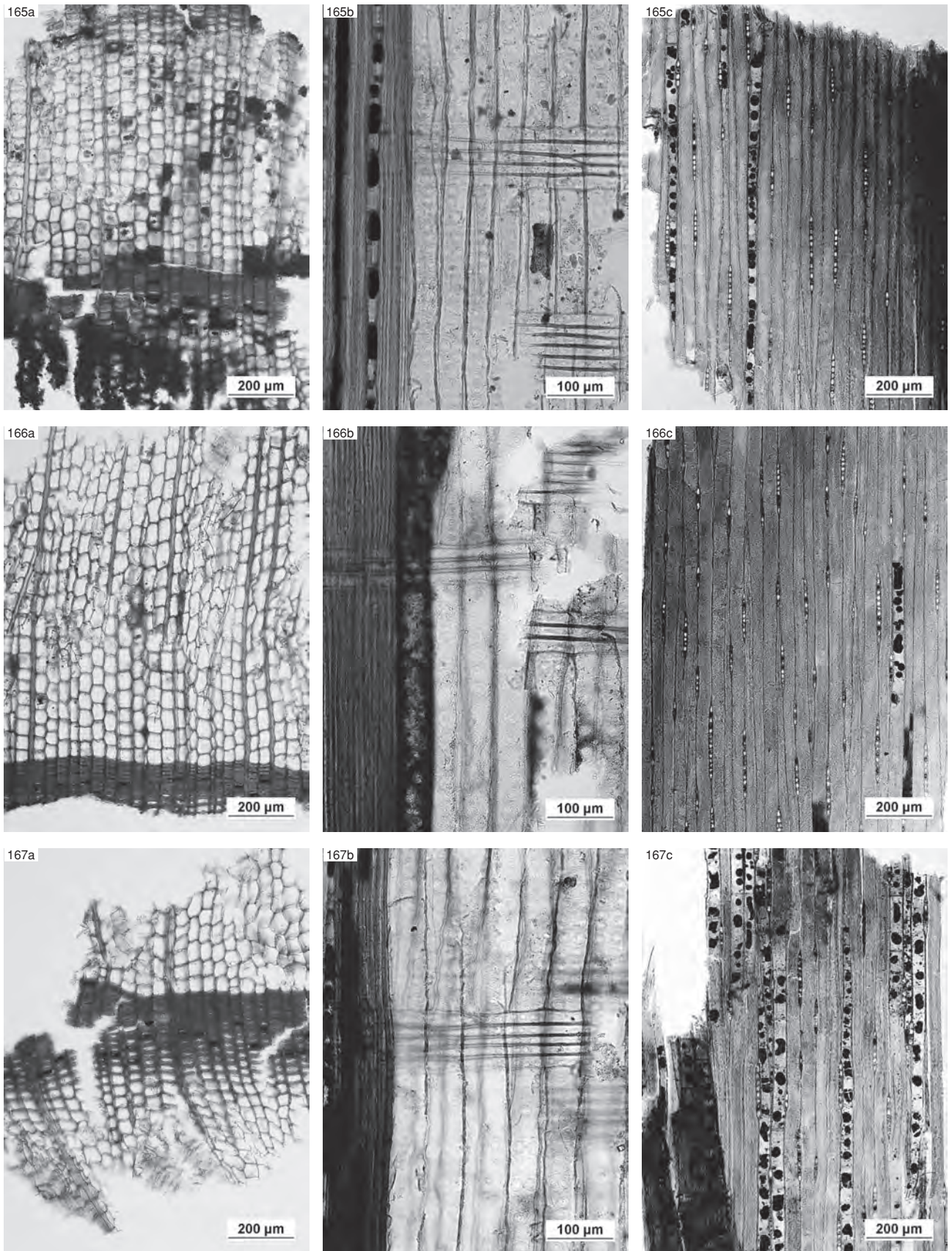
159 スギ科スギ属スギ (試料 No.211)
 160 スギ科スギ属スギ (試料 No.212)
 161 スギ科スギ属スギ (試料 No.213)
 a: 木口、b: 柢目、c: 板目

第 355 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (54) 吉田生物研究所



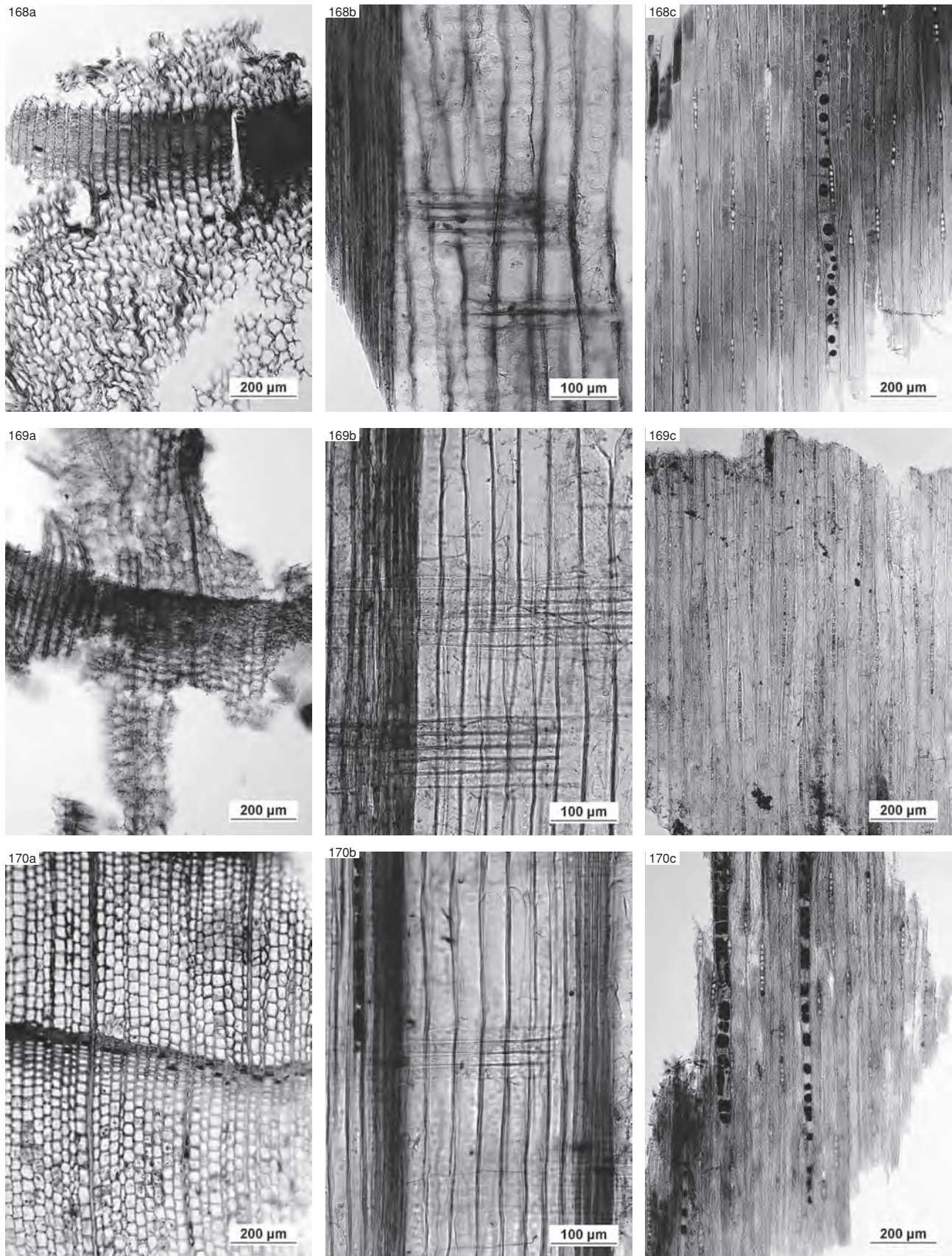
162 スギ科スギ属スギ (試料 No.214)
163 スギ科スギ属スギ (試料 No.215)
164 スギ科スギ属スギ (試料 No.216)
a: 木口, b: 柁目, c: 板目

第 356 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (55) 吉田生物研究所



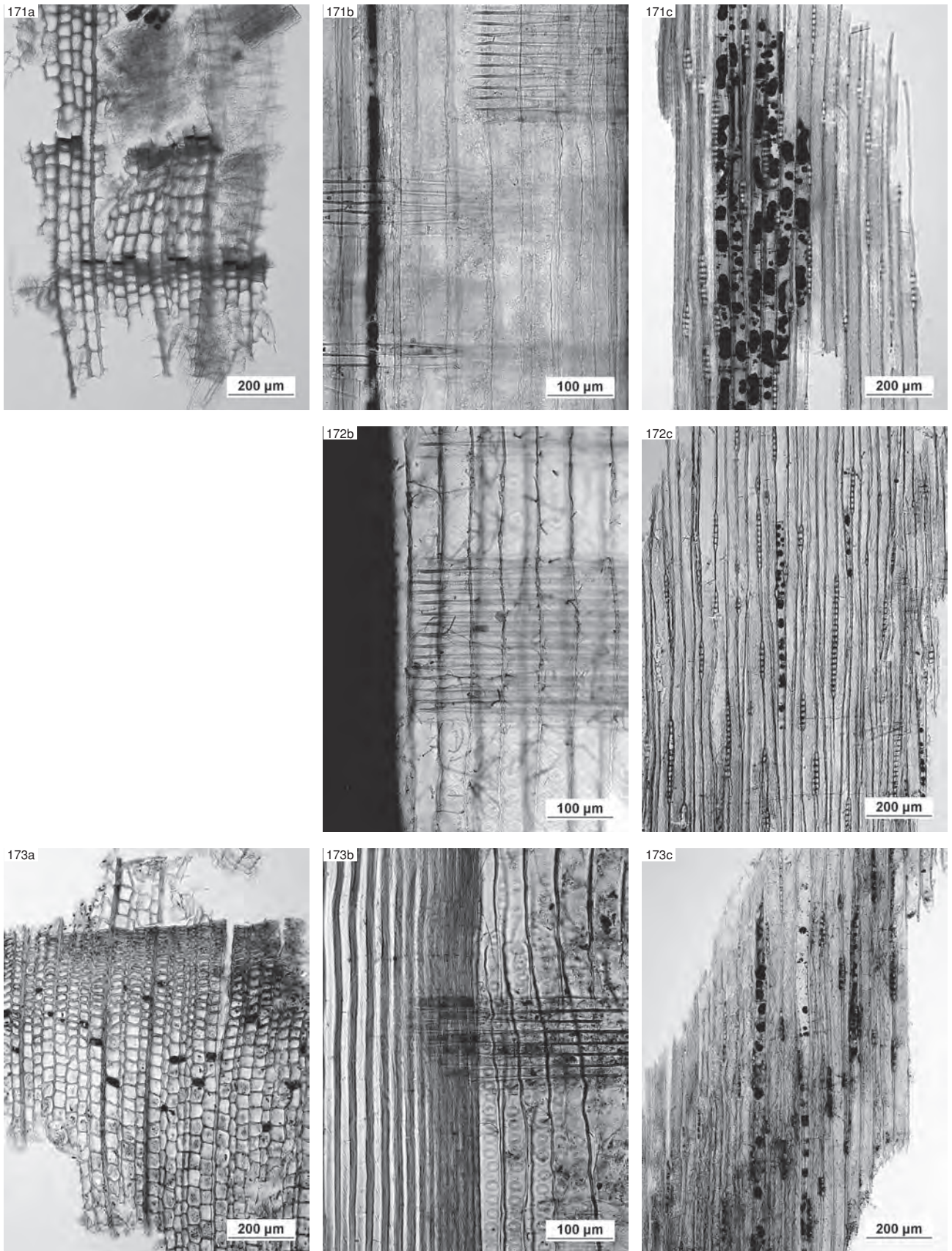
165 スギ科スギ属スギ (試料 No.217)
 166 スギ科スギ属スギ (試料 No.218)
 167 スギ科スギ属スギ (試料 No.219)
 a: 木口、b: 柾目、c: 板目

第 357 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (56) 吉田生物研究所



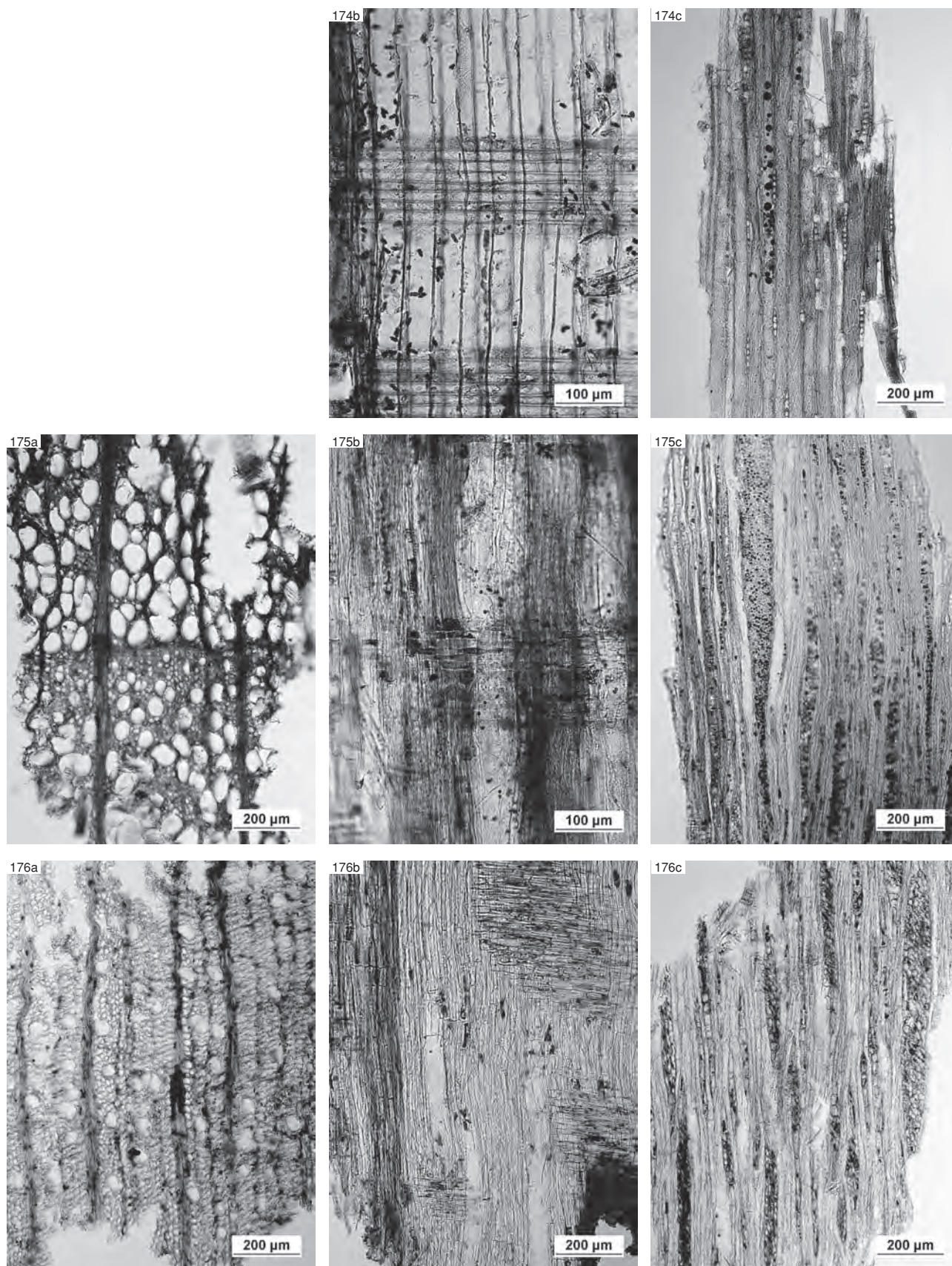
168 スギ科スギ属スギ (試料 No.220)
 169 マツ科ツガ属 (試料 No.221)
 170 スギ科スギ属スギ (試料 No.222)
 a: 木口、b: 柀目、c: 板目

第 358 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (57) 吉田生物研究所



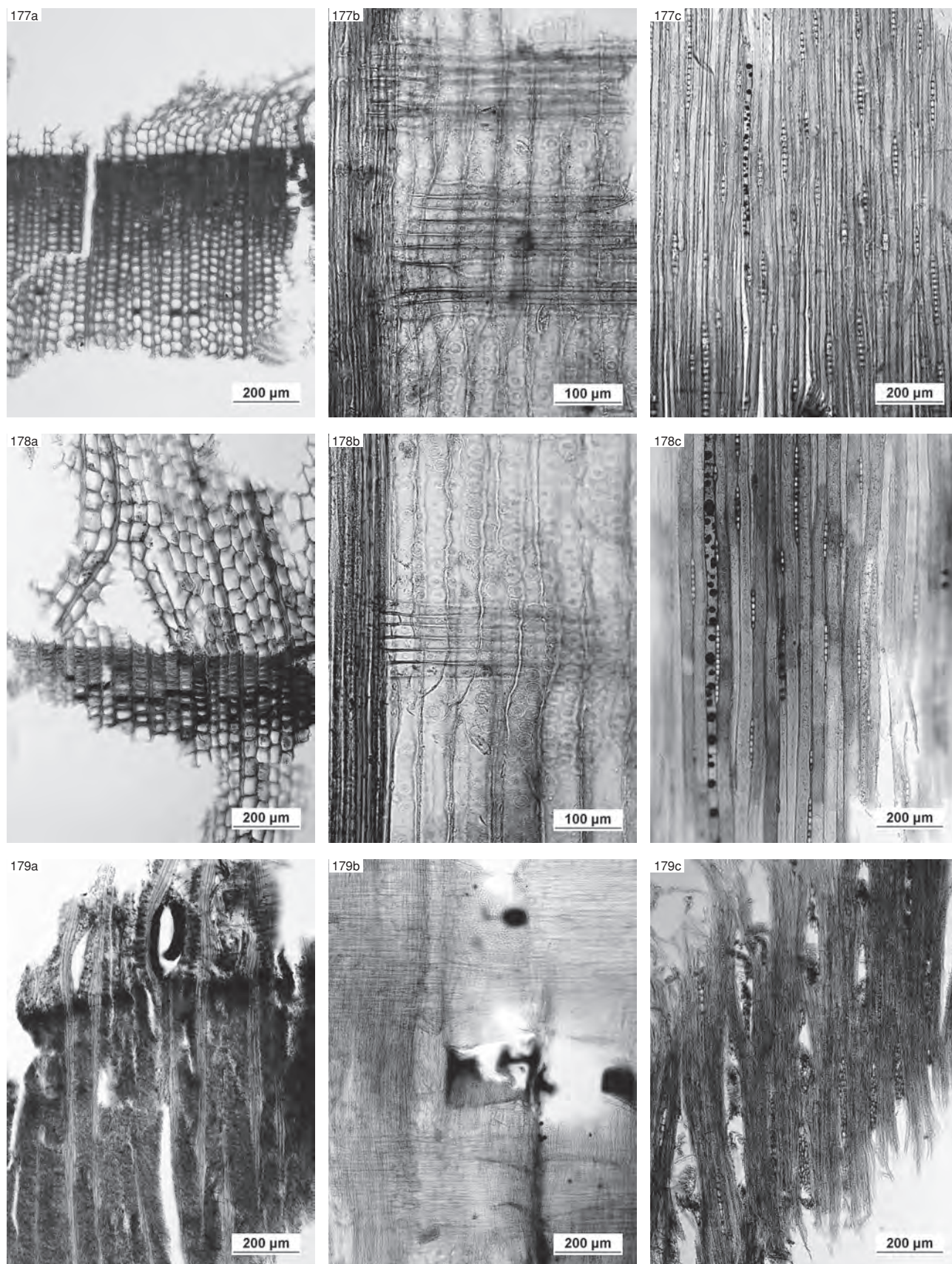
171 スギ科スギ属スギ (試料 No.223)
 172 スギ科スギ属スギ (試料 No.224)
 173 スギ科スギ属スギ (試料 No.225)
 a: 木口、b: 柢目、c: 板目

第 359 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (58) 吉田生物研究所



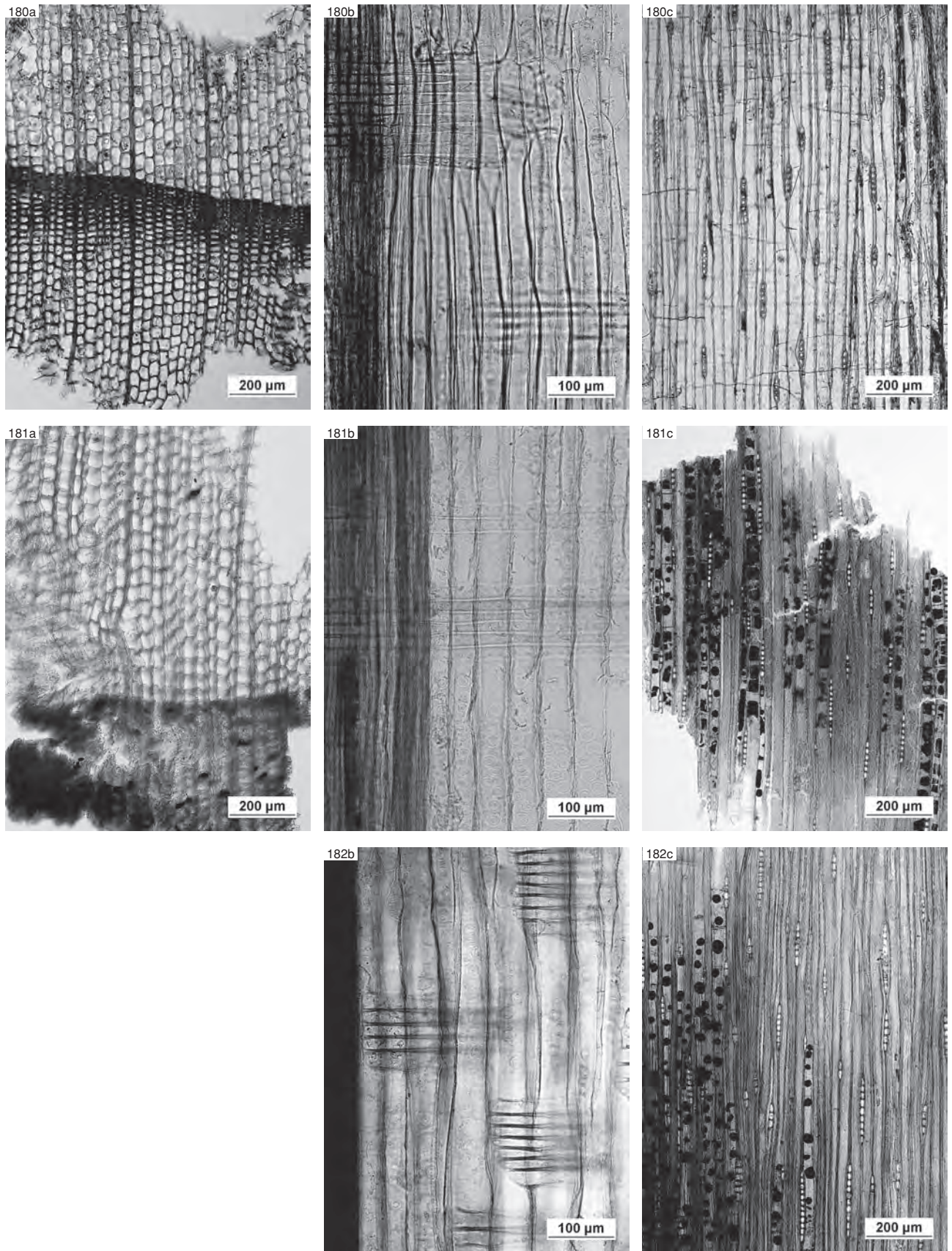
174 スギ科スギ属スギ (試料 No.226)
 175 ブナ科ブナ属 (試料 No.227)
 176 ミズキ科ミズキ属 (試料 No.228)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 360 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (59) 吉田生物研究所



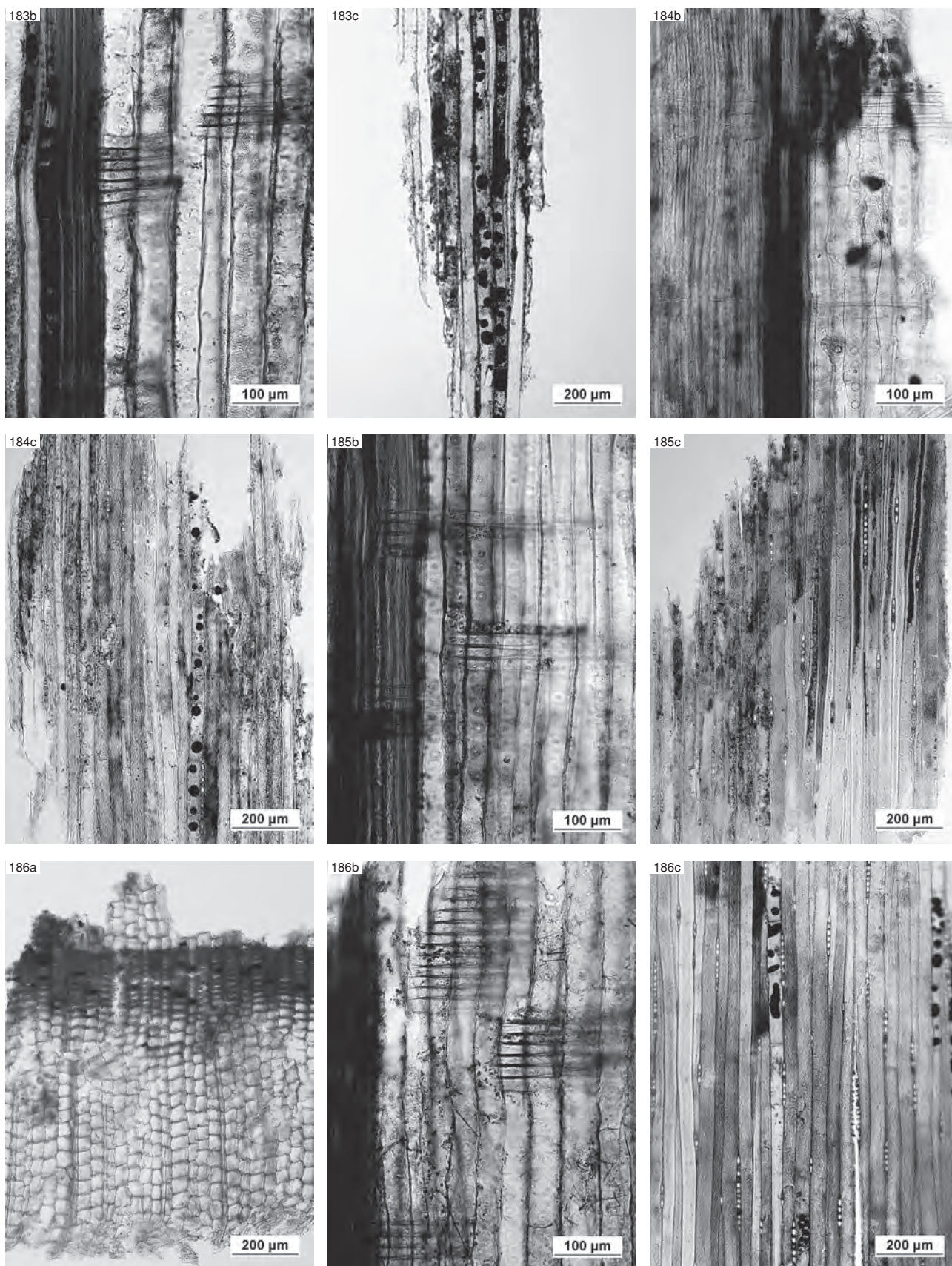
177 スギ科スギ属スギ (試料 No.229)
 178 スギ科スギ属スギ (試料 No.230)
 179 クワ科クワ属? (試料 No.231)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 361 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (60) 吉田生物研究所



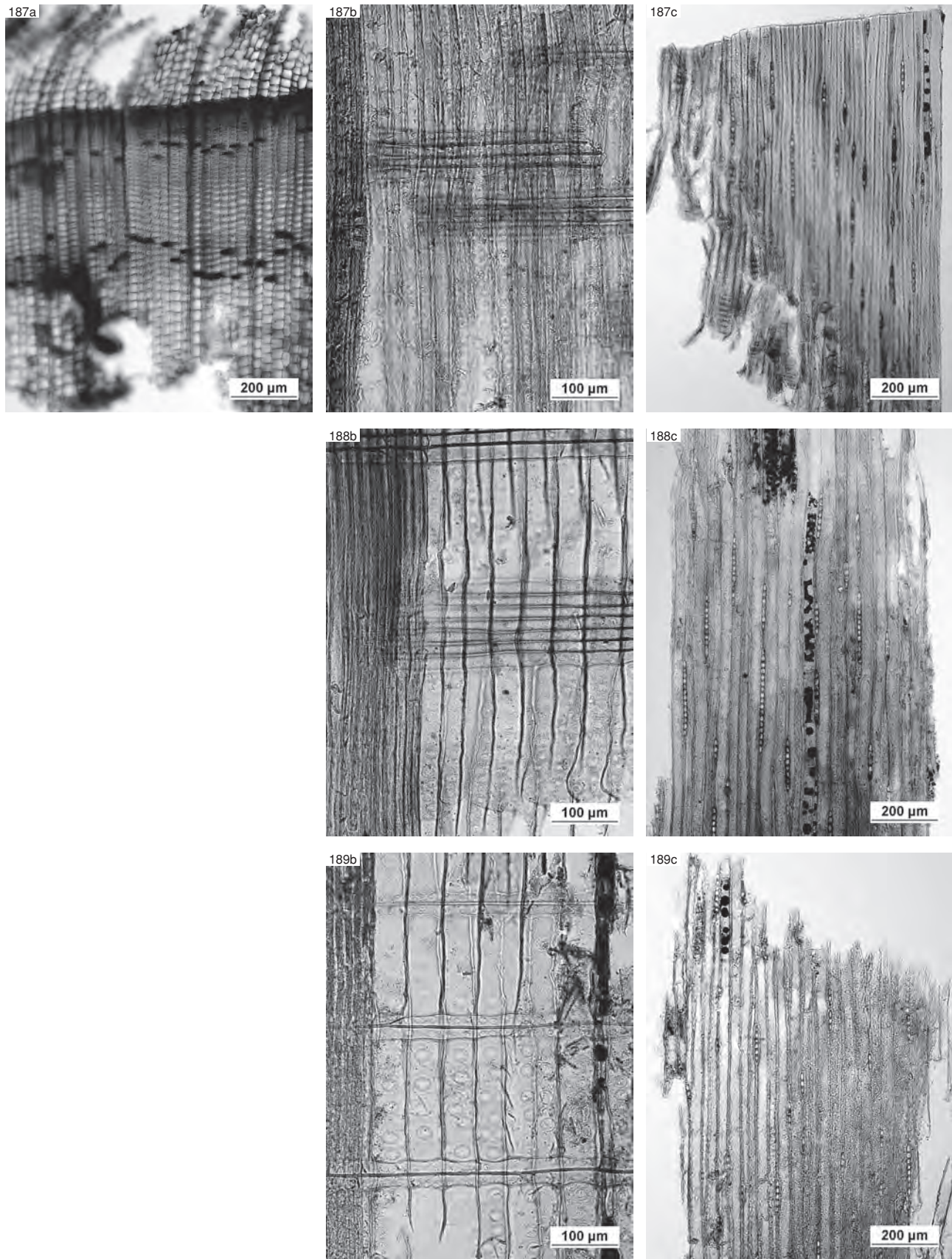
180 スギ科スギ属スギ (試料 No.232)
181 スギ科スギ属スギ (試料 No.233)
182 スギ科スギ属スギ (試料 No.234)
a: 木口、b: 柎目、c: 板目

第 362 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (61) 吉田生物研究所



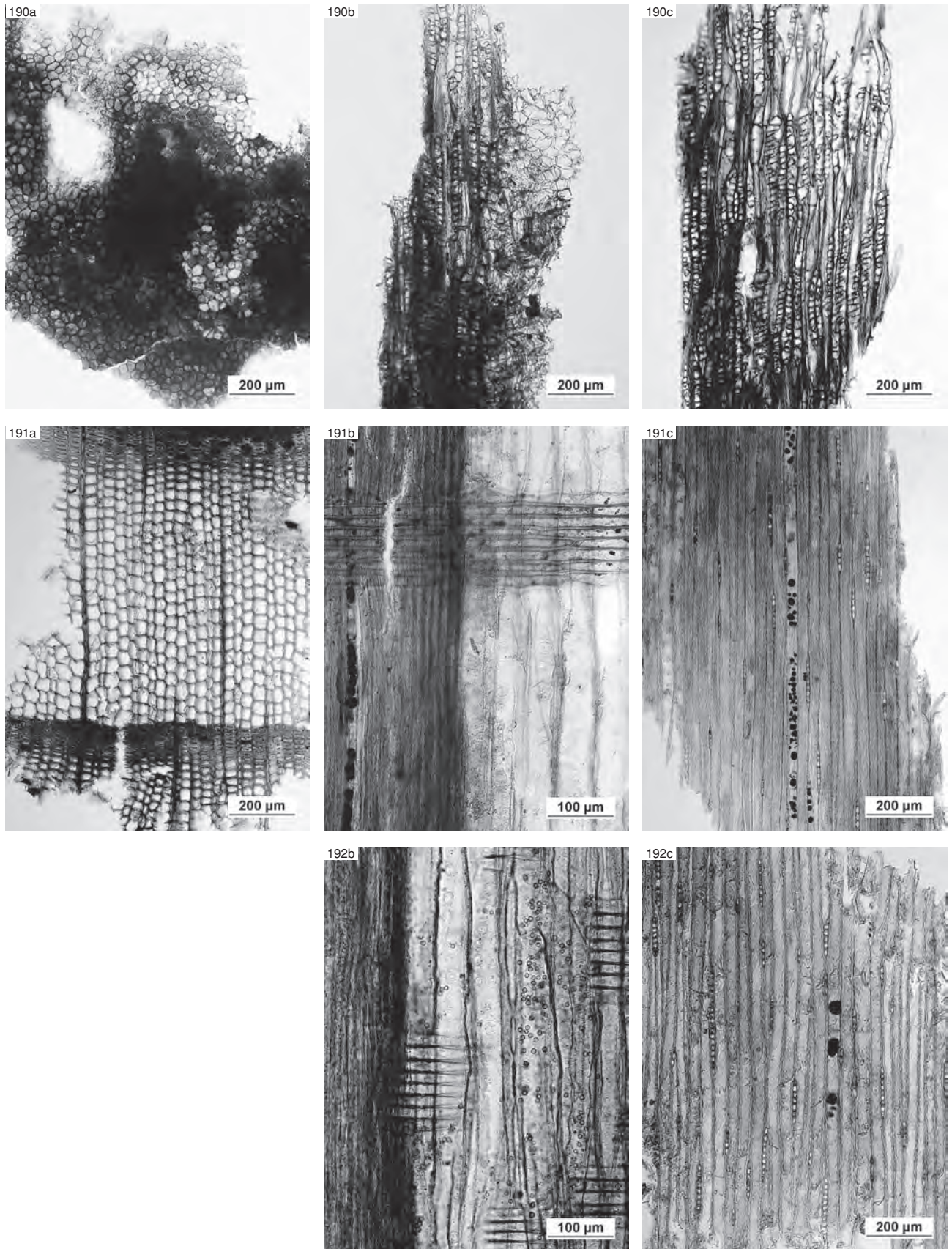
183 スギ科スギ属スギ (試料 No.235)
 184 スギ科スギ属スギ (試料 No.236)
 185 スギ科スギ属スギ (試料 No.238)
 186 スギ科スギ属スギ (試料 No.237)
 a: 木口、b: 柾目、c: 板目

第 363 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (62) 吉田生物研究所



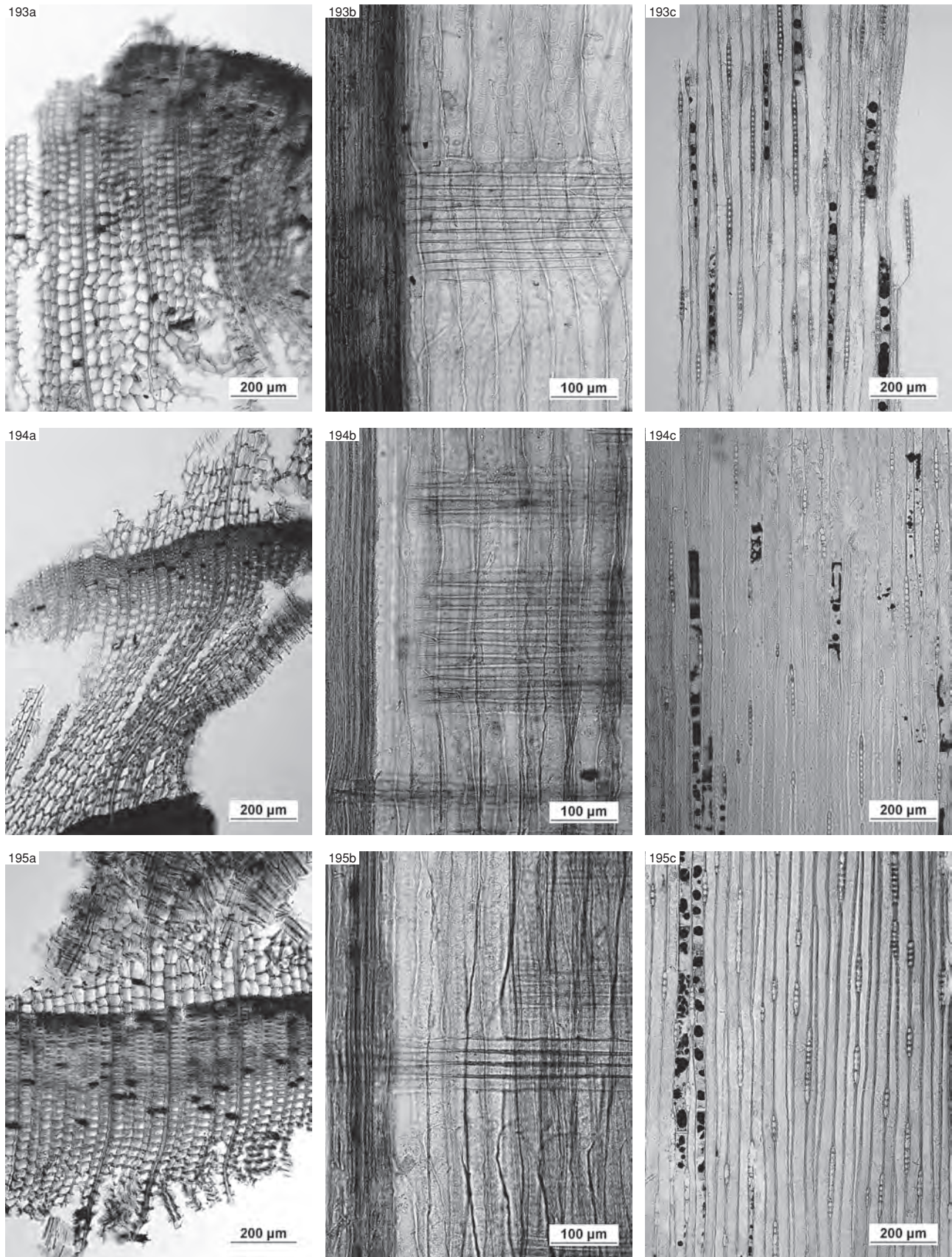
187 スギ科スギ属スギ (試料 No.239)
188 スギ科スギ属スギ (試料 No.240)
189 スギ科スギ属スギ (試料 No.241)
a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 364 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (63) 吉田生物研究所



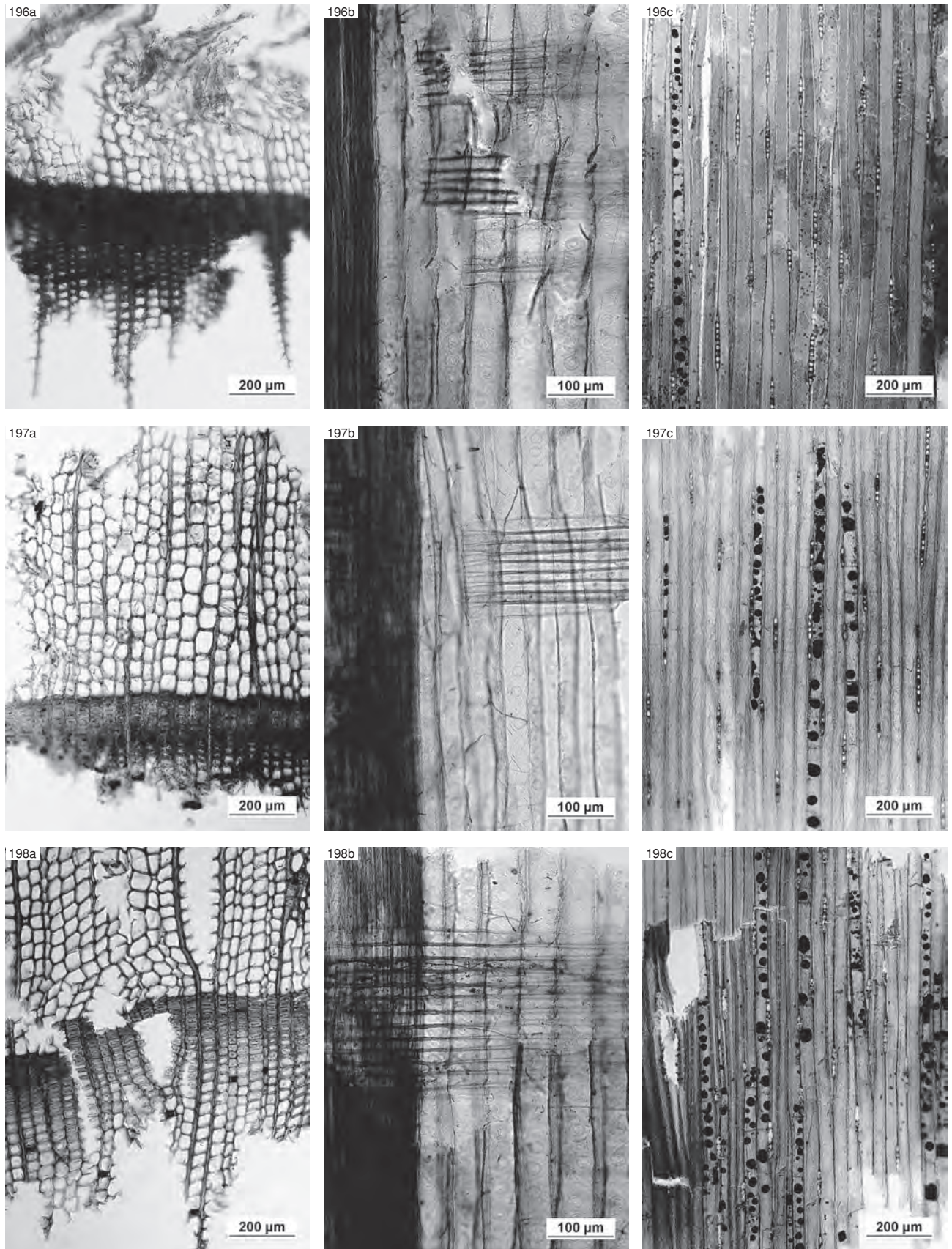
190 樹皮 (試料 No.242) a:横断面、b:放射断面、c:接線断面
 191 スギ科スギ属スギ (試料 No.243)
 192 スギ科スギ属スギ (試料 No.244)
 a:木口、b:柾目、c:板目

第 365 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (64) 吉田生物研究所



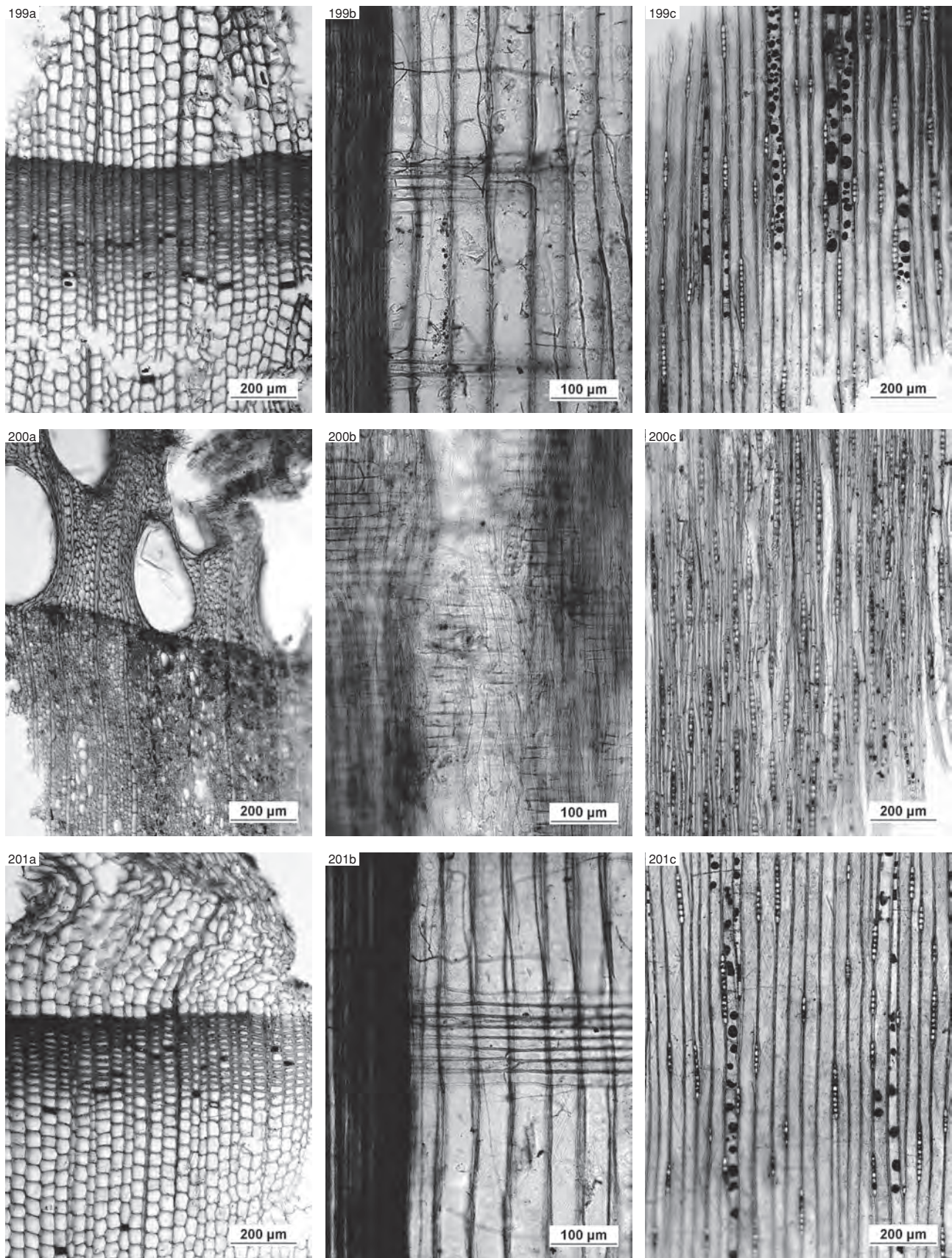
193 スギ科スギ属スギ (試料 No.245)
194 スギ科スギ属スギ (試料 No.246)
195 スギ科スギ属スギ (試料 No.247)
a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 366 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (65) 吉田生物研究所



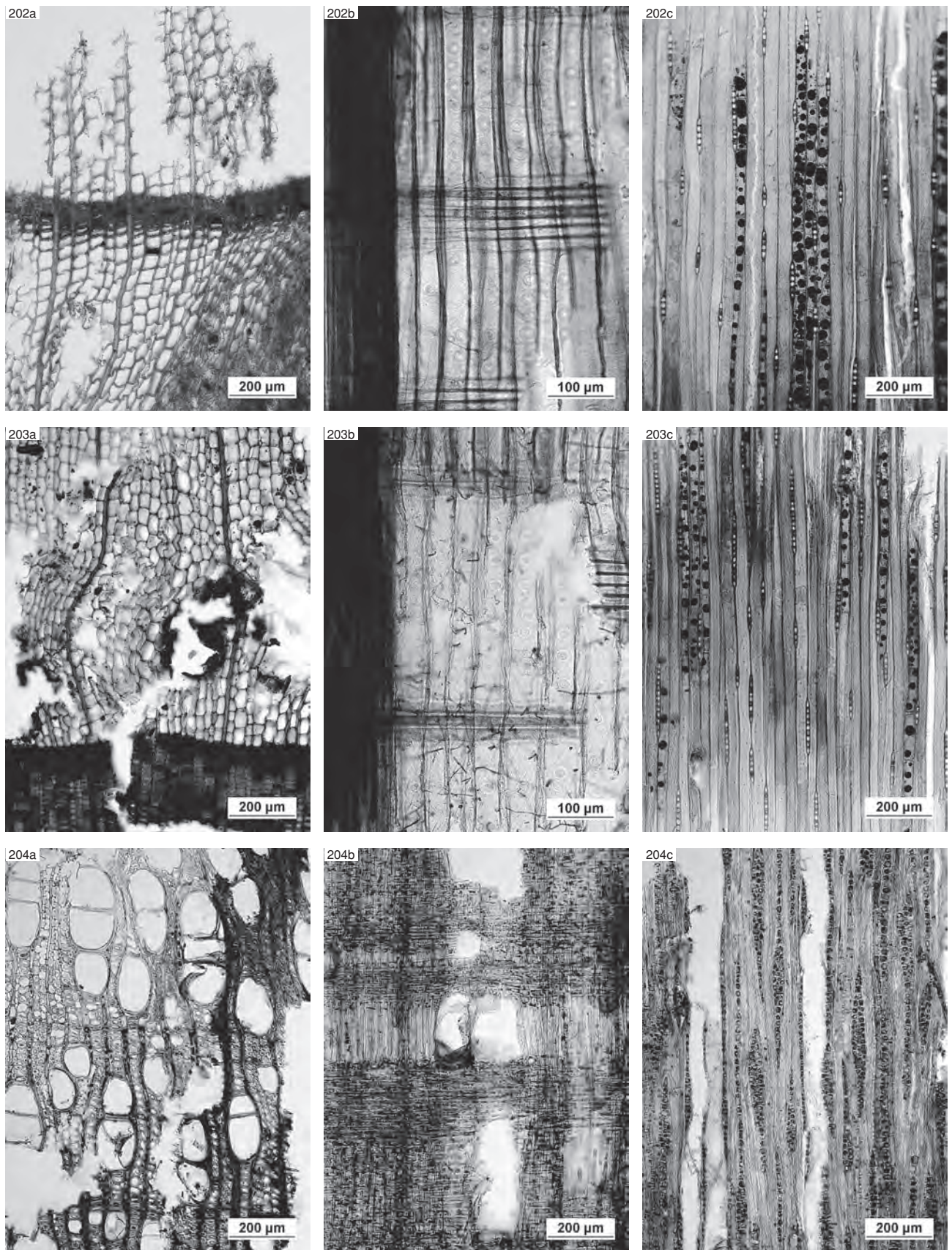
196 スギ科スギ属スギ (試料 No.248)
 197 スギ科スギ属スギ (試料 No.249)
 198 スギ科スギ属スギ (試料 No.250)
 a: 木口、b: 柎目、c: 板目

第 367 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (66) 吉田生物研究所



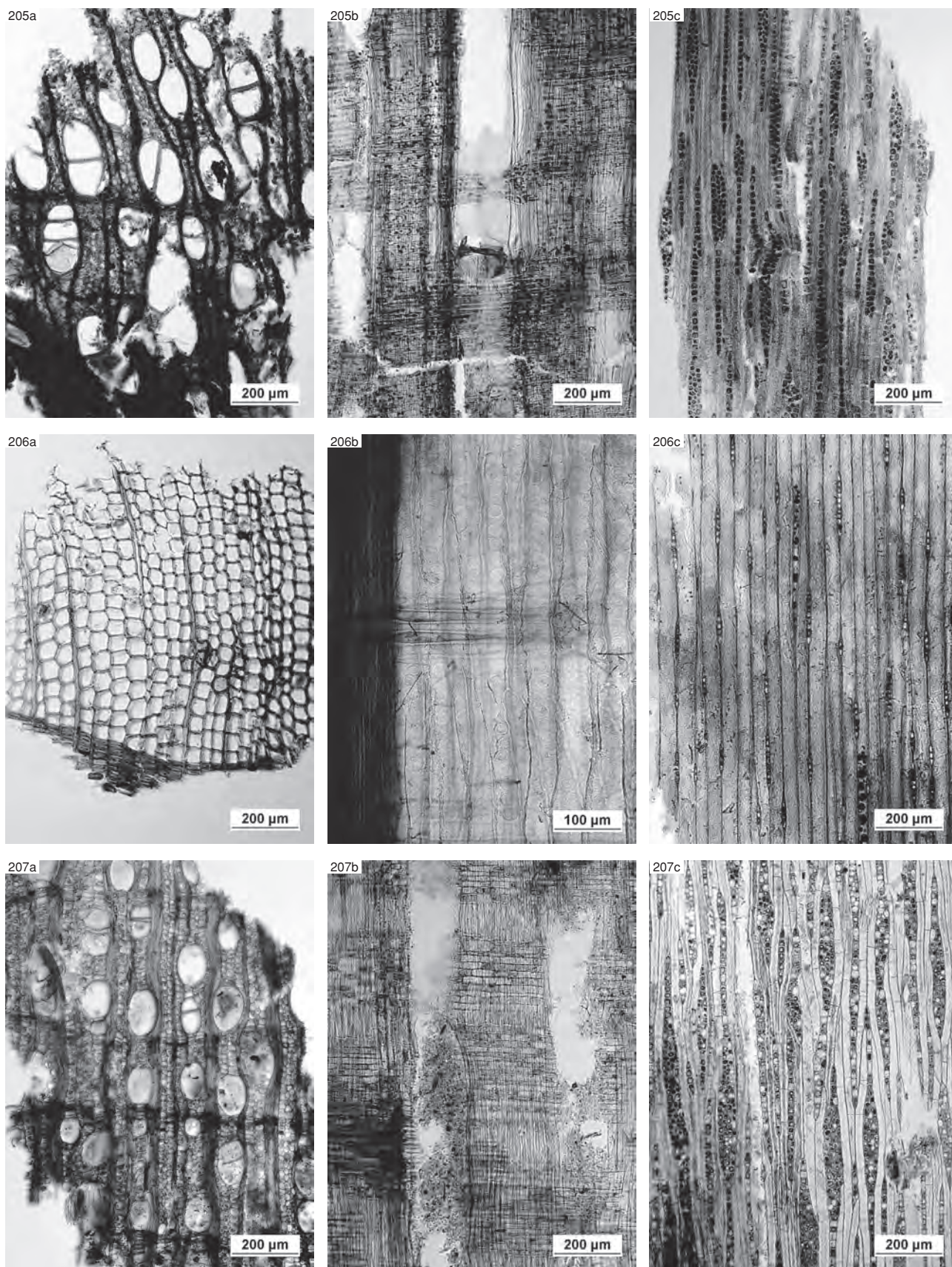
199 スギ科スギ属スギ (試料 No.251)
 200 ブナ科クリ属クリ (試料 No.252)
 201 スギ科スギ属スギ (試料 No.253)
 a: 木口、b: 柎目、c: 板目

第 368 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (67) 吉田生物研究所



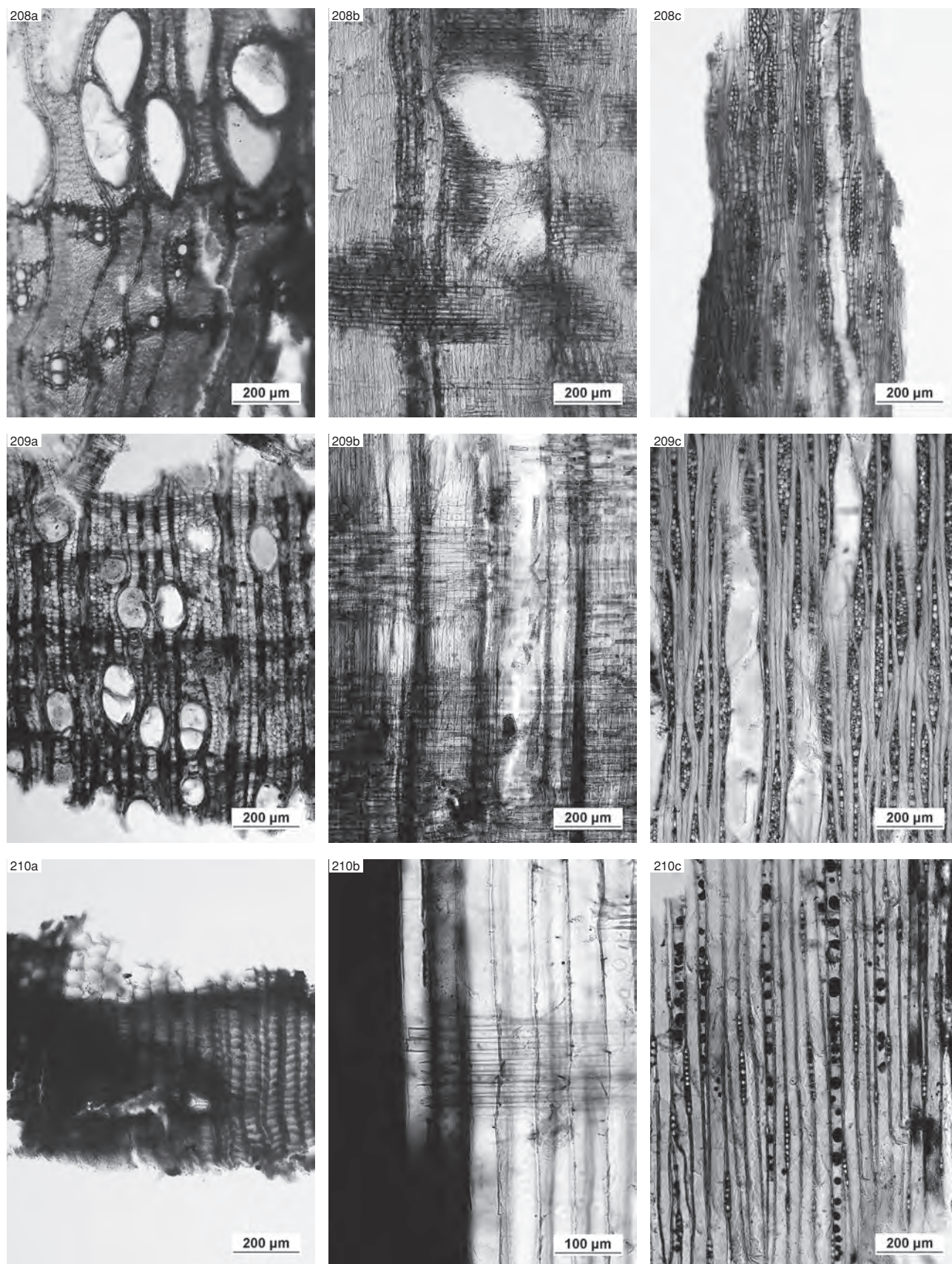
202 スギ科スギ属スギ (試料 No.254)
 203 スギ科スギ属スギ (試料 No.255)
 204 カバノキ科アサダ属アサダ (試料 No.256)
 a: 木口、b: 柀目、c: 板目

第 369 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (68) 吉田生物研究所



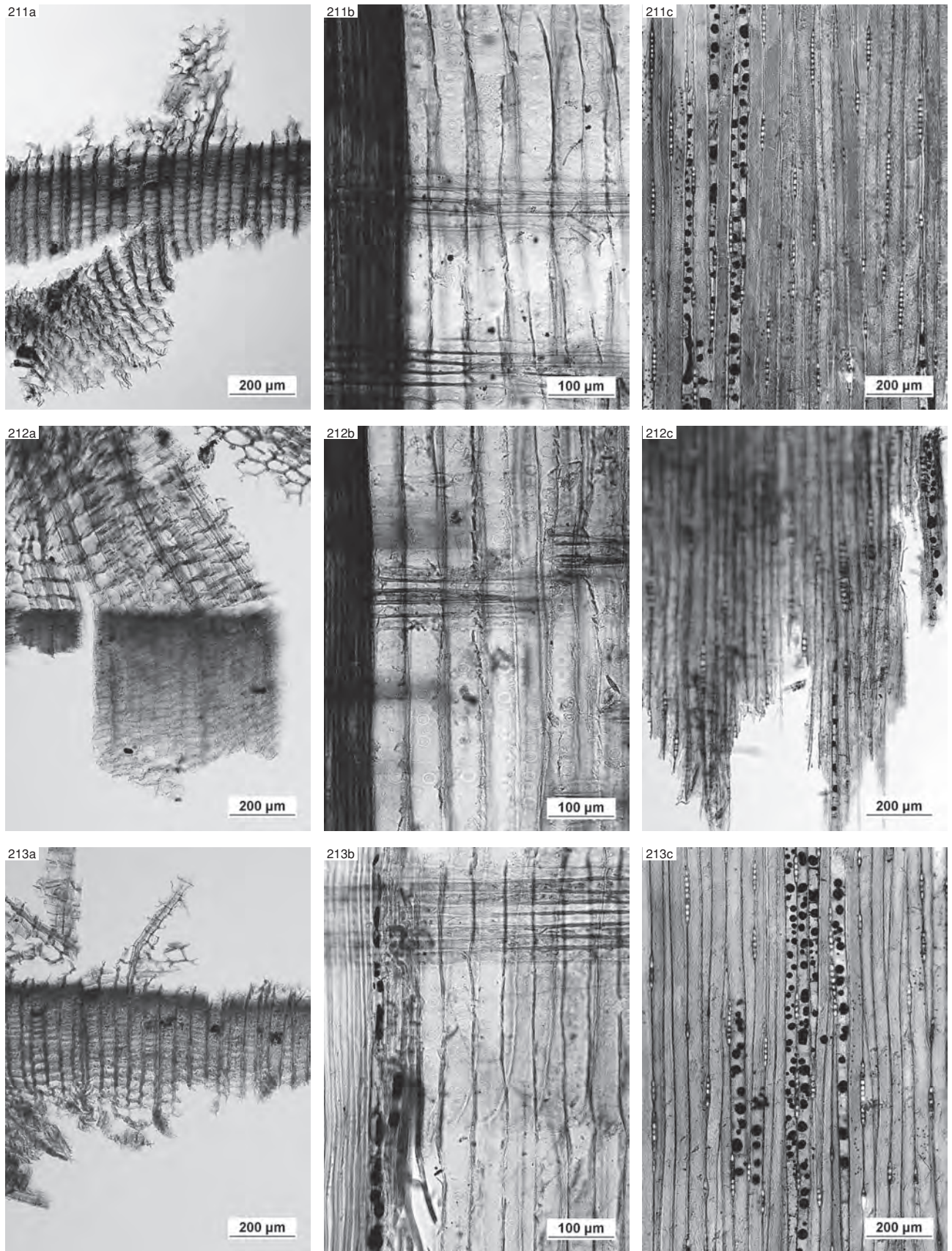
205 カバノキ科アサダ属アサダ (試料 No.257)
 206 スギ科スギ属スギ (試料 No.258)
 207 カバノキ科アサダ属アサダ (試料 No.259)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 370 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (69) 吉田生物研究所



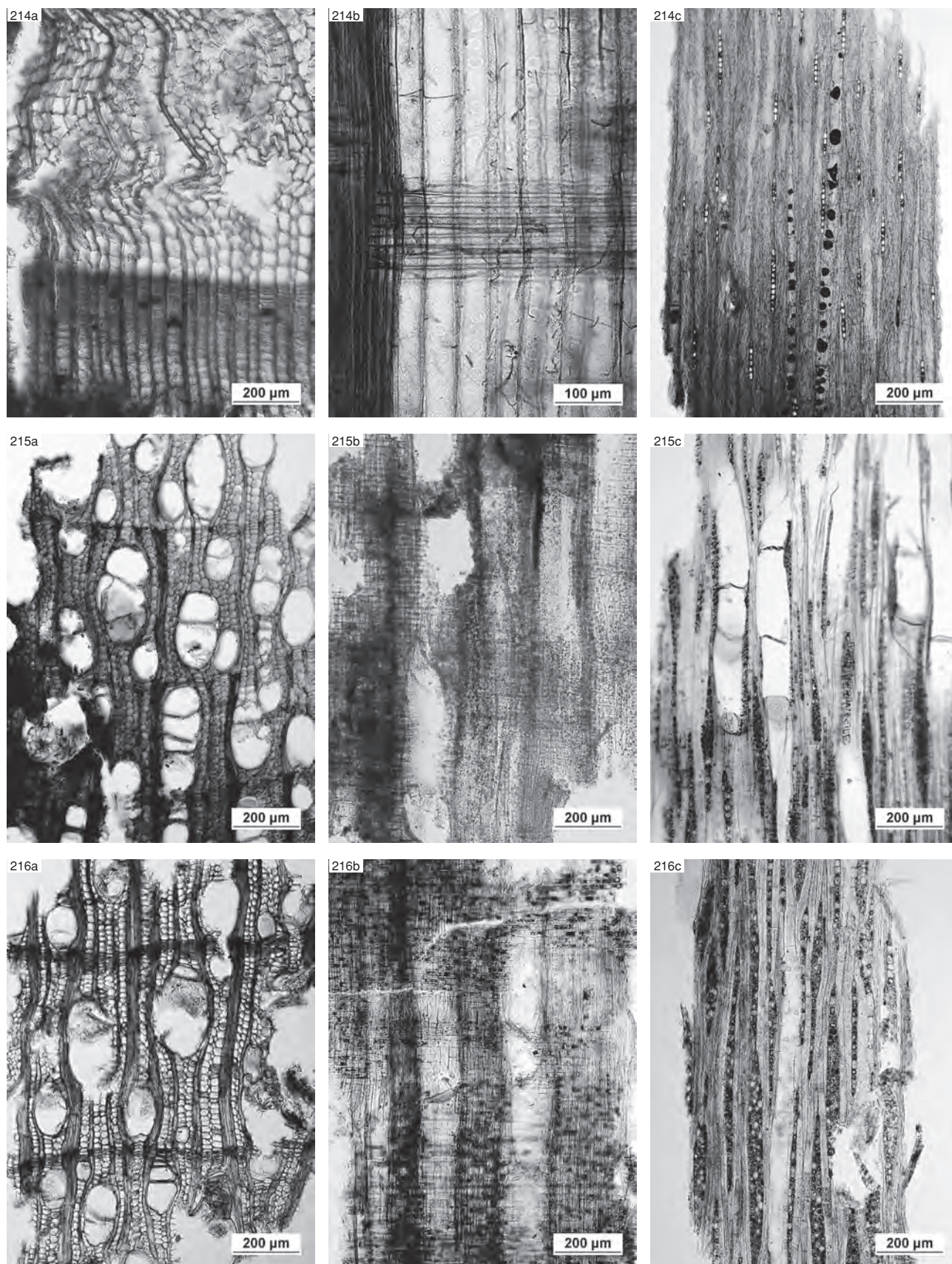
208 モクセイ科トネリコ属 (試料 No.260)
 209 カバノキ科アサダ属アサダ (試料 No.261)
 210 スギ科スギ属スギ (試料 No.262)
 a: 木口、b: 柎目、c: 板目

第 371 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (70) 吉田生物研究所



211 スギ科スギ属スギ (試料 No.263)
 212 スギ科スギ属スギ (試料 No.264)
 213 スギ科スギ属スギ (試料 No.265)
 a: 木口、b: 柁目、c: 板目

第 372 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (71) 吉田生物研究所



214 スギ科スギ属スギ (試料 No.266)
 215 カバノキ科アサダ属アサダ (試料 No.267)
 216 カバノキ科アサダ属アサダ (試料 No.268)
 a: 木口、b: 柀目、c: 板目

第 373 図 木材組織の光学顕微鏡写真 (72) 吉田生物研究所

3 炭化材の樹種同定

パレオ・ラボ
藤根 久

A はじめに

矢馳A遺跡の第4次調査では、古墳時代中期の遺物包含層中から焼土が検出され、燃料材と考えられる炭化材が含まれていた。ここでは、これら炭化材の樹種同定を行った。なお、一部の炭化材試料はAMS法による放射性炭素年代測定を行っている（第VI章1放射性炭素年代測定 p.327～335参照）。

B 試料と方法

炭化材試料は、古墳時代中期の遺物包含層から出土した焼土中の燃料材と考えられる炭化材6試料である（表66）。なお、試料No.271とNo.272は、水洗選別した試料で複数個体含まれていたため、樹種同定が行える大きさの材2点を抽出して検討した。

各炭化材試料は、3断面（横断面・接線断面・放射断面）を採取し直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定して、銀ペーストの塗布および金蒸着を行った。観察および同定は、走査電子顕微鏡（日本電子(株)製 JSM-5900LV型）を使用した。

C 結果および考察

樹種を同定した結果、落葉広葉樹のコナラ属コナラ節（以下コナラ節）、トネリコ属、散孔材2分類群の計4分類群であった。なお、No.271およびNo.272は、いずれも各2点について同定したが、各同一の樹種であった。散孔材2点はいずれも小さな枝状の材であった。

コナラ節やトネリコ属は燃料材として有用な材であるが、同定点数が少ないため、材が選択されたかどうかは不明であった。以下に、同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の組織写真を示す。

コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科

（第374図1a～1c 試料No.273、2a・2b 試料No.272）

年輪のはじめに大型の道管が配列して徐々に径を減じ、晩材部では薄壁の角ばった小型の管孔が火炎状にかつ放射方向に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一

である。放射組織は単列および集合放射組織から構成される。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。代表的なコナラ節であるコナラは、加工がややしく乾燥すると割れや狂いが出やすい。

トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科

（第374図3a～3c 試料No.31、第375図4a・4c 試料No.271）

中型から大型の道管が1～2層配列し、単独または2個複合した小型で厚壁の管孔が散在する環孔材である。木部柔細胞は、周囲状および連合翼状である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一である。放射組織は同性1～3細胞幅、6～30細胞高である。

トネリコ属は、おもに温帯に生育する落葉高木でシオジ、ヤチダモ、トネリコ、アオダモなど約9種類ある。材は重硬で弾力性があり折れ難く、機械類・板材・棒・柄などに使われる。

散孔材 A Diffuse-porous wood A

（第375図5a～5c 試料No.32）

試料は、直径2mm強の1年輪以下の木材であり、小型の管孔が単独または3個放射方向に複合して分布する散孔材である。放射組織は、材組織は明瞭ではない。道管の穿孔は、単一である。

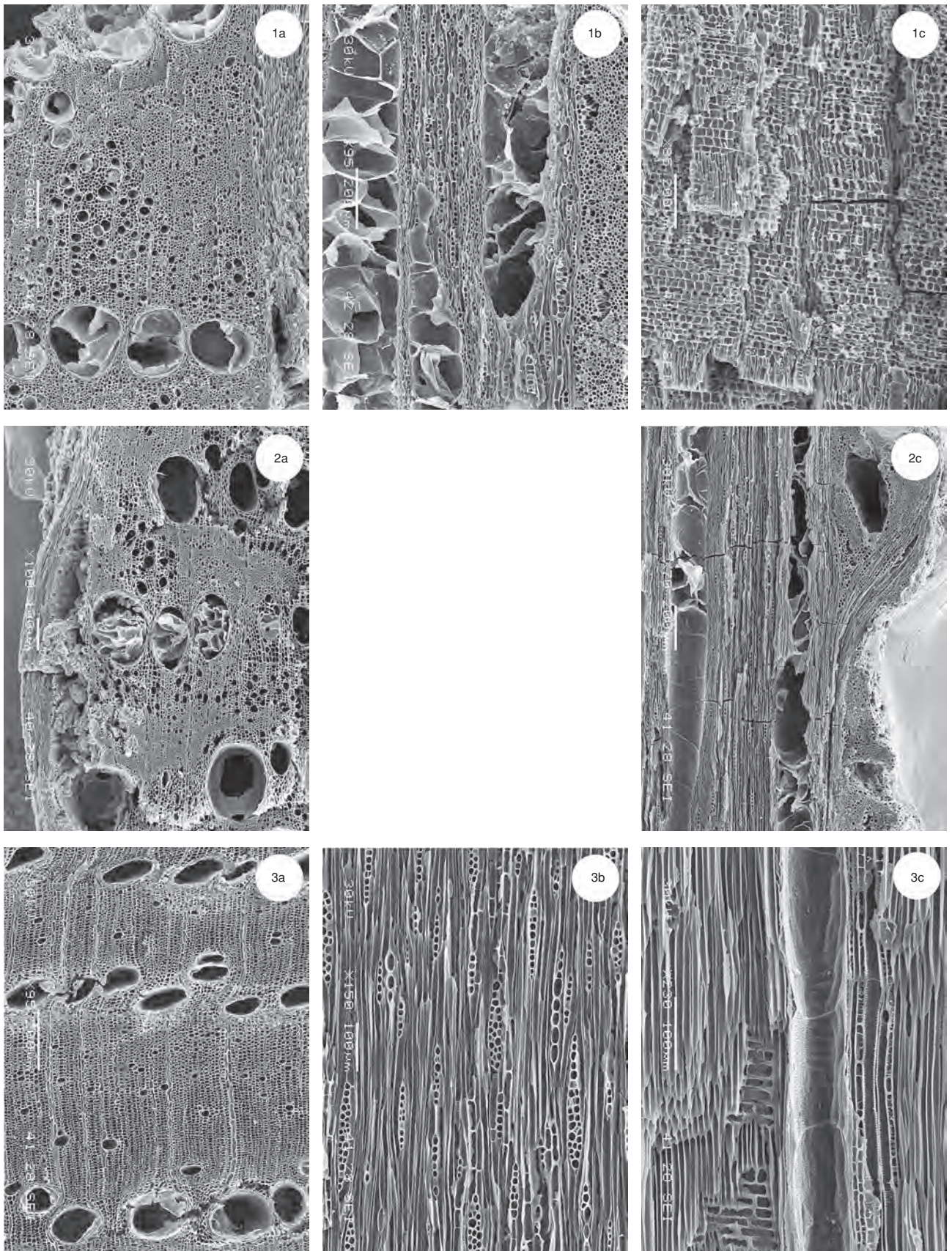
散孔材 B Diffuse-porous wood B

（第375図6a～6c 試料No.33）

試料は、直径約3.5mmの1年輪以下の木材であり、小型の管孔が単独または2個放射方向に複合して分布する散孔材である。放射組織は、異性1～2細胞幅、2～16細胞高であり、端部1細胞が直立細胞からなる。道管の壁孔は、対列状であり、単一穿孔である。

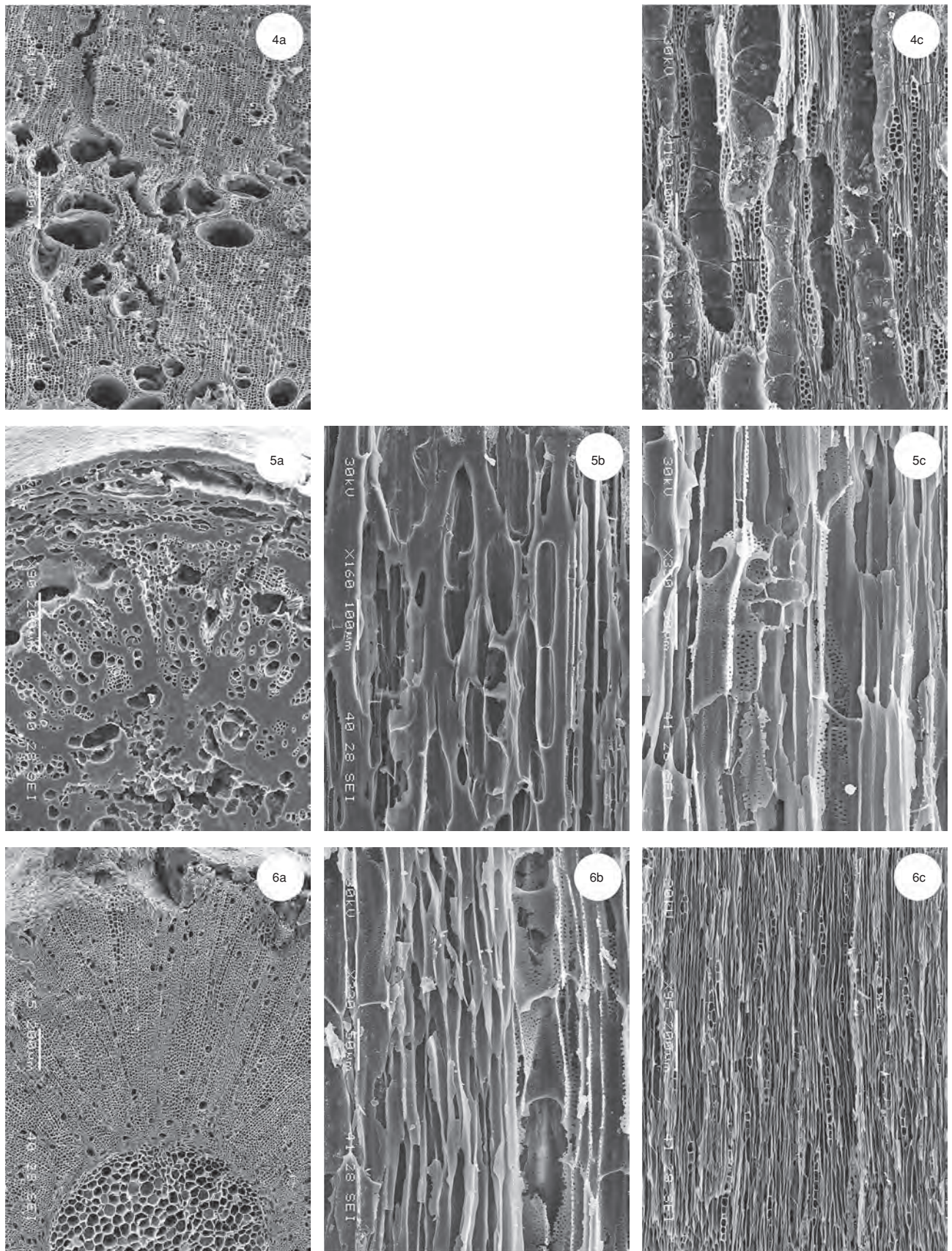
表66 出土炭化材の樹種同定結果 パレオ・ラボ

試料No.	出土遺構	時期	炭化材の性格	樹種	備考
31	グリッド：P-17 遺構：焼土	古墳時代	燃料材の用材	トネリコ属	PLD-9138
32	グリッド：P-17 遺構：焼土	古墳時代	燃料材の用材	散孔材A	PLD-9139
33	グリッド：P-17 遺構：焼土	古墳時代	燃料材の用材	散孔材B	PLD-9140
271	グリッド：P-17 遺構：焼土	古墳時代	燃料材の用材	トネリコ属(2)	
272	グリッド：P-17 遺構：焼土	古墳時代	燃料材の用材	コナラ節(2)	
273	グリッド：P-17 遺構：焼土	古墳時代	燃料材の用材	コナラ節	



1a-1c コナラ属コナラ節 (試料 No.273)
 2a・2c コナラ属コナラ節 (試料 No.272)
 3a-3c トネリコ属 (試料 No.31)
 a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

第 374 図 出土炭化材木材組織の走査電子顕微鏡写真 (1) パレオ・ラボ



4a・4c トネリコ属 (試料 No.271)
5a—5c 散孔材 A (試料 No.32)
6a—6c 散孔材 B (試料 No.33)
a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

第 375 図 出土炭化材木材組織の走査電子顕微鏡写真 (2) パレオ・ラボ

4 種実同定

パレオ・ラボ

佐々木由香・バンダーリスダグシヤン

A はじめに

ここでは第4次調査において古墳時代中期の遺物包含層で検出された焼土、奈良・平安時代の井戸、中世以前の川から出土した種実および堆積物を水洗して得られた種実遺体を同定し、当時の植生や利用された植物について検討した。なお、試料の一部を用いてAMS法による放射性炭素年代測定が行われている（第VI章1放射性炭素年代測定 p.327～335 参照）。

B 試料と方法

分析の対象は、現場で取り上げられた試料（試料 No.34～37）4点と堆積物を水洗選別した試料（試料 No.269、271～273）4試料である。試料 No.34と269はSE96内出土、試料 No.35はSG121出土、試料 No.36と37、271～273は古墳時代中期の遺物包含層P-17グリッドで検出された焼土の堆積物である。試料 No.271は有機質粘土、No.272はシルト、No.273はシルト質粘土であった。堆積物は体積の計量後、0.25mmの篩を用いて水洗し、種実遺体を抽出し、肉眼および実体顕微鏡下で同定した。洗浄量は、試料 No.269が160cc（試料全量）、試料 No.271は300cc、試料 No.272は25cc（試料全量）、試料 No.273は600cc（試料全量）である。

未炭化の試料はエタノール水溶液60%中に保存し、炭化したものは乾燥保存した。現場取り上げ試料は放射性炭素年代測定試料としたため、試料は残っていない。水洗選別試料は山形県埋蔵文化財センターで保管されている。

C 結果

現場取り上げ試料（試料 No.34～37）

現場取り上げ試料では、木本植物のオニグルミ核1点とモモ核1点、エゴノキ核破片1点、草本植物のタデ属炭化果実1点および破片2点の計4分類群が見いだされた（表67 第376図）。

堆積物の水洗選別試料（試料 No.269、271～273）

同定した結果、全体で得られた木本植物では、広葉樹のホオノキ、タラノキ、ニワトコの3分類群が得られた。草本植物では、カナムグラとギシギシ属、タニソバ、ナデシコ科、アカザ属、マメ科、メロン仲間、ナス属、メナモミ属、イネ、イネ科、カヤツリグサ属の12分類群が見いだされた。このほかに木本植物か草本植物か区別ができなかったブドウ科は便宜的に木本植物中に含めた。産出数が多い分類群およびその部位は、SE96出土のアカザ属種子とナデシコ科種子、すべての遺構から出土したイネ炭化果実、焼土から出土したイネ炭化種子であった（表68 第377図）。

D 主要な種実遺体の記載

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 核 クルミ科

核が出土した。長さ32.0mm、幅26.4mm。側面観は広卵形。壁は緻密で硬く、ときどき空隙がある。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。また微細な皺がある。

ホオノキ *Magnolia hypoleuca* Sieb. et Zucc. 炭化種子 モクレン科

炭化種子が出土した。長さ7.5mm、幅7.2mm。暗褐色から赤褐色で、上面観は扁平、側面観は広卵形。背面にはやや波状の縦溝がある。腹面は中央部が著しく窪み、下端に臍がある。種皮の断面は柵状で薄く堅い。

タラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seemann 核 ウコギ科

核が出土した。淡褐色で、上面観は扁平、側面観は半月形。長さ2.0mm、幅1.5mm。稜があり、稜に沿って網目状の構造がある。

ニワトコ *Sambucus racemosa* L.ssp.*sieboldiana* (Miq.) Hara 核 スイカズラ科

核が出土した。長さ1.8mm、幅1.5mm。明黄褐色から褐色で、上面観は扁平、側面観は楕円形から涙型で基部が尖る。基部に小さな着点があり、縦方向にやや反る。表面には波状の凹凸が横方向に走る。壁はやや薄く、硬いが弾力がある。

カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. 核 クワ科

核が出土した。長さ3.5mm、幅3.3mm。上面観は両凸レンズ形、側面観は円形。褐色で一点に黄白色で心形の

着点がある。半分に割れやすい。

ギシギシ属 *Rumex* 炭化果実 タデ科

炭化果実が出土した。茶褐色で、断面観は三角形、側面観は狭倒卵形で両端が尖る。長さ 3.0 mm、幅 1.8 mm 程度。表面は平滑で鈍い光沢がある。

タニソバ *Persicaria nepalensis* (Meisn.) H.Gross 炭化果実 タデ科

炭化果実が出土した。上面観は扁平で、側面観は広倒卵形。表面にははっきりした網目がある。長さ 1.5 mm、幅 1.1 mm。

アカザ属 *Chenopodium* 種子・炭化種子 アカザ科

種子と炭化種子が出土した。黒色で、上面観はやや扁平、側面観は円形。種皮は強い光沢があり、硬い。長さ 1.4 mm、幅 1.0 mm 前後。着点の一端がやや突起し、中心部方向にむかって浅い溝がある。

マメ科 *Leguminosae* 炭化種子

炭化種子が出土した。長さ 3.0 mm、幅 2.6 mm。上面観は扁平、側面はやや円形。一側面に長楕円形の臍が抜けた痕があることからマメ科とした。

ナス属 *Solanum* 種子 ナス科

種子が出土した。長さ 1.5 mm、幅 1.1 mm 程度。淡褐色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。表面には畝状突起が細かい網目模様となる。ナス属には複数種含まれる可能性がある。

メナモミ属 *Siegesbeckia* 炭化果実 キク科

炭化果実が出土した。黒褐色で、側面観は半月形。縦方向に数本の筋がみられる。長さ 2.3 mm、幅 1.1 mm 程度。

イネ *Oryza sativa* L. 果実・炭化果実・炭化種子 イネ科

果実と炭化果実、炭化種子が出土した。果実は茶褐色

で、一部が炭化している。基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。長さ 6.7 mm、幅 3.2 mm 前後。種子はすべて炭化しており、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に中央がやや盛り上がる縦方向の 2 本の浅い溝がある。長さ 4.3 mm、幅 2.7 mm 前後。

イネ科 *Gramineae* 炭化種子

炭化種子が出土した。長さ 1.2 mm、幅 0.6 mm。紡錘形で上部はやや尖る。栽培植物よりかなり小型で、下部に胚がある。

E 考 察

現場取り上げ試料と水洗選別試料の結果をあわせて考察を行う。

SE96 から出土した種実で利用できる植物は栽培植物であるモモとイネ、破片のため全体の形状は不明だが栽培種に含まれると考えられるメロン仲間があげられる。またタラノキやニワトコも食用可能な植物である。井戸周辺にはカナムグラやナデシコ科、アカザ属などが生育し、これらの植物が生育する開けた日当たりが良い場所であったことが推定される。

焼土から出土した種実で利用できる植物は、全試料から出土した栽培植物であるイネがあげられる。いずれも果実が出土し、また種子の一部に果実片が付着していることが多いことから、いわゆる糊の状態で炭化したことが考えられる。また微細な焼骨片が試料 No.271 と 272 から複数出土した。イネ以外の種実遺体は産出点数が少ないことから、周辺に生育していたものが偶発的に入った可能性が高い。

表 67 現場取り上げ試料の種実同定結果 パレオ・ラボ

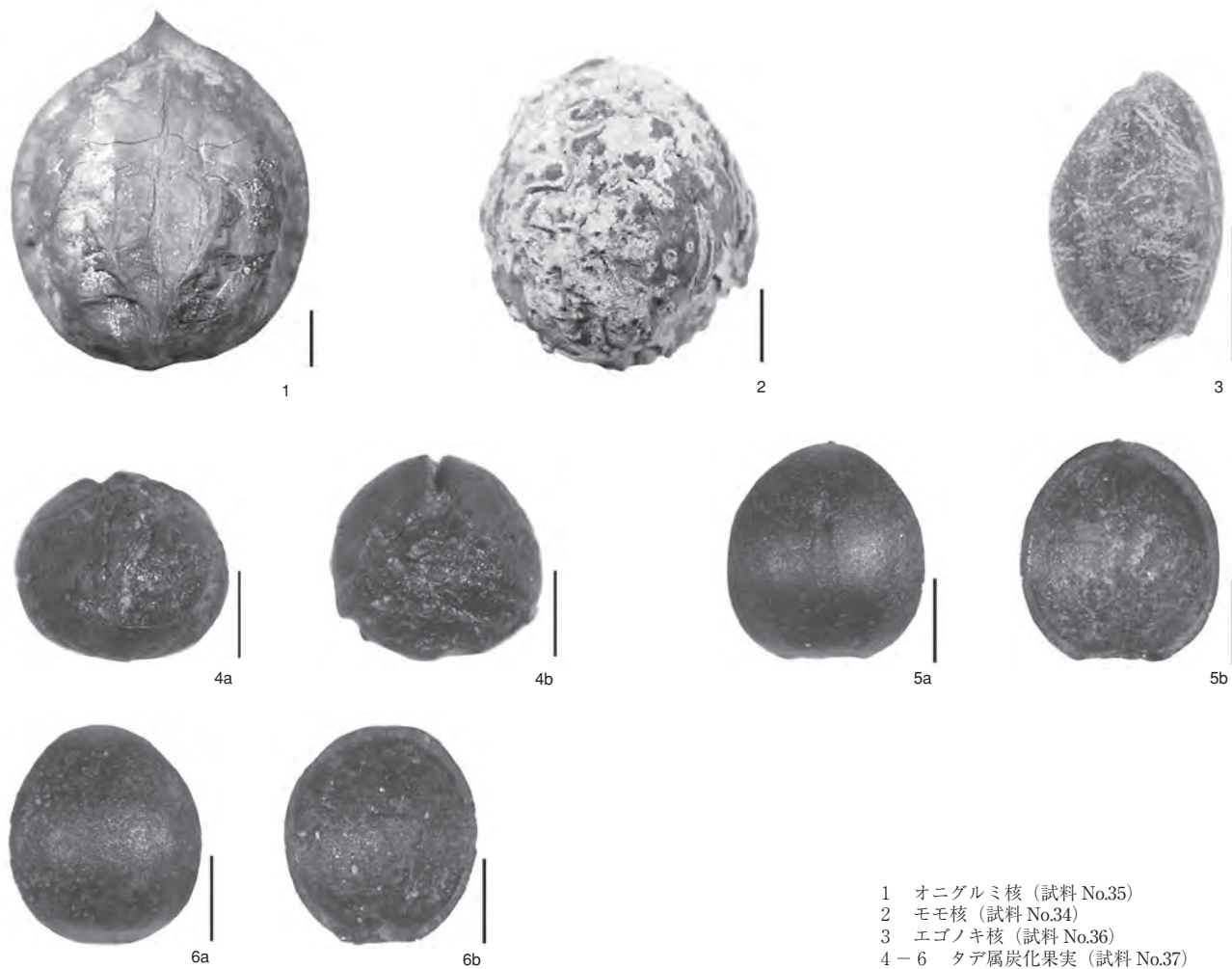
※括弧は破片を示す。

試料 No.	遺 構	分類群	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	年代測定番号
34	グリッド：L#-14#15 遺構：SE96	モモ核	21.7	19.2	19.0	PLD-9141
35	グリッド：K# ~ L#-14・14# 遺構：SG121	オニグルミ核	32.0	26.4	24.1	PLD-9142
36	グリッド：P-17 遺構：焼土	エゴノキ核	11.2	6.8	(3.7)	PLD-9143
37-1	グリッド：P-17 遺構：焼土	タデ属炭化果実	2.4	2.5	2.5	PLD-9144
37-2	グリッド：P-17 遺構：焼土	タデ属炭化果実	2.7	(2.4)	(0.7)	
37-3	グリッド：P-17 遺構：焼土	タデ属炭化果実	2.8	(2.4)	(0.6)	

表 68 水洗選別試料の種実同定結果 パレオ・ラボ

※括弧は破片を示す。

分類群	部位 / 試料 No.	P-17 グリッド焼土			
		SE96 269	271	272	273
ホオノキ	炭化種子		1		
ブドウ科	炭化種子		(1)		
タラノキ	核	1			
ニワトコ	核	1 (1)			
カナムグラ	核	(4)			
ギシギシ属	炭化果実		1		
タニソバ	炭化果実		1		
ナデシコ科	種子	12 (2)			
アカザ属	種子	25 (16)			
	炭化種子	1			
マメ科	炭化種子		1		
メロン仲間	種子	(1)			
ナス属	種子	3			
メナモミ属	炭化果実		1		1
イネ	果実	1 (1)			
	炭化果実	(6)	(8)	(12)	(8)
	炭化種子		13 (23)	1	
イネ科	炭化種子				3
カヤツリグサ属	果実	1			
不明	炭化果実	(5)			



1 オニグルミ核 (試料 No.35)
 2 モモ核 (試料 No.34)
 3 エゴノキ核 (試料 No.36)
 4-6 タデ属炭化果実 (試料 No.37)

スケール 1-3 : 5mm、4-6 : 1mm

第 376 図 現場取り上げ試料から得られた種実遺体 パレオ・ラボ



1 ホオノキ炭化核 (試料 No.271)、2 ブドウ科炭化種子 (試料 No.271)、3 クラノキ核 (試料 No.269)、4 ニワトコ核 (試料 No.269)
 5 タニソバ炭化果実 (試料 No.271)、6 ナデシコ科種子 (試料 No.269)、7 アカザ属種子 (試料 No.269)、8 マメ科炭化種子 (試料 No.271)
 9 メロン仲間種子 (試料 No.269)、10 ナス属種子 (試料 No.269)、11 メナモミ属炭化果実 (試料 No.273)、12 イネ果実 (試料 No.269)
 13 イネ炭化種子 (試料 No.271)、14 イネ科炭化種子 (試料 No.273)、15 カヤツリグサ属果実 (試料 No.269)

スケール 1 : 5 mm、2-5、8-13、15 : 1 mm、6・7・14 : 0.5 mm

第 377 図 水洗選別試料から得られた種実遺体 パレオ・ラボ

5 動物遺体の同定

パレオ・ラボ
孔智賢
早稲田大学
樋泉岳二

A はじめに

ここでは、矢馳A遺跡第4次調査で検出された骨片の同定結果について報告する。

B 資料と方法

資料は、P-17グリッドで検出された古墳時代中期の遺物包含層の焼土から出土した骨片2点である(試料No.275)。骨片は、1点は長さ10mm×幅2.8mm、もう1点は長さ5mm×幅2mmの細片で、いずれも焼かれて白色を呈している(第378図)。

C 結果

P-17グリッド焼土から出土した焼骨片2点は、哺乳類のものである可能性が強いが、細片のため詳細な分類群の同定はできなかった。

6 赤色物の蛍光X線分析

パレオ・ラボ
竹原弘展

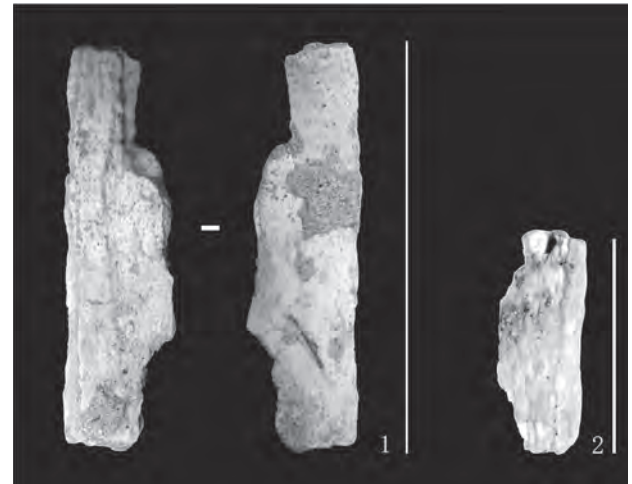
A はじめに

矢馳A遺跡第4次調査遺物包含層中P-17グリッド検出の焼土より出土した赤色物について蛍光X線分析を行い、組成を検討した。

B 試料と方法

分析対象資料は、試料No.274が付された5世紀後半から6世紀初頭の古墳時代中期遺物包含層中の焼土より検出された赤色物である(第379図)。セロハンテープに極少量採取して分析試料とした。

分析装置はエネルギー分散型蛍光X線分析装置である(株)堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type IIを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV・1mAの口



スケール 1:10mm、2:5mm

第378図 出土焼骨片 パレオ・ラボ

ジウムターゲット、X線ビーム径が100 μ mまたは10 μ m、検出器は高純度Si検出器(Xerophy)で、試料室の大きさは350×400×40mmである。検出可能元素はナトリウム~ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪いため、試料中に少量含む程度ではピークを検出し難く、検出できてもその定量値はかなり誤差が大きい。

本分析での測定条件は、50kV、0.72mA(自動設定による)、ビーム径100 μ m、測定時間500s、パルス処理時間P4(分解能を重視した設定)に設定した。定量分析は標準試料を用いないFP(ファンダメンタル・パラメータ)法による半定量分析を装置付属ソフトで行った。そのため、定量値は誤差を大きめに見積もっておく必要がある。

C 結果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析結果を第381図・表69に示す。鉄(Fe)が最も多く検出された。他に、アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、リン(P)、硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)が検出された。

D 考察

古墳時代に主に使用されていた赤色顔料としては、朱（水銀朱）とベンガラに大別される。水銀朱は、硫化水銀 HgS で鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄 Fe₂O₃（鉱物名赤鉄鉱）を指すが、広義には鉄（Ⅲ）の発色に伴う赤色顔料全般を指し（成瀬 2004）、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約 1 μm のパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。これは鉄バクテリアを起源とすることが判明しており（岡田 1997）、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す（成瀬 1998）。

当試料からは、ケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。鉄が非常に多く検出されていることから、赤い発色は鉄によるものであると推定できる。顔料としてはベンガラにあたる。

なお、光学顕微鏡下で観察したところパイプ状の粒子は観察されなかった（第 382 図）。よって、土壌成分の鉄が被熱により赤色化した可能性もある。

以上、遺物包含層中の焼土より出土した赤色物について分析した結果、鉄が多く検出され、鉄（Ⅲ）による発色と推定された。当試料を顔料として捉えたと、ベンガラにあたる。

引用文献

- 成瀬正和 1998 「縄文時代の赤色顔料 I—赤彩土器—」『考古学ジャーナル No.438』p.10～14 ニューサイエンス社
 成瀬正和 2004 「正倉院宝物に用いられた無機顔料」『正倉院紀要』p.13～61 宮内庁正倉院事務所
 岡田文男 1997 「パイプ状ベンガラ粒子の復元」『日本文化財科学会第 14 回大会研究発表要旨』p.38～39

7 須恵器胎土の蛍光 X 線分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

A はじめに

本報告では、第 3・4 次調査で出土した古墳時代、奈良時代および平安時代の各時代の遺物包含層および遺構から出土した須恵器を対象として、その材質（胎土）の性質を捉えることにより、各時代における比較や、周辺におけるこれまでの分析例との比較により、須恵器の生産と流通に関わる資料を作成する。

B 試料

試料は、遺物包含層および遺構から出土した須恵器片 11 点である。須恵器試料には No.276～286 の試料番号が付されている。

須恵器試料のうち、No.276～282 までの 7 点は、いずれも古墳時代とされる遺構または遺物包含層から出土している。これらのうち、No.277 は、5 世紀後半～6 世紀初頭とされる遺構の確認面よりも下位の遺物包含層より出土し、No.279・280 は 6 世紀とされる河川跡から出土、No.281・282 は 5 世紀後半～6 世紀初頭とされる遺物包含層を掘り込んで検出された河川跡より出土して

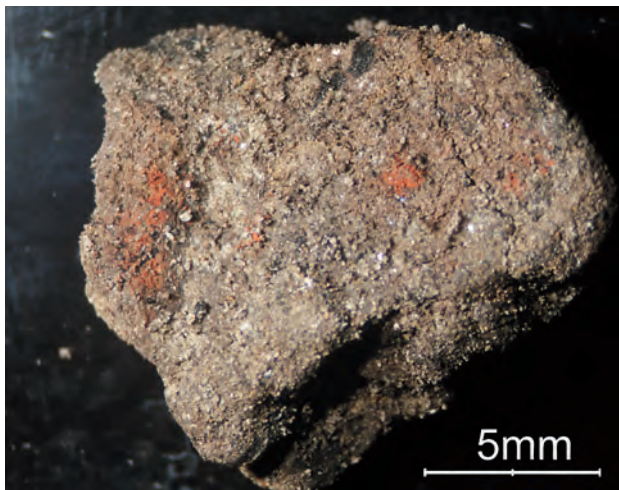
いる。No.283・284 の 2 点は平安時代とされる河川跡からの出土であり、No.285・286 の 2 点は奈良時代とされる河川跡からの出土である。なお、各試料の出土位置、出土遺構などは、分析結果を呈示した表 23 に併記する。

C 分析方法

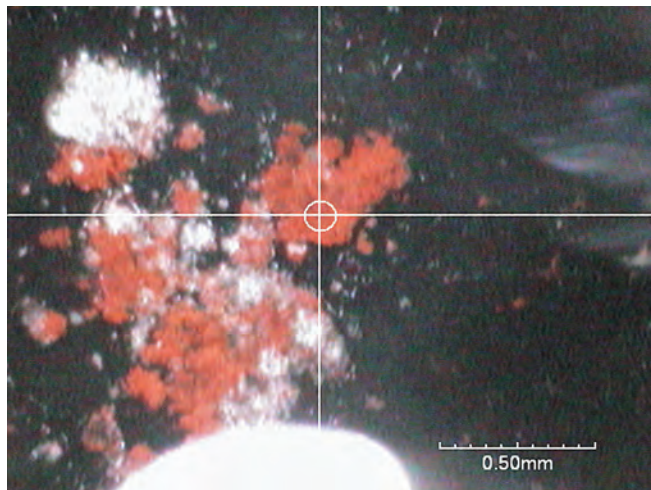
当社ではこれまでに、山形県内各地の遺跡より出土した古墳時代及び古代の須恵器さらに山形盆地、庄内平野、米沢盆地の各地域に所在する平安時代の須恵器窯跡出土試料について、薄片作製観察および蛍光 X 線分析による胎土分析を行っている。薄片観察では、須恵器胎土に含まれる砂粒の鉱物や岩石の種類構成を定性的に記載し、蛍光 X 線分析では胎土の化学組成を明らかにした。両分析のうち、特に蛍光 X 線分析では特定の元素を選択してグラフ上で比較することにより、定性的な薄片観察結果における比較検討よりも有意な結果が得られている。したがって、今回の胎土分析でも蛍光 X 線分析を用いる。測定の対象とする元素は、SiO₂、Al₂O₃、TiO₂、Fe₂O₃、MnO、MgO、CaO、Na₂O、K₂O、P₂O₅ の主要 10 元素および Rb、Sr、Zr、Ba の微量 4 元素である。以下に各分析条件を記す。

装置

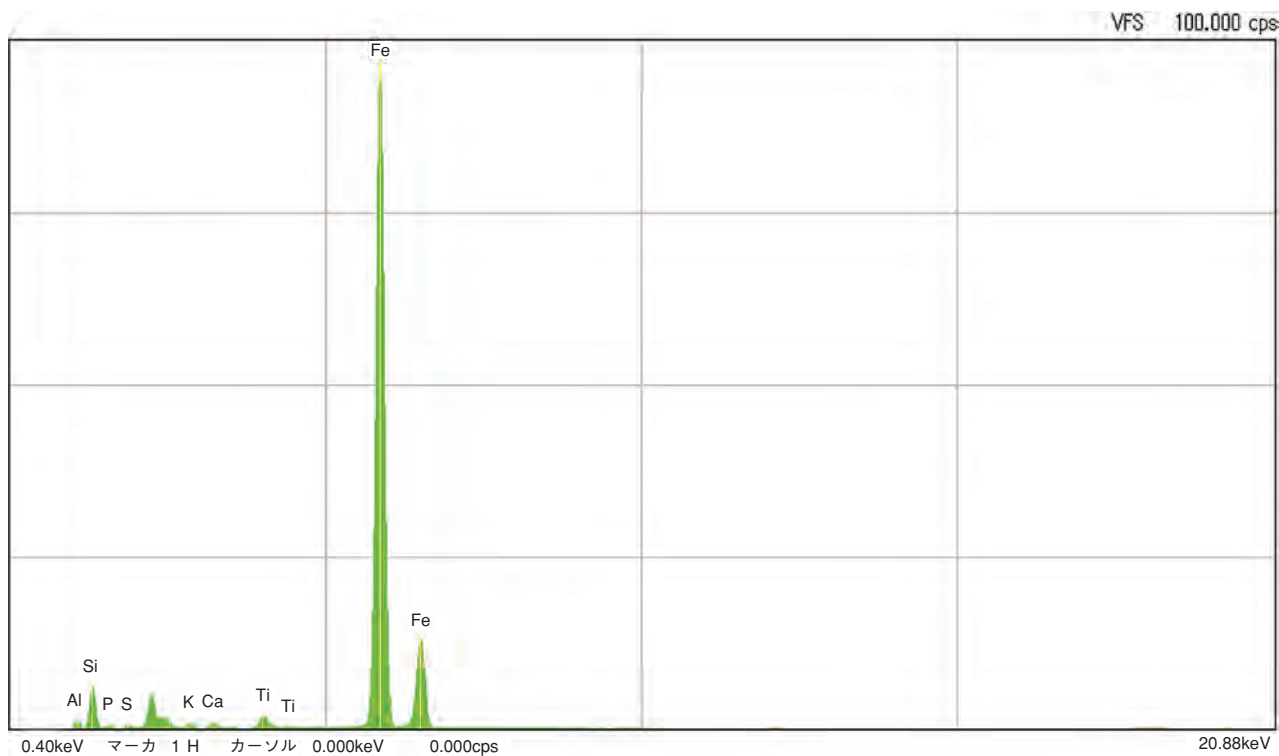
理学電機工業社製 RIX1000（FP 法のグループ定量ブ



第 379 図 赤色物分析対象試料 パレオ・ラボ



第 380 図 赤色物蛍光 X 線分析ポイント パレオ・ラボ

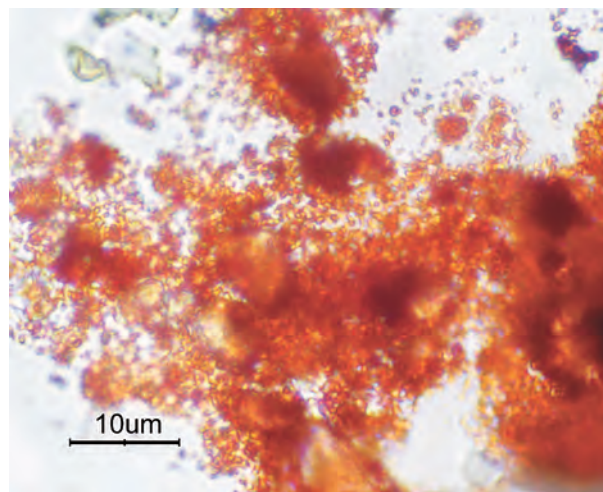


第 381 図 赤色物蛍光 X 線スペクトル パレオ・ラボ

表 69 赤色物分析結果 パレオ・ラボ

測定時間：500s パルス処理時間：P4
 XGT 径：100 μm X 線管電圧：50kV
 電流：0.72mA
 定量補正法：スタンダードレス

元素	ライン	質量濃度 [%]	2 σ [%]	強度 [cps/mA]	
13	Al	K	14.04	0.78	17.07
14	Si	K	35.25	0.61	92.64
15	P	K	2.19	0.20	9.18
16	Si	K	0.90	0.09	8.69
19	K	K	1.41	0.09	15.48
20	Ca	K	0.87	0.06	13.95
22	Ti	K	1.17	0.06	32.50
26	Fe	K	44.16	0.55	2101.83



第 382 図 赤色物採取試料拡大図 パレオ・ラボ

ログラム)

試料調製

試料を振動ミル(平工製作所製 TI100; 10 ml 容タンクステンカーバイト容器)で微粉碎し、105℃で4時間乾燥する。この微粉碎試料についてガラスビートを以下の条件で作成する。なお、胎土表面に塗彩または釉薬が確認される試料については、これらを除去し、試料として供する。

溶融装置 自動剥離機構付理学電機工業社製高周波ビートサンプラー (3491A1)

溶剤及び希釈率 融剤(ホウ酸リチウム) 5.000 g : 試料 0.500 g

剥離剤 LiI (溶融中1回投入)

溶融温度 1200℃ 約7分

測定条件

X線管 Cr (50Kv - 50mA)

スペクトル 全元素 K_α

分光結晶 LiF,PET,TAP,Ge

検出器 F-PC,SC

計数時間 PeaK40sec, Back20sec

D 結果

結果を表70に示す。ここでは試料間の組成を比較する方法として、以下に示す元素を選択し、それらの値を縦軸・横軸とした散布図を作成した(第383図～387図)。

第383図 化学組成中で最も主要な元素(SiO₂, Al₂O₃)。

第384図 粘土の母材を考える上で長石類(主にカリ長石、斜長石)の種類構成は重要である。このことから、指標として長石類の主要元素であるCaO、Na₂O、K₂Oの3者を選択し、長石全体におけるアルカリ長石およびカリ長石の割合を定性的に見る。実際には、長石類全体におけるアルカリ長石の割合 $(Na_2O + K_2O)/(CaO + Na_2O + K_2O)$ を横軸とし、アルカリ長石におけるカリ長石の割合 $K_2O/(Na_2O + K_2O)$ を縦軸とする。

第385図 輝石類や黒雲母、角閃石など有色鉱物における主要な元素。この場合、指標としてこれらの有色鉱物の主要な元素のうち、TiO₂、Fe₂O₃、MgOを選択し、Fe₂O₃を分母としたTiO₂、MgOの割合を見る。

第386図・387図 各微量元素を選択する。組み合わせは、Rb-SrとZr-Baとする。

また、これらの散布図では、出土した遺構の時代を古墳時代、奈良時代、平安時代と分けて、それぞれ異なる記号で示した。

作成した5つの散布図を概観すると、平安時代のNo.283と284、奈良時代のNo.285と286は、どの散布図においてもそれぞれ古墳時代の須恵器とは異なる組成を示す。一方、古墳時代の須恵器では、No.276と280の組、No.281と282の組、それにNo.279の3者がいずれの散布図においても分離が比較的明瞭であることから、古墳時代の須恵器は3グループに分離される。No.277とNo.278については、散布図によって、No.276と280あるいはNo.281と282のいずれかに近い組成を示すことから、これら2つのグループの中間的な組成として、ここではNo.277と278も1つのグループとする。したがって、今回の試料における古墳時代の須恵器は、4種類の胎土に分類できる。

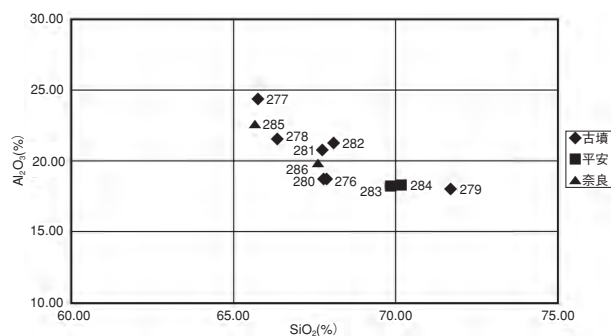
E 考察

須恵器の胎土分析では、窯跡出土試料との比較により産地が議論されるということが多い。当社においても、山形県内の須恵器窯跡から出土した試料の分析例があるが、いずれも平安時代とされる窯跡の試料である。具体的には、米沢盆地に位置する蛇崩窯跡および平野窯跡、山形盆地に位置する二子沢窯跡、そして庄内平野に位置する荒沢遺跡と泉森窯跡の各窯跡から出土した須恵器片を3～8点程度分析している。これだけの分析例ではあるが、いずれの窯跡出土試料においても、胎土の化学組成のばらつきは意外と大きいことをまず述べておきたい。これらの分析例でも今回と同様の散布図を作成してみると、今回の分析例におけるNo.276・280のグループとNo.281・282のグループ程度の違いは、十分に一つの窯跡出土試料のばらつきの中に含まれてしまう。したがって、今回の古墳時代須恵器に認められた胎土グループは、必ずしも生産地の違いを示唆するものではないと言える。ただし、同一の生産地であったとしても、より詳細な生産時期の違いなど、製作に関わる何らかの有意な違いを示している可能性はあると考えられる。この場合、例えば、住居跡ごとにその出土須恵器の胎土分類を試みるなど、生産地推定に限らない胎土分析の展開も期待することができる。

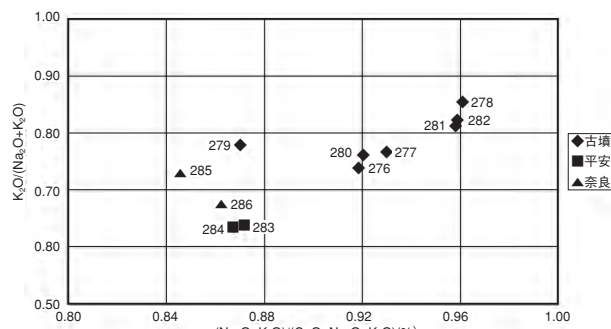
ここで、上述した各窯跡試料におけるばらつきも考慮して、今回の試料特に奈良時代および平安時代の試料である No.283 ~ 286 の4点の化学組成と窯跡試料の化学組成とを比較してみると、全ての散布図において、今回の4点の試料と化学組成が一致するという窯跡試料は認められない。ただし、相対的な傾向としては、庄内平野の泉森窯跡や荒沢遺跡の試料よりも、山形盆地の二子沢窯跡や米沢盆地の平野窯跡の試料に近いといえる。もちろん、産地の特定には不十分な段階ではあるが、至近の窯跡から供給されるばかりではない可能性も示唆され、今後の継続的な分析が望まれる。

窯跡出土試料ではなく、消費地遺跡出土例では、同じ庄内平野南西部の沖積低地上にあり、矢馳A遺跡と至近の位置にある興屋川原、行司免、万治ヶ沢の各遺跡出土須恵器の分析例がある。これらのうち、興屋川原遺跡出土試料には、古墳、奈良、平安の各時代とされる試料があり、行司免遺跡出土試料には奈良時代および平安時代の試料、万治ヶ沢出土試料には平安時代の試料がある。古墳時代の試料について比較してみると、No.276・280 および No.281・282 の両グループの組成は、興屋川原出土の古墳時代の試料の組成の一部と近似することが確認された。おそらく、興屋川原出土の古墳時代の須恵器の一部と矢馳A遺跡出土の古墳時代の須恵器の一部は、同一の生産地から供給された可能性が高い。一方、奈良時代の試料 No.285・286 の組成は、行司免遺跡出土の奈良から平安および平安とされた時代の試料の一部と重なり、平安時代の試料 No.283・284 の組成は、万治ヶ沢遺跡出土試料の一部と重なる。したがって、奈良時代や平安時代においても、同一の窯で生産された須恵器が、庄内平野南西部各地に供給されていたと考えられる。ただし、前述したように現時点では、その窯跡を特定することはできていない。

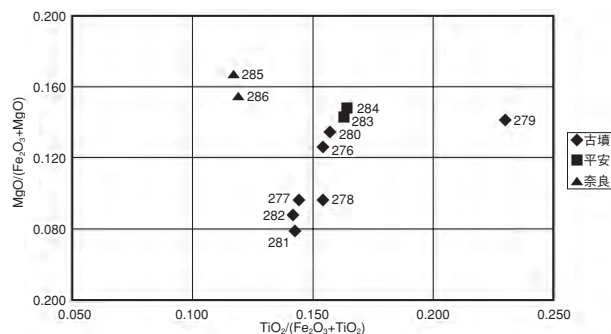
今後も山形県内における須恵器の胎土分析を継続する場合、産地の課題に対しては窯跡出土試料におけるばらつきを見極めることであり、消費地遺跡出土試料における胎土のばらつきに対しては、今回のように比較的明瞭なグループ分けができる場合には出土遺構や出土層位との関連性を把握することが必要であると考えられる。



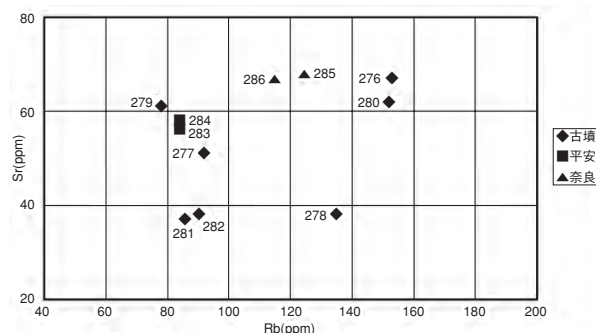
第 383 図 SiO₂ - Al₂O₃ 散布図 パリノ・サーヴェイ



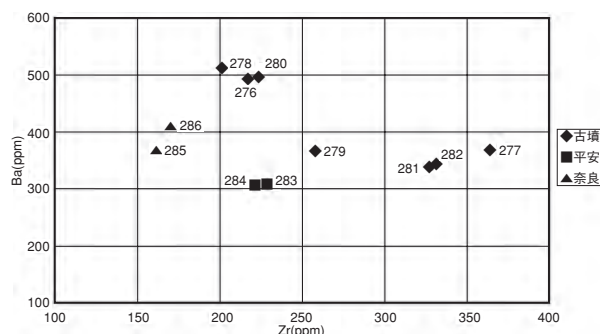
第 384 図 長石類主要元素の散布図 パリノ・サーヴェイ



第 385 図 有色鉱物主要元素の散布図 パリノ・サーヴェイ



第 386 図 Rb - Sr 散布図 パリノ・サーヴェイ



第 387 図 Zr - Ba 散布図 パリノ・サーヴェイ

表 70 須恵器胎土蛍光 X 線分析結果 パリノ・サーヴェイ

試料データ	主要元素												微量元素			
	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	Ig.loss	合計	Rb	Sr	Zr	Ba
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(ppm)	(ppm)	(ppm)	(ppm)
試料 No.276 調査年次:3 次 グリッド:R-14 遺構:遺物包含層 年代:古墳 (5C 後~6C 初頭)	67.89	0.94	18.69	5.15	0.04	0.74	0.33	0.97	2.74	0.12	2.39	100.00	153	67	217	492
試料 No.277 調査年次:4 次 グリッド:P#-17# 遺構:遺物包含層 年代:古墳 (5C 後~6C 初頭)	65.76	0.83	24.34	4.92	0.02	0.52	0.17	0.52	1.72	0.03	1.17	100.00	92	51	364	371
試料 No.278 調査年次:4 次 グリッド:Q#-18# 遺構:SG100 年代:古墳	66.35	0.91	21.59	5.00	0.03	0.53	0.12	0.43	2.53	0.07	2.44	100.00	135	38	202	511
試料 No.279 調査年次:3 次 グリッド:W-17 遺構:SG160 年代:古墳 (6C)	71.71	1.09	17.98	3.65	0.02	0.60	0.29	0.43	1.52	0.07	2.64	100.00	78	61	258	369
試料 No.280 調査年次:3 次 グリッド:V-18 遺構:SG160 年代:古墳 (6C)	67.75	0.95	18.68	5.10	0.04	0.79	0.31	0.87	2.73	0.13	2.65	100.00	152	62	223	496
試料 No.281 調査年次:3 次 グリッド:Q-16 遺構:SG1045 年代:古墳	67.77	0.83	20.96	5.00	0.02	0.43	0.09	0.39	1.68	0.06	2.77	100.00	86	37	328	337
試料 No.282 調査年次:3 次 グリッド:Q-17 遺構:SG1045 年代:古墳	68.10	0.83	21.24	5.02	0.02	0.48	0.09	0.37	1.71	0.06	2.08	100.00	90	38	331	344
試料 No.283 調査年次:3 次 グリッド:H-11 遺構:SG771 年代:平安	69.90	0.88	18.25	4.52	0.02	0.75	0.33	0.82	1.43	0.14	2.96	100.00	84	56	229	309
試料 No.284 調査年次:3 次 グリッド:H-11 遺構:SG771 年代:平安	70.18	0.88	18.31	4.49	0.01	0.78	0.34	0.82	1.40	0.12	2.67	100.00	84	58	221	306
試料 No.285 調査年次:4 次 グリッド:D-2# 遺構:SG833 年代:奈良	65.65	0.75	22.65	5.65	0.02	1.14	0.44	0.65	1.76	0.02	1.27	100.00	124	68	161	371
試料 No.286 調査年次:4 次 グリッド:D-2# 遺構:SG833 年代:奈良	67.60	0.72	19.85	5.34	0.02	0.98	0.42	0.85	1.79	0.04	2.39	100.00	115	67	170	407

8 テフラ分析

パレオ・ラボ
藤根 久・長友純子

A はじめに

矢馳A遺跡の第3次調査では、火山灰質土壌が検出された。ここでは、これら火山灰質土壌中のテフラの有無およびテフラ同定を行った。

B 試料と分析方法

対象は9遺構で検出の土壌18試料である(表71)。

試料は、10g程度を1φ(0.5mm)、2φ(0.25mm)、3φ(0.125mm)、4φ(0.063mm)のフルイを重ね湿式フルイ分けした。このうち3φ篩残渣を用いて、軽鉱物組成について偏光顕微鏡下で200粒を同定計数した。また、火山ガラスを比較的多く含む試料について、火山ガラスの屈折率測定を行った。なお、火山ガラスの形態分類は、(町田・新井2003)に従った。

火山ガラスの屈折率測定は、温度変化型屈折計MIOT2000((有)古澤地質調査事務所製)でカプセル上に浸液と抽出した火山ガラスを封入し、30個のバブル型火山ガラスの屈折率を計測した。

C 結果

3φ篩残渣について計数した結果、火山ガラスが多

引用文献

町田 洋・新井房夫 2003 『新編火山灰アトラスー日本列島とその周辺』p.336 財団法人東京大学出版会

く検出された試料は、分析No 2(試料No 287)と分析No 13(試料No 298)であった。また、分析No 17(試料No 302)は少ないものの火山ガラスが検出された。その他の試料は、非常に少なかった(表72)。なお、不明とした分類群中にはスコリア質の粒子が含まれているが、特徴的に多い試料はなかった。

火山ガラスの形態は、いずれの試料も軽石型繊維状ガラスが最も多く、次いで軽石型スポンジ状ガラス、バブル(泡)型Y状ガラスであった(表72)。

火山ガラスの屈折率測定では、分析No 2(試料No 287)が範囲1.500~1.509、中央値1.505、平均値1.505、分析No 13(試料No 298)が範囲1.500~1.508、中央値1.506、平均値1.505、分析No 17(試料No 302)が範囲1.500~1.509、中央値1.504、平均値1.504であり、ほぼ同様の値を示す(表73)。

以上のことから、分析No 2(試料No 287)と分析No 13(試料No 298)および分析No 17(試料No 302)は、同一テフラであり、火山ガラスの形態および火山ガラスの屈折率測定から十和田aテフラと同定された。

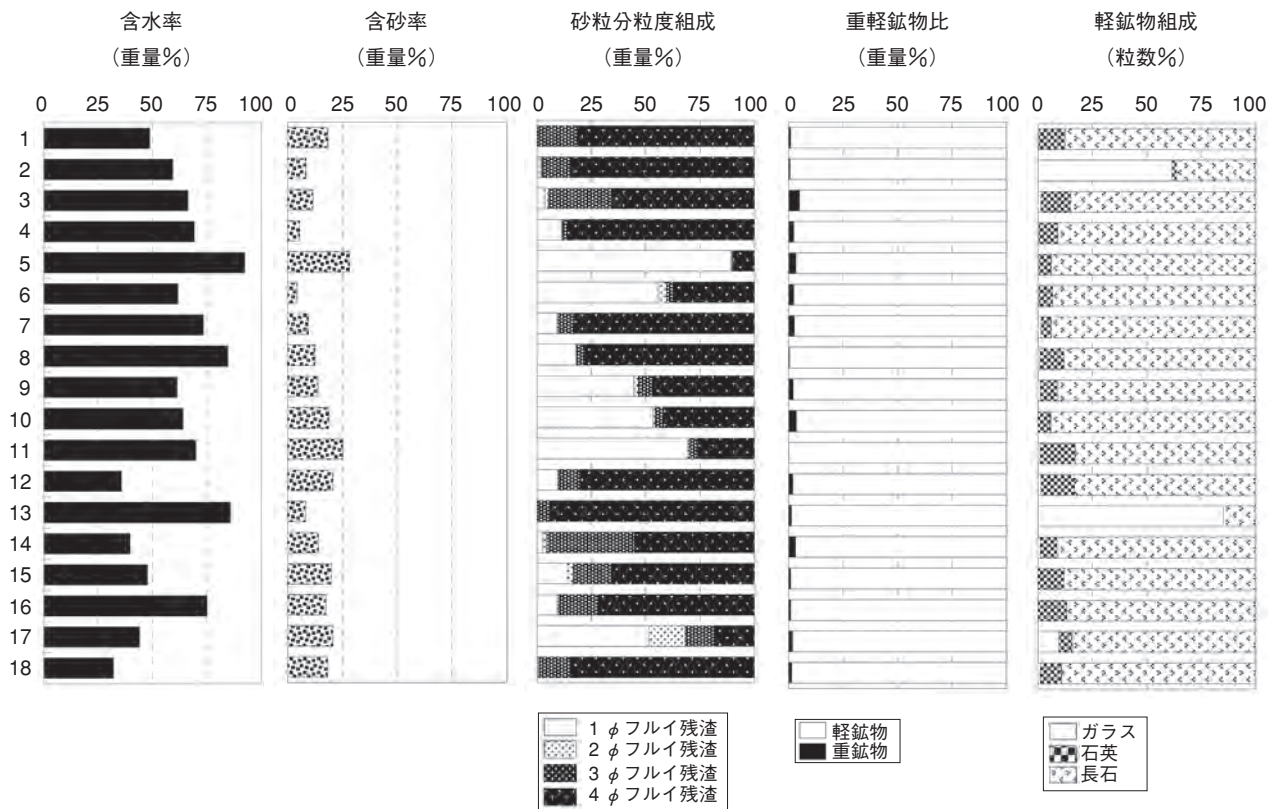
十和田aテフラは、AD915年に爆発的な噴火を起こし、降下軽石や降下火山灰からなり、火砕流も発生した。この十和田aテフラは、火山の南方約300km、西方約80kmの範囲に及んだ大規模噴火であった(町田・新井2003前出)。

表71 テフラ検出と同定を行なった試料一覧 パレオ・ラボ

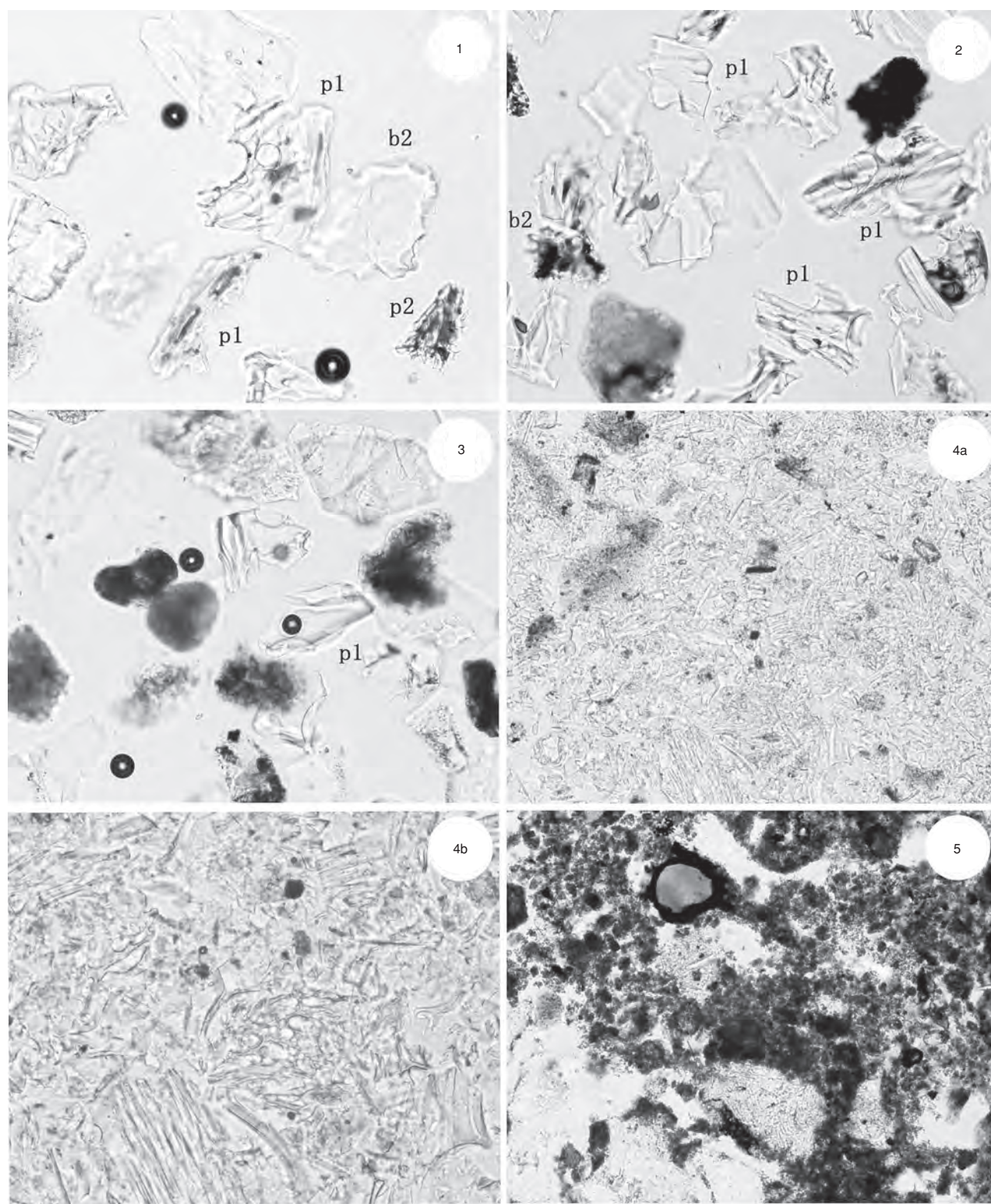
分析No.	試料No.	遺構No.	グリッド	堆積物の特徴	備考
1	1	SG1045	Q-15	暗オリーブ色 (5Y 4/4)	AMS年代測定
2	287	SE479	S-17	黄褐色 (2.5Y 5/3)	
3	288	SE515	T-15	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	
4	289	SG771	I-10	灰色 (10Y 4/1)	
5	290			オリーブ黒色 (5Y 2/2)	
6	291			オリーブ黒色 (5Y 3/2)	
7	292			灰オリーブ褐色 (2.5Y 3/3)	
8	293			灰色 (5Y 4/1)	
9	294			灰色 (7.5Y 4/1)	
10	295			暗オリーブ褐色 (2.5Y 3/3)	
11	296			黒褐色 (2.5Y 3/2)	
12	297			灰色 (7.5Y 4/1)	
13	298	SG833	F-4	黄褐色 (2.5Y 5/4)	
14	299			オリーブ灰色 (10Y 4/2)	
15	300	SK1046	E-5	灰オリーブ色 (5Y 4/2)	
16	301	SK1141	B-7	黄灰色 (2.5Y 4/1)	
17	302	SE592	P-14	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	
18	303	遺物包含層	Q-17	灰色 (N 5/)	

表 72 各試料の篩分けと軽鉱物組成 (3φ 篩残渣) パレオ・ラボ

分析 No	試料 No	含水率 (重量%)	含砂率 (重量%)	砂粒分の粒度組成				重・軽鉱物組成		軽鉱物組成 (粒数)							合計		
				(重量%)				(重量%)		軽鉱物組成 (粒数)				火山ガラス (粒数)					
				1φ	2φ	3φ	4φ	重鉱物	軽鉱物	火山ガラス	石英	長石	不明	バブル (泡) 型		軽石型		急冷破砕型	
平板状		Y 字状		繊維状	スポンジ状														
1	1	48.72	18.32	0.002	0.011	0.903	4.014	1.223	0.011	1	23	167	9	1					200
2	287	59.28	8.35	0.020	0.022	0.274	1.783	1.067	0.007	114	4	67	15	4	20	74	16		200
3	288	66.27	11.41	0.096	0.046	0.791	1.814	1.198	0.062	3	26	163	8		1		2		200
4	289	69.12	5.38	0.142	0.003	0.032	1.097	1.053	0.025	1	16	168	15	1					200
5	290	92.36	28.19	5.222	0.039	0.027	0.576	0.539	0.019	1	10	163	26		1				200
6	291	61.75	4.19	0.580	0.037	0.031	0.389	0.368	0.009	1	12	175	12				1		200
7	292	73.43	9.42	0.203	0.008	0.158	1.805	1.194	0.033	3	9	176	12				2	1	200
8	293	84.72	12.43	0.482	0.009	0.096	2.105	1.060	0.004	2	19	153	26				2		200
9	294	61.29	13.76	1.523	0.068	0.209	1.612	1.070	0.023	2	13	151	34				2		200
10	295	64.00	18.85	2.453	0.048	0.155	1.943	1.319	0.048	0	10	158	32						200
11	296	69.94	25.17	4.109	0.027	0.215	1.575	1.116	0.001	2	30	153	15			1		1	200
12	297	35.77	20.74	0.576	0.033	0.585	4.917	1.311	0.026	3	29	157	11			2	1		200
13	298	85.84	8.01	0.003	0.002	0.096	1.625	0.793	0.011	159		27	14	1	16	110	32		200
14	299	39.71	14.01	0.112	0.065	1.618	2.216	1.171	0.037	2	12	145	41				2		200
15	300	47.77	19.92	0.756	0.137	0.952	3.548	1.273	0.012	0	21	151	28						200
16	301	75.05	17.30	0.363	0.024	0.710	2.857	1.360	0.012	0	25	161	14						200
17	302	43.97	20.54	2.930	0.966	0.795	1.016	0.975	0.018	17	11	148	24	1		13	3		200
18	303	32.09	18.09	0.015	0.033	0.716	4.224	1.473	0.022	2	16	147	35				1	1	200



第 388 図 各試料の篩分け結果と軽鉱物組成 パレオ・ラボ



- 1 分析 No. 2 の火山ガラス (スケール : 100 μm)
 2 分析 No.13 の火山ガラス (スケール : 100 μm)
 3 分析 No.17 の火山ガラス (スケール : 100 μm)
 4 a 分析 No.13 の薄片 (スケール : 100 μm)
 4 b 分析 No.13 の薄片 (スケール : 50 μm)
 5 分析 No.14 の薄片 (スケール : 100 μm)

p1 : 平板状 p 2 : Y字状 b1 : 繊維状 b2 スポンジ状

第 389 図 テフラ試料の火山ガラス及び土壌薄片の顕微鏡写真 パレオ・ラボ

表 73 火山ガラスの屈折率測定結果 パレオ・ラボ

測定数	No. 287	No. 298	No. 302
1	1.505127	1.504643	1.502998
2	1.505629	1.505995	1.502061
3	1.505714	1.504088	1.501683
4	1.505914	1.500258	1.506122
5	1.502252	1.506818	1.507675
6	1.505647	1.506669	1.503831
7	1.506420	1.506857	1.502292
8	1.506310	1.507830	1.500935
9	1.503578	1.505646	1.500571
10	1.503096	1.506152	1.499892
11	1.505582	1.505101	1.504175
12	1.504803	1.507368	1.509232
13	1.502620	1.504858	1.504735
14	1.504853	1.505299	1.502437
15	1.505340	1.506096	1.505742
16	1.506134	1.502636	1.503671
17	1.503597	1.505228	1.504413
18	1.502585	1.505099	1.501176
19	1.501374	1.501783	1.504344
20	1.506831	1.502808	1.500499
21	1.508430	1.508309	1.503018
22	1.505808	1.508272	1.506919
23	1.500488	1.506855	1.504965
24	1.508465	1.502868	1.504350
25	1.505330	1.505640	1.506726
26	1.508543	1.506391	1.507436
27	1.505105	1.507072	1.504460
28	1.506570	1.506656	1.504127
29	1.506264	1.507929	1.504351
30	1.504069	1.501841	1.505925
測定数	30	30	30
最小値	1.500488	1.500258	1.499892
最大値	1.508543	1.508309	1.509232
範囲	0.008055	0.008051	0.009340
中央値	1.505461	1.505821	1.504260
平均値	1.505083	1.505436	1.504025

パリノ・サーヴェイ株式会社

A はじめに

本報告では、第4次調査において検出された古墳時代とされる河川跡および遺物包含層から出土した土器内に充填されていた土壌を対象として、テフラの検出と分析を行うことにより、その由来および当該期の年代や周辺環境についても検討を行う。また、これらの試料について珪藻・花粉・植物珪酸体の各微化石分析も合わせて実施している。

B 試料

土壌試料の No.304 は、古墳時代後期の河川跡とされる SG100 の S-19 グリッド RP68 から採取されている。

土器は逆位で出土している。土壌試料の No.305 は、古墳時代中期の遺物包含層 Q-17# グリッド RP69 より採取されている。No.305 は、須恵器の蛍光 X 線分析試料の No.277 が出土した遺物包含層と同一とされ、炭化物層直上から出土している。なお、土壌試料は、いずれも黄褐色を呈するやや砂質のシルトである（第 397 図 1・2）。

C 分析方法

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、(古澤 1995) の MAIOT を使用した温度変化法を用いた。

D 結果

分析結果を表 74 に示す。2 点の試料ともに、砂分は細砂から極細砂径の極めて粒径の淘汰の良好な石英および長石類の鉱物片により構成されており、テフラに由来すると考えられる碎屑物は、極めて微量の軽石型火山ガラスが認められたに過ぎない。これらの火山ガラスの回収は極めて困難であり、屈折率の測定には、いずれの試料ともに、1 片のみの測定に留まった。測定結果も表 27 に併記する。No.304 の火山ガラスは n1.513、No.305 の火山ガラスは n1.509 であった。

E 考察

2 点の試料から検出された火山ガラスは、極めて微量であることおよび屈折率のレンジ（屈折率の範囲）を求めることができないことから、その由来するテフラ

を推定することはできない。粒径が極細砂径であることや比較的新鮮であることおよび軽石型の形態を示すこと、さらには矢馳A遺跡の地理的位置などから、検出された火山ガラスは、給源の遠い十和田カルデラの完新世のテフラなどに由来する可能性もある。

表 74 テフラ分析及び屈折率測定結果 パリノ・サーヴェイ

凡例 -:含まれない (+):きわめて微量 +:微量 ++:少量
+++ :中量 ++++:多量 cl:無色透明 br:褐色 bw:バブル型
md:中間型 pm:軽石型

試料 No.	採取地点	スコリア	火山ガラス	軽石	火山ガラス屈折率		
		量	量 色調・形態	量	測定値	カウント数	
No.304	SG100 S-19 RP68	-	(+)	cl・md,cl・pm	-	1.513	1
No.305	包含層 Q-17# RP69	-	(+)	cl・md,cl・pm	-	1.509	1

引用文献

古澤明 1995 「火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別」『地質学雑誌 101』p.123 ~ 133

9 花粉分析

パレオ・ラボ
鈴木 茂

A はじめに

矢馳A遺跡第4次調査において奈良・平安時代の井戸が検出された。この井戸枠内より採取された土壌試料について花粉分析を行い、奈良・平安時代における遺跡周辺の古植生について検討した。

B 試料と分析方法

試料はSE96の枠内より採取された土壌試料1点(試料No.269)である。本試料は褐灰色の砂質粘土で、この1試料について以下のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料(湿重約5g)を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行き、その際サフラニンにて染色を施した。

C 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉21、草

本花粉16、形態分類を含むシダ植物胞子4の計41である。これら花粉・胞子の一覧を表75に、またそれらの分布を第390図に示した。その分布図について、樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物は全花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図および表においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示し、マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括していれてある。

第391図は試料から主に得られた花粉化石の顕微鏡写真である。検鏡の結果、樹木化石で最も多く検出されたのはスギで、出現率は約35%を示している。ハンノキ属も多く、出現率は30%を越えている。その他に10%を越える分類群は無く、その中ではコナラ属コナラ亜属、ブナ、クマシデ属-アサダ属、サワグルミ属-クルミ属が5%前後を示している。草本類ではアカザ科-ヒユ科、次いでヨモギ属が多く検出されているが、出現率はやっと10%を越えた程度である。イネ科とクワ科が5~10%を示しており、その他ツククサ属、ヒガンバナ属、ツリフネソウ属、オオバコ属などが若干観察されている。またシダ植物胞子のゼンマイ科と単条型が10%を越えて得られている。

D 遺跡周辺の古植生

先にも記したが分析を行ったSE96は奈良・平安時代と考えられており、この時期の遺跡周辺はハンノキ属を主体にサワグルミ属-クルミ属、ヤナギ属などが生育する湿地林あるいは河畔林が形成されていたとみられる。その周辺にはスギ林のほか、クマシデ属-アサダ属、ブナ、コナラ亜属、クリ属、ニレ属-ケヤキ属などが生育

する落葉広葉樹林も林分を広げていたと推測される。また同試料を用いて行われている植物珪酸体分析結果からこれら森林の下草的存在でクマザサ属型のササ類（チマキザサ、チシマザサなど）が多く生育していたと推測される。

井戸周辺についてみると、イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属、シダ植物などの雑草類が生育していたとみられる。また道端雑草のツユクサ属、オオバコ属が得られていることから井戸周辺における人の行き交う様相が推察される。

表 75 産出花粉化石一覧表 パレオ・ラボ

※ T.-C. は Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceae を示す

和名	学名	試料 No.269
樹木		
マツ属単維管束亜属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxyylon</i>	1
マツ属複維管束亜属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxyylon</i>	2
マツ属 (不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	2
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	1
スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	74
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	T.-C.	2
ヤナギ属	<i>Salix</i>	1
サワクルミ属-クルミ属	<i>Pterocarya-juglans</i>	8
クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	9
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	69
ブナ	<i>Fagus crenata</i> Blume	11
コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	12
クリ属	<i>Castanea</i>	3
ニレ属-ケヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	5
カツラ属	<i>Cercidiphyllum</i>	1
ウルシ属	<i>Rhus</i>	1
モチノキ属	<i>Ilex</i>	1
カエデ属	<i>Acer</i>	2
トチノキ属	<i>Aesculus</i>	1
シナノキ属	<i>Tilia</i>	2
ウコギ属	Araliaceae	1
草本		
イネ属	Gramineae	47
カヤツリグサ科	Cyperaceae	17
ツユクサ属	<i>Commelina</i>	1
ヒガンバナ属	<i>Lycoris</i>	1
クワ科	Moraceae	38
ギシギシ属	<i>Rumex</i>	1
アカザ科-ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	92
ナデシコ科	Caryophyllaceae	4
アブラナ科	Cruciferae	17
マメ科	Leguminosae	3
ツリフネソウ属	<i>Impatiens</i>	3
セリ科	Umbelliferae	7
オオバコ属	<i>Plantago</i>	2
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	81
他のキク亜科	other Tubuliflorae	9
タンポポ亜科	Liguliflorae	4
シダ植物		
ヒカゲノカズラ属	<i>Lycopodium</i>	1
ゼンマイ科	Osmundaceae	83
単条型孢子	Monolete spore	97
三条型孢子	Trilete spore	12
樹木花粉		
樹木花粉	Arboreal pollen	209
草本花粉		
草本花粉	Nonarboreal pollen	327
シダ植物孢子	Spores	193
花粉・孢子総数	Total Pollen & Spores	729
不明花粉		
不明花粉	Unknown pollen	34

バリノ・サーヴェイ株式会社

A はじめに

本報告では、第4次調査において検出された古墳時代後期とされる河川跡および古墳時代中期の遺物包含層から出土した土器内に充填されていた土壌を対象として、花粉の検出と分析を行うことにより、その由来および当該期の年代や周辺環境について検討を行う。また、これらの試料についてテフラ・珪藻・植物珪酸体の各微化石分析も合わせて実施している。

B 試料と分析方法

土壌試料は、古墳時代後期の河川跡とされる SG100 の S-19 グリッド RP68 から採取されている No.304 と、古墳時代中期の遺物包含層 Q-17# グリッド RP69 より採取されている No.305 である。

試料約 10 g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重 2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

C 結果

結果を表 76、第 392 図に示す。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、木本花粉総数が 100 個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。いずれの試料も花粉化石の産出状況は良好といえず、保存状態も悪い。

SG100 の試料 No.304 からは花粉化石がほとんど検出されず、定量解析を行えるだけの個体数を得ることが出来なかった。検出された種類は、木本花粉ではマツ属、

ハンノキ属、ブナ属、クリ属、ツツジ属が、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、ナデシコ科、ヨモギ属、タンポポ亜科が、1～4 個体検出されるのみである。また、シダ類孢子も多く認められる。

一方、古墳時代中期の遺物包含層の試料 No.305 は、花粉化石の産出状況が悪いながらも、かろうじて定量解析を実施できる程度の個体数を得ることが出来た。群集組成をみると木本花粉の割合が高く、マツ属が最も多く産出する。その他ではブナ属、ハンノキ属、ニレ属・ケヤキ属、スギ属、コナラ属アカガシ亜属、ツツジ科などを伴う。草本花粉は少ないながらも、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科等が認められる。また、シダ類孢子が多産する。

D 考察

花粉化石の産出状況では、いずれの試料も花粉化石の保存状態が悪く、花粉外膜が破損・溶解しているものが多く認められた。花粉やシダ類孢子の腐蝕に対する抵抗性は種類により異なっており、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類孢子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている（中村 1967 徳永・山内 1971 三宅・中越 1998 など）。検出された花粉化石の保存状態を考慮すると、得られた花粉化石群集は経年変化による分解・消失の影響を受けているほか、シダ類孢子が多産する傾向も認められる。このことから、分解に強い花粉が選択的に多く残されている可能性が指摘され、当時の周辺植生を正確に反映していない可能性がある。特に試料 No.304 からは、花粉化石はほとんど検出されず、古植生推定のための定量解析を行うことはできない。

試料 No.305 では、やはり分解・消失の影響を受けているものの、かろうじて定量解析が出来る程度の花粉化石が認められた。上述したように、土器内の土壌は、周囲の土壌に由来すると考えられるから、含有される花粉化石は、土器埋積時の植生を反映している可能性がある。当時の植生として、木本類についてみると、分解の影響を考慮してもマツ属が多産する。このうち亜属まで同定できたものは、全て複維管束亜属であった。マツ属複維管束亜属（いわゆるニヨウマツ類）は生育の適応範囲が広く、尾根筋や湿地周辺、海岸砂丘上など他の広葉樹の

生育に不適な立地にも生育が可能であるほか、極端な陽樹であることから伐採された土地などに最初に進入する二次林の代表的な種類でもある。マツ属の急増は日本各地で知られており、その原因は自然干渉の結果としての二次林や植林が増加したためとされている（たとえば波田 1987 など）。このことから、古墳時代頃の本遺跡周辺に二次林等のマツ属が存在していた可能性がある。その他ではブナ属、ハンノキ属、ニレ属—ケヤキ属、スギ属、コナラ属アカガシ亜属、ツツジ科などを伴う。このうち、ブナ属はコナラ属コナラ亜属等とともに冷温帯性落葉広葉樹林の主要構成要素であることから、後背や周囲の森林植生に由来すると思われる。また、モミ属、スギ属等の針葉樹、コナラ属アカガシ亜属等の常緑広葉樹も、落葉広葉樹に混じって生育していた可能性がある。ハンノキ属、ニレ属—ケヤキ属は、河畔や低湿地等の適湿地に林分を形成する種類であり、その他にもヤナギ属、サワグルミ属、トチノキ属等も同様の生育環境を好むことから、矢馳 A 遺跡の調査区内及び周囲の河川沿いや、その集水域等に、これらの木本類が林分を形成していた可能性がある。

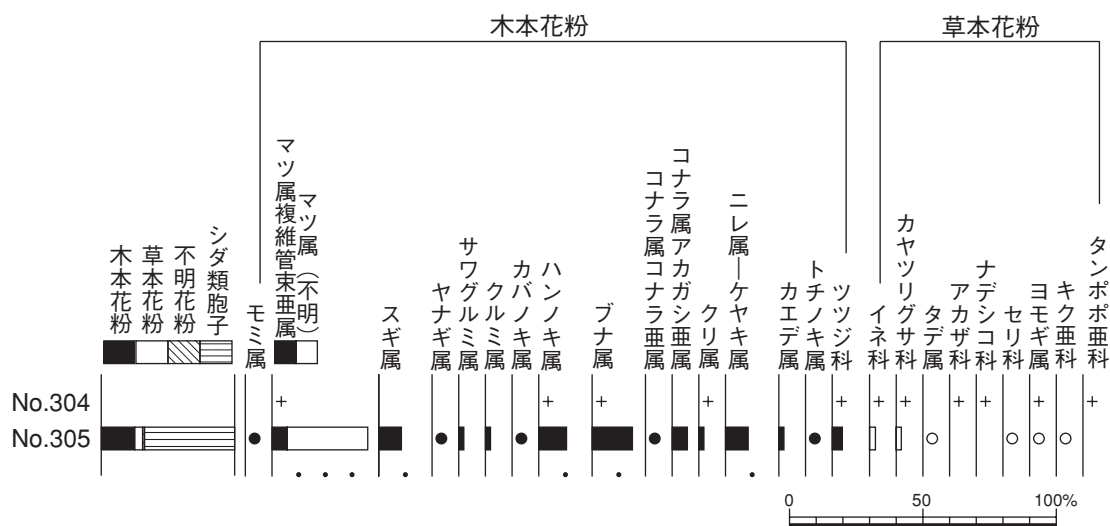
花粉化石の草本類については、少ないながらもイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科等が認められる。これらは開けた明るい場所を好む「人里植物」を多く含む分類群であり、その他に認められる草本類にも同様の生育環境を示す分類群が認められる。よって、矢馳 A 遺跡の調査区内および周辺の草地等にこれらの草本類が生育していたことが窺える。

表 76 花粉分析結果 パリノ・サーヴェイ

種 類	SG100	包含層
	S-19	Q-17#
試料番号	RP68	RP69
	No.304	No.305
木本花粉		
モミ属	-	1
マツ属複雑管束亜属	-	6
マツ属 (不明)	2	32
スギ属	-	9
ヤナギ属	-	1
サワグルミ属	-	2
クルミ属	-	2
カバノキ属	-	1
ハンノキ属	3	11
ブナ属	1	16
コナラ属コナラ亜属	-	1
コナラ属アカガシ亜属	-	6
クリ属	1	2
ニレ属—ケヤキ属	-	9
カエデ属	-	2
トチノキ属	-	1
ツツジ科	1	4
草本花粉		
イネ科	4	9
カヤツリグサ科	1	8
タデ属	-	1
アザミ科	1	-
ナデシコ科	1	-
セリ科	-	1
ヨモギ属	4	3
キク亜科	-	2
タンポポ亜科	1	-
不明花粉	3	6
シダ類孢子		
シダ類孢子	71	283
合 計		
木本花粉	8	106
草本花粉	12	24
不明花粉	3	6
シダ類孢子	71	283
総計 (不明を除く)	91	413

引用文献

- 波田善夫 1987 「松くい虫被害対策として実施される特別防除が自然生態系に与える影響評価に関する研究—松くい虫等被害に伴うマツ林生態系の攪乱とその動態について—」『資料集』p.41～49 日本自然保護協会
- 三宅尚・中越信和 1998 「森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態」『植生史研究 6』p.15～30
- 中村純 1967 『花粉分析』p.232 古今書院
- 徳永重元・山内輝子 1971 「花粉・胞子」『化石の研究法』p.50～73 共立出版株式会社



※ 出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で産出した。
 なお、●○は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

第392図 各試料の花化石群集 パリノ・サーヴェイ

10 植物珪酸体分析

パレオ・ラボ

鈴木 茂

A はじめに

矢馳A遺跡において行われた第4次調査で、奈良・平安時代の井戸および5世紀後半～6世紀初頭の遺物包含層より土壌試料が採取された。これら土壌試料について、遺跡周辺のイネ科植生や燃料材の検討等を目的に植物珪酸体分析を行った。以下にその結果・考察を示す。

B 試料と分析方法

試料は、SE96の枠内より採取された砂質粘土1点(試料No.269)と遺物包含層より採取された灰白色の粘土塊(試料No.270)および焼土3試料(試料No.271～273)の計5試料である。これら5試料について以下の手順に従って行い植物珪酸体の検出を図った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜

プレパラートを作製し、検鏡した(第393図)。

C 結果

同定・計数された各植物の機動細胞珪酸体個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各機動細胞珪酸体個数を求め(表77)、それらの分布を第394図に示した。以下に示す各分類群の機動細胞珪酸体個数は試料1g当りの検出個数である。

試料No.269 (SE96) 観察の結果、同定できた分類群ではクマザサ属型のみが検出され、その個数は約38,000個であった。

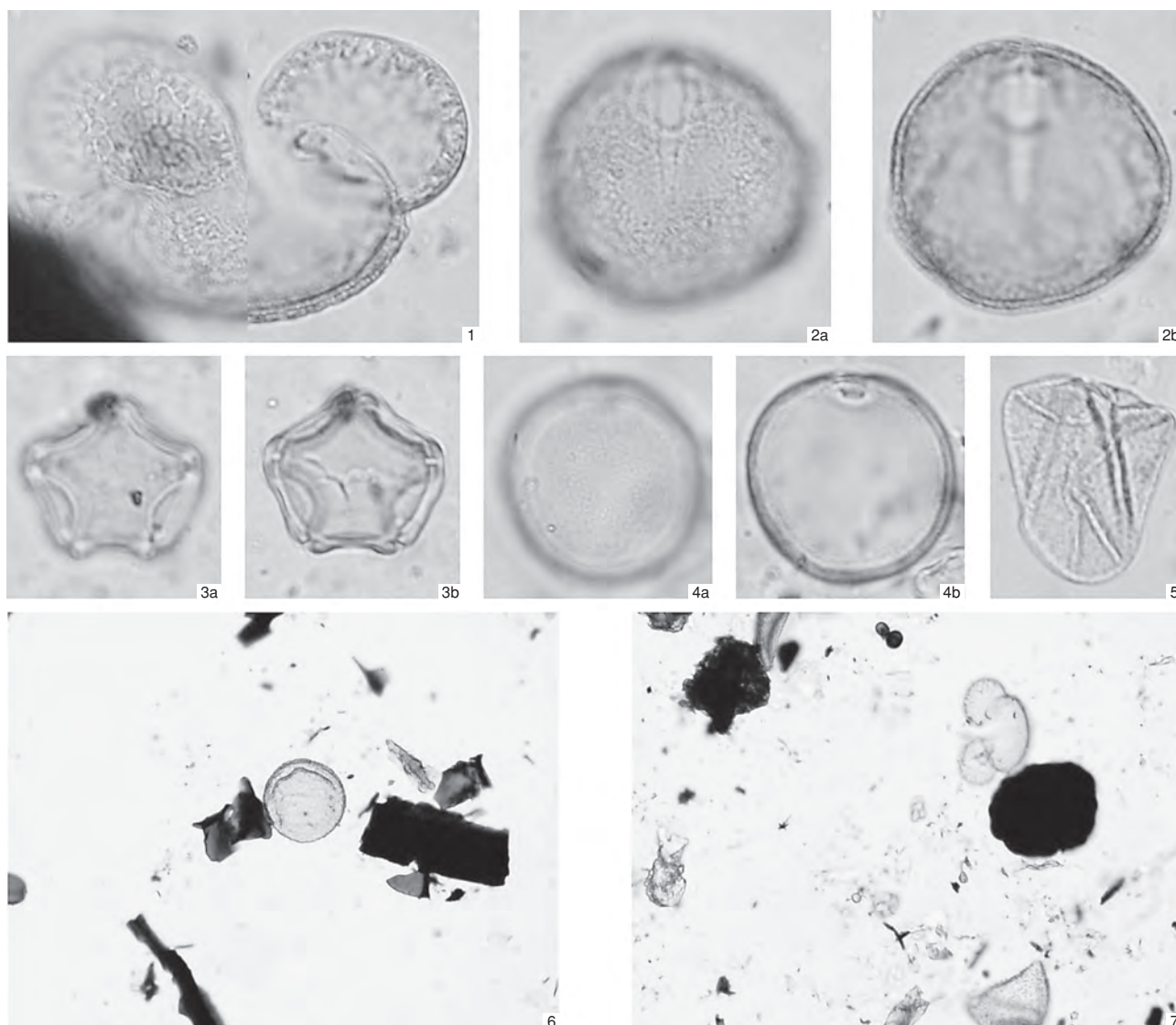
試料No.270 (粘土塊) 本試料においてもクマザサ属型のみが観察され、検出個数は約21,000個であった。

試料No.271～273 (焼土) No.271および273よりイネの機動細胞珪酸体とイネの穎(初殻)の部分に形成される珪酸体の破片が若干検出された。その他、No.271からはクマザサ属型、キビ族、ウシクサ族が、No.273からはクマザサ属が得られている。またNo.272ではクマザサ属型のみが観察された。

D 考察

奈良・平安時代のイネ科植生 (試料No.269)

上記したように本試料からはクマザサ属型のみが観察された。このクマザサ属型のササ類(チマキザサ=ネマガリダケやチシマザサなど)は森林の下草的存在での



- 1 マツ属 (試料 No.305 Q-17# RP69)
- 2 ブナ属 (試料 No.305 Q-17# RP69)
- 3 ハンノキ属 (試料 No.305 Q-17# RP69)
- 4 イネ科 (試料 No.305 Q-17# RP69)
- 5 カヤツリグサ科 (試料 No.305 Q-17# RP69)
- 6 プレバカート内の状況 (試料 No.304 S-19 RP68)
- 7 プレバカート内の状況 (試料 No.305 Q-17# RP69)

50 μm 50 μm
 (1-5) (6,7)

第 393 図 花粉化石の顕微鏡写真 パリノ・サーヴェイ

生育が考えられる。同試料を用いて行われている花粉分析結果をみると、スギ林や落葉広葉樹林の存在が推測されている（花粉分析の節参照）。こうしたことから奈良・平安時代の矢馳A 遺跡周辺はスギ林や落葉広葉樹林が成立しており、こうした森林の林下にクマザサ属型のササ類が多く生育していたと推測される。

古墳時代の粘土塊の成分 (試料 No.270)

植物珪酸体分析の結果、クマザサ属型のみ産出であった。このクマザサ属型のササ類については遺跡周辺に普通に生育していたと考えられる。こうしたことから植物珪酸体分析より粘土成分の特徴について言及するこ

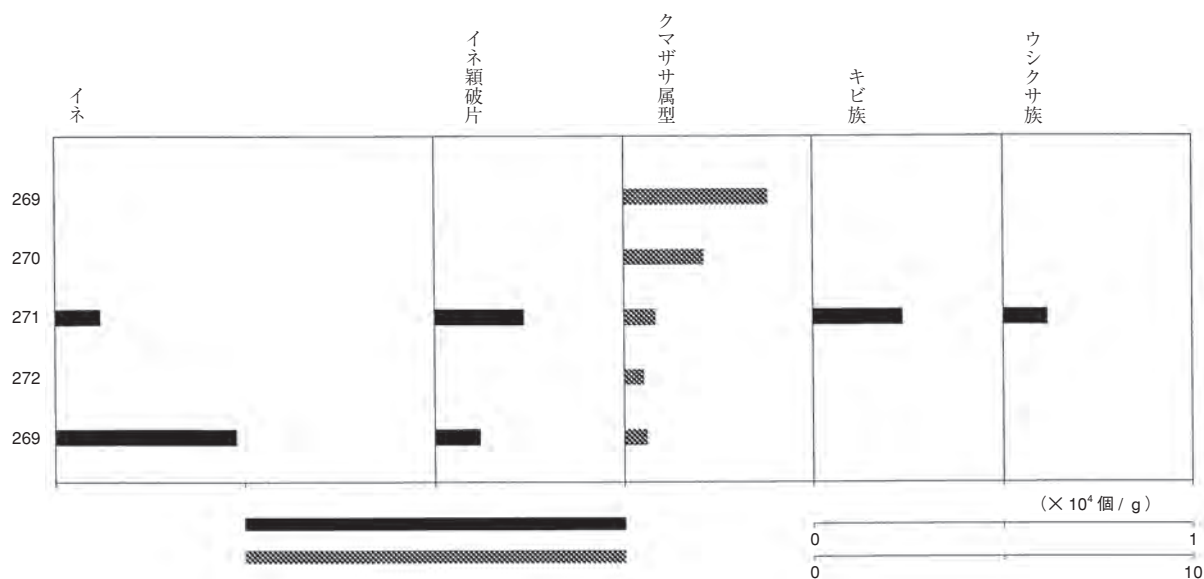
とはできないと考える。

古墳時代の焼土の燃料材 (試料 No.271 ~ 273)

委託 No.271・273 よりイネの葉に形成される機動細胞珪酸体とイネの穎（籾殻）の部分に形成される珪酸体の破片が検出されていることから、稲藁が着火材として用いられたことが推測される。またキビ族についてはその形態からアワ、ヒエ、キビといった栽培種によるものか、エノコログサ、スズメノヒエ、タイヌビエなどの雑草類によるものかについて現時点においては分類できず不明である。しかしながら、この焼土にはイネの機動細胞珪酸体が混入していることから、ここでは稲作にとも

表 77 試料 1 g 当りの機動細胞珪酸体個数 パレオ・ラボ

試料 No.	試料データ	イネ (個 / g)	イネ穎破片 (個 / g)	クマザサ属型 (個 / g)	キビ族 (個 / g)	ウシクサ族 (個 / g)	不明 (個 / g)
269	グリッド：L#-14#・15 遺構：SE96 井戸枠内	0	0	38,100	0	0	1,400
270	グリッド：P#-17 遺構：粘土塊	0	0	21,100	0	0	0
271	グリッド：P-17 遺構：焼土	1,200	2,400	8,200	2,400	1,200	2,400
272	グリッド：P-17 遺構：焼土	0	0	5,100	0	0	0
273	グリッド：P-17 遺構：焼土	4,800	1,200	6,000	0	0	1,200



第 394 図 機動細胞珪酸体分布図 パレオ・ラボ

なう雑草ではないかと思われる。すなわち稲作雑草のキビ族がイネといっしょに刈り取られ焼かれた可能性が推察される。なおクマザサ属やウシクサ族については土壤中に混入していたものと考える。

パリオ・サーヴェイ株式会社

A はじめに

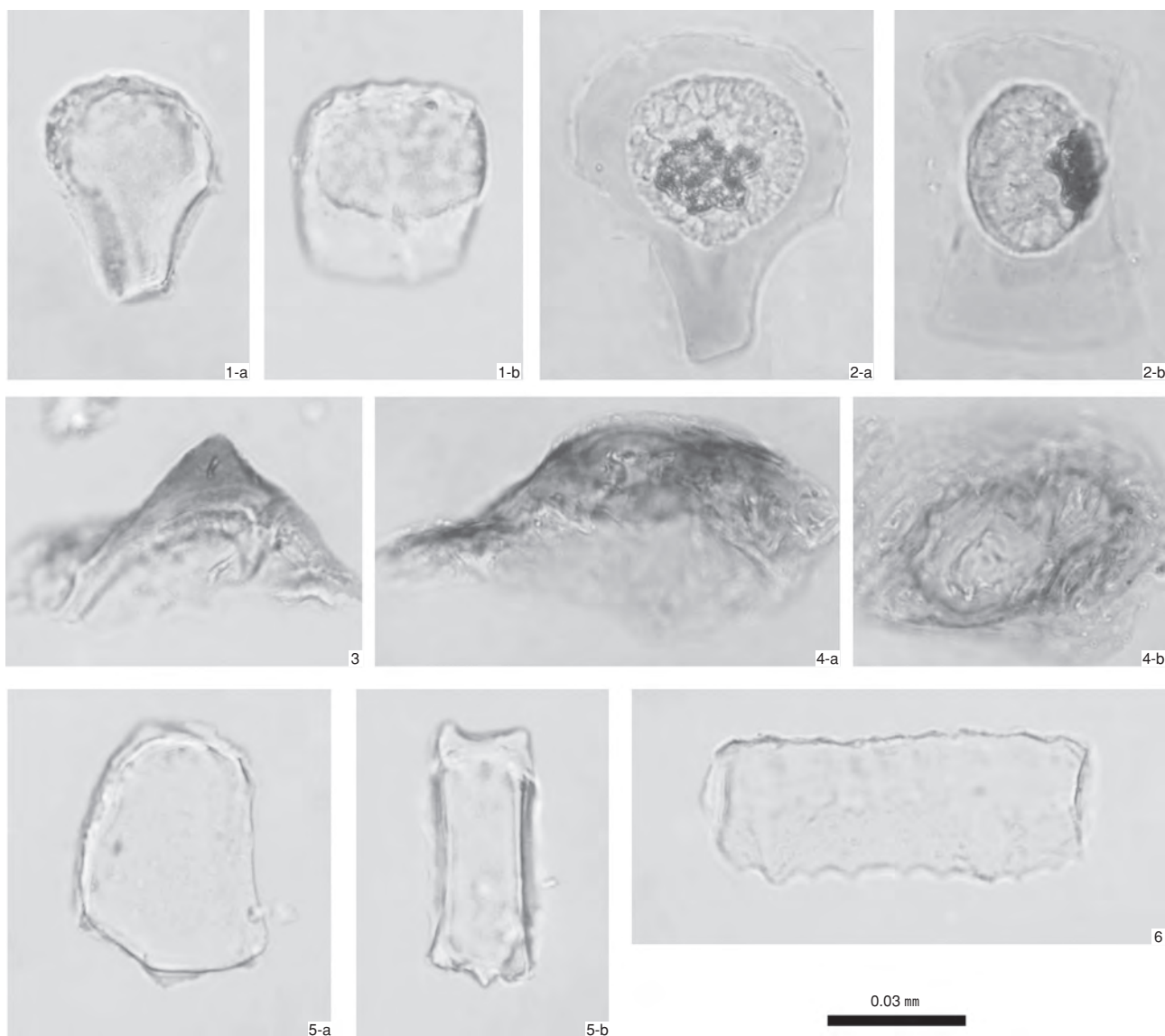
本報告では、第 4 次調査において検出された古墳時代後期とされる河川跡および古墳時代中期の遺物包含層から出土した土器内に充填されていた土壌を対象として、植物珪酸体の検出と分析を行うことにより、その由来および当該期の年代や周辺環境について検討を行う。また、これらの試料についてテフラ・花粉・珪藻の各微化石分析も合わせて実施している。

B 試料と分析方法

土壌試料は、古墳時代の河川跡とされる SG100 の S-19 グリッド RP68 から採取されている試料 No.304 と、古墳時代中期の遺物包含層 Q-17# グリッド RP69 より採取されている試料 No.305 である。

湿重 5 g 前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プレウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と



- 1 イネ (a:断面 b:側面) 試料 No.271
 2 イネ (a:断面 b:側面) 試料 No.273
 3 イネ類部破片 試料 No.271
 4 イネ類部破片 試料 No.273
 5 クマザサ属型 (a:断面 b:側面) 試料 No.269
 6 キビ族 (側面) 試料 No.271

第 395 図 植物珪酸体顕微鏡写真 パレオ・ラボ

呼ぶ)、およびこれらを含む珪化組織片を(近藤 2004)の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から土器の内容物について検討するために、植物珪酸体群集を図化する。その際、出現率は短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求める。

C 結果

結果を表 78、第 396 図・397 図 3～7 に示す。各試

料で植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。

試料 No.304 では、クマザサ属を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属やイチゴツナギ亜科などが認められる。なお、イネ属などの栽培植物に由来した植物珪酸体は全く検出されない。

試料 No.305 では、検出個数が少なかったものの、検出された分類群が試料 No.304 と同様であり、クマザサ属を含むタケ亜科の産出が目立つ。また、栽培植物に由来した植物珪酸体も検出されない。

D 考 察

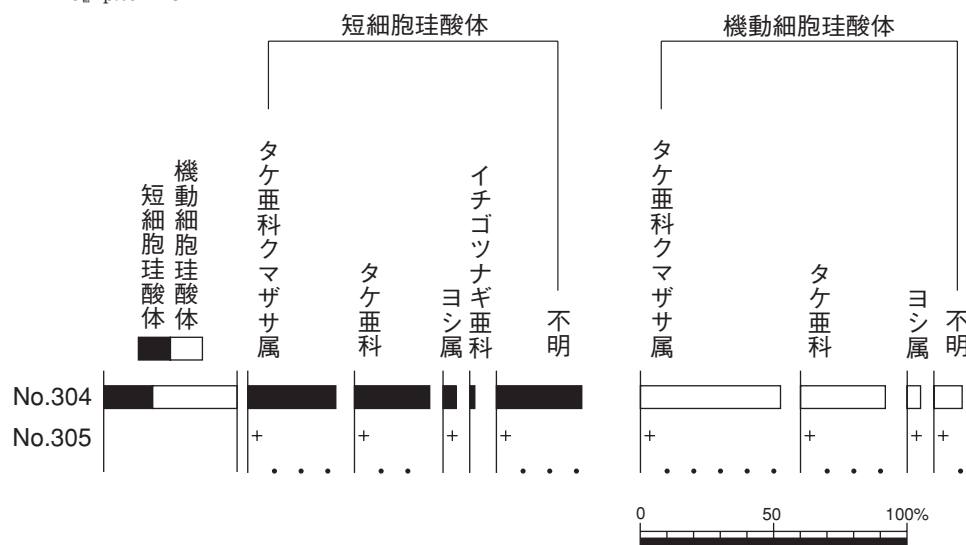
植物珪酸体の産状は、2点の試料で検出個数が異なるものの、組成は同様であった。これより、矢馳A遺跡の調査区内および周辺の草地にはクマザサ属をはじめとして、ヨシ属やイチゴツナギ亜科などのイネ科植物の生育もうかがえる。なお、今回多産したクマザサ属を含むタケ亜科の植物珪酸体は他のイネ科と比較して風化に強く、また生産量の多い点がこれまでの研究から指摘されており（近藤 1982 杉山・藤原 1986）、他の種類よりも残留しやすいことが知られている。また矢馳A遺跡が立地する日本海側の多雪地域では、自然にはブナを中心とした森林植生が形成されるが、ブナの林床にはクマザサ

属の一種であるチシマザサが発達する（宮脇 1987）。珪藻化石では、南側の山地を構成する地層由来の化石の混在が推定されたが、植物珪酸体の中にも、山地の林床などに由来するクマザサ属の植物珪酸体が含まれている可能性がある。したがって、今回の分析により得られた植物珪酸体群集からは、矢馳A遺跡周辺でクマザサ属が優勢であったように見えるが、実際にはそれほど多くなかったと考えられる。

ところで、いずれの試料からもイネ属などの栽培植物に由来する植物珪酸体が検出されなかった。この産状を見る限り、いずれの土器内にも栽培植物が残留していたとは考えにくい。

引用文献

近藤 錬三 1982 「Plant opal 分析による黒色腐植層の成因究明に関する研究」『昭和 56 年度科学研究費（一般研究 C）研究成果報告書』 p.32
 近藤 錬三 2004 「植物ケイ酸体研究」『ペドロジスト 48』 p.46 ~ 64
 宮脇 昭編著 1987 『日本植生誌 東北』 p.605 至文堂
 杉山 真二・藤原 宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—」『考古学と自然科学 19』 p.69 ~ 84

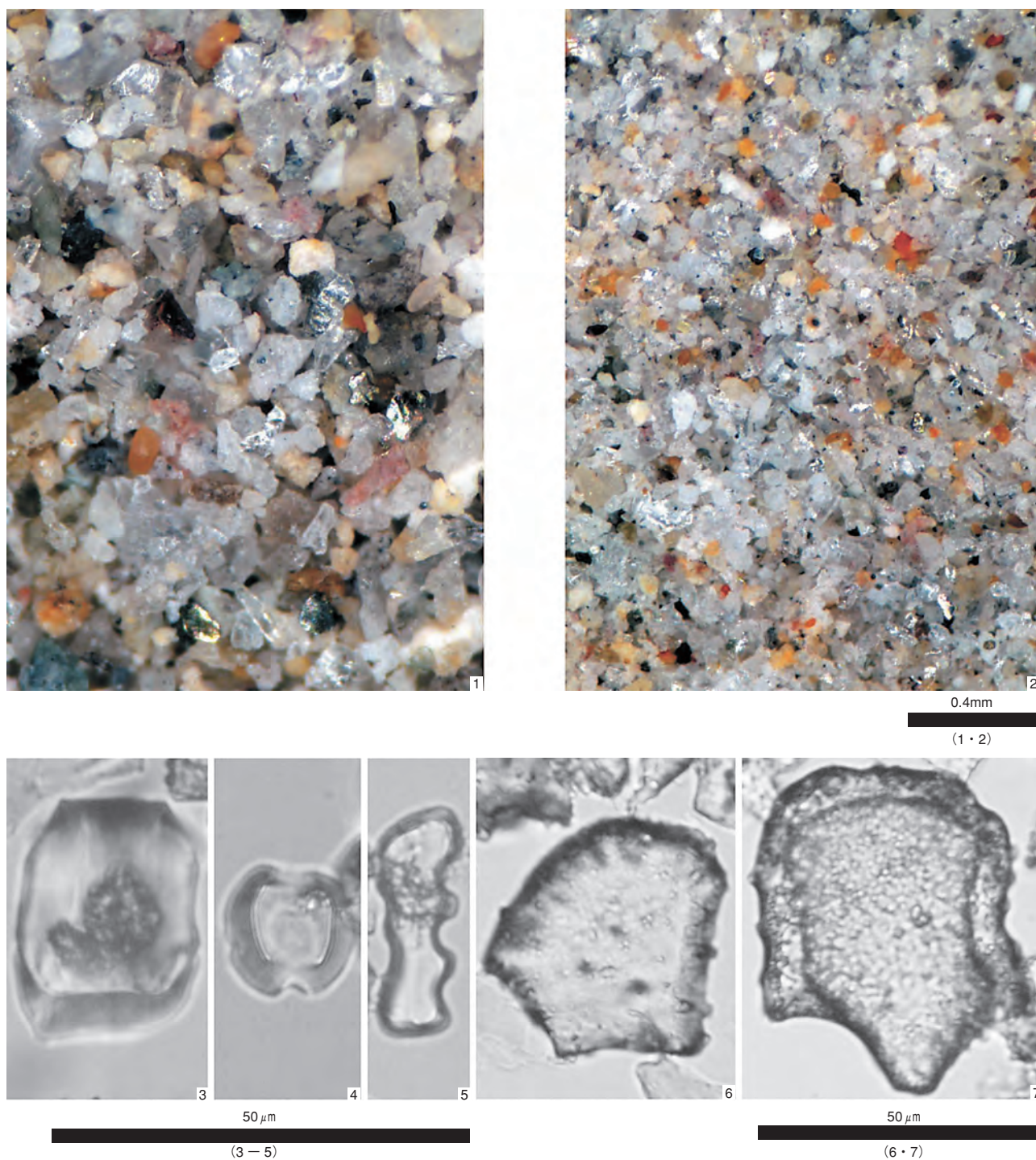


第 396 図 各試料の植物珪酸体群集 パリノ・サーヴェイ

表 78 植物珪酸体分析結果 パリノ・サーヴェイ

種 類	SG100		包含層
	RP68	RP69	
	試 料		
	No.304	No.305	
イネ科葉部短細胞珪酸体			
タケ亜科クマザサ属	34	5	
タケ亜科	29	2	
ヨシ属	5	3	
イチゴツナギ亜科	2	-	
不明キビ型	9	-	
不明ヒゲシバ型	9	2	
不明ダンチク型	15	-	

種 類	SG100		包含層
	RP68	RP69	
	試 料		
	No.304	No.305	
イネ科葉身機動細胞珪酸体			
タケ亜科クマザサ属	94	4	
タケ亜科	57	8	
ヨシ属	9	1	
不明	19	18	
合 計			
イネ科葉部短細胞珪酸体	103	12	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	179	31	
総 計	282	43	



- 1 砂分の状況 (試料 No.304 SG100 S-19 RP68)
- 2 砂分の状況 (試料 No.305 遺物包含層 Q-17# RP69)
- 3 クマザサ属短細胞珪酸体 (試料 No.304 SG100 S-19 RP68)
- 4 ヨシ属短細胞珪酸体 (試料 No.304 SG100 S-19 RP68)
- 5 イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (試料 No.304 SG100 S-19 RP68)
- 6 ヨシ属機動細胞珪酸体 (試料 No.304 SG100 S-19 RP68)
- 7 クマザサ属機動細胞珪酸体 (試料 No.304 SG100 S-19 RP68)

第 397 図 砂分の状況と植物珪酸体顕微鏡写真 パリノ・サーヴェイ

11 珪藻化石群集

パレオ・ラボ
藤根 久

A はじめに

珪藻は、10～500 μ mほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている（小杉 1988 安藤 1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種（陸生珪藻）も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

ここでは、矢馳 A 遺跡の井戸内の堆積物および遺物包含層から出土した粘土塊について珪藻化石群集を調べ、堆積物の堆積環境について検討した。

B 試料の処理方法

試料は、第 4 次調査で検出された奈良・平安時代と考えられている SE96 内堆積物（試料 No 269）と 5 世紀後半～6 世紀初頭と考えられている遺物包含層中の P#-17 グリッドから出土した粘土塊（試料 No 270）の 2 試料である。井戸内堆積物は、暗灰黄色（2.5Y 4/2）の砂質粘土、粘土塊は、灰色（5.5Y 6/1）の蠟質粘土塊である。なお、粘土塊（No 270）について、蛍光 X 線分析による化学組成と X 線回折分析による粘土鉱物を調べている（p.477～478 第 VI 章 12 粘土塊の分析参照）。

これらの試料は、以下の方法で処理し、珪藻用プレパラートを作製した。

(1) 湿潤重量約 1 g 程度取り出し、秤量した後ビーカーに移し 30% 過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え 1 時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を 7 回ほど繰り返した。(3) 残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カ

バーガラスに滴下し乾燥した。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作成したプレパラートは顕微鏡下 1000 倍で観察し、珪藻化石 200 個体以上について同定・計数した。なお、いずれの試料も珪藻化石が少なかったため、プレパラート全面について精査した。

C 珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に（安藤 1990）が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。以下に、（安藤 1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

上流性河川指標種群（J） 上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらには *Achnanthes* 属が多く含まれるが、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

中～下流性河川指標種群（K） 中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

最下流性河川指標種群（L） 最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種は、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになる。

湖沼浮遊生指標種群（M） 水深が約 1.5 m 以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼に出現する種群である。

湖沼沼沢湿地指標種群（N） 湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい。

沼沢湿地付着生指標種群（O） 水深 1 m 内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地で、付着の状態でも優勢な出現が見られる種群である。

高層湿原指標種群（P） 尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原な

どのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

陸域指標種群 (Q) 上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である (陸生珪藻と呼ばれている)。

D 珪藻化石の特徴とその堆積環境

粘土塊 (試料No 270) 中からは珪藻化石が全く検出されなかった。SE96 内堆積物 (試料No 269) 中から検出された珪藻化石は、海水種 6 分類群 5 属 2 種、淡水種が 26 分類群 14 属 21 種 1 変種であった。これらの珪藻化石は、海水種が 1 環境指標種群 (外洋指標種群: (小杉 1988) が設定) と淡水種が 3 環境指標種群に分類された (表 79)。粘土塊 (試料No 270) を D I 帯、SE96 内堆積物 (試料No 269) を D II 帯とした (第 398 図)。以下に、各試料の珪藻化石群集の特徴と堆積環境について述べる。

D I 帯 (試料No 270: 粘土塊)

この試料中からは、珪藻化石が全く検出されなかった。なお、X線回折分析によりイライト-モンモリロライトが検出されたことから、岩石が熱水変質して出来た粘土と考えられる (粘土分析参照)。なお、珪藻化石を

全く含まないことから、水成堆積した証拠はない。

D II 帯 (試料No 269: SE96)

この試料中からは、全体的に少ないものの、陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* など、中～下流性河川指標種群の *Cymbella turgidula* など、沼沢湿地付着生指標種群 *Neidium iridis* などが出現した。なお、海水種も珪藻化石全体の 13.7% 検出された。第 399 図に検出された主な珪藻化石の顕微鏡写真を示す。

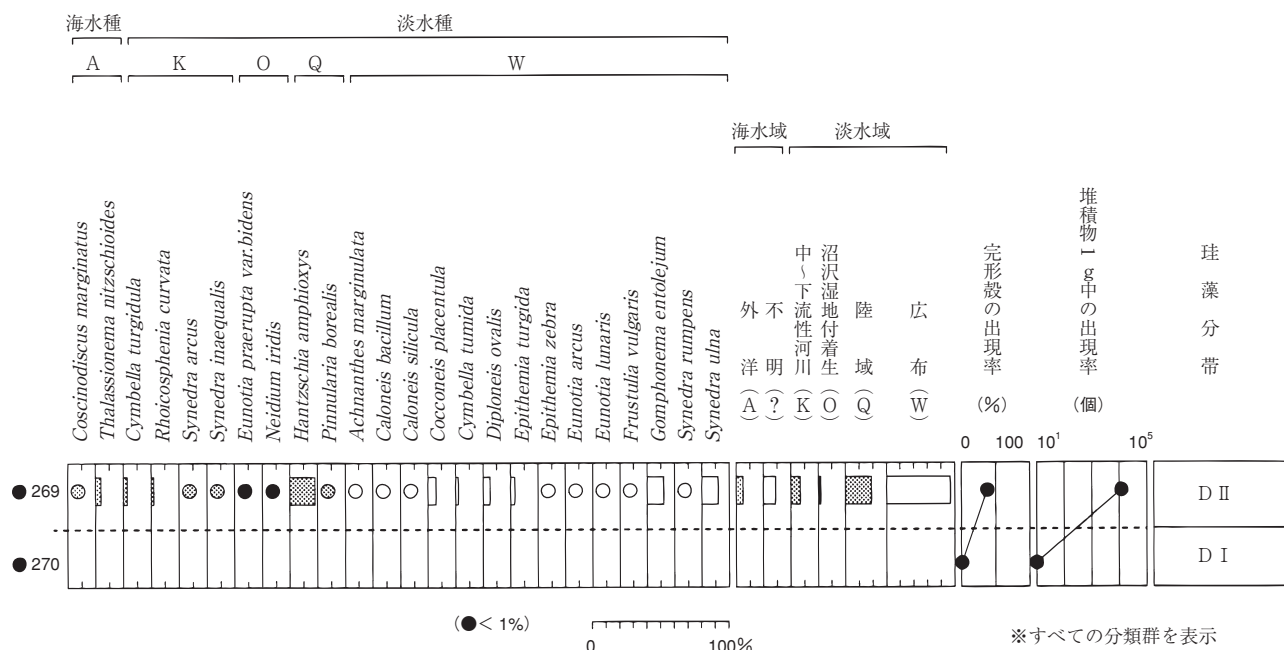
この珪藻化石群集の特徴から、主にジメジメとした陸域などが推定される。これは、井戸内の光合成できる場所 (深さ) の例えば井戸壁にコケ類が生えるような環境を示していると考えられる。なお、海水種は基盤層から再堆積した珪藻化石と考えられる。

E 結 果

珪藻化石を調べた結果、粘土塊 (試料No 270) では、珪藻化石が全く検出されなかった。なお、この粘土は、X線回折分析により岩石が熱水変質してできた粘土であると推定されている。一方、SE96 内堆積物 (試料No 269) は、ジメジメとした陸域環境が推定され、井戸内の壁にコケ類が生えるような環境と推定された。

引用文献

- 安藤一男 1990 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理 42』 p.73 ~ 88
- 小杉正人 1988 「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『第四紀研究 27』 p.1 ~ 20

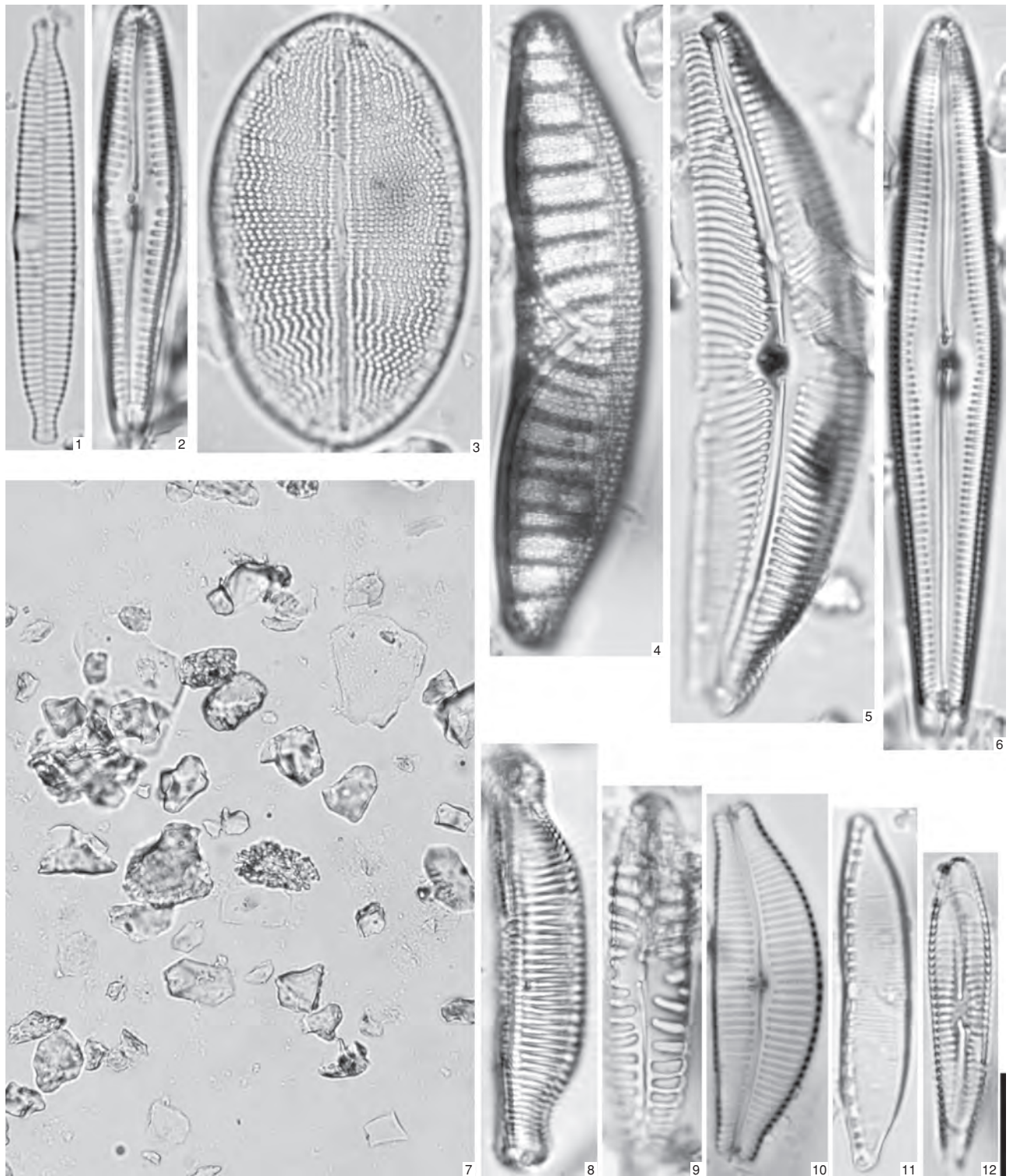


第 398 図 堆積物中の珪藻化石分布図 パレオ・ラボ

表 79 堆積物中の珪藻化石産出表 パレオ・ラボ

※種群は、主に安藤（1980）に従う。

分 類 群	種群	試料 No.269	試料 No.270
<i>Biddulphia</i> spp.	?	1	-
<i>Coscinodiscus marginatus</i>	A	1	-
<i>C.</i> spp.	?	8	-
<i>Denticulopsis</i> spp.	?	1	-
<i>Stephanopyxis</i> spp.	?	1	-
<i>Thalassionema nitzschioides</i>	A	5	-
<hr/>			
<i>Achnanthes marginulata</i>	W	1	-
<i>Caloneis bacillum</i>	W	1	-
<i>C. silicula</i>	W	1	-
<i>Cocconeis placentula</i>	W	7	-
<i>Cymbella tumida</i>	W	3	-
<i>C. turgidula</i>	K	4	-
<i>C.</i> spp.	?	2	-
<i>Diploneis ovalis</i>	W	6	-
<i>Epithemia turgida</i>	W	4	-
<i>E. zebra</i>	W	1	-
<i>Eunotia arcus</i>	W	1	-
<i>E. lunaris</i>	W	1	-
<i>E. praerupta var. bidens</i>	O	1	-
<i>E.</i> spp.	?	4	-
<i>Frustulia vulgaris</i>	W	1	-
<i>Gomphonema entolejum</i>	W	15	-
<i>G.</i> spp.	?	1	-
<i>Hantzschia amphioxys</i>	Q	22	-
<i>Neidium iridis</i>	O	1	-
<i>Pinnularia borealis</i>	Q	1	-
<i>P.</i> spp.	?	2	-
<i>Rhoicosphenia curvata</i>	K	3	-
<i>Synedra arcus</i>	K	1	-
<i>S. inaequalis</i>	K	1	-
<i>S. rumpens</i>	W	1	-
<i>S. ulna</i>	W	15	-
Unknown	?	6	-
<hr/>			
外 洋	(A)	6	-
海水不定・不明種	(?)	11	-
<hr/>			
中～下流性河川	(K)	9	-
沼沢湿地付着性	(O)	2	-
陸 域	(Q)	23	-
広 布	(W)	58	-
淡水不定・不明種	(?)	15	-
<hr/>			
珪 藻 殻 数		124	0



- 1 *Synedra inaequalis* (試料 No.269)
- 2 *Gomphonema* sp. (試料 No.269)
- 3 *Cocconeis placentula* (試料 No.269)
- 4 *Epithemia turgida* (試料 No.269)
- 5 *Cymbella tumida* (試料 No.269)
- 6 *Gomphonema intolejum* (試料 No.269)
- 7 プレパラート状況 (試料 No.270)
- 8 *Eunotia* sp. (試料 No.269)
- 9 *Pinnularia borealis* (試料 No.269)
- 10 *Cymbella turgidula* (試料 No.269)
- 11 *Hantzschia amphioxys* (試料 No.269)
- 12 *Rhoicosphenia curvata* (試料 No.269)

スケール
 1 ~ 9 · 11 · 12 : 10 μm
 10 : 50 μm

第 399 図 堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真 パレオ・ラボ

A はじめに

本報告では、第4次調査において検出された古墳時代後期とされる河川跡および古墳時代中期の遺物包含層から出土した土器内に充填されていた土壌を対象として、珪藻化石の検出と分析を行うことにより、その由来および当該期の年代や周辺環境について検討を行う。また、これらの試料についてテフラ・花粉・植物珪酸体の各微化石分析も合わせて実施している。

B 試料と分析方法

土壌試料は、古墳時代後期の河川跡とされる SG100 の S-19 グリッド RP68 から採取されている No.304 と、古墳時代中期の遺物包含層 Q-17# グリッド RP69 より採取されている No.305 である。

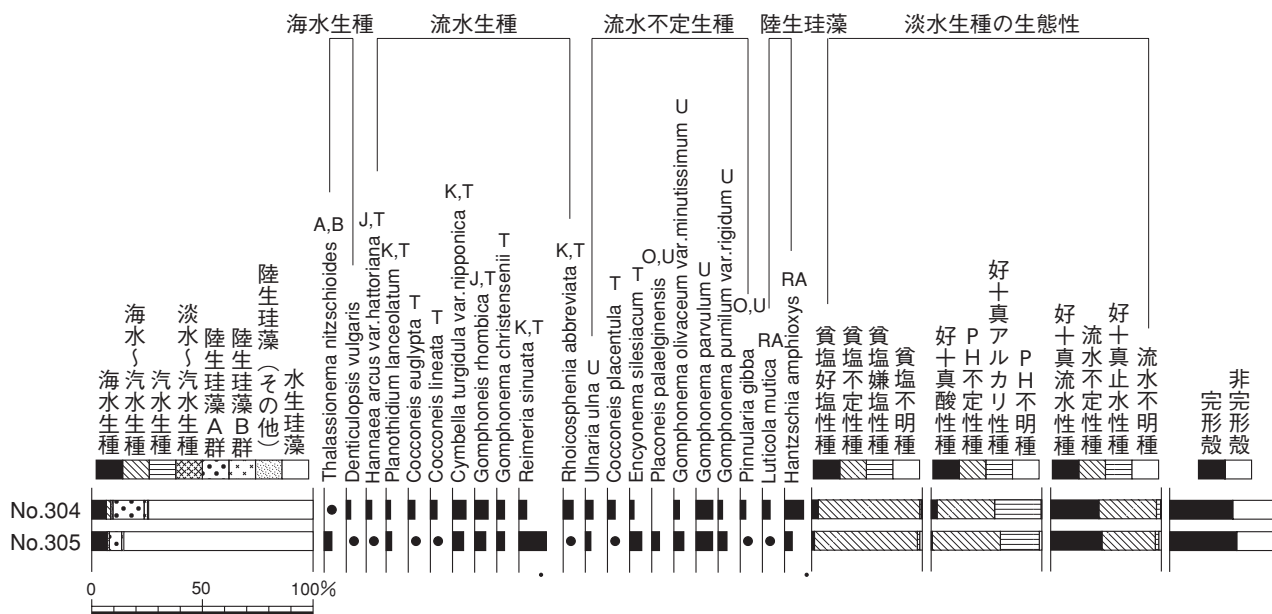
試料を湿重で 7 g 前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法（4 時間放置）の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プレウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸 600 倍あるいは 1000

倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に 200 個体以上同定・計数する（化石の少ない試料はこの限りではない）。種の同定は、（原口ほか 1998

Krammer1992 Krammer & Lange-Bertalot1986・1988・1991a・1991b 渡辺ほか 2005 小林ほか 2006）などを参照し、分類基準は、（Round ,Crawford & Mann1990）に従う。なお、壊れた珪藻殻の計数基準は、（柳沢 2000）に従う。

同定結果は、中心類（Centric diatoms; 広義のコアミケイソウ綱 Coscinodiscophyceae）と羽状類（Pennate diatoms）に分け、羽状類は無縦溝羽状珪藻類（Araphid pennate diatoms; 広義のオビケイソウ綱 Fragilariophyceae）と有縦溝羽状珪藻類（Raphid pennate diatoms; 広義のクサリケイソウ綱 Bacillariophyceae）に分ける。また、有縦溝類は、単縦溝類、双縦溝類、管縦溝類、翼管縦溝類、短縦溝類に細分する。

各種類の生態性については、（Vos & de Wolf1993）を参考とするほか、塩分濃度に対する区分は（Lowe1974）に従い、真塩性種（海水生種）、中塩性種（汽水生種）、貧塩性種（淡水生種）に類別する。また、貧塩性種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃



※ 海水—汽水—淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で産出した。なお、●は2%未満の産出を示す。
環境指標種
A：外洋指標種 B：内湾指標種 J：上流性河川指標種 K：中～下流性河川指標種 O：沼沢湿地付着生種 U：広域適応性種
T：好清水性種 RA：陸生珪藻A群

第 400 図 各試料の主要珪藻化石群集 パリオ・サーヴェイ

度 (pH)・流水に対する適応能についても示す。そして、産出個体数 100 個体以上の試料については、産出率 2.0 %以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析にあたり、海水生種(真塩性種)～汽水生種(中塩性種)については(小杉 1988)、淡水生種(貧塩性種)については(安藤 1990)、陸生珪藻については(伊藤・堀内 1991)、汚濁耐性については(渡辺ほか 2005)の環境指標種を参考とする。

C 結 果

結果を表 80・81、第 400 図に、また第 401 図に検出した主な珪藻化石の顕微鏡写真を示す。試料 No.304・305 とともに珪藻化石が豊富に産出する。また、完形殻の出現率も約 60%と化石の保存状態は比較的が良い。産出分類群数は、合計で 40 属 81 分類群である。以下に珪藻化石群集の特徴を述べる。

No.304 は、淡水域に生育する水生珪藻(以下、水生珪藻)が全体の約 75%を占め優占する。これに次いで、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻が約 20%、海水生種が約 10%産出する。

No.305 は、陸生珪藻の割合が少ない以外は、No.304 に近似し、水生珪藻が約 85%と優占する。また、淡水性種の生態性(塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対す

る適応能)の特徴も近似しており、貧塩不定性種、pH 不定性種と真+好アルカリ性種、真+好流水性種と流水不定性種が優占あるいは多産する。主要種の産状も近似しており、流水付着性で中～下流性河川指標種の *Cymbella turgidula* var. *nipponica*、*Reimeria sinuata*、上流性河川指標種の *Gomphoneis rhombica*、流水不定性の *Gomphonema parvulum*、それに陸生珪藻 A 群の *Hantzschia amphioxys* 等が 5～10%産出する。

D 考 察

珪藻化石の産状をみると、試料 No.304 は、*Cymbella turgidula* var. *nipponica*、*Reimeria sinuata* 等の中流から下流性河川指標種群や *Gomphoneis rhombica* 等の上流性河川指標種を含む真+好流水性種が多産することで特徴付けられ、止水環境を指標する種群はほとんど産出しなかった。また、試料 No.305 も、同様の種群の産出によって特徴付けられた。このことから、No.304 と No.305 の土器の中の土壌は、ともに流水域の堆積物に由来すると考えられる。矢馳 A 遺跡は大山川および湯尻川に挟まれた沖積低地上にあるから、今回分析した土器内の土壌は、土器周囲の土壌に由来すると考えて良い。なお、低率ながら産出した新第三紀絶滅種を含む海水生種の珪藻化石は、矢馳 A 遺跡の南方に分布する虚空蔵山のある山地を構成している新第三紀中新世の善法寺層や大山層など(土谷ほか 1984)から二次的に混入した異地性種と考えられる。

引用文献

- 安藤一男 1990 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理 42』p.73～88
 原口和夫・三友清史・小林弘 1998 「埼玉の藻類 珪藻類」『埼玉県植物誌』p.527～600 埼玉県教育委員会
 伊藤良永・堀内誠示 1991 「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌 6』p.23～45
 小林弘・出井雅彦・真山茂樹・南雲保・長田啓五 2006 「小林弘珪藻図鑑 第 1 巻」p.531 (株)内田老鶴園
 小杉正人 1988 「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『第四紀研究 27』p.1～20
 Krammer, K. 1992 *PINNULARIA.eine Monographie der europaischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26*. J.CRAMER, p.353
 Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1986 *Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1*. Gustav Fischer Verlag, p.876
 Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1988 *Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2*. Gustav Fischer Verlag, p.536
 Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1991a *Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3*. Gustav Fischer Verlag, p.230
 Krammer, K. & Lange-Bertalot, H. 1991b *Bacillariophyceae.4.Teil: Achnanthaceae, Kritsche Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/4*. Gustav Fischer Verlag, p.248
 Round, F. E., Crawford, R. M. & Mann, D. G. 1990 *The diatoms. Biology & morphology of the genera*. p.747 Cambridge University Press, Cambridge.
 渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻彰洋・伯耆晶子 2005 「淡水珪藻生態図鑑」p.666 内田老鶴園
 柳沢幸夫 2000 「II -1-3-2(5) 計数・同定」『化石の研究法—採集から最新の解析法まで—』p.49～50 化石研究会 共立出版株式会社

表 80 珪藻分析結果 (1) パリノ・サーヴェイ

種 類 試料番号	生態性			環境 指標種	SG100	包含層
	塩分	pH	流水		S-19 RP68 No.304	Q-17# RP69 No.305
Bacillariophyta (珪藻植物門)						
Centric Diatoms (中心型珪藻類)						
<i>Plagiogramma staurophorum</i> (Greg.)Heiberg	Euh				1	-
<i>Aulacoseira granulata</i> (Ehr.)Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	1	-
<i>Aulacoseira valida</i> (Grunow)Krammer	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	1
<i>Coscinodiscus marginatus</i> Ehrenberg	Euh				-	1
<i>Coscinodiscus radiatus</i> Ehrenberg	Euh			A	-	1
<i>Coscinodiscus</i> sp.	Euh				-	1
<i>Actinocyclus senarius</i> (Ehr.)Ehrenberg	Euh			A	-	1
<i>Actinocyclus ingens</i> Rattray	Euh				1	-
<i>Actinocyclus</i> sp.	Euh				-	1
<i>Cyclotella striata</i> - <i>C. stylorum</i>	Euh-Meh			B	2	-
<i>Thalassiosira zabelinae</i> Jouse	Euh				1	-
Araphid Pennate Diatoms(無縦溝羽状珪藻類)						
<i>Diatoma mesodon</i> (Ehren.)Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	r-bi	K,T	1	1
<i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	2	1
<i>Fragilariforma bicapitata</i> (A.Mayer)Williams & Round	Ogh-hob	ind	l-bi	P	-	2
<i>Hannaea arcus</i> var. <i>hattoriana</i> (F.Meister)Ohtsuka	Ogh-ind	ind	r-bi	T,J	5	3
<i>Meridion constrictum</i> Ralfs	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	1	-
<i>Ulnaria inaequalis</i> (H.Kobayasi)M.Idei	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	1	2
<i>Ulnaria ulna</i> (Nitzsch)Compere	Ogh-ind	al-il	ind	U	7	5
<i>Thalassionema nitzschioides</i> (Grun.)Grunow	Euh			A,B	3	7
Raphid Pennate Diatoms(有縦溝羽状珪藻類)						
Monoraphid Pennate Diatoms(単縦溝羽状珪藻類)						
<i>Planothidium lanceolatum</i> (Breb. ex Kuetz.)Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	4	5
<i>Achnanthyidium convergens</i> (H.Kobayasi)H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	2	4
<i>Achnanthyidium japonicum</i> (H.Kobayasi)H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-bi	J,T	1	-
<i>Achnanthyidium minutissimum</i> (Kuetz.)Czarn.	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	4
<i>Achnanthyidium subhudsonis</i> (Hustedt)H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	2	4
<i>Cocconeis scutellum</i> Ehrenberg	Euh-Meh			C1	2	-
<i>Cocconeis euglypta</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	6	2
<i>Cocconeis lineata</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	6	4
<i>Cocconeis placentula</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	7	3
Biraphid Pennate Diatoms(双縦溝羽状珪藻類)						
<i>Amphora montana</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA,U	1	-
<i>Amphora</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1
<i>Cymbella aspera</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O	1	1
<i>Cymbella cesatii</i> (Rabh.)Grunow	Ogh-hob	ind	ind	T	1	-
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.)Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T	-	2
<i>Cymbella japonica</i> Reichelt	Ogh-ind	ind	r-ph	T	1	-
<i>Cymbella neoleptoceros</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	T	1	1
<i>Cymbella novazeelandiana</i> Krammer	Ogh-ind	al-bi	ind	T	1	2
<i>Cymbella tumida</i> (Breb.)Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	1
<i>Cymbella tumida</i> var. <i>gracilis</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	1	-
<i>Cymbella turgidula</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	1	1
<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	12	10
<i>Cymbella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	2
<i>Encyonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	1	-
<i>Encyonema lange-bertalotii</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	T	-	2
<i>Encyonema silesiacum</i> (Bleisch)D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	4	11
<i>Placoneis elginensis</i> (Greg.)E.J.Cox	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	1	1
<i>Placoneis palaelginensis</i> Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	7
<i>Gomphoneis rhombica</i> (Fricke)Merino et al.	Ogh-ind	ind	r-bi	J	12	10
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	1
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	2	1
<i>Gomphonema christensenii</i> Lowe et Kociolek	Ogh-ind	ind	r-ph	T	7	7

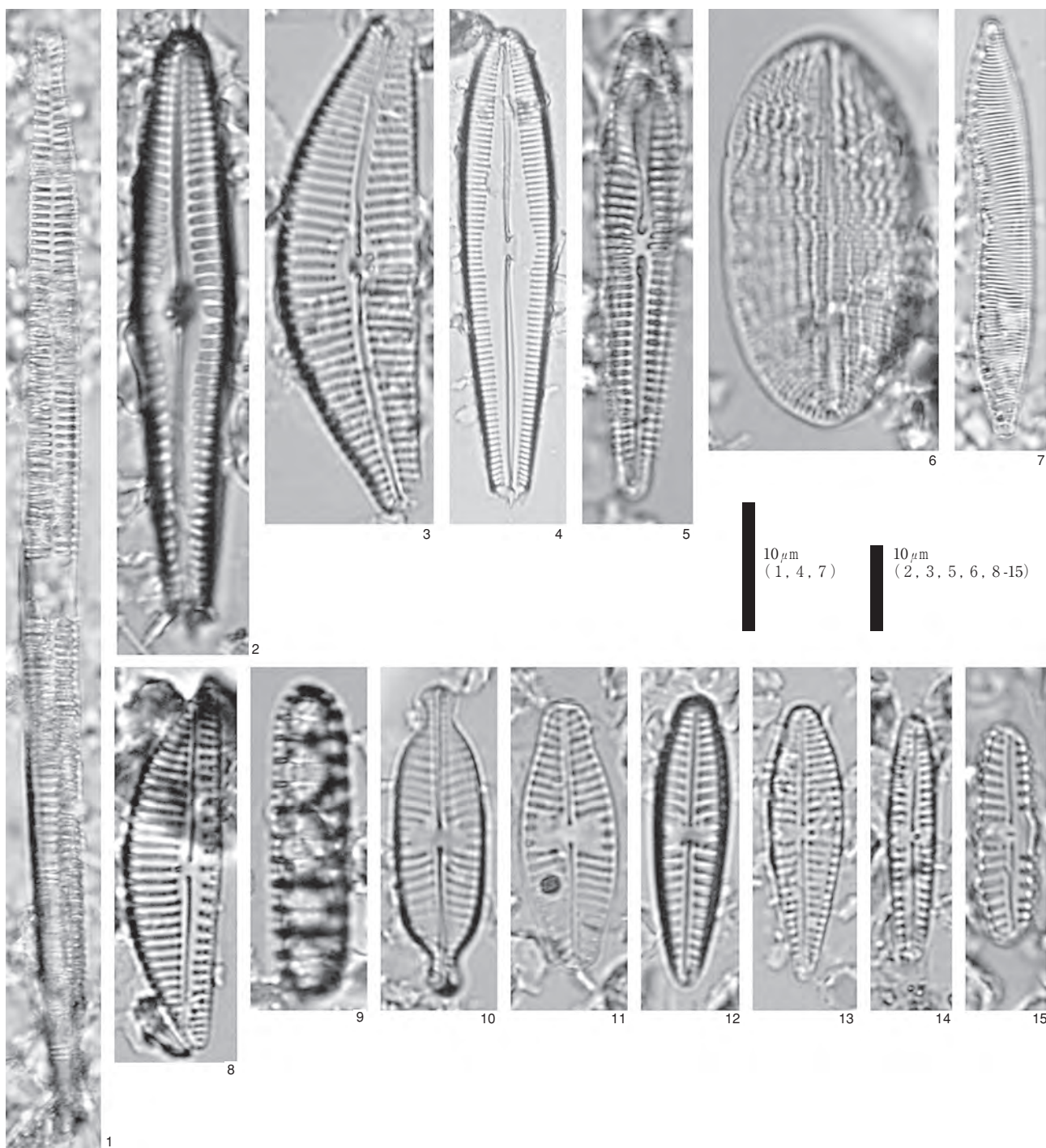
表 81 珪藻分析結果 (2) パリノ・サーヴェイ

種 類	生態性			環境 指標種	SG100	包含層	
	試料番号	塩分	pH		流水	S-19 RP68 No.304	Q-17# RP69 No.305
<i>Gomphonema clavatum</i> Ehrenberg		Ogh-ind	al-il	ind	T	1	-
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke		Ogh-ind	ind	r-ph	T	1	2
<i>Gomphonema lagenula</i> Kuetzing		Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	3
<i>Gomphonema mexicanum</i> Grunow		Ogh-unk	unk	unk		1	-
<i>Gomphonema olivaceum</i> var. <i>minutissimum</i> Hustedt		Ogh-ind	ind	ind	U	5	9
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.)Kuetzing		Ogh-ind	ind	ind	U	15	15
<i>Gomphonema pumilum</i> var. <i>rigidum</i> E.Reichardt et Lange-B.		Ogh-ind	al-il	ind	U	4	8
<i>Reimeria sinuata</i> (W.Greg.)Kociolek et Stoermer		Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	7	25
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (C.Agardh)Lange-B.		Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	9	3
<i>Diploneis elliptica</i> (Kuetz.)Cleve		Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	1	-
<i>Diploneis yatukaensis</i> Horikawa et Okuno		Ogh-ind	ind	l-ph	RI	1	-
<i>Navicula veneta</i> Kuetzing		Ogh-Meh	al-il	ind	U	1	-
<i>Gyrosigma</i> cf. <i>obtusatum</i> (Sulliv. & Wormley)Boye		Ogh-unk	unk	unk		-	1
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>signata</i> Meister		Ogh-ind	ind	ind		1	1
<i>Frustulia rhomboides</i> var. <i>amphipleuroides</i> (Grun.)De Toni		Ogh-hob	ac-il	l-ph	P,T	1	-
<i>Diadsmis contenta</i> (Grun.ex Van Heurck)D.G.Mann		Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	2	-
<i>Luticola minor</i> (R.M.Patrick)Mayama		Ogh-ind	al-il	ind		-	1
<i>Luticola mutica</i> (Kuetz.)D.G.Mann		Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	7	3
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg		Ogh-ind	ac-il	ind	O,U	5	1
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.)W.Smith		Ogh-ind	ac-il	ind	S	1	1
<i>Pinnularia microstauron</i> (Ehr.)Cleve		Ogh-ind	ac-il	ind	S	2	-
<i>Pinnularia obscura</i> Krasske		Ogh-ind	ind	ind	RA	-	1
<i>Pinnularia schoenfelderi</i> Krammer		Ogh-ind	ind	ind	RB	3	1
<i>Pinnularia similis</i> Hustedt		Ogh-ind	ind	ind		1	-
<i>Pinnularia valdetolerans</i> Mayama et H.Kobayasi		Ogh-hob	ac-bi	l-ph	S	1	-
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.)Ehrenberg		Ogh-ind	ind	ind	O,U	1	1
管縦溝類							
<i>Denticulopsis simonsei</i> Yanagisawa et Akiba		Euh				2	-
<i>Denticulopsis vulgaris</i> (Okuno) Yanagisawa et Akiba		Euh				4	1
<i>Denticulopsis</i> spp.		Euh				1	1
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.)Grunow		Ogh-ind	ind	ind	RA,U	17	7
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow		Ogh-Meh	al-il	ind	RB,U	-	1
<i>Epithemia sorex</i> Kuetzing		Ogh-ind	al-il	l-ph	T	1	-
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.)O.Muller		Ogh-Meh	al-il	ind	U	1	1
翼管縦溝類							
<i>Surirella minuta</i> Brebisson		Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1
短縦溝類							
<i>Eunotia biseriatoidea</i> H.Kobayasi,K.Ando & T.Nagumo		Ogh-ind	ind	ind	T	1	-
<i>Eunotia minor</i> (Kuetz.)Grunow		Ogh-hob	ind	ind	O,T	-	2
海水生種						13	14
海水～汽水生種						4	0
汽水生種						0	0
淡水～汽水生種						2	2
淡水生種						184	188
珪藻化石総数						203	204

凡例 H.R. : 塩分濃度に対する適応性 pH : 水素イオン濃度に対する適応性 C.R. : 流水に対する適応性
 Euh : 海水生種 al-bi : 真アルカリ性種 l-bi : 真止水性種
 Euh-Meh : 海水生種—汽水生種 al-il : 好アルカリ性種 l-ph : 好止水性種
 Ogh-Meh : 淡水—汽水生種 ind : ph 不定性種 ind : 流水不安定性種
 Ogh-hil : 貧塩好塩性種 ac-il : 好酸性種 r-ph : 好流水性種
 Ogh-ind : 貧塩不定性種 ac-bi : 真酸性種 r-bi : 真流水性種
 Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種 unk : 不明種 unk : 流水不明種
 Ogh-unk : 貧塩不明種

環境指標種群

A : 外洋指標種 B : 内湾指標種 C1 : 海水藻場指標種 (以上は小杉 1988)
 J : 上流性河川指標種 K : 中～下流性河川指標種 M : 湖沼浮遊性種 O : 沼沢湿地付着生種 P : 高層湿原指標種 (以上は安藤 1990)
 S : 好汚濁性種 U : 広域適応性種 T : 好清水性種 (以上は Asai and Watanabe, 1995)
 R : 陸生珪藻 (RA : A 群 ,RB : B 群 ,RI : 未区分、伊藤・堀内 1991)



- 1 *Ulnaria ulna* (Nitzsch)Compere (試料 No.305 ; 遺物包含層 Q-17# RP69)
- 2 *Gomphoneis rhombica* (Fricke)Merino *et al.* (試料 No.304 ; SG100 S-19 RP68)
- 3 *Cymbella turgidula* var.*nipponica* Skvortzow (試料 No.304 ; SG100 S-19 RP68)
- 4 *Gomphonema christensenii* Lowe et Kociolek (試料 No.304 ; SG100 S-19 RP68)
- 5 *Rhoicosphenia abbreviata* (C.Agardh)Lange-B. (試料 No.304 ; SG100 S-19 RP68)
- 6 *Cocconeis lineata* Ehrenberg (試料 No.304 ; SG100 S-19 RP68)
- 7 *Hantzschia amphioxys* (Ehr.)Grunow (試料 No.304 ; SG100 S-19 RP68)
- 8 *Encyonema silesiacum* (Bleisch)D.G.Mann (試料 No.305 ; 遺物包含層 Q-17# RP69)
- 9 *Denticulopsis vulgaris* (Okuno) Yanagisawa et Akiba (試料 No.304 ; SG100 S-19 RP68)
- 10 *Placoneis palaelginensis* Lange-Bertalot (試料 No.305 ; 遺物包含層 Q-17# RP69)
- 11 *Planothidium lanceolatum* (Breb.ex Kuetz.)Lange-Bertalot (試料 No.305 ; 遺物包含層 Q-17# RP69)
- 12 *Gomphonema olivaceum* var.*minutissimum* Hustedt (試料 No.304 ; SG100 S-19 RP68)
- 13 *Gomphonema parvulum* (Kuetz.)Kuetzing (試料 No.305 ; 遺物包含層 Q-17# RP69)
- 14 *Gomphonema pumilum* var.*rigidum* E.Reichhardt et Lange-B. (試料 No.305 ; 遺物包含層 Q-17# RP69)
- 15 *Reimeria sinuata* (W.Greg.)Kociolek et Stoermer (試料 No.304 ; SG100 S-19 RP68)

第 401 図 珪藻化石顕微鏡写真 パリノ・サーヴェイ

12 粘土塊の分析

パレオ・ラボ
藤根 久

A はじめに

矢馳A遺跡の調査では、5世紀後半～6世紀初頭と考えられている遺物包含層から粘土塊が検出された。遺跡内で粘土塊はこの部分にしか出土しておらず、周辺の堆積物にも同様な粘土層はみられなかった。そのため、この粘土塊の特徴を明らかにするため蛍光X線分析による化学組成とX線回折分析による粘土鉱物を調べた。なお、同一の試料について珪藻化石とプラント・オパールを調べている(珪藻分析、プラント・オパール分析参照)。

B 試料と方法

試料は、第4次調査の古墳時代中期遺物包含層から出土した粘土塊(試料No.270)の1試料である。粘土塊は、P#-17グリッドにて40×40cmの範囲で検出された灰色(5.5Y 6/1)の蠟質粘土塊である。

蛍光X線分析用の試料は、典型的な部分を10g程度採取し、恒温乾燥機で十分に乾燥させた。試料は、アルミナ乳鉢で粉碎した後、塩化ビニールリングに充填し油圧プレス機を用いて20トンでプレスした。

分析は、フィリップス社製波長分散型蛍光X線分析装置MagiX(PW2424型)を用いて、FP法(ファンダメンタル・パラメータ法)による定量分析を行った。定量元素は、酸化ナトリウム(Na₂O)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化アルミニウム(Al₂O₃)、酸化ケイ素(SiO₂)、酸化リン(P₂O₅)、酸化イオウ(SO₃)、酸化カリウム(K₂O)、酸化カルシウム(CaO)、酸化チタン(TiO₂)、酸化クロム(Cr₂O₃)、酸化マンガン(MnO)、酸化鉄(Fe₂O₃)の主成分12元素と、酸化銅(CuO)、酸化亜鉛(ZnO)、酸化ルビジウム(Rb₂O)、酸化ジルコニウム(ZrO₂)、

酸化バリウム(BaO)の微量成分5元素の計17元素である。

X線回折分析用の試料は、粘土部分を回収するために、精製水を加えて超音波洗浄器を用いて分散した。トールビーカー内で約8時間放置した後(2μm以上の粒子が10cm沈降するのに必要な時間)、遠心分離器を用いて粘土分を回収し、スライドガラス上に展開・乾固した。

測定は、(株)リガク製デスクトップX線回折装置Mini-Flexを用いた。測定条件は、電圧30kV、電流15mA、Cu-X線管、走査範囲10°～70°(粘土5°～60°)、ステップ幅0.02°、計数時間1.0secのFT測定を行った。測定結果は、付属の定性分析プログラムにより鉱物種の同定を行った。

C 結果および考察

第402図に試料切断面の実体顕微鏡写真、X線回折スペクトル図、粘土鉱物の同定結果を示す。また、表82に、蛍光X線分析による粘土の定量分析結果を示す。

粘土試料のX線回折分析の結果、イライト-モンモリロライト(Illite:(K,H₃O)(Al,Mg,Fe)₂(Si,Al)₄O₁₀(OH)₂·H₂O]-Montmorillonite:(Na,Ca)_{0.3}(Al,Mg)₂Si₂O₁₀(OH)₂·nH₂O)が検出された。

化学組成は、酸化ケイ素(SiO₂)が67.09%、酸化アルミニウム(Al₂O₃)が23.96%、酸化カリウム(K₂O)が1.84%、酸化マグネシウム(MgO)が1.30%、酸化鉄(Fe₂O₃)が3.51%であった。

一般的に、イライトやモンモリロライトは、堆積岩、変成岩、鉱床中に産出する粘土-雲母鉱物であり、熱水変質を受けた岩石に含まれる(牧野1998)。なお、珪藻化石を全く含まなかったことから、水成堆積した可能性は低いと考えられる。こうしたことから、この粘土は、水成環境以外の環境下で熱水変成によって形成された粘土と考えられる。

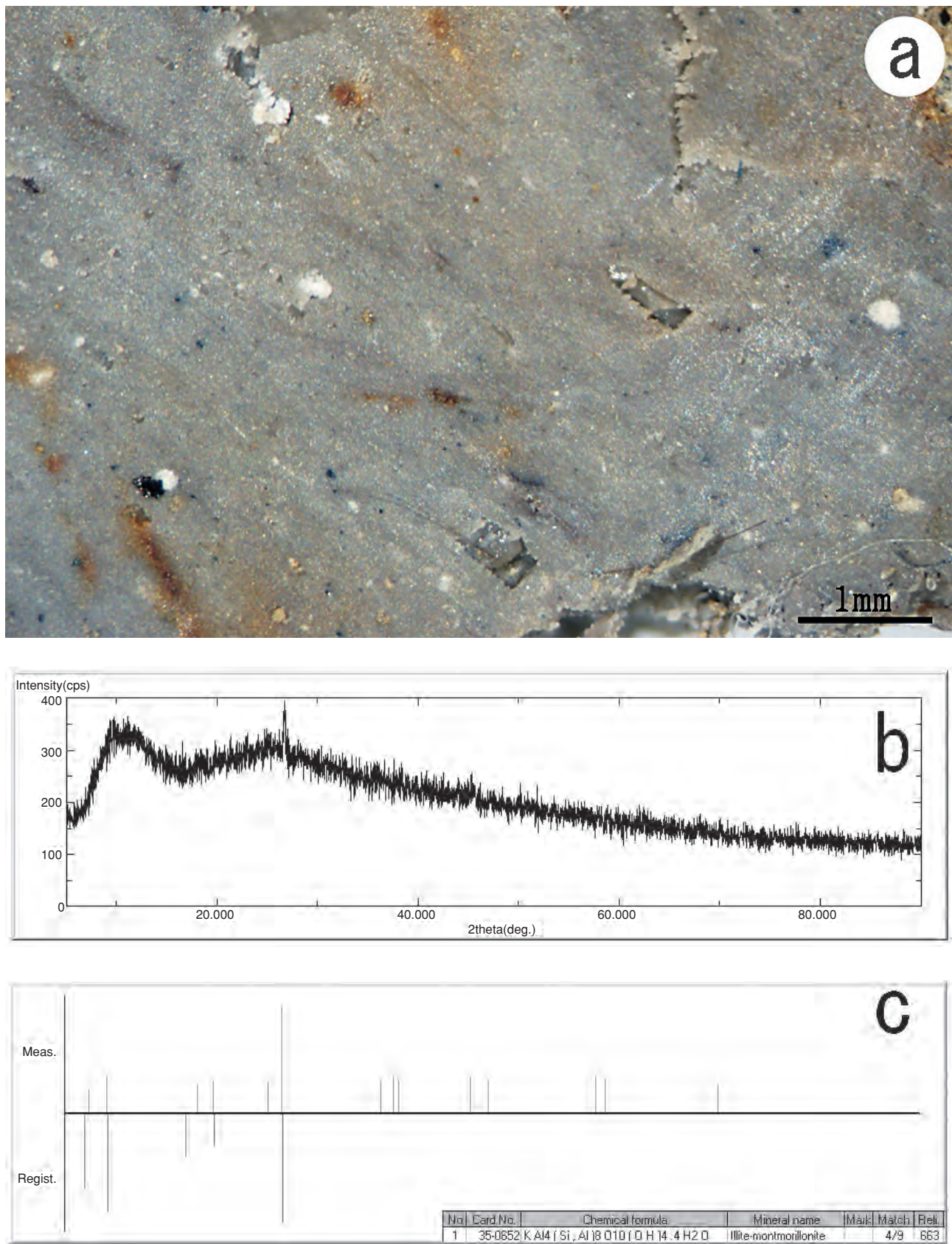
引用文献

牧野和孝 1998 『鉱物資源百科事典』p.1390 日刊工業新聞社

表82 粘土塊の蛍光X線分析結果 パレオ・ラボ

※単位% FP法

試料No.	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	Cr ₂ O ₃	MnO	Fe ₂ O ₃	CuO	ZnO	Rb ₂ O	ZrO ₂	BaO	total
270	0.44	1.30	23.96	67.09	0.11	0.06	1.84	0.26	1.30	0.02	0.03	3.51	0.006	0.010	0.011	0.037	0.023	100.00



a: 実体顕微鏡写真
 b: X線回折スペクトル図
 c: 粘土鉱物同定結果

第 402 図 粘土塊の実体顕微鏡写真と X 線回折分析結果 バレオ・ラボ

VII 総 括

日本海東北自動車道建設に係る矢馳A遺跡第2～4次発掘調査の結果をまとめると以下ようになる。

矢馳A遺跡は、大山川と湯尻川によって形成された標高約14mの河間低地に立地する。第1次調査は、昭和62(1987)年に県営ほ場整備事業(鶴岡西部地区)の実施に先立ち、5,000㎡を対象に山形県教育委員会によって実施され、それまで当地域で知られていなかった古墳時代後期の集落の様相が明らかにされた。

第2～4次調査は、日本海東北自動車道建設に先立ち、平成17(2005)年に1,920㎡、平成18(2006)年に13,000㎡、平成19(2007)年に3,300㎡、合計18,220㎡を対象に行われた。その結果、本遺跡には、これまで知られていた古墳時代後期の集落跡(南西部遺構群)の他、区画溝を伴う中世の居館跡(中央部遺構群)と、奈良時代から平安時代にかけての集落跡(北東部遺構群)の存在が明らかとなった。また、古墳時代のより古い段階の遺物包含層が存在することも確認された。

遺物包含層

P～R-16～18区の遺構確認面下約50cmで、遺物の集中が面的な広がりをもって確認された。しかし、P-17区で焼土と炭化物の集中とP#-17区で粘土の塊を検出した他は、遺構を検出することができなかった。今回の調査面積は900㎡であり、さらに南の調査区外への広がりが想定される。本文中で第I群土器とした出土遺物は、非内黒の坏類や丸胴の甕を主体としたもので、南西部遺構群の古墳時代集落域とは様相を異にする。また第80図10の須恵器甕は、その特徴から陶邑編年のTK23からTK47段階に対比されるものと考えられる。以上のことから、遺物包含層は5世紀後半を主体とする時期が想定される。

南西部遺構群

今回の調査では、第1次調査で確認された集落の南側の広がりを確認することができた(第403図)。本遺跡の地山はグライ化が進み、遺構堆積土と地山の色調の差に乏しく、加えて前回はほ場整備時にさらに削平を受けたため、遺構検出が困難であったが、河川跡3条、堅穴

住居跡7棟等の遺構を検出した。堅穴住居跡は壁の立ち上がりが既に無く、周溝からその規模や平面形を推定することになった。したがって、周溝の内側で検出された各遺構については、その住居の因子となるかの検証が現段階では不十分であり、今後の課題となる。

遺物はSG160、SG1048、SG100の各河川跡からまとめて出土した。また、SG1048河川跡の西部からは遺構が殆ど検出されなかったが、第2次調査のT21トレンチの遺物集中域や、第3次調査でグリッド単位で相当数の土器が取り上げられたことなど、何らかの遺構が存在したことを示唆している。本遺構群の主体となる第II群土器は、口縁部が外反し丸底となる内黒の坏類や長胴形態となる甕が主体となり、また、今回出土した古式須恵器も、その殆どが陶邑編年のTK10に対比されるものと考えられる。以上のことから、第II群土器は、第1次調査で出土した土器群と基本的に同じ内容を持ち、6世紀中葉から後半の年代が与えられる。

北東部遺構群

矢馳A遺跡において今回初めて奈良・平安時代の集落の存在が明らかになった。北東部遺構群からは、堅穴住居跡4棟と河川跡2条の他、土坑、溝跡が多数検出された。遺物は、SG771河川跡、SG833河川跡および各住居跡、SK1046土坑、SX1166・1168・1169落込みからまとめて出土した。

本遺構群の主体となる第III群土器の様相は、供膳具では底部切離しが回転篋切りの須恵器坏が主体となり、ロクロ整形で非内黒の土師器坏がそれに次ぐ状況である。また、煮沸具ではロクロ整形の土師器小形甕と、ロクロ整形で長胴形態の大形甕が主体となり、それに非ロクロ整形の大形甕が相当数混在する。これらの状況から、第III群土器全体では、8世紀後半から9世紀中葉を主体とする時期が考えられる。今後、各遺構単位での土器組成を詳細に検討する必要がある。

墨書土器は、点数は少ないが「成」が最も多く出土しており、特にSX1166・1168・1169落込みからまとめて出土した。その他の文字では、「中」「田」「廣人」「南」

「満」「火」「井」「野」「十」「八」などがある。また、刻書で「全」と記されたものが2点出土した。

中央部遺構群

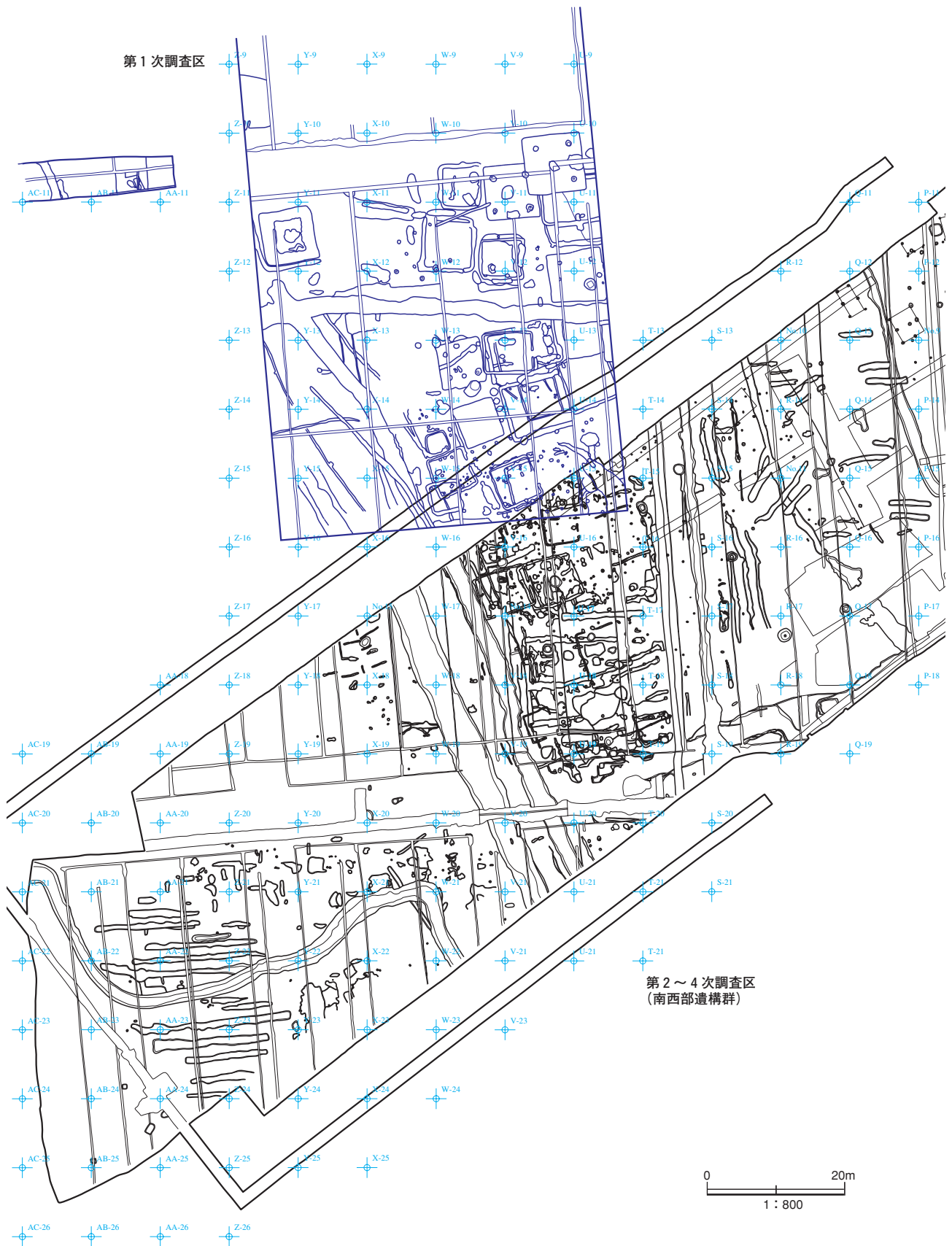
中央部遺構群は、地山が砂地で周囲より若干高いため、ほ場整備による削平の影響をもっとも強く受けていたが、M～Q-10～15区で検出した一辺約45mで方形に廻るSD589溝跡と掘立柱建物跡6棟、井戸跡7基を主体に多数の柱穴群や土坑が検出された。溝跡と掘立柱建物跡は、出土した遺物や年代測定結果から所属時期の確証が得られなかったものの、その形態から、中世の区画溝とその内部に構築された建物群と推定された。SD589溝跡からの出土遺物は、大半が第Ⅲ群土器であるが、15～16世紀代と見られる青花が2点出土しており注目される。井戸跡7基については、放射性炭素年代測定の結果から、いずれも奈良・平安時代に構築および使用された可能性が高い。

中世以降の出土遺物である第Ⅳ群土器は、数量的には近現代の所産となるものが大半を占め、遺構内からの出土数も少ないが、13世紀代と見られる龍泉窯系の青磁や、15～16世紀代の陶磁器類の存在が特に注目される。これらは、南西部および北東部遺構群のいくつかの遺構からも出土しており、中世の生活域が区画溝の外に広がっていることが想定される。

近年の日本海東北自動車道建設に係る緊急発掘調査によって、鶴岡市域での古墳時代から中世にかけての資料の蓄積が進んでいるが、現段階では矢馳A遺跡をはじめ各遺跡の資料の検証は不十分である。今後はこれらの資料を活用して、これまで調査された各遺跡における遺構単位での土器組成や集落構造を詳細に検討し、その比較から当地域の遺跡相互の有機的関連や変遷過程を明らかにしていくことが課題となる。

参考文献

- 川崎利夫 1980 「古墳時代の庄内地方」『庄内考古学 第17号』 庄内考古学研究会
- 山形県教育委員会 1987 『分布調査報告書(14)』 山形県埋蔵文化財調査報告書第110集
- 山形県教育委員会 1988 『矢馳A遺跡 矢馳B遺跡 清水新田遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第127集
- 山形県教育委員会 1989 『助作遺跡 山田発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第143集
- 山形県教育委員会 1990 『大道下・日記・大東遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第153集
- 山形県教育委員会 1990 『助作遺跡発掘調査報告書(1)』 山形県埋蔵文化財調査報告書第162集
- 山形県教育委員会 1991 『囲地田遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財調査報告書第167集
- 鶴岡市教育委員会 1992 『囲地田遺跡発掘調査報告書』
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1994 『五百刈遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第10集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1994 『西谷地遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第12集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1995 『畑田遺跡 中野遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第22集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1995 『西谷地遺跡第2次 西ノ川遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第26集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1996 『西谷地遺跡第3次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第33集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1997 『後田遺跡 大道下遺跡第2次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第49集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1997 『塔の腰遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第50集
- 山形県教育委員会 2000 『分布調査報告書(26)』 山形県埋蔵文化財調査報告書第200集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2001 『山田遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第83集
- 山形県鶴岡市教育委員会 2001 『山田遺跡発掘調査報告書(市道改良部分)』 山形県鶴岡市埋蔵文化財調査報告書第16集
- 山形県鶴岡市教育委員会 2002 『山田遺跡発掘調査報告書(A～H区)』 山形県鶴岡市埋蔵文化財調査報告書第18集
- 山形県鶴岡市教育委員会 2003 『山田遺跡発掘調査報告書(I～K・M1区)』 山形県鶴岡市埋蔵文化財調査報告書第21集
- 山形県鶴岡市教育委員会 2004 『山田遺跡発掘調査報告書(L・M区)』 山形県鶴岡市埋蔵文化財調査報告書第24集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2004 『助作遺跡第3次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第133集
- 山形県教育委員会 2007 『分布調査報告書(33)』 山形県埋蔵文化財調査報告書第207集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2009 『玉作1遺跡第1～3次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第170集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2009 『玉作2遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第171集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2009 『万治ヶ沢遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第172集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2009 『南田遺跡発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第173集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2010 『興屋川原遺跡第1～4次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第187集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2010 『岩崎遺跡第1・2次発掘調査報告書』 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第188集



第403図 南西部遺構群・第1次調査区合成図

報告書抄録

ふりがな	やばせえーいせきだい2から4じはっくつちようさほうこくしょ							
書名	矢馳A遺跡第2～4次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第196集							
編著者名	黒坂雅人 伊藤純子							
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301							
発行年月日	2012年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
やばせえーいせき 矢馳A遺跡	やまがたけん 山形県 つるおかし 鶴岡市 おおあぎやばせ 大字矢馳 あざしもやばせ 字下矢馳	6203	095	38° 44′ 03″	139° 46′ 20″	20051011 } 20051222	1,920	日本海東北 自動車道(温 海～酒田) 建設事業
						20060417 } 20061130		
						20070509 } 20070914	3,300	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
やばせえーいせき 矢馳A遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡	7	土師器	5	(文化財認定箱数：計 204) 第2次 9 第3次 150 第4次 45	
		奈良・平安 時代	河川跡	4	須恵器			
			板材列	1	石製模造品			
中世	竪穴住居跡	4	土師器					
	河川跡	2	須恵器					
井戸跡	7	斎串 曲物						
掘立柱建物跡	6	陶器						
区画溝	1	磁器						
要約	<p>矢馳A遺跡は庄内平野の南西部に位置し、大山川と湯尻川によって形成された河間低地に立地する集落跡である。今回の調査では、古墳時代中期の遺物包含層、古墳時代後期の集落跡である南西部遺構群、奈良時代から平安時代前期にかけての集落跡である北東部遺構群、区画溝を伴う中世の居館跡と奈良・平安時代の井戸跡群を中心とする中央部遺構群が存在し、本遺跡が多様な時期と性格をもつ複合的な遺跡であることが明らかとなった。</p>							

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 196 集

矢馳 A 遺跡第 2 ～ 4 次発掘調査報告書

第一分冊 本文編

2012 年 3 月 31 日発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒 999-3161 山形県上市市弁天二丁目 15 番 1 号
電話 023-672-5301
印刷 山形印刷株式会社
〒 990-2323 山形県山形市桜田東三丁目 7 番 31 号
電話 023-622-6291